姫路市埋蔵文化財センター調査報告　第 87 集

豆田遺跡・大浄口遺跡

―姫路市英賀保駅周辺土地区画整理事業に伴う発掘調査報告書Ⅱ―

2020

姫路市教育委員会

区画整理前空中写真（昭和61年　姫路市撮影　上が北）

1　調査地遠景（北から）

2　調査地遠景（南から）

１　調査地近景（南から）

２　調査地近景（北から）

調査地北東部3次11-1区～11-3区全景（上が北）

調査地中央部5次24-4区・南東部5次26区～31区全景（上が北）

1　SE10全景（西から）

2　SE10円形井側（西から）

944

948

945

947

946

SE10出土木簡（斜光）

949

950

951

952

953

955

956

SE10出土木簡（斜光）

序

姫路平野の西部、手柄山と夢前川にはさまれた英賀保駅周辺地区において中播都市計画事業英賀保駅周辺土地区画整理事業が計画されました。本地区は市街地に近く、姫路市の総合基本計画において住宅地として位置づけられています。

区画整理事業の計画に伴い、平成12年度から３ヵ年をかけて国庫補助事業により試掘調査を行いました。その結果、西から村東遺跡、池ノ下遺跡、大浄口遺跡、豆田遺跡の４遺跡が新たに発見されました。当地は『播磨風土記』に記された「伊和里」に比定され、区画整理事業の進捗に合わせて進めてきた発掘調査において、旧石器時代から戦国時代にかけての数多くの遺構・遺物が発見されました。

今回報告する豆田遺跡と大浄口遺跡は、「小芋祭り」で知られる荒川神社を氏神とする姫路市町坪と玉手に所在します。近年は区画整理事業の進捗に伴い道路の整備が進み、多くの住宅が建設され、かつての田園風景は様変わりしつつありますが、調査を開始した当時は田畑が一帯に広がっていました。こうした風景自体は見慣れたものではありますが、そこにはそれを維持するための先人達の並々ならぬ努力が反映されているのです。発掘調査では多くの水路跡や耕作者たちが居住した建物跡、彼らを差配した階層の人々が居住した居館跡、戦国時代の町坪要害に関する発見がありました。ここに調査成果を報告し、地域の調査・研究の進展に資する所存であります。

最後に事業実施にあたり、多大なご協力を賜りました姫路市英賀保駅周辺土地区画整理組合、町坪自治会、玉手自治会、その他関係者各位に心から御礼申し上げます。

令和２年３月

姫路市教育委員会

教育長　松田　克彦

例言

1．本書は姫路市が姫路市英賀保駅周辺土地区画整理組合の委託を受け、姫路市町坪・玉手において実施した豆田遺跡の第１次～14次、16次、18次、20次、22次と大浄口遺跡の発掘調査報告書である。

2．発掘調査の実施ならびに本報告書の刊行に際しては、姫路市英賀保駅周辺土地区画整理組合に多大なるご協力を頂いた。記して感謝申し上げる。

3．現地調査及び整理作業、報告書の編集は、姫路市教育委員会　生涯学習部　埋蔵文化財センターが実施した。

4．遺跡の名称については、調査時の名称「英賀保駅周辺遺跡第３地点」を小字名に基づき「豆田遺跡」と改称した。同様に「英賀保駅周辺遺跡第２地点」を「大浄口遺跡」と改称した。これまでに現地説明会等で本遺跡について言及したものもあるが、整理作業の進展に伴い見解を変更した部分もあるため、本報告書をもって正式な報告とする。

5．発掘調査で得られた出土遺物、図面、写真等は姫路市埋蔵文化財センターにおいて保管している。

6．木製品の保存処理は（公財）元興寺文化財研究所、㈱イビソクに委託し、実施した。本製品の写真撮影・樹種同定は（公財）元興寺文化財研究所、㈱イビソクが行った。

7．発掘調査・出土品整理および報告書作成においては、下記の方々・機関より御協力・御教示を賜った。深く感謝の意を表したい。（敬称略、五十音順）

上郡町教育委員会、関西近世考古学研究会、神戸市教育委員会、神戸市埋蔵文化財センター、山陰中近世瓦研究会、中世土器研究会、奈良文化財研究所史料研究室、姫路市史編集室、姫路市立城郭研究室、兵庫県教育委員会、兵庫県立考古博物館、今里幾次、宇那木隆司、加藤史郎、工藤茂博、島田拓、平田博幸、大平茂、山本誠、山本崇、佐藤亜聖、新田和央、橋本久和、藤本史子、松本正信、水野正好、依藤保

凡例

1．遺構名の表記は、文化庁文化財部記念物課監修の『発掘調査のてびき』記載の略号を使用した。ただし、略号については調査時の見解のままであるため本来の遺構の分類と異なっているものもある。また、遺構名は調査区ごとに１番から番号を付したが、調査の進捗に合わせて採番したため順序等が整然としていない。なお、報告書上では、遺構の性格が明らかな場合は溝、建物跡等の種名を適宜使用している。

2．発掘調査は長期間にわたり、調査区も細切れであるため、各年次・区毎の記述では、全体像を把握することが困難であることから、本報告書では調査区を６ブロックに分けて記載する。記述にあたり建物・柵・屋敷墓・井戸は通し番号を付し、それ以外の遺構は調査時の遺構名とし変更していない。そのため、遺構番号に重複が生じることから記載にあたっては調査次数・区を付している。ただし、個別遺構を最初に記述する場合に限り次数・区・遺構名の順とするが、続けて記述する場合は遺構名のみとした。

3．中世の建物跡の記載にあたっては、短辺と長辺の区別がつく場合は、その短辺を梁行とし、長辺を桁行とした。建物の長辺を棟方向とした。区別がつかない場合は方位により記載した。

4．平面図に記載した遺構番号は、本文中で触れるものについては黒字とし、巻末の遺構一覧表にのみ掲載したものは灰色で表記した。なお、遺構一覧表は遺物が出土した遺構を記載した。平面図に記載したﾄ、▼は断面の位置を示している。個別の断面図には対応する平面図を【 】で記載した。

5．発掘調査平面図は世界測地系を使用し、方位は全て座標北である。標高は東京湾平均海水準（T.P.）を使用した。遺構の主軸方向は全て座標北を基準にした。なお、調査地における真北方向角は約-０°11′である。

6．土層注記に用いた色調は『新版　標準土色帳』（1999年度版）に準拠している。

7．遺物実測図の掲載にあたっては、須恵器を断面黒色、瓦器を断面灰色とした。

8．一覧表記載の法量はcm、重量はｇである。略号については以下のとおりである。
（弥：弥生土器、須：古墳時代・古代、石：石器・石製品、江：近世土器・瓦、布：古代瓦、瓦：中世瓦（一部近世瓦混じり）、錘：土錘、羽：羽口）

9．遺物の記載にあたっては、下記の文献を参照した。中世の在地土器についてはⅣ期からⅦ期に整理した。実年代は暫定であるが、Ⅳ期は12世紀後半～13世紀後半、Ⅴ期は13世紀後半～14世紀後半、Ⅵ期は14世紀後半～15世紀後半、Ⅶ期は16世紀に比定した。その他の土器については以下の文献を参考にした。時期の表記については、在地土器による場合は時期区分を記し、下記の文献による場合はその年代観を使用した。

弥 生 土 器：大手前大学史学研究所　2007『弥生土器集成と編年－播磨編－』

土　師　器：小森俊寛・上村憲章　1996「京都の都市遺跡から出土する土器の編年的研究」『研究紀要』第３号　財団法人京都市埋蔵文化財研究所

須　恵　器：須恵器については下記の分類に従い記載したが、産地を特定しているわけではない。

・森　田　分　類：森田稔1986「東播系中世須恵器生産の成立と展開」『神戸市立博物館研究紀要』第３号

1995「中世須恵器」『概説　中世の土器・陶磁器』

・相 生 窯 分 類：兵庫県教育委員会　2003『緑ヶ丘窯址群Ⅲ』兵庫県文化財調査報告第253冊

・口 縁 部 分 類：中世土器研究会事務局2015「東播系須恵器鉢の分類と編年」『中近世土器の基礎研究』26

磁　　器：太宰府市教育委員会2000『太宰府条坊跡ＸＶ－陶磁器分類編－』太宰府市の文化財第49集

瓦　　器：中世土器研究会編1999『概説　中世の土器・陶磁器』

備　前　焼：乗岡実　2000「備前焼擂鉢の編年について」『第３回中近世備前焼研究会資料』中近世備前焼研究会

貿易陶磁器：上田秀夫　1982 「14～16世紀の青磁碗の分類について」『貿易陶磁器研究』№２

小野正敏　1982 「15～16世紀の染付碗、皿の分類と年代」『貿易陶磁器研究』№２

太宰府市教育委員会　2000 『大宰府条坊跡ＸＶ－陶磁器分類編－』

本文目次

第Ⅰ章　調査に至る経緯と経過 …… 1
　Ⅰ－1　調査に至る経緯 …… 1
　Ⅰ－2　調査の体制 …… 1
　Ⅰ－3　調査の経過 …… 3
第Ⅱ章　遺跡の立地と歴史的環境 …… 5
　Ⅱ－1　遺跡の立地と基本層序 …… 5
　Ⅱ－2　遺跡からみる歴史的環境 …… 8
　Ⅱ－3　祭礼と水利からみる歴史的環境 …… 9
　Ⅱ－4　史料からみた伊和西の歴史 …… 12
第Ⅲ章　調査の成果 …… 17
　Ⅲ－1　中世以前の遺構と遺物 …… 18
　　Ⅲ-1-1　北東部の検出遺構 …… 18
　　Ⅲ-1-2　北西部の検出遺構 …… 22
　　Ⅲ-1-3　中央部・南西部の検出遺構 …… 32
　　Ⅲ-1-4　南東部の検出遺構 …… 41
　Ⅲ－2　中世の遺構と遺物 …… 45
　　Ⅲ-2-1　北東部の調査 …… 45
　　Ⅲ-2-2　北西部の調査 …… 93
　　Ⅲ-2-3　北西部下の調査 …… 130
　　Ⅲ-2-4　中央部の調査 …… 137
　　Ⅲ-2-5　南東部の調査 …… 183
　　Ⅲ-2-6　南西部の調査 …… 249
　　Ⅲ-2-7　大浄口遺跡の調査 …… 267
　Ⅲ－3　江戸時代以後の遺構と遺物 …… 270
第Ⅳ章　総括 …… 274
　Ⅳ－1　出土遺物の位置づけ …… 274
　Ⅳ－2　豆田遺跡・大浄口遺跡における中世集落の動態 …… 285
　Ⅳ－3　伊和西の内実　中世から現代へ …… 296
遺物観察表 …… 303
遺構・遺物一覧表 …… 318
写真図版

挿図目次

図１　遺跡の位置 …… 2
図２　区画整理事業に伴う調査位置図 …… 4
図３　旧河道と流域の遺跡 …… 5
図４　調査地周辺等高線図 …… 6
図５　調査区土層断面図 …… 7
図６　調査地と周辺の遺跡 …… 8
図７　調査地周辺の水路と村境 …… 11
図８　荒川神社氏子圏と近世の地域区分 …… 13
図９　調査区平面図 …… 15・16
図10　条里地割坪並・調査区ブロック区分図 …… 17
図11　北東部遺構平面図 …… 19
図12　４次15区SD06、SD02・SD03、４次12区SD02、
　９次２区SD01、４次14区SD03、SD04断面図 …… 20
図13　４次14区SD06、15区SD06、16区SD03、
　14区SD03、12区SD02出土遺物 …… 21
図14　北西部遺構平面図 …… 23
図15　３次11-２区下層SK01平面・断面図、出土遺物 … 25
図16　18次２区SK01・SK02、３次11-３区SK05、
　11-４区SK01平面・断面図、出土遺物 …… 26
図17　４次18区SX05平面・断面図、出土遺物 …… 27
図18　３次11-３区下層SD01、４次22区SD01、
　22次２区SD01・SD02断面図 …… 28
図19　３次11-３区下層SD01出土遺物① …… 29
図20　３次11-３区下層SD01出土遺物② …… 30
図21　４次22区SD01、22次２区SD02出土遺物 …… 31
図22　中央部遺構平面図 …… 33
図23　５次25-３区SD01断面図、出土遺物 …… 34
図24　16次３区SD01、５次24-４区下層SD01、
　下層SD02断面図、出土遺物 …… 35
図25　中央部・南西部遺構平面図 …… 37
図26　８次40区SK01、４次24-２区SK04断面図、
　出土遺物 …… 38
図27　４次24-１区SD01、SD03、SK07、
　５次25-２区SD03SD04断面図、出土遺物 …… 39
図28　１次２区SK08、８次40区SD01・SD02断面図、
　出土遺物 …… 40
図29　南東部遺構平面図 …… 42
図30　５次26区SD01、27-２区SD03、SD04、SD05、
　30区SD07、SD10断面図、出土遺物…… 43
図31　遺構に伴わない遺物 …… 44
図32　北東部平面図 …… 46
図33　北東部遺構平面図① …… 47
図34　北東部遺構平面図② …… 48
図35　北東部遺構平面図③ …… 49
図36　北東部遺構平面図④ …… 50
図37　SB01平面・断面図 …… 52
図38　SB01出土遺物 …… 53
図39　SB02平面・断面図、出土遺物 …… 54
図40　SB03、SB04平面・断面図、出土遺物 …… 55
図41　SB05、SB07平面・断面図、出土遺物 …… 57
図42　SB06平面・断面図、出土遺物 …… 58
図43　SB08、SB09平面・断面図、出土遺物 …… 59
図44　SB10、SB12平面・断面図、出土遺物 …… 62
図45　SB11平面・断面図、出土遺物 …… 63
図46　SB13、SB14平面・断面図、出土遺物 …… 64
図47　SB15、SB16平面・断面図、出土遺物 …… 65
図48　SB17平面・断面図 …… 66
図49　SB18平面・断面図、出土遺物 …… 69
図50　SB19、SB20平面・断面図、出土遺物 …… 70
図51　SB21、SB22、SB23、SB24平面・断面図 …… 71
図52　SB25、SB26、SB27平面・断面図…… 72
図53　SB28、SB29平面・断面図、出土遺物 …… 73
図54　SA01～SA11平面・断面図、出土遺物 …… 75
図55　ST01、ST02平面・断面図、出土遺物…… 77
図56　SE01平面・断面図、出土遺物 …… 78
図57　SE02、野井戸１平面・断面図、出土遺物 …… 79
図58　４次13区SD02、SD03、SX02、12区SD10断面図、
　出土遺物 …… 82
図59　４次15区SD01、９次２区SD02、４次12区SD15、
　14区SD02、16区SD01断面図、出土遺物 …… 83
図60　４次12区SD04、12区SD05、SD08、SD17、
　SD18断面図、出土遺物 …… 84
図61　４次12区SX01、SX02、SX03断面図、出土遺物 … 86
図62　４次14区SX01平面・断面図、出土遺物…… 87
図63　４次12区SK05、14区SK01、
　12次４区SK01・SK02断面図、出土遺物 …… 88
図64　北東部柱穴出土遺物① …… 90
図65　北東部柱穴出土遺物② …… 91
図66　北東部包含層出土遺物 …… 92
図67　北西部平面図 …… 94
図68　北西部遺構平面図① …… 95
図69　北西部遺構平面図② …… 96
図70　北西部遺構平面図③ …… 97
図71　北西部遺構平面図④ …… 98
図72　SB30、SB32平面・断面図…… 101
図73　SB31、SB33平面・断面図、出土遺物 …… 102
図74　SB34、SB36平面・断面図、出土遺物 …… 103
図75　SB35平面・断面図、出土遺物 …… 104
図76　SB37、SB38平面・断面図、出土遺物 …… 105
図77　SB39、SB40平面・断面図、出土遺物 …… 107
図78　SB41、SB42平面・断面図、出土遺物 …… 108
図79　SB43平面・断面図、出土遺物 …… 109
図80　SB44平面・断面図、出土遺物 …… 110
図81　SB45、SB46平面・断面図、出土遺物 …… 112
図82　SB47、SB48、SB49、SB50平面・断面図、
　出土遺物 …… 113
図83　SA12～SA18平面・断面図、出土遺物 …… 115
図84　SA19～SA22平面・断面図、出土遺物 …… 116
図85　ST03、ST04平面・断面図、出土遺物…… 118

図86　ST05平面・断面図、出土遺物 …… 119
図87　棚田筋水路断面、石列平面・断面図 …… 121
図88　3次11-3区SX10出土遺物① …… 122
図89　3次11-3区SX10出土遺物② …… 123
図90　3次11-1区SD01、SD02、11-2区SD01、SD17、
11-3区SD10、SD11、4次22区SD03・SD04断面図、
出土遺物 …… 125
図91　3次11-3区SX01平面・断面図、出土遺物 …… 126
図92　3次11-2区SK04、11-3区SK03、SX05、
4次17区SK01断面図、柱穴出土遺物 …… 128
図93　北西部柱穴出土遺物 …… 129
図94　北西部下遺構平面図① …… 131
図95　北西部下遺構平面図② …… 132
図96　SB51、SB52平面・断面図 …… 133
図97　SB53、SB54平面・断面図、出土遺物 …… 135
図98　SB55、SB56、SA23、SA24、SA25平面・断面図、
出土遺物 …… 136
図99　中央部平面図 …… 138
図100 中央部遺構平面図① …… 139
図101 中央部遺構平面図② …… 140
図102 中央部遺構平面図③ …… 141
図103 中央部遺構平面図④ 区画B …… 142
図104 5次24-4区、4次23区、5次23-1区、
11次10区遺構平面図 …… 143
図105 SB57、SB58、SB59平面・断面図 …… 146
図106 SB60、SB61、SB62、SB63平面・断面図 …… 147
図107 SB64、SB65、SB66平面・断面図、出土遺物 …… 148
図108 SB67、SB68、SB69平面・断面図、出土遺物 …… 149
図109 SB70、SB71、SB73平面・断面図、出土遺物 …… 151
図110 SB72、SB74平面・断面図、出土遺物 …… 152
図111 SB75、SB76平面・断面図 …… 153
図112 SA26～SA35平面・断面図 …… 155
図113 SE03平面・断面図 …… 157
図114 SE04平面・断面図、出土遺物 …… 158
図115 SE05平面・断面図、出土遺物 …… 159
図116 SE06平面・断面図、出土遺物 …… 160
図117 7次36区SD01、5次25-2区SD01、24-4区SD01、
4次23区SD02平面・断面図 …… 163
図118 7次36区SD01、14次9区SD03出土遺物 …… 164
図119 5次24-4区SD01出土遺物 …… 165
図120 5次24-4区SD01、4次23区SD07、
SD02出土遺物 …… 166
図121 4次23区SD02出土遺物 …… 167
図122 14次9区SD01、4次24-2区SD01SD02、
10次7区SD01断面図、出土遺物 …… 169
図123 4次23区SD03、10次6区SD01平面・断面図、
出土遺物 …… 170
図124 10次6区SD01、4次23区SD03、
10次6区SD01出土遺物 …… 171
図125 10次7区SD02、6区SD02、
4次24-3区SD04－SD06、2次8-2区SD01、
8-1区SD03・SD04、5次25-3区SD04、
16次2区SD01断面図、出土遺物 …… 173
図126 区画C（町坪要害）想定平面図、12次5区SD01、
4次23区SD01断面図 …… 175
図127 4次23区SD01、12次5区SD01出土遺物 …… 176
図128 5次24-4区SK20・SK24平面・断面図、
出土遺物 …… 178
図129 7次37区SK01、14次9区SK05、5次25-2区SK04、
24-4区SK05、SK07、SK23、4次24-3区SK13、
23区SK07断面図、出土遺物 …… 179
図130 中央部柱穴出土遺物 …… 181
図131 中央部柱穴・包含層出土遺物 …… 182
図132 南東部平面図 …… 184
図133 南東部遺構平面図① …… 185
図134 南東部遺構平面図② …… 186
図135 南東部遺構平面図③ …… 187
図136 南東部遺構平面図④ 区画A …… 188
図137 SB77、SB78、SB79平面・断面図 …… 190
図138 SB80、SB81、SB82、SB83平面・断面図 …… 191
図139 SB84、SB85、SB86平面・断面図 …… 194
図140 SB87、SB88、SB89平面・断面図、出土遺物 …… 195
図141 SB90、SB91、SB92平面・断面図 …… 196
図142 SB93、SB94平面・断面図、出土遺物 …… 197
図143 SA36～SA45平面・断面図、出土遺物 …… 199
図144 SA46～SA48平面・断面図、
SA46・SA50・SA51・SA54出土遺物 …… 200
図145 SA49～SA55平面・断面図 …… 202
図146 ST06、SE07平面・断面図、出土遺物 …… 204
図147 SE08平面・断面図 …… 205
図148 SE09平面・断面図 …… 206
図149 SE08、SE09出土遺物 …… 207
図150 SE10平面・断面図、出土遺物① …… 209
図151 SE10木簡出土状況平面・断面模式図 …… 211
図152 SE10出土木簡① …… 212
図153 SE10出土木簡② …… 213
図154 SE10出土遺物② …… 215
図155 花押墨書井戸枠① …… 217
図156 花押墨書井戸枠② …… 218
図157 SE10円形・方形井側部材 …… 219
図158 区画A遺構平面図① …… 221
図159 区画A遺構平面図② …… 222
図160 4次25区SD05断面図、出土遺物、
5次31区SD01出土遺物 …… 223
図161 6次30-1区北壁、11次6-3区SD01・SD03、
11次6-1区SD10、16次6区SD01、SK02、
5次31区SD07断面図、出土遺物 …… 225
図162 4次25区SD04、SD02、5次31区SD09・SD10、
SD11、4次25区SD01断面図、出土遺物 …… 227

図163 16次６区SD02、SX01、SK01、
５次31区SD02断面図、出土遺物 …… 229
図164 ５次31区SD06、11次６－１区SK03、SK04断面図、
柱穴・包含層出土遺物 …… 230
図165 ５次29区SD01（土居ノ内溝）平面図…… 232
図166 ５次29区SD01（土居ノ内溝）断面図、
石列平面・断面図 …… 233
図167 ５次29区SD01－１、27－２区SD06出土遺物 …… 234
図168 ５次29区SD01－２出土遺物 …… 235
図169 ５次29区SD01－１・２出土遺物 …… 236
図170 ５次29区SD01、SD01－３断面図、出土遺物① …… 238
図171 ５次29区SD01－３出土遺物② …… 239
図172 ５次29区SD01－３出土遺物③ …… 241
図173 ５次29区SD01－３出土遺物④ …… 242
図174 ５次29区SD01－３出土遺物⑤ …… 243
図175 ５次29区SD01－３出土遺物⑥ …… 244
図176 ５次29区SD02、SD03、５次30区SD01、SD11、
10次８区SD01、５次26区SK03、
16次４区SD01断面図、
５次27－１区SK17出土遺物 …… 246
図177 ５次27－２区SK01、27－１区SK12平面・断面図、
柱穴出土遺物 …… 248
図178 南西部平面図 …… 250
図179 南西部遺構平面図① …… 251
図180 南西部遺構平面図② …… 252
図181 南西部遺構平面図③ …… 253
図182 SB95平面・断面図、１次２区SD06断面図、
出土遺物 …… 256
図183 １次２区SD06出土遺物 …… 257
図184 SB96平面・断面図、１次２区SX04断面図、
出土遺物 …… 258
図185 SB97、SB98平面・断面図、出土遺物 …… 259
図186 SB99、SB100、SB101平面・断面図…… 260
図187 SA56～SA62平面・断面図、出土遺物 …… 262
図188 ST07平面・断面図、10次12区SX01-SK01断面図、
出土遺物 …… 264
図189 １次２区SK06、SK07、５区SX08、SD11、
６区SK18、18次６区SK01断面、出土遺物 …… 265
図190 北西部柱穴・包含層出土遺物 …… 266
図191 大浄口遺跡平面図 …… 268
図192 SE11平面・断面図、１次２区SD12、SD14、SX01、
１区SP25断面図、出土遺物 …… 269
図193 14次４区SD01、18次４区SD01断面図、
寺前水路出土遺物 …… 271
図194 ５次30区野井戸１、29区野井戸４、
野井戸５平面・断面図、出土遺物 …… 272
図195 ５次27－２区SK02、14次９区攪乱北肩出土遺物 … 273
図196 土師器皿分類図 …… 275
図197 土製煮炊具分類図 …… 277
図198 中世播磨における在地土器変遷図 …… 282
図199 条坊復元図 …… 285
図200 Ⅳ期遺構 …… 287
図201 Ⅴ期遺構 …… 289
図202 Ⅵ期遺構 …… 291
図203 御着城跡と町坪要害 …… 293
図204 Ⅶ期遺構 …… 294
図205 江戸時代遺構配置図 …… 295

挿表目次

表１ 豆田遺跡・大浄口遺跡調査一覧表 …… 3
表２ 西播磨の土器様相 …… 278
表３ 東播磨の土器様相 …… 279
表４ 在地土器の様相 …… 280
表５ 出土土器組成 …… 292

写真図版目次

巻頭図版１
区画整理前空中写真（昭和61年　姫路市撮影　上が北）
巻頭図版２
１　調査地遠景（北から）
２　調査地遠景（南から）
巻頭図版３
１　調査地近景（南から）
２　調査地近景（北から）
巻頭図版４
調査地北東部３次11－１区～11－３区全景（上が北）
巻頭図版５
調査地中央部５次24－４区・南東部５次26区～31区全景（上が北）
巻頭図版６
１　SE10全景（西から）
２　SE10円形井側（西から）
巻頭図版７
SE10出土木簡（斜光）
巻頭図版８
SE10出土木簡（斜光）
写真図版１
調査地周辺空中写真（昭和33年･43年姫路市撮影　上が北）
写真図版２
調査地周辺空中写真（昭和43年姫路市撮影）
写真図版３
４次12区-16区全景（上が北）
写真図版４
１　４次12区全景（東から）
２　４次12区西半（東から）
３　SB01・SB02周辺（上が北）
写真図版５
１　ST01出土状況（南から）
２　ST01完掘（北から）
３　SE01（西から）

4　SE01断割り（西から）
5　4次12区SD10断面（北から）
6　4次12区SD13・SD14・SD15（北から）
7　4次12区SD15断面（西から）
8　4次12区SD02断面（北東から）

写真図版6
1　SE01周辺（北から）
2　4次12区SX01（東から）
3　4次12区東端全景（東から）
4　4次12区SX02集石（北から）
5　4次12区SX03（西から）
6　SB09（北から）
7　4次13区SD02・SX02A-A'断面（東から）
8　4次13区SD02B-B'断面（東から）

写真図版7
1　4次13区全景（西から）
2　4次14区全景（北から）
3　4次15区全景（西から）
4　4次16区全景（北から）

写真図版8
1　SB10・SB11（北から）
2　SB12（東から）
3　SE02断面（西から）
4　4次15区SD01（北から）
5　4次14区SX01（西から）
6　4次16区SB18－SP08（東から）
7　4次16区SB18－SP08（南から）
8　4次16区SB18－SP08（南から）

写真図版9
1　4次14－15区SD03・SD04（東から）
2　4次14－15区SD03（北から）
3　4次14－15区SD03（南から）
4　4次14区SD04（南から）
5　4次14区SD06（北東から）
6　4次15区SD06（北から）
7　4次16区SD03（南から）
8　4次16区SD03（北東から）

写真図版10
1　9次2区全景（東から）
2　ST02（北から）
3　SB04～SB08周辺（上が北）

写真図版11
1　SB04～SB08（北から）
2　9次4区全景（東から）
3　10次11区全景（南から）

写真図版12
1　12次4区全景（東から）
2　12次4区西全景（北から）
3　12次4区全景（南から）
4　12次4区SK01遺物出土状況（南から）

写真図版13
1　14次4区全景（南から）
2　14次4区全景（北から）
3　14次4区北端上面遺構（北から）
4　14次4区SD01断面（北から）
5　14次4区下層SD01（南から）

写真図版14
1　18次12区全景（東から）
2　22次1区全景（北から）
3　22次1区全景（左が北）
4　SB21～SB24（西から）
5　SB20　22次1区部分（北西から）
6　22次1区SD01（北から）

写真図版15
1　SB30～SB33周辺　（上が北）
2　SB30（北から）
3　SB33・SK09（北から）
4　SK09遺物出土状況（北から）
5　SA12・3次11-1区SD02（東から）

写真図版16
1　3次11-2区北部～11-1区南部（西から）
2　SA13検出状況（西から）
3　3次11-2区SD17（北から）
4　3次11-2区北部～南部（北から）

写真図版17
　SB35～SB39周辺（左が北）

写真図版18
1　3次11-2区南部（東から）
2　3次11-2区南壁（北西から）
3　SB35（西から）
4　3次11-2区下層SK01（南東から）
5　下層SK01断面（南東から）
6　下層SK01遺物出土状況（北東から）

写真図版19
1　SB38（西から）
2　3次11-2区SD01（東から）
3　ST03検出状況（北から）
4　ST03断面（北から）
5　ST03完掘（東から）

写真図版20
1　3次11-3区全景（北から）
2　SB44（西から）
3　3次11-3区SP24鉄鏃出土状況（西から）
4　3次11-3区SX01遺物出土状況（西から）
5　ST04（北から）
6　ST04（北から）

写真図版21
1　3次11-3区SX10（北東から）
2　3次11-3区SX10西壁（東から）
3　3次11-3区SX10断面（南から）

4　3次11-3区石列（東から）
5　3次11-3区SK05遺物出土状況（東から）
6　3次11-4区全景（東から）
7　3次11-4区SK01（東から）
8　3次11-3区下層SD01断面（南東から）

写真図版22
1　3次11-3区下層SD01（南東から）
2　4次22区全景（西から）
3　4次22区SD01（北から）
4　7次33区全景（東から）

写真図版23
1　16次9区全景（南から）
2　16次9区北壁（南から）
3　16次9区SD01断面（西から）
4　20次1区全景（北から）
5　20次1区SD01（西から）
6　20次1区SD01断面（東から）

写真図版24
1　18次2区全景（西から）
2　18次2区全景（北から）
3　SB42（西から）
4　18次2区SK01・SK02断面（北から）
5　18次2区SK01・SK02（東から）
6　18次2区SK02遺物出土状況（北から）

写真図版25
1　7次11-5区全景（西から）
2　12次3区全景（西から）
3　11次4区（北）全景（西から）
4　14次7区全景（西から）
5　16次8区全景（北から）

写真図版26
1　10次1区全景（南から）
2　16次7区全景（南から）
3　14次5区・6区全景（北から）
4　11次4区（南）全景（北から）
5　14次6区偶蹄類足跡（北から）

写真図版27
1　18次3区（南）全景（北東から）
2　18次3区（北）全景（北東から）
3　18次3区（南）SD01（西から）
4　22次2区全景（北東から）
5　22次2区SD02断面（東から）

写真図版28
4次17区-21区全景（上が北）

写真図版29
1　4次17区全景（南から）
2　4次17区SD01断面（北東から）
3　4次18区全景（西から）
4　4次18区SX05（北から）
5　4次18区SX05遺物出土状況（西から）
6　4次18区SX05（南から）
7　4次18区SX05遺物出土状況（東から）

写真図版30
1　4次19区全景（北から）
2　ST05（東から）
3　ST05棺外遺物出土状況（東から）
4　ST05完掘（西から）

写真図版31
1　4次21区全景（北から）
2　6次17-1区全景（南から）

写真図版32
1　7次35区全景（南から）
2　8次38区全景（南から）
3　10次2区全景（北から）
4　10次2区SD01西肩（北から）
5　13次2区全景（南東から）

写真図版33
1　9次3区全景（西から）
2　9次3区全景（上が北）
3　16次10区全景（北東から）
4　16次10-2区全景（北東から）
5　SB51-SB53（西から）

写真図版34
1　10次3-1区全景（西から）
2　10次3-2区全景（北東から）
3　18次14-1区全景（東から）
4　18次14-2区全景（北から）

写真図版35
1　調査地全景（北から）
2　調査地全景（西から）

写真図版36
1　5次24-5区全景（東から）
2　4次24-1区・24-2区全景（北から）
3　4次24-1区SD01断面（南から）
4　4次24-1区SK07（西から）

写真図版37
1　4次24-1区・24-2区（上が北）
2　4次24-2区SD01・SD02（西から）
3　4次24-2区SD01西壁（東から）
4　4次24-2区SD02東壁（西から）
5　4次24-2区SK04遺物出土状況（西から）

写真図版38
5次24-4区全景（左が北）

写真図版39
1　5次24-4区全景（北から）
2　5次24-4区SD01（西から）
3　5次24-4区SD01西壁（東から）
4　5次24-4区SD01遺物出土状況（南から）
5　5次24-4区SK24（東から）

写真図版40
1　5次24-4区下層全景（南から）
2　5次24-4区下層SD01・SD02（南東から）
3　5次24-4区SD02断面（南から）
4　4次24-3区全景（北から）
5　4次24-3区SD06（南から）
6　4次24-3区北端遺構（北から）
写真図版41
　4次23区全景（上が北）
写真図版42
1　4次23区全景（南から）
2　4次23区SD01（西から）
写真図版43
1　4次23区南部（西から）
2　町坪五輪塔と4次23区SD01（南西から）
3　4次23区SD01西壁（東から）
4　4次23区SD01杭検出状況（南西から）
5　4次23区全景（北から）
6　4次23区SD02西壁（東から）
7　SE05（西から）
写真図版44
1　4次23区SD03（南から）
2　4次23区SD03断面（南から）
3　4次23区SD03南端石列（北から）
4　4次23区SD03遺物出土状況（南から）
5　4次23区SP46遺物出土状況（南から）
6　4次23区SP51遺物出土状況（南から）
7　4次23区SD09・SD10（西から）
8　5次23-1区全景（東から）
写真図版45
1　5次25-3区全景（東から）
2　5次25-3区SD01断面（南東から）
3　5次25-3区角錐状石器出土状況（西から）
4　5次25-2区全景（南から）
5　5次25-2区SD03・SD04（南西から）
6　5次25-2区SD01石列（南西から）
写真図版46
1　7次36区全景（東から）
2　7次36区SD01東壁（南西から）
3　7次36区SD01石列（北から）
4　7次36区全景（南から）
写真図版47
　10次6区・7区全景（上が北）
写真図版48
1　10次6区全景（南から）
2　10次6区SD01（南から）
3　SE04（西から）
4　10次7区全景（東から）
5　10次7区SD01西壁（東から）
6　10次7区SD02北壁（南から）
写真図版49
1　11次10区全景（右が北）
2　11次10区全景（東から）
3　12次5区全景（東から）
4　12次5区SD01南壁（北西から）
5　12次5区SD01北壁（南西から）
写真図版50
1　14次9区全景（北から）
2　14次9区SD01（西から）
3　14次9区SD01断面（東から）
4　SE06（北から）
5　SE06断面（南から）
6　7次37区全景（北から）
写真図版51
1　2次8-2区全景（西から）
2　2次8-1区全景（南から）
3　2次8-1区SD03・SD04（西から）
4　2次8-2区SD01西壁（東から）
写真図版52
1　16次1区・2区・3区全景（南から）
2　18次4区全景（南から）
3　18次4区全景（北東から）
4　16次2区SD01（東から）
5　8次4区南壁（北から）
写真図版53
1　16次4区北部全景（南から）
2　16次4区南部全景（南から）
3・4　14次3区全景（南から）
5　16次11区全景（北から）
6　10次4区全景（南から）
写真図版54
1　13次1区北部全景（南から）
2　13次1区南部全景（北から）
3　18次1区全景（北から）
4　16次5区全景（南から）
5　10次5区全景（南から）
写真図版55
　5次26区－31区全景（左が北）
写真図版56
1　4次25区北部全景（上が北）
2　4次25区北部全景（南から）
3　4次25区南部全景（北から）
4　4次25区SD01北壁（南から）
写真図版57
1　4次25区SD05（南東から）
2　4次25区SD05断面（西から）
3　4次25区SD05完掘（西から）
4　4次25区SD05遺物出土状況（南から）
5　SB92（東から）
6　SA53（南から）

7　4次25区SD04遺物出土状況（北から）
8　SA54-SP96遺物出土状況（東から）

写真図版58
1　5次26区全景（西から）
2　5次27-1区全景（北から）
3　5次26区SD01（南東から）
4　5次26区SK03（南から）
5　SE07（西から）
6　5次27-1区SK12（西から）

写真図版59
1　4次27-2区全景（南から）
2　SE08（東から）
3　SE08断面（東から）
4　4次27-2区SK01（西から）
5　4次27-2区SD06石列（北から）
6　4次27-2区SD03（南東から）
7　4次27-2区SD04（南東から）

写真図版60
1　5次27区・28区・29区（左が北）
2　5次28区全景（西から）
3　16次14区全景（西から）
4　SB84（南から）
5　16次14区SD01（南から）

写真図版61
　5次29区全景（東から）

写真図版62
1　5次29区SD01（西から）
2　5次29区SD01西端（西から）
3　5次29区SD01西端石組み（南西から）
4　5次29区SD01A-A'断面（東から）
5　5次29区SD01C-C'断面（東から）
6　5次29区SD01D-D'断面（東から）
7　5次29区SD01E-E'断面（西から）

写真図版63
1　5次29区SD01南肩石列（東から）
2　5次29区SD01溝底（西から）
3　5次29区SD01-2溝尻（南東から）
4　5次29区SD01-2G-G'断面（南から）
5　ST06（西から）
6　5次29区SD02（西から）
7　5次29区野井戸5（西から）
8　5次29区野井戸4（東から）

写真図版64
1　5次29区SD01-3（南西から）
2　5次29区SD01-3北壁（南から）
3　5次29区SD01-3遺物出土状況（南から）
4　5次29区SD01-3H-H'断面（東から）
5　5次29区SD01-3I-I'断面（東から）

写真図版65
1　5次30区南部全景（東から）
2　5次30区北部全景（北から）
3　SE09（西から）
4　SE09断面（西から）
5　SE09掘方内遺物出土状況（西から）
6　5次30区SD01（北から）
7　5次30区野井戸1（西から）
8　5次30区SD07断面（南東から）

写真図版66
1　6次30-1区西部全景（東から）
2　6次30-1区東部全景（東から）
3　6次30-1区西部南壁（北から）
4　6次30-1区東部南壁（北から）
5　5次32区全景（北から）

写真図版67
1　5次31区全景（北から）
2　5次31区全景（南から）
3　5次31区南部全景（右が北）

写真図版68
1　5次29区・31区北部全景（上が北）
2　5次29区SD01・31区SD01（西から）
3　5次29区SD01B-B'断面（東から）
4　5次31区SD01（北東から）
5　5次31区SD01木簡出土状況（西から）

写真図版69
1　5次31区SD01杓子出土状況（南から）
2　SB88（北から）
3　SB89-SP05（東から）
4　SB89-SP06（東から）
5　SA45-SP125（東から）
6　SA46-SP39（南から）
7　5次31区SD07（西から）
8　5次31区SD09・SD10（西から）

写真図版70
1　SE10（西から）
2　SE10木簡出土状況（西から）
3　SE10木簡出土状況（北から）
4　SE10断面（北から）
5　SE10断面（北から）

写真図版71
1　11次6-1区全景（北から）
2　11次6-1・3区全景（西から）
3　11次6区全景（上が北）
4　11次6-3区SD01・SD03（北西から）
5　11次6-3区SD01・SD03断面（西から）
6　11次6-1区SD10断面（西から）

写真図版72
1　16次6区全景（上が北）
2　16次6区全景（北から）
3　16次6区SD03断面（西から）
4　16次6区SD01断面（東から）

5　10次８区全景（東から）
6　14次12区全景（東から）
写真図版73
　南西部・大浄口遺跡全景（上が北）
写真図版74
1　１次１区・２区全景（西から）
2　SB96（北から）
3　１次１区SX01（北から）
4　SA58-SA60（北から）
写真図版75
1　１次２区SD06（東から）
2　１次２区SD06断面（東から）
3　１次２区SX04（東から）
4　１次２区SK08断面（東から）
5　１次３区全景（北から）
6　１次３区野井戸（西から）
7　１次４区全景（北東から）
写真図版76
1　１次５区全景（北東から）
2　１次５区SX08・６区全景（北東から）
3　１次７区全景（北東から）
4　１次９区全景（東から）
5　１次９区西部（上が北）
写真図版77
1　８次40区全景（南から）
2　８次40区SK01（北東から）
3　８次40区SK01遺物出土状況（南から）
4　８次40区SD01・SD02（南西から）
5　８次40区SD01・SD02断面（南西から）
写真図版78
1　７次34区全景（北から）
2　８次39区全景（北東から）
3　９次１区全景（北から）
4　９次１区全景（北から）
5　９次１区全景（上が北）
写真図版79
1　２次10区全景（西から）
2　２次10-１区全景（南から）
3　４次10-２区全景（西から）
4　２次10-１区SK01（北から）
5　SB98（東から）
写真図版80
1　10次12区全景（北東から）
2　ST07（北から）
3　ST07断面（南西から）
4　11次７区全景（北東から）
5　16次13区全景（北東から）
6　18次６区全景（南から）
写真図版81
1　１-１区全景（北から）
2　１-２区全景（西から）
3　３区全景（北から）
4　１-２区遺構検出（西から）
5　１-２区SP25断面（北から）
写真図版82
1　２区全景（西から）
2　SE11（北から）
3　SE11断面（北から）
4　２区SD12（南から）
写真図版83
　SE10出土木簡（赤外線撮影）、948は出土時
写真図版84
　SE10、31区SD01出土木簡（赤外線撮影）、顕微鏡写真
写真図版85
　SE10井戸枠墨書花押（赤外線撮影）
写真図版86
　SE10井戸枠部材、顕微鏡写真
写真図版87　出土遺物
写真図版88　出土遺物
写真図版89　出土遺物
写真図版90　出土遺物
写真図版91　出土遺物
写真図版92　出土遺物

第Ⅰ章　調査に至る経緯と経過

Ⅰ－１　調査に至る経緯

姫路市苫編、町坪、玉手、飾磨区山崎において中播都市計画事業英賀保駅周辺土地区画整理事業が計画された。施行地区の面積は69.5haである。事業計画時点では土地区画整理事業地内には埋蔵文化財包蔵地は知られていなかったが、周辺の山塊あるいは平野部の状況から事業地内にも遺跡の存在が十分に想定された。このため平成12年度から平成14年度にかけて国庫・県費補助事業により事業地内において試掘調査を実施した。その結果、飾磨区山崎において村東遺跡が、苫編・町坪において池ノ下遺跡が、町坪・玉手において豆田遺跡・大浄口遺跡の４遺跡が発見された。

姫路市英賀保駅周辺土地区画整理組合から提出された文化財保護法第57条の２（現93条）の届出に基づく協議の結果、工事により遺跡に影響が及ぶ区画整理道路部分については記録保存の取扱いとなり、本発掘調査を行うことになった。本発掘調査は平成13年度に豆田遺跡から開始し、毎年継続的に調査を実施している。そのうち大浄口遺跡は平成14年度に、村東遺跡は平成27年度に区画整理道路部分の全ての調査を終えた。豆田遺跡と池ノ下遺跡は現在も継続して調査を行っている。

Ⅰ－２　調査の体制

発掘調査及び整理作業は姫路市と姫路市英賀保駅周辺土地区画整理組合の協定に基づき、姫路市教育委員会が実施した。調査の開始から本報告書刊行までの体制は以下のとおりである。

姫路市教育委員会　　（試掘調査開始から令和元年度までに在籍した職員）

教　育　長　　松田克彦　（中杉隆夫、松本健太郎、髙岡保宏）
教 育 次 長　　坂田基秀　（名村哲哉、八木優、林尚秀、後藤純二、小河紀人、大前信也、石塚勝行、池田宏）

生涯学習部

部　　長　　沖塩宏明　（岡田俊勝、植原正則、小林直樹、芝原政博、芳賀秀文、南都彰、山田吉則、西沢徹也）

文化財課

課　　長　　花幡和宏　（福永明彦、芝原政博、玉岡路三郎、牛尾誠）
課 長 補 佐　　大谷輝彦

埋蔵文化財センター

館　　長　　前田光則　（秋枝芳、大橋勉）
課 長 補 佐　　岡﨑政俊
係　　長　　森　恒裕　　（岸本幸男、大西文雄、小林利夫）
主　　事　　（岡本武平、小林啓祐、嶋田祐）
再　任　用　　竹井宏文
技 術 主 任　　小柴治子、福井優、中川猛、南憲和、関梓　（多田暢久）
技　　師　　黒田祐介　（堀本裕二）
技　師　補　　山下大輝
調査補助員　　（青木美香、岩滿聡、香山玲子、松井理加子）
非常勤職員　　韋美紗、黒岩紀子、清水聖子、田中章子、野村知子、松田聡子、三輪悠代、山下哲司
寺本祐子、玉越綾子、藤村由紀、長谷川鈴代

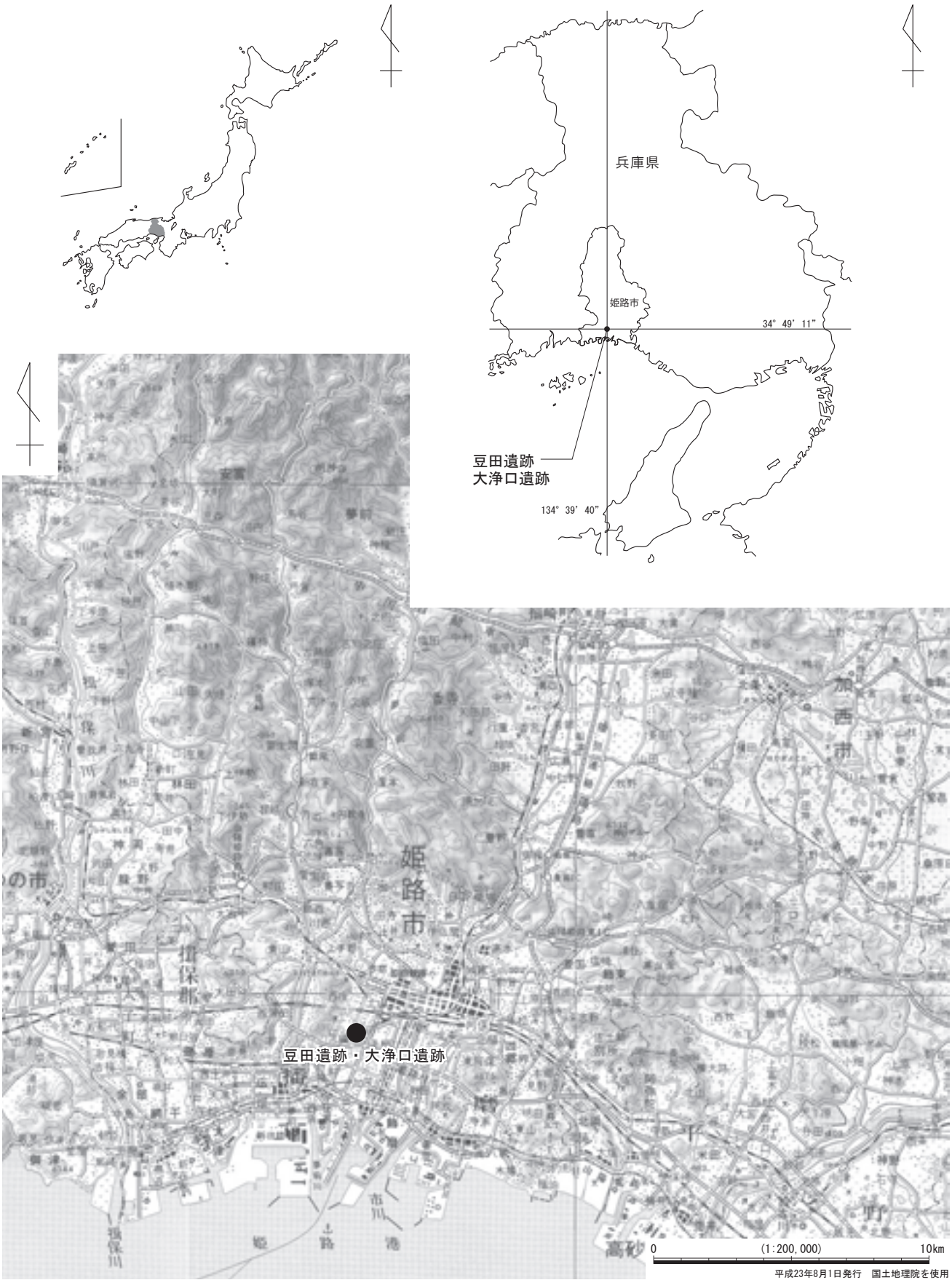

兵庫県
姫路市
34° 49' 11"
豆田遺跡
大浄口遺跡
134° 39' 40"
姫路市
豆田遺跡・大浄口遺跡
0
(1:200,000)
10km
平成23年8月1日発行　国土地理院を使用

図1　遺跡の位置

Ⅰ－３　調査の経過

大浄口遺跡の調査は平成14年度に実施し、全域にあたる1,038㎡の調査を行った。豆田遺跡の調査は平成13年度から第１次調査を開始し、表１のとおり現在まで継続して調査を行い、区画整理道路部分と民間開発等を含めこれまでに延べ22次の調査を実施している。区画整理道路部分の調査面積は合計25,846㎡である。調査区名は１次から８次までは１区から40区までの通し番号とし、必要に応じ枝番号も使用している。９次調査からは年次毎に１区から順に調査区名を付したが、池ノ下遺跡や村東遺跡とも一連で調査したため、調査区名が飛んでいる年度も存在する。報告に際し調査区名・遺構名の整理、付け替えは行っていない。

調査にあたってはバックホウで盛土・耕作土・床土を除去した。その後、遺構検出面まで人力で掘削し、遺構検出及び検出した遺構の発掘を行った。遺構発掘の進展に伴い適宜、記録写真撮影、遺構実測を行い、調査の終盤で空中写真測量を実施した。

第４次調査中の平成15年３月23日と第５次調査中の平成18年９月16日に現地説明会を開催した。

平成18年度　現地説明会風景

次数	調査担当者	調査区	調査期間	調査面積	報告書
１次	大谷	１区～７区	2001年12月25日～2002年３月15日	1,645㎡	本報告書
２次	小柴・松井・玉越	８区～10区、大浄口遺跡１区～３区	2002年11月28日～2003年３月28日	1,465㎡（豆田） 1,038㎡（大浄口）	本報告書
３次	中川・松井・玉越	11-１区～11-４区	2003年６月２日～2004年３月26日	1,348㎡	本報告書
４次	中川・玉越・香山	10-２区、12区～23区、24-１区～24-３区、25区	2004年７月28日～2005年３月25日	5,373㎡	本報告書
５次	中川・玉越・香山	23-１区、24-４・５区、25-２・３区、26区～32区	2005年８月２日～2006年１月30日	3,831㎡	本報告書
６次	中川	18-１区、30-１区	2006年６月６日～10月23日	350㎡	本報告書
７次	小柴	11-５区、33区～37区	2007年６月12日～８月20日 2007年11月13日～2008年２月７日	1,158㎡	本報告書
８次	中川	38区～40区	2009年１月16日～３月18日	380㎡	本報告書
９次	堀本	１区～４区	2009年６月12日～８月５日 2009年10月５日～11月９日 2009年12月10日～2010年３月18日	1,186㎡	本報告書
10次	堀本	１区～８区、11区、12区	2010年７月23日～2011年３月４日	1,760㎡	本報告書
11次	南	４区、６区、７区、10区	2011年８月11日～11月28日 2012年１月17日～２月21日	503㎡	本報告書
12次	南	３区～５区	2012年５月29日～６月27日 2012年８月30日～12月21日	481㎡	本報告書
13次	南	１区、２区	2013年７月30日～９月６日	268㎡	本報告書
14次	黒田	３区～７区、９区、12区	2014年９月12日・13日 2014年11月26日～2015年２月20日	1,293㎡	本報告書
15次	関	荒川小学校プール移転工事	2015年３月10日～５月19日	790㎡	調査報告第42集
16次	小柴・関	１区～14区	2015年８月７日・８日 2015年10月７日～10月21日 2015年11月17日～2018年３月５日	2,337㎡	本報告書
17次	福井	民間開発工事	2016年７月20日～７月27日	80㎡	調査報告第51集
18次	関	１区、２区、４区、６区、13区～14区	2016年５月14日～2017年６月20日	1,800㎡	本報告書
19次	関	民間開発工事	2016年12月20日～12月26日	37㎡	調査報告第55集
20次	南	１区	2018年１月10日～１月26日	208㎡	本報告書
21次	関	民間開発工事	2018年８月17日～９月19日	348㎡	調査報告第80集
22次	南・関	１区、２区、３区	2018年９月27日～11月20日	460㎡	本報告書

表1　豆田遺跡・大浄口遺跡調査一覧

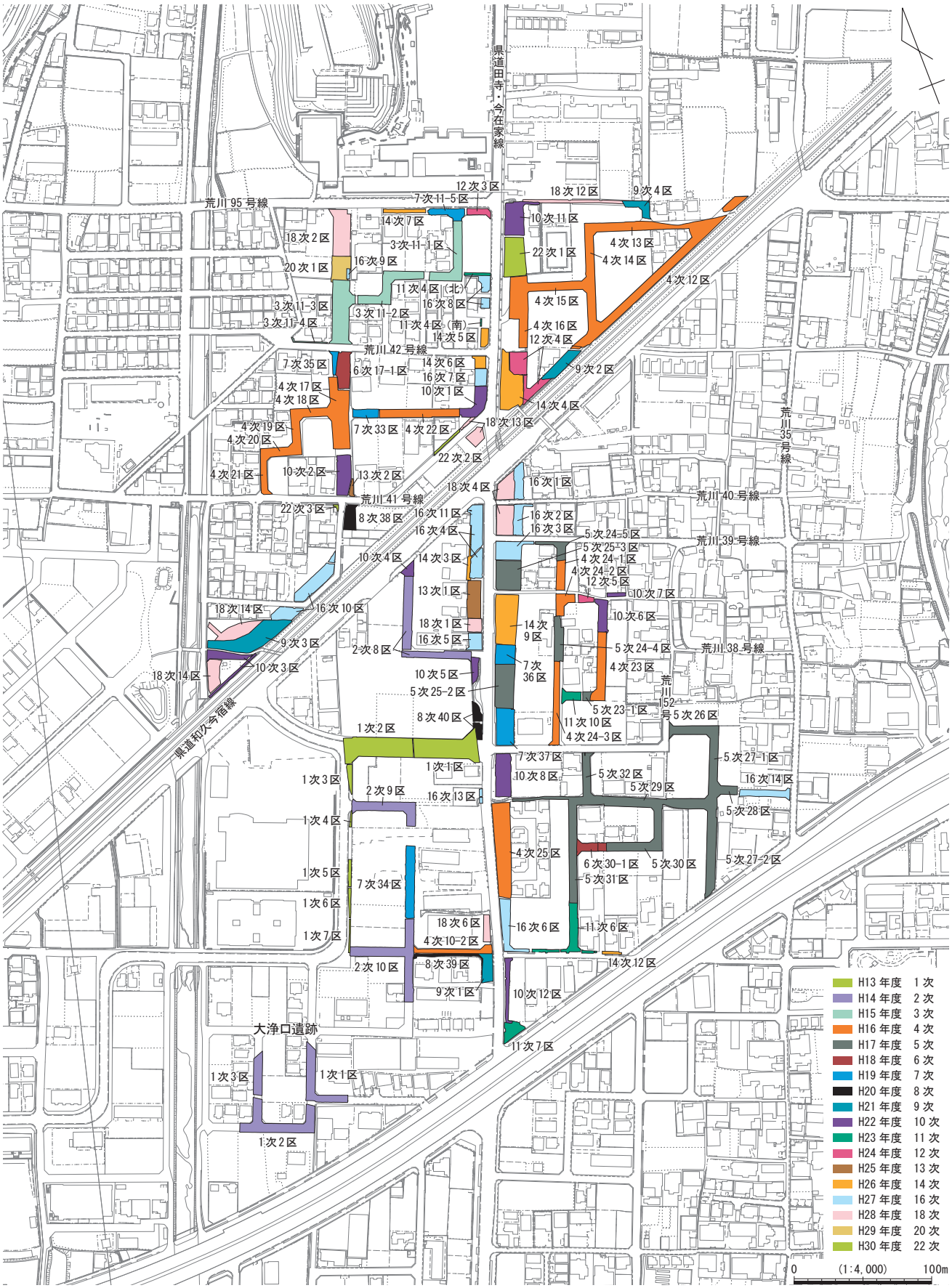


図2　区画整理事業に伴う調査位置図

第Ⅱ章　遺跡の立地と歴史的環境

Ⅱ－1　遺跡の立地と基本層序

遺跡は姫路市の中心市街地から西方約３kmの位置に所在する。図３に見るように遺跡は市川と夢前川によって形成された沖積平野に立地し、西側には苫編山をはじめ主として流紋岩質凝灰岩により形成された山地がある。平野部は水尾川に沿ってわずかに氾濫原が認められるものの、大半は完新世段丘にあたる。この完新世段丘面はほぼ平坦で、緩やかに南側に傾斜する（青木2012・2014）。

平野部には現在西から大井川、水尾川、船場川が南流するが、大井川と水尾川は旧河道を踏襲しているものの、近年整備された河川である。これらの旧河道は図３に示すように書写横関付近から分流する夢前川の古流にあたる。『夢前川流域史』によれば明暦二年に姫路藩主榊原忠次により高岡・荒川方面に流れる水を全部西へ瀬替えし、菅生川へ合流させたという（吉田1974）。こうした旧河道上に存在する主な遺跡を図３に示した。北から辻井遺跡、山吹遺跡、今宿丁田遺跡、八反長遺跡、堂田遺跡がある。辻井遺跡は縄文時代中期後半から弥生時代、遺跡内に白鳳時代の寺院跡である辻井廃寺が存在する。調査では流路跡が確認されているが、奈良時代頃に埋没している。山吹遺跡は大井川・水尾川につながる旧河道上に位置するが縄文時代前期、弥生時代、古代、中世の遺構が確認されている。今宿丁田遺跡では縄文時代晩期～弥生時代、古代、中世の遺構・遺物が、八反長遺跡では弥生時代、古代の遺構・遺物が、堂田遺跡では全域が旧河道にあたり、縄文時代から中世の遺物包含層が見つかっている。このように大井川・水尾川につながる旧河道沿いには縄文時代以降の遺跡が確認され、弥生時代・奈良時代・中世と継続して遺構・遺物が見つかっている。このことから夢前川から大井川と水尾川へとつながる旧河道については、遺跡の立地や発掘調査の成果を踏まえると早い段階で埋没していたとみられる。また、高岡・荒川地区の平野部に残存する条里地割の広がりは、市川流域西岸地区のそれに比べて、旧河道の影響を受けていないことも指摘できる。このことから条里施行以降においては夢前川の本流が横関から安室、今宿、荒川地区を流れていた可能性は低い。ただ、現状では前述の江戸時代における夢前川付け替え説が流布しており、平野部にある城跡などの分布にも旧夢前川の存在を考慮すべきとの指摘もある（山下2005）。しかし、前述したように遺跡の存在や条里地割の広がりからその可能性は低く、江戸時代の治水工事は夢前川の本流の付け替えなどという大規模なものではなかったと考えられる。今回報告する豆田遺跡・大浄口遺跡の主要な時期である中世には、現在見るように平野が広がり、旧河道の名残である大井出水、北ゆつぼ、南ゆつぼなどの湧水を水源とする水路や小河川が存在し、それらが済川・地蔵川・雲見川などと個々に呼称されていたのではないだろうか。

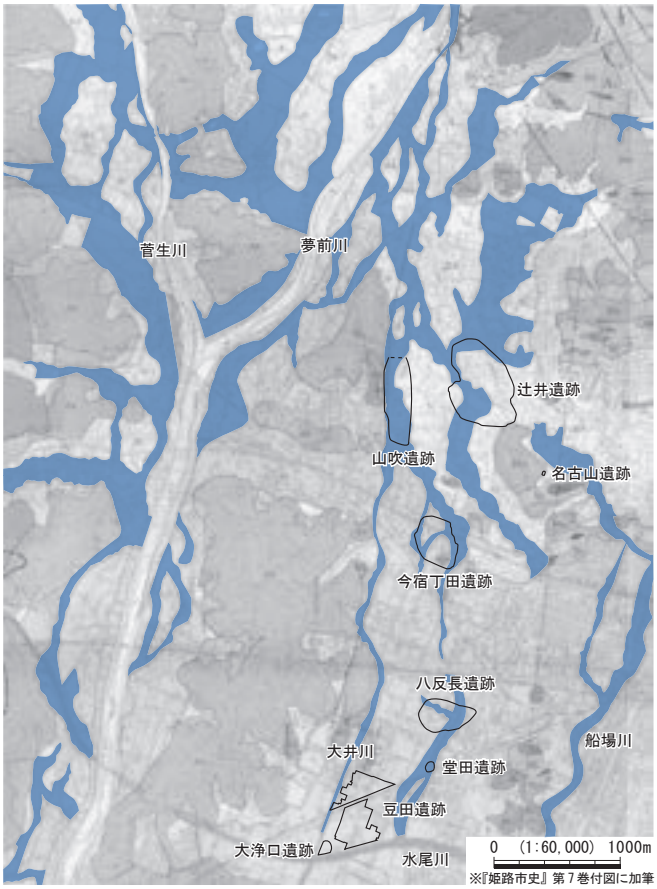


図3　旧河道と流域の遺跡

遺跡は現在の海岸線から約3.5ｋｍ内陸に位置するが、かつての海岸線と想定されている国道250号付近からは約2.5ｋｍを測る。遺跡の範囲は東西約400ｍ、南北約600ｍである。図４に示すように調査地の標高は4.0ｍ～7.5ｍである。調査前の等高線から現在の大井川にあたる部分に微凹地が認められ、旧河道の存在が確認できる。現在、水尾川となっている部分も旧河道で町坪集落の東で大きく凹む。湧水を水源とし、江戸時代には地蔵川と呼ばれ町坪村と中地村の境であった（姫路市1996）。また、「町坪村の東は底なし沼」とあるのも当該場所を指すのであろう（吉田1974）。遺跡はそうした２つの旧河道にはさまれた微高地に立地し、南から南東にかけて緩やかに傾斜する。

調査区の断面を合成し示したのが図５である。調査区の基本層序は最上層に盛土もしくは耕土（厚さ12～50㎝）がある。その下位に床土（厚さ８～10㎝）、褐灰色細砂の遺物包含層（厚さ５～10㎝）を経て、細砂もしくはシルトの地山に至る。地山の標高は北端で6.65ｍ、南端で4.78ｍである。地山は砂礫、黄褐色細砂～シルト、黒褐色礫混じりシルト、白色シルトである。白色シルトの上面には黒褐色の礫混じりシルトが堆積しており、調査区において地山とした各層の形成時期は地質学的にはそれぞれ異なる（青木2012）。

豆田遺跡・大浄口遺跡とも遺構面は１面で、弥生時代から中世、近世・近代に至るまで全て同一面で遺構を検出した。図５に示した断面図は、耕土と地山の間に水路がかかる調査区が多く、一見堆積が複雑に見えるが、いずれの調査区も先に述べた基本層序に準拠しており、複雑な堆積状況を示す調査区はない。

図4　調査地周辺等高線図

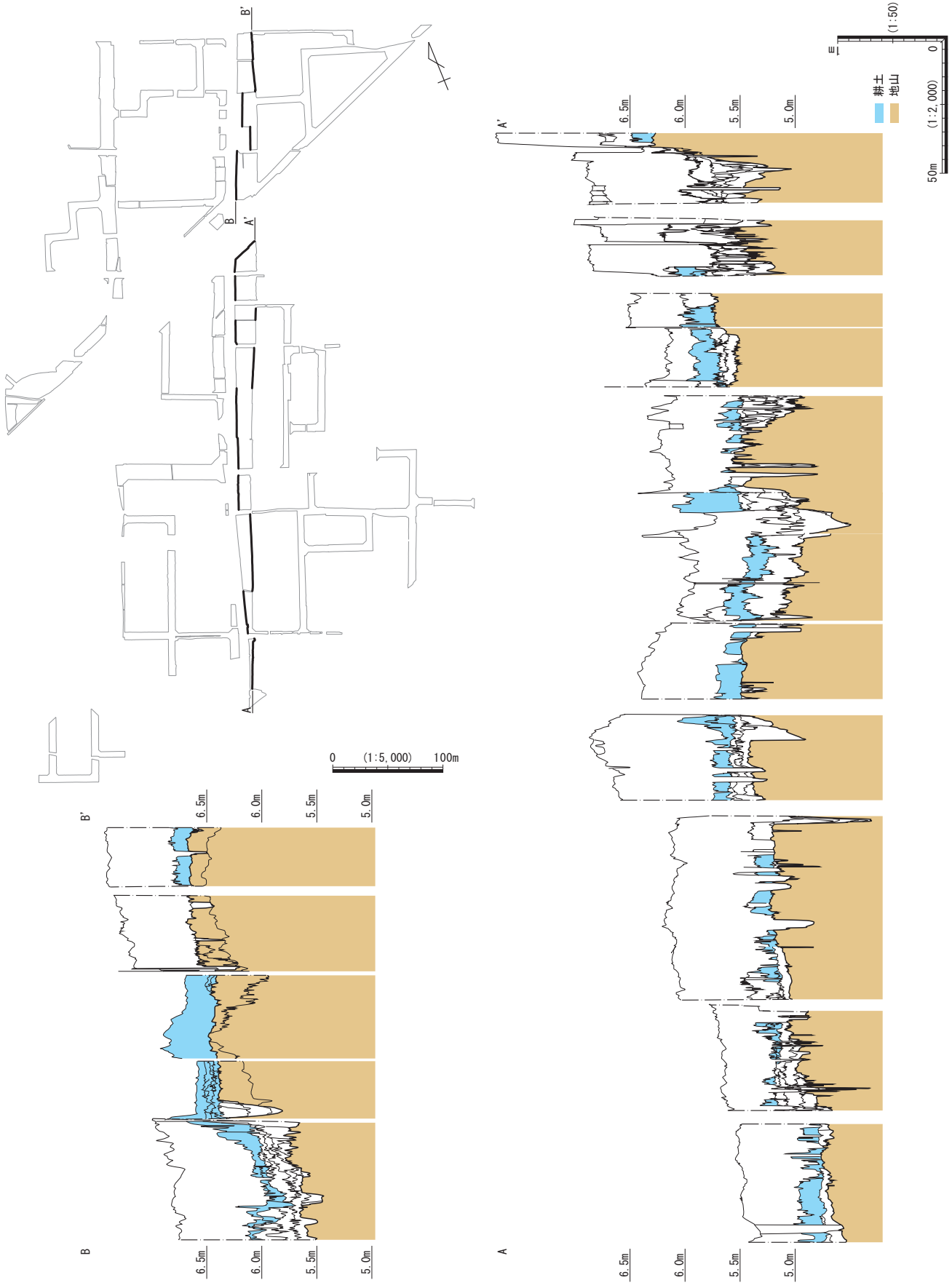


図5　調査区土層断面図

Ⅱ－２　遺跡からみる歴史的環境

遺跡の所在する姫路平野には多くの遺跡が存在している。旧石器は豆田遺跡から角錐状石器、池ノ下遺跡（５）からはナイフ形石器が出土している（兵庫県教委2012)。縄文時代になると前述したように旧河道に位置する遺跡から縄文時代前期から晩期までの縄文土器が検出される。縄文時代の遺跡は後期以降増加する。豆田遺跡の周辺でも鹿谷道遺跡（８）からは縄文時代後期の土器が、出手遺跡（９)、池ノ下遺跡（５)、堂田遺跡(11）からは縄文時代晩期の突帯文土器が出土している。

弥生時代前期には池ノ下遺跡（５）で竪穴建物跡と流路内から前期の土器が、八反長遺跡（33)、千代田遺跡（44)、橋詰遺跡（52)、権現遺跡（36）では中期初頭の資料が見つかっている。弥生時代中期以降、遺跡数は更に増加する。調査地の周辺では法輪寺山遺跡（２）や村前遺跡（３)、八反長遺跡（33）があり、石ツミ遺跡（31）では近年調査が進み中期前半の集落域と墓域の存在が明らかになりつつある（姫路市教委2014・18)。船場川流域においても上流から村淵遺跡（51)、橋詰遺跡（52)、黒表遺跡（53)、小山遺跡（54)、生矢神社裏遺跡（50)、竹の前遺跡（57)、畑田遺跡（58）が確認でき、多くの集落が営まれている。こうした集落を維持するのに欠かせない祭祀具である銅鐸片が東川遺跡（15）から出土している。図３に示した今宿丁田遺跡や名古山遺跡では銅鐸の石製鋳型片が出土しており、播磨において銅鐸を製作したことが裏付けられている。これらのうち拠点的な集落と考えられているのが畑田遺跡である。畑田遺跡は弥生時代中期に出現する集落で、後期から庄内期にかけての竪穴建物跡や柵列、円形周溝墓等が検出されている。庄内期には山陰、讃岐、

1. 豆田遺跡　2. 法輪寺山遺跡　3. 村前遺跡　4. 四ツ池遺跡　5. 池ノ下遺跡　6. 大浄口遺跡　7. 辻堂遺跡　8. 鹿谷道遺跡　9. 出手遺跡　10. 横枕遺跡　11. 堂田遺跡
12. 丁田遺跡　13. 中ノ町遺跡　14. 大石橋遺跡　15. 東川遺跡　16. 石田遺跡　17. 城田付城構跡　18. 蒲田遺跡　19. 山所群集墳１～８号墳　20. 山所遺跡　21. 山所廃寺
22. 山所南遺跡　23. 稚児ヶ淵１号墳　24. 稚児ヶ淵２号墳　25. 山崎城跡　26. 付城山群集墳１～４号墳　27. 付城山遺跡　28. 村東遺跡　29. 辻垣内遺跡　30. 土山遺跡
31. 石ツミ遺跡　32. 町田遺跡　33. 八反長遺跡　34. 西久保遺跡　35. 中地天神遺跡　36. 権現遺跡　37. 邨東遺跡　38. 長越遺跡　39. 東久保遺跡　40. 大町遺跡
41. 大塚遺跡　42. 真福寺遺跡　43. 構遺跡　44. 千代田遺跡　45. 南畝町遺跡　46. 山崎遺跡　47. 手柄山北丘遺跡　48. 手柄山北丘群集墳３～12号墳
49. 手柄山南丘遺跡、手柄山南丘群集墳１～４号墳　50. 生矢神社裏遺跡　51. 村淵遺跡　52. 橋詰遺跡　53. 黒表遺跡　54. 小山遺跡　55. 古屋敷遺跡　56. 浜田遺跡
57. 竹の前遺跡　58. 畑田遺跡　59. 飯田遺跡　60. 三宅遺跡　61. カスカエ遺跡　62. 飯田カスカエ遺跡　63. 善慶田遺跡

図6　調査地と周辺の遺跡

河内、吉備からの搬入土器も出土し、他地域との交流がうかがえる（姫路市2010）。畑田遺跡と船場川を挟んで対岸に位置する長越遺跡（38）においては庄内期から古墳時代前期にかけての遺物が大量に出土した。遺跡内の大溝からは石製模造品が出土し、これらを用いた祭祀の早い事例として知られている。池ノ下遺跡からは古墳時代前期の竪穴建物跡、土坑、溝が確認され、山陰、淡路からの搬入土器が出土した（兵庫県教委2012）。このように、手柄山周辺では庄内期から古墳時代前期にかけての地域間交流の実態が徐々に明らかになりつつある。手柄山は早くに開発が進んだため、遺跡の様相は明らかではないが、内行花文鏡の出土が伝えられているなど、弥生時代の墳墓群が存在していた可能性が指摘されている。（姫路市史2010）。

古墳時代になると苫編地区の山塊から、出土場所は不明ながら２面の鏡の出土が伝えられている。一例は現在ギメ国立博物館所蔵品となっている変形四神四獣鏡、もう一例は現品不明であるが内行花文鏡である（姫路市2010）。こうした出土例から周辺の山塊上には古墳が点在していたと考えられる。古墳時代後期の古墳は、苫編山から派生する丘陵の山麓に付城山群集群（26）・山所群集墳（19）、手柄山に手柄山南丘群集墳（49）等がある。集落跡は船場川流域で確認されているものの調査例は未だ多くなく、古墳の数に比べると集落域の実態は明らかになっていない。三宅遺跡（60）は『播磨国風土記』に書かれた「餝磨の三宅」の遺称地に所在し、近年の調査によって播磨国府系瓦を含む白鳳から奈良時代にかけての瓦が大量に出土したことから、寺院跡の存在が指摘された。遺跡の周辺には餝磨郡の条里地割に斜行する正方位に近い地割の広がりが認められる（姫路市教委2014）。奈良時代から平安時代にかけては餝磨郡に播磨国府が置かれた。国府政庁の所在は未だ不明であるが、近世の姫路城城下町跡に重なる範囲に奈良時代の遺構・遺物が濃密に確認できることから、城下町の下層に播磨国府が広がっていた可能性が高い。遺跡の周辺では堂田遺跡（11）において国分寺式軒丸瓦が出土している（兵庫県教委1992）。遺構には伴わないことから性格は不明であるが、その存在は特筆されよう。池ノ下遺跡（15）からは唐三彩の弁口瓶が出土した。四ツ池遺跡（４）からは工事中に鳥形木製品が出土したと伝わる。四ツ池から峠を超えた山所廃寺・山所南遺跡（21・22）からは類例の少ない唐草文を施した瓦塼が出土した。八反長遺跡（33）の水路からは未使用の大足とともに斎串が出土している。村東遺跡（28）、辻垣内遺跡（29）は平安時代の集落跡である。中世になると姫路平野のほぼ全ての遺跡といっていってよいほど、広域に遺構・遺物が分布する。この時期以降、平野部の開発が一気に進展していく様相が考古学的にも裏付けられる。ただ、面的に調査した事例は限られており、豆田遺跡（１）、大浄口遺跡（６）、池ノ下遺跡（５）、村東遺跡（28）、玉手遺跡群の辻堂遺跡（７）、鹿谷道遺跡（８）、出手遺跡（９）、横枕遺跡（10）、大石橋遺跡（14）、東川遺跡（15）と畑田遺跡（58）である。このうち、玉手遺跡群は豆田・大浄口遺跡の南に所在する。遺跡は中世以前の遺構の広がり等に基づき、細かく分けたもので、中世村落としては一体のものとして理解できる。

Ⅱ－３　祭礼と水利からみる歴史的環境

豆田遺跡の所在する荒川地区の氏神として、姫路市井ノ口字宮山に荒川神社（荒川大明神）が鎮座する。祭神は水波能女命・手置帆負命・彦左知命であり、秋の例大祭には氏子の各町より屋台が練り出し、「小芋祭り」として著名である。『ふる里あらかわ』によれば、元は手柄山の西麓岩崎の地に鎮座していた伊和社に発し、承安２年（1172）に平清盛が伊和社を復興し、水波能女神を勧進した。その後、鎌倉時代に室津の加茂社、もしくは室町時代に赤松満祐が山城国岡田の加茂神社より勧請したことが荒川社の直接の起源とする。その際に社領として一町の坪を寄進したことが町坪村の起源に、社殿の地が岡田村の起源になったという。その後、永享４年（1432）の済川の大洪水により社殿は津田郷（現在の餝磨区加茂）まで流されたが、岩西の郷人が再び町坪の地まで遷祀した。長禄２年（1458）に紀伊国荒川荘御船神社より手置帆負命と彦佐知神を勧請し、水波能女神と合祀し、現在の祭神となった。その後、天文２年（1533）に岩西郷の郷人が現在の場所に遷座したと記されている（荒川郷土史編集委員会1980）。７月17日の湯釜の行事、９月１日の田実祭（八朔）が行われている。10月17日の例祭には、水上にあたる「北三町」（岡田・井ノ口・西庄）と下に位置する「南三町」（町坪・中地・

玉手）に分かれ、「北三町」は北参道の鳥居から、「南三町」は南参道の鳥居から屋台が宮入りする。宮入順序は町坪、中地、玉手、岡田、井ノ口、西庄（西脇）で固定されている。１番を張る町坪の大幟には「岩西社荒川大明神　宮本町坪」と記され、町坪村が宮本である。町坪の名称の由来も『播磨鑑』などによれば加茂明神社（現荒川神社）に一町歩の田地を寄進したことに由来するとされ、町名伝承にも荒川神社が関係している。神社の氏子圏は江戸時代の庄屋制度では中地を除く５ヶ村は英加組で、中地のみ手野組（飯田組）であり上記の氏子圏とは圏域が異なる。水上の「北三町」と下の「南三町」とあるようにこの圏域は水利によって設定された可能性が高い。

そこで『ふる里あらかわ』を参考に昭和48年時の地形図をもとに現行水路の踏査を行い図７に示した。現在、現地では確認できなかった部分もあるが、大まかに水利を把握するうえでは支障はないと判断した。図７に基づけば、当該地域は西今宿村にある大井出水（現大井川）を主たる水源とし、土山村とそれ以下の六ヶ村がつながることがわかる。このうち荒川神社氏子六ヶ村は大井出水を主とし、岡田村内の北ゆつぼ、南ゆつぼなどの出水と溜池である四ツ池を水源とする。西庄村、岡田村、井ノ口村は大井出水を主要な水源とし、それより下流にあたる町坪村と玉手村は、これに四ツ池を加える。中地村は西延末を通る水路も一部入るが、西庄・岡田村からの水路も合流する。四ツ池は南北に四つの池が並ぶが、寛永15年（1638）に池の拡張工事が行なわれた記述が残る（荒川郷土史編集委員会1980）ことから、全ての池ではないにしても一部の池については江戸時代以前に存在していた可能性もある。江戸時代の元文２年（1737）の村落明細帳が町坪と岡田に残されている（姫路市史1996）。岡田村は大井出水、鯰之釜出水、穴町出水、北ノ出水東之井坪、同所西之井坪、南出水、村之内出水、船場川筋塩手井、西池を水源とする。町坪村は大井出水、北井坪西之出水、東之出水、穴町出水、南井坪出水、いのへ出水、清水出水、西池、小池、芝池を水源とする。岡田村は元禄15年（1702）の播磨国郷帳によれば、石高358石９斗３升で元文２年の大井出水による水掛りは306石２斗６合を占め、石高のおよそ８割を占める。町坪村は元禄15年には432石７斗７升で、大井出水の水掛りが136石３斗壱升、四ツ池の一つとみられる西池の水掛りが197石１斗６合となり、この２つでおよそ８割を灌漑している（姫路市史1996）。こうした記述と図７に示す水路の水源は対応する部分があることから、当地の灌漑網は確実に江戸時代に遡るものであることわかる。

大井出水現況（出水地は中央の陸橋付近）

西庄村の一部は土山村からの水路により灌漑されているが、西庄村は西脇村と庄村が合併したもので、土山村からの水路はかつての庄村の範囲を灌漑していると見られる。現在の村の範囲とは若干異なる部分もあるが土山村の灌漑網とそれ以南の荒川神社氏子圏の灌漑網は明確に区分されている。氏子圏の灌漑網は大井出水を主たる水源とし、これに各所で湧き出る出水を加えながら南流する。このように当地の灌漑系統には一貫性が看取でき、灌漑水路を介して上流の村落と下流の村落が結びついていることがわかる。中地村の東側に位置する飯田村や手柄村は船場川を水源としている。西側の苫編村は四ツ池を主たる水源としている。これらの灌漑網は必ずしも排他的ではないが、緩やかなまとまりとして荒川神社の氏子圏とは異なる灌漑網を構築していることが確認できる。太子町の鵤荘とたつの市にまたがる弘山荘における一連の調査成果から、灌漑網はかつての荘域と密接に関連し近世以降に改変を受けつつ現代まで引き継がれていることが明らかにされている（小林1995・太子町教委2004）。こうした研究をふまえれば、灌漑網ごとに土山村（庄村を含む）、荒川神社氏子圏、苫編村以西、飯田・手柄村の地域に分けることが可能である。このように荒川神社氏子圏は灌漑網により結びつき、一つの面的な広がりを形成していることが確認されよう。

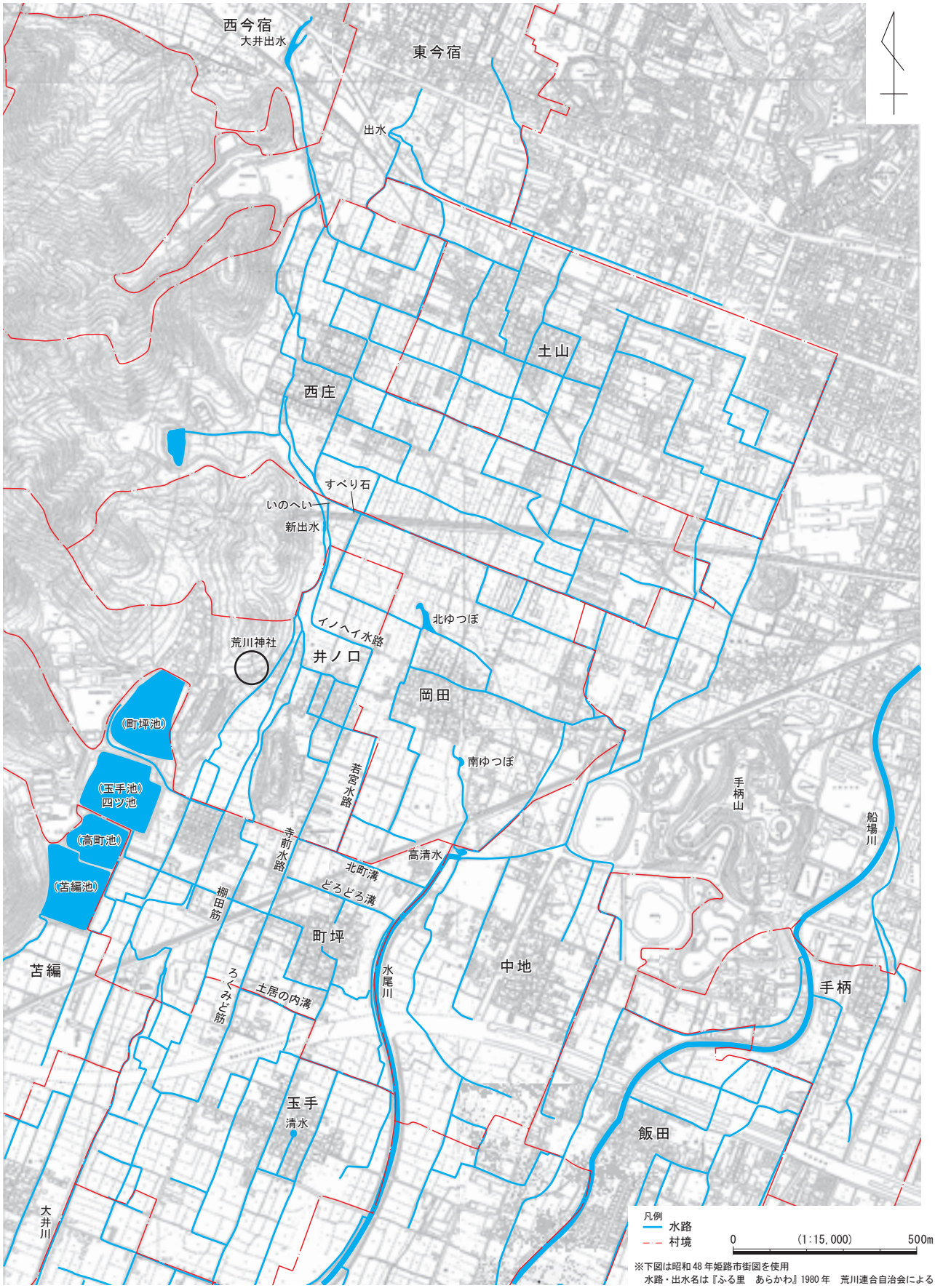


図7　調査地周辺の水路と村境

次に氏子圏の範囲が何に基づくものかを検討する。江戸時代の酒井氏時代に記された『領内郷村高覚書』には、村名の前に江戸時代の地域区分が記されている（姫路市史1986）。それを明治22年の地図に重ねたものが図８である。これによれば荒川神社氏子圏の村は全て「岩ノ西ノ郷」と記される。西庄村のうち、西脇村が「岩ノ西ノ郷」、庄村が土山村と同じ「庄内」と記される。先に確認した土山村からの灌漑網の範囲と一致している。東の飯田・手柄村には「岩ノ東ノ郷」の名がみえる。苫編村は「英加ノ郷」、玉手より南は「津田ノ巻（港）」と見え、灌漑網と地域区分が概ね対応していることがわかる。揖保川下流域の近世荘園（江戸時代の地域区分）と灌漑域を検討した小林基伸によれば、両者には密接な対応関係があり、かつ近世荘園は中世の荘園とも対比しうるという（小林2004）。ここに記した名称も、江戸時代の地域区分であることから、中世まで遡って適用することには慎重でなければならないが、少なくとも江戸時代には図８のように認識されていた。

前述したように荒川神社に関連する江戸時代の史料には「岩ノ郷」や「岩西の郷人」との記載がある。また、例大祭の町坪の大幟には「岩西社荒川大明神」と記される。荒川神社は「岩ノ西ノ郷」の氏神であり、江戸時代の「岩ノ西ノ郷」の範囲と灌漑域は対応する。本書で報告する豆田遺跡と大浄口遺跡の発掘調査によって、この灌漑網を構成する水路が中世段階まで遡ることが判明した。このことから、荒川神社氏子圏は中世に遡る結びつきであるといえる。灌漑域と氏子圏の対応、江戸時代の地域区分と中世に遡る灌漑水路の存在から、荒川神社氏子圏は「岩ノ西ノ郷」＝中世段階の「伊和西郷」であると考えられる。

なお、昭和55年に荒川連合自治会が刊行した『ふる里あらかわ』には当地が「伊和西郷」である旨がはっきりと記されている。しかし、近年刊行された『姫路市史』には伊和西は飾磨区を冠する地域と記される（姫路市史2018）。また、地元がまとめた『ふる里　荒川もの語り』にも当地が伊和西である記述は認められない（荒川地区2018）。しかし、本報告では、上記の検討から荒川神社の氏子圏である姫路市町坪、玉手、中地、岡田、井ノ口、西庄（西脇）がかつての「伊和西郷」と考える。荒川神社例大祭の町坪の幟に記された「岩西社」の文字は単に江戸時代の地域区分を示すのではなく、その祭礼が中世以来の地域紐帯によるものであることを如実に示しているのである。

荒川神社　小芋祭り（写真左に町坪の大幟）

Ⅱ－４　史料からみた伊和西の歴史

前節までの検討によって、豆田遺跡・大浄口遺跡は中世には「伊和西郷」と呼ばれた地域に所在することを示した。図８によれば、播磨国府が存在した江戸時代の姫路城下町の周辺に国衙領が広がる。市域の国衙領、荘園に関わらず共通することであるが、同時代の史料は乏しく、その実態はよく分かっていない。そうした中で、「伊和西郷」は南北朝期以降わずかに史料上に見え、断片的にその動向を捉えることができる。

そもそも「伊和西郷」は、『播磨国風土記』に記載の「伊和里」に由来し、平安時代の『和名抄』に記載された「伊和郷」に含まれる。その後、いつの頃か東西に分かれ「伊和西郷」と「伊和東郷」となった。江戸時代の『近村めぐり一歩記』には、「（手柄）山の西に岩有、東西分ち、郷名と聞」とあり、姫路市手柄の字岩崎（現在の市民プール付近）にあった大岩の西を岩西、東を岩東と呼ぶとの地名伝承が記される（八木校訂1988）。本来は「伊和西」と「伊和東」との境をさすのであろう。図８に示した江戸時代の地域区分に基づけば平安時代の伊和郷の範囲は飾磨街道付近から夢前川東岸の山塊までであった。

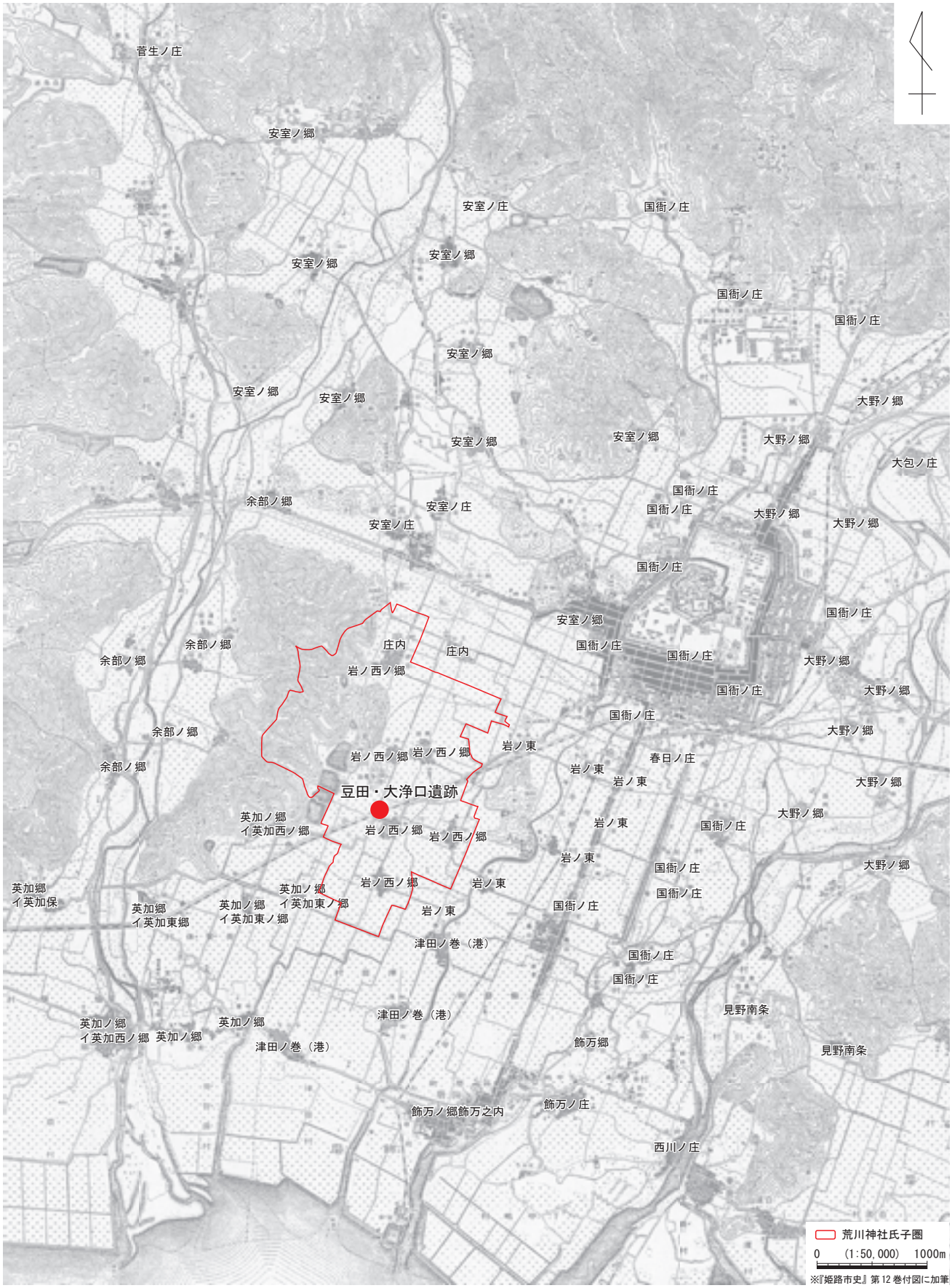


図8　荒川神社氏子圏と近世の地域区分

元弘３年（1333）の正明寺文書に伊和東郷とあることから、この時期までには確実に東西に分かれていた（姫路市2005）。応永５年（1398）に作成されたとみられる「播磨国国衙領目録」に国衙別納として伊和西が見える（新宮町2005）。伊和東には知行者の記載がないことから国衙が直轄で支配していたと思われる。伊和西の知行者は「萩原殿」と記される。萩原殿とは伏見宮家の直仁親王のことであり、伏見宮家は国衙別納10か所を家領として支配していた。応永５年に伏見宮家に返納された国衙別納10か所は伏見宮家にとって重要な領地であり、その支配には代官を置いて行ったとされる（市沢2011）。永享12年（1440）の伏見宮家領目録案には飾磨津別符とともに伊和西が見える。長禄２年（1458）の足利義政御判御教書には貞常親王に飾磨津別符をはじめとする７か所の別納について直務を認める史料が残る。これは実質的に守護に委ねられていた別納の年貢を少しでも回復できるよう、守護を排除するための文言であり、寺社本所門跡領還付政策の一環として行われたものとされる（姫路市2018）。その後、伊和西内の位田分は久我家領となり、久我家領伊和西位田分として史料に現れる（姫路市2005）。文明９年（1477）には守護代赤松政秀の新造が代官職に補任された記述が残る（姫路市史2005）。この段階で伊和西の一部に守護勢力が直接入ったことが確実にわかる。その後、伊和西に直接関わる史料ではないが、文明18年（1486）から文明19年（1487）にかけて赤松氏と山名氏が英賀・苫編山において合戦を行っている。大永元年（1521）には久我家領伊和西位田より引替分が注進され、大永４年（1524）には小寺村職が伊和西位田分の代官職に補任され、小寺氏の勢力が及んだことが確認できる（姫路市2005）。小寺氏は年貢十貫文の請切代官であった。天正13年(1585)の秀吉政権の家領指出要求に応じて久我家が作成した「久我家領不知行分注文案」に「伊和之西　十貫文　御入国以前より不知行」と記されている（兵庫県1994）ことから、秀吉の入国以前に小寺氏による年貢は納められておらず、実質的に押領されていたことが明らかとなる。天正４年（1576）の伊予板串城主西園寺宣久の「伊勢参宮海陸之記」には、英賀から十八町の場所にある町坪要害の記述がある（姫路市2005）。要害の城主は小寺与三五郎と記され、この記事から伊和西における小寺氏の支配拠点が明らかとなる。加えて、英賀から姫路へのルート上に町坪要害が存在することが判明し、当時の道筋を確認することができる。また英賀から姫路要害（姫路城の初見史料）を経て志方に至るまで、小寺氏が西園寺宣久の道中を保護しており、英賀から志方に至る飾磨郡南部が小寺氏の勢力下にあることが間接的に証明される。なお、江戸時代に書かれた『播磨鑑』には町坪構居の主は町之坪弾四郎主水佐と記され、英賀合戦の後、黒田職隆の子、兵庫頭が入ったとするが、史料に基づく限り当該時期に伊和西に英賀の勢力が入りこむ余地はないように思われる。あるいは英賀合戦とは天正年間のものではなく、文明年間の赤松・山名両軍の戦いを指した可能性もあるのではないかと考える。「伊勢参宮海陸之記」の記述では姫路要害の城主は小寺（黒田）官兵衛と記され、町坪要害の城主である小寺与三五郎が黒田兵庫頭であったかどうかは別にして、小寺姓を名乗る黒田氏であった可能性は残される。なお、町坪自治会が所蔵する元文二年（1737）の「飾西郡町坪村明細帳」には、「古城主　黒田兵庫頭とは申伝候」とあるが来歴、由緒は不明と記されている（姫路市1996）。伝承であるため定かではないが、黒田氏が関わっている可能性も十分考えられる。

上記のように史料に基づけば、調査地は伊和郷と呼ばれ、元弘３年以前に東西に分かれ、伊和西郷は国衙別納とされ、伏見宮家の支配を受けた。その後いつ頃か伊和西内位田分が久我家領となった。文明９年以降、播磨守護代である赤松下野守が久我家領位田分に直接関わることとなった。大永４年には赤松氏被官である小寺氏が位田分の代官に補任され、それ以後天正４年まで一貫して小寺氏の勢力が及んでいたと考えられる。天正４年段階の小寺氏の拠点は町坪要害であり、英賀から姫路へ至るルート上に位置していたことが確認できる。

その他、江戸時代の地誌あるいは地元に残る伝承についても記載しておく。町之坪弾四郎は「播州皿屋敷」の登場人物としても知られ、青山鉄山とともに主家に対し謀を行い、それに気づいたお菊を屋敷内の井戸にて殺害した張本人として登場する。『近村めぐり一歩記』には町坪付近に住んでいた大鷹長者という無法者らを町坪主が退治したことが記される。また、『増補播陽里翁説』には井ノ口にある法輪寺の称号「湯沢山茶くれん寺」は天正８年の英賀合戦の際に秀吉が立ち寄り、茶を所望したことにちなむと記される（八木校訂1988）。

X=130800
X=131000
X=131200
X=131400
Y=30200
Y=30000
X=130600
Y=29800
0 (1:2,000) 50m

図9　遺構平面図

第Ⅲ章　調査の成果

豆田遺跡と大浄口遺跡の平面図を図９に示した。調査面積は２万㎡を超え、調査範囲も広域にわたる。かつ、区画整理道路部分を対象としていることから幅に比して延長の長い調査区が多い。そのため調査区毎の記載ではなく、図10に示したように調査区をブロック毎にまとめ記載を行う。調査地は条里地割の残る地域であり、中世段階の遺構は条里地割と密接に関わることから、模式的に復元した条里の坪並を合わせて示した。坪並の根拠は第Ⅳ章において記載する。

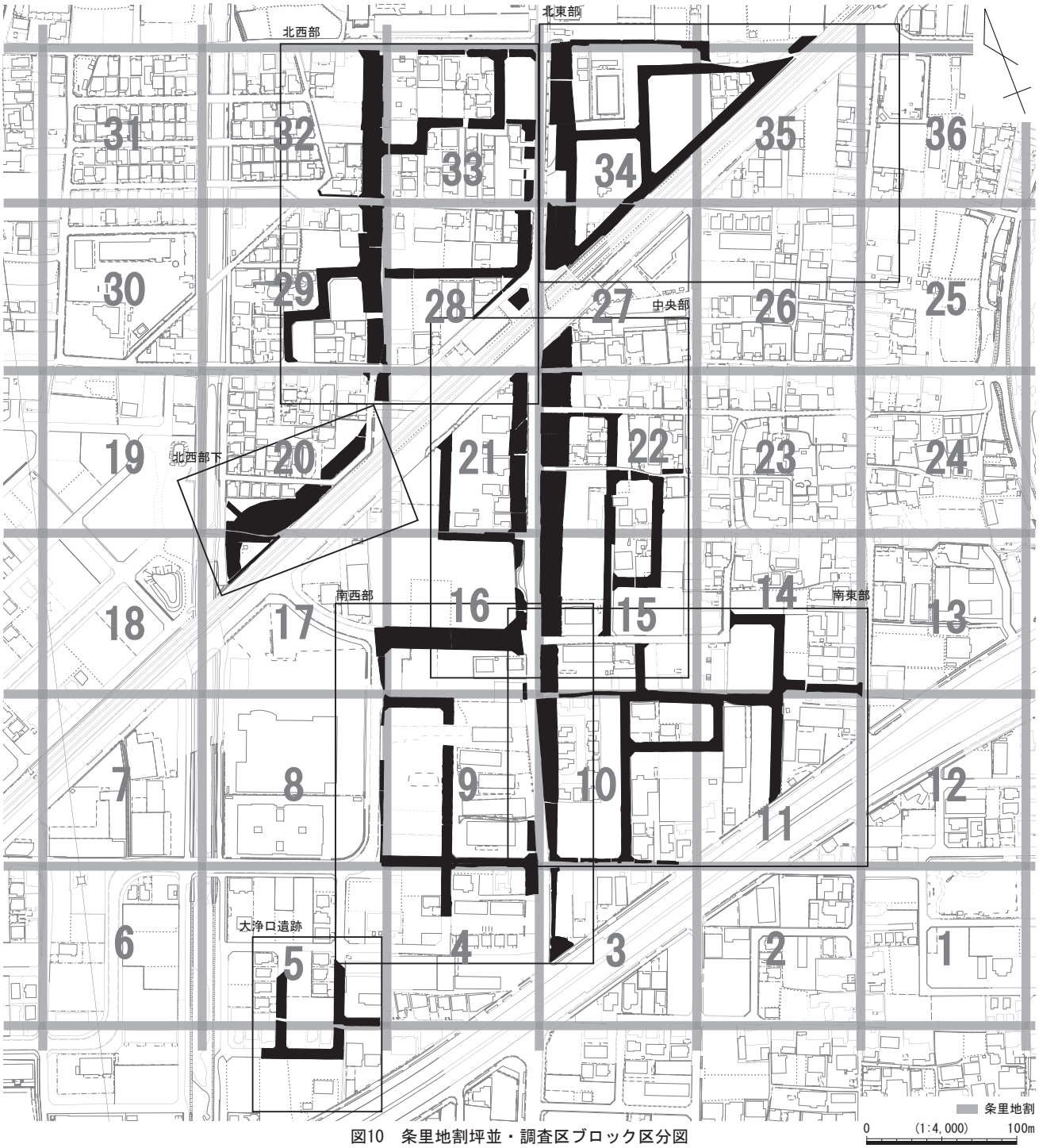


図10　条里地割坪並・調査区ブロック区分図

Ⅲ－１　中世以前の遺構と遺物

豆田・大浄口遺跡の調査は、中世の遺構・遺物が中心となるが、旧石器時代から古墳・奈良時代にかけての遺構・遺物も少なからず検出している。本章では中世集落の出現までの調査成果について述べる。

遺構検出面は中世遺構の検出面と同じである。旧石器時代の三稜尖頭器が弥生時代の流路の底から出土しているが、原位置を保ったものではない。縄文時代の遺構・遺物は全く確認できていない。弥生時代になると土坑、落ち込み、溝、流路を確認した。検出した溝はその流路方向から大きく北西から南東に流れる溝と北東から南西へと流れる溝に分類できる。調査区全域を通じて検出され、大まかな連続性はうかがえる。ただ、調査区が離れる点と遺物の出土する溝ばかりではないため、連続するかどうか不明なものも多い。古墳時代の遺構としては土坑１基のみで、遊離した状態で須恵器片や円筒埴輪片が出土している。奈良時代から平安時代前半の遺構も確認できておらず、遊離した状態で須恵器・土師器片が出土した。

Ⅲ－１－１　北東部の検出遺構

北東部では、溝を５条検出した。調査区が離れているため、断続的な検出にとどまるが、大きく２つの方向に分類できる。一つは北東から南西にかけての溝で、４次13区SD08－４次14区SD06－４次16区SD03－12次４区SD01・02－14次４区SD01（溝１）である。２つ目は北西から南東に流れる溝である。西から４次15区SD02・03－９次２区SD01・４次12区SD02（溝２）、４次15区SD04－４次14区SD04（溝３）、４次14区SD03－４次12区SD03（溝４）の４条を検出した。４次13区SD21はその延長が確認できないため、溝でない可能性が高い。

溝1
(図11･12･13)
(写真図版9)

４次13区SD08～14次４区SD01が一連と考える。総延長約150m、幅は最大で5.4m、深さは遺構検出面から48～55㎝を測る。４次15区において北西から南東に流れる溝２・３に切られる。図化しえた遺物は少ない。４次14区SD06からは壺胴部１と底部２が、４次15区SD06からは広口壺口縁部３・４が出土した。４次16区SD03からは甕底部５、砂岩製太型蛤刃石斧６が出土した。出土量が少ないが、概ね中期前半に位置づけられる。

溝2
(図11･12･13)

４次15区SD02･SD03～９次２区SD01・４次12区SD02が一連と考える。４次15区SD02がSD03を切る。南側に位置する９次２区SD01と４次12区SD02が延長部分とみられるが、対応関係は不明である。総延長は約64m、幅は４次15区SD02が6.3m以上、SD03は2.2m、９次２区SD01は3.5m、４次12区SD02は3.5mを測る。深さは４次15区SD02が20㎝と浅く、他は遺構検出面から45～52㎝である。遺物は図化に耐えうるものはほとんどなく、かろうじて４次12区SD02から打製石庖丁の破片かと思われる石器15を図示した。時期は不明である。

溝3
(図11･12)
(写真図版9)

北西から南東方向にかけて直線的に延びる。主軸はN20°Wである。延長は45.2m、幅は１～２m、深さは15～25㎝を測る。明確に遺構の中から出土した遺物で図化に耐えうるものはない。

溝4
(図11･12･13)
(写真図版9)

溝３の東約５mの位置で検出した。溝３と同様に直線的に延びるが、溝の肩はやや蛇行する。延長は約40m、幅は3.2m、深さは遺構検出面から最大で36㎝を測る。溝は４次15区の北壁沿いで西側に広がり、遺構の西肩は不明瞭になる。遺物は14区と15区の交点付近から多く出土した。特に須恵器杯蓋７・８、須恵器杯蓋９は交点付近からのみ出土したことから、本来的には溝に伴うものではなく、溝埋没後の凹み等に伴う可能性がある。他に弥生土器10～14が出土している。10は水平口縁の高杯で口縁部の垂下が顕著である。11は口縁部に凹線を施し、円形浮文を貼り付ける。12・13はタタキ甕、14は壺底部と見られ、胎土に雲母を含む。時期は弥生時代中期後半から後期とみられる。

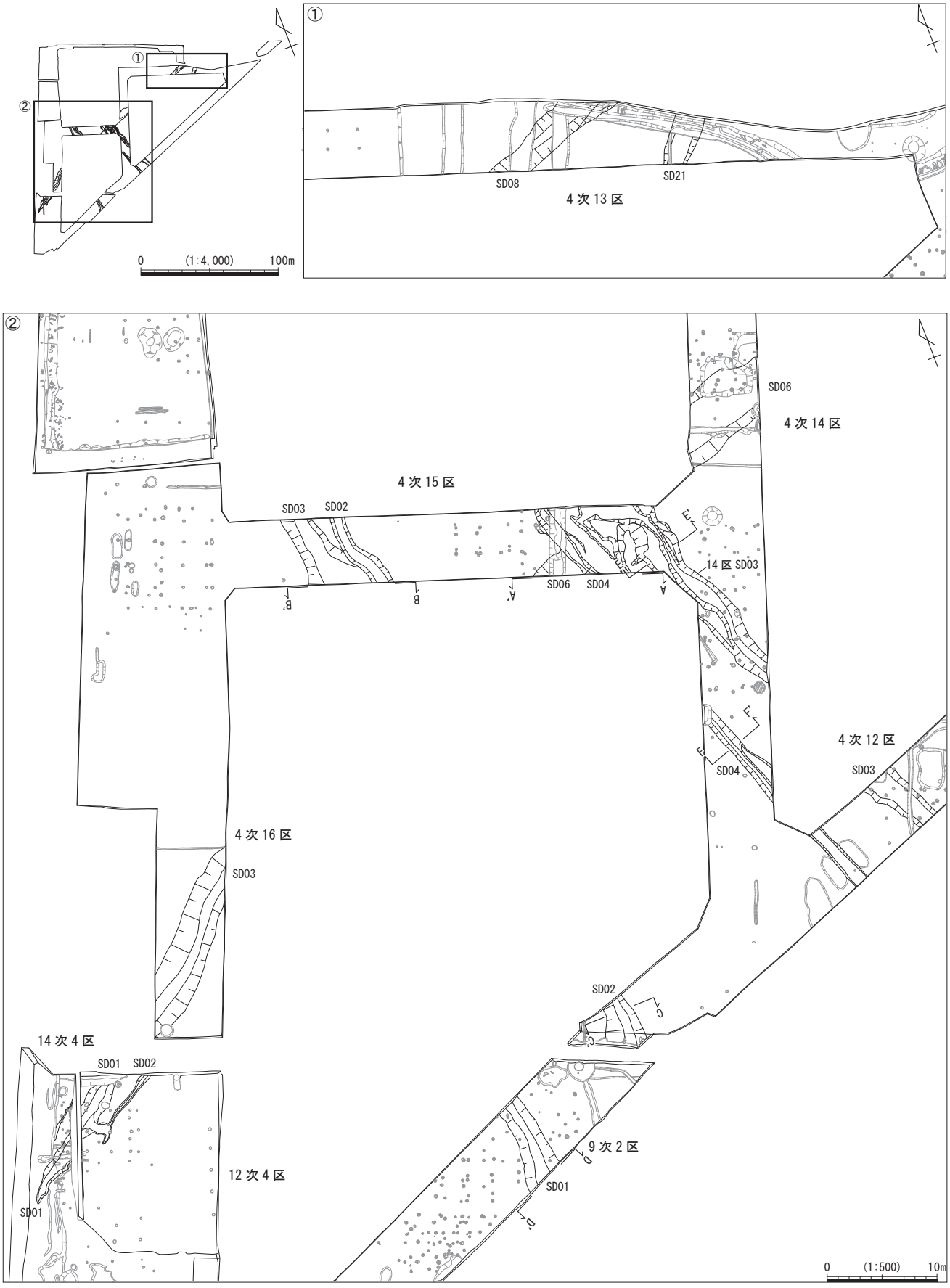
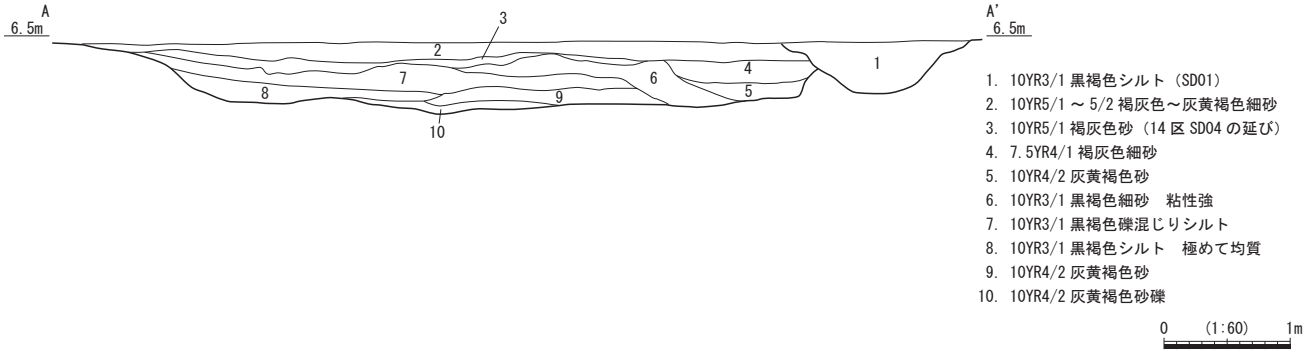
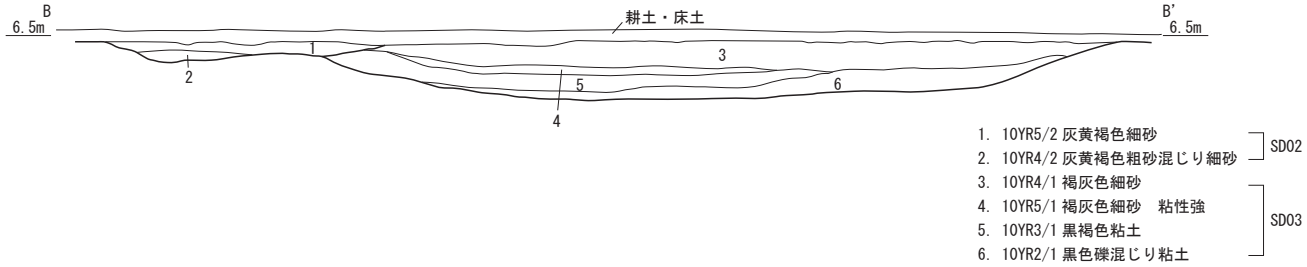


図11　北東部遺構平面図

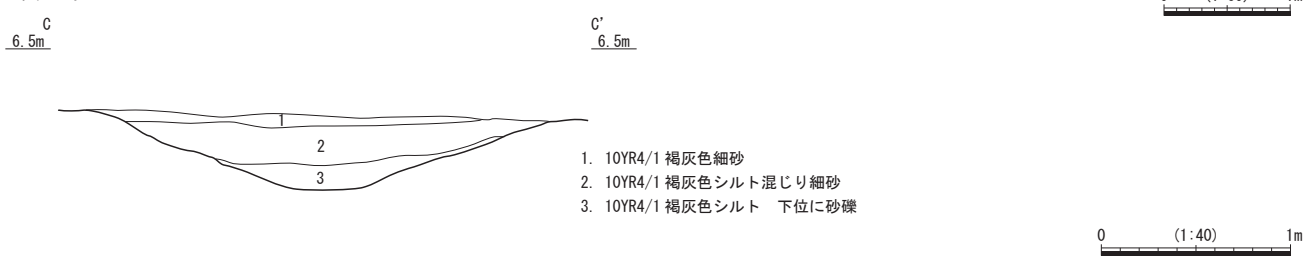
4 次 15 区 SD06



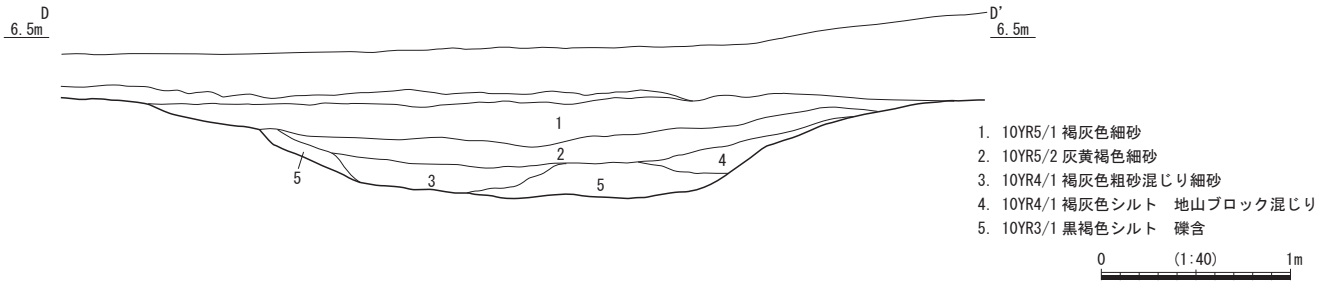
4 次 15 区 SD02・SD03



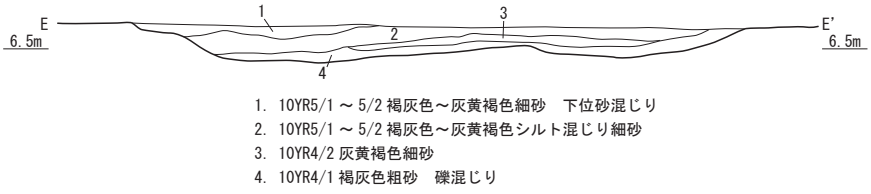
4 次 12 区 SD02



9 次 2 区 SD01



4 次 14 区 SD03



4 次 14 区 SD04

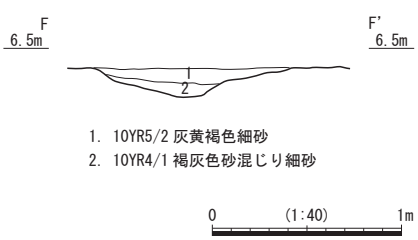
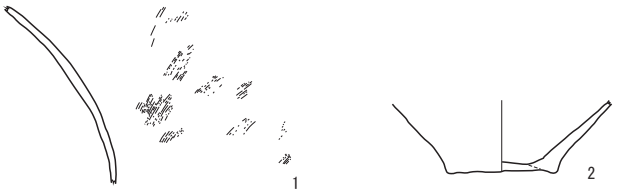
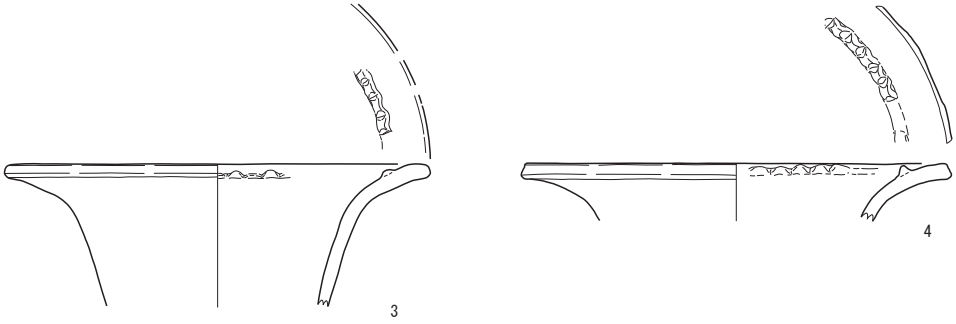


図12　4次15区SD06、SD02・SD03、4次12区SD02、9次2区SD01、4次14区SD03、4次14区SD04断面図　【図11】

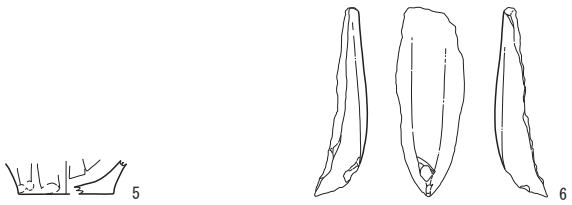
4 次 14 区 SD06



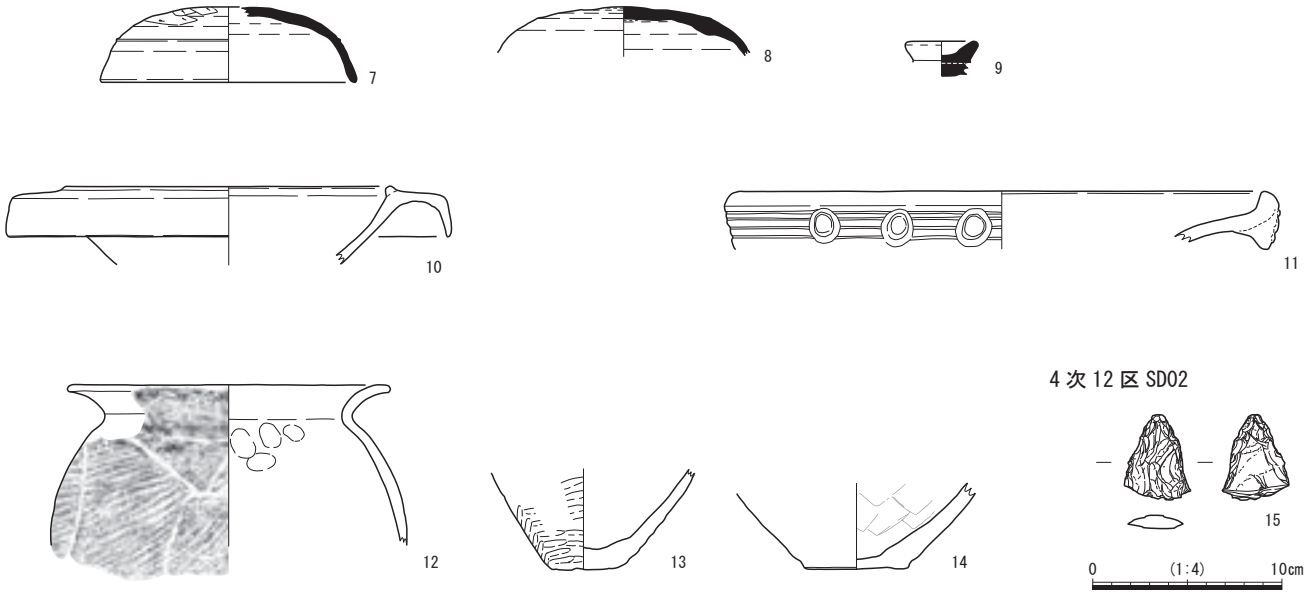
4 次 15 区 SD06



4 次 16 区 SD03



4 次 14 区 SD03



4 次 12 区 SD02

図13　4次14区SD06、15区SD06、16区SD03、14区SD03、12区SD02出土遺物

Ⅲ－１－２　北西部の検出遺構

北西部では土坑４基、落ち込み１基、溝２条を検出した。溝は北西から南東方向に流れる３次11-３区下層SD01－４次22区SD01－22次２区SD01・SD02（溝５）と北東部から続く溝１の延長と考えられる10次１区SD01-18次13区SD01である。

3次11-2区 下層SK01
(図14-15)
(写真図版18)

３次11-２区で検出した。土坑の平面形は隅丸長方形を呈し、長辺4.25m、短辺75cmを測る。深さは遺構検出面から14cmで、上部は削平を受けている可能性が高い。土坑の肩部は長軸・短軸とも平らな底面から比較的急角度に立ち上がる。主軸はN33° Wである。中世段階のSK04に切られる他は切り合い関係はない。埋土は黒褐色細砂からシルトである。遺物は北半部の土坑底から押しつぶされた状態で出土した。いずれも体部上半にヘラ描き沈線を有す外反口縁の甕16・17である。17は口縁端部に刻み目を有し、底部の一部を除きほぼ完形に復元できた。145に比べて胴部の膨らみが顕著でないことから前期後半に位置づけられる。

人骨及び木棺痕跡等は確認できなかったが、細長い形状を呈し、完形の土器を伴うことから類例を検索すれば、神戸市新方遺跡の溝状埋葬遺構等が候補としてあげられる。本遺構も墓の可能性を考えておきたい。

18次2区 SK01･SK02
(図14-16)
(写真図版24)

18次２区の西壁沿いで検出した遺構である。SK02をSK01が切っている。SK01は調査区外に広がるため、全容は不明であるが、検出規模で南北1.5m、東西50cm、深さは遺構検出面から５cmを測る。SK02は東西に長い楕円形を呈する。平面規模は長辺1.07m、短辺64cm、深さは遺構検出面から28cmを測る。SK01の埋土には炭化物が大量に含まれていた。遺物は弥生土器甕18～21が出土した。18・19はSK01とSK02の上層から出土した。甕20・21は図示したようにSK02からまとまって出土した。後期後半に位置づけられよう。

3次11-3区 SK05
(図14-16)
(写真図版21)

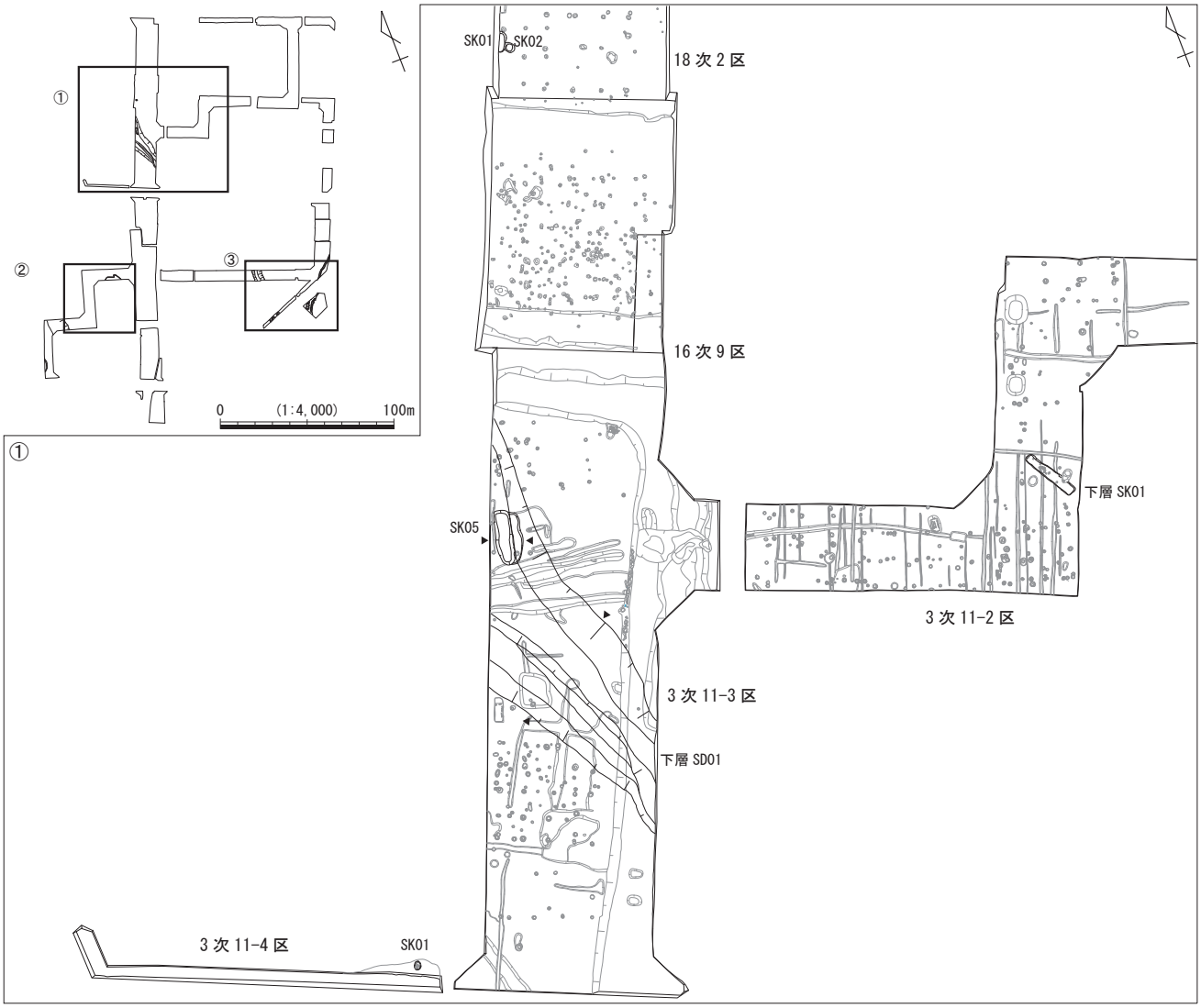
SX05の下位で検出した南北に長い土坑である。平面規模は南北４m、東西2.1m、深さは遺構検出面から最大で34cmを測る。土坑は２段に掘られ、東側は深さ８cm程度と浅く、西側が一段深くなる。土坑の上面はSX05が被覆していることから、上層埋土からは中世の遺物が出土した。下層からは遺物の出土はほぼなく、土坑底からほぼ完形の弥生土器壺22が出土した。土坑底から押しつぶされたような状態で出土した。胴部下半はタタキ、上半から頸部にかけてはハケが認められる。後期後半に位置づけられる。SK05の下位に下層SD01が存在し、同時期の遺物を含むことから壺22は下層SD01に伴う可能性もある。

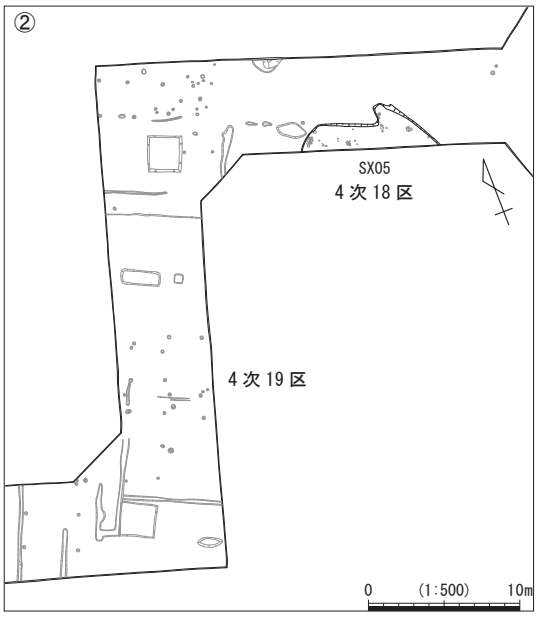
3次11-4区 SK01
(図14-16)
(写真図版21)

平面形は南北にやや長い円形を呈し、平面規模は長辺63cm、短辺47cm、深さは遺構検出面から９cmを測る。土坑内から弥生土器23が出土した。本来は一個体と見られるが、土坑上部が削平を受けているため、口縁部の破片は認められない。復元できたのは底部にとどまった。

4次18区 SX05
(図14-17)
(写真図版29)

本遺構を検出した４次18区周辺では、遺構検出面は黒褐色土を呈し、SX05の埋土と全く同質であった。そのため、平面プラン検出作業及び断割りによる断面観察でも掘方の認識が明確にできなかった。当初は24～27の遺物が出土した範囲を竪穴建物と認識して調査を行っていたが、断面観察において立ち上がり等が全く確認できないことから断割りを延長したところ、当初検出プランの外側からも遺物の出土が確認できた。そのため、わずかに礫が少ないという曖昧な基準と土器の出土を頼りにその範囲を拡張した。最終的には図17に示したように不整形な広がりとなった。本来的には切り合いのある住居跡もしくは土坑の可能性もあるが、遺物が平面的に出土したという情報以外提示できない。なお、調査の終盤でSX05の周辺を広い範囲で掘削したが、SX05とした範囲を除いて遺物の出土は認められなかった。なお、断面図中の破線部は礫の混じり具合に辛うじて差が見いだせるかどうかのラインであり、厳密なものではない。





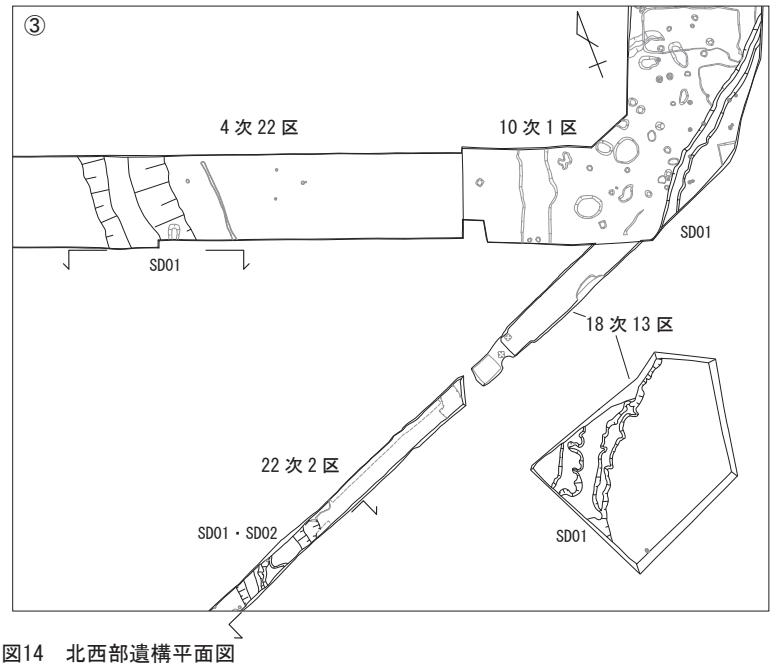


図14　北西部遺構平面図

遺物は東西９ｍ、南北3.0ｍの範囲において10～15㎝の深さから出土した。西側のわずかに一段下がる位置から出土したのが長頸壺24、甕25・26、高杯27・28である。25・26はハケ調整甕で26は外面が被熱している。27は装飾高杯である。畑田遺跡ＳＲ１からこれに加飾を加えた類例が出土している。28は同脚部であろう。一段高い部分から出土したのが壺29～31、鉢32・33、甕34、高杯35・36である。29は長頸壺で口縁部下に３条の沈線を施す。30は短頸壺で、色調は茶系である。31は広口長頸壺であろうか。32・33は外反口縁の鉢で、32は底部に線刻が認められる。35は有稜高杯、36は小型の有稜高杯である。後期中葉から後半に位置づけられる。

溝1（図14）
（写真図版27）

検出した位置から北東部で検出した、北東から南西に流れる溝１の延長と考えられる。延長約36m、幅は最大で４ｍを測る。遺物は出土していない。

溝5（図14）

北西から南東方向に流れる。延長は約140m、幅は最大で上幅9.3m、深さは1.05ｍを測る。

3次11-3区下層SD01
（図18･19･20）
（写真図版21･22）

最も北西に位置する。延長23m、幅は上幅9.3ｍを測る。埋土は大きく上層と下層に分類でき、上層は１～７層、下層は８～16層である。深さは遺構検出面から下層が約１ｍ、上層が約80㎝である。遺物は37～54は上層からの出土、55～85は下層からの出土である。37～40は長頸壺、41は直口鉢か、42は壺、43は高杯脚部、44～47は甕である。44はくの字状口縁甕で口縁部に３条の凹線を施す。45は口縁部外面に炭化物が付着する。46は内面にケズリを施し、外面はハケを施すハケ調整甕である。47は底部内面に炭化物が付着する。48・49は有稜高杯で、48の口縁部外面は鋸歯状の文様を施す。52・53は器台である。52の口縁部には格子状の文様が認められ、その下部に幅広の沈線が巡る。50・51は高杯脚部である。54は甕底部で、内面はケズリ、外面はハケ後ミガキを施す。55～67は壺である。55・56は広口長頸壺の口縁部、57・61は広口壺の口縁部で、57は口縁部下に段を有す。58～60は広口壺の口縁部で口縁端部に刻目を施し、58・59は上部に刻目突帯を貼り付ける。62～64は広口長頸壺の頸部で、62は６条の沈線が、63は三角突帯に棒状浮文を貼り付ける。64は三角突帯に刻み目を施す。65は胴部に５条の沈線を施す。66は胴部上半に三角突帯を２条、67は３条貼り付ける。68～79は甕である。68～75は外反口縁甕で、68～70は無文、71～75は口縁端部に刻み目を施し、口縁下に３～４条の沈線を施す。75～79は逆Ｌ口縁甕で、口縁端部に刻み目、口縁下に沈線を施す。80～84は壺底部である。80は底部に直径６㎜の穿孔を有す。85はサヌカイト製で、背面に２次調整が明瞭に残ることから刃器等を剝離した剝片である。上層は後期前半に、下層は中期初頭から中葉に位置づけられる。

4次22区SD01
（図18･21）
（写真図版22）

延長6.14m、幅は上幅で6.4ｍを測る。断面観察から１～８層が上層、９～13層が下層である。深さは遺構検出面から下層が約１ｍ、上層が約50㎝である。遺物は90・91・98が最下層から、94が上層から出土した以外は、６～10層にかけての溝中位から出土した。86～92は壺である。86は広口壺、87・88は長頸壺で、88は頸部に沈線による施文が認められる。89・90は断面三角突帯を貼り付け、91はその口縁部と見られる。92は脚付きの壺で、内外面ともミガキが良好に残る。93は甕で、内面は口縁部以下はケズリ、口縁部内面を丁寧に磨いている。94は胎土に角閃石を含み、搬入品であろう。95～97は甕底部で、95はタタキ後にハケを施す。98は砂岩製の太型蛤刃石斧である。99はサヌカイト製の平基式石鏃である。

22次2区SD01･SD02
（図18･21）
（写真図版27）

４次22区の南に位置する22次２区では、溝が明確に上下に分離し上層をSD01、下層をSD02とした。SD01の上幅は2.1m、SD02の上幅は5.2m以上を測る。深さは遺構検出面からSD01が45㎝、SD02が80㎝である。SD01からは遺物が出土しなかったため、時期は不明であるが、11-３区からの一連の溝と考えれば弥生時代後期頃と想定される。SD02からは壺100・104、甕101～103が出土した。101は外反口縁甕で、口縁端部に刻み目をもち、口縁下に沈線を施す。102は逆Ｌ口縁甕で、口縁端部に刻み目、口縁下に櫛描沈線を施す。103は口縁の屈曲が強く、外面に炭化物が付着する。11-３区下層SD01の下層と同時期である。

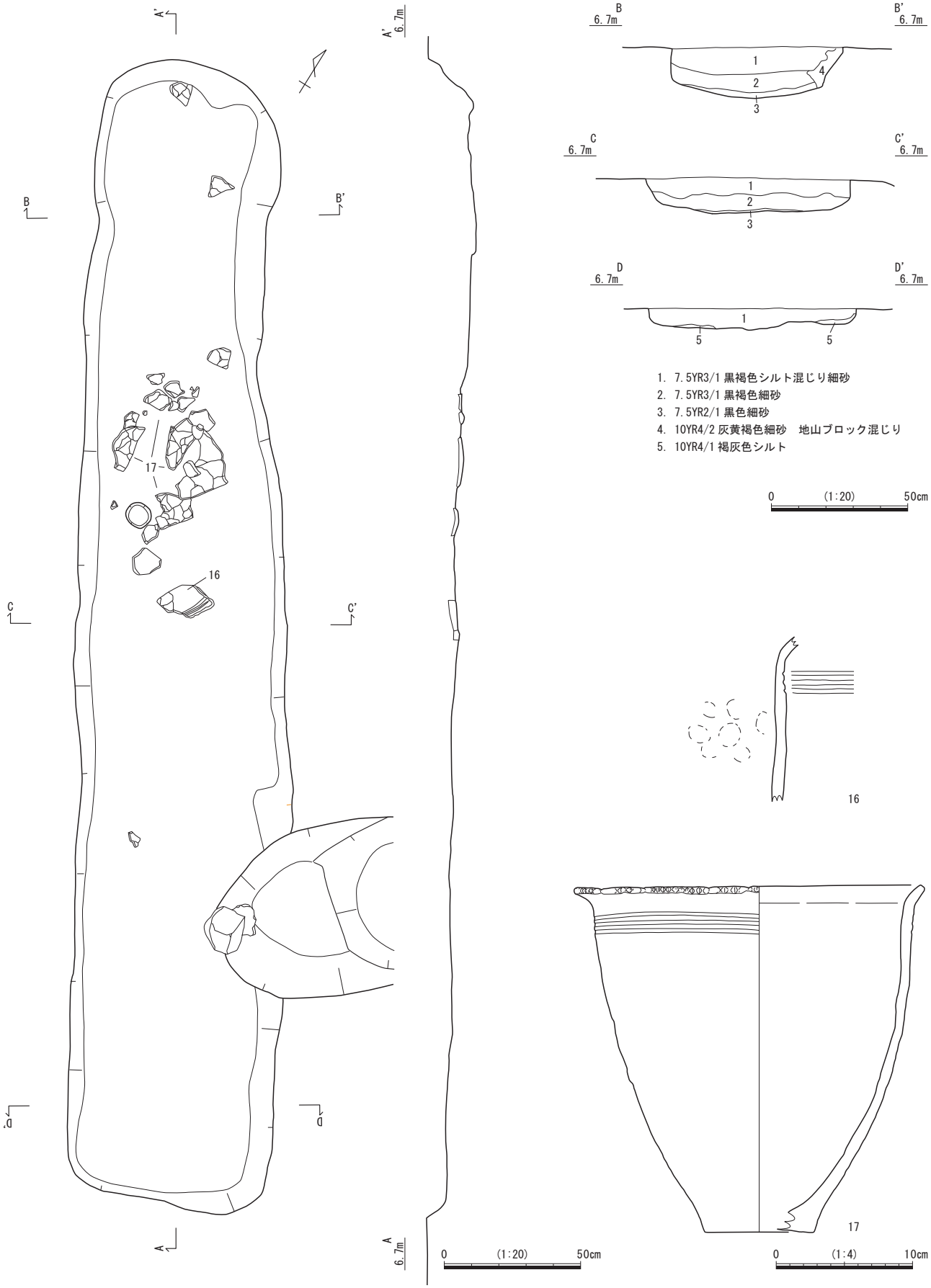
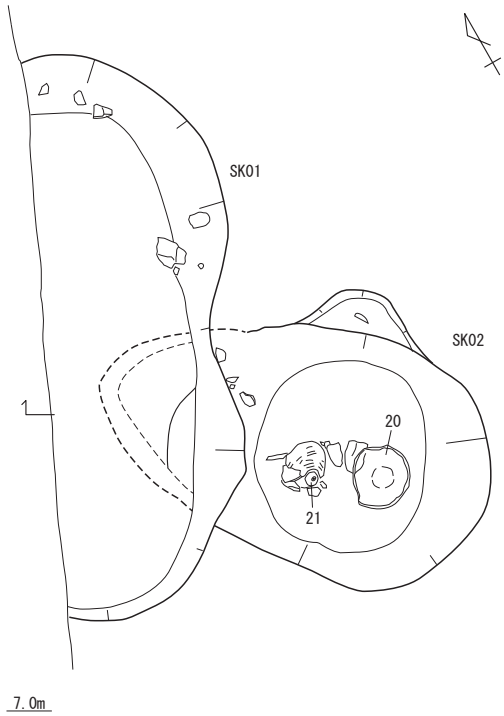
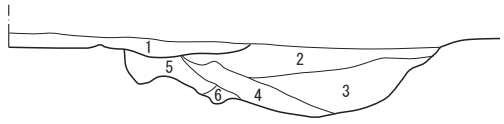


図15　3次11-2区下層SK01平面・断面図、出土遺物

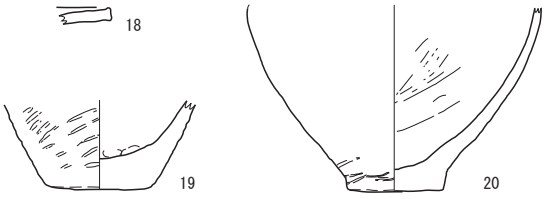
18 次 2 区 SK01・SK02



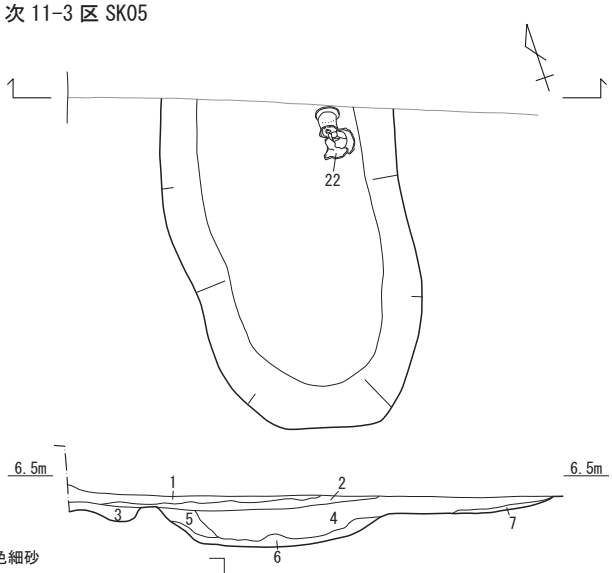


1. 10YR3/2 黒褐色シルト　炭化物多量含
2. 2.5Y6/4 にぶい黄色細砂
3. 10YR4/1 褐灰色細砂
4. 10YR2/1 黒色細砂
5. 2.5Y5/4 黄褐色極細砂
6. 2.5Y3/2 黒褐色シルト

0　(1:20)　50cm

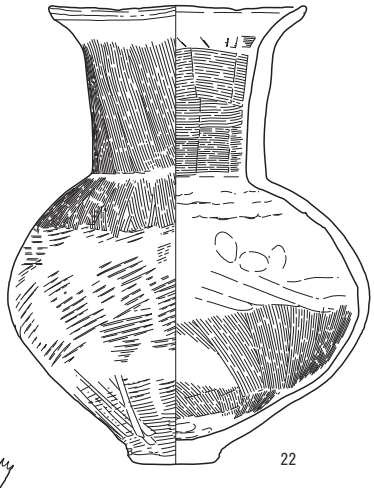


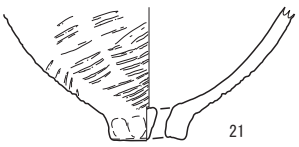
3 次 11-3 区 SK05



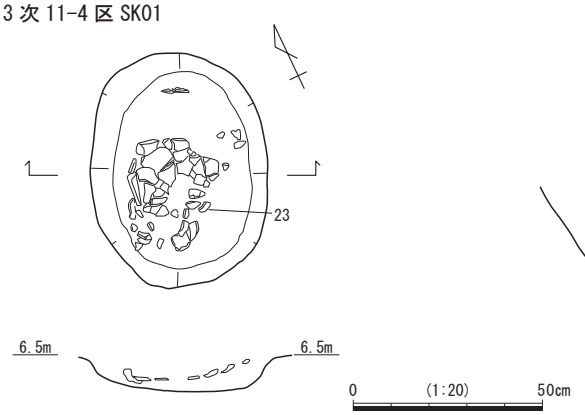
1. 2.5Y6/2 灰黄色細砂
2. 10YR4/1 褐灰色細砂
3. 10YR4/1 褐灰色粗砂混じり細砂　SX05
4. 2.5Y5/1 黄灰色細砂
5. 2.5Y5/1 黄灰色シルト混じり細砂　粘性強
6. 2.5Y5/1 黄灰色シルト
7. 10YR4/1 褐灰色細砂　SK05

0　(1:40)　1m

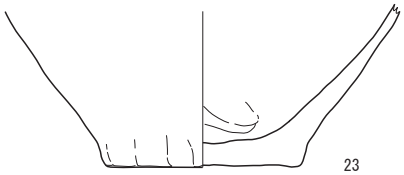




3 次 11-4 区 SK01

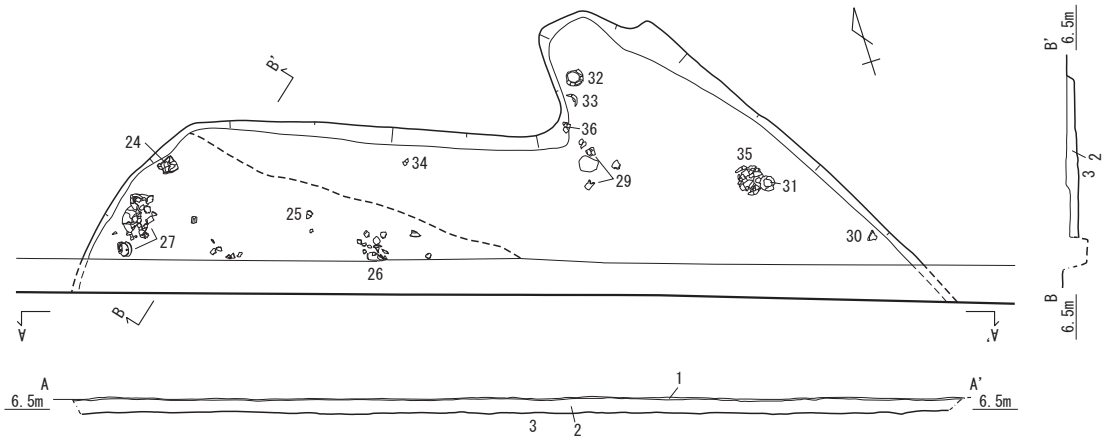


0　(1:20)　50cm



0　(1:4)　10cm

図16　18次2区SK01・SK02、3次11-3区SK05、11-4区SK01平面・断面図、出土遺物



1. 床土
2. 10YR3/1 黒褐色礫混じりシルト　検出面と同質、わずかに礫少ない
3. 10YR3/1 黒褐色礫混じりシルト

0 (1:80) 1m

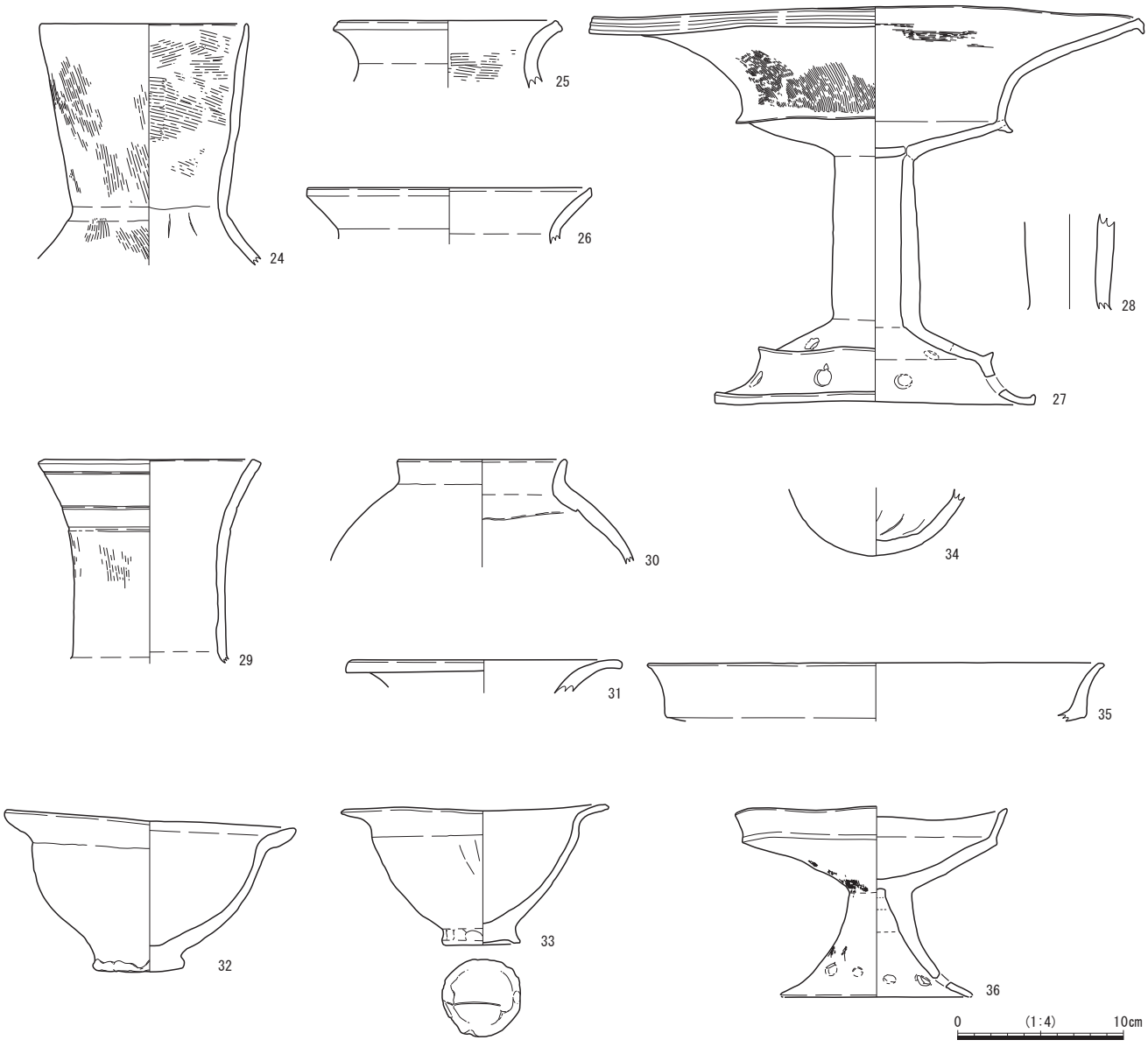
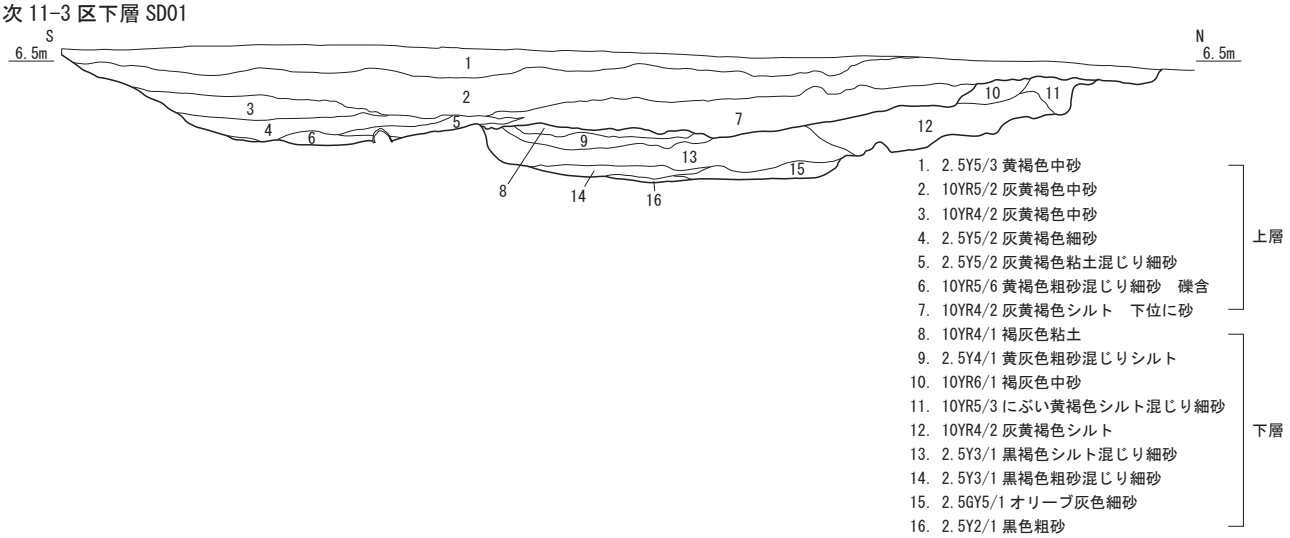
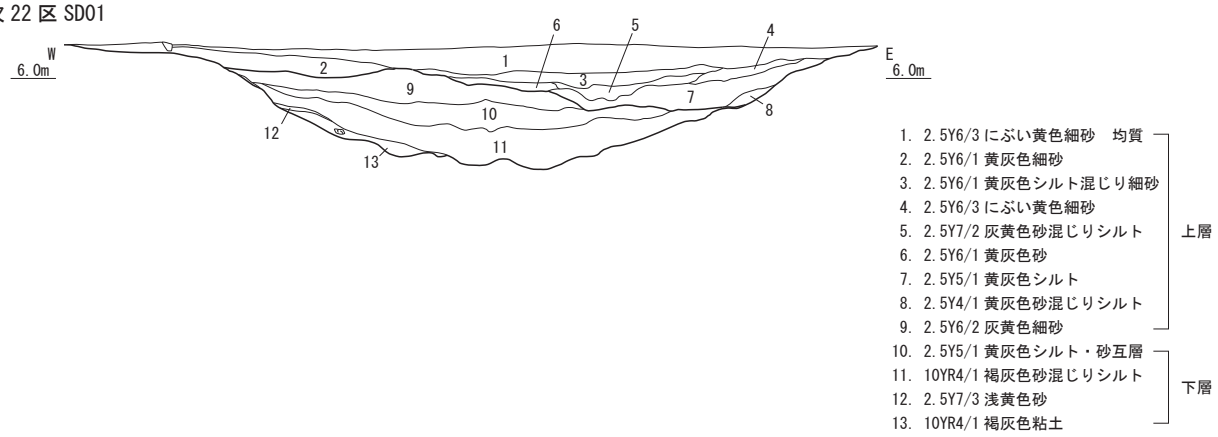


図17　4次18区SX05平面・断面図、出土遺物

3次11-3区下層SD01



4次22区SD01



22次2区SD01・SD02

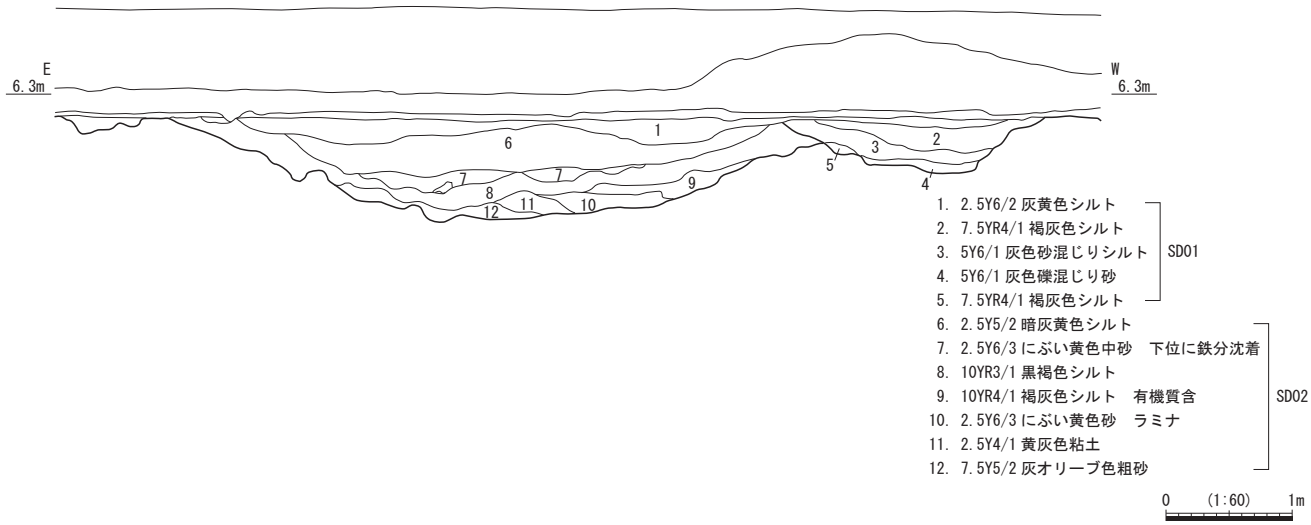


図18　3次11-3区下層SD01、4次22区SD01、22次2区SD01・02断面図　【図14】

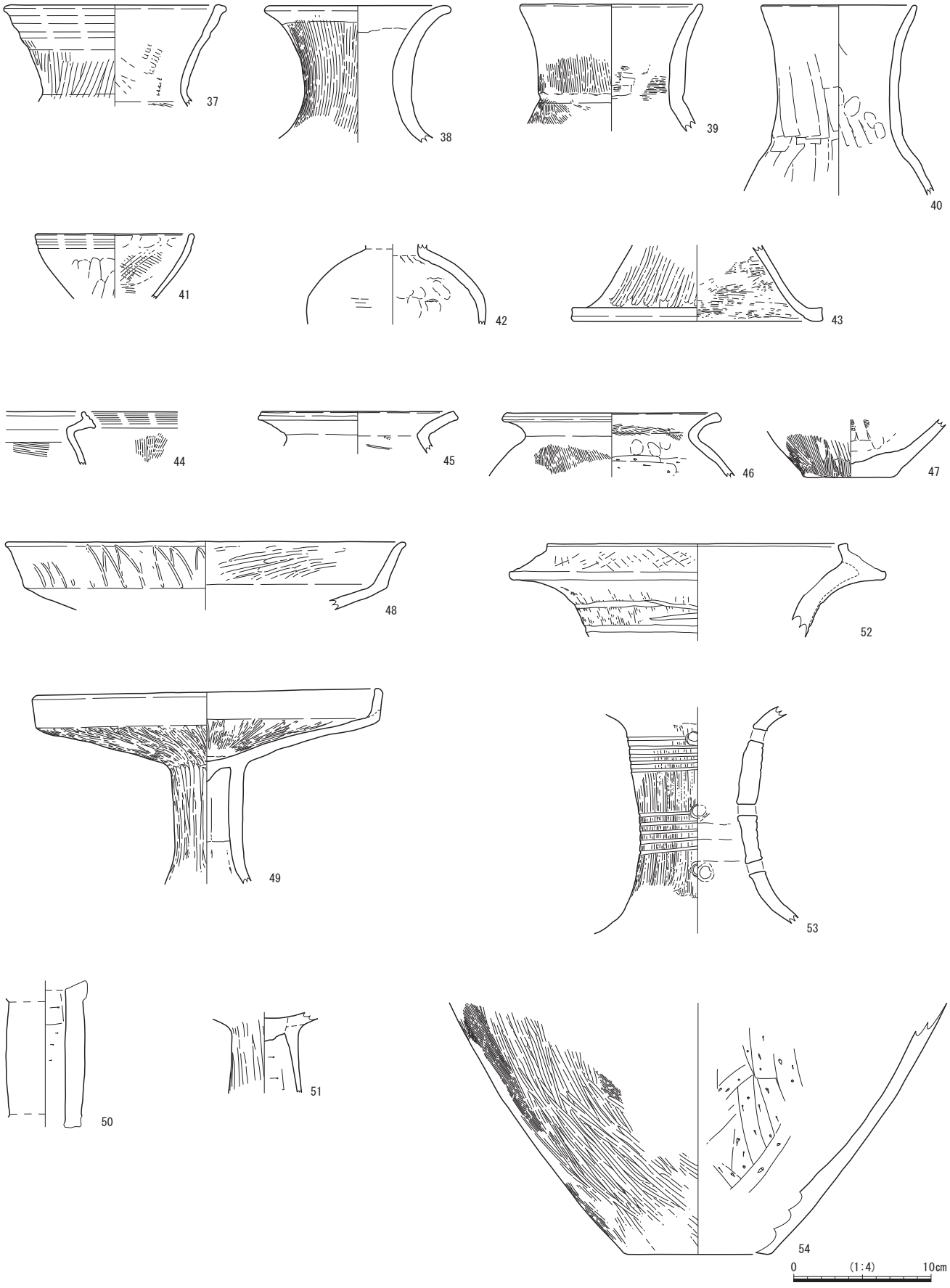


図19　3次11-3区下層SD01出土遺物①

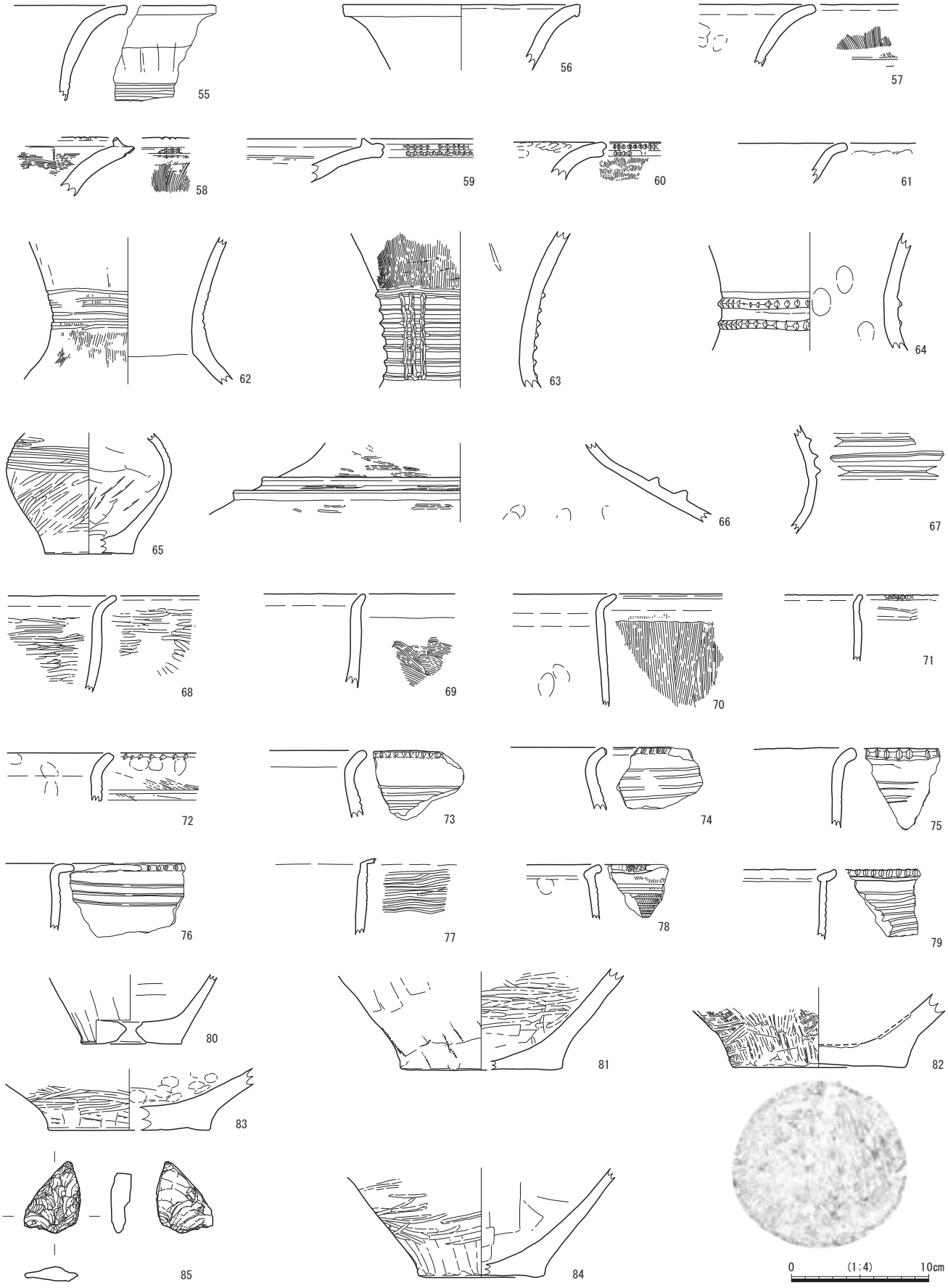
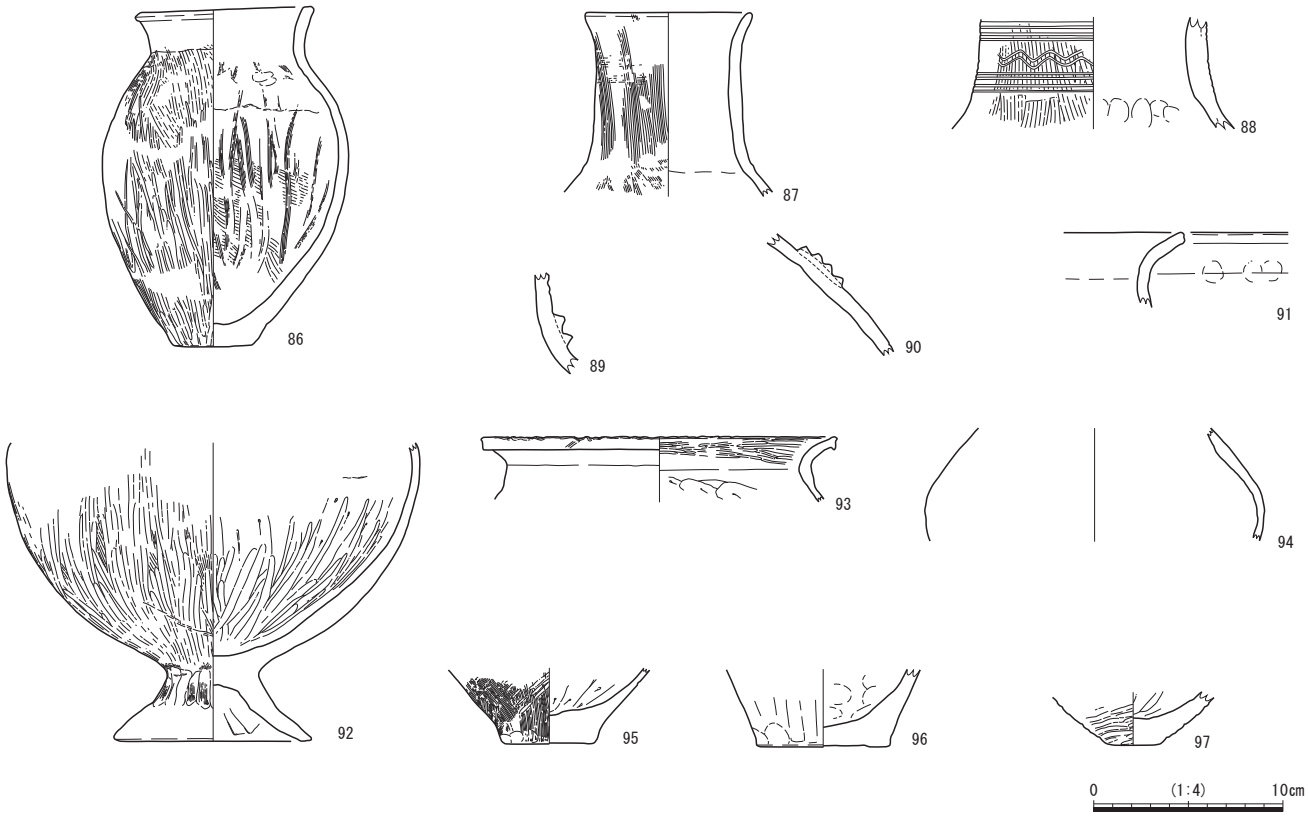


図20　3次11-3区下層SD01出土遺物②

4 次 22 区 SD01



22 次 2 区 SD02

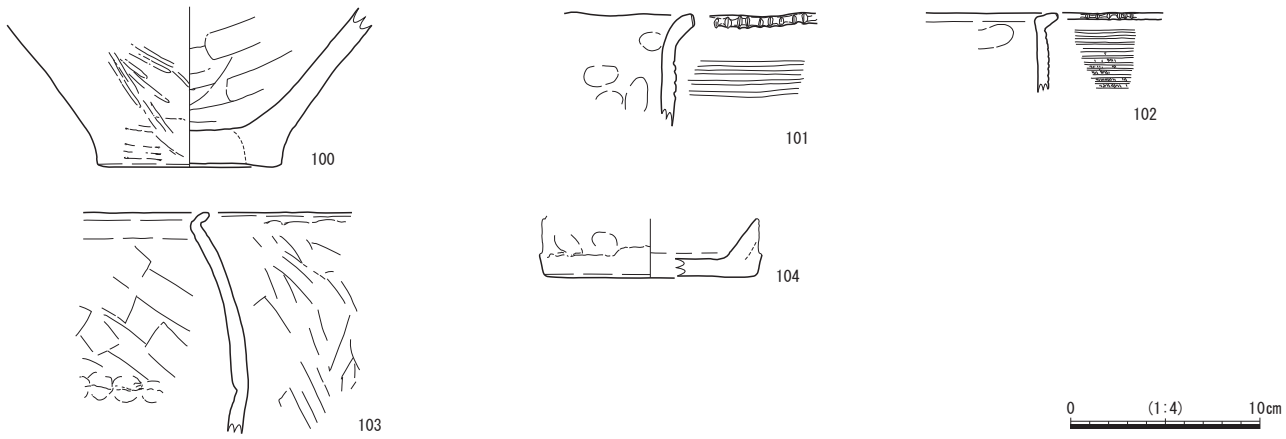


図21　4次22区SD01、22次2区SD02出土遺物

Ⅲ－１－３　中央部・南西部の検出遺構

検出した遺構は、溝、土坑４基である。溝は幾筋にも分岐するが、大きく北西から南東に流れるものと北東から南西に流れるものの２条にまとめることができる。図22に示した北西から南東への流れを溝６とし、図25に示した北東から南西への流れを溝７とする。

溝6
(図22)

16次４区ＳＤ01－16次３区ＳＤ01－５次25-３区ＳＤ01・ＳＤ02－５次24-４区下層ＳＤ01・ＳＤ02、４次24-３区ＳＤ03・ＳＤ07－４次23区ＳＤ09・ＳＤ10、５次23-１区ＳＤ02・ＳＤ04、11次10区ＳＤ01である。北西部で検出した溝５もしくは北東部から延びる溝１の延長、あるいは溝１と５が合流したものの可能性が考えられる。16次４区ＳＤ01～５次23-１区ＳＤ02までの直線距離は156ｍを測る。

16次4区 SD01
(写真図版53)

溝の西肩部分のみ検出した。肩は出入りが激しく蛇行する。検出規模で南北16.8ｍ、東西3.2ｍ、深さは最大で70㎝を測る。

5次25-3区 SD01
(図22･23)
(写真図版45)

５次25-３区ＳＤ02を切る。検出規模で延長約22ｍ、幅5.4ｍ、深さは最大で65㎝を測る。ＳＤ02はＳＤ01から分岐した可能性もあるが、検出状況では切り合い関係にある。検出規模は延長約21ｍ、幅１ｍ、深さは最大で10㎝と、相対的に浅い。ＳＤ01の出土遺物は細片が多い。下層から105～107・123が、上・中層から108～122が出土した。105・106は広口壺、107は外反口縁甕で、無文である。109～111は長頸壺、108・112は甕で、108は口縁端部がわずかに下方へ拡張する。112は口縁部に２条の凹線を施す。113は甕底部。114は直口鉢の底部か。115は長頸壺の底部であろう。116・117は甕底部で、116は外面タタキ、117は内面にハケが認められる。118は有稜高杯、119～122は高杯脚部である。123はＳＤ01の河道底から出土した角錐状石器である。平面形は先端が尖り、概ね左右対称の形状を呈す。横長剝片を素材とし、腹面は石理の影響を大きく受け中央付近で段が生じている。調整は全て腹面側から行われている。先端部は断面三角形になるように意識的に大きな単位の加撃によって稜を作り出す。基部は石材の形状を変えるほどの加撃を加えず断面形は台形に仕上げている。側縁は細部調整により形状を整えている。近接する池ノ下遺跡においても二側縁加工のナイフ形石器が出土している（兵庫県教委2012）。埋没段丘の存在等は明らかになっていないが、調査地周辺に旧石器時代の遺跡が存在する可能性は高い。

16次3区 SD01
(図22･24)
(写真図版52)

５次25-３区ＳＤ01の北側に位置する。検出規模で延長14.4ｍ、幅は５ｍ、深さは遺構検出面から20㎝を測る。弥生時代後期と古墳時代後期の遺物が出土したが、出土層位等に明確な差は認められなかった。124～128は須恵器杯蓋及び杯身である。129と130は同一場所から出土した甕である。未接合であるが、同一個体の可能性が高い。130はタタキ後にミガキを行っている。131は長頸壺で、肩部に線刻が認められる。132はサヌカイト製の凸基式石鏃である。

5次24-4区 下層SD01
(図22)
(写真図版40)

５次25-３区の延長とみられる。南側は５次24-４区ＳＤ01に切られる。溝の上面で中世の遺構を数多く検出した。検出規模は延長約16.6ｍ、幅2.9ｍ、深さは最大で75㎝を測る。埋土は一部に粘土を含むが、主として砂質である。遺物は上層に中世土器を含んでいたが混入であろう。ＳＤ01に伴う遺物は主として下層の砂から出土した。133は広口壺の口縁部である。口縁部内面に突帯を貼り付け加飾する。一部は流水文か。口縁端部には刻み目を施す。134は外反口縁の甕で口縁端部に刻み目、口縁下に４条の沈線を施す。135は甕底部である。

5次24-4区 下層SD02
(図22･24)
(写真図版40)

下層ＳＤ01の南を平行して流れる。５次25-３区ＳＤ01が分流したものか。検出規模で延長9.1ｍ、幅2.2ｍ、深さは最大で76㎝を測る。埋土は砂を主体とし、規模・埋土とも下層ＳＤ01と類似する。下層ＳＤ02を検出した範囲は中世の遺構が希薄であったため、埋土に中世の遺物を含んでいない。遺物は主として上層から出土した。136は壺肩部で、断面三角突帯を貼り付ける。137は壺の頸部と見られ、３条の突帯が認められる。138はサヌカイト製の凹基式石鏃である。

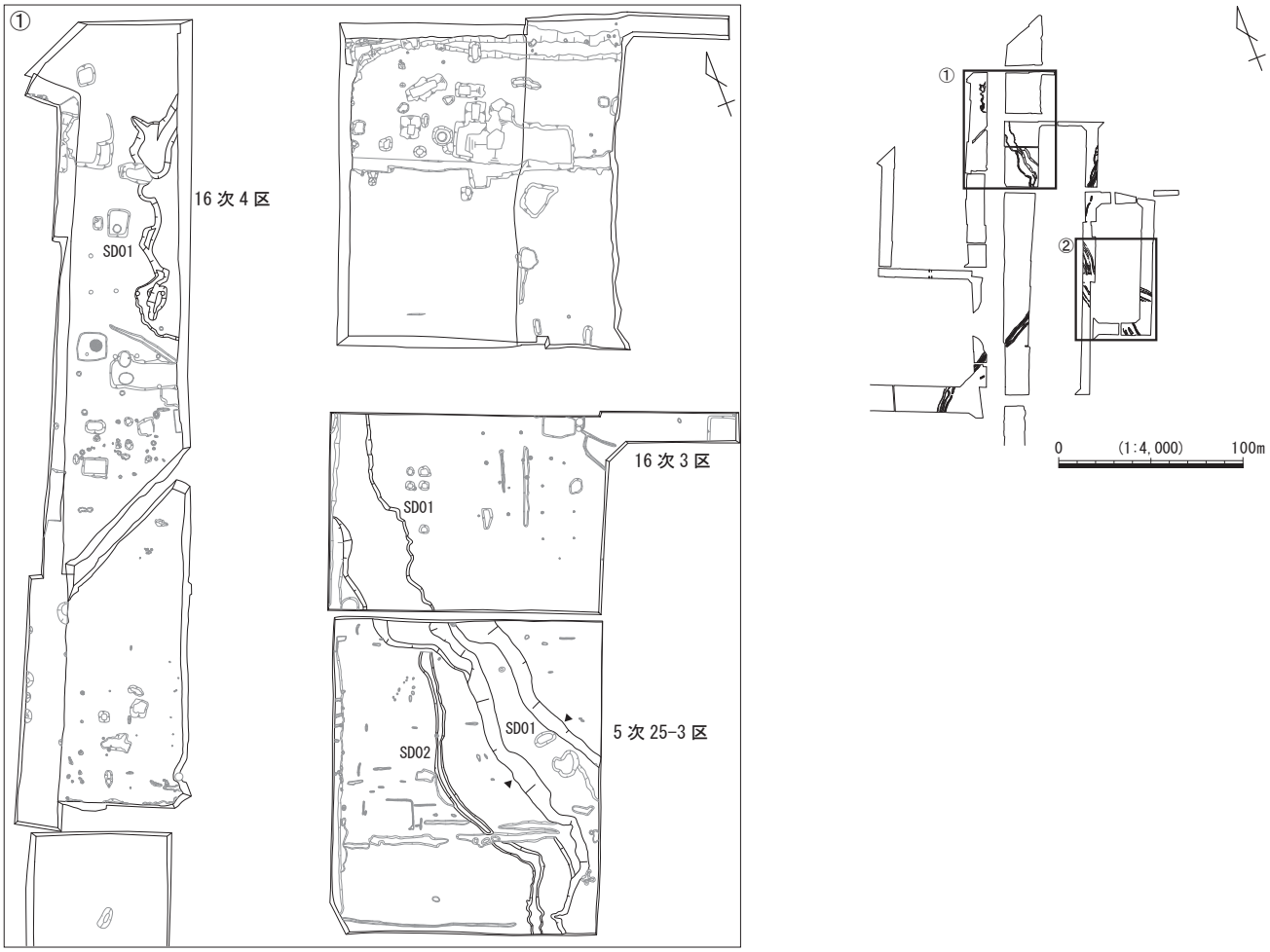
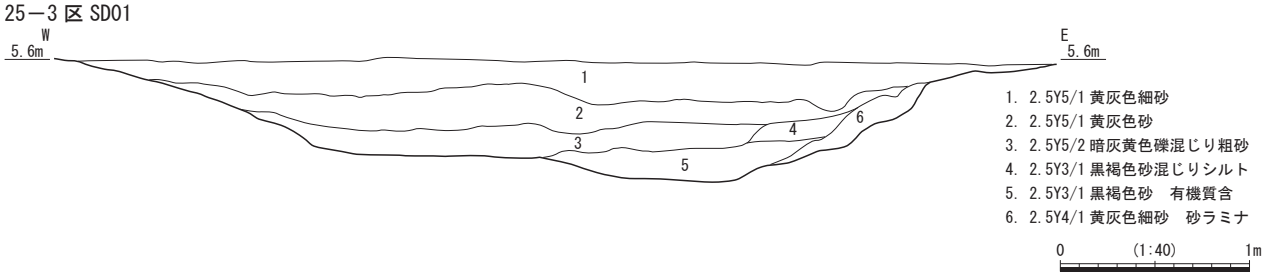


図22　中央部遺構平面図

5次25－3区SD01



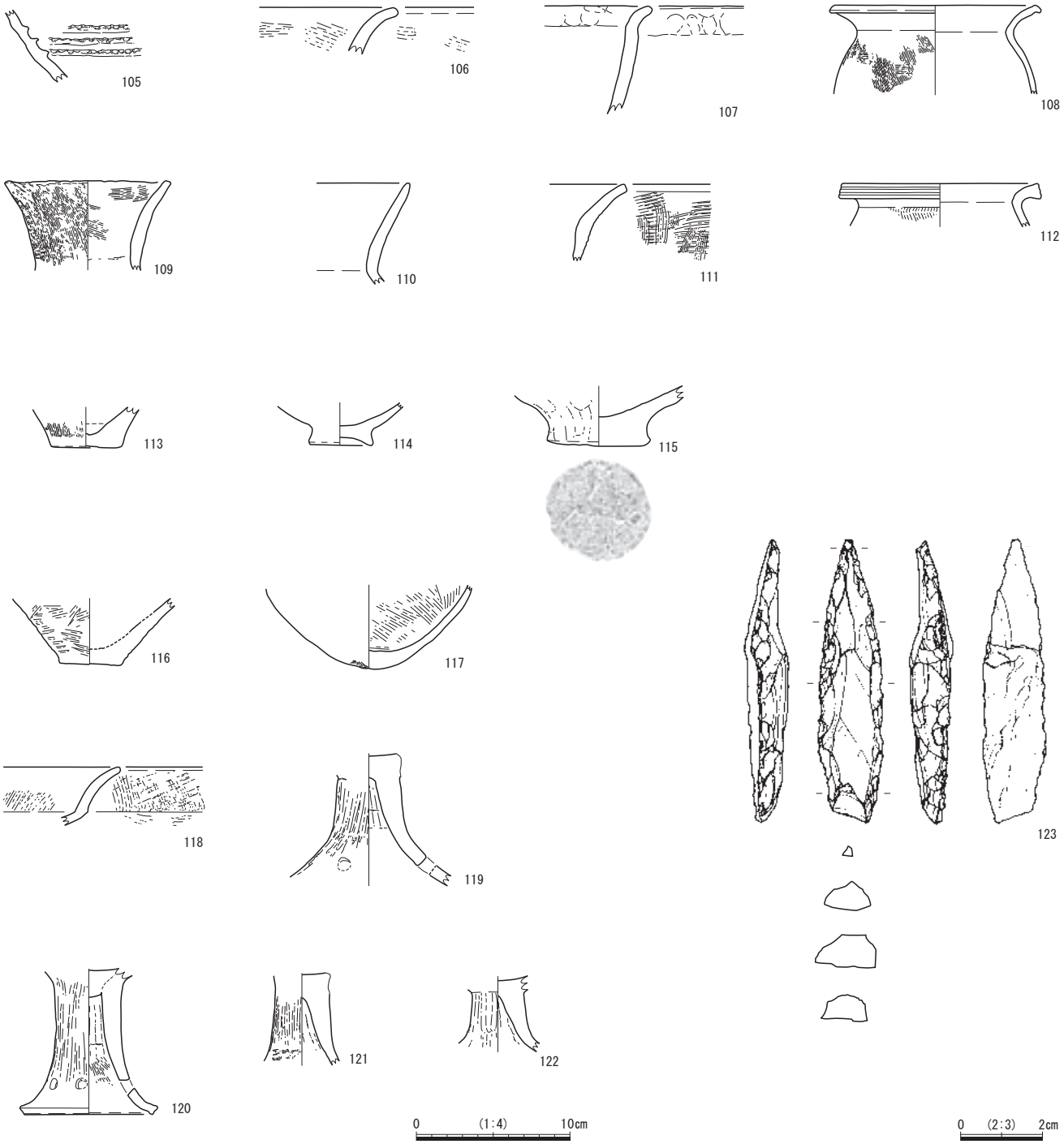
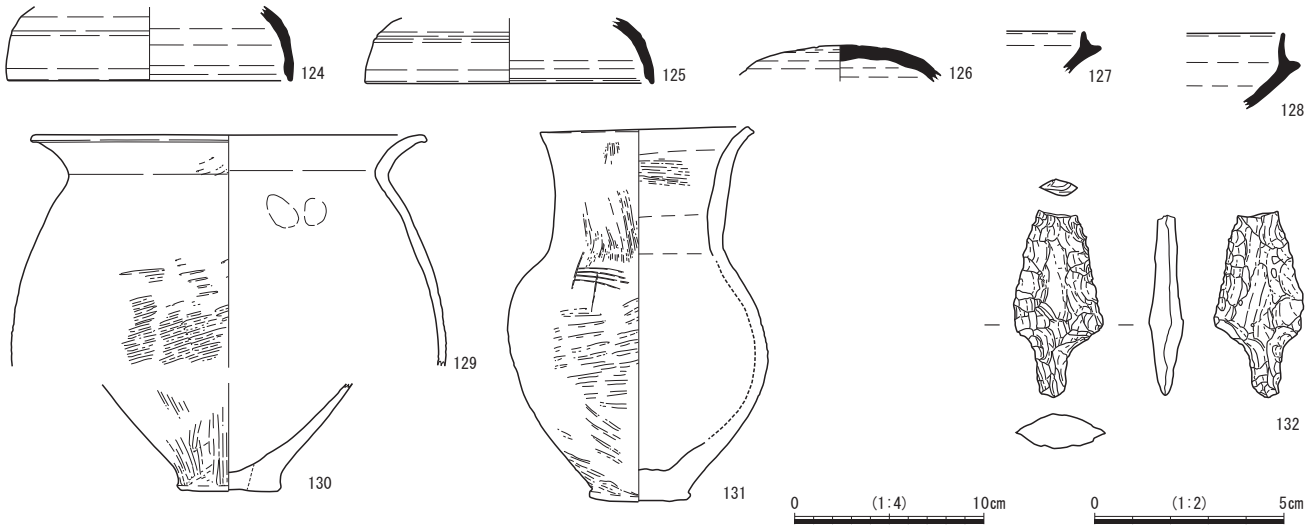
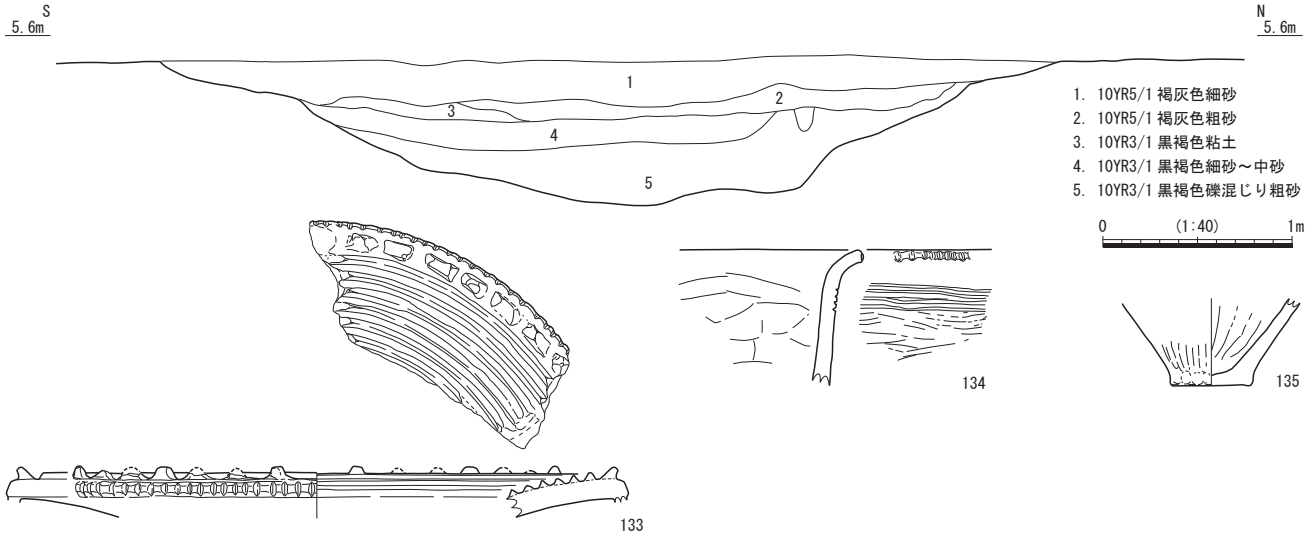


図23　5次25-3区SD01断面図【図22】、出土遺物

16 次 3 区 SD01



5 次 24−4 区下層 SD01 【図 22】



5 次 24−4 区下層 SD02 【図 22】

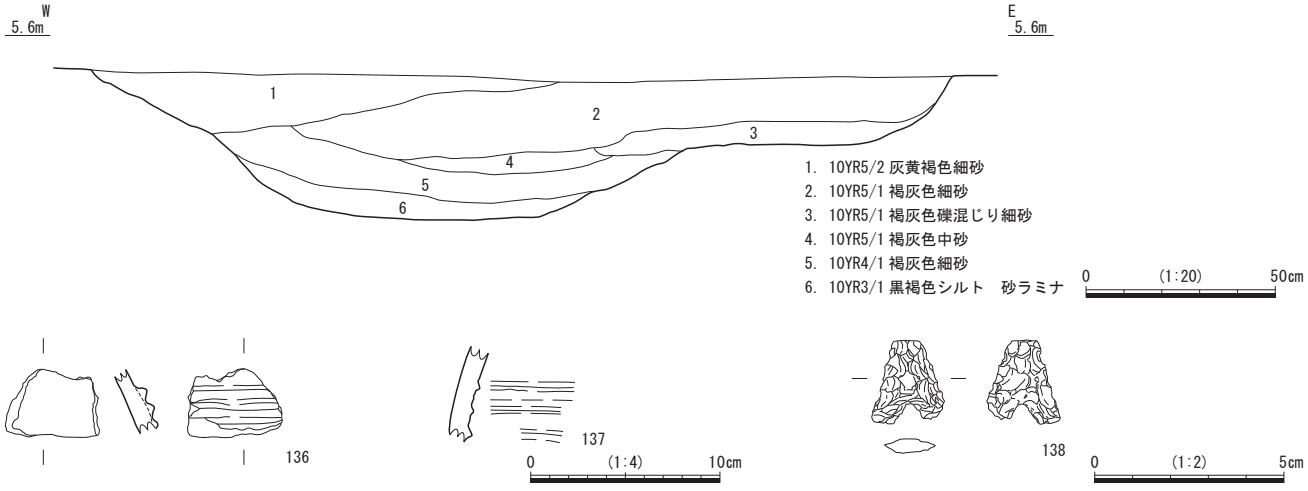


図24 16次3区SD01、5次24-4区下層SD01、下層SD02断面図、出土遺物

8次40区 SK01
(図25･26)
(写真図版77)

遺構検出面は黒褐色シルトである。遺構埋土はわずかに明るく平面プランを確認できた。平面形は長円形を呈し、長軸2.67m、短軸70㎝、深さは遺構検出面から20㎝を測る。遺構の主軸はN10° Wに直交する。土坑の短軸の断面はやや深い皿状を呈すが、長軸方向の底面は凸凹があり、一定していない。埋土は大きく２層に分かれ、上層は礫の混じるシルト、下層は礫を含まないシルトである。遺物は土坑底からやや浮いた状態で広口壺139・140、外反口縁甕141が出土した。141は口縁端部に刻み目を有し、体部上半に３条の沈線が巡る。140は頸部に沈線、139は肩部に貼り付け突帯が巡る。土坑の性格は判然としないが、３次11-２区下層SK01と同様、墓の可能性を考えておきたい。中期初頭に位置づけられる。

4次24-2区 SK04
(図25･26)
(写真図版37)

中世の区画溝である４次24－２区SD02の底部で検出した。区画溝により上部を削平されていることから、土坑底が辛うじて残った状態である。平面は概ね円形を呈し、長軸は64㎝、短軸は60㎝を測る。検出面は中世の遺構面と同一であることから、本来の深さは35㎝程度に復元できる。削平を受けた状態ではあったが、遺物は土坑底からまとまって出土した。142は広口長頸壺で頸部に２条の沈線が確認できる。143・144は広口壺の肩部で貼り付け凸帯を巡らせ、指圧痕により加飾する。145は外反口縁の甕で、上半部と下半部は同一個体と思われるが接点しない。口縁端部に刻み目を有し、体部は無文である。中期初頭に位置づけられる。

4次24-1区 SK07
(図25･27)
(写真図版36)

調査区の北端で検出した。４次24-１区SD03を切る。平面形は隅丸長方形を呈し、南北1.6m、東西1.3m、深さは遺構検出面から15㎝を測る。遺物は埋土中から押しつぶされた状態で土師器甕150が出土した。口縁部から底部まで完形に復元できた。150は外方へ直線的に延びる口縁部を持ち、丸底で胴部は球形を呈しタタキ後ハケを施す。

1次2区SK08
(図25)
(写真図版75)

調査区の西部で検出した。平面形はやや歪な方形を呈し、平面規模は長辺1.6m、短辺1.4m、深さは遺構検出面から13㎝を測る。埋土は単層で掘方もあまり明確でないが、埋土中から157～165が出土した。157・158は高杯脚部で、159・160は外面に平行タタキを施す甕である。161は口縁部が上方に屈曲する甕、162～165は甕底部である。後期後半に位置づけられる。

溝7
(図25)

北から順に４次24-１区SD01・SD03－４次24-２区SD03－５次25-２区SD03・SD04－８次40区SD01・SD02－１次１区SX01からなる溝である。４次24-１区SD03と４次24-２区SD03は一連のものと考えられるが、南側へのつながりは明らかでない。４次24-１区SD01は５次25-２区に延びると推測されるが、SD03・SD04のいずれの溝とつながるのか、あるいは分流するのか不明である。４次24-２区SD01から１次１区SX01までの直線距離は約156mを測る。

4次24-1区 SD01
(図25･27)
(写真図版36)

SD03を切る溝である。検出規模で延長15m、幅2.6m、深さは最大で40㎝を測る。遺物の出土は少なく、146・147のみ図示しえた。146は弥生土器壺底部、147は甕底部であろう。

4次24-1区 SD03
(図25･27)
(写真図版36)

５次24-５区の南東隅から24-２区にかけて蛇行して流れ、４次24-１区SK07、SD01に切られる。検出規模は直線で延長39m、幅は最大で60㎝、深さは最大で15㎝を測る。遺物は148・149を図示した。148は壺底部、内外面とも摩滅し調整は不明である。149はサヌカイト製の平基式石鏃である。

5次25-2区 SD03･SD04
(図25･27)
(写真図版45)

平行して検出した２条の溝である。検出規模はSD03が延長約20m、幅1.9m、深さは最大で55㎝を測る。SD04は延長約18m、幅1.24m、深さは最大で19㎝を測る。遺物は全てSD03から出土した。151～153は甕底部、154は花崗岩製の石錘である。155は壺底部、156は甕底部である。

8次40区 SD01･SD02
(図25･28)
(写真図版77)

５次25-２区SD03･SD04の延長にあたる。途中に未調査部分を挟むが、延長はいずれも約10m、幅はSD01がやや広く1.7mを測る。深さは最大でSD01が30㎝、SD02が22㎝を測る。SD02から遺物の出土は少なく169のみ図化した。他は全てSD01から出土した。166・167は壺底部、168は甕、169は高杯脚部である。170・171はサヌカイトの剝片である。

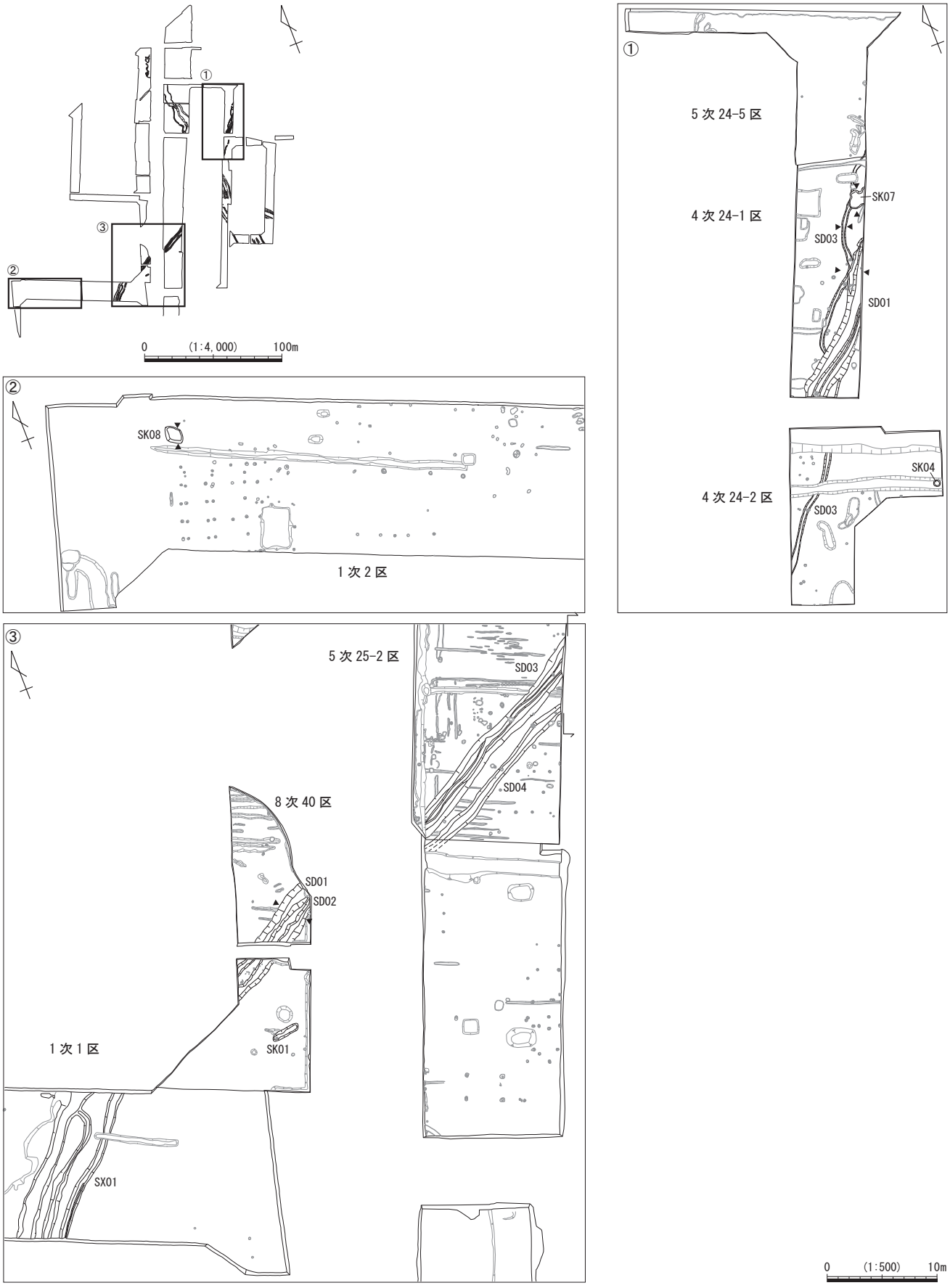
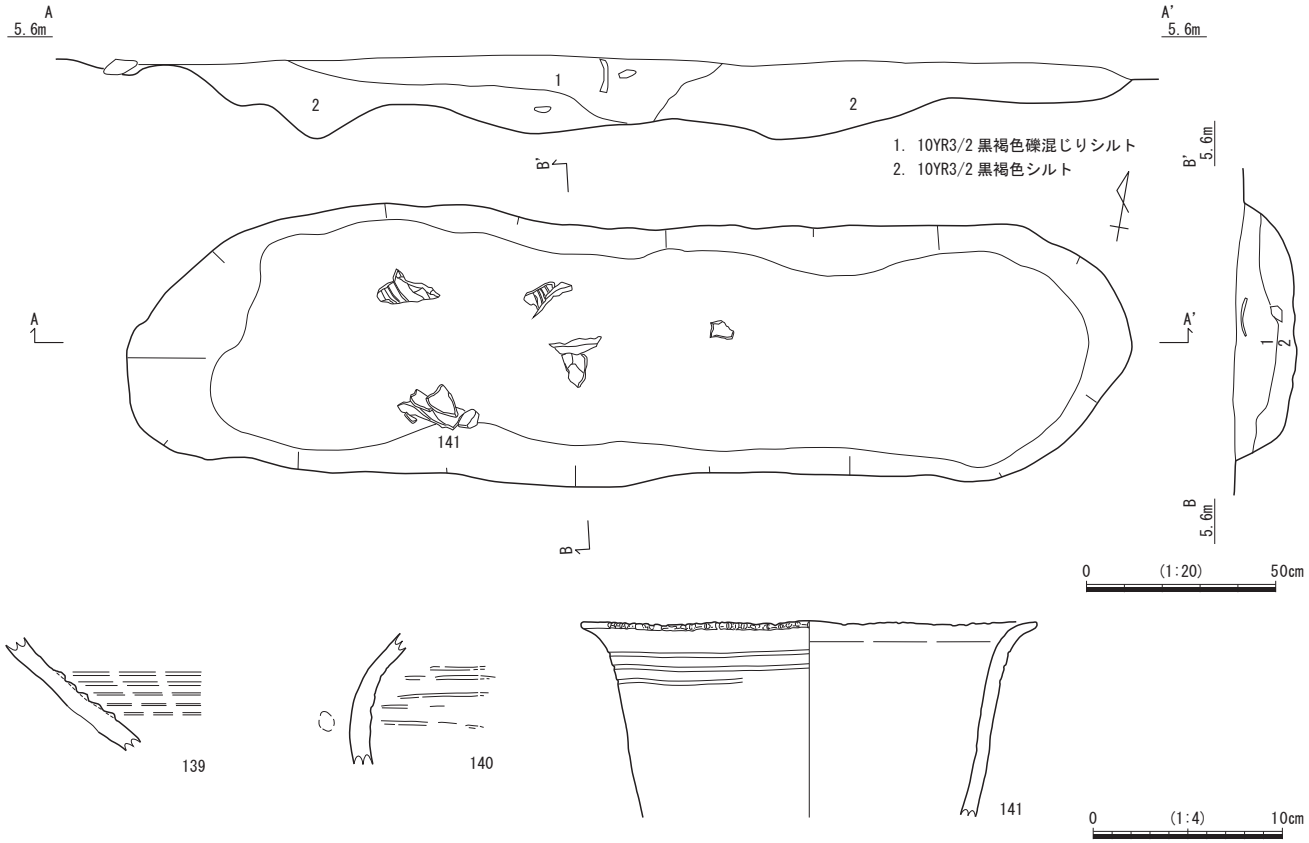


図25　中央部・南西部遺構平面図

8 次 40 区 SK01



4 次 24-2 区 SK04

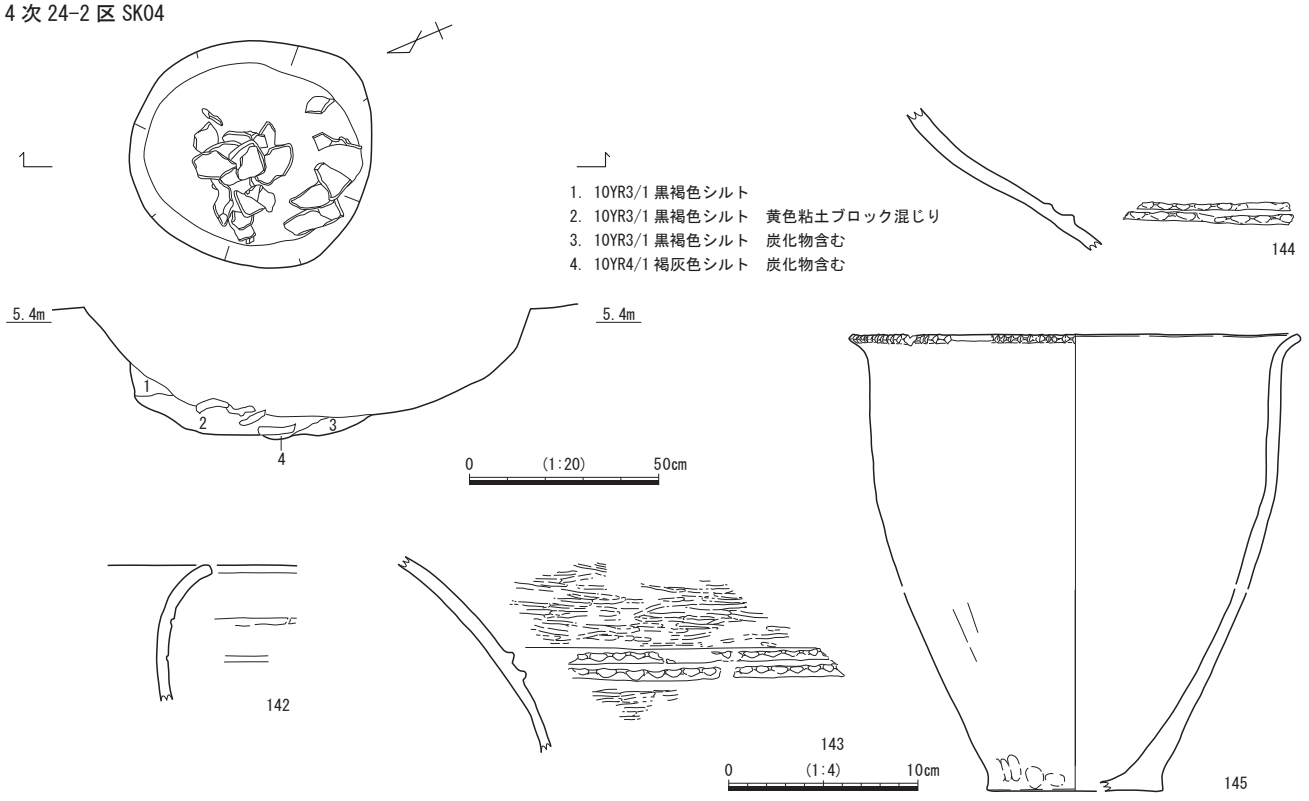
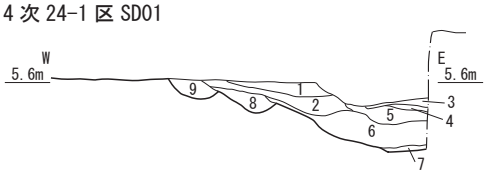


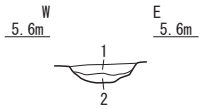
図26　8次40区SK01、4次24-2区SK04断面図、出土遺物

4次24-1区SD01

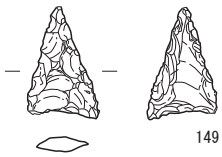


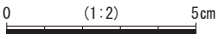
1. 10YR5/1 褐灰色中砂－細砂
2. 10YR5/1 褐灰色中砂
3. 10YR4/1 褐灰色細砂
4. 10YR3/1 黒褐色細砂
5. 10YR4/1 褐灰色細砂
6. 2.5Y4/1 黄灰色礫混じり中砂
7. 10YR3/1 黒褐色礫混じり粘土
8. 10YR4/1 褐灰色細砂
9. 10YR4/1 褐灰色シルト混じり細砂

4次24-1区SD03

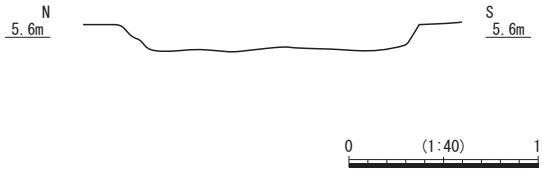


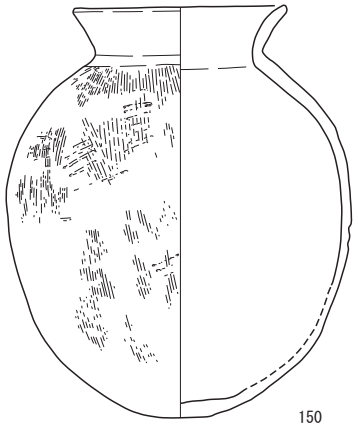
1. 10YR3/1 黒褐色シルト
2. 10YR4/2 灰黄褐色礫混じり細砂



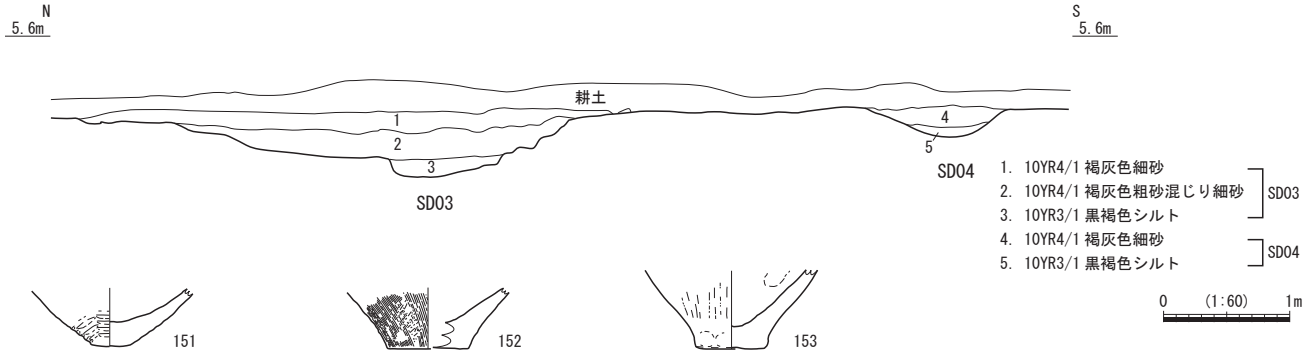


4次24-1区SK07

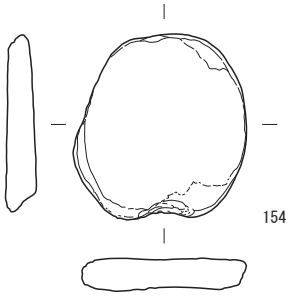


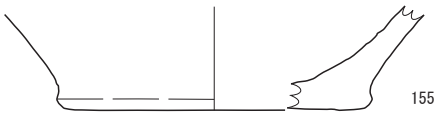


5次25-2区SD03・SD04



1. 10YR4/1 褐灰色細砂
2. 10YR4/1 褐灰色粗砂混じり細砂 SD03
3. 10YR3/1 黒褐色シルト
4. 10YR4/1 褐灰色細砂
5. 10YR3/1 黒褐色シルト SD04





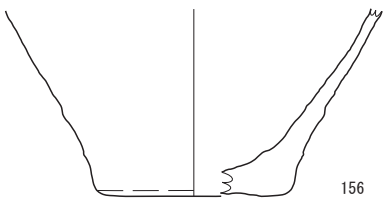
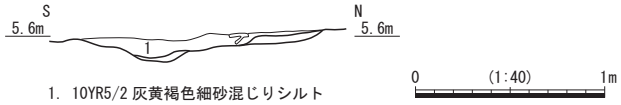
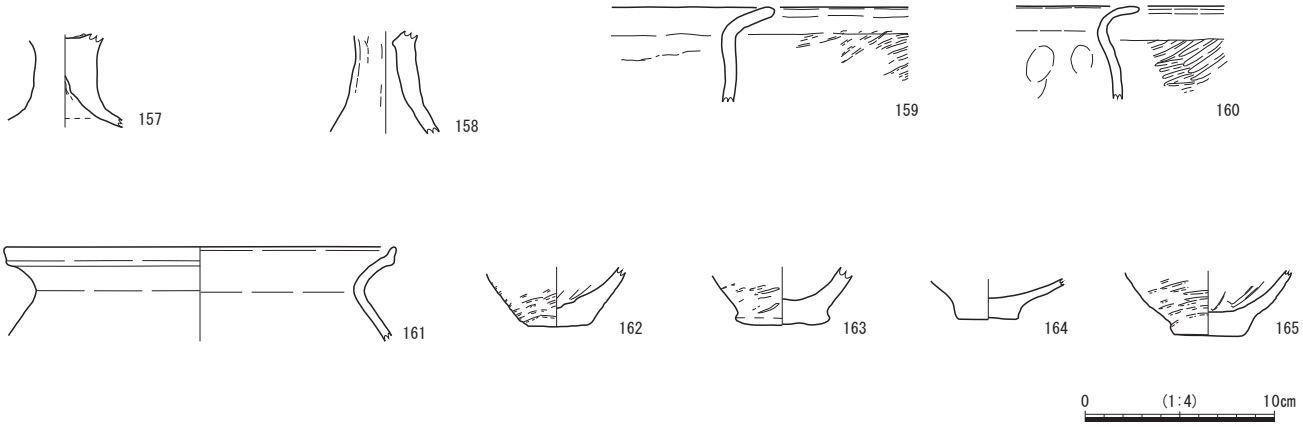


図27　4次24-1区SD01、SD03、SK07、5次25-2区SD03・SD04断面図【図25】、出土遺物

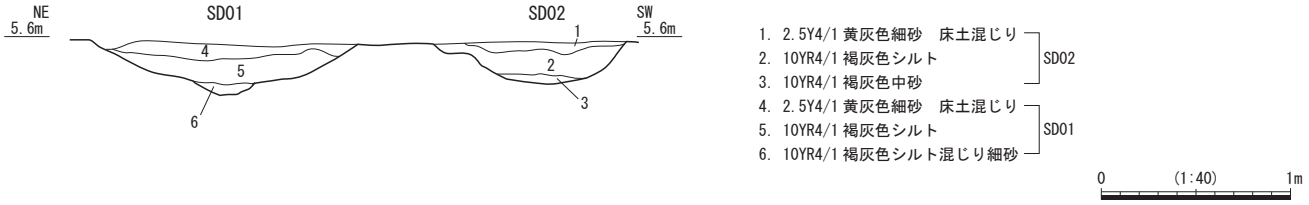
1 次 2 区 SK08



1. 10YR5/2 灰黄褐色細砂混じりシルト



8 次 40 区 SD01・SD02



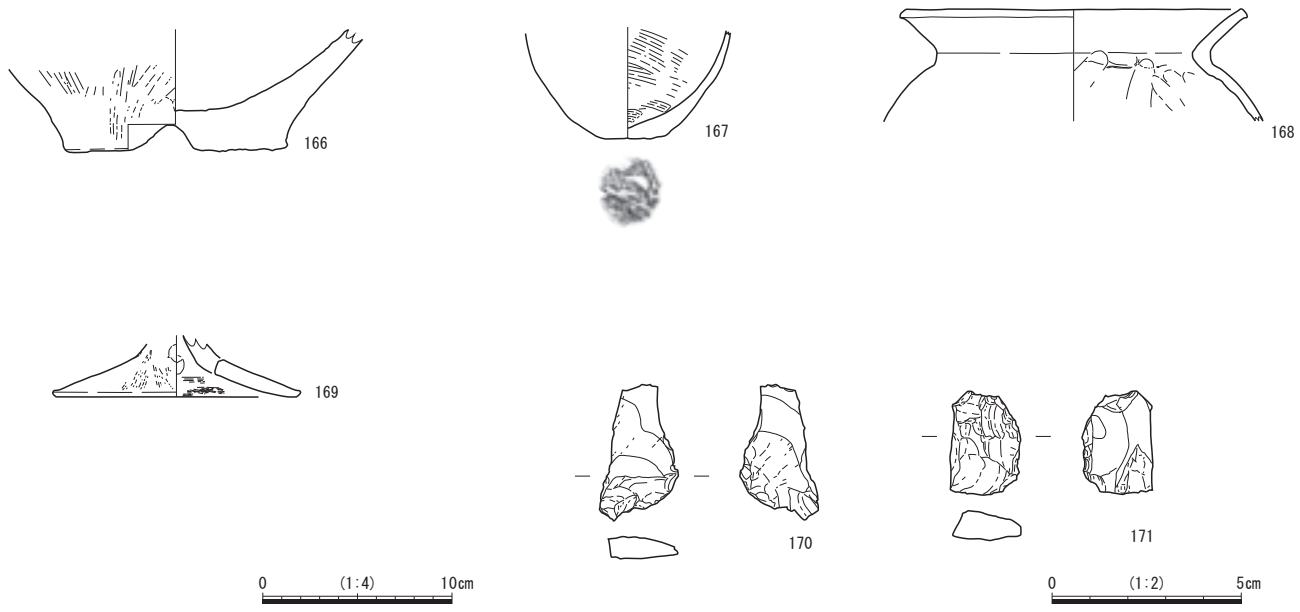


図28　1次2区SK08、8次40区SD01・SD02断面図【図25】、出土遺物

Ⅲ－１－４　南東部の検出遺構

溝を11条検出した。５次32区SD01を除き、全て北西から南東に流れる溝である。中央部で検出した溝６が分岐した可能性が高いが、遺物の出土も少なく対応関係の明確な把握は困難である。仮に一連のものとすると北西部で検出した３次11－３区下層SD01から５次27－２区SD04までは直線距離で約500ｍを測る。

5次26区 SD01
(図29･30)
(写真図版58)

検出規模で延長13.2m、幅1.62m、深さは最大で15㎝を測る。溝は直線的に延び、調査区の両端でわずかに曲がるように見えるが、調査区外に延びるため詳細は不明である。断面形は浅い皿状を呈し、埋土にわずかに遺物を含む。172は甕の底部、173は壺の底部であろう。

5次27-2区 SD03･SD04･SD05
(図29･30)
(写真図版59)

北西から南東にかけて流れる溝６の延長であろう。概ね３ｍの間隔で３条の溝を検出した。検出規模でSD03は延長4.26m、幅1.64m、深さは最大で28㎝を測る。SD04は延長9.1m、幅3.1m、深さは32㎝を測る。SD05は延長7.38m、幅2.54m、深さは20㎝を測る。溝の断面形はいずれも浅い皿状を呈すが、SD03がやや深い。埋土はSD03とSD04は共通し、SD05は黒褐色シルトを主体とし、やや異なる。遺物はSD05から出土した弥生土器の壺174のみ図化しえた。外面及び断面に被熱の痕跡が見られる。

5次30区 SD07･SD08
(図29･30)
(写真図版65)

５次30区では多くの溝を検出した。いずれも図示に耐えうる遺物の出土はなく、時期を含め詳細は不明である。SD07は検出規模で延長8.2m、幅2.86m、深さは遺構検出面から34㎝を測る。断面形は浅い皿状を呈し、溝底は凹凸が目立つ。遺物は全く出土していない。SD08は他の溝とは走行方向をやや異にし、SD07・SD10に切られる。検出規模は延長約18m、幅60㎝、深さは25㎝を測る。溝の埋土・規模等は４次24－１区SD03等と類似する。

5次30区 SD10
(図29･30)
(写真図版65)

SD07の北約11ｍの位置で検出した。中世の遺構に切られる。検出規模で延長12m、幅7.0m、深さは遺構検出面から44㎝を測る。溝の北側は３条に分離しているように見えたが、南側では１条となっていることから同一の溝とした。断面形は皿状を呈し、最下部は幅１ｍ～60㎝程で一段凹む。図示に耐えうる遺物の出土はなかった。

5次27-2区 SP13
(図29･31)

27－２区SD03の南約2.5ｍの位置で検出した。平面は円形を呈し直径32㎝、深さは遺構検出面から19㎝を測る。埋土内から正置の状態で弥生土器壺175が出土した。頸部の内面に三角突帯をＣ字状に貼り付けたのち、口縁部まで立ち上げる。頸部外面には三角突帯、沈線５条を施す。

遺構に伴わない遺物
(図31)

その他、調査区各所の中世遺構内と包含層等から遊離した状態で遺物が出土している。４次12区SD21からは弥生土器壺底部176が、４次21区SD01からはサヌカイトの剝片177が、４次23区SD03からは流紋岩製の石斧178が出土した。３次11－１区包含層から須恵器杯身179が、４次16区包含層から須恵器杯蓋180が、５次25－３区包含層から須恵器杯身181、４次23区SD03から須恵器器台182が、５次25－２区包含層から須恵器器台の脚部183が、16次８区SP04からは装飾須恵器の小壺184が出土した。２次８－２区SD02（図101）は条里地割に伴う南北方向の溝で、土師器185～188が溝底からまとまって出土した。古墳時代後期の円筒埴輪片が２次10－３区包含層、５次29区SD01、大浄口遺跡２－３区包含層から出土した。189～191はいずれも外面に下方から上方に向かってタテハケを施し、その上にタガを貼り付ける。遺跡の周辺の山塊には古墳の存在が知られているが、調査地周辺には存在しない。出土した埴輪はあまり摩滅していないことから、近辺に古墳の存在が予想される。『ふる里あらかわ』には玉手村に芦屋塚、友松ヶ石塚、九重塚（三つ塚）、千両塚が記され、千両塚は古墳ではないかと記されている（荒川郷土史編纂委員会1980）。これらが古墳である確証はないが、かつては調査地周辺の平野部に塚状の盛土が点在していたことがうかがえる。４次21区SD01からは奈良時代の須恵器稜椀蓋192、須恵器杯B193、須恵器甕194、16次７区包含層からは須恵器杯Ｂ195が出土した。

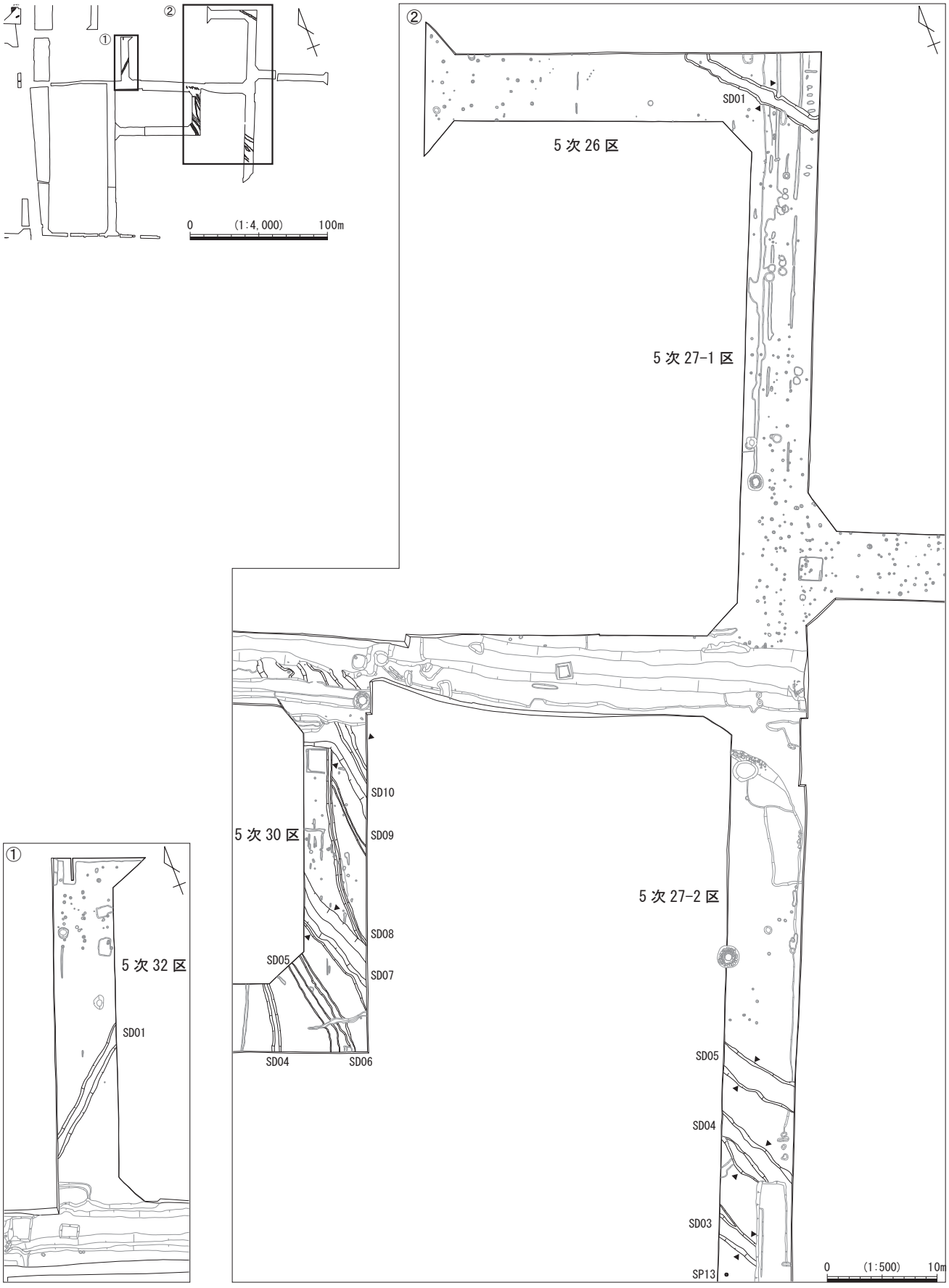
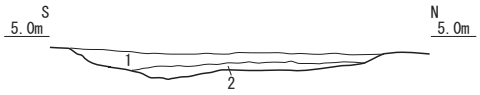
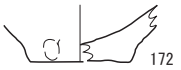


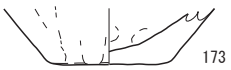
図29　南東部遺構平面図

5 次 26 区 SD01

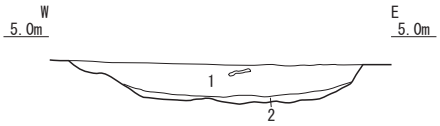


1. 10YR4/2 灰黄褐色細砂
2. 10YR4/2 灰黄褐色礫混じり細砂





5 次 27-2 区 SD03

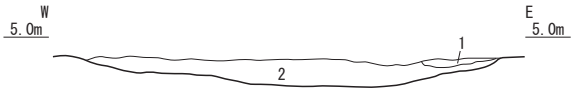


1. 10YR4/1 褐灰色細砂
2. 10YR4/1 褐灰色礫混じり細砂

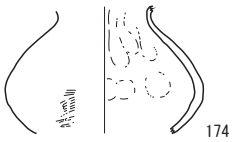
5 次 27-2 区 SD04

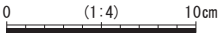
1. 10YR5/1 ～ 4/1 褐灰色シルト混じり細砂
2. 10YR4/1 褐灰色礫混じりシルト
3. 10YR5/2 灰黄褐色砂

5 次 27-2 区 SD05

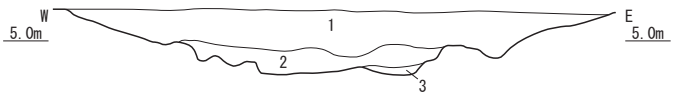


1. 10YR4/1 褐灰色シルト
2. 10YR3/1 黒褐色礫混じりシルト



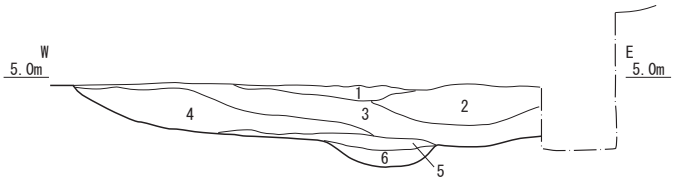


5 次 30 区 SD07



1. 10YR3/2 黒褐色シルト
2. 10YR3/1 黒褐色粗砂混じりシルト
3. 10YR3/2 黒褐色シルト

5 次 30 区 SD10



1. 10YR4/1 褐灰色細砂
2. 10YR4/1 褐灰色シルト
3. 10YR4/1 褐灰色細砂　礫混じり
4. 10YR3/1 黒褐色シルト
5. 10YR2/1 黒色礫混じり砂
6. 10YR2/1 黒色粗砂礫

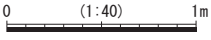
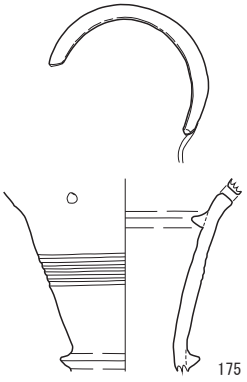
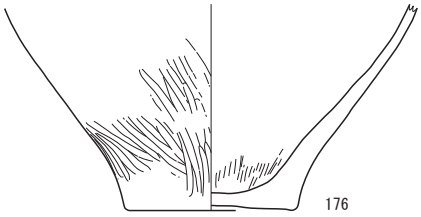


図30　5次26区SD01、27-2区SD03、SD04、SD05、30区SD07、SD10断面図【図29】、出土遺物

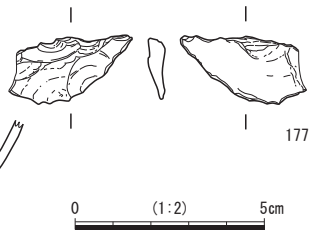
5 次 27-2 区 SP13



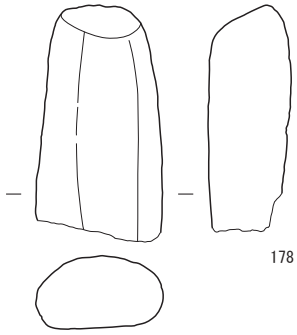
4 次 12 区 SD21



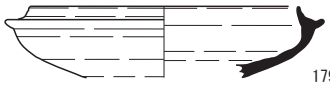
4 次 21 区 SD01



4 次 23 区 SD03

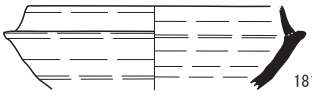


3 次 11-1 区包含層

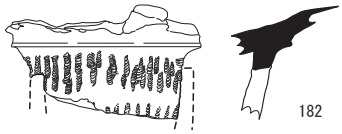


4 次 16 区包含層

5 次 25-3 区包含層

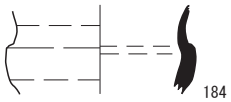


4 次 23 区 SD03



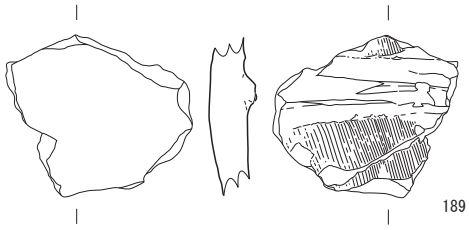
5 次 25-2 区包含層

16 次 8 区 SP04

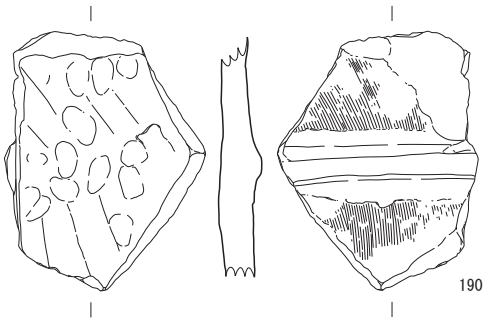


2 次 8-2 区 SD02 【図 101】

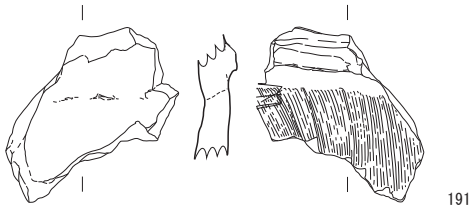
2 次 10-3 区包含層



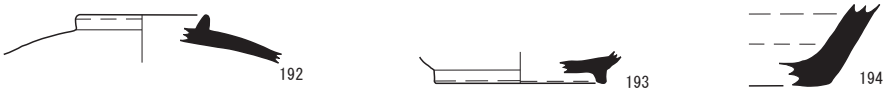
5 次 29 区 SD01



大浄口遺跡 2-3 区包含層



4 次 21 区 SD01



16 次 7 区包含層

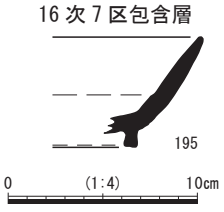


図31　遺構に伴わない遺物

Ⅲ－２　中世の遺構と遺物

Ⅲ－２－１　北東部の調査

調査地の北東部は姫路市町坪のうち小字「北ノ町」と「町田」にあたる。18次12区の北側が江戸時代の町坪村と岡田村の境で、条里地割の坊界にあたる。18次12区と重なる位置に流れていた東西方向の水路が「北町溝」である。９次４区の西で南に曲がり、４次13区SD02がその前身水路とみられる。４次16区と14次４区、４次12区と９次２区の間にあたる未調査部分には「どろどろ溝」という名の水路がある。「北町溝」から約１町南に位置し、ここが坪境にあたる。「どろどろ溝」を境に北側が字「北ノ町」で、南側は字「町田」である。10次11区SD01、22次１区SD01、14次４区SD01は「寺前水路」である。溝の全容は明らかでないが、この溝が南北方向の坪境にあたる。ただ、この水路は『ふる里あらかわ』には記載があり、調査でも溝の跡を確認したが、区画整理事業の実施前に作成された灌漑状況図に北東部を灌漑する水路とは描かれていない。しかし、南側の延長部分は玉手村を灌漑する「土居ノ内溝」とつながっていることから、町坪村を灌漑する水路でなかったのかもしれない。このように「寺前水路」の存在は疑いないが、ある時期に用水系統が改変されている可能性もある。「寺前水路」に沿って北東部と北西部の間を南北に走る道路は県道田寺・今在家線で、国道250号から国道２号まで、条里に沿って延びる姫路平野西部の主要幹線道路の一つである。そこから東へ約１町の位置で検出した４次12区SD10と４次13区SD06が坪境にあたると考えられる。発掘調査で検出した遺構と条里地割の坪境から北東部は三十四ノ坪と三十五ノ坪と南側の二十七ノ坪に該当している。

調査は2004年から開始し、2009年、2010年、2014年、2016年、2018年の６次にわたって断続的に実施した。検出した遺構は建物跡29棟、柵跡11条、井戸２基、墓２基、溝、土坑等である。これらの遺構はSB25とSB27を除いて条里地割に沿っている。坪境については前述したが、坪内は更にいくつかの遺構によって分割が可能である。東西方向に延びる４次12区SD15と４次14区SD02、４次16区SD01が半町の位置にあたる。未調査部分を含むことから断言はできないが、検出位置から連続する遺構と考えている。同じく南北方向に延びる４次15区SD01と９次２区SD02が南北方向の半町の位置に当たるとみられる。このように三十四ノ坪と三十五ノ坪は半町単位に区分することが可能である。

建物跡は調査区全域に面的に広がるのではなく、条里地割に沿った水路や溝に規制された状態で点在している。先の水路や溝を超えて広がる遺構は存在しない。調査区東部にあたる三十五ノ坪ではSB01・SB02の２棟と屋敷墓ST01、「北町溝」の前身と見られる４次13区SD03を、三十四ノ坪では南北方向の半町溝を挟んで東側でSB03・SB09～SB14の建物跡７棟とSA01、SE01・SE02の井戸２基を検出した。西側ではSB15～SB27の13棟とSA03～SA05の柵３条を検出した。このうちSB25とSB27は条里地割に対して主軸を東側へ大きく振っている。二十七ノ坪からはSB04～SB08、SB28・SB29の７棟、SA06～SA11の柵６条、屋敷墓ST02を検出した。

建物跡は切り合い関係がほぼなく、位置をわずかにズラす建物跡は建て替えによるものと推測されるが、柱穴の直接の切り合いがないため、その新旧ははっきりとしない。井戸はSE01がSB03と、SE02がSB10・SB11と関連すると思われる。屋敷墓はST01がSB01・SB02と、ST02がSB04～SB08と関連すると思われる。土坑は建物跡の周辺で検出され、建物と距離をあけて単独で存在するものはない。建物群と建物群の間には空閑地が広がる。検出時には、耕作痕跡かとみられる筋状の凹みが散見される場所もあった。ただ、遺構検出面が現在の耕作土の直下であり、埋土も耕作土と同質であったため、遺構として積極的に認識はしていない。

時期を特定できる遺構は大きくⅣ期とⅤ期にわかれる。Ⅴ期は水路が該当し、建物跡と柵跡については、時期の判明する遺物の出土が少なく明確に特定できない。包含層出土遺物はⅣ期のものが大半を占めることから概ねⅣ期頃と想定する。検出状況から屋敷地は概ね半町四方で、その内部の一方に偏って複数の建物、井戸、屋敷墓等が配置される。遺構の検出されていない空閑地が生産域であったと考えられる。

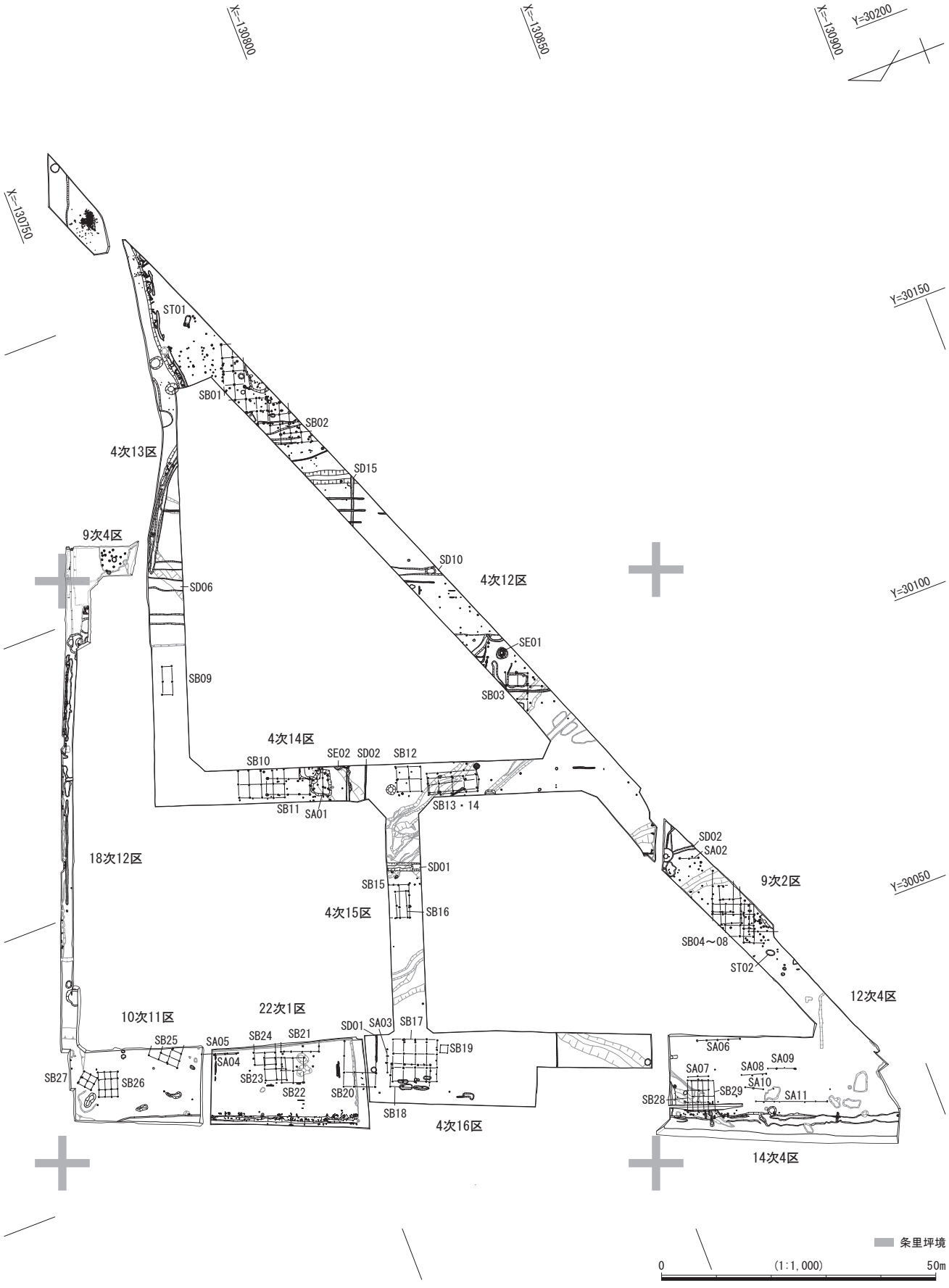

X=130600
X=130650
X=130900
Y=30200
X=130750
Y=30150
Y=30100
Y=30050
ST01
SB01
SB02
SD15
4次13区
9次4区
SD10
4次12区
SD06
SE01
SB09
SB03
4次14区
SB10
SE02
SD02
SB12
SB11
SA01
SB13・14
SD02
SA02
18次12区
SD01
SB15
9次2区
4次15区
SB16
SB04～08
ST02
12次4区
10次11区
22次1区
SD01
SA03
SB17
SB25
SA05
SB24
SB21
SB19
SA06
SA04
SB23
SA07
SA08
SA09
SB27
SB26
SB22
SB20
SA10
SB28
SB29
SA11
SB18
4次16区
14次4区
条里坪境
0
(1:1,000)
50m

図32　北東部平面図

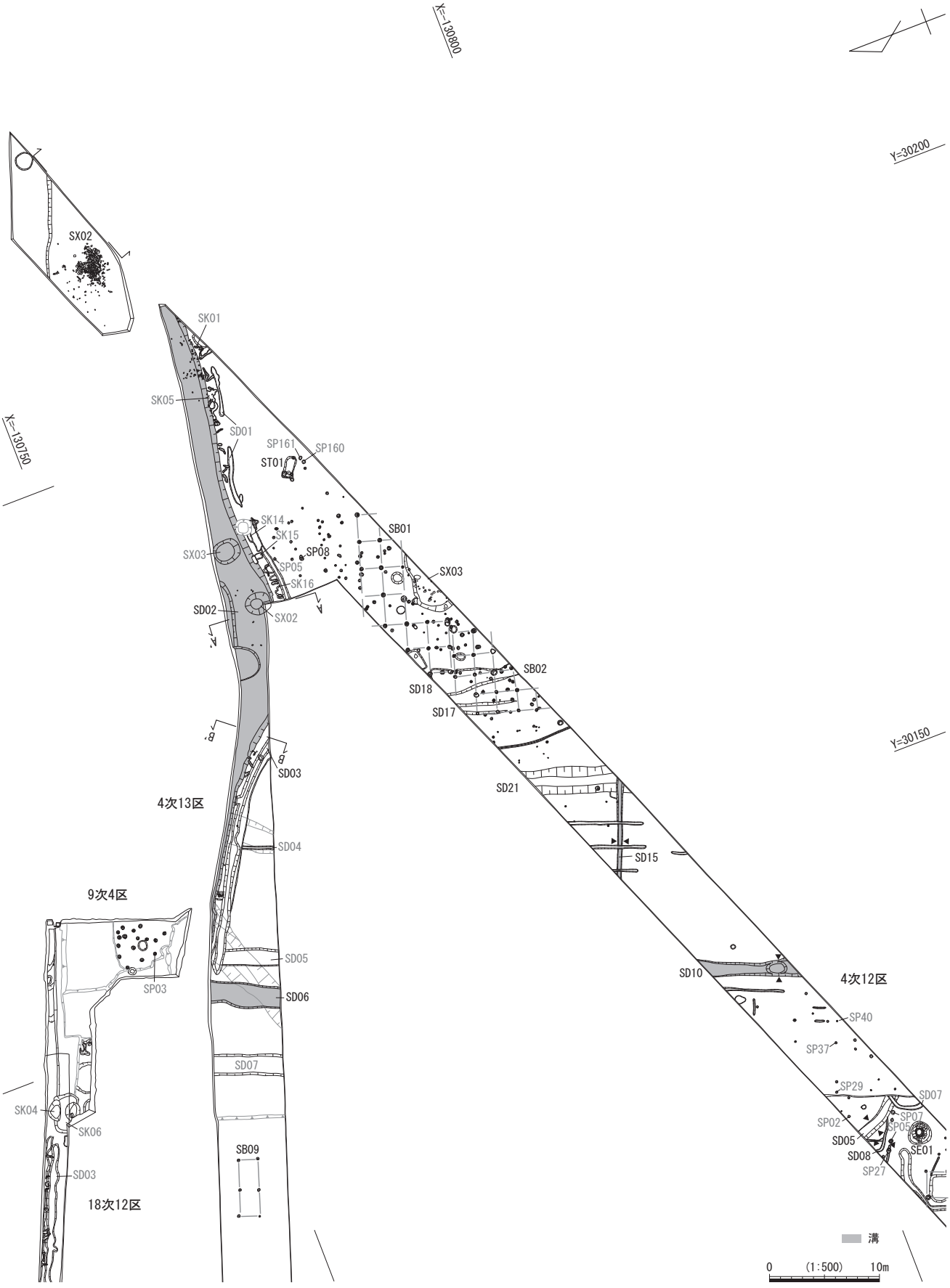


図33　北東部遺構平面図①

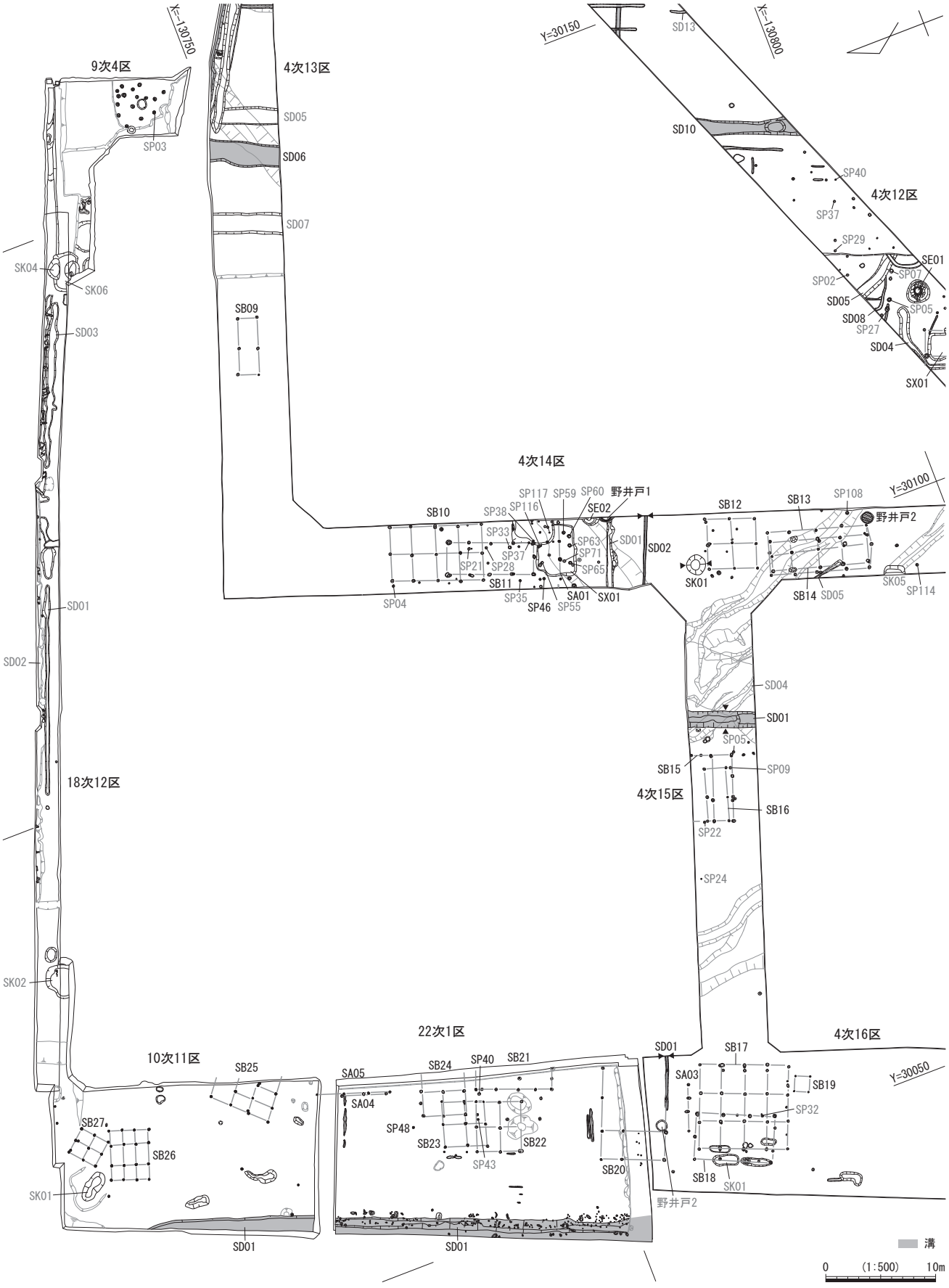


図34　北東部遺構平面図②

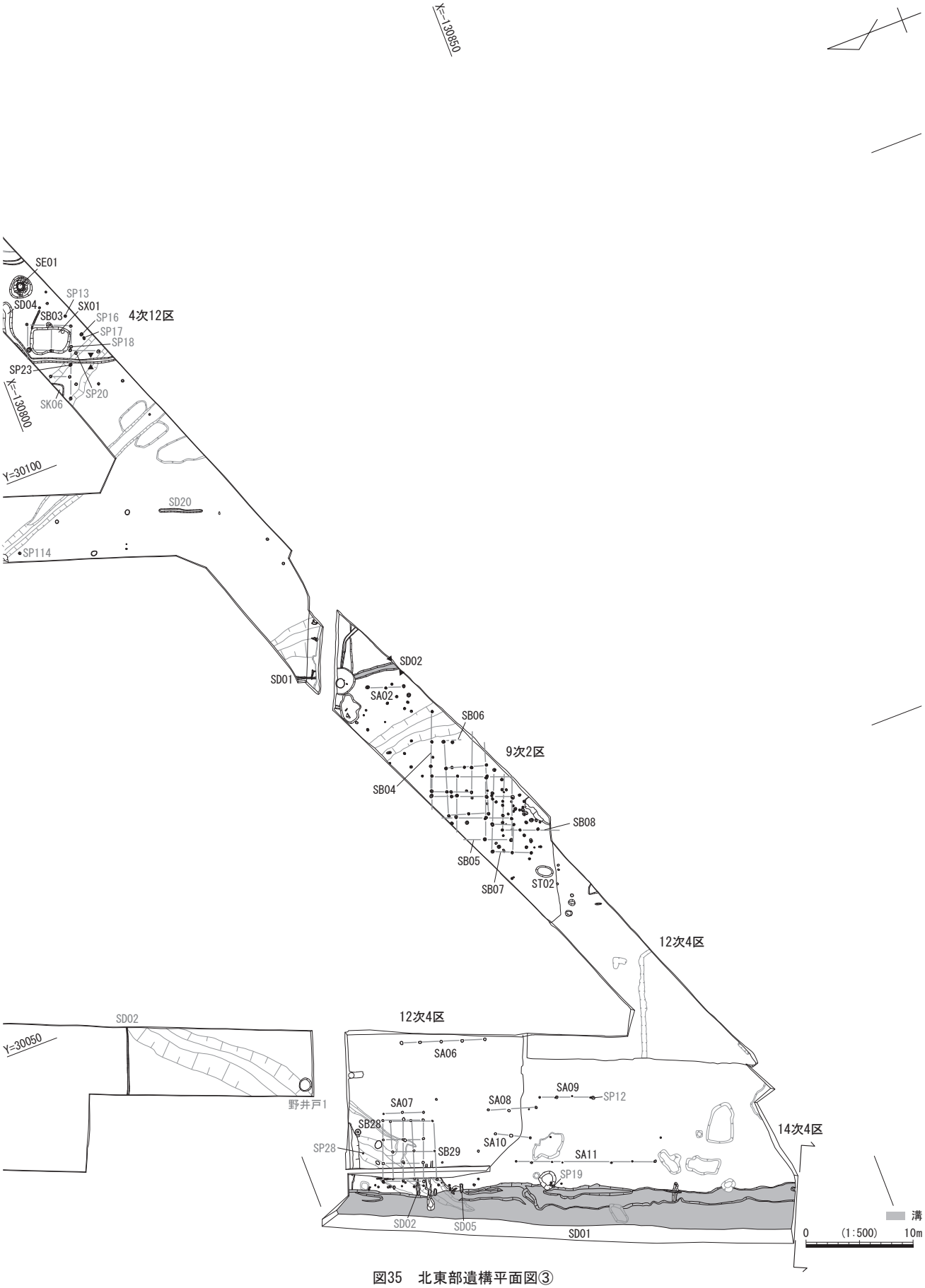


図35　北東部遺構平面図③

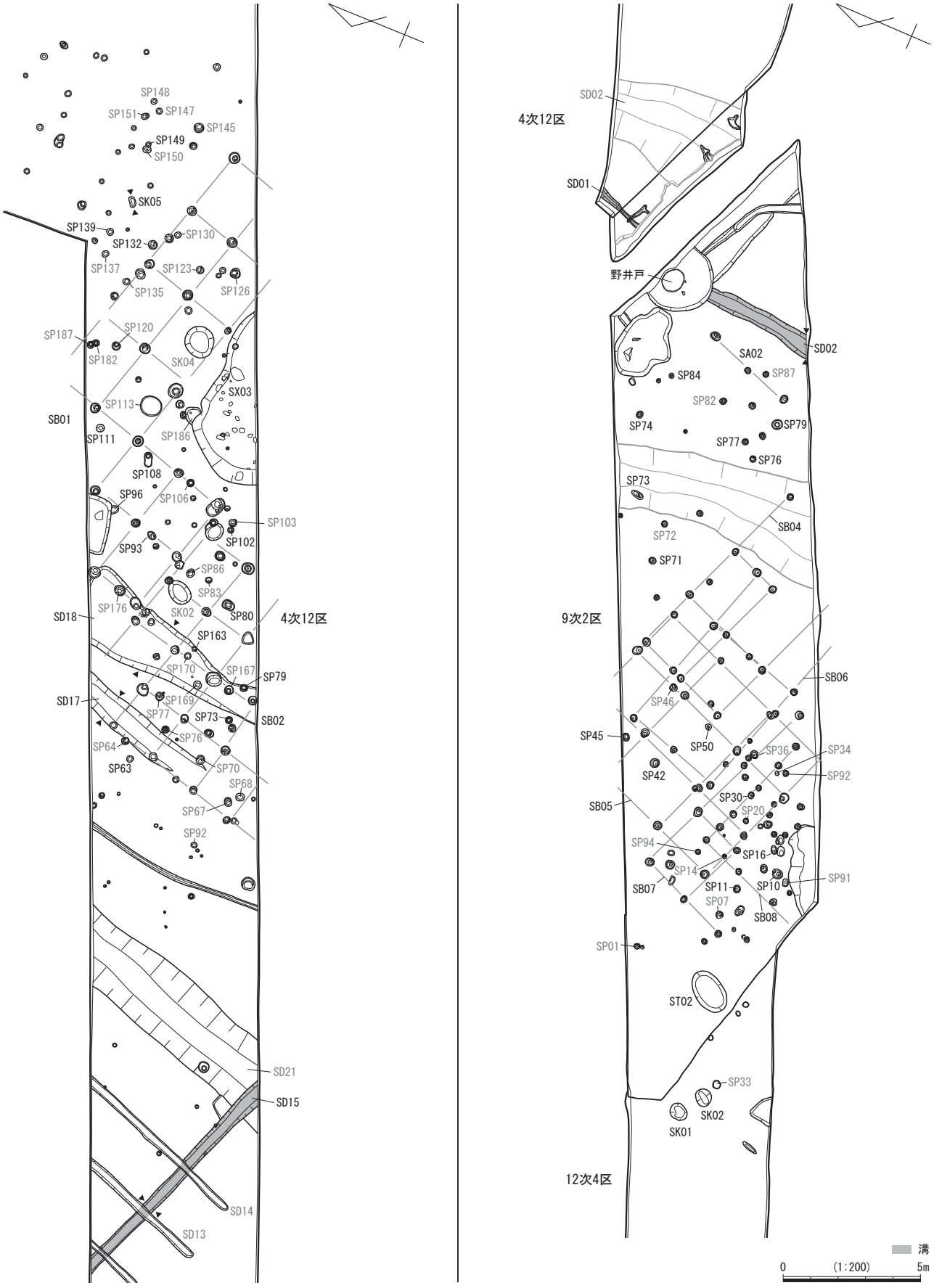


図36　北東部遺構平面図④

SB01
(図32･33･36･37･38)
(写真図版3･4)

4次12区の東部、SB02の北側で検出した。検出した位置から建物跡は調査区の東側に広がる可能性が高い。SX03に切られため一部の柱穴とSP112の北側に想定できる柱穴は検出できていない。検出状況から4間×6間以上の東西棟の総柱建物跡と考えられる。SP110－SP185を基準とした主軸方向はN18° Eを測り、SB02と平行する。検出部の平面規模は梁行4間で7.5m、桁行6間で15mを測る。平面積は約112.5㎡を測る。柱間寸法は梁行で1.9～2.0mで概ね等間隔である。桁行でSP175・SP88/SP110－SP127/SP128で西側から2.4m、2.4m/2.8m、2.5m、2.5m/2.5mを測る。柱穴の平面形は基本的に円形を呈し、大きさは直径25～55㎝を測る。柱通は桁方向で良く揃う。深さは遺構検出面から15～25㎝を測る。調査区外に広がる可能性があるが、平面積は北東部の調査区内で最大を測り、中心的な建物であったと考えられる。

遺物はSP88から土師器皿E196と須恵器椀197が、SP97から内外面ともハケ調整のくの字口縁塝198が、SP107から土師器皿E199とくの字口縁塝200が、SP109から須恵器椀201が出土した。SP110の柱痕跡の埋土から小皿A202、土師器羽釜203が、掘方から土師器脚部204が出土した。SP122の埋土最下層から土師器皿205～208、須恵器椀209、須恵器甕210がまとまって出土した。205～207は小皿A、208は底部を欠損するが皿Fとみられる。SP129から土師器小皿A211が、SP175から瓦器椀212が、SP177から須恵器椀213、SP185の埋土上層から瓦器椀214が出土した。後述するSX03出土遺物と大きな時期差はないものの、SX03に切られることからⅣ期古段階に位置づけられる。

SB02
(図32･33･36･39)
(写真図版3･4)

4次12区の東部で検出した。平面プランはSB01と平行する。東接するSX03と切り合いがあるかどうかは不明であるが、検出位置から本来はさらに調査区外に広がっていた可能性がある。また、SP78の北側で一部柱穴を検出できていないものの、検出状況では4間×4間以上の総柱建物跡である。SP65－SP183を基準とした建物の主軸方向はN18° Eを測る。検出部の平面規模は南北方向4間で7.2m、東西方向4間で7.6m、平面積は54.72㎡である。柱間寸法は南北方向SP65－SP183間で北から1.85m、1.9m、1.6mとなる。東西方向のSP183－SP82間で西から1.8m、1.8m、1.8m、2.2mである。柱通りは比較的良好に揃う。柱穴の平面形は基本的に円形を呈し、大きさは25～70㎝を測る。深さは20～30㎝を測る。SP74からは直径12㎝、残存高45㎝のスギ材を用いた柱を検出した。検出位置からSB01と同時に並存した可能性はあるが、両者は近接しており軒の出等を考慮すると時期的には前後関係があると考える。

遺物はSP81の掘方から土師器小皿A215と須恵器椀216が、SP168の埋土上層から土師器三足皿217が、SP174の柱痕跡から土師器小皿218と土師器杯220が、同掘方から土師器小皿A219が出土した。217は白色土器を写したもので、本町遺跡周辺で類例が出土している。SP189からは土師器小皿A221と皿E222、瓦器皿223、須恵器甕224が出土した。223は口縁端部に沈線が巡り、楠葉産とみられる。炭素の吸着は弱い。SB02を構成するSP84が切るSK02からは瓦器椀225と須恵器椀226が出土した。225は和泉型であるが炭素の吸着は弱い。遺物の様相からⅣ期古段階に位置づけられる。

SB03
(図32･35)
(写真図版3･6)

4次12区の西部で検出した。SE01の西側に位置し、4次12区SX01に切られる。検出地点の北側と西側に広がる可能性を有するが調査区の制限から全容は不明である。検出規模で2間×3間の東西棟の総柱建物跡である。SP12－19を基準とした主軸方向はN21° Eである。平面規模は梁行2間で4.2m、桁行3間で6.8mで、平面積は28㎡以上である。柱間寸法は南側のSP15－SP179で西側から2.0m、2.5m、2.3mを測り、東側のSP08－SP15は2.1mの等間隔である。柱穴は円形を呈し、大きさは直径25～50㎝を測る。深さは12～25㎝を測る。SP19の南でSP21を検出した。柱通りは揃うがSB03に伴うものかは判断できない。遺物はSP190の掘方から須恵器椀227が出土した。後述SX01に先行することからⅣ期に位置づけられる。

SB01

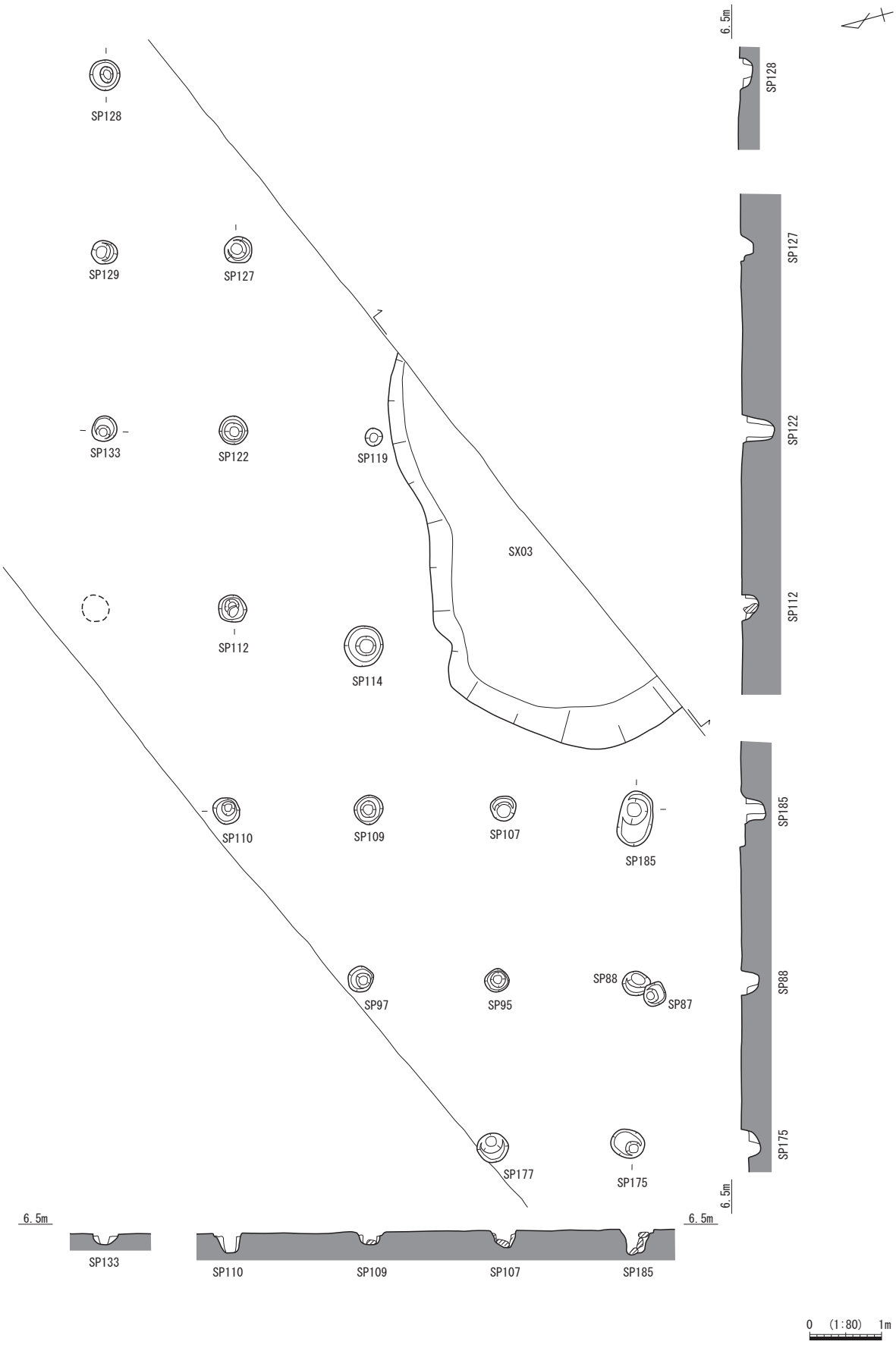


図37　SB01平面・断面図

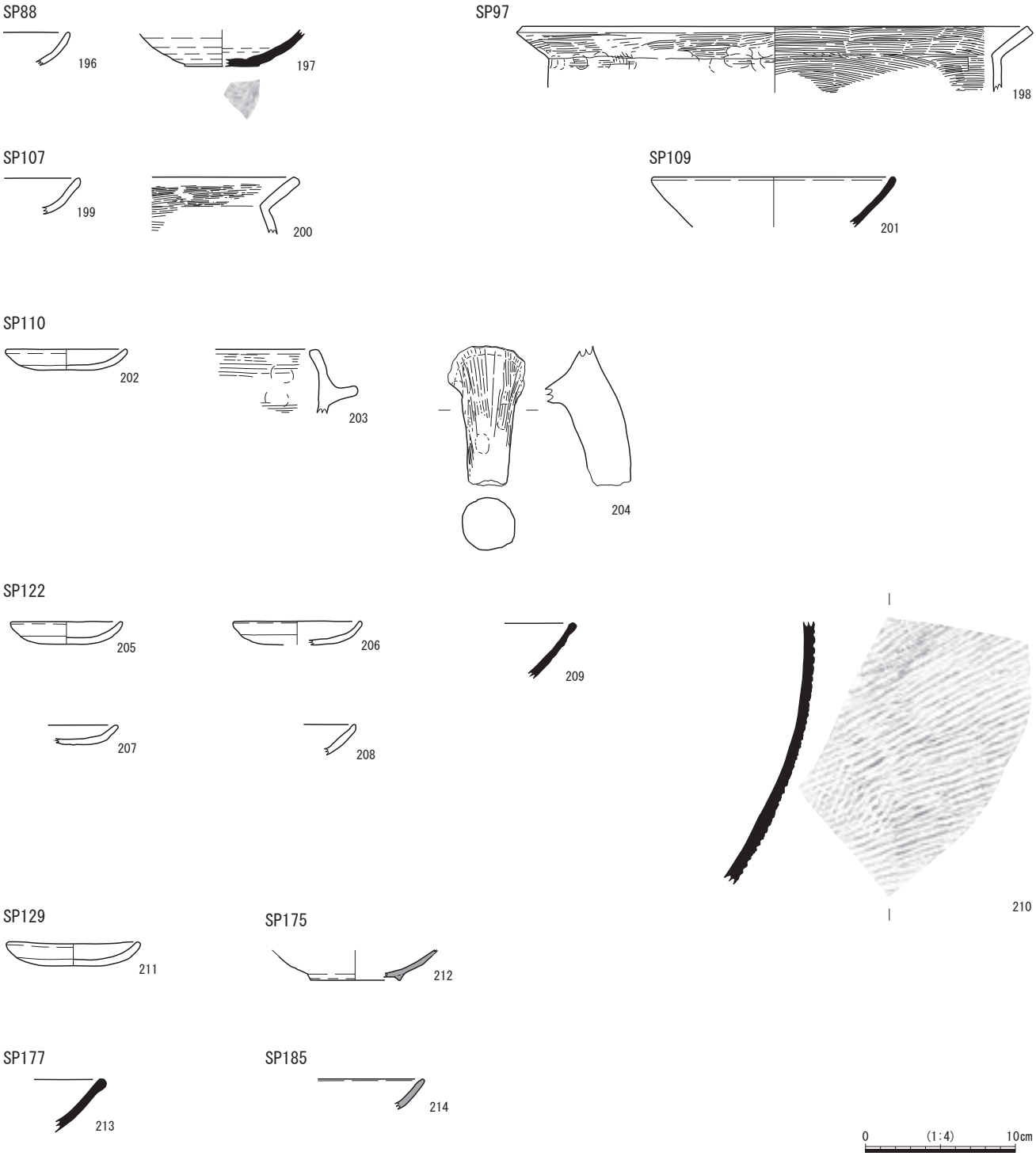
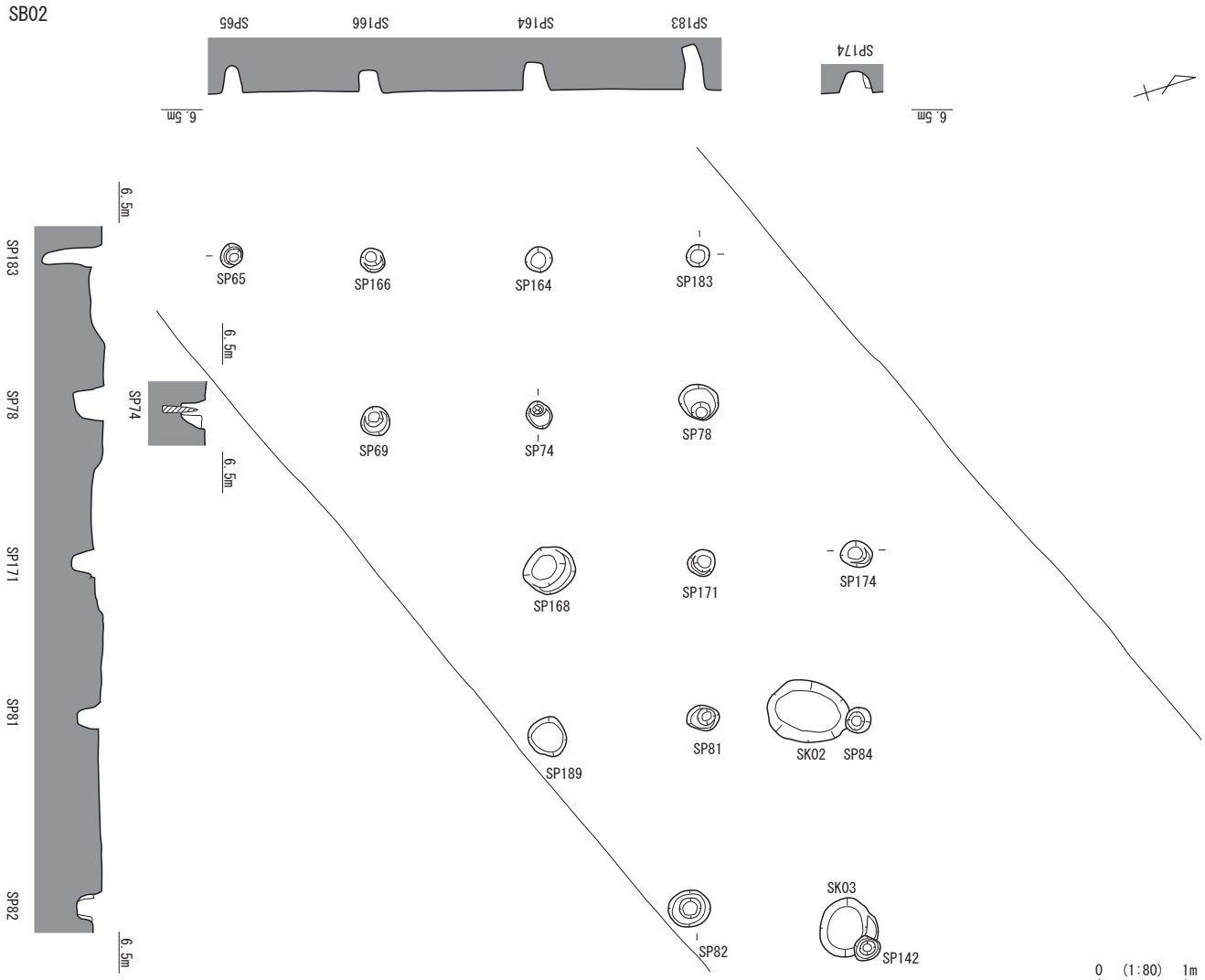


図38　SB01出土遺物



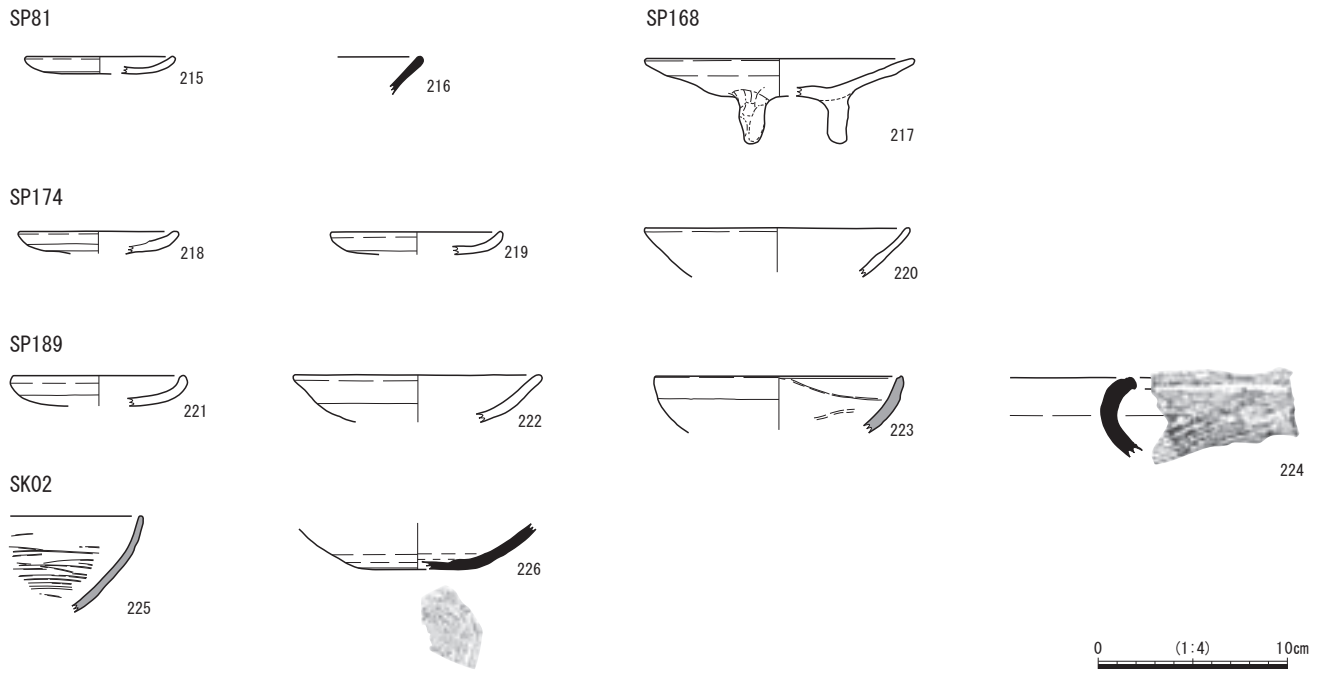


図39　SB02平面・断面図、出土遺物

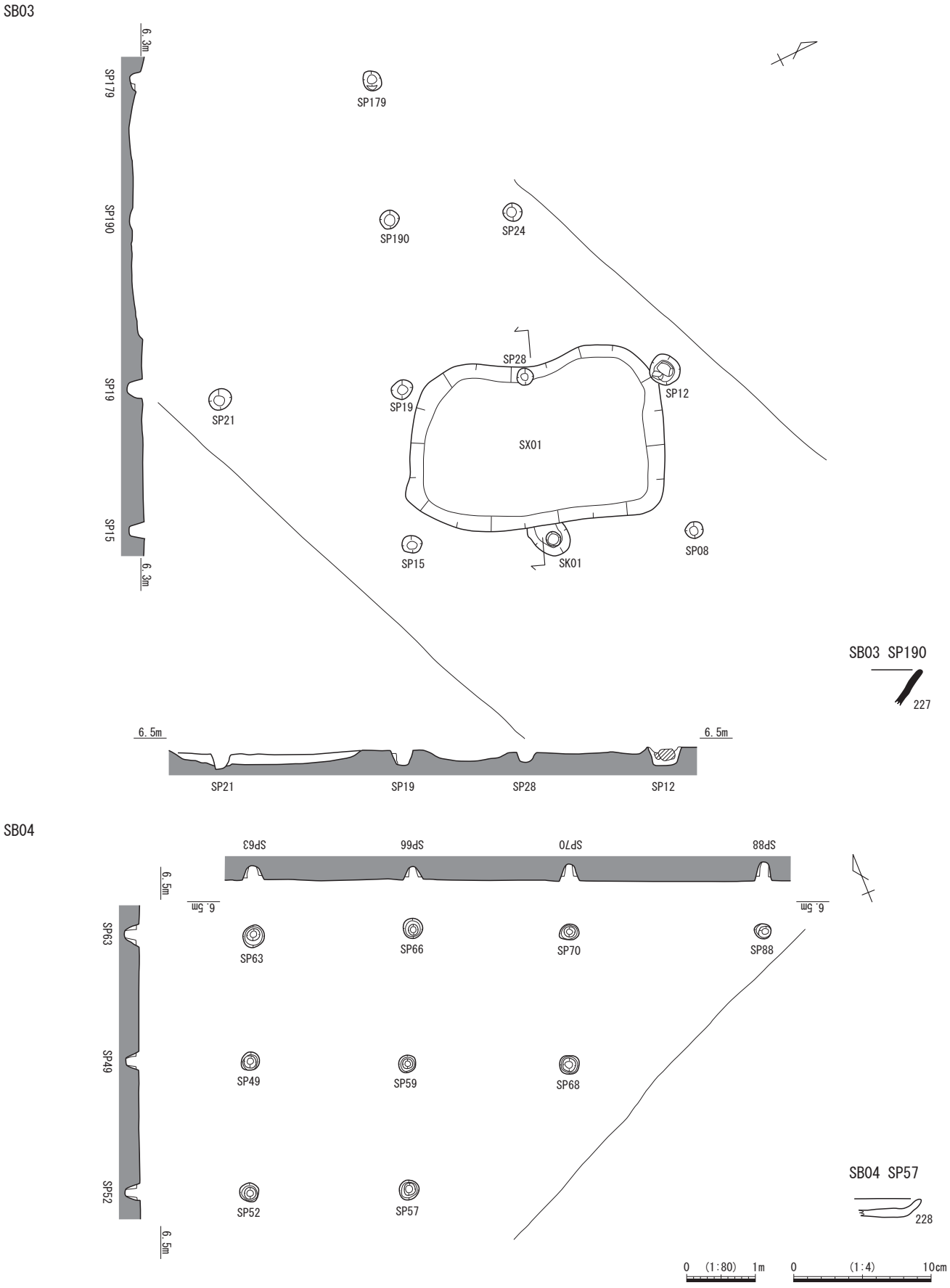


図40　SB03、SB04平面・断面図、出土遺物

SB04
(図32･35･36･40)
(写真図版10･11)

９次２区で検出した。平面プランはSB05、SB06と切り合うが、柱穴の直接の切り合いがないため、新旧は不明である。建物跡は調査区の東側に広がる可能性が高いが、検出状況から２間×３間以上の東西棟の総柱建物跡と考えられる。SP52－SP63を基準とした主軸方向はN22°Ｅを測る。平面規模は梁行２間で3.8m、桁行３間で7.45mを測る。平面積は約28㎡以上を測る。柱間寸法は梁行SP52－SP63で1.9mの等間隔、桁行のSP63－SP88で西側から2.35m、2.25m、2.85mとなり、SP70とSP88の間隔はやや広い。柱穴の平面形は円形を呈し、大きさは直径25～30㎝を測る。柱通は梁行、桁行とも良く揃う。深さは遺構検出面から18～30㎝を測る。遺物はSP57埋土から土師器小皿Ａ228が出土した。

SB05
(図32･35･36･41)
(写真図版10･11)

SB04の西に位置する。平面プランはSB04、SB06、SB07と切り合うが直接の切り合いはないため、建物間の新旧は不明である。建物跡の南東隅にあたる柱穴を確認できていないが、検出状況から３間×３間の南北棟の総柱建物跡と考える。SP33－SP64を基準とした主軸方向はN23°Ｅを測る。SB04、SB07の軸と概ね揃う。平面規模は梁行３間で5.75m、桁行３間で7.6mを測り、南北方向がやや長い。平面積は43.7㎡を測る。柱間寸法は梁行のSP24－SP55間で西から1.95m、2.0m、1.8m、桁行のSP33－SP64で南から2.4m、2.85m、2.35mを測る。柱通は比較的揃っている。柱穴の平面形は円形を呈し、大きさは直径20～38㎝を測る。深さは遺構検出面から16～26㎝を測る。遺物はSP64の柱痕跡の埋土から土師器小皿229が出土した。

SB06
(図32･35･36･42)
(写真図版10･11)

SB04とSB05に重なる位置で検出した。検出した位置から建物跡は調査区の東側に広がる可能性が高い。検出状況では２間×３間の東西棟の総柱建物跡と考えられる。SP27－SP44を基準とした主軸方向はN18°Ｅを測り、近接する建物群とやや異なる。平面規模は梁行２間で3.75m、桁行３間で6.95mを測る。平面積は約26㎡を測る。柱間寸法は梁行SP27－SP44で南から1.85m、1.9mを測る。桁行SP44－SP69で西から2.25m、2.2m、2.5mを測る。柱穴の平面形は円形を呈し、大きさは直径20～31㎝を測る。深さは遺構検出面から20～24㎝を測る。

遺物はSP27の掘方から須恵器椀232が、SP53の柱痕跡の埋土から土師器小皿233～235が、SP56の掘方からは土師器小皿236と須恵器片口鉢237が出土した。SP58の柱痕跡の埋土から土師器小皿Ａ238、掘方から土師器皿Ｆ239が出土した。SP61の掘方からは土師器小皿Ａ240、SP69の掘方からは土師器小皿Ａ241が出土した。237は東播系須恵器鉢で口縁部分類Ｂ１ａ類である。

SB07
(図32･35･36･41)
(写真図版10･11)

SB04の南側で検出した。検出した位置から建物跡は調査区の南側と東側に広がる可能性が高い。南側の一列は柱穴が確認できていないが、検出状況では２間×３間の東西棟の総柱建物跡である。SP04－SP06を基準とした主軸方向はN22°Ｅを測る。平面規模は梁行方向２間で3.65m、桁行方向３間で7.65mを測る。平面積は約28㎡を測る。柱間寸法は梁行SP04－SP06で北から1.85m、1.8mとほぼ等間、桁行SP04-SP95で西から2.55m、2.35m、2.75mを測る。柱穴の平面形は円形を呈し、大きさは直径18～36㎝を測る。深さは遺構検出面から16～24㎝を測る。

遺物はSP23の掘方から土師器小皿230、SP38の柱痕跡の埋土から土師器皿Ｅ231が出土した。

SB08
(図32･35･36･43)
(写真図版10･11)

SB07の南側で検出した。平面プランはSB05、SB07と切り合うが柱穴の直接の切り合いがないことから遺構の新旧は判断できない。検出した位置から建物跡は調査区の南側に広がるとみられる。検出状況では２間×４間の側柱建物跡と考える。SP09－SP19を基準とした主軸方向はN21°Ｅを測り、SB07と概ね平行する。平面規模は南北方向２間で3.3m、東西方向４間で4.7mを測る。平面積は約15.5㎡を測る。柱間寸法は南北方向SP09-SP19で1.65mの等間隔、東西方向SP19－SP35で西から1.35m、1.3m、1.1m、0.95mと短く、東側の柱間隔が詰まる。柱穴の平面形は基本的に円形を呈し、大きさは直径20～28㎝を測る。深さは遺構検出面から14～24㎝を測る。遺物はSP35の掘方から土師器皿Ｆ242が出土している。SB04～SB08の出土遺物の様相は類似しており、土師器皿Ｆの出現する概ねⅣ期新段階に位置づけられる。

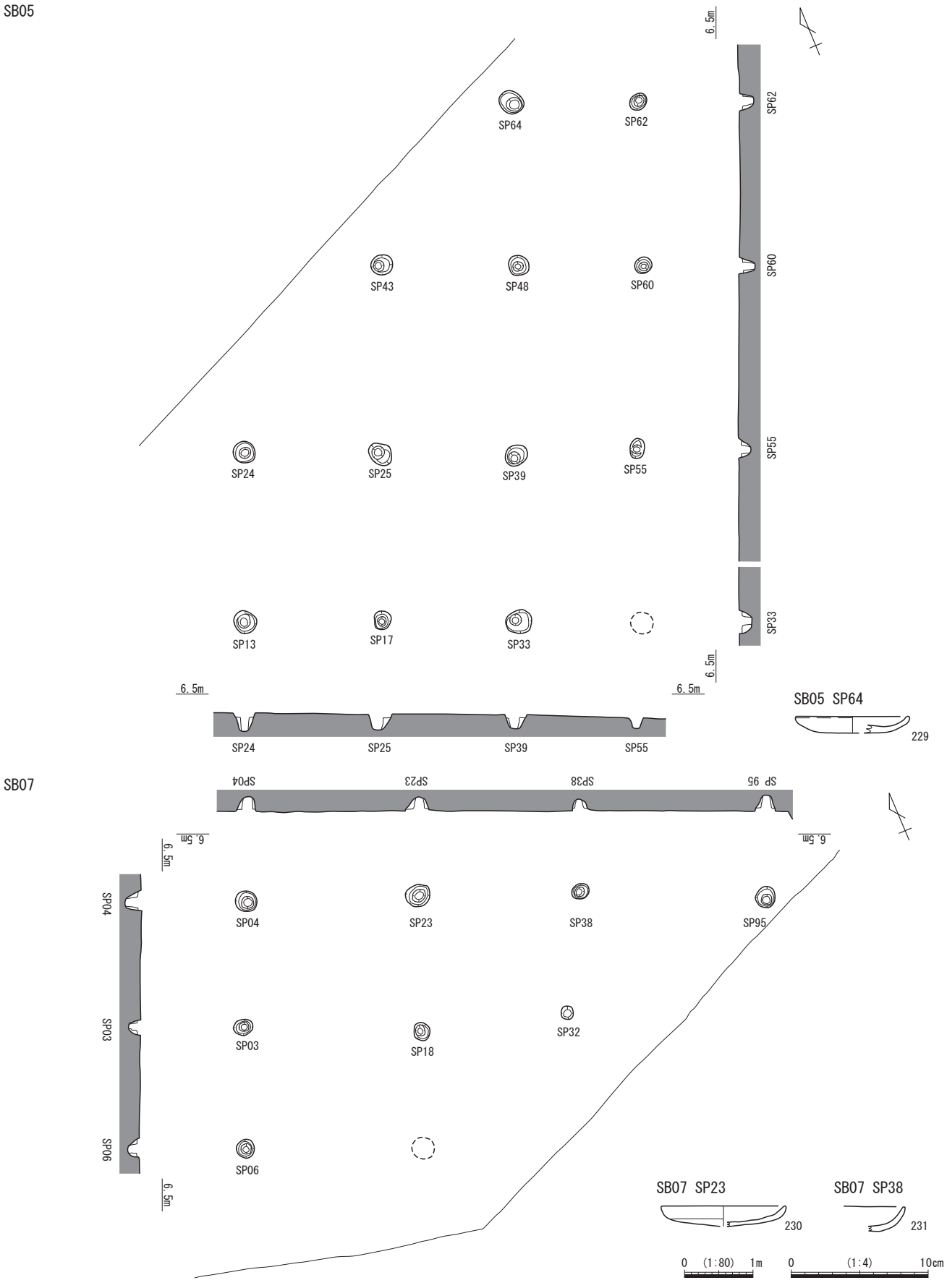
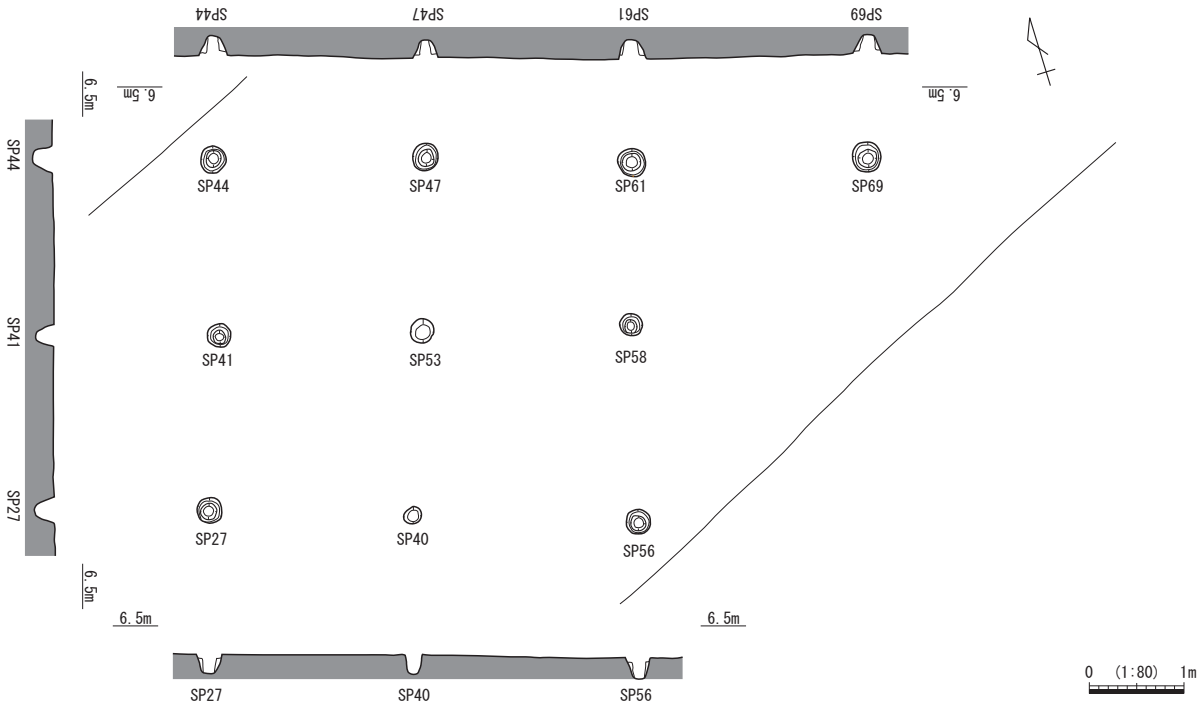
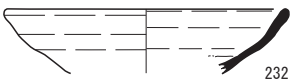


図41　SB05、SB07平面・断面図、出土遺物

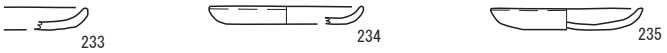
SB06



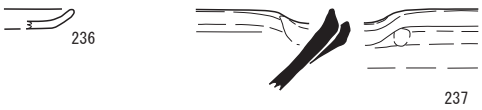
SP27



SP53



SP56



SP58

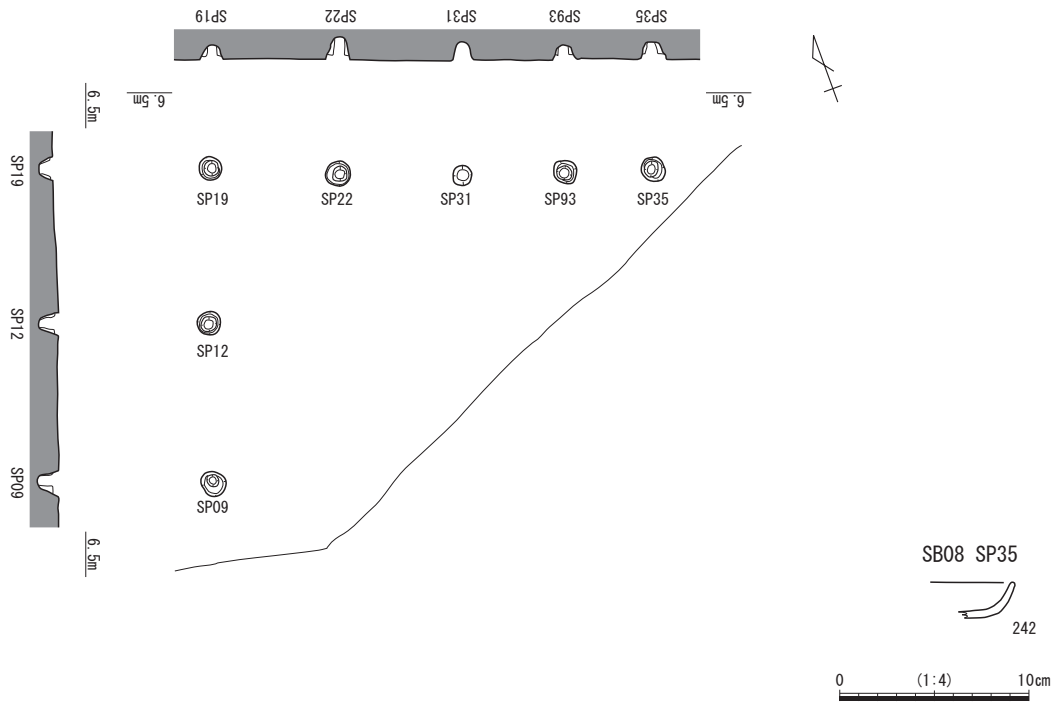
SP61

SP69

0 (1:4) 10cm

図42　SB06平面・断面図、出土遺物

SB08

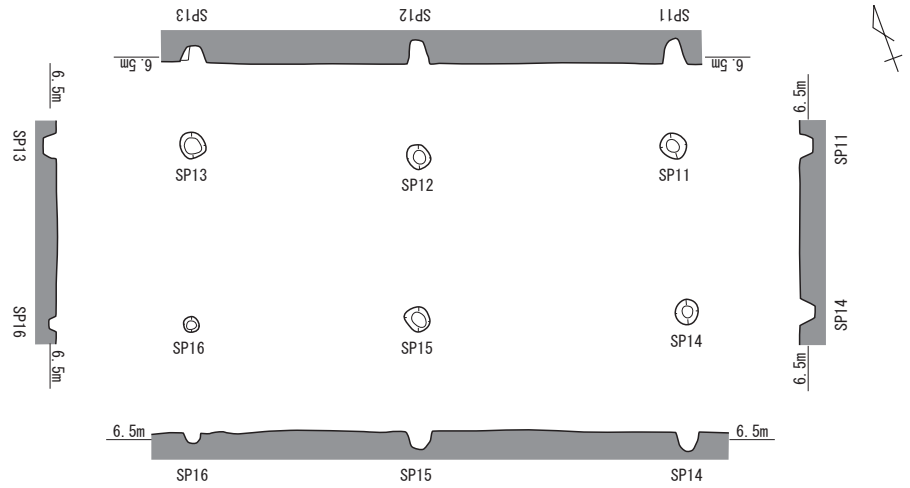


SB08 SP35

242

0 (1:4) 10cm

SB09



0 (1:80) 1m

図43 SB08、SB09平面・断面図、出土遺物

SB09
(図32･34･43)
(写真図版6)

４次13区で検出した。検出位置から調査区外の北側に広がる可能性がある。検出状況では１間×２間の東西棟の建物跡である。SP13－SP16を基準とした主軸方向はN21°Eである。平面規模は梁行１間で1.9m、桁行２間で5.1mを測る。平面積は約9.7㎡を測る。柱間寸法は梁行1.9m、桁行SP11－SP13で西から2.4m、2.7mを測る。柱穴の平面形は円形を呈し、大きさは18～30㎝を測る。深さは遺構検出面から10～16㎝を測る。埋土は暗褐色細砂が中心となる。遺物は図示に耐えうるものは出土していない。

SB10
(図32･34･44)
(写真図版8)

４次14区の北側で検出した。平面プランはSB11と重なるが、柱穴の直接的な切り合い関係はない。検出状況では２間×４間の南北棟の総柱建物跡で、平面規模は梁行２間で5.05m、桁行４間で8.3mである。平面積は約42㎡である。建物の主軸方向はSP03－SP26でN21°Eを測る。柱間は梁行SP24－SP26間は2.45m、2.6mを測る。桁行SP03－SP26で北から順に1.9m、2.3m、2.1m、2.0mを測る。桁方向は調査区外の東西方向に更に広がると考えられる。柱穴の平面形は円形を呈し、大きさは26～30㎝と比較的揃っている。深さは遺構検出面から12～20㎝を測る。SP17とSP25は柱穴内に石材が検出でき、根石であろう。

遺物はSP01から錆着した銅銭243が出土した。３枚と見られるが銭種は不明である。SP09の掘方から須恵器椀244が、SP16から底部糸切りの須恵器皿245が出土した。出土遺物が少なく断言はできないがⅣ期に位置づけられる。

SB11
(図32･34･45)
(写真図版8)

SB10の南側で検出した。平面プランはSB10と重なり、４次14区SX01を切る。SB10とは柱穴の直接的な切り合い関係がなく、その新旧は不明である。検出状況で３間×４間の南北棟の総柱建物跡で、平面規模は梁行３間4.9m、桁行４間7.75mである。平面積は約38㎡を測る。検出した位置から調査区外に広がる可能性が高い。建物の主軸方向はSP14－SP42でN21°Eを測る。柱間寸法は梁行SP42－SP69で西から1.6m、1.2m、2.1m、桁行SP14－SP42で北から順に1.9m、1.9m、2.05m、1.9mを測る。北側のSP13-SP14間は3.0mを測り、南側のSP41に対応する柱穴は確認できなかった。SP41は後述するSB17等で検出した柱間に存在するピットの可能性もある。柱穴の平面形は円形を呈し、大きさは28～54㎝を測る。深さは遺構検出面から15～40㎝と一定していない。SP30とSP34は柱材の一部が残存していた。

遺物はSP13の埋土から土師器小皿Ａ246・247、須恵器椀248、瓦器椀底部249・250、くの字口縁堝251が出土した。SP14からは須恵器椀252、くの字口縁堝253が、SP20からは土師器小皿Ａ256、須恵器椀257、くの字口縁堝258･259が、SP23からは瓦器椀254、須恵器椀底部255が出土した。254は和泉型とみられ、炭素の吸着は良好である。SP27からは土師器小皿Ａ260、須恵器椀261が、SP32からは土師器小皿Ａ262、和泉型瓦器椀263・264、須恵器壺底部265が、SP42からは須恵器椀266が出土した。出土遺物の様相から総じてⅣ期の様相を示し、SX01を切ることからⅣ期新段階に位置づけられる。SB10とは主軸方向を同じくする南北棟の可能性が高く、建替えとみられるが、出土遺物からは断定はできない。

SB12
(図32･34･44)
(写真図版8)

半町を区画する４次14区SD02の南側で検出した。検出した位置から建物跡は調査区の東側に広がる可能性はあるが、検出状況では２間×２間の総柱建物跡である。SP76－SP121を基準とした主軸方向はN20°Eを測り、SB10・SB11とも揃っている。平面規模は東西方向、南北方向とも２間で4.6m、4.4mを測る。平面積は約21㎡である。柱間寸法は南北方向のSP76－SP121で北から2.3m、2.1m、東西方向のSP72－SP76で2.3mの等間隔であり、柱間は概ね揃っている。柱通は東西方向では揃うものの、南北方向はやや不揃いである。柱穴の平面形は基本的に円形を呈し、大きさは直径20～28㎝を測る。深さは遺構検出面から18～34㎝を測る。図示に耐えうる遺物は出土していない。

SB13
(図32･34･46)
(写真図版7)

SB12の南側で検出した。検出した位置から建物跡は調査区の西側に広がる可能性がある。平面プランはSB14と重なり、建て替えと見られるが、柱穴の切り合いがないためその新旧は不明である。検出状況では２間×４間の南北棟の総柱建物跡と考える。SP93－SP113を基準とした主軸方向はN16°Eを測る。平面規模は梁行２間で3.85m、桁行４間で9.0mを測る。平面積は約34㎡を測る。柱間寸法は梁行２間SP88－SP93で東から1.8m、2.05m、桁行４間SP93－SP113で北から2.2m、2.3m、2.4m、2.1mを測る。柱穴の平面形は基本的に円形を呈し、大きさは直径20～32㎝を測る。柱通は比較的揃っているが、南端のSP111のみ南へずれている。

SB14
(図32･34･46)
(写真図版7)

SB13と重なる位置で検出した。検出した位置から建物跡は調査区の東側に広がる可能性がある。検出状況では２間×４間の南北棟の建物跡である。SP92－SP112を基準とした主軸方向はN16°Eを測り、SB13と棟方向は一致する。平面規模は梁行２間で2.7m、桁行４間で8.8mを測る。平面積は約24㎡を測る。柱間寸法は梁行SP89－SP92で1.35mの等間隔であるが、南側のSP110－SP112間にはSP91と対応する柱穴が確認できない。桁行SP92－SP112では北から1.8m、2.5m、2.1m、2.4mである。柱穴の平面形は基本的に円形を呈すが、SK03・SK04と呼称した掘方の大きなものも存在する。大きさは直径20～60㎝である。深さは遺構検出面から12～34㎝を測る。遺物はSP99から底部ヘラ切りの土師器杯267が出土した。Ⅳ期であろう。

SB15
(図32･34･47)
(写真図版7)

４次15区の西部、半町を区画すると考えるSD01の西側で検出した。平面プランはSB16と重なるが、柱穴の直接の切り合いはない。検出した位置から建物跡は調査区の北側に広がる可能性が高い。検出状況では２間×３間の建物跡である。SP４－SP23を基準とした主軸方向はN21°Eを測る。平面規模は南北方向２間で3.65m、東西方向３間で6.15mを測る。平面積は約22.4㎡を測る。柱間寸法はSP04－SP18で東から2.0m、2.25m、1.9m、SP04－SP23で南から1.8m、1.85mのほぼ等間隔である。なお、SP02－SP13間のSP11と対応する柱穴は確認できていない。柱穴の平面形は基本的に円形を呈し、大きさは直径20～38㎝を測る。柱通は桁方向で良く揃う。深さは遺構検出面から22～46㎝を測る。遺物はSP11から瓦質羽釜268、SP16から土師器皿Ｆ269、SP23から須恵器椀270が出土した。

SB16
(図32･34･47)
(写真図版7)

SB15と重なる位置で検出した。検出した位置から建物跡はSB15と同様、調査区の北側に広がる可能性が高い。検出状況では１間×２間の建物跡である。SP21－SP19を基準とした主軸方向はN21°Eを測り、SB15と揃う。平面規模は南北方向１間で2.0m、東西方向２間で4.85mを測る。平面積は9.7㎡を測る。柱間寸法はSP10－SP19で東から2.7m、2.15mを測る。柱穴の平面形は基本的に円形を呈し、大きさは直径18～28㎝、深さは遺構検出面から12～18㎝を測り、SB15に比べて一回り小さく、浅い。

遺物はSP12から土師器小皿Ａ271が出土した。SB15とSB16は同一位置での建て替えと見られ、その新旧は判然としないが、時期はいずれもⅣ期新段階であろう。

SB17
(図32･34･48)
(写真図版7)

４次16区の西部、半町の区画とした４次16区SD01の南側で検出した。平面プランはSB18と重なるが、柱穴の直接の切り合いがないため、その新旧は不明である。検出状況から３間×４間の東西棟の総柱建物跡と考えられる。SP13－SP45を基準とした主軸方向はN21°Eを測る。平面規模は梁行方向３間で7.5m、桁行方向４間で8.2mを測る。平面積は約61.5㎡を測る。柱間寸法は梁行SP38－SP45で東から2.6m、2.4m、2.5m、桁行SP09－SP38で北から2.1m、2.1m、2.1m、1.9mで、梁行・桁行とも概ね等間隔である。柱通は概ね揃っている。柱穴の平面形は基本的に円形を呈し、大きさは直径20～30㎝を測り、深さは遺構検出面から12～52㎝を測る。SP38-SP45の柱通りには柱穴間のほぼ中央に直径15㎝、深さ８㎝程の小ピットSP39・SP42・SP44が伴う。東側の通りで検出したSP18・SP19・SP35にはそれぞれ西側に10～20㎝離れた位置で直径28㎝程のピットSP20・SP34・SP54を検出した。

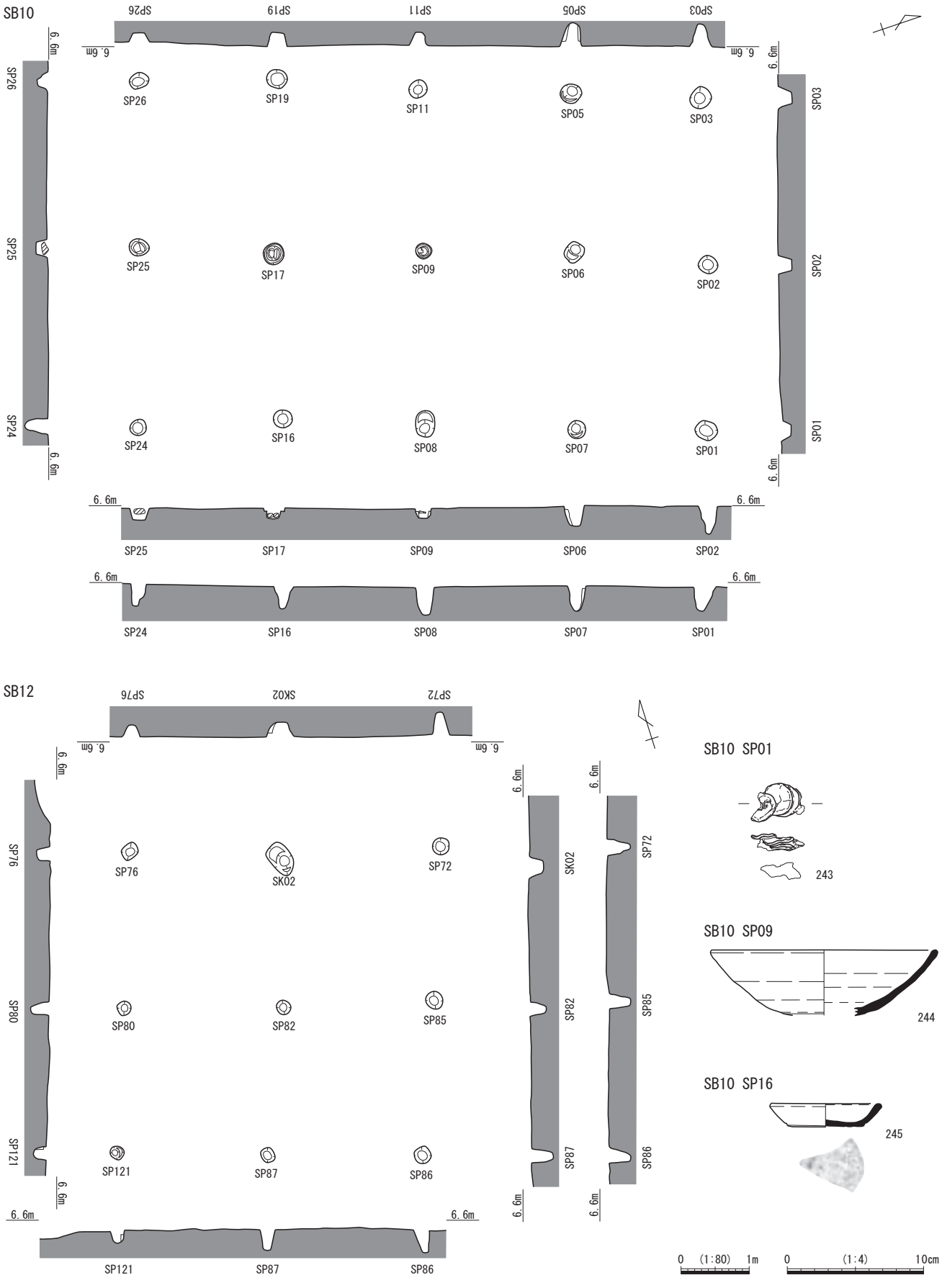


図44　SB10、SB12平面・断面図、出土遺物

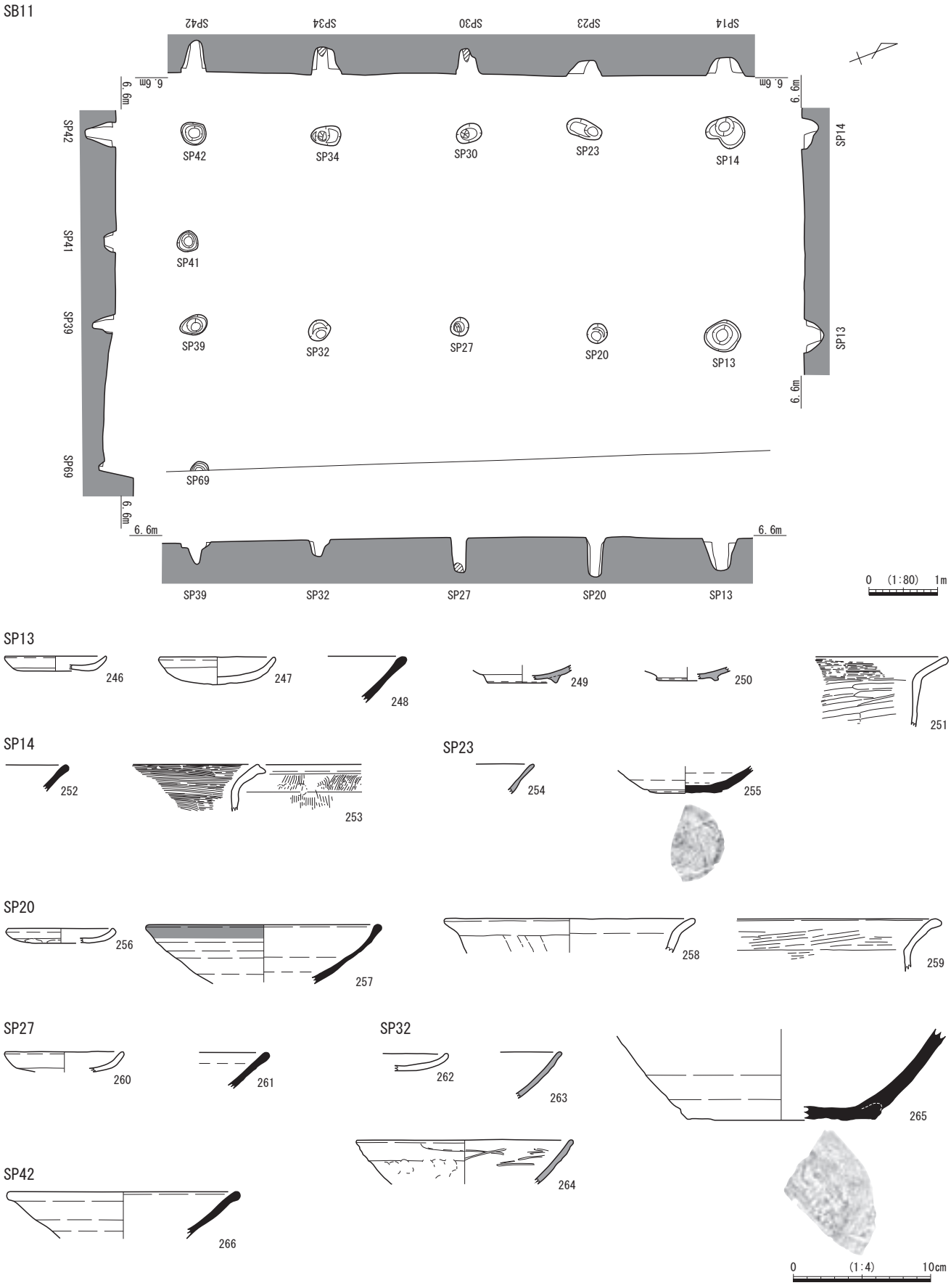


図45　SB11平面・断面図、出土遺物

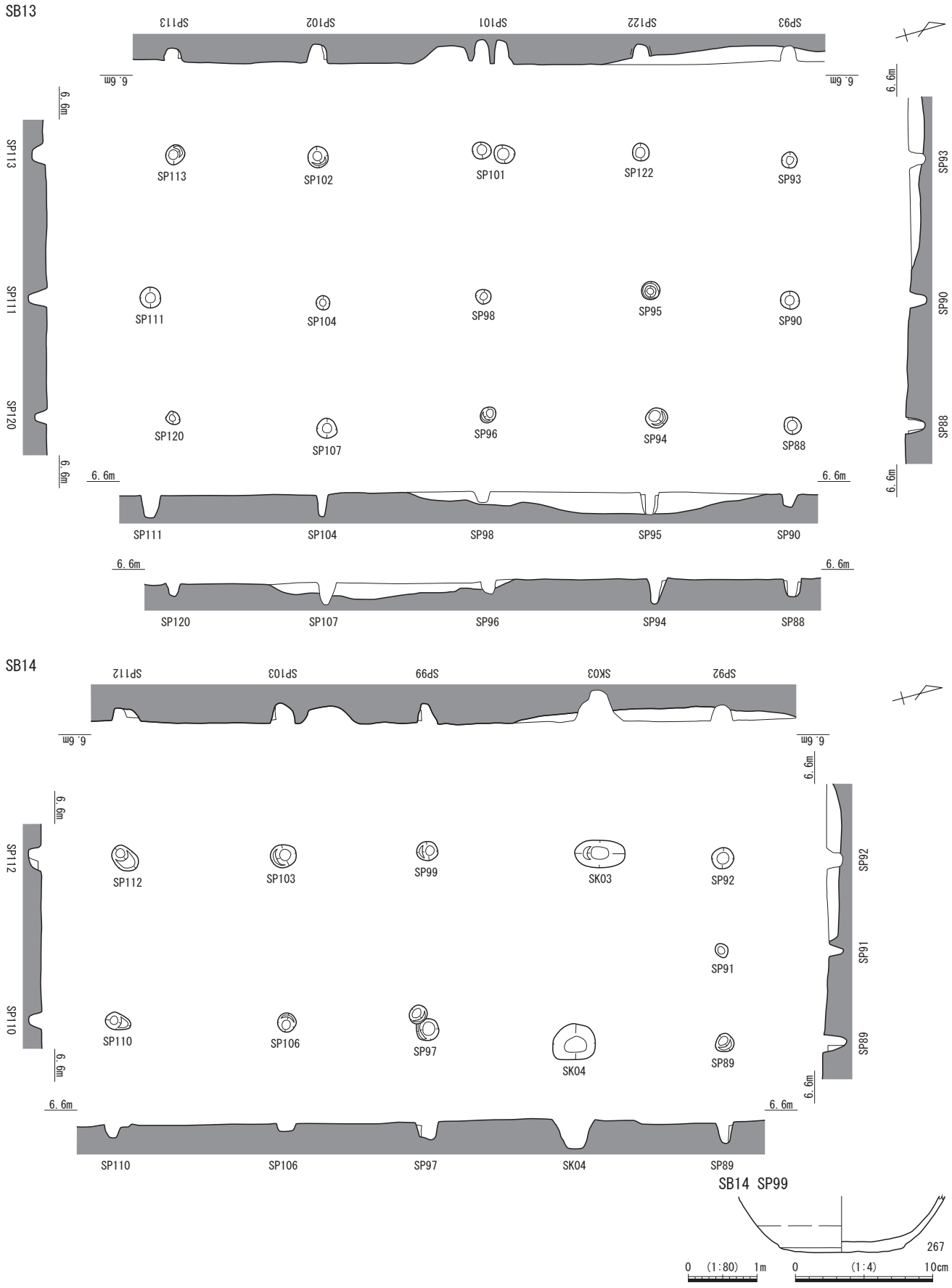
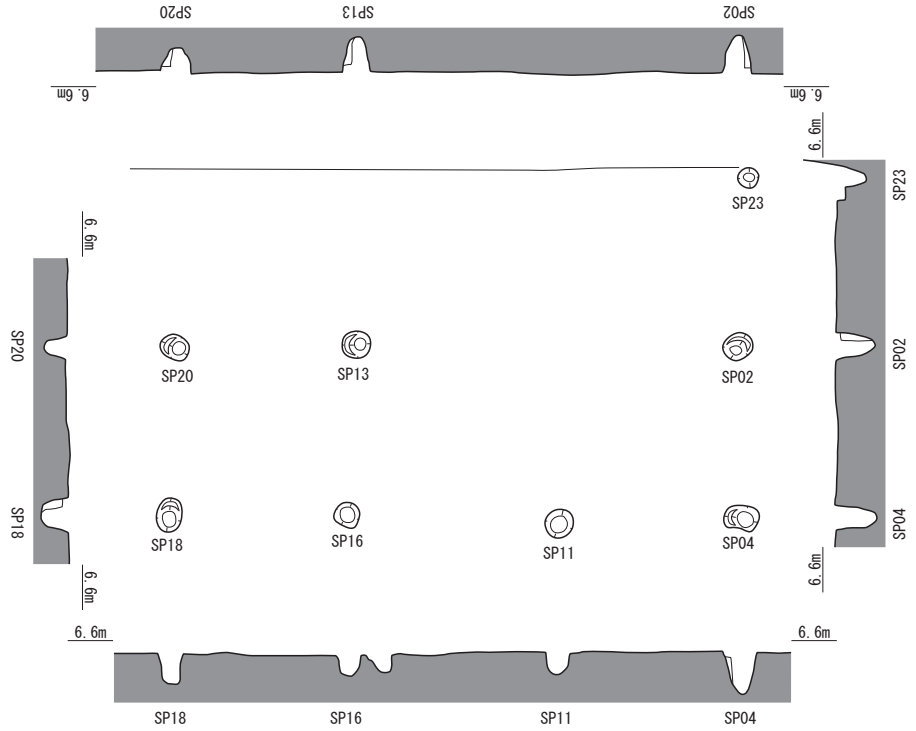
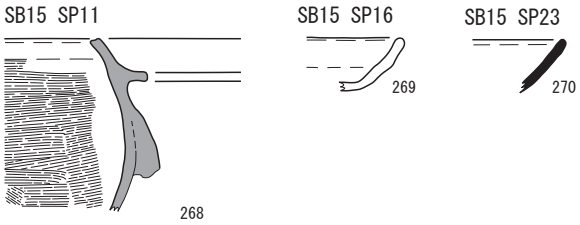


図46　SB13、SB14平面・断面図、出土遺物

SB15





SB16

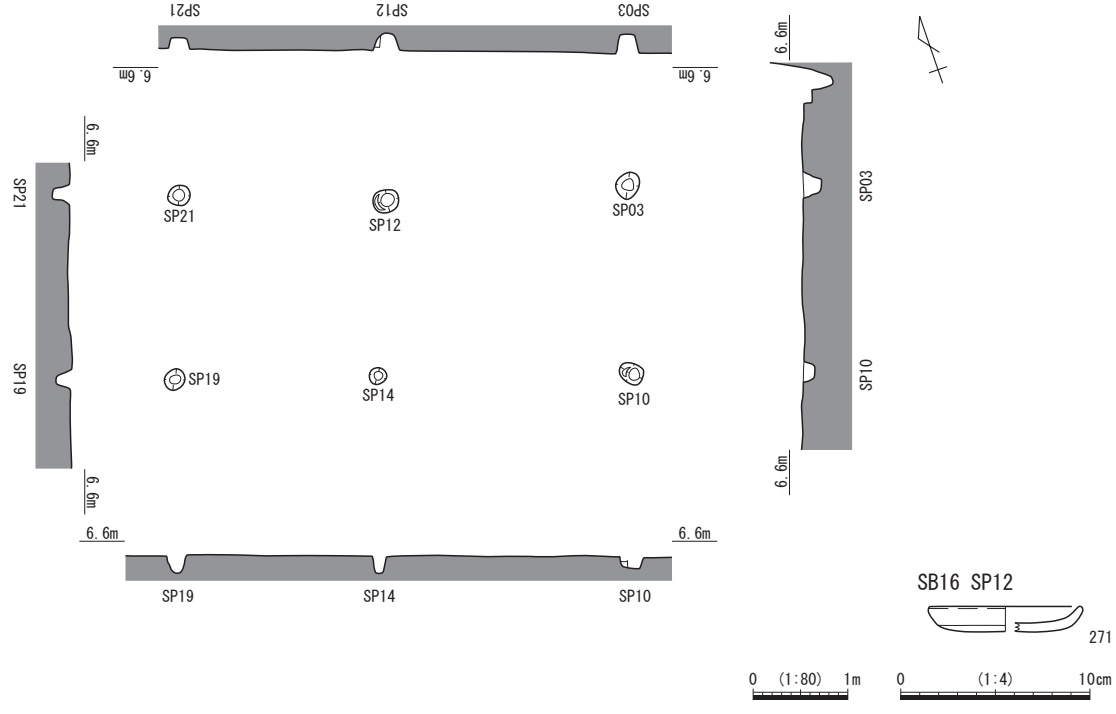


図47　SB15、SB16平面・断面図、出土遺物

SB17

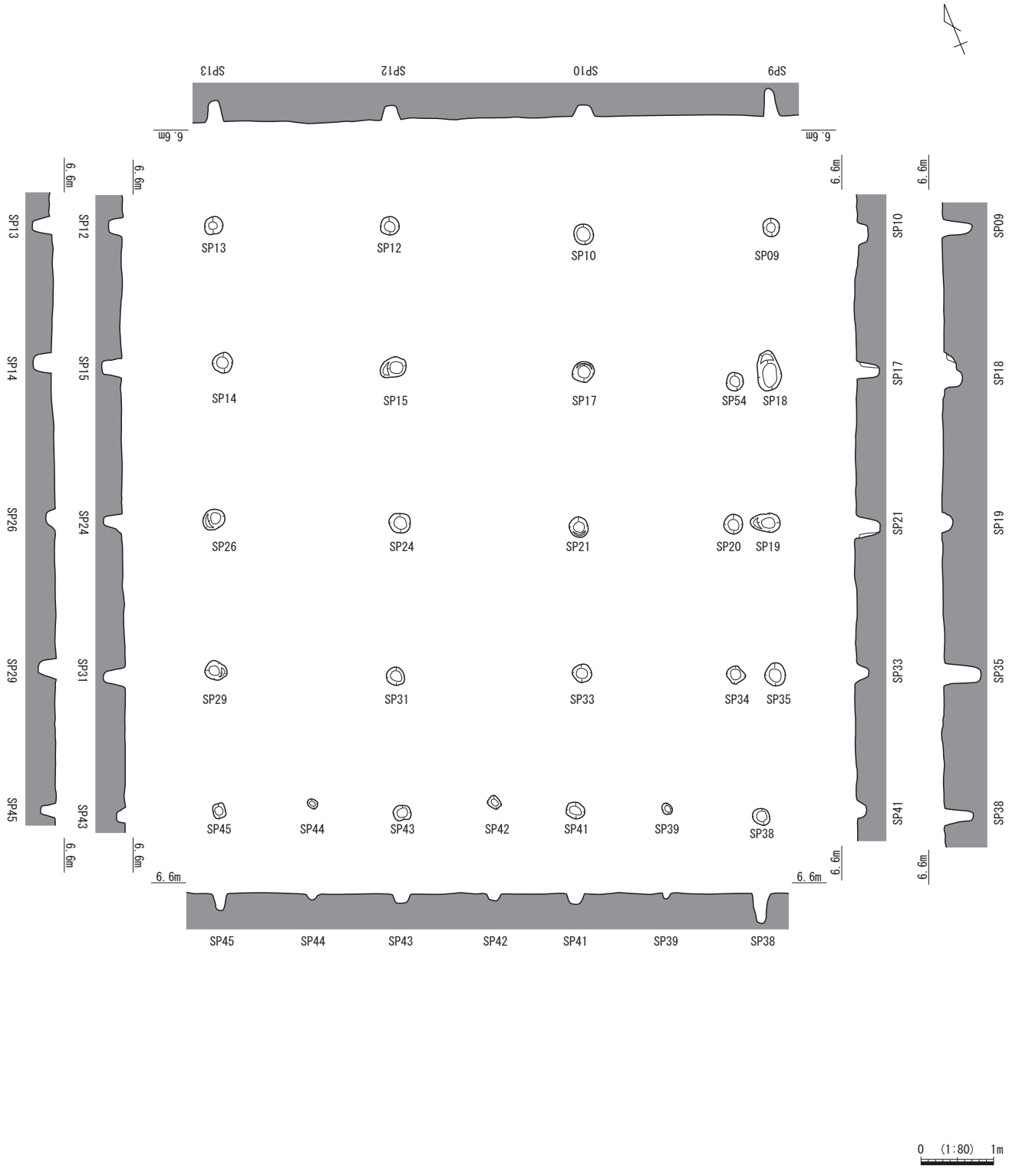


図48　SB17平面・断面図

SB18
(図32･34･49)
(写真図版7･8)

SB17の西側に位置する。SK01を切る。検出状況から２間×３間の南北棟の側柱建物跡である。SP08－SP51を基準とした主軸方向はN23°Ｅを測る。平面規模は梁行方向２間で4.2m、桁行方向３間で7.1mを測る。平面積は約29.8㎡を測る。柱間寸法は梁行SP08－SP11で2.1mの等間隔、桁行SP11－SP36で北から2.4m、2.4m、2.3mと概ね等間隔である。柱穴の平面形は基本的に円形を呈し、大きさは直径22～40㎝、深さは遺構検出面から12～41㎝を測る。SP07・SP11・SP36・SP51は柱穴内に根石を伴う。

遺物は建物跡の北西隅にあたるSP08から出土した。SP08は直径22㎝、深さ41㎝を測り、埋土の上層から土師器皿Ｅ272･273、須恵器椀274･275、瓦器椀276･277、くの字口縁堝278が折り重なった状態で出土した。土師器皿はいずれもＥ類、須恵器椀は底部糸切りの平底である。瓦器椀は和泉型Ⅲ期に位置づけられ、内外面の炭素の吸着は弱く相対として白っぽい印象を受ける。278は外面にタテハケ、内面は口縁部を含めヨコハケを施す。良好な一括資料で、在地土器はⅣ期古段階の様相を呈し、瓦器椀から12世紀後半から末に位置づけられる。

SB19
(図32･34･50)
(写真図版7)

SB17の南側60㎝の位置で検出した。SB19より南側は遺構がなく、空閑地が広がっている。検出状況から１間×１間の建物跡と考えられる。SP47－SP48を基準とした主軸方向はN24°Ｅを測り、SB18の方位に近い。平面規模は東西1.45m、南北1.3mを測る。柱穴の平面形は基本的に円形を呈し、大きさは直径14～16㎝、深さは遺構検出面から12～30㎝を測る。建物の規模は小さく、柱穴もSB17・SB18と比較して一回り以上小さいことから、１間規模の小屋等と推測する。

SB20
(図32･34･50)
(写真図版7･14)

22次１区と４次16区SD01以北で検出した。調査は４次と22次にまたがり、建物跡の南寄りが攪乱を受けているため、一部の柱列の確認ができていない。SD01の埋土を掘り下げた段階でSP52・SP53の柱穴を検出したことからSD01に先行する。検出位置から東側に広がる可能性が高い。検出状況から３間×３間の東西棟の建物跡に復元できる。SP02－SP04を基準とした主軸方向はN21°Ｅを測り、SB17と平行する。平面規模は梁行方向３間で5.7m、桁行方向３間で8.35mを測る。平面積は約47.6㎡を測る。柱間寸法は梁行４次16区SP02－SP04で南から3.8m、1.9mとなるが、南側の3.8mについては、本来中間の1.9mの位置に柱穴があったのであろう。桁行22次１区SP01－S04で東から2.7m、3.05m、2.6mで中央部の間隔がやや広い。柱穴の平面形は円形を呈し、大きさは直径20～35㎝、深さは遺構検出面から18～38㎝を測る。

遺物は22次１区SP02から土師器小皿Ａ280、須恵器椀281・282が、SP03からは底部糸切りの須恵器小皿283が、SP53からくの字口縁堝284が出土した。SB18と同時期と推測する。

SB21
(図32･34･51)
(写真図版14)

SB20の北4.6mの位置で検出した。検出した位置から建物跡は調査区の東側に広がると推測する。検出状況では１間×４間の建物跡である。SP08－SP12を基準とした主軸方向はN21°Ｅを測る。平面規模は東西方向１間で1.95m、南北方向４間で6.9mを測る。平面積は約13.4㎡を測る。柱間寸法はSP08-SP12で南から1.5m、1.55m、2.0m、1.85mを測る。柱穴の平面形は基本的に円形を呈し、大きさは直径20～28㎝、深さは遺構検出面から16～22㎝を測る。

SB22
(図32･34･51)
(写真図版14)

SB21の西側約１mの位置で検出した。平面プランはSB23と重なるが柱穴には直接の切り合い関係がない。SB21とは建物の北面が揃う。攪乱等により一部確認できない柱穴があるが、２間×２間の東西棟の総柱建物跡と考える。SP41－SP49を基準とした主軸方向はN20°Ｅを測る。平面規模は梁行２間で4.2m、桁行２間で4.6mを測る。平面積は約19.3㎡を測る。柱間寸法は梁行SP41－SP49で北から2.15m、2.05m、桁行SP41-SP50で西から2.25m、2.35mを測る。柱穴の平面形は基本的に円形を呈し、大きさは直径22～28㎝、深さは遺構検出面から８～26㎝を測る。

SB23
(図32･34･51)
(写真図版14)

SB22の北に位置し、平面プランはSB22とSB24と一部重なるが柱穴の直接の切り合いはない。検出状況から２間×２間の総柱建物跡と考えられる。SP16－SP26を基準とした主軸方向はN21°Ｅを測る。平面規模は桁行２間で3.9m、梁行２間で4.2mを測る。平面積は約16.4㎡を測る。柱間

寸法は梁行SP16－SP26は南から1.85m、2.05mを測り、桁行SP23－SP26は2.1mの等間隔である。ただし、柱通りは整然とせず、全体的にややいびつな平面形となる。柱穴の平面形は基本的に円形を呈し、大きさは直径16～26㎝、深さは遺構検出面から16～26㎝を測る。

SB24
(図32･34･51)
(写真図版14)

SB21の北に位置する。平面プランはSB23と重なる。検出した位置から建物跡は調査区の東側に広がる可能性が高い。検出状況から１間×２間以上の建物跡と考えられる。SP19－SP47を基準とした主軸方向はN20° Eを測る。平面規模は東西方向１間で2.3m、南北方向２間で3.85mを測る。平面積は約8.8㎡を測る。柱間寸法はSP17－SP27で南から1.85m、2.0mを測る。柱穴の平面形は基本的に円形を呈し、大きさは直径22～28㎝、深さは遺構検出面から12～20㎝を測る。遺構配置の検討からSB23を除き、SB21・SB22・SB24が同時併存した可能性もある。

SB25
(図32･34･52)
(写真図版11)

10次11区、SB24の北約13mの位置で検出した。検出した位置から調査区の東側に広がる可能性が高い。検出状況では２間×３間の総柱建物跡である。SP01－SP09を基準とした主軸方向はN45° Eを測り、周辺の建物跡とは大きく異なる。平面規模は東西方向２間で2.65m、南北方向３間で5.7mを測る。平面積は約15.1㎡を測る。柱間寸法は南北方向SP01－SP09で北側から1.95m、1.85m、1.9mを測る。梁行SP09－SP11で西から1.3m、1.35mで概ね等間隔である。柱通りは整然とはせず、南端の柱通りは歪んでいる。柱穴の平面形は基本的に円形を呈し、大きさは直径18～24㎝、深さは遺構検出面から18～26㎝を測る。

SB26
(図32･34･52)
(写真図版11)

SB25の北５mの位置で検出した。検出状況から３間×３間の東西棟の総柱建物跡である。SP12－SP24を基準とした主軸方向はN19° Eを測る。平面規模は梁行方向３間で4.55m、桁行方向３間で3.65mを測る。平面積は約16.6㎡を測る。柱間寸法は梁行SP24－SP27で西から1.4m、1.95m、1.2mで、中央部の間隔が広い。桁行SP15－SP27で北から1.2m、1.1m、1.35mを測る。柱通りは整然と揃う。柱穴は円形を呈し、大きさは直径22～24㎝、深さは16～28㎝を測る。

SB27
(図32･34･52)
(写真図版11)

SB26の北に接した位置で検出した。検出状況から２間×２間の総柱建物跡と考えられる。SP28－SP36を基準とした主軸方向はN49° Eを測り、SB25と概ね平行する。平面規模は南北方向２間で2.75m、東西方向２間で2.45mを測る。平面積は約6.7㎡を測る。柱間寸法は南北方向SP32－SP38で北から1.35m、1.4m、東西方向SP28－SP32で西から1.2m、1.25mを測り、いずれも等間隔である。柱通は良く揃っている。柱穴の平面形は基本的に円形を呈し、大きさは直径20～25㎝を測る。深さは遺構検出面から16～28㎝を測る。図示に耐える遺物の出土はなかった。

SB28
(図32･35･53)
(写真図版12･13)

14次４区の北西隅、坪境となる里道の南側で検出した。12次４区と14次４区にまたがる。平面プランはSB29と重なるが、柱穴の直接の切り合いはない。２間×３間の東西棟の総柱建物跡である。SP13－SP16を基準とした主軸方向はN19° Eを測る。平面規模は梁行方向２間で3.8m、桁行方向３間で6.0mを測る。平面積は22.8㎡を測る。柱間寸法は梁行SP06－SP08で北から1.95m、1.85m、桁行SP06－14次４区SP02で東から1.8m、2.2m、2.0mを測る。柱穴の平面形は基本的に円形を呈し、大きさは直径18～32㎝、深さは遺構検出面から４～30㎝を測る。

遺物はSP07から青磁碗285が、SP12から土師器羽釜286が出土した。14次４区SP02の埋土から土師器皿Ｅ287、皿Ｆ288と瓦質三足塊の脚部289が、14次４区SP08の埋土から土師器皿Ｆ290～292、白磁碗Ⅴ類293が出土した。Ⅳ期新段階に位置づけられる。

SB29
(図32･35･53)
(写真図版12･13)

SB28よりわずかに南で検出した。検出状況から２間×２間の東西棟の総柱建物跡である。SP17－SP24を基準とした主軸方向はN19° Eを測り、SB28と揃う。平面規模は梁行方向２間で4.1m、桁行方向２間で5.4mを測る。平面積は約22.1㎡を測る。柱間寸法は梁行SP19－SP25で北から2.0m、2.1m、桁行SP25－14次４区SP09で東から2.8m、2.6mを測る。SB28と比べて桁行の柱間隔は広い。柱穴の平面形は円形を呈し、大きさは直径15～22㎝、深さは遺構検出面から14～28㎝を測る。遺物は12次４区SP25から須恵器鉢294が出土した。口縁部はＢ２ａ類である。

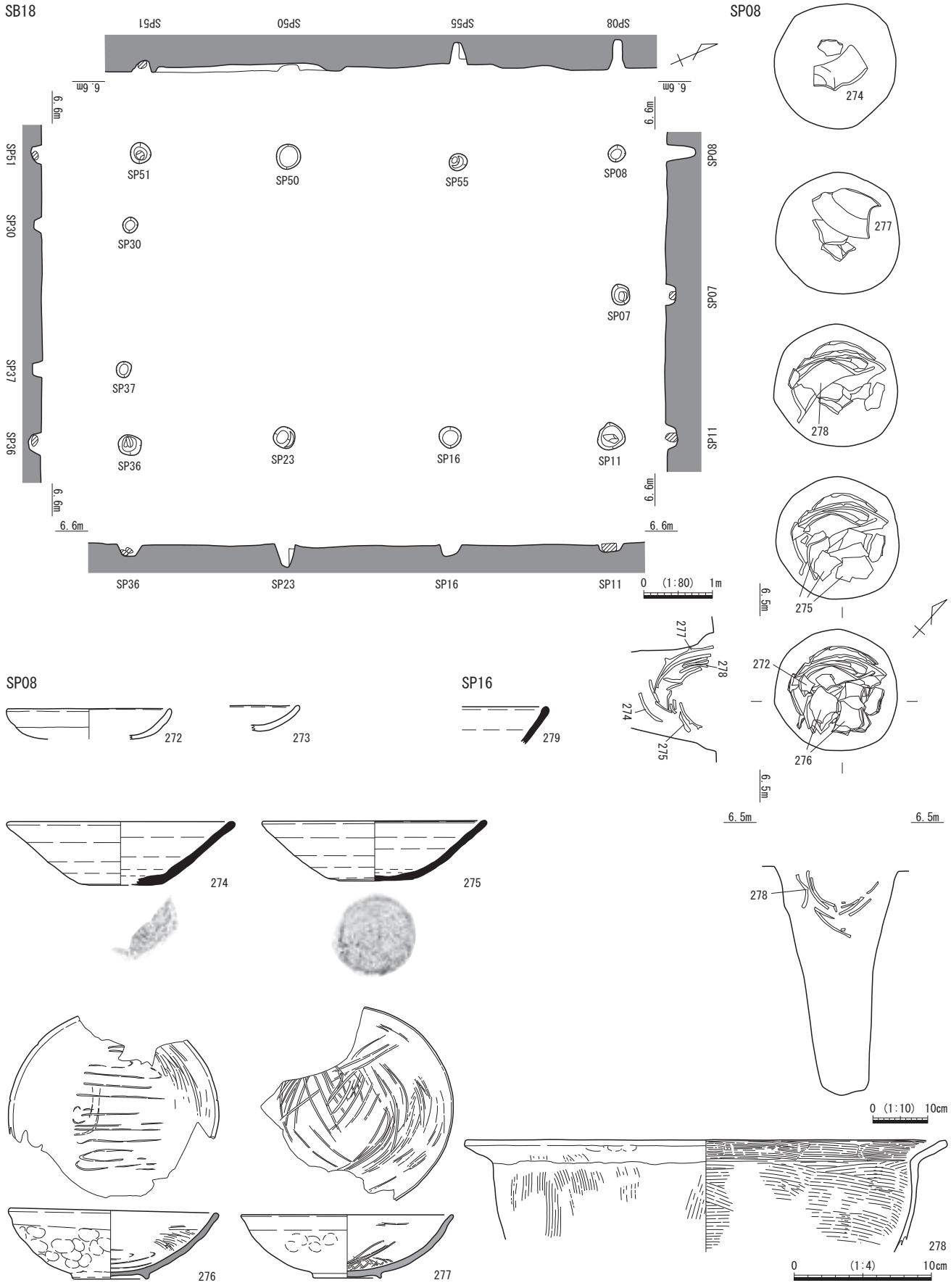
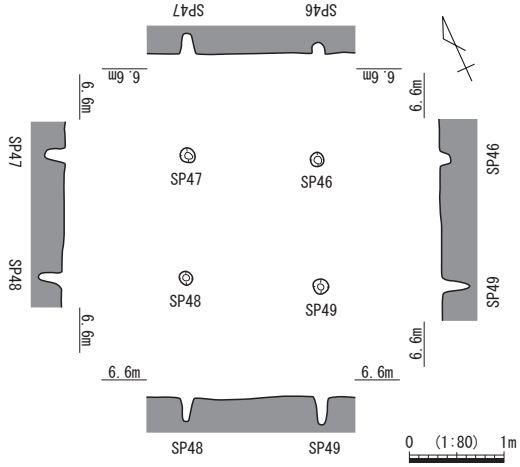
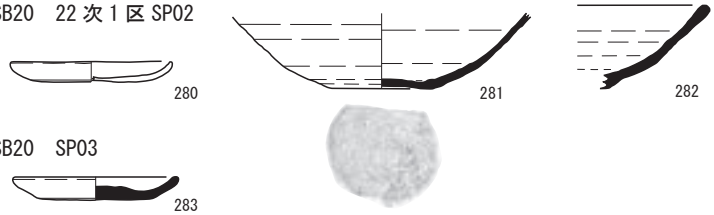


図49　SB18平面・断面図、出土遺物

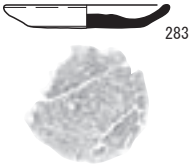
SB19



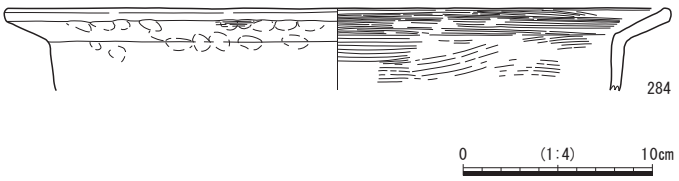
SB20　22 次 1 区 SP02



SB20　SP03



SB20　SP53



SB20

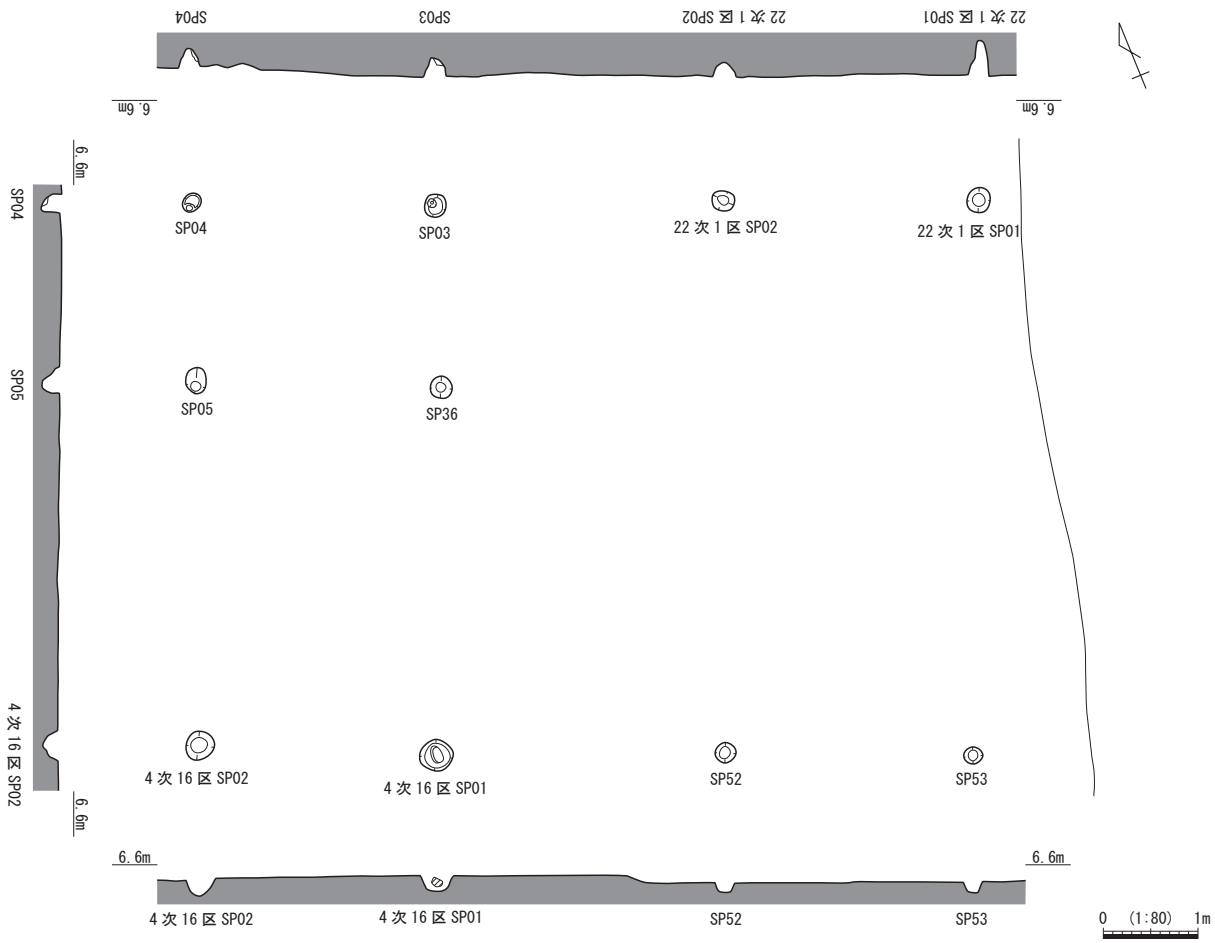


図50　SB19、SB20平面・断面図、出土遺物

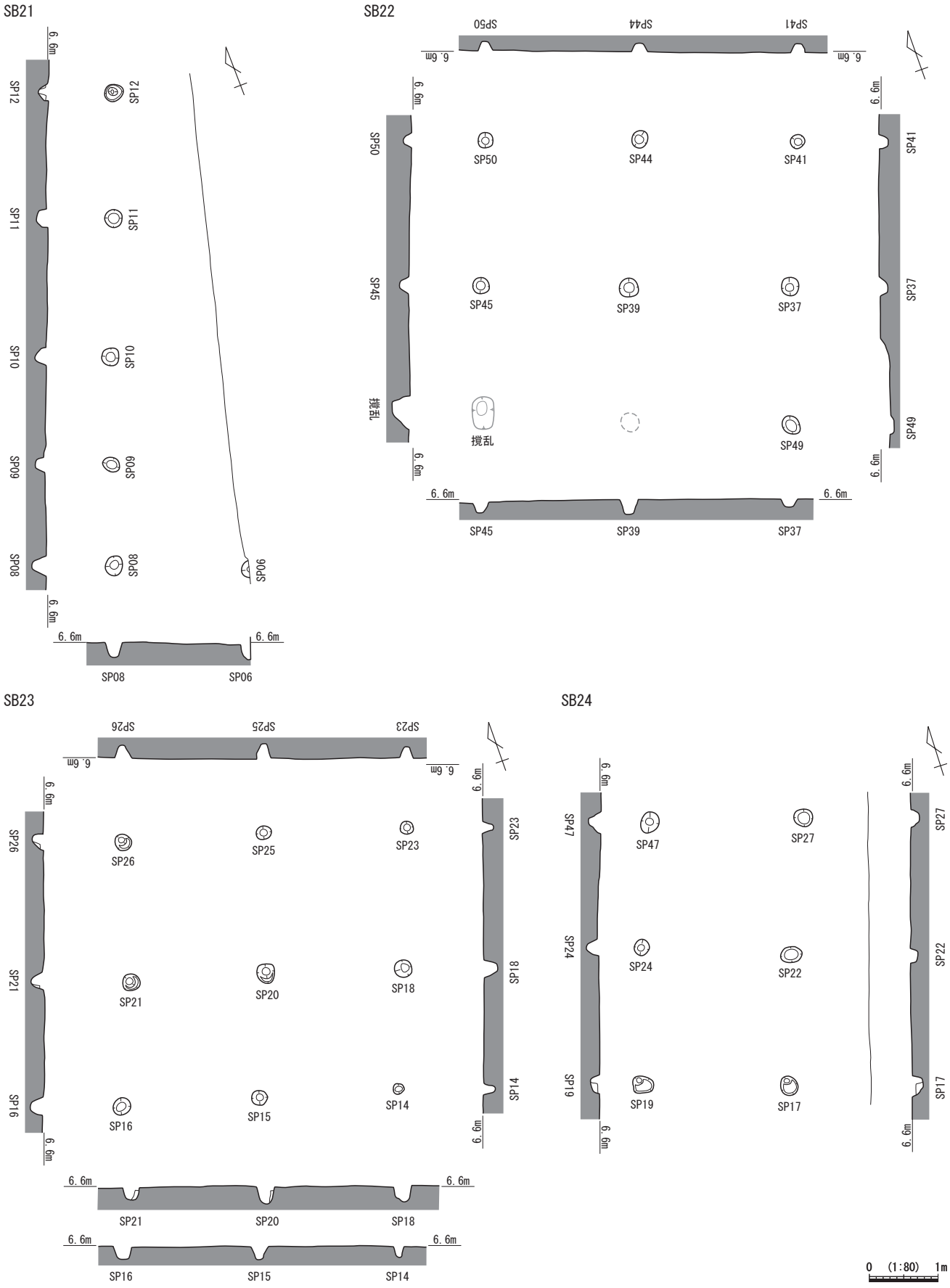
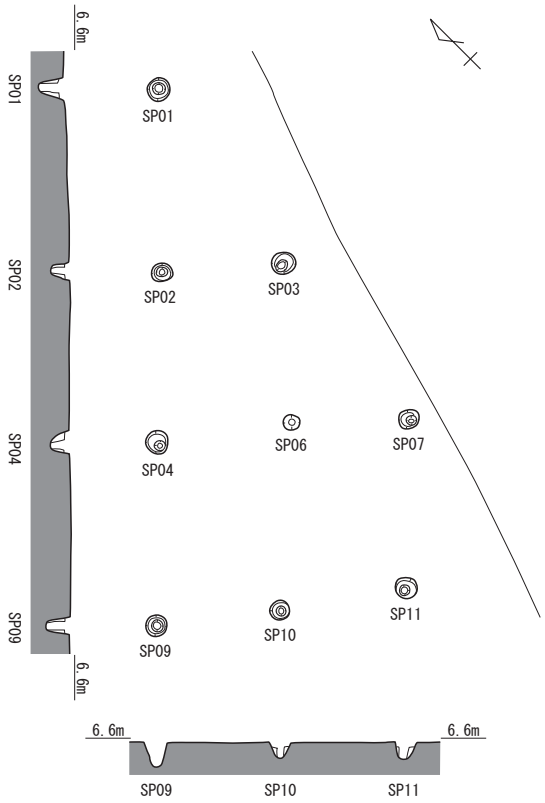
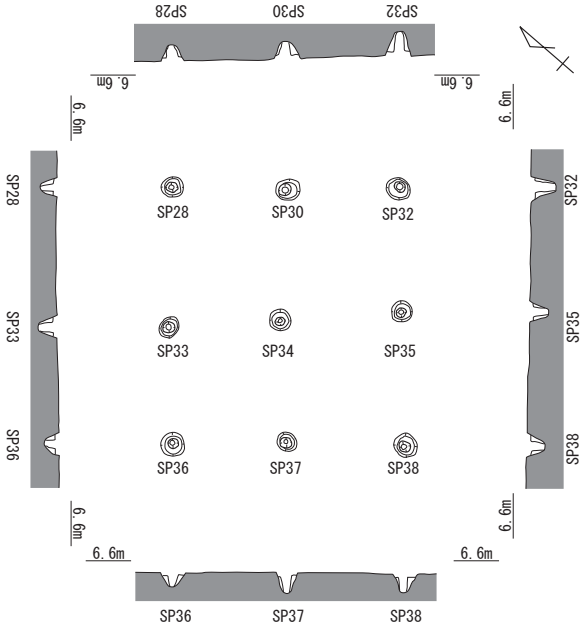


図51　SB21、SB22、SB23、SB24平面・断面図

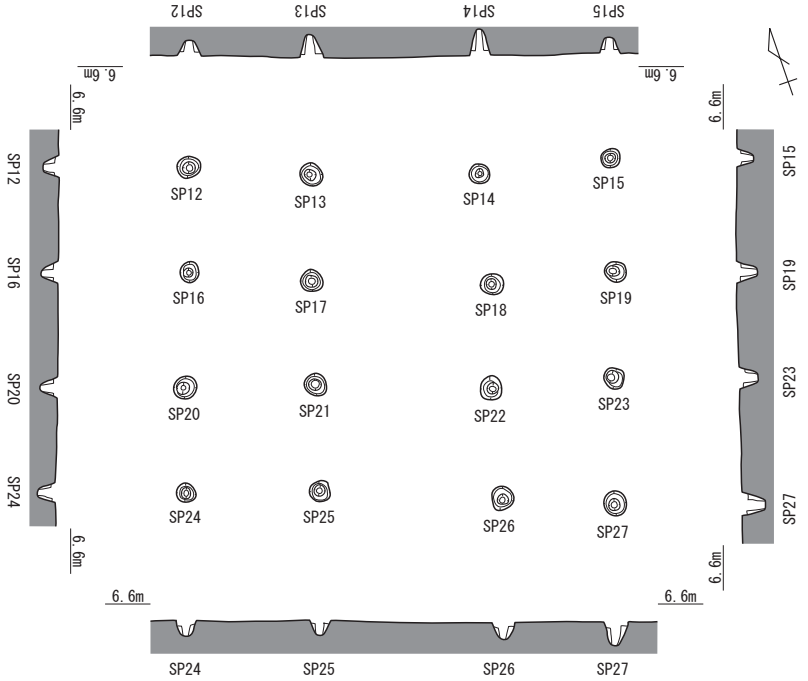
SB25



SB27



SB26



0　(1:80)　1m

図52　SB25、SB26、SB27平面・断面図

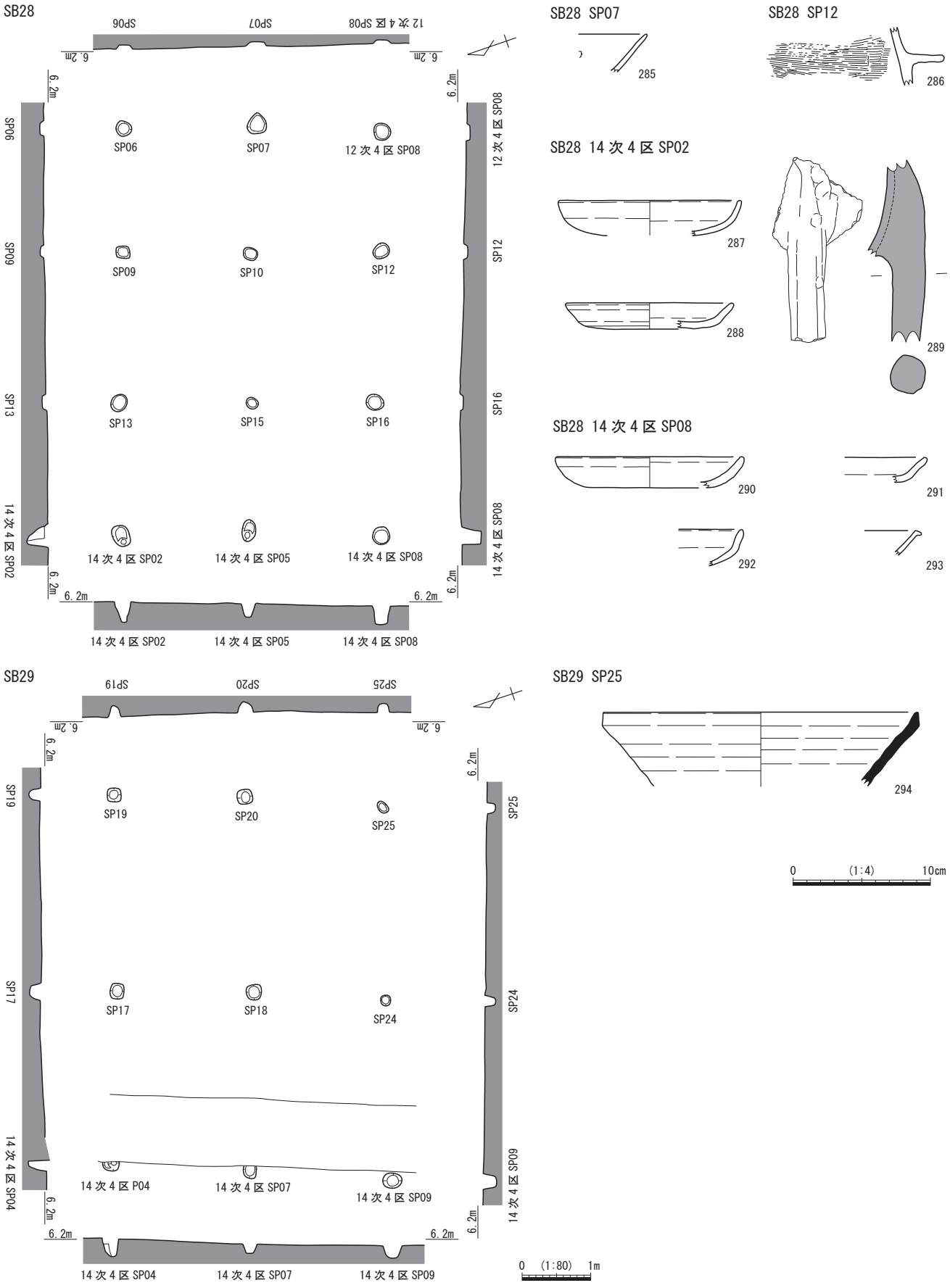


図53　SB28、SB29平面・断面図、出土遺物

SA01
(図32･34･54)
(写真図版3)

SB11の南約2.4mに位置し、SX01を切る。東西方向に4基の柱穴が一列に並ぶ。規模は延長5.2m、柱間隔は西から1.8m、1.7m、1.7mを測る。遺構の主軸はN18°Eに直交する。柱穴の平面形は円形を呈し、直径は19～34cm、深さは22～40cmを測る。北側のSB11もSX01に後行する建物跡であることから、関連する可能性が高い。

SA02
(図32･35･54)
(写真図版10)

SB04の東約2.0mに位置し、関連する可能性がある。南北方向に3基の柱穴が一列に並ぶ。検出した位置からさらに南北方向に延びる可能性を有する。規模は延長3.4m、柱間隔は北から1.7mの等間隔である。遺構の主軸はN18°Eである。柱穴の平面形は円形を呈し、直径は30～40cm、深さは13～16cmを測る。遺物はSP80から土師器小皿295が出土した。Ⅳ期に位置づけられる。

SA03
(図32･34･54)
(写真図版7)

SB17の北約80cmの位置で検出した。東西方向に4基の柱穴が一列に並ぶ。調査区内で対になる遺構を確認できなかったことから柵と判断した。規模は延長4.2m、柱間隔は東から1.2m、1.2m、1.8mを測る。遺構の主軸はN20°Eに直交する。柱穴の平面形は円形を呈し、直径は22～40cm、深さは14～15cmを測る。検出位置からSB17と関連すると考えられる。遺物はSP06から須恵器椀296が出土し、Ⅳ期の可能性が高い。

SA04
(図32･34･54)
(写真図版14)

SB24の北約3mの位置、10次11区と22次1区にまたがって検出した。南北方向に3基の柱穴が一列に並ぶ。検出した位置から東へ広がる建物跡である可能性があるが、ここでは柵と判断した。規模は延長4.0m、柱間隔は2.0mの等間隔である。遺構の主軸はN18°Eである。柱穴の平面形は円形を呈し、直径はいずれも26cm、深さは遺構検出面から6～40cmを測る。

SA05
(図32･34･54)
(写真図版14)

SA04と同様、調査区の東へ広がる建物跡の可能性は十分考えられる。南北方向に4基の柱列が並ぶ。規模は延長6.6m、柱間隔は南から1.95m、2.2m、2.45mを測る。遺構の主軸はN18°EでSA04と揃う。柱穴の平面形は円形を呈し、直径は22～24cm、深さは16～36cmを測る。遺物はSP29から瓦器椀297が出土し、Ⅳ期に位置づけられるか。

SA06
(図32･35･54)
(写真図版12･13)

SB29の東約7.5mの位置で検出した。検出した位置から東へ広がる建物の可能性は高い。南北方向に5基の柱穴が一列に並ぶ。規模は延長7.8m、柱間隔は北から1.7m、2.0m、2.0m、2.1mを測る。遺構の主軸はN20°Eである。柱穴の平面形は概ね円形を呈し、直径は22～32cm、深さは遺構検出面から3～5cmと極めて浅い。

SA07
(図32･35･54)
(写真図版12･13)

SB28・SB29の東60cmに位置し、一連の遺構と考える。南北方向に3基の柱穴が一列に並ぶ。規模は延長3.8m、柱間隔は北から1.8m、2.0mを測る。遺構の主軸はN19°Eである。柱穴の平面形は円形を呈し、直径は16～24cm、深さは10～18cmを測る。

SA08
(図32･35･54)
(写真図版12･13)

SA07の南約6mの位置にある。南北方向に3基の柱穴が一列に並ぶ。規模は延長3.8m、柱間隔は北から1.95m、1.85mを測る。遺構の主軸はN20°Eである。柱穴の平面形は円形を呈し、直径は14～26cm、深さは20～22cmを測る。遺物はSP31から土師器羽釜298が出土した。鍔部の長さは1.3cmを測り、Ⅴ期以降の所産である。

SA09
(図32･35･54)
(写真図版12･13)

SA08の東約1mの位置で検出した。南北方向に4基の柱穴が一列に並ぶ。規模は延長4.95m、柱間隔は北から1.6m、1.4m、1.95mを測る。遺構の主軸はN21°Eである。柱穴の平面形は円形を呈し、直径は14～30cm、深さは10～12cmを測る。

SA10
(図32･35･54)
(写真図版12･13)

SA07の西約2mの位置で検出した。南北方向に4基の柱穴が一列に並ぶ。規模は延長5.15m、柱間隔は北から1.5m、1.75m、1.9mを測る。遺構の主軸はN28°Eである。柱穴の平面形は円形を呈し、直径は14～34cm、深さは10～26cmを測る。

SA11
(図32･35･54)
(写真図版12･13)

SA10の西約2.3mの位置で検出した。南北方向に7基の柱穴が一列に並ぶ。SP27とSP28の間の柱穴は確認できないが、一連の遺構と判断した。規模は延長13.0m、柱間隔は北から1.45m、1.95m、0.95m、4.55m、1.95m、2.15mを測る。遺構の主軸はN21°Eである。柱穴の平面形は円形を呈し、直径は12～24cm、深さは6～18cmを測る。

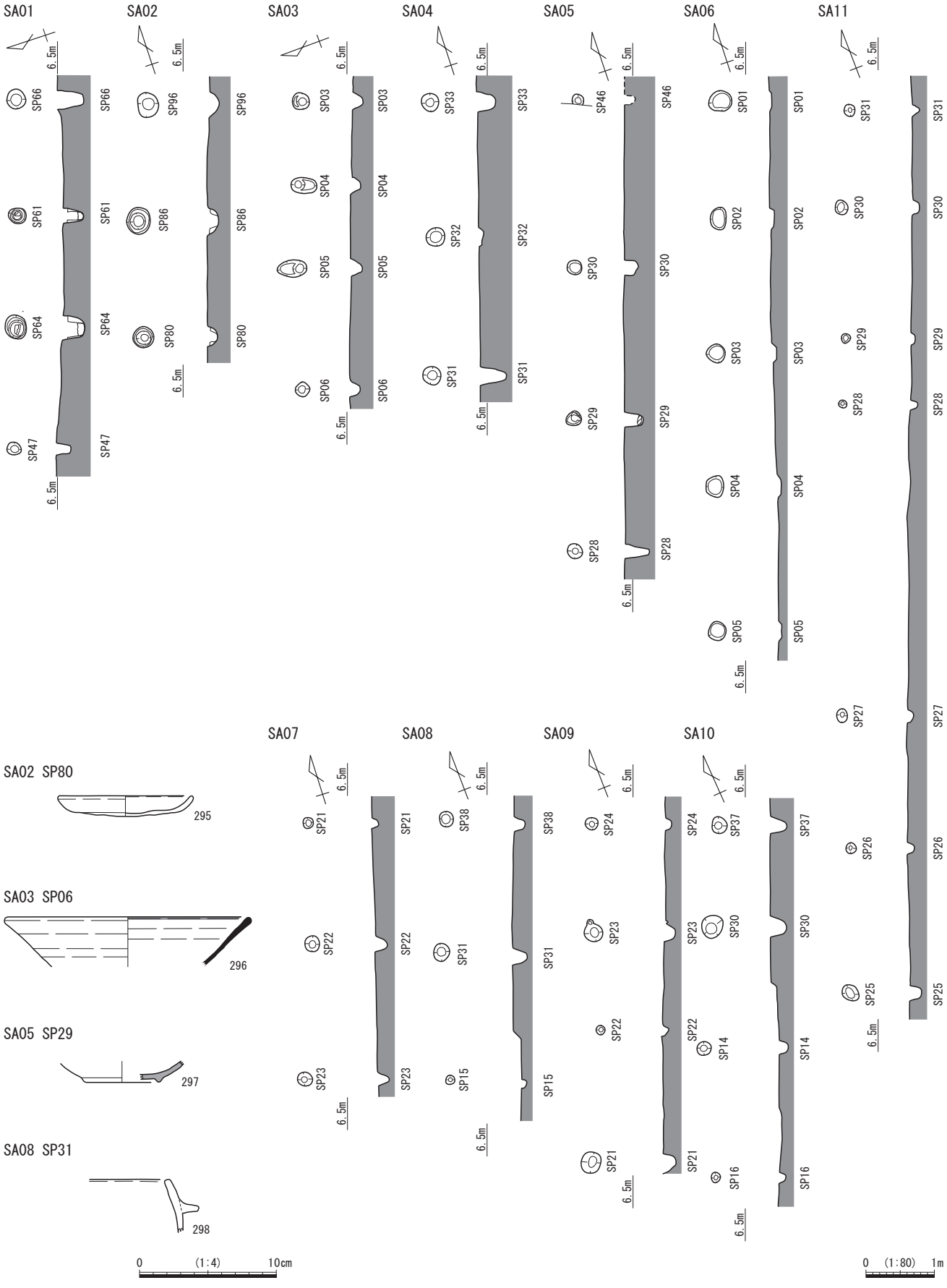


図54　SA01～SA11平面・断面図、出土遺物

ST01
(図32･33･55)
(写真図版5)

SB01の北東隅にあたるSP128から北東に約６ｍの位置で検出した。検出時点では、東側にある浅い土坑との切り合いが判断できず、全域を一つの遺構として掘り下げた。ST01にあたる西側部分のみ別の遺構埋土が認められたことから土層を確認しながら掘り下げを行った。調査によって骨とみられる有機質の粘土化したものを複数検出したことから墓と判断した。掘方は南北1.04ｍ、東西55㎝、深さは遺構検出面から15㎝を測る。主軸はN29° Ｅである。墓内はシルトもしくは粘土で埋まっていたが、木棺等の痕跡は確認できなかった。また、副葬品も出土しておらず、前述した有機質の存在がなければ、墓と評価することは難しい。遺物は全く出土していない。近接するSB01もしくはSB02と同時期である可能性のみ指摘する。

ST02
(図32･35･55)
(写真図版10)

９次２区の西端、SB07の西1.1ｍの位置で検出した。検出プランは南北方向に長い長円形を呈す。掘方は南北1.66ｍ、東西1.08ｍを測る。深さは遺構検出面から26㎝である。主軸はN33° Ｅである。検出時点では土坑と認識していたが、図55に示すように断面に粘土の立ちあがりが確認できた。その部分を慎重に掘り下げたところ、長辺1.1ｍ、短辺50㎝の長方形を呈すプランが把握できた。棺の部材等の直接的な痕跡は確認できなかったが、木棺跡と判断した。木棺痕跡を検出する際に土坑の北端と南端で完形の土師器皿299と301が出土した。棺痕跡との関係から棺外の副葬品と考えられる。棺痕跡の上面からは須恵器甕303の破片がバラバラの状態で出土した。検出位置から棺内ではなく、棺上部に置かれていた可能性が考えられる。

遺物は土師器小皿Ａ299と300、土師器皿Ｆ301、底部糸切りの須恵器椀302、須恵器甕303である。Ⅳ期新段階に位置づけられる。

SE01
(図32･33･56)
(写真図版5)

４次12区SB03の東約2.5ｍの位置で検出した。検出時点で井戸を構成する石組みの上部が露出していた。井戸は湧水層に曲物を設置し、その上部に石組みを構築している。曲物は針葉樹を用い、内径45㎝、高さ40㎝を測る。曲物と石組みの境界には特段の構造は認められず、曲物上部に荷重がかからないように石材を配し、石組みを行っている。石組みには１辺20～30㎝程度の礫を使用し、曲物上部から約85㎝が残存している。掘方は南北2.18ｍ、東西2.1ｍで、深さは石組み天端から1.3ｍを測る。曲物を設置する部分の掘方は曲物径よりも一回り程度直径が広く、その上部は大きく広がり断面形は漏斗状を呈す。掘方の埋土は大きく４層に分けられる。

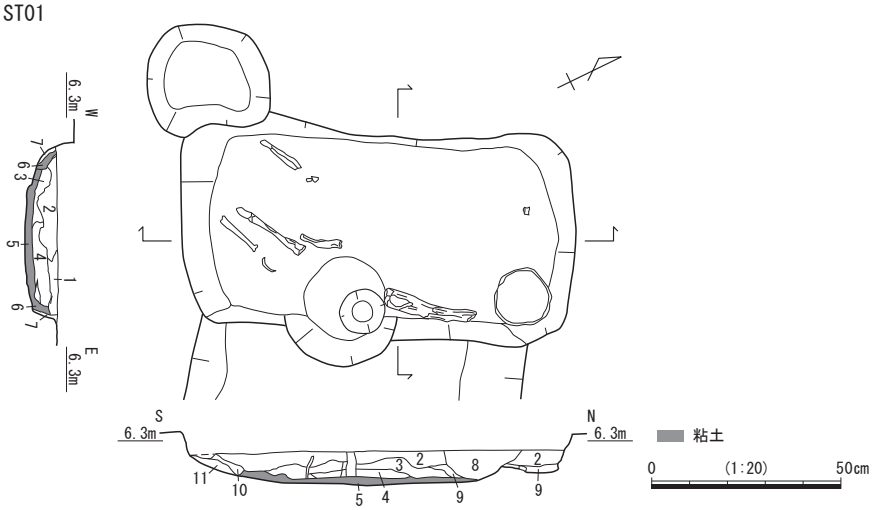
遺物は最下層にあたる曲物内から土師器小皿304と土師器杯307が出土した。307は底部ヘラ切りである。井戸内埋土から土師器皿305・306、瓦質土器羽釜308と須恵器鉢309が出土した。306は皿Ｆで、309の口縁形態は外方へ拡張するＢ２ａ類である。306と309の様相から本遺構は概ねⅣ期新段階に位置づけられる。本遺構に近接する建物跡はSB03のみであることから、SB03から遺物の出土はないものの、検出した位置関係からこの建物と関連する遺構と判断する。後述するSX01も概ね同時期であり、周辺の遺構は相互に関連するものと想定する。

SE02
(図32･34･57)
(写真図版8)

４次14区の調査区東壁沿いで検出した。調査区外に広がるため未調査部分が残る。南に隣接する野井戸１により掘方の一部が切られている。石組み等の井戸側を構成する部材は確認できなかったが、掘方の断面形がSE01と類似する点、埋土の下部でSE01の石組みに使用されているものと類似した石材を確認したことから井戸と判断した。未調査部分があるため全容は不明であるが、掘方の径から推測すると全体の約１／３程度を調査したものと考えられる。検出部の掘方直径1.7ｍ、深さは耕土直下から1.3ｍを測る。隣接する野井戸も調査区外に広がるため全容は不明であるが、検出部の直径1.3ｍ以上、深さは耕土上面から65㎝を測る。掘方内に直径0.9ｍ以上の曲物を設置する。底部は地山である。

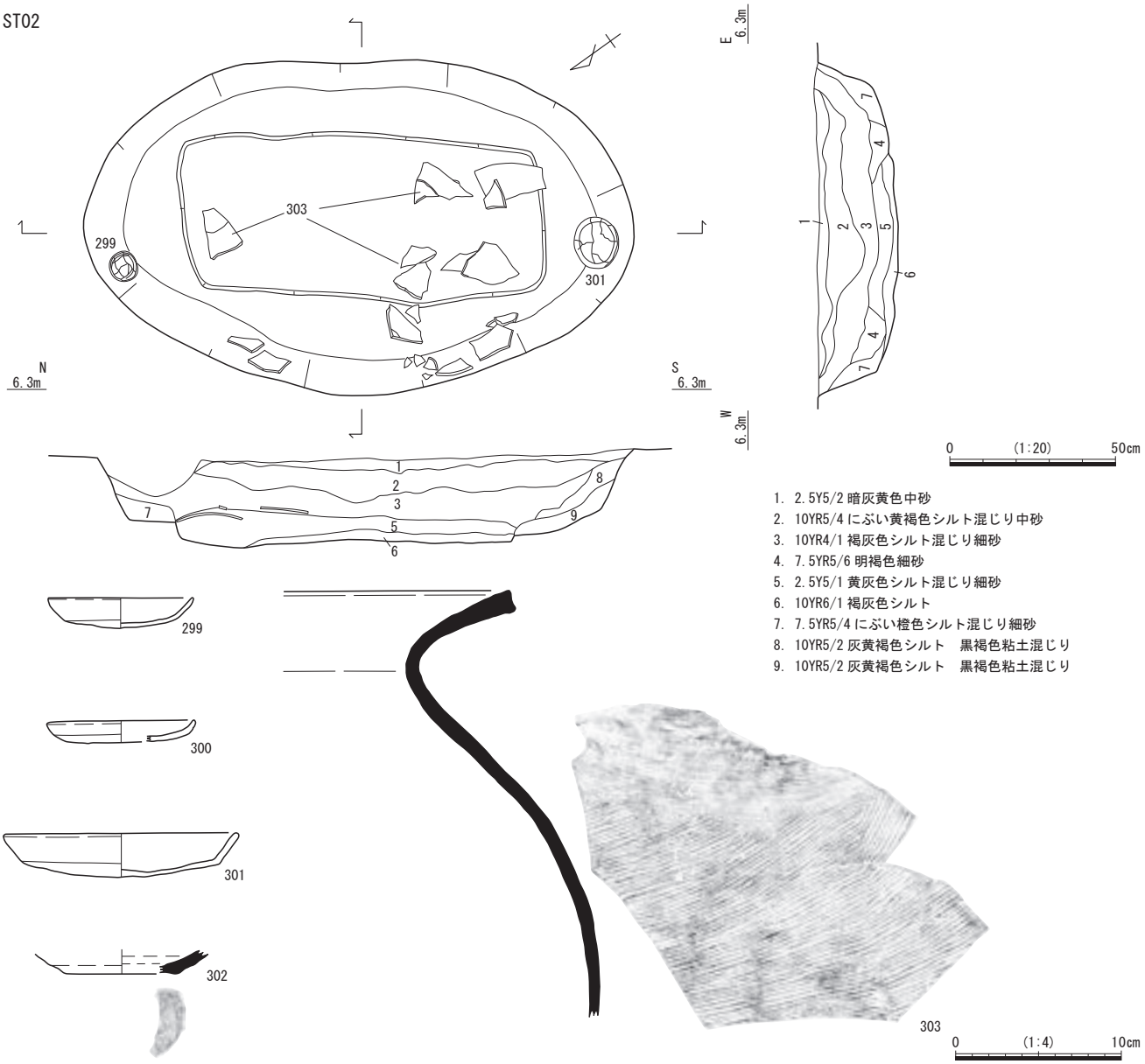
遺物は埋土下層から土師器皿310、杯311と須恵器甕316が出土した。埋土上層から瓦器椀312・313、須恵器椀314・315が出土した。312は和泉型瓦器椀である。近接するSB10・SB11、SX01等と大きな時期差はなく、Ⅳ期新段階と考えられる。

ST01



1. 10YR5/1 褐灰色シルト
2. 10YR3/1 黒褐色＋10YR5/4 にぶい黄褐色シルトブロック
3. 10YR5/1 褐灰色中砂混じりシルト
4. 10YR3/1 黒褐色シルト
5. 2.5Y4/1 黄灰色粘土　有機質
6. 2.5Y4/1 黄灰色粘土　粗砂含む　有機質
7. 10YR4/1 褐灰色細砂　礫含む
8. 攪乱
9. 10YR4/1 褐灰色シルト
10. 10YR5/1 褐灰色粘土　有機質か
11. 10YR5/1 褐灰色粘土　細砂含む

ST02



1. 2.5Y5/2 暗灰黄色中砂
2. 10YR5/4 にぶい黄褐色シルト混じり中砂
3. 10YR4/1 褐灰色シルト混じり細砂
4. 7.5YR5/6 明褐色細砂
5. 2.5Y5/1 黄灰色シルト混じり細砂
6. 10YR6/1 褐灰色シルト
7. 7.5YR5/4 にぶい橙色シルト混じり細砂
8. 10YR5/2 灰黄褐色シルト　黒褐色粘土混じり
9. 10YR5/2 灰黄褐色シルト　黒褐色粘土混じり

図55　ST01、ST02平面・断面図、出土遺物

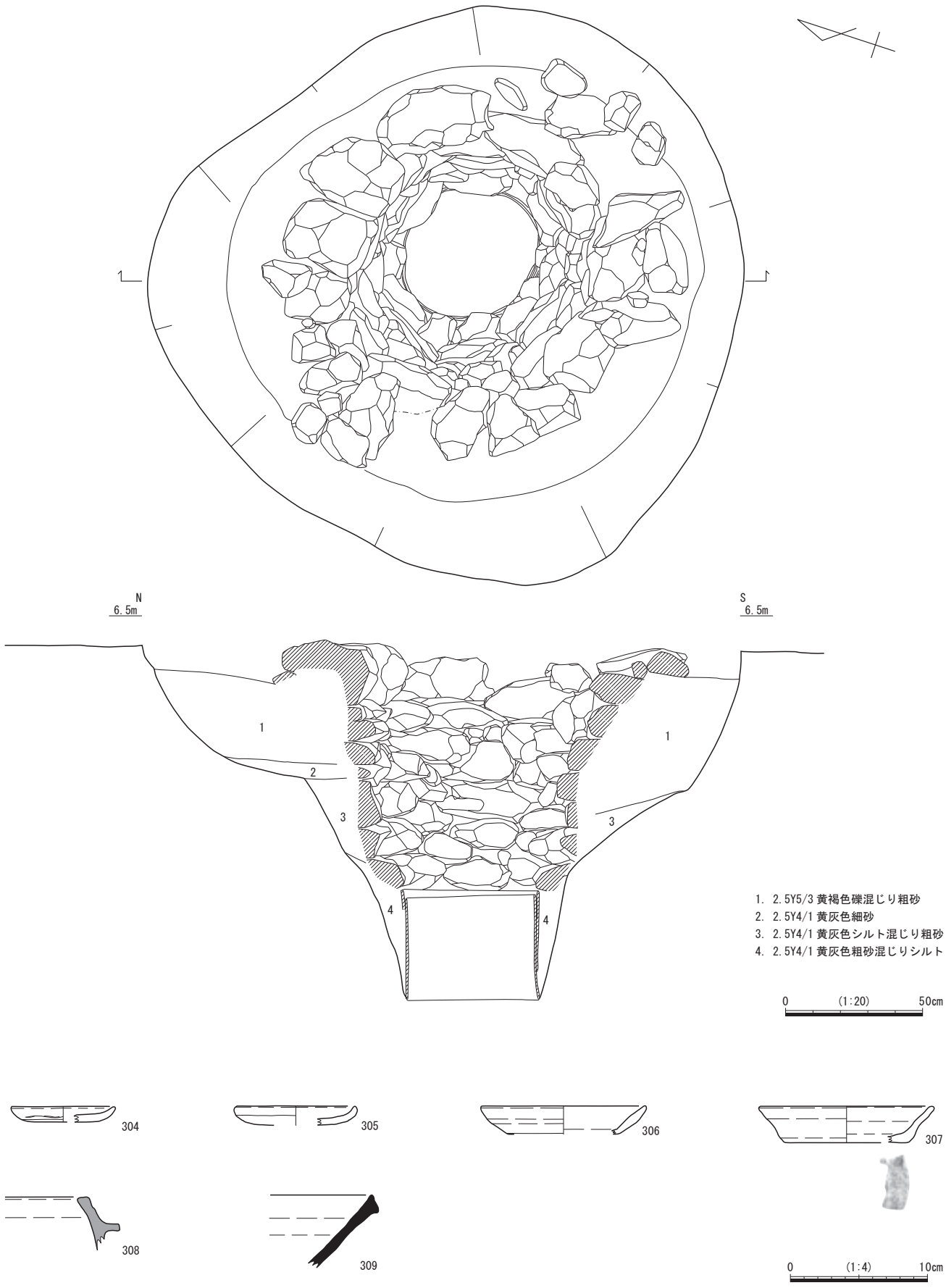
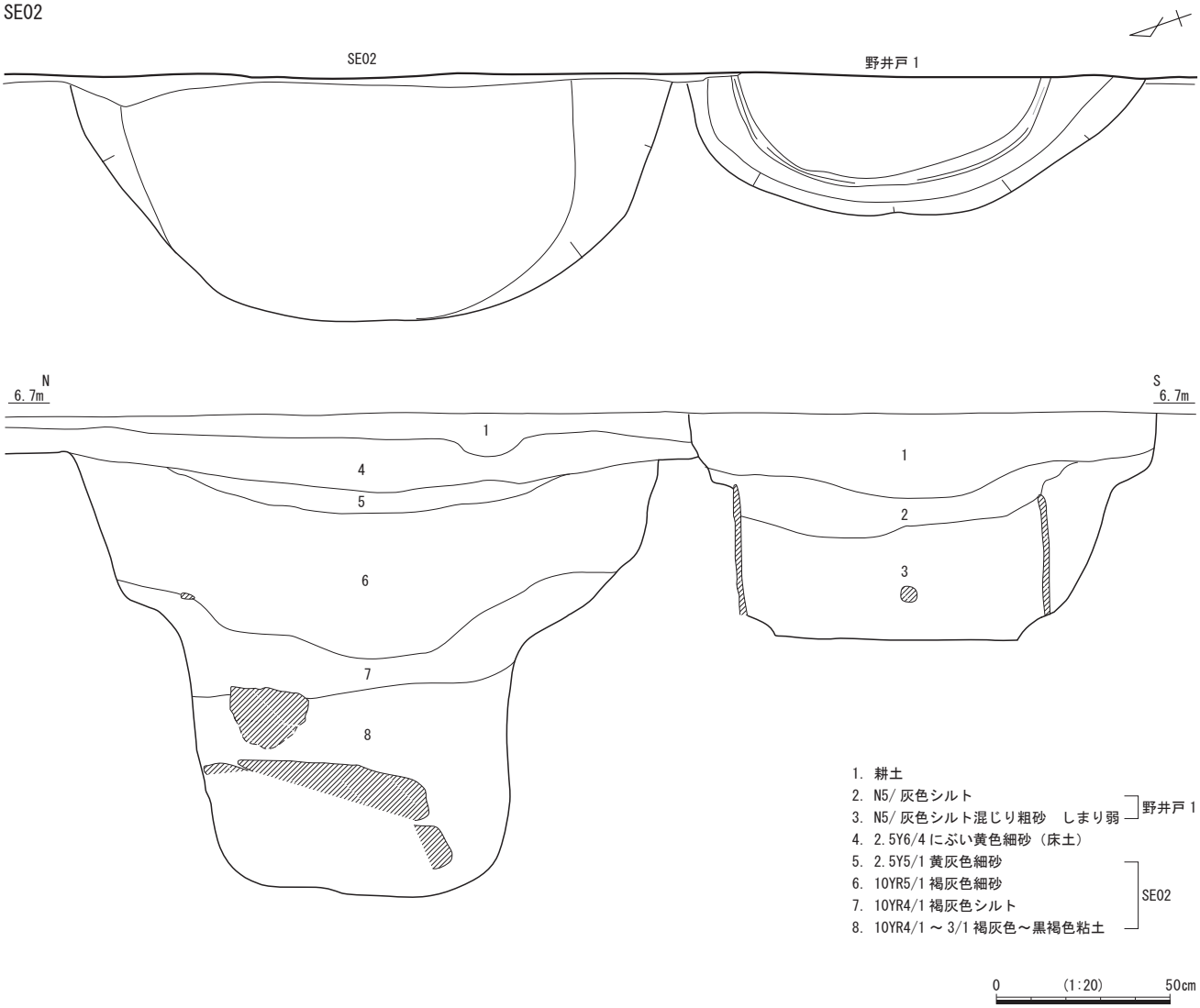


図56　SE01平面・断面図、出土遺物

SE02



SE02

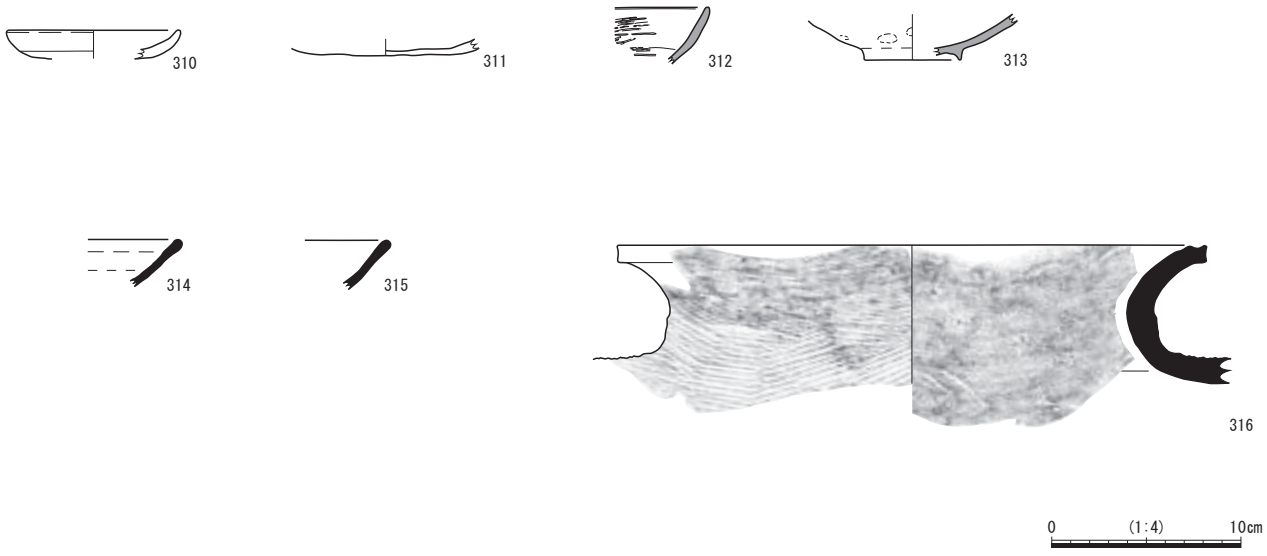


図57　SE02、野井戸1平面・断面図、出土遺物

4次13区 SD02
(図32･33･58)
(写真図版6)

調査区の北東隅、4次12区と13区の交差する部分で検出した水路である。調査前に存在した「北町溝」の前身遺構と考えられる。検出規模で延長5.92m、幅は最大で4.0m、深さは最大で30cmを測る。遺構の南側には幅約70cm、深さ約10cmのSD01と幅約70cm、深さ約20cmのSD03が並行する。溝の埋土はシルトである。溝底からは直径２ｍを超える遺構SX02・SX03を検出した。断面からも明らかなように溝の埋没に先行して掘られた遺構である。埋土は砂礫を主体とし、一気に埋められたような印象を受ける。溝の水量調節等の機能が想定されるが、詳細は不明である。

遺物は瀬戸卸皿317、須恵器椀318、須恵器鉢319・320、備前焼擂鉢321、瓦質土器脚部322が出土した。隣接するSD03からは須恵器椀323・324が出土している。下層のSX02・SX03からは図示に耐えうる遺物の出土はない。須恵器の平高台椀318・324や須恵器鉢319・320が出土していることから、SB01・SB02と同時期の存在もありうるが、周辺で検出した柱穴等と有機的な関連を見出すことができないため、溝の時期は317・321の存在から14世紀以降Ⅴ期と考える。

検出した遺構の状況は上記のとおりであるが、北町水路自体は18次12区の全域が該当する。溝の肩は確認できていないため、その全容ははっきりしないが、13区で検出した規模と大きく変わらないものと推測される。18次12区の現行水路部分は条里の坪境にあたり、かつ近世の岡田村と町坪村の村境に該当する。西側からの水流は18次12区までは条里に沿って流れ、９次４区の西で大きく南側に湾曲する。４次13区を抜けたあと、12区の間を通り、東へ流下する。

4次12区 SD10
(図32･33･58)
(写真図版5)

SE01の東約14mの位置で検出した南北方向に延びる溝である。検出した位置は三十四ノ坪と三十五ノ坪境にあたる。調査区外に延びるため、全容は不明である。検出規模で延長8.08m、幅1.14m、深さは遺構検出面から概ね10cmであるが、南側で一部土坑状に凹む部分で最大35cmを測る。検出した位置は、概ね条里の坪境にあたる。SD10の北側にあたる13区でSD05とSD06を検出した。調査区が離れるため、厳密ではないがSD05は北へ延びないことからSD06がSD10の延長にあたると考えた。SD06の検出部延長は約6.0m、幅2.2m、深さ約10cmを測る。延長部分にあたる９次４区には攪乱が及んでいるため、詳細は不明であるが、一連の溝である可能性を指摘できる。

遺物は須恵器椀325、須恵器鉢326、褐釉陶器壺の耳部327、瓦質土器の脚部328等が出土した。時期を限定できる組成ではないが、明確に時期の異なる遺物を含まないことから、須恵器椀325に基づきⅣ期に位置づけておく。

4次15区 SD01
(図32･34･59)
(写真図版8)

４次15区の東寄りで検出した。４次12区SD10から西へ約55ｍを測り、半町西に位置する。調査区外に延びるため全容は不明であるが、検出部の南北長6.06m、幅1.5m、深さは概ね10cmで、最大41cmを測る。埋土はシルトである。この溝の下位で弥生時代の溝SD03・SD06を検出した。遺物は15区SD01から土師器皿329、白磁碗330、土師器鉢331、瓦質土器蓋332、須恵器鉢333、須恵器壺334、砥石335、器種不明の須恵器336が埋土から疎らな状態で出土した。

9次2区SD02
(図32･35･59)
(写真図版10)

延長線上に位置する。検出規模は延長3.4m、幅約95cm、深さは概ね10cmを測る。溝はやや湾曲しており、一連の遺構である可能性は有すものの断定はできない。遺物は土師器小皿337～341、皿Ｆ342・343が出土した。329は底部が丸底となる皿Ｏである。330は口縁部口禿のⅨ類、335はチャート系の石材の砥石であり、3面に使用痕が認められる。336は底面が平滑に整えられ、上部は欠損するため全容は不明であるが、硯の類と推測する。332は瓦質土器としたが、当該時期の遺物としては不明である。時代が遡り黒色土器である可能性も残る。小皿337～341は口縁部をヨコナデする小皿Ａである。

４次15区SD01と９次２区SD02は間に未調査部分があるため、検出状況では一連の溝となるかどうかは不明であるが遺物の様相は皿Ｏ、白磁Ⅸ類、小皿Ａ、皿Ｆであり総じてⅤ期の様相を示し、時期的にも近似している。

4次12区
SD15
(図32･33･34･59)
(写真図版5)

東西方向に延びる溝で、北町水路の南約55m、「どろどろ溝」の北約54mの位置で検出した。検出した位置から坪内の半町を区画する溝と考える。延長部は４次14区SD02・４次16区SD01に当たるとみられ、未調査部分を挟むため確証はないが、半町の位置で共通していることから一連の遺構と判断した。12区SD15は延長8.76m、幅約50㎝、深さは遺構検出面から８㎝を測る。14区SD02は延長6.2m、幅約30㎝、深さ５㎝を測る。16区SD01は延長4.9m、幅約25㎝、深さ５㎝を測る。西側にかけて徐々に浅くなり、16区中央部以西では検出できない。溝の埋土を掘り下げた段階でSB20を構成する柱穴を検出したことから、溝はSB20に後出する。

遺物は16区SD01から近世２a期に位置づけられる備前焼擂鉢の口縁部344を図示しえたのみで、他の遺構からは図示に耐える遺物の出土はなかった。遺物は江戸時代のものであり、後世の耕作に伴う溝である可能性も残るが、調査前の田畑の境とは異なることから条里に伴う遺構と判断したい。なお、４次14区SD02の北で検出したSD01が調査前の耕作地の境にあたる溝である。

4次12区
SD04
(図32･35･60)
(写真図版6)

SB03と平面的に重なる位置で検出した。南側は調査区外に延びるが、北側は東側で屈曲し収束する。平面プランはSB03と重なるが、柱穴の直接の切り合い関係はない。検出時点では平面プランにSE01と重なる部分もあり、井戸に伴う溝の可能性を考えたが、掘り下げにより明確に分離した。検出規模で総延長13.7m、幅約90㎝、深さは遺構検出面から10㎝を測る。SX01を取り囲むように巡ることから有機的な関連が考えられるが、性格は不明である。遺物は、土師器皿F345と小皿A346が出土した。Ⅳ期新段階に位置づけられる。

4次12区
SD05
(図32･34･60)

SE01の北東約２mの位置で検出した。主軸はN30°Wで条里地割に対して大きく斜行する。北側は調査区外に延び、南側は旧地形の段差により消滅する。SD08を切り、SD07に切られる。検出規模で延長4.9m、幅約１m、深さは遺構検出面から約10㎝を測る。本遺跡では条里地割に斜行する遺構は弥生時代等、時代が遡るものが多いが本遺構は中世段階の遺物しか出土していない。

遺物は、土師器小皿A347、土師器皿F348、須恵器鉢349、土師器羽釜350、瓦質土器羽釜351等が出土した。出土量が少なく断定はできないが皿Fと349の口縁部分類がB３a類であることを踏まえると概ねⅣ期新段階に位置づけられよう。

4次12区
SD08
(図32･34･60)

SD05に切られる遺構である。一部枝分かれする箇所も存在する。延長３m、幅16㎝、断面形は浅い皿状を呈し、深さ約５㎝と浅い。遺物は、埋土中から白磁碗352が出土した。

4次12区
SD17
(図32･33･36･60)
(写真図版4)

SB02の西端の柱通りと重なる位置で検出した。SD17がSB02を切る。溝の主軸はN18°E、検出規模で延長5.54m、幅1.06m、深さは最大で14㎝を測る。南側は延長部が確認できない。

遺物は土師器皿F353・354、須恵器椀355・356・357、瓦質土器羽釜358、くの字口縁堝359と360が出土した。出土状況はまとまったものではなく、埋土中から散漫に出土した。皿F、くの字口縁堝の出土から概ねⅣ期新段階に位置づけられる。

4次12区
SD18
(図32･33･36･60)
(写真図版4)

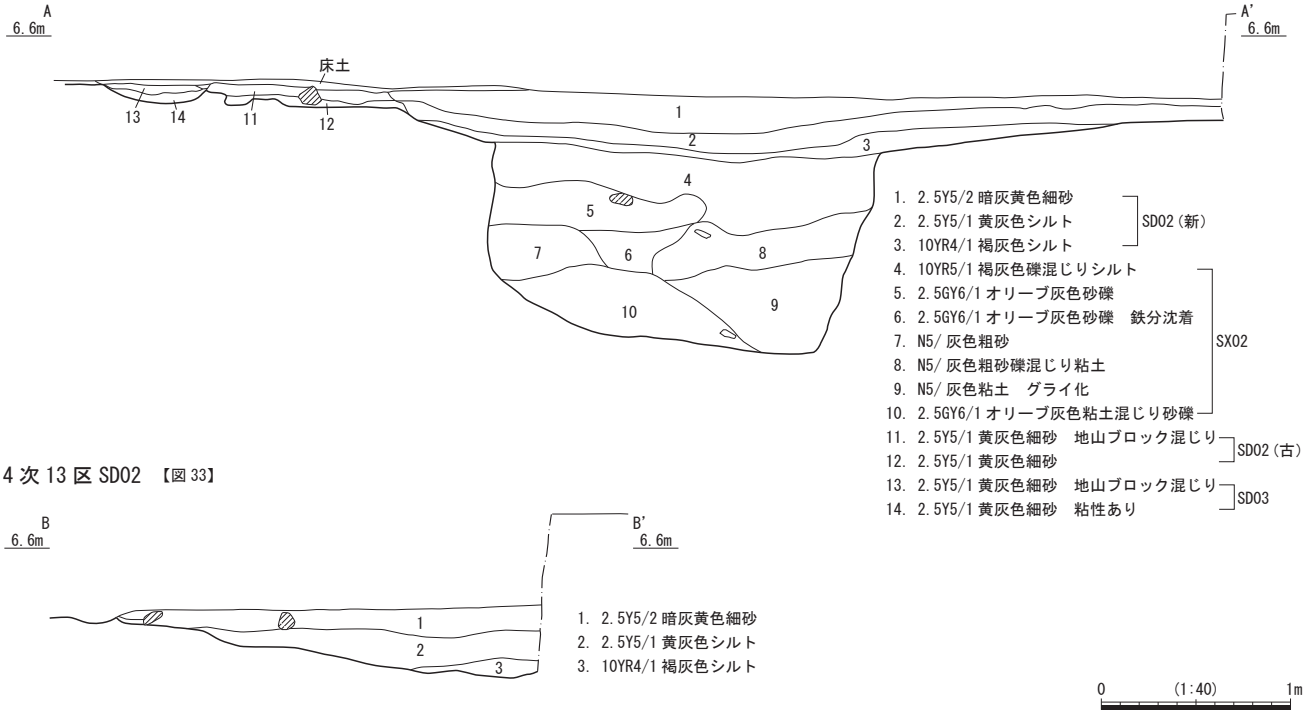
SD17の東１mの位置で検出した。平面プランはSB02と重なり、SD18の埋土を掘り下げた段階でSB02の柱穴を検出したことから、SD18はSB02に後行する遺構である。検出規模は延長6.68m、幅1.18m、深さは最大で72㎝を測る。図示に耐えうる遺物の出土はなかった。

4次12区
SX01
(図32･35･61)
(写真図版6)

SB03と平面的に重なる位置で検出した。柱穴の直接の切り合いからSB03に後行する遺構である。平面形は隅丸長方形を呈し、長辺3.7m、短辺2.36m、深さは22㎝を測る。埋土はほぼ１層で底面に薄くシルトが確認できる。遺物は埋土上層を中心に出土した。

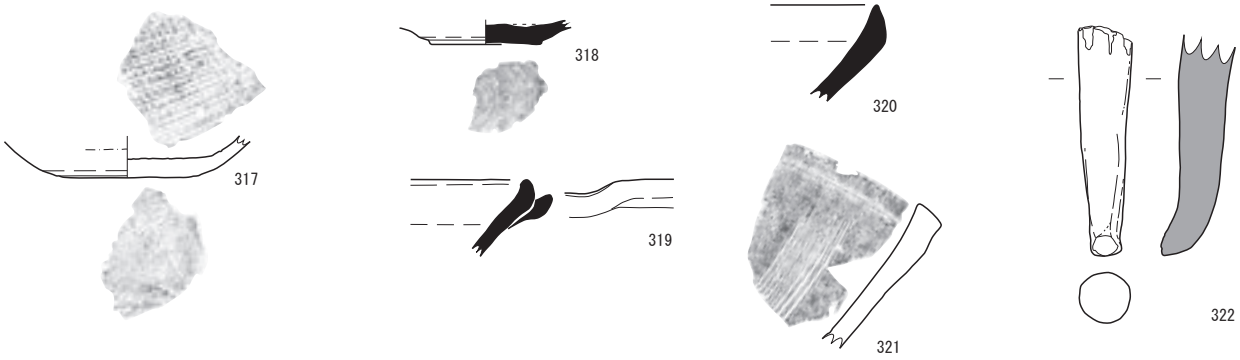
図示しえた遺物は、土師器小皿361・362、皿363・364、白磁碗365、須恵器鉢366・367である。小皿は全て口縁部をヨコナデする小皿A、362は丸底で皿Oに類似する形状である。363は皿O、364は平底の底部で、口縁部は丸みをもち、皿Fと皿Oの様相を合わせ持つ。底部には板状圧痕が認められる。白磁碗は、見込みの釉を掻きとるⅧ類である。須恵器鉢の口縁部形態はB２a類である。これらの遺物の様相からⅣ期新段階を含みつつ、Ⅴ期古段階に位置づけられる。

4 次 13 区 SD02・SD03・SX02 【図 33】

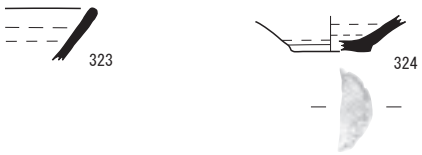


4 次 13 区 SD02 【図 33】

4 次 13 区 SD02



4 次 13 区 SD03



4 次 12 区 SD10 【図 33】

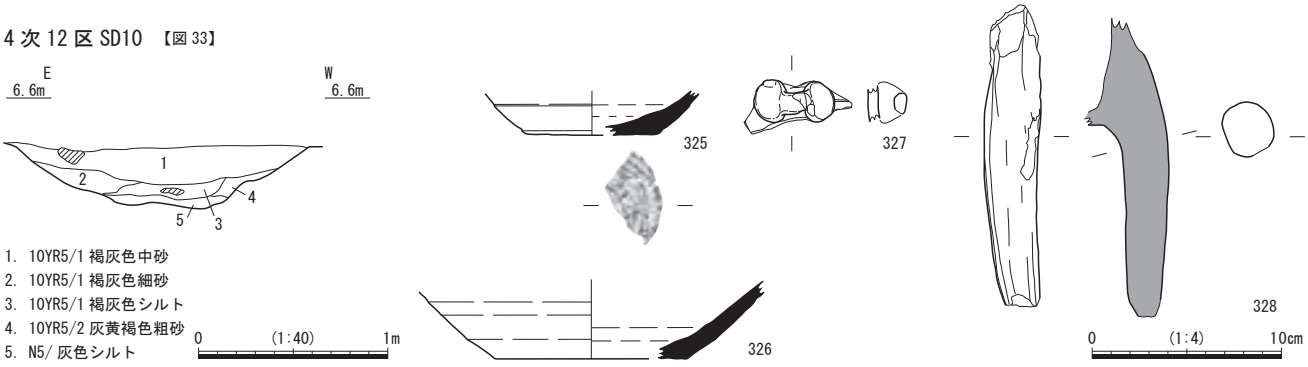
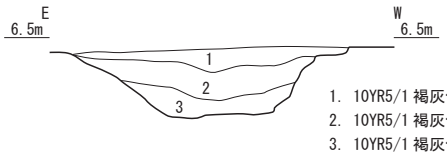
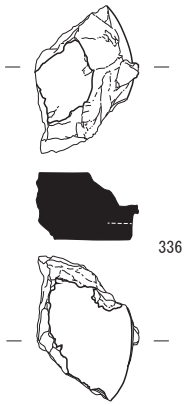


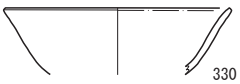
図58　4次13区SD02、SD03、SX02、12区SD10断面図、出土遺物

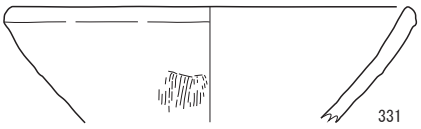
4次15区SD01 【図34】

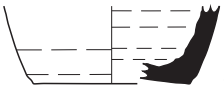


1. 10YR5/1 褐灰色細砂
2. 10YR5/1 褐灰色シルト混じり細砂
3. 10YR5/1 褐灰色シルト

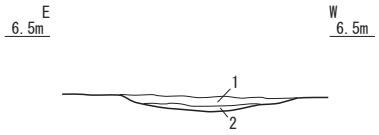




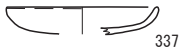


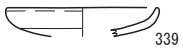


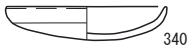
9次2区SD02 【図36】

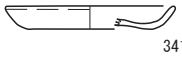


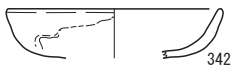
1. 10YR5/2 灰黄褐色細砂
2. 10YR5/2 灰黄褐色シルト混じり細砂

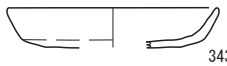












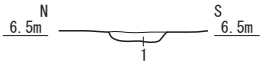
4次12区SD15 【図36】

1. 2.5Y5/1 ～ 5/2 黄灰色～暗灰黄色細砂

4次16区SD01 【図34】

1. 2.5Y5/1 黄灰色細砂

4次14区SD02 【図34】



1. 2.5Y5/1 黄灰色細砂

0 (1:40) 1m

0 (1:4) 10cm

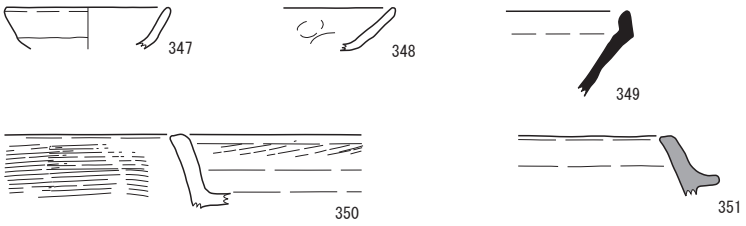
図59 4次15区SD01、9次2区SD02、4次12区SD15、14区SD02、16区SD01断面図、出土遺物

4次12区SD04 【図35】

1. 10YR6/1 褐灰色細砂

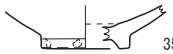
4次12区SD05 【図33】

1. 10YR5/1 褐灰色細砂　下位鉄分沈着
2. 10YR4/1 褐灰色細砂



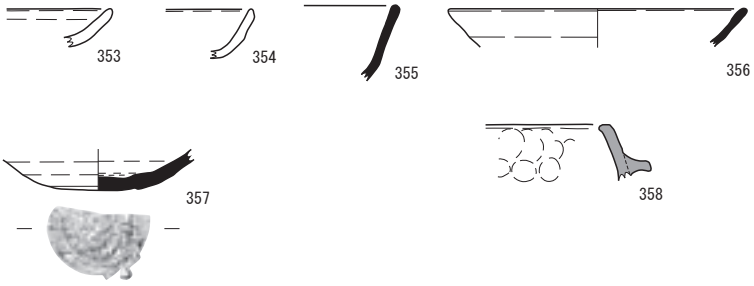
4次12区SD08 【図33】

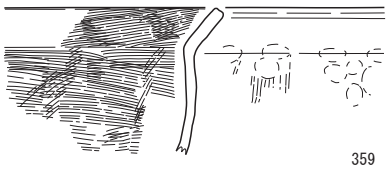
1. 2.5Y5/1 黄灰色細砂

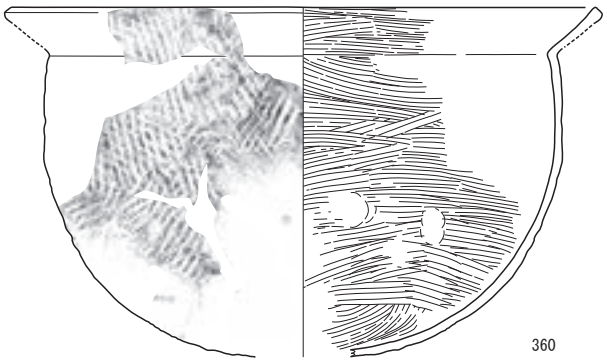


4次12区SD17 【図36】

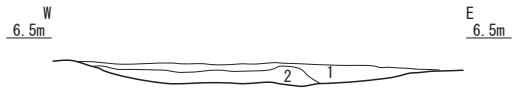
1. 2.5Y5/1 黄灰色シルト混じり細砂







4次12区SD18 【図36】



1. 10YR6/1 褐灰色シルト
2. 10YR4/1 褐灰色シルト

0　(1:40)　1m

0　(1:4)　10cm

図60　4次12区SD04、SD05、SD08、SD17、SD18断面図、出土遺物

4次12区 SX02
(図32·33·61)
(写真図版6)

12区東端で検出した。調査区の西側全域が該当する。調査区外に広がるため、全容は不明であるが、検出規模で延長14.4m、幅8.0m、深さ20cmを測る。埋土は概ね１層である。遺構北側の埋土中にはこぶし大の礫が含まれており、中央部分には集石が認められた。集石の範囲は東西５m、南北３mであるが、その性格は判然としない。

遺物は須恵器鉢368・369、皇宋通寶370、備前焼擂鉢371である。須恵器鉢の口縁部形態はＢ３ａとＢ３ｂで、南側で検出した13区SD02と同時期のⅤ期に位置づけられよう。

4次12区 SX03
(図32·33·36·61)
(写真図版6)

SB01と平面的に重なる位置で検出した。SB01を切る遺構である。調査区外に広がるため、全容は不明であるが、検出規模で長辺6.34m、短辺2.3m、深さ37cmを測る。遺物は比較的まとまった量が出土したが、出土状況に一定の傾向は認められない。

図示した遺物は、土師器小皿372～377、皿378・379、須恵器皿380・381、青白磁合子蓋382、白磁碗383、瓦器椀384・385、須恵器椀386～388、土師器堝389である。小皿372・373はいずれも底部ヘラ切り、その他は全て小皿Ａである。378・379は皿Ｅ、384・385は和泉型瓦器椀であるが、いずれも炭素の吸着は弱い。389は薄手のくの字口縁の鉢形堝で、外面にはタテハケ、内面には口縁部までヨコハケを施す。Ⅳ期古段階に位置づけられる。

4次14区 SX01
(図32·34·62)
(写真図版8)

SB11の西側で検出した。SB11を構成する柱穴がSX01を切ることから、SB11に先行する遺構である。完掘時には切り合った２基の遺構であることが判明したが、検出時点では切り合いは明確ではなく、南北約5.7m、東西約5.3mの範囲を一つの遺構と認識した。SX01－１を掘り下げるとSX01－２の肩を検出した。実際の切り合いは図62と異なりSX01－１がSX01－２を切っている。遺物はSX01－２からまとまって出土したが、廃棄に伴うものと考えられる。

遺物は、土師器小皿390、皿Ｆ391、須恵器椀392～394、瓦器椀395、白磁碗396、須恵器鉢397・398、須恵器甕399である。Ⅳ期新段階に位置づけられる。SX01の西90cmに位置するSP46の柱痕跡から須恵器椀400が出土した。平高台が残り、SX01よりも先行する柱穴の可能性がある。

4次12区 SK05
(図32·36·63)
(写真図版4)

SB01の北1.5mの位置で検出した。主軸はN65°ＥでSB01の主軸方向とは大きく振れる。検出規模は長辺40cm、短辺22cm、深さは遺構検出面から18cmを測る。埋土は単層で、須恵器椀401が出土した。Ⅳ期の遺構と推測する。

4次14区 SK01
(図32·34·63)

SB12の北10cmの位置で検出した。平面形は円形を呈し、直径は約1.75m、深さは遺構検出面から27cmを測る。埋土中から散漫に遺物が出土した。

遺物は、土師器小皿Ｒ402、須恵器椀403～405である。402は底部ヘラ切りで、405は平高台である。Ⅳ期の遺構と考える。

12次4区 SK01
(図32·36·63)
(写真図版12)

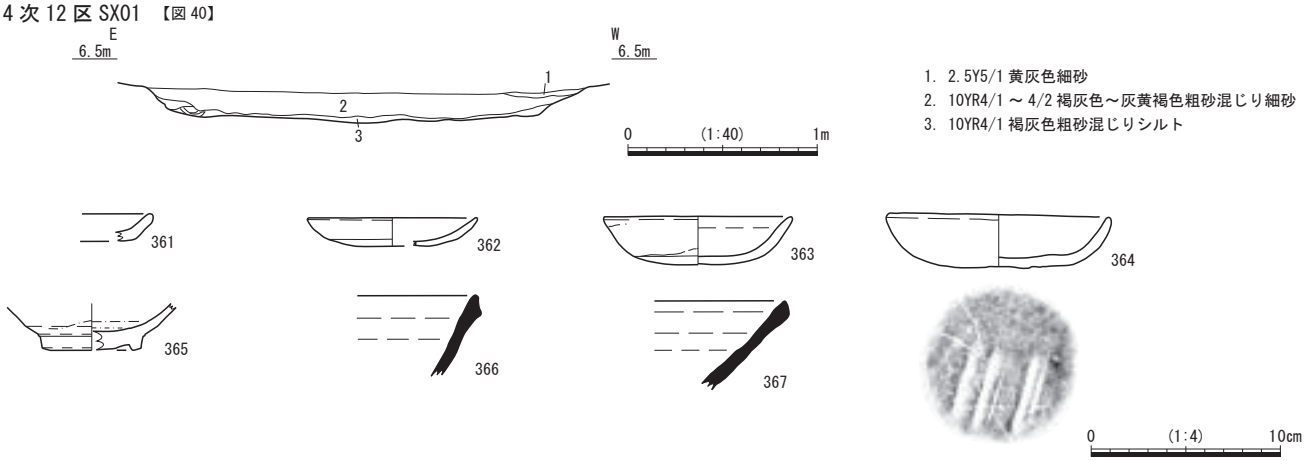
ST02の西3.5mの位置で検出した。同じ規模・形状の土坑12次４区SK02と並列して存在する。SK01とSK02の間隔は50cmである。SK01の主軸はN25°Ｅである。平面規模は長辺72cm、短辺56cm、深さは遺構検出面から41cmを測る。遺物は土坑底面から土師器皿Ｆ407と瓦質三足羽釜408が出土した。小皿406も本来は底面付近にあった可能性はあるが、埋土中からの出土である。

Ⅳ期新段階以降に位置づけられる。「羽釜と皿」を用いた地鎮めの様相が嶋谷和彦によって報告され、主として15世紀初頭から17世紀初頭の和泉・河内・紀伊北部を中心に見られる資料とされている（嶋谷1992）。SK01出土資料は時期的に遡るが、姫路市古網干遺跡においても同時期の三足羽釜に土師器を伴う事例が確認されており、播磨においても同様の習俗が存在した可能性が考えられる。Ⅳ期新段階に位置づけられる。

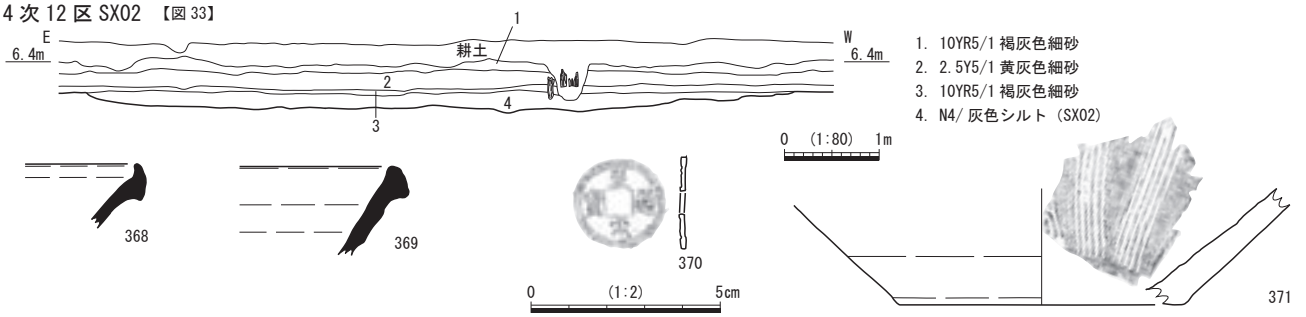
柱穴

調査では多くの柱穴を含むピットを確認したが、遺物を伴うものは少なく、かつ図化に耐える遺物を出土したものはさらに限られる。出土遺物が確認できた土坑・柱穴等については、巻末に一覧としてまとめたが、ここでは、柱穴から出土した遺物のうち、図化に耐えうるものについて報告する。建物に伴う遺物については既に報告しているため、ここで扱う柱穴は建物や柵として

4次12区SX01 【図40】



4次12区SX02 【図33】



4次12区SX03 【図37】

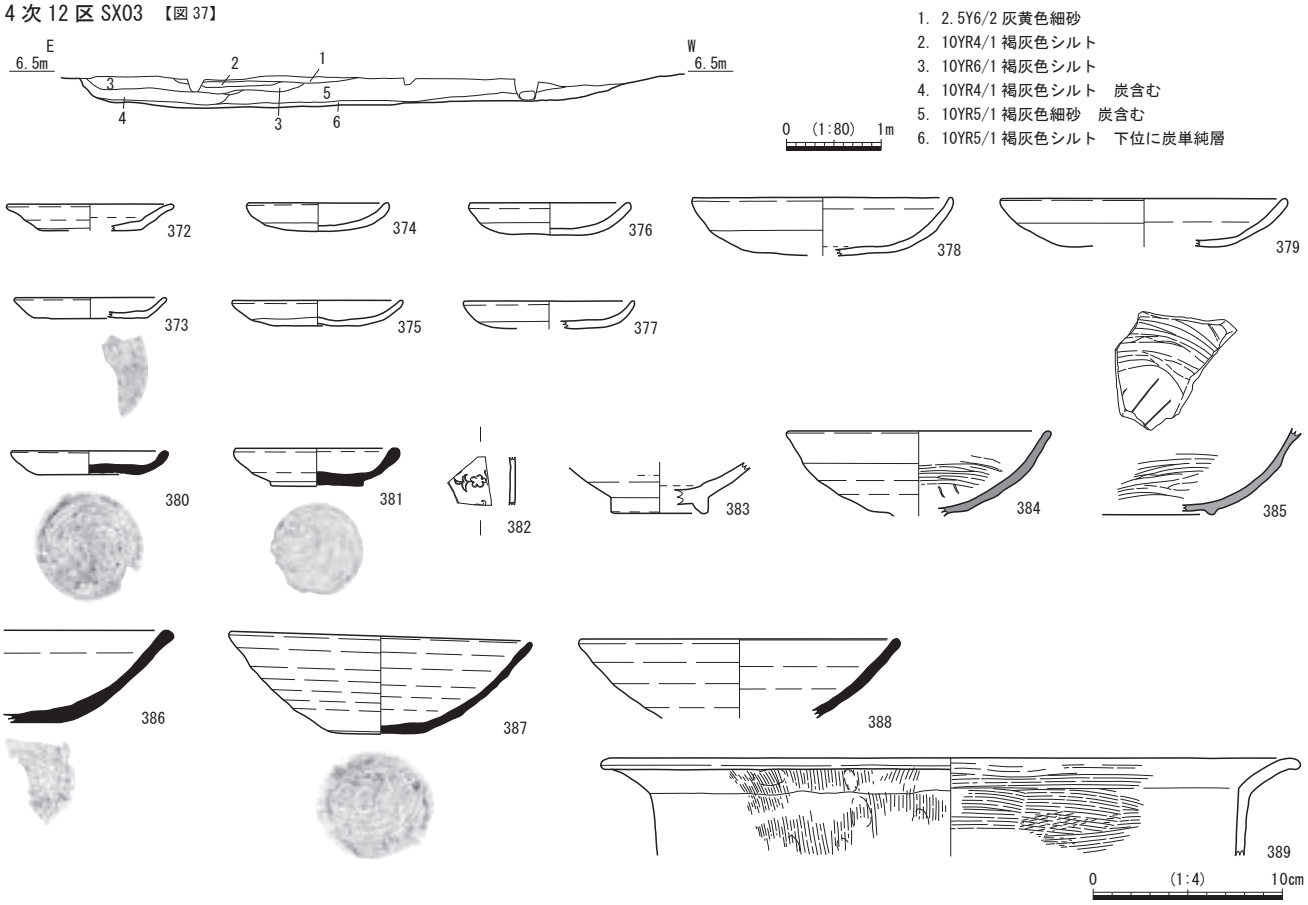


図61　4次12区SX01、SX02、SX03断面図、出土遺物

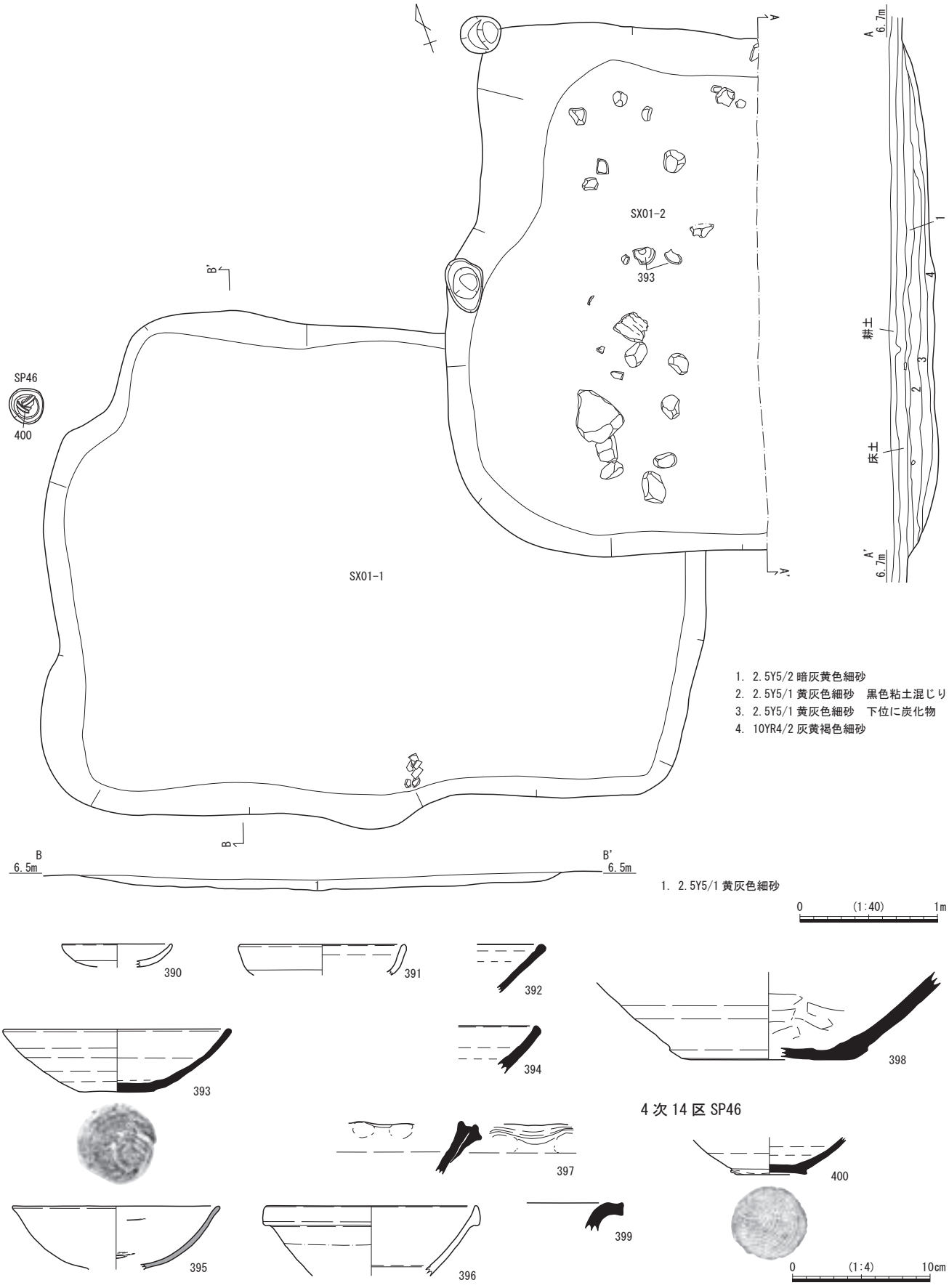
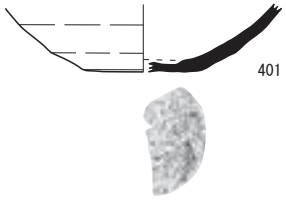


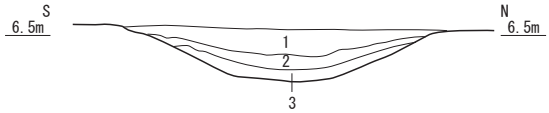
図62　4次14区SX01平面・断面図、出土遺物

4 次 12 区 SK05 【図 36】

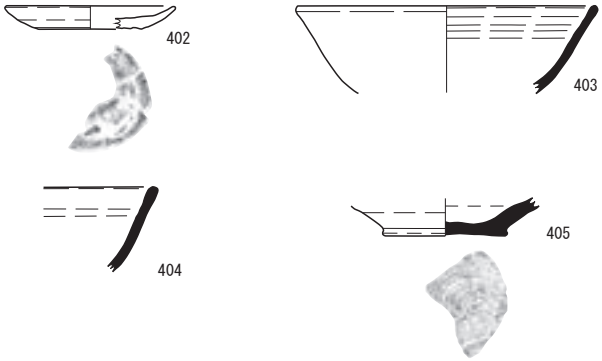
1. 2.5Y5/1 黄灰色細砂



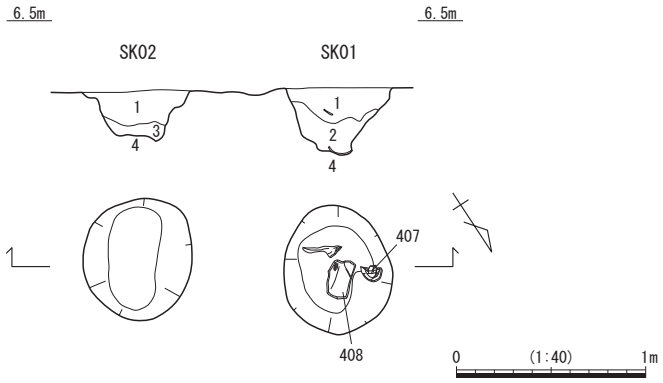
4 次 14 区 SK01 【図 34】



1. 2.5Y5/2 暗灰黄色細砂　土器含
2. 2.5Y5/2 暗灰黄色細砂　1 層より粘質増
3. 10YR5/1 褐灰色シルト混じり細砂



12 次 4 区 SK01・SK02



1. 10YR6/3 にぶい黄色細砂 黒褐色ブロック混じる
2. 10YR3/2 黒褐色細砂
3. 10YR4/1 褐灰色細砂
4. 10YR3/2 黒褐色シルト

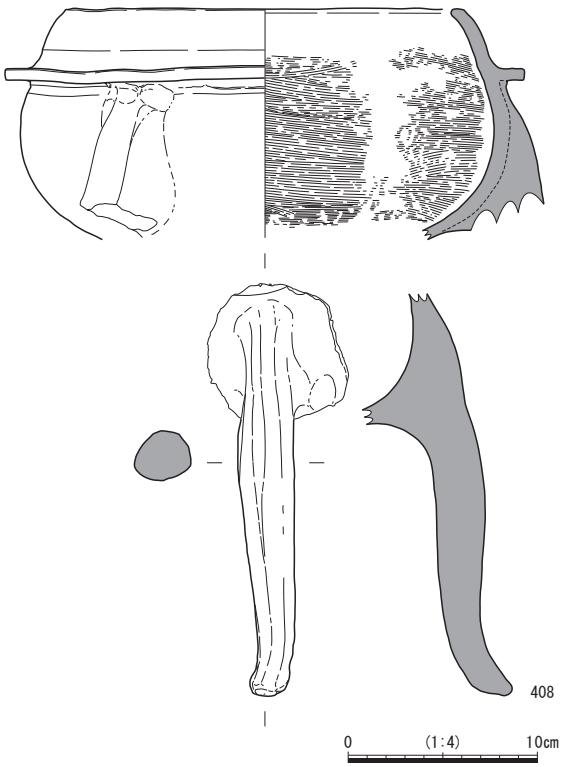


図63　4次12区SK05、14区SK01、12次4区SK01・SK02断面図、出土遺物

のまとまりが判明しない独立した遺構である。そのため、遺構単体としては積極的な意味を見出せるものではないが、調査区全体で捉えた場合には、他の検出遺構の時期を推定するための手がかりとして重要な資料となりうる。柱穴の検出位置は図示にとどめ、法量等については一覧表にまとめている。ここでは出土遺物のみの記載を行う。

4次12区
(図33･34･35･36･64)

SP23、SP63、SP73、SP79、SP93からは須恵器椀409～412、416が出土した。409・410は底部平高台で12世紀後半以前に位置づけられる。SP80からは土師器小皿Ａ413～415が出土した。口縁端部はナデにより三角形もしくはやや丸みを帯びた形状を呈す。SP96から土師器小皿Ａ417、底部ヘラ切り土師器杯418、須恵器甕419が出土した。SP102、SP139、SP149からは須恵器椀420、426、427、428が出土した。SP108からは和泉型瓦器椀421が出土した。豆田遺跡出土の瓦器椀は炭素吸着が甘く白っぽい個体が多いが、421は炭素が良好に吸着している。SP111から小皿Ｒ422、須恵器皿423、須恵器椀424が出土した。SP132から小皿Ａ425が出土した。SP163から小皿Ａ429と須恵器椀430が出土した。

4次13区
(図33･64)

SP08からくの字口縁堝431が出土した。外面はタテハケ、内面は口縁部までヨコハケを行う。

9次2区
(図36･65)

SP10、SP11、SP16、SP30から土師器小皿Ａ432・435、小皿434・436、皿Ｅ433が出土した。434と436は摩滅のため確認できないが、432・435と同一形態であり小皿Ａであろう。SP42から出土した小皿437～441は摩滅のため判断できない個体もあるが小皿Ａであろう。442と443は皿Ｅである。444は須恵器椀の口縁部である。SP45、SP50からは土師器小皿445と446が出土した。SP71から土師器小皿Ａ447と須恵器鉢448が出土した。SP73から土師器皿Ｆ449が、SP74からは瓦質羽釜450と土師器羽釜451が出土した。SP76、SP77から土師器小皿Ａ452～455が出土した。SP79から須恵器椀の口縁部456が出土した。SP84から土師器皿Ｆ457が出土した。

22次1区
(図34･65)

建物跡の検出も多い調査区であったが、遺物量は相対的に少ない。SP40から土師器小皿Ａ458、SP48から須恵器椀459が出土した。

遺構に伴わない遺物

一覧表では便宜上、包含層としたが遺構に伴わないと同義で使用しており、実際には表採資料や耕土中からの遺物も含んでいる。

4次12区
(図66)

土師器小皿460、瓦器椀461・462、瀬戸合子463、青磁碗464～466、白磁碗467、褐釉壺468、須恵器壺469、土錘470が出土した。460は小皿Ａで口縁部のヨコナデの強い当たりにより、立ち上がり部分がわずかに段となる。461は畿内産の瓦器椀ではない。類例として加西市横尾遺跡SE01の資料があげられる（加西市教委2001）。在地産である可能性もあるが、７個体図示されているものの報告書では産地不明とされている。462は畿内産の瓦器椀で、楠葉産であろうか。463は外面に線刻が見られ、灰釉がかかる。青磁碗はいずれも龍泉窯の製品である。469は肩部に突帯が巡る相生産の壺であろう。470は外面に凹線が巡り、有溝タイプの土錘である。

4次14区
(図66)

土師器小皿471、瓦器皿472、須恵器皿473、白磁碗474、土師器羽釜475を図化した。471は底部ヘラ切り、472は和泉型瓦器皿で、内面に施されたミガキの幅は約３㎜と幅広い。475は長胴形の胴部に短い鍔の付く羽釜である。鍔の貼りつく位置で分類でき、475は鍔が口縁部にかからないＡタイプの製品である（姫路市教委2020）。

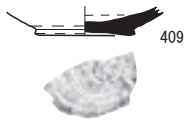
4次16区
(図66)

476は北宋銭の淳寧元寶、477は須恵器稜椀の口縁部であろう。

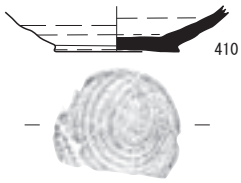
柱穴、包含層の遺物の時期は、単体での出土も多く、明確に時期を決定することはできないが、概ねⅣ期を中心とする時期である。一部須恵器平高台椀、稜椀、短顎羽釜といった時代が遡る遺物の出土は認められるが、建物等の遺構でこの時期に該当するものはない。

10次11区については、遊離した状態も含めて遺物の出土がほとんどなく、条里地割の方位から大きく振るSB25とSB27の帰属時期は全く不明である。また、13区SD02と12区SX02は時期が下るが、その他の遺構は総じてⅣ期の所産であろう。

4 次 12 区　SP23



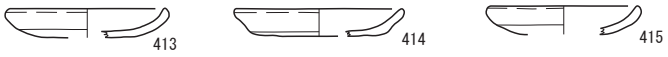
4 次 12 区 SP63



4 次 12 区 SP73

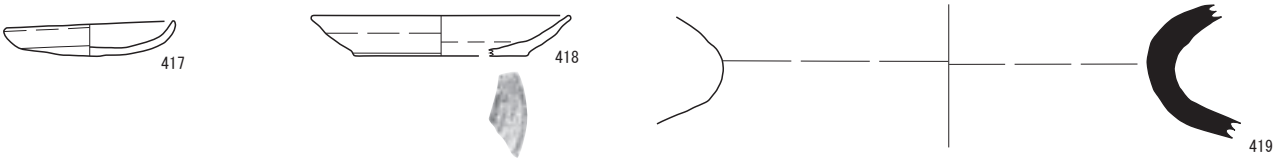
4 次 12 区 SP79

4 次 12 区 SP80



4 次 12 区 SP93

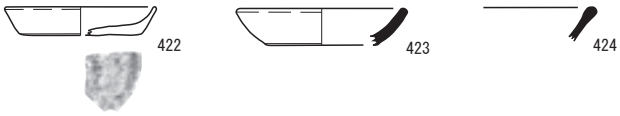
4 次 12 区 SP96



4 次 12 区 SP102

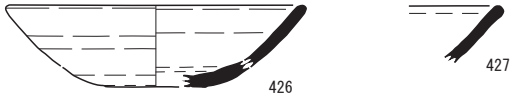
4 次 12 区 SP108

4 次 12 区 SP111

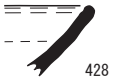


4 次 12 区 SP132

4 次 12 区 SP139

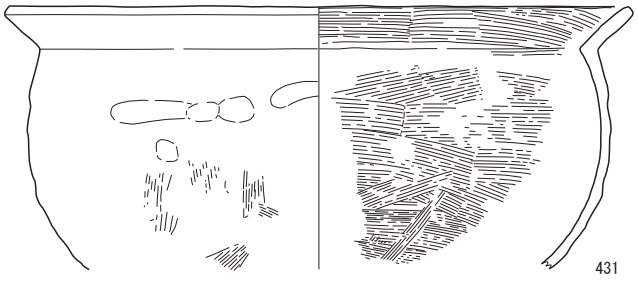


4 次 12 区 SP149



4 次 12 区 SP163

4 次 13 区 SP08



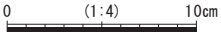


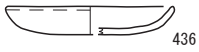
図64　北東部柱穴出土遺物①

9 次 2 区 SP10

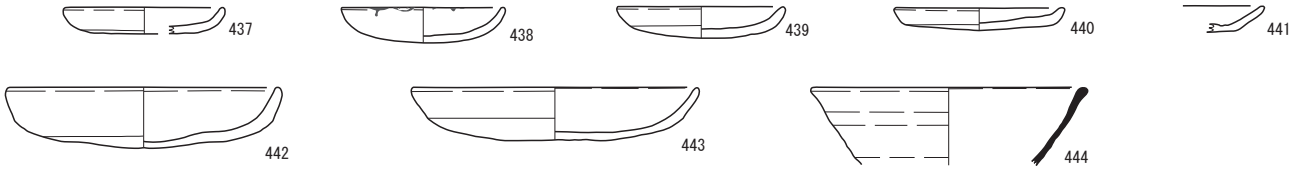
9 次 2 区 SP11

9 次 2 区 SP16

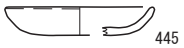
9 次 2 区 SP30



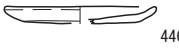
9 次 2 区 SP42



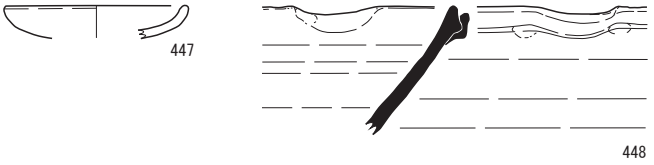
9 次 2 区 SP45



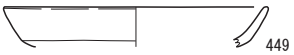
9 次 2 区 SP50



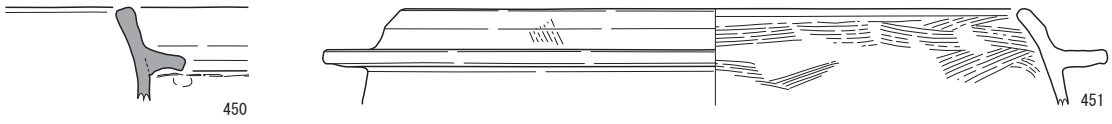
9 次 2 区 SP71



9 次 2 区 SP73

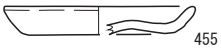


9 次 2 区 SP74

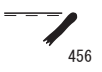


9 次 2 区 SP76

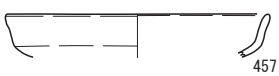
9 次 2 区 SP77



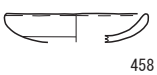
9 次 2 区 SP79



9 次 2 区 SP84



22 次 1 区 SP40



22 次 1 区 SP48

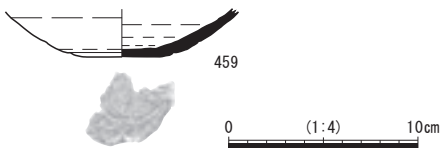
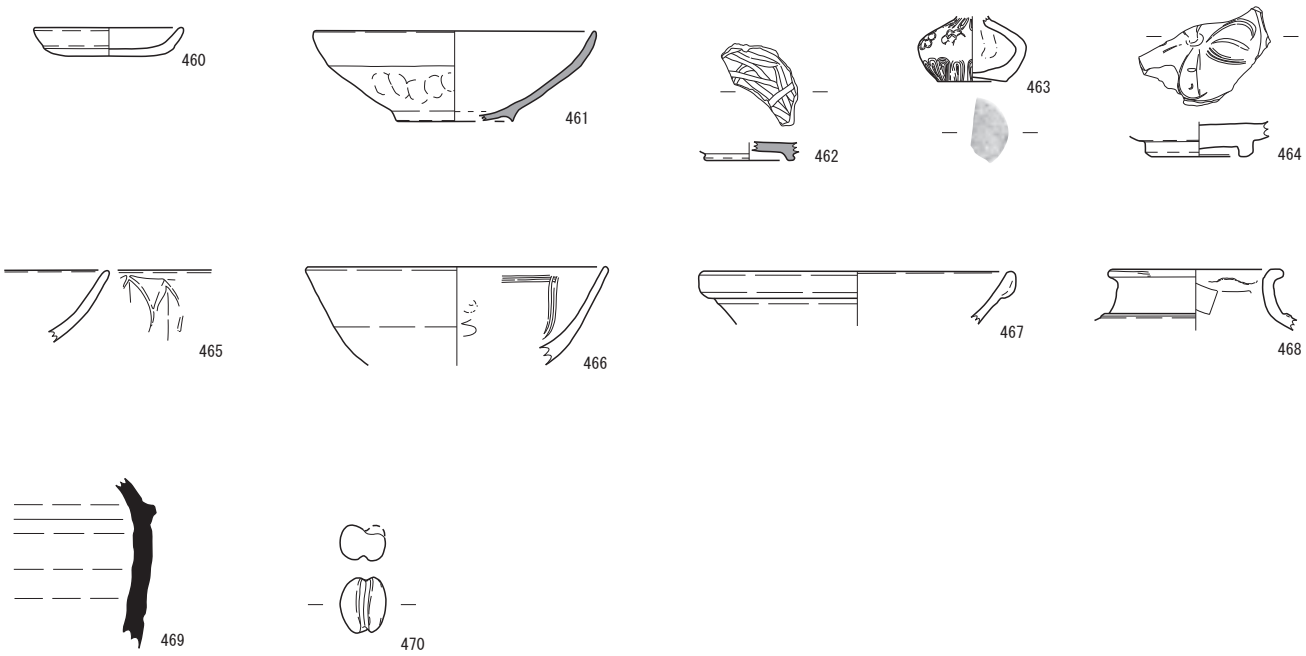
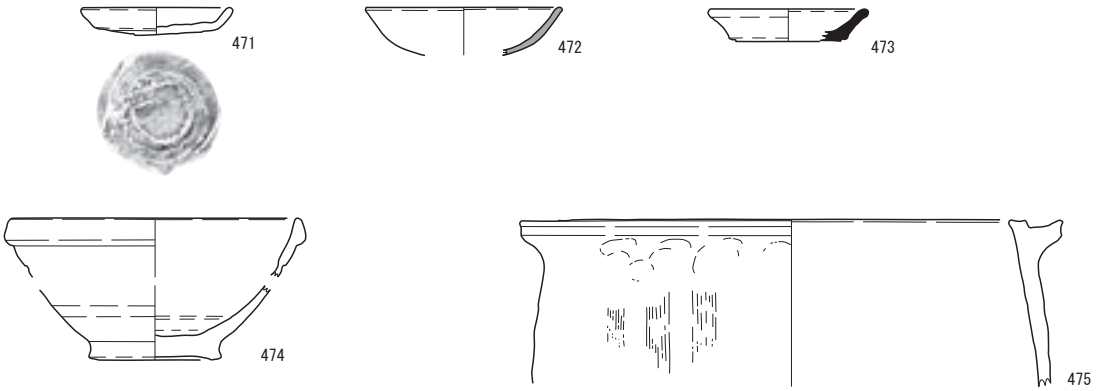


図65　北東部柱穴出土遺物②

4 次 12 区包含層



4 次 14 区包含層



4 次 16 区包含層

図66　北東部包含層出土遺物

Ⅲ－２－２　北西部の調査

北西部は姫路市町坪小字「釈迦屋敷」と「棚田」、「豆田」にまたがる。北西部は市道を境に大きく３つのブロックに区分できる。市道荒川42号線を境に北側が小字「釈迦屋敷」で、３次11区を中心とする範囲、南側の小字「棚田」に該当するのが４次17区を中心とする範囲、市道荒川41号線の南が小字「豆田」で、図94に北西部下とした９次３区を中心とした範囲が含まれる。

条里地割に基づけば18次２区、14次７区の北側にある市道荒川95号線が江戸時代の町坪村と井ノ口村の境で東西方向の坪境にあたる。一町南の坪境が３次11－３区と６次17－１区との間にあたる市道荒川42号線である。さらに南の坪境が10次２区と８次38区の間の市道荒川41号線である。南北方向の坪境は北東部と北西部を分けた県道田寺・今在家線であり、18次２区、３次11－３区、４次17区の東側がもう一つ西の坪境にあたる。さらに西の坪境が図94に示した18次14－２区の西側で、現在の大井川が流れる位置となる。坪並では三十二ノ坪、二十九ノ坪、二十ノ坪、十七ノ坪の一部、三十三ノ坪、二十八ノ坪が該当する。

調査は2003年から開始し2018年まで16次にわたって継続して行った。検出した遺構は建物跡21棟、柵跡11条、墓３基、水路、溝、土坑等である。区画整理事業に伴うものではないが、民間の開発に伴い行った21次調査でさらに建物跡２基、井戸１基が検出されている。いずれの遺構も条里地割に沿っている。北西部で特筆すべき遺構は20次１区、16次９区、３次11－３区、６次17－１区、４次17区、７次35区、10次２区、13次２区、８次38区、22次３区で検出した最大幅12m以上の大型の溝である。この大型の溝は図７に示した大井出水から町坪村内に引水する「棚田筋」の前身水路と考えられる。溝は三十二ノ坪の半町の位置を東西方向に延び、三十二ノ坪と三十三ノ坪の境で南に屈曲し南下する。調査地が字「釈迦屋敷」であることから何らかの区画遺構の可能性を考えたが、二町以上南へ延びるため、その可能性は低いと思われる。なお、二十ノ坪において溝の肩の確認ができておらず８次38区、22次３区の全域が溝内と想定されるが、その規模は判然としない。

その他３次11－２区SD17、SD11、４次20区SD02が半町の位置にあたる。柵状遺構としたSA13とSA14も概ね半町に位置し、道の下部構造の可能性を有している。北東部と同様、坪内における半町単位での空間利用がうかがえる。

建物跡をはじめとする遺構は、上記の条里を区切る遺構に規制されて存在する。３次11－３区SD11と11－２区SD01を除いて、条里を区画する遺構を超えて広がるものはない。遺構はいくつかのまとまりに分けることができる。三十三ノ坪ではSD17もしくはSA14を境に西と東に分かれて遺構のまとまりが確認できる。東側は切り合いの少ない比較的整然とした状態で建物跡SB30～SB33、21次SB01とSB02の６棟が展開する。西側はSD11の南においてSB35～SB39が密集し、柱穴の密度も高い。復元しえた建物跡は５棟にとどまるが、より多くの建物跡の存在が予想される。屋敷墓１基が伴う。三十二ノ坪では、「棚田筋水路」を挟んで北側と南側に遺構が広がる。「棚田筋」の北側でSB40～SB43の４棟、SA15～SA18の柵４条、「棚田筋」の南側ではSB44、SA19、屋敷墓ST04の各１基を検出した。SB43とSB44のある部分は柱穴の密度が濃く、復元には至らなかった建物跡の存在を考慮すると同一場所を居住空間として継続して使用したことがうかがえる。二十九ノ坪では棚田筋の西側で建物跡SB45～SB49の５棟を検出したが、いずれも明確なまとまりをもたない。屋敷墓ST05はSB47とSB48の中間にあたり、いずれの建物に伴うのものか、あるいは未調査部分に存在する別の建物跡に伴うものか判然としない。二十八ノ坪もSB50、SA21・SA22の柵２条と遺構密度は低い。以上のように、調査した範囲では字「棚田」に比べて字「釈迦屋敷」の遺構密度が濃く、土地利用形態に差が認められる。

遺構の時期は明確に判断できるものは少ないが、大きくⅣ期とⅤ期に分けることができる。Ⅳ期の遺構は、三十三ノ坪にあたるSB30～SB34と21次調査区SB02とSE01である。その他屋敷墓ST03～ST05が当該時期にあたる。「棚田筋水路」の前身溝はⅤ期に開削されたと見られ、その後継続して使用される。水路に近接する建物群は、概ねⅤ期と見られる。Ⅳ期の建物跡も存在するが、北東部では確認できなかったⅤ期の建物跡が多い傾向が認められる。

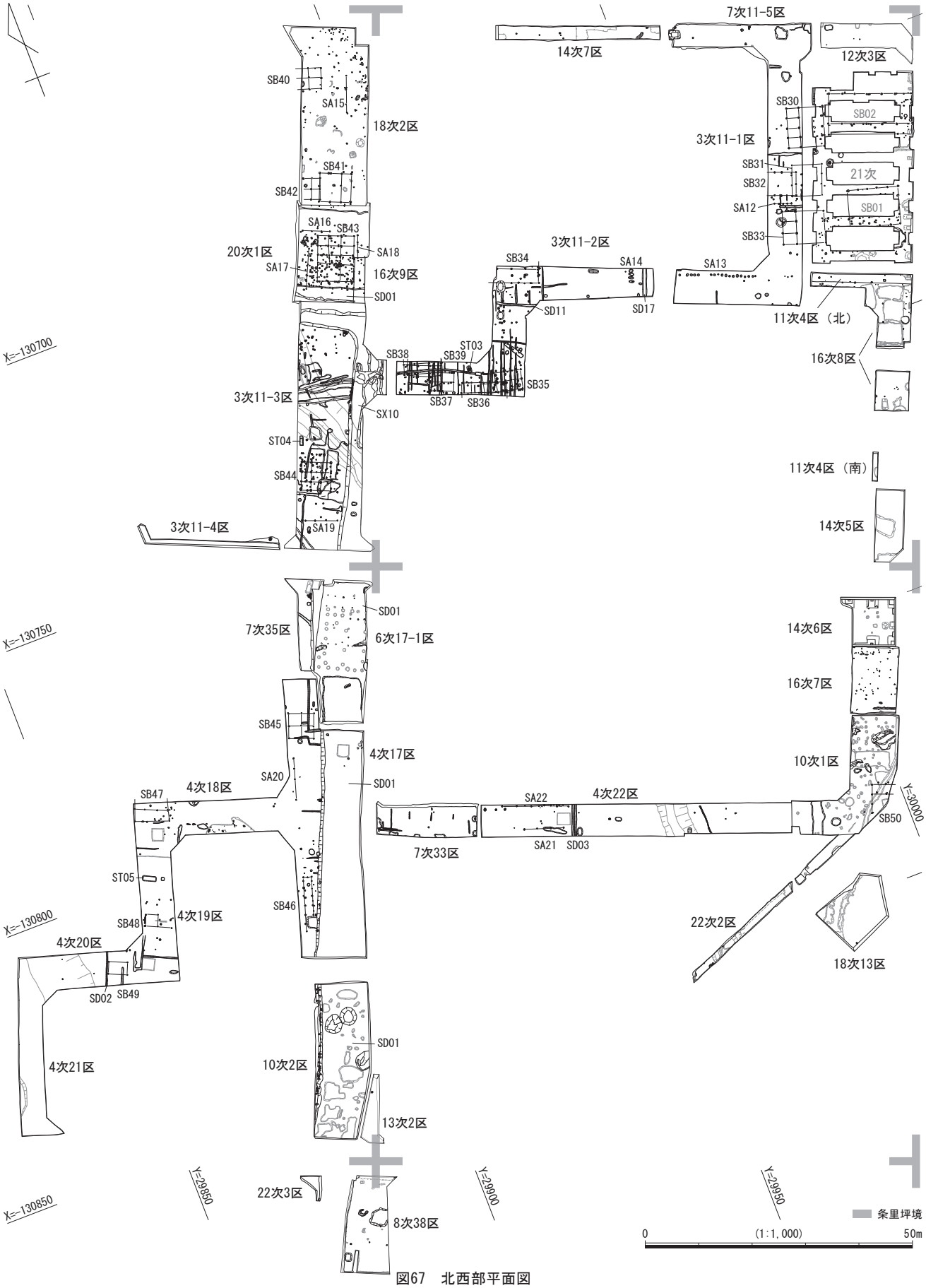

7次11-5区
14次7区
12次3区
SB40
SA15
18次2区
SB30
SB02
3次11-1区
SB41
SB31
21次
SB42
SB32
SA16
SB43
SA12
SB01
20次1区
SA18
SB33
3次11-2区
SA17
16次9区
SB34
SA14
SA13
SD01
SD11
SD17
11次4区（北）
X=-130700
SB38
ST03
SB39
16次8区
SB35
3次11-3区
SB37
SB36
SX10
ST04
11次4区（南）
SB44
14次5区
3次11-4区
SA19
SD01
X=-130750
7次35区
6次17-1区
14次6区
16次7区
SB45
4次17区
10次1区
SA20
SD01
4次18区
SB47
SA22
4次22区
Y=-30000
SB50
7次33区
SA21
SD03
ST05
SB46
X=-130800
SB48
4次19区
22次2区
4次20区
18次13区
SD02
SB49
4次21区
SD01
10次2区
13次2区
Y=-29850
22次3区
Y=-29900
Y=-29950
X=-130850
8次38区
条里坪境
0
(1:1,000)
50m

図67　北西部平面図

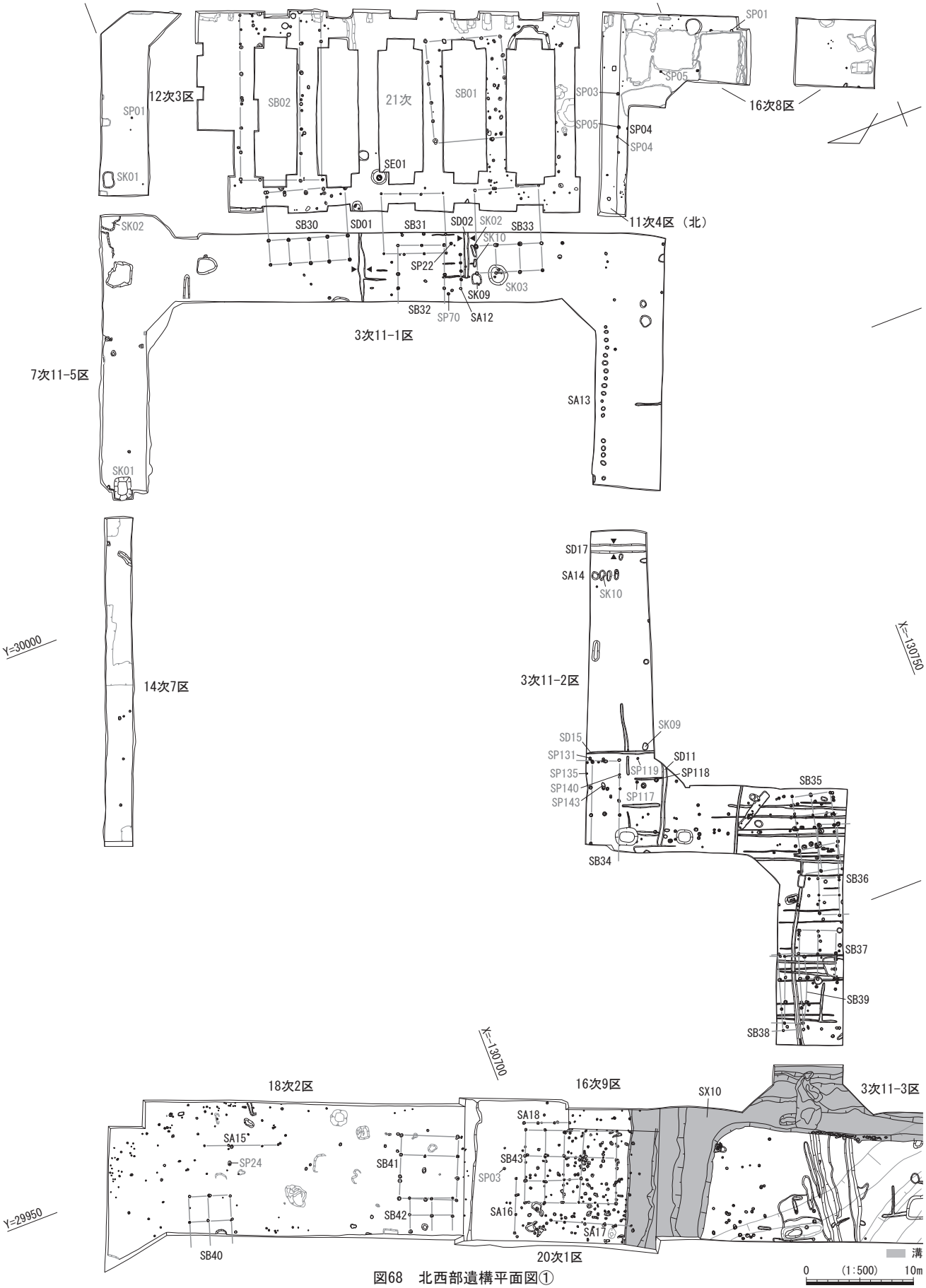


図68　北西部遺構平面図①

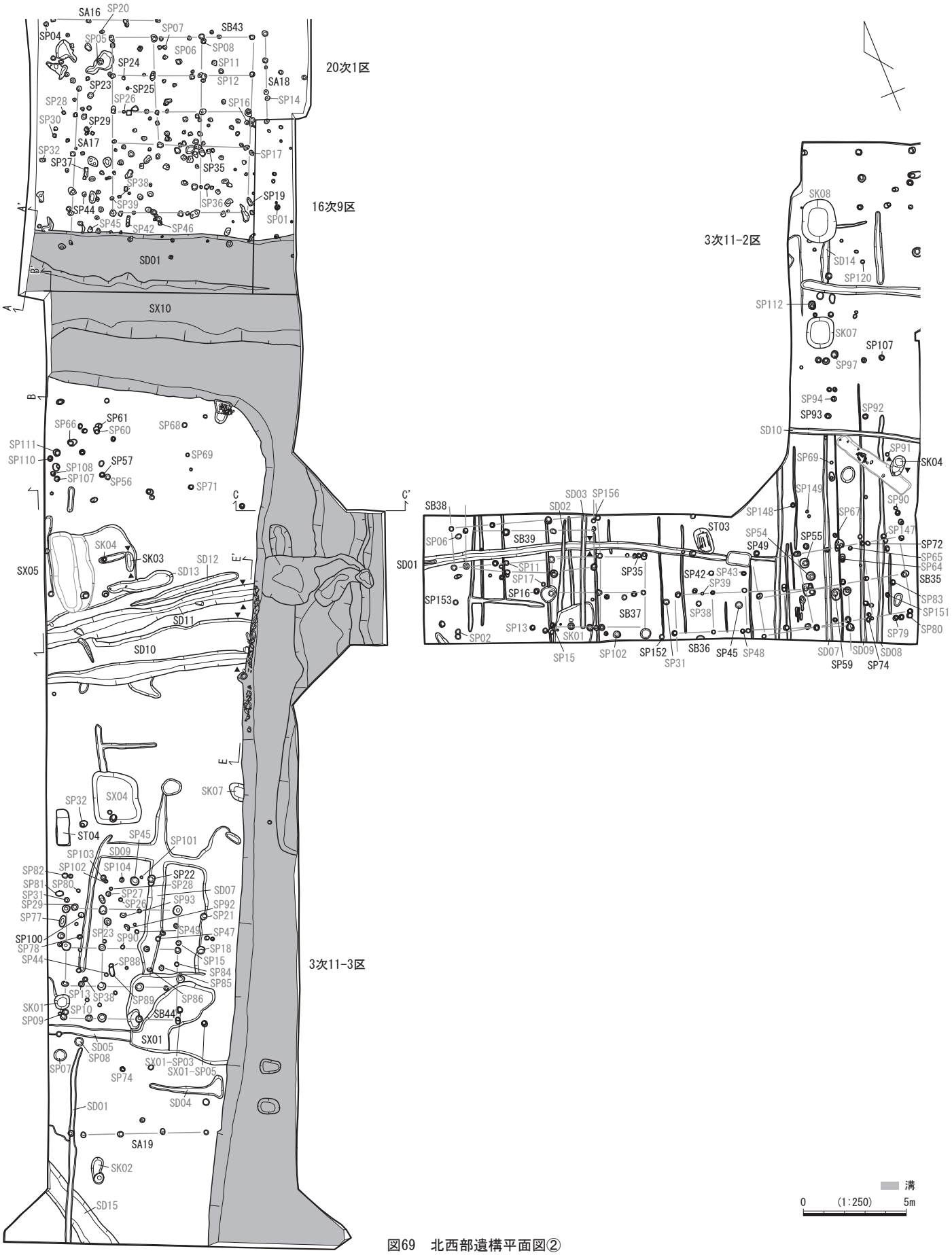


図69　北西部遺構平面図②

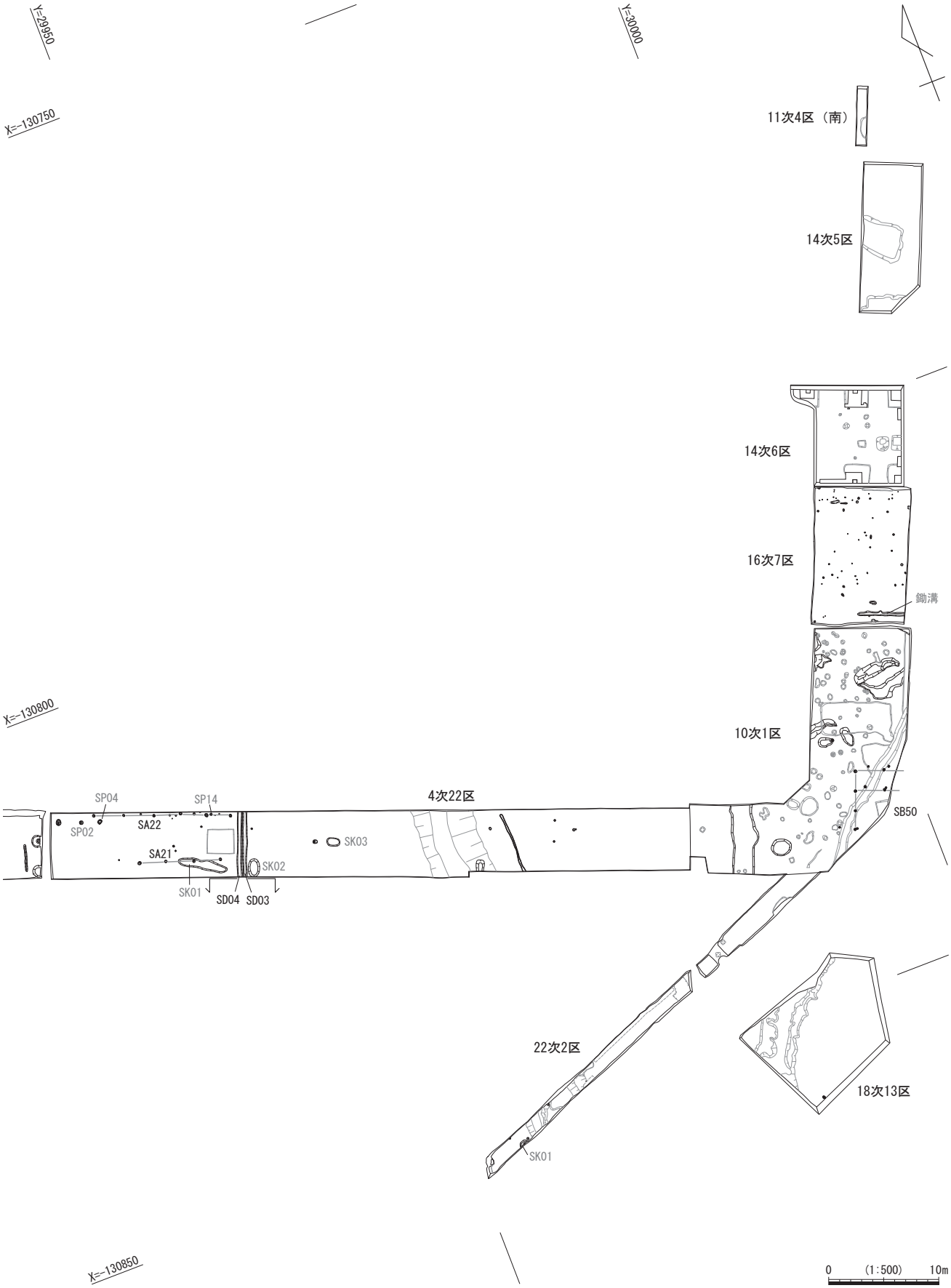


図70　北西部遺構平面図③

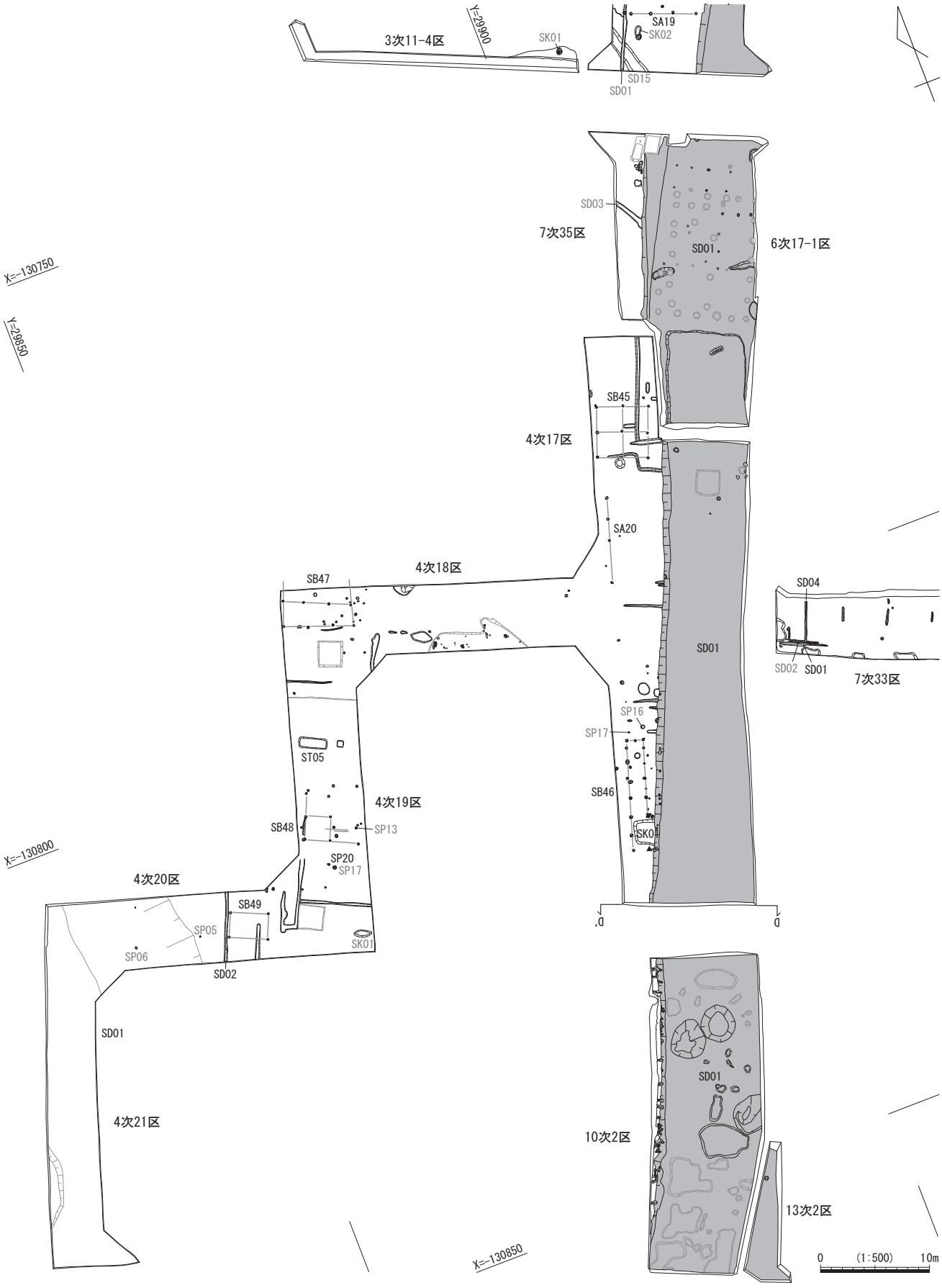


図71　北西部遺構平面図④

SB30
(図67･68･72)
(写真図版15)

3次11-1区の東部で検出した。区画整理事業に伴う調査では部分的な検出に留まったが、民間開発に伴う21次調査で隣接地の発掘調査を行った際に、一部の柱穴については未確認であるものの建物跡の全容を把握することができた。検出状況から3間×4間の南北棟の総柱建物跡である。SP06－SP10を基準とした主軸方向はN17°Eを測る。平面規模は梁行3間で6.8m、桁行4間で7.4mを測る。平面積は約50.3㎡である。柱間寸法は梁行SP06－SP106で西から2.3m、4.5mで、桁行SP06-SP10で北から1.8m、2.0m、1.7m、1.9mを測る。柱穴の平面形は基本的に円形を呈し、大きさは直径28～40㎝、深さは遺構検出面から20～40㎝を測る。図示に耐える遺物の出土はなかった。

SB31
(図67･68･73)
(写真図版15)

SB30の南3mで検出した。SB30同様、第21次調査で全容が判明した。平面プランはSB32と重なるが、柱穴の直接の切り合いがないため、建物跡の新旧は不明である。検出状況から3間×3間の総柱建物跡である。SP23－SP74を基準とした主軸方向はN21°Eを測る。平面規模は南北方向3間で5.8m、東西方向3間で5.7mと若干短い。平面積は約33㎡である。柱間寸法は南北方向のSP23－SP74で南から1.9m、1.9m、2.0m、東西方向のSP23-SP55で西から1.8m、3.9mである。柱穴の平面形は基本的に円形を呈し、大きさは直径18～26㎝を測る。柱通りは桁方向で良く揃う。深さは遺構検出面から20～30㎝を測る。

図示に耐える遺物の出土はなかったが、北東端で検出したSP67の東には第21次調査で検出したSE01が存在する。SE01は21次SB02に伴うもので、SB31とも主軸が揃うことから同時期であるⅣ期の可能性が高い。

SB32
(図67･68･72)
(写真図版15)

SB31の西側で検出した。検出した位置から建物跡は調査区の西側に広がる可能性が高い。検出状況から2間×2間以上の側柱建物跡と考えられる。SP17－SP21を基準とした棟方向はN21°Eを測り、SB31と揃う。平面規模は南北方向2間で4.35m、東西方向2間で4.0mを測る。平面積は約17.4㎡を測る。柱間寸法はSP17－SP21で北から2.2m、2.15m、SP13－SP17で西から1.3m、2.7mを測る。柱穴の平面形は基本的に円形を呈し、大きさは直径26～32㎝、深さは遺構検出面から24～60㎝を測る。SP73の掘方内には根石が認められた。

SB33
(図67･68･73)
(写真図版15)

SB31の南2.6mの位置で検出した。SB30・SB31と同様第21次調査で全容が判明した。SK03、SK09を切る。検出状況から3間×3間の東西棟の総柱建物跡と考えられる。SP31－SP35を基準とした棟方向はN19°Eを測る。平面規模は梁行3間で6.1m、桁行3間で8.0mを測る。平面積は約48.8㎡を測る。柱間寸法は梁行SP39－SP69で南から2.1m、2.2m、1.8mで、桁行SP39－SP45で西から2.5m、5.5mを測る。柱穴の平面形は基本的に円形を呈し、大きさは直径26～40㎝を測る。柱通りは桁方向で良く揃うが、東端のSP45-SP58の柱通りは整列しない。深さは遺構検出面から18～50㎝を測る。

建物跡に伴う遺物で、図示に耐えうるものはなかったが、SP69に切られるSK09から須恵器椀478～480が出土した。椀は平高台が明瞭に残る段階の資料である。土坑内の下部東寄りでまとまって出土したことから土坑の時期は12世紀後半以前に位置づけられる。これにより建物跡の下限をおさえることができる。

SB34
(図67･68･74)
(写真図版15)

半町を区画するとみられるSD17の西18mの位置で検出した。検出した位置から建物跡は調査区の西側と北側に広がる可能性が高い。検出状況から2間×3間以上の東西棟の総柱建物跡と考えられるが、一部確認できていない柱穴がある。SP133－SP136を基準とした棟方向はN21°Eを測る。平面規模は梁行2間で2.55m、桁行3間で7.8mを測る。平面積は20.4㎡である。柱間寸法は梁行SP133－SP136で南から1.25m、1.3mで、桁行SP125－SP136で西から2.75m、2.55m、2.5mを測る。柱穴の平面形は基本的に円形を呈し、大きさは直径12～38㎝、深さは遺構検出面から10～30㎝を測る。図示に耐える遺物の出土はなかった。

SB35
(図67･68･75)
(写真図版17)

SB34の南16mで検出した。平面プランはSB36と重なるが柱穴の直接の切り合いがないため、建物跡の新旧は不明である。検出した位置から建物跡は調査区外に広がる可能性がある。検出状況から2間×4間の東西棟の総柱建物跡と考えられる。SP61－SP66を基準とした主軸方向はN13°Eを測る。平面規模は梁行2間で3.65m、桁行4間で7.25mを測る。平面積は約26.5㎡を測る。柱間寸法は梁行SP82－SP87で南から1.8m、1.85mで、桁行SP82－SP160で東から1.85m、1.2m、2.0m、2.2mを測る。SP71-SP78とSP61－SP66の間隔は1.2mと短い。SP58とSP164は隣接する柱穴との間隔が小さく建物跡を構成するものかどうか不明なため、上記の柱間寸法等の記述から除外している。柱穴は円形を呈し直径16～40㎝、深さは12～30㎝を測る。

遺物はSP56の柱痕跡の埋土から土師器小皿A484が、同掘方から受口口縁塝485が、SP63の掘方からは土師器皿E486・487が出土した。SP71の掘方からは土師器皿F488・土師器小皿A489、瓦質土器の三足部分490が、SK03-SP03から土師器小皿A492～494が出土した。Ⅳ期新段階に位置づけられる。

SB36
(図67･68･74)
(写真図版17)

SB35の西で検出した。検出した位置から建物跡は調査区の南側に広がる可能性が高い。検出状況では1間×5間の東西棟の建物跡と考えられる。SP60－SP62を基準とした主軸方向はN21°Eを測り、SB35とは主軸方向が異なる。平面規模は梁行1間で1.8m、桁行5間で8.55mを測る。平面積は約15.4㎡以上と推測する。柱間寸法は桁行SP30－SP60で西から1.9m、1.7m、1.9m、1.45m、1.6mを測る。柱穴の平面形は基本的に円形を呈し、大きさは直径18～40㎝を測る。柱通は比較的揃っている。深さは遺構検出面から14～26㎝を測る。

遺物はSP44の埋土から土師器皿E481が、SP60の埋土から手づくね成形の土師器小皿482・483が出土した。483は小皿Aである。Ⅳ期に位置づけられる。

SB37
(図67･68･76)
(写真図版17)

SB36の西1.4mで検出した。平面プランはSB39と重なるが柱穴の直接の切り合いはない。検出した位置から建物跡は調査区の南側に広がる可能性を有す。検出状況では2間×2間の総柱建物跡と考えられる。SP14－SP19を基準とした主軸方向はN21°Eを測り、SB36と並列する。平面規模は東西方向4.6m、南北方向3.8mを測り、やや東西方向に長い。平面積は約17.5㎡を測る。柱間寸法はSP14－SP29で西から2.45m、2.15m、SP29－SP36で南から2.05m、1.75mを測る。柱穴の平面形は円形を呈し、大きさは直径23～52㎝を測る。深さは10～40㎝を測る。SP23は根石を持つ。遺物はSP99から須恵器鉢の口縁部B2a類495が出土した。Ⅳ期に位置づけられる。

SB38
(図67･68･76)
(写真図版17)

SB37の北側で検出した。平面プランはSB39と重なる。SB37とSP19・SP23が重なることから復元に疑問が残るが別の建物とした。検出した位置から建物跡は調査区の北側に広がる可能性が高い。検出状況では1間×3間以上の建物跡と考えられる。SP04－SP08を基準とした主軸方向はN17°Eを測る。平面規模は南北方向1間で1.95m、東西方向3間で7.15mを測る。平面積は約13.9㎡を測る。柱間寸法は東西方向SP08－SP22で西から2.0m、2.75m、2.4mを測る。柱穴の平面形は円形を呈し、大きさは直径22～34㎝、深さは14～40㎝を測る。SP23は根石を伴う。

遺物はSB37とSB38に共通するSP19の埋土から土師器小皿A496、皿H497、受口口縁の瓦質土器塝498が出土した。498の胴部は直線的でⅤ期の様相を持つ。

SB39
(図67･68･77)
(写真図版17)

SB38とほぼ重なる位置で検出した。検出した位置から建物跡は調査区の北側に広がる可能性が高い。検出状況から1間×3間の建物跡と考えられる。SP05－SP07を基準とした主軸方向はN21°Eを測る。平面規模は南北方向1間で1.8m、東西方向3間で6.25mを測る。平面積は約11.3㎡を測る。柱間寸法は東西方向SP07－SP157で西から1.95m、2.3m、2.0mを測る。柱穴の平面形は円形を呈し、大きさは直径24～38㎝、深さは10～26㎝を測る。

SP05から土師器小皿A499、SP07の掘方から土師器皿F500が、SP12から龍泉窯青磁碗の底部501が出土した。501は内面見込みに片切り彫りの劃花文を描く。Ⅳ期新段階と考える。

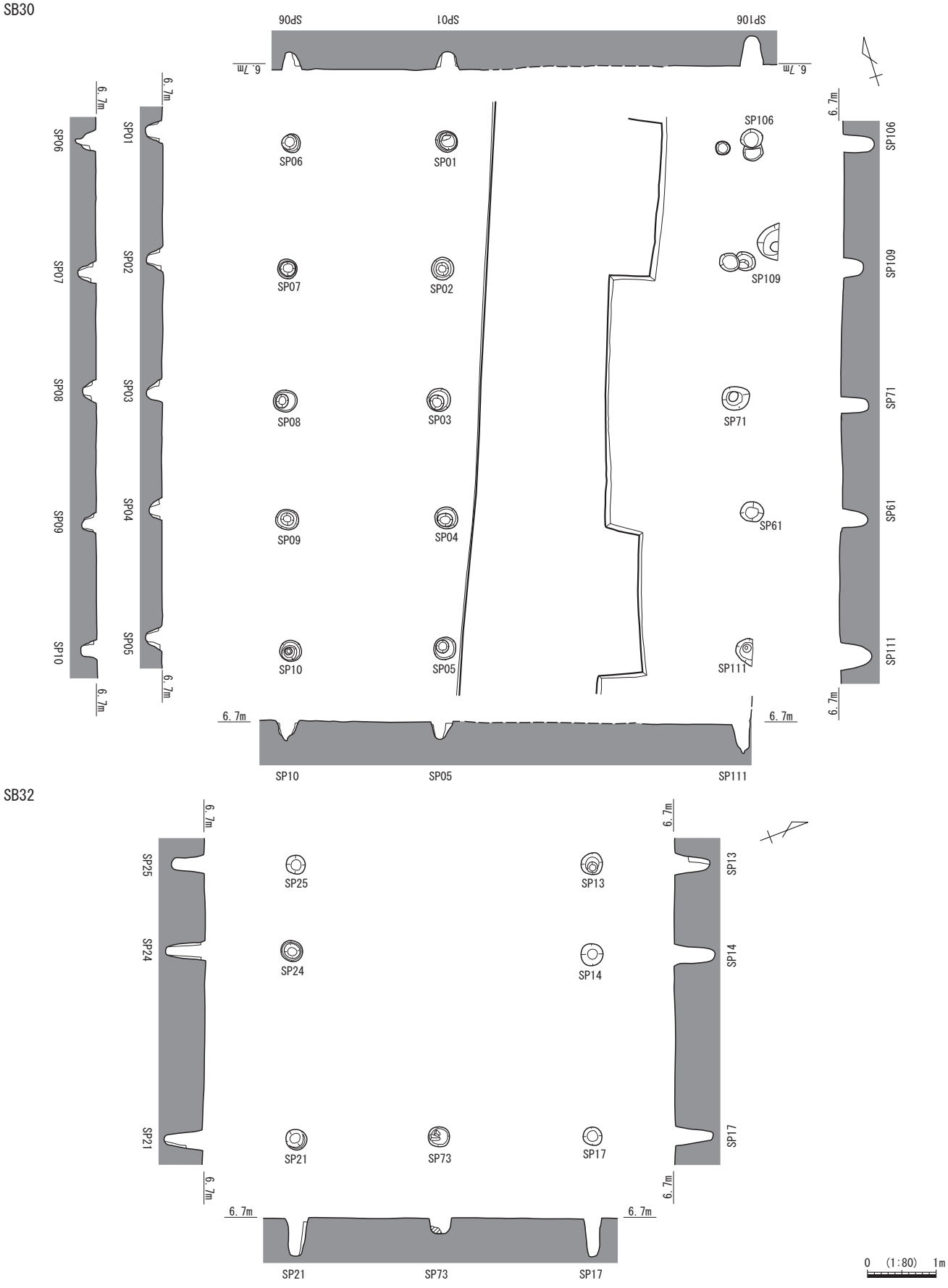


図72　SB30、SB32平面・断面図

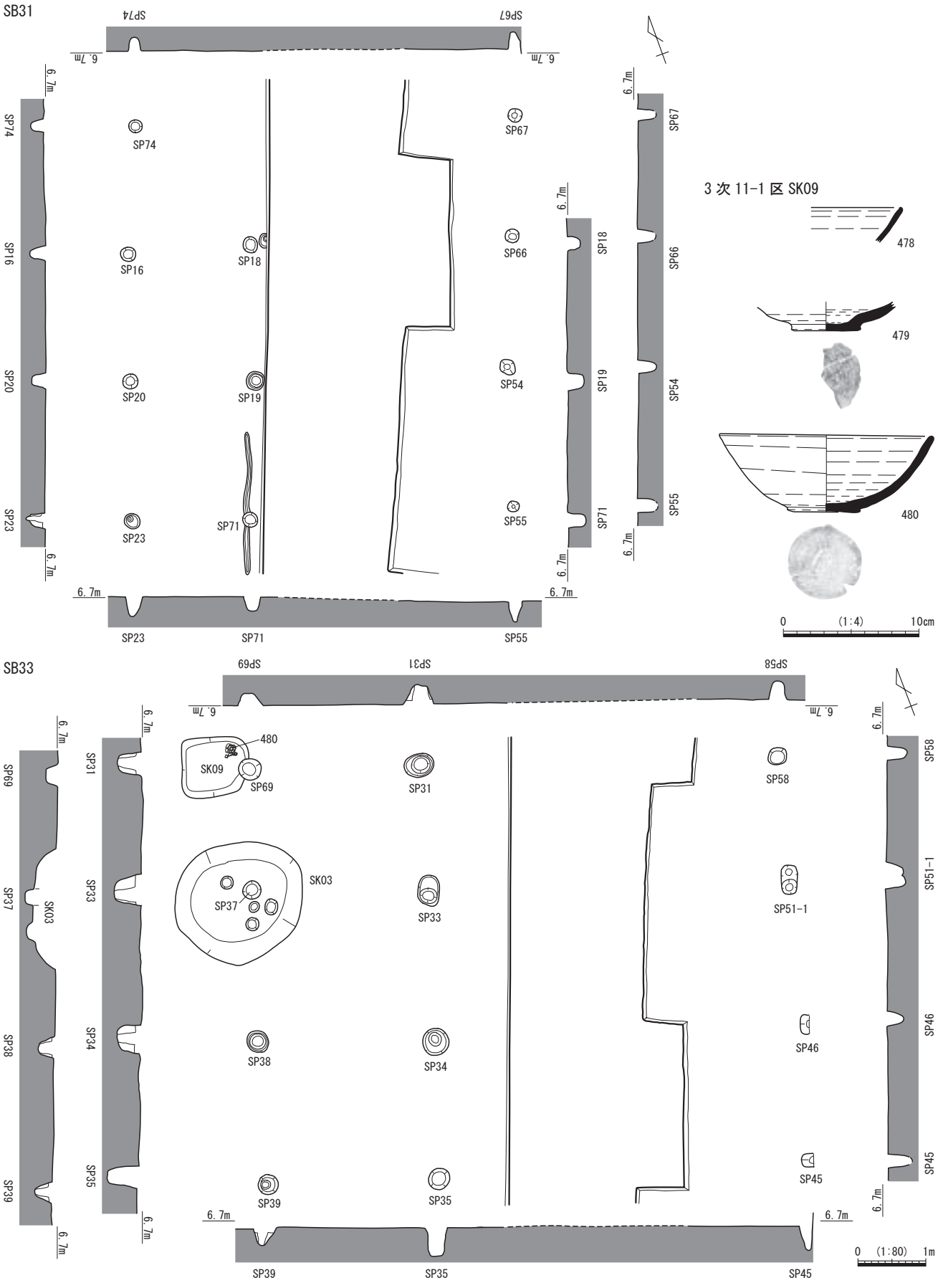
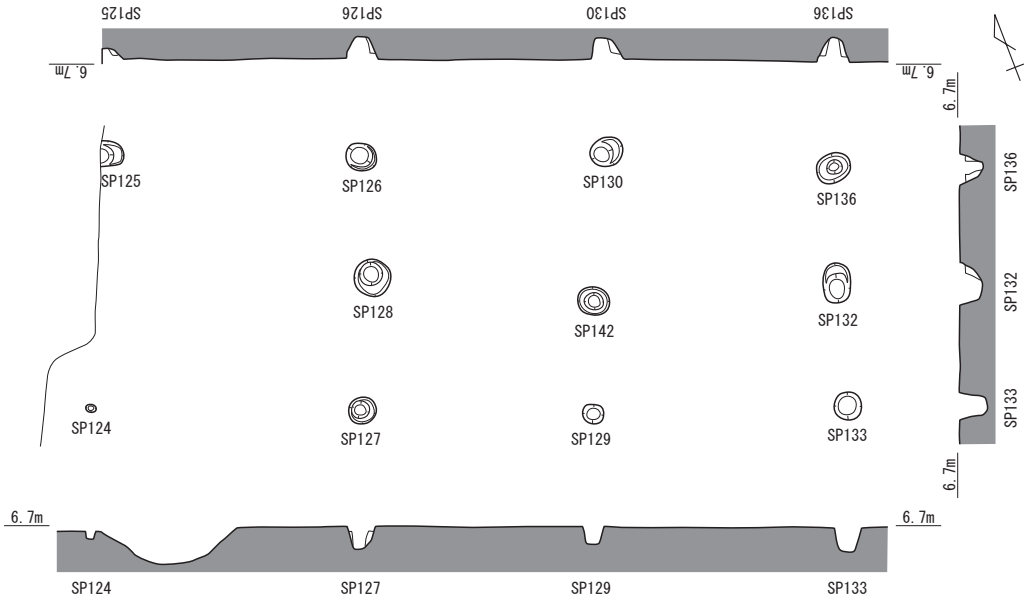


図73　SB31、SB33平面・断面図、出土遺物

SB34



SB36

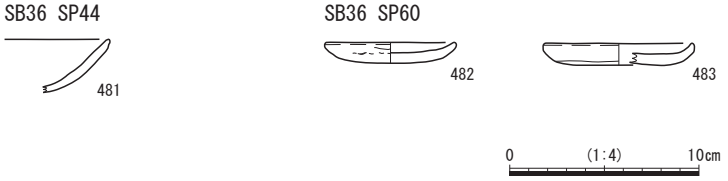
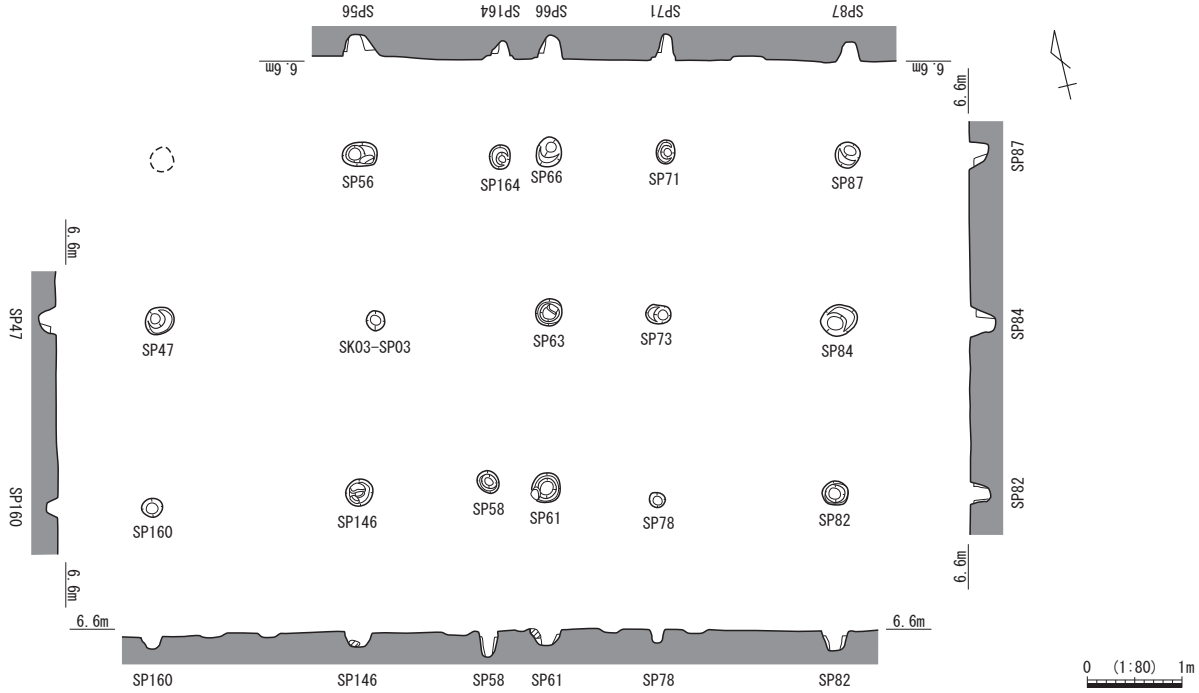


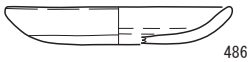
図74　SB34、SB36平面・断面図、出土遺物

SB35

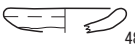


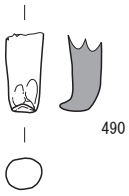
SP56

SP63



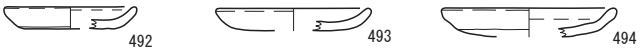
SP71





SP84

SK03-SP03



0 (1:4) 10cm

図75　SB35平面・断面図、出土遺物

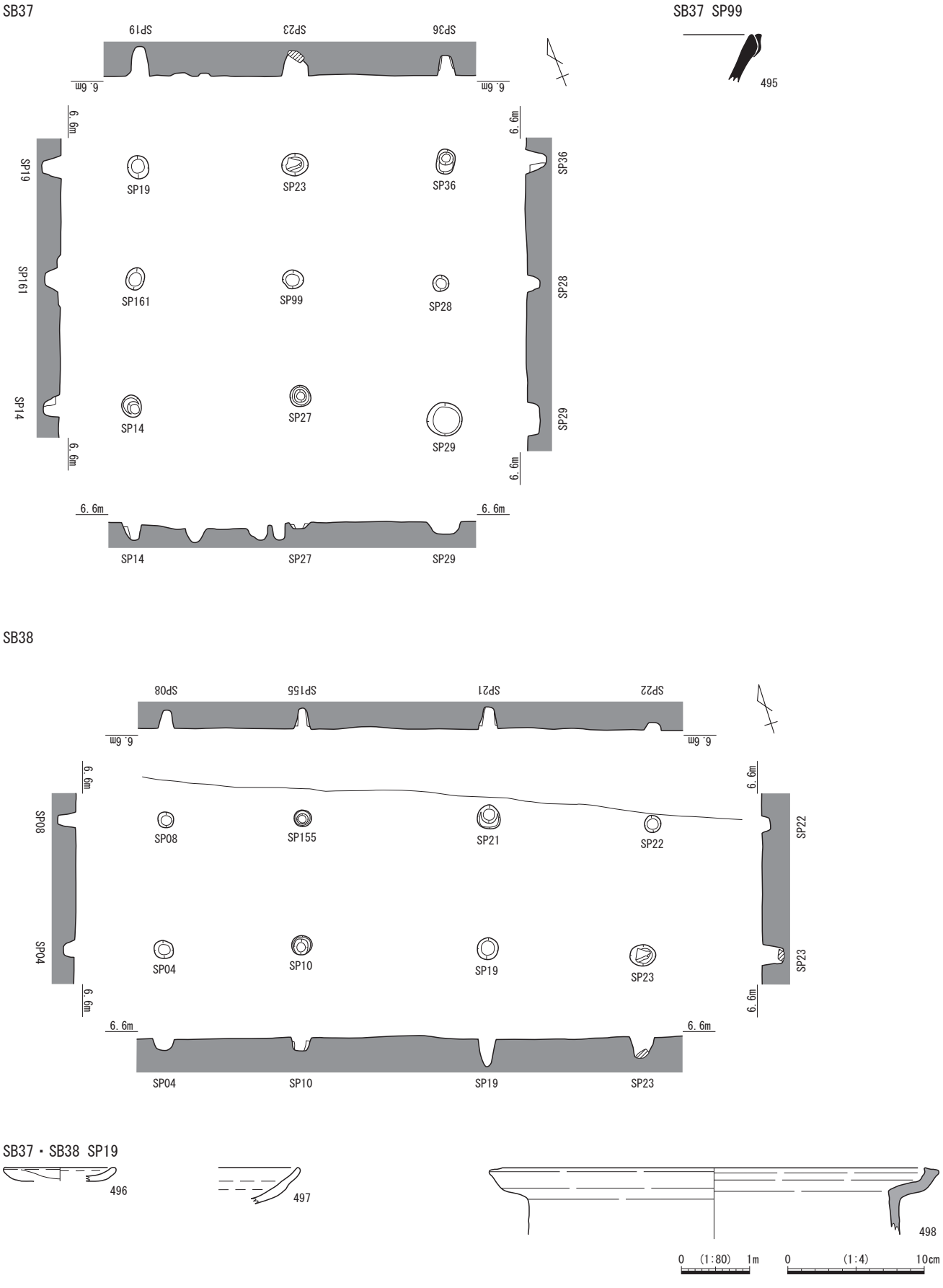


図76　SB37、SB38平面・断面図、出土遺物

SB40
(図67･68･77)
(写真図版24)

棚田筋水路の北肩から37m北で検出した。検出した位置から建物跡は調査区の西側に広がる可能性が高い。検出状況から１間×２間以上の建物跡と考えられる。SP35－SP37を基準とした主軸方向はN20°Eを測る。平面規模は南北方向２間で4.05m、東西方向１間で2.4mを測る。平面積は約9.7㎡を測る。柱間寸法はSP32－SP34で南から2.3m、1.75mを測る。柱穴の平面形は円形を呈し、大きさは直径22～34㎝を測る。深さは遺構検出面から12～28㎝を測る。遺物はSP37から土師器小皿A502が出土した。

SB41
(図67･68･78)
(写真図版24)

SB40の南14.5mで検出した。平面プランはSB42と重なるが柱穴の直接の切り合いがないため、その新旧関係は不明である。検出状況から２間×３間の東西棟の建物跡と考えられる。総柱建物跡の可能性が高いが、SP13とSP18の間に柱穴が確認できていない。SP04－SP11を基準とした主軸方向はN23°Eを測る。平面規模は梁行２間で5.35m、桁行３間で5.95mを測る。平面積は約31.8㎡を測る。柱間寸法は梁行SP01－SP08で北から2.5m、2.85mを測るが、SP12は東側にズレており、柱通りは不良である。桁行SP08－SP11では東から1.85m、2.05m、2.05mを測る。柱穴の平面形は円形を呈し、大きさは直径24～36㎝、深さは８～24㎝を測る。遺物はSP01から瓦器椀503が出土した。和泉型Ⅲ期で内外面の炭素の吸着は不良で白っぽい色調を呈す。

SB42
(図67･68･78)
(写真図版24)

SB41の西側で検出した。検出した位置から建物跡は調査区の西側に広がる可能性が高い。検出状況から２間×２間以上の建物跡と考えられる。SP15－SP17を基準とした主軸方向はN20°Eである。平面規模は東西方向２間で3.15m、南北方向２間で4.0mを測る。平面積は約12.6㎡を測る。柱間寸法はSP17－SP19で東から1.55m、1.6m、SP05－SP07で南から1.9m、2.1mである。柱穴の平面形は円形を呈し、大きさは直径21～34㎝、深さは遺構検出面から18～21㎝を測る。図示に耐えないがSP06から灰青色焼成の備前焼の破片が出土した。

SB43
(図67･68･79)
(写真図版23)

棚田筋北肩から約１m北の位置で検出した。検出状況から３間×５間の南北棟の建物跡と考えられる。SP18－SP49間に柱穴が検出できていないため、建物の構造の詳細は不明である。この部分が土間等になるのであろうか。SP48－SP63を基準とした棟方向はN21°Eである。平面規模は梁行方向３間で6.85m、桁行方向５間で8.55mを測る。平面積は約58.6㎡を測る。柱間寸法は梁行SP61－SP63で東から2.45m、2.3m、2.1mで、桁行SP48－SP63で南から1.95m、1.55m、1.45m、1.75m、1.85mを測る。柱穴の平面形は円形から長円形を呈し、大きさは18～52㎝、深さは10～46㎝を測る。SP15は根石を有す。

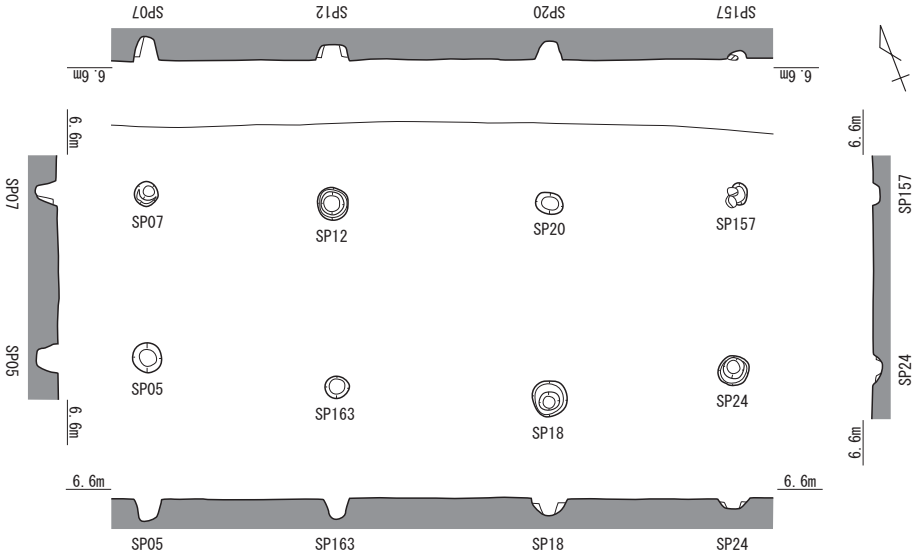
遺物は建物を構成するSP01から土師器小皿A504が、SP13から瓦質羽釜505が、SP40から土師器小皿A506が出土した。建物を構成する柱穴からの出土ではないが、SP01が切るSP08から土師器羽釜508と509、瓦質羽釜507が出土した。504はSB37・38出土の496と類似する。509の鍔長が短い点と508の口縁端部が内側に屈曲する様相からⅤ期新段階に位置づける。

SB44
(図67･69･80)
(写真図版20)

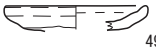
SB43の南約36mの位置で検出した。検出状況から東西方向にやや長い３間×３間の総柱建物跡である。SP24－SP40を基準とした主軸方向はN22°Eである。平面規模は南北方向３間で5.25m、東西方向３間で5.5mを測る。平面積は約29.7㎡を測る。柱間寸法はSP30－SP42で北から1.8m、1.85m、1.6mで、SP17－SP30で東から1.9m、1.8m、1.8mを測る。柱穴は円形を呈し大きさは直径24～46㎝、深さは22～50㎝を測る。SP39とSP40に根石が伴う。

遺物はSP01から須恵器甕515が、SP17から土師器三足堝の脚部516・517が、SP24の柱痕跡埋土上層から鉄鏃514が刃先を上に向けた状態で出土した。514 は刃部が欠損するが直線鏃とみられる。刃部から関にかけては直線的な外形線を描く。SP24から土師器小皿A510、皿F511、龍泉窯青磁碗512、須恵器鉢513が出土した。SP37の掘方から須恵器甕518が、SP46から土師器皿F519が出土した。512は外面に鎬の無い片切彫りの蓮弁文のB－Ⅰ'類、513の口縁部はB３a類新段階であることから、概ねⅤ期に位置づけられる。

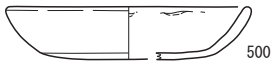
SB39



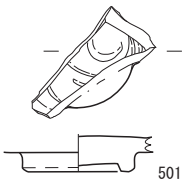
SB39 SP05



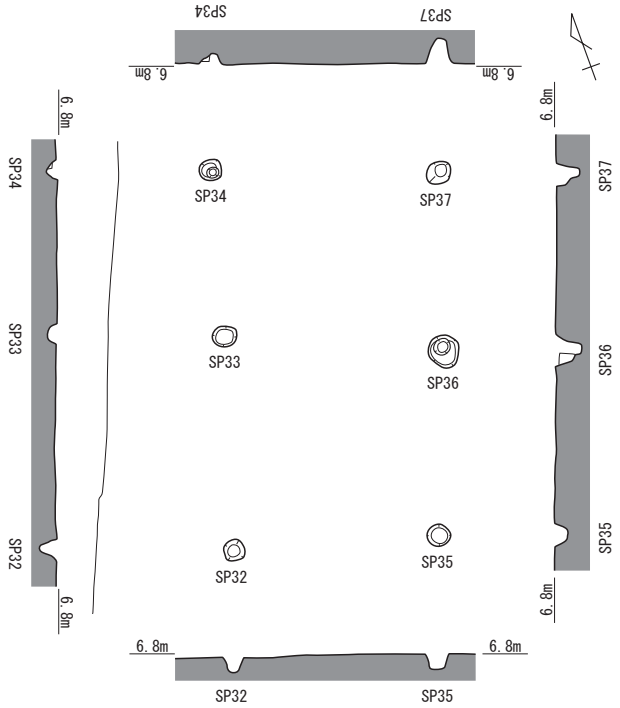
SB39 SP07



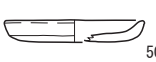
SB39 SP12



SB40



SB40 SP37

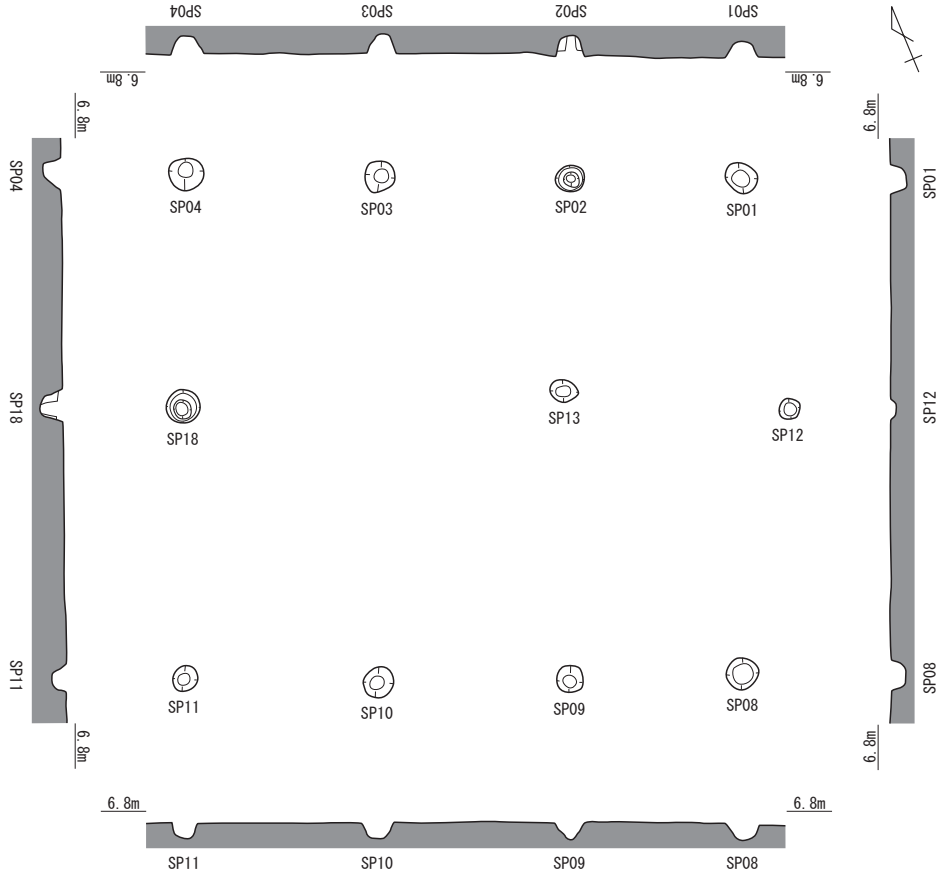


0 (1:80) 1m

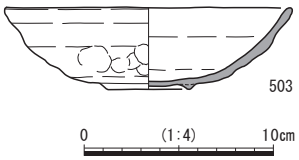
0 (1:4) 10cm

図77　SB39、SB40平面・断面図、出土遺物

SB41



SB41 SP01



SB42

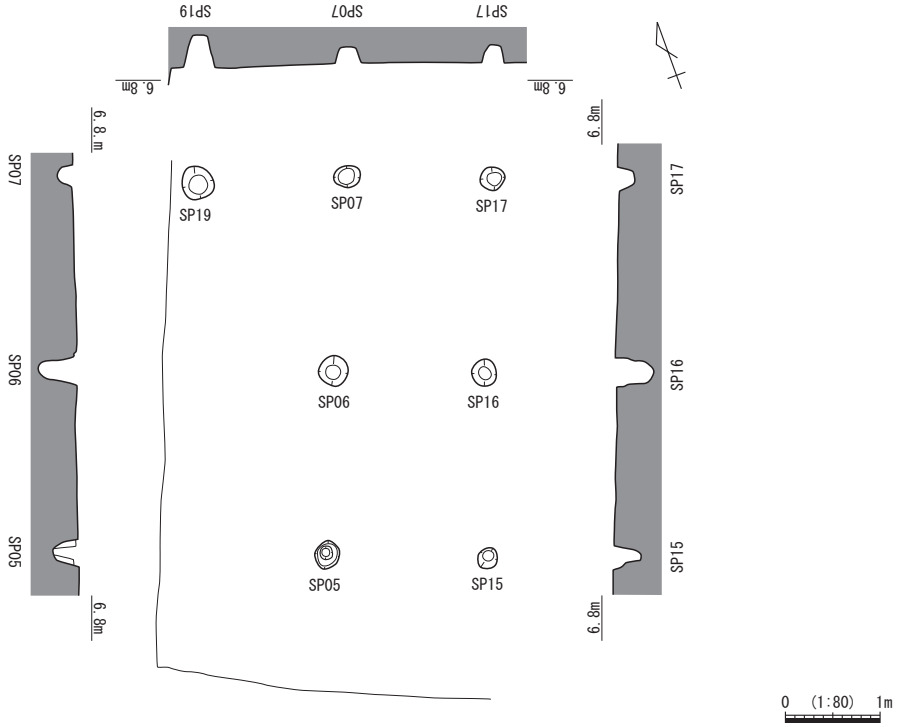
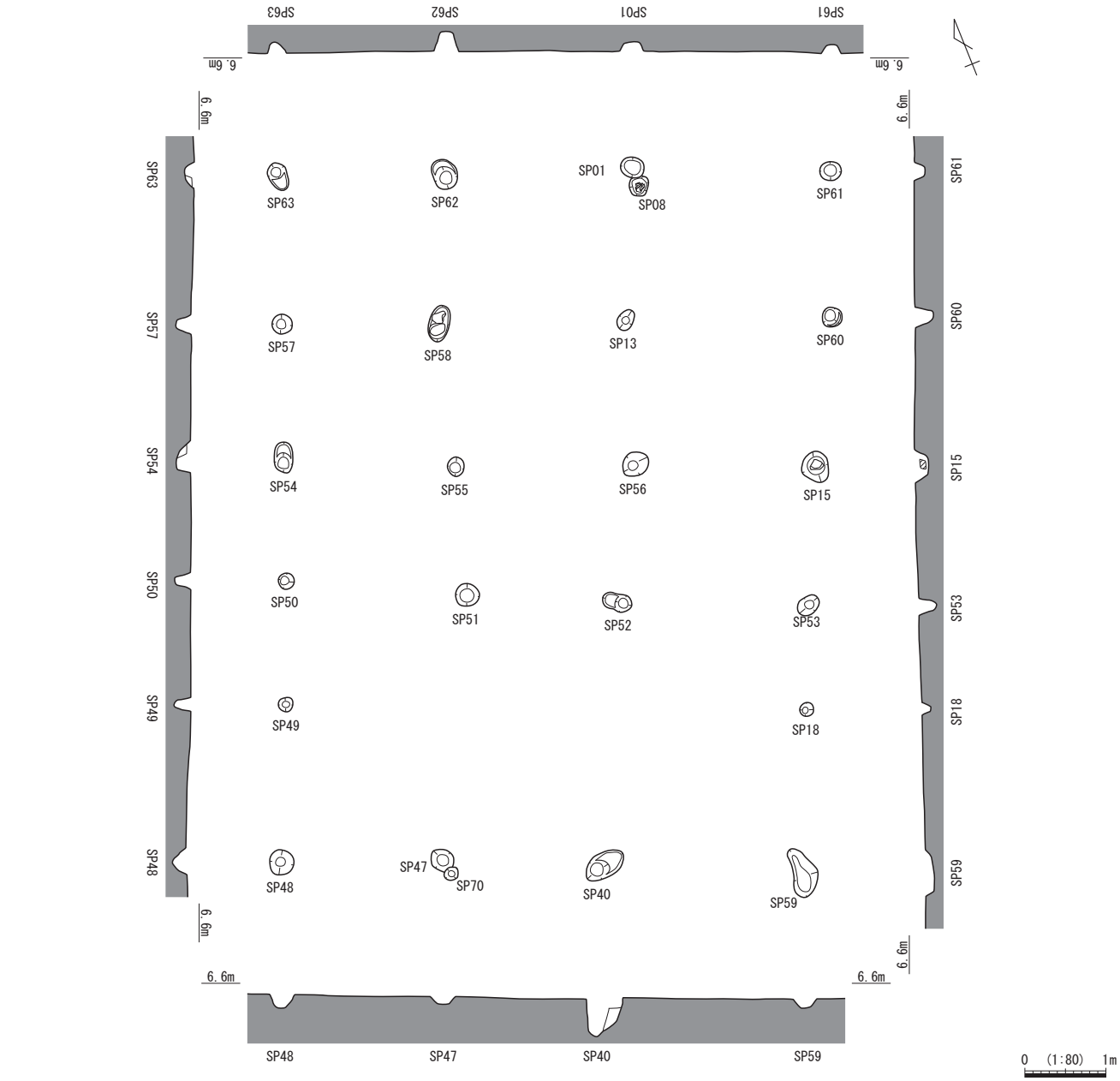
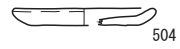


図78　SB41、SB42平面、断面図、出土遺物

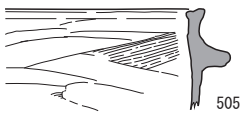
SB43



SP01



SP13



SP40

SP08

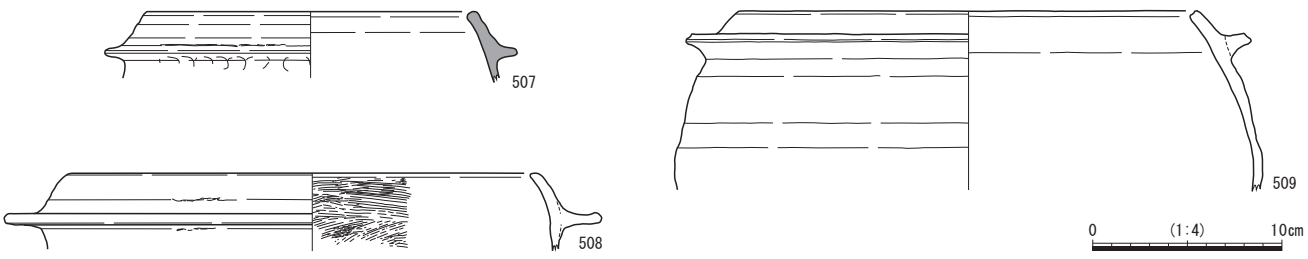
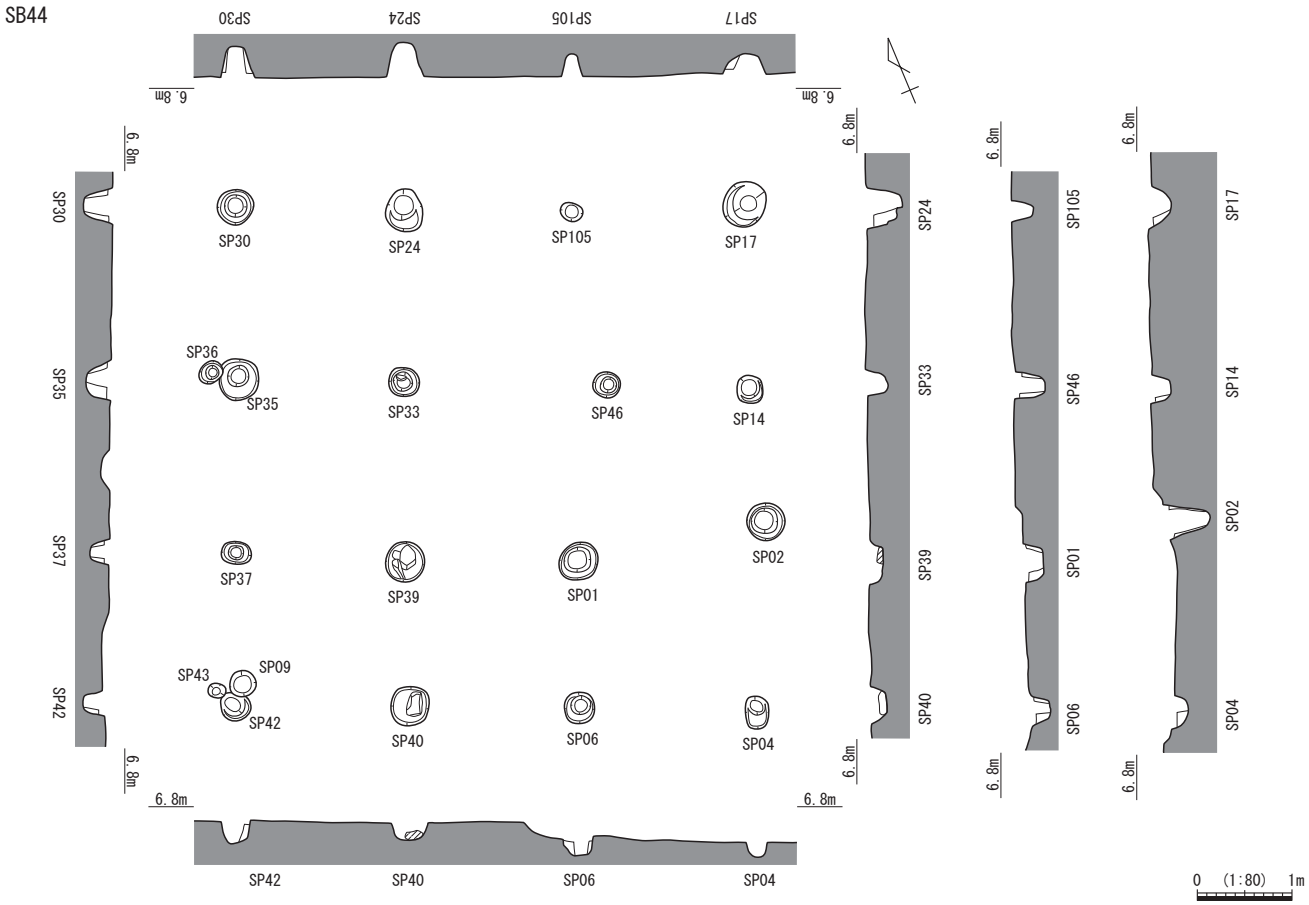
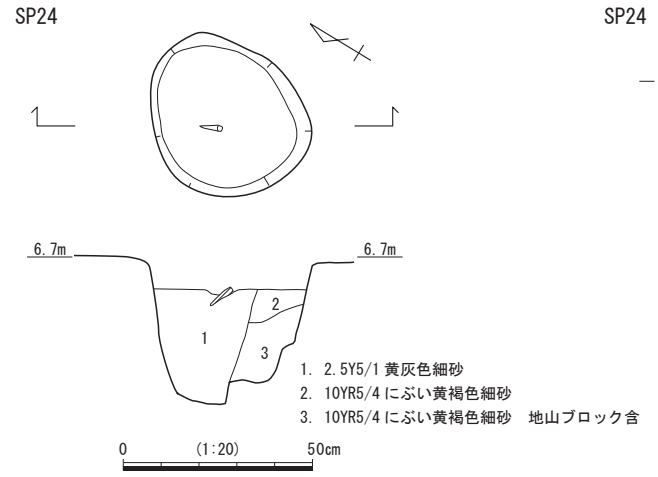
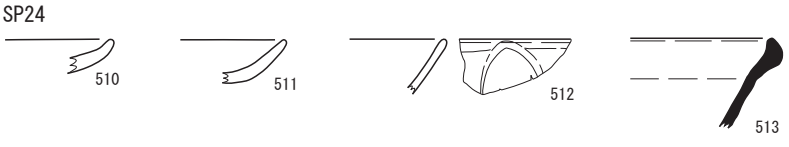
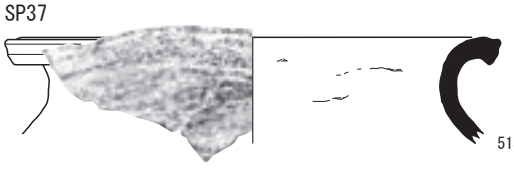


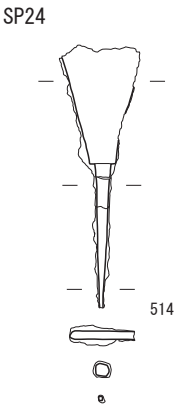
図79　SB43平面・断面図、出土遺物

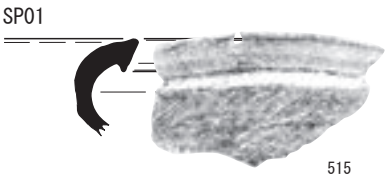












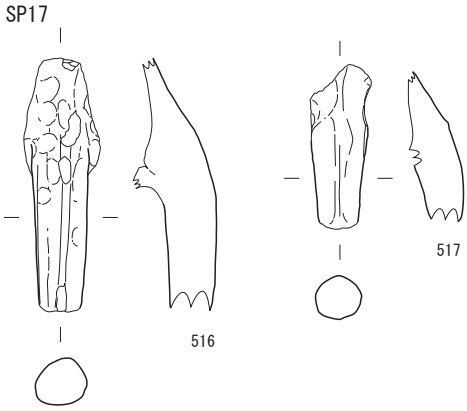


図80　SB44平面・断面図、出土遺物

SB45
(図67･71･81)
(写真図版28)

SB44から南へ約42mの位置、棚田筋水路の西肩に近接して検出した。検出した位置から建物跡は調査区の西側もしくは棚田筋水路に切られた可能性もある。検出状況から２間×２間の総柱建物跡と考えられるが、南側で一部柱穴が確認できない箇所がある。SP34－SP36を基準とした主軸方向はN20°Eである。平面規模は南北方向２間で4.75m、東西方向２間で4.8mを測り、ほぼ正方形の平面プランである。平面積は約22.8㎡を測る。柱間寸法は東西方向SP36－SP43で西から2.4m、2.35mとほぼ等間隔、南北方向SP41-SP43で南から2.3m、2.5mを測る。柱穴の平面形は円形を呈し、大きさは直径20～32cmを測る。柱通りは比較的良好に揃っている。深さは遺構検出面から16～30cmを測る。図示に耐える遺物の出土はなかった。

SB46
(図67･71･81)
(写真図版28･29)

SB45の南約26mの位置で検出した。検出した位置から建物跡は調査区の西側もしくは東側に広がっていた可能性が高い。検出状況から１間×６間の南北棟の建物跡と考えた。SP11・SP20・SP14・SP18・SP19は他の柱穴との間隔が狭いことから、SB17と同様に柱穴間ピットと考え、間数としては数えていない。SP08－SP15を基準とした主軸方向はN18°Eを測る。SP01－SP07ラインはSA20の延長線上にあたり、何らかの関連があるのかもしれない。平面規模は東西方向１間で1.5m、南北方向６間で10.2mを測る。平面積は15.3㎡を測る。柱間寸法は南北方向SP01－SP07で南から1.4m、1.7m、1.8m、1.5m、1.8m、2.0mを測る。柱穴の平面形は基本的に円形を呈し、大きさは直径16～42cmを測る。柱通りは南北方向で良く揃う。深さは遺構検出面から10～26cmを測る。

遺物はSP04の埋土から播但型塝520が、SP19の埋土から須恵器椀521が出土した。520はⅡ類で宮原ⅡC期で、Ⅴ期以降に位置づけられる。

SB47
(図67･71･82)
(写真図版28･30)

棚田筋水路の西肩から西へ約28mの位置で検出した。検出した位置から建物跡は調査区の西もしくは北側に広がる可能性が高い。検出状況から１間×３間の建物跡と考えられる。SP01－SP05を基準とした主軸方向はN20°Eを測る。平面規模は南北方向１間で2.35m、東西方向３間で6.45mを測る。平面積は約15.2㎡を測る。柱間寸法は東西方向SP05－SP08で西から2.25m、2.25m、1.95mを測る。柱穴の平面形は円形を呈し、大きさは直径20～24cm、深さは遺構検出面から10～18cmを測る。柱通りは東西方向SP01－SP04が歪んでおり、整然とした平面プランとはならない。図示に耐えうる遺物は出土しなかった。

SB48
(図67･71･82)
(写真図版28･30)

SB47から南へ約15mの位置で検出した。建物を構成する柱穴が部分的にしか検出できず、建物跡の平面プランは不明である。検出状況から東西２間×南北２間の建物跡に復元できる可能性を有す。SP04－SP06を基準とした主軸方向はN25°Eを測る。南北方向２間で4.25m、東西方向２間で4.9mを測る。柱間寸法はSP04－SP06で南から2.1m、2.15mで、SP04－SP16で西側から2.3m、2.6mを測る。柱穴の平面形は円形を呈し、大きさは直径20～36cm、深さは遺構検出面から20～24cmを測る。遺物はSP01の埋土から底部ヘラ切りの土師器杯522が出土した。

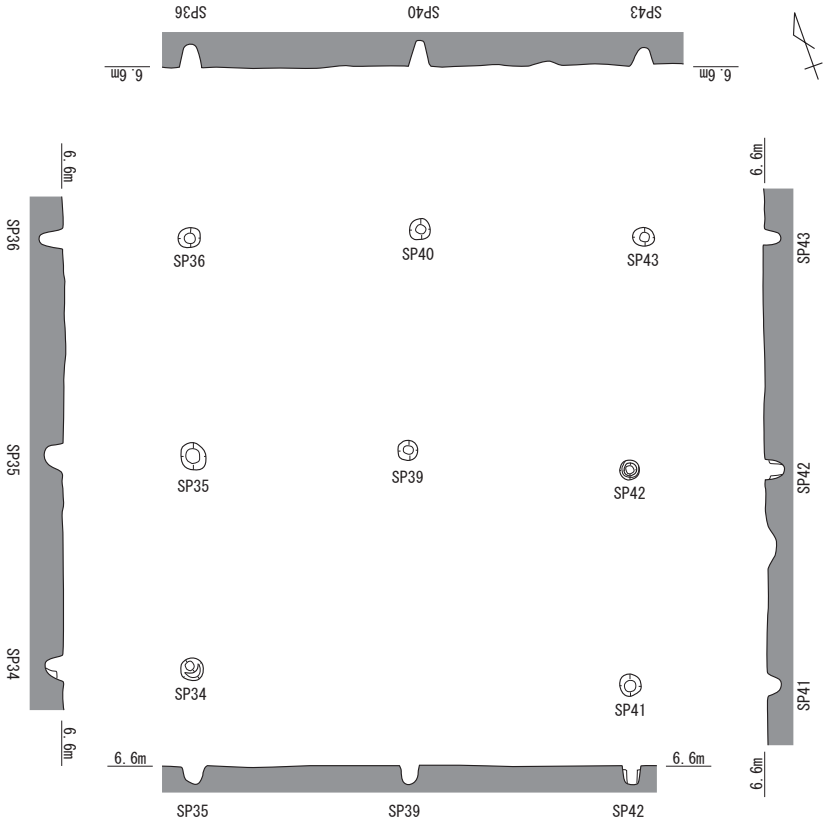
SB49
(図67･71･82)
(写真図版28)

SB48の約７m南で検出した。検出状況から１間×１間の東西棟の建物跡に復元した。SP02－SP04を基準とした主軸方向はN24°Eである。平面規模は梁行2.35m、桁行3.6mを測り、柱間隔は長い。柱穴の平面形は円形を呈し、大きさは直径20～24cm、深さは遺構検出面から12～30cmを測る。図示に耐えうる遺物の出土はなかった。

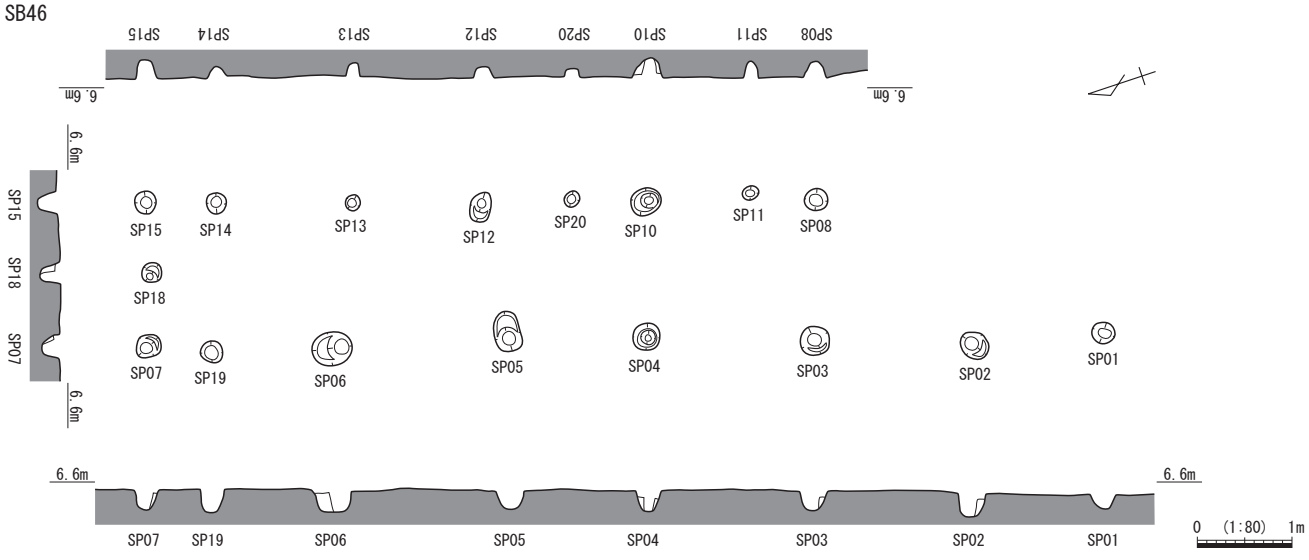
SB50
(図67･70･82)
(写真図版26)

棚田筋水路の西肩から約103m東の位置で検出した。検出した位置から建物跡は調査区の東側と南側に広がる可能性が高い。検出状況から１間×３間以上の建物跡と考えられる。SP03－SP06を基準とした棟方向はN18°Eである。平面規模は東西方向１間で2.65m、南北方向３間で5.25mを測る。平面積は約13.9㎡を測る。柱間寸法は南北方向SP03-SP06で北から1.8m、1.8m、1.65mを測る。柱穴の平面形は円形を呈し、大きさは直径19～32cmを測る。深さは32～40cmを測る。図示に耐えないが、SP05からくの字口縁タタキ塝が出土しており、Ⅳ期の可能性がある。

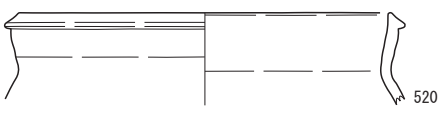
SB45



SB46



SB46 SP04



SB46 SP19

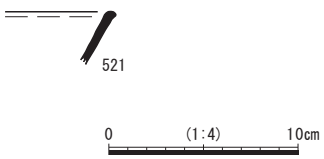


図81　SB45、SB46平面・断面図、出土遺物

図82　SB47、SB48、SB49、SB50平面・断面図、出土遺物

SA12
(図67･68･83)
(写真図版15)

SB32とSB33のほぼ中間に位置し、それらに伴う柵である。東西方向に５基の柱穴が一列に並ぶ。規模は延長3.2m、柱間隔は概ね80cmの等間隔である。遺構の主軸はN21° Eに直交する。柱穴の平面形は円形を呈し、直径は26～28cm、深さは遺構検出面から10～22cmを測る。

SA13
(図67･68･83)
(写真図版16)

３次11-１区の南側で検出した。東西方向に18基の凹みが一列に並ぶ。柱痕跡等は確認できないが、柵状遺構と判断した。延長14.35mを測り、凹みの間隔は心々で概ね50～75cm、凹みの規模は最大で長辺54cm、短辺42cm、最小で直径25cmを測る。深さは５～８cm程と浅い。本遺構の主軸はN21° Eに直交し、条里地割に沿う。検出した位置は坪内の半町の位置に概ね該当する。こうした遺構は道の下部構造である波板状凸凹の可能性が指摘されている（光本2005）。坪内の位置を考慮すると、本遺構も同様の性格をもつ可能性がある。

SA14
(図67･68･83)

SD17の西２mの位置で検出した柵状遺構である。規模は延長2.1m、遺構の主軸はN21° Eである。４基の柱穴が70cm間隔で配され、東西に長い円形を呈し、長辺は最大で1.0m、短辺は40cm、深さは概ね12cmを測る。半町の位置にあたることから、SA13と同様の性格と想定される。

SA15
(図67･68･83)
(写真図版24)

SB40の東4.6mに位置する。南北方向に４基の柱穴が一列に並び、延長は6.9mである。柱間隔は南から1.5m、2.8m、2.6mを測る。遺構の主軸はN21° Eである。柱穴の平面形は円形を呈し、直径は16～30cm、深さは７～16cmを測る。SB40に伴う可能性がある。

SA16
(図67･68･83)
(写真図版23)

20次１区、SB43の北80cmに位置する。東西方向に４基の柱穴が一列に並び、規模は延長5.1mを測る。柱間隔は西から1.7m、1.8m、1.6mを測る。遺構の主軸はN21° Eに直交する。柱穴は円形を呈し、直径は24～44cm、深さは12～48cmを測る。検出位置からSB43に伴う可能性が高い。SP09から底部ヘラ切りの土師器小皿Ｒ523が出土した。SE09出土資料に類似する。

SA17
(図67･68･83)
(写真図版23)

SB43の西約1.5mの位置で検出した。南北方向に６基の柱穴が一列に並び、規模は延長7.55m、柱間隔は北から1.3m、1.9m、1.85m、1.05m、1.45mを測る。遺構の主軸はN25° Eで、SB43に比べやや東に傾く。柱穴は円形を呈し、直径は21～40cm、深さは14～42cmを測る。

遺物はSP43から播但型土師器堝524が出土した。細片であるがⅡ類であろう。

SA18
(図67･68･83)
(写真図版23)

SB43の東約60cmの位置で検出した。20次１区と16次９区にまたがる。南北方向に４基の柱穴が一列に並び、規模は延長4.25mを測る。柱間隔は北から1.3m、1.5m、1.45mを測る。遺構の主軸はN21° Eである。柱穴は円形を呈し、直径は23～30cm、深さは約20cmを測る。SA16～SA18は検出状況からSB43に伴う可能性が高い。

SA19
(図67･69･84)
(写真図版20)

SB44の南約5.5mの位置で検出した。東西方向に４基の柱穴が並び、規模は延長6.0mである。柱間隔は西から1.85m、2.05m、2.1mを測る。遺構の主軸はN21° Eである。柱穴は円形を呈し、直径は25～32cm、深さは14～22cmを測る。位置的にSB44と関連がうかがえる。

SA20
(図67･71･84)
(写真図版28)

SB45の南３mに位置する。南北方向に４基の柱穴が一列に並ぶ。本遺構を南へ延長するとSB46の西側の柱通りにあたる。本遺構とSB46の間には数基の柱穴が確認でき、本来一連である可能性もある。検出規模は延長7.8m、柱間隔は北から3.9m、1.95m、1.95mを測る。遺構の主軸はN19° Eである。柱穴は円形を呈し、直径は22～32cm、深さは６～32cmを測る。遺物はSP30から受口口縁の瓦質堝525が出土した。直線的な体部からⅤ期に位置づけられる。

SA21
(図67･70･84)
(写真図版22)

４次22区の南部で検出した。建物跡の一部の可能性がある。東西方向に４基の柱穴が一列に並び、規模は延長7.35mを測る。柱間隔は西から2.4m、2.55m、2.4mを測る。遺構の主軸はN18° Eに直交する。柱穴の平面形は円形を呈し、直径は23～32cm、深さは40～54cmを測る。

SA22
(図67･70･84)
(写真図版22)

SA21の北４mの位置で検出した。建物跡の一部である可能性が高い。東西方向に６基の柱穴が一列に並ぶ。規模は延長12.5m、柱間隔は西から2.75m、2.8m、2.4m、2.35m、2.2mを測る。遺構の主軸はN20° Eに直交する。柱穴は円形を呈し、直径は22～32cm、深さは28～46cmを測る。遺物はSP05から底部ヘラ切りの土師器小皿Ｒ526が出土した。Ⅳ期のものに類似する。

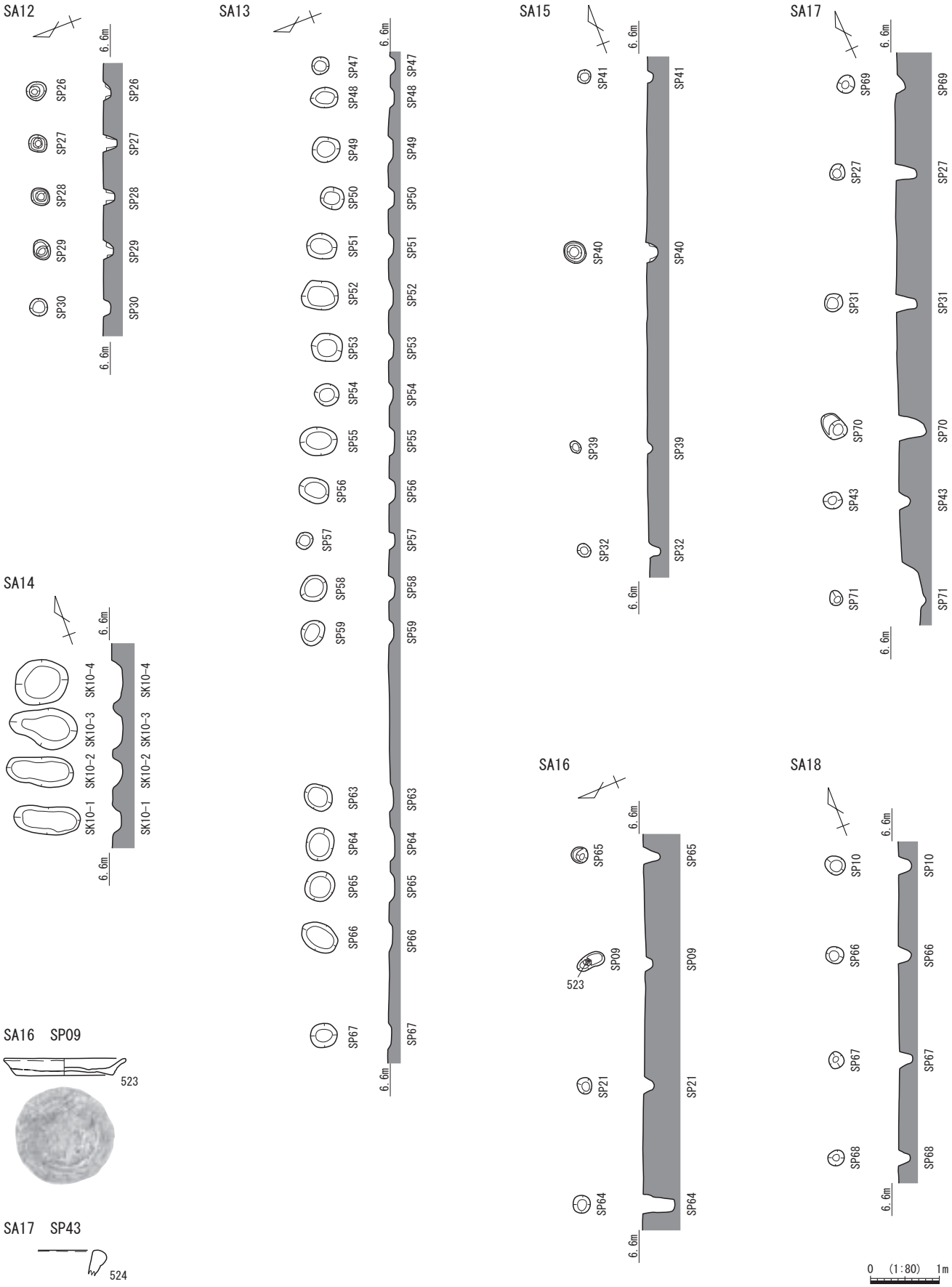
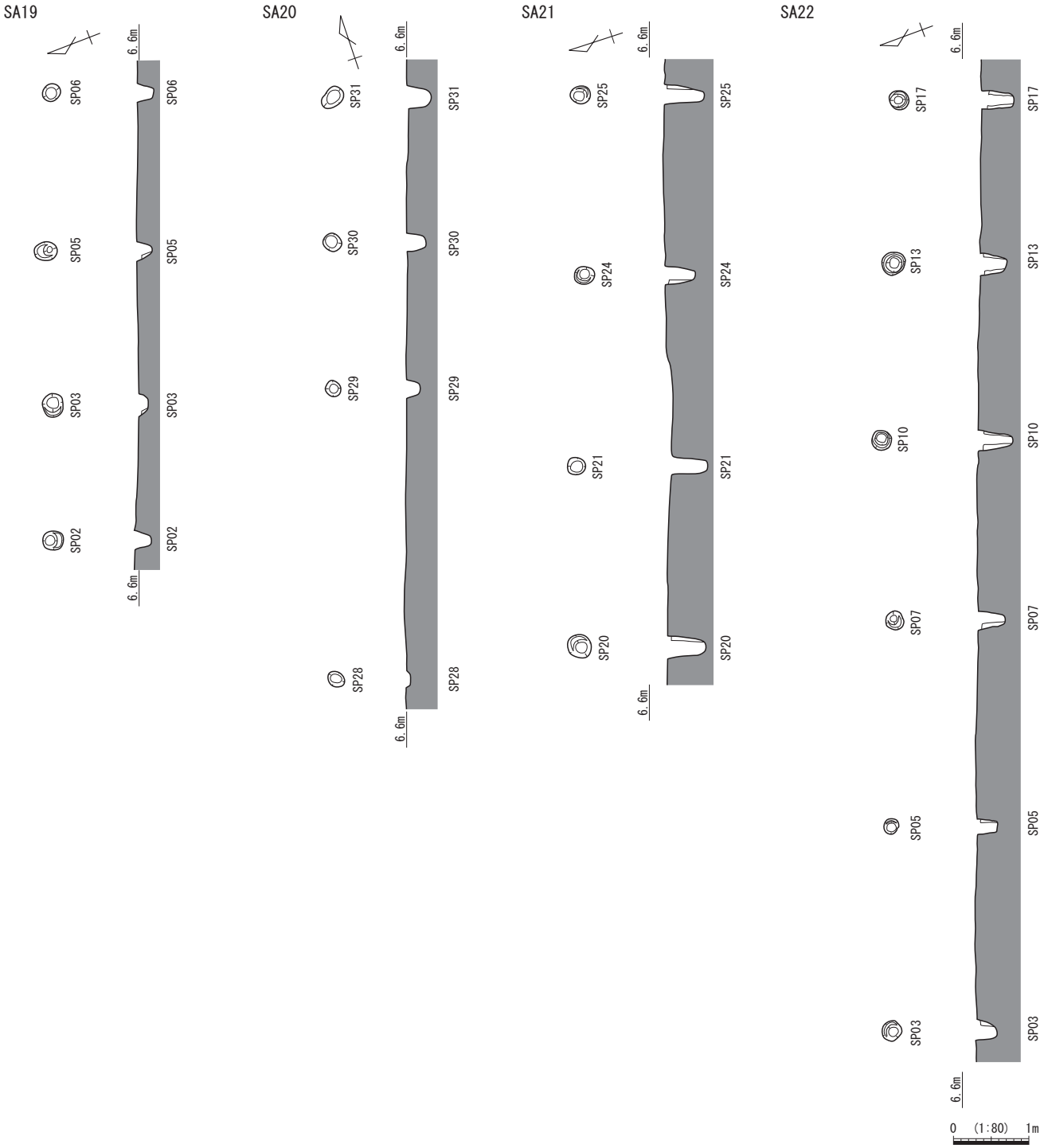


図83　SA12～SA18平面・断面図、出土遺物



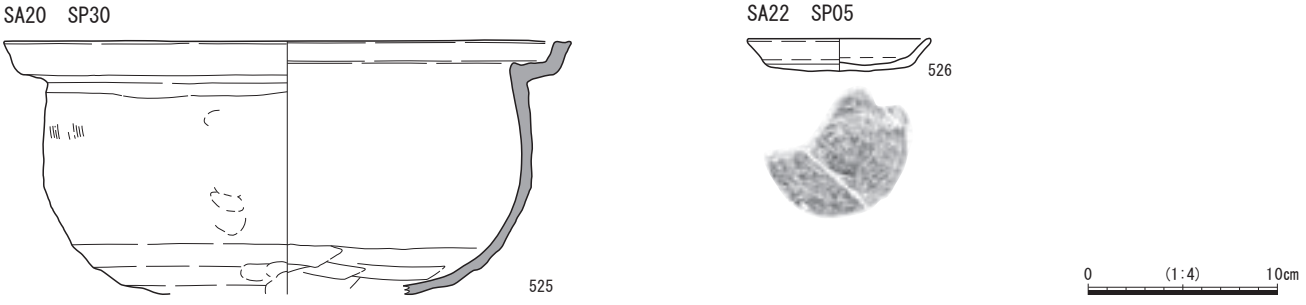


図84　SA19～SA22平面・断面図、出土遺物

ST03
(図67･69･85)
(写真図版19)

SB36の北約1.8mの位置で検出した。３次11－２区SD01に切られる。検出位置から周辺の建物のいずれかと関連すると考えられる。規模は長辺1.32m、短辺0.8mを測り、遺構の主軸はＮ５°Ｅである。深さは遺構検出面から約15cmを測る。検出時の平面プランは南北に長い円形を呈していた。土坑北側の掘方は緩やかに傾斜し、土坑中央部分から木質の残存及び粘土化した面が確認できた。土坑の西側で骨を確認したことから墓と判断した。検出した木質は骨の上位にあることから、木棺の蓋である可能性が高い。蓋の下部は粘質の強い褐灰色シルトで、土坑全域から粘土化した骨を検出した。骨の周囲で幅１～２cmの粘土帯を検出した。断面では明確に確認できなかったが、木棺の側板の痕跡とみられる。その範囲は南北85cm、東西46cmを測る。

遺物は埋土中から土師器皿Ｅ527が出土した。Ⅳ期に位置づけられる。遺構の規模はＳＴ01と類似し、副葬品も少なく簡素な構造である点も共通する。

ST04
(図67･69･85)
(写真図版20)

３次11－３区の西壁沿い、SB44の北約３mの位置で検出した。検出状況での平面プランは隅丸長方形を呈し、南北1.78m、東西65cmを測る。主軸はN20°Ｅである。深さは遺構検出面から最大で15cmを測る。土坑は垂直に掘り込まれ、断面で木棺痕跡を確認した。痕跡から復元できる木棺の規模は南北1.35m、東西65cmである。土坑の掘方北側には40cm程のスペースが存在する。当該部分からは何も検出されておらず、その性格は不明である。図85に示すように棺痕跡の粘土である５層を挟んで、水平方向の埋土が確認できることから、ＳＴ04に木棺を据え付ける際に掘り込まれたものと判断できる。

遺物は、棺内の北側で土師器皿532と漆膜、東側で土師器小皿Ａ528～531と鉄小刀533が出土した。529と530は重なった状態で出土した。漆膜は長辺15cm、短辺11cmが残存していた。本来あったと思われる有機質の心材は残存していないため、烏帽子あるいは漆箱等様々な可能性が考えられるが、詳細は不明である。これらの遺物はいずれも５層上面からの出土であり、原位置を保っていると考えられる。鉄小刀533は全長30cm、厚さ４㎜を測る。木棺の長軸に沿って切先を南に向けた状態で出土した。小皿Ａの口縁端部は三角形状におさめることを意識していることからⅣ期とみられる。SB44と近接し主軸もほぼ揃うが、時期差があり建物に付属するものではない。

ST05
(図67･71･86)
(写真図版30)

４次19区西壁沿いで検出した。平面プランは東西に長い隅丸長方形を呈す。規模は東西2.55m、南北95cmを測る。短軸方向で半裁を開始したところ、棺痕跡と思われる状況を確認したため、長軸方向の土層にも注意しながら慎重に調査を進めた。遺構検出面から約25cm掘り下げた位置で平面的に木質の広がりを確認した。棺痕跡の立ち上がりと木質の広がりから木棺に伴う蓋と考えた。蓋の下位にあたる木棺内の埋土を掘り下げ、土坑底から２cm程上面で再び木質の広がりを確認した。検出状況から棺底の板材と考えられる。木棺痕跡は比較的良好に確認でき、その規模は長辺1.87m、短辺47cmを測る。棺底の木質に貼りついた状態で、粘土化した有機質を検出した。木棺内の北端で検出した土師器杯540の南側で円形に広がる粘土を確認した。被葬者の頭骨部分に該当するとみられる。木棺痕跡の外側にあたる掘方内の北側から土師器杯539、南側から土師器杯541と小皿５枚（534～538）が出土した。出土位置から棺外副葬とみられる。棺底の木材の下部からは胴木もしくは横桟とみられる南北方向の木質が５か所で確認できた。木棺との緊結方法は判然としないが、棺に伴う構造であることは間違いない。

遺物は前述したように棺内から土師器杯540が、棺外の北側から杯539が、南側から小皿Ｒ534～538、杯541が出土した。土師器小皿Ｒ534～538はいずれも底部の切り離しはヘラ切りである。土師器杯も全て底部ヘラ切りである。法量は小皿が直径８cm前後、器高1.0～1.4cm、土師器杯は直径15cm前後、器高3.0cm前後を測る。底部の切り離し技法は西播磨通有のもので、その法量はⅣ期古段階の資料群と共通している。明らかに棺外副葬とみられる例は村東遺跡11区ＳＴ01の事例などがあるが、棺内と棺外に副葬する差の意味は判然としない。

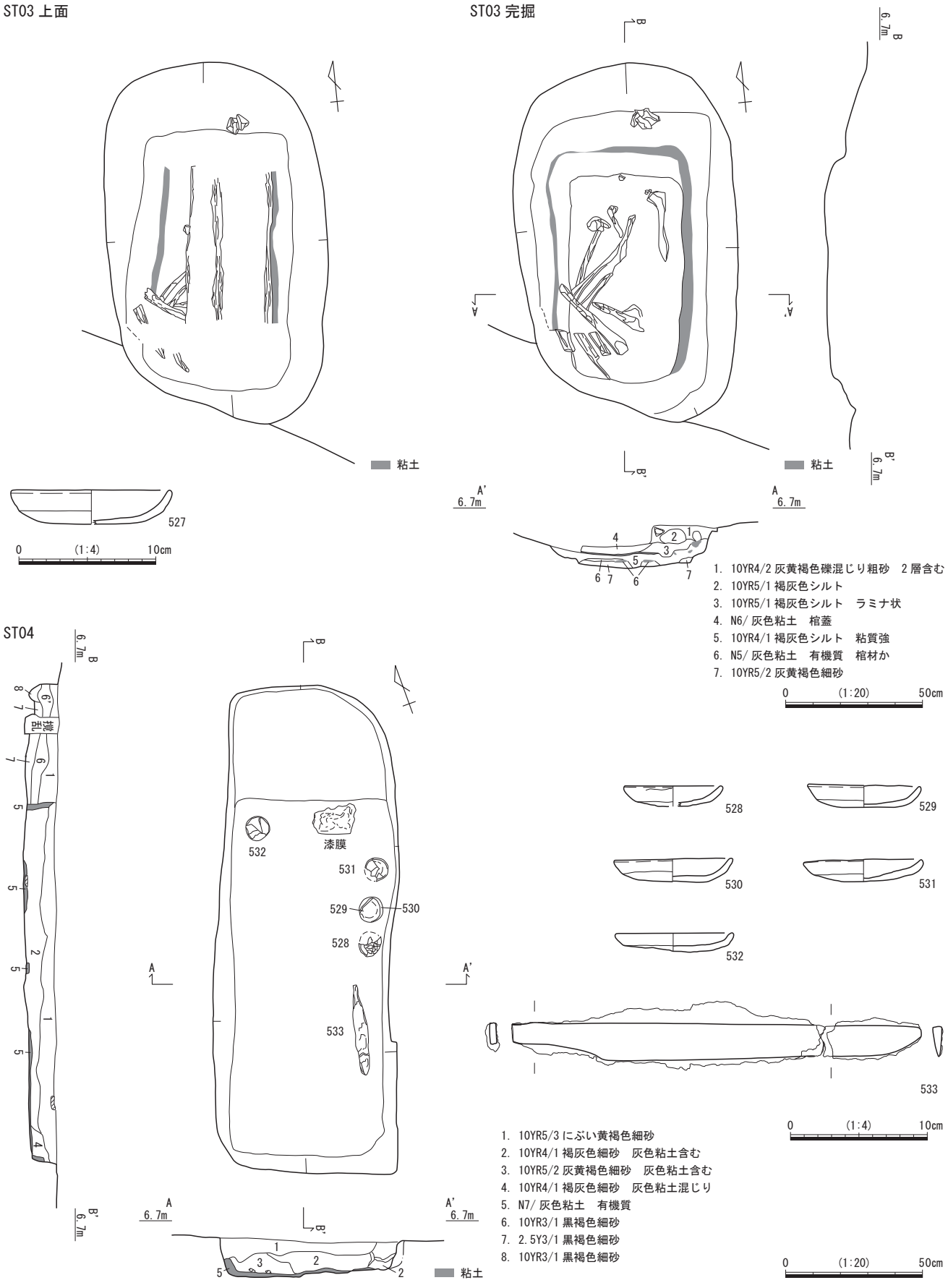


図85　ST03、ST04平面・断面図、出土遺物

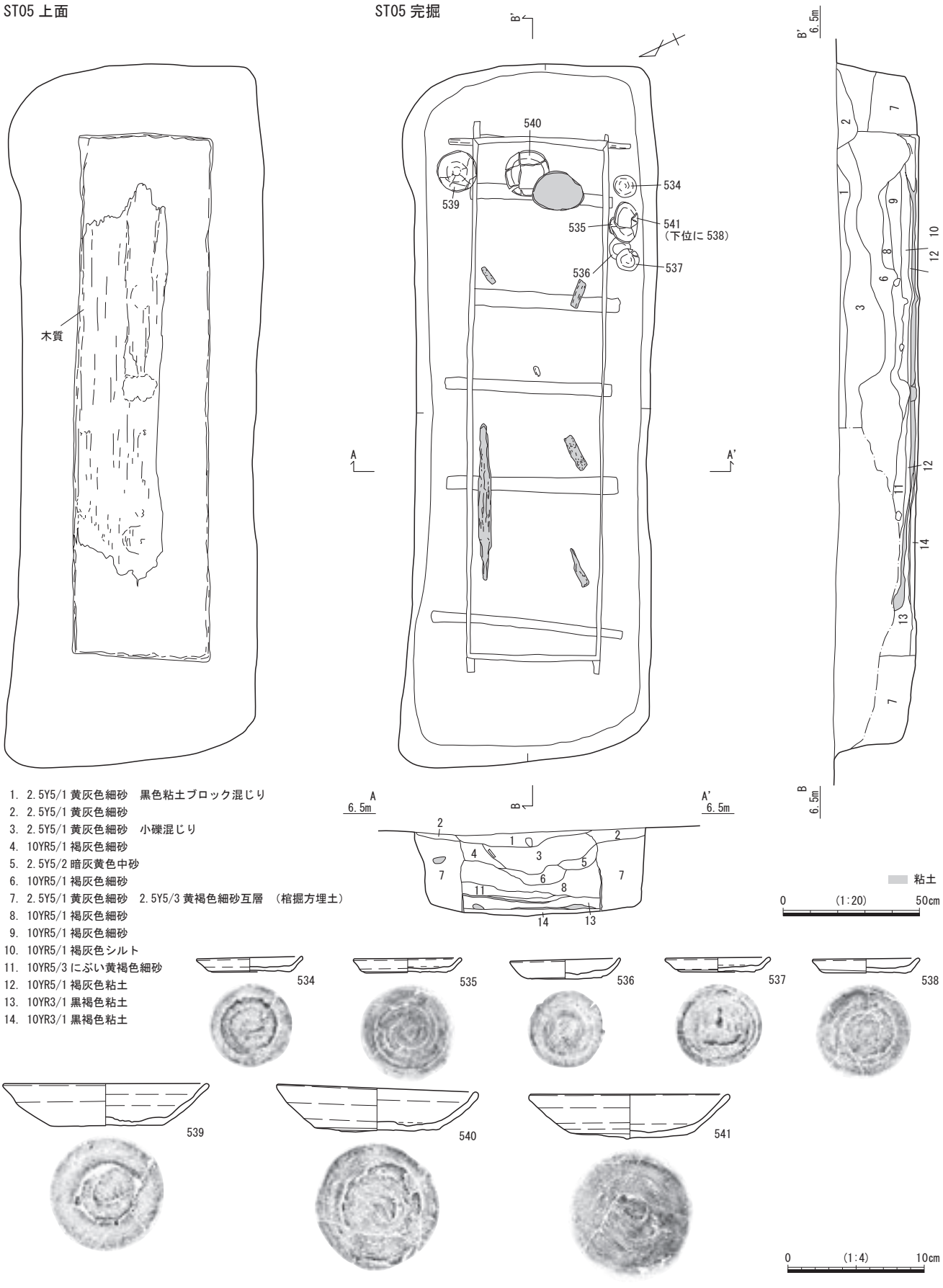


図86　ST05平面・断面図、出土遺物

棚田筋水路

（図67･68･69･71･87･88･89）
（写真図版20･21･23･28･29･31･32）

３次11-３区ＳＸ10、16次９区ＳＤ01、４次17区ＳＤ01、６次17-１区、10次２区の全域、13次２区の全域、８次38区の全域、22次３区の全域が該当する。調査前にはコンクリート側溝による水路が調査区画に沿って存在していた。溝の検出規模は上幅7.2～18m、深さは遺構検出面から概ね60㎝、総延長185ｍを測る。遺構は北側の３次11-３区で直角に南へ折れ、図７に示した調査前の用水路である棚田筋と位置関係が合致することから、棚田筋水路の前身遺構（以下、水路）と判断した。最初に調査した３次11-３区では、水路部分は造成され、段差をなくした状態で耕作が行われていた。地元の方によれば当該部分はかつて深田として耕作されていたようで、図87断面図の旧耕土がそれに該当する。水路は調査区内で直角に南へ折れ、３次調査時には区画遺構の可能性を考えたが、その後の調査でも南へ延長することから、水路と判断した。

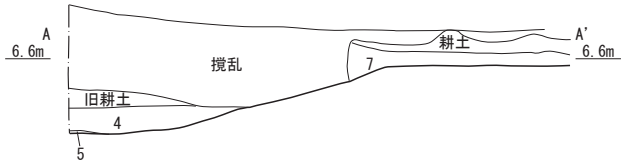
３次11-３区と20次１区で東西方向の溝の全容を確認した。断面形状は皿状を呈し、中央部分がわずかに凹む。下層の埋土は粘土で、その下位に薄く砂利層が確認できる。一定の流水があり、その後滞水したことを示す。図87に提示した断面形状は、最終的に深田となって埋まる直前の様相を示していることから、中世段階の水路は検出した幅より狭く、溝底がわずかに凹む幅約３ｍ程の溝であった可能性もある。南側の４次17区南壁のＤ－Ｄ’断面では水路幅は幅9.5ｍとなる。さらに南側の10次２区と13次２区では幅12m以上となる。その南側にあたる８次38区と22次３区では溝の肩が確認できていない。ただ、当該調査区の地山の標高は、10次２区の溝底部の標高とほぼ同じであることから、全域が水路に含まれる可能性が高い。３次11-３区ＳＤ10の西肩Ｅ－Ｅ’では、石列を検出した。石列の範囲は南北に約2.8ｍと部分的なものに留まる。使用石材は一辺30～40㎝の角礫で、溝の西肩上部にレベルを揃えて配している。石列から遺物が出土しておらず、石の前面には旧耕土が確認されたことから近世以降の耕作に伴う可能性が高い。

遺物は旧耕土中からもわずかに出土したが、基本的に溝底の砂利とともに地山に貼り付いた状態で出土した。溝の東西方向に延びる部分から比較的まとまって出土したが、南北方向に延びる部分からは図示に耐えうる遺物の出土はほぼ皆無である。以下、特に断らない遺物については、３次11-３区ＳＸ10の北側溝底から出土したものである。土師器小皿Ｒ542は底部ヘラ切り、543・544･547は皿Ｏ、小皿Ａ545･546も皿Ｏの形態である。548は皿Ｈで口縁部を長三角形状につくる。549は皿Ｆで口縁部は薄くシャープにのびる。544～549は16次調査区の溝底から出土した。瓦器椀550は楠葉型であろう。551は龍泉窯青磁碗、552は白磁碗Ⅸ類の底部、553は白磁碗Ⅳ類である。554・556は播但型の土師器堝Ⅱ類で、554は16次調査区から出土した。555は鉄かぶと形堝Ⅰ類である。557・558・561は瓦質三足羽釜で、上方貼付けタイプである。559は瓦質羽釜である。土師質羽釜560は多段タイプ。562は土師質の三足堝である。563～567は須恵器鉢で、567は16次調査区から出土した。口縁形態は、563はＢ２ｂ類、566・567はＢ３ｂ類、564・565は端部を巻き込むＣ類である。567は生焼けである。568～573は備前焼擂鉢である。569・572はＳＸ10東側、573は溝上層にあたる耕土との境から出土した。568～572は中世３ｂ期、573は中世６ａ期である。574は備前焼壺で７次35区の溝上層から出土した。575・576は須恵器甕で、575はＳＸ10東側からの出土である。577は10次調査区から出土したもので、瓦質火鉢の一部で、獣像部分のみ残存している。578はチャート製の砥石である。上面に使用痕が認められる。579～582は中世瓦である。579は同文と見られる資料が西へ約550m離れた堂田遺跡から出土している。焼成は須恵質で堅緻に仕上がる。瓦当上部には粗いハケが施される。581～582は平瓦で焼成は579と類似する。581は凸面に格子タタキ、580と582は凸面に縦方向のケズリが施される。

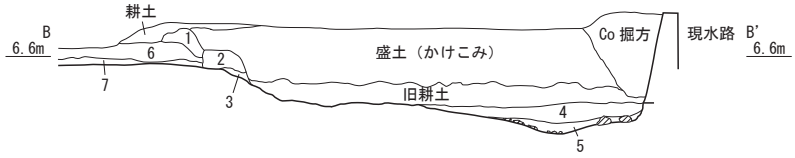
遺構は土師器皿Ｆ・Ｈ・Ｏ、須恵器鉢Ｃ類、備前焼擂鉢中世３ｂ期の出土からⅤ期からⅥ期に位置づけられる。白磁碗や中世瓦など古い時期の遺物も含むが混入であろう。溝底に貼り付いた出土状況から水路の開削時期はⅤ期と考える。その後、16世紀代まで維持されたとみられる。

棚田筋水路

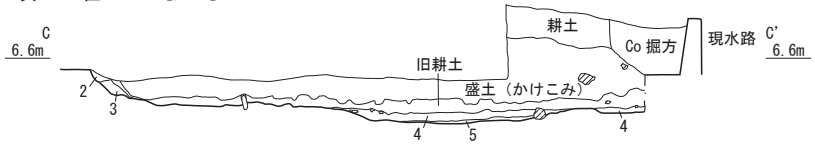
20 次 1 区 SD01 西壁 【図 69】



3 次 11-3 区 SX10 西壁 【図 69】

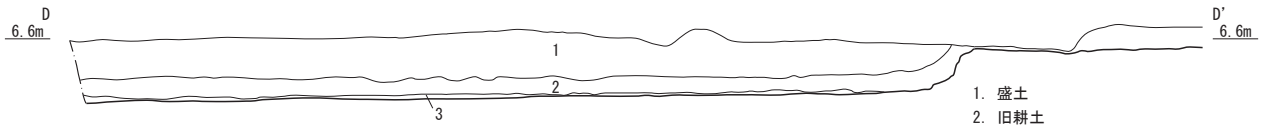


3 次 11-3 区 SX10 【図 69】



※A・B・C 断面共通
1. 2.5Y6/2 灰黄色細砂 （旧畦畔か）
2. 2.5Y5/2 暗灰黄色中砂 しまり弱
3. 2.5Y6/1 黄灰色細砂 地山ブロック混じり
4. 10YR5/1 褐灰色細砂
5. 10YR3/1 黒褐色粘土 下位に礫・砂
6. 2.5Y6/2 灰黄色細砂 旧耕土＋床土
7. 2.5Y6/1 黄灰色細砂

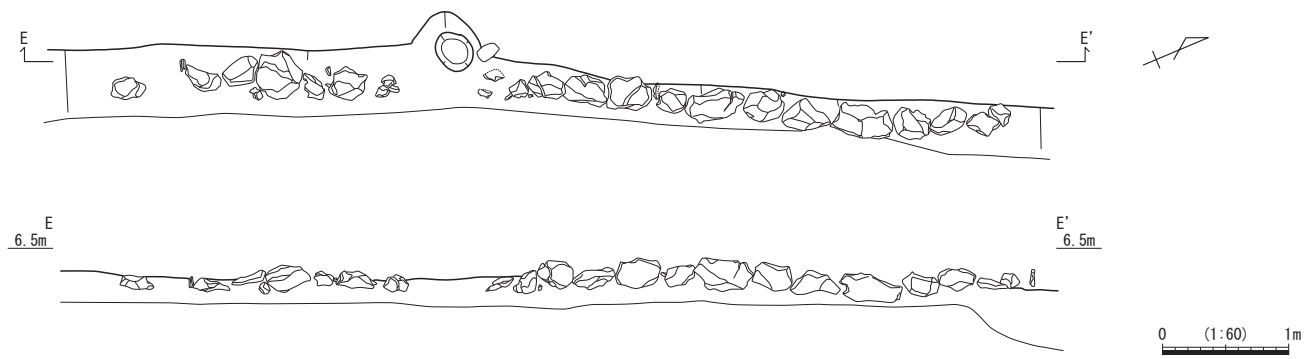
4 次 17 区 SD01 【図 71】



1. 盛土
2. 旧耕土
3. 2.5Y6/1 黄灰色細砂 わずかに土器包含

0 (1:80) 1m

3 次 11-3 区 SX10 石列 【図 69】



0 (1:60) 1m

図87 棚田筋水路断面、石列平面・断面図

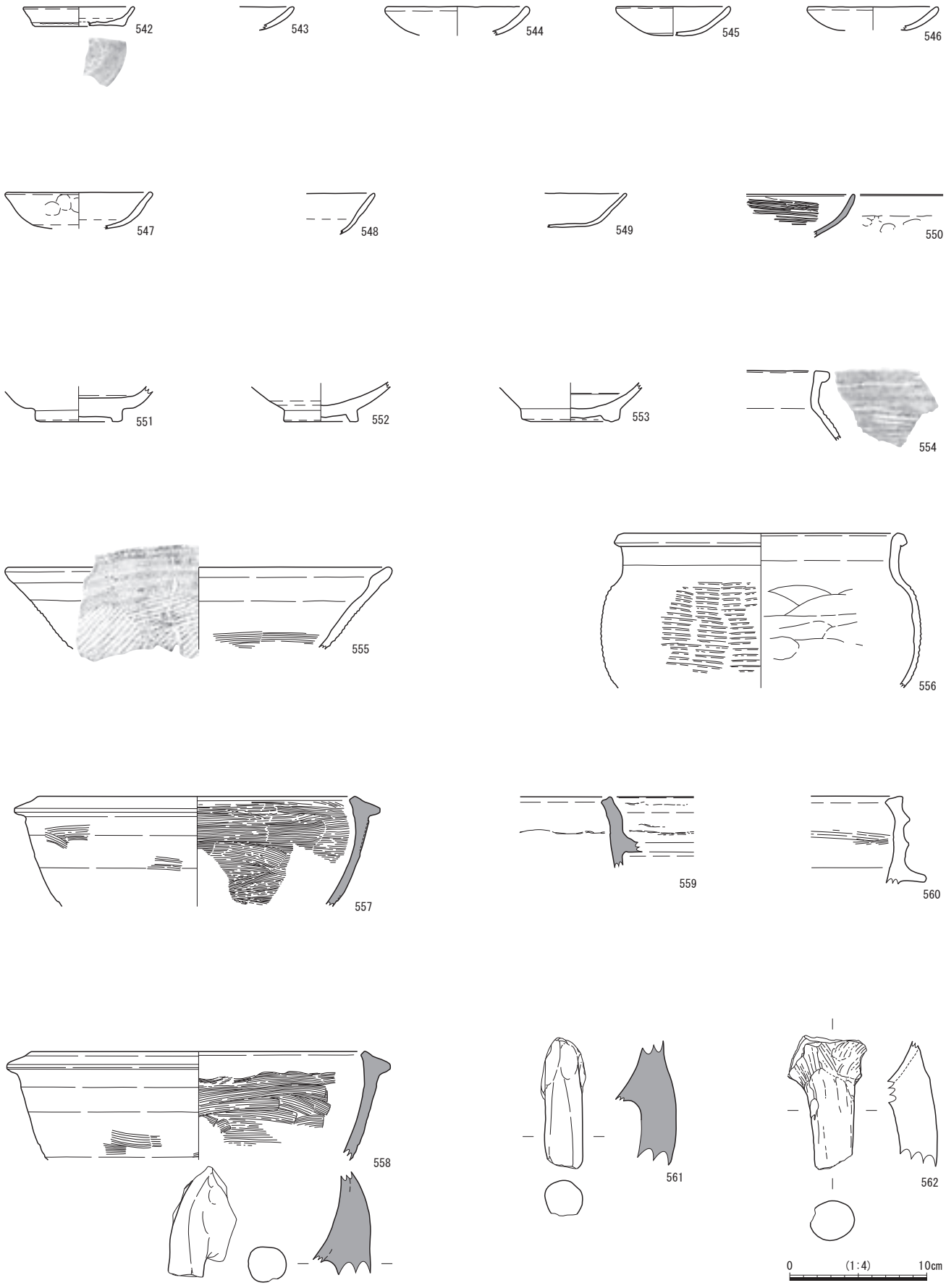


図88　3次11-3区SX10出土遺物①

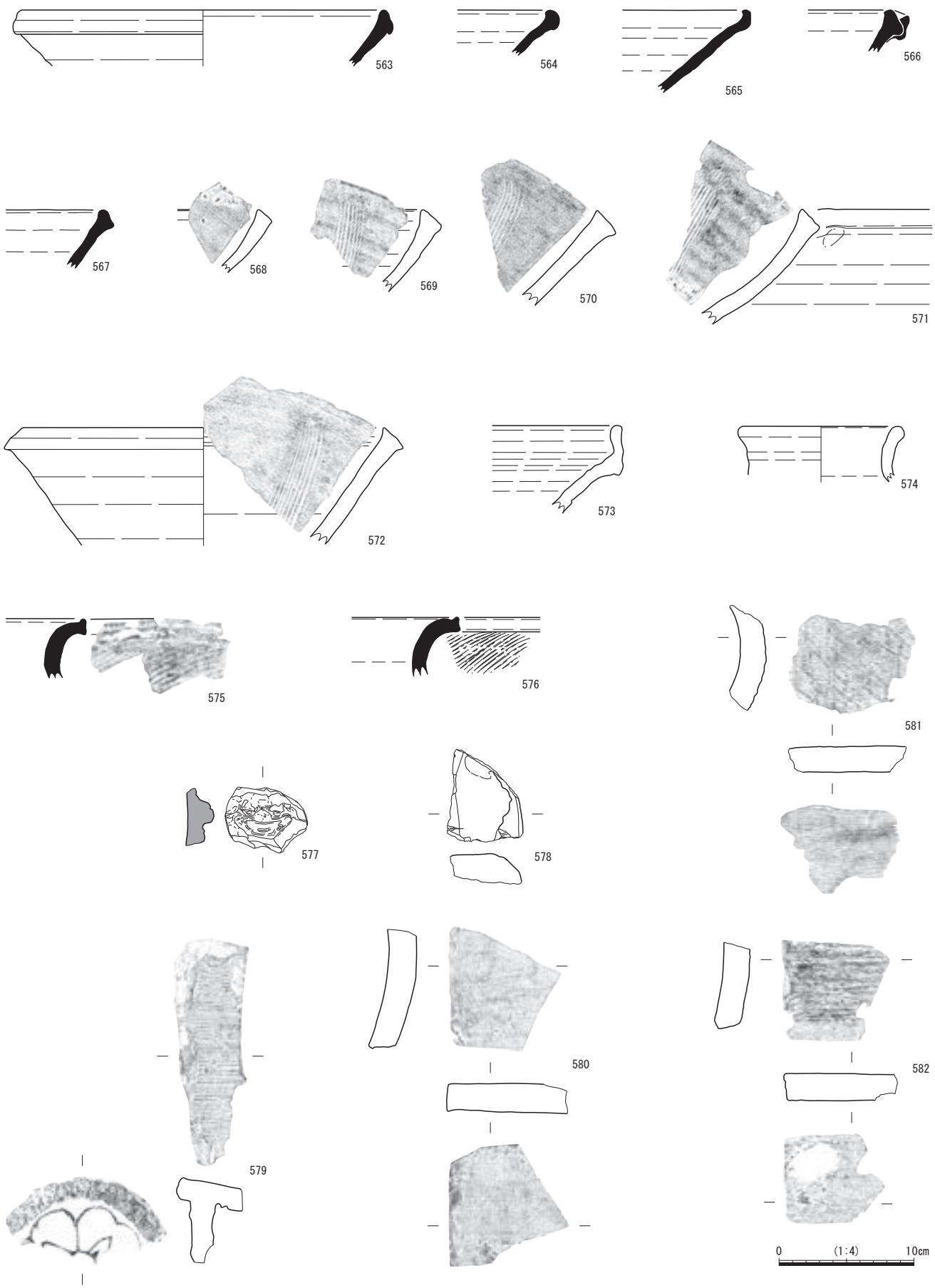


図89　3次11-3区SX10出土遺物②

3次11-1区 SD01 (図68･90) (写真図版15)

SB30の南80cmの位置で検出した。調査区を東西方向に横断する。検出規模で延長6.4m、幅70cm、深さは遺構検出面から８cmと浅い。主軸はN21°Eに直交する。SB30の主軸とはわずかにずれることからSB31・SB32と関連する可能性が高い。埋土は黄灰色土の単層で、須恵器椀583が出土した。底部糸切りで平高台の痕跡がわずかに残る。Ⅳ期と考えられる。

3次11-1区 SD02 (図68･90) (写真図版15)

SD01の南約９mの位置で検出した。東西方向に延びる溝で、調査区外の西側に延びる。南側に位置するSB33の西端の柱通りと溝の末端が揃っていることからSB33と関連する遺構と考えられる。検出規模で延長4.3m、幅50cm、深さは遺構検出面から８cmを測る。埋土は黄灰色土の単層で、SD01と色調・土質とも共通する。遺物は須恵器椀584と585が出土した。585は底部糸切りでわずかに平高台が残る。Ⅳ期と考えられる。

3次11-2区 SD01 (図69･90) (写真図版19)

11-２区西端からSB35の手前まで延びる。耕作に伴うと考えられる南北方向の溝との切り合いはあるが、ST03を切る以外は主たる遺構との切り合い関係はない。11-３区SD11と本来は一連であった可能性がある。東西方向にわずかに湾曲しながら延び、検出規模は延長17.1m、幅60cm、深さは遺構検出面から最大で15cmを測る。埋土は３層に細分したが、基本的には黄灰色細砂で埋まっている。

遺物は土師器小皿586、土師器堝鉄かぶと形Ⅰ類587等が出土した。遺物の時期はⅤ期からⅥ期である。

3次11-2区 SD17 (図67･68･90) (写真図版16)

11-２区の東端で検出した。11-３区SX10から約50mの間隔を測り、坪内の半町の位置にあたる。調査区を南北に縦断し、検出規模で5.68m、幅80cm、深さは遺構検出面から10cmを測る。主軸はN21°Eを測り、東側の里道と平行する。調査区北壁の手前で溝底に押しつぶされた状態でくの字口縁土師器堝588を確認した。厚手の堝でⅣ期に位置づけられる。

3次11-3区 SD10 (図69･90) (写真図版20)

SX10の南約11mの位置で検出した。調査区内を東西方向に延び、西側はSD11に切られ、東側はSX10に切られる。検出規模で延長9.9m、幅2.2m、深さは遺構検出面から最大で26cmを測る。溝は２段に落ち込み、上部は幅2.2m、深さは約６cmと浅い。下部の幅は幅60cmである。図示に耐えうる遺物の出土はなかった。

3次11-3区 SD11 (図69･90) (写真図版20)

SD10を切り、SX10に切られる遺構である。断面規模等は異なるが、本来は11-２区SD01と一連と考える。検出規模で延長10.3m、幅80cm、深さ25cmを測る。

4次22区 SD03 (図67･70･90) (写真図版22)

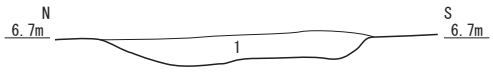
SA22の東50cmの位置で平行する溝SD03とSD04を検出した。主軸はN21°EでSD04は調査前の田畑の境界部に該当する。調査区外に延びるため全容は不明であるが、検出規模で延長約5.9m、幅約45cm、深さは約10cmを測る。埋土からもSD04は耕作に伴う溝と考えられるが、SD03は褐灰色細砂～シルトで耕作に伴う可能性は低い。SD03の埋土から平高台の須恵器椀589が出土した。SA21・SA22等、周辺の遺構に伴う溝と判断しておく。

3次11-3区 SX01 (図69･91) (写真図版20)

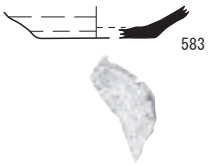
SB44と平面的に重なる位置で検出した。調査区の西側は耕土直下で遺構検出面となるが、SX01周辺はわずかに地形が凹んでおり、遺物を含む黒色土が部分的に堆積していた。そのうちの一つがSX01であり、他の凹みに比べて深さがある。平面は不整形で、検出規模で長辺4.7m、幅1.95m、深さは21cmを測る。SX01の埋土下でSB44を構成する柱穴を検出したことから、SB44に後行する遺構である。

遺物は、遺構の北東部で比較的まとまった状態で出土した。土師器小皿590、青磁碗591、須恵器鉢592、須恵器甕593、瓦質土器羽釜594～597、受口口縁の瓦質土器堝598である。591は龍泉窯産で内面見込みに幾何学文様の印刻を施す。592は口縁部分類のＢ３ａ類中段階にあたるもの。594は直立する口縁部、595と596は内傾する口縁部をもつ。595は鍔長1.2cmと短くなっている。597はこれらに伴う三足の脚部である。598の胴部は膨らみが弱く直線的な体部に近づいている。595と598の様相からⅤ期新段階に位置づけられる。

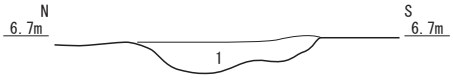
3 次 11-1 区 SD01 【図 68】



1. 2.5Y5/1 黄灰色細砂

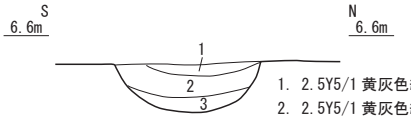


3 次 11-1 区 SD02 【図 68】

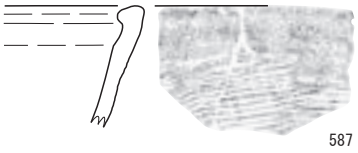


1. 2.5Y5/1 黄灰色細砂

3 次 11-2 区 SD01 【図 69】



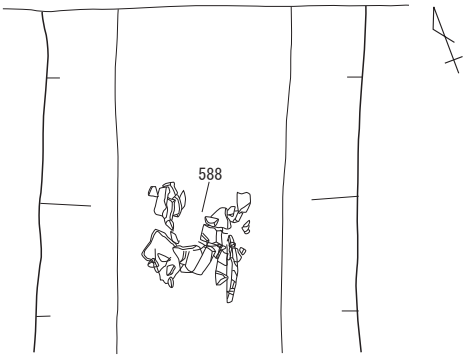
1. 2.5Y5/1 黄灰色細砂
2. 2.5Y5/1 黄灰色細砂黒褐色ブロック混じり
3. 2.5Y4/1 黄灰色細砂

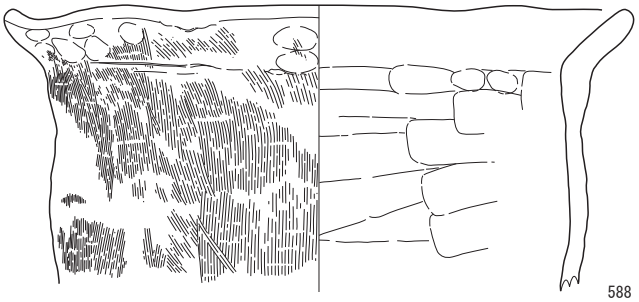


3 次 11-2 区 SD17 【図 68】

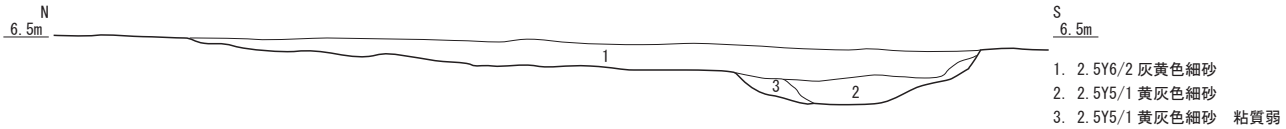
1. 2.5Y5/1 黄灰色細砂
2. 2.5Y5/1 暗灰黄色細砂
3. 2.5Y5/1 黄灰色細砂　地山ブロック含

SD17 遺物出土状況



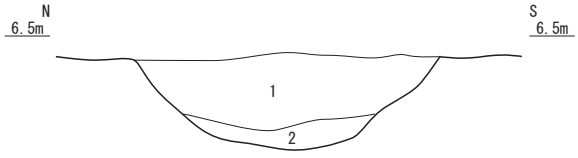


3 次 11-3 区 SD10 【図 69】



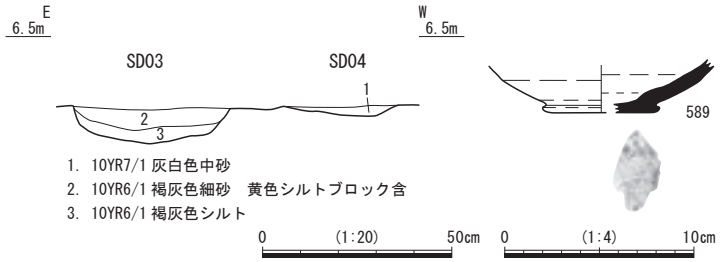
1. 2.5Y6/2 灰黄色細砂
2. 2.5Y5/1 黄灰色細砂
3. 2.5Y5/1 黄灰色細砂　粘質弱

3 次 11-3 区 SD11 【図 69】



1. 2.5Y5/1 黄灰色細砂　黒褐色ブロック混じり
2. 2.5Y5/1 黄灰色細砂

4 次 22 区 SD03・SD04 【図 70】



1. 10YR7/1 灰白色中砂
2. 10YR6/1 褐灰色細砂　黄色シルトブロック含
3. 10YR6/1 褐灰色シルト

図90　3次11-1区SD01、SD02、11-2区SD01、SD17、11-3区SD10、SD11、4次22区SD03・SD04断面図、出土遺物

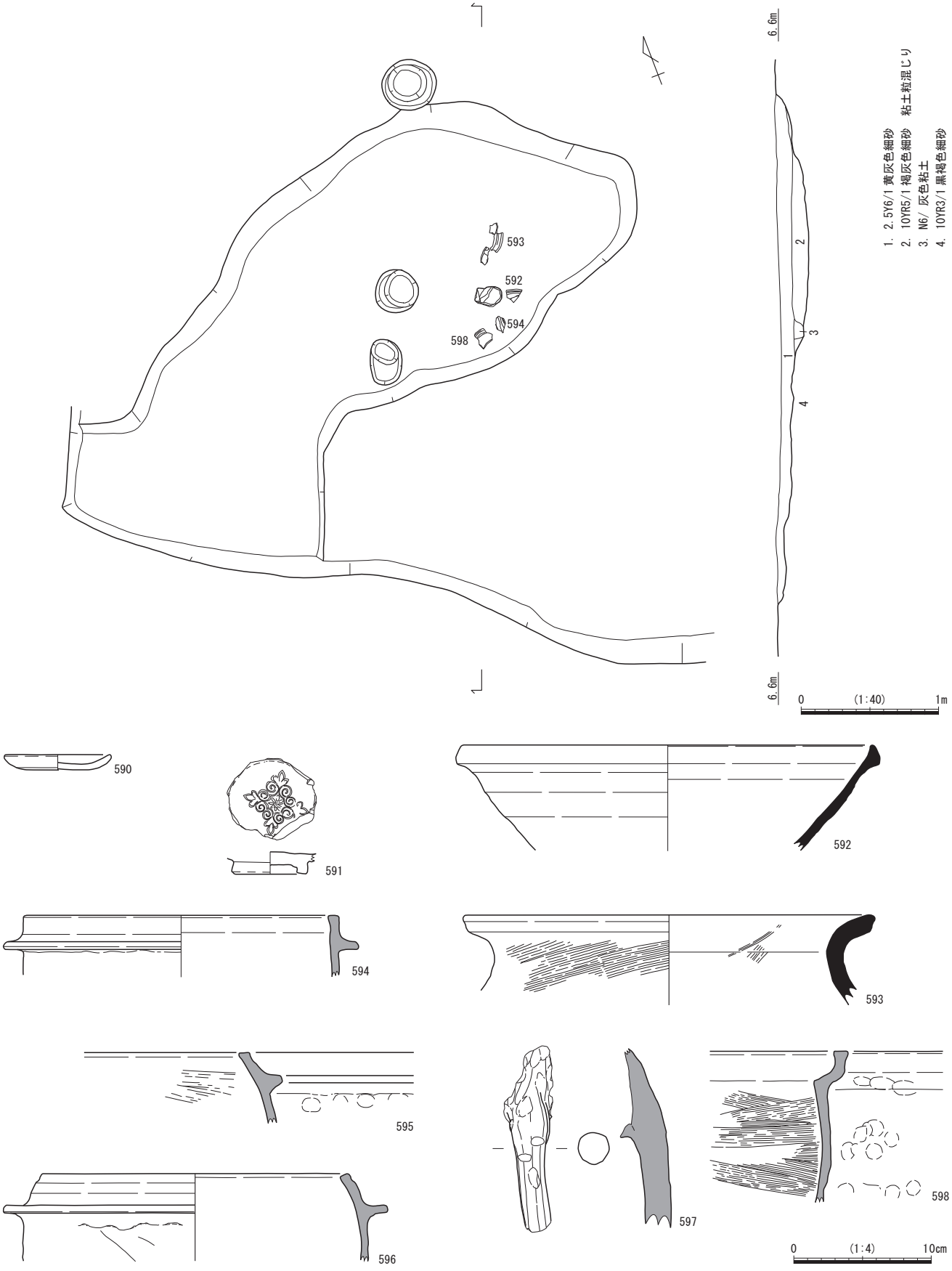


図91　3次11-3区SX01平面・断面図、出土遺物

3次11-2区 SK04 (図69・92) (写真図版18)　下層ＳＫ01を切る長円形の遺構である。遺構の主軸はN48° E、平面規模は長辺1.1ｍ、短辺58㎝、深さは遺構検出面から21㎝を測る。埋土から瓦質土器羽釜599、須恵器甕600が出土した。

3次11-3区 SK03 (図69・92)　11-３区SD11の北２ｍの位置で検出した楕円形の遺構である。平面規模は長辺96㎝、短辺40㎝、深さは遺構検出面から20㎝を測る。埋土から播但型堝Ⅲ類601が出土した。Ⅴ期新段階からⅥ期古段階に認められる形態である。

3次11-3区 SX05 (図69・92)　調査区の西壁沿いで検出した。その範囲はSK03の東側まで広がり、遺構の範囲は不明瞭で、前述したSX01と類似する地山の凹みに該当するものと考えられる。検出規模で東西4.5m、南北5.7ｍを測る。深さは西壁沿いが最も深く、最大で27㎝を測る。

遺物は土師器小皿Ｂ602、播但型堝603・604が出土した。602は底部が丸底で皿Ｏ形態の小皿である。603・604は播但型Ⅲ類でＳＫ03と同時期であろう。

4次17区 SK01 (図71・92)　SB46と平面的に重なる位置で検出した。SB46を切り、SD01に切られる。平面形は隅丸方形とみられ、検出規模で南北2.44m、東西1.92m、深さは20㎝を測る。埋土から土師器皿605が出土した。皿Ｆもしくは皿Ｏとみられる。

柱穴　建物跡、柵跡を構成しない柱穴から出土した遺物の概要は下記のとおりである。

3次11-2区 (図68・69)　SP16からは瓦質羽釜606、SP35からは土師器小皿607、SP42からは土師器羽釜608が出土した。鍔長は1.6㎝を測る。SP45からは凝灰岩製の砥石609が出土した。SP49からは手づくね成形の土師器小皿610が、SP55からは土師器小皿611と皿Ｈ612が出土した。SP59からは土師器皿Ｅ613が、SP72からは瓦質土器甕614が、SP74からは瓦質土器羽釜615が出土した。SP93からは常滑焼甕の胴部616が出土した。SP107からは土師器小皿Ａ617が出土した。SP152からは土師器播但型堝618が出土した。SP153からは瓦質羽釜619が出土した。遺物はⅣ期からⅤ期に位置づけられるものが出土している。

3次11-3区 (図69)　SP22からは瓦質土器三足羽釜620が出土した。脚部と接点はないが同一個体と考える。SP57からは凝灰岩製の砥石621が出土した。SP61からは土師器皿Ｈ622が、SP100からは瓦質羽釜623が出土した。623の口縁部形状は外傾し、この形態はⅤ期新段階から出現する。基本的にⅤ期に位置づけられるものが出土している。

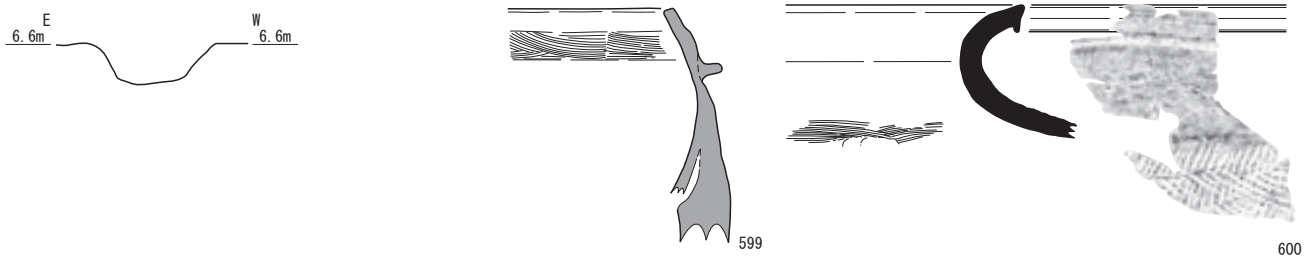
4次19区 (図71)　SP20から短顎の付く長胴の羽釜624が出土した。鍔が口縁端部に貼り付けられるＢタイプである。11世紀後半以降出現する（姫路市2020）。

16次8区 (図68)　SP04からは須恵器椀の口縁部625が出土した。16次８区周辺の11次４区、14次５区、14次６区、16次７区においては遺構が希薄である。耕作痕跡を直接検出したものではないが、14次６区において隅蹄類の足跡を確認した。こうした点から建物等の遺構が希薄な区域は耕作地であったと推測できる。

20次1区 (図68・69)　SP04、SP19、SP23からは土師器皿Ｏ626・627・628・630が出土した。また、SP23からは小皿Ａ629が出土している。SP24からは瓦質土器堝の受口部分631が出土した。SP25からは皿Ｏ632・633が、SP29からは皿Ｈ634が出土した。SP35からは須恵器鉢635が出土した。口縁部形態Ｂ１ｂ類古段階とみられ、他の遺構出土遺物に比べ古く位置づけられる。SP37からは底部ヘラ切りの土師器杯636が出土した。基本的にⅤ期に位置づけられる遺物が主体となる。

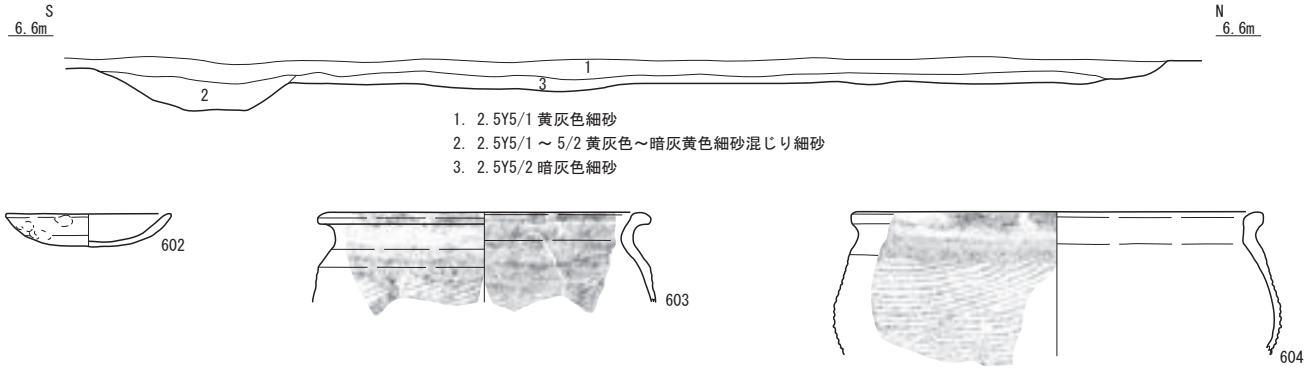
上記の遺物から、北西部の柱穴から出土する遺物は、総じて北東部よりも新しい傾向を示し、Ⅴ期を中心とする時期に位置づけられる。

3 次 11-2 区 SK04 【図 69】



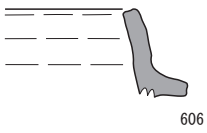
3 次 11-3 区 SK03 【図 69】

3 次 11-3 区 SX05 【図 69】

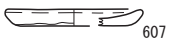


4 次 17 区 SK01 【図 71】

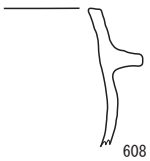
3 次 11-2 区 SP16



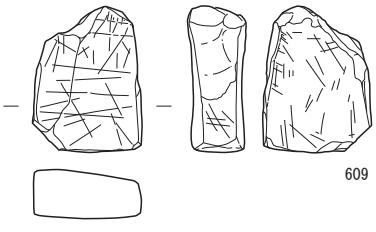
3 次 11-2 区 SP35



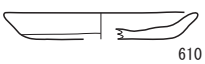
3 次 11-2 区 SP42



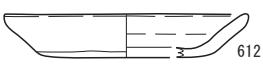
3 次 11-2 区 SP45



3 次 11-2 区 SP49



3 次 11-2 区 SP55



3 次 11-2 区 SP59

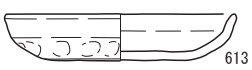


図92　3次11-2区SK04、11-3区SK03、SX05、4次17区SK01断面図、柱穴出土遺物

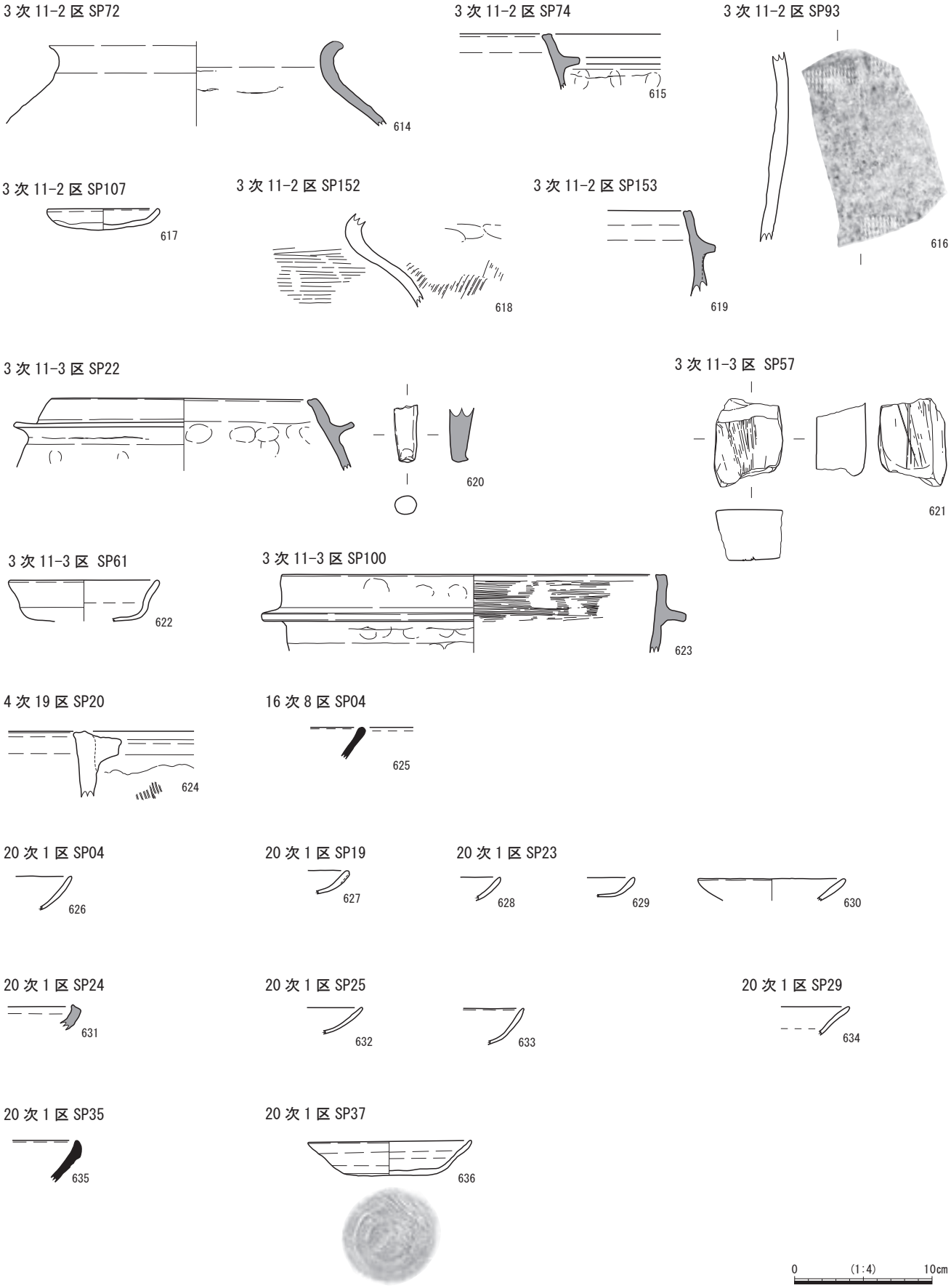


図93　北西部柱穴出土遺物

Ⅲ－2－3　北西部下の調査

調査地は姫路市町坪のうち小字「豆田」にあたり、9次3区と10次3－1区の間にある里道が十七ノ坪と二十ノ坪の境に当たる。また、18次14－2区の西側に大井川が流れており、その部分が坪境にあたる。調査は2009年度、2010年度、2015年度、2016年度の4カ年にわたって断続的に実施した。

二十ノ坪内の中央やや東寄りでSB51～SB55の5棟、SA23・SA24の柵2条を検出した。坪内を分割する溝等は検出できていない。大井川に近い位置でSB56を単独で検出した。里道を挟んだ南側にあたる十七ノ坪においては調査範囲では建物跡等は確認できていない。9次3区SX01と18次14－1区SX01は連続する大型の落ち込みであるが、遺物が出土していないため、詳細は不明である。10次3－1区においてSD01を検出したが、本遺構についても出土遺物がなく、その広がりを含めて不明である。18次14－2区の西端は、現在の大井川改修時の攪乱が及んでいる。断面には旧河道の土層等が確認できないことから、少なくとも調査区内には旧河道が存在した痕跡はうかがえない。

SB51
(図94･96)
(写真図版33)

北西部調査区の南に位置する16次10－1区で検出した。平面プランはSB53と重なるが、柱穴の直接の切り合いがないため、その新旧は不明である。検出した位置から建物跡は調査区の南側に広がる可能性を有す。一部確認できていない柱穴があるが、検出状況から3間×3間の建物跡と考えられる。SP16－SP18を基準とした主軸方向はN17°Eを測る。平面規模は南北方向3間で6.9m、東西方向3間で6.6mとわずかに南北方向に長い。平面積は約45.9㎡を測る。柱間寸法は南北方向SP15－SP19で南から2.1m、2.25m、2.25m、東西方向SP20－SP18で東から2.35m、2.45m、2.1mを測る。柱穴の平面形は基本的に円形を呈し、一部に切り合いが認められる。大きさは直径20～42㎝を測る。深さは遺構検出面から16～46㎝を測る。図示に耐えるものではないが、SP09とSP13から土師器厚手堝の細片が出土しており、Ⅳ期の可能性がある。

SB52
(図94･96)
(写真図版33)

SB51の西側1.2mの位置で検出した。両建物の間にはSA25がある。検出した位置から建物跡は調査区の西側と南側に広がる可能性がある。検出状況から2間×3間以上の総柱建物跡と考えられる。SP03－SP39を基準とした棟方向はN19°Eを測る。平面規模は南北方向3間で5.5m、東西方向2間で4.3mを測る。平面積は約23.7㎡を測る。柱間寸法は南北方向SP03－SP39で北から1.75m、1.85m、1.9m、東西方向SP38－SP40は2.15mの等間隔である。柱通りは比較的揃っている。柱穴の平面形は円形を呈し、大きさは直径22～28㎝、深さは遺構検出面から18～36㎝を測る。

SB53
(図94･97)
(写真図版33)

SB52の北側にほぼ接した状態で検出した。平面的にSK01と重なるが、本建物に伴うものかどうかは不明である。検出した位置から建物跡は調査区の北側と西側に広がる可能性を有す。検出状況から2間×3間以上の東西棟の総柱建物跡と考えられる。SP25－SP28を基準とした主軸方向はN21°Eを測る。平面規模は梁行2間で3.7m、桁行3間で7.1mを測る。平面積は約26.3㎡を測る。柱間寸法は梁行SP25－SP28で1.85mの等間隔、桁行SP06－SP28で西から2.75m、2.55m、1.8mを測る。柱通りは南北方向では揃うが東西方向ではやや歪む。柱穴の平面形は基本的に円形を呈し、大きさは直径21～35㎝、深さは遺構検出面から24～30㎝を測る。

SB54
(図95･97)
(写真図版33)

SB52の南約7mの位置で検出した。検出した位置から建物跡は調査区の東側と南側に広がる可能性が高い。検出状況から2間×2間以上の建物跡と考えられる。SP02－SP05を基準とした棟方向はN17°Eを測る。平面規模は南北方向2間で3.95m、東西方向2間で4.55mを測る。平面積は約18㎡を測る。柱間寸法は南北方向SP02－SP05で北から1.95m、2.0mとほぼ等間隔、東西方向SP02－SP11で西から2.15m、2.4mを測る。柱穴の平面形は円形を呈し、大きさは直径14～32㎝、深さは遺構検出面から10～24㎝を測る。SP11から須恵器椀637が出土した。

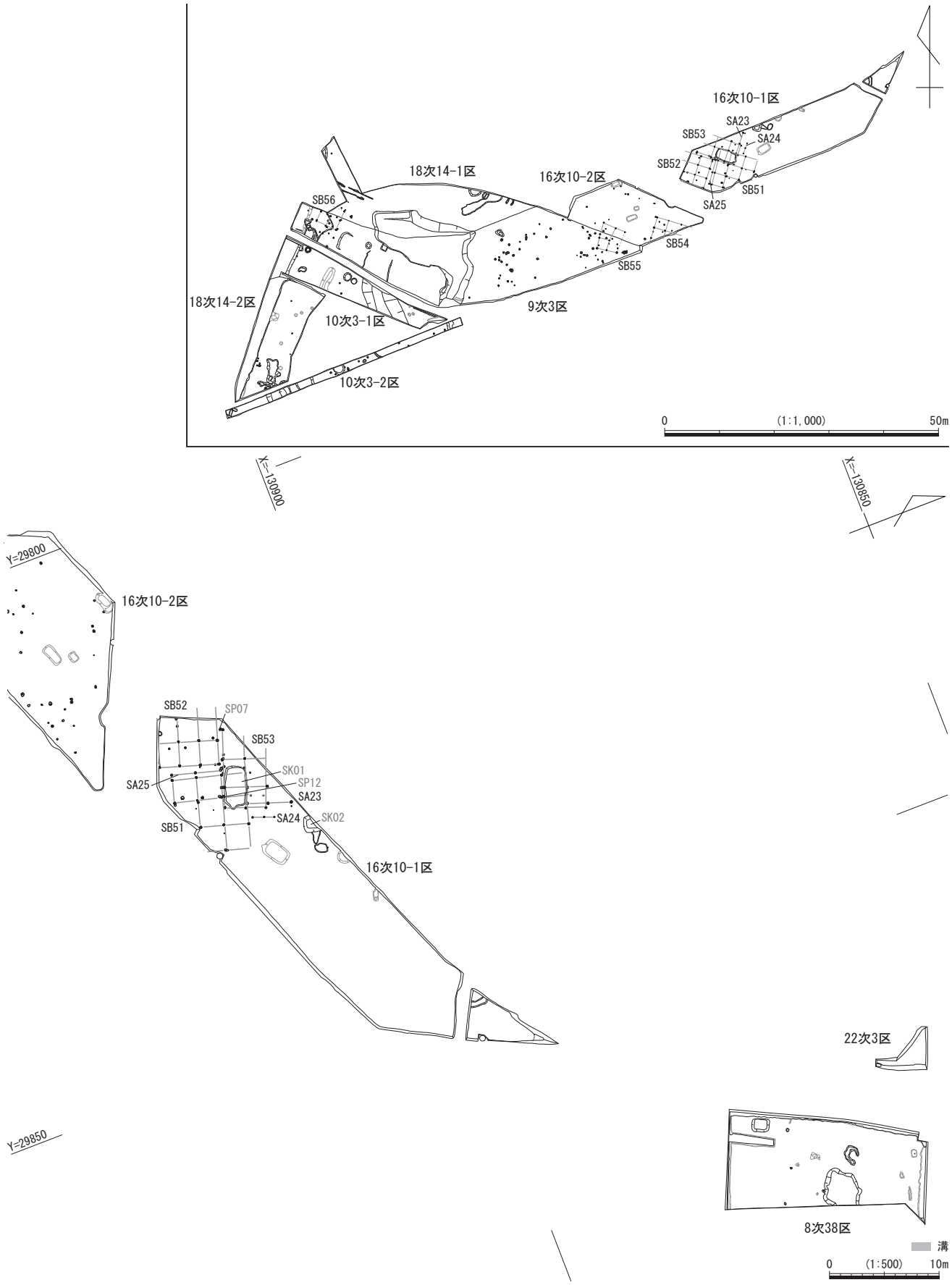


図94　北西部下遺構平面図①

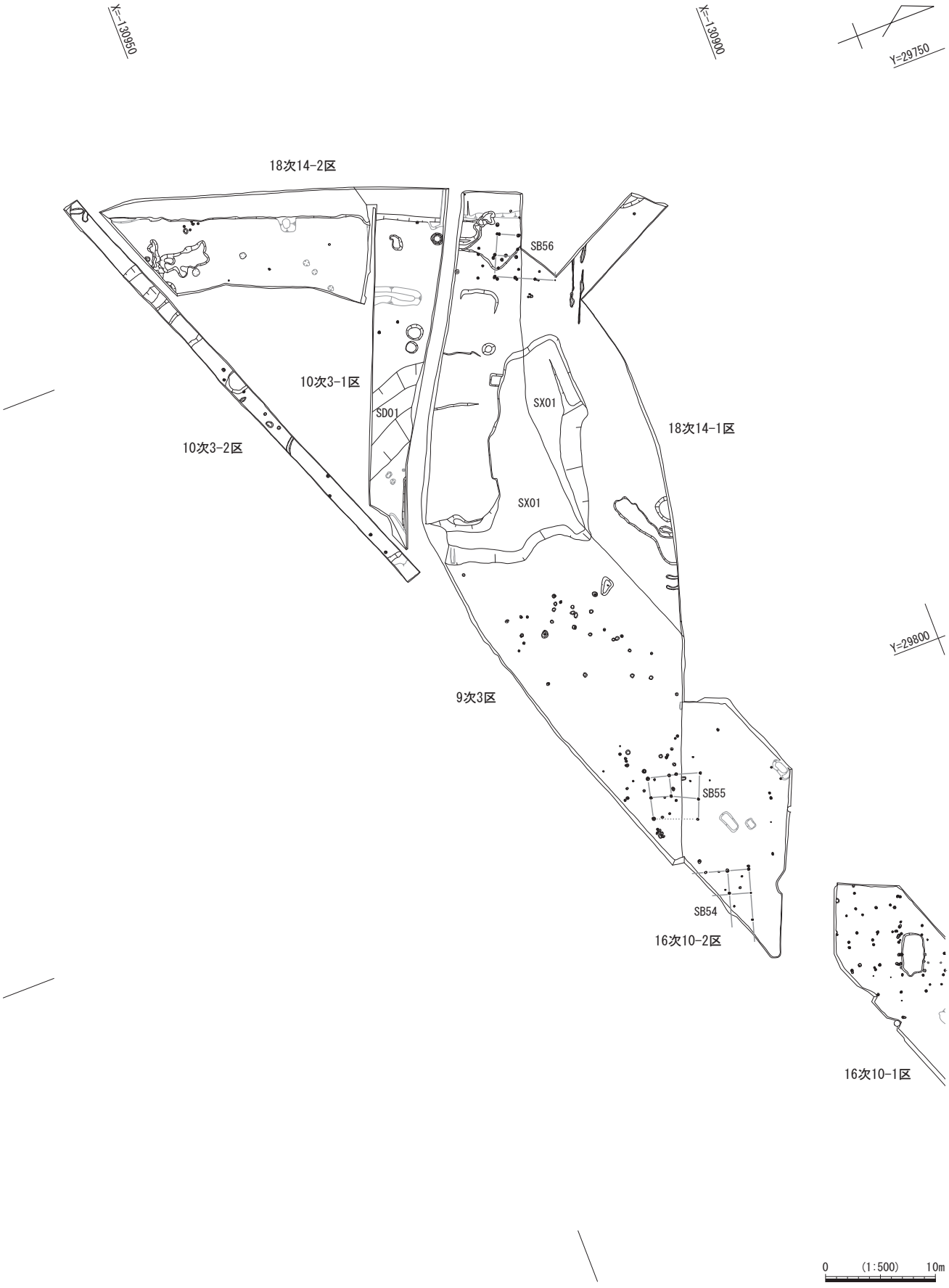


図95　北西部下遺構平面図②

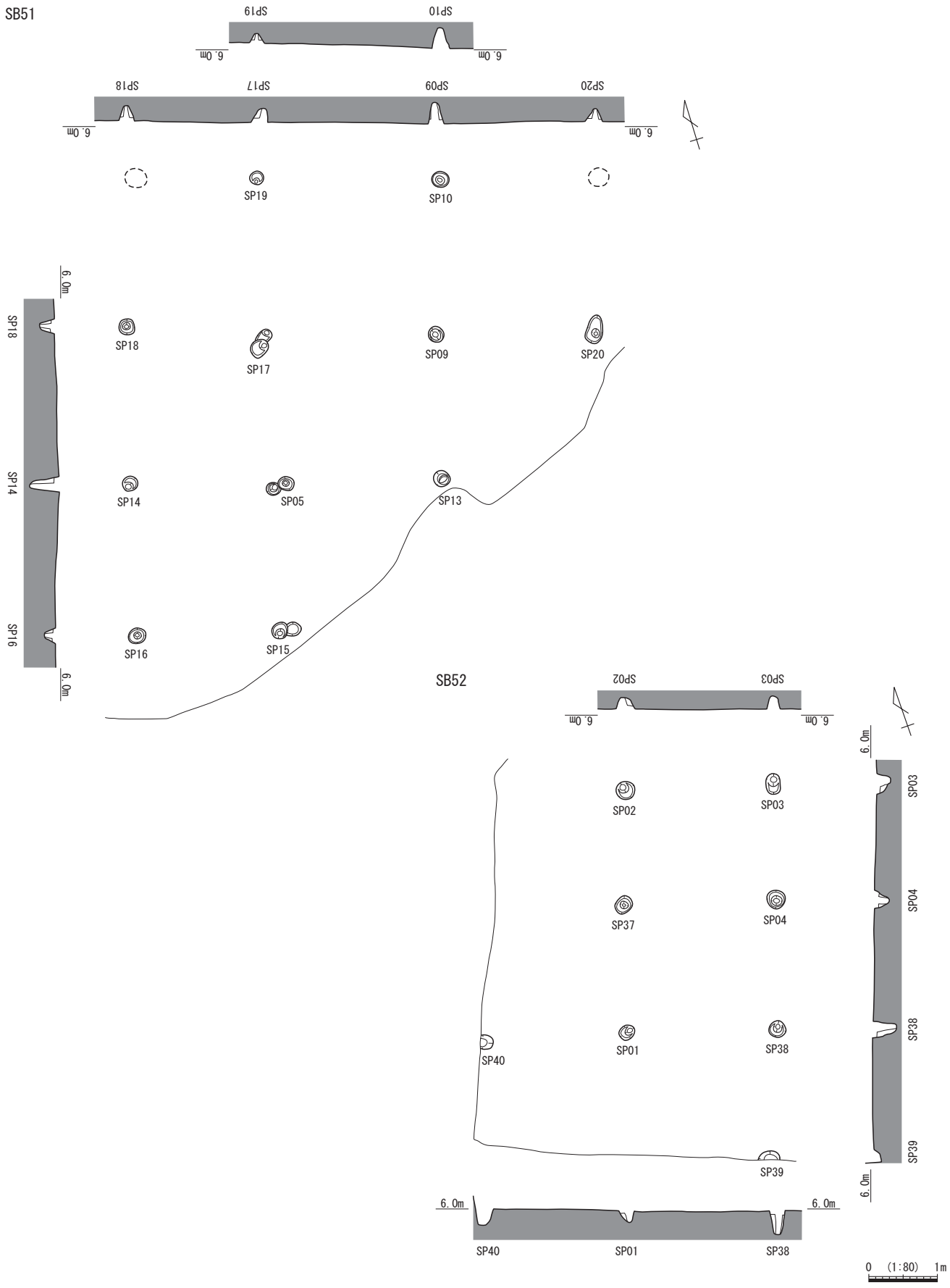


図96　SB51、SB52平面・断面図

SB55
(図95･98)
(写真図版33)

SB54の西側約4.8mの位置で検出した。９次３区と16次10−２区にまたがって実施した。一部の柱穴が確認できていないが、検出状況から２間×２間の建物跡に復元した。柱通りの揃う16次10−２区SP01−SP03を基準とした主軸方向はN23°Eの直交方向となる。平面規模は東西方向２間で4.2m、南北方向２間で4.8mと南北にやや長い。平面積は約20.2㎡を測る。柱間寸法は東西方向16次10−２区SP01−SP03で西から2.35m、1.85m、南北方向16次10−２区SP01−SP23で北から2.15m、2.65mを測る。柱通りは北端を除いて、極めて悪い。柱穴の平面形は円形を呈し、大きさは直径22〜32㎝、深さは遺構検出面から10〜22㎝を測る。

SB51〜SB55は比較的近接した位置で検出した。遺物量が少なく、時期が特定できる建物跡は少ないが、総じて柱穴の切り合いはほとんどなく、近接した時期で建て替えられた可能性が高い。SB51とSB54から出土した遺物からⅣ期の可能性を考えておきたい。

SB56
(図95･98)
(写真図版33)

９次３区と18次14−１区にまたがる。SB55の西側約45mの位置で検出した。検出した位置の西側に攪乱が及んでいることから建物跡はさらに東側に広がる可能性を有す。検出状況から２間×３間の建物跡と考えられる。SP01−SP20を基準とした棟方向はN25°Eを測る。平面規模は梁行２間で3.9m、桁行３間で5.5mを測る。平面積は約21.5㎡を測る。柱間寸法は南北方向SP02−SP20で北から1.85m、1.8m、1.85m、東西方向SP02−SP20で1.95mの等間隔である。柱穴の平面形は円形を呈し、大きさは直径22〜30㎝、深さは遺構検出面から16〜24㎝を測る。

SA23
(図94･98)
(写真図版33)

調査区の西部、SB51とSB53と平面的に切り合う位置で検出した。柱穴の直接の切り合いがないことから新旧関係は不明である。南北方向に３基の柱穴が一列に並ぶ。西側に約１m離れた位置で検出したSA24との対応関係を検討したが、明確に対になる柱列ではないことからそれぞれ独立した遺構と判断した。規模は延長4.05m、柱間隔は北から2.15m、1.9mを測る。遺構の主軸はN21°Eである。柱穴の平面形は円形を呈し、直径は26〜28㎝、深さは遺構検出面から26〜48㎝を測る。平面的な切り合い関係から可能性としては、やや離れた位置で検出したSB52との関連が考えられる。

SA24
(図94･98)
(写真図版33)

調査区の東部、SA23の東側約１mの位置で検出した。南北方向に３基の柱穴が一列に並ぶ。規模は延長2.0m、柱間隔は北から0.95m、1.05mを測る。遺構の主軸はN21°Eである。柱穴の平面形は円形を呈し、直径は14〜16㎝、深さは遺構検出面から14〜18㎝を測る。検出した位置からSB51もしくはSB53に伴う可能性が高い。

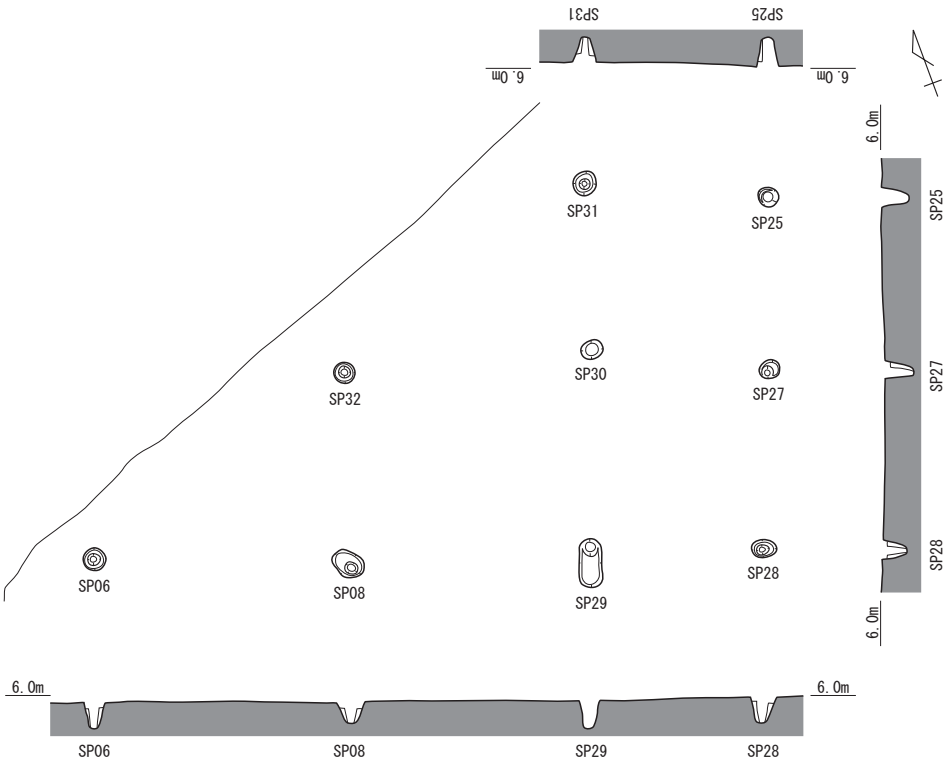
SA25
(図94･98)
(写真図版33)

SB51の西約40㎝の位置で検出した。検出した位置からさらに南側に延びる可能性を有す。SB51と柱穴の位置が揃っていることから、SB51に伴う遺構と判断できる。南北方向に３基の柱穴が一列に並ぶ。規模は延長4.65m、柱間隔は北から2.5m、2.15mを測る。遺構の主軸はN16°Eである。柱穴の平面形は円形を呈し、直径は23〜28㎝、深さは遺構検出面から14〜28㎝を測る。

包含層
(図98)

北西部下の調査区は総じて遺物が少ない。図化に耐えうる遺物は16次10区から出土した638のみである。638はチャート質の石材を用い、先端を研磨し錐のような使用方法が想定される。時期は不明である。

SB53



SB54

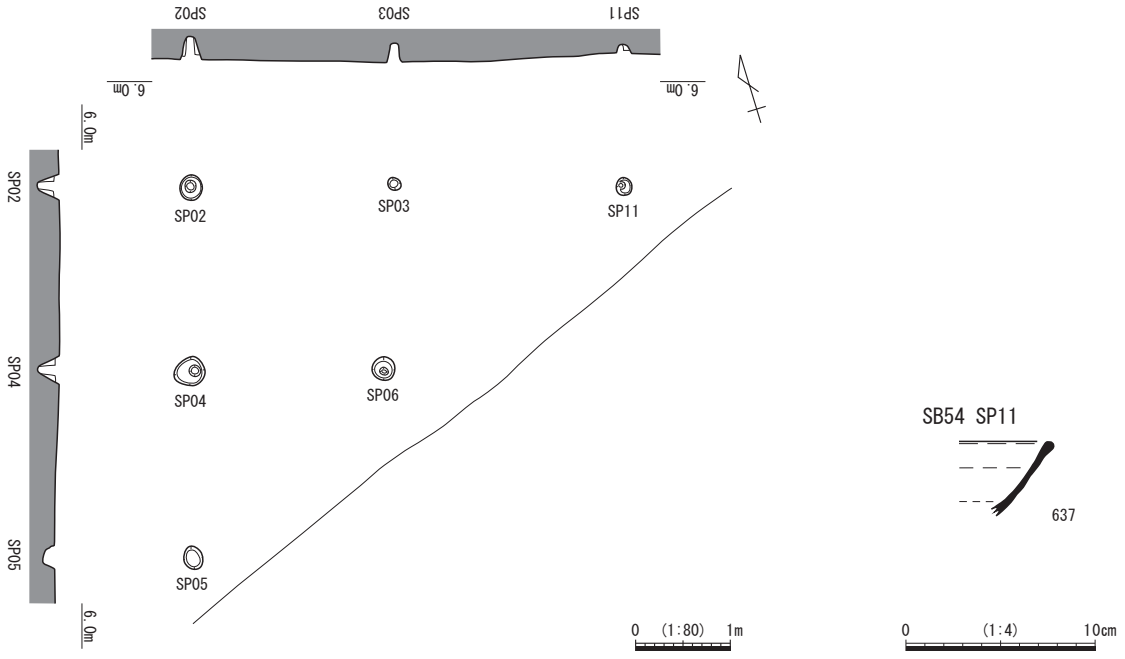


図97　SB53、SB54平面・断面図、出土遺物

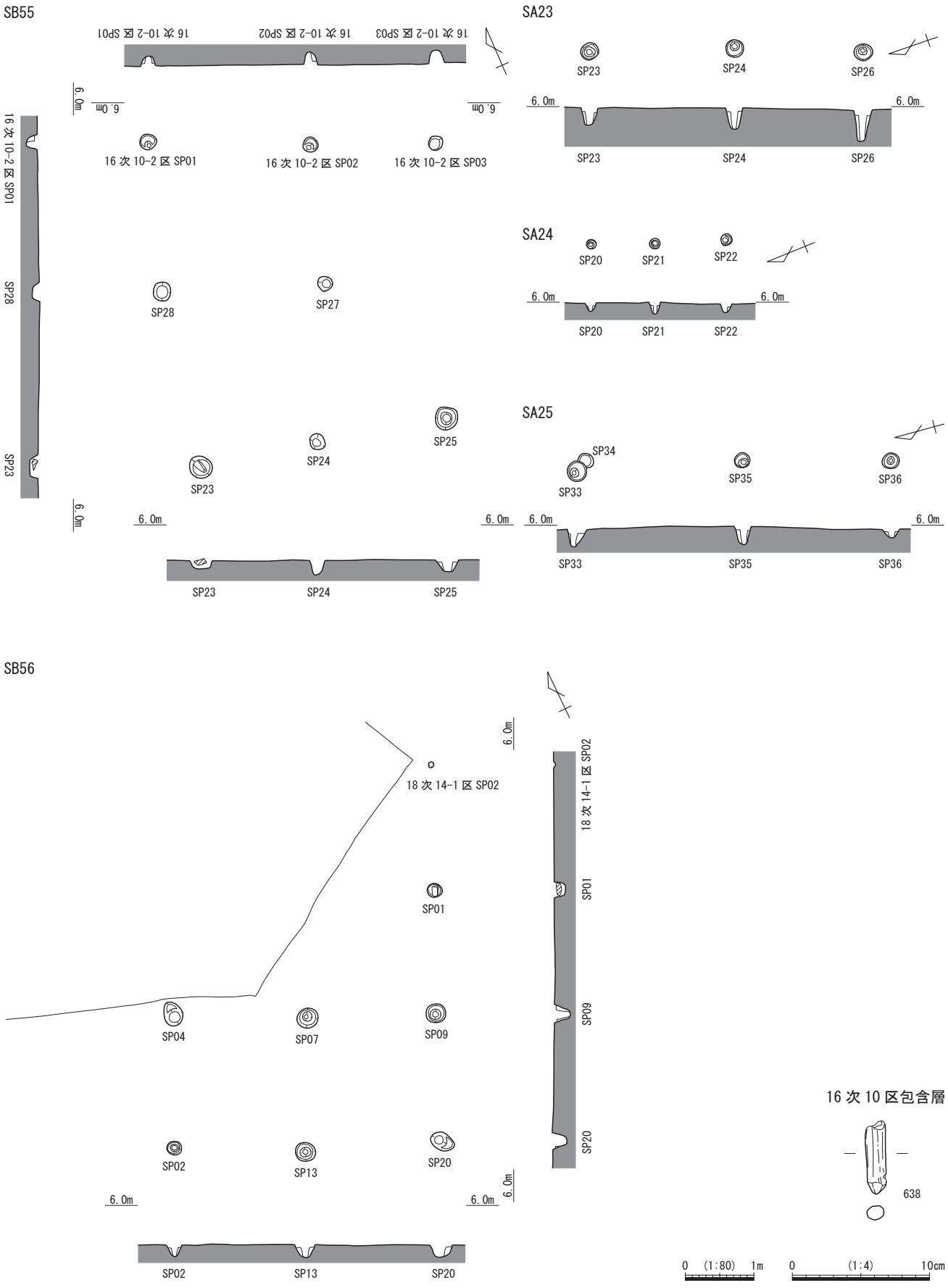


図98　SB55、SB56、SA23、SA24、SA25平面・断面図、出土遺物

Ⅲ－２－４　中央部の調査

姫路市町坪小字「豆田」「町田」「土居ノ内」にまたがる。中央部は県道田寺・今在家線を境に東西に区分できる。小字「豆田」に該当するのが西側に位置する16次４区を中心とする範囲、小字「町田」「土居ノ内」が東側の14次９区を中心とする範囲、「町田」「土居ノ内」の境は市道荒川39号線で坪境と字界がズレている。

条里地割に基づき復元すれば、東西方向の坪境は16次１区と２区の間にあたり、県道と交わる位置に近世室津道の遺構である常夜灯が残されている。１町南の坪境が２次８－２区SD01と７次36区SD01を結んだ位置である。南北方向の坪境は「寺前水路」にあたり、18次４区SD01がそれに該当する。この一町東側の坪境は10次７区の東側にあたる。坪内を細分する遺構の検出は顕著ではないが、２次８－１区SD03、５次25－３区SD04が半町の位置にあたる。坪並は十五ノ坪、十六ノ坪、二十一ノ坪、二十二ノ坪、二十七ノ坪の一部が該当する。

調査は2002年から開始し2003年～2005年、2007年、2008年、2010年～2016年まで13次にわたって実施した。検出した遺構は建物跡20棟、柵跡10条、井戸４基、水路、溝、土坑、柱穴等である。中央部を特徴づける遺構は区画Ｂと区画Ｃである。区画Ｂは坪境にあたる７次36区SD01、５次24－４区SD01、４次23区SD02を南の区画とし、14次９区SD01、４次24－２区SD01、10次７区SD01を北の区画とする。これらの区画遺構は大半が未調査部分であるが、調査前の耕作地の形状にその存在が良好に現れており、規模・形状を推測することができる（写真図版２・35・38・41を参照）。区画Ｂの検出規模は東西約80ｍ以上、南北約50ｍを測り東西方向に長い。区画溝はさらに東へ延び、町坪集落の中心部分と重なっていく。内部には４次24－２区SD02、４次23区SD03、10次６区SD01等の区画溝が検出された。区画内からはSB59～SB63、SB69～SB71の８棟、SA28・SA29の柵２条、SE03・SE04、SE06の井戸３基を検出した。これらの遺構が全て区画Ｂと同一時期である保証はないが、区画Ｂ内の遺構密度は周辺に比べて高い。

現在の町坪集落の中心部分に城跡が存在する。この城跡に伴う区画を区画Ｃと呼称する。区画Ｃに伴う遺構は４次23区SD01と12次５区SD01である。図125には検出遺構と『ふる里あらかわ』の記述、空中写真、地籍図等をふまえてその範囲を想定復元した。この城跡は、第Ⅱ章で述べたように天正４年に「町坪要害」と記された城跡と同一と考える。これまで、江戸時代の地誌『播磨鑑』等により町坪構居と呼ばれてきたが、本報告では史料に基づき町坪要害と呼称する。また、町坪集落内には本丸の屋号があることが知られている（荒川郷土史編集委員会1980）。未調査部分であるこの中心区画を仮に「本丸」と呼称する。今回の調査範囲は、「本丸」から東に約50ｍ離れている。後述する南東部においても区画の一部が確認されていることから町坪集落の大部分が区画Ｃに含まれる可能性が高い。町坪要害は江戸時代の「享保三年組々御改帖」に「東西二十八間、南北二十六間、但平城　村の内牛の方　堀跡　南の方　長二十八間　横三間、北の方　長二十八間　横一間半、東の方　長二十六間　横二間、西の方　長二十六間　横二間半」と具体的な記述が残る（荒川郷土史編集委員会1980）。ここに記された堀のうち、西側の堀については現在も地割に見ることができる。また、元文二年（1737）の「飾西郡町坪村明細帳」に古城跡の記述があり、「但城跡本畑ニ成百姓屋敷地ニ成申候、四方堀跡新田ニ成居申候」とある（姫路市1996）。

区画Ｂと区画Ｃの外の遺構は、県道田寺・今在家線をはさんで西側と東側とで遺構密度が大きく異なる。西側では14次３区で柵跡SA26を１条検出したのみで、条里に伴う２次８－１区SD03がある他は、遺構密度は極めて希薄である。区画Ｂの北側ではSB57・SB58の２棟、SA27の柵１条を検出したのみで、ピット・土坑も含め遺構は極めて少ない。南側ではSB64～SB68の５棟、SA30・SA31の柵２条を検出した。これらの遺構を検出した範囲は、土坑・ピットとも疎らである。この点と関連するかどうかは不明であるが、４次24－３区と11次10区とで遺構の様相が大きく異なっている。この調査区の境は半町にあたることから何らかの区画遺構が存在する可能性が高く、それを挟んで遺構の様相が変化しているのかもしれない。11次10区以東ではSB72～SB76の５棟、SA32～35の柵４条を検出した。建物跡に復元できない柱穴の数も多く、本来はさらに多くの建物跡が存在していたと想定できる。このように中央部は北東部、北西部に比べて、遺構分布の粗密が明白に分かれている。

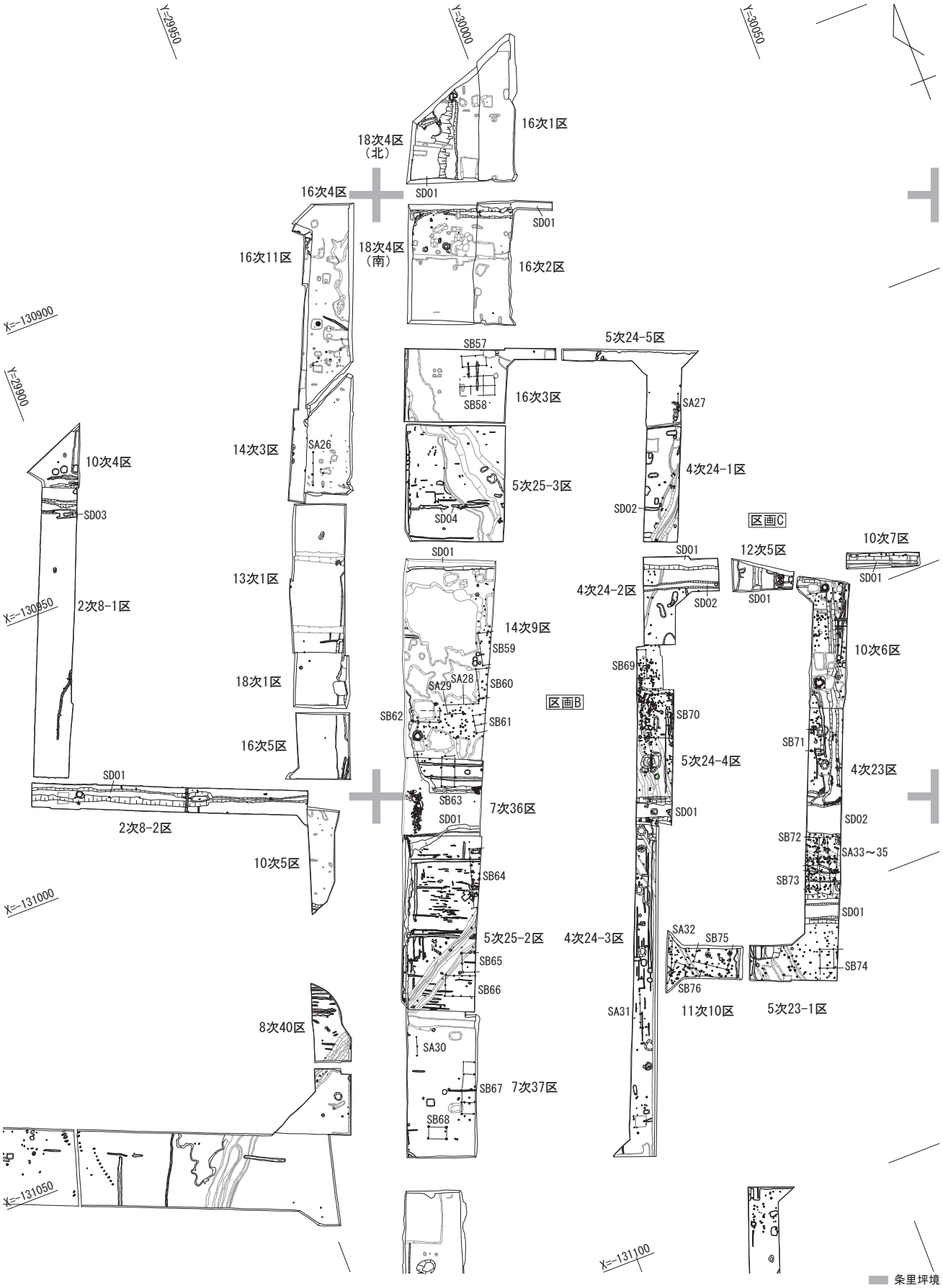

Y=29950
Y=30000
Y=30050
X=130900
Y=29900
X=130950
X=131000
X=131050
X=131100
16次1区
18次4区（北）
SD01
16次4区
16次11区
18次4区（南）
16次2区
SB57
SB58
16次3区
5次24-5区
SA27
14次3区
SA26
5次25-3区
4次24-1区
SD04
SD02
区画C
10次4区
SD03
SD01
12次5区
10次7区
13次1区
4次24-2区
2次8-1区
14次9区
SB59
10次6区
SB69
18次1区
SA28
SA29
SB60
区画B
SB70
SB62
SB61
SB71
16次5区
5次24-4区
4次23区
SD01
SB63
7次36区
SD02
2次8-2区
SB72
SA33～35
10次5区
SB64
SB73
SD01
SA32
SB75
5次25-2区
4次24-3区
SB65
SB74
SB66
SB76
8次40区
SA31
11次10区
5次23-1区
SA30
SB67
7次37区
SB68
条里坪境
0
(1:1,000)
50m

図99　中央部平面図

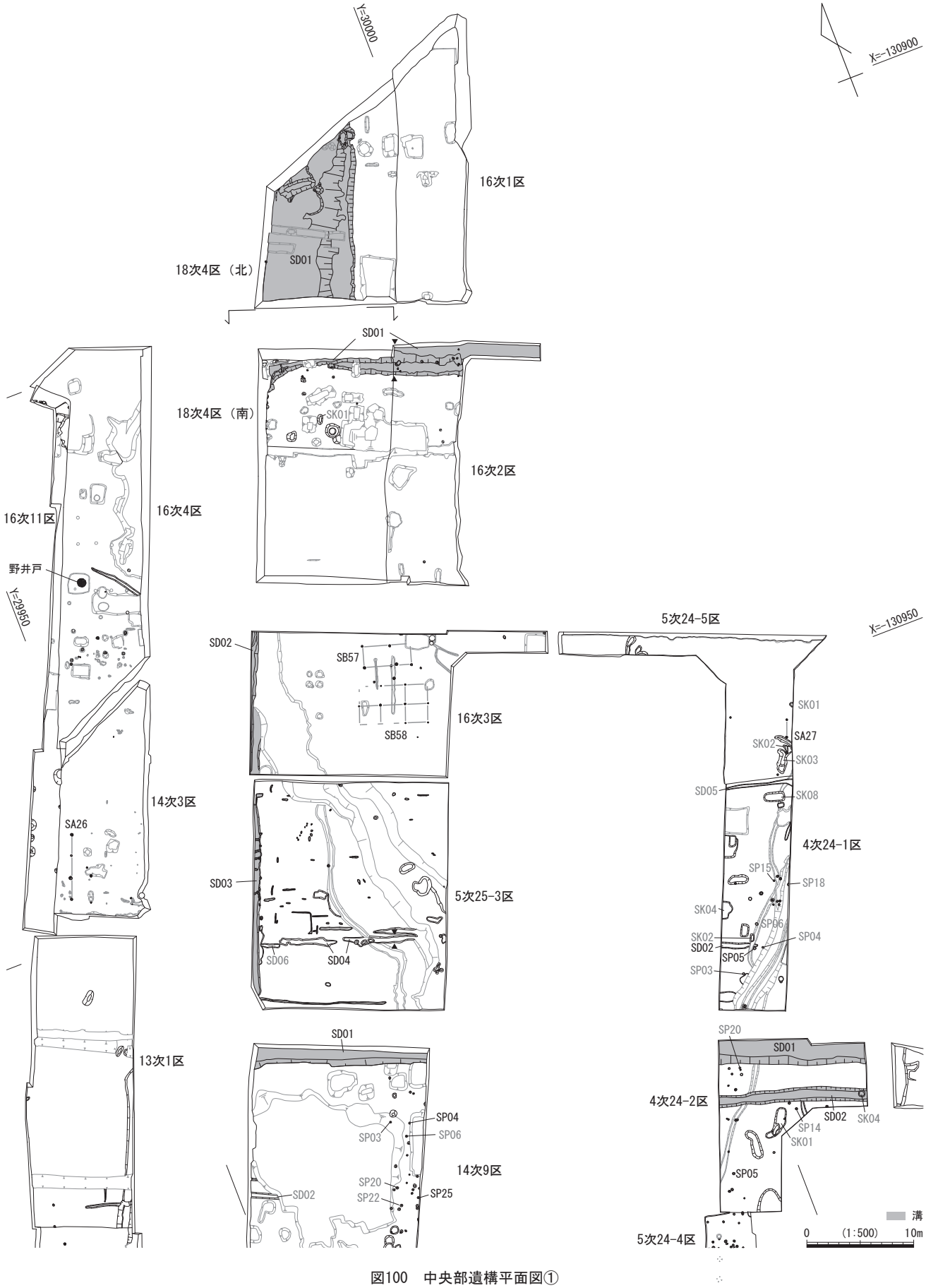


図100　中央部遺構平面図①

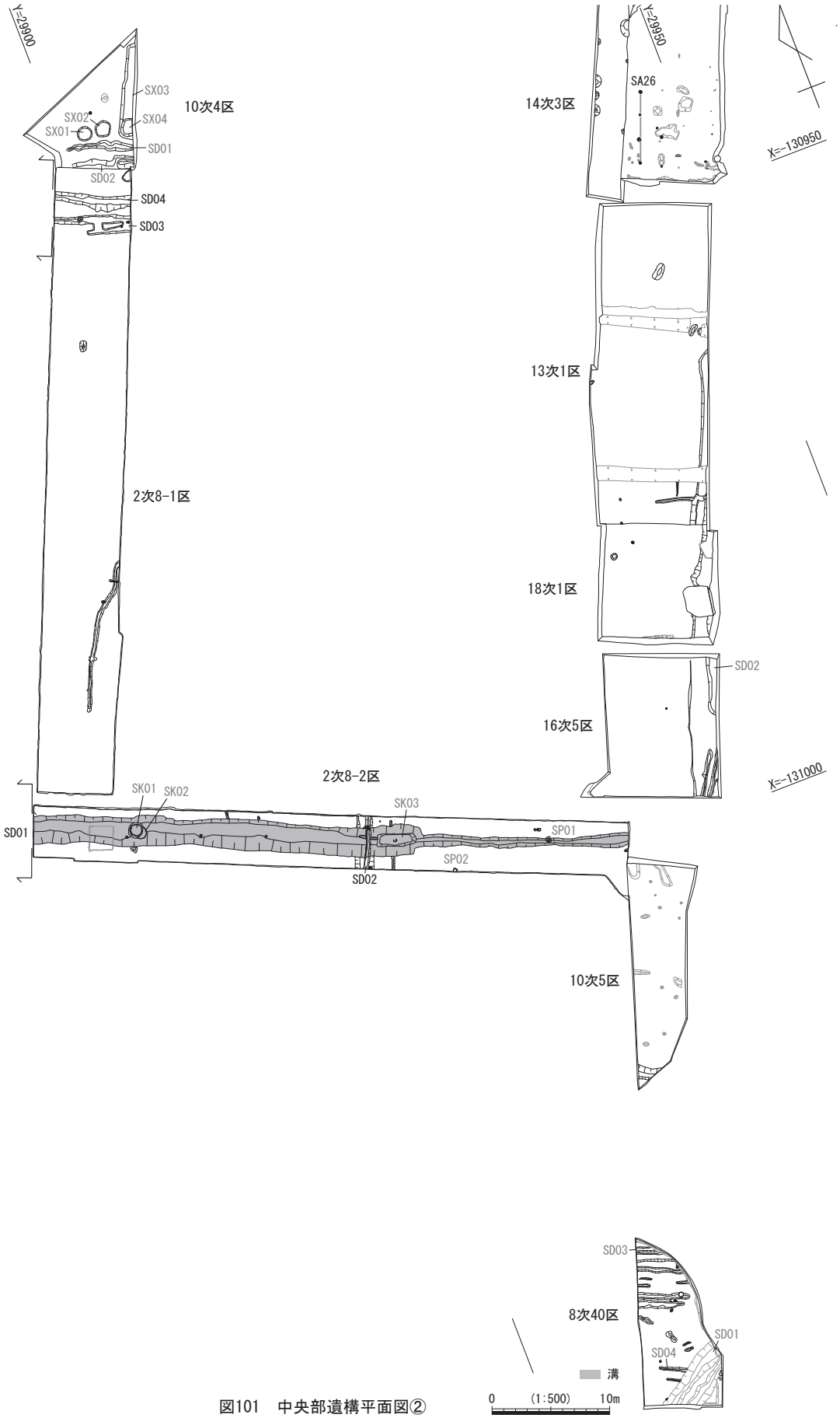


図101　中央部遺構平面図②

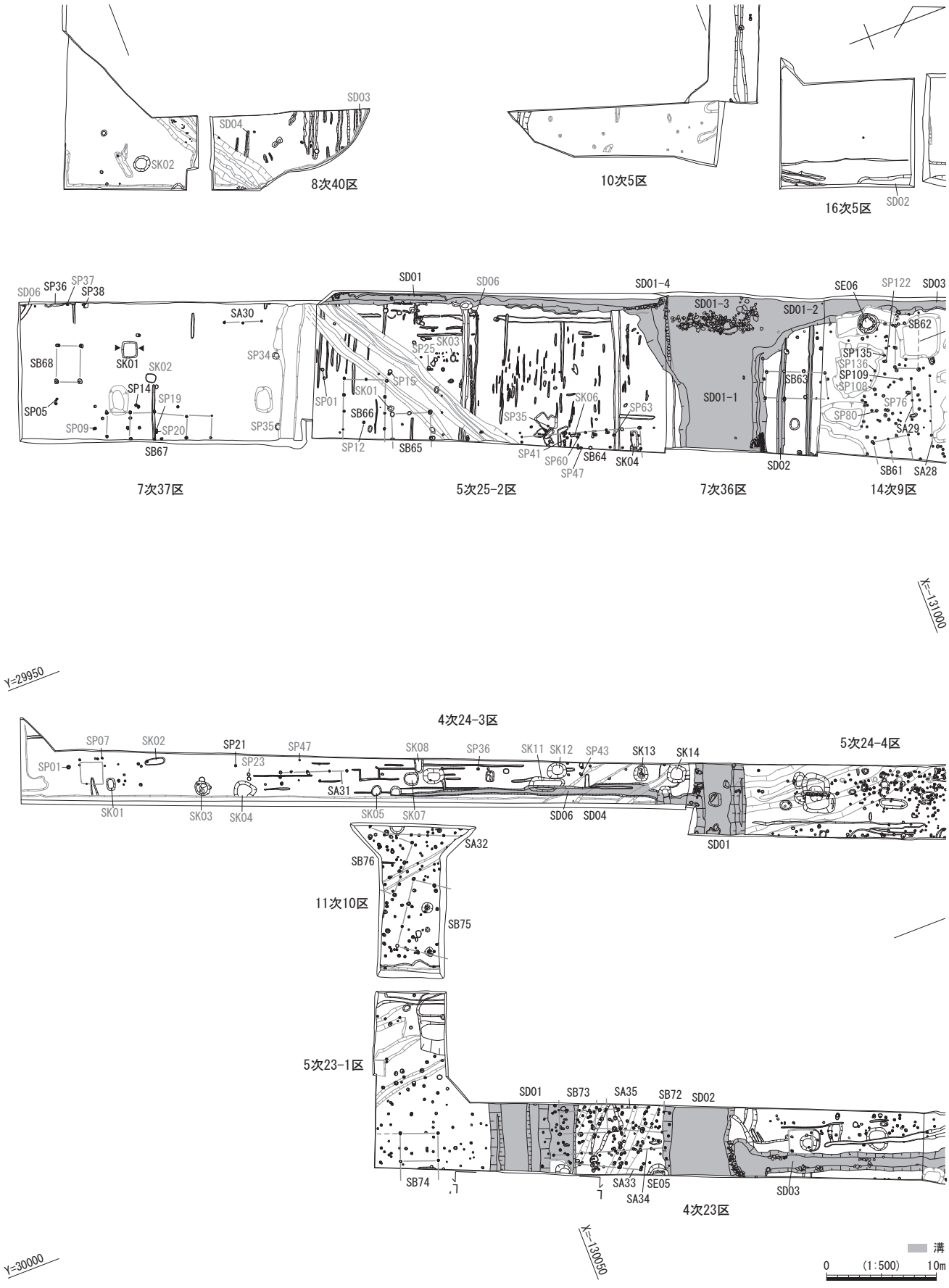


図102　中央部遺構平面図③

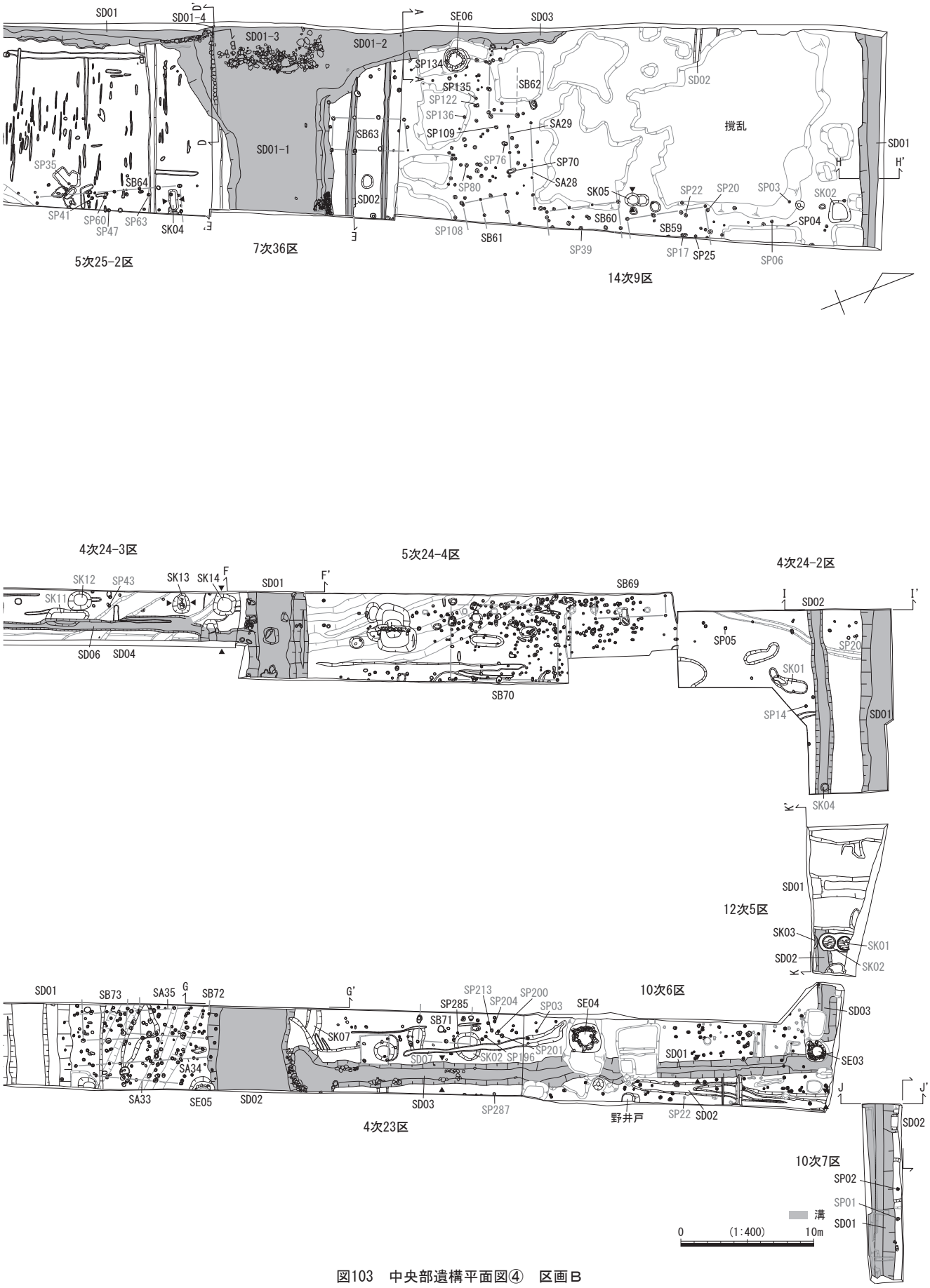


図103　中央部遺構平面図④　区画Ｂ

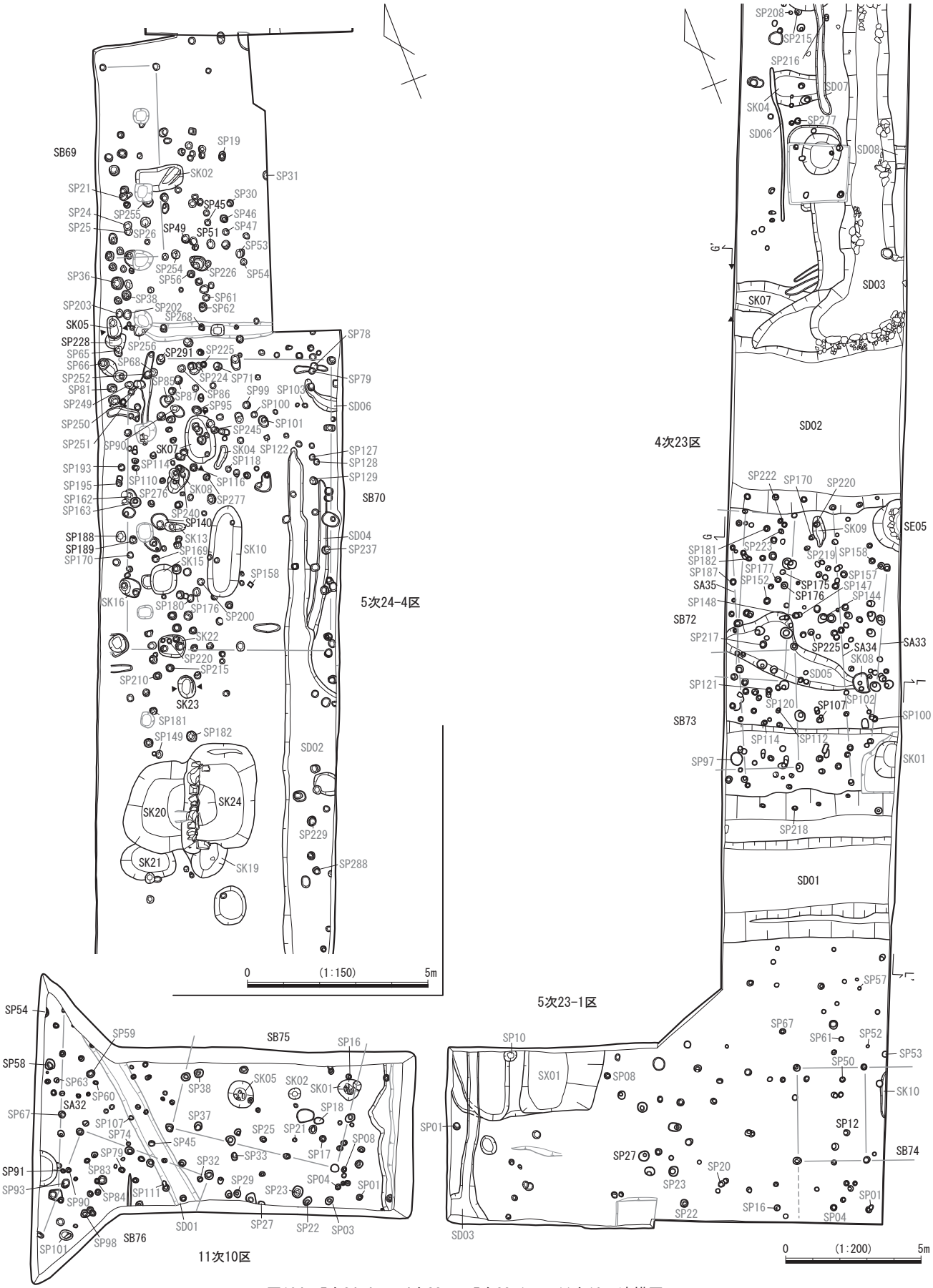


図104　5次24-4区、4次23区、5次23-1区、11次10区遺構図

SB57
(図99･100･105)
(写真図版52)

16次３区の北部で検出した。16次３区は調査区全体が攪乱を受けていることから遺構検出面は削平されている。検出した位置から建物跡は調査区の北側に広がる可能性を有する。検出状況から１間×２間以上の建物跡と考えられる。SP02－SP04を基準とした主軸方向はN17° Eを測る。検出規模は梁行１間で2.0m、桁行２間で4.35mを測る。平面積は8.7㎡を測る。柱間寸法は桁行SP03－SP05で西から2.5m、1.85mを測る。柱穴は円形を呈し、大きさは直径20～25㎝、深さは10～12㎝を測る。

SB58
(図99･100･105)
(写真図版52)

SB57の南側1.8mの位置で検出した。本建物跡も削平を受けているため、柱穴の確認できない箇所が多く、復元には不明確な部分を含んでいる。検出状況から２間×３間の東西棟の総柱建物跡と考えられる。SP10－SP13を基準とした主軸方向はN20° Eを測る。平面規模は梁行２間で3.6m、桁行３間で6.5mを測る。平面積は23.4㎡を測る。柱間寸法は梁行SP10－SP13で1.8mの等間隔、桁行SP06－SP09で西から2.05m、2.25m、2.2mを測る。柱穴は円形を呈し、大きさは直径12～24㎝、深さは６～12㎝を測る。削平を受けているためか、柱穴は他の建物跡に比べて小ぶりである。

SB59
(図99･103･105)
(写真図版50)

区画Ｂ内に位置し、北区画溝の南肩から約11m南の位置で検出した。検出した位置から建物跡は調査区の東側に広がる。検出状況から１間×３間以上の建物跡と考えられる。SP15－SP30を基準とした主軸方向はN11° Eを測る。検出規模は東西方向１間で1.95m、南北方向３間で6.0mを測る。平面積は11.7㎡を測る。柱間寸法は南北方向SP15－SP30で北から1.85m、2.15m、2.0mを測る。柱穴は基本的に円形を呈し大きさは直径22～36㎝、深さは20～50㎝を測る。

SB60
(図99･103･106)
(写真図版50)

SB59の南側に近接した位置で検出した。検出した位置から建物跡はSB59と同様に調査区の東側に広がる。検出状況から１間×３間の建物跡と考えられる。SP47－SP141を基準とした主軸方向はN13° Eを測り、SB59と概ね揃う。平面規模は東西方向１間で2.0m、南北方向３間で5.45mを測る。平面積は10.9㎡を測る。柱間寸法は南北方向SP47－SP141で南から1.75m、1.75m、1.95mを測る。柱穴は円形を呈し、大きさは直径16～26㎝を測る。深さは30～50㎝を測る。

SB61
(図99･103･106)
(写真図版50)

SB60の南側約３mの位置で検出した。検出した位置から建物跡は調査区の東側に広がる。検出状況から１間×２間以上の建物跡と考えられる。SP65－SP81を基準とした主軸方向はN11° Eを測り、SB59･SB60と並列する。平面規模は東西方向１間で1.3m、南北方向２間で3.35mを測る。平面積は約4.4㎡を測る。柱間寸法は南北方向SP65－SP81で北から1.9m、1.45mを測る。柱穴は円形を呈し、大きさは直径20～26㎝を測る。深さは10～32㎝を測る。

SB59～SB61は主軸方向がN11～13° Eで条里地割よりも西に傾いている。検出位置も近接していることから同時期の建物群である可能性が高いが、いずれも遺物が出土していないため時期は不明である。柱穴の埋土も黄灰色土を主体とし、他の建物跡と大きな違いは認められない。

SB62
(図99･103･106)
(写真図版50)

SB61の西側約６mの位置で検出した。建物跡の北側と西側が攪乱を受けているため、本来の広がりは明らかでない。検出状況から１間×２間以上の建物跡と考えられる。SP113－SP114を基準とした主軸方向はN20° Eを測る。平面規模は南北方向１間で2.05m、東西方向２間で4.0mを測る。平面積は8.2㎡を測る。柱間寸法は東西方向SP114－SP116で2.0mの等間隔である。柱穴の平面形は基本的に円形を呈し、大きさは直径30～36㎝、深さは26～52㎝を測る。SP115は根石を持つ。

SB63
(図99･103･106)
(写真図版46)

SB62の南側約６m、区画Ｂの南区画溝に接した位置で検出した。検出状況から１間×３間の南北棟の側柱建物跡と考えられる。SP13－14次９区SP138を基準とした主軸方向はN21° Eを測り、SB62と並列する。平面規模は梁行１間で2.4m、桁行３間で5.4mを測る。平面積は約12.9㎡を測る。柱間寸法は桁行SP13－14次９区SP138で南から1.6m、1.8m、2.0mを測る。柱穴は円形を呈し、大きさは直径15～36㎝を測る。深さは12～24㎝を測る。

SB64
(図99･102･107)
(写真図版45)

区画Ｂの外側で、南区画溝から約４ｍ南の位置で検出した。検出位置から建物跡は調査区の東側へ広がる。検出状況から１間×６間以上の建物跡と考えられる。SP32－SP57を基準とした主軸方向はN17° Ｅを測る。平面規模は東西方向１間で1.95m、南北方向６間で10.8mを測る。平面積は約21.1㎡を測る。柱間寸法は南北方向SP32－SP57で南から2.2m、1.9m、1.8m、1.9m、1.4m、1.6mを測る。柱穴は円形を呈し、大きさは直径16～36㎝、深さは10～20㎝を測る。

SB65
(図99･102･107)
(写真図版45)

SB64の約８ｍ南側の位置で検出した。検出した位置から建物跡は調査区の東側に広がる。検出状況から１間×２間以上の建物跡と考えられる。SP13－SP18を基準とした主軸方向はN19° Ｅを測る。平面規模は東西方向１間で2.4m、南北方向２間で3.45mを測る。平面積は約8.3㎡を測る。柱間寸法は南北方向SP13－SP18で南から1.55m、1.9mを測る。柱穴は円形を呈し、大きさは直径38～54㎝、深さは28～34㎝を測る。

遺物はSP17から土師器鉄かぶと形埴639が出土した。外面にタタキを持ち、口縁部が外側に肥厚するⅢ類である。Ⅵ期に位置づけられる。

SB66
(図99･102･107)
(写真図版45)

SB65の60㎝南で検出した。検出した位置から建物跡は調査区の東側に広がる。検出状況から２間×３間以上の東西棟の側柱建物跡と考えられる。SP03－SP06を基準とした主軸方向はN24° Ｅを測る。平面規模は梁行２間で3.85m、桁行３間で4.65mを測る。平面積は約17.9㎡を測る。柱間寸法は梁行SP06－SP08で南から2.0m、1.85m、桁行SP03－SP06で西から1.5m、1.5m、1.65mを測る。柱穴は円形を呈し、大きさは直径16～30㎝、深さは10～16㎝を測る。

SB67
(図99･102･108)
(写真図版50)

SB65の南約12mの位置で検出した。検出した位置から建物跡は調査区の東側に広がる可能性が高い。検出状況から１間×４間以上の建物跡と考えられる。SP07－SP28を基準とした主軸方向はN23° Ｅを測る。平面規模は東西方向１間で2.15m、南北方向４間で9.6mを測る。平面積は約20.6㎡を測る。柱間寸法は南北方向SP07－SP28で南から2.1m、2.2m、3.0m、2.3mを測る。柱穴の平面形は円形を呈し、大きさは直径15～34㎝、深さは12～30㎝を測る。遺物はSP13の埋土から須恵器椀640・641が出土した。Ⅳ期に位置づけられる。

SB68
(図99･102･108)
(写真図版50)

SB67の西側約３ｍの位置で検出した。検出状況から１間×１間の東西棟の建物跡と考えられる。SP01－SP03を基準とした主軸方向はN22° Ｅである。平面規模は南北方向１間で2.1m、東西方向１間で3.3mを測る。面積は約6.9㎡を測る。柱穴の平面形は円形を呈し、大きさは直径26～48㎝、深さは16～28㎝を測る。

遺物はSP03の埋土から瓦器椀の口縁部642が出土した。瓦器椀の編年でⅢ期に位置づけられる。SB67とSB68とも出土遺物は少ないが、遺物の様相からⅣ期に位置づけられる。

SB69
(図99･103･104･108)
(写真図版39)

SB59の東側27mの位置で検出した。検出した位置から建物跡は調査区の西側に広がる可能性が高い。検出状況から１間×３間以上の建物跡と考えられる。SP02－SP42を基準とした主軸方向はN19° Ｅを測る。平面規模は東西方向１間で1.55m、南北方向３間で5.3mを測る。平面積は約8.2㎡を測る。柱間寸法は南北方向SP02－SP42で北から1.85m、1.8m、1.65mを測る。柱穴の平面形は円形を呈し、大きさは直径18～26㎝を測る。深さは16～26㎝を測る。

SB70
(図99･103･104･109)
(写真図版38)

SB69の南側2.8mの位置で検出した。検出した位置から建物跡は調査区に広がる可能性を有す。一部確認できない柱穴があるが、検出状況から３間×４間の南北棟の側柱建物跡と考えられる。SP80－SP156を基準とした主軸方向はN22° Ｅを測る。平面規模は梁行２間で5.85m、桁行４間で8.15mを測る。平面積は約47.7㎡を測る。柱間寸法は梁行SK11－SP156で西側から1.7m、1.7m、2.45m、桁行SP80－SP156で北から1.9m、2.55m、1.7m、2.0mを測る。柱穴の平面形は基本的に円形を呈し、大きさは直径20～38㎝を測る。深さは10～40㎝を測る。遺物はSP106から土師器皿Ｏ643が、SK22から土師器小皿Ａ644と播磨型埴の胴部645が出土した。Ⅵ期に位置づけられる。

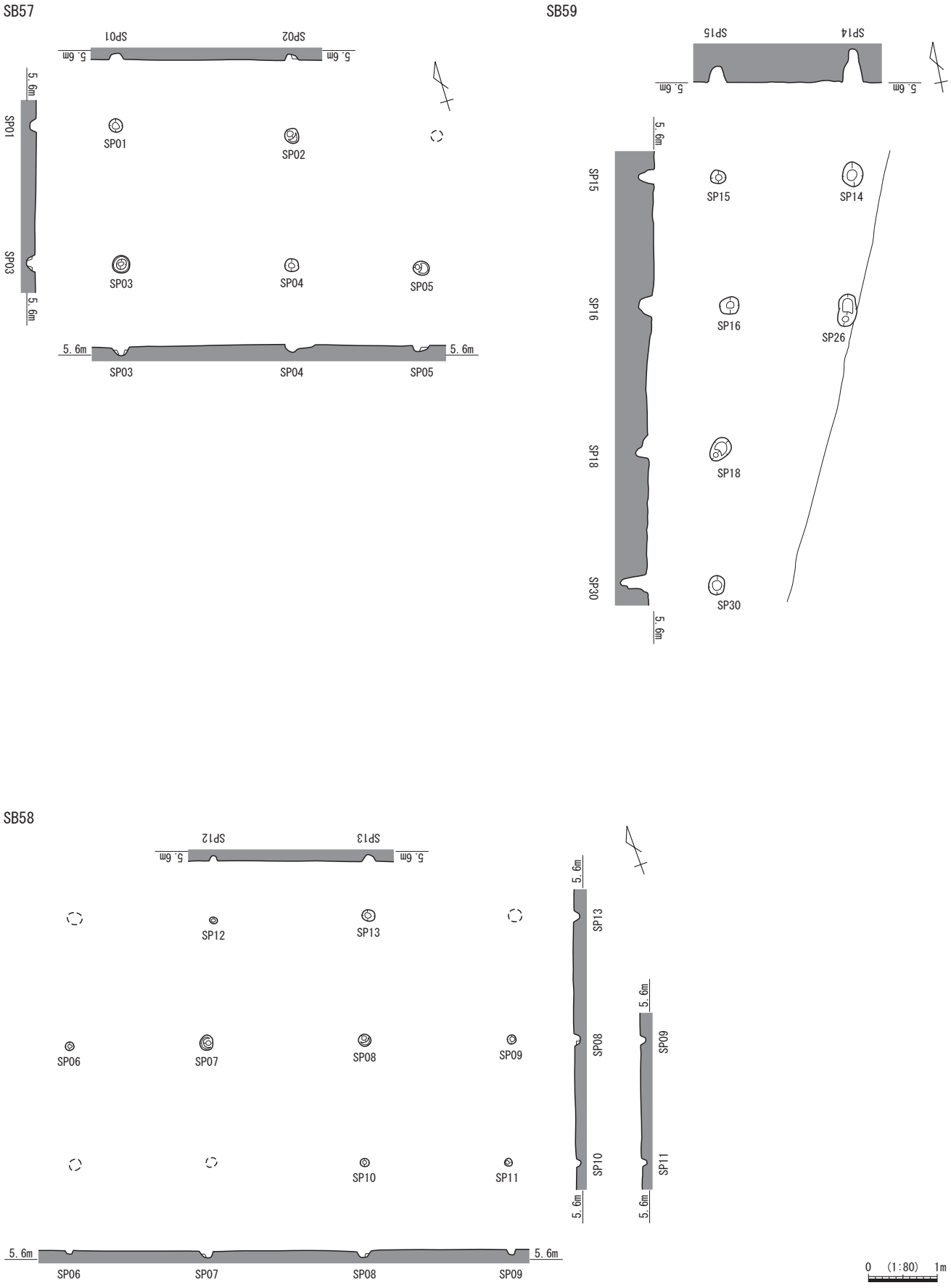


図105　SB57、SB58、SB59平面・断面図

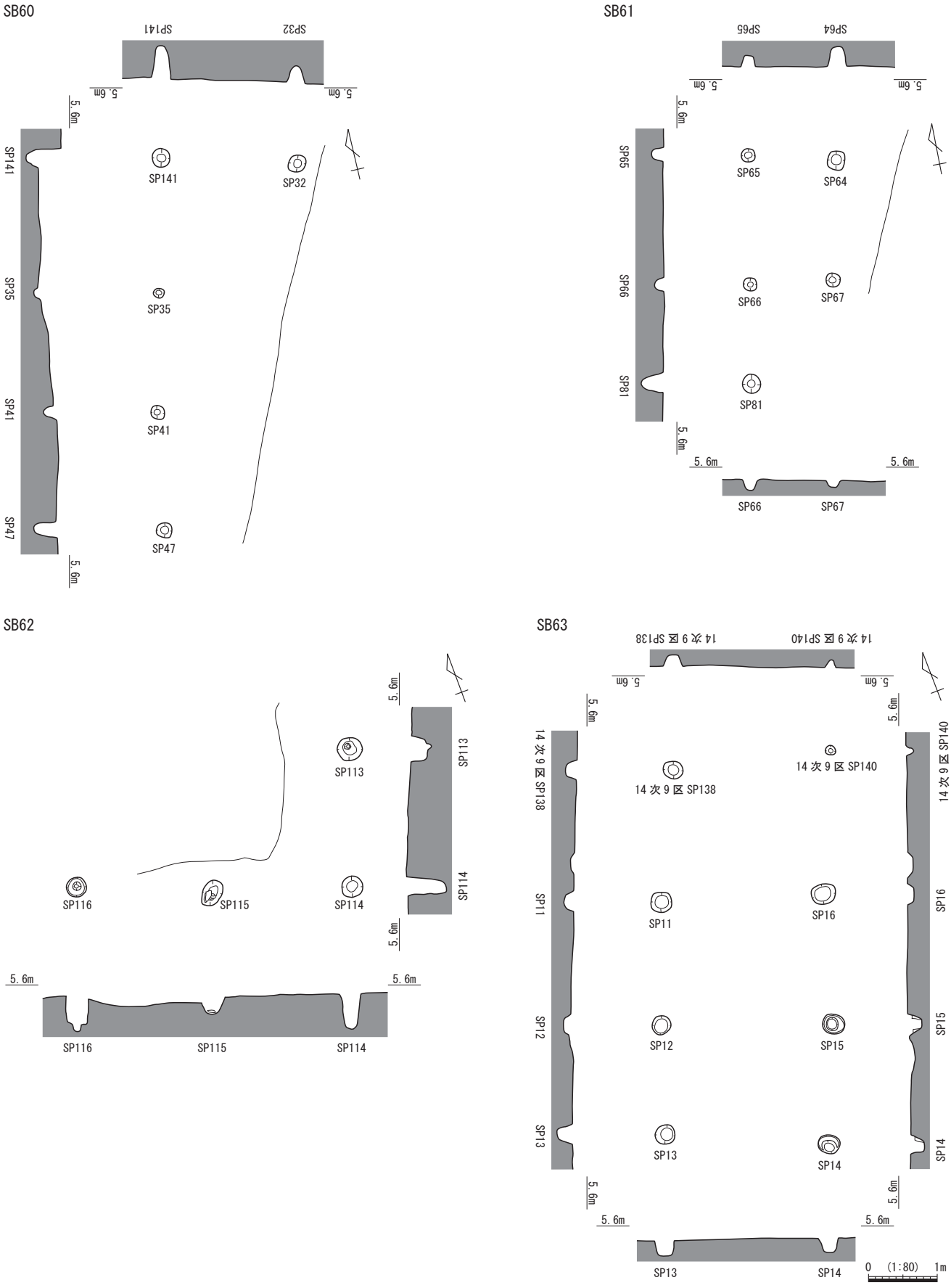


図106　SB60、SB61、SB62、SB63平面・断面図

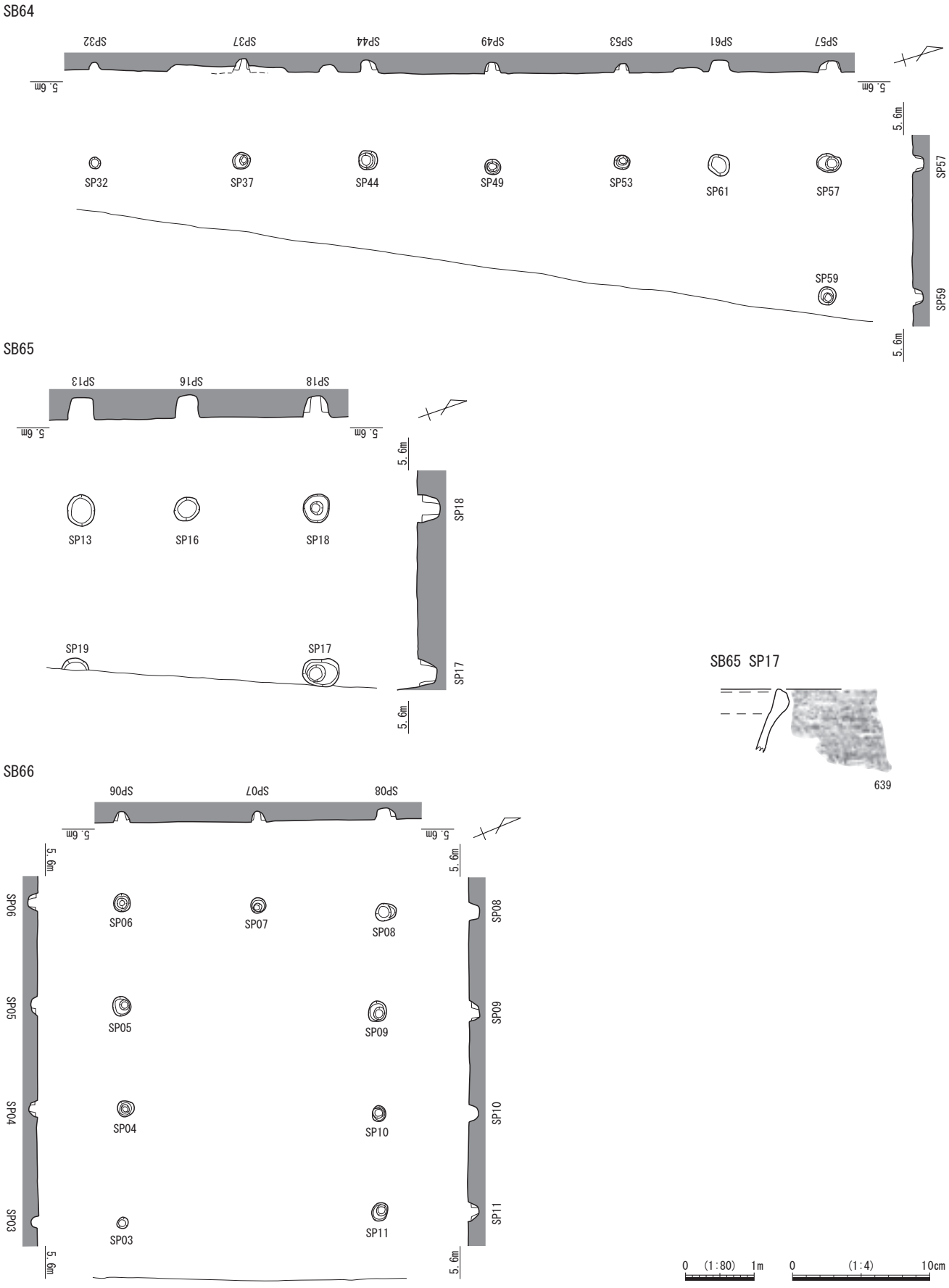


図107　SB64、SB65、SB66平面・断面図、出土遺物

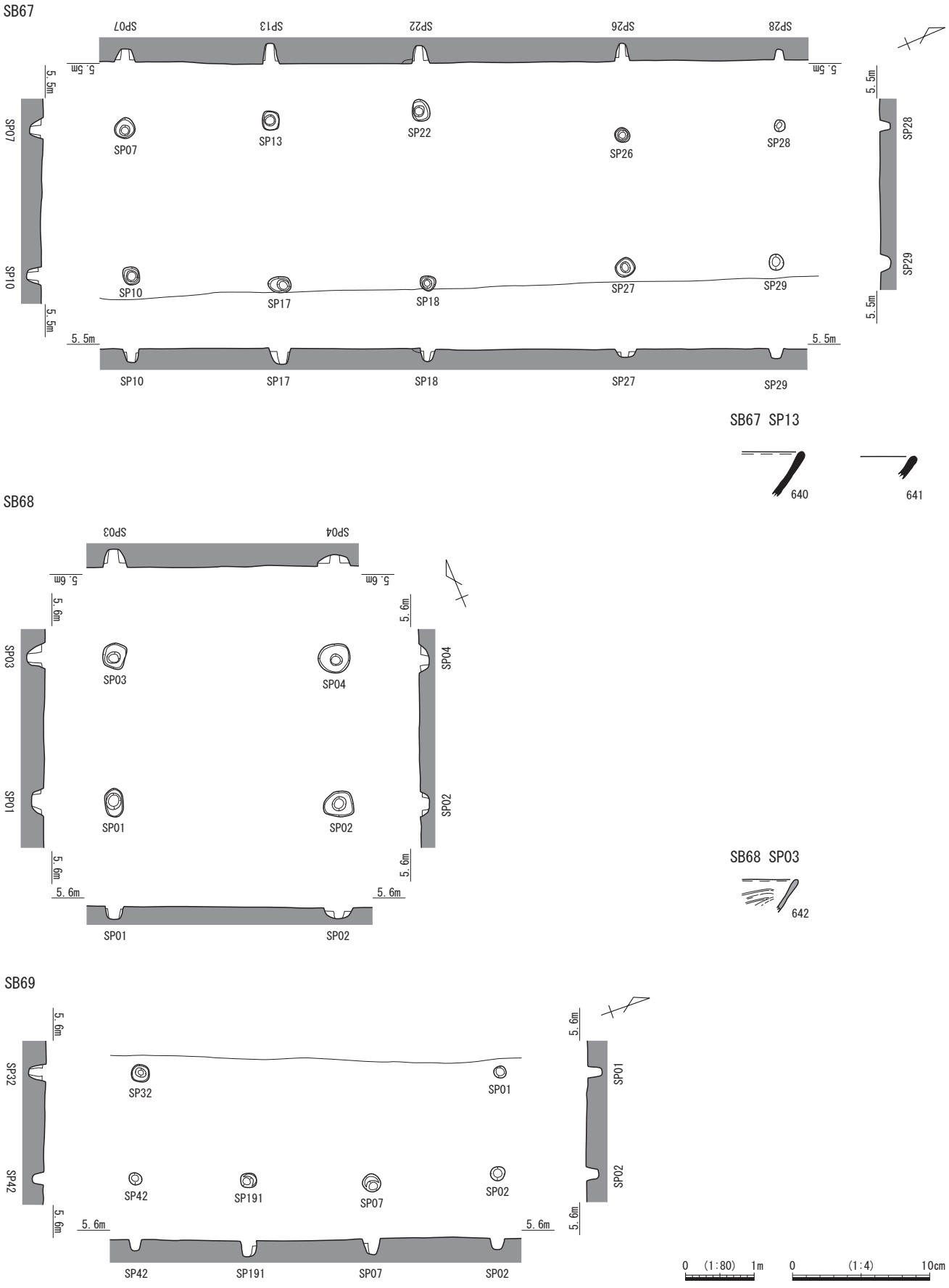


図108　SB67、SB68、SB69平面・断面図、出土遺物

SB71
(図99･103･109)
(写真図版41･43)

SB70の東側25mの位置で検出した。検出した位置から建物跡は調査区の西側に広がる可能性が高い。北東端の柱穴がSK02により切られるため、検出できていないが、検出状況から１間×２間以上の側柱建物跡である。SP194－SP281を基準とした主軸方向はN21°Eを測る。平面規模は東西方向１間で1.7m、南北方向２間で4.0mを測る。平面積は約6.8㎡を測る。柱間寸法は南北方向SP194－SP281で2.1mを測る。柱穴の平面形は円形もしくは不整形を呈し、大きさは長辺24～62㎝、深さは20～42㎝を測る。

SB72
(図99･103･104･110)
(写真図版41)

SB71の南側16m、区画溝南肩に接する位置で検出した。平面プランはSB73と重なるが、柱穴の直接の切り合いがないことからその新旧関係は不明である。検出した位置から建物跡は調査区の西側に広がる。検出状況から１間×３間以上の建物跡と考えられる。SP118－SP265を基準とした主軸方向はN25°Eを測る。平面規模は東西方向１間で1.85m、南北方向３間で6.3mを測る。平面積は約11.7㎡を測る。柱間寸法は南北方向SP118－SP265で南から1.9m、2.6m、1.8mを測る。柱穴の平面形は円形を呈し、大きさは直径18～46㎝を測る。柱通りは南北方向で良く揃う。深さは14～36㎝を測る。SB72を構成するSP127の南側でSP236とSP96を検出した。この２基の柱穴はSP127-SP263の柱通りに並んでいる。SB72に伴うものかどうかは判然としない。

SB73
(図99･103･104･109)
(写真図版41)

SB72の南で検出し、平面プランはSB72と一部重なる。検出した位置から建物跡は調査区の西側に広がると考えられる。検出状況から１間×２間以上の建物跡と考えられる。SP95－SP237を基準とした主軸方向はN19°Eを測る。平面規模は東西方向１間で2.2m、南北方向２間で4.5mを測る。平面積は9.9㎡を測る。柱間寸法は南北方向SP82－SP254で南側から1.9m、2.6mを測る。柱穴の平面形は円形を呈し、大きさは直径16～42㎝、深さは14～30㎝を測る。

遺物はSP110掘方から土師器小皿A646が出土した。口縁部に１段のヨコナデが認められ、皿O形態の小皿であろう。

SB74
(図99･102･104･110)
(写真図版41･44)

SB73の11m南側で検出した。検出した位置から建物跡は調査区の東側と南側に広がる可能性を有する。検出状況から１間×１間以上の建物跡と考えられる。SP14－SP46を基準とした主軸方向はN21°Eを測る。平面規模は東西方向１間で2.5m、南北方向１間で3.45mと南北方向がやや長い。平面積は約8.6㎡を測る。柱穴の平面形は円形を呈し、大きさは直径22～32㎝を測る。深さは12～22㎝を測る。

遺物はSP14の掘方から土師器堝647が、SP46の埋土から堝648が、SP51の埋土から堝649が出土した。いずれも鉄かぶと形で端部が拡張しないⅡ類である。647・648は体部下端がわずかに屈曲するが、649では丸みを帯びている。これらは共伴したものではないが、写真図版44－５・６に示したように同じ建物を構成する柱穴から同じような状態で出土した。Ⅵ期に位置づけられる。

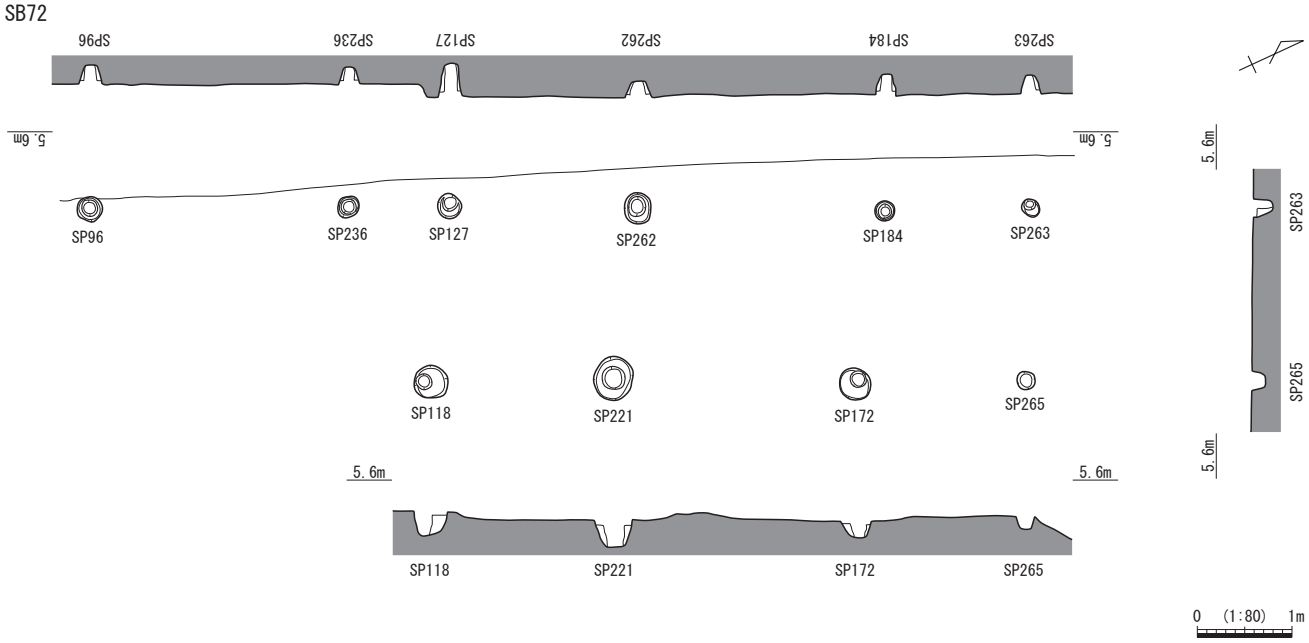
SB75
(図99･104･111)
(写真図版49)

SB74の西側17mの位置で検出した。検出した位置から建物跡は調査区の北側に広がると考えられる。検出状況から１間×３間以上の建物跡と考えられる。SP39－SP46を基準とした主軸方向はN36°Eを測る。平面規模は南北方向１間で2.0m、東西方向３間で6.3mを測る。平面積は12.6㎡を測る。柱間寸法は東西方向SP39－SK03で西側から2.3m、2.2m、1.8mを測る。柱穴は円形を呈し、大きさは直径28～38㎝を測る。深さは18～22㎝を測る。

SB76
(図99･104･111)
(写真図版49)

SB75の南側1.2mの位置で検出した。検出した位置から建物跡は調査区の南側に広がると考えられる。検出状況から１間×３間以上の建物跡と考えられる。SP42－SP71を基準とした主軸方向はN40°Eを測る。平面規模は南北方向１間で2.35m、東西方向３間で5.05mを測る。平面積は約11.9㎡を測る。柱間寸法は東西方向SP42－SP71で東側から1.75m、1.35m、1.95mを測り、中央部の間隔が短い。柱穴の平面形は基本的に円形を呈し、大きさは直径20～48㎝、深さは12～36㎝を測る。SB75とSB76の主軸は東に傾いている。いずれも図示に耐えないが備前焼の細片が出土していることから、Ⅵ期に位置づけられる可能性がある。

図109　SB70、SB71、SB73平面・断面図、出土遺物



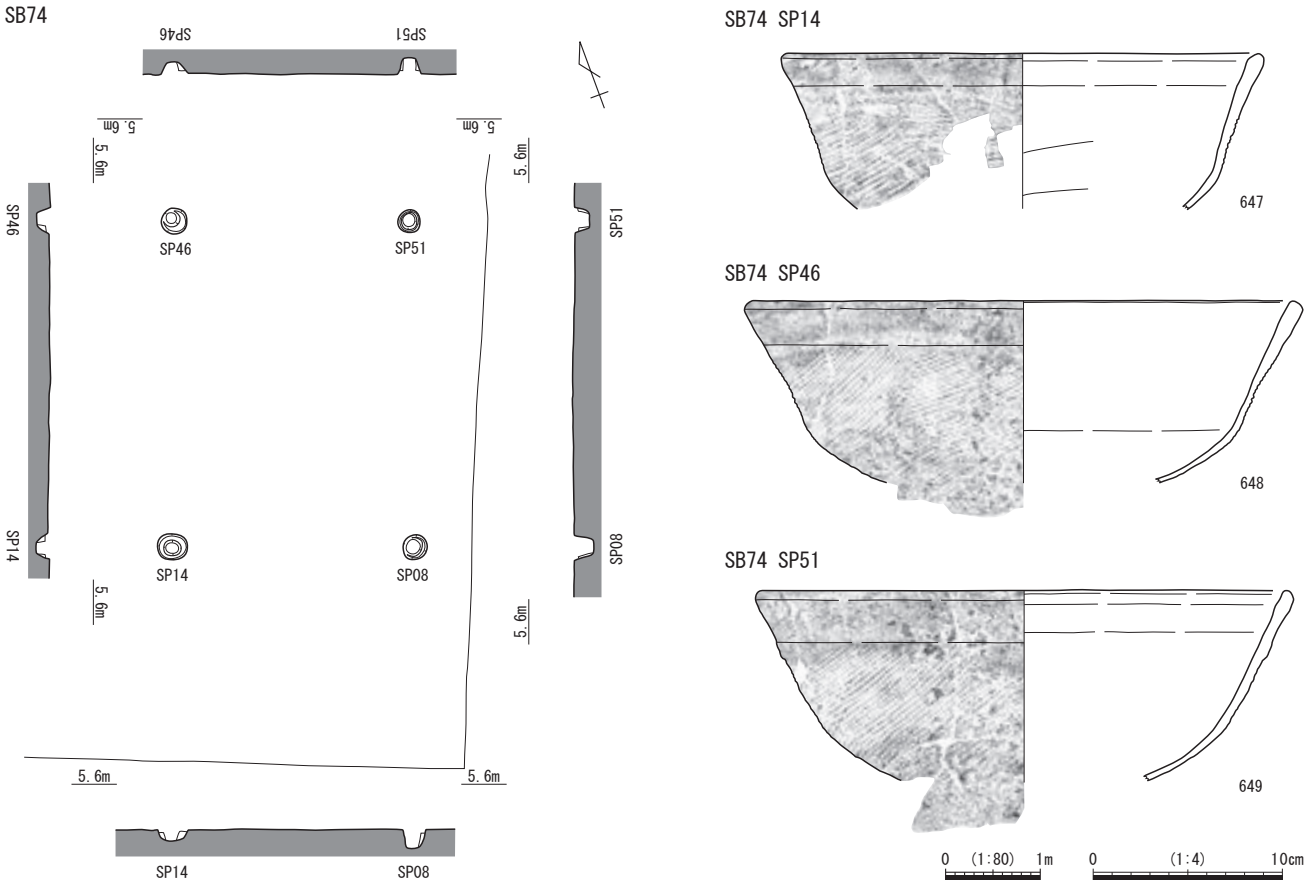
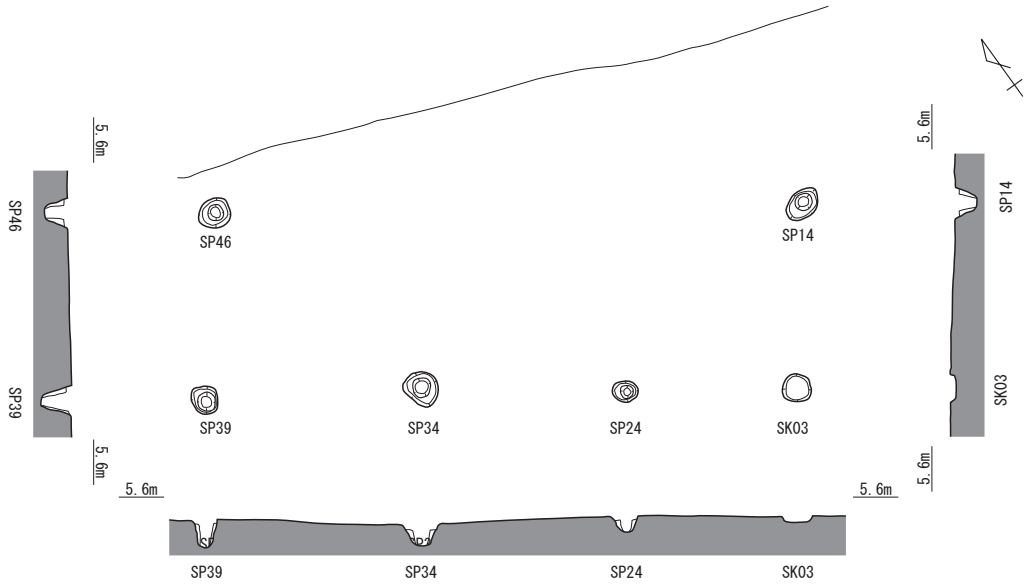
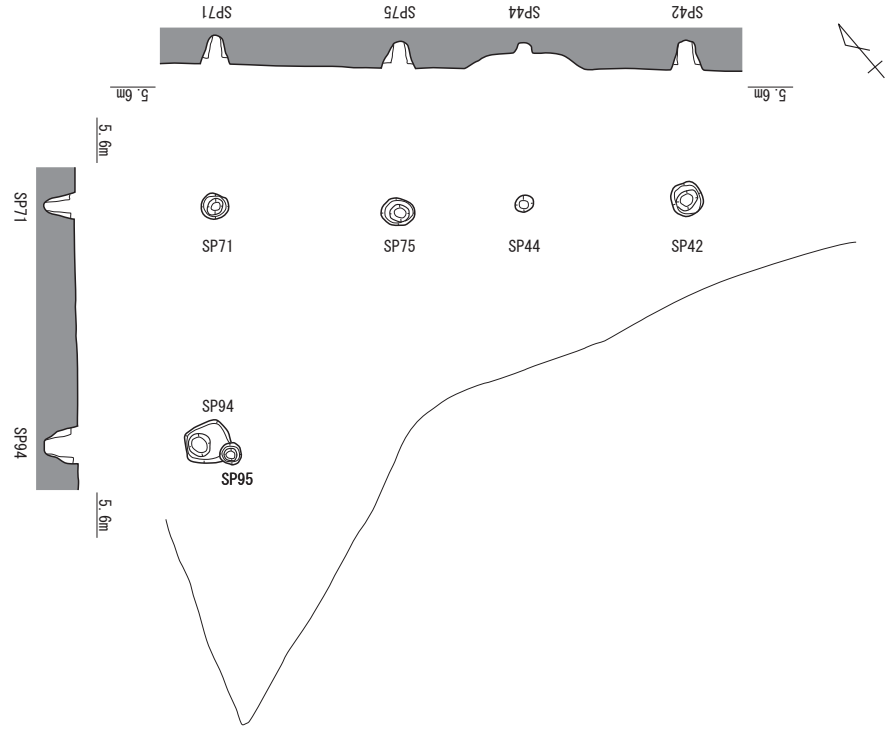


図110　SB72、SB74平面・断面図、出土遺物

SB75



SB76



0 (1:80) 1m

図111　SB75、SB76平面・断面図

SA26
(図99･100･112)
(写真図版53)

16次４区の東部で検出した。南北方向に４基の柱穴が一列に並ぶ。規模は延長6.05m、柱間隔は北から1.95m、2.1m、2.0mを測る。遺構の主軸はN21° Eである。柱穴は円形を呈し、直径は18～32cm、深さは18～36cmを測る。

SA27
(図99･100･112)
(写真図版36)

５次24-５区の東壁沿いで検出した。検出した位置から調査区外で建物跡になる可能性を有す。南北方向に３基の柱穴が一列に並び、５次24-５区SK02を切る。規模は延長3.1m、柱間隔は北から1.6m、1.5mを測る。遺構の主軸はN21° Eである。柱穴は円形を呈し、直径は18～24cm、深さは20～34cmを測る。

SA28
(図99･103･112)
(写真図版50)

区画Ｂ内で検出したSB60の南約80cmに位置する。遺構の北側は大きく攪乱を受けていることから本来は建物跡の一部である可能性もあるが、ここでは柵と判断した。東西方向に５基の柱穴が一列に並ぶ。規模は延長6.45m、柱間隔は東から1.0m、1.35m、1.3m、2.8mを測る。本来はSP53とSP62の間にもう一基柱穴が存在した可能性がある。遺構の主軸はN19° Eに直交する。柱穴は円形を呈し、直径は14～20cm、深さは12～22cmを測る。

SA29
(図99･103･112)
(写真図版50)

SA28の南1.7mの位置で検出した。東西方向に３基の柱穴が並ぶ。規模は延長3.75m、柱間隔は東から1.75m、2.0mである。遺構の主軸はN19° Eに直交する。柱穴は円形を呈し、直径は22～25cm、深さは12～24cmを測る。SA28とSA29の主軸方向からSB62との関連が想定される。

SA30
(図99･102･112)
(写真図版50)

７次37区の西壁沿いで検出した。検出した位置から調査区外で建物跡となる可能性を有す。南北方向に３基の柱穴が一列に並ぶ。規模は延長3.4m、柱間隔は1.7mの等間隔である。遺構の主軸はN20° Eである。柱穴は円形を呈し、直径は20～22cm、深さは16～28cmを測る。

SA31
(図99･102･112)

５次24-３区の西壁沿いで検出した。検出した位置から調査区外で建物跡となる可能性を有す。南北方向に４基の柱穴が一列に並ぶ。規模は延長6.1m、柱間隔は北から1.6m、2.0m、1.5m、1.0mを測る。遺構の主軸はN19° Eである。柱穴は円形を呈し、直径は20～44cm、深さは17～28cmを測る。

SA32
(図99･104･112)
(写真図版49)

11次10区の西壁沿いで検出した。検出した位置から調査区外に広がる建物跡となる可能性を有すが、隣接する４次24-３区で対になる柱穴を検出していないため柵とした。SB76-SP94とSP95が切り合うことからSB76に後行する遺構である。南北方向に６基の柱穴が一列に並ぶ。規模は延長7.0m、柱間隔は北から1.6m、1.5m、1.5m、1.1m、1.3mを測る。遺構の主軸はN22° Eである。柱穴は円形を呈し、直径は14～26cm、深さは10～20cmを測る。

SA33
(図99･104･112)
(写真図版41)

４次23区SD01とSD02の間で検出した。検出した位置から調査区外に広がる建物跡の可能性を有す。南北方向に４基の柱穴が一列に並ぶ。規模は延長6.45m、柱間隔は北から1.9m、2.45m、2.1mを測る。遺構の主軸はN26° Eである。柱穴の平面形は円形を呈し、直径は20～42cm、深さは20～30cmを測る。主軸方向からSB72との関連が想定できる。

SA34
(図99･104･112)
(写真図版41)

SA33の西側約70cmの位置で検出した。検出した位置は柱穴が密集するため、建物跡を構成する柱穴列の精査に努めたが、明確な遺構は確認できなかった。最終的に南北方向に８基の柱穴が一列に並ぶ部分を柵と判断した。北端のSP228は４次23区SD02に切られている。規模は延長10.15m、柱間隔は北から1.25m、1.45m、1.85m、2.3m、0.8m、1.25m、1.25mを測り、ばらつきが多い。遺構の主軸はN17° EでSA33とは異なる。柱穴は円形を呈し、直径は16～24cm、深さは10～48cmを測る。主軸方向からSB73との関連が想定できる。

SA35
(図99･104･112)
(写真図版41)

調査区西端、SA34の西側約2.2mの位置で検出した。平面的にSB72、SB73と重なる。検出した位置から調査区外に広がる建物跡の可能性を有す。南北方向に７基の柱列が一列に並ぶ。規模は延長8.55m、柱間隔は北から1.25m、1.55m、1.7m、1.85m、1.2m、1.0mを測り、間隔は不揃いである。遺構の主軸はN18° Eで、SA34と近似する。柱穴は円形を呈し、直径は20～30cm、深さは26～36cmを測る。主軸方向からSA34との関連が想定できる。

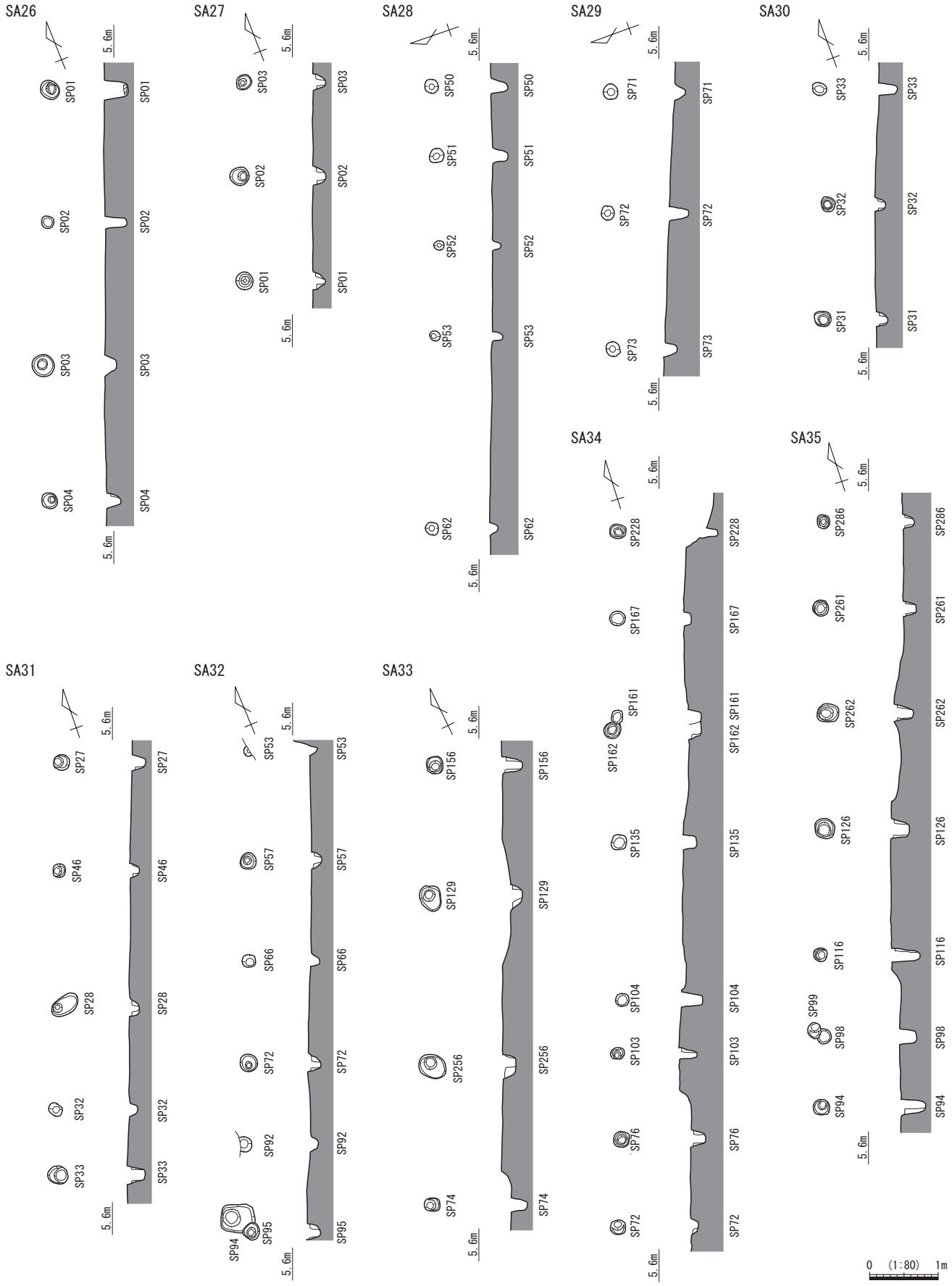


図112　SA26～SA35平面・断面図

SE03
(図99･104･113)
(写真図版47)

10次６区の北端で検出した石組み井戸である。区画Ｂ内の区画溝である10次６区SD01・SD03を切る。掘方は円形を呈し直径1.5m～1.7mを測る。井戸底は遺構検出面から2.15m下である。石組み最下部と井戸底とは20cmの差があるが、その部分に木質の構造物等が存在したかどうかは不明である。石組みの石材は１辺20～50cmの角礫と円礫を用いる。最下部に１辺50cm程の角礫を正方形になるように組む。最下段の石の前面から10～15cm控えた位置から円礫を主体とする石材を円形に積む。円形石組み部分の直径は約70cmを測る。遺物は出土していないため時期は不明である。後述する16世紀代に位置づけられるSE06よりも掘り込みが深いことから区画Ｃもしくは江戸時代の遺構の可能性がある。

SE04
(図99･104･114)
(写真図版47)

SE03の南約15mの位置で検出した石組み井戸である。上部は攪乱を受けているが、検出した位置から10次６区SD01との切り合いはない。掘方は円形を呈し、直径は約2.5mを測る。井戸底は遺構検出面から2.05mを測る。井戸底には直径50cm、深さ約50cmの掘り込みが認められた。この部分に曲物か桶組みが設置されていたと想定できるが、木質等は全く確認できなかった。この掘り込みの上部から石組みを行っている。石組みの下部には根太等の構造物は認められない。そのため、下段の石組みはわずかに崩れている。下部は直径20～30cm程の長円形の河原石を用い、高さ50cm程小口積みしている。その上部は１辺50cmの大振りな角礫を使用している。石組みの平面形は円形を意識しているものの現状では三角形に近い形状となっている。石組みの直径は約1.1mを測る。掘方の上部はシルト、下部は砂礫によって埋められている。

遺物は土師器皿650、土師器堝651、丹波焼甕652、須恵器鉢の底部653等が出土した。650は平底で粘土にチヂレが認められる。皿Ｆと皿Ｉの折衷形状を呈している。651は鉄かぶと形Ⅱ類で口縁部内面に２条のナデを施す。652は埋土の上部から出土したもので、江戸時代のものである。652を除けば、Ⅵ期に位置づけられる。

SE05
(図99･104･115)
(写真図版43)

SE04の南約27mの位置で検出した石組み井戸である。区画Ｂの４次23区SD02の南肩に位置し、古段階のSD02を切る。掘方は円形を呈し直径1.9～2.15mを測る。井戸底は遺構検出面から1.1mを測る。石組み石材は１辺20～50cmの角礫を用いる。最下段は１辺40～50cmの大型の石材を六角形に組んでいる。その上部は最下段よりも小ぶりな石材を用い、最下段の石の前面から約15cm控えた位置から積んでいる。石組みの天端から遺構検出面までは約30cmの間隔があり、この間に石組みは認められないが、当初から存在しなかったものと思われる。石組み内の埋土は上部に貝殻を含む層があり、下位では砂層を挟んで最下層が粘土層であった。

遺物は青磁碗654が石組み上層から出土し、備前焼杯655、漆椀656、播磨型の土師器堝659・660が貝殻を含む層から出土した。備前焼擂鉢657、備前焼甕658は掘方から、土師器羽釜661が砂層から、瓦質土器羽釜662が最下層から出土した。656は黒漆椀で内面に朱漆が部分的に残る。661と662は精良な胎土で、当該時期に上郡町の山野里宿遺跡等で出土している受口口縁の瓦質土器の胎土と類似している。当該時期の瓦質土器は精良な胎土を用いるものが目立つ。659と660からⅥ期に位置づけられる。

SE06
(図99･102･116)
(写真図版50)

14次９区、区画Ｂの西端で検出した石組み井戸である。SB62の南約70cmに位置する。大きく攪乱を受けており、断面でも直接の切り合い関係は確認できていないが、位置的にSE06は区画Ｂの西区画溝である14次９区SD03の肩を切っている可能性が高い。掘方は直径約1.8m、深さは遺構検出面から約1.4mを測る。石組みは最下段に１辺40cmの比較的大型の石材を五角形に配している。上部の石組みは、最下段の石組み前面から10cm程控えて小口を揃えて積む。横目地は比較的通り、石組み全体の高さは約95cmである。その上部の石組みの有無は不明である。

遺物は石組み内の埋土から備前焼擂鉢663等が出土した。口縁部形態から中世６a期の所産でⅦ期にあたる16世紀前半に位置づけられる。

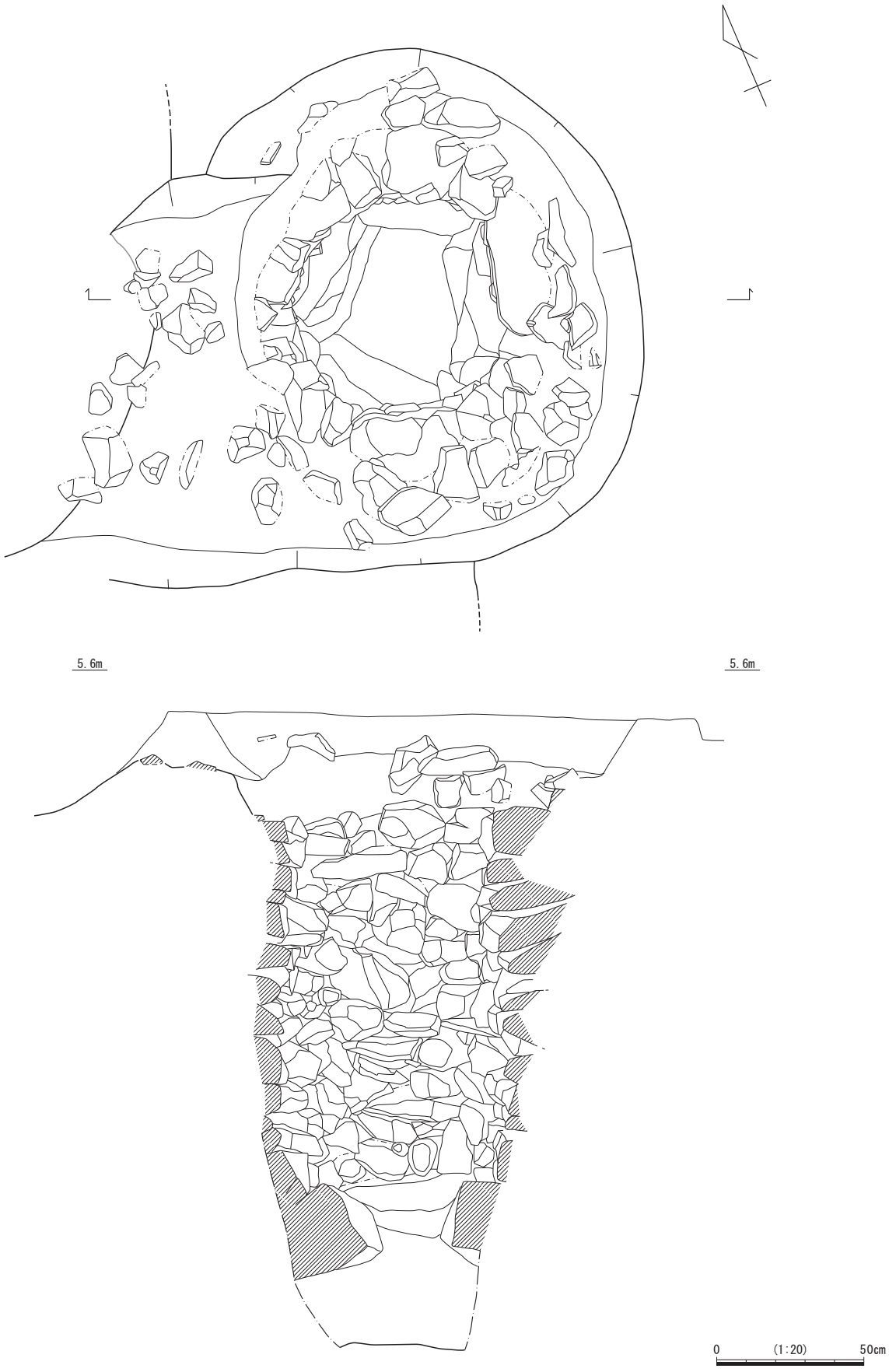
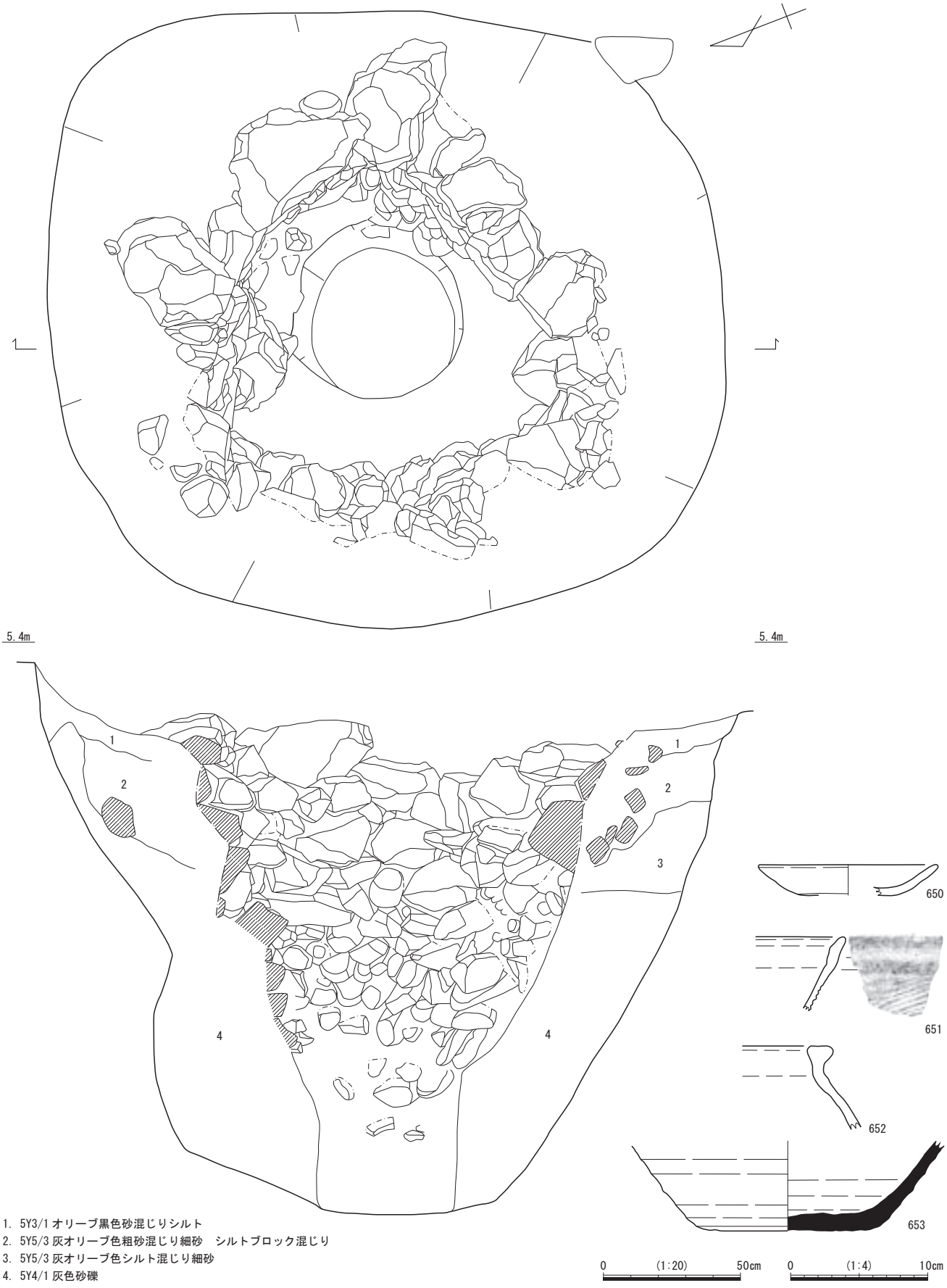


図113　SE03平面・断面図



1. 5Y3/1 オリーブ黒色砂混じりシルト
2. 5Y5/3 灰オリーブ色粗砂混じり細砂　シルトブロック混じり
3. 5Y5/3 灰オリーブ色シルト混じり細砂
4. 5Y4/1 灰色砂礫

図114　SE04平面・断面図、出土遺物

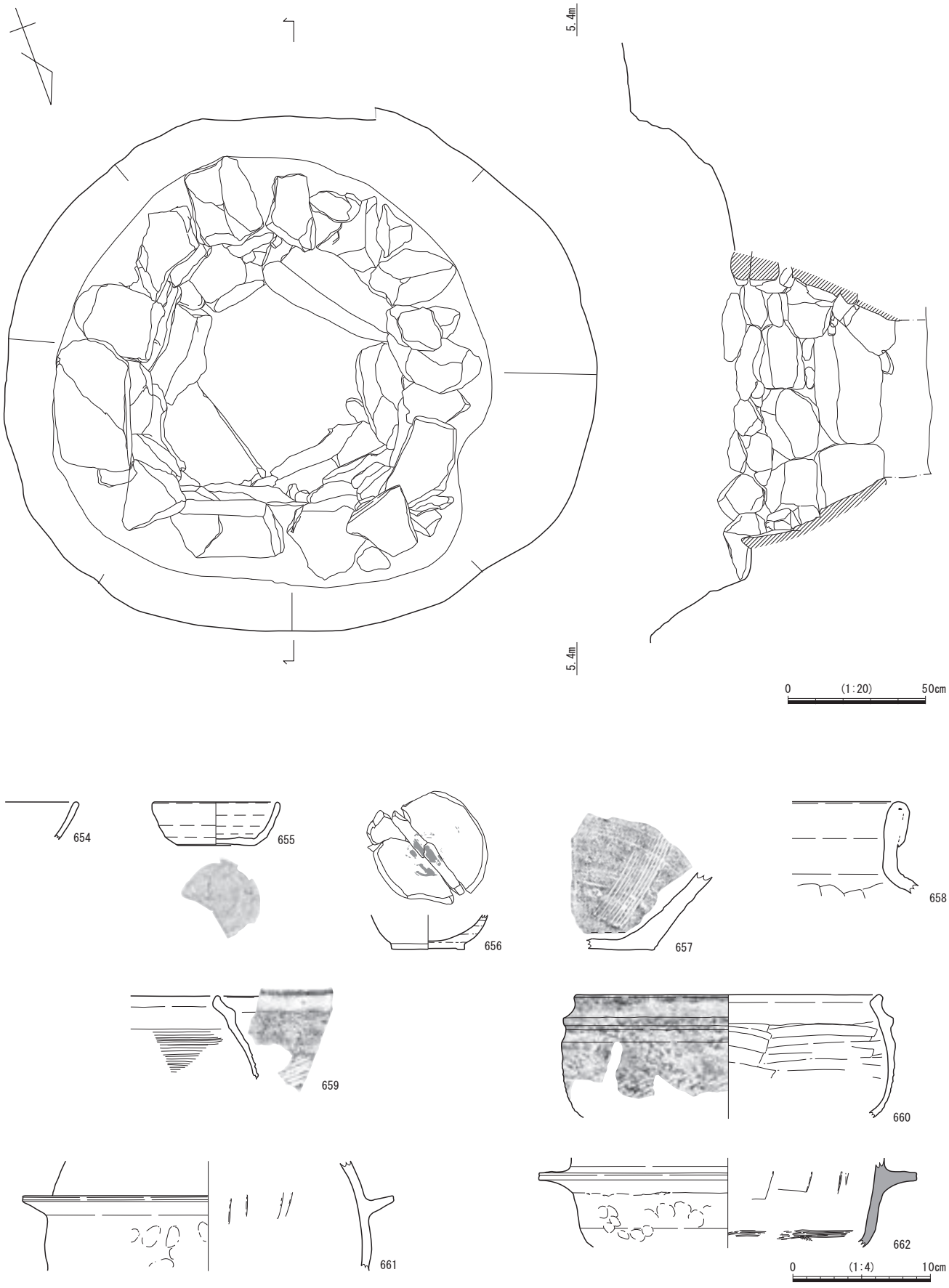
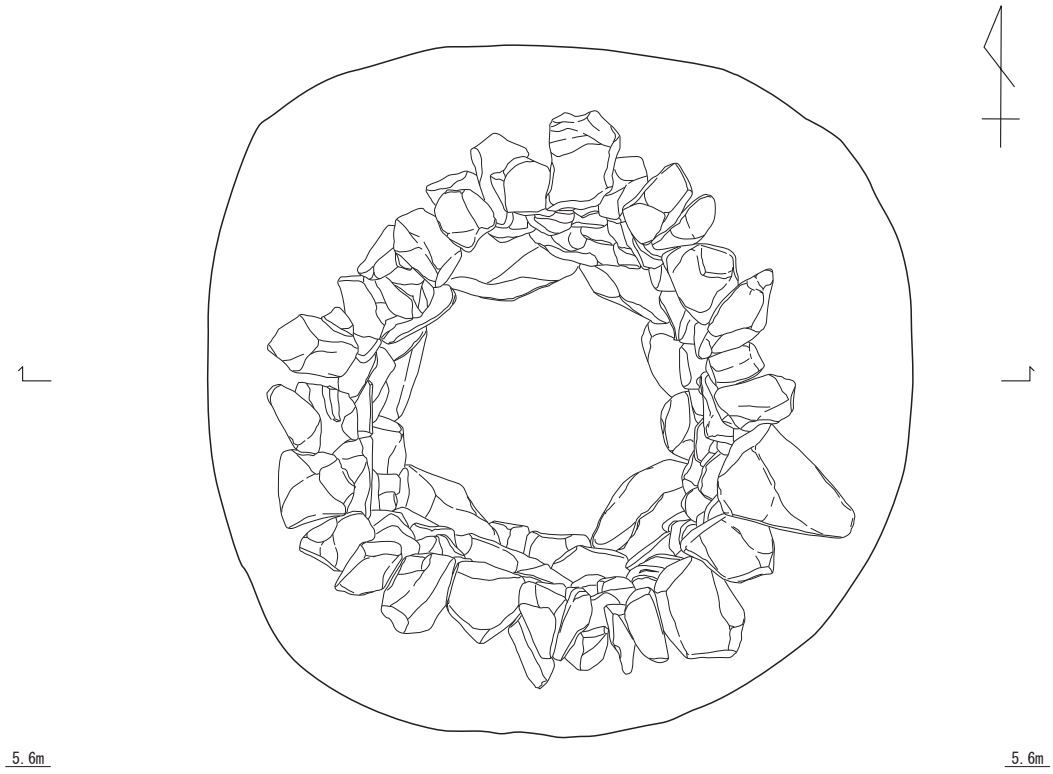
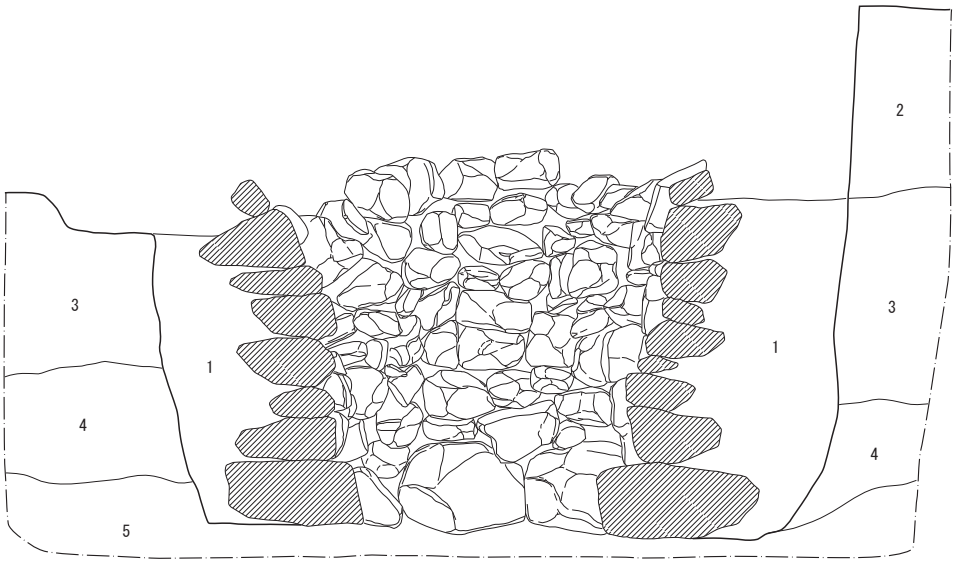


図115　SE05平面・断面図、出土遺物





1. 10YR6/1 褐灰色シルトブロック混じり 10YR7/6 明黄褐色シルト：地山ブロック主体。下半グライ化
2. 10YR6/1 褐灰色シルト：地山
3. 10YR7/6 明黄褐色シルト：地山
4. 10BG7/1 明黄灰色シルト：地山。グライ化
5. 5BG7/1 明青灰色砂礫：地山。グライ化

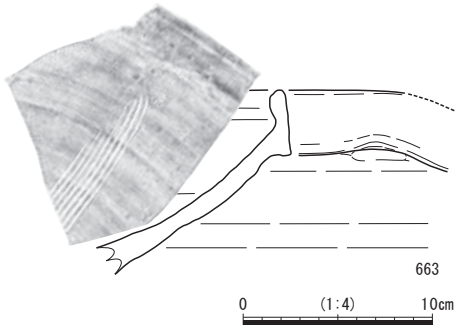


図116　SE06平面・断面図、出土遺物

区画B
(図99･103)
(写真図版35)

調査区のほぼ中央で検出した東西方向に長い区画である。その規模は区画溝の外法で南北約50ｍ、東西95ｍ以上を測る。区画溝は東側を除く、西・南・北の３方で検出した。西側の区画溝は７次36区と14次９区でその一部を検出しているが、調査前の用水路である寺前水路と重なる位置にあたる。南側の区画溝は十五ノ坪と二十二ノ坪の坪境に位置する。北側の区画溝は町坪集落内の里道と重なっている。東側は10次７区SD01がさらに東へ延びる様相を示していることから、現在の町坪集落の中心部まで延びている可能性がある。区画内部には４次24-２区SD02や４次23区SD03・10次６区SD01といった区画遺構が存在し、前述したSB59～SB63・SB69～SB71、SE03・SE04・SE06の他に多くの柱穴、土坑等を検出した。これらの遺構がすべて区画Ｂに伴う確証はないが、総じて遺構密度は高い。対して区画溝をはさんで北側と西側の調査区には、中世の遺構の広がりはほとんどなく、遺構分布の粗密は明白である。南側は４次23区SD02以南・11次10区で遺構密度が高く、４次24-３区・５次25-２区・７次37区は遺構密度が低くなる。

西区画溝
(図103･117･118)
(写真図版46)

７次36区SD01から派生するSD01-２と14次９区SD03が該当する。県道田寺・今在家線に沿って寺前水路があることから、東区画溝は水路と重なっている可能性が高い。14次９区SD03から延びる溝は７次36区SD01へと大きく湾曲して連続しており、南区画溝とつながる。溝は調査区に対してわずかに斜行し、調査区外に広がるため全容は不明であるが、検出規模で延長18ｍ、幅は最大で５ｍを測る。埋土は砂混じりシルトである。７次36区SD01内で検出した集石は南北８ｍ、東西約２ｍの範囲に広がる。石を組んだ様相はなく、溝内に不規則に集積したものであるため性格は判然としないが、検出した位置が14次９区SD03の南北方向の延長にあたることから、南区画溝の埋戻しにあたり、寺前水路の肩を補強する意図をもって埋め込んだ可能性もある。ただ、７次36区SD01の検出段階では平面的な切り合い関係は認められなかった。

南区画溝
(図103･117)
(写真図版35)

７次36区SD01、５次24-４区SD01、４次23区SD02から構成される溝である。調査前の現況は、周辺に比べて一段低い状態となっており、５次24-４区では北側の耕作地との比高差は約50㎝あった。写真図版35-２・38に写る調査前の地割から溝の肩は直線的ではなく、緩やかな凹凸が認められる。検出延長は約80ｍ、幅は最も狭い24-４区SD01で上幅4.6ｍ、36区SD01で上幅13.8ｍを測る。

7次36区SD01
(図103･117･118)
(写真図版46)

溝内で検出した集石を境に以東をSD01-１、14次９区につづく北側をSD01-２、集石周辺をSD01-３、集石の南から５次25-２区に続く南側をSD01-４と呼称している。溝は調査区西端で南北方向の溝と接続する。北側は14次９区SD03、南側は５次25-２区SD01とつながる。南北方向の溝の規模は明らかでないが、前述したように北側の14次９区SD03とは一連でつながる。５次25-２区SD01では南北方向に延びる石列（B-B'・C-C'断面）を延長3.7ｍ分検出した。同じく７次36区と５次25-２区との境に東西方向に延びる石列（D-D'断面）を検出した。この石列は延長7.3ｍでさらに西側へ延びると考えられる。石材は一辺30㎝程の割石を使用し溝埋土の上位に設置している。これらの石列は出土層位から区画Ｂの溝埋没後に設置されたものであり、SD01が区画溝としての機能を停止した後、護岸ないし区画を目的として配されたと考えられる。

図116-A･D･E断面から溝の深さは現況から約１ｍ、幅はＥ断面で上幅8.5ｍ、下幅6.2ｍを測る。断面形はやや深い皿状を呈す。底面は平らで立ち上がりは比較的緩やかである。埋土のうち溝の機能時の堆積は８層・９層で砂礫もしくはシルトである。３層と７層は廃絶後の埋土とみられる。

遺物は集石の東側から土師器小皿Ａ664、瀬戸平碗667、播磨型堝672・673、瓦質火鉢675、備前焼口縁部676、備前焼擂鉢680・681、備前焼甕683・684・689、備前焼壺686等が出土した。出土層位は７層以下である。集石部分からは青磁碗665・666、青花碗668、鉄かぶと形Ⅲ類670・671、播磨型堝674、瓦質土器甕677･678、備前焼擂鉢682、備前焼甕685･687、備前焼壺688等が出土した。いずれも集石中からの出土である。集石より北側からは鉄かぶと形Ⅲ類669、土錘679が溝の最下層から出土した。播磨型堝672～674は突帯状から段状の鍔部のものが出土している。瓦質土器甕

677・678は当該期に西播磨地域において散見される遺物である。外面は口縁端部近くまでハケ目を施し、その後格子タタキを行う。亀山焼の可能性もあるが断定できないため瓦質土器甕とする。679は土師器の土錘で、孔径は６㎜である。682が中世３ｂ期、他は４ｂ～５a期である。備前焼擂鉢690は14次９区SD03の下層から出土した。出土地点により顕著な時期差は見出せない。

5次24-4区
SD01
(図103･117･119･120)
(写真図版38･39)

Ｆ断面で上幅4.6m、深さは遺構検出面から約80㎝を測る。断面形の立ち上がりは７次36区SD01と似るが、底部は緩やかに弧を描く。埋土は大きく上層にあたる１・２層と中層にあたる３～５層、下層にあたる６層・７層に分けられる。６・７層は粗砂・礫層で流水に伴う堆積とみられる。なお、Ｆ断面では３層は部分的に残存した様相であるが、調査区全体でみるとSD01内には固く締まった３層の砂が広く検出されている。

遺物は下層から青磁碗693・694、備前焼杯699、備前焼擂鉢706、備前焼壺709等が出土した。中層からは青磁碗692・697、備前焼碗698、瓦質土器羽釜700、播磨型堝701、備前焼擂鉢704・708・備前焼壺711、瓦質土器甕713、備前焼面子714、備前焼甕717・720、石臼721・722等が出土した。上層からは土師器皿H691、青磁碗695・696、播磨型堝702、備前焼擂鉢703・705・707、備前焼壺710、備前焼水屋甕712、備前焼甕715・716・718・719等が出土した。上層の耕土に混じって砥石723が出土している。土師器堝のうち、鉄かぶと形は認められない。備前焼擂鉢703は中世４a期に、706・708が中世５ｂ期、705は中世６a期、704・707は中世６ｂ期である。714は備前焼の甕もしくは壺胴部を打ち欠いた面子である。720の底部内面にはＣ字状の圧痕が認められる。721・722は凝灰岩製の石臼で721は下臼、722は上臼であろうか。723は砂岩製の砥石で４面に使用痕が認められる。

4次23区
SD02
(図103･117･120･121)
(写真図版41･43)

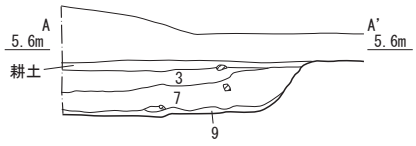
幅6.5m、深さは現地表面から約70㎝を測る。断面形状は７次36区SD01と類似している。埋土は最下層に一部シルトが認められるが、大半は粗砂・礫層である。断面観察から溝の南側と北側で時期差が確認できる。12～16層が古段階の埋土で、４～11層が新段階の埋土である。

遺物は上層から土師器小皿Ｂ724、杯725、白磁皿726、土師器堝732・733・735・737・739・741・743、備前焼擂鉢748・752が、SD02の南半部から青磁碗730、土師器堝738、犬形土製品747、備前焼擂鉢751、備前焼壺755が出土した。下層からは白磁皿727、青磁碗731、土師器堝734・740・742、備前焼杯744、瓦質土器釜745、瓦質土器甕746、備前焼擂鉢749・750、信楽焼甕756、備前焼甕757、軒丸瓦758が出土した。上述のとおり断面観察からは溝埋土は古段階と新段階に分けられるが、平面的にはその境は明瞭ではなく、遺物は南肩に沿った部分を区別して取り上げたのみである。SD02とSD03の境で検出した石列周辺からは瀬戸卸皿728、瀬戸天目碗729、土師器堝736、備前焼擂鉢753、備前焼甕754が出土した。なお、石列の南側で出土したものをSD02の遺物としたが、調査時点ではSD03との区分は明確ではなく両者の出土遺物が混じっている可能性もある。

土師器堝732は炮烙形である。鉄かぶと形堝736と737は底部の屈曲が明瞭でなくⅥ期新段階の様相を示す。735と738は内面にナデによる凹みがなく、738の口縁部は玉縁状となりⅦ期の様相を呈す。犬形土製品747は瓦質焼成で頸部に赤色顔料が付着する。鼻に２つの小穴をあけ、天正期の大坂城跡等から出土する鼻の穴をもたないタイプとは異なる。備前焼擂鉢748が中世３ｂ期、749・750・754は中世４a期、751は中世５a期、752は中世５ｂ期の所産である。758は左巻巴文の軒丸瓦である。珠文を持たないもので、瓦当の形態は楕円を呈する可能性がある。瓦当接合部には瓦当側に３条のカキメが施される。瓦当外区外縁に面取りを施し、表面はナデを施す。外縁にはナデを施し、ナデの強弱により段差を生じている。裏面縁には幅約５㎜の細いナデを施す。

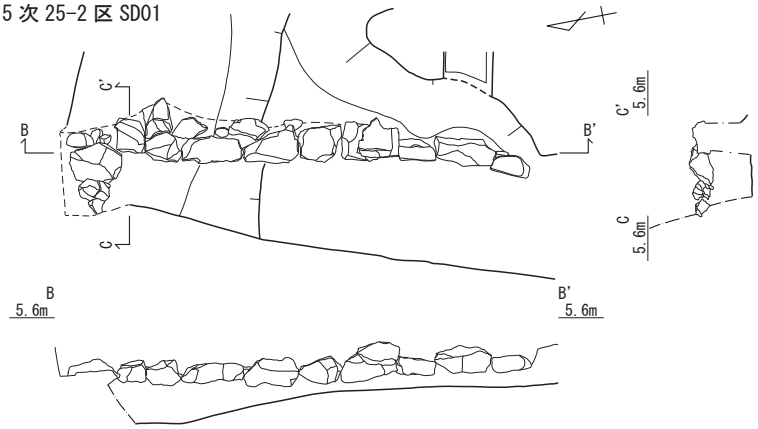
南区画溝の埋土は一時的な滞水に伴うシルト層の存在は確認できるが、総じて粗砂・砂礫によるもので、基本的に流水状態であったとみられる。遺物は総じてⅥ期からⅦ期にかけてのもので、堝の様相はⅥ期新段階からⅦ期古段階が中心となる。備前焼は中世５a･５ｂ期を中心に、４a･４b期、６a・６b期を含むことから、15世紀後半から16世紀前半にかけてが中心時期となると思われる。

7次36区 SD01

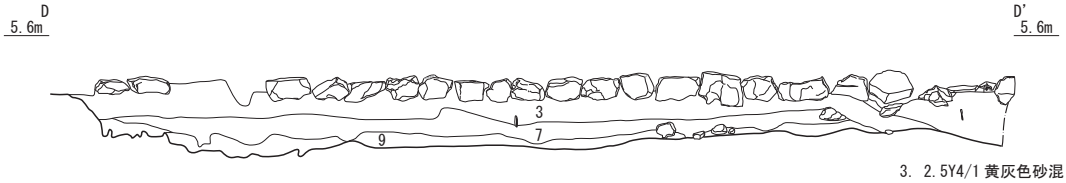


3. 2.5Y4/1 黄灰色砂混じりシルト
7. 2.5Y4/1 黄灰色砂混じりシルト　礫含
9. 2.5Y7/2 灰黄色砂混じりシルト
※注記番号 E-E' と共通

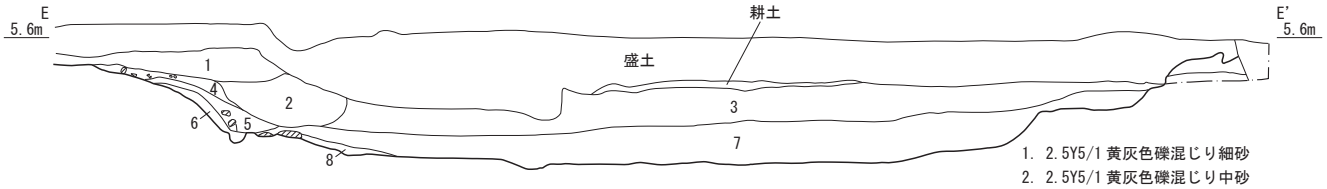
5次25-2区 SD01



7次36区 SD01

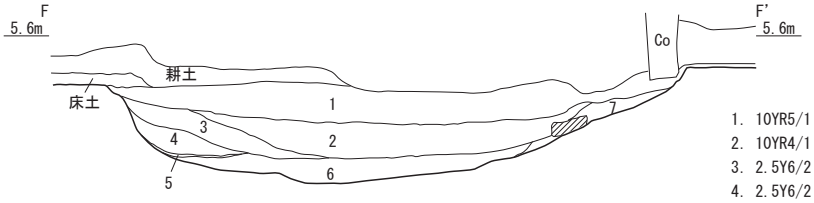


3. 2.5Y4/1 黄灰色砂混じりシルト
7. 2.5Y4/1 黄灰色砂混じりシルト　礫含
9. 2.5Y7/2 灰黄色砂混じりシルト
※注記番号 E-E' と共通



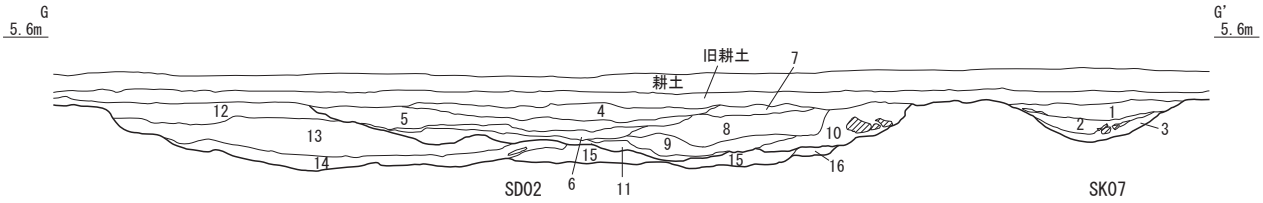
1. 2.5Y5/1 黄灰色礫混じり細砂
2. 2.5Y5/1 黄灰色礫混じり中砂
3. 2.5Y4/1 黄灰色砂混じりシルト
4. 10YR3/1 黒褐色細砂　礫含む
5. 10YR3/1 黒褐色極細砂
6. 2.5Y6/1 黄灰色砂混じりシルト
7. 2.5Y4/1 黄灰色砂混じりシルト　礫含
8. 2.5Y5/1 黄灰色粗砂礫

5次24-4区 SD01



1. 10YR5/1 褐灰色細砂
2. 10YR4/1 褐灰色細砂
3. 2.5Y6/2 灰黄色砂　固く締まる
4. 2.5Y6/2 灰黄色礫混じり細砂
5. 2.5Y6/2 灰黄色シルト
6. 10YR6/6 明黄褐色粗砂礫
7. 10YR6/6 明黄褐色粗砂礫

4次23区 SD02



4. 10YR4/1 褐灰色細砂
5. 2.5Y5/2 暗灰黄色砂礫
6. 10YR5/6 黄褐色粗砂
7. 2.5Y5/2 暗灰黄色砂礫
8. 5Y5/1 灰色砂礫
9. 2.5Y6/3 にぶい黄色砂礫
10. 2.5Y5/1 黄灰色細砂
11. 2.5Y5/1 黄灰色細砂　黒色粘土ブロック含
12. 2.5Y5/2 暗灰黄色細砂
13. 2.5Y5/1 黄灰色砂礫
14. 2.5Y5/1 黄灰色シルト
15. 2.5Y5/1 黄灰色粗砂　上位にシルト
16. 2.5Y5/1 黄灰色砂礫

1. 10YR5/1 褐灰色中砂
2. 10YR3/1 黒褐色シルト
3. 10YR5/1 褐灰色シルト

0　(1:60)　1m

図117　7次36区SD01、5次25-2区SD01、24-4区SD01、4次23区SD02平面・断面図　【図103】

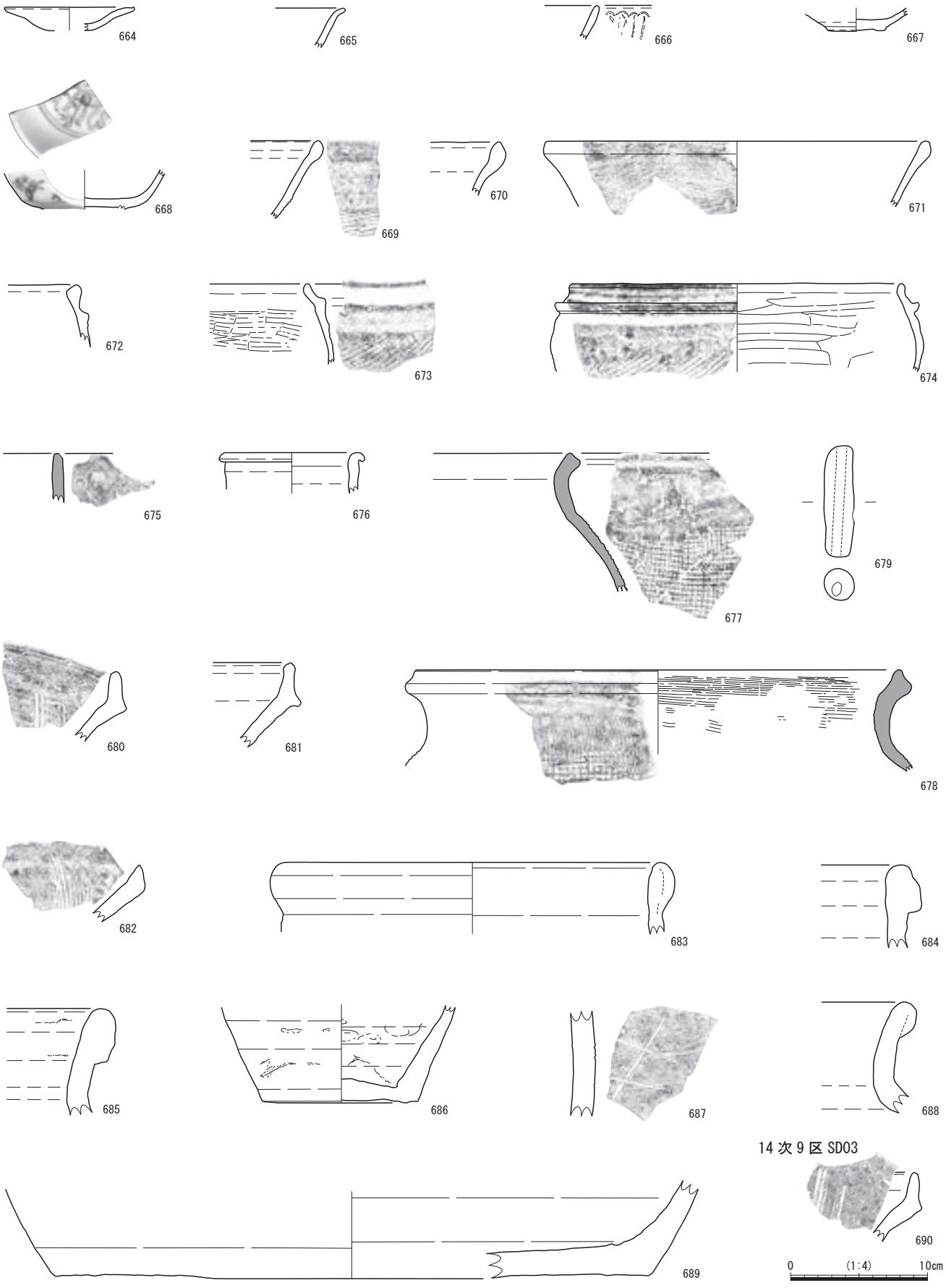


図118　7次36区SD01、14次9区SD03出土遺物

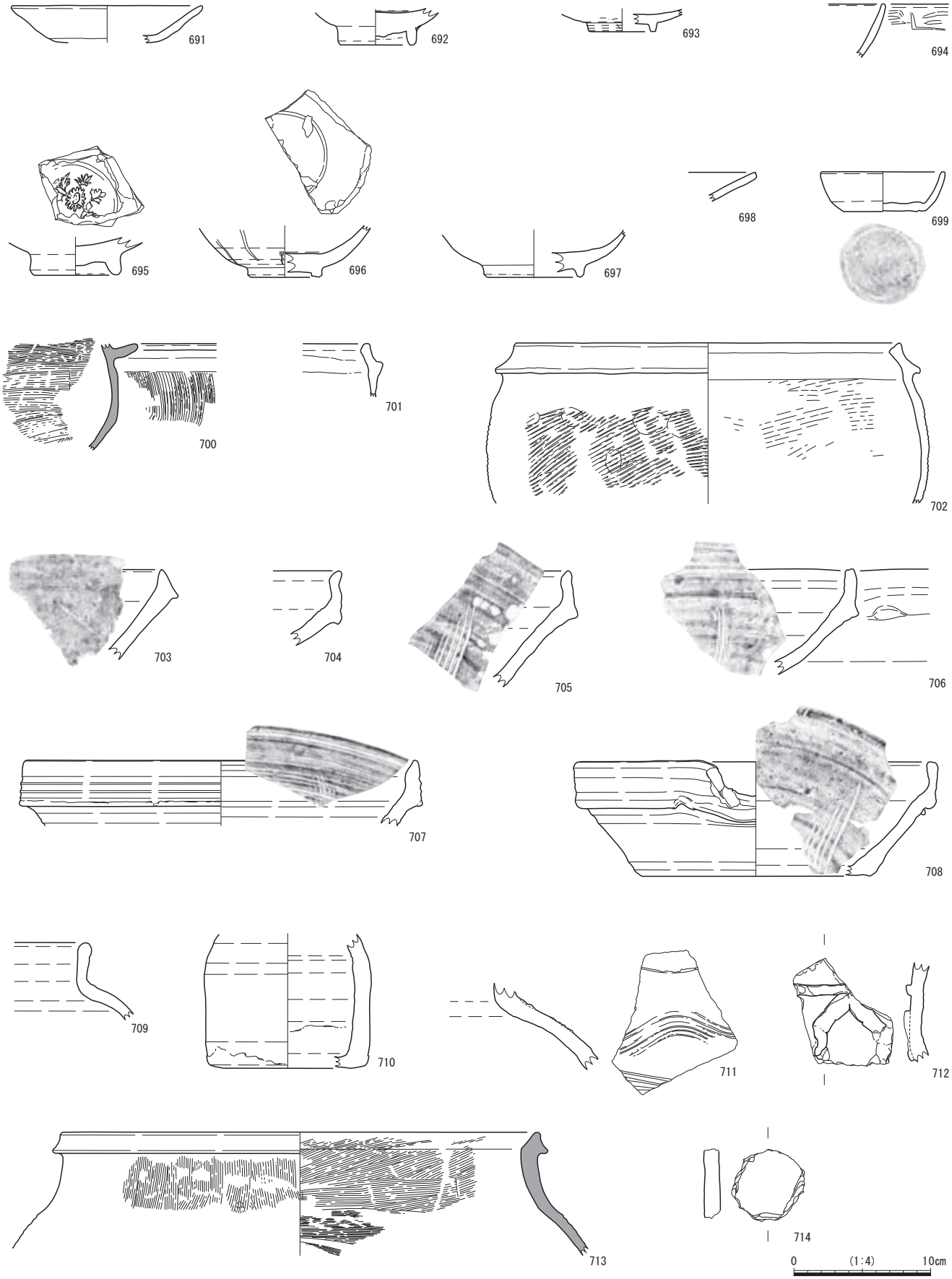
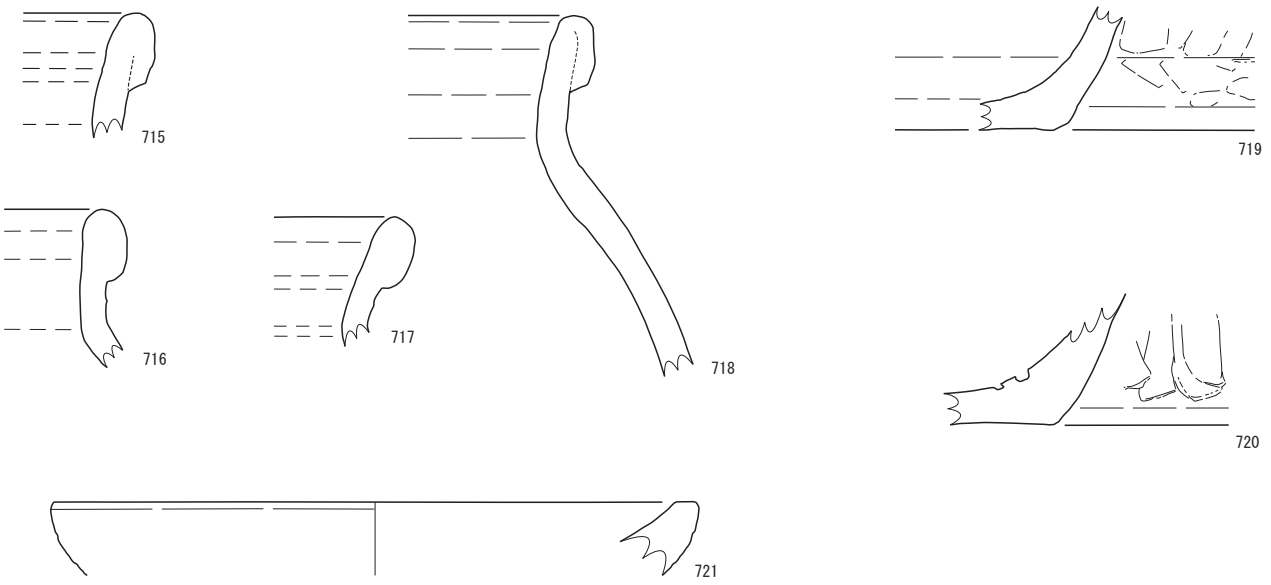


図119　5次24-4区SD01出土遺物

5 次 24-4 区 SD01



4 次 23 区 SD02

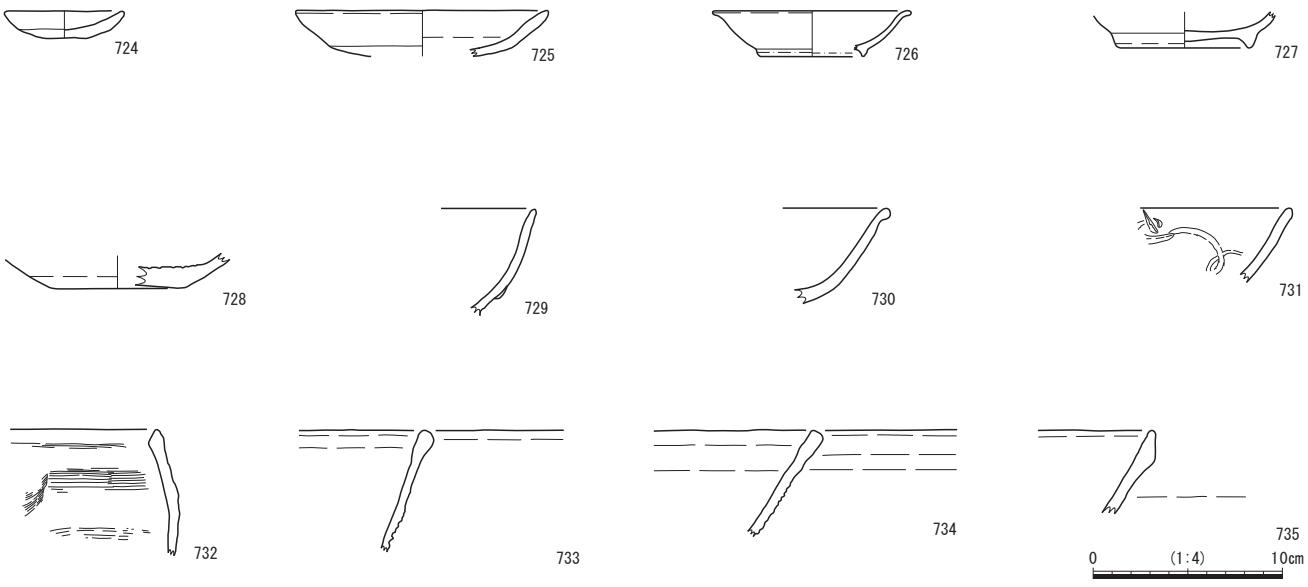


図120　5次24-4区SD01、4次23区SD02出土遺物

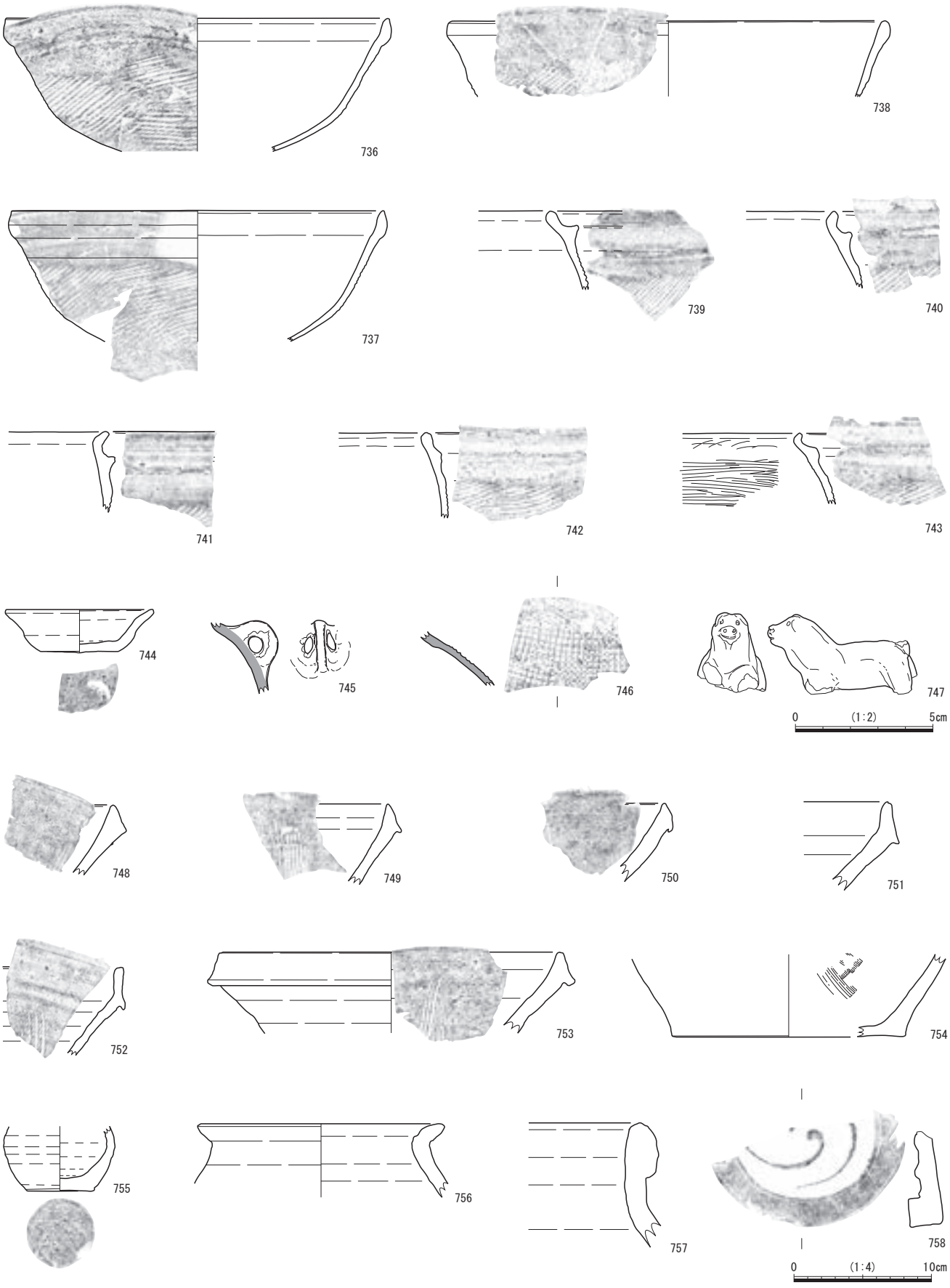


図121　4次23区SD02出土遺物

北区画溝

14次９区SD01及び４次24-２区SD01で南肩を、10次７区SD01で北肩を検出した。調査前には14次９区と５次25-３区、４次24-２区と４次24-１区、10次７区と10次６区の間に里道が通っていた。区画溝の両肩を検出できた調査区はないことから、溝は里道と重なっているとみられる。12次５区においては後述する区画Ｃの遺構に切られている。

14次9区 SD01
(図103･122)
(写真図版50)

調査区の北端で検出した。検出規模で延長16m、幅2.0m、深さは遺構検出面から最大で約62㎝を測る。埋土は最下層が砂質であるが、上層はシルトである。遺物は上層から須恵器椀760、白磁碗761が、下層から備前焼杯759、土師器堝762・763、備前焼擂鉢764が出土した。

4次24-2区 SD01･SD02
(図103･122)
(写真図版37)

調査区の北端で検出した。SD01とSD02は約３ｍの間隔で平行している。SD01は調査区外に広がるため全容は不明である。検出規模で延長13.6m、幅2.4m、深さは遺構検出面から最大で64㎝を測る。SD02は延長13.8m、幅1.4m、深さは遺構検出面から15㎝である。埋土はSD01・SD02とも基本的に細砂～シルトで粒子は細かい。SD02の溝底から弥生時代のSK04を検出した。SD02は検出状況から12次５区SD02・10次６区SD03と一連の遺構と考えられ、その総延長は32.5mである。10次６区SD03は南北方向の区画遺構である10次６区SD01との間に80㎝程の間隔があり、両者はほぼ直角の位置関係にあることから、区画Ｂ内において計画的に配置された遺構といえる。

遺物の出土量は少なく、埋土中にわずかに含まれる程度であった。SD01からは備前焼小壺765、備前焼擂鉢766・767が出土した。766は中世３b期、767は中世５a期に位置づけられる。768は瓦質土器火鉢で炭素の吸着は良好である。SD02からは備前焼壺769が出土した。肩部に沈線が巡る。

10次7区 SD01
(図103･122)
(写真図版48)

調査区のほぼ全域が該当し、西端から東端にかけて検出した。溝の北肩は調査区内で確認できたが、南肩は調査区外に広がる。検出規模で延長13.2m、幅2.0m、深さは遺構検出面から65㎝を測る。溝の幅は、４次24-２区SD01が直進すると仮定すればおよそ３ｍに復元できる。埋土は主として細砂～シルトで、一部に粗砂が認められ、北区画溝の一連の遺構埋土と共通する。南区画溝に比べて粒子は総じて細かく、常時水流があった可能性は低い。

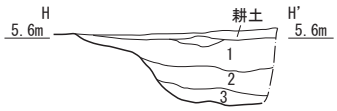
遺物は備前焼壺770、備前焼擂鉢771、瓦質火鉢772が出土した。４次24-１区の遺物様相と共通している。北区画溝の時期は遺物量が少ないため判然としないがⅥ期に位置づけられよう。

区画溝
(図103･104･123･124)
(写真図版41･43･44･47･48)

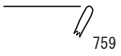
区画Ｂの内側で検出した南北方向に延びる４次23区SD03、10次６区SD01である。調査の関係で２分割して調査したが、区画Ｂ内を区画する一連の溝である。溝の南端は４次23区SD02にぶつかる。その部分で図123に示す石列を確認した。石列は北側に面を持っていることからSD03に伴うものである。平面位置はSD02の肩を兼ねており、SD02とSD03は一連の遺構の可能性が高い。溝の北側は調査区外に延び、北区画溝まで延びる可能性もある。検出規模で40.3m、幅は最大で2.2m、深さは遺構検出面から最大で35㎝を測る。溝底は北側から南側にかけてわずかに傾斜している。断面は逆台形を呈し、４次23区SD03では上層（１～５層）と下層（６～９層）に大きく分けられる。

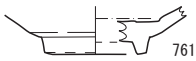
溝の規模に比して遺物の出土量は多い。溝の南部にあたる４次23区SD03からは土師器皿773～775、白磁皿776、青磁碗777・778、瀬戸天目碗779・780、備前焼小壺781、瀬戸香炉782、土師器堝783～789、須恵器鉢796・797、備前焼擂鉢798～801、備前焼壺802・803、備前焼甕804～807、丸瓦808が出土した。溝の北部にあたる10次６区SD01からは土師器堝790～795、備前焼小壺809、土錘810・811が出土した。土師器皿は773が皿Ｏ、774は小皿Ｂ、775は皿Ⅰである。783～787は播磨型堝である。786はほぼ完形に復元できる資料である。鍔部分は片側が明瞭に突出するが、反対側は突出せず炮烙形を呈している。788～792は鉄かぶと形の堝である。788・789はⅠc類、790・791はⅡ類、792はⅢ類である。793は播磨型堝、794は口縁部が多段となるタイプ、795は口縁部が内側に拡張する播但型Ⅲ類である。須恵器鉢796と797は口縁部が内側に巻き込むＣ類である。備前焼擂鉢798は中世４a期、799～801は中世５b期のものである。808は丸瓦部の玉縁部である。須恵質焼成で凸面には縄目タタキ痕が残る。810・811は土錘で孔径は２㎝を測る。

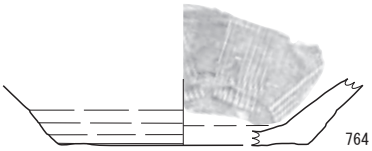
14 次 9 区 SD01



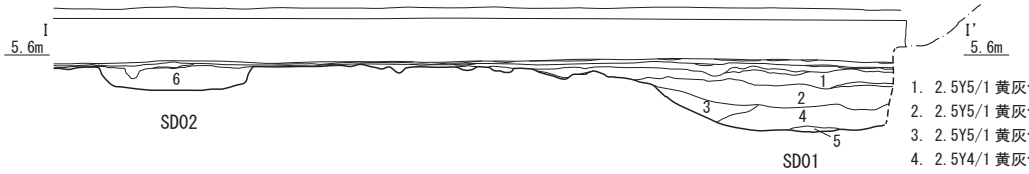
1. 10YR6/2 灰黄褐色シルト
2. 10YR6/2 灰黄褐色シルト
3. 10YR7/1 灰白色中砂～細砂





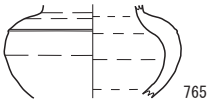


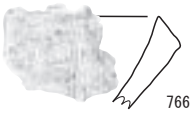
4 次 24-2 区 SD01・SD02

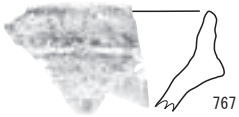


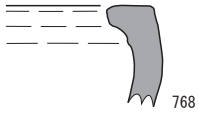
1. 2.5Y5/1 黄灰色細砂
2. 2.5Y5/1 黄灰色細砂
3. 2.5Y5/1 黄灰色礫混じり細砂　粘性強　SD01
4. 2.5Y4/1 黄灰色細砂
5. 2.5Y4/1 黄灰色シルト
6. 2.5Y5/1 黄灰色細砂　黒褐色ブロック混じり（SD02）

SD01

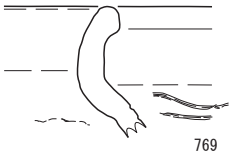




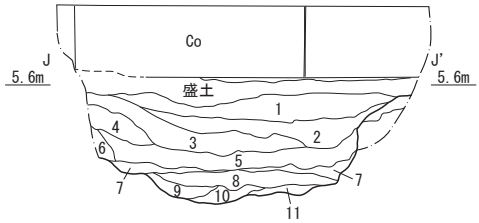




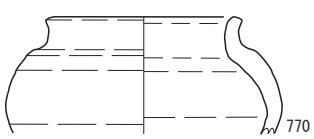
SD02

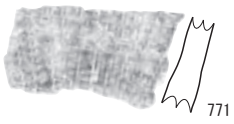


10 次 7 区 SD01



1. 5Y5/2 灰オリーブ色中砂
2. 2.5Y5/3 黄褐色粗砂混じり中砂
3. 10YR3/1 黒褐色シルト混じり細砂
4. 2.5Y3/2 黒褐色シルト混じり細砂
5. 5Y4/1 灰色シルト混じり細砂
6. 2.5Y3/1 黒褐色シルト混じり細砂
7. 2.5Y4/1 黄灰色粗砂混じりシルト
8. 7.5YR4/3 褐色粗砂
9. 10Y5/1 灰色シルト混じり細砂
10. N4/ 灰色シルト
11. 5GY4/1 暗オリーブ灰色シルト混じり細砂





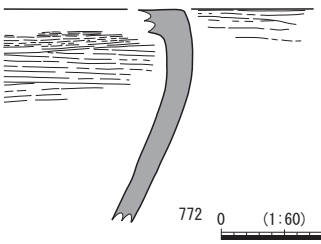
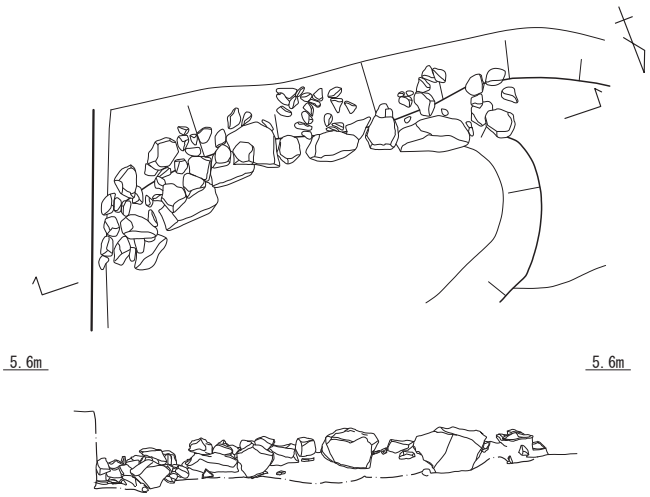
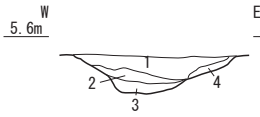


図122　14次9区SD01、4次24-2区SD01・SD02、10次7区SD01断面図【図103】、出土遺物

4 次 23 区 SD03 南端石列

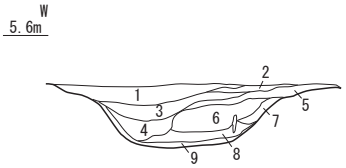


10 次 6 区 SD01



1. 10YR5/2 灰黄褐色細砂
2. 10YR5/1 褐灰色細砂（地山ブロック混じり）
3. 10YR5/1 10YR4/1 褐灰色シルト混じり細砂
4. 2.5Y4/1 黄灰色中砂

4 次 23 区 SD03



1. 10YR6/1 褐灰色細砂
2. 10YR6/2 灰黄褐色中砂
3. 10YR4/1 褐灰色細砂
4. 10YR3/1 黒褐色粘土
5. 10YR4/1 褐灰色細砂
6. 2.5Y5/1 黄灰色細砂
7. 10YR4/1 褐灰色礫混じり細砂
8. 2.5Y5/1 黄灰色砂混じり粘土
9. 2.5Y5/1 黄灰色粘土

0　(1:60)　1m

4 次 23 区 SD03

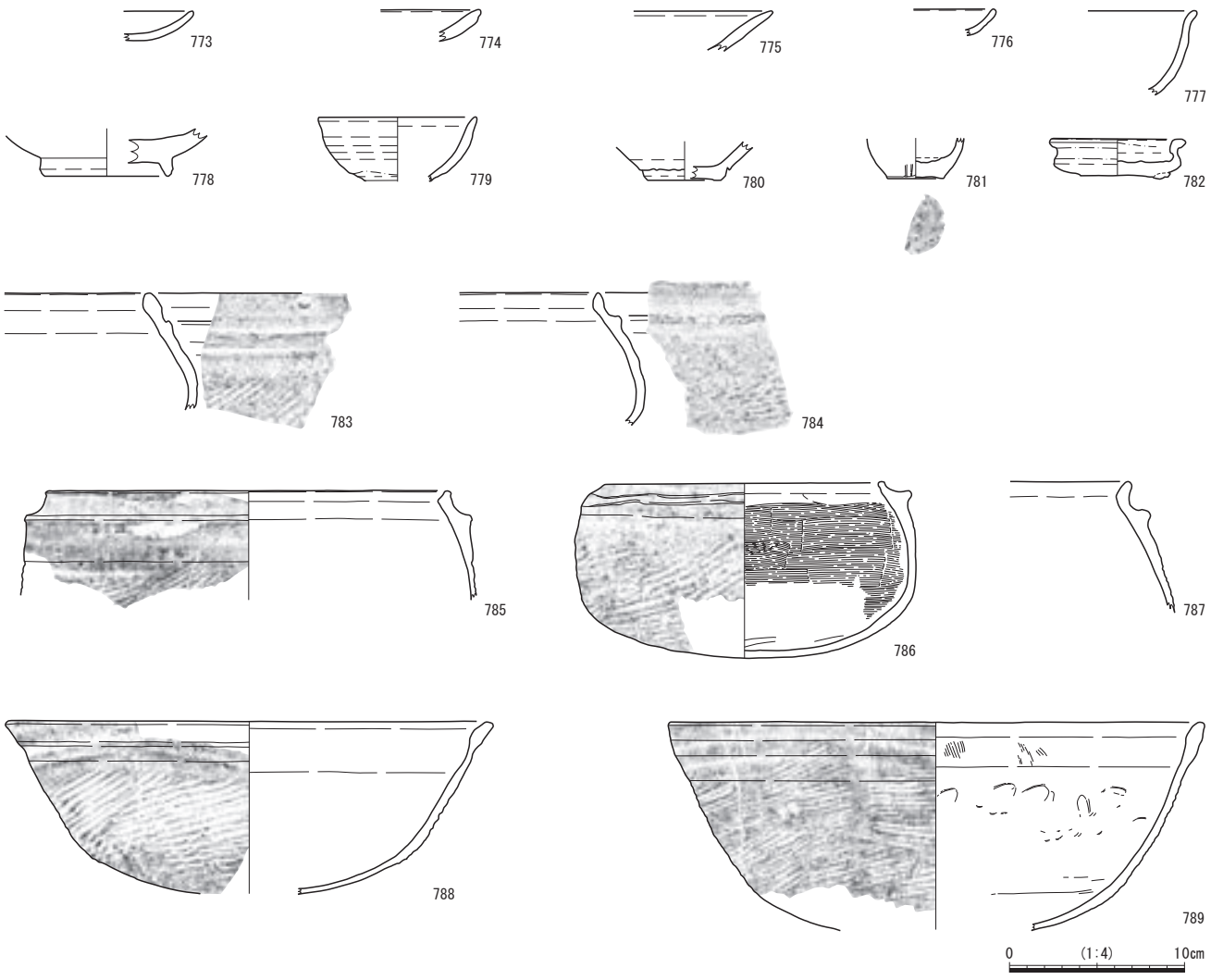


図123　4次23区SD03、10次6区SD01平面・断面図【図103】、出土遺物

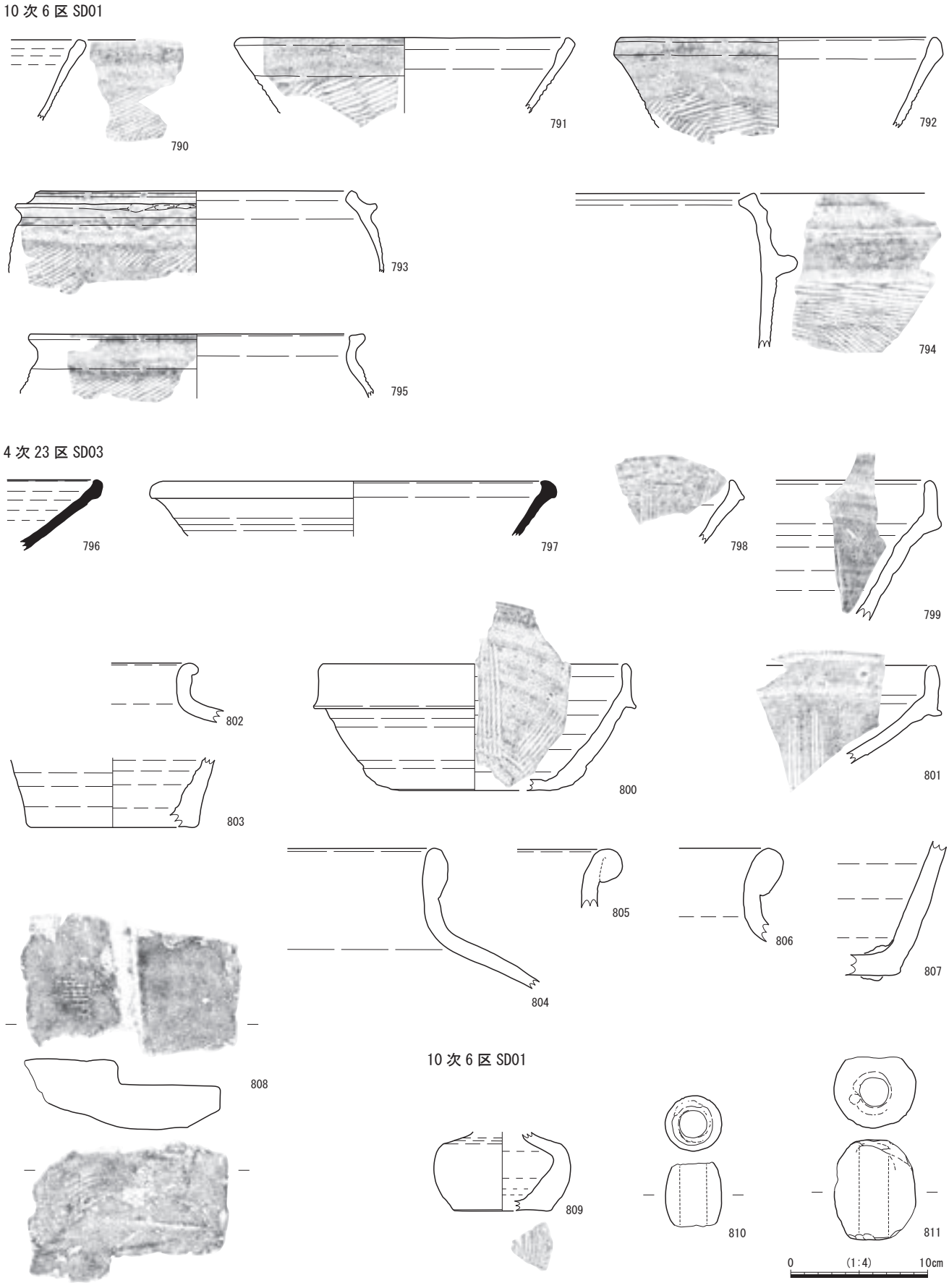


図124　10次6区SD01、4次23区SD03、10次6区SD01出土遺物

10次7区 SD02
(図103･125)
(写真図版48)

10次７区SD01の北で検出した。大半が調査区外にあたるため全容は不明であるが、SD01と明確な切り合いを持たないことから一連の遺構の可能性が高い。検出規模で延長50m、幅２m、深さは75㎝を測る。遺物が出土していないため、時期は不明である。

調査した範囲では、区画Ｂでは北区画溝の北側に遺構が存在しないことを確認している。ただ、部分的な検出にとどまるため想像の域をでるものではないが、後述する４次24-３区SD06と同様に、SD02は区画Ｂの外側における何らかの区画遺構とも考えられ、未調査部分である町坪集落の下に区画Ｂに関連する遺構が広がる可能性を匂わせるものである。

10次6区 SD02
(図103･125)
(写真図版47)

10次６区SD01の東側で検出した南北方向に延びる溝である。検出規模で延長14.76m、幅94㎝、深さは遺構検出面から９～25㎝を測る。中央付近で２条に分かれるなど、SD01と比較すると形状は安定していない。遺物は鉄かぶと形埴Ⅱ類812、播但型埴Ⅲ類813、須恵器甕814等が出土した。

4次24-3区 SD04･SD06
(図103･125)
(写真図版40)

区画Ｂの外側にあたる24-３区の東壁沿いで検出した。攪乱を受けていることと調査区外に延びるため全容は不明である。SD04はSD06の上面に位置し、その延長はSD06とほぼ重なるが、幅は調査区の大半を占める。検出時にはSD04を溝と認識していたが下層からSD06やSK11、SK14を検出した。このことから最終的にSD04は溝ではなく、地形の落ちまたは包含層の可能性があるものと判断した。SD06の検出規模は延長約26.5m、幅約80㎝、深さは遺構検出面から最大で40㎝を測る。溝の北端は５次24-４区SD01に接続する。24-３区は調査面積が限られ、SD06の性格を特定するのは困難であるが、11次10区と４次24-３区の柱穴の分布密度等、溝を境として遺構の様相が大きく異なることからSD06は区画遺構の一部である可能性が高い。

SD04から瓦質土器香炉815、鉄かぶと形埴Ⅲ類816、備前焼擂鉢817が、SD06からは青磁碗Ｄ類818、播磨型埴819が出土した。SD04の下層にあたるSK14からは備前焼杯820が出土した。

2次8-2区 SD01
(図101･125)
(写真図版51)

区画Ｂの南区画溝を西側へ延長した位置にあたる。その様相は区画溝とは全く異なるが、検出した位置は条里地割の坪境に該当する。溝の規模は延長約50ｍで、幅は西部で2.5m、東部では80㎝と極端に狭くなる。深さには大きな違いはなく総じて15㎝程である。SD02を切り、SK01～SK03、SP01に切られる。調査前の耕作地の区画とは合致しない位置であり耕作に伴う遺構とは考えられない。溝の断面は明確に掘り込まれるというよりは、中央部分にかけて徐々に下がっていく様相を呈し、断面形は浅い皿状を呈す。

遺物は埋土中から疎らに出土した。図化に耐えるのは須恵器椀821と822である。822は底部糸切りで、体部の立ち上がりが丸みを帯る西播系須恵器椀である。これらの遺物から12世紀後半頃の遺構と考えられる。

2次8-1区 SD03･04
(図101･125)
(写真図版51)

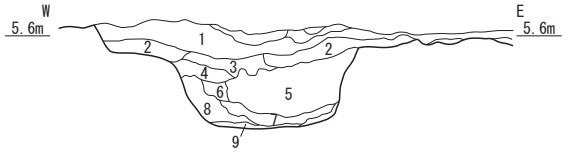
坪境にあたる８－２区SD01から北へ約55mの位置で検出した。位置的には概ね半町にあたる。５次25-３区SD04と24-１区SD02は深さ５㎝程で鋤溝程度の浅いものであるが、SD03の延長上にあることから、半町の位置に対応する遺構の可能性もある。SD03の検出規模は延長約6.4m、幅約1.3m、深さ40㎝を測る。SD04は延長6.4m、幅1.3m、深さ40㎝とSD03と同じである。

遺物は細片が多く、かろうじて図化しえたのが823である。下部を欠損するため、確証はないが土師器の移動式竈の口縁部であろうか。

16次2区 SD01
(図100･125)
(写真図版52)

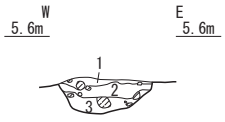
16次２区と18次４区南で検出した東西方向に延びる溝である。寺前水路によって切られる。溝は調査区外に広がるため全容は不明であるが、検出規模で延長26m、幅３m、深さ62㎝を測る。断面から２度の掘り直しが確認できる。埋土は基本的にシルトで、断面形も含めて区画Ｂの北区画溝と類似する。SD01を検出した位置は二十二ノ坪と二十七ノ坪の境にあたり、坪境の溝とみられる。区画Ｂの南区画溝にあたる部分も坪境であることから、前述した２次８－２区SD01も含めて、当初はこうした坪境溝が条里地割内に施行されていたのであろうか。

10 次 7 区 SD02 【図 103】



1. 2.5Y4/2 暗灰黄色細砂－中砂
2. 10YR3/1 黒褐色細砂
3. 5Y6/1 灰色砂礫
4. 5Y6/3 オリーブ黄色中砂
5. 10YR3/1 黒褐色シルト混じり細砂
6. 5Y5/2 灰オリーブ色中砂
7. 7.5Y4/1 灰色シルト混じり細砂
8. 5Y4/1 灰色シルト混じり細砂
9. 5G4/1 暗オリーブ灰色シルト混じり細砂

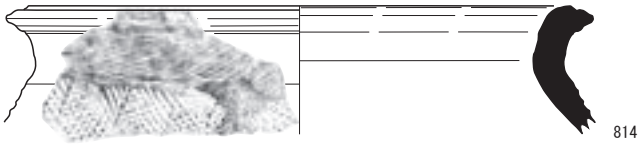
10 次 6 区 SD02 【図 103】



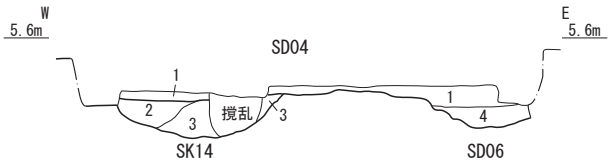
1. 2.5Y6/3 にぶい黄色細砂
2. 2.5Y5/3 黄褐色礫混じり中砂
3. 10YR4/2 灰黄褐色細砂 5YR5/1 褐灰色混じり

812

813

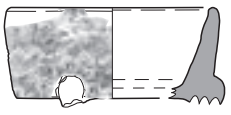

814

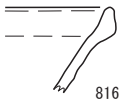
4 次 24-3 区 SD04-SD06 【図 103】



1. 10YR5/2 灰黄褐色シルト（SD04）
2. 10YR3/2 黒褐色細砂 （SK14）
3. 2.5Y3/2 黒褐色中砂 （SK14）
4. 2.5Y3/2 黒褐色シルト （SD06）

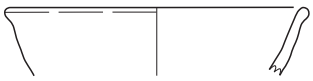
4 次 24-3 区 SD04

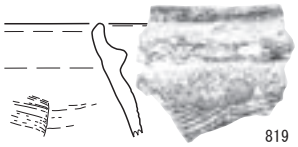

815


816

817

4 次 24-3 区 SD06

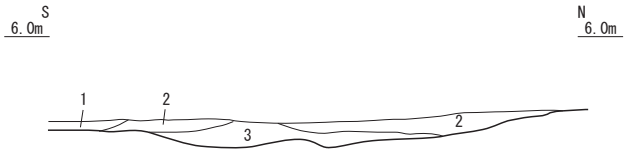

818


819

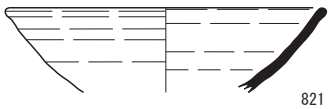
4 次 24-3 区 SK14

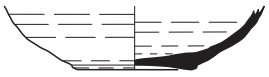
820

2 次 8-2 区 SD01 【図 101】



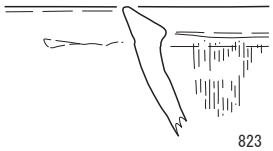
1. 2.5Y5/1 黄灰色シルト混じり細砂
2. 2.5Y5/1 黄灰色シルト混じり砂
3. 2.5Y5/1 黄灰色粗砂

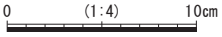

821


822

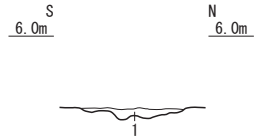
2 次 8-1 区 SD03・04 【図 101】

1. 2.5Y5/1 黄灰色細砂


823

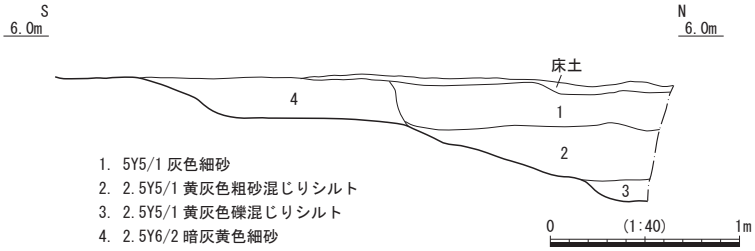


5 次 25-3 区 SD04 【図 100】



1. 2.5YR5/1 黄灰色 礫混じり細砂

16 次 2 区 SD01 【図 100】



1. 5Y5/1 灰色細砂
2. 2.5Y5/1 黄灰色粗砂混じりシルト
3. 2.5Y5/1 黄灰色礫混じりシルト
4. 2.5Y6/2 暗灰黄色細砂

図125 10次7区SD02、6区SD02、4次24-3区SD04-SD06、2次8-2区SD01、8-1区SD03・SD04、5次25-3区SD04、16次2区SD01断面図、出土遺物

区画C
(図99･126)
(写真図版2)

現在の町坪集落の中心部分に城跡が存在する。この城跡に伴う区画を区画Ｃと呼称する。区画Ｃの遺構は、前述した元文二年（1737）の「飾西郡町坪村明細帳」に「但城跡本畑ニ成百姓屋敷地ニ成申候、四方堀跡新田ニ成居申候」とあるように堀跡は新田となっており、地籍図等で確認できる。調査で判明した遺構はわずかであるが、豆田遺跡における最終段階の区画遺構であるため、現地表における観察を通じてある程度復元できる。図126はそうした調査成果と地籍等に基づき、町坪要害を復元したもので、その規模は南北200m以上、東西220m以上である。

4次23区 SD01
(図104･126･127)
(写真図版42･43)

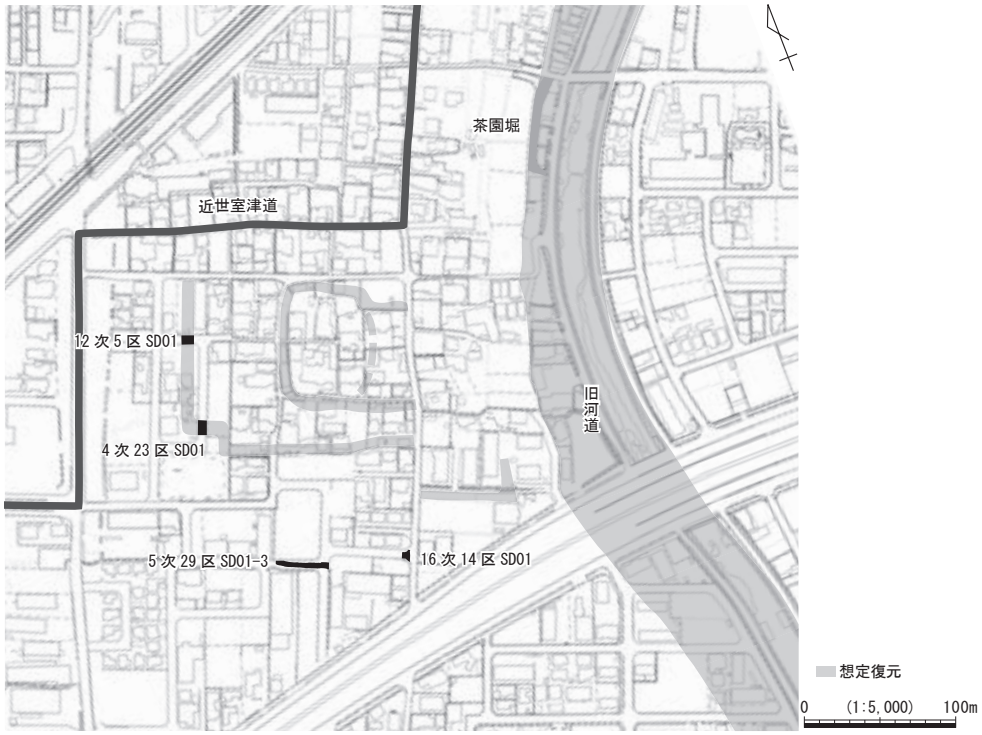
４次23区の南西隅には町坪の五輪塔として知られる石造物が集積された場所が残る（写真図版43-２）。これらは付近の田畑を耕作した際に掘りだされたもので、英賀合戦の犠牲者を祀ったものと伝わる。SD01はその隣接地で検出した東西方向に延びる遺構で、延長6.5m、上幅7.8mを測り、３段に掘り込まれている。区画Ｃの内側にあたる北側のテラス部分の幅は約2.7mを測り、深さは35㎝と浅い。その南側では１m程の幅をさらに40㎝ほど掘り下げている。最も深い部分は遺構検出面から約１mを測り、下幅は約２mである。埋土上部にあたる旧耕土は「堀跡新田ニ成居申候」の記述に対応する新田のものであろう。テラス部分には旧耕土が認められないことから、この部分は新田以前に埋没していたとみられ、SD01の機能時に存在していた可能性が高い。このテラス部分では多くの柱穴を検出したが、先行する遺構が残存したもので、SD01に伴うものではない。一段下がる部分には杭列が確認できたが、これは旧耕土に伴う後世のものであろう。埋土は上層にあたる１・２層、中層にあたる３・４・５層、下層にあたる６層に大別できる。また、SD01とSD02の間は約８mを測る。この部分にも多くの柱穴が確認できるが、当該時期の遺構は存在しない。想像の域を出ないが、この部分に土塁が存在した可能性も考えられる。

遺物は旧耕土下の埋土上層から染付皿824、染付碗825、陶器土瓶の底部826、播磨型塝829、備前焼甕口縁部837、丸瓦838等が出土した。中層からは青磁碗827、瀬戸天目碗828、備前焼徳利832、備前焼擂鉢833・835・836、堺・明石系擂鉢834等が出土した。最下層からは瓦質火鉢830、瓦質土器香炉831等が出土した。中層までは、確実に江戸時代の遺物を含むことからSD01が埋まったのは、最終的には江戸時代になってからと推測する。江戸時代の遺物を除くと近世１期のナナメスリメの備前焼擂鉢833を含むなど区画Ｂよりも新しく、16世紀末から江戸時代初頭までは開口していた可能性が高い。『ふる里あらかわ』には地籍図に基づいて二重の堀を持つ町坪要害の復元図が提示されているが、そのうちの外側の堀にあたると考えられる。

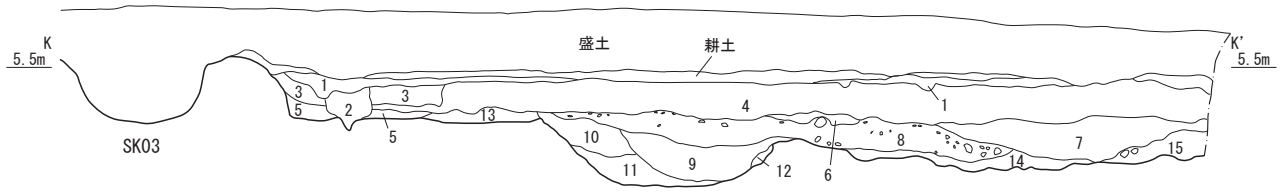
12次5区 SD01
(図104･126･127)
(写真図版49)

調査区の大半が該当する。南北方向に延びる遺構で、延長5.8m、幅7.3m以上を測る。西肩は調査区内で立ち上がりが検出されたが、調査区外にさらに広がると考えられる。４次24-２区SD01の延長部分が検出できていないことからSD01は区画Ｂの北区画溝を切っている。東側は幅２mのテラスを持つ。テラス部分の深さは遺構検出面から55㎝、最深部は約１mを測る。埋土は４次23区SD01同様、大半が耕作土で埋まっている。遺構の形状、埋土の状況も共通する。

遺物はほとんど出土しておらず、備前焼擂鉢839と石造品840を図示しえたのみである。839から４次23区SD01と同様の時期と想定する。検出したこれら区画Ｃに伴う堀は、大半が未調査部分であるため、断言できるわけではないが、図126に復元したように４次23区SD01は調査区の西側で北へ折れ、12次５区SD01につながると想定できる。この部分で区画Ｂの南区画溝と交差することになるが、埋土の様相、出土遺物の時期から南区画溝とつながるのではなく、南区画溝を埋めたのち堀を掘削した可能性が高い。南区画溝は埋土の様相から流水が想定され、水路としての機能も有していた。このことから区画Ｂの南区画溝の最終的な埋没時期であるⅦ期古段階が、区画Ｂから区画Ｃへの変遷した時期を示す。また、区画Ｃの構築に伴い水路を埋めることで、周辺の灌漑網を変更した点を指摘できる。ただし、「本丸」の出現については、同時である必然性はなく、検出した遺構より先行する可能性はあるが、未調査であるため特定できない。

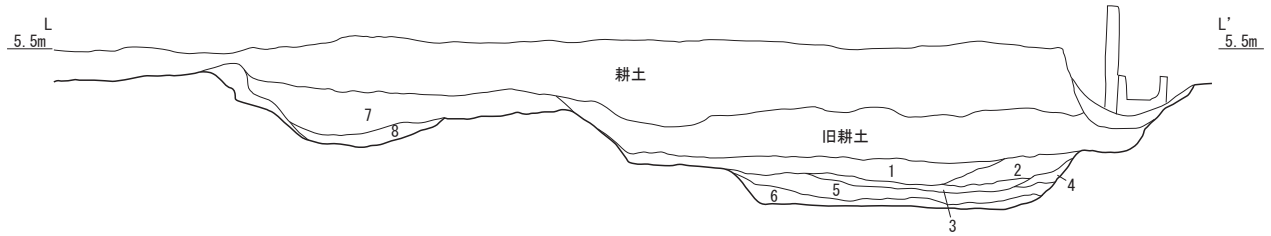


12 次 5 区 SD01 【図 103】



1. 10YR5/2 灰黄褐色細砂　炭含
2. 10YR4/1 褐灰色細砂
3. 10YR5/2 灰黄褐色細砂
4. 2.5Y5/2 暗灰黄色細砂（旧耕土）
5. 2.5Y4/1 黄灰色細砂
6. 7.5YR4/1 褐灰色シルト
7. 10YR4/1 褐灰色礫混じりシルト
8. 2.5Y4/1 黄灰色細砂
9. 2.5Y6/1 黄灰色シルト混じり細砂
10. 10YR6/4 にぶい黄橙色礫混じり細砂
11. 5Y5/1 灰色細砂混じりシルト
12. 5Y5/2 灰オリーブ色シルト
13. 10YR4/1 褐灰色礫混じり細砂　炭含
14. 2.5Y4/1 黄灰色シルト
15. 5Y6/2 灰オリーブ色礫混じりシルト

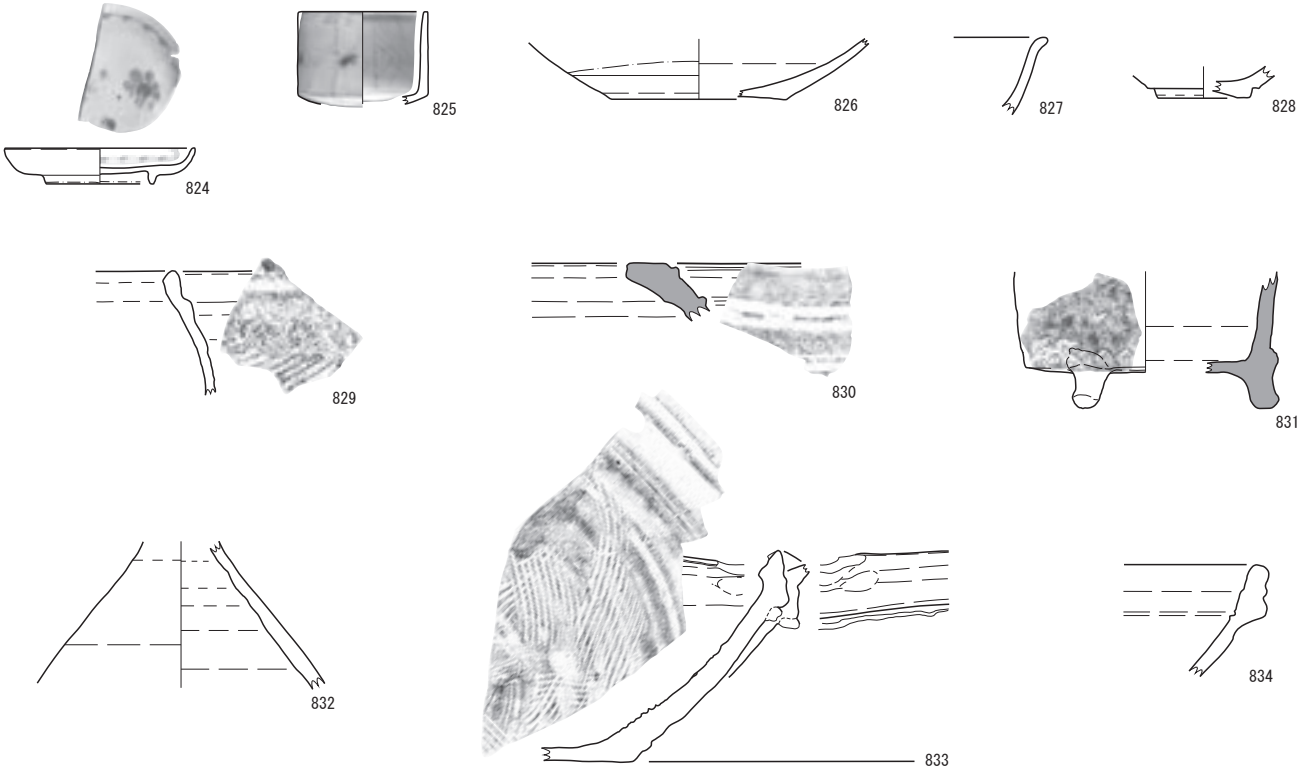
4 次 23 区 SD01 【図 104】



1. 10YR5/1 褐灰色砂礫
2. 10YR6/1 褐灰色シルト
3. 10YR5/6 黄褐色砂
4. 10YR6/1 褐灰色シルト
5. N3/ 灰色粘土
6. N4/ 灰色粘土　グライ化
7. 2.5Y5/1 黄灰色細砂
8. 10YR6/4 にぶい黄橙色細砂（地山ブロック含）

図126　区画Ｃ（町坪要害）想定平面図、12次5区SD01、4次23区SD01断面図

4 次 23 区 SD01



12 次 5 区 SD01

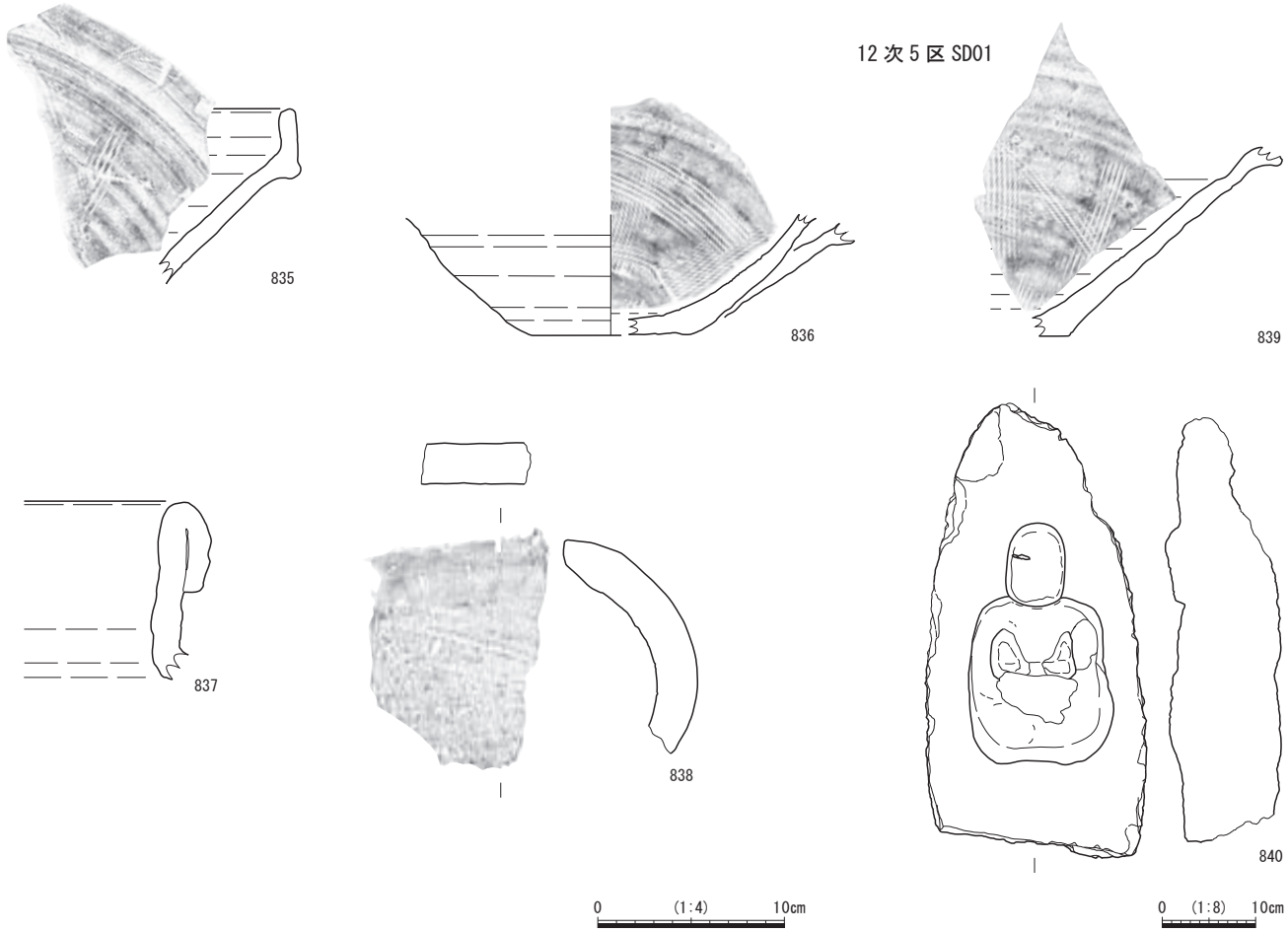


図127　4次23区SD01、12次5区SD01出土遺物

5次24-4区
SK24
(図104･128)
(写真図版39)

区画Ｂ内に位置する24-４区中央付近で検出した。平面プランは南北2.86m、東西2.0mの南北に長い隅丸長方形を呈す。土坑の西側に最大で４段積みの石組みを検出した。土坑の掘方は比較的垂直に近く、底面は比較的平らで、遺構検出面からの深さは最大で53cmを測る。この遺構と類似する遺構はたつの市宮脇遺跡でも見つかっている。本遺構に比べやや浅いが、片側のみの石組みをもち、こうした構造の施設が存在したのかもしれない（兵庫県教委1995）。宮脇遺跡においては墓の可能性を想定しているが、後述する石製品の出土を除けば本遺構が墓である可能性は低く、むしろ外壁を補強した地下式土坑等のような性格であろうか。

SK24の西で検出したSK20は南北2.36m、東西1.56m以上を測る。深さは最大で62cmを測り、土坑底面はSK24と概ね揃う。調査時には検出状況からSK20をSK24が切ると考え調査を進めたが、横断面で確認するとSK24は本来SK20の底面を含む西側約１mまで広がっている。当初掘り込んだ土坑の中央付近に石組みを行った可能性が高く、SK24をSK20が切っていることが判明した。

規模に比してSK24からは遺物の出土は乏しく、図化に耐えうるものは少ない。かろうじて844のみ図化しえた。844は播磨型堝の口縁部である。SK20からも遺物の出土は少なく、鉄かぶと形堝Ⅲ類841と備前焼擂鉢842を図化した。SK20に切られるSK21の遺物は土師器小皿843を図化しえたに留まる。841・844からⅥ期におさまる遺構と判断しておきたい。

SK24の石組み構築材の中に五輪塔の火輪845が転用されていた。845は火輪の未成品であり、表面には加工痕が残る。図に示した側面は仕上げに近い平鑿の成形まで至っているが、別の側面及び上半部は粗加工状態の剥離痕が残る。こうした未製品の存在は、集落内において石製品を加工していた可能性を示す。近辺では石材産地に近い加西市の長塚遺跡において飯盛山付近から産出される石材を用いた石臼、五輪塔、石仏等の石製品の未製品が見つかっている（加西市2010）。本資料も同様に集落内において加工したことを示す資料かもしれない。ただ、石材加工の際に当然発生する剝片等が確認できていないことから、上記の可能性を指摘しておくにとどめ、類例の増加を待って評価したい。

7次37区
SK01
(図102･129)
(写真図版50)

SB67の西約５mの位置で検出した方形の土坑である。平面規模は東西1.52m、南北1.4mを測り、東西方向がやや長い。深さは10cmで埋土は単層である。埋土からは土器の細片がわずかに出土し、図化に耐えうるのは土師器小皿Ａ846のみである。

14次9区
SK05
(図103･129)

SB59の西80cmの位置で検出した円形を呈する土坑である。平面規模は南北1.1m、東西98cm、深さは遺構検出面から13cmを測る。埋土から備前焼壺847が出土した。

5次25-2区
SK04
(図103･129)

調査区の北東隅、SB64と平面的に重なる位置で検出した。平面形は東西に長い隅丸長方形を呈す。平面規模は長辺1.6m、短辺64cm、深さは遺構検出面から10cmを測る。検出時点では平面形から土坑墓の可能性を考えたが、掘方の形状や出土遺物からはその可能性は低い。遺物は備前焼擂鉢848が出土した。中世５a期の製品である。

5次24-4区
SK05
(図104･129)
(写真図版38)

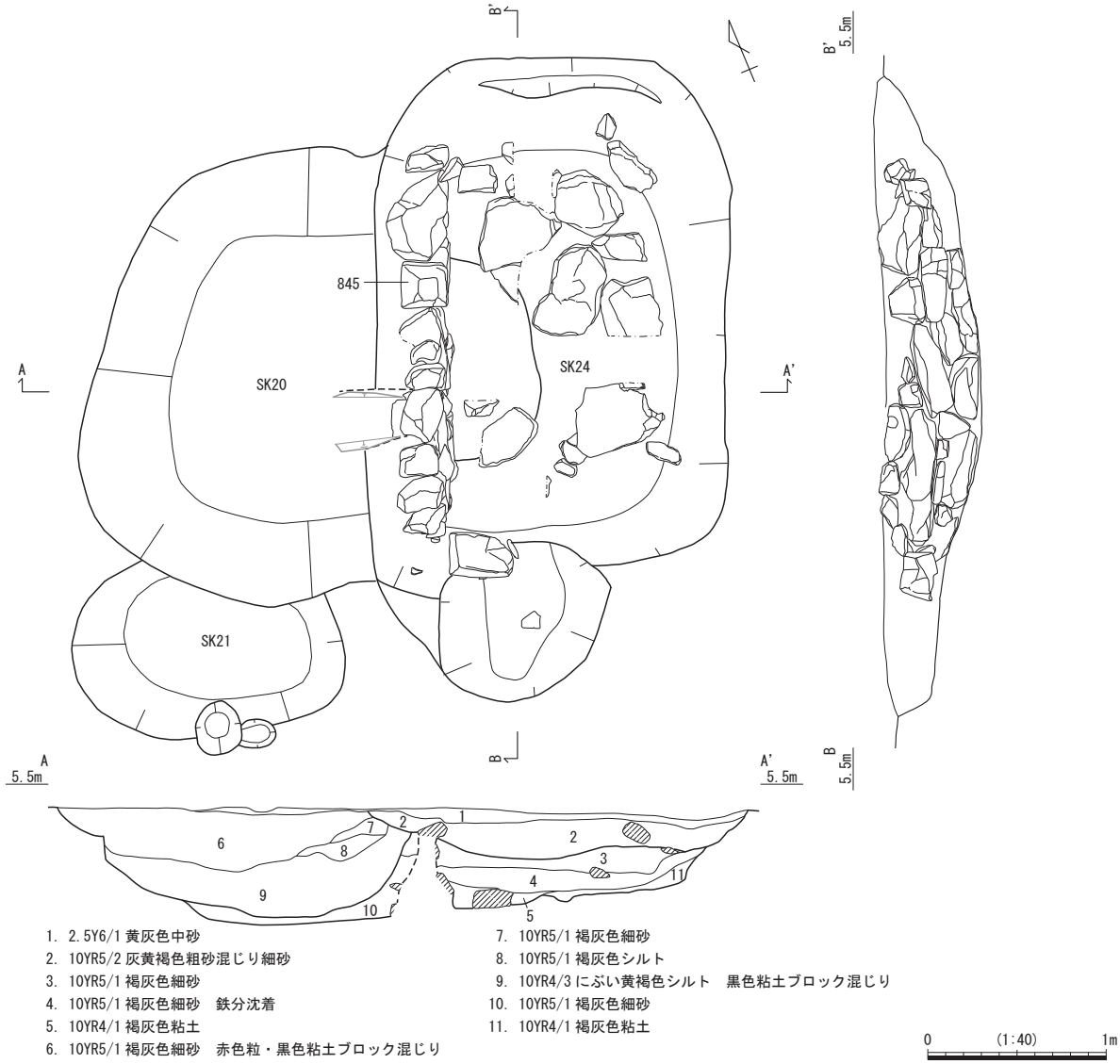
SB69の南約２mの位置、調査区の西壁沿いで検出した。SP228を切る。平面形は南北にやや長い円形を呈す。南北60cm、東西40cm、深さは遺構検出面から41cmを測る。埋土は単層で849が出土した。849は体部が丸みを帯びる土師器皿Ｏと考えられる。

5次24-4区
SK07
(図104･129)
(写真図版38)

SK05の南東約４mの位置にあり、SB70と平面的に重なる位置で検出した。南北に長い円形を呈し、長辺1.34m、短辺85cm、深さは遺構検出面から11cmを測る。周辺及び土坑内にピットが多く確認できるが、いずれもSK07の完掘後に検出したことから、SK07はそれらの遺構を切っている。埋土は単層で須恵器鉢850が出土した。

5次24-4区
SK23
(図104･129)
(写真図版38)

SK24の北約１mの位置で検出した、南北にやや長い円形を呈す土坑である。南北64cm、東西48cm、深さは遺構検出面から10cmを測る。埋土から口縁部を内側に摘み出す播但型堝Ⅲ類851が出土した。Ⅴ期新段階からⅥ期古段階に認められる。



1. 2.5Y6/1 黄灰色中砂
2. 10YR5/2 灰黄褐色粗砂混じり細砂
3. 10YR5/1 褐灰色細砂
4. 10YR5/1 褐灰色細砂　鉄分沈着
5. 10YR4/1 褐灰色粘土
6. 10YR5/1 褐灰色細砂　赤色粒・黒色粘土ブロック混じり
7. 10YR5/1 褐灰色細砂
8. 10YR5/1 褐灰色シルト
9. 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト　黒色粘土ブロック混じり
10. 10YR5/1 褐灰色細砂
11. 10YR4/1 褐灰色粘土

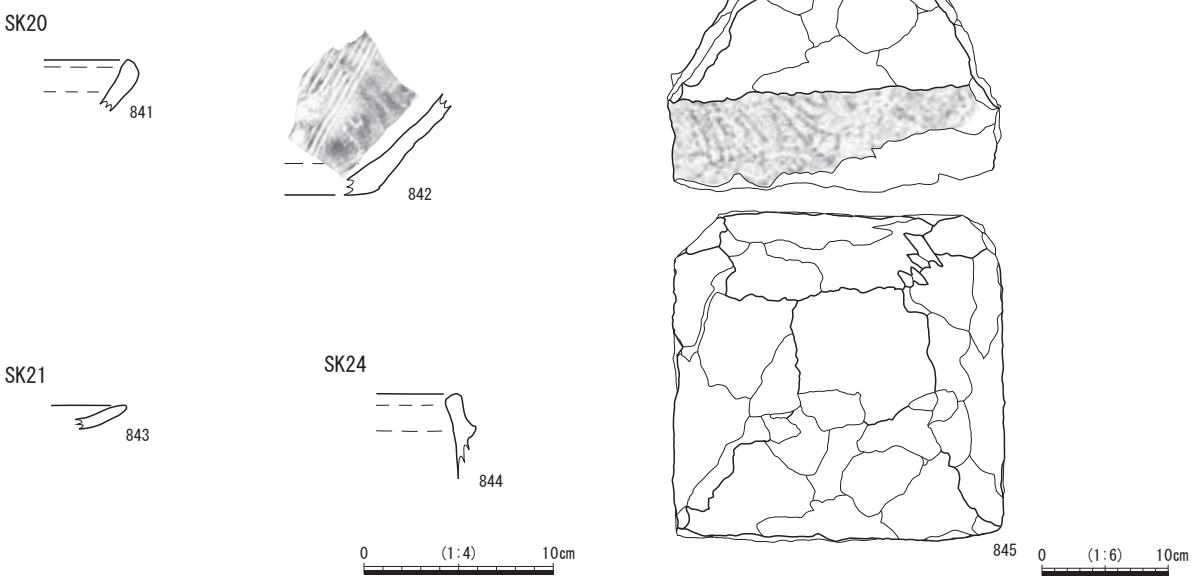
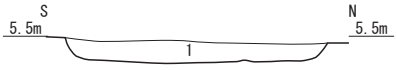
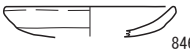


図128　5次24-4区SK20・SK24平面・断面図、出土遺物

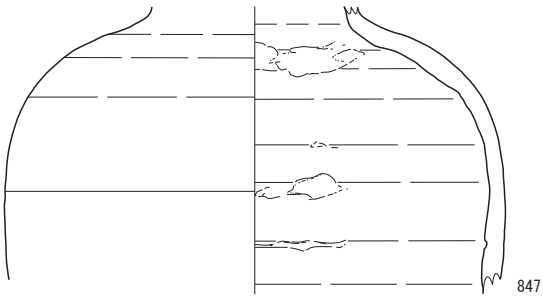
7 次 37 区 SK01 【図 102】



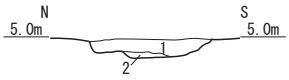
1. 2.5Y4/1 黄灰色シルト混じり細砂　礫含



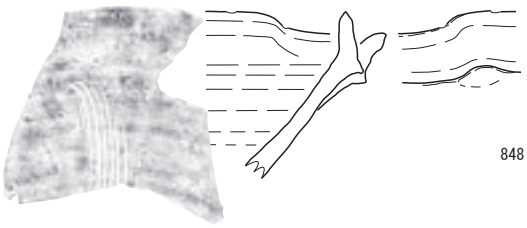
14 次 9 区 SK05 【図 103】



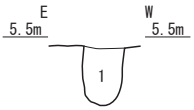
5 次 25-2 区 SK04 【図 103】



1. 10YR5/2 灰黄褐色細砂
2. 10YR5/2 灰黄褐色細砂　褐灰色粘土混じり



5 次 24-4 区 SK05 【図 104】



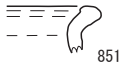
1. 2.5Y4/1 黄灰色シルト　炭化物含

5 次 24-4 区 SK07 【図 104】

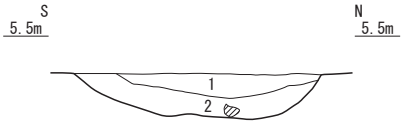
1. 2.5Y5/2 暗灰色中砂

5 次 24-4 区 SK23 【図 104】

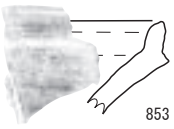
1. 2.5Y5/2 暗灰黄色細砂



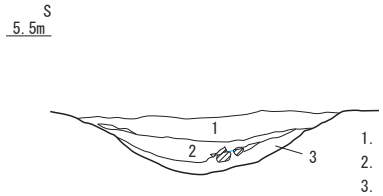
4 次 24-3 区 SK13 【図 103】



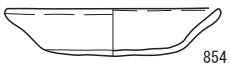
1. 10YR5/2 灰黄褐色シルト
2. 10YR3/2 黒褐色細砂



4 次 23 区 SK07 【図 104】



1. 10YR5/1 褐灰色中砂
2. 10YR3/1 黒褐色シルト
3. 10YR5/1 褐灰色シルト



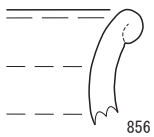


図129　7次37区SK01、14次9区SK05、5次25-2区SK04、24-4区SK05、SK07、SK23、4次24-3区SK13、23区SK07断面図、出土遺物

4次24-3区 SK13
(図103･129)
(写真図版40)

24-４区SD01の南約4.2mの位置で検出した。東西方向にやや長い円形を呈し、東西1.5m、南北1.32m、深さは最大で25cmを測る。埋土には廃棄に伴うとみられる礫が多く含まれていた。

遺物は播磨型堝852と備前焼擂鉢853が出土した。852はやや深い胴部で口縁端部を面取りし、外面の突帯は段に変化している。Ⅵ期新段階からⅦ期古段階に位置づけられる。

4次23区 SK07
(図104･129)
(写真図版41)

SD02の北約１mの位置で検出した。調査区外に延びるため全容は不明であるが、検出規模で長辺2.2m、短辺1.12m、深さは遺構検出面から30cmを測る。埋土は大きく２層に分けられ、上層は砂であるが、下層はシルトである。遺物は下層から出土している。遺物は土師器皿H854、龍泉窯青磁碗855、備前焼壺856である。

柱穴

区画Ｂ内にあたる４次23区、５次24-４区において濃密に検出された。

4次23区
(図104･130)

SP12からは中世３a期の備前焼擂鉢857、SP27とSP176からは播磨型堝858・861が出土した。いずれも口縁端部は外側に拡張する。SP107とSP285からは小皿Ｂ859・863が出土している。SP175からは備前焼杯860が、SP225からは鉄かぶと形堝Ⅲ類862が出土した。

4次24-1区
(図100･130)

区画Ｂの外側にあたる。当該調査区は区画Ｂの内側に比べて遺構密度が極めて低い。SP05から内面見込みを蛇の目釉剝ぎする白磁碗864が出土した。

4次24-2区
(図100･130)

当該調査区は区画Ｂの内側にあたるが、南側の24-４区に比べて遺構密度は低い。SP05から瀬戸窯の平碗865が出土した。

4次24-3区
(図102･130)

区画Ｂの外側にあたる。当該調査区は区画Ｂの内側に比べて遺構の分布が疎らな印象を受ける。遺物量も多くはなく、SP21から出土した底部糸切りの備前焼杯866を図示した。

5次24-4区
(図104･130)

区画Ｂの内側にあたる。SP45、SP49、SP51から土師器堝867、868、869が出土した。867・868は播磨型、869は鉄かぶと形Ⅰ類である。SP140からは土師器皿Ⅰ870と播但型堝Ⅲ類871が出土した。SP188からは土師器堝872が出土した。口縁内面までハケ目調整する点は共通するが、通有のくの字口縁ではなく中世以前の遺物である可能性もある。SP189からは薄手の土師器小皿Ｂ873、SP228はSK05に切られる柱穴で、瀬戸卸目付大皿の口縁部874が出土した。SP291からは青磁碗の底部875が出土した。

7次37区
(図102･130)

SP05、SP38から須恵器椀の口縁部876･879が、SP14とSP36からは須恵器鉢877と878が出土した。877は底部に糸切り痕跡を残す。878の口縁部形態はＡ２類である。

10次7区
(図103･130)

区画溝SD01の北側で検出したSP02から土師器皿O880が出土した。SP02は位置的には区画Ｂの外側にあたる。前述したように当該時期の遺構が区画外にも広がっている可能性がある。

11次10区
(図104･130)

区画Ｂ及び区画Ｃの外側にあたる。SP54から鉄かぶと形堝Ⅰ類881が、SP58から播磨型堝882が出土した。SP91からは外面に蓮弁文を描く龍泉窯青磁碗883が出土した。

14次9区
(図103･131)

区画Ｂの内側にあたる。SP04からは須恵器椀884が、SP25からは土師器皿H885が、SP135からは土師器杯886が出土した。SP70からは備前焼擂鉢887が、SP109からは鉄かぶと形堝Ⅲｃ類888が出土した。888は内面にナデによる凹みがなく、底部も完全な丸底を呈す。

遺構に伴わない遺物

包含層からの出土遺物は細片が多く、特徴的な遺物のみ図示した。

10次6区
(図131)

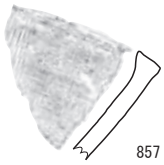
889は瀬戸窯の平碗である。890は端反青磁碗Ｄ－２類、891は瓦質土器甕である。外面に格子タタキを施す。892は備前焼甕の底部である。発色は灰色である。

5次24-4区
(図131)

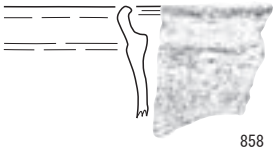
893は小皿Ｂ、894は皿Ⅰ、895・896は播但型堝である。895は口縁端部を内側に巻き込むⅢ類である。896は口縁部を丸くおさめ、胴部の屈曲はあまり明瞭ではなく宮原Ⅱｃ類であろうか。893から896は遺構に伴うものではないが、SK24に近接する範囲からまとまって出土しており、認識できなかった遺構に伴う可能性がある。897は備前焼壺で外面に灰が被る。

７次37区柱穴からⅣ期の遺物が出土した他は、中央部の遺構からは総じてⅥ期に位置づけられるものが主体となって出土している。

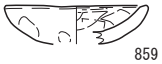
4 次 23 区 SP12



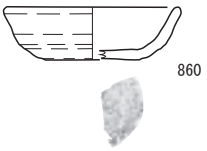
4 次 23 区 SP27



4 次 23 区 SP107

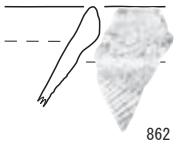


4 次 23 区 SP175

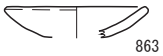


4 次 23 区 SP176

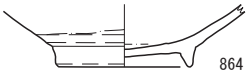
4 次 23 区 SP225



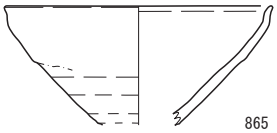
4 次 23 区 SP285



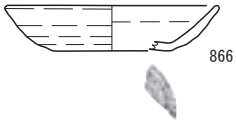
4 次 24-1 区 SP05



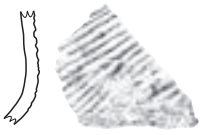
4 次 24-2 区 SP05



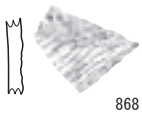
4 次 24-3 区 SP21



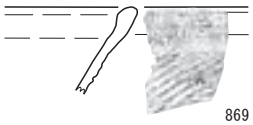
5 次 24-4 区 SP45



5 次 24-4 区 SP49

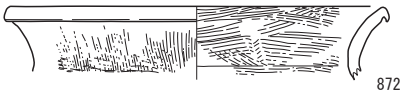


5 次 24-4 区 SP51



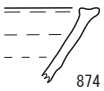
5 次 24-4 区 SP140

5 次 24-4 区 SP188



5 次 24-4 区 SP189

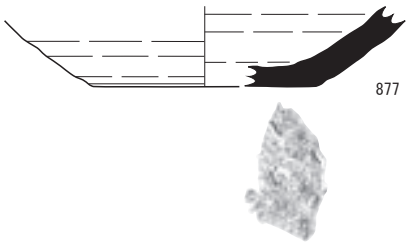
5 次 24-4 区 SP228



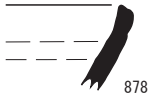
5 次 24-4 区 SP291

7 次 37 区 SP05

7 次 37 区 SP14

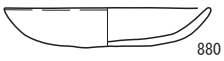


7 次 37 区 SP36



7 次 37 区 SP38

10 次 7 区 SP02



11 次 10 区 SP54

11 次 10 区 SP58

11 次 10 区 SP91

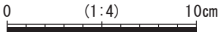
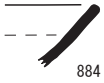
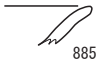


図130　中央部柱穴出土遺物

14 次 9 区 SP04

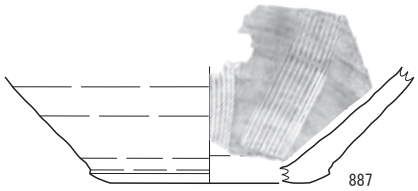


14 次 9 区 SP25

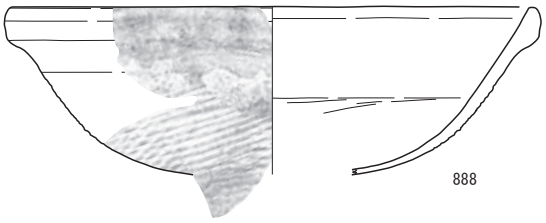


14 次 9 区 SP135

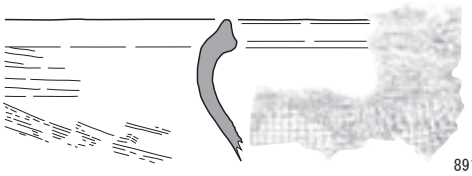
14 次 9 区 SP70

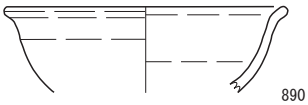


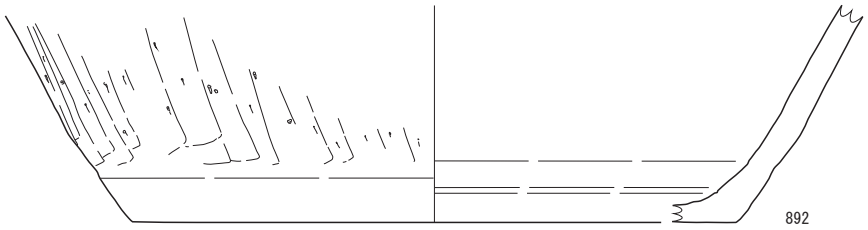
14 次 9 区 SP109



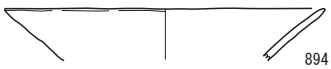
10 次 6 区包含層

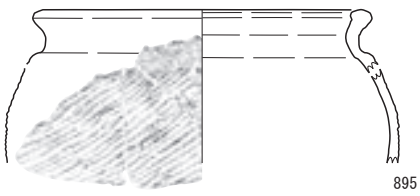


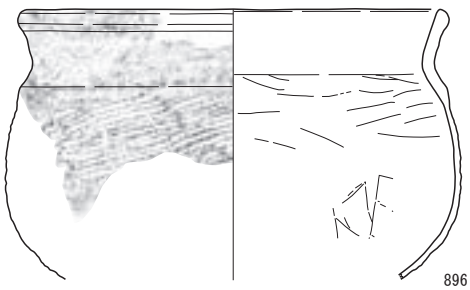


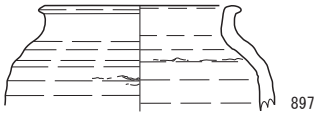


5 次 24-4 区包含層









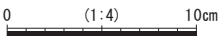


図131　中央部柱穴・包含層出土遺物

Ⅲ－２－５　南東部の調査

南東部は姫路市町坪字「土居ノ内」と姫路市玉手字「前地」「鉢ノ木」にあたる。調査区の中央やや北寄りを東西方向に流れる水路「土居ノ内溝」を境に北側は姫路市町坪で、南側が姫路市玉手となる。南東部の坪並は十ノ坪、十一ノ坪、十四ノ坪、十五ノ坪に該当する。「土居ノ内溝」は十ノ坪と十五ノ坪、十一ノ坪と十四ノ坪境を流れる。溝は十一ノ坪の概ね半町の位置で南に折れ、玉手村へと流れる。「土居ノ内溝」から南へ一町の位置で検出したのが、11次６区SD01と16次６区SD01・SD03である。溝の大半は現道下にあるため全容は不明であるが位置的には坪境に該当する。10次８区SD01は東肩のみの検出であるが、位置的に「寺前水路」の前身と考えられ、十五ノ坪と十六ノ坪境にあたる。16次14区SD01は部分的な検出に留まるが、十三ノ坪と十四ノ坪境に位置する。十ノ坪と十一ノ坪境は明確な遺構としては捉えられないが、10次８区SD01と16次14区SD01の中間に位置するのが、５次29区SD01からSD02が分岐する部分である。ただ、SD02は坪境に沿って延びる遺構ではないため、厳密には坪境を示したものではないだろうが、その位置には条里地割が反映されていると推測する。その他、北東部や北西部で検出したような坪内を細分する遺構は検出していない。

南東部の調査は2004年から開始し2005年、2010年、2011年、2014年、2015年の７次にわたって断続的に実施した。検出した遺構は建物跡18棟、柵跡18条、井戸４基、墓１基、溝、土坑、柱穴等である。南東部の調査で特筆すべき遺構は区画Ａと区画Ｃである。

区画Ａは玉手字前地で検出した。当該場所は、地元の古老によれば通称「クラヤシキ」であるという。なお、『ふる里あらかわ』には町坪字「土居ノ内」に通称地名として「蔵屋敷」がある旨が記載されている（荒川郷土史編集委員会1980）。区画Ａは町坪と玉手の境に位置することから本来は同じ場所を指していたのが、江戸時代以降町坪村内の通称になったのか、あるいは異所で同一通称が存在するのかなど詳細は不明である。ただ、そうした通称名が存在することのみ報告しておく。区画Ａは北側を５次25区SD05と31区SD01が、東側を29区と30－１区で検出した深田が、南側を11次６－１区SD01･SD03、16次６区SD01がそれぞれ区画すると考えている。区画の規模は南北約110m、東西は深田の西肩で64m、東肩で82mを測る。西側の区画遺構は確認できていないが、県道をはさんだ南西部の調査区で区画遺構を検出していないことから区画Ａは南北に長い区画と考える。その内側ではSB85～SB94の建物跡10棟、SA43～SA52の柵跡10条、SE10の井戸１基を検出した。区画溝に近接する位置で柵を検出していることから、本来は区画溝に沿って柵で囲繞していた可能性もある。区画内で検出した建物跡の全容は不明であるが、柱穴の掘方も大きく根石を据えるなど大型建物の存在が想定できる。井戸は方形縦板組と多角形縦板組からなる二重構造で、その埋土から応永の年号を記す祈祷札が多数出土した。出土遺物は土師器皿の比率が高く、またその製作技法、形態も京都の土師器皿に類似するものが出土している。

区画Ｃは中央部で検出した町坪要害に伴う遺構と一連と考える。５次29区SD01－３と16次14区SD01が当該区画遺構に比定できる。５次26区、27区、28区、16次14区がその内側にあたる。SB78～SB84の建物跡７棟、SA36～SA42の柵７条、SE07井戸１基を検出した。これらの遺構は区画Ｃ内に位置するものの、柱穴から出土する遺物の様相からは区画Ｃより以前の時期に位置づけられる。ただ、５次27－１区の南部から28区、16次14区にかけては遺構密度が高く、当該調査区の範囲に掘立柱建物跡や柵が集中して存在していたことが確認できる。上記のように南東部で遺構が集中するのは区画Ａ内と区画Ｃ内である。

区画Ａと「土居ノ内溝」に囲まれた５次27－２区と30区においてはSE08とSE09の石組み井戸２基を確認したが、周辺に柱穴等は少なく建物跡の有無を含めその広がりは明確でない。ただ、これら２基の井戸は耕作に伴うものとは考えにくく、確証はないが、周辺に遺構として残りにくい礎石建物跡等が存在した可能性が考えられる。「土居ノ内溝」の北側に位置する５次32区と10次８区ではSB77とSA55を検出したのみで、遺構密度は低い。その様相は中央部で報告した４次24－３区や７次37区の様相と共通している。当該範囲は字「土居ノ内」に含まれるが、町坪要害に伴う戦国時代の遺構・遺物は確認できていない。南東部も中央部と同じく区画遺構をはさんで遺構分布の粗密が明確に分かれている。

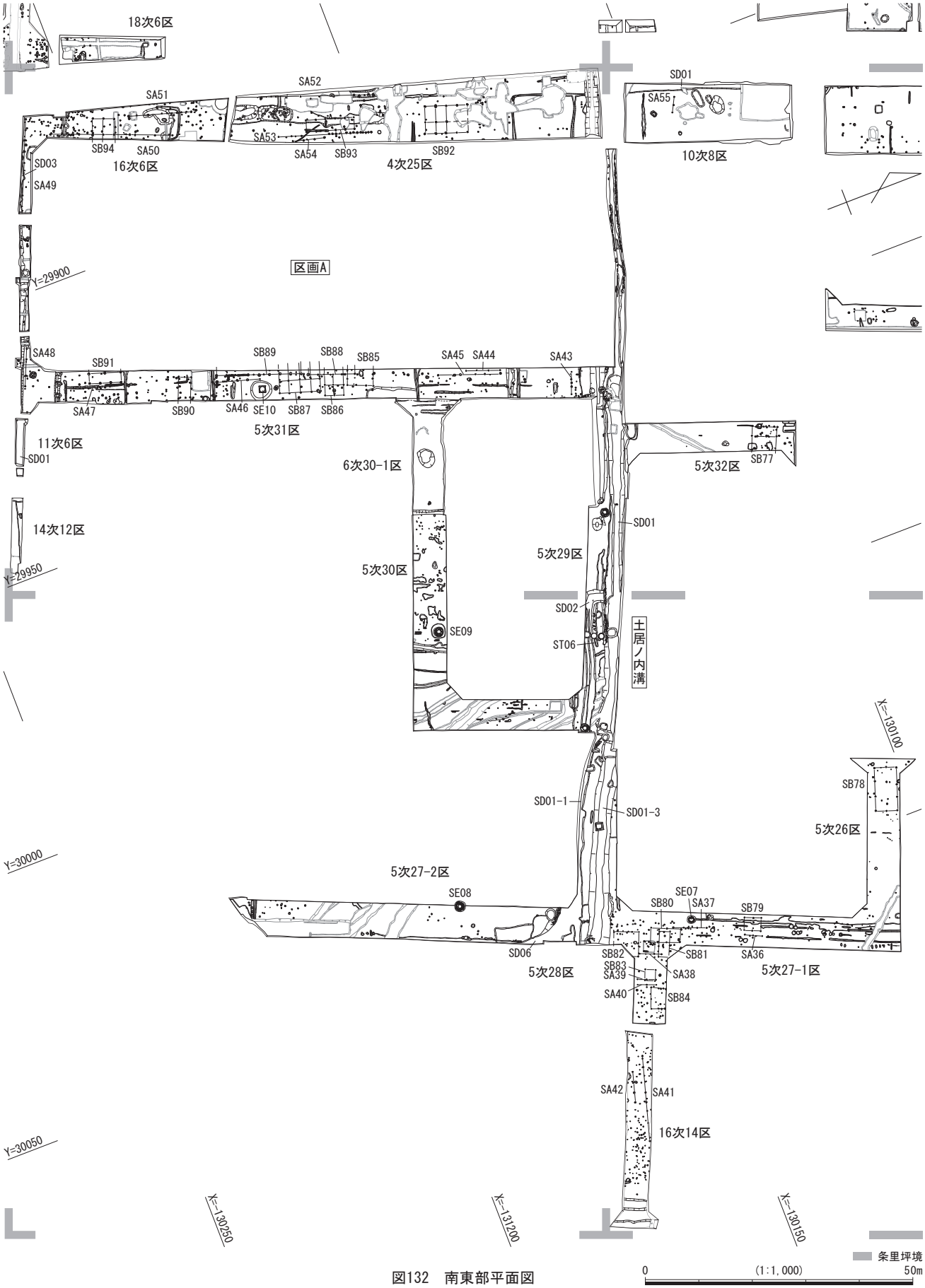

18次6区
SA51
SA52
SA53
SA54
SB93
SB92
SB94
SA50
SD03
SA49
16次6区
4次25区
SD01
SA55
10次8区
区画A
Y=29900
SA48
SB91
SB89
SB88
SB85
SA45
SA44
SA43
SA47
SB90
SA46
SE10
SB87
SB86
5次31区
11次6区
SD01
6次30-1区
5次32区
SB77
14次12区
Y=29950
5次30区
5次29区
SD01
SD02
SE09
ST06
土居ノ内溝
X=130100
SB78
SD01-1
SD01-3
5次26区
Y=30000
5次27-2区
SE08
SE07
SB80
SA37
SB79
SD06
SB82
SB81
SA36
SB83
SA39
SA38
5次28区
5次27-1区
SA40
SB84
SA42
SA41
16次14区
Y=30050
X=130250
X=131200
X=130150
条里坪境
0
(1:1,000)
50m

図132　南東部平面図

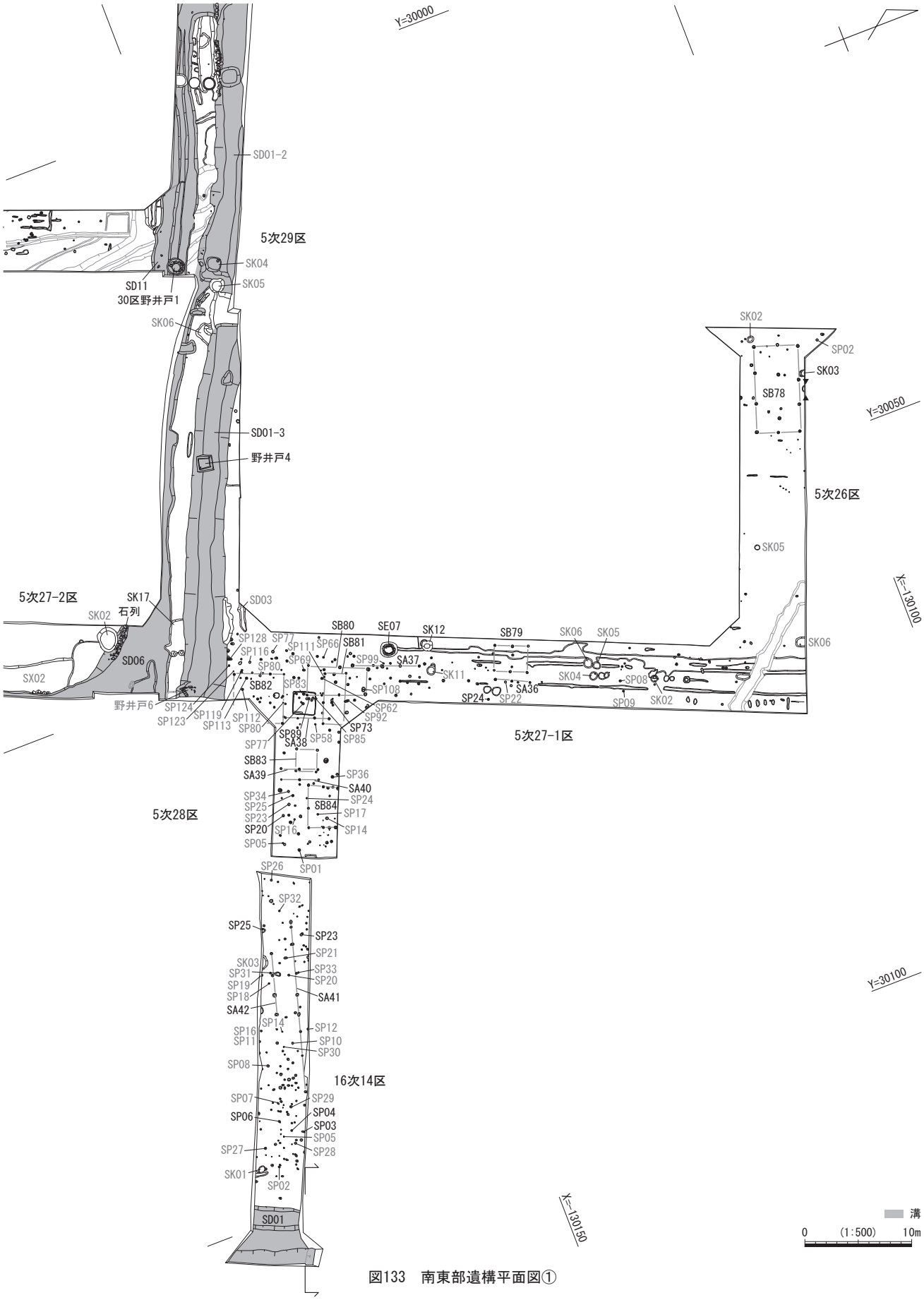


図133　南東部遺構平面図①

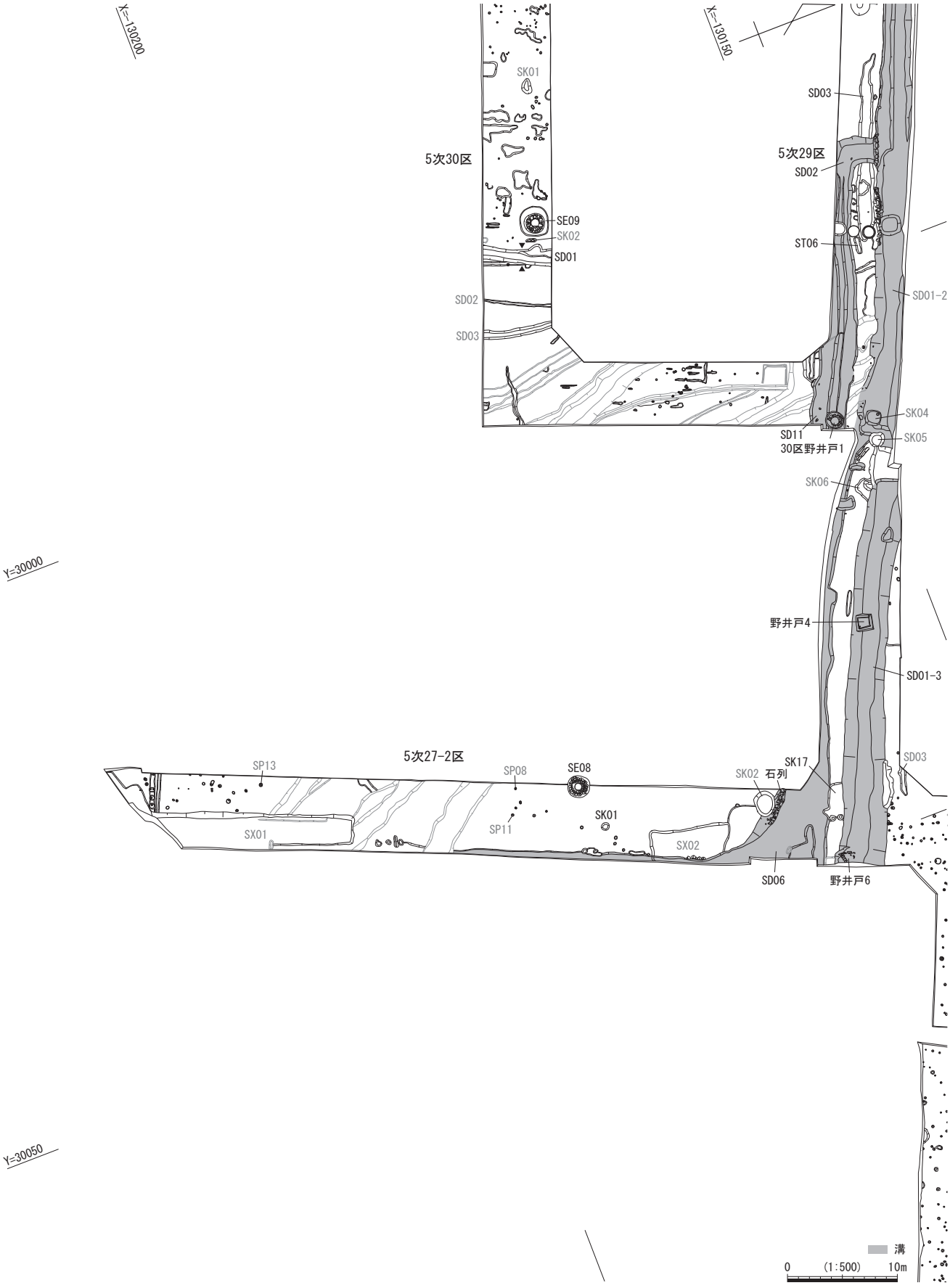


図134　南東部遺構平面図②

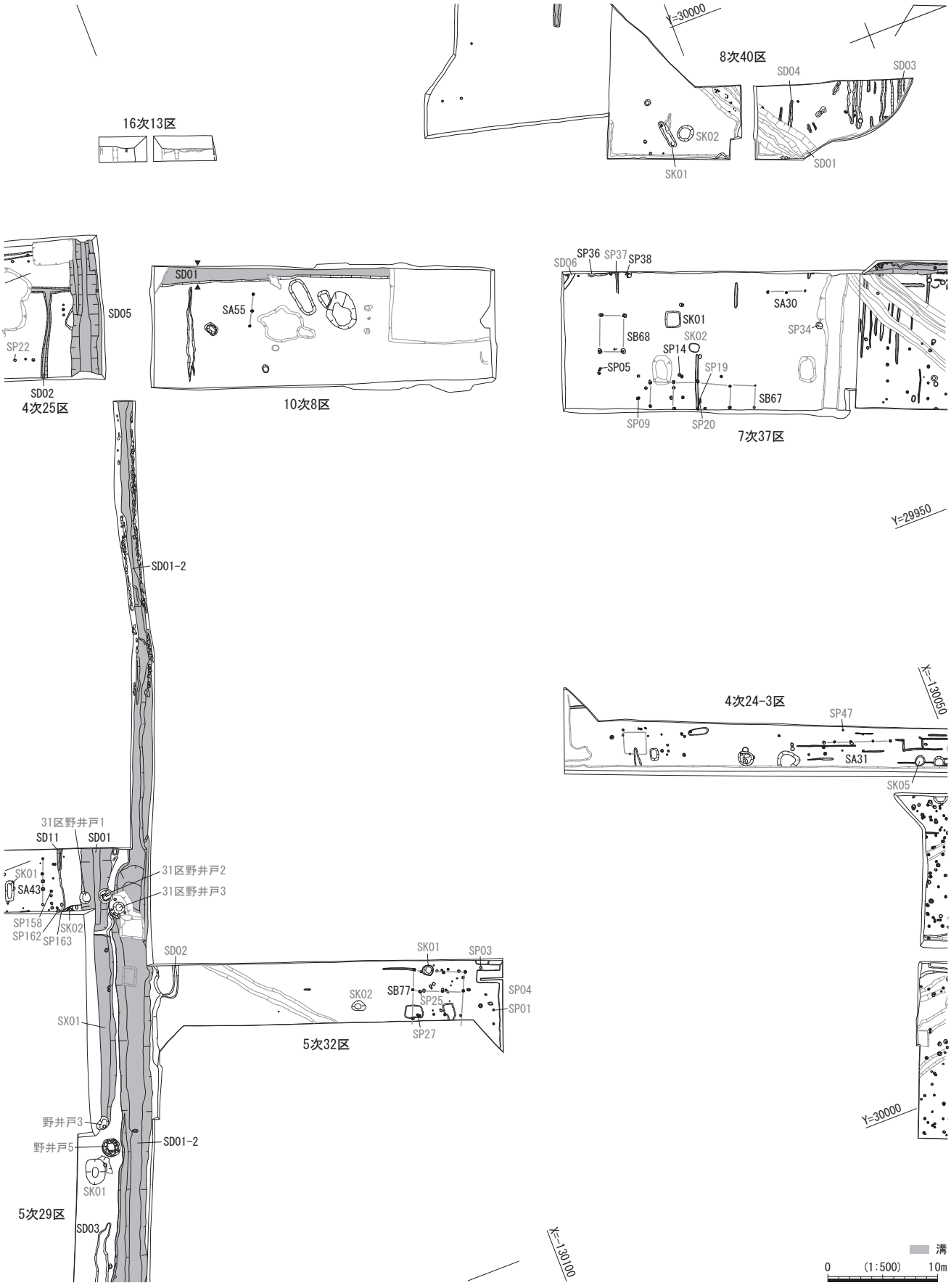


図135　南東部遺構平面図③

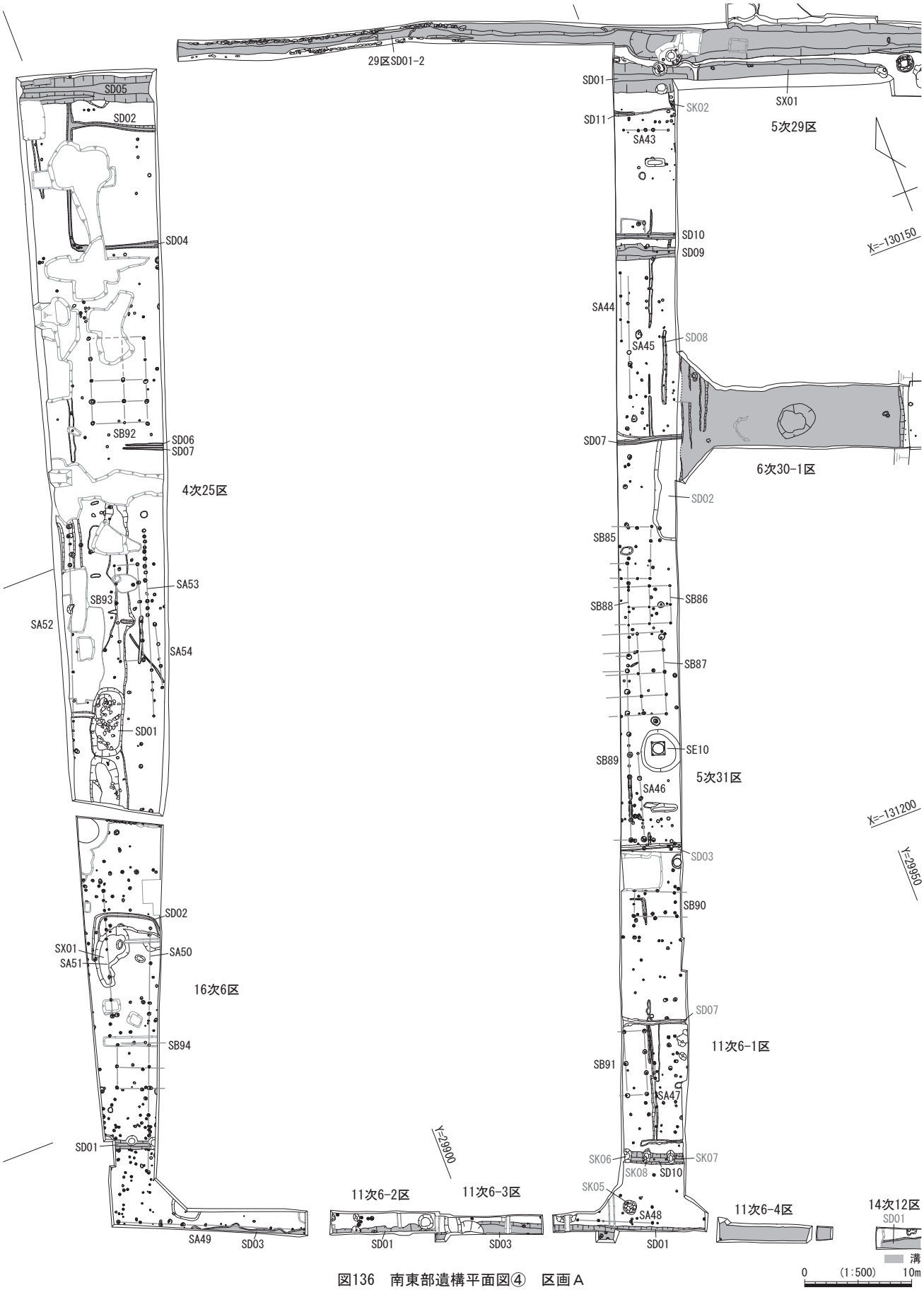


図136　南東部遺構平面図④　区画Ａ

SB77
(図132･135･137)
(写真図版66)

5次32区の北西部、24-4区の南側で検出した。検出した位置から建物跡は調査区の東側に広がる可能性が高い。検出状況から2間×2間以上の建物跡と考えられる。SP05－SP30を基準とした主軸方向はN24°Eを測る。平面規模は南北方向2間で4.65m、東西方向2間で4.45mを測る。平面積は約20.7㎡を測る。柱間寸法はSP05－SP30で北から2.0m、2.65mを測る。東西方向はSP29－SP30で西から1.8m、2.65mを測る。対面するSP10とSP29の柱通りは揃っていない。柱穴の平面形は円形を呈し、大きさは直径22～30㎝、深さは12～16㎝を測る。

SB78
(図132･133･137)
(写真図版58)

5次26区の西部で検出した。検出した位置から建物跡は調査区の北側に広がる可能性がある。検出状況から2間×3間以上の東西棟の建物跡と考えられる。SP25－SP26を基準とした主軸方向はN20°Eを測る。平面規模は梁行2間で4.1m、桁行3間で8.0mを測る。平面積は約32.8㎡を測る。柱間寸法は梁行SP03－SP07で北から1.9m、2.2m、桁行SP03-SP26は西から3.2m、2.25m、2.55mを測る。柱穴は円形を呈し、大きさは直径26～30㎝、深さは12～20㎝を測る。

SB79
(図132･133･137)
(写真図版58)

5次27-1区の中央部、SB78の南東側約30mの位置で検出した。検出した位置から建物跡は調査区の西側に広がる可能性が高い。検出状況から1間×2間以上の建物跡と考えられる。SP10－SP12を基準とした主軸方向はN23°Eを測る。平面規模は南北方向2間で3.15m、東西方向1間で2.5mを測る。平面積は約7.9㎡を測る。柱間寸法は南北方向のSP10－SP12で北から1.5m、1.65mを測る。柱穴の平面形は円形を呈し、大きさは直径20～28㎝、深さは10～18㎝を測る。

SB80
(図132･133･138)
(写真図版60)

SB79の約11m南側で検出した。平面プランはSB81と重なるが、柱穴の直接の切り合いがないため、その新旧は不明である。検出状況から1間×2間の南北棟の建物跡と考えられる。SP48－SP68を基準とした主軸方向はN25°Eを測る。平面規模は梁行1間で2.75m、桁行2間で5.65mを測る。平面積は約15.5㎡を測る。柱間寸法は桁行のSP48－SP68で北から2.7m、2.95mを測る。柱穴は基本的に円形を呈し、大きさは直径18～38㎝、深さは12～18㎝を測る。

SB81
(図132･133･138)
(写真図版60)

SB80と重なる位置で検出した。検出状況から1間×2間の東西棟の建物跡と考えられる。SP55－SP63を基準とした主軸方向はN21°Eを測る。平面規模は梁行方向1間で2.0m、桁行方向2間で4.6mを測る。平面積は9.2㎡を測る。柱間寸法は桁行のSP57－SP63で東から1.95m、2.65mを測る。柱穴は円形を呈し直径19～22㎝、深さは12～14㎝を測る。SP75は根石を有す。図示していないが、SP57とSP75から鉄かぶと形埴の細片が出土しており、Ⅵ期以降に位置づける。

SB82
(図132･133･138)
(写真図版60)

SB80の南側約2mの位置で検出した。検出した位置から建物跡は調査区の東側に広がる可能性が高い。南北方向の柱列は5基の柱穴が並ぶが、SP78、SP114、SP122については、SB17で検出したような柱間に位置するピットであろう。検出状況から2間×3間以上の建物跡と考えられる。SP74－SP122を基準とした主軸方向はN22°Eを測る。平面規模は南北方向3～5間で4.75m、東西方向2間で4.6mを測る。平面積は約21.9㎡を測る。柱間寸法は南北方向のSP74－SP120で柱間ピットを除き北から1.96m、2.0mを測る。東西方向のSP60－SP74で東から2.55m、2.05mを測る。柱穴は円形を呈し、大きさは直径18～24㎝、深さは10～18㎝を測る。

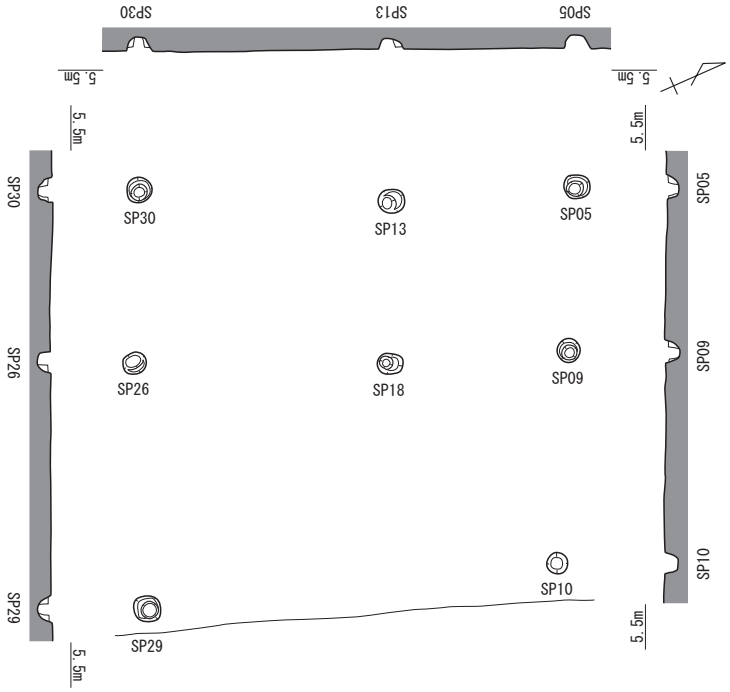
SB83
(図132･133･138)
(写真図版60)

SB80の約2.5m東側で検出した。検出した位置から建物跡は調査区の南側に広がる可能性を有す。検出状況から1間×1間以上の建物跡と考えられる。SP49－SP51を基準とした棟方向はN23°Eを測る。平面規模は南北方向1.95m、東西方向2.05mを測る。平面積は約4.0㎡である。柱穴は円形を呈し、大きさは直径18～24㎝、深さは10～20㎝を測る。

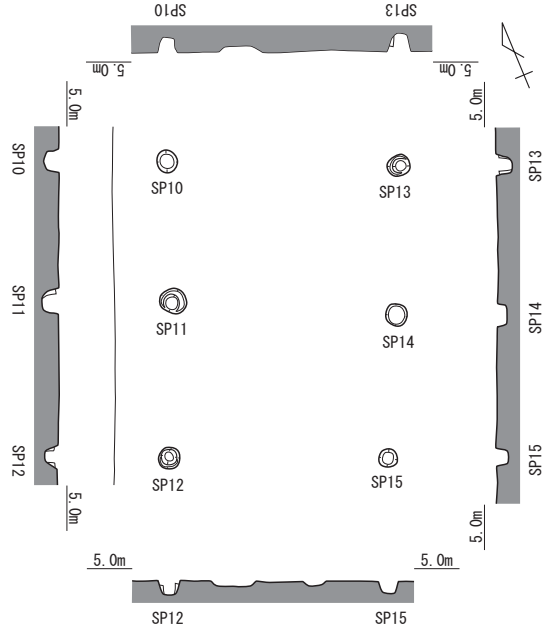
SB84
(図132･133･138)
(写真図版60)

SB83の約1m東側で検出した。検出した位置から建物跡は調査区の北側に広がる可能性が高い。検出状況から2間×2間以上の側柱建物跡である。SP10－SP15を基準とした棟方向はN21°Eを測る。平面規模は南北方向2間で2.75m、東西方向2間で3.95mを測る。平面積は約10.8㎡を測る。柱間寸法はSP27－SP50で北から1.35m、1.4m、東西方向のSP15－SP50で東から1.8m、2.15mを測る。柱穴は円形を呈し、直径19～32㎝、深さは10～20㎝を測る。

SB77



SB79



SB78

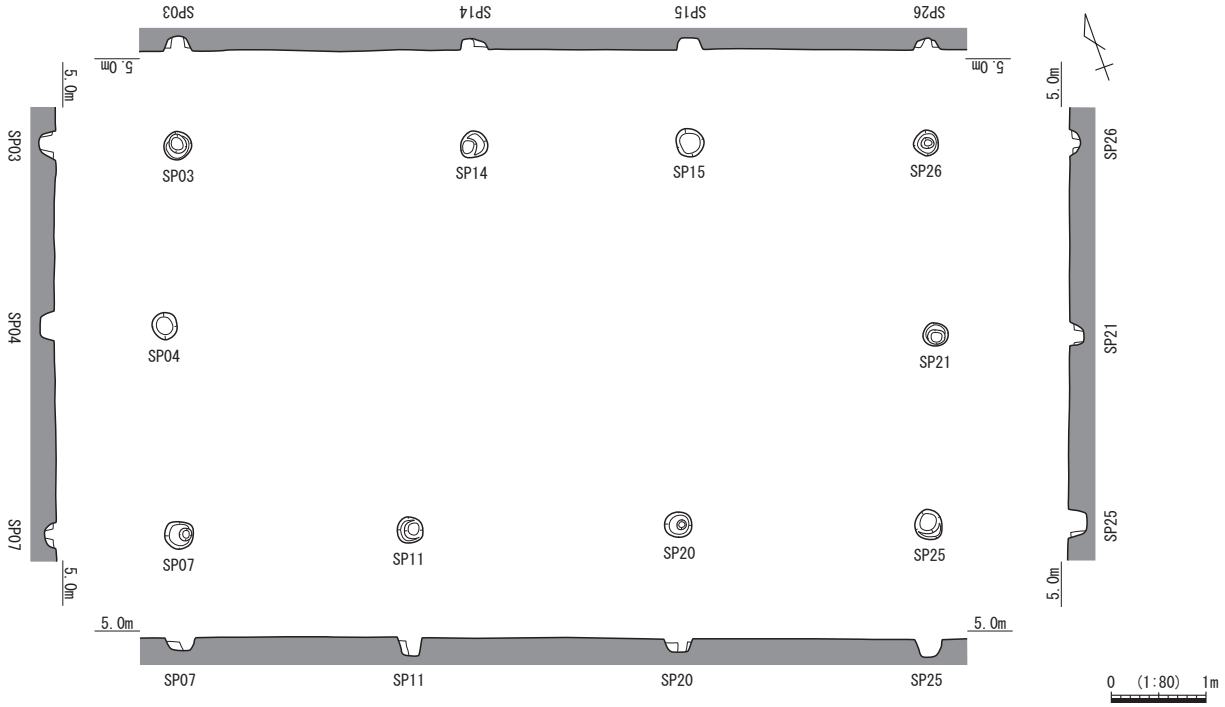


図137　SB77、SB78、SB79平面・断面図

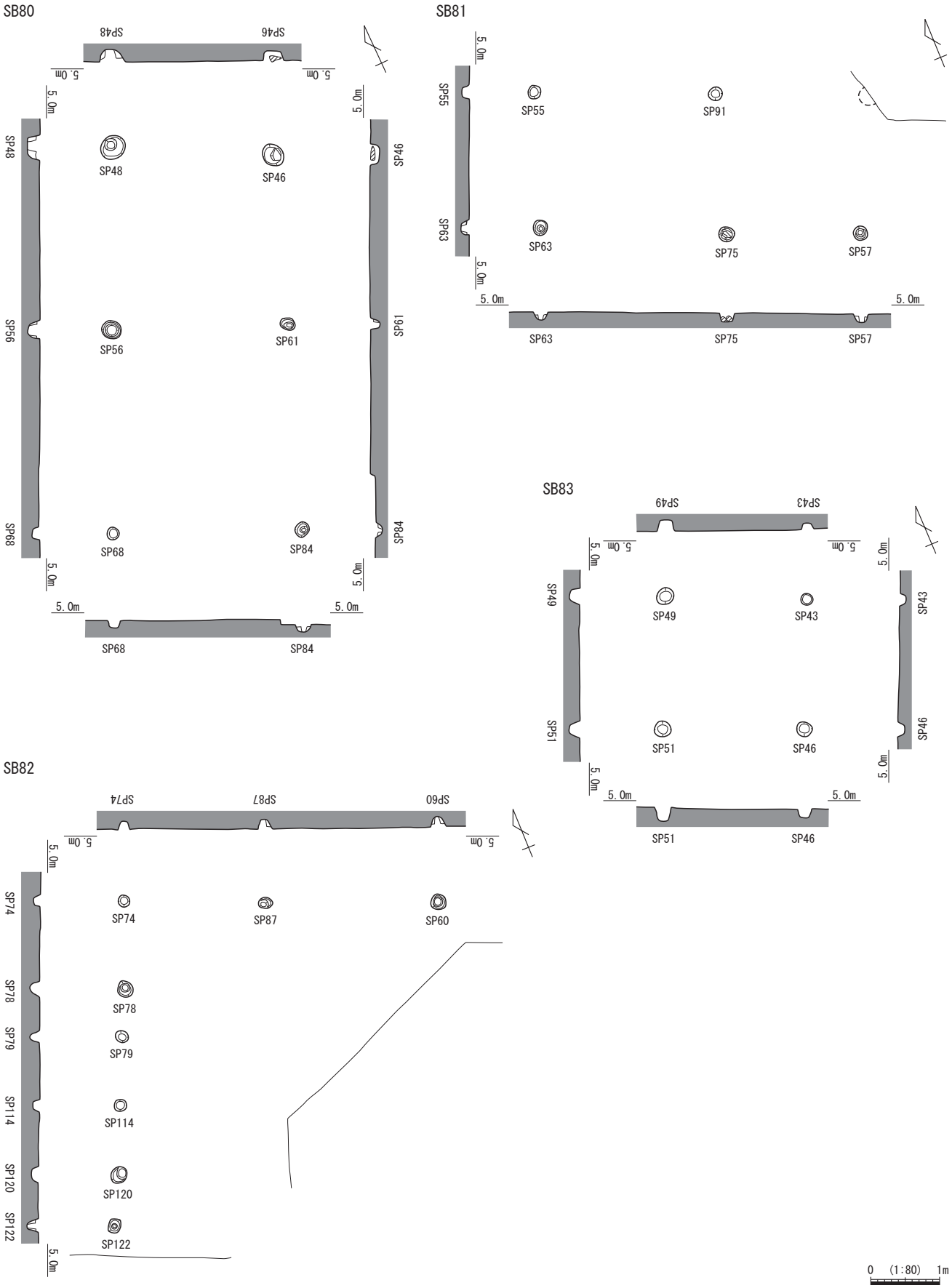


図138　SB80、SB81、SB82、SB83平面・断面図

区画A内建物
(図132･136)
(写真図版55･56･71･72)

区画Ａ内において検出した建物は10棟である。建物の主軸から大きくN20°～22°ＥのSB85・SB86・SB88・SB89・SB90・SB94とN18°～19°ＥのSB87・SB91・SB92・SB93に区分できる。このうち、SB85・SB86とSB88、SB87とSB88・SB89が平面的に重なっている。主軸の異同が建物の同時性を必ずしも担保するわけではなく、遺物から時期をおさえることができないため推測の域を出るものではないが、区画Ａ内において２時期もしくは３時期の変遷が想定できる。

SB85
(図136･139)
(写真図版67)

５次31区土井の内溝の南側にある区画Ａで検出した。区画溝であるSD01から南へ約40ｍに位置する。検出した位置から建物跡は調査区の西側に広がる。平面プランはSB88と重なるが、柱穴の直接の切り合い関係はない。検出状況から２間×３間以上の側柱建物跡と考えられる。SP95－SP109を基準とした主軸方向はN22°Ｅを測る。平面規模は南北方向３間で4.85ｍ、東西方向２間で2.7ｍを測る。平面積は約13.4㎡を測る。柱間寸法は南北方向SP95－SP109で南から1.65ｍ、1.85ｍ、1.35ｍ、東西方向SP88－SP95で西から1.55ｍ、1.15ｍを測る。柱穴は円形を呈し、大きさは直径25～30㎝、深さは10～32㎝を測る。

SB86
(図136･139)
(写真図版67)

SB85の約50㎝南側で検出した。平面プランはSB88と重なるが柱穴の直接の切り合い関係はない。検出した位置から建物跡は調査区の西側に広がる可能性がある。検出状況から２間×２間以上の総柱建物跡と考えられる。SP81－SP100を基準とした主軸方向はN20°Ｅを測る。平面規模は南北方向２間で3.55ｍ、東西方向２間で3.9ｍを測り、東西方向にやや長い。平面積は約13.8㎡を測る。柱間寸法は梁行SP81－SP100で南から1.75ｍ、1.8ｍ、梁行SP72－SP81で1.95ｍの等間隔である。柱穴は円形を呈し、大きさは直径20～28㎝、深さは12～28㎝を測る。

SB87
(図136･140)
(写真図版67)

SB86の約80㎝南側で検出した。平面プランはSB88・SB89と重なるが柱穴の直接の切り合い関係はない。検出した位置から建物跡は調査区の西側に広がる可能性が高い。検出状況から２間×４間以上の総柱建物跡と考えられる。SP55－SP80を基準とした主軸方向はN19°Ｅを測る。平面規模は南北方向４間で7.7ｍ、東西方向２間で4.2ｍを測る。平面積は約32.3㎡を測る。柱間寸法はSP55－SP80で南から1.7ｍ、2.15ｍ、2.05ｍ、1.8ｍを測る。SP50－SP55で2.1ｍの等間隔である。柱穴は円形を呈し、大きさは直径24～37㎝、深さは14～32㎝を測る。

SB88
(図136･140)
(写真図版67･69)

SB85～SB87と重なる位置で検出した。調査区端で検出したため、建物跡を構成するか判定が困難であるが、後述するSB89と柱通りが揃っていることからここでは建物跡として記述する。検出した位置から建物跡の東端の柱通と想定する。延長は8.7ｍを測り、主軸方向はN20°Ｅを測る。SP86はSP12の補足的な柱穴と考え、柱間寸法は北から1.8ｍ、2.7ｍ、2.4ｍ、1.8ｍを測る。柱穴は円形を呈し、大きさは直径20～32㎝、深さは18～30㎝を測る。

SB89
(図136･140)
(写真図版67･69)

SB88の約1.2ｍ南側で検出した。SP01－SP09間の９基８間の柱穴列で、延長16.0ｍを測る。SB88と同様、調査区端で検出したため、建物跡としての広がりは不明である。しかし、検出した柱穴に根石を持つものが多い点と掘方が豆田遺跡で検出した他の建物跡の柱穴と比べても全体的に大きいことから建物跡と判断した。検出した位置から調査区の西側に建物跡は広がっていると想定できる。主軸方向はN20°ＥでSB88と揃う。SP02-SP08間にはSB17やSB82で検出したような直径約25㎝の小ピットが柱間に存在する。小ピットの連続するSP02－SP03－SP04の柱間は1.6ｍ、2.4ｍを測るが、SP02-SP04間は4.0ｍであり、基本的に2.0ｍ間隔で配置されていることがわかる。柱穴の平面形は基本的に円形を呈し、大きさは直径40～50㎝、深さは遺構検出面から28～52㎝を測る。根石はSP01・SP05・SP06・SP07・SP08・SP09で確認できる。根石は一辺30㎝程の扁平な石材を使用している。柱掘方の深さは必ずしも一定ではないが、根石の天端は標高5.0～5.1ｍで、概ね揃っている。

遺物はSP05の掘方から須恵器椀の口縁部898が出土したが、建物跡の帰属時期をおさえることはできない。区画施設やSE10と主軸方向が揃っている点、区画Ａ内のほぼ中央付近に位置する

ことから、本建物跡は区画Ａにおける主要建物と考えられる。また、遺物からは同時期である確証はえられないがSB88とは柱通りが揃うことから、一連の建物跡と考えられる。SB88とSB89を合わせた全長は約26ｍを測り、柱掘方の規模からSB89が中心建物で、SB88が付属するものと想定できる。

SB90
(図136･141)
(写真図版71)

SB89の南約9.8ｍの位置で検出した。検出した位置から建物跡は調査区の東側に広がる可能性を有す。検出状況から２間×２間以上の東西棟の側柱建物跡と考えられる。SP03－SP05を基準とした主軸方向はN21°Ｅを測る。平面規模は梁行２間で2.4ｍ、桁行２間で4.1ｍを測る。平面積は約9.8㎡を測る。柱間寸法は梁行SP03－SP05で南から1.1ｍ、1.3ｍ、桁行SP05－SP102で西から2.1ｍ、2.0ｍで概ね等間隔である。柱穴の平面形は円形を呈し、大きさは直径20～24㎝、深さは８～28㎝を測る。図示していないが、SP103からタタキのある堝の細片が出土している。

SB91
(図136･141)
(写真図版71)

SB90の約10.5ｍ南側で検出した。検出した位置から建物跡は調査区の西側に広がる可能性が高い。検出状況から１間×３間以上の建物跡と考えられる。SP38－SP52を基準とした主軸方向はN18°Ｅを測る。平面規模は南北方向３間で6.0ｍ、東西方向１間で1.95ｍを測る。平面積は約11.6㎡を測る。柱間寸法はSP38－SP52で2.0ｍの等間隔である。柱穴の平面形は基本的に円形を呈し、大きさは直径30～44㎝、深さは18～22㎝を測る。

SB92
(図136･141)
(写真図版56･57)

４次25区の区画溝SD05の南肩から南へ約22ｍの位置で検出した。検出した位置から建物跡は調査区の東側に広がる可能性を有す。柱穴の一部が攪乱を受けているため、確認できないが、検出状況から２間×５間の南北棟の総柱建物跡と考えられる。SP47－SP63を基準とした主軸方向はN18°Ｅを測る。平面規模は梁行２間で5.2ｍ、桁行５間で10ｍを測る。平面積は52㎡を測る。柱間寸法は梁行SP63－SP67で東から2.2ｍ、3.0ｍ、梁行SP47－SP63で北から2.0ｍ、2.0ｍ、2.0ｍ、1.9ｍ、2.1ｍを測る。柱穴の平面形は基本的に円形を呈し、大きさは直径22～56㎝、深さは12～50㎝を測る。図示していないが、SP49から鉄かぶと形堝の破片が出土しており、Ⅵ期の可能性がある。

SB93
(図136･142)
(写真図版56)

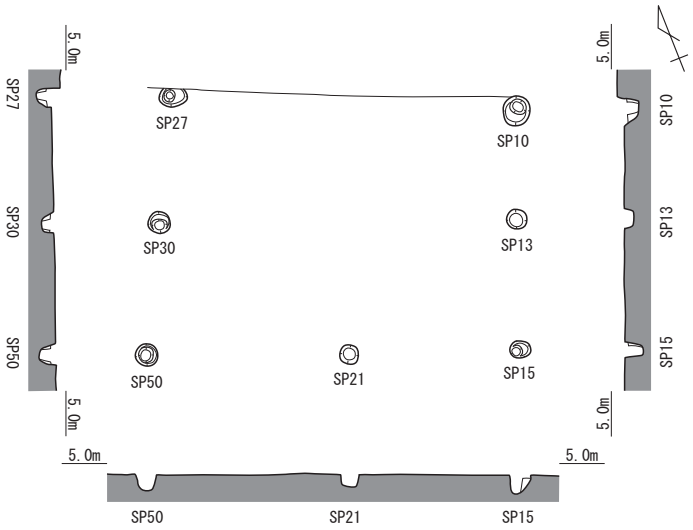
SB92の南13ｍの位置で検出した。平面プランはSA53・SA54と重なる。検出した位置から建物跡は調査区の東側に広がる。検出状況から２間×５間以上の建物跡と考えられる。SP117－SP122を基準とした主軸方向はN18°Ｅを測り、SB92と並列する。平面規模は南北方向５間で9.0ｍ、東西方向２間で3.7ｍを測る。平面積は約33.3㎡を測る。柱間寸法は南北方向SP117－SP122で南から1.9ｍ、1.8ｍ、1.8ｍ、1.8ｍ、1.7ｍ、東西方向SP81－SP122で東から1.5ｍ、2.2ｍを測る。柱穴の平面形は基本的に円形を呈し、大きさは直径22～44㎝、深さは14～50㎝を測る。

遺物はSP118の埋土から土師器堝899が、SP121から土師器皿Ｈ900が出土した。899はくの字口縁の厚手のものであるが、体部下端が斜めに面取りされていることから、元々の器形として底部が存在しないものの可能性もあり、いわゆる球形を呈す堝とは異なっている。

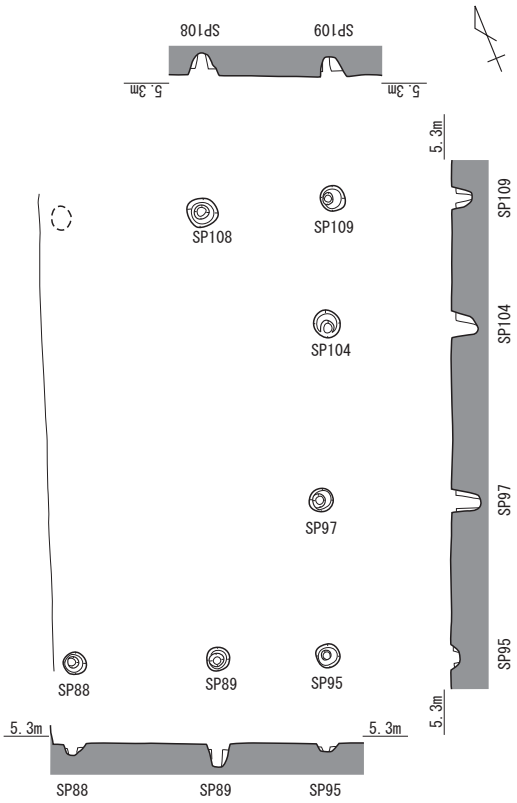
SB94
(図136･142)
(写真図版72)

16次６区の南部、区画溝SD01の北肩から北へ約12.5ｍの位置で検出した。検出した位置から建物跡は調査区の東側に広がる。検出状況から１間×２間以上の建物跡と考えられる。SP75－SP76を基準とした主軸方向はN22°Ｅを測る。平面規模は南北方向２間で4.0ｍ、東西方向１間で2.6ｍを測る。平面積は10.4㎡を測る。柱間寸法は南北方向SP75－SP76で2.0ｍの等間隔である。柱穴は円形を呈し、大きさは直径32～34㎝、深さは遺構検出面から８～22㎝を測る。SP75・SP40・SP76は根石を持つ。根石は一辺20㎝程の扁平な石材を用い、その天端は標高4.85ｍ前後で一定である。SB94に伴うものではないが、建物内の中央部で一連の柱穴SP78-SP80を検出した。検出した位置からSB94に伴うものではないことが予想でき、SB94と異なる建物を構成する可能性が高い。調査区外に広がるため判然としないが、その検出位置からSB94に先行もしくは後続する建物跡とみられる。

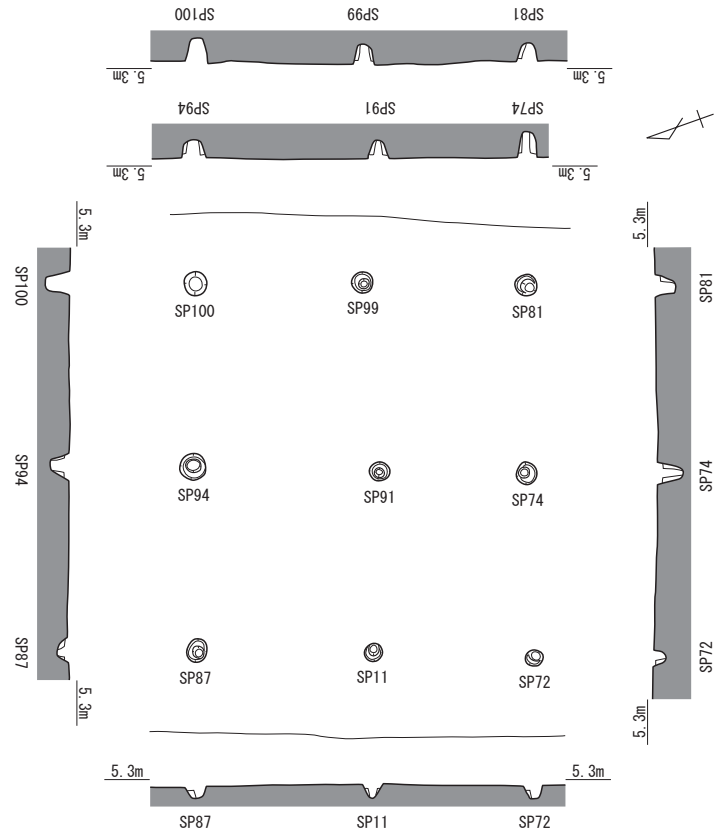
SB84



SB85



SB86



0 (1:80) 1m

図139　SB84、SB85、SB86平面・断面図

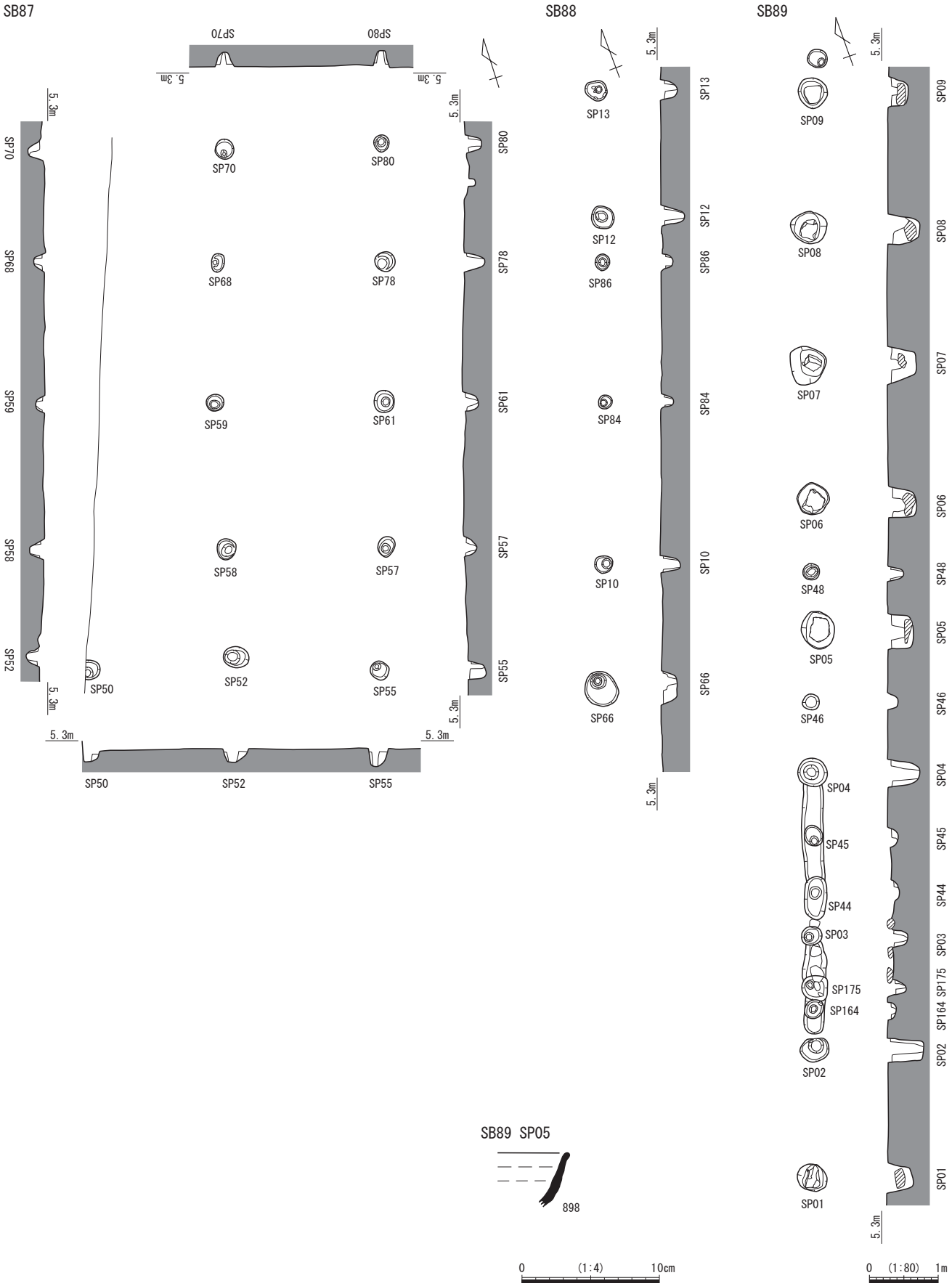


図140　SB87、SB88、SB89平面・断面図、出土遺物

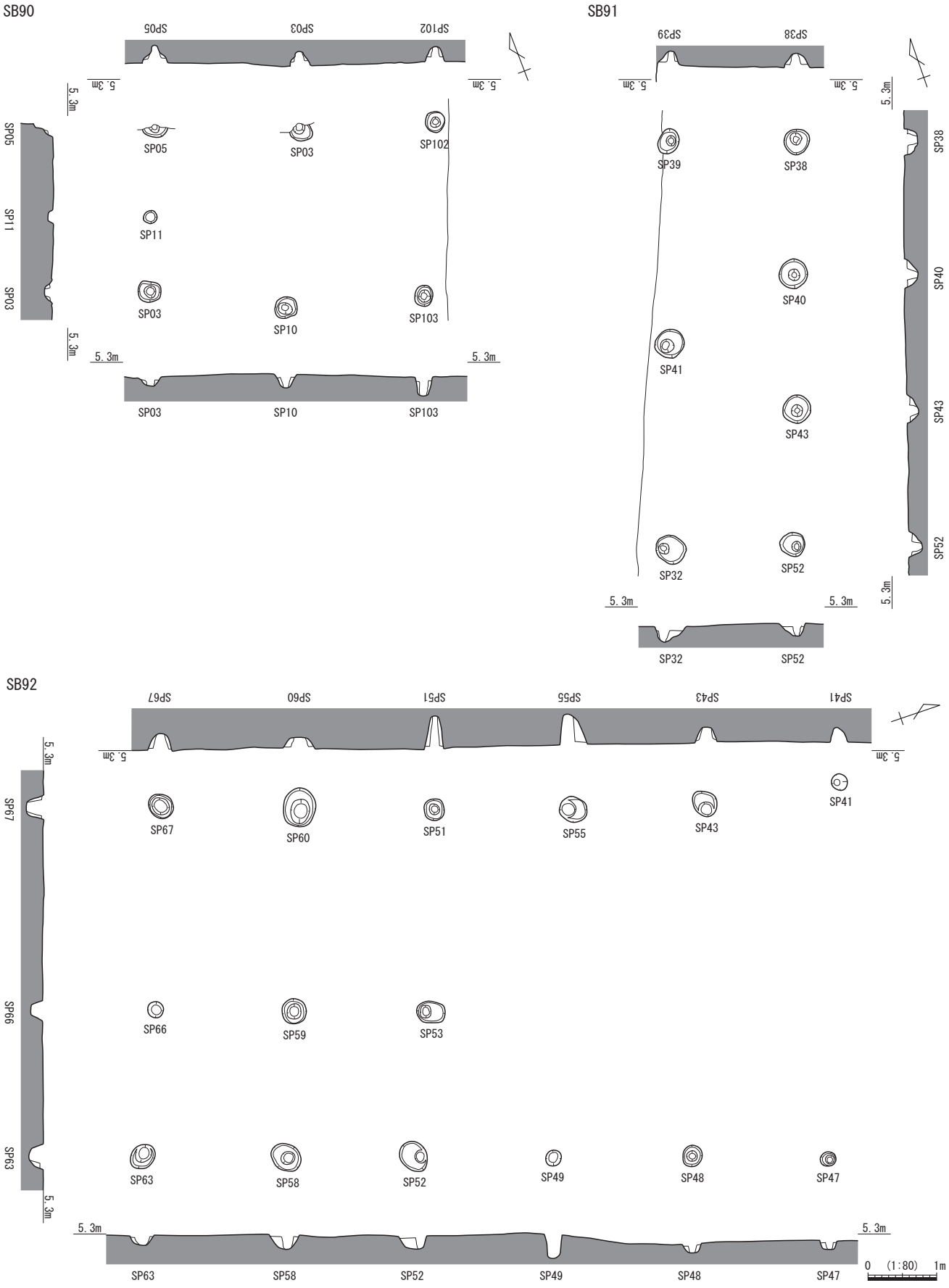


図141　SB90、SB91、SB92平面・断面図

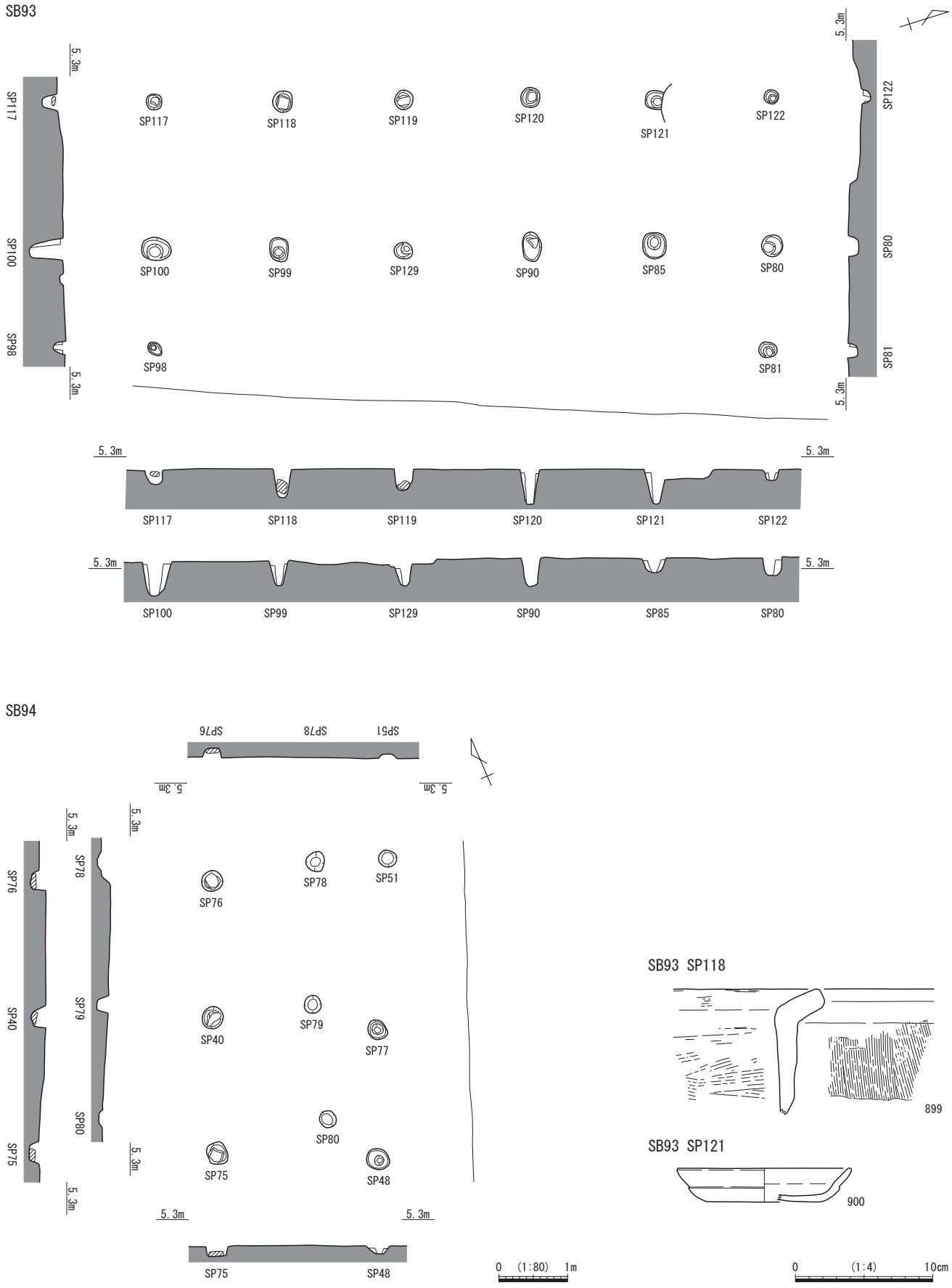


図142　SB93、SB94平面・断面図、出土遺物

SA36
(図132･133･143)
(写真図版58)

SB79の約80㎝東側で検出した。検出位置はSB79の南端及び北端に揃うことから一連の遺構と考えられる。南北方向に３基の柱穴が一列に並ぶ。調査区内で対になる遺構がないことから柵と判断した。規模は延長3.25m、柱間隔は北から1.65m、1.6mを測り、概ね等間隔である。遺構の主軸はN26° Eであり、SB79がN23° Eであることからやや東偏している。柱穴は円形を呈し、直径は20～28㎝、深さは14～18㎝を測る。

SA37
(図132･133･143)
(写真図版60)

SB79の約７m南側で検出した。本遺構の中央部分から西へ約80㎝の位置でSE07を検出した。他の建物跡との有機的な関係は確認できないことからSE07に関連する可能性が考えられる。南北方向に５基の柱穴が一列に並ぶ。調査区内に対になる遺構が確認できないことから柵と判断した。規模は延長6.3m、柱間隔は北から1.8m、1.75m、0.8m、1.95mを測る。遺構の主軸はN21° Eである。柱穴は円形を呈し、直径は22～40㎝、深さは14～26㎝を測る。遺物はSP51から底部ヘラ切りの小皿Ｒ901、須恵器椀902が出土した。Ⅳ期とみられる。

SA38
(図132･133･143)
(写真図版60)

SB80の２m東側で検出した。平面プランはSB81と重なるが、柱穴の直接の切り合い関係はない。南北方向に４基の柱穴が一列に並ぶ。調査区内に対になる遺構が確認できないことから柵と判断した。規模は延長4.1m、柱間隔は北から1.35m、1.6m、1.15mを測る。遺構の主軸はN22° Eである。柱穴は円形を呈し、直径は14～24㎝、深さは10～12㎝を測る。本遺構がどの建物に伴うものかは断言できないが、検出位置からSB80とSB83に関連する可能性が考えられる。

SA39
(図132･133･143)
(写真図版60)

ＳA38の東4.8m、SB83に東接した位置で検出した。南北方向に３基の柱穴が一列に並ぶ。西側に約0.8m離れた位置で検出したＳA40とは柱穴の位置は対応するものの、建物跡として考えるには幅が狭くその構造が明確でないことからそれぞれ独立した遺構と判断した。規模は延長3.5m、柱間隔は1.75mの等間隔である。遺構の主軸はN22° Eである。柱穴は円形を呈し、直径は20～24㎝、深さは16～18㎝を測る。図示していないが、SP47から備前焼の破片が出土している。

SA40
(図132･133･143)
(写真図版60)

ＳA39の東80㎝に位置する。３基の柱穴が一列に並ぶ。規模は延長3.55m、柱間隔は北から1.8m、1.75mと概ね等間隔である。遺構の主軸はN21° Eである。柱穴は円形を呈し直径は16～24㎝、深さは14～16㎝を測る。ＳA37～ＳA40の主軸は揃っており、関連する建物跡は明らかでないが、SB80等の建物跡も概ね同一方位を主軸とすることからいずれかに伴うものと考えられる。

SA41
(図132･133･143)
(写真図版60)

16次14区の西部で検出した。ＳA42と一部の柱穴が対になるため建物跡の可能性も考えたが、それぞれ対になる部分を超えて柱穴が一列に並ぶことから個別の柵と認定した。ただし、検出した位置から調査区外に広がる建物跡の一部である可能性を残す。東西方向に８基の柱穴が一列に並ぶ。規模は延長15.9m、柱間隔は東から3.4m、2.25m、1.65m、1.85m、2.0m、2.75m、2.0mを測り、間隔は不揃いである。遺構の主軸はN16° Eの直交方向である。柱穴の平面形は概ね円形を呈し、直径は20～28㎝、深さは14～44㎝を測る。SP24から播磨型堝細片が出土した。

SA42
(図132･133･143)
(写真図版60)

ＳA41の南２mの位置で検出した。東西方向に４基の柱穴が一列に並ぶ。規模は延長5.75m、柱間隔は東から1.85m、1.85m、2.05mを測る。SP17、SP38、SP39はＳA41の柱穴と対になっている。遺構の主軸はN16° Eと直交し、ＳA41と平行する。柱穴は円形を呈し、直径は22～38㎝、深さは13～36㎝を測る。遺物はSP22から播但型堝Ⅲ類903が出土した。

SA43
(図132･136･143)
(写真図版67)

５次31区SD11と平行する位置で検出した。東西方向に５基の柱穴が一列に並ぶ。調査区外に延びると考えられる。規模は延長4.2m、柱間隔は西から1.4m、0.7m、0.7m、1.4mを測る。主軸はN21° Eと直交する。柱穴は円形を呈し直径は22～34㎝、深さは11～15㎝を測る。

SA44
(図132･136･143)
(写真図版67)

ＳA43の南約13.2m、調査区の西壁沿いで検出した。検出した位置から調査区外に広がる建物跡の一部である可能性を有する。南北方向に４基の柱穴が一列に並ぶ。規模は延長6.3m、柱間隔は北から2.1m、2.2m、2.0mと比較的近似する。遺構の主軸はN21° Eである。柱穴は円形を呈し、直径は20～24㎝、深さは12～16㎝を測る。

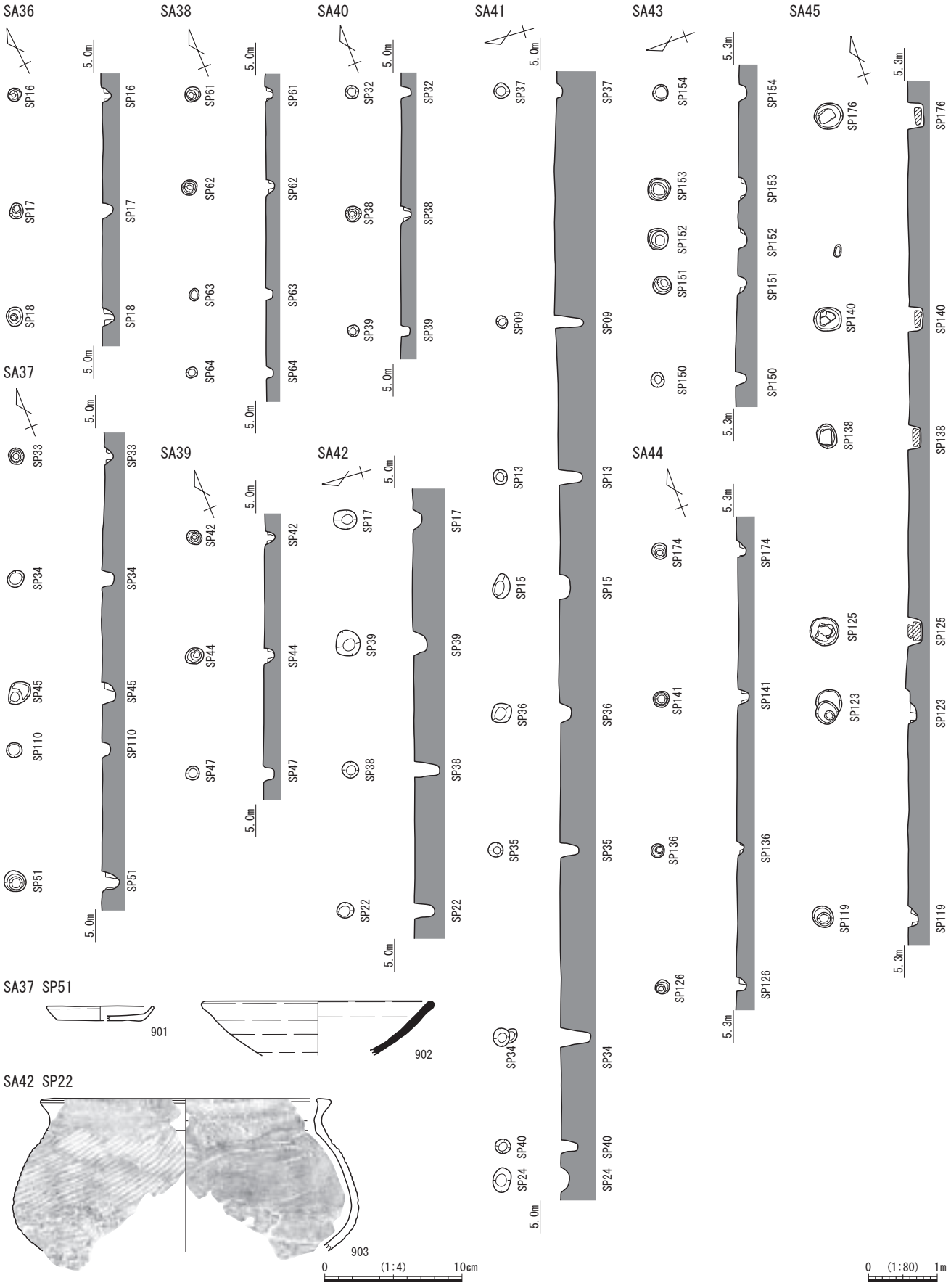


図143　SA36～SA45平面・断面図、出土遺物

SA45
(図132･136･143)
(写真図版67･69)

ＳA44の東約60㎝の位置で検出した。検出した位置から調査区外に広がる建物跡の一部である可能性を有す。南北方向に６基の柱列が一列に並ぶ。規模は延長11.7m、柱間隔は北から3.0m、1.7m、2.8m、1.2m、3.0mを測る。遺構の主軸はN21° Ｅである。柱穴の平面形は円形を呈し、直径は31～40㎝、深さは13～22㎝を測る。SP125～ SP176は掘方内に根石を置く構造である。根石の様相はSB89と共通し、石材の大きさもほぼ同じである。

SA46
(図132･136･144)
(写真図版67･69)

SB89の約１m東側で検出した。南北方向に６基の柱穴が一列に並ぶ。SP17がSD03の肩を切る。規模は延長9.0m、柱間隔は南から0.8m、1.9m、2.0m、2.0m、2.3mを測る。柱穴の平面形は円形を呈し、直径は16～48㎝、深さは８～22㎝を測る。SP39とSP41の根石は一辺30㎝程の扁平な石材を用い、その天端は標高5.1mとSB89と共通する。遺構の主軸はN18° ＥとSB89よりもやや西偏する。遺物はSP39から土師器皿Ｏ904が出土した。

SA47
(図132･136･144)
(写真図版71)

SB91の東側約60㎝の位置で検出した。南北方向に５基の柱穴が一列に並ぶ。規模は延長5.9m、柱間隔は北から1.4m、1.4m、1.25m、1.85mを測る。遺構の主軸はN19° Ｅで、SB91と関連すると思われる。柱穴は円形を呈し、直径は22～32㎝、深さは10～20㎝を測る。

SA48
(図132･136･144)
(写真図版71)

11次６区SD01の北肩に沿って検出した。東西方向に４基の柱穴が並ぶ。規模は延長7.05m、柱間隔は東から2.0m、3.1m、1.95mを測る。主軸はN23° Ｅと直交する。柱穴は円形を呈し直径は20～28㎝、深さは14～20㎝を測る。SP70とSP72から播磨型堝細片が出土した。

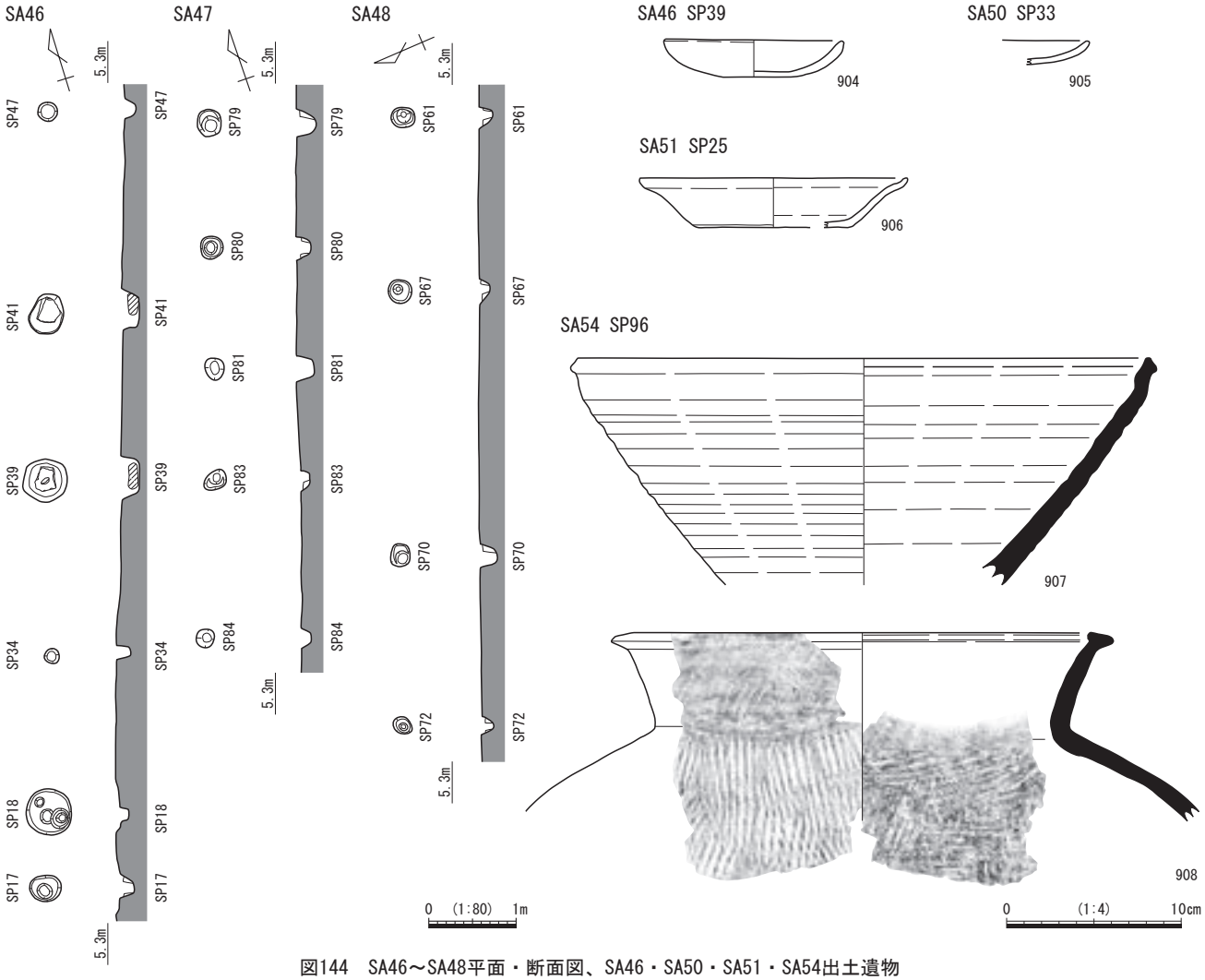


図144　SA46～SA48平面・断面図、SA46・SA50・SA51・SA54出土遺物

SA49
(図132·136·145)
(写真図版72)

16次６区の南側、SD03の北肩沿いで検出した。東西方向に８基の柱穴が一列に並ぶ。規模は延長16.3m、柱間隔は東から2.1m、4.2m、1.9m、2.1m、2.1m、1.9m、2.0mを測る。遺構の主軸はN23° Eと直交する。SA48と主軸を同じくしており、本来は溝沿いに柵が巡っていた可能性を考えられる。柱穴の平面形は円形を呈し、直径は13～44cm、深さは14～62cmを測る。

SA50
(図132·136·145)
(写真図版72)

16次６区の東壁沿いで検出した。調査区外に広がる建物跡の一部である可能性もあるが、ここでは柵として報告する。南北方向に12基の柱穴が一列に並ぶ。規模は延長24.55m、柱間隔は北から3.3m、3.65m、1.0m、2.95m、2.05m、1.95m、2.5m、1.9m、1.3m、2.2m、1.75mを測る。遺構の主軸はN21° Eである。柱穴の平面形は円形を呈し、直径は10～48cm、深さは遺構検出面から10～30cmを測る。遺物はSP33から土師器小皿Ｂ905が出土した。

SA51
(図132·136·145)
(写真図版72)

SA50の西側約3.5mの位置で検出した。南北方向に10基の柱穴が一列に並ぶ。規模は延長11.7m、柱間隔は北から0.9m、0.95m、0.8m、0.95m、0.95m、1.0m、2.55m、2.2m、1.4mを測る。SP62からSP68の間隔は狭く、SP68からSP25の間は間隔が広がる。ただ、SP64からSP70にかけてはSX01が間に存在することから、本来は柱穴が連続していたと思われる。遺構の主軸はN17° Eである。柱穴の平面形は円形を呈し、直径は22～40cm、深さは10～20cmを測る。

遺物はSP25から土師器皿Ｉ906が出土した。手づくね成形とみられるが、底部が平底で立ち上がりが明確であることからロクロ成形の可能性もある。摩滅しているため判断できない。

SA52
(図132·136·145)
(写真図版56)

４次25区の西壁沿いで検出した。攪乱を受けているために一部確認できない部分も存在するが、検出状況で南北方向に13基の柱穴が一列に並ぶ。検出した位置から調査区外に広がる建物跡の可能性は否定できないが、SA48·SA49と同様、区画Ａに伴う柵と想定する。規模は延長21.65m、柱間隔は北から0.85m、0.75m、1.0m、0.95m、6.55m、3.5m、2.7m、1.85m、0.9m、0.9m、1.0m、0.7mを測る。SP132からSP111の間は攪乱のため、本来の配置は不明である。遺構の主軸はN20° Eである。柱穴は概ね円形を呈し、直径は18～61cm、深さは12～38cmを測る。

SA53
(図132·136·145)
(写真図版57)

SA52の東約7.4mの位置で検出した。攪乱を受けているために一部確認できない部分も存在するが、検出状況で南北方向に18基の柱穴が一列に並ぶ。規模は延長17.4m、柱間隔は北から0.55m、0.5m、0.5m、0.45m、0.65m、0.7m、0.6m、0.75m、1.25m、0.7m、0.7m、0.6m、5.2m、1.1m、0.75m、1.0m、1.4mを測る。SP94とSP101の間は攪乱のため、本来の配置は不明である。SP73からSP94の柱間隔はSA51の北側部分の在り方と共通する。遺構の主軸はN18° Eである。柱穴は円形を呈し、直径は21～38cm、深さは10～22cmを測る。SP73・SP83・SP86・SP94は一辺20cm程度の扁平な根石を持つ。

SA54
(図132·136·145)
(写真図版56·57)

SA53の東約50cmの位置で検出した。検出した位置から調査区に広がる建物跡の一部である可能性がある。南北方向に４基の柱穴が一列に並ぶ。規模は延長6.05m、柱間隔は北から1.95m、2.1m、2.0mを測る。遺構の主軸はN14° EとSA52・SA53に比べて西へ振っている。柱穴は円形を呈し、直径は24～36cm、深さは25～46cmを測る。

遺物はSP96の埋土上層から907・908が出土した。須恵器鉢907は口縁部形態Ａ１類である。須恵器甕908は外面にタテ方向のタタキが施される。口縁部の形状は異なるが外面に縦方向のタタキを施す例は神出窯跡群鴨谷１号窯等にある（兵庫県教委2011）。窯跡の年代観に従えば、SA54は11世紀後半頃に位置づけられる。主軸方向も周辺の遺構と異なっていることから時期の遡る遺構と考える。

SA55
(図132·135·145)
(写真図版72)

10次８区の南部で検出した。東西方向に３基の柱穴が一列に並ぶ。対になる遺構が確認できないことから、ここでは柵と判断した。規模は延長2.9m、柱間隔は西から1.55m、1.35mを測る。遺構の主軸はN18° Eに直交する。柱穴は円形を呈し、直径は22～24cm、深さは17～20cmを測る。周辺に関連する遺構は確認できず、その性格は不明である。

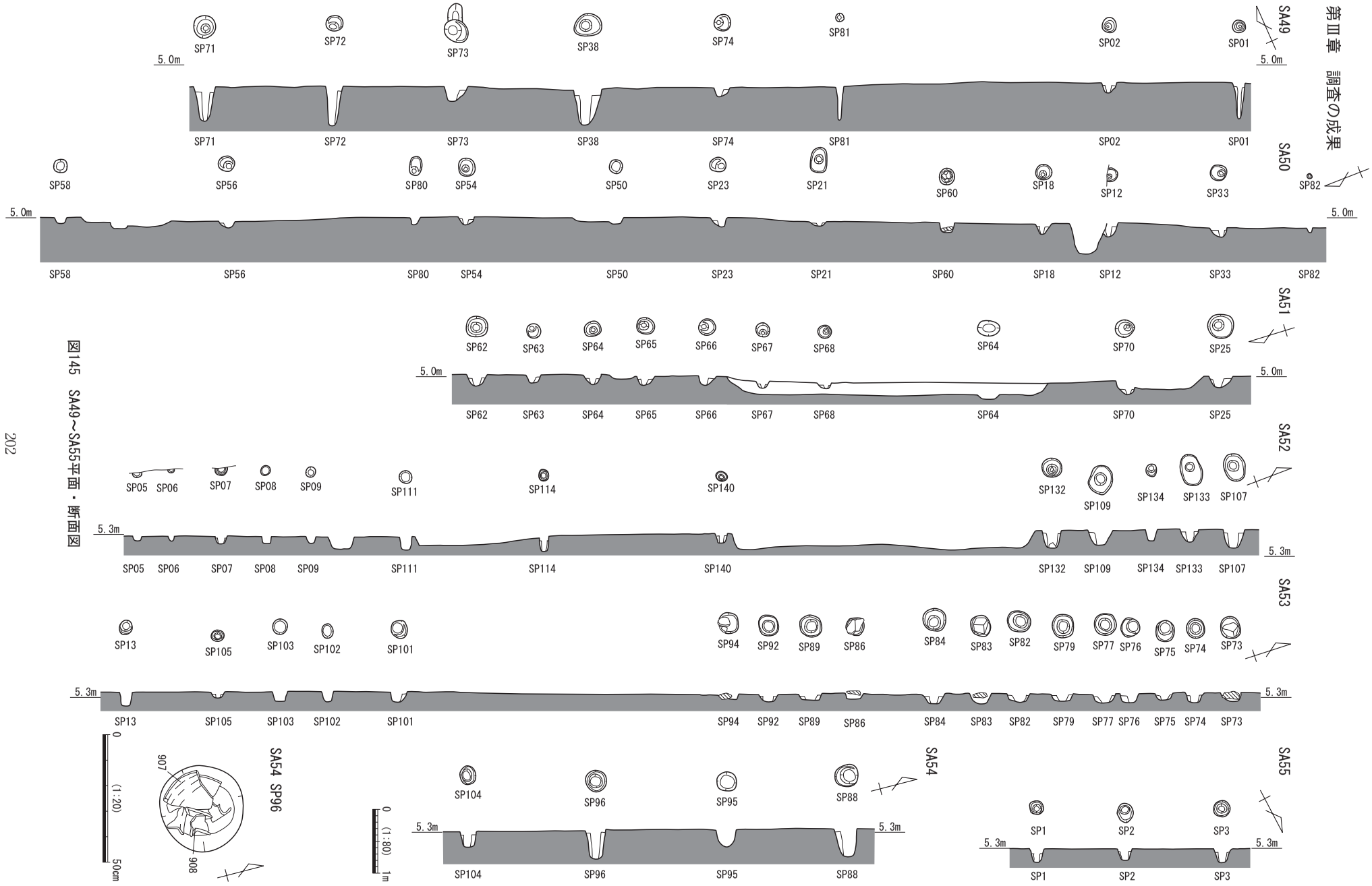


図145　SA49～SA55平面・断面図

ST06
(図132･134･146)
(写真図版63)

5次29区SD01-1とSD02にはさまれた位置で検出した。検出位置の周辺では同時期の建物跡等は確認していない。主軸はN6°Eに直交する。長辺1.54m、短辺52cmを測る。深さは遺構検出面から約10cmを測る。土坑の掘方は緩やかに立ち上がり、浅い台形状断面を呈す。土坑内には木棺痕跡等は確認できなかったが、土坑内の南壁沿いで完形の土師器杯910・911と須恵器皿909を検出したことから墓と考えた。910・911は底部を上にした状態で2枚重なって出土した。909は埋土中から出土した。土師器杯はいずれも底部ヘラ切りで、口径は910が14.4cm、911が14.8cm、器高はいずれも3.0cmを測る。ST05出土の土師器杯と法量は類似する。909は南西部1次2区SD06出土の1196と類似することからⅣ期に位置づけられる。

SE07
(図132･133･146)
(写真図版58)

5次27-1区の西壁沿いで検出した石組み井戸である。SA37の西約1mに位置する。掘方は円形を呈し、直径1.4～1.6m、深さは遺構検出面から約1mを測る。石組みは内径80～90cmで、高さは約60cmである。最下段には1辺20cm程の比較的大振りな石材を使用し、その上段には河原石を小口積みする。石組みは掘方の中ほどまでで、それより上部には確認できない。石組み内には多くの石が落ち込んでいた。遺物はそれらの石に混じって出土した。

遺物は、石組み内から丸瓦912、無縫塔913が出土した。丸瓦は他にも数点出土しているが、いずれもコビキAである。無縫塔は凝灰岩製で下端を欠損する。残存高85cm、最大径55cmを測る。一般的に僧侶の墓石に使用されるもので、中世末から近世初頭のものと目される。埋土にはわずかに江戸時代の陶磁器片も含まれていたことから最終的な埋没は江戸時代まで下る可能性はあるが、出土した瓦や石造品から井戸自体は中世の遺構で、区画Cに伴うと考えられる。

SE08
(図132･134･147)
(写真図版59)

5次27-2区の西壁沿いで検出した石組み井戸である。周辺に建物跡は確認できない。掘方は直径約2m、深さは遺構検出面から1.4mを測る。遺構検出面から約60cm下で砂礫層に達し、この層が湧水層にあたる。砂礫層に直径約65cm、高さ約50cmの桶を設置する。桶は縦板を用い外側に竹の箍が三段確認できる。桶と重ならない位置に最下段の石材を配し石組みを行っている。石材は一辺20～25cmの角礫を主とし、約90cm積み上げる。石組みは外傾気味に組まれ、その傾斜は約30°を測る。石組みの内径は最下段で直径70cm、最上段で1.25mを測る。

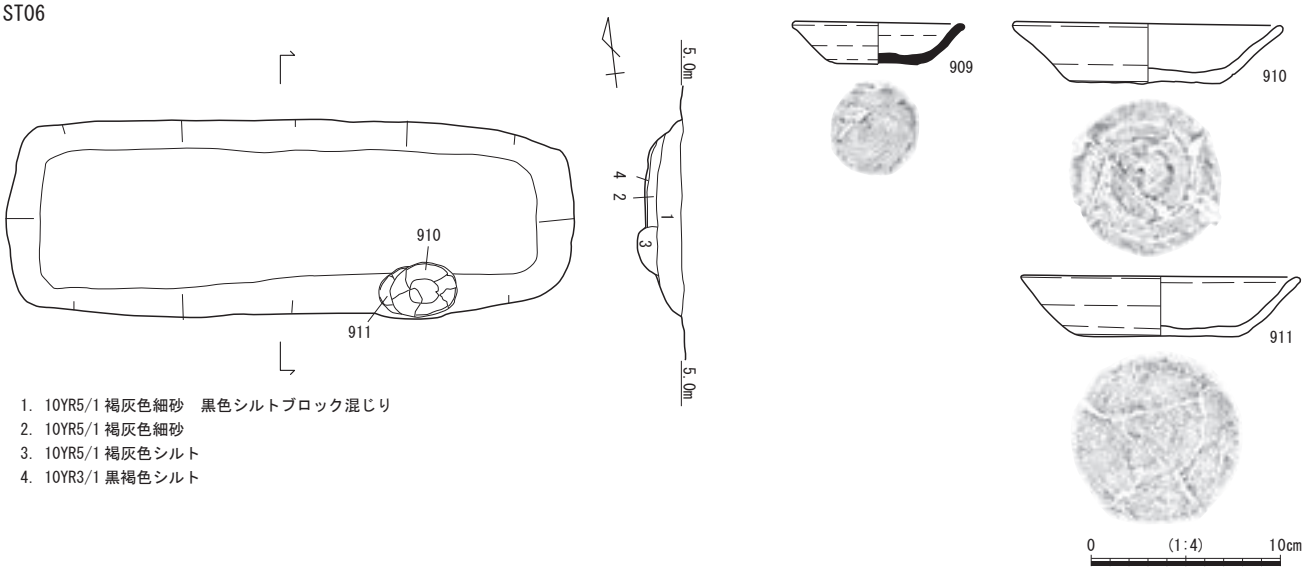
遺物は井戸内埋土上層から土師器皿H914、備前焼甕917が、下層の桶内から土師器堝915、瓦質土器羽釜916が出土した。917の底部内外面には漆の付着が顕著に認められた。漆工に伴うものと推測する。915は播但型のうち、口縁部が内側に拡張するⅢ類である。916は口縁部が内側に湾曲するタイプである。915と916はⅤ期新段階に位置づけられるものである。

SE09
(図132･134･148)
(写真図版65)

5次30区の北壁沿いで検出した石組み井戸である。周辺に建物跡等は確認できない。掘方は円形を呈し直径約2.7m、深さは遺構検出面から1.25mを測る。遺構検出面から約70cmで湧水層である砂礫層に達する。掘方は石組みに比して大きく、その断面形は漏斗状を呈する。掘方の中央やや北寄りの位置に曲物を設置する。曲物は直径50cm、高さ40cmである。曲物と重ならない位置に最下段の石材を配し石組みを行っている。根太等の構造はない。石組みは外傾気味に組まれ、その傾斜は約20°を測る。石組みの内径は最下段で65cm、最上段で85cmを測る。一辺25cm程の角礫を用い約80cm積み上げる。石組みの目地は良く通る。

遺物は石組み内の上層から主として出土した。土師器小皿R918～920、小皿B921、皿H922～925、杯926、土師器堝927～930が出土した。小皿Rは全て底部ヘラ切りである。924は底部を欠損するが皿Gの可能性が高い。927は播但型堝Ⅱ類、928～930は鉄かぶと形Ⅰ類である。930は口縁部が外反し、底部は大きく平底状に屈曲する。929は928に比べ口縁部の外反は甘く、底部の屈曲も弱い。土師器小皿R931～934、杯935は掘方内の図148に示した地点からまとまって出土した。鉄分が著しく付着している。小皿Rは石組み内の918～920と共通し、外面にヘラによる線刻が巡る。底部には板状圧痕が明瞭に残る。遺物の様相からⅤ期新段階に位置づけられる。

ST06



SE07

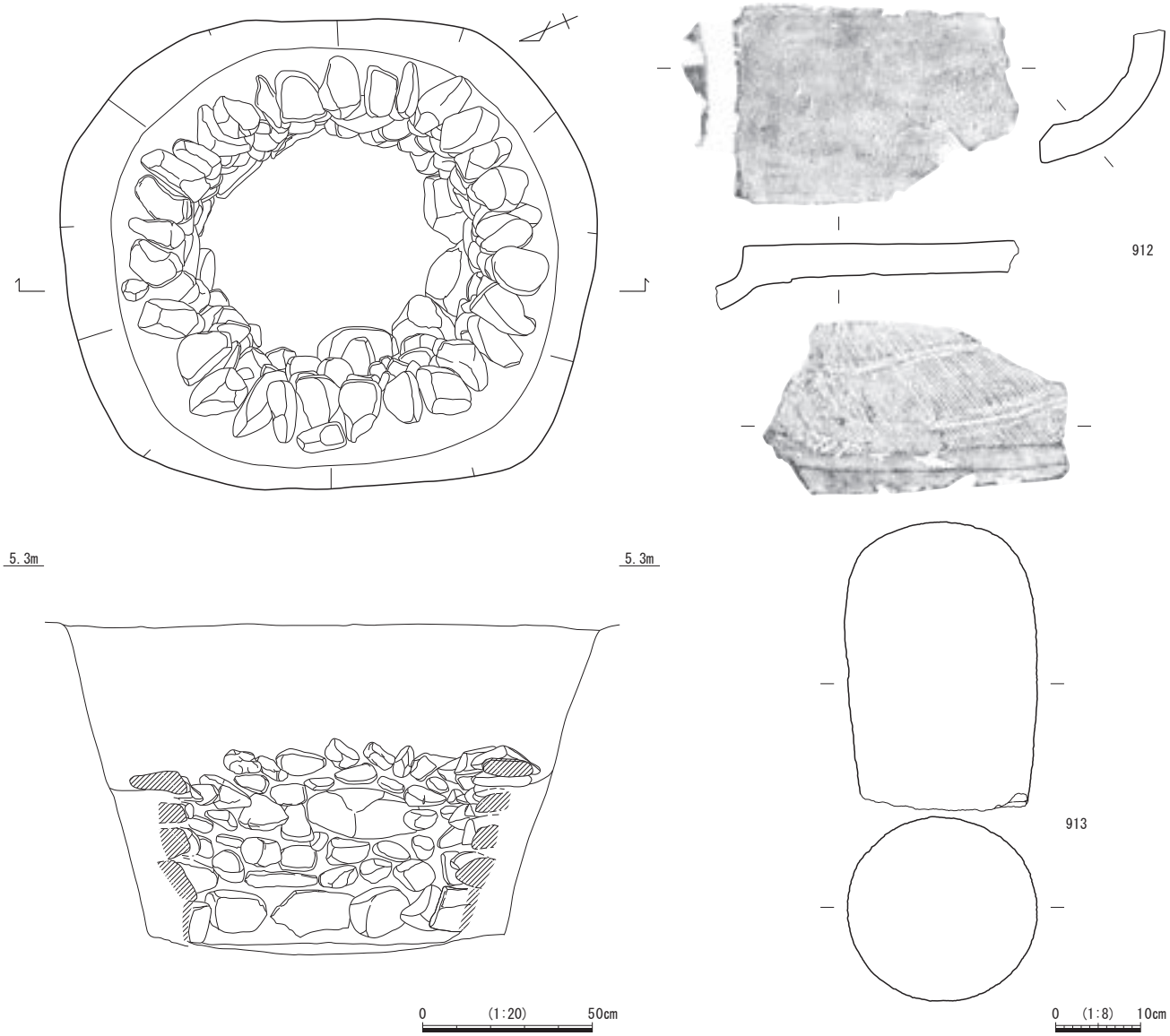


図146　ST06、SE07平面・断面図、出土遺物

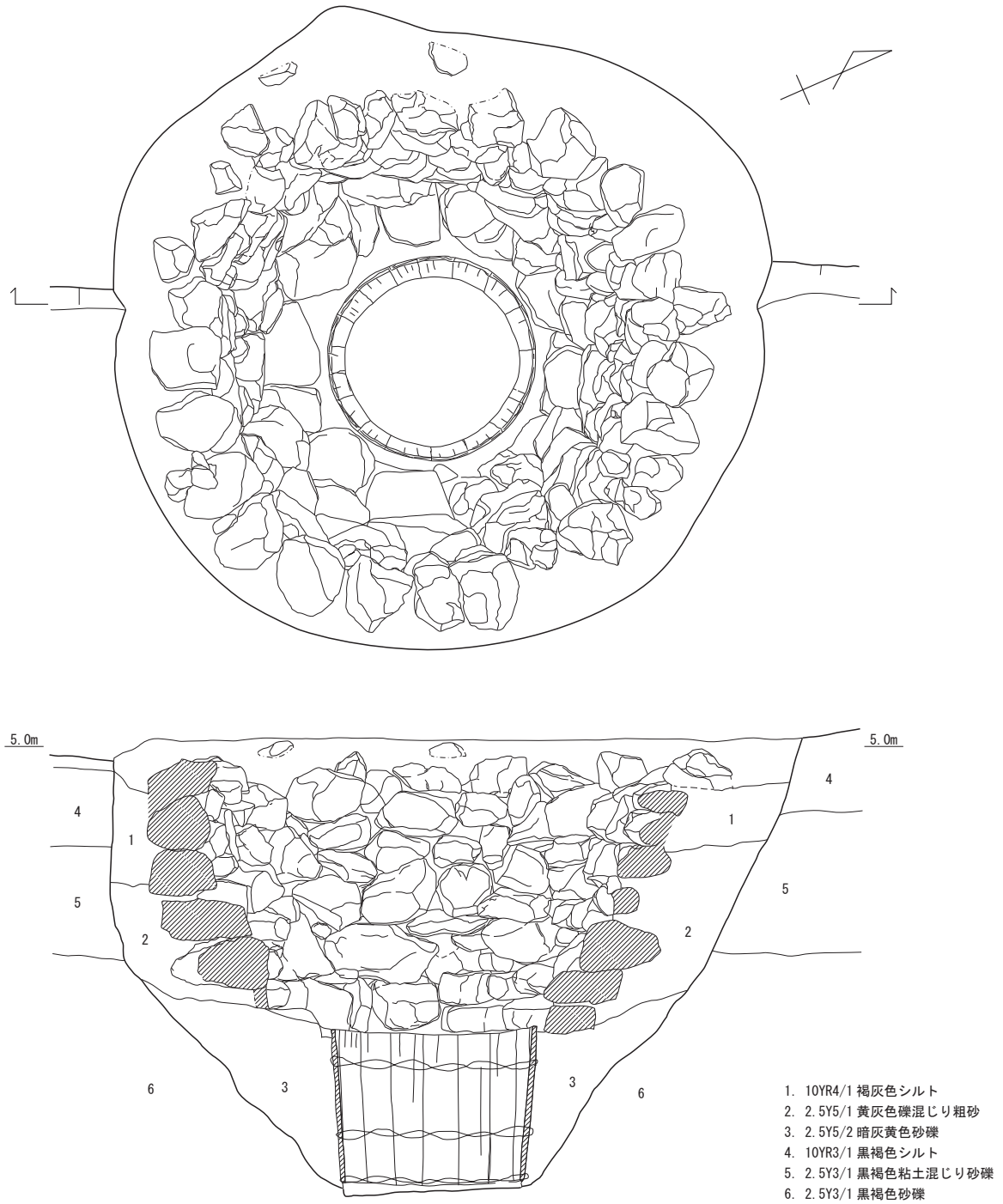


図147　SE08平面・断面図

SE09

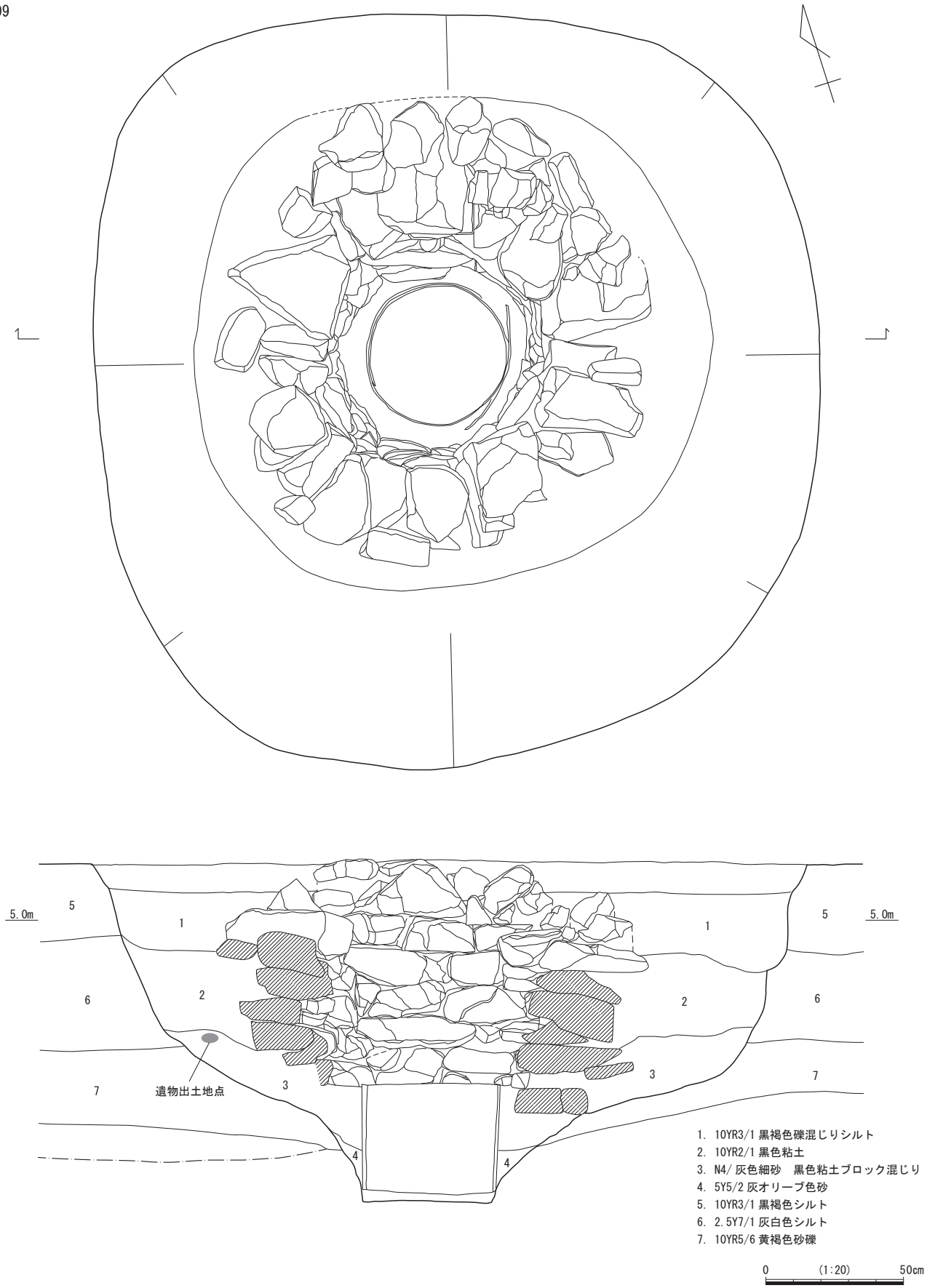
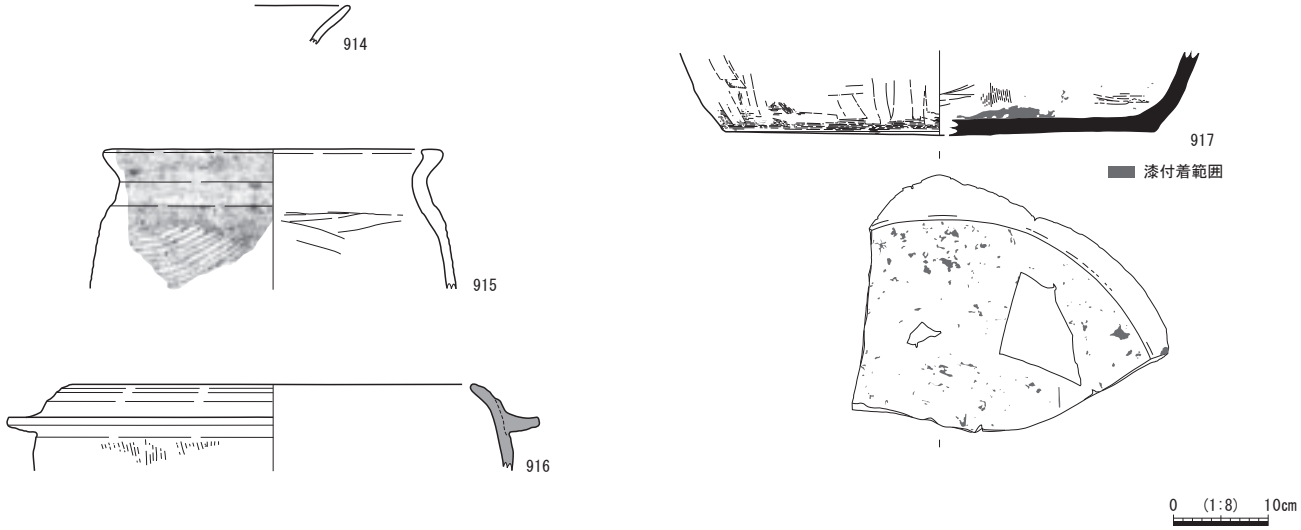
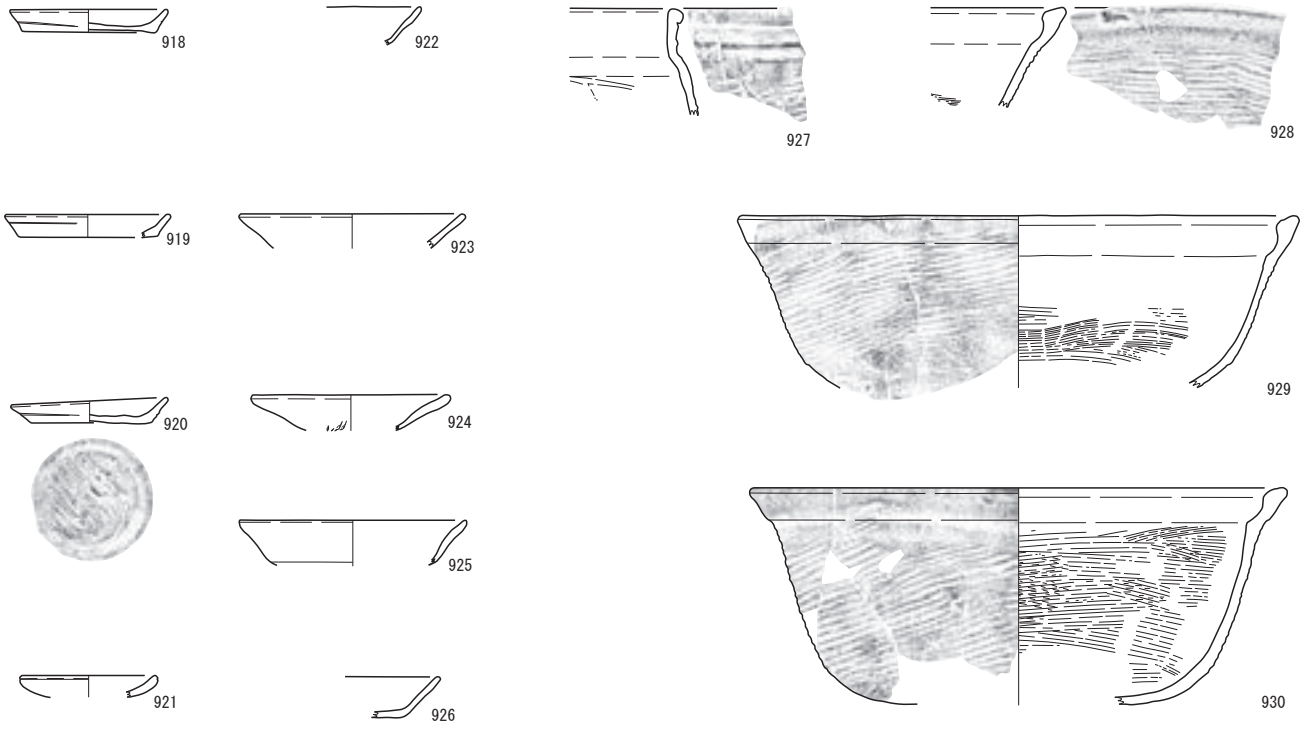


図148　SE09平面・断面図

SE08



SE09



SE09 掘方

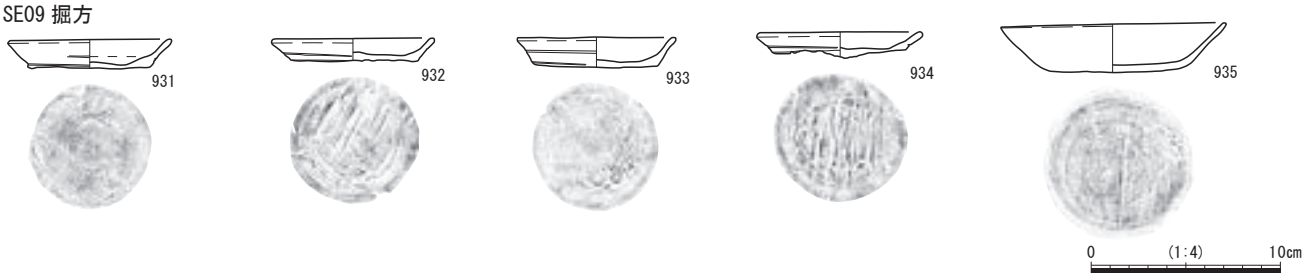


図149　SE08、SE09出土遺物

SE10
(図132·136·150)
(巻頭図版6-8)
(写真図版70)

５次31区で検出した。SB89の東約１ｍに位置する。掘方は円形を呈し、一部調査区外に広がるが、直径約４ｍ、深さは遺構検出面から約2.2ｍを測る。井戸の構造は木組多重井戸で、縦板組の方形井戸枠の内側に縦板組の多角形井戸枠を設置する。草戸千軒町遺跡の分類では縦板組横桟型＋ほぞとめ型となる（草戸千軒町遺跡研究所1996）。

方形井戸枠は一辺４～５枚、計19枚の縦板で構成される。縦板はヒノキ亜科の板目材で辺材側を内側に用いている。内面は平滑に仕上げ、外面には粗い整形痕が残る。上端は腐食し鋸歯状を呈す。法量は長さ138.3～159.1㎝、幅は6.7～13.9㎝のものと23.9～30.3㎝のものがあり、厚さは2.1～3.3㎝を測る。幅の広い材を主体として、幅の狭い材を調整材として用いている。四隅に支柱を配し、支柱の外側に横桟を３段組む。支柱は長さ163.5～167.9㎝、幅・厚さは8.1～9.4㎝の角材を用いている。上端は腐食している。支柱と横桟の緊結は角釘を使用している。横桟に沿わすように外面に縦板を並べる。縦板同士の緊結はなく、それぞれの縦板を横桟に釘付けする。縦板の目地部分には細長い板材を外面に添える。

内側の多角形井戸枠は11枚の縦板で構成される。縦板は柾目材で、内面は平滑に仕上げ、外面には整形痕が残る。法量は長さ153.2～163.8㎝、幅は28.1～29.9㎝、厚さは3.1～5.2㎝である。上部は腐食により鋸歯状になっている。枘、木釘、鎹により緊結される。枘は調査時にも良好に残存しており、緊結を維持していた。鎹は井戸内に転落した上部の部材に伴うものを１点確認したのみで、他の鎹は残存していなかった。縦板の目地部分には添板を配するが、添板は板材の角度に沿った加工が施されていた。図150断面図に示す６層が湧水層にあたり、調査時にも湧水が著しかった。多角形井戸の構築にあたっては高い木材加工技術が用いられ、鉄釘、鉄鎹が多用されている。円形部材の横幅は28.1～29.9㎝におさまっており、調整材を用いず同じ規格の縦板を用いて構築されている。正十一角形はコンパスや定規を用いて作図をすることが不可能な多角形として知られている。縦板を緊結する枘の角度が147°の前後にばらつくことは作図に基づいて事前に加工、調整を施していないことを示しており、板材を現場合わせで組み上げた可能性が高い。縦板の枘穴は彫り直しや位置を変更したものが認められないことから、熟練した経験に基づく、高い技術がうかがえる。そのように構築された井戸枠は調査時点でも一分の隙間もない状態を保っていた。

多角形井戸は播磨地域では類例が少なく、管見の範囲では多可町の安坂・城の堀遺跡のものが知られるだけである（多可町2007）。その他、鎌倉の武家屋敷、京都の貴族屋敷や七条町などの富裕層が居住する場所での検出例が多いとされている。多くの井戸を検出した草戸千軒町遺跡においてもそうした住人の居住が推測される中心区画から多角形井戸の検出が多いことが指摘されている（草戸千軒町遺跡研究所1996）。

出土遺物
(図150)

井戸は有機質を多く含む土砂によって埋められていた。土器の出土は少ないが、木簡をはじめとする木製品の出土が目立った。土師器小皿936、須恵器鉢942は井側内の中層から、総朱の漆椀937、土師器堝939は埋土下層から出土した。土師器堝938は掘方から、須恵器甕940、須恵器甕941、瓦質土器風炉943は多角形井戸枠と方形井戸枠の間の埋土から出土した。936は底部を欠損するが、残存部位から皿Ｇと考える。938と939は鉄かぶと形のⅠ類とⅡ類である。938は口縁部の小片であるが、口縁部に屈曲が認められないことからⅠｂ類と見られる。SE09出土のⅠａ類に後出するタイプであることからⅠａ類からⅠｂ類への変化が15世紀初頭前後であることを裏付ける。939は口縁部内面に２段のナデを施すが、端部は拡張せず薄手の造りである。942は底部に輪高台を貼り付けた鉢である。

木簡
(図151~154)
(巻頭図版7·8)

上記の土器とともに17点の木簡が出土した。図151に木簡の出土状況を模式的に示した。出土状況を記録しながら掘り下げを行ったが、徐々に湧水が激しくなったため、下層については土ご

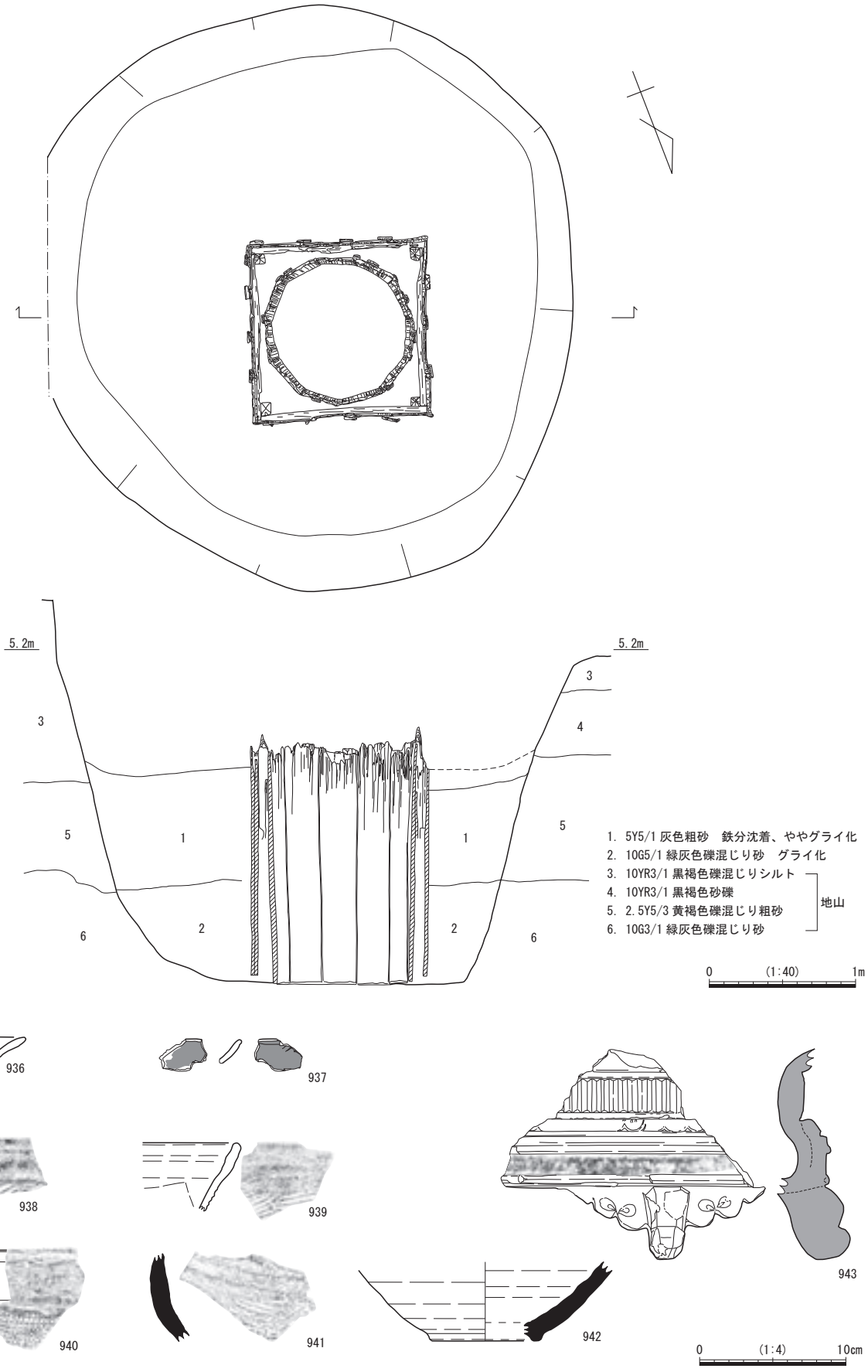


図150　SE10平面・断面図、出土遺物①

と取り上げた。上層のものについても資料の保護を優先したため、土毎取り上げたものが多く、簡易な記録にとどまった。年号の記載のあるものは944と946、948、945、947であり、図151に示した出土状況から年号と出土位置は対応しておらず、保管していたものをまとめて廃棄した可能性が高い。

944は上部をわずかに欠損する。中央に「奉誦読仁王般若経□(カ)」、左に「応永八年正月十九日」の墨書。中央やや上寄りに釘孔がある。スギ材の板目材を用いている。

945は完存し、頭部を圭頭に加工する。中央に「梵字　奉講読仁王般若経」、右に「南無五大力菩薩」、左に「応永十一年六月二日」の墨書。中央部に釘孔がある。

946は完存し、頭部を圭頭に加工する。中央に「奉転読大般若波羅蜜経」、左に「応永十五年十月十二日」の墨書。中央やや右寄りに釘孔がある。

947は完存し、頭部を圭頭に加工する。上部に「敬白」、中央に「奉読誦仁王般若経」、右に「南無五大力菩薩」、左に「応永十六年正月八日」の墨書。中央部に釘孔がある。

948は完存し、頭部を圭頭に加工する。中央に「梵字　奉転読大般若波羅蜜多経家門守護所也」、右に「南無十六善神王」、左に「応永二十年五月吉日」の墨書。釘穴が確認できないが、文字が浮きあがっていることから打ち付けない状態で屋外に置かれていた。出土時点では墨が良好に残っていたが、保管中に墨が流れたため現状では浮き出した文字のみとなっている。

949は中央付近で割れ、左側を欠損する。上部に「梵字」、右側に「十六善神王」、中央の文字は半裁されているが、「奉転読大般若経□(カ)」と読める。中央部に釘孔がある。

950は大きく２分割であるが、ほぼ完存している。頭部を圭頭に加工する。上部に「梵字」、中央に「□(奉カ)□□(読カ)仁王□(経カ)□(読カ)」、右に「五大力□」、左に「□(応カ)」の浮き出し文字。応永の可能性がある。中央やや上寄りに釘孔がある。スギの板目材を使用している。

951は左側縁を欠損する。頭部は圭頭状に加工されていたと想定する。中央に「□□」、右に「十六善神王」、左に「□」の浮き出し文字。中央は釈読できないが、十六善神王との対応から大般若経の転読札であろう。左は年号であろうか。中央やや上寄りに釘孔がある。

952は左半分欠損する。中央に「□(梵字奉カ)□□□」、左に「□」、中央上寄りに釘穴がある。

953は左半分欠損する。中央に「□(奉)□(読)□(誦)□(仁)□(王)□□□□(読也カ)」、右に「□」の浮き出し文字。中央部に釘孔がある。

954は上部のみ残存し、頭部は圭頭に加工する。上部に「梵字」の墨書がある。下部を欠損するが948と同じ梵字を書くことから大般若経転読札であろうか。

955は上部を欠損する。中央に「読大□□　□」の浮き出し文字、左右に文字は確認できない。大般若経転読札であろう。欠損部の下、中央に釘孔がある。

956は左下半を欠損する。中央に「□(奉カ)□□　□　□□」の浮き出し文字があるが、釈読不能。中央やや下寄りに釘孔がある。

957は完存する。出土時点で肉眼での墨痕は確認できなかった。赤外線による観察でかろうじて材の中央上部に墨痕と左下に「敬白」の文字を認めたが、現状では確認できない。

958は完存する。頭部に切り込みを入れる。表面に「咄天咫(符籙)急々如律令」、裏面に「ちうあふ」の墨書が残る。呪符木簡である。

959は木簡の残欠である。中央に「□」のわずかに浮き出し文字。

960は頭部を圭頭状に加工し、木簡の一部であろうが、保存処理の際の赤外線撮影では墨痕の確認はできなかった。スギの板目材を使用している。樹種同定は944、950、960において行った。他の木簡についても目視による限り、同じ杉材と見られる。

出土した木簡はいわゆる大般若経転読札や仁王経の祈祷札、呪符木簡である。大型の木簡948

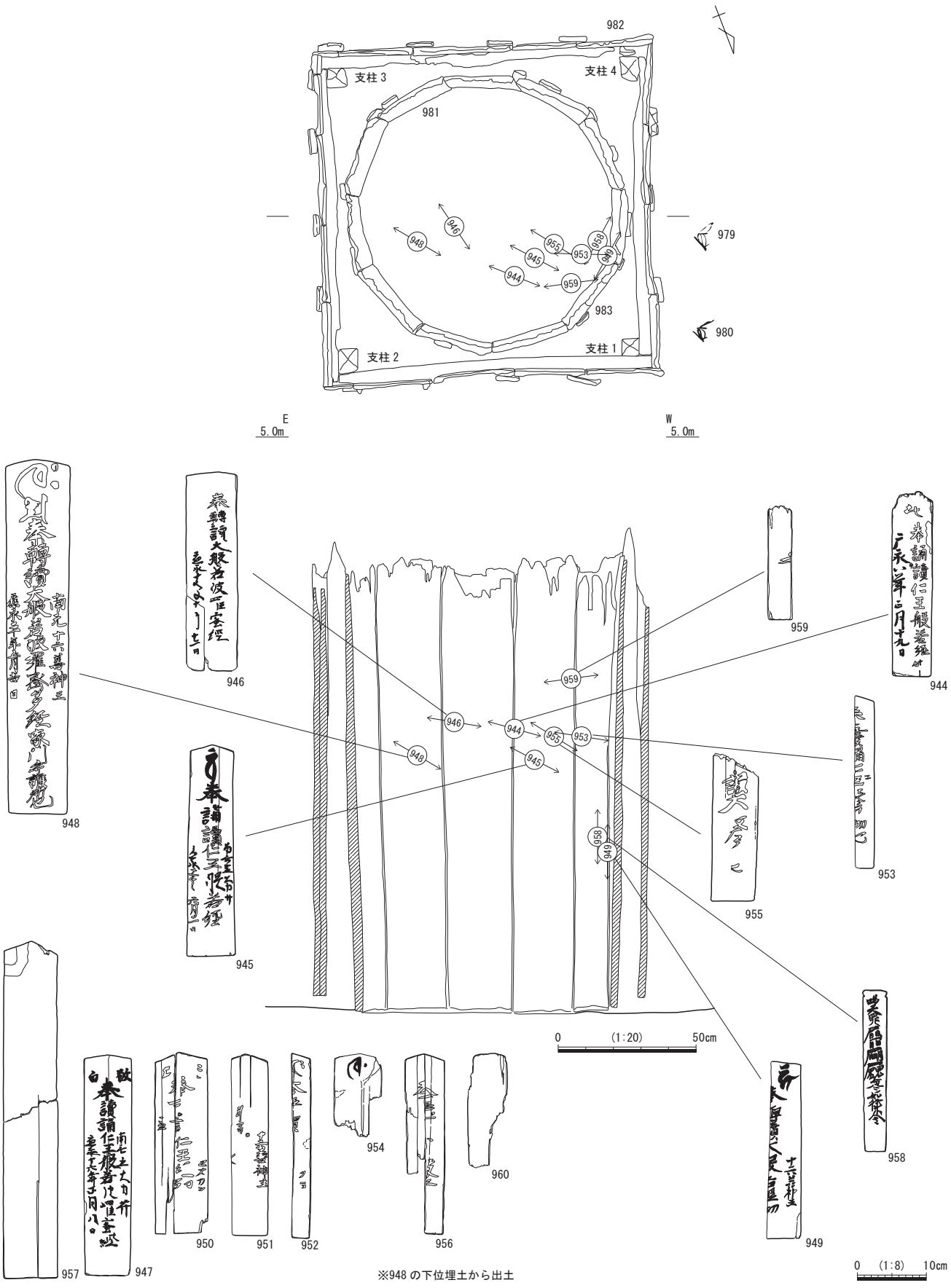


図151　SE10木簡出土状況平面・断面模式図

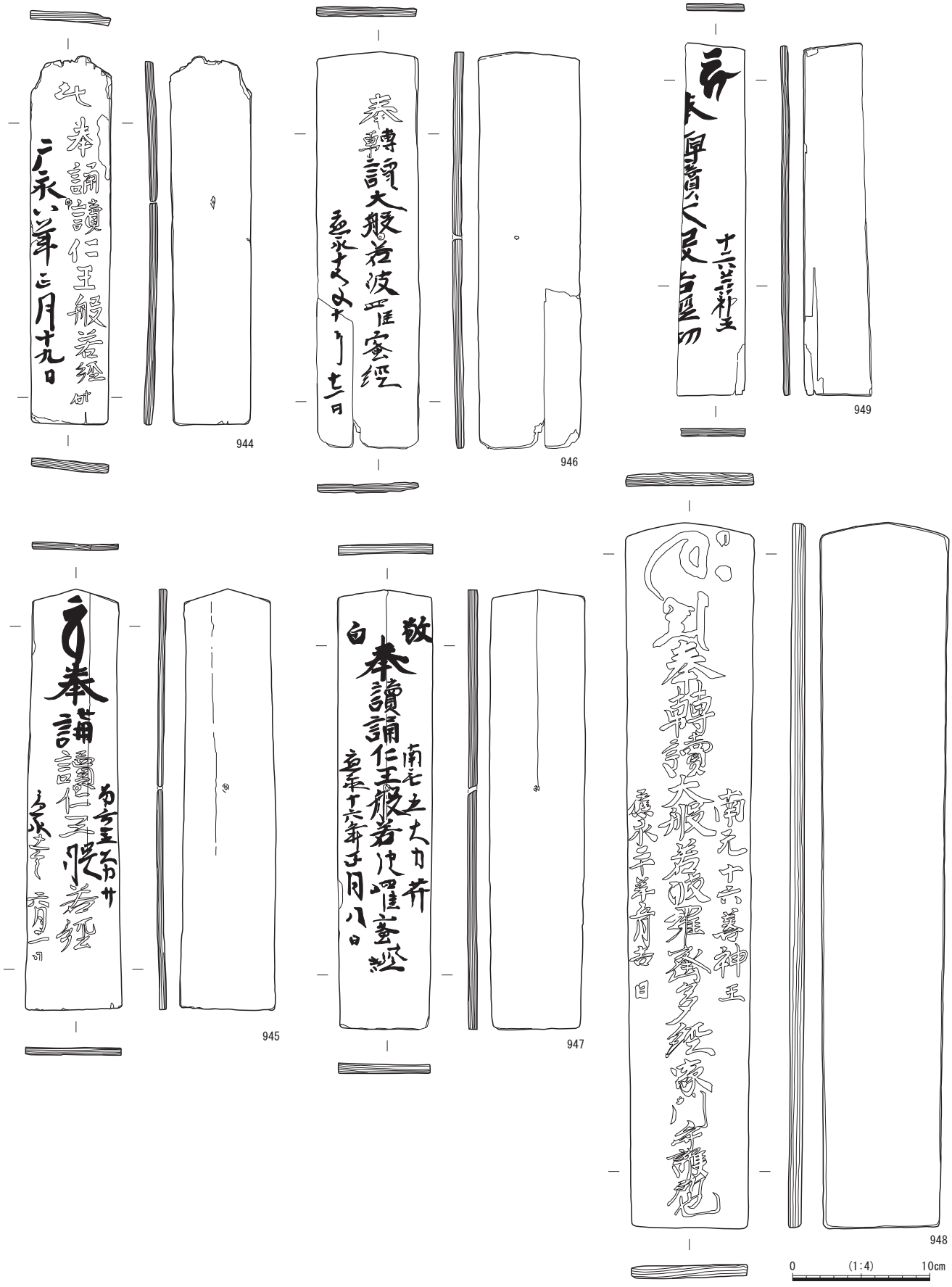


図152　SE10出土木簡①

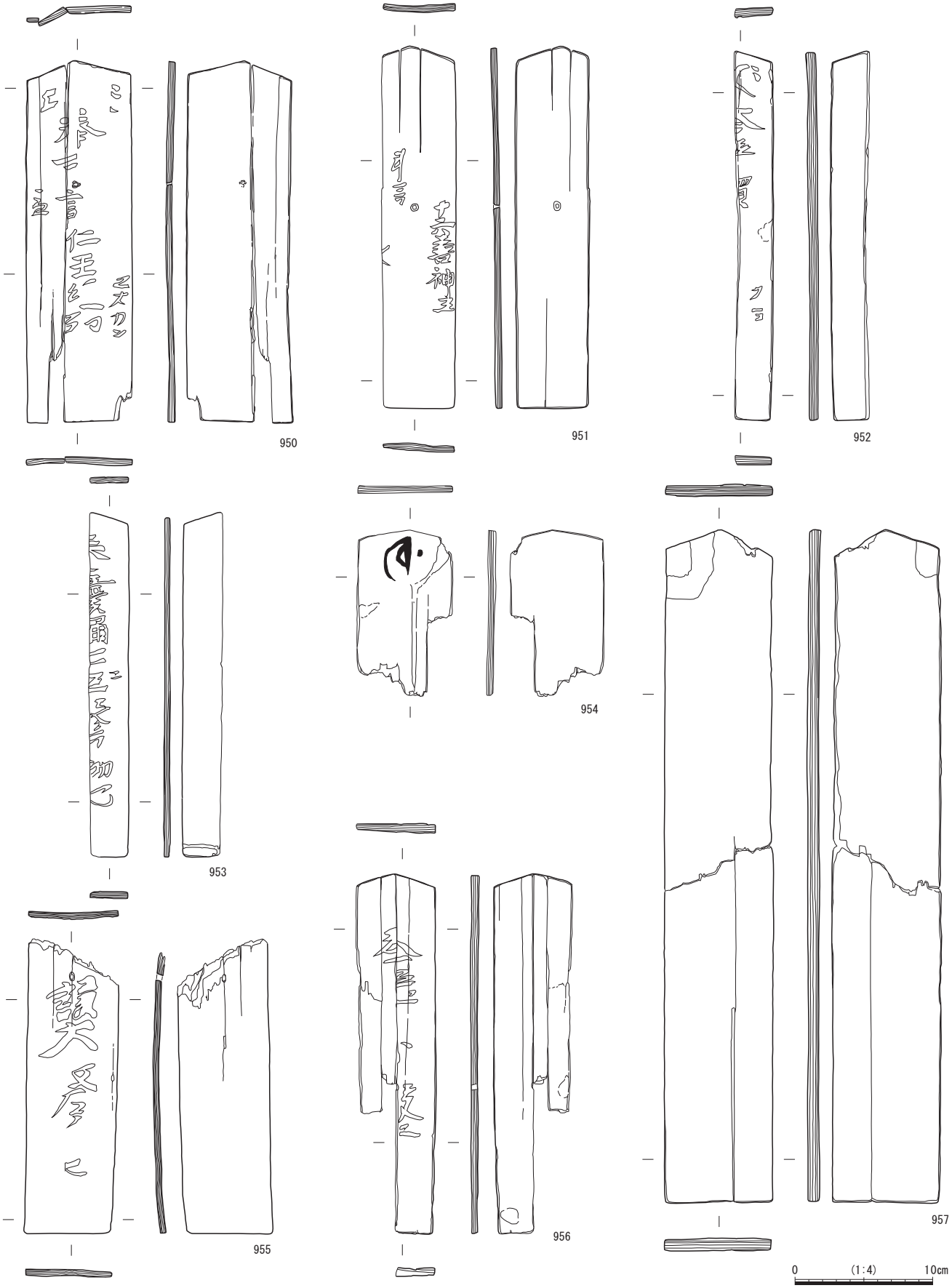


図153　SE10出土木簡②

と957と呪符木簡958を除いて木簡は釘穴を持つものが多く、柱等に打ち付けられ屋外に置かれていたことがうかがえる。そのため、墨の残りは総じて悪く文字の浮き上がりが認められる。内訳は大般若経に関する木簡が６点、仁王経に関する木簡が５点で、年号を記したものが５点あり、更に２点可能性がある。応永年間の祈祷札のまとまった出土例といえる。札は、そのサイズから大きく50㎝前後の大型品とそれ以下の小型品に分けられる。小型品12点の外形を比較すると953、951・956、949・950、944・952、946、945、954・955・947の７種に分類できる。祈祷内容とは対応しておらず、札の形状との相関も認められない。これらの札はいずれもスギの板目材とみられる。小口面にかかる年輪は概ね平行であることから比較的大きな材から切り出されたものと考えられる。こうした材は祈祷場所において用意されていたものと想定できることから札の規格や形状は祈祷場所との関連を示すのかもしれない。

木簡の位置づけ

祈祷に使用された経典のうち、大般若経は一部600巻に及ぶ経典で、古くから鎮護国家・除災招福のために転読されてきた。仁王般若経も古くから鎮護国家・七難除滅を祈る仁王会が行われてきた。これらの経典は中世段階において徐々に村落へ浸透し、勧農に対して責任を持つ武士層に受容されていったことが明らかにされ、大般若経転読札の出土傾向から武士階層への受容を基軸とし、中世後期に農村部から都市部へ展開していったことが示されている（藤沢2000）。室町時代の農村における仁王会については、農業生産の豊作を祈願する性格が強いものになっていくことが指摘されている（井原2009）。また、史料に記された正月八日の巻数版奉納等の実例が石川県堅田Ｂ遺跡等各地で出土している（金沢市2004）。堅田Ｂ遺跡の記載内容から中世城館における正月行事は仁王会の系譜を引くことも指摘され（藤沢2002）、この点からSE10出土資料のうち、応永16年正月８日の日付の祈祷札947は、正月の儀礼に伴うものであることがわかる。

その他の日付を持つ木簡についても、そうした儀礼が随時行われていたことを示す。それらを理解するのに鵤荘に残された史料が参考になる。康正３年７月に書写された斑鳩寺の「斑鳩寺雨請謹行次第」によれば般若心経一千巻、仁王般若経卅二座、大般若経壱部等の謹行を七日間行い、その後檀特山に登って雨乞いを行ったことが記される（田村2004、上田2004）。また、『鵤荘引付』には明応６年（1497）に「当国近年虫喰以外也」とあり播磨国の虫害のため府中惣社諸山において播磨国守護により仁王講が執行されている。翌、明応７年（1498）に「猶以虫喰不止」とあり、虫喰い被害が止まないことから荘園領主である法隆寺において行信大般若･百座仁王講が行われ、「札」が在地に配布されたこと等の記事が見える（太子町1989）。播磨地域において雨乞い・虫害に対して大般若経・仁王経が祈祷されたことが確認できる。木簡の書かれた応永年間には多くの気象災害の記録が残されている（藤木編2007）。畿内近国の記事を確認すると応永８年は「天下大飢饉、夏　旱魃」、「秋　洪水」、応永11年は「天下飢饉」、７月には山城国で旱魃の記事が残る。応永15年は「大飢」、諸国で祈雨の記述が認められる。応永16年も相生市の矢野庄で飢饉。応永19年には播磨地域で大地震があり、寺社等が多く倒壊している（姫路市史2005）。応永20年には矢野庄で百姓等の強訴、山城国で７月に旱魃の記事が認められる。区画Ａにおいて応永年間に頻繁に祈祷が行われていたことは、こうした気象災害等と無関係でないだろう。

現在、各地で出土する中世祈祷札を『木簡研究』等に基づいて集成すると30点確認できる。これらもやはり50㎝前後を境に分けると大型のものが３点、小型のものが27点となり、圧倒的に小型品が多い。SE10出土の大型の転読札948には「・・・家門守護所也」とあり、この資料のみ転読の目的が記される。類例として永正５年（1508）の年期を持つ百間川米田遺跡出土資料に「・・守護門□」（岡山県1989）、鳥取県大御堂廃寺出土資料に「・・・守護門所也」とある（根鈴2000）。これらはいずれも50㎝を超える大型品である。この「門」が直接居館あるは寺院の門をさすのか、あるいは「一家一門」等その他の内容を指すのかは判断できかねるが、共通する文

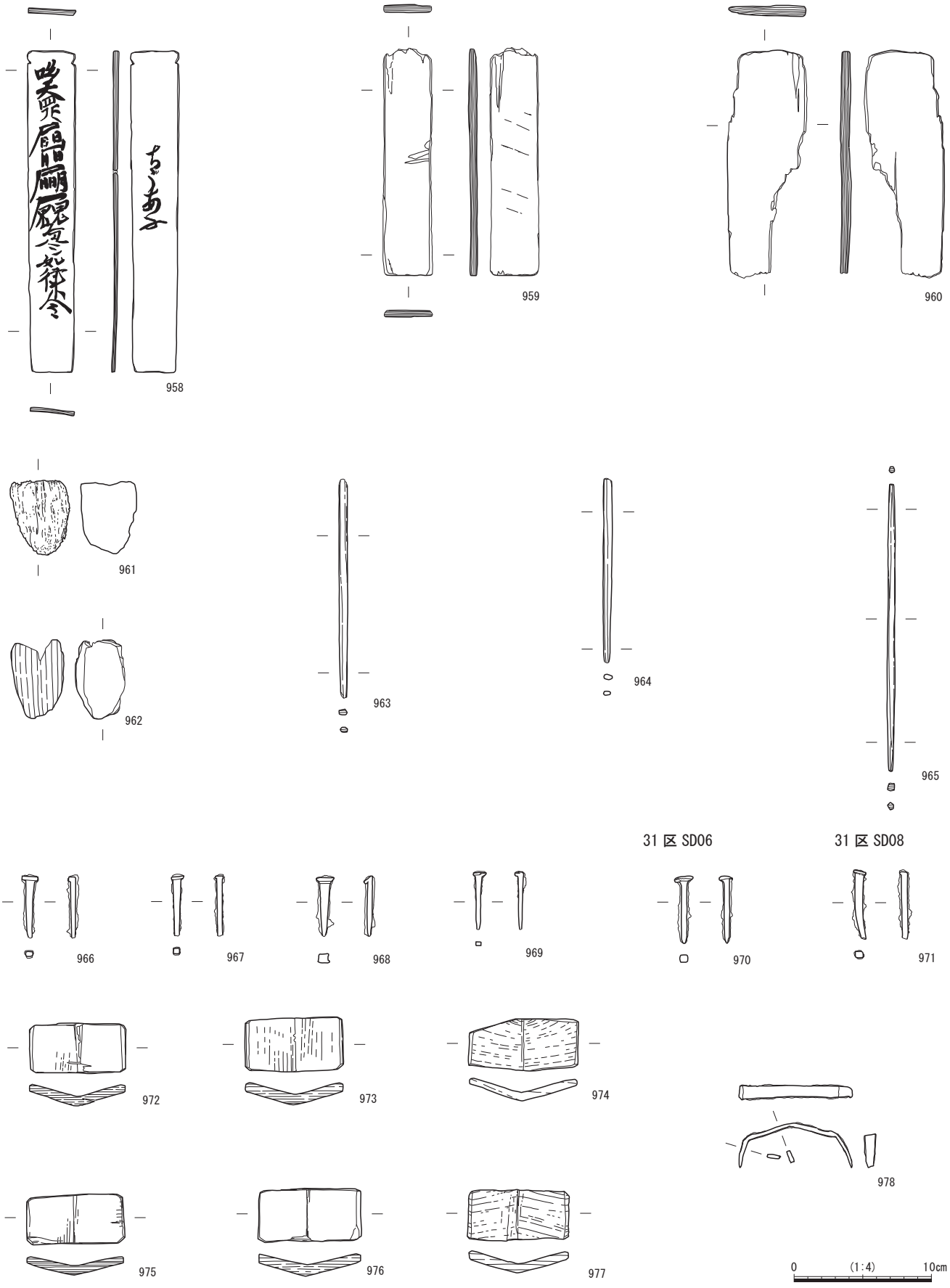


図154　SE10出土遺物②

言が書かれている点は指摘できる。また、大型品のもう一点は大阪府楠葉野田西遺跡の居館から出土したもので、明応８年（1499）の年紀をもち、「･･･祈願成就息災延命祈也」と記される（谷川･西村1997）。中世後期になると、転読札の性格が多様化する傾向が指摘されている（藤沢2000）ことからもSE10出土資料全てが勧農に伴うものではなさそうだ。対して小型品でそうした内容を記すのは、２点のみで天文15年（1546）の初田館出土例が初見となる（兵庫県1992）。大型品と小型品の性格に差があるのならば、大型品の方が先行して祈祷の多様化を反映し、願主自らの目的によって祈願され、作成された可能性を指摘できる。それに対して小型品には、初田例まで祈祷の目的を記すものはない。前述したようにSE10出土資料では、札には規格と形状にある程度のまとまりがあることが指摘できる。『鵤荘引付』の例を踏まえれば、小型品は配布された「札」の可能性もあるのではなかろうか。区画Ａから出土した祈祷札は、年号から比較的短期間にまとまり、頻繁に祈祷を行っていることを示している。その祈祷は、気象災害等を反映し、区画Ａの住人が寺社等に直接働きかけた結果とも考えられるが、更に上位の階層による祈祷の可能性も含めて考えておきたい。いずれにせよ、区画Ａは「伊和西郷」における勧農の拠点であったことが出土木簡から確認できる。文献史学が明らかにしているように領主層が勧農のために様々な機会に多様な措置を講じていることを考古学資料から確認できる事例といえよう。

その他遺物
（図154･157）

961・962は多角形井戸枠内の埋土下層から出土した毬であろう。963～965は箸状木製品である。966～969は埋土下層から出土した鉄釘である。横桟との緊結に用いたものが外れたものか。SE10からではないが、同様の鉄釘970・971が区画Ａ内の遺構から出土しており、区画Ａ内において鉄釘を用いた施設等があったことがわかる。972～977は多角形井戸枠の縦板の枘である。枘は内角が145°～155°となるように加工されている。正十一角形の内角は約147°であることから部材に合わせて枘を作成し、枘穴を穿ったことがわかる。978は鉄製の鑿である。井戸内に転落していた多角形井戸枠の上部と考えられる部材に伴うもので、内角は148°を測る。981と982は多角形井戸枠を構成する部材である。いずれも側縁に面取りを施し、断面台形に加工されている。枘穴は３ヶ所穿たれ、外面には鑿の跡が残る。内側は材を割り裂いたままの状態で、外面には手斧等によるはつり痕が良好に残る。977・980と983は方形井戸枠の部材であるが、側縁は面取りを施さない。下端に983のように抉りを入れるものと979・980のように抉りを入れないものがある。内面は割り裂いたままの状態で、外面には加工痕が残る。

花押のある井戸部材
（図155･156）
（写真図版85）

979と980は図151に示した18・19の位置にあった方形井戸枠の部材である。井戸の掘方側に墨書で花押が描かれている。979の花押はいわゆる「足利様」と呼ばれる室町時代の武家において使用された花押に類似する（佐藤1988）。花押の６㎝下には墨書の点が認められる。980は979と一見異なるが、筆運びは共通しており類似した花押を描こうとしたと推測される。両者の描かれた位置を復元すれば図157に示すとおりとなりほぼ同じ位置に並んでいる。このことから花押は別の場所ではなく、井戸構築時に並んで書いた可能性が高い。花押の様式から区画Ａの住人によって書かれた可能性も高いが、もう一つの可能性として井戸を構築した職人による可能性がある。SE10は多角形井戸で、県内でも類例の少ない構造であり、播磨地域に通有の井戸構築技術とは異なり、木組みの技術からすればその製作にあたっては番匠等が候補としてあげられよう。職人による花押の例として、明石市報恩寺の出土瓦があげられる（明石市2013）。出土した瓦には瓦職人の名と花押が記されている。その花押の形状は足利様を意識したようにも見える。また、時代は下るが姫路城の昭和の大修理の際に大天守の建築部材に江戸時代の工人の名前とともに花押が記されている（文化財保護委員会1965）。このことからSE10の花押の主は番匠等の可能性も十分考えられるのではなかろうか。その場合も花押を残した具体的な意図は不明であるが、瓦職人や大工らと通底する意識があるのではないだろうか。

0 (1:8) 10cm

図155　花押墨書井戸枠①

図156　花押墨書井戸枠②

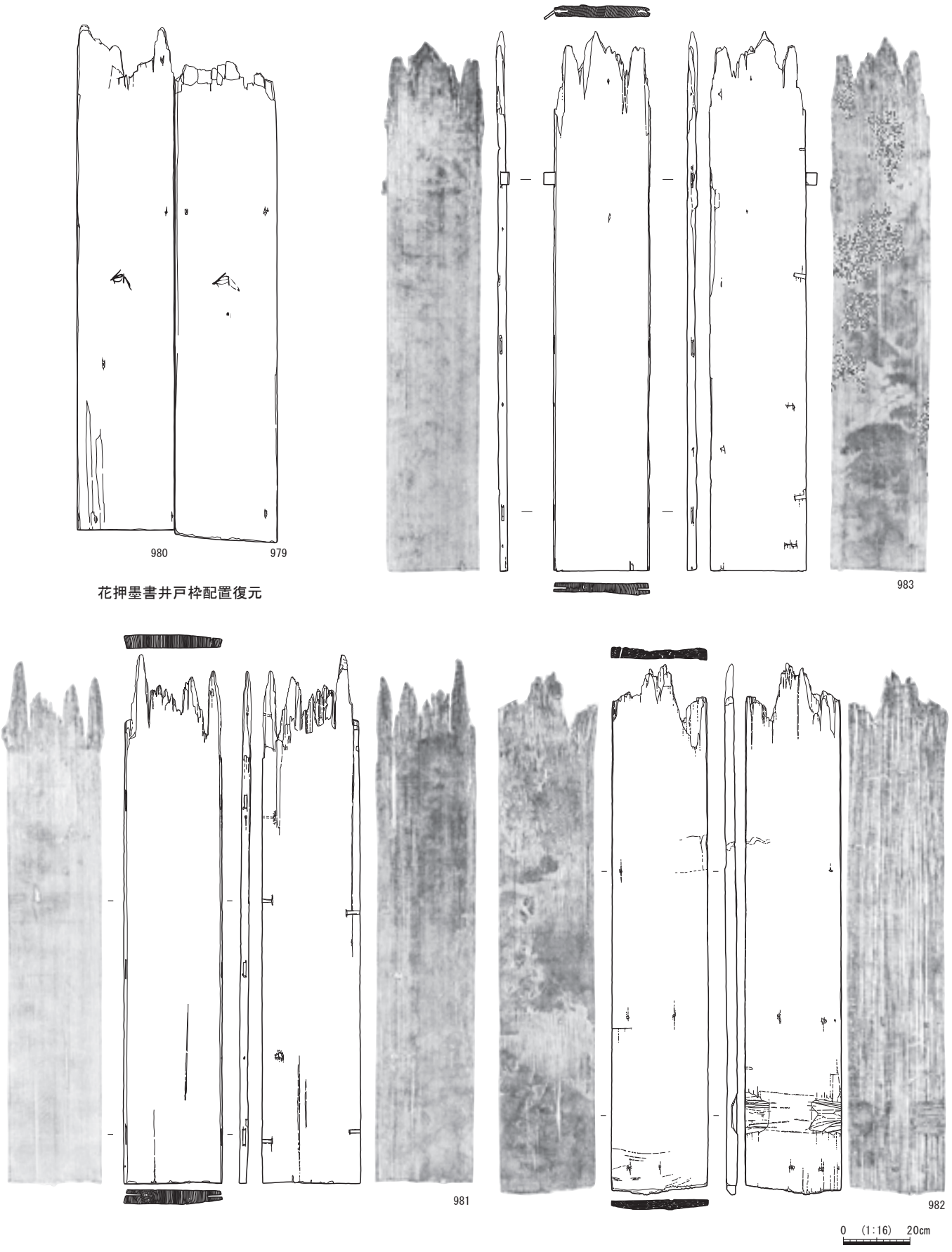


図157　SE10円形・方形井側部材

区画Ａ
(図132･136･158･159)
(写真図版55)

調査区の南で検出した南北方向に長い区画である。区画溝は西側を除く、東・南・北の３方で検出した。北側の区画溝は「土居ノ内溝」と平行し、十ノ坪と十五ノ坪境に位置する。南側の区画溝は全容は不明であるが、三ノ坪と十ノ坪境にあたる。東側は通常の区画溝ではなく、深田となっている。区画Ａが機能していた段階から深田であったかどうかは不明であるが、深田をはさんだ５次30区と５次31区の遺構検出状況が異なることから区画Ａの区画遺構と判断した。その規模は区画溝の内法で南北約110ｍ、東西64ｍ以上を測る。

北区画溝
(図136･158･160･166)
(写真図版57･68)

北区画溝は４次25区ＳＤ05から東へ延び、５次31区ＳＤ01につながる一連の溝と想定される。いずれも水路である土居ノ内溝の南側に位置する。西端から延長63ｍ分を検出した。上幅1.3ｍ、下幅60㎝、深さは遺構検出面から40㎝を測り、断面形は逆台形を呈す。東端は５次29区ＳＸ01とした深田にあたる手前で完結しており、ＳＸ01との切り合いはない。埋土はシルトもしくは粘土である。北区画溝と土居ノ内溝との切り合いについては、図166のＢ－Ｂ'断面に示すように江戸時代の水路に切られるが、その下層の水路とは切り合いがなく、区画溝は水路とは別であることが確認できる。５次31区ＳＤ01の北肩とＳＸ01の北端の位置は揃っており、両者の配置には計画性が認められる。

遺物は、４次25区ＳＤ05からは少なく、図示できたのは埋土上層から出土した土師器堝985・986、備前焼擂鉢987、下層から出土した備前焼甕988、埋土最下層から出土した黒漆椀984である。985は鉄かぶと形Ⅰ類、986は播但型堝の口縁部である。987は中世３ａ期に位置づけられる。984は外面に朱漆で紅葉を描く。

５次31区ＳＤ01からは土師器皿がまとまって出土した。995と998は中層から、994・1003は青磁碗1008とともに下層から出土した。下層からはその他、折敷1009、杓子1010、木簡1011が出土した。それ以外は全て上層からの出土である。土師器小皿は口縁端部にヨコナデを施すＡ類と施さないＢ類がある。989・991・997・998・1000・1001はＢ類である。その他はＡ類である。1007は口縁部が大きく外反し、端部がやや上方に立ち上がる皿Ⅰである。995の器壁はやや厚く、内面をハケ状工具でなでた痕が残る。外面には粘土のちぎれが観察できるなど、他の皿とは様相を異にする。青磁碗1008は無文である。杓子1010はアカマツもしくはクロマツの芯去材を用い、柄と端部を欠損するが、復元すれば杓子部分の直径は約12㎝となる。1011は上部を欠損し、先端を三角形状に加工している。表裏とも墨痕が確認できるが赤外線観察でも釈読できなかった。塔婆ないし呪符木簡の類であろうか。遺物の様相からⅥ期古段階に位置づけられる。

東区画溝
(図136･158･159･161)
(写真図版62･66)

５次29区ＳＸ01、６次30－１区ＳＸ01、11次６－４区ＳＸ01が一連の区画溝と考える。区画Ａの北区画溝が完結する位置から掘り込まれた大型の遺構である。検出規模は南北延長111ｍ、幅18～21ｍ、深さは遺構検出面から約30㎝を測る。遺構の最下部まで耕作土で埋まっており、この区画が周辺よりも一段深い深田であることが判明した。図161・図166に示すように区画Ａに伴う時期の埋土はほとんど残っておらず、また遺物が出土しないことから厳密には深田の形成時期を把握することができない。区画遺構と判断した根拠は、図165と図166のＣ-Ｃ'断面に示したように水路である土居の内溝（29区ＳＤ01）とは直接つながりがなく、水路手前で完結することから北西部で検出した棚田筋のように水路の前身とは考えにくい。また、周辺の灌漑状況からもこの部分のみをあえて深田にするメリットは見当たらないことから、周辺に比べて一段下がっていた範囲を深田として再利用したと考えた。また、前述したように北区画溝がこの深田の手前で完結していることから、その掘削は計画的に行われた可能性が高く、区画Ａの構築と同時期に掘削されたものと想定できる。ただ、前述した深田は全てが区画Ａの東区画溝として機能していた確証はなく、最終的に深田として利用され埋められた規模を示している。全域が判明した６次30－１区ＳＸ01と区画Ａ内で検出した遺構との関係を見たとき、５次29区ＳＸ01の方がより当初の状態に近いように思われる。遺物は出土していない。

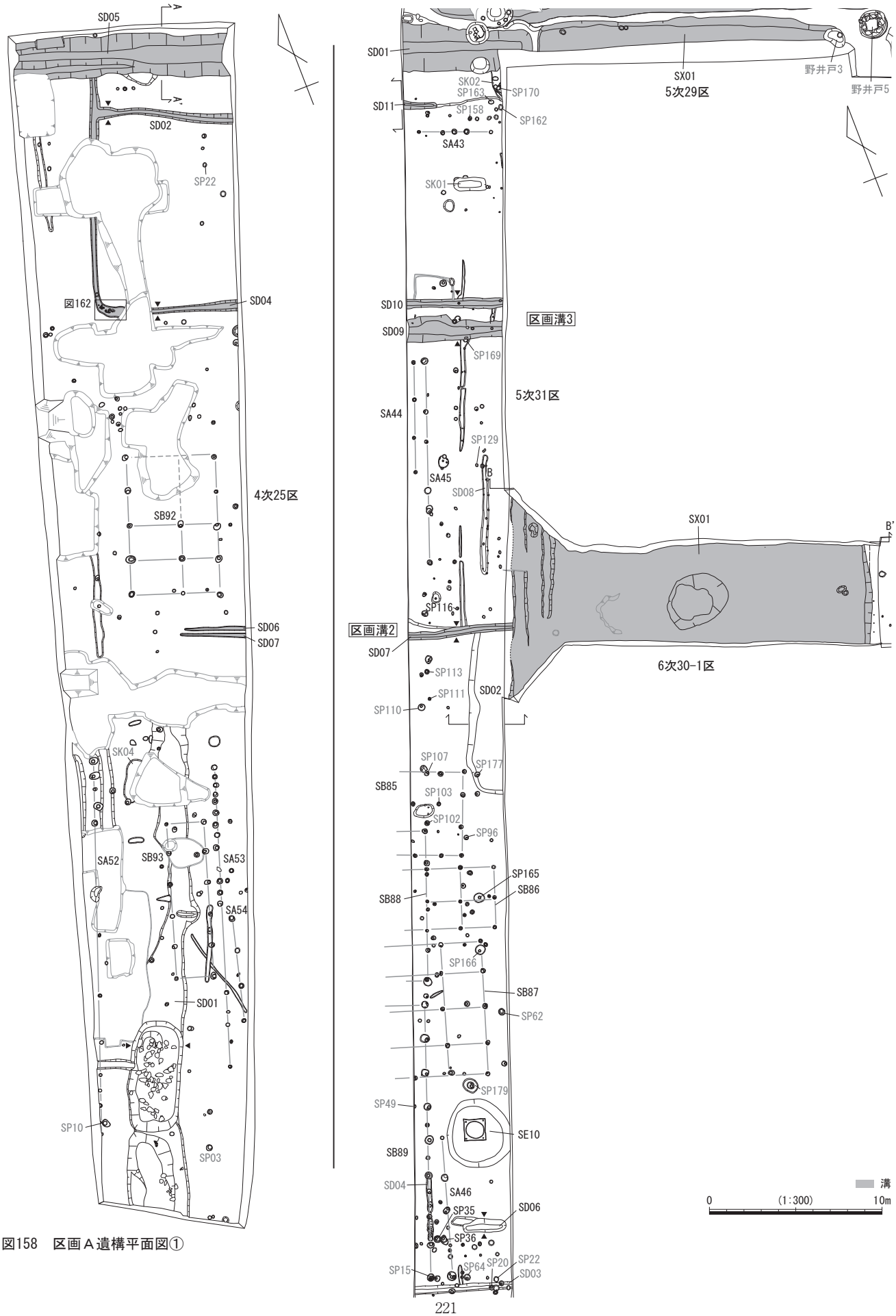


図158　区画Ａ遺構平面図①

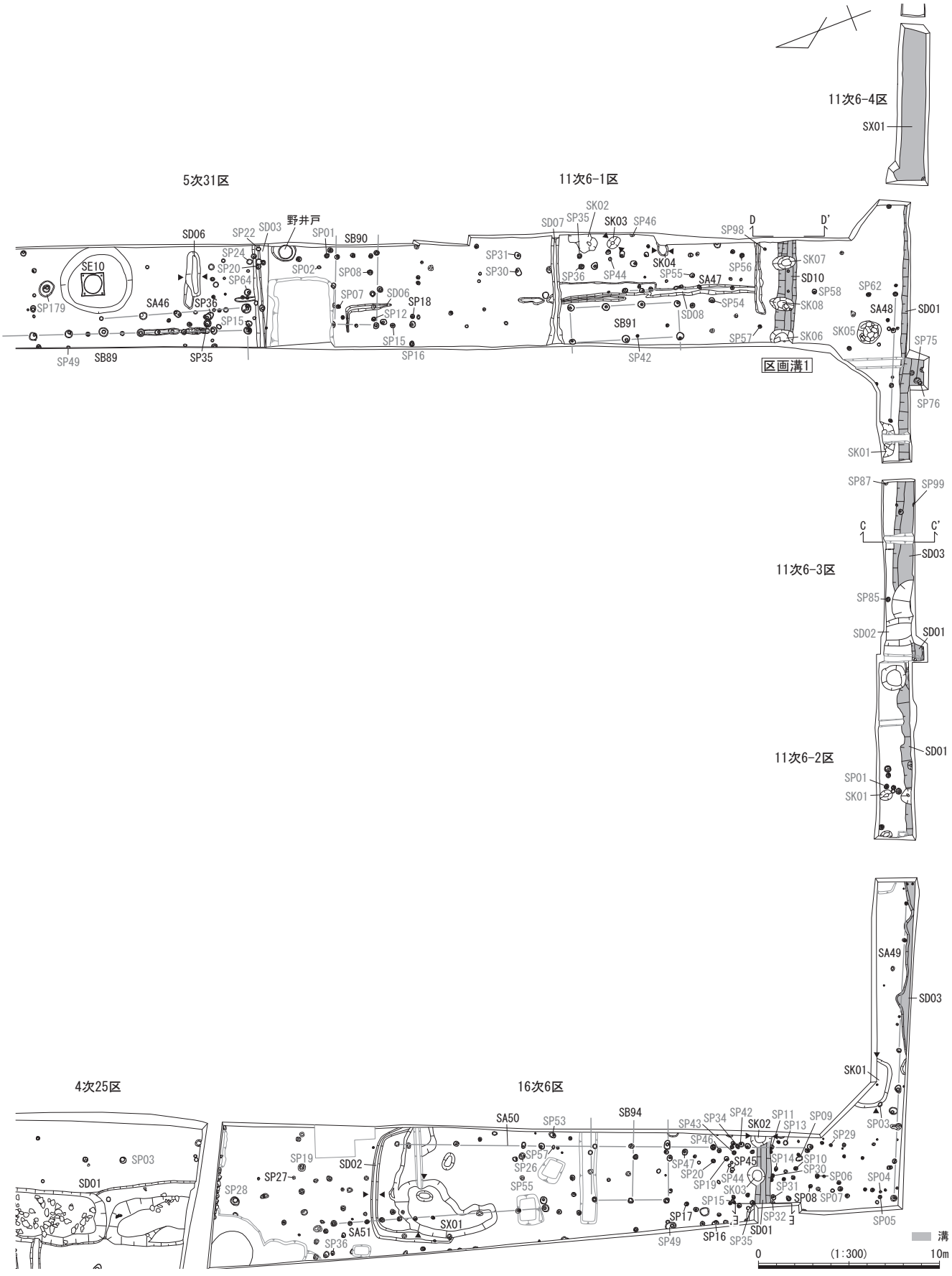
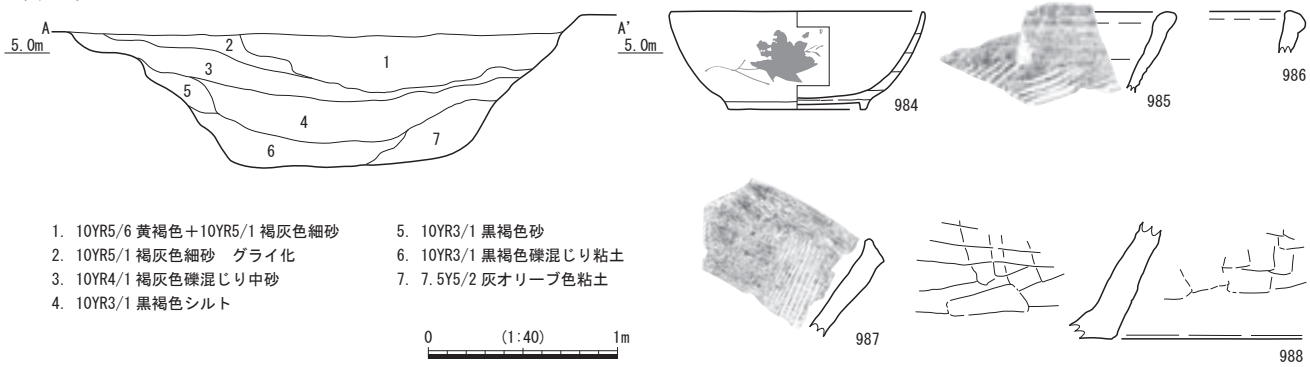


図159　区画Ａ遺構平面図②

4 次 25 区 SD05 【図 158】



5 次 31 区 SD01

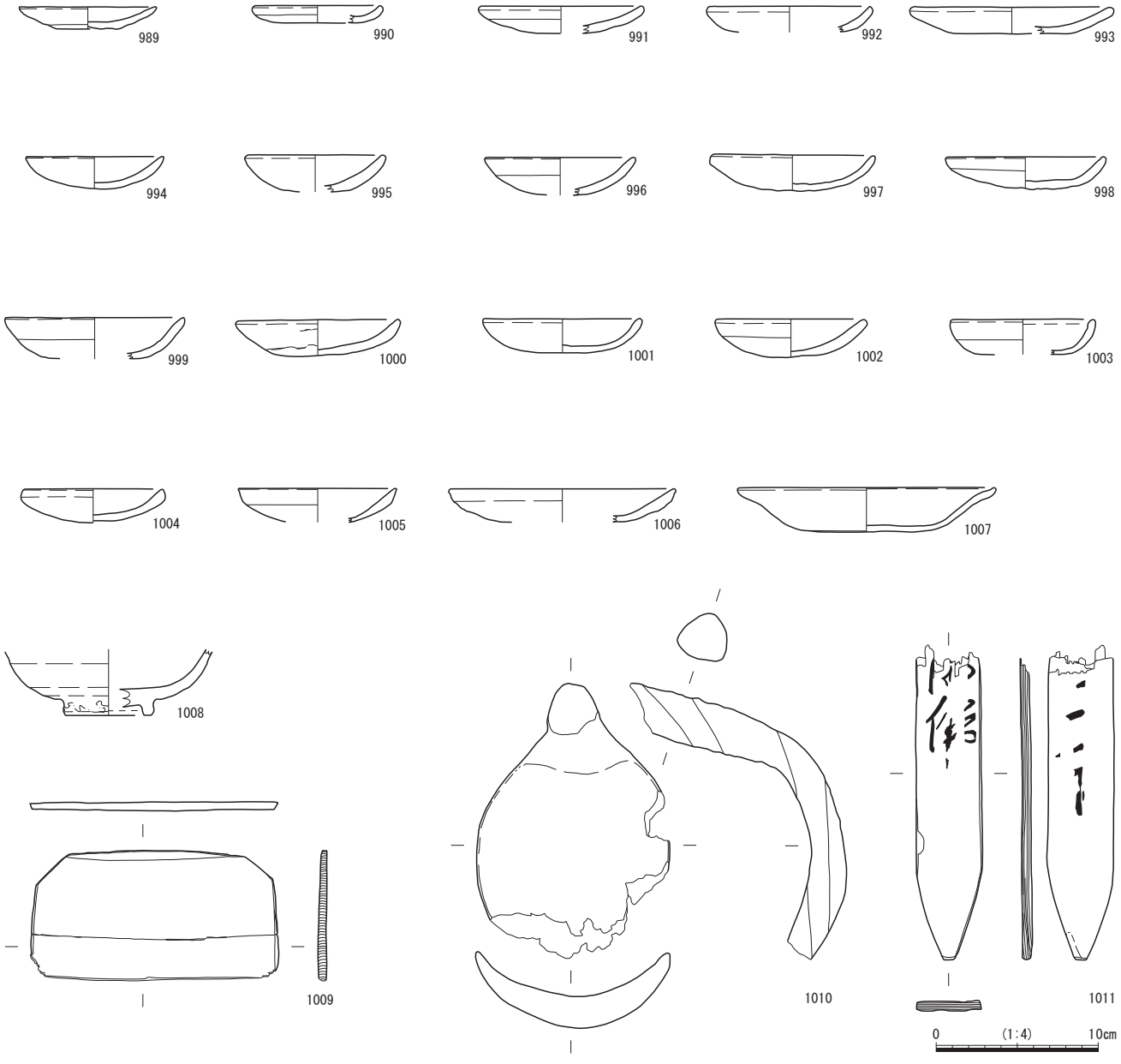


図160　4次25区SD05断面図、出土遺物、5次31区SD01出土遺物

南区画溝
(図136･159･161)
(写真図版71･72)

11次６－１～６－３区SD01・SD03、16次６区SD03が一連で繋がると想定する。北と東の区画遺構と異なり、調査区外に大半が広がるため、規模と構造の詳細は明らかでない。延長は56m以上、幅は1.36m以上、深さは遺構検出面から約50㎝を測る。図161に示した11次６－３区SD01・03の断面から溝は２時期の作り替えが認められ、上層にSD01が、その下層にSD03が存在する。下層のSD03からは土師器皿1012、土師器堝1013が出土した。SD01からは土師器皿1014・1015、青磁碗1016、土師器堝1017、備前焼小壺1018が出土している。土師器小皿Ａ1014の底部は丸味を帯びる。1015は薄作りで口縁部が大きく外反し端部を摘み上げる皿Ⅰ、1012は口縁部ヨコナデをしないＢ類で、外面に粘土のチヂレが認められる。土師器堝1017・1013はいずれも鉄かぶと形Ⅰ類である。遺物の様相は北区画溝と類似することからⅥ期に位置づけられる。

西区画溝
(図7)

区画Ａの西側の区画遺構は検出していない。現行の水路は４次29区西端まで「寺前水路」が南流し、図７に示すように東へ流れる「土居ノ内溝」と西へ流れる「ろくみど筋」に分岐する。「ろくみど筋」は「寺前水路」の法線を南に延長するのではなく、一旦西へ６ｍ程折れ県道を横断したのち南流する。あるいはこの「ろくみど筋」がかつての区画Ａの西区画溝を踏襲している可能性もある。ただ、道路をはさんだ南西部の調査区からは今のところそれらしき遺構は確認できていないことから、当初から存在しないか、その大半が現道と重なっているかのいずれかであろう。前述した柵SA48・49・51・52はこれらの区画遺構の内側をめぐるように配置されていた可能性が高い。また、後述する区画溝と平行する溝との間に、土塁が存在する可能性も捨てきれないが、検出した遺構の状態、土層断面からはその存在を積極的に示唆することはできない。また、区画Ａは水路とは直接関係ないことも判明した。検出した遺構からは防御性の高い居館とは考えられず、条里地割の一町近い規模を占めるものの周辺との高低差はなく、外部との隔絶は少ない区画であるという印象を受ける。地元の古老の伝える通称「クラヤシキ」はその性格の一端を伝えているのかもしれない。

区画Ａ内の遺構

既に記述した建物跡と柵、井戸の他、区画溝、土坑等がある。溝のうち４次25区と５次31区とで位置的に連続すると想定されるものを区画Ａ内を区画する遺構と考えた。南側から順に区画溝１から３と呼称した。

区画溝1
(図139･159･161)
(写真図版71･72)

11次６－１区SD10と16次６区SD01が該当する。未調査部分を含むため、断定はできないが検出位置、規模が共通することから一連の遺構と判断した。南区画溝の北約６ｍの位置で検出した。東西延長53.6m、幅１ｍ、深さは最大で80㎝を測る。溝の断面はU字状を呈し、掘り込みは深い。遺物の出土はないため、時期は不明であるが、この溝の埋没後に上面に11次６－１区SK06・SK07・SK08、16次６区SK02・SK03の土坑が掘られている。土坑は2.0m～2.5mの間隔で掘られ、大きさは長辺1.1～1.36mを測り概ね共通する。深さは47～100㎝とばらつくが、遺構の性格は共通する可能性がある。SK07とSK08の埋土から１辺20㎝程度の礫がまとまって出土したが、遺構の性格を知る手がかりとはならない。ただ、区画溝とこれらの土坑は形状が異なり、その位置関係から性格は同じである可能性も考えられる。

遺物は、溝からの出土はない。土坑からも破片が出土したのみであった。図化に耐えうる遺物はSK02から出土した白磁碗1019であるが、おそらく遺構の時期とは異なると思われる。

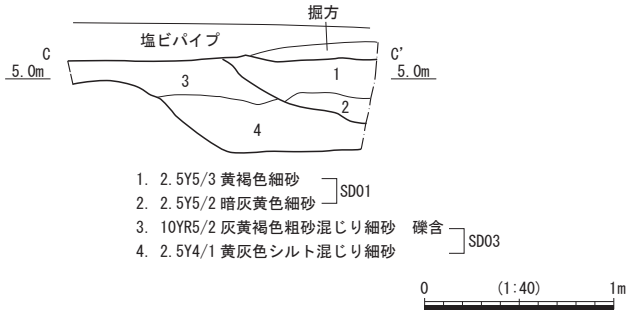
区画溝2
(図139･158･161)
(写真図版56･69)

５次31区SD07、４次25区SD06・07が該当する。北区画溝から南へ約32mの位置で検出した。後述する区画溝３とは約18m離れて平行している。延長は東西方向に52mを測り、31区SD07は幅20㎝、深さは遺構検出面から10㎝を測る。４次25区では溝の先端は２条に分かれ、いずれと対応するのかはっきりしない。遺物は31区SD07から土師器皿Ⅰ1020・1021が出土した。Ⅵ期古段階に位置づけられる。区画溝２と区画溝３の間でSB92やSA44・SA45を検出した。これらの遺構を区画する性格が考えられる。

6 次 30-1 区北壁 【図 158】

1. 2.5Y5/1 黄灰色細砂（旧耕土か）
2. 2.5Y4/2 暗灰黄色細砂

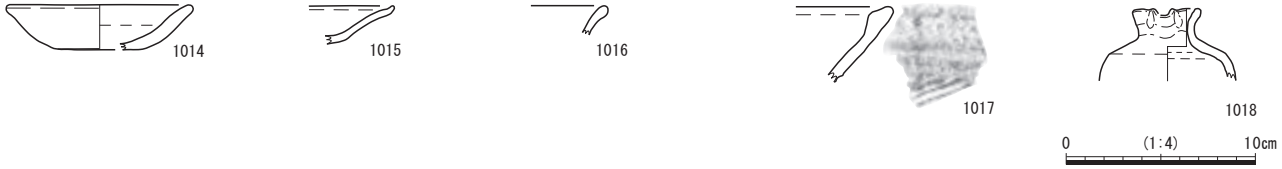
11 次 6-3 区 SD01・SD03 【図 159】



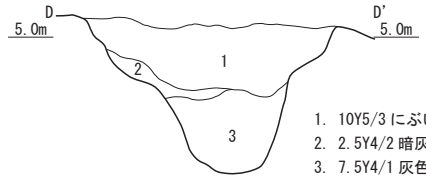
1. 2.5Y5/3 黄褐色細砂
2. 2.5Y5/2 暗灰黄色細砂 SD01
3. 10YR5/2 灰黄褐色粗砂混じり細砂 礫含
4. 2.5Y4/1 黄灰色シルト混じり細砂 SD03

SD03

SD01

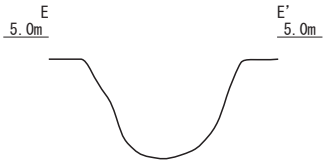


11 次 6-1 区 SD10 【図 159】

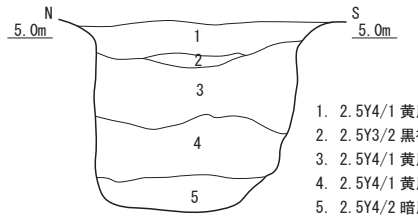


1. 10Y5/3 にぶい黄褐灰色土 礫混じり
2. 2.5Y4/2 暗灰黄色土 砂混じり
3. 7.5Y4/1 灰色粘質土 礫混じり

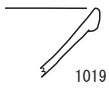
16 次 6 区 SD01 【図 159】



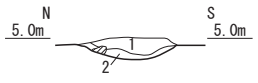
16 次 6 区 SK02 【図 159】



1. 2.5Y4/1 黄灰色細砂
2. 2.5Y3/2 黒褐色細砂
3. 2.5Y4/1 黄灰色細砂
4. 2.5Y4/1 黄灰色粗砂混じり細砂
5. 2.5Y4/2 暗灰黄色シルト

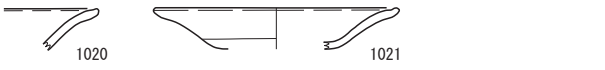


5 次 31 区 SD07 【図 158】



1. 2.5Y5/1 黄灰色中砂
2. 2.5Y5/1 黄灰色細砂

0 (1:40) 1m



0 (1:4) 10cm

図161 6次30-1区北壁、11次6-3区SD01・SD03、11次6-1区SD10、16次6区SK02、5次31区SD07断面図、出土遺物

区画溝3
(図158･162)
(写真図版57･68)

５次31区ＳＤ10・４次25区ＳＤ04、５次31区ＳＤ11・４次25区ＳＤ02が該当する。未調査部分を含むため、連続する確証はないが、検出状況から一連の遺構と判断した。東西方向に２条の溝が平行して延び、25区でＳＤ04が北に折れＳＤ02と合流する。合流後は区画Ａの北区画溝である25区ＳＤ05まで延びる。東西延長57ｍ、２条の東西溝の間隔は10～12ｍを測る。溝の深さは南側が遺構検出面から６～８㎝と浅く、北側は10～26㎝でやや深い。溝で囲われた範囲にはＳＡ43とＳＫ01、ピットが散見される程度で遺構密度は低く、何等かの施設を区画したと想定されるが、詳細は不明である。５次31区ＳＤ10に平行してＳＤ09を検出した。幅1.5ｍ、深さ約70㎝を測り、ＳＤ10に比べて明確に掘り込まれている。この遺構と対応するものは４次25区では確認できていないことから限定的な範囲に延びる溝と考えられる。性格は不明である。

遺物は４次25区ＳＤ04が屈曲する位置から土師器皿がまとまって出土した。小皿はヨコナデを施さないＢ類が1022・1027、ヨコナデを施すＡ類が1024・1028である。1023・1025・1026は摩滅のためいずれとも判断できない。1027～1029は丸底を呈す皿Ｏである。皿はＨ類の1031・1033とⅠ類の1032・1034・1035が確認できる。５次31区ＳＤ11からは小皿Ｂ1036が出土した。これらの遺物は15世紀前半に位置づけられている御着城跡土坑34の遺物と類似する。

4次25区 SD01
(図158･162)
(写真図版56)

４次25区の南部で検出した。北側は攪乱を受けており、南側は調査区外に延びるが、南側の調査区である16次６区までは広がっていない。検出規模で全長28.6ｍ、幅は最大で3.6ｍ、深さは最大で54㎝を測る。遺構の南側は土坑が２基連結した瓢形を呈し、そこから北側へ深さ５㎝程度の浅い掘り込みが溝状に延びる。瓢形の土坑部分の埋土上層から中層にかけては一辺20㎝程度の礫が多く含まれ、最下層には粘土が堆積している。調査時には池の可能性を考えたが、粘土層以外に判断できる根拠はなく、北側に延びる溝状部分の延長も不明であり、性格についてははっきりしない。なお、加茂遺跡では全長５ｍ程で瓢形を呈す、これと類似した遺構を池と評価している（姫路市教委1975）。

遺物量は遺構の規模に比して少ない。図化したものは土師器小皿1037、備前焼擂鉢1038・1039、鉄かぶと形堝1040である。1037は底部を欠損するが、口縁部の形状から1045・1051と同形態である可能性が高い。1038・1039は中世３ｂ期～４ａ期にかけてのものである。1040は口縁部内面を強いナデにより凹ませ、底部は大きく屈曲する。1040の特徴からⅥ期古段階に位置づけられる。

16次6区 SD02
(図159･163)
(写真図版72)

16次６区ＳＤ01の北約17ｍの位置で検出した、コの字形に湾曲する溝である。平面位置はＳＡ51と重なるが、直接の切り合い関係はない。溝の南側がＳＸ01に切られるが、検出時点ではＳＤ02を含む全域をＳＸ01と認識していた。ＳＸ01の掘り下げに伴い帯状に延びるＳＤ02の輪郭を検出したため、ＳＸ01と分離した。ＳＸ01の一段下がる部分がＳＤ02を切った形になっているが、遺構の先後関係を示すものかどうかは判然としない。検出規模で10.3ｍ、幅は最大で70㎝、深さは概ね10㎝を測る。埋土は単層である。

遺物は、明確なまとまりを持たず、土師器小皿Ｒ1041・1045、小皿Ａ1042・1043、皿Ｏ1044、杯1046、青磁碗1047、瓦質土器火鉢1048等が埋土中から散在して出土した。ロクロ成形の1041・1045・1046はいずれも底部ヘラ切りである。1044は口縁部の破片であるが、丸みを帯びた形状から皿Ｏであろう。

16次6区 SX01
(図159･163)
(写真図版72)

ＳＸ01の埋土下からＳＡ51を構成する柱穴を検出したことから、ＳＡ51を切る遺構である。勾玉状の不整な平面形を呈し、規模は長辺6.2ｍ、短辺3.1ｍ、深さは31㎝を測る。検出時点では、その範囲は一回り以上広く、掘り下げ時にＳＡ51を構成する柱穴とＳＤ02を検出した。

遺物は土師器小皿Ｂ1049・1050、小皿Ｒ1051、青磁碗1052、須恵器椀1053、鉄かぶと形堝Ⅰ類1054、備前焼擂鉢1055、備前焼壺胴部1056を図化した。1051は底部ヘラ切り、1055は中世４ｂ期に位置づけられる。土師器皿の様相はＳＤ02と同じであり、時期差はほとんどないと思われる。

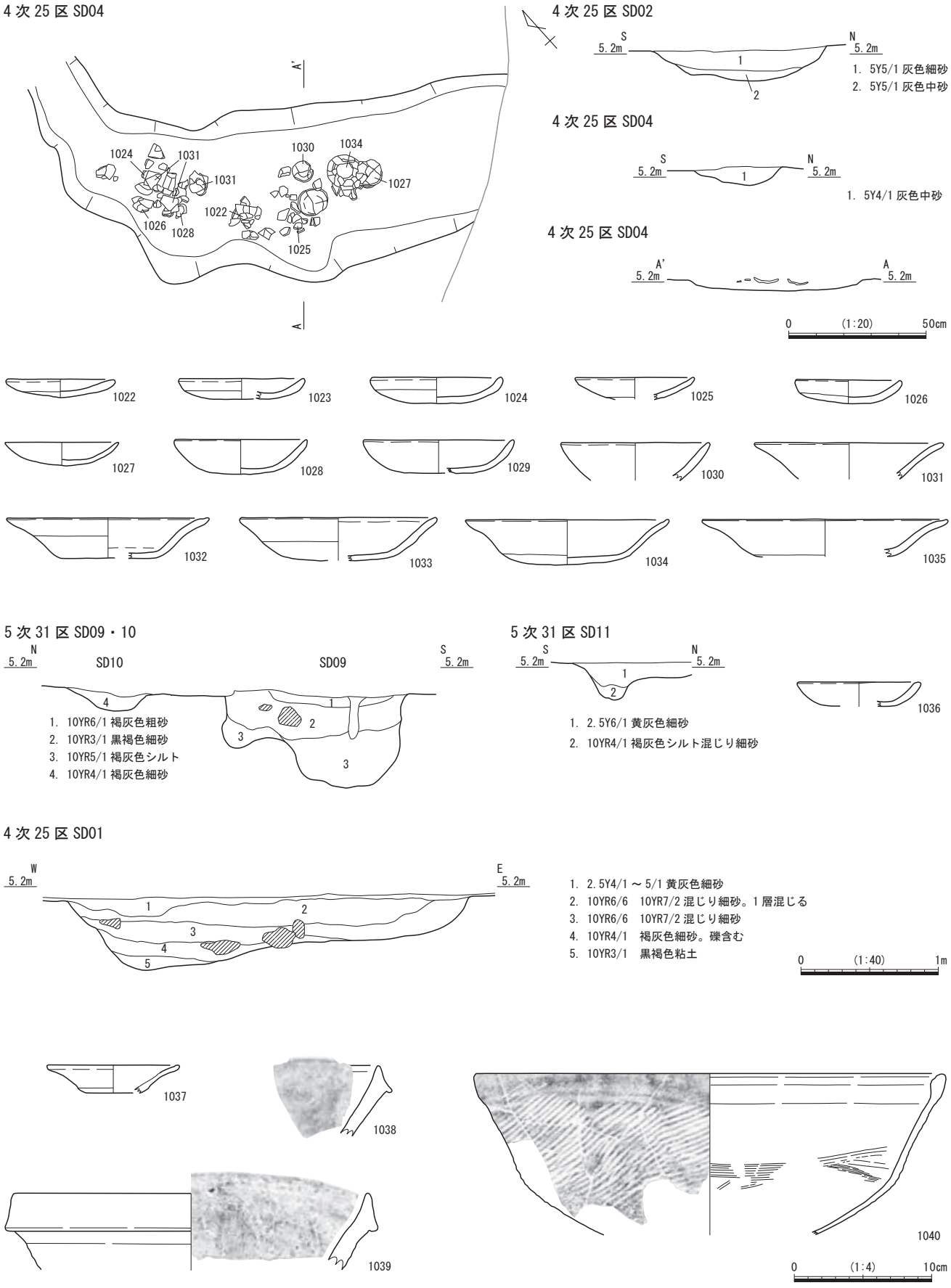


図162　4次25区SD04、SD02、5次31区SD09・SD10、SD11、4次25区SD01断面図【図158】、出土遺物

土坑

調査時には土坑と認識していなかったものも含め、柱穴と認識できないものをここでは土坑とした。図化に耐えうる遺物が出土したのは以下の５基のみである。

16次6区 SK01 (図159･163)

SA49の北15㎝の位置で検出した。調査区外に広がるため全容は不明である。検出規模で東西2.5ｍ、南北95㎝、深さは遺構検出面から19㎝を測る。

遺物は小皿Ｂ1057、播磨型堝1058、備前焼鉢1059が出土した。1059は胎土や焼成から備前焼と判断したが、類例は未確認である。

5次31区 SD02 (図158･163)

SB85の東側で検出した。北側はSD07に切られる。東側は調査区外に広がるが、断面の立ち上がりを観察する限り、東区画溝とした深田に接する付近で完結する可能性が高い。検出規模で南北9.3ｍ、東西2.0ｍ、深さは遺構検出面から28㎝を測る。断面形は皿状を呈し、遺構の規模に比して浅い。遺物は埋土中から中世４ａ期の備前焼擂鉢1060が出土した。

5次31区 SD06 (図158･164)

SE10の南約３ｍの位置で検出した。検出時点では溝と認識したが東西に長い土坑である。平面規模は東西2.5ｍ、南北75㎝、深さは遺構検出面から30㎝を測る。遺構の主軸はN21°Ｅに直交する。遺物は、埋土中から土師器小皿1061、皿Ｏ1062、皿Ⅰ1063等が出土した。SB89と主軸が直交しており、何らかの関連がうかがえるが遺構の性格は不明である。

11次6-1区 SK03 (図159･164)

SB91の東約３ｍの位置で検出した土坑である。平面形は南北方向に長い円形を呈し、主軸はN20°Ｗである。平面規模は長辺76㎝、短辺60㎝、深さ30㎝を測る。遺物は口縁端部が外反する青磁碗1064が出土した。遺構の性格は不明である。

11次6-1区 SK04 (図159･164)

SB91の東2.6ｍの位置で検出した。調査区外に広がるため全容は不明である。検出規模で南北60㎝、東西56㎝、深さ10㎝を測る。遺物は中世４ｂ期の備前焼擂鉢1065が出土した。遺構の性格は不明である。

柱穴

区画Ａ内では多くの柱穴を検出したが、切り合いのあるもの、遺物が出土したものは少ない。ここでは調査範囲で建物を構成しない独立した柱穴から出土する遺物について述べる。

5次31区 (図158･164)

SP35はSB89とSA46の間で検出した。柱穴の掘方から土師器小皿Ｒ1066、小皿Ｂ1067、皿Ⅰ1068、皿1069、杯1070が出土した。1066は底部ヘラ切り、1069は口縁端部に沈線が巡る。1070は直線的に延びる口縁部をもち、薄手である。皿ではないことから杯とした。SP36からは土師器小皿1071・1072と鉄かぶと形Ⅱ類1073が出土した。1071は底部を欠損するが、皿Ｇの可能性が高い。SP116からは鉄かぶと形Ⅱ類1074が、SP165からは須恵器鉢1075が出土した。

11次6-1区 (図159･164)

遺構数に比して、図化に耐えうる遺物の出土した柱穴は少ない。SB90の南側で検出したSP18から底部糸切りの須恵器椀1076が出土した。

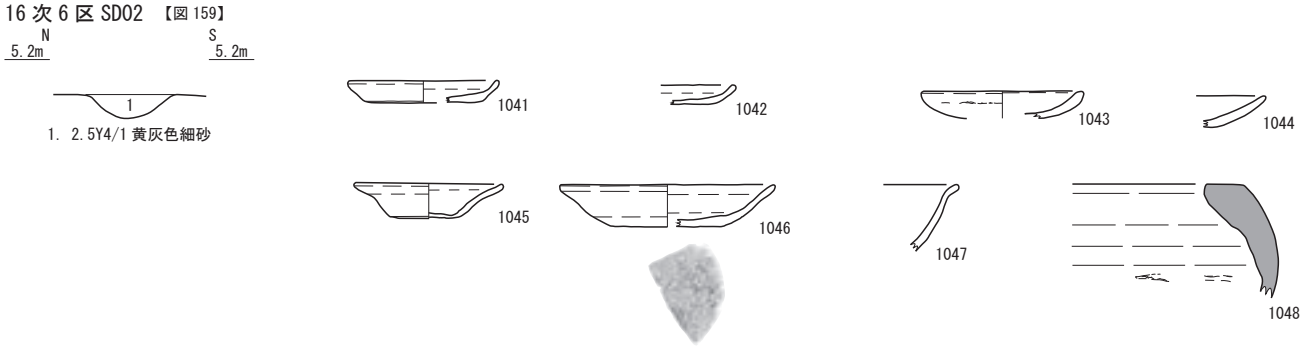
16次6区 (図159･164)

SP08から小皿Ａ1077が、SP17から外面に蓮弁文を描く青磁碗1078が、SP27からは口縁部が外反する白磁碗1079が、SP45からは土師器小皿Ｂ1080・1081が出土した。SP16からは皇宗通宝が出土した。区画Ａ内から出土した唯一の銅銭である。

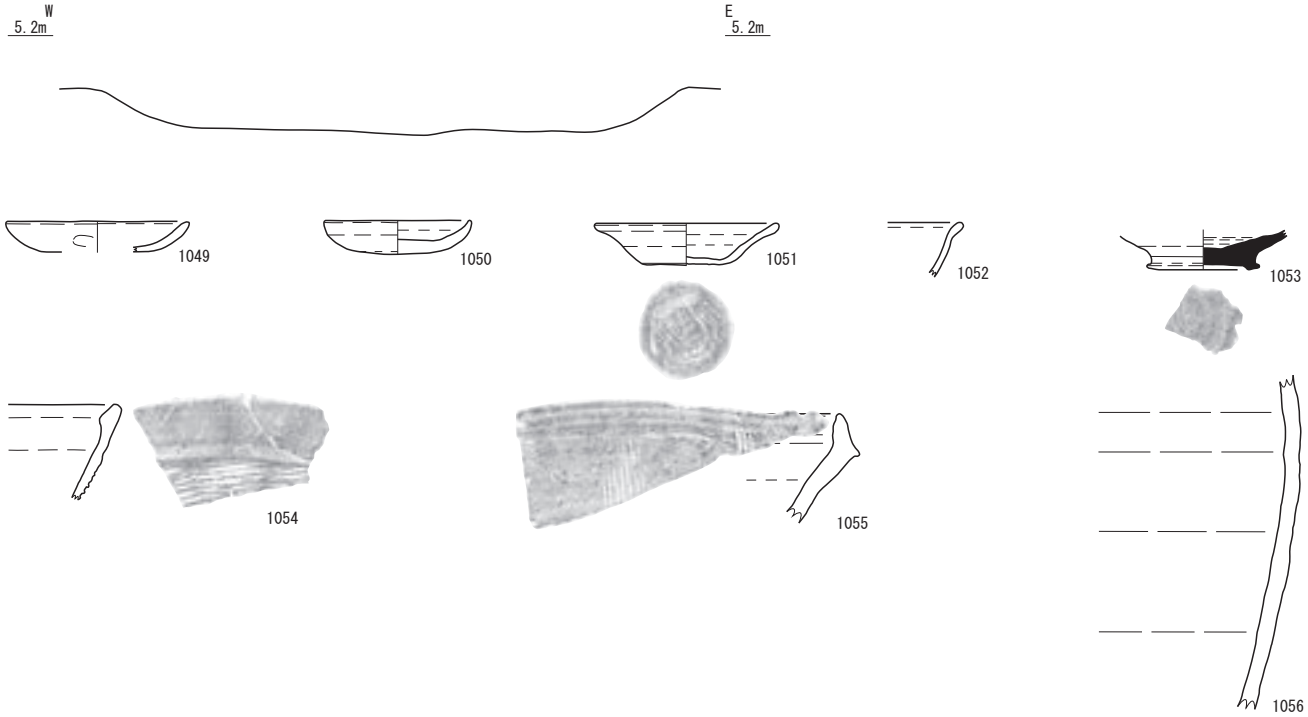
遺構に伴わない遺物 (図164)

16次６区の包含層から土師器小皿1083が出土した。口縁部に灯芯痕を持つ。底部を欠くことから皿Ｇもしくは1045・1051と共通する小皿Ｒのいずれかであろう。1084は口縁部が外反する青磁碗Ｄ類である。区画Ａ内で検出した柱穴、包含層等から出土する遺物は一部遡るものも含むが、総じてⅥ期に位置づけられる。

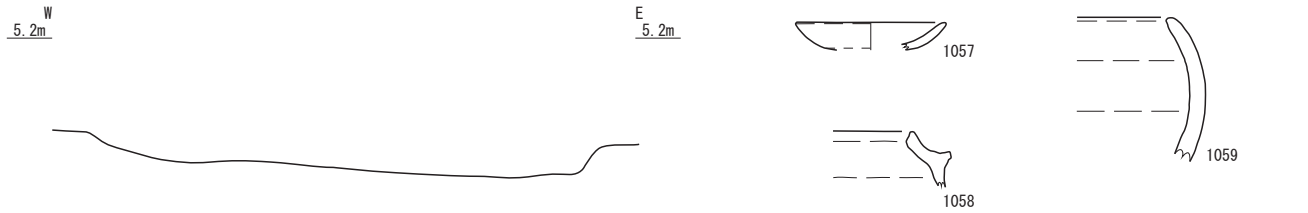
16 次 6 区 SD02 【図 159】



16 次 6 区 SX01 【図 159】



16 次 6 区 SK01 【図 159】



5 次 31 区 SD02 【図 158】

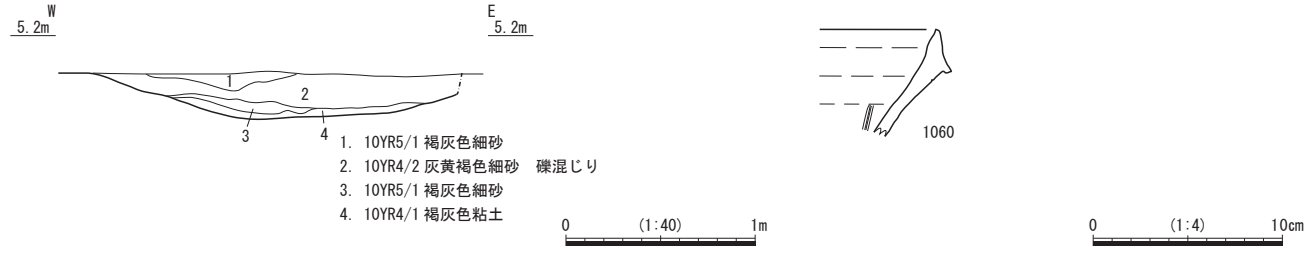
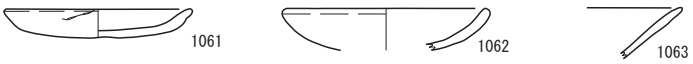


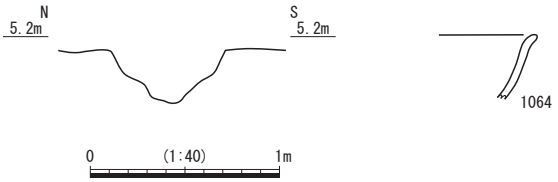
図163　16次6区SD02、SX01、SK01、5次31区SD02断面図、出土遺物

5 次 31 区 SD06 【図 158】

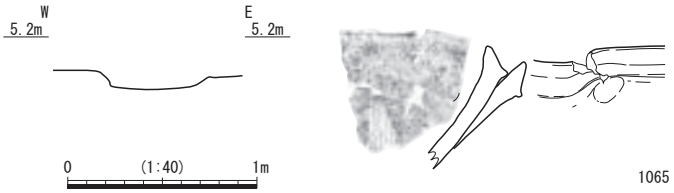
1. 10YR5/1 褐灰色細砂　礫混じり



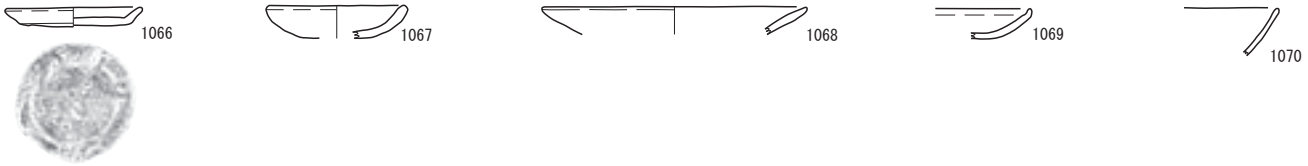
11 次 6-1 区 SK03 【図 159】



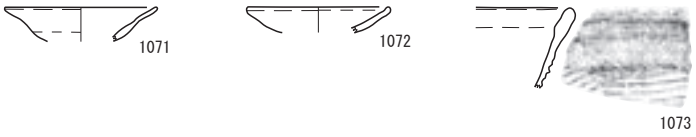
11 次 6-1 区 SK04 【図 159】



5 次 31 区 SP35

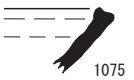


5 次 31 区 SP36

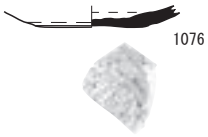


5 次 31 区 SP116

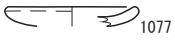
5 次 31 区 SP165



11 次 6-1 区 SP18



16 次 6 区 SP08

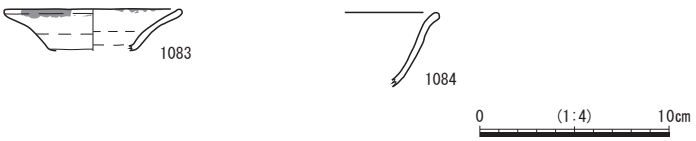


16 次 6 区 SP17

16 次 6 区 SP27

16 次 6 区 SP45

16 次 6 区包含層



16 次 6 区 SP16

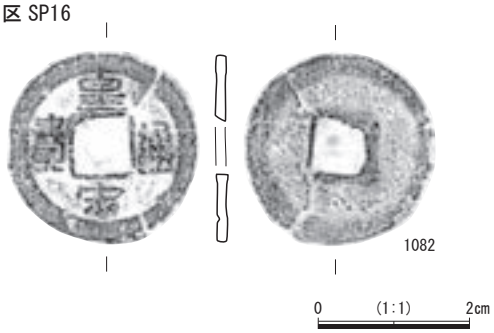


図164　5次31区SD06、11次6-1区SK03、SK04断面図、柱穴・包含層出土遺物

土居ノ内溝
(図132･165)
(写真図版61)

井ノ口から南下する寺前水路につながる溝で、玉手村へ流下する。調査前の水路は、５次29区と５次27-２区を流れていた。調査によって５次29区のほぼ全域が土居ノ内溝に該当することが判明した。溝は少なくとも３時期に変遷している。現行水路、その前代にあたるSD01-１、さらに下部のSD01-２である。

SD01-1
(図165･166･167)
(写真図版62･63)

29区西端から27-２区にかけて検出したもので、検出規模で延長149m、南へ折れた27-２区を含めると約180mを測る。幅は西端で1.35m、最大で3.5m、深さは40～50cmである。SD02との交点付近で検出した護岸石列（図166　F-F'断面）はSD01-１に伴うものである。埋土は概ね単層でシルトを基本とし、一部粗砂が含まれる。

遺物は埋土中から疎らに出土し、明確なまとまりを持つものはない。５次29区SD01-１からは陶器小壺1085、肥前系陶器の刷毛目碗1086、磁器碗1087、人造コバルトによる絵付けを行う磁器皿1088、青磁釉皿1089、胎土目唐津焼碗1090、見込み蛇の目釉剝ぎの初期伊万里焼碗1091、砂目唐津焼碗1092、丹波焼鉢1093、堺・明石系擂鉢1094、中世５b期に位置づけられる備前焼擂鉢1095、曲物底板1096、黒色粘板岩製の硯1097、砂岩製の多角形砥石1098が出土した。1085、1087、1088、1089は近代以降の所産、1086、1090、1091、1092、1094は17世紀から18世紀代の遺物である。1095は下位のSD01-２からの混入であろう。1097は両面に墨池がある硯で、裏面は整形途上で未使用である。1098は多角形砥石で、使用痕は４面に認められる。上下とも欠損し被熱している。SD01-１の東側延長部にあたる５次27-２区SD06からは染付碗1099、瀬戸染付碗1100、広東碗1101、陶器灯明皿1102、外面に蛸唐草文を描く大皿1103、備前焼壺1104、土人形1105が出土した。1104は下層からの混入とみられるが、他は江戸時代から近代にかけての遺物である。

SD01-2
(図165･166･168･169)
(写真図版62･63)

SD01-１の下層に位置し、最初期の「土居ノ内溝」にあたる。検出規模で延長113.5m、幅は平均3.0～3.5mを測り、SD01-１に比べて幅が広い。深さは概ね50cmであるが、流末はさらに深く掘り込まれ深さ80cmを測る。そこから東へはオーバーフローにより水を流した可能性もあるが、後述するSD01-３が掘り込まれているため、本来の様相は不明である。

遺物はSD01-１と同様、まとまった出土状況ではなく溝内各所から疎らに出土した。溝底から出土するものもあれば、埋土中からの出土もある。溝底から出土する遺物も棚田筋にあたる３次11-３区SX10のような溝底に貼り付いたような状態で出土するものはなかった。

陶胎染付筒形碗1106、備前焼壺1107、青緑釉の陶器皿1108、備前焼鉢1109、土錘1110、土師器皿1111等は、上層のSD01-１からの混入であろう。播磨型堝1112・1113、鉄かぶと形堝Ⅲ類1115・1116、備前焼甕1114・1117、備前焼小壺1118、備前焼擂鉢1119～1122、横櫛1123、1124は出土時に墨痕が認められた柘材、肥松付木1125、下駄1126・1127が出土した。土製煮炊具の様相はⅥ期と見られ、備前焼擂鉢は中世５b期から中世６a期に位置づけられる。1126は連歯下駄で、1127は刳り込み下駄である。近世の所産か。SD01-１とSD01-２からは瓦が300点以上出土した。江戸時代のものも含むが、中世段階の丸瓦が30点、平瓦が100点以上出土している。ただ、後述するSD02-３のように接合するものは少なく、溝内の各所から散漫に出土した。上層のSD01-１からは軒丸瓦1129・1130と後述する軒平瓦1151等が出土した。SD01-２からは軒丸瓦1128、丸瓦1131・1132等が出土した。1128は溝の西端から、1131は断面Ｄ付近から、1132は石列付近から出土した。1128と1129は瓦当部の欠落する軒丸瓦である。いずれも丸瓦部にカキヤブリが認められる。凸面には丁寧な縦位のナデが施される。凹面はコビキＡで布目が残存する。1129は被熱している。1130は右巻巴文の軒丸瓦である。珠文を有し、内外面とも被熱している。カキヤブリは瓦当部側に施される。1131は丸瓦の破片であるが、吊紐痕が良好に残る。1132は丸瓦先端部で、凹面に幅2.8cmの面取りを施している。側縁には２段の面取りが施される。コビキＡで布目痕が残る。SD01-２を切るSD01-３から出土する瓦と製作技法は共通している。

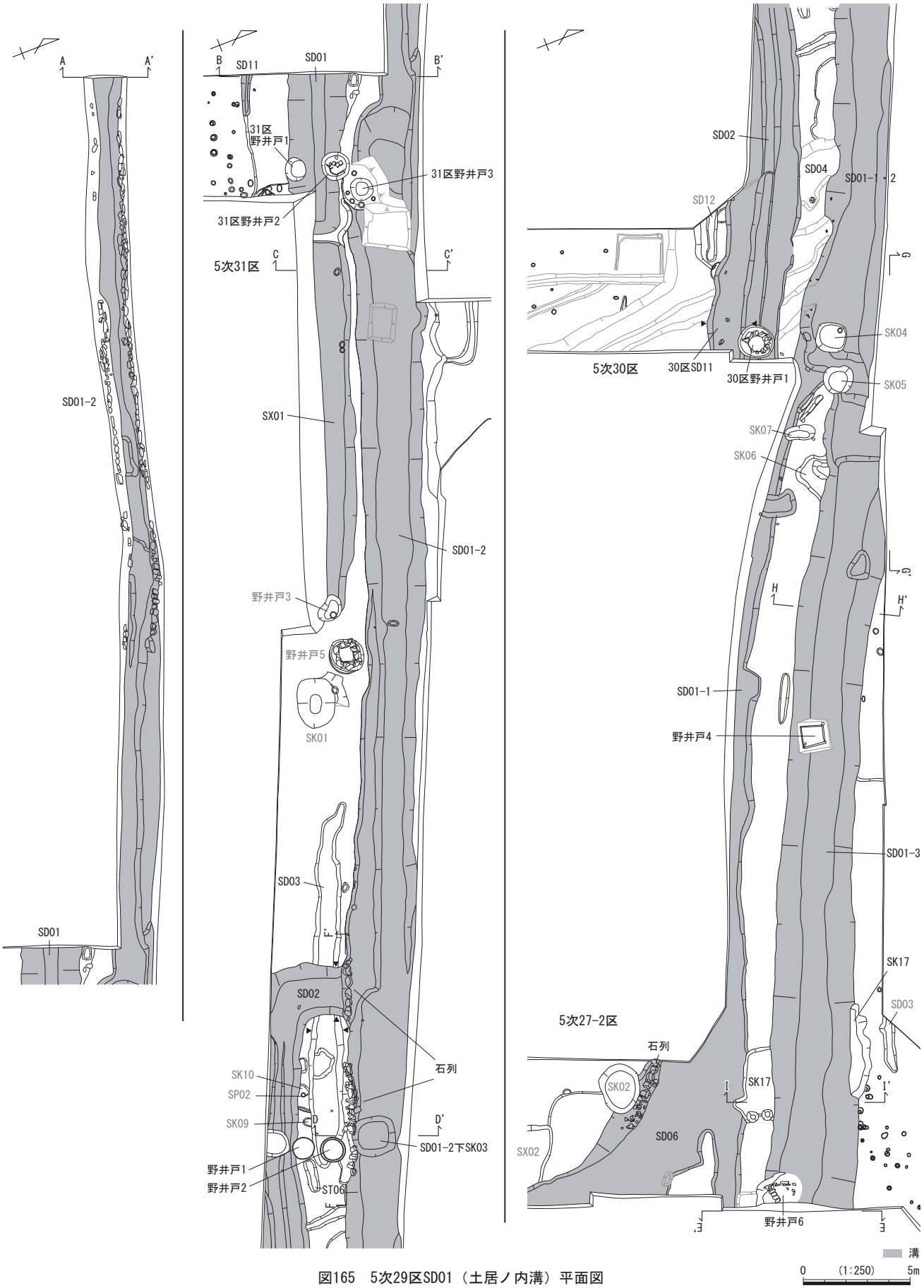


図165　5次29区SD01（土居ノ内溝）平面図

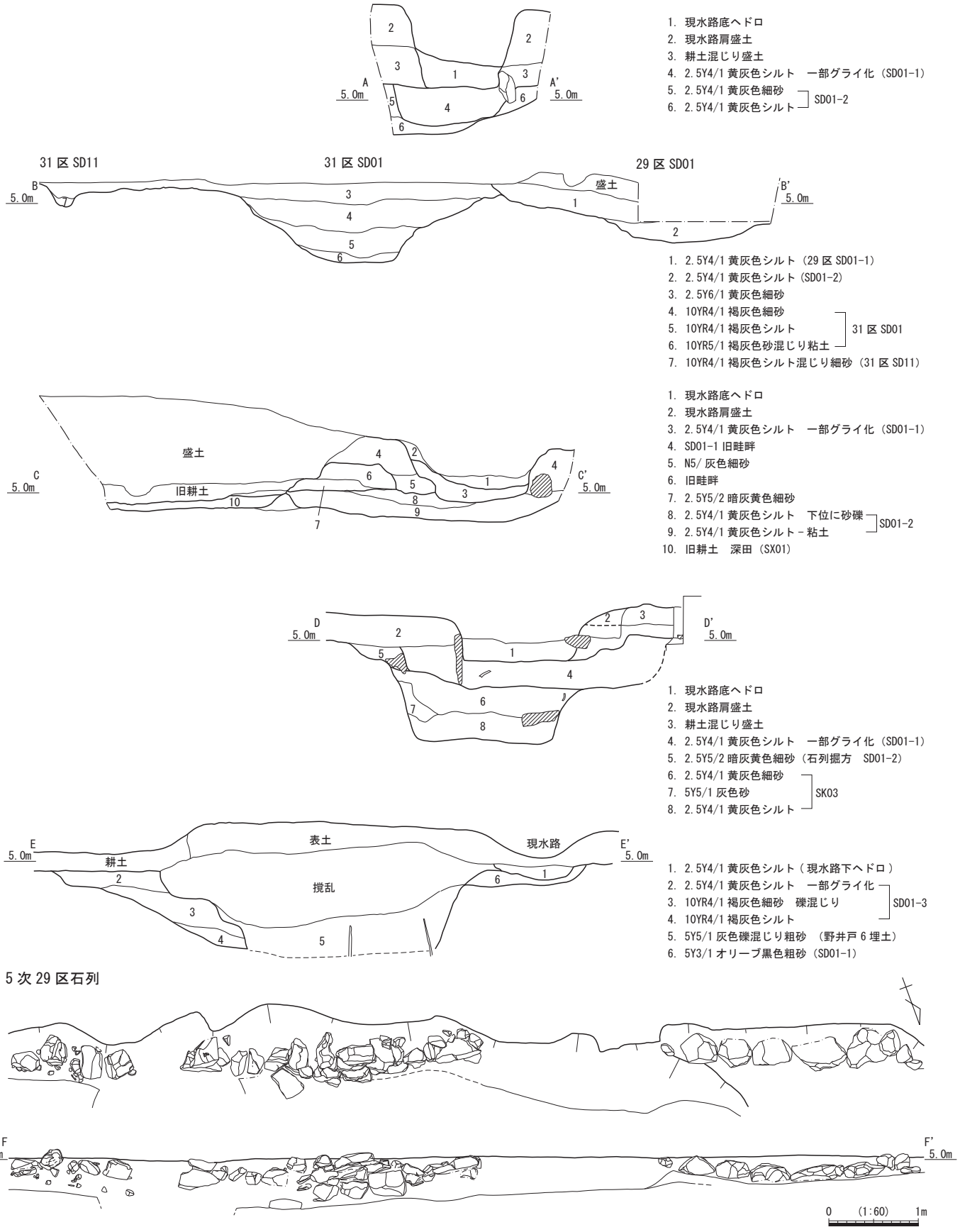
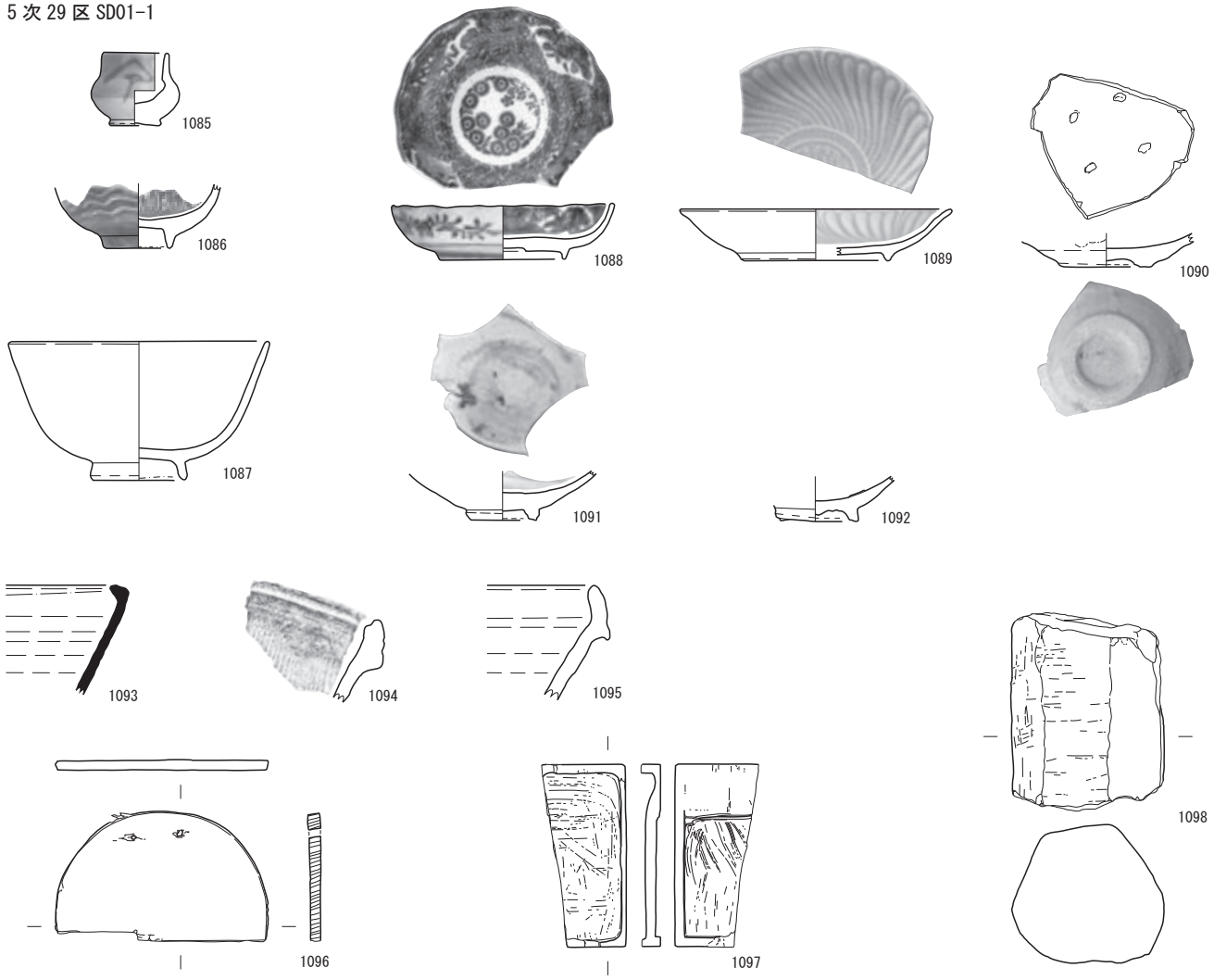


図166　5次29区SD01（土居ノ内溝）断面図、石列平面・断面図　【図165】

5次29区SD01-1



5次27-2区SD06

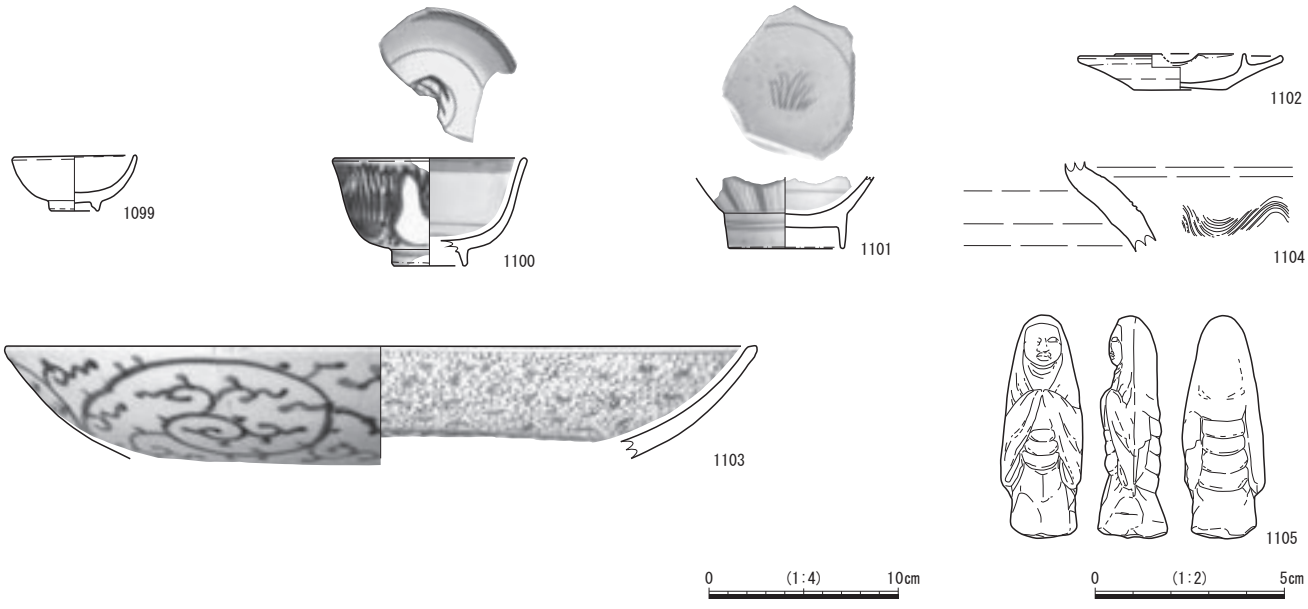


図167　5次29区SD01-1、27-2区SD06出土遺物

5 次 29 区 SD01-2

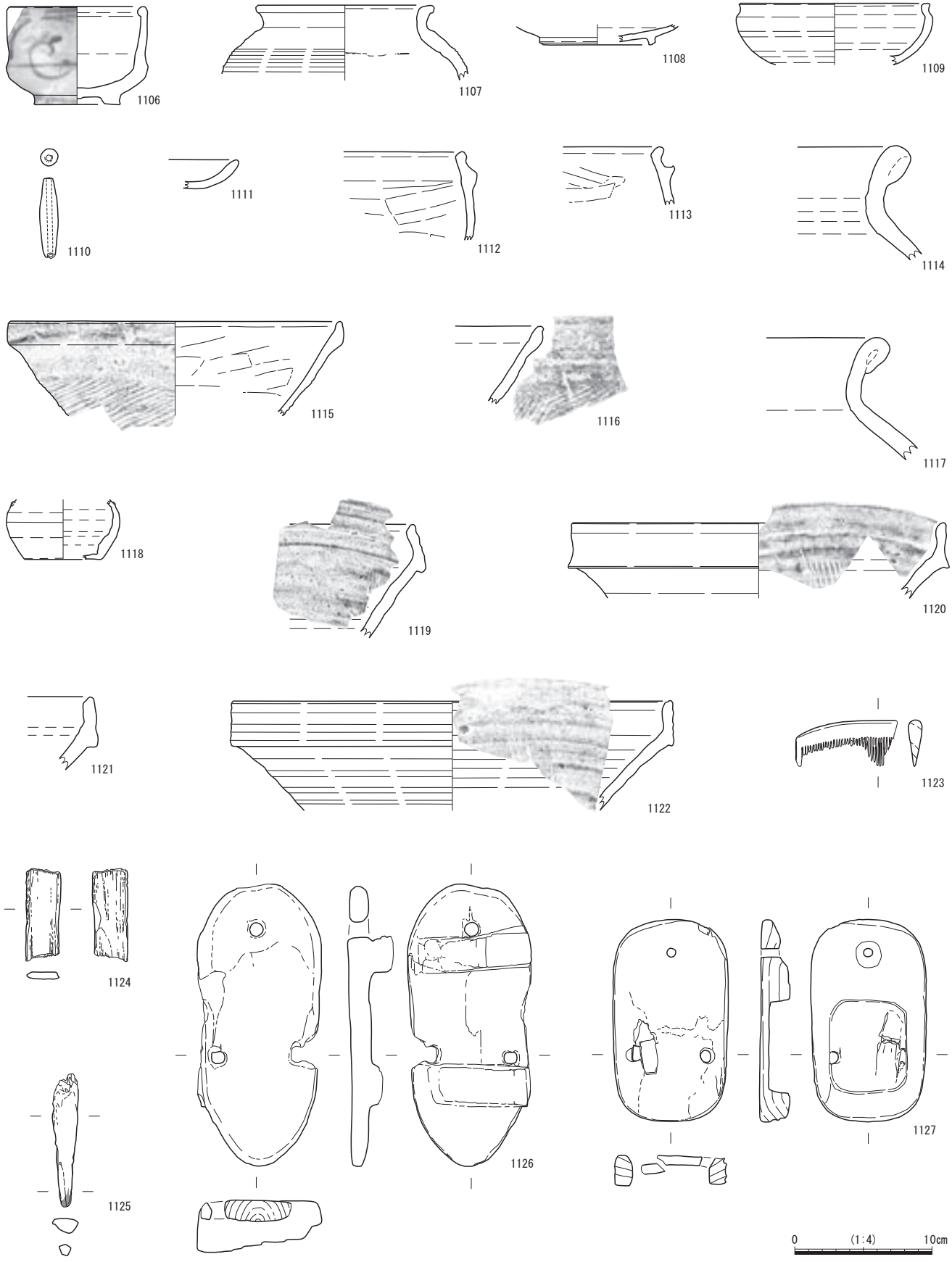


図168　5次29区SD01-2出土遺物

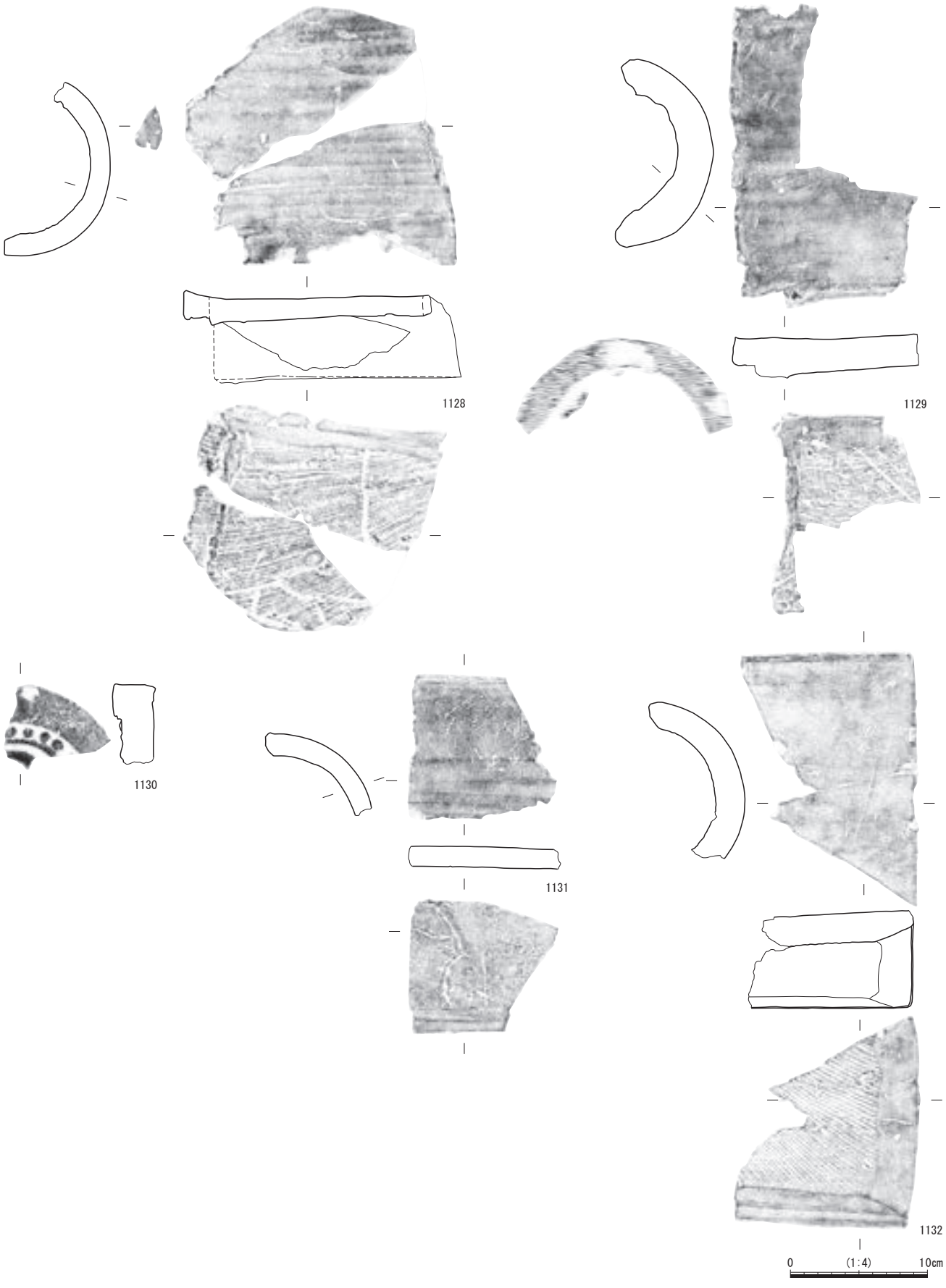


図169　5次29区SD01-1・2出土遺物

SD01-3
(図126·165·170～175)
(写真図版64)

5次29区の東側で検出した。調査区外に延びるため全容は不明であるが、検出規模で延長35m、上幅は3～4m、下幅は1.2～1.8mで断面形は逆台形を呈す。深さは70～90cmを測る。埋土は粗砂・中砂・砂礫を主体とし、埋土最上層の褐灰色細砂は一見地山に類似しており、検出当初は地山と誤認していた。SD01-2の東2.5mの位置で北側に屈曲し、東側は直線的に延びる。検出時点では、SD01-1が南に緩やかに流れを変えるため、SD01-2も同様の流れと考えたが、南に流路を変更したSD01-1の下層にSD01-2は確認できない。図170に示したG-G'断面ではSD01-2の3層はSD01-3に切られている。この断面部分ではSD01-2の3層の下位に4～6層が確認できるが、これらはこの部分にのみ認められる土層で、図166のD-D'断面付近では3層の深さが溝底にあたる。このことからSD01-2は本来、東へ直進していたものがSD01-3により切られたとみられる。土層断面とSD01-2の出土遺物の様相からSD01-3の機能時には、用水路であるSD01-2は一旦廃絶したと見られる。このことは区画Bの南区画溝において既に指摘したことであるが、区画Cの構築にあたって既存の灌漑水路を埋めたことが確認できる。その後、区画Cの廃絶に伴いSD01-3が埋め戻され、灌漑水路としてSD01-3の南側にわずかに流路を変えたSD01-1が新たに構築された。ただし、SD01-3には粗砂等の堆積が確認できることから水流があったことがうかがえ、SD01-2の機能を引き継ぎある程度灌漑水路の機能を保持していた可能性も考えられる。ただ、その構築にあたって既存水路を埋めたことは事実であり、SD01-1の微妙なズレの要因にはSD01-3の存在があったと考えられる。

遺物は瓦が大量に出土したが、土器類は少ない。土器で図化に耐えうるのは褐釉陶器壺1133、備前焼擂鉢1134・1135、備前焼徳利1136、砥石1137である。1135は近世1b期に位置づけられ、SD01－3の廃絶時期を示すと見られる。木製品では漆椀1138～1142が出土した。1138・1139は内外面黒漆塗で、朱漆により文様を描く。1140～1142は内面朱漆で外面は黒漆塗である。1143は箸状木製品、1144は曲物の底板である。本遺構からは瓦の出土が顕著で、特にSD01-3が北側へ屈曲する調査区北壁からH-H'断面にかけてまとまって出土した。この部分からは瓦とともに貝も大量に出土しており、両者とも溝内に投棄された可能性が高い。貝はハマグリを主とし、アカニシがわずかに含まれていた。ただ、貝を含む層の下からも瓦の出土は散見されたことから、厳密な意味での一括資料ではないが、その時間差は極めて限定されたものと考えられる。

軒丸瓦
(図171·172·173)

1145は右巻巴文の軒丸瓦である。珠文を23個配置する。外区には面取りがなく、丸瓦との接合部にはカキメらしき痕が確認できるが、1130のように整ったものではない。丸瓦部の凹面にはコビキ痕、吊紐痕が残る。側縁は2段の面取りを施し、凸面は丁寧に磨かれている。炭素の吸着は甘く、全体的な色調は灰色を呈する。笵傷もわずかに認められるが、本資料と同笵のものは管見の限り確認できない。1153と1156は軒丸瓦であるが、いずれも瓦当部は欠損する。丸瓦部にカキヤブリが認められ、丸瓦部の調整技法は1154と1155と共通する。1153は被熱している。

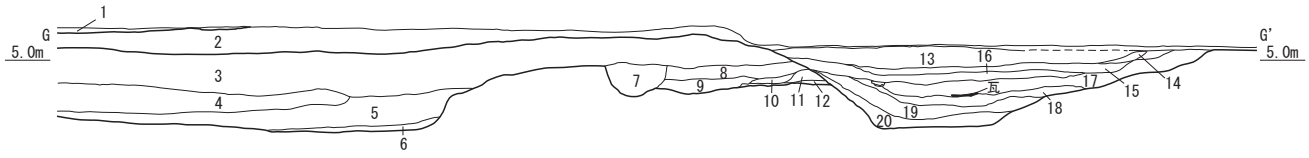
鬼瓦
(図171)

1146は鬼瓦の端部であろうか。炭素の吸着は甘く色調は灰色を呈す。表面と側面はナデにより丁寧に仕上げられている。裏面には成形時の板状の圧痕が残っている。

軒平瓦
(図172)

1151を除き、5点出土した。1151はSD01-1の西端から出土した。いずれも中心飾りに三葉を持つ、姫路系瓦工人の作である(田中1990・1994)。1152は御着城跡、英賀神社所蔵資料と同笵である。1147～1151は全て同笵と見られ、これまでに類例の確認されていない資料である。文様は深く、流麗に仕上げられている。唐草は本来4回転すると目されるが、端部の残る資料はいずれも笵切りされている。以下の記載は姫路系瓦工人の瓦を分析した山下の分類に従い記述する（山下2019）。1152の三葉内傾型と1147・1148の三葉直線型に分けられる。顎部はいずれも貼り付けられ、その接合部は1152を除き曲線状を呈すヨコナデ2である。1152は瓦当上面に面取りを施すが、その幅は1.4cm、他は概ね1～2㎜程度のわずかなものである。1149の接合部の観察から平瓦

5次29区SD01



1. 現水路
2. 2.5Y4/1 黄灰色シルト（SD01-1）
3. 2.5Y4/1 黄灰色シルト　下位に砂礫
4. 2.5Y4/1 黄灰色シルト－粘土
5. 2.5GY5/1 オリーブ灰色砂　灰色粘土互層
6. 2.5GY5/1 オリーブ灰色砂
7. 砂礫

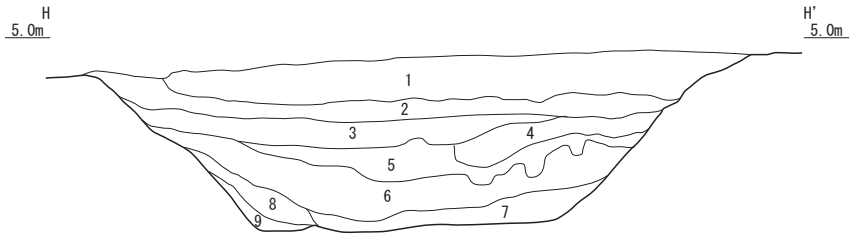
SD01-2

8. 2.5Y5/1 黄灰色礫混じり細砂
9. 2.5Y5/1 黄灰色細砂
10. 2.5Y4/1 黄灰色粘土
11. 粗砂礫
12. 5Y5/1 灰色粗砂
13. 10YR5/1 褐灰色砂礫
14. 2.5Y5/4 にぶい黄色細砂
15. 10YR4/1 褐灰色細砂　黒色粘土ブロック混じり
16. 10YR5/1 褐色灰色細砂
17. 10YR5/1 褐灰色粗砂混じり細砂
18. 2.5Y4/1 黄灰色シルト
19. 2.5Y4/1 黄灰色中砂　貝大量含（貝層）
20. 2.5GY5/1 オリーブ灰色中砂

SD01-3

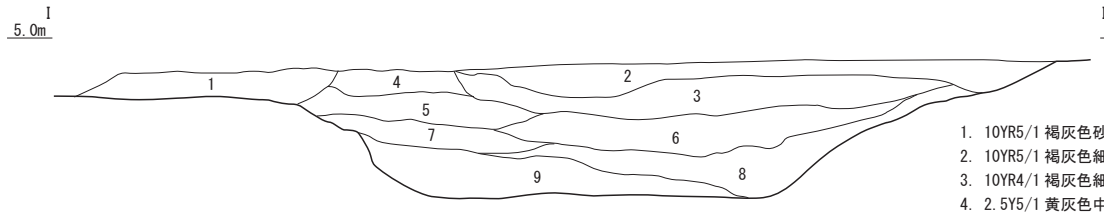
0　(1:80)　1m

5次29区SD01-3



1. 10YR5/1 褐灰色細砂　礫混じり
2. 2.5Y5/2 暗灰黄色砂
3. 10YR4/1 褐灰色シルト
4. 10YR4/1 褐灰色シルト　3層境に砂層
5. 5Y5/2 灰オリーブ色粗砂
6. 5Y3/1 オリーブ黒色粗砂
7. 2.5GY5/1 オリーブ灰色粗砂
8. 10YR5/2 灰黄褐色中砂－粗砂
9. 5Y3/1 オリーブ黒色粗砂混じり粘土

5次29区SD01-3



1. 10YR5/1 褐灰色砂礫（27-1区SK17）
2. 10YR5/1 褐灰色細砂
3. 10YR4/1 褐灰色細砂
4. 2.5Y5/1 黄灰色中砂
5. 10YR4/1 褐灰色礫混じり砂
6. 10YR4/1 褐灰色砂礫
7. 10YR4/1 褐灰色粗砂　ややグライ化
8. 10YR4/1 褐灰色粗砂混じりシルト
9. 2.5GY5/1 オリーブ灰色砂

0　(1:40)　1m

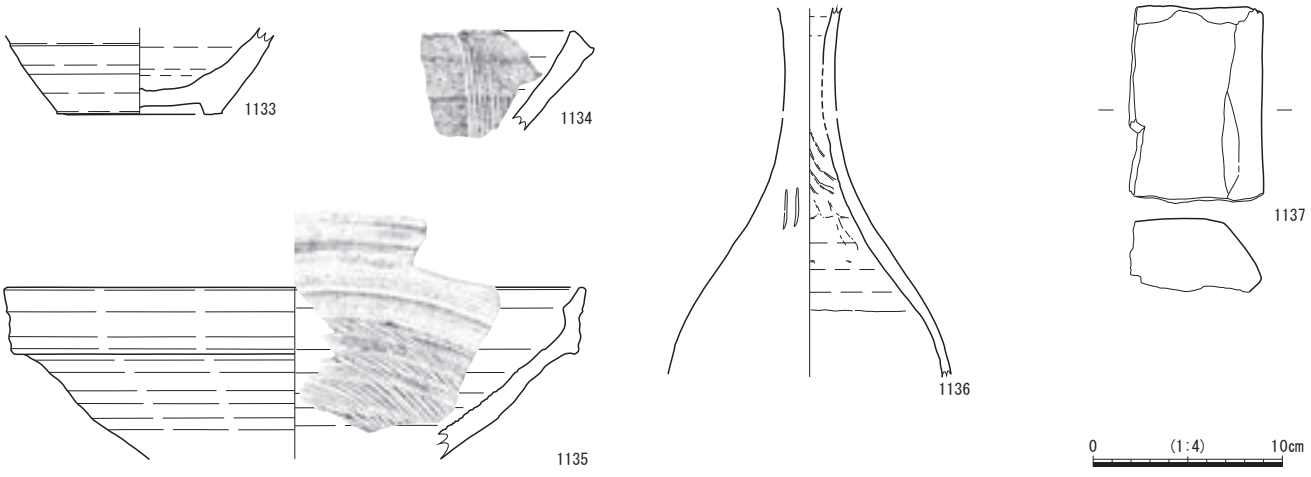


図170　5次29区SD01、SD01-3断面図【図165】、出土遺物①

図171　5次29区SD01-3出土遺物②

部にカキヤブリが施されている。上外区外縁に面取りを施すものは1149・1150・1151・1152の４点で、上外区外縁に沿って均一に面取りを行う。1147と1148は面取りを行わない。顎端面後縁の明確な面取りは施されないが、1150・1151・1152は角張らず、丸く仕上げられる。これらの属性から山下の検討した置塩城跡出土瓦のうち、ＬⅢＳＫ４と技術的な親縁性が近いと判断できる。

姫路系軒平瓦の瓦当文様は中心飾りの三葉の左右に展開する唐草が４回転→３回転→２回転へと変遷するとされる。本資料は４回転の笵切りであり、単純に考えれば４回転から３回転への移行期にあたる資料とみられる。これらの資料と共通する瓦1128･1132･1151はＳＤ01－２から出土している。ＳＤ01－２は前述したようにＳＤ01－３により埋められた水路である。ＳＤ01－２からは16世紀後半に位置づけられる遺物が出土していないことから、これらの瓦はそれ以前の資料である可能性が高い。

丸瓦
(図172･173)

出土点数は33点である。1154と1155は一部欠損するが、全容のわかる資料である。1154は全長34.1㎝、玉縁長５㎝、幅14.9㎝、玉縁幅12㎝、弧深5.4㎝を測る。1155は全長34.2㎝、胴部長29㎝、玉縁長５㎝、幅15.3㎝を測る。いずれも炭素の吸着は弱く灰色から白色を呈する。凸面は縦位のナデが丁寧に施される。凹面はコビキＡで吊紐痕が残る。側縁は２段に面取りされ、玉縁側縁に三角形状の面取り、玉縁側縁にも面取りを施す。1157と1158は丸瓦の玉縁部である。製作技法は1154・1155と共通するが、玉縁部の面取りが異なる。1154と1155は面取りが三角形状を呈し、玉縁部のそれとは独立しているが、1157と1158は玉縁部から一連で面取りを施す。1158は胴部に直径1.2㎝の釘孔を有す。出土資料の内、図示したものを含めて玉縁部が確認できる個体を確認すると個別に面取りするものが６点、一連で面取りするものが２点ある。

平瓦
(図174･175)

出土した平瓦は接合する資料が多く、図示したものを含めて、４隅残存するものが６点、３隅残存する個体が11点、２隅残存するものが11点、破片が200点以上出土した。法量は４隅残存するもので狭端部幅24～25.5㎝、広端部幅26.3～27.6㎝、全長31.5～31.8㎝である。凸面は縦位のナデを施し、凹面は横位のナデを施した後、左右両側縁に縦位のナデを施す。ナデは丁寧に施され、布目等は確認できない。凹面狭端部の面取りの幅が広いものと狭いものがある。面取りは中央部がやや幅広となる形状を呈し、1159と1162は１～1.7㎝と幅の広い面取りを施し、1160と1161は３～４㎜と幅の狭い面取りを施す。

英賀瓦工人
(図8)

ＳＤ01－３から出土した平瓦・丸瓦の製作技術は概ね単一であり、ＳＤ01－３から出土した瓦は同一の工人集団により製作されたものと理解できる。その製作集団は、距離的に見ても英賀の瓦工人である可能性が高い。江戸時代には豆田遺跡のある町坪村から約500ｍ離れた隣村である高町村に瓦工人が居住していた。英賀神社所蔵の瓦に「享保十五年　赤加組高町村　平右衛門作」などをはじめとし享保、嘉永の年号を刻む高町村の瓦師による瓦がある（田中・土橋1992）。高町の瓦工人らがどこから土を入手したのかを記した文献は残っていないが、英賀保駅周辺土地区画整理事業に伴う試掘調査で、ＪＲ英賀保駅から四つ池の南にかけて白色の粘土層を確認している。これと同様の白色粘土は、市川を挟んで東に位置する飾東町の深志野周辺一帯でも確認できる。深志野も江戸時代には瓦製造が盛んに行われていたことを考慮すると、高町の瓦工人は英賀保駅近辺の白色粘土を採掘し、使用していた可能性もある。事実、苫編に所在する池ノ下遺跡においては古墳時代に位置づけられてはいるものの土取り跡が確認されている。また、後述する大浄口遺跡においても土取りの可能性のある土坑を確認している。

上記を踏まえて再度、図８に示す近世の地域区分を確認すると白色粘土の広がる範囲は概ね英賀ノ郷に含まれている。古代に「英賀里」と記された範囲は夢前川河口一帯であったと推測されている（秋本1958）。図８にも英賀ノ東ノ郷は主として夢前川東岸（ただし、苫編は英賀ノ西ノ郷と記載）、英賀ノ西ノ郷は夢前川西岸にある。このことから近世段階にも夢前川河口一帯が英賀と認識されていたといえる。中世にも同じように「英賀西」「英賀東」等が文献にみえる（姫

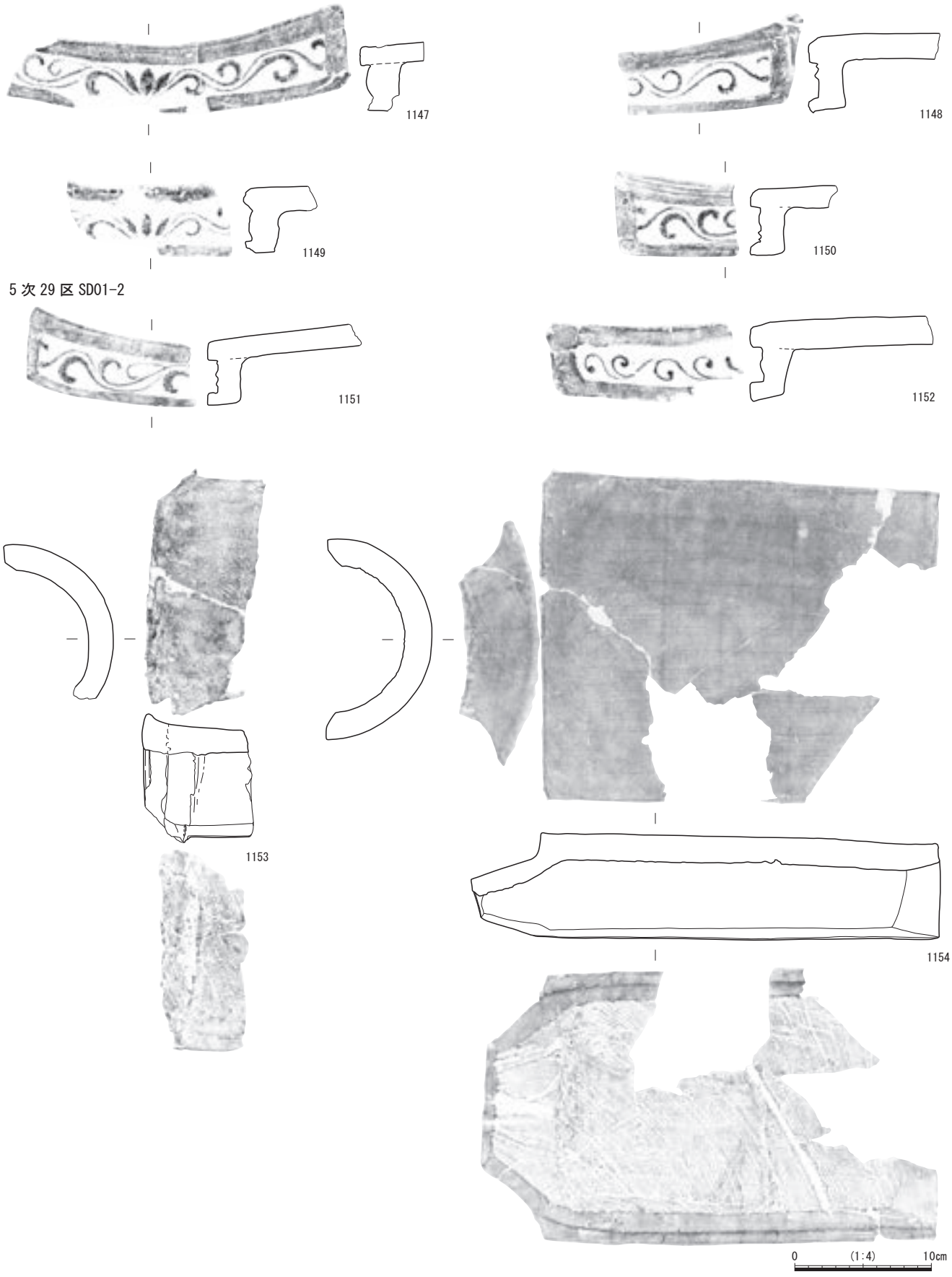


図172　5次29区SD01-3出土遺物③

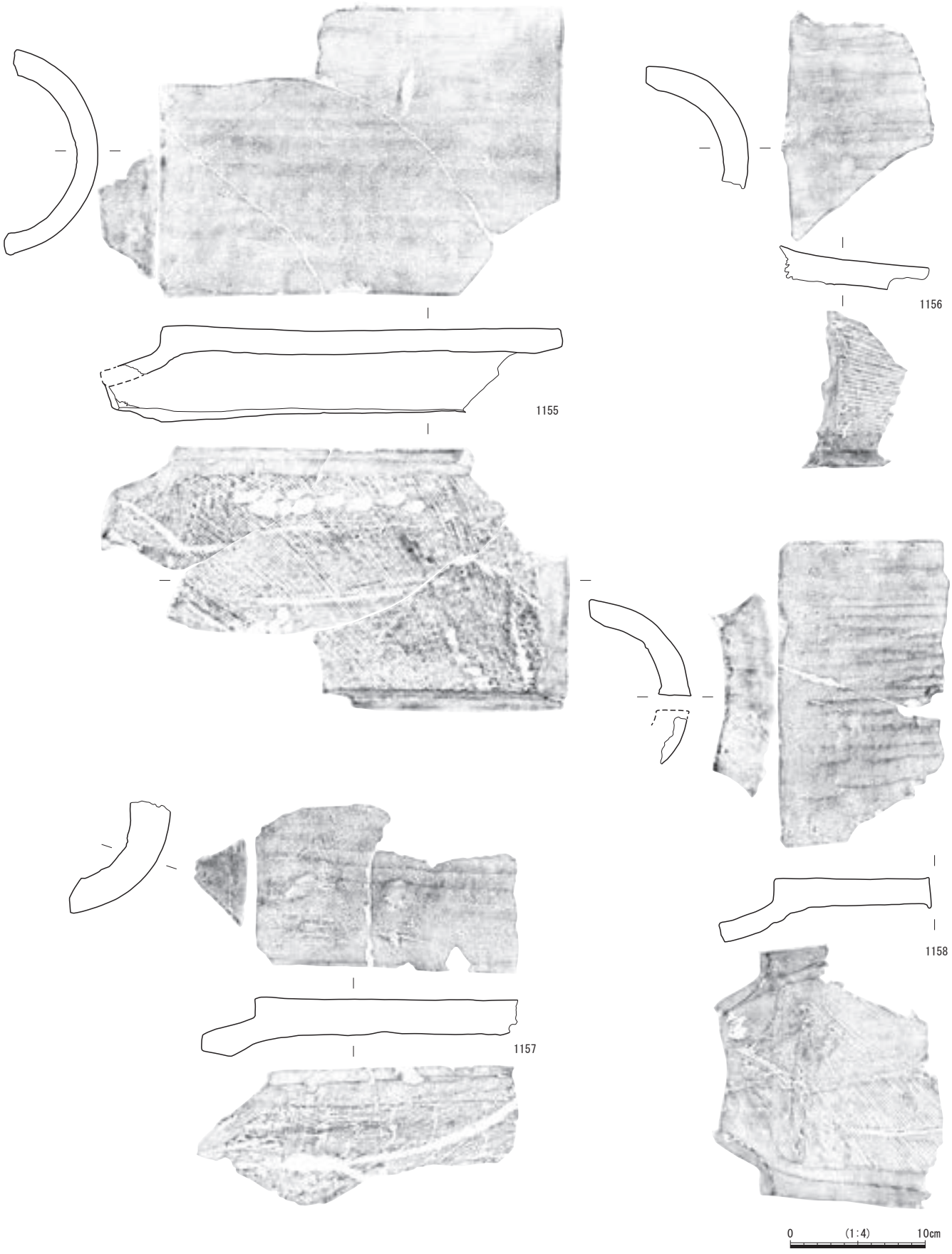


図173　5次29区SD01-3出土遺物④

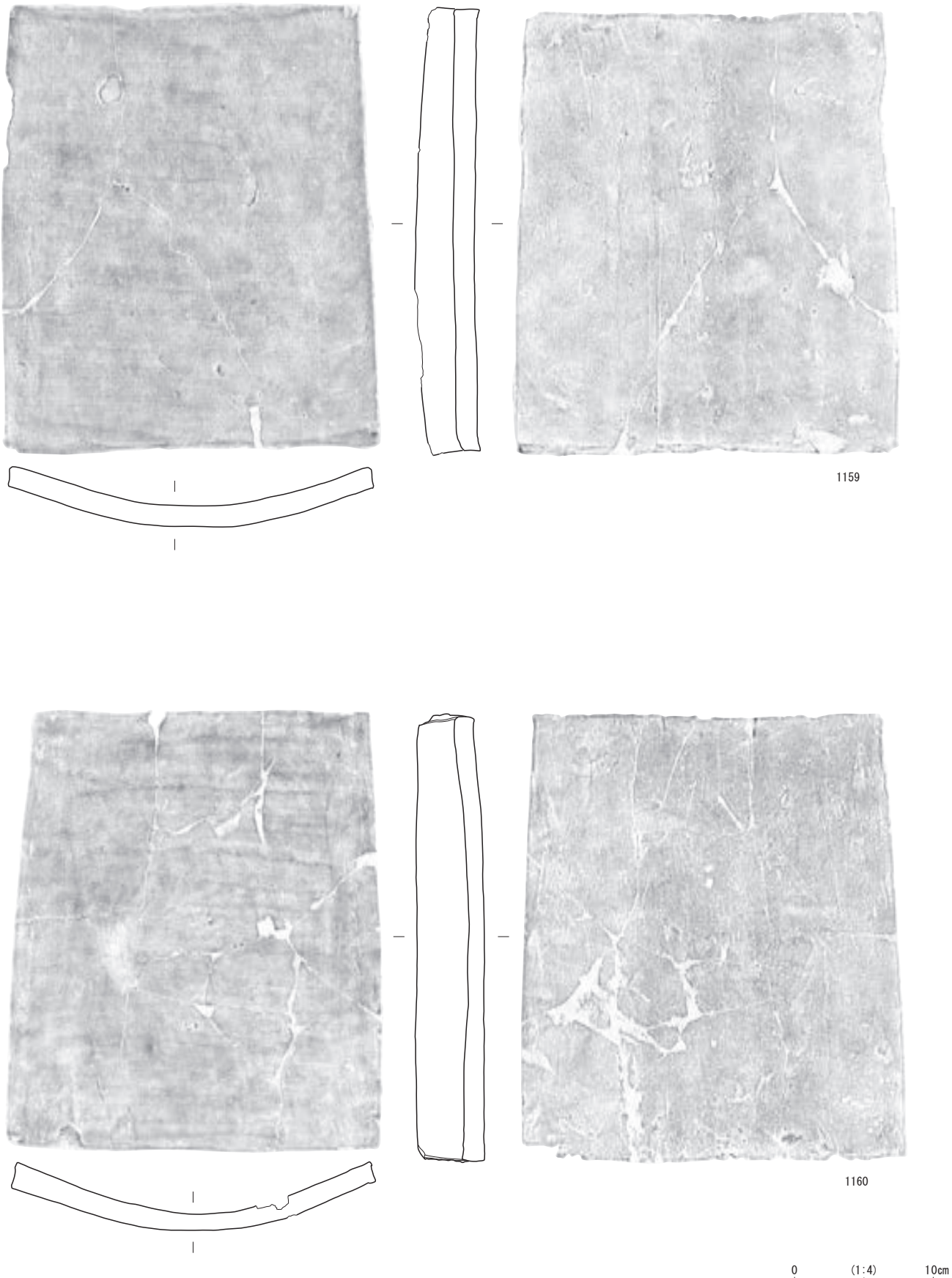
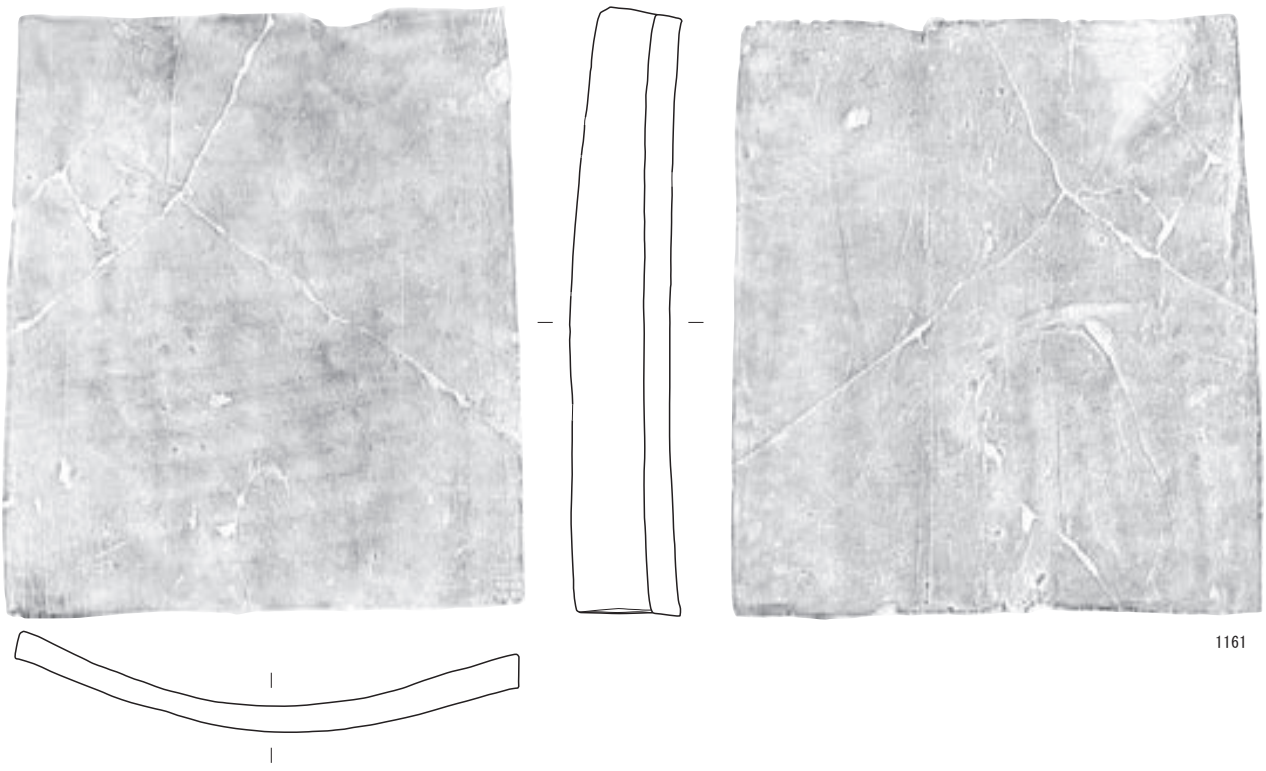


図174　5次29区SD01-3出土遺物⑤



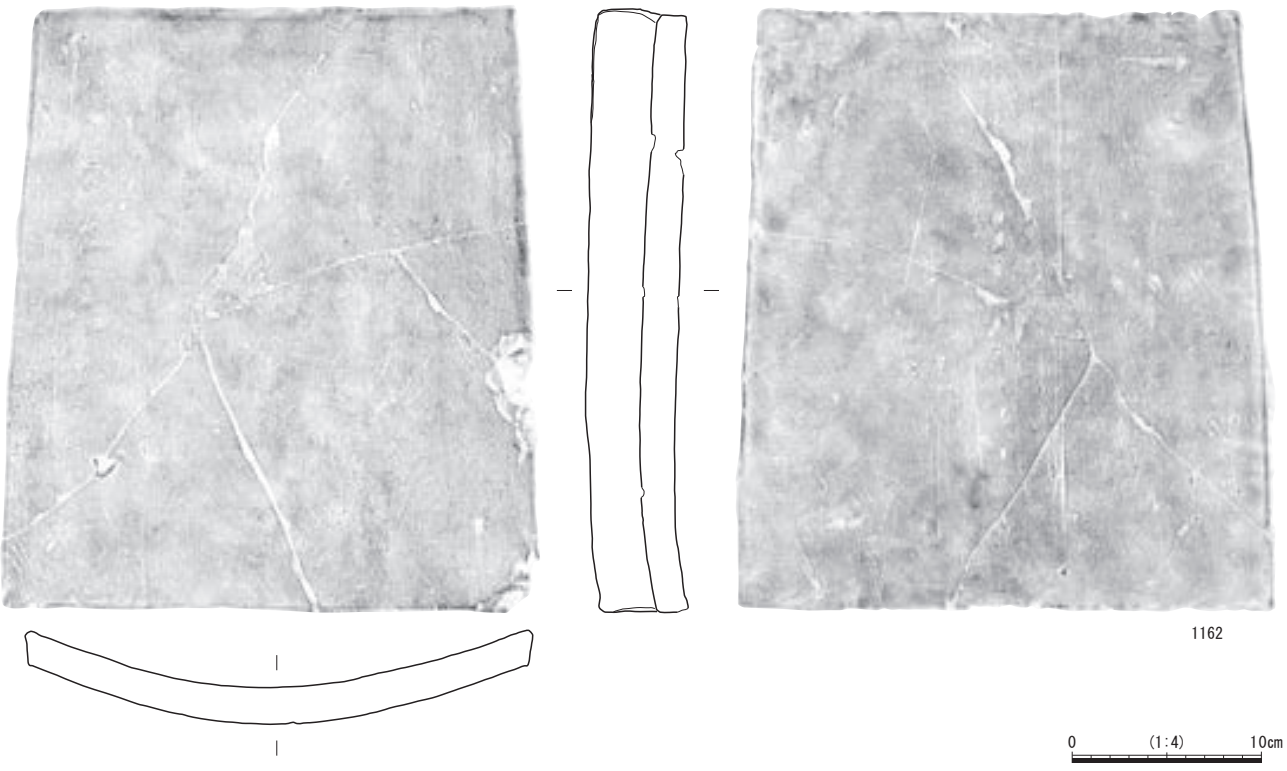


図175　5次29区SD01-3出土遺物⑥

路市史2005)。このことから中世に英賀と認識された範囲もまた、夢前川を挟んだ河口部一帯の広い範囲であった可能性が高い。従来、中世の英賀は英賀城として知られる範囲を対象に研究が進められてきた。しかし、近年、英賀城跡での発掘調査によって、遺跡の広がりは従来考えられていたよりも相当狭い範囲に限られることが判明しつつある（姫路市2019)。考古学的に現在、中世段階の遺構が確認できているのは、本徳寺の所在した字「御坊」と隣接する「西刈屋」と「東刈屋」の範囲に限られる。なお、亀山本徳寺が所蔵する英賀東本徳寺の梵鐘に「願主同假屋村」の銘文があり、「假屋村」が上記字を指す確証はないが、考古学的成果とは整合している。また、中世後期には浄土真宗の拠点である本徳寺とともに宿や守護の館など様々な施設が英賀にあったことが記されている（姫路市史2005)。現在の考古学的知見を踏まえると、これらの諸施設が全て上記の字を含む英賀城の範囲（狭義の英賀）に存在した可能性は低い。むしろ、図８に示した近世の地域区分に近い範囲（広義の英賀）を踏まえて考察していく必要があるように思われる。

英賀瓦大工の初見資料である永禄９年（1566）銘の亀山本徳寺鬼瓦に「播州英賀東瓦大工‥」(姫路市1995)、また、桟瓦を発明したとする西村氏の『由緒覚書』には元は「播州英賀庄西村之住人」であったと記される（平井1996)。西村氏の祖先が英賀西村において瓦職人であった確証はないが、上記のような前提にたてば、瓦大工の居住地を狭義の英賀に限定する必然性はどこにもなく、むしろ彼らの居住地としては、白色粘土が採取できる近世の苫編村や高町村等の広義の英賀を可能性として考慮すべきかもしれない。少なくとも近世に英賀と認識された範囲に瓦の材料となりうる白色粘土が存在することは、中世に「英賀住人瓦大工」が存在していた事実と無関係ではないと考える。区画Ｃは英賀と指呼の位置に所在することから、出土資料は英賀瓦工人の製品の可能性が高い。

5次29区 SD02
(図165･176)
(写真図版63)

SD01から分岐する溝である。分岐する位置は概ね条里の坪境にあたる。SD01－１に伴う石組み護岸がSD02とSD01の分岐する部分を塞ぐため、SD02はSD01－１に先行する。調査区外に延びるため全容は不明であるが、検出規模で延長25.2m、幅2.2m、深さは最大で遺構検出面から38㎝を測る。溝はSD01から分岐後、約３ｍ南に延び、そこから東へ90°流路を振る。30区SD11と30区野井戸１に切られる。SD02の延長部分に29区SD01－１～27－２区SD06が位置することから、可能性としては前述のSD01－３の構築のため、SD01－２を付け替えた水路とも考えられる。しかし、延長上にあたる27－２区においてそれらしき様相は確認できていない。遺物は白磁碗1163等が出土した。

5次29区 SD03
(図165･176)
(写真図版62)

SD01と平行して検出した遺構で、SD02、野井戸２に切られる。平面規模は延長約17.1m、幅1.5ｍ、深さは約30㎝を測る。埋土は細砂であり、流水があった痕跡がうかがえないことから、水路等ではないと考えられる。遺物は備前焼壺の口縁部1164・1165が出土した。

5次30区 SD01
(図134･176)
(写真図版65)

SE09の西約1.2mで検出した。調査区外に延びるため、全容は不明であるが検出規模で延長6.3ｍ、幅1.7m、深さは遺構検出面から21㎝を測る。主軸方向はN21°Ｅである。溝の断面形は浅い皿状を呈し、底面は凹凸が顕著に認められる。埋土は中砂を主体とする。遺物は須恵器鉢1166が出土した。口縁部形態はＢ１ａ類である。

5次30区 SD11
(図165･176)

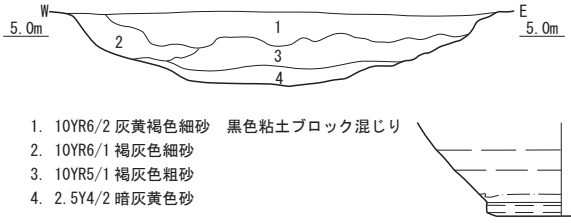
SD02を切り、30区野井戸１に切られる。調査区外に延びるため全容は不明であるが、検出規模で延長16m、幅２ｍ以上、深さは52㎝を測る。埋土はシルトと粗砂が互層で堆積しており流水と滞水を繰り返したことがわかる。遺物は粗砂層から底部ヘラ切りの土師器小皿Ｒ1167が出土した。

10次8区 SD01
(図135･176)
(写真図版72)

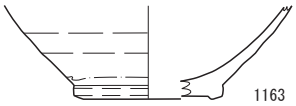
ＳA55の西１ｍに位置し、調査区に沿って検出した溝である。調査区外に大半が該当するため部分的な検出に留まる。検出規模は延長20.6m、幅1.8m、深さは12㎝を測る。検出した位置から寺前水路の一部と考えられる。埋土には近世の土は確認できないことから、寺前水路の本体は県道と重なっていると考えられる。SD01は寺前水路の前身にあたる水路の東肩部分と考えられる。

遺物は中世３ａ期の備前焼擂鉢口縁部1168が出土した。遺物量が少なく時期を特定することはできないが、「寺前水路」の起源を知るうえでの参考資料となる。

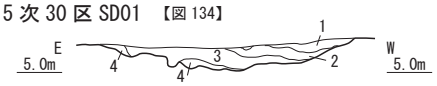
5次29区SD02 【図165】



1. 10YR6/2 灰黄褐色細砂　黒色粘土ブロック混じり
2. 10YR6/1 褐灰色細砂
3. 10YR5/1 褐灰色粗砂
4. 2.5Y4/2 暗灰黄色砂

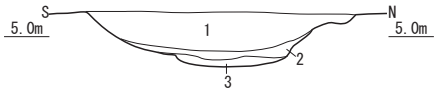


5次30区SD01 【図134】



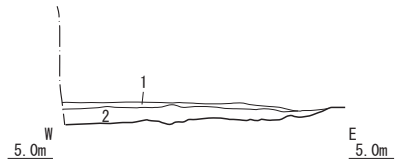
1. 10YR4/2 灰黄褐色中砂
2. 10YR5/2 灰黄褐色シルト
3. 10YR5/2 灰黄褐色中砂
4. 10YR6/6 明黄褐色中砂

5次29区SD03 【図165】

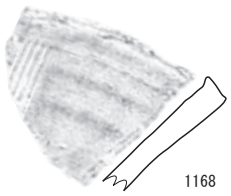


1. 10YR5/1 褐灰色礫混じり細砂
2. 10YR6/1 褐灰色細砂
3. 10YR6/1 褐灰色細砂　2層より締まる

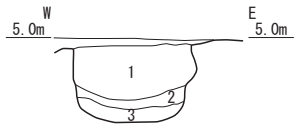
10次8区SD01 【図135】



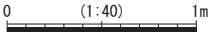
1. 2.5YR6/3 にぶい黄色細砂～中砂
2. 5Y5/2 灰オリーブ色シルト混じり細砂



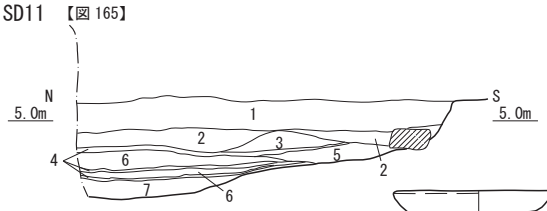
5次26区SK03 【図133】



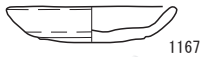
1. 10YR5/1 褐灰色細砂　黒色土混じり
2. 10YR5/1 褐灰色細砂　下位に鉄分沈着
3. 10YR5/1 褐灰色粘土　ウリ科の種・蛆含む



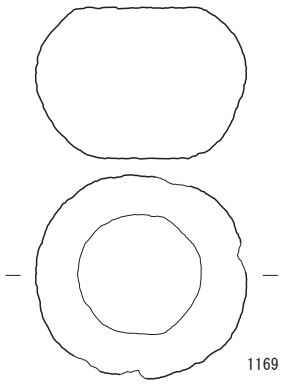
5次30区SD11 【図165】



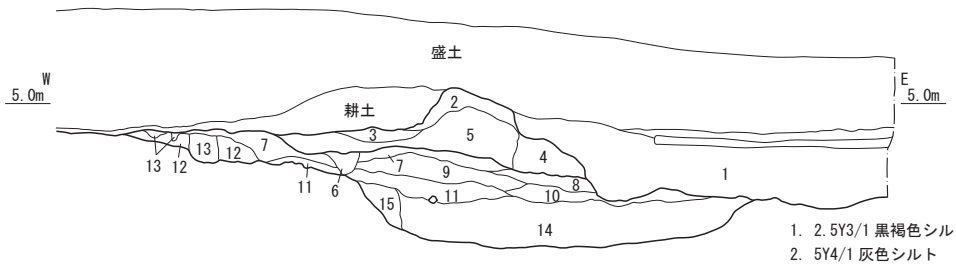
1. 2.5Y6/2 灰黄色粗砂
2. 10YR4/2 灰黄色細砂
3. 2.5Y6/2 にぶい黄色粗砂
4. 10YR5/1 褐灰色シルト
5. 10YR4/1 褐灰色砂
6. 2.5Y6/6 明黄褐色粗砂
7. 10YR3/1 黒褐色シルト　礫混じり

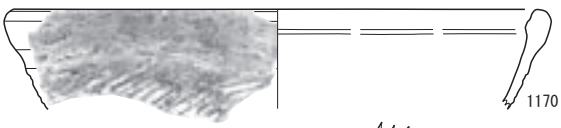


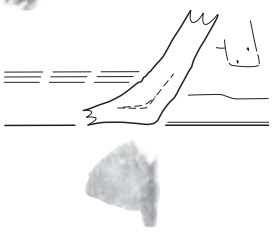
5次27-1区SK17



16次14区SD01 【図133】







1. 2.5Y3/1 黒褐色シルト　現代ゴミ混じり
2. 5Y4/1 灰色シルト
3. 5Y5/2 灰オリーブ色細砂
4. 2.5Y5/2 暗灰黄色シルト
5. 10YR5/2 灰黄褐色シルト

畦畔

6. 2.5Y3/2 黒褐色細砂
7. 10YR3/1 黒褐色礫混じりシルト
8. 2.5Y4/2 暗灰黄色礫混じりシルト
9. 10YR5/6 黄褐色シルト　10YR3/1 黒褐色シルトブロック混じり
10. 7.5Y5/2 灰オリーブ色礫混じりシルト
11. 2.5Y4/1 黄灰色礫混じりシルト
12. 2.5Y2/1 黒色シルト
13. 2.5Y6/2 にぶい黄色極細砂
14. 7.5Y4/1 灰色シルト　10Y5/1 灰色シルトブロック混じり
15. 7.5Y3/1 オリーブ黒色シルト

SD01

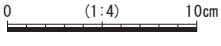


図176　5次29区SD02、SD03、5次30区SD01、SD11、10次8区SD01、5次26区SK03、16次4区SD01断面図、5次27-1区SK17出土遺物

5次26区 SK03
(図133･177)
(写真図版58)

SB78の北、調査区の壁沿いで検出した遺構である。調査区外に広がるため、全容は不明であるが、検出状況で半円形を呈し、直径60㎝、深さは40㎝を測る。時期を特定できる遺物は出土していないが、埋土中より、ウリ科の種子と蛆の蛹が大量に出土した。後世の耕作に伴う可能性もあるが、SB78に伴う可能性もある。

5次27-1区 SK17
(図133･165･170)
(写真図版64)

SD01-３を切る遺構である。図170のⅠ-Ⅰ'断面に示すように南側はSD01-１に切られている。検出規模で長軸3.1m、幅1.35m、深さは遺構検出面から18㎝を測る。埋土は砂礫で、遺物の出土はほとんどなく、1169の五輪塔水輪が１点出土した。

16次14区 SD01
(図126･133･176)
(写真図版60)

調査区の東端で検出した。調査区外に延びるため全容は不明であるが、検出規模で南北7.9m、東西5.4m、深さは最大で94㎝を測る。SD01を検出した位置は十三ノ坪と十四ノ坪境にあたる。SD01は断面から大きく２時期に分けられる。下層の溝は調査区端から約2.8m西側の位置にある。シルトを主体とする埋土である。溝の東側は一段高まっており、テラス状に掘り込まれていた可能性もあるが新しい段階の溝があるため、はっきりしない。埋土の様相は区画Ｂの北区画溝と共通し、通水よりもむしろ滞水していたようにうかがえ、用水路としての機能ではないように思われる。位置的には南側で29区SD01-３と合流する可能性もあることから、区画Ｃに伴う可能性を考えておきたい。この溝を埋めたのち畔畔（２～５層）を作り、上層の溝（１層）が掘られている。溝の埋土は現代のゴミを含むヘドロの単層である。遺物は下層より鉄かぶと形埴Ⅱ類1170と備前焼甕1171が出土したが、遺物は少なく時期は決めがたい。

5次27-2区 SK01
(図134･177)
(写真図版59)

SE08の北東約３ｍの位置で検出した円形の土坑である。直径72㎝、深さ65㎝を測る。最下層に直径45㎝、高さ25㎝の曲物を設置する。底面は砂礫層に達し、木質が残存することから地下水位に至っているものと見られる。井戸の可能性もあるが直径が小さく、近接するSE08の底面と比較しても55㎝ほど高い。水溜めのような機能を想定する。曲物内からは礫とともに1175の曲物底板が出土した。直径35㎝程に復元でき、SK01に使用された曲物とは別の個体に伴うものであろう。

遺物は土師器杯1172、須恵器椀1173、瓦器椀1174が出土した。1174は和泉型で炭素の吸着は良好である。内面にはミガキを施すが外面には認められない。概ね12世紀末から13世紀前半に位置づけられよう。

5次27-1区 SK12
(図134･177)
(写真図版59)

SE07の北約２ｍの位置で検出した土坑である。南北に長い円形を呈する。遺構の主軸はN26°Eで、平面規模は南北1.2m、東西94㎝、深さは遺構検出面から50㎝を測る。土坑上層には隙間なく礫が充填されていた。下層には礫を含まないことから礎石等を据えるための根固めの可能性は低いと考える。土坑内に礫を充填する例は11次６区SK05でも確認しており、単なる廃棄土坑ではなく何らかの目的をもつものと思われる。

遺物は緑色片岩の砥石1176が出土した。使用面は１面である。その他近世の瓦が出土したことから最終的な廃絶は江戸時代に下る可能性がある。

柱穴

27-１区・28区、16次14区で多くの柱穴を検出した。

5次27-1区
(図133･177)

SP24からは土師器小皿Ｒ1177、小皿Ｂ1178が出土した。1177はSE09出土の土師器皿と共通し、外面にヘラによる沈線が巡る。

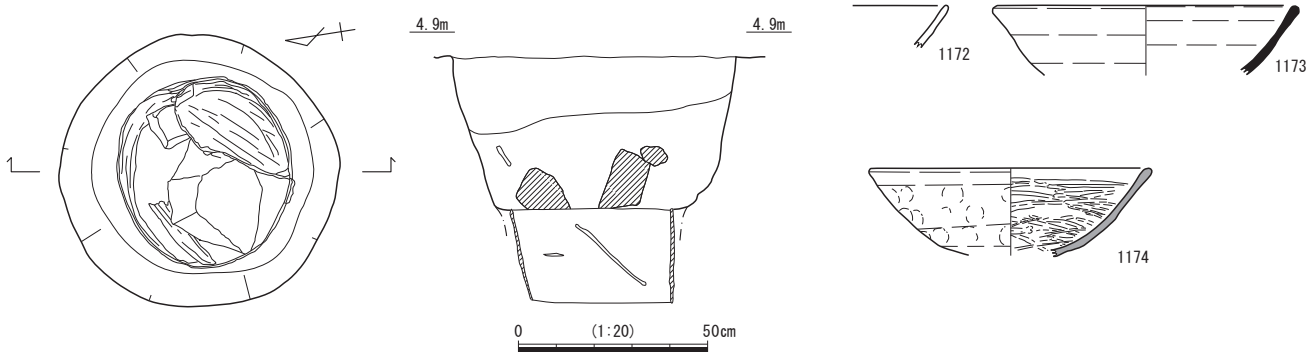
5次28区
(図177)

濃密に柱穴を検出したが、図化に耐えうる遺物の出土は少ない。SP20からは土師器皿Ｏ1179が、SP73からは皿Ｈ1180が、SP89からは小皿Ａ1181を図示した。

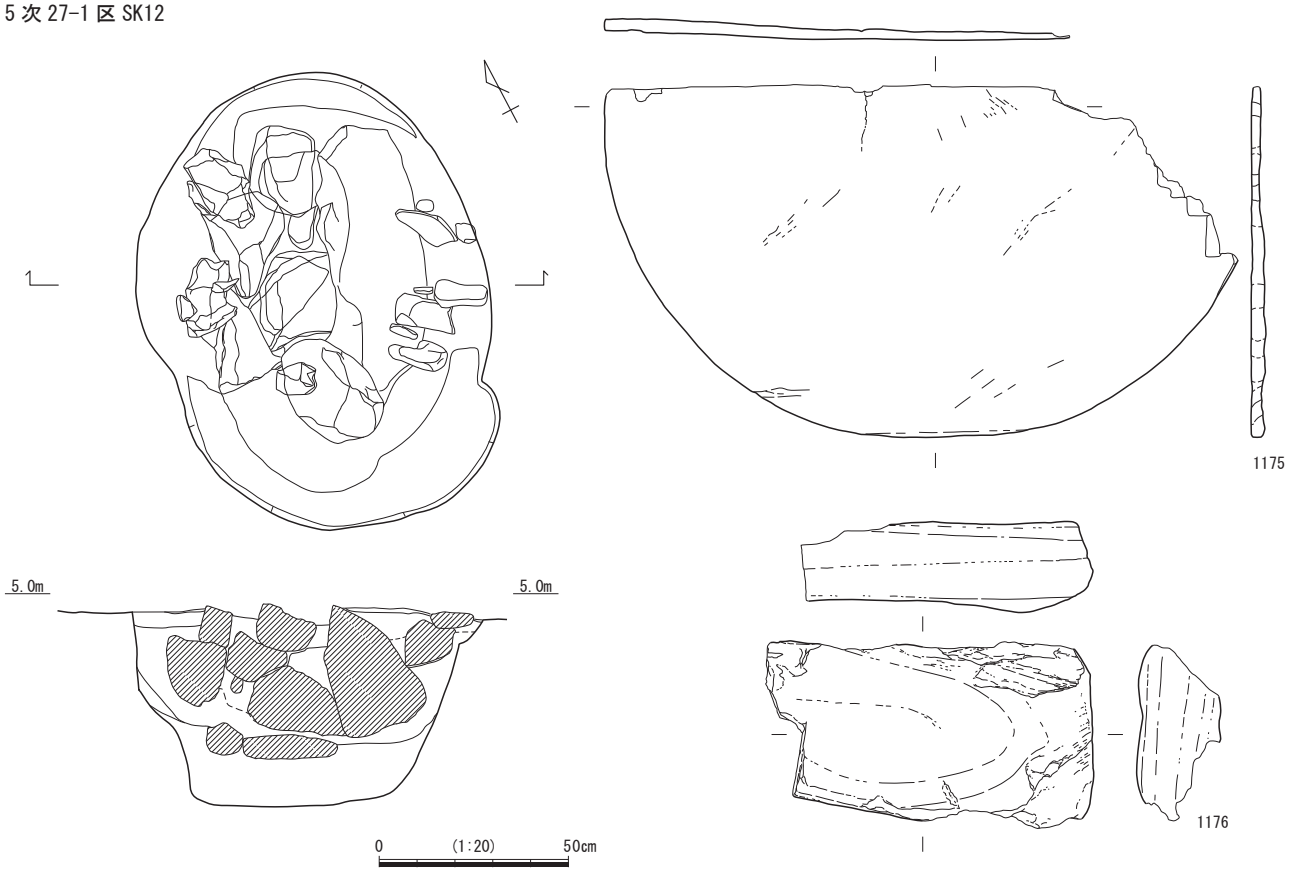
16次14区
(図133･177)
(写真図版60)

SP03からは土師器小皿Ｂ1182～1184、皿Ｈ1185出土した。1183は掘方からの出土で、他は全て柱痕跡から出土した。SP04からは小皿Ｂ1186が出土した。SP06からは皿Ｈ1187、皿1188が、SP23からは皿1189が出土した。1188･1189は口縁部のみで断言はできないが皿Ｇの可能性もある。SP25からは小皿Ｂ1190が出土した。立ち上がりが深くなる形態である。出土遺物はⅤ期新段階からⅥ期に位置づけられる。

5次27-2区SK01

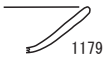


5次27-1区SK12



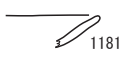
5次27-1区SP24

5次28区SP20



5次28区SP73

5次28区SP89



16次14区SP03

16次14区SP04

16次14区SP06

16次14区SP23

16次14区SP25

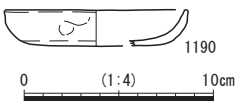


図177　5次27-2区SK01、27-1区SK12平面・断面図、柱穴出土遺物

Ⅲ－２－６　南西部の調査

豆田遺跡南西部は姫路市町坪字「豆田」と玉手字「前地」にまたがる。後述する大浄口遺跡とは、豆田遺跡南西部と大浄口遺跡の間にあたる試掘坪で遺構・遺物が確認できなかったことからそれぞれ別の遺跡と呼称している。ただ、中世段階に限れば両者は一連のものであり、遺構が希薄な様相は当該地が耕作地であったことに起因すると考えられる。

条里地割を復元すると、南東部で検出した「土居ノ内溝」を西へ延ばした位置にある２次９区の北側が九ノ坪と十六ノ坪境にあたる。２次９区で検出したSD02が坪境の遺構の可能性もある。ただ、埋土に耕作土を含むことから耕作に伴う可能性もある。そこから概ね一町南の位置で４次10−２区SD01を検出した。ただし、SD01は４次10−２区と８次39区にまたがっているが、当該部分には調査前に擁壁があったため、遺構としての全容は判然としない。また、２次10区で検出した延長部分についても、近世以降の耕作に伴う痕跡との区別がはっきりしない。これらの遺構はいずれも中世の遺構として積極的に評価はできない。ただ、位置的にいずれも坪境が想定される場所で検出されている点、他の耕作痕跡よりもやや深く掘られている点、水路等とも異なる点から条里関連遺構と位置づけておきたい。図191に示した大浄口遺跡１次１区SD03・１次２区SD14がさらに一町南に位置し、条坊界にあたると想定する。南北方向の八ノ坪・十七ノ坪と九ノ坪・十六ノ坪境は、１次３区から１次７区の西側にあたる。この位置には北西部で検出した「棚田筋」から延びる水路が延びるが、調査ではそれに関わる遺構は検出できていない。『ふる里あらかわ』によれば、かつてこれらの調査区の西側には図４に示した「藪山」があり、そこに「さんまい」があったことが記されている（荒川郷土史編集委員会1980）。南西部は以上のように四・五・九・十六ノ坪に該当している。

南西部には江戸時代には、姫路城下町から室津に至る室津道が通っており、調査前にはかつての街道跡が里道として残っていた。姫路城下町から町坪村に入った室津道は、まず二十五ノ坪と二十六ノ坪の間を南下し、二十六ノ坪南東隅で西に折れ、二十二ノ坪と二十七ノ坪の間を抜け、二十二ノ坪の北西隅で南に折れる。二十二ノ坪の北西隅には室津道の常夜灯が残されている。二十一ノ坪と十六ノ坪の東を南下し、十六ノ坪の南東隅で西に折れる。その後、十六ノ坪と九ノ坪の間を西へ進み、「藪山」の手前で南に折れたのち九ノ坪の西側を南に抜け、八ノ坪の南東隅で再び西に折れ苫編へと直進する。この苫編へと直進するルートは町坪と苫編の村境に当たる。このように南西部は近世段階では町坪村の西の境界にあたり、「さんまい」の存在などを考慮すると村境として認識されていた地区と想像する。

調査は2001年から開始し2002年、2004年、2007年～2011年、2015年、2016年の10次にわたって断続的に実施した。検出した遺構は建物跡７棟、柵跡８条、墓１基、溝、土坑、柱穴等である。遺構は１次１区・２区、２次９区、南東部で検出した区画Ａの南西隅にあたる４次10－２区の東端、９次１区、18次６区に集中する。その他は遺構密度が極めて希薄であり、江戸時代から近代にかけての耕作に伴う野井戸や土坑が点在する。

１次１区・２区、２次９区ではSB95～SB97の建物跡３棟とSA58～SA63を検出した。建物跡はいずれも時期が異なる。調査区の制約で断定はできないが、いずれも周辺に他の建物跡が確認できておらず、柱穴も少ないことから、当初から単独で存在していた可能性もある。前述の近世室津道の起源がどこまで遡るか不明であるが、街道の位置と「さんまい」、検出した建物跡の位置から上記の建物跡を検出した付近一帯は、町坪村の西の境界と認識されていた可能性もある。SB97を庇付きの建物跡と想定すると村堂のような建物であった可能性もあり、南西部の地域的な特性を表徴しているのかもしれない。区画Ａの南西隅にあたる調査区からはSB98～SB100の３棟とSA56・SA57の柵２条、屋敷墓ST07を検出した。調査範囲が限られるため想像の域を出ないが、建物の広がる範囲は坪境に近接した位置に限られ、大きくは広がらないと考えられる。写真図版２に明らかなように調査前には南西部の範囲には集落はなく、一面が耕作地であった。調査成果からもその点は追認でき、その様相が中世段階まで遡ることが明らかとなった。

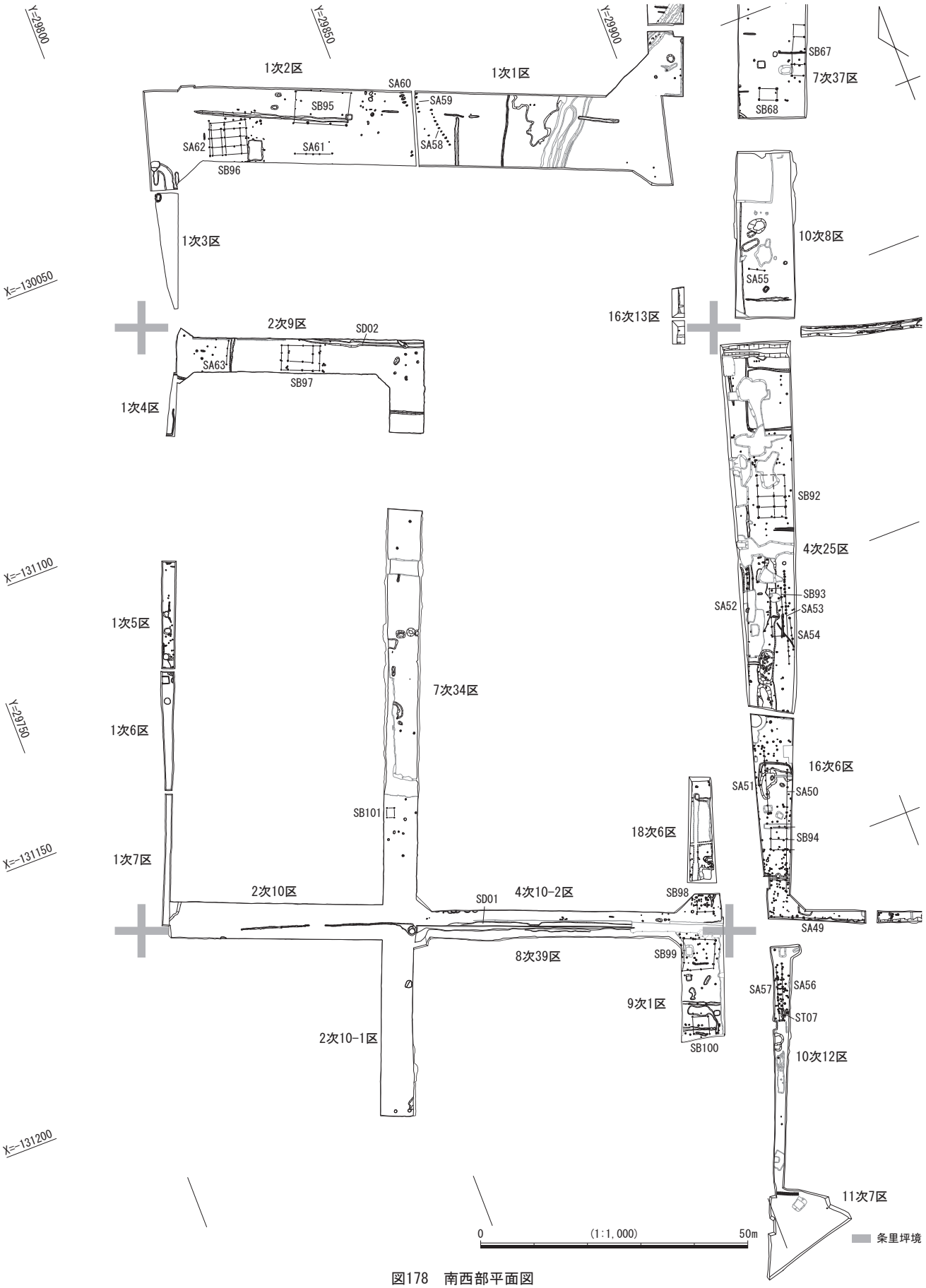

Y=29800
Y=29850
Y=29900
1次2区
SA60
1次1区
SB95
SA59
SA62
SA61
SA58
SB96
1次3区
SB67
7次37区
SB68
10次8区
SA55
X=130050
16次13区
2次9区
SD02
SA63
SB97
1次4区
SB92
4次25区
SB93
SA52
SA53
SA54
X=131100
1次5区
7次34区
1次6区
Y=29750
16次6区
SA51
SA50
SB101
18次6区
SB94
X=131150
1次7区
2次10区
SD01
4次10-2区
SB98
SA49
8次39区
SB99
SA57
SA56
9次1区
ST07
2次10-1区
SB100
10次12区
X=131200
11次7区
0
(1:1,000)
50m
条里坪境

図178　南西部平面図

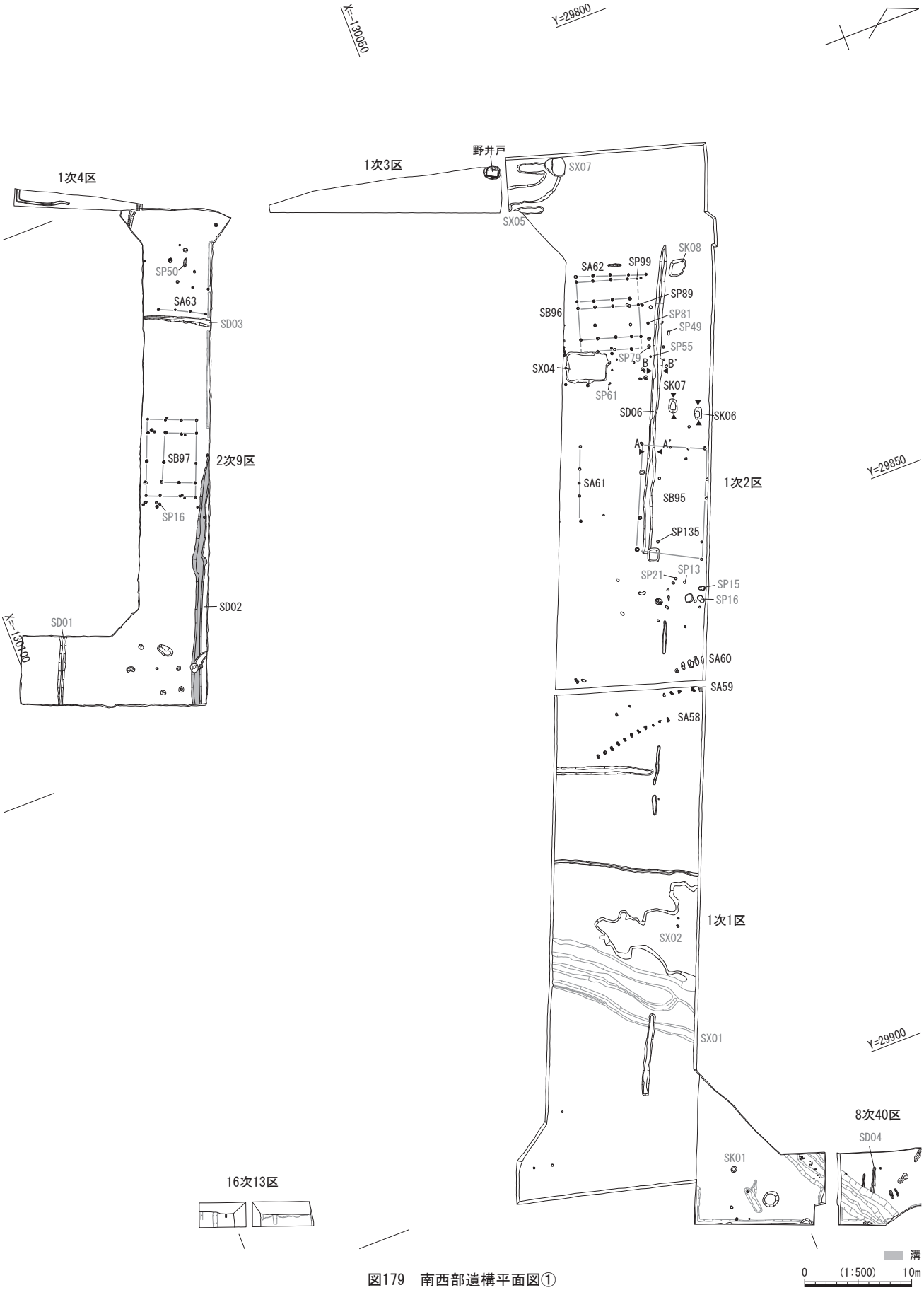


図179　南西部遺構平面図①

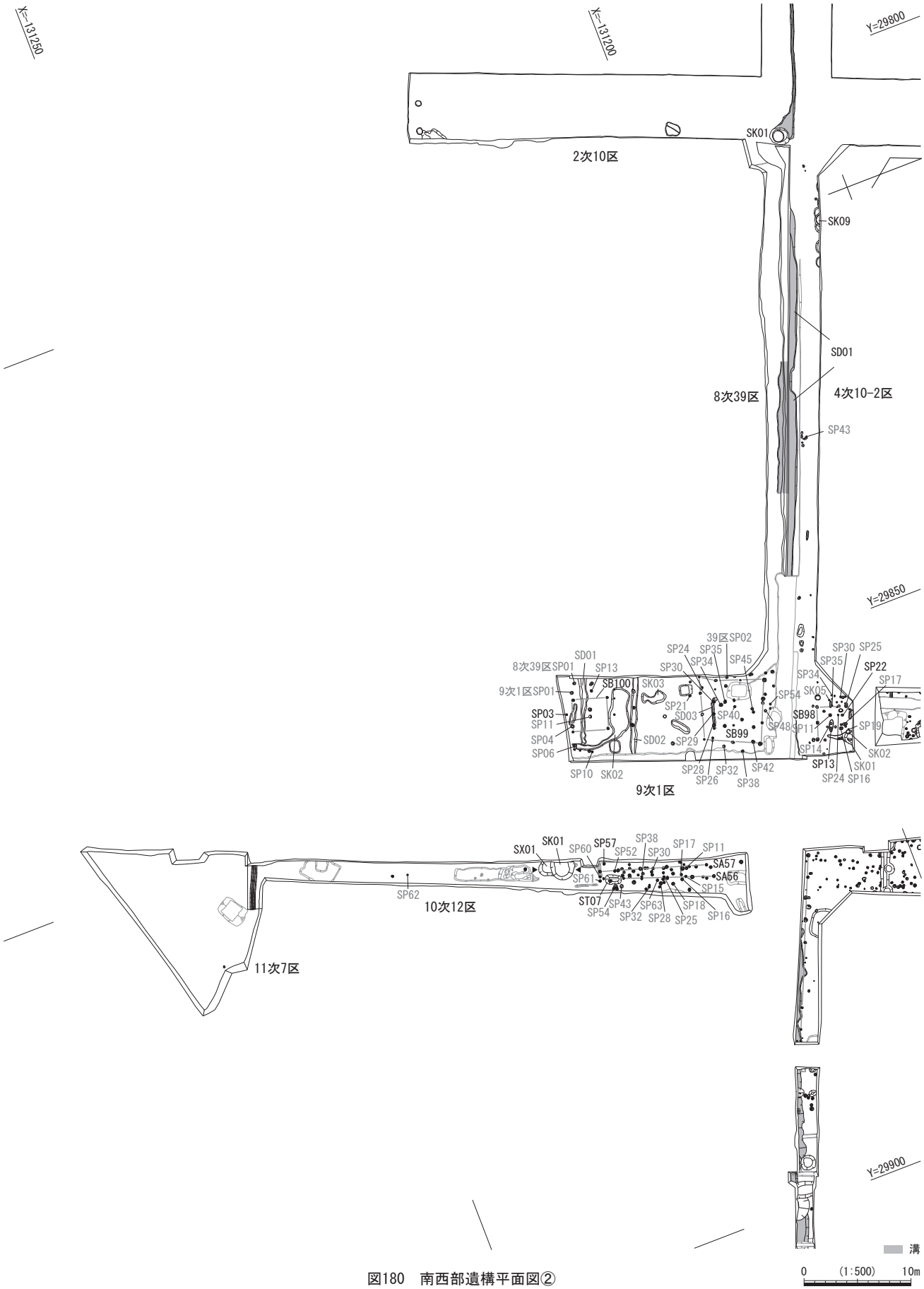


図180　南西部遺構平面図②

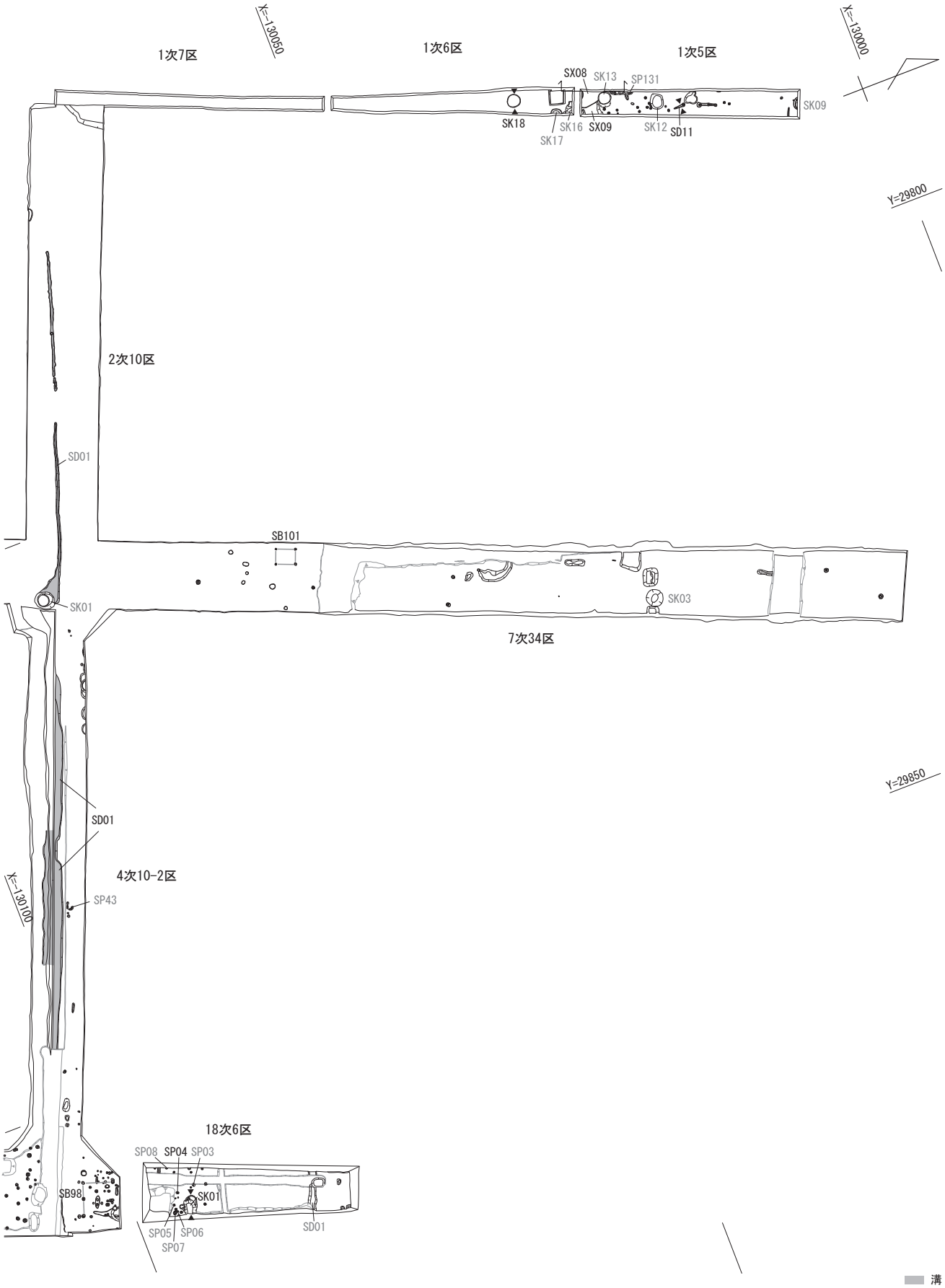


図181　南西部遺構平面図③

SB95
(図178･179･182･183)
(写真図版74･75)

１次２区の北部で検出した。検出した位置から建物跡は調査区の北側に広がる可能性を有す。平面プランはSD06と重なるが、直接の切り合いがないためその新旧は不明である。あるいは後述のとおり同時並存の可能性もある。検出状況から３間×３間もしくは４間の東西棟の側柱建物跡と考えられる。柱の配置はややいびつで、東側の柱列は確認できておらず、建物として成立するかどうかの疑問も残る。SP31－SP37を基準とした主軸方向はN24°Ｅを測る。平面規模は梁行３間で6.0m、桁行３間ないし４間で10.5mを測る。平面積は63㎡を測る。柱間寸法は梁行SP31－SP37で北から1.6m、1.65m、2.75m、桁行SP22-SP31で東から1.6m、4.1m、1.8m、3.0mを測り、柱間隔は不均等である。柱穴の平面形は基本的に円形を呈し、大きさは直径16～40㎝、深さは遺構検出面から８～30㎝を測る。SD06はSB95の南部から西へ延びる溝である。延長28.8m、幅80㎝で深さは遺構検出面から20㎝を測る。断面形は浅い皿状を呈し、特殊な構造をもつものではないが、両遺構の東端が揃っていることから有機的な関連がうかがえる。SD06から鍛冶関連遺物が出土していることを勘案すれば、SB95は居住を目的として建物ではなく、作業小屋等の特殊な機能をもつ可能性も考えられよう。

1191･1192は鞴羽口、1193･1194は椀状滓である。鉄滓については図化したものは２点であるが、形状の崩れたものを含めると出土総重量は約1.9kgに達する。同じくSD06からは土師器杯1195、須恵器皿1196、須恵器椀1197～1207がまとまって出土した。1208は見慣れない遺物であり、移動式竈の庇部分と推測するがあるいは冶金に伴う遺物であろうか。1209と1210はくの字口縁の土師器堝である。1211は須恵器壺で、肩部に突帯が巡る。土師器杯の法量はⅣ期古段階の資料と類似する。須恵器椀の年代観とも矛盾しない。調査区内では周辺に当該時期の遺構は存在していない。豆田遺跡では、当該時期は分散して住居が存在することが北東部等の調査ではっきりしているものの、SD06とSB95は当初から工房として他の建物と距離を空けて配置されている可能性も考えられる。池ノ下遺跡においてもSD086とSD0133において鉄滓の分析から小鍛冶が行われた可能性が指摘されている（兵庫県教委2012)。なお、報告書では12世紀前半とされているが、掲載された遺物は12世紀後半から15世紀と幅を持っており、豆田遺跡と同時期に池ノ下遺跡においても鍛冶が行われていたことがわかる。

SB96
(図178･179)
(写真図版74)

SB95の西側8.5mの位置で検出した。東側で検出したSX04に切られている。検出した位置から建物跡は調査区の南側に広がる可能性を有す。一部確認できない柱穴があるものの、検出状況から４間×５間の東西棟の建物跡と考えられる。SP98－SP103を基準とした主軸方向はN18°Ｅを測る。平面規模は梁行方向４間で6.0m、桁行方向５間で6.6mを測る。平面積は39.6㎡を測る。柱間寸法は梁行SP98－SP103で北から1.25m、1.55m、1.7m、1.5m、桁行SP57－SP100で東から1.2m、1.1m、1.8m、0.7m、1.8mを測り、西側から２間目の間隔が極めて狭く、その構造は判然としない。複数の建物が重なっている可能性も否定できないが、総じて柱通りは揃っている。柱穴の平面形は円形を呈し、大きさは直径20～30㎝、深さは遺構検出面から８～42㎝を測る。

遺物はSP90とSP98の埋土から土師器皿1212・1213が出土した。いずれも体部が外反する皿Ｈである。1212は口縁部が長三角形状を呈している。他の遺物が出土していないことから断定はできないがⅤ期に位置づけられる。

SB96を切るSX04は主軸N20°Ｅで、平面形は隅丸長方形を呈す。平面規模は長辺3.72m、短辺2.76m、深さは遺構検出面から30㎝を測る。底面には南北約２m、東西1.2mの範囲に炭の広がりを確認した。冶金等の痕跡はなく、その性格は不明である。埋土から土師器皿Ｈ1214、青磁碗1215、須恵器鉢1216～1218が出土した。1215は側縁を打ち欠いており面子として使用された可能性がある。1216はＢ３ｂ類、1217はＢ３ａ類で14世紀前半頃に位置づけられる。

SB97
(図178･179･185)
(写真図版76)

2次9区で検出した建物跡で1次2区SB95の南約41mに位置する。検出した位置から建物跡は調査区の北側と南側に広がる可能性を有す。検出状況から2間×2間の東西棟に庇が付く構造と考えられる。庇は現状では3面であるが、北側にも存在する可能性もある。SP20－SP23を基準とした主軸方向はN21°Eを測る。平面規模は梁行2間で3.2m、桁行2間で4.65m、庇を含めば、南北4.6m、東西7.2mを測る。平面積は主舎部分で約14.9㎡、全体で約33.8㎡を測る。柱間寸法は西端SP20－SP23で北から1.45m、1.5m、1.65m、南端SP23－SP38で西から1.3m、2.7m、1.95m、1.25mで西から2間目が長い。柱通りは桁行、梁行とも良好に揃う。柱穴の平面形は円形を呈し、大きさは直径21～33㎝、深さは遺構検出面から10～22㎝を測る。

遺物はSP38から土師器皿1219が出土した。薄作りで口縁部が外反する。区画A内出土の1020・1046・1051等と類似することから断定はできないが、Ⅵ期の所産と考える。SB97はSB96に比べると整然としており、庇付き建物と想定すれば2間四方の村堂のような施設とも考えられる。検出した遺構配置をみる限りでは、SB97もSB96も付近に建物跡がなく単独で存在するようにも見える。当該地は近世には室津道が通る場所であり、調査区の西側はかつて藪山があり、町坪集落のさんまいがあった場所である。『皇国地誌』の町坪村の記載には、「玉手池（中略）村ノ正面ニ在リ」と記される（姫路市1996）。明治時代の記述ではあるが、玉手池は図7に示すように町坪集落から「藪山」を越えた西に位置し、村の正面観を窺わせる記述であり、江戸時代から近代にかけて調査地周辺は村の境界部として意識されていた可能性が高い。調査で検出した時期の異なるSB96・SB97が、それぞれ単独で存在していることからそうした意識が中世まで遡る可能性も十分あるのではないだろうか。

SB98
(図178･180･185)
(写真図版79)

4次10-2区で検出した。検出した位置から建物跡は調査区の北側と東側に広がる可能性が高い。柱穴の一部しか検出していないが、検出状況から1間×2間以上の建物跡と考える。SP09－SP31を基準とした主軸方向はN18°Eを測る。平面規模は南北方向1間で2.1m、東西方向2間で3.05mを測る。平面積は約6.4㎡を測る。柱間寸法は東西方向SP04－SP09で東から1.55m、1.5mとほぼ等間隔である。柱穴の平面形は基本的に円形を呈し、大きさは直径25～34㎝、深さは遺構検出面から20～40㎝を測る。SP04の底部では根石の可能性がある石材を検出した。

遺物はSP09の埋土から土師器小皿B1220が出土した。Ⅴ期新段階以降に位置づけられる。

SB99
(図178･180･186)
(写真図版78)

SB98の南側約5mの位置で検出した。検出した位置から建物跡は調査区の西側に広がる可能性が高い。検出状況から2間×3間以上の東西棟の側柱建物跡と考えられる。SP22－SP43を基準とした主軸方向はN25°Eを測る。平面規模は梁行2間で5.2m、桁行3間で5.95mを測る。平面積は約30.9㎡を測る。柱間寸法は梁行SP22－SP43で南から2.7m、2.5mを測る。桁行SP43-SP53で東から1.95m、2.25m、1.75mを測る。柱穴の平面形は円形を呈し、大きさは直径20～36㎝、深さは遺構検出面から12～34㎝を測る。図示していないが、SP47から退化した鍔を持つ羽釜細片が出土した。Ⅴ期新段階以降に位置づけられる。

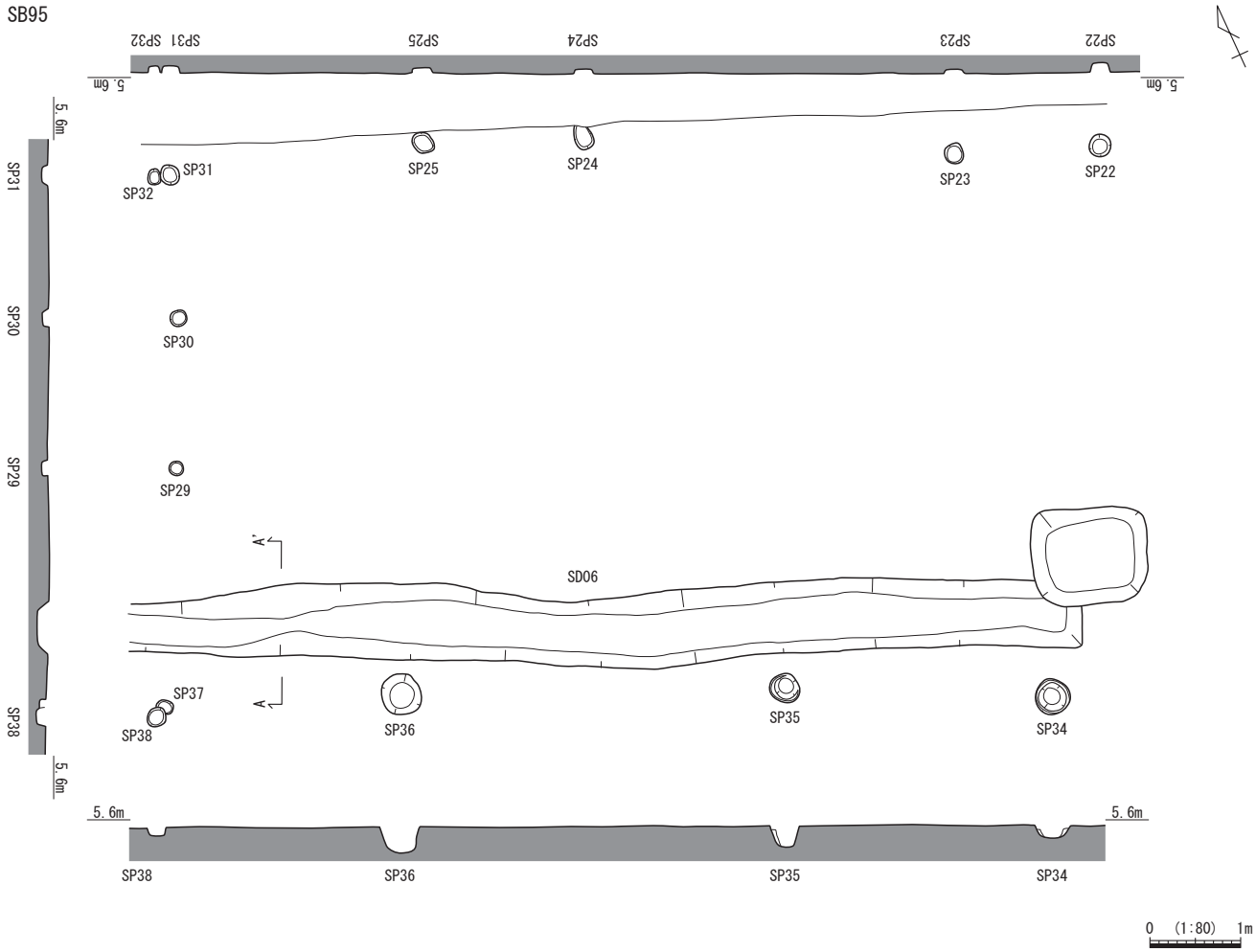
SB100
(図178･180･186)
(写真図版78)

SB99の南側で検出した。検出した位置から建物跡は調査区の南側と西側に広がる可能性を有す。検出状況から1間×1間以上の建物跡と考えられる。SP02－SP15を基準とした主軸方向はN18°Eを測る。平面規模は南北3.1m、東西2.95mを測る。平面積は約9.4㎡を測る。柱穴の平面形は円形を呈し、大きさは直径12～26㎝を測る。深さは遺構検出面から18～30㎝を測る。

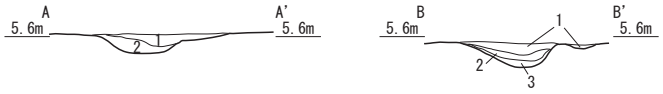
SB101
(図178･181･186)
(写真図版79)

2次10区で検出した。坪境と考えられる2次10区SD01から北へ約19.5mの位置にある。検出した位置から調査区外の西側に広がる可能性を有す。検出状況から1間×1間の建物跡と考えられる。SP01－SP03を基準とした主軸方向はN21°Eを測る。平面規模は南北3.6m、東西2.8mを測り、平面積は約10㎡である。柱穴の平面形は円形を呈し、大きさは直径35～50㎝、深さは遺構検出面から19～30㎝を測る。

SB95



SD06 【図179】



1. 2.5Y5/1 黄灰色シルト混じり細砂
2. 10YR2/1 黒褐色シルト
3. 10YR3/2 黒褐色細砂　地山ブロック混じり

0 (1:40) 1m

SD06

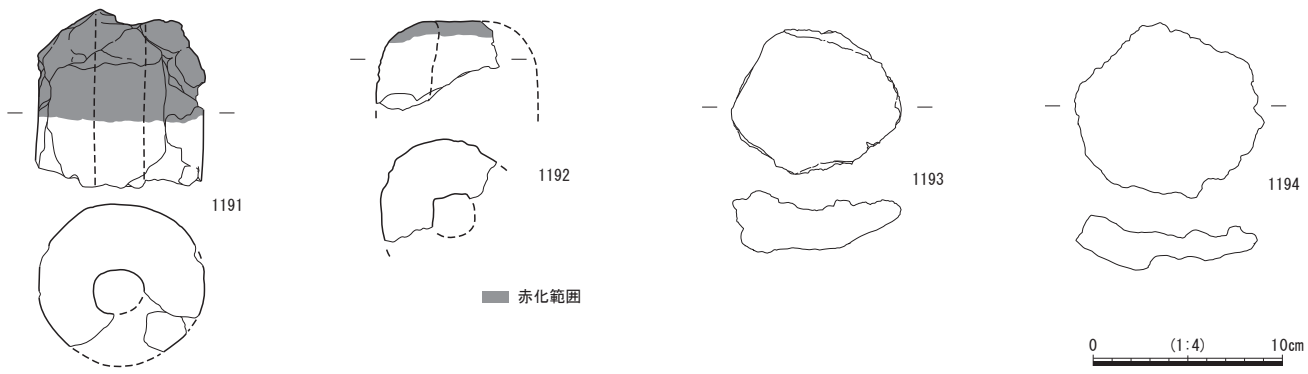


図182　SB95平面・断面図、1次2区SD06断面図、出土遺物

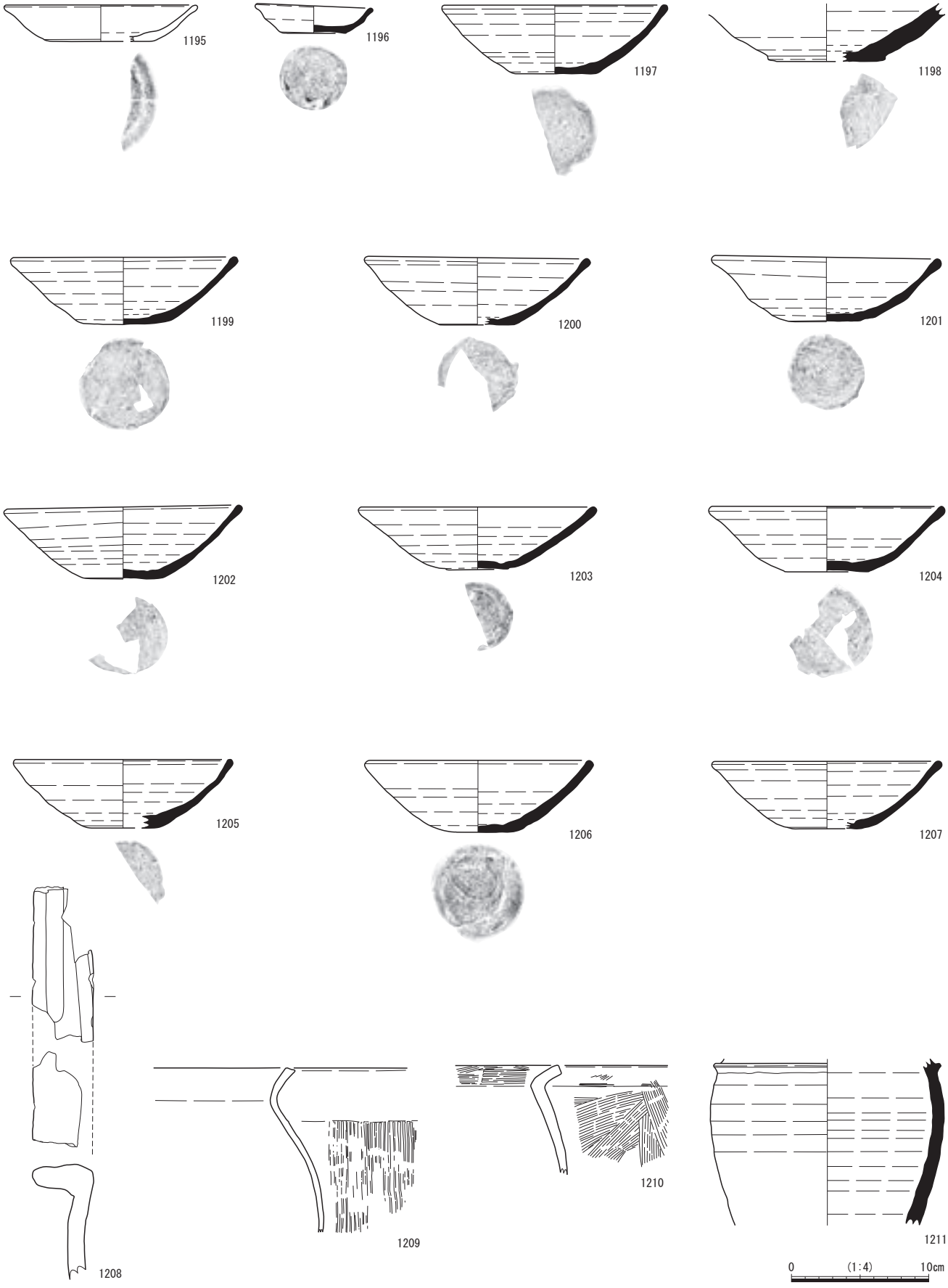
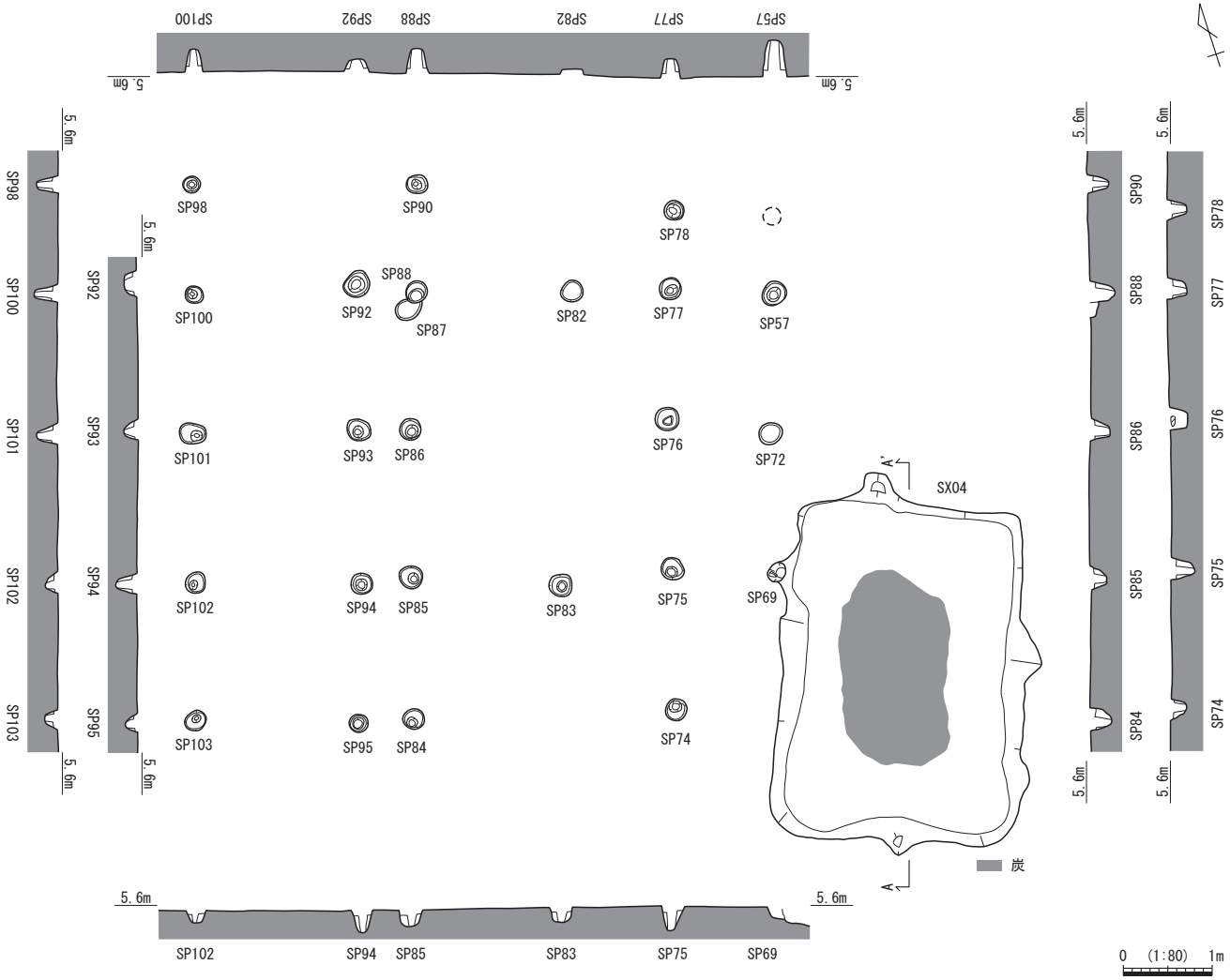
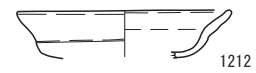


図183　1次2区SD06出土遺物

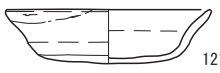
SB96



SP90



SP98



1次2区SX04

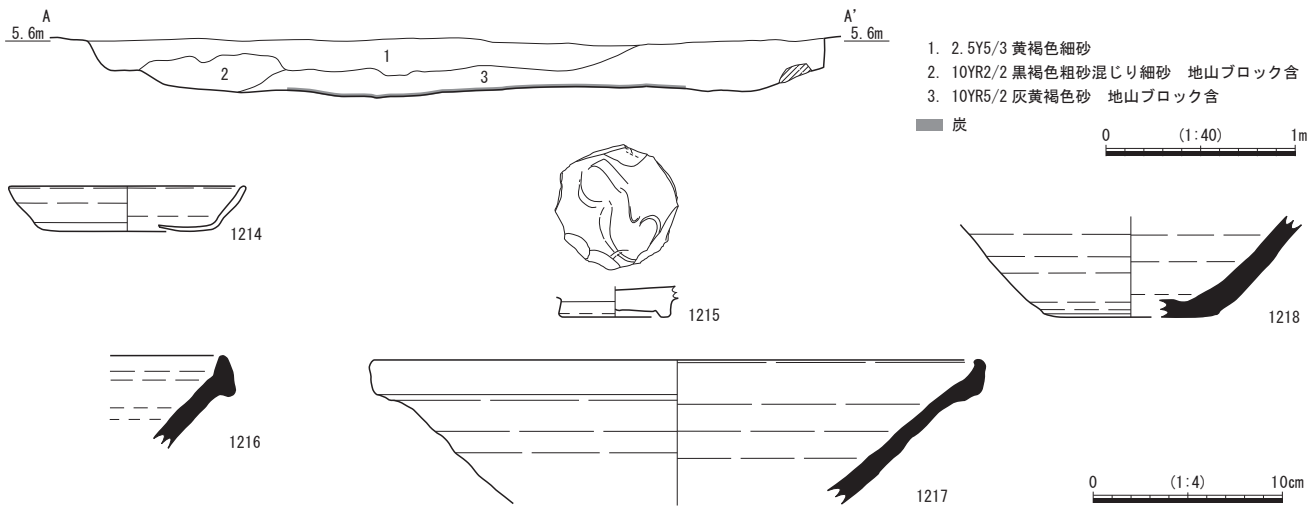
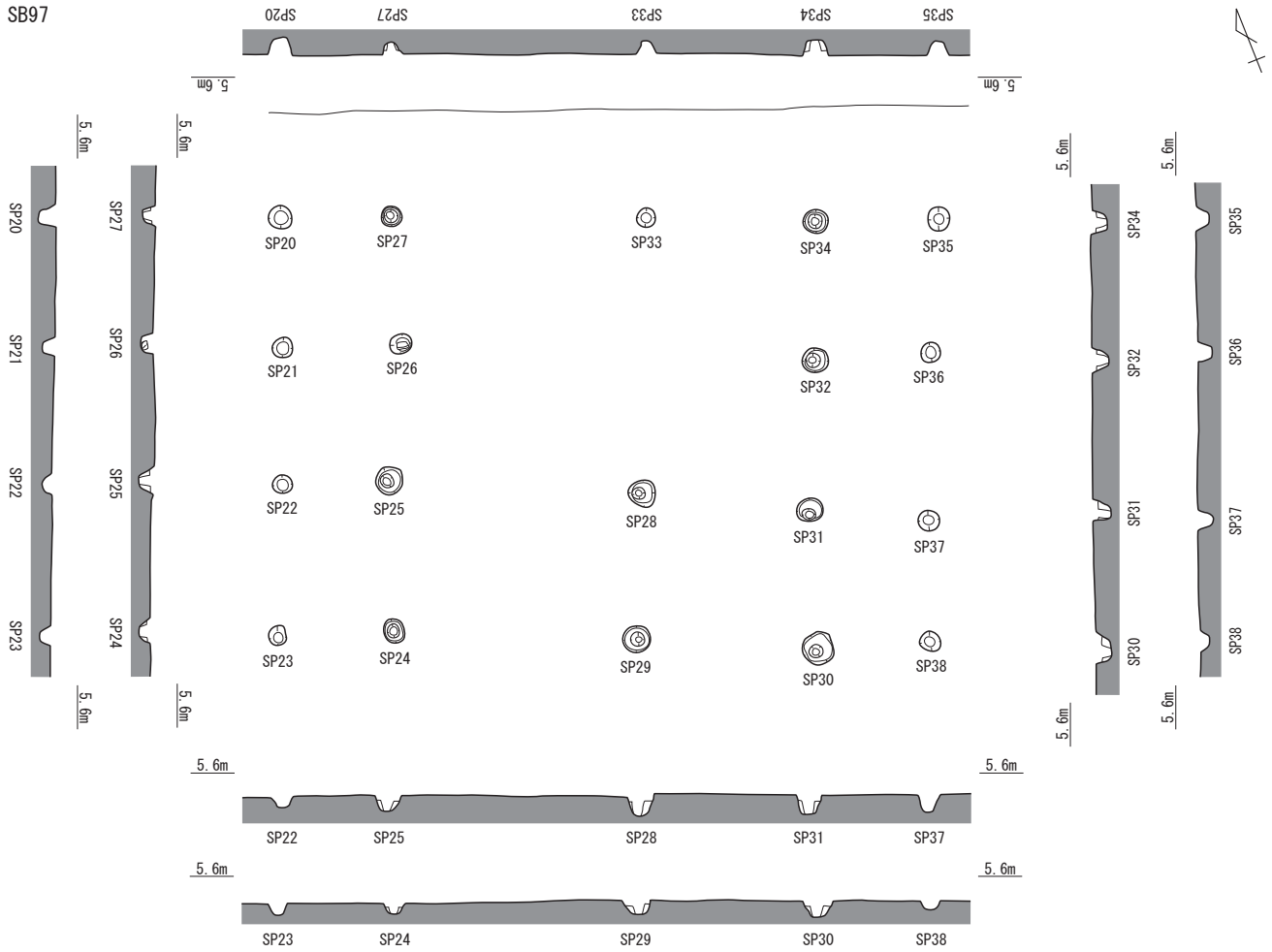
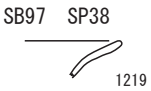


図184　SB96平面・断面図、1次2区SX04断面図、出土遺物





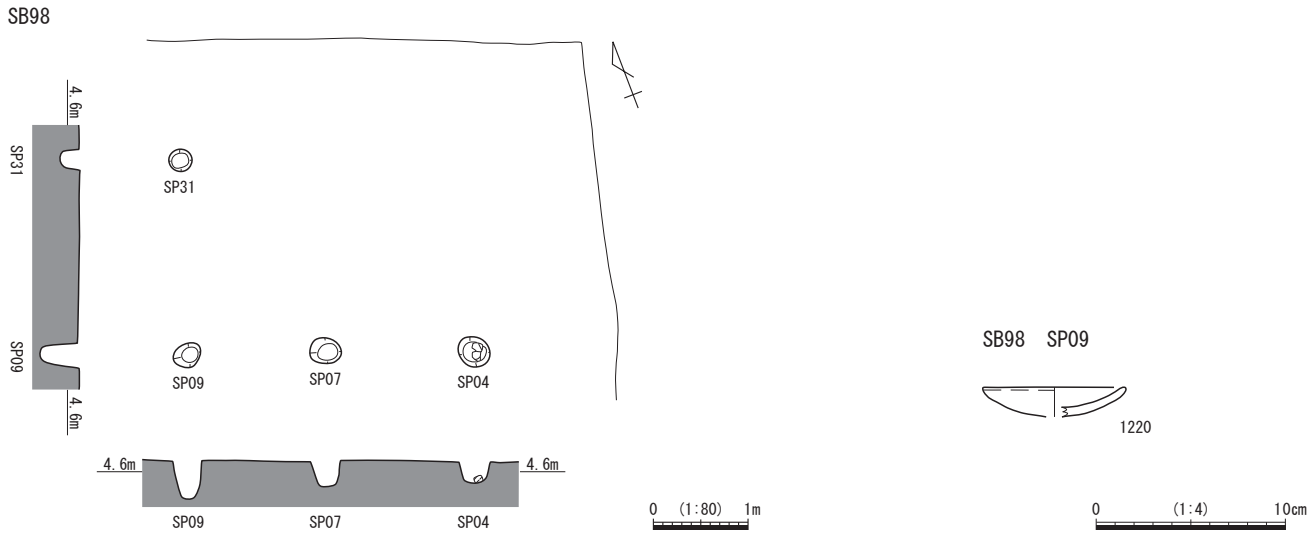


図185　SB97、SB98平面・断面図、出土遺物

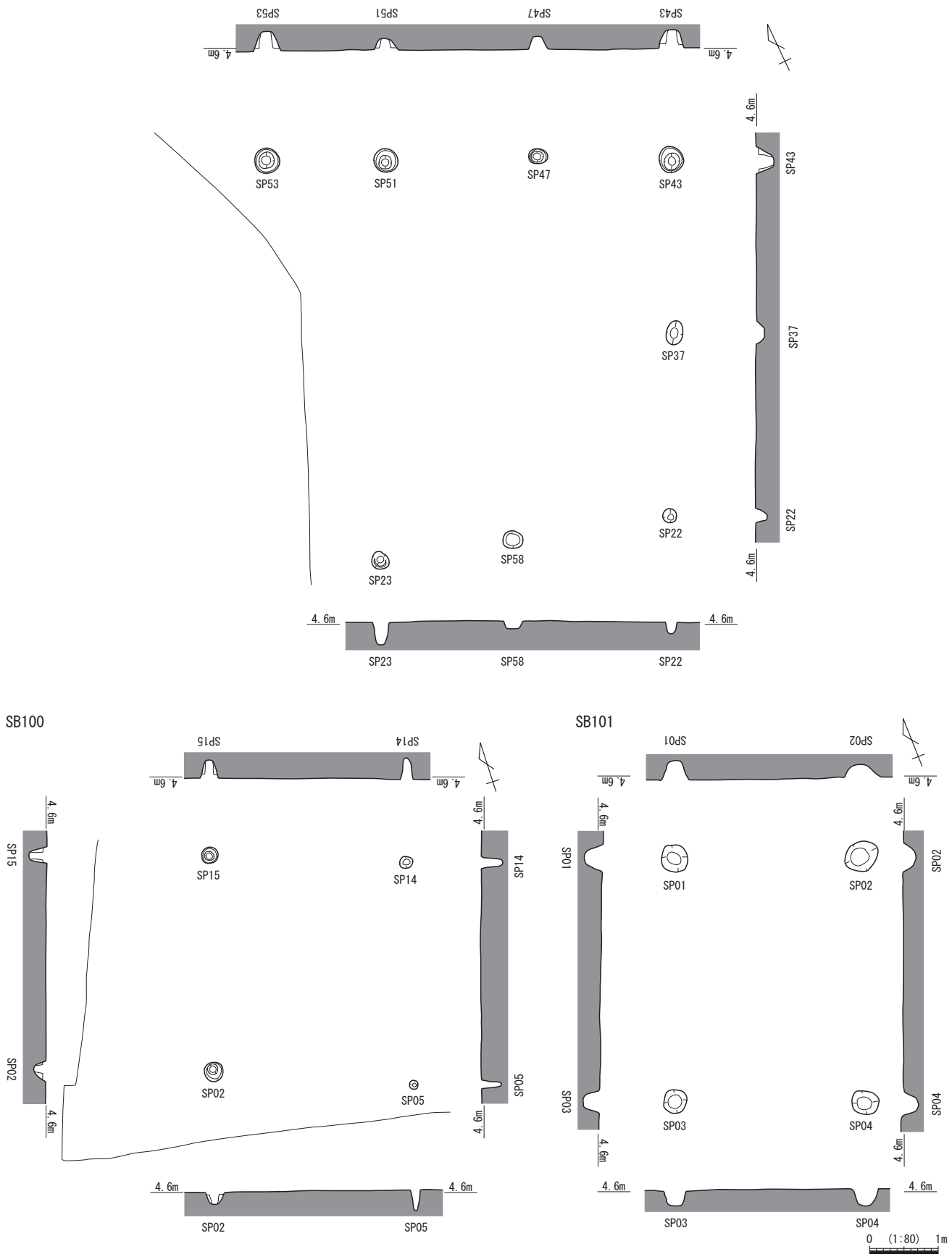


図186　SB99、SB100、SB101平面・断面図

SA56
(図178･180･187)
(写真図版80)

10次12区の北部で検出した。検出した位置から調査区外に広がる建物跡の可能性を有すが、調査区内で対になる遺構を確認できなかったことから柵と判断した。平面プランはST07と重なるが直接の切り合い関係はない。南北方向に６基の柱穴が一列に並ぶ。規模は延長10.4m、柱間隔は北から2.05m、2.35m、2.4m、1.7m、1.9mを測る。遺構の主軸はN19° Eである。柱穴の平面形は円形を呈し、直径は18～36cm、深さは14～28cmを測る。遺物はSP22から土師器鉢1221が出土した。

SA57
(図178･180･187)
(写真図版80)

SA56の西約１mの位置で検出した。検出した位置から調査区外に広がる建物跡の可能性を有す。南北方向に６基の柱穴が一列に並ぶ。規模は延長10.1m、柱間隔は北から2.25m、1.8m、2.2m、2.15m、1.7mを測る。遺構の主軸はN18° Eである。柱穴の平面形は円形を呈し、直径は26～36cm、深さは10～30cmを測る。遺物はSP40から鉄かぶと形埴Ⅱ類1222が出土した。

SA58
(図178･179･187)
(写真図版74)

１次１区の西端で検出した。明確な柱痕跡を持つものではなく、いわゆる柵ではないと考えられるが、双円形を呈した11基のピットが緩いカーブを描きながら南北方向に連なることからここでは柵状遺構とした。規模は延長7.4m、ピットの間隔を心々で計測すると北から80cm、70cm、75cm、75cm、75cm、75cm、70cm、75cm、75cm、70cmを測り、概ね75cm前後で揃っている。ピットの平面形は検出時には東西方向に長い繭状を呈しており、掘り下げに伴い底部は２基のピットが並列する様相を呈した。各ピットの長軸は最大で44cm、短軸は最大で22cm、深さは５～15cmを測る。

SA59
(図178･179･187)
(写真図版74)

SA58の西2.5mの位置で検出した。SA58と同様南北方向に緩いカーブを描きながら７基のピットが連なる。SA58との間隔は約2.5mと一定で一連の遺構である可能性が高い。規模は延長8.5m、遺構の間隔は北から0.8m、1.4m、0.7m、0.7m、3.4m、1.5mを測る。一部確認できない部分もあるが、本来は70cm前後の間隔で連なっていたと想定する。ピットの平面形は検出時には東西方向に長い繭状を呈しており、底部は２基のピットが並列する様相を呈するものもある。各ピットの長軸は最大で40cm、短軸は最大で30cm、深さは４～８cmを測る。

SA60
(図178･179･187)
(写真図版74)

１次２区の東端、SA59の約2.5m西の位置で検出した。調査区外に延びるため全容は不明である。検出状況で５基のピットが南北方向に連なる。SA58と同様、柵状遺構と判断した。規模は延長2.8m、ピットの間隔は心々で70cmの等間隔である。遺構の主軸は正確ではないがN２° E前後とみられる。遺構の平面形は検出時には繭状もしくは長円形を呈しており、完掘時にも概ねその形状を保持している点でSA58の様相とは異なる。各ピットの長軸は最大で90cm、短軸は55cm、深さは５～13cmを測り、SA58とSA59より一回り大きい。

SA61
(図178･179･187)
(写真図版74)

SB95の南5.5mの位置で検出した。検出した位置から調査区外に広がる建物跡の一部である可能性も考えられるが、ここでは柵と判断した。東西方向に５基の柱穴が一列に並ぶ。規模は延長7.0m、柱間隔は西から2.1m、1.25m、1.25m、2.4mを測る。遺構の主軸はN21° Eと直交する。柱穴の平面形は円形を呈し、直径は22～29cm、深さは遺構検出面から18～38cmを測る。

SA62
(図178･179･187)
(写真図版74)

SB96の西0.5mの位置で検出した。検出した位置からSB96を構成する柱列の可能性もある。しかし、SB96の柱穴との対応関係が不明な部分もあるため、別の遺構と判断した。南北方向に５基の柱穴が一列に並ぶ。規模は延長6.5m、柱間隔は北から1.6m、1.75m、1.6m、1.55mを測る。遺構の主軸はN20° Eである。柱穴の平面形は円形を呈し、直径は19～34cm、深さは20～30cmを測る。

SA63
(図178･179･187)
(写真図版76)

２次９区で検出したSB97の西約10mの位置で検出した。南北方向に４基の柱穴が一列に並び、さらに南北に延びると考えられる。調査区内で対になる遺構がないことから柵と判断した。規模は延長4.45m、柱間隔は北から1.45m、1.4m、1.6mを測る。遺構の主軸はN26° Eである。柱穴の平面形は円形を呈し、直径は19～22cm、深さは12～16cmを測る。

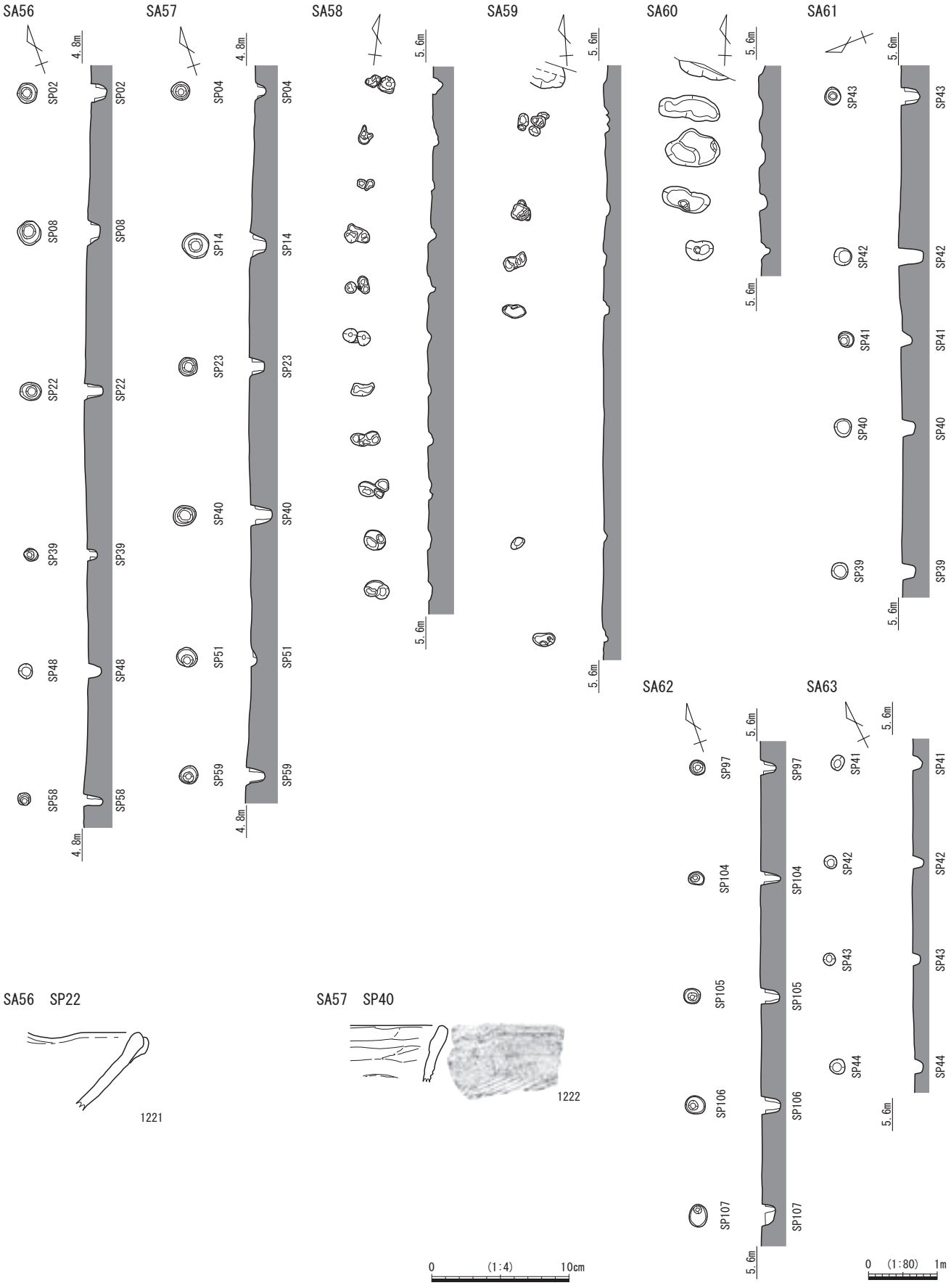


図187　SA56～SA62平面・断面図、出土遺物

ST07
(図180･188)
(写真図版80)

ＳA56と平面が重なる位置で検出した。ＳA56を構成する柱穴と直接の切り合いがないため遺構の新旧関係は不明である。平面形は南北に長い隅丸方形を呈し、南北1.5m、東西85㎝を測る。土坑は緩やかに掘り込まれ、土坑底部分は南北1.05m、東西50㎝の範囲がわずかに方形にくぼんでいる。木質等は確認できなかったが、この方形のくぼみが木棺痕跡である可能性に注目し、墓と判断した。遺物は、掘方南西隅から青磁碗1223が出土した。

10次12区 SX01･SK01
(図180･188)

ＳA57の南2.2mの位置で検出した。SK01は、調査区外に広がるため全容は不明であるが、本来は円形を呈すと想定する。検出規模で南北2.25m、東西1.64m、深さ35㎝を測る。ＳX01はＳK01に切られる。ＳX01も調査区外に広がるため全容は不明である。ＳX01は明確な掘方をもたず、落ち込みとみられるが、検出規模で南北1.3m、東西1.12m、深さは最大で15㎝を測る。

遺物はＳX01から須恵器鉢1224、須恵器椀1225、SK01から備前焼擂鉢1226が出土した。1224は口縁部形態Ｂ３ａ類で、1226は中世４ａ期の所産である。

1次2区SK06
(図179･189)

SB95の西2.5mの位置で検出した、東西方向に長い隅丸長方形の土坑である。長辺1.1m、短辺66㎝、深さは最大で13㎝を測る。断面形は浅い皿状を呈し、明確な掘り込みを伴わない。埋土は単層である。遺物は土師器皿Ｈ1227、須恵器椀1228が出土した。

1次2区SK07
(図179･189)

SB95の西約3.0mの位置で検出した、東西方向に長い隅丸長方形の土坑である。長辺1.24m、短辺76㎝、深さは遺構検出面から15㎝を測る。SK06に比べると明確に掘り込まれる。遺物は須恵器椀1229と須恵器皿1230が出土した。SD06と同時期と考えられる。

1次5区SX08 ･SX09
(図181･189)
(写真図版76)

調査区の南端で検出した落ち込みである。SK13が上面にあるため、北側の肩が不明である。検出規模は南北1.5m、調査区南端で東西1.5m、深さは34㎝を測る。ＳX09は検出時にはＳX08との切り合い関係にあると判断したが、本来は一連の落ちである可能性もある。

遺物はＳX08から白磁碗1231・1232、備前焼擂鉢1233が出土した。ＳX09からは中世３ａ期の備前焼擂鉢1234が出土した。遺物には時期幅があるが、14世紀半ば頃に位置づけられる。

1次5区SD11
(図181･189)

ＳX08の北約７ｍの位置で検出した、溝状の遺構である。平面規模は延長1.09m、幅は最大で33㎝、深さは９㎝を測る。鋤溝の可能性も考えたが、方位が耕作地の地割と異なる点と遺物が出土していることから中世段階の遺構と判断した。遺物は須恵器鉢の口縁部1235が出土した。

1次6区SK18
(図181･189)

調査区北端から南へ約５ｍの位置で検出した円形の土坑である。平面規模は直径1.22m、深さは10㎝を測る。掘り込みは浅いが、垂直に掘り込まれていることから耕作に伴う曲物等を設置していた可能性もある。遺物は瓦質土器三足1236が出土したが、混入の可能性もある。

18次6区 SK01
(図181･189)
(写真図版80)

調査区南端から北約４ｍの位置で検出した。調査区外に広がるため全容は不明である。検出規模で東西1.8m、南北1.22m、深さは遺構検出面から26㎝を測る。埋土内には礫を多く含んでいる。遺物は中世４ｂ期に位置づけられる備前焼擂鉢の口縁部1237が出土した。

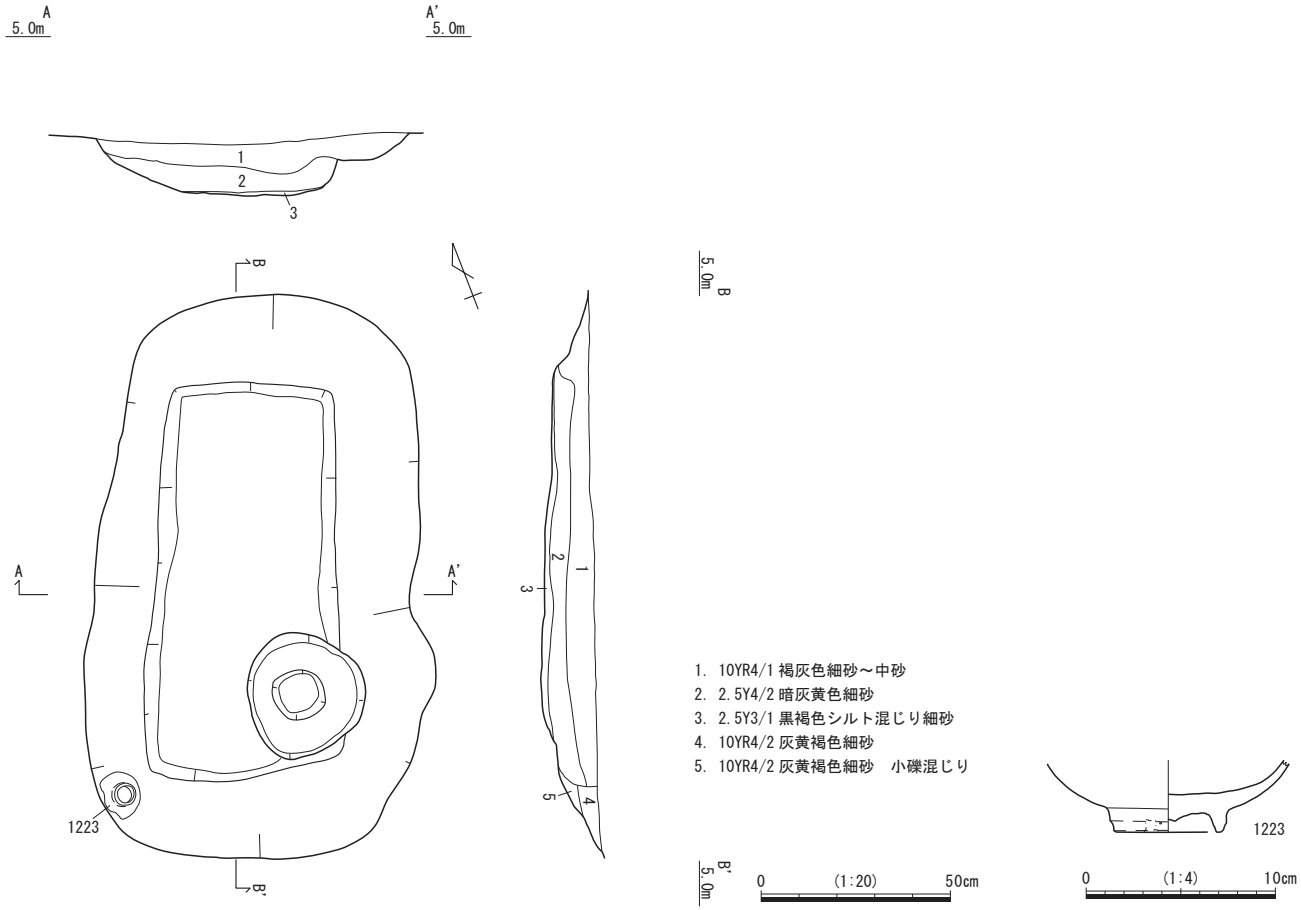
柱穴
(図179･180･190)

建物を構成しない柱穴からも遺物が出土している。１次２区SP89からは須恵器鉢の口縁部1238が出土した。口縁部形態はＢ２ｂ類である。SP99からは土師器小皿Ｂ1239・1240、皿Ｉ1241がまとまって出土した。SP135からは底部ヘラ切りの土師器杯1242が出土した。４次10-２区SP22からは土師器小皿1243が出土した。SP13からは鉄かぶと形堝Ⅰ類1244が出土した。９次１区SP03の掘方からやや外傾気味の土師器羽釜1245が出土した。このタイプの羽釜はＶ期新段階から出現する。10次12区SP57からは土師器皿1246が出土した。薄手の皿Ｏである。18次６区SP04からは鉄かぶと形堝Ⅱ類1247が出土した。内面のナデは弱く、口縁部も丸く収める。

遺構に伴わない遺物
(図190)

１次５区包含層から瀬戸卸皿1248が、２次10区包含層から底部糸切り後輪高台を張り付ける須恵器椀1249、底部ヘラ切りの須恵器杯1250が、４次10-２区包含層から須恵器杯Ｂ1251・1252、底部ヘラ切りの須恵器杯1253、須恵器壺1254・1255が、７次34区包含層から須恵器堤瓶1256が出土した。

ST07



10 次 12 区 SX01-SK01 【図 181】

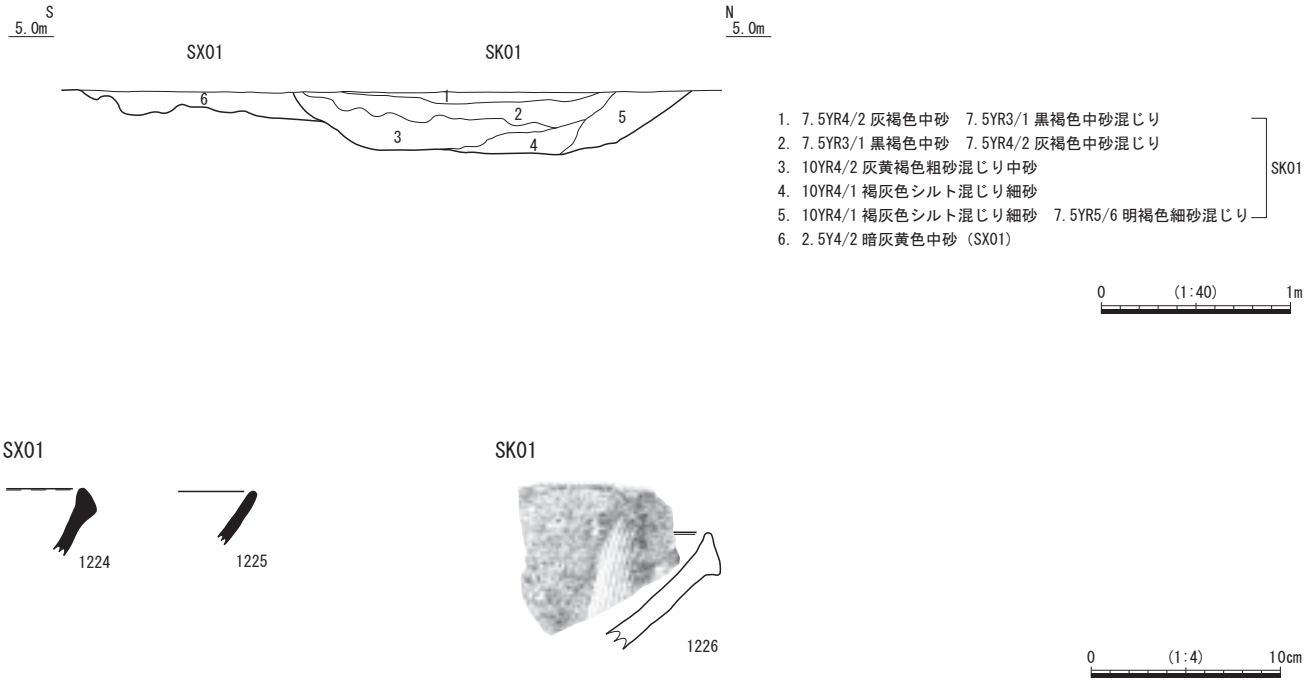
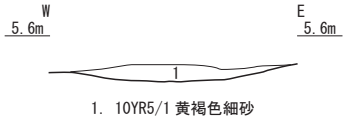
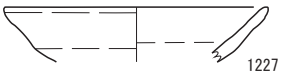


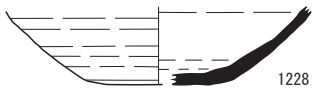
図188　ST07平面・断面図、10次12区SX01-SK01断面図、出土遺物

1次2区SK06 【図179】

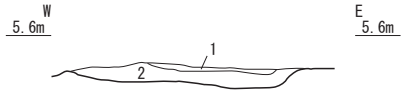


1. 10YR5/1 黄褐色細砂

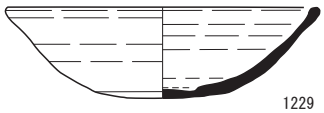


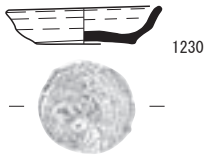


1次2区SK07 【図179】

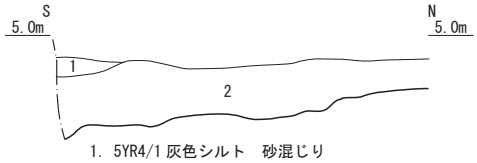


1. 10YR5/6 黄褐色細砂
2. 10YR4/1 褐灰色細砂混じりシルト

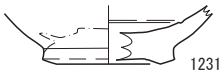


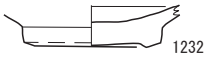


1次5区SX08 【図181】

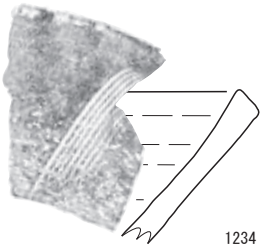


1. 5YR4/1 灰色シルト　砂混じり
2. 10YR5/4 にぶい黄褐色砂混じりシルト

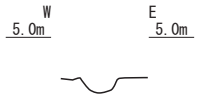


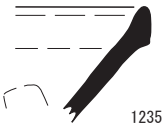


1次5区SX09

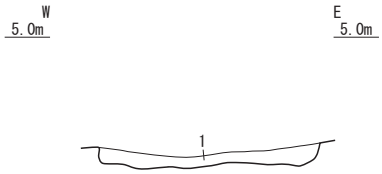


1次5区SD11 【図181】

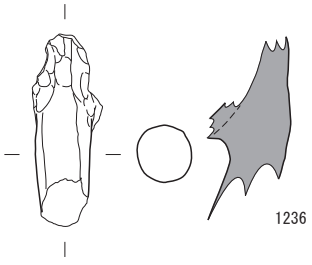




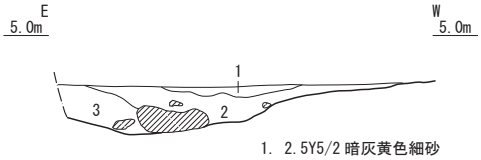
1次6区SK18 【図181】



1. 10Y5/2 灰黄褐色シルト、漆喰混じり



18次6区SK01 【図181】



1. 2.5Y5/2 暗灰黄色細砂
2. 10YR5/2 灰黄褐色極細砂
3. 10YR3/1 黒褐色礫混じりシルト

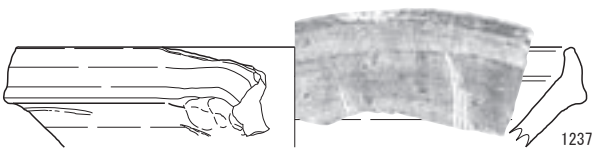
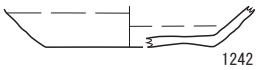


図189　1次2区SK06、SK07、5区SX08、SD11、6区SK18、18次6区SK01断面、出土遺物

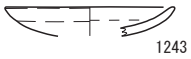
1 次 2 区 SP89

1 次 2 区 SP99

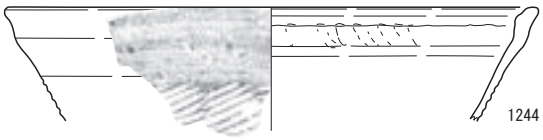
1 次 2 区 SP135



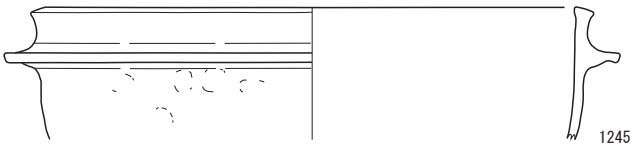
4 次 10-2 区 SP22



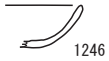
4 次 10-2 区 SP13



9 次 1 区 SP03

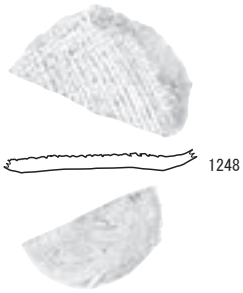


10 次 12 区 SP57

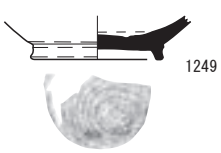


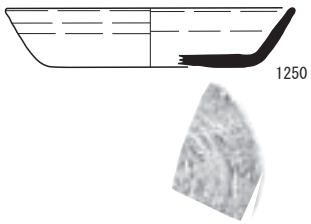
18 次 6 区 SP04

1 次 5 区包含層

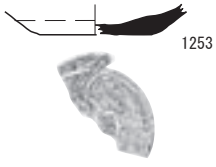


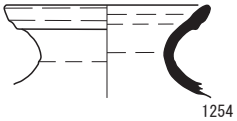
2 次 10 区包含層

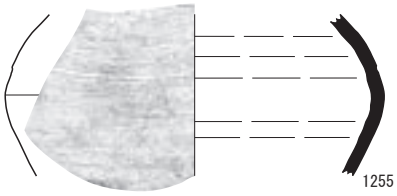




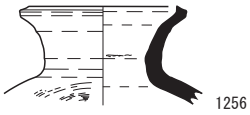
4 次 10-2 区包含層







7 次 34 区包含層



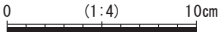


図190　北西部柱穴・包含層出土遺物

Ⅲ－２－７　大浄口遺跡の調査

大浄口遺跡の調査は2002年度に実施した１次調査のみである。井戸SE11と溝のほか、性格不明の不整形な土坑を多数確認した。SE11は単独で検出したもので、周辺に建物跡は確認できない。井戸は石組みで最下部に曲物を持ち、南東部で検出したSE08・SE09と構造が類似する。土坑は１次１区南西隅、１次３区北半でまとまって検出した。切り合い関係をもつものは少ない。掘り込みの明確なものと、不明確なものの２種がある。遺物の出土は限定的であるため時期を含め詳細は不明であるが、遺跡の基盤層は前述した白色粘土であり、掘り込みの明確なものについては土取り痕の可能性が指摘できる。大浄口遺跡は１次１区SD03と１次２区SD14を境に条坊が異なると想定するが、遺構の検出状況に大きな差は認められない。

SE11
(図191･192)
(写真図版82)

１次２区の西側のほぼ中央で検出した。試掘調査の際に存在が確認されていた。掘方は円形を呈し、直径約1.3m、深さは遺構検出面から95cmを測る。掘方は漏斗状に掘られ、底面にあたる砂礫層に直径約35cm、高さ約35cmの曲物を設置する。曲物の上面から石組みを行うが、根太等の構造は認められない。曲物の上部に直接最下段の石材を置く。石材は一辺20～25cmの角礫を主とし、約60cm積み上げる。石組みは持ち送り気味に積まれ、その傾斜は20～30°を測る。石組みの内径は最下段で直径25cm、最上段で75cmを測る。

遺物は曲物内の埋土から出土した。1257・1258は土師器小皿Ｂ、1259・1260も皿Ｂと思われるが器表が摩滅しているため判然としない。1261は皿Ｈである。遺物の様相からⅤ期に位置づけられる。最下段に曲物ないし桶を設置し、石材を持ち送り気味に積む構造はSE08･SE09と共通し、時期も共通する。これらの井戸の周辺には建物跡が見つからない点でも共通しているが、掘り込みを伴わない礎石建物等が存在した可能性もあろう。

1次2区SD12
(図191･192)
(写真図版82)

SE11の西約4.5mの位置で検出した。南北方向に延びる溝で主軸はN21°Ｅである。南側はSD11－１に切られるが、調査区外に延びている。検出規模で延長12.17m、幅約50cm、深さは遺構検出面から10cmを測る。埋土は基本的に単層である。遺物は須恵器鉢の底部1263が出土した。その他SD12とSD11－１が切り合う付近から白磁碗1262が出土している。SD11は東西方向に延びる遺構で、溝と認識したが遺構の肩が明瞭な部分と不明瞭になる部分がある。調査区西端でSD13に切られる。延長は18.8m、幅1.7m、深さ20cmを測る。

1次2区SD14
(図191･192)

１次２区の北端で検出した東西方向に延びる溝である。検出位置は、１次１区SD03とともに条里地割の坪境に相当する。調査区外に延びるため全容は不明であるが、検出規模で延長6.52m、幅1.03m、深さは最大で15cmを測る。断面形状は浅い皿状を呈し、掘方は明瞭ではない。遺物は須恵器鉢の口縁部1264が出土した。口縁部分類Ｂ２ａ類である。遺物の時期は12世紀後半頃である。

1次2区SX01
(図191･192)

大浄口遺跡では、１次２区ＳX01・１次１区SP25のような不整形の掘り込みを多数確認した。１次１区南西角、１次３区の北側でまとまって検出している。埋土はいずれも暗灰色土である。SX01は大型であるが、掘り込みはあまり明瞭でない。土師器堝1265が出土した。くの字口縁甕でⅣ期の所産であるが、細片であり遺構の時期比定の確実な根拠としては不安が残る。

1次1区SP25
(図191･192)
(写真図版81)

１次１区の南西隅でまとまって検出した土坑のうちのひとつである。埋土は１次２区ＳX01と大きな違いはないが、比較的垂直に掘り込まれている点が異なる。掘り込みは図192に示すように地山３層の直上で止まっている。仮に土取り跡であれば、地山２層の灰白色シルト－粘土を採取したものとなろう。１次３区の地山の様相も同様であることから、これらは灰白色シルトを採取した土取り跡の可能性を指摘しておきたい。

遺構に伴わない遺物
(図192)

１次２区出土の1266は須恵器椀、３区出土の1267は土師器羽釜、1268は底部ヘラ切りの須恵器杯である。

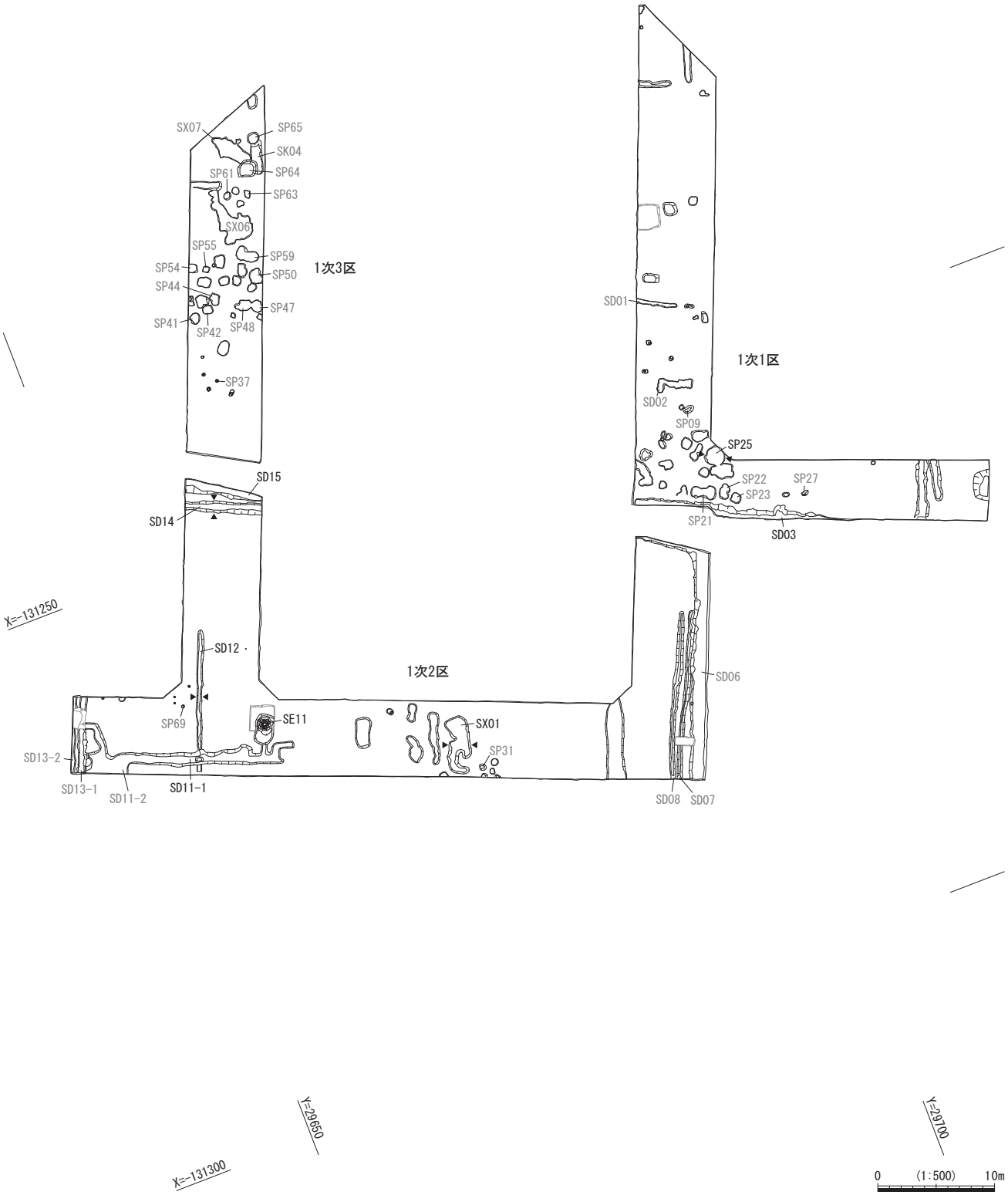
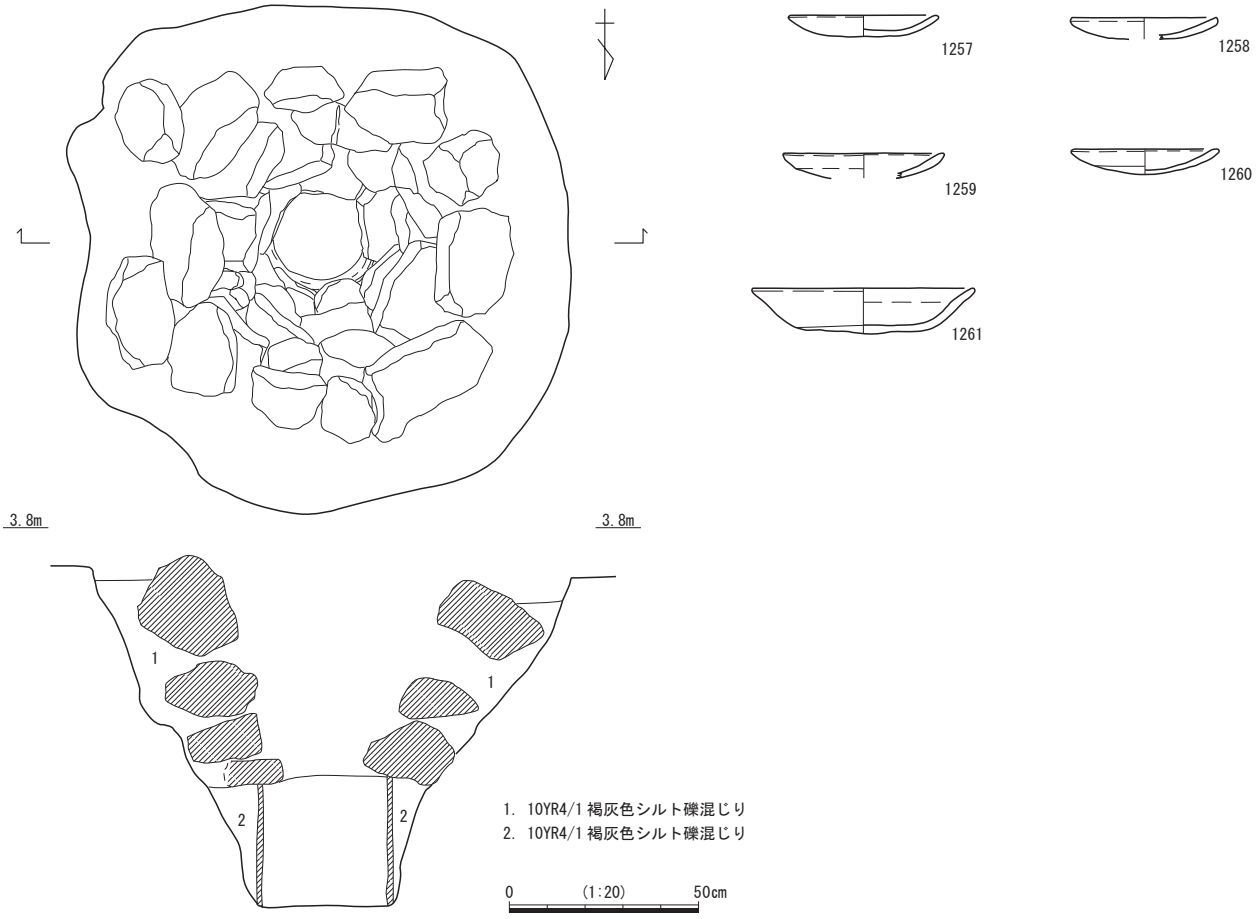
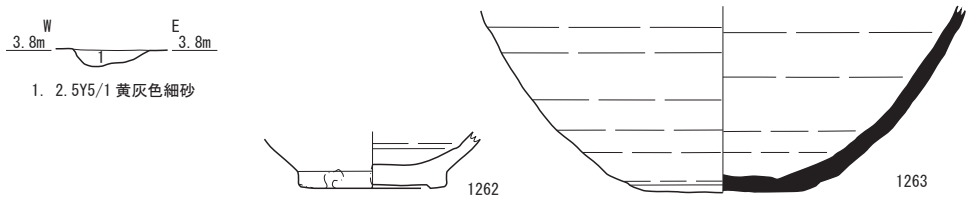


図191　大浄口遺跡平面図

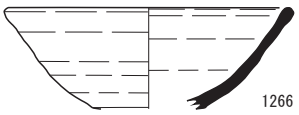
SE11



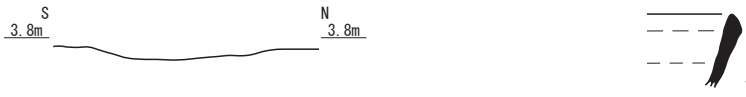
1次2区 SD12 【図191】



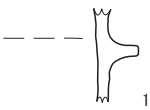
1次2区 包含層



1次2区 SD14 【図191】



1次3区 包含層



1次2区 SX01 【図191】

1次1区 SP25 【図191】

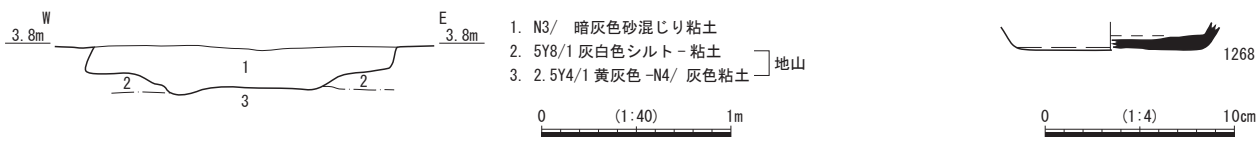


図192 SE11平面・断面図、1次2区SD12、SD14、SX01、1区SP25断面図、出土遺物

Ⅲ－３　江戸時代以後の遺構と遺物

発掘調査によって、中世から継続する用水路であることが判明した「棚田筋」、「寺前水路」、「北町溝」、「土居ノ内溝」は、江戸時代を通じ改変されながらも維持されてきた。調査前の段階では、「棚田筋」は幅が狭められ当初の水路部分は深田となっている。「棚田筋」からは江戸時代の遺物が出土していない。「寺前水路」からは江戸時代の遺物がまとまって出土している。「北町溝」は18次12区全域と４次13区SD01が該当する。18次12区は調査区の制約により規模は判然としない。中世土器とともに江戸時代の遺物も出土しているが、図化に耐えうるものは存在しない。「土居ノ内溝」は29区SD01の記述で変遷を述べたとおりである。

図205に示すように江戸時代になると調査地内においては建物跡等は全く確認できなくなり、水路、野井戸等の耕作に伴う遺構のみとなる。このことは居住域と耕作地が完全に分離したことを示し、図８あるいは写真図版１に見る田園風景の広がる景観が考古学的に江戸時代まで遡ることを示している。

寺前水路
（図34･35･100･102･135）
（写真図版13･14･45･52･72）

10次11区SD01－22次１区SD01－14次４区SD01－18次４区SD01－16次３区SD02－５次25-３区SD03－14次９区SD03－５次25-２区SD01-３－10次８区SD01が一連と考える。一部検出できていない調査区もあるが、総延長は425mである。ほとんどの調査区で溝の東肩の一部がかかる程度であるが、14次４区と18次４区は調査区内に大きく広がる。14次４区SD01は延長42.6m、幅5.1m、深さ50㎝を測る。図193に示した断面図１～３層が新しい溝で、４～６層は古い段階の溝埋土である。18次４区SD01は延長16.5m、幅8.45m、深さ80㎝を測る。埋土からは新旧は区別できない。18次４区SD01は直線的に延びず二十二ノ坪と二十七ノ坪の境で急激に西へ振れる。18次４区（南）の西壁で溝の埋土が確認できるものの、本調査区は全域が大きく攪乱を受けているため、溝の肩は検出できていないが、調査区内に大きく広がるものではないと思われる。

遺物は14次４区SD01の１～３層から1269～1274が出土した。1269は土師器皿、1270は陶器碗、1271は外面に草花文を描く染付碗、1272は白釉で花文を描く陶器碗、1273は染付碗、1274は備前焼擂鉢である。18次４区SD01はほとんど遺物が出土していない。青磁皿1281を図示した。14次９区SD02からは1275～1280が出土した。1275は広東碗、1276は染付の丸碗、1277・1278は丹波焼の片口である。1279は算盤玉形の陶器土瓶である。注口を欠損する。1280は下駄である。５次25-２区SD01からは陶器碗1282、灰釉陶器灯明皿1283、白磁の人形頭部1284が出土した。内部は中空である。

野井戸
（図36･179･180）
（写真図版10･62･75･79）

豆田遺跡においては、多くの野井戸を検出した。本書で野井戸としたものには、いわゆる井戸の形状をもつものに限らず、桶や漆喰塗の土坑など掘方の比較的浅いものも含み、遺構検出段階で明らかに新しい埋土を持つと判断したもの総称している。ただし、検出時に判断できなかったものは、そのままSK等としているため、呼称は一貫していない。いずれも農作業に伴う施設と考える。井戸構造となっているのは１次３区野井戸、２次10区SK01、５次29区野井戸４、野井戸５、野井戸６、５次30区野井戸１、９次２区野井戸である。図194にはそのうちの一部の実測図を提示した。

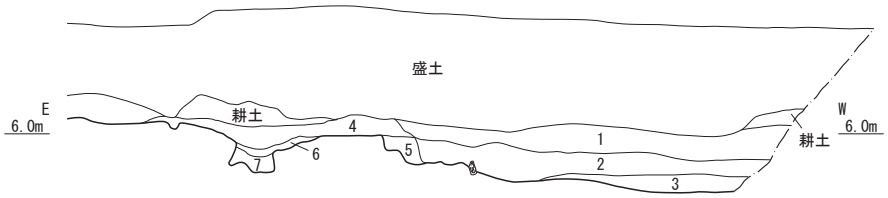
5次30区野井戸1
（図165･194）
（写真図版65）

29区と30区の交点で検出した。畦畔を挟んで「土居ノ内溝」の南側に広がる耕作地内の北端に位置する。２段の桶組みで構築され、上部に一辺20㎝程の石材を円形に配す。深さは遺構検出面から1.1mを測る。図化に耐える遺物は出土していない。

5次29区野井戸5
（図165･194）
（写真図版63）

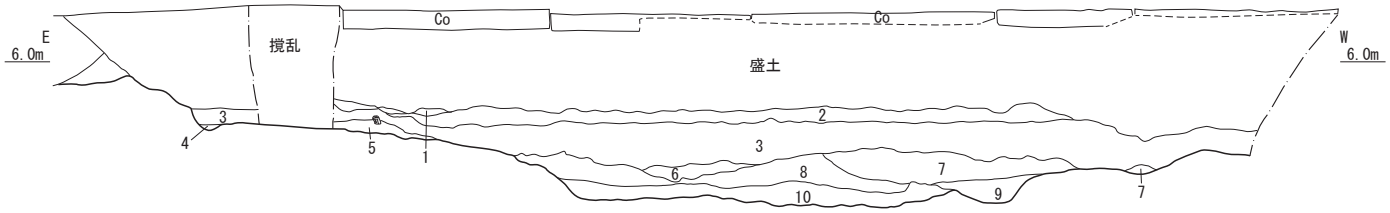
畦畔を挟んで「土居ノ内溝」の南側に広がる耕作地の北端に位置し、30区野井戸１と同じ配置である。掘方の直径は1.6m、深さは遺構検出面から1.7mを測る。２段の桶組で構築され、上部約50㎝は一辺40㎝程の石材を使用し石組みを行う。遺物は染付碗1285、染付筒形碗1286が出土した。９次２区野井戸、２次10区SK01が同じ構造をもつ。５次30区野井戸１と５次29区野井戸５の構造は共通し、出土遺物は江戸時代のうちに納まることから、この構造の井戸は江戸時代に位置づけられる可能性が高い。

14 次 4 区 SD01 【図 35】



1. 2.5Y6/1 黄灰色中砂混じりシルト
2. 2.5Y5/1 黄灰色シルト
3. 2.5Y6/1 黄灰色細砂
4. 10YR6/2 灰黄褐色粗砂混じりシルト
5. 10YR6/1 褐灰色細砂
6. 10YR6/1 褐灰色シルト混じり細砂
7. 10YR6/1 褐灰色細砂　地山ブロック含

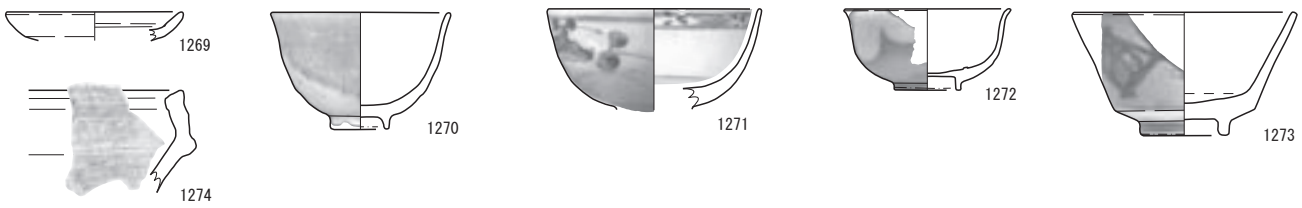
18 次 4 区 SD01（北）南壁 【図 100】



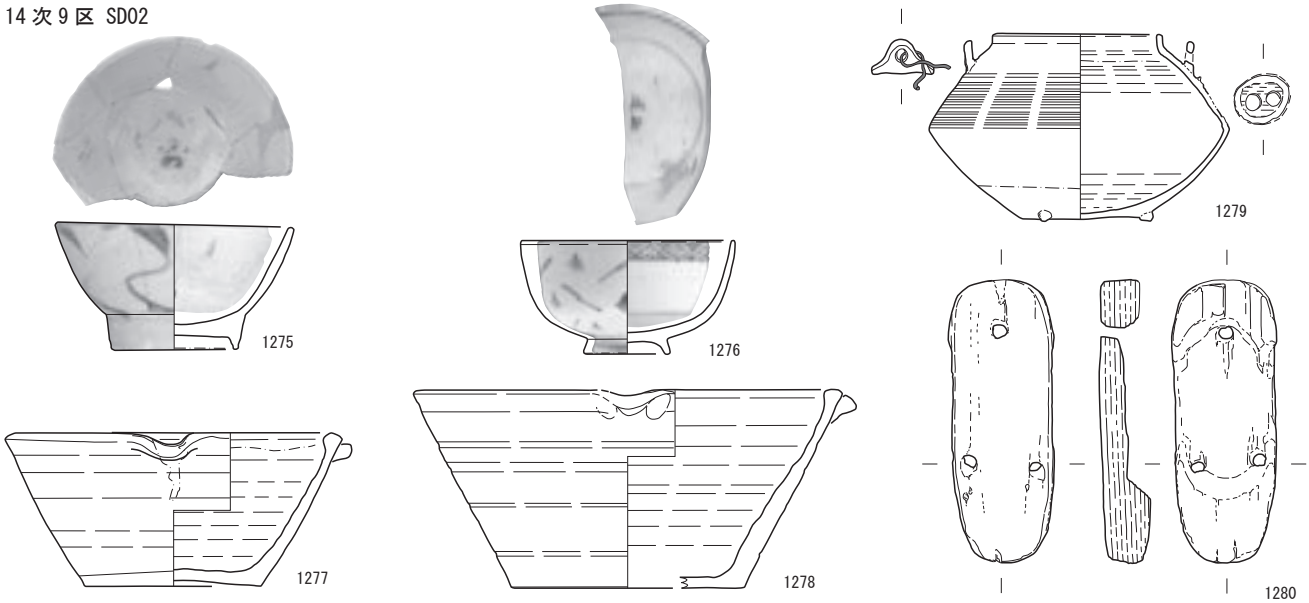
1. N3/1 暗灰色シルト
2. 2.5Y4/1 黄灰色極細砂混じりシルト
3. 2.5Y4/2 暗灰黄色極細砂混じりシルト
4. 2.5Y4/1 黄灰色粗砂混じりシルト
5. 7.5Y2/1 黒色粗砂混じりシルト
6. 5Y4/2 灰オリーブ色極細砂混じりシルト
7. 7.5Y4/1 灰色極細砂混じりシルト
8. 7.5Y6/1 灰色細砂混じりシルト
9. 2.5GY4/1 暗オリーブ灰色細砂混じりシルト
10. 5GY5/1 オリーブ灰色細砂混じりシルト

0 (1:60) 1m

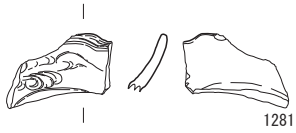
14 次 4 区 SD01



14 次 9 区 SD02



18 次 4 区 SD01



5 次 25-2 区 SD01

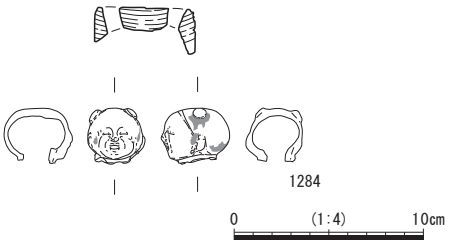
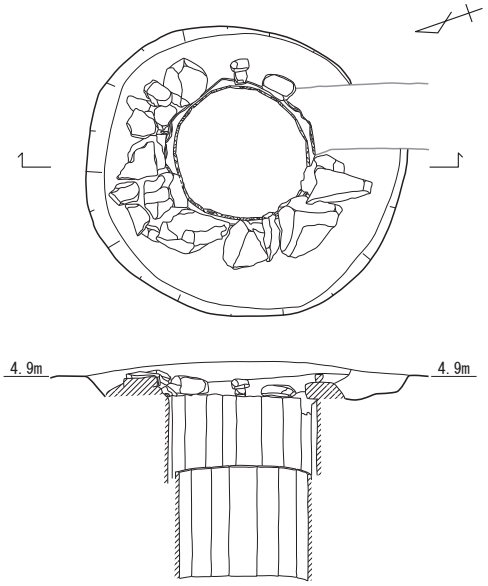
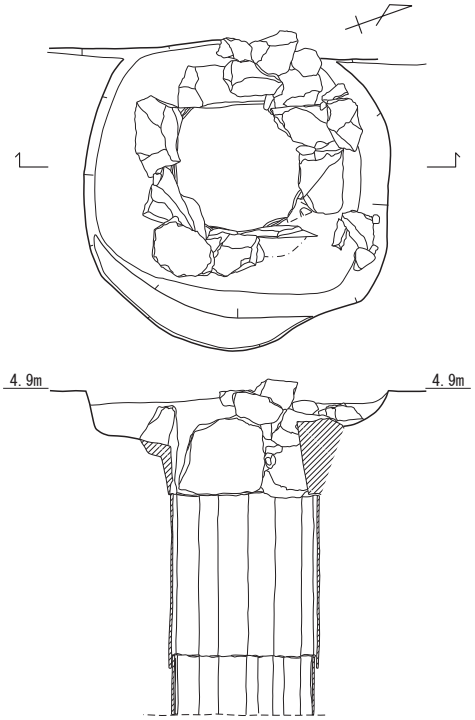


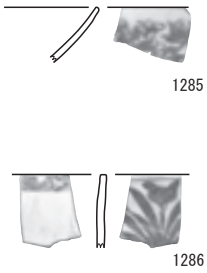
図193　14次4区SD01、18次4区SD01断面図、寺前水路出土遺物

5 次 30 区野井戸 1

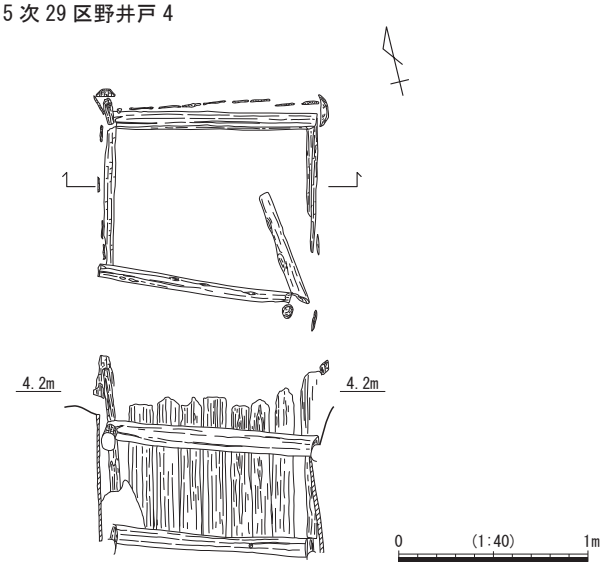


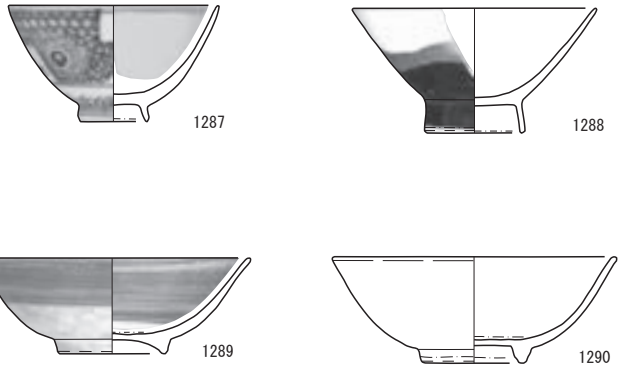
5 次 29 区野井戸 5





5 次 29 区野井戸 4





5 次 31 区野井戸 1

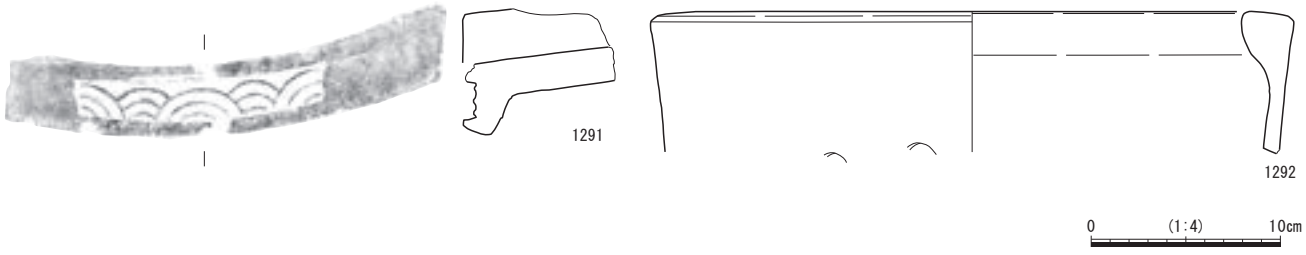


図194　5次30区野井戸1、29区野井戸4、野井戸5平面・断面図、出土遺物

5次29区野井戸4
(図165･194)
(写真図版63)

29区SD01-３の底で検出した。SD01-３の埋没後に掘られたものである。畦畔を挟んで土居ノ内溝の北側に広がる耕作地の南端に位置する。方形縦板組の構造で、掘方は一辺約1.1m、深さはSD01-３底部から約１ｍを測る。遺物は埋土内から1287～1290が出土した。1287・1288は染付碗、1289は陶器碗であるが、類似する資料は姫路城外堀からも出土しており、「まねき」の駅そばの井の可能性がある。1290は白磁碗である。時期は近現代である。その他１次３区野井戸、５次29区野井戸６が同様の構造を持つ。29区野井戸４の成果のみで断定はできないが、この構造の野井戸は明治時代から昭和を含む時期に位置づけられる可能性がある。

5次31区野井戸1
(図165)
(写真図版68)

区画Ａの５次31区SD01の南肩を切る。畦畔を挟んで「土居ノ内溝」の南側に広がる耕作地の北端に位置する。南北に並んで野井戸２･野井戸３を検出した。いずれも掘方の直径は１ｍ程で、深さは25㎝である。埋土から青海波文の軒平瓦1291と土師器鉢1292が出土した。図57に示した４次14区野井戸１の断面と近い。図194に示した野井戸で、井戸構造のものを除く遺構は全てこうした浅いタイプである。これらは耕作に伴う肥溜め等として利用されたと考えられる。

5次27-2区SK02
(図165)
(写真図版59)

「土居ノ内溝」の南肩に位置し、護岸石列に南接する。掘方は円形を呈し、長辺2.3m、短辺1.9ｍ、深さは約90㎝を測る。５次31区野井戸１と同じような機能を想定する。遺物は埋土から1293～1295が出土した。1293は土師器堝炮烙形、1294は陶器片口、1295は堺・明石系擂鉢である。

14次9区攪乱
(図103)
(写真図版50)

調査区北側の巨大な攪乱の北肩から、近世の遺物がまとまって出土した。本来は野井戸あるいは土坑等に伴うものと想定されるが、その形状・規模は判然としない。遺物は染付蓋1296、瀬戸緑釉瓶掛1297、堺・明石系擂鉢1298である。

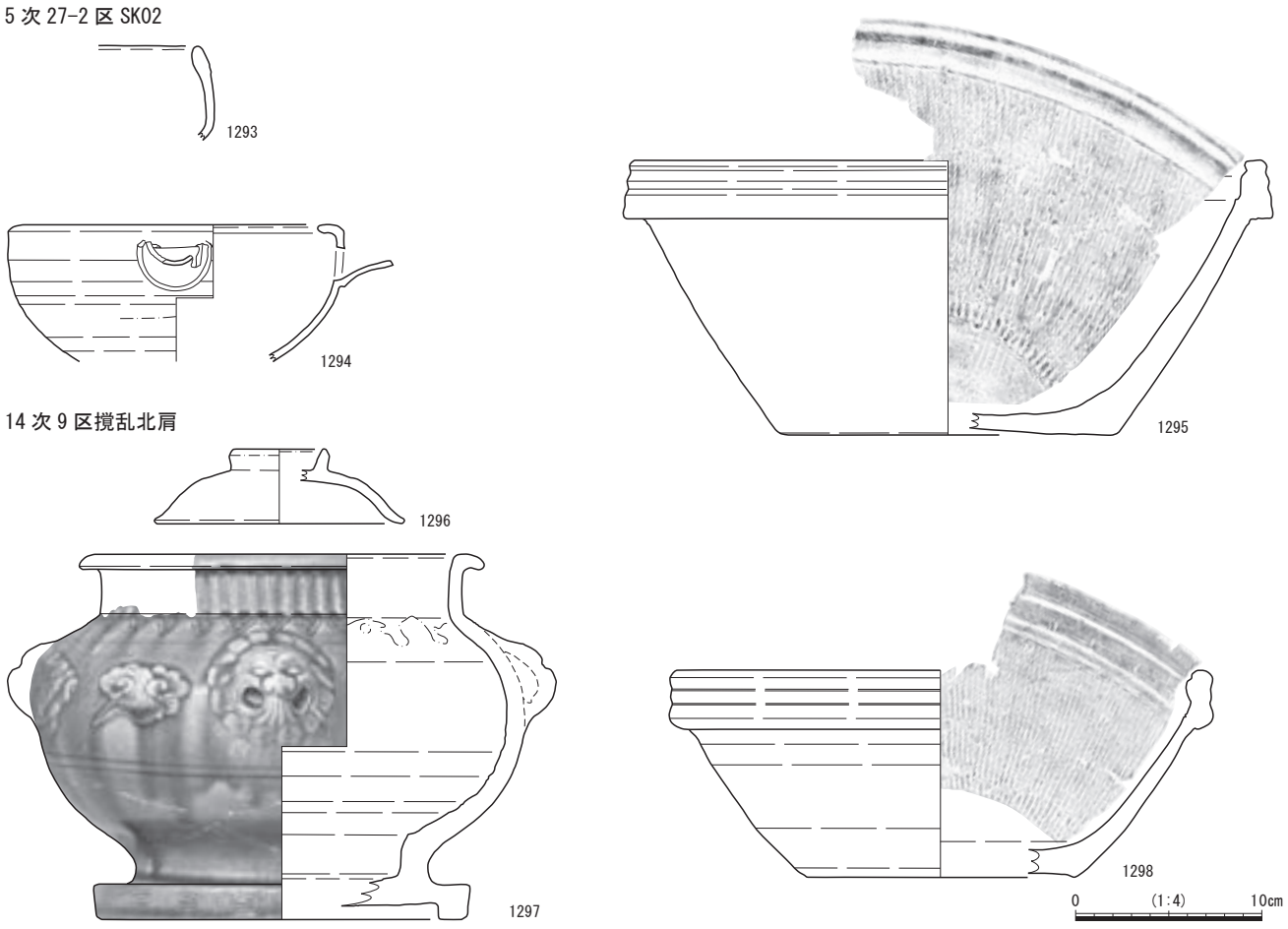


図195　5次27-2区SK02、14次9区撹乱北肩出土遺物

第Ⅳ章　総括

Ⅳ－１　出土遺物の位置づけ

調査で出土した土器類の点数を巻末の遺構・遺物一覧表にまとめた。本報告では口縁部の残る遺物については極力図化する方針をとった。土師器・須恵器に限れば遺構出土の器形がわかるものはほぼ全点を図化し掲載している。いっぽう、図化していない遺物の大半は破片資料であり、器種分類の信頼度が低いものが多い。一覧表では、出土した全ての遺物を可能な限り食膳具、調理具、貯蔵具に大別するとともに、器種別に点数を示した。接合した資料は１点として計上している。また、参考として各々の重量を記載した。

調査では約47,000点の遺物が出土した。そのうち、中世段階の遺物は約34,000点である。この数値には古墳・奈良・平安時代等の須恵器・土師器の細片を含んでいる可能性もあるがごく少量であり、中世集落跡出土遺物の総量として考えても大きな支障はない。本調査は姫路平野における中世集落を面的に調査したものであり、かつ生業に関わる特殊な遺物の出土もほとんどないことから、調査で明らかとなった遺物の様相・組成は平野部の農村集落の実態を示したものと評価してよい。

豆田遺跡・大浄口遺跡の主要な時期は中世である。播磨地域における中世の集落跡に関する報告書はこれまでにも数多く刊行されている。また、古代以来の須恵器の生産地であることからそれら生産遺跡の報告書も数多く刊行され、窯ごとに製品の変遷や器種の消長が明らかにされてきている。ただ、中世播磨の在地土器についての年代観は未だ確立していない。そうした中、これまで当該時期の年代比定には、中世前期は東播系須恵器椀・鉢、中世後期には備前焼が主として用いられてきた。これに加え補足的に貿易陶磁器や瓦の年代観を用いるか、瓦器椀や京都系土師器皿等の搬入品に恵まれた遺跡については、それによって年代を推測している。中世を通じ比較的そうした資料に恵まれていたことが、結果として在地土器の検討が遅れる一因であったと考える。在地土器の様相が不明であるものの、これまで刊行された報告書の記述にはあまり不具合を生じているようには見えないものの、実態としては、13世紀後半から14世紀の土器様相が不鮮明な状態となっており、中世集落の動態を知るうえで大きな足かせとなっている。また、これまで在地土器として研究の進んできた東播系須恵器についても、播磨の集落跡から出土する須恵器が全て神出・魚住窯産のものとは限らず、北播諸窯や三木・志方窯、西播諸窯等の窯からの製品が消費地に供給されている。そうした須恵器についても近年、総合的な検討が行われつつある（片山2009、播磨考古学研究集会2019）が、地域毎に細かな部分での差が存在し播磨地域全体での編年構築には至っていないのが現状である。消費地における共伴関係を把握するためにも、在地土器のうち食膳具と煮炊具の様相を把握することは急務であり、豆田遺跡・大浄口遺跡のような中世集落跡を主とする遺跡の実態を把握するうえで必要不可欠なことと考える。やや迂遠ではあるが、ここでは播磨地域の土器様相を整理し、豆田遺跡・大浄口遺跡の出土遺物の位置づけを検討していくこととする。

在地土器の器種分類

土師器皿

播磨地域の中世土師器皿の様相はこれまでにまとまって整理されたものはなく、その分類について核となるものはない。個々には山仲進による須恵器との共伴事例の検討（山仲1986）、中川渉による玉津田中遺跡での検討（中川1996）、鋤柄俊夫による播磨地域を対象とした検討（鋤柄1997）。宮原文隆による京都系土師器と在地土器とを比較した検討（宮原2002）、山田清朝による美乃利遺跡、大野遺跡等における検討（山田1997・2010ほか）、中井淳史による京都系土師器皿の検討（中井2007）等がある。鋤柄と中井の研究を除けば、発掘調査報告書等における出土遺物の検討という性格上、播磨地域全体に目を配ったものは少なく、遺跡ごとの年

代観の把握に留どまっている。また、遺跡の存続時期に限定される検討が多く、その前後の時期との関係把握は積極的には行われていない。

そうした中で、中井の研究は京都の「目」をもって播磨の京都系土師器を読み解くもので、播磨地域における京都系土師器皿が抽出され、京都から播磨に複数回にわたって影響が及んでいること、その受容にあたって播磨における細かな地域性があることが明らかにされた。他地域においても同様であるように、京都系とされる土師器皿は京都との関係を内包する資料であることは間違いないと思われる。しかし、播磨の場合、京都系土師器皿そのものの他に京都系土師器皿に似ているが、細部が異なる手づくね成形の皿やロクロ（回転台）を使用し形状のみを模した皿（以下、仮に模倣皿と呼称）が各所で出土することも事実であり、平泉や山口のように、その「場」特有の排他的な在り方とはなっていない。このことは、播磨地域においては京都系の皿とそうでない皿の境界は極めて曖昧であり、出土場所と都との「距離」が近い場合には我々が京都系土師器皿と認識しえるものが出土し、遠い場合には似て非なる皿と認識されるものが出土していることが予想される。つまり、播磨において在地土器を理解しようとする場合、京都系土師器皿と模倣皿の存在を一旦棚上げし、ロクロ成形の土師器皿も含め、全てを在地土器として理解する方がより実態に近いのではないかと考える。本稿ではそうした視点から、他地域から確実に持ち込まれたもの以外は全て播磨の在地土器として扱うこととする。その内実は極めて多様である。そうした実態を示しているのが、山田清朝による分類・検討であろう。氏は播磨地域の各所で行った調査報告書において、徹底的に細分を試みている。例えば大野遺跡では手づくね成形の土師器皿を21種類に分類し、播磨の中世集落跡から出土する土師器皿の多様性を示している。個々にはそれぞれに系統が存在する可能性を有すが、多様すぎるゆえに量的な担保もなく、現状ではそうした細分から系統を整合的に見出すことは困難である。そこで本稿では先行研究をもとに土師器皿を手づくね成形とロクロ成形に大別するとともに、器形等を加味して下のとおり最大公約数的に分類することとした。

小皿（径10cm以下のもの。手づくね成形とロクロ成形のものがある。）

小皿Ａ：口縁部にヨコナデが施されるもの

小皿Ｂ：口縁部にヨコナデが施されないもの、もしくはナデを行うが部分的に留まるもの。

小皿Ｒ：ロクロ成形によるもので、底部の切り離しには糸切りとヘラ切りがある。

皿（径10cmを越えるもの。全て手づくね成形である。）

皿Ｅ：底部から丸く立ち上がる体部を持ち、口縁部はナデにより２段もしくは１段の凹みをもつもの。底部は平底、丸底の両方がある。

皿Ｆ：底部から体部への立ち上がりが屈曲し、口縁部は外方へ延びるもの。平底を基本とするが、やや丸みを帯びるものも存在する。

皿Ｏ：丸い底部から丸く立ち上がる体部を持ち、口縁端部は基本的に丸くおさめるもの。皿Ｅに比べ、底部と口縁部の境が不明瞭である。

皿Ｈ：体部が外反し、端部は丸くおさめる。外反度合いは様々である。体部中央部分を強くナデることにより、段が生じる個体も含む。

皿Ｇ：底部中央を凹ませる意識のあるもの。いわゆるへそ皿である。

皿Ｉ：口縁部をシャープに仕上げ、端部を上方につまみあげるもの。Ｈ類同様、体部が外反するものもあるが、直線的なものもある。

皿Ｊ：体部が外方へ延び、口縁端部に面を持つもの。豆田遺跡からは出土していない。姫路城大天守下層等で出土している。

杯　：径10cmを越えるもののうち、ロクロ成形したもの。底部の切り離しには糸切りとヘラ切りがある。手づくね成形の皿の器形を模倣したものや、ロクロ成形の小皿に対する大皿に位置づけられるものもあるが、本報告では全て杯とした。

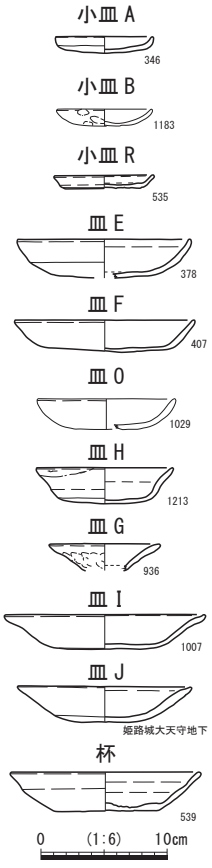


図196　土師器皿分類図

分類した播磨産土師器皿はいずれもその祖型は京都産土師器に辿ることができると考える。皿Ｅは京都産土師器皿ＮのⅤ期頃、皿ＦはⅢＮのⅥ期中段階以降、皿ＯはⅢＳのⅥ期新段階以降、皿ＧはⅦ期中段階以降、皿ＨはⅢＮのⅦ期古段階以降、皿ＩはⅢＳのⅧ期中段階以降、皿ＪはⅢＳのＸ期以降の器形を祖型としていると推測する。このように土師器皿の基本形態は京都産の皿ＮもしくはＳの器形が基になっていると考えられるが、播磨において、京都産の皿ＮもしくはⅢＳの系列と同じように器形が変化している保証はなく、むしろ、京都の皿についての新しい情報を得るたびにそれを加味して製作された結果、古い型式が在地化して残存したのが実状ではないかと考える。そのため、上記分類では京都系土師器皿かそうでないかの線引きは考慮しておらず、当然のことながら京都産土師器皿と１対１の関係で理解しようとするものではない。また、提示した分類が一つの系統として成立するかどうかも資料数が少なく現段階では判断できない。法量変化の検討も今後の課題である。

土製煮炊具

姫路市加茂遺跡における分類（以下、加茂分類と呼称）（姫路市教委1975）を嚆矢とし、宮原文隆による播但型の編年（宮原1992）、鋤柄俊夫による播磨地域を対象とした検討（鋤柄1997）。山本雅和による日輪寺遺跡における検討（山本2002）等を経て、長谷川真によって播磨地域の土製煮炊具の検討が行われた。型式＝期に区分し、非常に明快な大系として提示された（長谷川2007）。ただ、氏の提示は明快ではあるが、豆田遺跡においては氏の設定した期を超えたものが共伴するなど、他遺跡の共伴事例の検討からもシンプルには理解できない。その他、播但型の最終段階とされているⅥ期のものが氏の呈示する年代よりも遡ることも指摘されている（池田2011）。播但型については、長谷川は宮原の分類を踏襲しつつ口縁部形態によって時期区分を行うが、宮原は口縁部形態には様々なものがあることを踏まえ、むしろその変化の本質は器形にあることを言及している（宮原1992）。ただ、長谷川の呈示した変遷は、細部において検討が必要であるものの、大枠としては了承できる。上記の先学の研究を踏まえ、土製煮炊具については堝と羽釜に分け、以下のように分類した。

堝　名称は鉄鍋形のみ変更したが、基本的に長谷川の分類名を踏襲した。

くの字口縁：口縁部が外方へ屈曲するもの。土師器のみ。ハケによる成形とタタキによる成形に加え、厚手のものがある。胴部の形状には球形と鉢形がある。なお、鉢形には脚付きのものが存在する。

受口口縁：口縁部が外方へ屈曲したのち上方へ立ち上がるもの。土師質と瓦質のものがある。口縁端部の屈曲が明瞭なもの、屈曲が緩いもの、屈曲せず突起となるものが存在する。

鉄かぶと形：鉢形を呈し、外面をタタキで成形したもの。土師器のみである。口縁端部の形状から内側に肥厚するⅠ類、両側に肥厚するⅡ類、外側に肥厚するⅢ類がある。器形によりさらに以下のとおり細分する。a：底部が大きく屈曲し平底に近いもの。Ⅰ類の口縁部は外方へわずかに屈曲する。b：口縁部の屈曲はなく直線的で、底部に屈曲が認められるもの。c：口縁部はbと同様であるが、底部が丸底となるもの。

播　但　型：球形の胴部から口縁部が立ち上がるもの。外面タタキにより成形される。土師器のみ存在する。長谷川分類は基本的に宮原分類（Ⅰ～Ⅱｄ類）と藤田淳による分類（Ⅱ類＝長谷川Ⅵ期、藤田1988）を踏襲している。播但型については宮原の分類・変遷は現在も有効であることからこれを播但型Ⅰ類･Ⅱ類とし、藤田の分類は宮原の分類には含まれないもので別系統とし、これを播但型Ⅲ類とする。

播　磨　型：羽釜に比べ退化した鍔部をもち、外面タタキにより成形されるもの。土師器のみである。退化した鍔を伴う羽釜形と、鍔がない炮烙形に分類できる。

羽釜

羽釜：口縁部下に鍔（羽）を貼り付けるもの。土師器と瓦質土器が存在し、土師器はハケもしくはナデによる成形とタタキによる成形がある。器形は端部が内傾・内湾するものと直立するもの、口縁部に数条の段が巡るもの（多段口縁）、鍔が上方に貼り付けられ、口縁部に近いもの（上方貼付）、豆田遺跡では出土していないが鍔部が突起状となるもの（図198－60）、口縁端部が外方に屈曲するものなどがある。

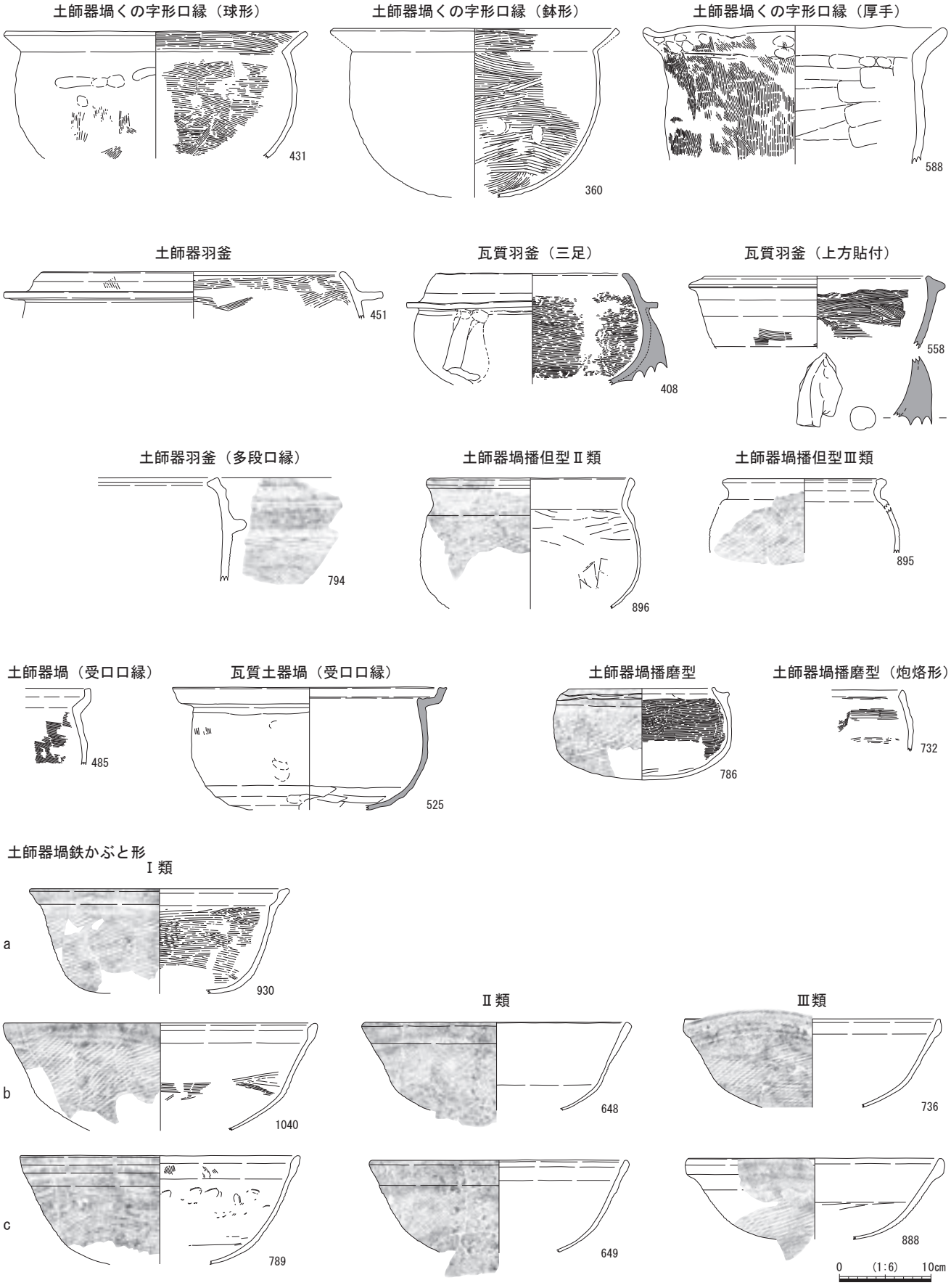


図197　土製煮炊具分類図

在地土器の様相

検討方法

前述の分類に基づき播磨地域の消費地遺跡を対象として既往調査で得られた資料をもとに当該時期の組成を明らかにし、その上で編年的位置づけを確認していくことにする。播磨地域では通時的にまとまった資料が揃っているわけではなく、検討を行う上で十分な資料数が得られなかったことがこれまで研究が進んでこなかった要因の一つでもあるが、本稿ではこれまでに発掘され公表された資料を元に、豆田遺跡の資料を加え播磨地域の土器様相の把握を試みる。

検討資料については、消費地出土資料のうち比較的一括性が高いと思われるものを選択した。選択にあたってはある程度組成が捉えられる点にも留意した。ただし、一括性を厳密に担保しようとすればするほど検討できる資料数は減少することから、必ずしも確実な一括性があるものだけではなく混入あるいはある程度、時期幅のある資料も含んでいる。検討にあたっては資料数の確保と地域差を考慮し、西播磨地域と東播磨地域とに分けて行った。西播磨地域は市川流域以西、東播磨地域は加古川流域以東の地域とし、北播磨は東播磨に含めた。西播磨36例、東播磨29例である。西播磨の例が多いが、大半を福田片岡遺跡が占めており、検討遺跡には偏りがある。これらは一部実見したものもあるが、基本的には報告書の記述に基づいて分類した。

遺構名	小皿				皿								杯			くの字口縁					受口			鉄かぶと形			羽釜					播磨型				播丹型							東播系鉢	備前擂鉢
	手づくね		ロクロ		手づくね								ロクロ			ハケ		タタキ			ハケ			タタキ			ハケ		瓦質			タタキ				タタキ								
	A	B	糸	ヘラ	E	F	O	H	G	I	J		糸	ヘラ		球形	鉢形	球形	鉢形	厚手	強	弱	突起	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	内傾	直立	内傾	直立	上方	突起	三角厚	三角丸	砲塔	Ⅰ	Ⅱa	Ⅱb	Ⅱc	Ⅱd	Ⅲ		
宝林寺北遺跡Ａ地区　SK02	1															1					1																				A2Ⅱ	
宝林寺北遺跡土坑1	5																1(三)												1													
福田片岡遺跡N1SD3044	3																3(三)										2	2														B2a	
福田天神遺跡SK08	12		5	4	2											1	1			1																					B1b新,B2a	
市之郷遺跡E区　SK58				26								1	4	1						1																						
宝林寺北遺跡Ａ地区　SD01	2		1		1							2			3(三)					1																					A2Ⅱ、B2a	
宝林寺北遺跡Ｂ地区　SD14															1	2(三)				1																						
宝林寺北遺跡Ａ地区　SK03	1		2													1				1																					B2a	
福田片岡遺跡N1SK3192	3																			1						2															B2a	
長尾谷遺跡140土坑	4		19			1						5			2											1																
市之郷遺跡Ａ区　SK05	11					2														1						1		1													B1b古、B2a	
宮脇遺跡Ｄブロック ST01	4					4														1	1						1															
福田片岡遺跡SE08	5					6																					2														B1b、B2b中－新	
生栖遺跡集石遺構	6		10	14		1							22	1		1				1															1						B1b古	
福田片岡遺跡S3SK98	6					3	1														1					3			1											B2a、B3a中	
福田片岡遺跡C1PbSK01	11						13	4																			3														B2a、B2b新、B3a中	
福田片岡遺跡SE19	2				1	1	1	1													2	2					2	3	2	2											B1b、B3b	
福田片岡遺跡N1SK3066	5	1				1	6	4												1		1																				
福田片岡遺跡C1SK12・13		1					1	1													1																				B2b新、B3a中、B3a新	
福田片岡遺跡C1SK15	2	1					1														1						2		1												B2a、B3a新	2b
小畑荒神谷遺跡157－土坑	1	3						2																			1															3a
福田片岡遺跡N2BSK11	31	1					10	2																													1					3a
福田片岡遺跡SE04	3	4	1				7	5													1				1			4										1		2		
福田片岡遺跡N3SK25	5						1	2													1	1					1		1													B3a中・新	
東有年・沖田遺跡井戸1			3									1																		1												
福田片岡遺跡S3SD16		6				5	5	4	③	11③											1			6			2			4	1	1								2	B2a、B2b新、B3b	3a、3b、4a
御着城跡土坑34		1	1						1	1																						1									4a
山野里宿遺跡SD02			1か	4																				1						1											B3a新	3a、4b
山野里宿遺跡SK06				9																						2																4b
坂本城跡6次溝　SD01		2								2														2																			4a、4b
福田片岡遺跡SE03	1																																1	1								4a
置塩城跡二一5郭　下層	15	5	4				2	2		5	1④																																
置塩城跡Ⅰ一3郭　下層	6									6	1④																																6ｂ
御着城跡井戸2	4										2①																																6ｂ
姫路城跡第38次　土坑2	7										③																							2									近1b
姫路城跡第180次　SX2-2-01	4	1									④																																近1b

○は小皿

表2　西播磨の土器様相

西播磨の様相

西播磨における遺物組成を示したのが表２である。同表に基づくと土師器皿は皿Ｅ、皿Ｆ、皿Ｏ、皿Ｈ、皿Ｉ、皿Ｊの順に出現し、いわゆるへそ皿である皿Ｇがわずかにこれに加わる。土師器小皿は口縁部に横ナデを施すＡタイプのものから遅れて明確な横ナデの確認できないＢタイプが出現する。ロクロ成形の小皿Ｒについては底部糸切りとヘラ切りのものが、中世全体を通じて一定量出土する。煮炊具はくの字口縁堝、受口口縁堝、土師器羽釜、瓦質羽釜が共存する。くの字口縁堝は、ハケ成形のものとタタキ成形のものがあるが、西播磨で

はタタキ成形のものは少ない。器形は球形のものと鉢形のものが認められるが、体部が鉢形を呈するものの中には三足が付くものが一定量存在する。瓦質羽釜は三足が付くものと付かないものがあり、表上には三足は現れないが、実際には少ないながらも一定量出土している。その後、くの字口縁堝の出土は無くなるが、受口口縁堝と羽釜の出土は継続して認められる。受口口縁堝は口縁部の屈曲が弱くなるもの、端部が屈曲せず突起に変化したものが遅れて出現するが、これらは共伴している。羽釜はオサエもしくはハケ成形の土師器羽釜と瓦質羽釜に関わらず、口縁部が内傾するものと直立するものが早い段階から並存する。瓦質土器のうち、鍔部の貼付が口縁部に近接する上方貼付のものは遅れて出現している。タタキ成形の羽釜は西播磨においてはわずかな出土に留まり、同表上には現れない。播但型は同表上では極めて少ない印象を受けるが、実際の調査では少量であるが一定量出土している。ただ、宮原分類のⅠ類～Ⅱｂ類のものは少なく、Ⅱｃ類とⅢ類が多い。鉄かぶと形は資料数が少なく判然としない部分もあるが播磨型に先行して出現する可能性がある。播磨型堝の出現段階には受口口縁堝と羽釜が共伴している。これらは次第に減少し、播磨型と鉄かぶと形のみとなる。その後、鉄かぶと形は消滅し、播磨型のうち炮烙形が新たに出現する。

東播磨の様相

東播磨の遺物組成を示したのが表３である。土師器皿については、西播磨と同様にⅢＥ、ⅢＦ、ⅢＯ、ⅢＨ、ⅢＩ、ⅢＪの順に出現する。土師器小皿もＡ類、遅れてＢ類が出現する様相は共通する。小皿Ｒは加西市域の遺跡でヘラ切りのものが認められるが、基本的に底部糸切りである。煮炊具はくの字口縁堝、羽釜に加えて播但型が共存する。羽釜は西播磨と異なりタタキ成形のものが一定量出土する。くの字口縁堝が見られなくなった後は播但型と羽釜が主体となる。受口口縁堝も存在するが、主体とはならない。羽釜のうち、タタキ成形羽釜は口縁部が内傾するものが主体となる。遅れて多段口縁の羽釜と突起状に鍔が付くものが出現する。播磨型と鉄かぶと形は出現時には播但型と突起状に鍔が付く羽釜、受口口縁堝と共伴する。その後、播磨型と鉄かぶと形のみとなる。播但型は焙烙形が出現してくる直前まで確認でき、最終的には西播磨と同様、炮烙形のみとなる。

遺構名	小皿				皿								杯	くの字口縁					受口			鉄かぶと			羽釜												播磨型						播丹型						東播系鉢	備前揺鉢
	手づくね		ロクロR		手づくね								ロクロ	ハケ		タタキ			タタキ			タタキ			ハケ		タタキ				瓦質				タタキ				タタキ									
	A	B	糸	ヘラ	E	F	O	H	G	I	J	糸	ヘラ	球形	鉢形	球形	鉢形	厚手	強	弱	突起	I	Ⅱ	Ⅲ	内傾	直立	内傾	直立	多段	突起	内傾	直立	上方	突起	三角厚	三角丸	炮烙	Ⅰ	Ⅱａ	Ⅱｂ	Ⅱｃ	Ⅱｄ	Ⅲ		
凍ノ口遺跡J区　SK101J	2		4		1							1		2	1	3																											A2 I	
曽我井・野入遺跡P114	1		2か		1																															1							A2	
出合遺跡34次第5トレンチ6区　SK56201			2											1	1										1																		B2a	
垂水・日向遺跡1次　SK04	5		2		2										2																												B1b古	
小谷遺跡2区　SE23	6			7	3								2																														B2a	
上脇遺跡72027SE	8		28		4	4						26				3	1(三)	1							4	1	3														3					B1a、B2a	
上脇遺跡H7A地区　SG72001	2		12		1	3						10		1											1																1					B1a、B1b新、B2、B3a新	
栃木遺跡SE01			1											1		1									1		1																		B2a	
上脇遺跡71049SK	2		2			1						3		1																																	B2a	
玉津田中遺跡徳政11区　SE8001			8											1	1												3																					
鹿原廃寺第4次　SE01	4			3	2	3								1											1	1	2																1					
大野遺跡北地区　SX27	5		1				2																																			2					B1b古、B1b新、B3a中	
坂本・谷遺跡SK-1	1						1	6																			2																1					B3a中	
山国・瀬ヶ坂遺跡7区　SK11	6					1	6	6																			1																3					B3a中	
吉田住吉山遺跡SK47		7						15																																							B3a新	
芝崎遺跡第4次調査　SD01									1か																																		3		1			B3a新、B3b	
芝崎遺跡第4次調査　SK01								1	1か																																				2			B3a古・新、B3b	
大野遺跡北地区（B地区）　SD14		1	○			1	4	7																		1					1										9					B3a新	3a
大野遺跡北地区（B地区）　SD10		1					5	7		1		1						長胴		1					1	1	1									1						3		1			B2b新、B3a古・中・新、B3b	
山国・瀬ヶ坂遺跡7区　SE01		2				1	1	8		1																			1																	B3a中、B3b	
戸松遺跡第1次　SK03																									1			2													4					B3a中、B3a新、B3b	
思い出遺跡12区　土坑1		4					8	13														1											2								1					B3a新	
安坂・門田遺跡第1区　井戸2																																	7													
神出遺跡8608T2区　土坑8T2			6									2																5					12	5						7					B3a中、B3b、C	
思い出遺跡12区　井戸1		3					1															2						1					2	1						4						
安坂・門田遺跡第5区　井戸4																						1		1				1					3												C	5b
野村構居園池		7				1	2															1						2					4	7						3	3			C	4b、5b
野村構居堀下層																																	1		3											6a	
中道子山城	32		3				6	3		26	1																																				6b～近世Ⅰａ	

表3　東播磨の土器様相

上記のように西播磨と東播磨は、細かい差異はあるものの基本的に同じ動向であることが確認できた。大きな地域差としては、西播磨では受口口縁堝が多く、播但型が少ないが東播磨ではその逆となることが挙げられる。羽釜は東播磨ではタタキ成形が目立ち、瓦質土器は目立たない。一方、西播磨においては、播磨型と鉄かぶと形の出現まではタタキ成形の煮炊具は主体とはならない。

在地土器の消長に基づきその様相を整理すれば、くの字口縁堝の存在する段階、くの字口縁堝が消滅し播磨型が出現するまでの段階、播磨型が出現する段階、播磨型のうち炮烙形が出現する段階の４つの段階に大きく区分できる。各段階はさらに細分することができる。段階１は皿Ｆの出現により新古に区分できる。段階２は小皿Ｂの出現をもって新古に区分する。段階３は受口口縁堝と羽釜が残存する段階と播磨型と鉄かぶと形が主体となる段階で新古を分ける。段階４は西播磨のみの資料しかなく将来的に検討を要するが、播磨型のうち羽釜形と焙烙形が共伴する段階と炮烙形のみとなる段階で新古に区分することが可能と考える。くの字口縁堝が伴う段階１は、村東遺跡において検討した土師器食膳具による時期区分のうちⅣ期に相当する（姫路市教委2017）ことから、くの字口縁堝が伴う段階をⅣ期とし、以下Ⅴ期、Ⅵ期、Ⅶ期と呼称し、表４のように各段階に整理した。表２・３に示した太線が大別を、二重線が細分を示す。

様相		小皿	皿	煮炊具
Ⅳ期	古段階	A　　+R	E	くの字＋受口【土】　　＋播但＋羽釜【土＋瓦】
	新段階	A　　+R	E+F	くの字＋受口【土＋瓦】＋播但＋羽釜【土＋瓦】
Ⅴ期	古段階	A　　+R	F+O+H	受口【土】　　＋播但＋羽釜【土＋瓦】
	新段階	A +B+R	F+O+H+G	受口【土】　　＋播但＋羽釜【土＋瓦】＋（鉄かぶと）
Ⅵ期	古段階	A +B+R	F+O+H+G+I	受口【土＋瓦】＋播但＋羽釜【土＋瓦】＋鉄かぶと＋播磨型
	新段階	(A)+B+R	F+O+H　+I	播但＋（羽釜）　　＋鉄かぶと＋播磨型
Ⅶ期	古段階	A +B+R	O+H　+I+J	鉄かぶと＋播磨型＋播磨型【炮烙形】
	新段階	A +B+R	J	播磨型【炮烙形】

（）：可能性のあるもの

表4　在地土器の様相

各段階の様相

各器種の消長に基づいてその組成を示したものが図198であるが、検討した資料数が少ないことから将来的な検討の余地を多分に含んでいる。以下、同図と表２・３に基づき各段階の様相について述べる。

Ⅳ期古段階　小皿Ｒの底部切り離し法は東播磨では糸切り、西播磨ではヘラ切りと糸切りが認められる。くの字口縁堝は球形と鉢形があり、鉢形には三足が付くものが一定量存在する。調整はハケとタタキの両方が認められる。西播磨はハケ主体、東播磨はハケ・タタキの双方が行われる。ハケで調整するタイプは、口縁内面までハケ調整が行われる。受口口縁堝は６を呈示したが溝出土であり、この段階に確実に伴うかどうかは資料の増加を待つ必要がある。土師器羽釜は外面の調整をハケもしくはオサエで行うものと、タタキによる調整を行うものがある。現状では、本段階のタタキ調整の羽釜を確認できていない。また、タタキ後にハケ調整を施す個体もあり、破片についてはいずれか判断できない個体も存在する。瓦質羽釜も本段階から出現する。器形は内傾するものと直立するものの両者とも出土している。なお、瓦質羽釜には三足が付くものも少なからず存在する。播但型堝はⅠ類が出土する。

Ⅳ期新段階　小皿Ｒは東播磨では糸切り、西播磨では糸切り・ヘラ切りが認められる。東播磨のうち、加西市域の小谷遺跡と殿原廃寺ではヘラ切りが認められ、西播磨的な様相を見せる。皿Ｅとともに皿Ｆが出土する。皿Ｆはこの時期以降、一定量出土する。くの字口縁堝は球形・鉢形とも本段階まで組成の主要な部分を占めるが、次の段階には継続しない。瓦質土器の三足羽釜については、当該時期以後も継続して出土する。ただ、土師器三足堝については、５と14に見るように脚部の貼り付け位置が新旧を表す可能性もあるが、資料数が少ないため確証はない。また、以後の出土についてははっきりしない。受口口縁堝はこの段階でくの字口縁堝と共

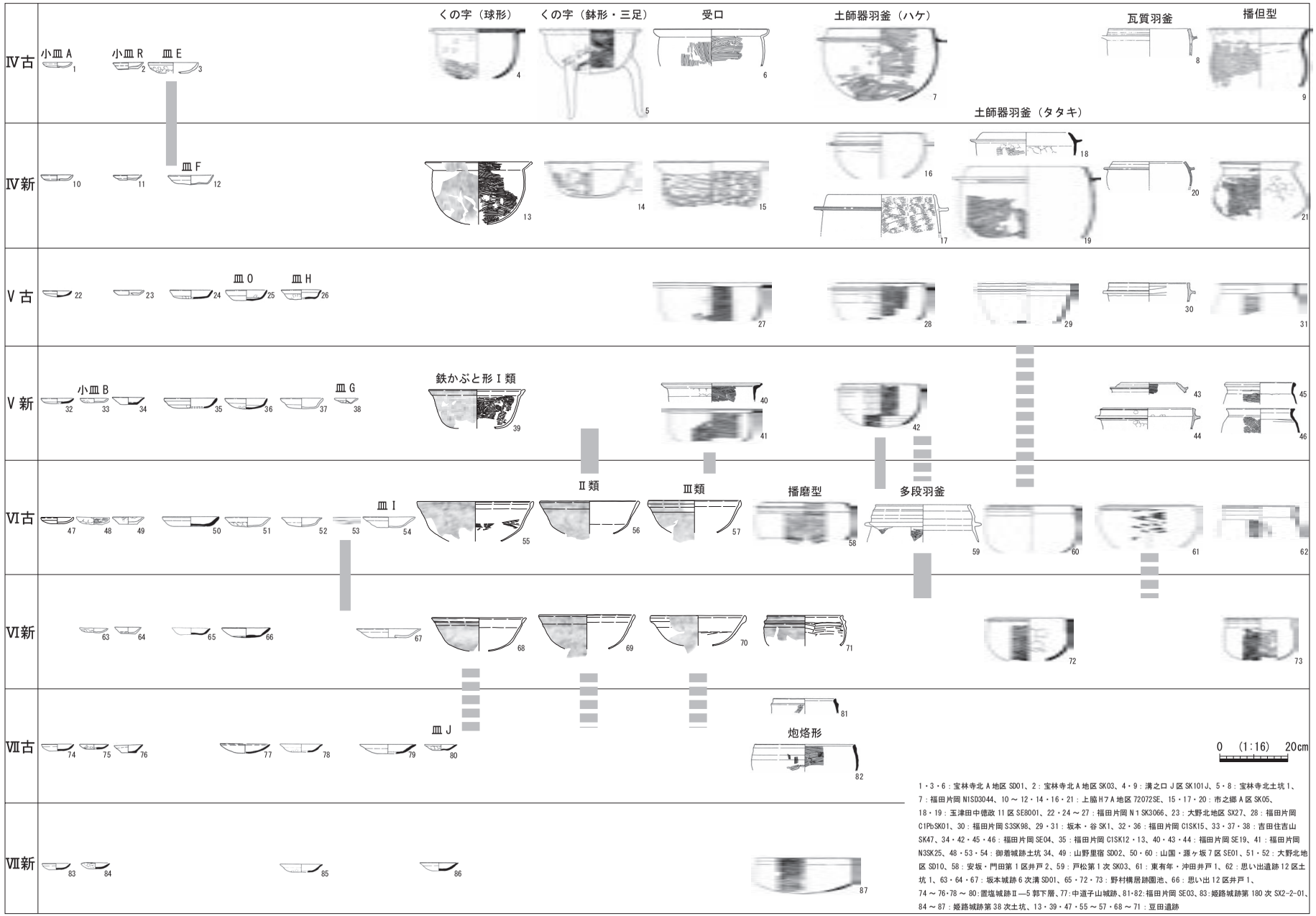
伴することは確実であり、胴部は丸みを帯びている。また、図中に示していないがこの段階には瓦質の受口口縁埦も認められ、豆田遺跡では図84-525がこれに該当する。胴部は球形を呈し、口縁内側までハケが及ぶ点は、くの字口縁埦と共通する。土師器羽釜は口縁部が内傾するものと直立するものが存在する。直立するタイプの中には17のように体部が鍔下まで直線的に延びるものがこの段階に散見される。東播磨を主として、この段階から外面にタタキを残す土師器羽釜が見られる。前段階から出現している可能性もあるが確証はない。19のようにハケ調整の羽釜と共通する形状の個体もあれば、18のように鍔上の口縁部が内側に屈曲気味となる資料も存在する。タタキ羽釜で口縁部が直立する個体は今のところ確認できていない。瓦質羽釜は前段階とは大きな変化はなく、内傾する個体、直立する個体、三足が存在する。播但型は宮原Ⅱａ・Ⅱｂ類が出土する。

Ⅴ期古段階　小皿Ａ、小皿Ｒ、皿Ｆに加え、皿Ｏ、皿Ｈが出土する。小皿Ｒ・杯は西播磨・東播磨とも出土量が減少する。受口口縁埦はこの段階から口縁部の屈曲がやや甘くなったものが出現する。同時に屈曲の明瞭な個体も存在することから、両者は共伴している。胴部は前段階と同様、丸みを帯びる。ハケ調整の土師質羽釜はこの段階から鍔の長さが縮小する。前段階までは鍔長2.0㎝を超える個体が主体を占めるが、本時期以降、鍔の長さが2.0㎝を超えるものは基本的に存在しなくなる。それに対応して鍔から口縁部の間隔も短くなっていく。タタキ成形の土師器羽釜は主として北播磨で多く認められ、29のように鍔上部の口縁部が屈曲した形状を呈すものが主体となる。瓦質羽釜は口縁部が内傾するものと直立するものが存在し、鍔の長さを含めて大きな変化は認められない。播但型は宮原Ⅱｃ類が出土する。

Ⅴ期新段階　皿の組成は前段階と共通するが、口縁部に意識的な横ナデを施さない小皿Ｂといわゆるヘソ皿である皿Ｇの出土が認められる。皿Ｇは播磨地域の中世集落において客体的な存在であるが、出土の有無が遺跡の性格差に大きく起因する遺物と考える。ロクロ成形の皿・杯は少なく、手づくねが主体となる。受口口縁埦は前段階から引き続き口縁部の屈曲の強いものと屈曲が緩い40のタイプがあり、この段階から新たに端部を折り曲げ突起状を呈する41のタイプが出現する。この段階で、胴部は丸みを帯びたものから直線的な器形へと変化する。ハケ調整の土師器羽釜は前段階の変化が進行し、鍔は短く口縁部も短くなる傾向はうかがえるが、個体差もあり単体での判断は難しい。瓦質羽釜は内傾するものと直立するものが存在するが、43のように口縁部が大きく内傾・内湾するものや44のように外傾するものも存在する。なお、図示していないが、土師質羽釜にも42・43と同様の器形のものが存在する。播但型埦はⅡｃ類とともにこの段階からⅢ類が出土する。鉄かぶと形埦のうち、Ⅰａ類は後述するようにこの段階に出現する。

Ⅵ期古段階　皿は小皿Ａが減少し、小皿Ｂが増加する。新たに皿Ⅰが出現する。西播磨ではロクロ成形の小皿Ｒと杯が主体的に認められるようになる。受口口縁埦は図示していないが、山野里宿遺跡等で体部が直線的となる瓦質の受口口縁埦も出土している。ハケ調整の土師器羽釜はわずかに出土するが、前段階から大きく変化しておらず単体での区別は難しい。タタキ成形の土師器羽釜は、59のような多段口縁と口縁が直立し、鍔が突起状となった60のタイプが北播磨で出土する。60は播磨型の一種と理解すべきものかもしれないが、器形は明らかに異なることから羽釜の系統に位置づけた。瓦質羽釜は西播磨において前段階から継続する器形の他に61のように口縁部と鍔が近接する上方貼付の個体が出土する。瓦質土器は受口口縁･羽釜ともこの段階のものは、水簸された精良な胎土のものが認められる。播但型埦はⅡｃ類とⅢ類が出土する。

この段階で新たに播磨型埦が出現し、鉄かぶと形とともに主体となる。播磨型と鉄かぶと形については長谷川により変遷が示されているが、豆田遺跡において検討できる資料を得たため、その成果に基づいて述べる。播磨型について長谷川は、鍔部の変化からその変遷を考えている。基本的にはその見解は妥当と考えるが、４次23区ＳＤ03出土の資料にみるとおり、一遺構から出土する資料を見た場合、鍔の長さ・形状は様々であり、単体で時期比定できるとは思えない。図123に掲載した播磨型埦786は実測図右の断面側と左の外面側でその様相が大きく異なっている。もちろん786自体が特異な個体であることは十分に了解しているが、これが断面側と外面側それぞれの破片として出土した場合、長谷川の変遷観に照らせば784・786（断面側）・787（長谷川Ⅴ期）→783・785（Ⅵ期）→786（外面側）（Ⅶ期）となり、大きな時期差を持つ遺構とも解釈されうるが、これ



1・3・6：宝林寺北A地区SD01、2：宝林寺北A地区SK03、4・9：溝之口J区SK101J、5・8：宝林寺北土坑1、7：福田片岡NISD3044、10～12・14・16・21：上脇H7A地区72072SE、15・17・20：市之郷A区SK05、18・19：玉津田中徳政11区SE8001、22・24～27：福田片岡N1SK3066、23：大野北地区SX27、28：福田片岡C1PbSK01、30：福田片岡S3SK98、29・31：坂本・谷SK1、32・36：福田片岡C1SK15、33・37・38：吉田住吉山SK47、34・42・45・46：福田片岡SE04、35：福田片岡C1SK12・13、40・43・44：福田片岡SE19、41：福田片岡N3SK25、48・53・54：御着城跡土坑34、49：山野里宿SD02、50・60：山国・源ヶ坂7区SE01、51・52：大野北地区SD10、58：安坂・門田第1区井戸2、59：戸松第1次SK03、61：東有年・沖田井戸1、62：思い出遺跡12区土坑1、63・64・67：坂本城跡6次溝SD01、65・72・73：野村構居跡園池、66：思い出12区井戸1、74～76・78～80：置塩城跡Ⅱ―5郭下層、77：中道子山城跡、81・82：福田片岡SE03、83：姫路城跡第180次SX2-2-01、84～87：姫路城跡第38次土坑、13・39・47・55～57・68～71：豆田遺跡

図198　中世播磨における在地土器変遷図

らの資料は共伴するもので、土器の器表の状態から判断しても大きな時間差を内包していない。また、これらの口縁部・鍔部の形状は様々であるが、いずれも内傾気味を呈す点で共通している。このことから播磨型堝の鍔の変化は付随的なものと見られ、主たる変化はむしろ機能部である器形にあると考える。この器形変化については既に山本が指摘している（山本2002）ように、扁球形の丸み→下ふくれ→丸みを失う→直立気味（炮烙形）と変遷する方向性が妥当と考える。

次に鉄かぶと形堝は、長谷川によりⅠ類→Ⅱ類→Ⅲ類の順での型式変化が考えられているが、4次23区SD03からは、Ⅰ類（788・789）、Ⅱ類（790・791）、Ⅲ類（792）が出土した。出土地点は788・789と790～791で離れているため、厳密には一括資料ではないが、Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ類は同一の遺構から出土している。かつ、出土した資料の器表の状態にも大きな差はないことから、土師器の耐用年数等を考慮するとこれらの資料に長期間の差を読み取ることは難しい。以上の点からⅠ～Ⅲ類は一系統ではなくそれぞれ別系統であると考える。Ⅰ類は長谷川が指摘しているように受口口縁堝を祖型に成立したと思われ、39（図149－929）が初期の事例とみられる。39と55（図197－930・1040）を比較した時、器形に大きな変化が認められることから体部はa→b→cの順に変遷すると想定する。このことを検討できる共伴資料は少ないが、Ⅱa類は加茂遺跡で出土していることからもこの変遷はⅡ類・Ⅲ類についても同様と考える。

Ⅵ期新段階　前段階から引き続き小皿Bが目立つ。煮炊具は播磨型・鉄かぶと形・播但型堝、羽釜が認められる。播磨型堝は71のように体部が立ち上がり気味になる。鉄かぶと形は前述したようにこの段階でⅠ・Ⅱ・Ⅲ類が確実に共伴する。体部はc類が主体となる。羽釜は西播磨では確認できていない。東播磨では多段口縁のものや北播磨で72のような突起状のものが認められる。播但型はⅡc類とⅡd類が出土する。

Ⅶ期古段階　皿は小皿Aが再び増加し、皿Jが新たに加わる。煮炊具は鉄かぶと形と播磨型に集約される。鉄かぶと形Ⅱ類・Ⅲ類は丸底化が進行し、丸底のもののみとなる。Ⅰ類はこの段階まで残るかは不明である。口縁部のナデも痕跡程度になり、端部も玉縁状に近いものも存在する。播磨型は羽釜形のうち、鍔が痕跡程度もしくは段になるものと、新たに炮烙形が出現する。炮烙形の出現は、前述の豆田遺跡の播磨型堝786の存在からも鍔の痕跡化の最終段階に位置づける必然性はなく、播磨型のある段階で派生的に出現した可能性があり、この段階で共伴している。ただ、当該時期の共伴関係の判明する事例は極めて少なく、置塩城跡と中道子山城跡を呈示したが、これらは遺構に伴うものでなく、Ⅶ期新段階の資料を含む可能性もあり、今後検討を行っていく必要がある。

Ⅶ期新段階　小皿A・B、皿Jで構成される。小皿Aは器形的には皿Jの形態をとるものが多く、法量分化に伴うものであろう。鉄かぶと形堝は確認できず、播磨型堝のうち炮烙形のみとなる。炮烙形の外面タタキには格子タタキと平行タタキのものがある。東播磨において当該時期のまとまった資料は少なく、組成の明らかな資料は確認できていない。西播磨では姫路市内を中心に認められるが、御着城跡をはじめとして古い時期の調査であるため遺物の組成等も判然としない資料が多く、当該時期の様相についても今後の課題といえる。

最後に先行研究である長谷川の見解と異なる点を列記する。鉄製品模倣型の受口口縁堝の初現をくの字口縁としているが、これらは個別に変遷するもので別系統として整理した。受口口縁堝については、端部の屈曲が強いものと弱いものは並存し、端部が突起状となるものも遅れて並存する。羽釜に関しては鍔部と口縁部の変遷観は肯首できるが、口縁部が内傾するものと直立するものは出現当初から並存し、器形も多様化する。播但型堝については、長谷川の示す口縁部形態は参考にはなるものの、変化の本質は宮原の指摘するように器形にあり、口縁部のみで時期比定することは難しい。Ⅲ類についても池田が指摘するように長谷川の想定よりも遡ることを確認した。播磨型堝の変遷は長谷川の変遷観を肯首できるが、鍔部のみで時期を明確に区分することは難しい。むしろ山本が指摘するようにその器形に変化が現れると考えた。鉄かぶと形堝は、長谷川の理解とは異なりⅠ・Ⅱ・Ⅲ類は型式変化ではなく別の系統で、それぞれの系統内で変遷する可能性が高い。総体として、煮炊具の主たる変化は機能部である器形にあり、口縁部の変化は付随的なものと考える。口縁部は全容の判明する資料が少ない中で参考にはなるものの、それのみで個体ごとに時期比定を行うことは難しいと考える。

年代観

前述したように播磨地域の消費地遺跡における出土遺物の位置づけについては、中世前期は東播系須恵器、中世後期は備前焼擂鉢の変遷を基軸として行われてきた。編年の確立したこの両者は、硬質であるため、軟質の土師器や瓦質土器に比べて残りやすく、時期比定の根拠ともなりやすいことから調査でも意識して取り上げられやすい。しかし、裏を返せば、在地土器の様相を把握しない限りにおいては、東播系須恵器や備前焼擂鉢の混入や取り上げ時の誤認等を検討することができない。ただ、現状では記年銘を伴う資料がほぼないことから、在地土器のみで時期比定することは不可能である。そこで、表２・３に示した東播系須恵器鉢と備前焼、模倣対象となった京都産の土師器皿を参考に各段階の年代を探ることとする。

Ⅳ期古段階　皿Ｅの祖型が京都Ⅴ期の皿Ｎと考えることから、11世紀後半から12世紀後半を上限とする。共伴する東播系須恵器鉢はＡ２類、Ｂ２a類を含むことから12世紀前半～13世紀初頭までの幅を持つ。その上限は前段階にあたるⅢ期を含めて検討しなければならないが、下限は12世紀後半頃と見る。

Ⅳ期新段階　皿Ｆの祖型が京都Ⅵ期中段階以降の皿Ｎと考えることから、13世紀前半以降となる。共伴する東播系須恵器はＢ１b類、Ｂ２b類であることから12世紀後半～13世紀代までの幅を持つ。Ⅳ期古段階との関連で見れば、13世紀前半頃と考えられる。

Ⅴ期古段階　皿Ｏ・皿Ｈの祖型を京都Ⅵ期新段階以降の皿Ｓ・Ｎと考える。共伴する東播系須恵器はＢ２a類・Ｂ２b新・Ｂ３a中、Ｂ３bであることから13世紀後半から14世紀前半にかけての時期に位置づけられる。

Ⅴ期新段階　皿Ｇが共伴することから京都Ⅶ期中段階以降である。共伴する東播系須恵器はＢ３a中・新、Ｂ３b類で、備前焼擂鉢は中世２b期、３a期である。Ⅴ期古段階との関連で14世紀中頃から後半に位置づけられよう。

Ⅵ期古段階　皿Ｉの祖型を京都Ⅷ期中段階以降の皿Ｎ・Ｓと考える。東播系須恵器は東播磨においてＢ２b新、Ｂ３a古・中・新、Ｂ３b類が伴う。西播磨では備前焼擂鉢の中世３a、３b、４a期が出土する。その下限は15世紀前半頃と考える。豆田遺跡SE10の応永年間の木簡群が当該時期に位置づけられるが、共伴資料は皿Ｇ、鉄かぶと形堝である。鉄かぶと形堝はＩb類の口縁部の小片であるが、前述の変遷観からSE09出土のＩa類に後続する資料と位置づけられる。Ⅴ期新段階とⅥ期古段階の時期比定に妥当性を与える。

Ⅵ期新段階　東播磨において東播系須恵器Ｃ類、備前焼擂鉢４b、５bが、西播磨において備前焼擂鉢３a、４a、４b期が伴う。Ⅵ期古段階に後続し、その下限は15世紀後半頃に位置づけられる。

Ⅶ期古段階　皿Ｊの祖型を京都Ｘ期以降の皿Ｓと考える。備前焼擂鉢４a、６a、６b期が伴い、東播系須恵器はこの段階以降伴わない。これらから16世紀前半頃に位置づけられる。

Ⅶ期新段階　備前焼擂鉢中世６ｂ期、近世１b期を伴う。姫路城大天守地下から出土したとされる土師器皿の墨書「天正」を首肯すれば、その時期は天正年間を含む16世紀後半に位置づけられる（姫路市埋蔵文化財センター2019）。

Ⅴ期の東播系須恵器の出土様相は、中世土器研究会が提示した編年観からはズレがあるように見えるが、新田和央が示した京都で出土する東播系須恵器のピークの様相と一致している。また、Ⅵ期古段階におけるＢ３類については、出土量のピークは過ぎているものの、京都での出土は確認されている。Ⅵ期新段階におけるＣ類のピークも一致する（新田2015）。Ⅵ期新段階の備前焼の様相は、一見大きなズレがあるように見えるが、消費地出土の備前焼を検討した重根弘和によれば、重根Ⅳ Ｂ－１～Ⅳ Ｂ－３（乗岡中世４～５期）は15世紀後半において共伴が確認されている（重根2003）。このことから本稿で提示した年代観は、他の遺物とのクロスチェックにおいても概ね矛盾がなく、整合的に理解できるものと思われる。型式学的な検討や遺物の消長、詳細な時期比定等多くの課題は残るが、ひとまず上記の検討に基づき、豆田遺跡・大浄口遺跡出土遺物の記載を行った。次にこの時期比定に基づいて遺跡における中世集落の動態を読み解いていきたい。

Ⅳ－２　豆田遺跡・大浄口遺跡における中世集落の動態

豆田遺跡と大浄口遺跡は、室町時代に「伊和西郷」と呼ばれ国衙別納の一部であったことは第Ⅱ章において触れた。ここでは、もう一つの歴史的な視点として条里地割における開発の側面から、発掘調査で検出した遺構を読み取っていきたい。条里地割内における調査地の坪並については、図10において模式的に示した。まず、ここでその根拠について言及し、その後検出遺構を時期ごとに検討する。

飾磨郡における条里地割の復元は多くの先学の研究がある。市街図上に示された復元案としては、谷岡武夫と多田初治によるものがある（谷岡1956、多田1970）。飾磨郡における条里地割の復元にあたっては市川東岸の姫路市白浜町、姫路市奥山に残る小字と姫路市広畑区に残る小字名に基づいて復元される。復元案に基づいた条里がいずれも市街図上に示されているが、縮尺が小さく細部の位置が特定できない。改めて先学の手順に基づき復元を行い、図199に調査地周辺の条坊を示した。

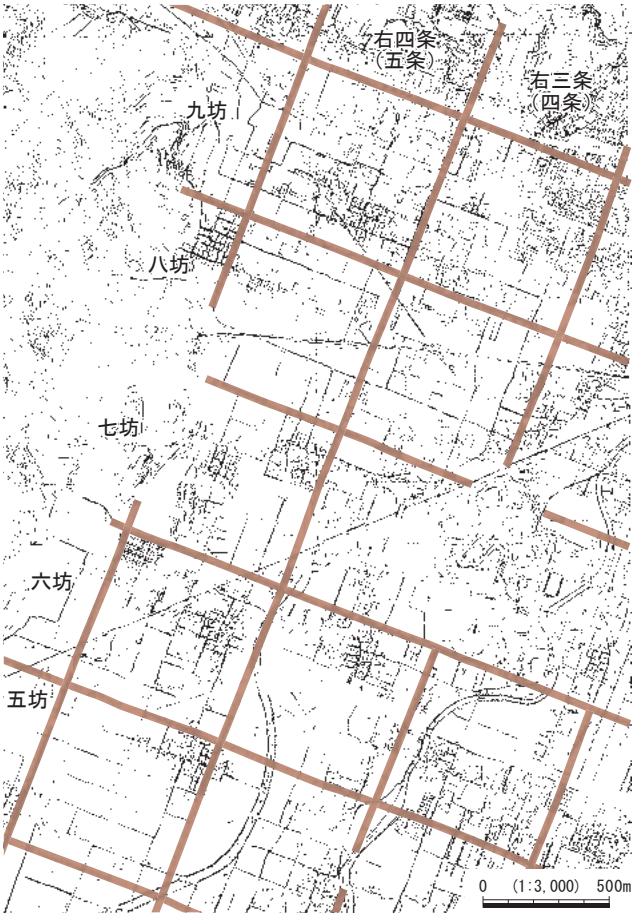


図199　条坊復元図

市内の小字名については、田中早春がまとめており、それに基づいた（田中1994）。白浜町松原と中村にまたがって、小字「三ノ坪」「四ノ坪」「五ノ坪」が東から西に並ぶ。その六町北にある東山には小字「西六ノ坪」「東六ノ坪」がある。さらに六町北の姫路市奥山に小字「一ノ坪」「二ノ坪」が東から西へ並ぶ。これらの字名の位置から東西方向の坊界が復元できる。東山の小字「西六ノ坪」と奥山の小字「一ノ坪」の位置関係は一町分ずれていることからここに南北方向の条界を復元でき、先の松原の「三ノ坪」「四ノ坪」「五ノ坪」の位置とも矛盾しない。また、北原の小字「九ノ坪」と中村の「十ノ坪」「十一ノ坪」が西から東へ並ぶことから、条坊内の坪並も整合している。以上により条坊復元の軸線が復元できるとともに、条坊の南東隅から千鳥式に坪並することが判明する。市川西岸へは白浜町松原の小字に沿って西へ坊界線を延長した位置に飾磨区阿成の小字「四ノ坪」があり、その延長線上に飾磨区今在家の小字「六ノ坪」が位置する。その位置は市川東岸で復元した条界から八条分西にあたり、字の西辺が条界線と判断できる。その条界を北に延ばした位置が図199に示した右三条と四条の境にあたる。

夢前川西岸の姫路市広畑区に残る飾磨郡条里の復元は服部英雄により提示されている（服部1989）。提示された復元案を夢前川東岸まで延長すると今回の復元とも合致している。条坊の呼称については、多田と谷岡とで坊名は一致するが、条名は一条ずれている。服部は多田と同じ条坊復元をしている。ここでは、その復元の是非まで踏み込む必要はないため、図10に示した調査地の条坊名は多田・服部案では飾磨郡右四条六坊、谷岡案では右五条六坊となる。以上から、豆田遺跡・大浄口遺跡の調査範囲は概ね一つの条坊の全域をカバーしていると評価できる。合わせてこの範囲は近世町坪村の主要部分と重なることから、姫路平野における一村落の動態を明らかにすることができる。前節での検討から調査によって判明した遺構・遺物の主たる時期はⅣ期からⅦ期にかけてである。個別にはさらに古相と新相に細分できるものもあるが、数量的に少ない時期もあるため、大きくこれら４時期の集落の変遷を述べる。

Ⅳ期

12世紀後半から13世紀前半にあたる。図200に示すように調査範囲の全域に遺構が確認されているが、特に北部に多い。なお、掘立柱建物から出土する遺物量は少なく、時期の確証が得られたものは少ない。可能性のあるものも含めて十五ノ坪で２棟、十六ノ坪で１棟、二十ノ坪で２棟、二十七ノ坪で７棟、二十八ノ坪で１棟、三十二ノ坪で１棟、三十三ノ坪で９棟、三十四ノ坪で10棟、三十五ノ坪で２棟確認している。これに同じ条坊内での調査である兵庫県教育委員会の池ノ下遺跡の成果を加えれば、十八ノ坪で２棟、十九ノ坪で９棟、三十ノ坪で７棟となる（兵庫県教委2012）。

調査では建物の全容が判明した事例は少ないが、三十三ノ坪21次SB02（姫路市教委2019）と三十五ノ坪SB01において平面積100㎡クラスの建物跡が検出されている。三十五ノ坪SB02も類似した規模である可能性が高い。三十三ノ坪（図67）では21次SB01を中心にその周囲にSB30～32が確認できる。この建物群は一つの屋敷地を構成する可能性が高い。この部分の遺構の広がりは南側にあたる16次８区以南では確認できず、南側には広がっていない。また、北側の12次３区や７次11-５区でも検出できていない。一方、半町を区画する３次11-２区SD17を超えるとSB34・SB35～37が存在することから、屋敷地は半町程度の広がりをもつ可能性が高い。これらの建物跡には、三十三ノ坪21次SB01で井戸が、三十四ノ坪SB03には井戸SE01が、SB10・11には井戸SE02が伴う。二十七ノ坪SB04～ SB09には屋敷墓ST02が、三十三ノ坪SB35～37には屋敷墓ST03が、三十五ノ坪SB01には屋敷墓ST01が伴う可能性がある。井戸の検出位置は建物跡に近接し、屋敷墓はわずかに距離をあけて存在する。このように遺構配置にはある程度共通性が見つめられることから、未調査部分も多く断定はできないものの、Ⅳ期の土地利用の単位は、半町程度を基本にその中に建物（母屋・付属屋）・井戸・屋敷墓がセットとして存在するものとみられる。検出できていないが、こうした遺構のない部分に耕作地が伴う可能性がある。

上記のような屋敷地の様相が比較的明らかとなった坪は二十七、三十三、三十四、三十五ノ坪である。この部分における条里地割との関係をまとめると以下の３点を指摘できる。１点目は条坊をまたぐ建物跡は確認できない。２点目は１点目と関連するが、坪境をまたぐ建物跡も存在しない。３点目は半町をまたぐ建物跡は三十四坪のSB20がある。以上から、条坊と坪は屋敷地を規制する単位であり、その内部の半町以下の単位は、土地利用の基本単位と考えるが、規制されたものではなく、居住者の性格等により流動的であった可能性を指摘できる。広瀬和雄による中世村落における建物群の分類では、Ａ型：小規模な建物（10～20㎡程度）が数棟集まって建物群を形成。Ｂ型：大小の建物（50㎡前後・倉庫付属）が２棟前後で建物群を構成。Ｃ型：傑出した大規模な建物（100㎡以上）に中小の建物が付属。Ｄ型：館あるいは堀の内屋敷の４類型に分けられる（広瀬1988）。Ａ型は下層農民層、Ｂ型は上層農民層、Ｃ型は富裕農民層と想定されている。この見解に従えば、確認できている範囲で、三十三ノ坪と三十五ノ坪には富裕農民層、それ以外には上層農民層の存在が想定できる。こうした屋敷地が坪内に１ないし２ヶ所存在していたのが、当該期の条里地割内の様相である。

Ⅳ期の前段階にあたる平安時代の遺構・遺物はほとんど確認していない。十ノ坪で検出した５次31区SA54が唯一の遺構である。平安時代の遺物はわずかに散見される程度で、この段階にはほとんど開発の痕跡をうかがうことができない。このことから、当該条坊内において開発が本格的に進行するのは、考古学的にはⅣ期からである。この時期の溝は２次８-２区SD01、４次12区SD10・13区SD06、大浄口遺跡１次１区SD03・１次２区SD14等がある。いずれも坪境もしくは条坊の境にあたる溝と想定されるが、溝の断面は比較的浅く、水路としての機能は考えにくい。その他半町を区画する３次11-２区SD17等の溝も浅く、上記の屋敷地に伴うものとみられる。このように当該時期の水路として機能しえた溝は未検出であり、条坊内において水路網による面的な灌漑が行われたようには見えない。ただ、条坊内には現在の大井川と水尾川の位置に旧河道があることから、これらを利用した可能性は残る。当該時期は全国的に開発が進むとされるが、「伊和郷」においては、灌漑水路を伴う開発は本格的には行われておらず、条坊内に点在する屋敷地を中心とした点的な開発に留まっている可能性が高い。

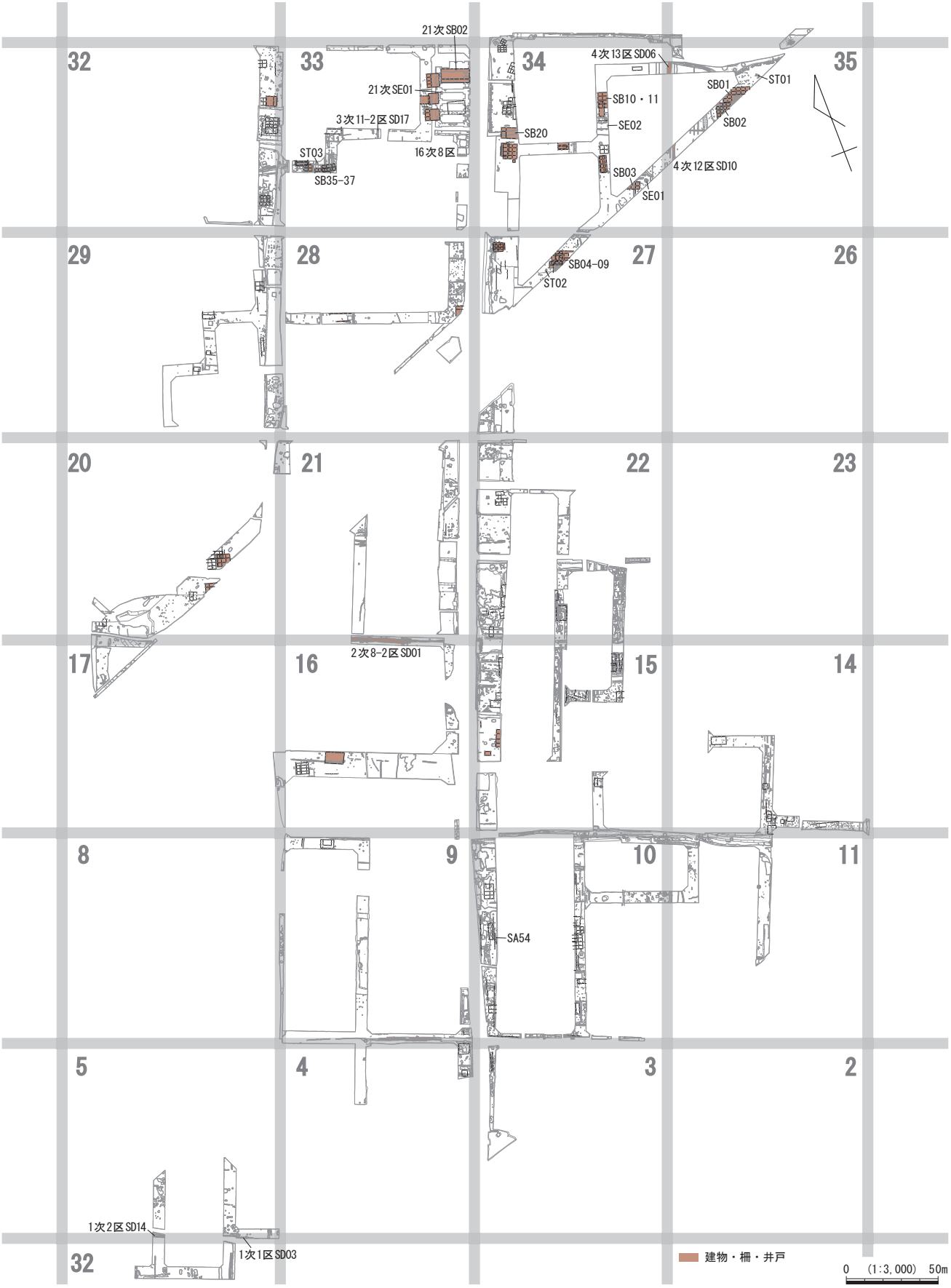

32
33
34
35
29
28
27
26
20
21
22
23
17
16
15
14
8
9
10
11
5
4
3
2
32
21次SB02
21次SE01
3次11-2区SD17
16次8区
ST03
SB35-37
4次13区SD06
SB01
ST01
SB10・11
SB02
SE02
SB20
SB03
4次12区SD10
SE01
SB04-09
ST02
2次8-2区SD01
SA54
1次2区SD14
1次1区SD03
建物・柵・井戸
0 (1:3,000) 50m

図200　Ⅳ期遺構

Ⅴ期

13世紀後半から14世紀後半にあたる。史料からこの段階に「伊和郷」は東西に分かれ「伊和西郷」が成立したとみられる。この時期の遺構・遺物はⅣ期に比べて大きく減少する。遺構を検出した坪は四ノ坪、九ノ坪、十一ノ坪、十六ノ坪、二十七ノ坪、二十九ノ坪、三十二ノ坪、三十三ノ坪、三十五ノ坪である。このうち、十一ノ坪では井戸２基、二十九ノ坪、三十二ノ坪、三十五ノ坪では水路を検出した。建物跡で明確に当該期に位置づけられるのはわずかに四ノ坪１棟、九ノ坪１棟、十六ノ坪１棟、二十九ノ坪１棟、三十二ノ坪３棟、三十三ノ坪２棟の９棟である。検出状況からⅤ期はⅣ期の開発の単純な延長線上にあるのではなく、Ⅳ期の開発が一定程度進行したことにより集落の構造そのものが大きく変化したものとみられる。

当該期における最も大きな変化は水路の開削である。三十二ノ坪から二十九ノ坪、二十ノ坪にかけて検出した後世に「棚田筋」と呼ばれる水路と、三十五ノ坪で検出した後世に「北町溝」と呼ばれる水路である。これらの水路は開削がⅤ期古段階まで遡る可能性があるものの確証はなく、出土遺物からはⅤ期新段階には確実に存在していたと見られる。図７に示したように後世の「棚田筋水路」は、大井出水から分岐を行う。「北町溝」は「寺前水路」からの分岐と見られるが、18次12区の調査で当該期の遺物が確認できなかったため、岡田からの「若宮水路」の流れも可能性として残る。いずれにせよ当該時期に西今宿の大井出水、あるいは平野部の出水を水源とした灌漑網が整えられていったとみられる。「寺前水路」についても当該時期に存在していた可能性はあるものの、本水路は江戸時代の水路と重なることから現状では積極的に存在を肯定しにくい。「棚田筋」は概ね三十二ノ坪の半町の位置を東西方向に流れ、三十二ノ坪と三十三ノ坪の坪境で南に折れる。「北町溝」は坊界に位置することから、条里地割に規制され水路が開削されたといえる。なお、直角に曲がる「棚田筋水路」は一見、居館の区画遺構にも見える。しかし、溝は南へ延びつづけることから区画遺構ではなく後世の「棚田筋」の前身水路と位置づけた。条里地割に規制された水路は、随所で直角に折れている。水路が居館の堀を兼ねる事例も多く報告されているが、一町以上の長大なものについては、現行水路との関係から読み解く必要もあろう。

三十二ノ坪で検出したSB43とSB44は「棚田筋」を挟んで北側と南側に位置する。また、三十三ノ坪で検出したSB38も当該時期の可能性が高く、水路に近い位置に居住域が移動している。平面積が確定できるSB43は58㎡を測り、広瀬の分類ではＢ型に該当し、上層農民層の存在が想定できる。ただ、Ⅳ期のような半町に近い単位の屋敷地の存在ははっきりしなくなる。また、十一ノ坪においては、SE08とSE09の石組み井戸２基を検出した。いずれも単独での検出であり、調査区内において建物跡が確認できない。SE08からは漆が付着した備前焼甕（図149-917）が出土するなど、耕作に伴う井戸とは考えにくく、居住域に伴うものと想定される。大浄口遺跡においても三十二ノ坪でSE11を検出した。井戸の構造はSE08・SE09と共通しており、周辺に建物跡が確認できない点も共通する。このことから当該時期の建物には遺構として残りにくい（検出面が耕土直下であり後世の耕作の影響を受けやすい）、礎石建物跡が井戸の周辺にあった可能性も考えられる。

Ⅳ期には12ヶ所の坪に屋敷地が展開していたものが、Ⅴ期には６か所の坪に減少する。三十二ノ坪と三十三ノ坪における建物跡の在り方は、屋敷地としては小規模ではあるものの、水路を間に挟み一定の範囲に屋敷地がまとまっている。当該時期は、広瀬や佐久間貴士によれば集村が成立したとする時期にあたる（広瀬1986・佐久間1994）が、豆田遺跡においては水路の開削という大きな開発の画期がありつつも、未だ屋敷地の在り様はⅣ期と大きく変わらず、屋敷地が緩やかにまとまりをもちつつも点在した状態を示している。ただ、Ⅳ期の建物跡が周辺に柱穴も少なく、比較的平易に復元できるのに対し、Ⅴ期の建物跡は周辺の柱穴数が増加し建物跡の復元が一段と難しくなる。これはⅣ期の建物跡と異なり、Ⅴ期の建物跡が一定期間、一定の場所に留まる在り方に変化したことの証左であろう。このことは、Ⅳ期における条坊内の点的な開発が、一定程度達成もしくは限界を迎えたことで、Ⅴ期において土地利用法が質的に転換されたことにより、屋敷地（建物跡）の在り方にも変化が生じた結果と考える。この遺構検出状況の変化は続くⅥ期以降にも継続することから、姫路平野においてⅤ期は開発の画期と言えそうである。

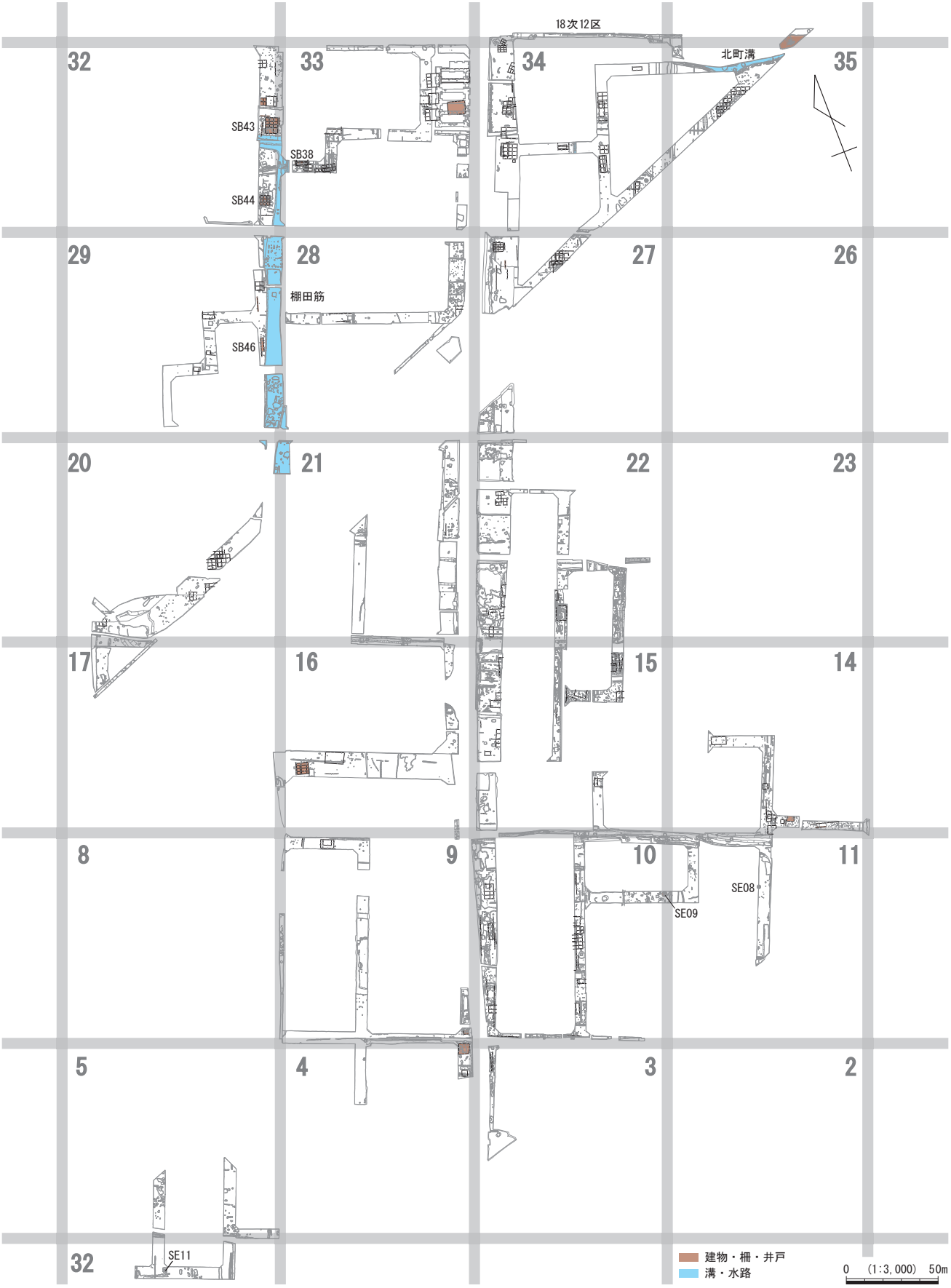

18次12区
北町溝
SB43
SB38
SB44
棚田筋
SB46
SE08
SE09
SE11
建物・柵・井戸
溝・水路
0 (1:3,000) 50m

図201　V期遺構

Ⅵ期

15世紀代にあたる。当該時期の遺構は水路を除けば九ノ坪、十ノ坪、十四ノ坪、十五ノ坪、二十二ノ坪に集中する。十ノ坪には区画Ａ、二十二ノ坪には区画Ｂが存在する。建物跡は九ノ坪１棟、十四ノ坪１棟、十五ノ坪７棟を検出した。九ノ坪で検出したSB97は単独で存在する村堂の可能性を考えた。また、十五ノ坪で検出した建物跡は区画Ｂに付随するものと考える。前代までの開発が条坊内のいくつかの坪にまとまりをもってなされたのに対して、当該時期は居住域の集約化が顕著に認められる。この変化を明確化するためにⅣ期の状況を改めて確認しておきたい。Ⅳ期の二十七ノ坪、三十二ノ坪～三十五ノ坪にかけて屋敷地が展開する状況は、未調査部分にも面的に遺構が広がることを踏まえれば、屋敷地の境が直線の溝で区画され、溝が全周せず比較的開放的な屋敷地が10か所以上集合した状態ともとれる。この様相は滋賀県の西田井遺跡と類似し、佐久間が指摘するＤ1型（集村）に近い（佐久間1994）。ただ、Ⅳ期には条坊内の各坪に数の多少はあるものの、こうした屋敷地が点在している。対してⅥ期の遺構分布を条坊全体で見た場合、遺構の存在する坪と存在しない坪の差が明瞭に読み取れるようになり、特定の坪に建物が集中し、Ⅳ期の在り方とは質的に異なっている。この集約化を進めた要因はⅤ期に開削された水路と見られ、その灌漑域に耕地が展開した結果、居住域との分離が進行したためと考える。また、調査で検出した後世の「棚田筋」、「北町筋」、「寺前水路」、「土居ノ内溝」にあたる水路が当該時期には確実に存在しており、近世に継続する灌漑網が整備されていったと見られる。耕作痕跡そのものは検出できていないことから、遺構の検出されていない坪に耕作地を比定する点については想定の域を出るものではないが、遺構分布から考えてⅥ期には耕地と居住地の分離が一定程度、達成されたと見て間違いないであろう。加えて、図202には近世室津道のルートを示している。この図から近世室津道が町坪村内において屈曲を繰り返すルートはⅥ期の遺構分布域の外周を通過していることが確認できる。また、ルート上に位置する九ノ坪で検出したSB97を村堂のような性格のものと想定すれば、当該場所に存在することとも整合する。なお、西側の八ノ坪と十七ノ坪にまたがる「藪山」に近世以降、三昧があったこと等を踏まえるとSB97を検出した位置は町坪集落の境界と意識されていた可能性もある。調査で道路遺構を検出したわけではないため、具体性には欠けるが、遺構分布から当該時期に英賀から姫路へ至る道筋が固定化していった可能性を指摘できる。こうした点から、集落域の固定化にあたって、従来指摘されてきた耕地と集落域の分離に加え、豆田遺跡においては道筋とも関連して当該坪に集落域が固定化していく様相がうかがえる。

この時期の特筆すべき遺構は区画Ａと区画Ｂである。これらの区画は十ノ坪と二十二ノ坪に存在するが、当該時期の遺構は、前述したようにこれらの坪周辺にまとまっている。

区画Ａでは三方の区画溝を検出している。その範囲は南北約110m、東西64m以上である。内部には柵が巡るが、土塁の存在を積極的に示す痕跡はなく、防御的な要素は薄い。中世居館においては、周囲をめぐる堀が水路を兼ねるか兼ねないかが一つの課題として検討されてきた（佐野1999ほか）が、区画Ａに限れば区画溝と水路は個別に存在する。その配置については、隣接するものの互いに干渉しないことから計画的に配置されたことがうかがえる。水路と区画溝とが個別に存在する事例は市内の加茂遺跡でも確認されていることから、姫路平野においては、水路を取り込まない形で成立する区画遺構が存在していることがわかる。一般的に居館は半町規模、一町規模と一町以上に区別されるが、兵庫県内の平地居館を検討した山上雅弘によれば一町を超える規模は、播磨において書写坂本城跡と河合城跡の２ヶ所のみで、70m～一町前後の規模の居館は中規模居館に分類されている（山上2006）。その見解に従えば、区画Ａは他地域における一町規模クラスの中規模居館と評価されうる。その成立時期は応永八年の記年をもつ木簡が出土したことから14世紀代まで遡る可能性がある。区画Ａから出土する遺物はⅥ期古段階に位置づけられ、明確にⅥ期新段階のものは出土していないことから、比較的短期間で廃絶したと考えられる。

区画Ｂは、区画Ａの一町北側に所在する。三方の区画遺構が検出されており、その範囲は東西90m以上、南北約半町である。内部に区画溝を持ち、土塁の存在を直接示す痕跡はないが、区画遺構隣接部は比較的遺構密度が薄いことから、土塁が存在した可能性も否定できない。その内部では柱穴が濃密に検出され、区画Ａに比

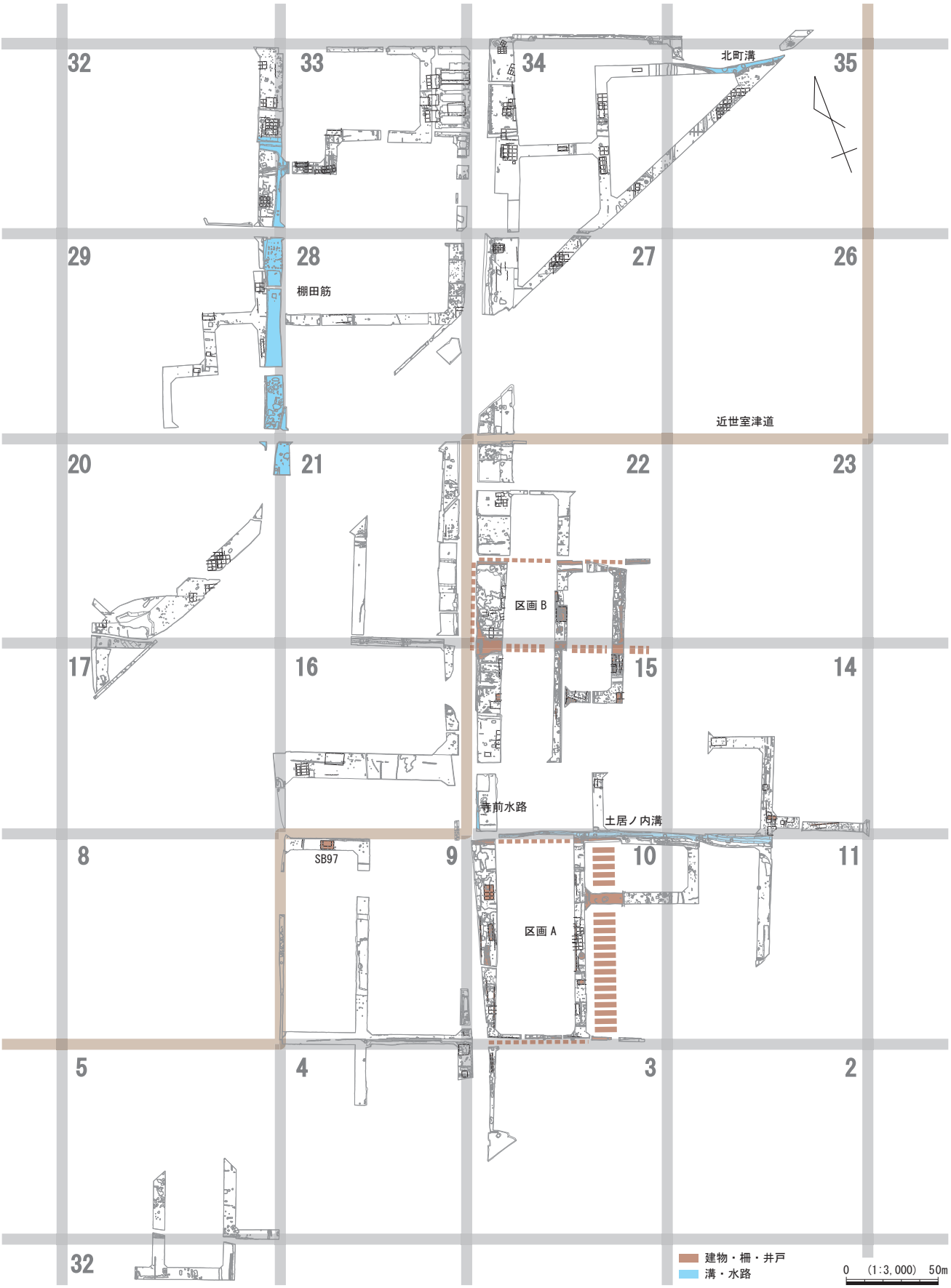

32
33
34
35
北町溝
29
28
棚田筋
27
26
近世室津道
20
21
22
23
区画 B
17
16
15
14
寺前水路
土居ノ内溝
8
SB97
9
10
11
区画 A
5
4
3
2
32
建物・柵・井戸
溝・水路
0 (1:3,000) 50m

図202　Ⅵ期遺構

べて遺構の密集度が高い。区画溝のうち、東側と南側は水路を兼ねており、区画Ａとは構造等が大きく異なる。出土遺物から、区画Ｂの存続時期は区画Ａと併存した後、その廃絶後のⅥ期新段階が中心時期となり、さらにⅦ期古段階まで存続したとみられる。ただし、北区画溝についてはⅥ期内で埋没した可能性がある。区画Ｂの外側にも遺構が広がるが、その範囲は十五ノ坪の半町程度までと想定する。十四ノ坪と二十三ノ坪は未調査であるため、厳密には不明であるが、区画Ｂを含めて一町四方程度の範囲に遺構が広がっていると想定する。区画Ｂとその周辺を囲う大規模な区画遺構は存在しないと思われ、５次24-３区で検出したＳＤ06のように、比較的浅い溝状遺構で区画される程度であろう。区画Ｂとその外側の遺構・遺物に明確な差は認められないが、区画された内側の居住者とその外側の居住者には階層差が存在すると予想する。中世後期の集落跡として「周溝屋敷地」や「ブロック形屋敷地群」等が知られている（石尾1993・伊藤2006）が、調査範囲によるものかあるいは後世の削平によるものかは不明であるが、屋敷地を溝で囲うような状況は確認できていない。当遺跡においては、区画Ｂの周辺に溝等で区画されない建物跡が連続して展開する在り方を示し、これを姫路平野における当該時期の集落様相と考えたい。こうした集落形態は、中井均の分類に従えば、区画Ａは居館がやや離れて存在する居館分離型、区画Ｂは居館と住人が一体となった居館主導型となろう（中井2004）。区画Ｂ及びその周辺の状況は、当該時期の集落動態を文献・城館跡と集落の関係から検討した小島道裕の言を借りれば「在地領主と百姓の惣の協調の下に、両者が併存する新たな集落」そのもののように見える（小島2004）。

次に区画Ａと区画Ｂの出土遺物からその性格を考えてみたい。まず、区画Ａについては、SE10から出土した祈祷札の存在から区画Ａの居住層が勧農にたずさわる階層であり、応永年間を通じ頻繁に祈祷を行った事実が判明した。こうした点からも区画Ｂと区画Ａの性格差は明らかであるが、それは出土遺物の様相にも表れている。表５は区画Ａと区画Ｂの出土土器組成に参考資料として置塩城跡、加茂遺跡を加えたもので、出土遺物をその機能に分けて比率を示したものである。加茂遺跡を除く調査については、出土遺物量の全容が把握されている。加茂遺跡の数量は、報告書記載の中世後期出土遺物を抽出したもので、比較条件としては揃っていない。なお、区画Ａ・Ｂについては、区画遺構と区画内調査区の全出土遺物の数値であるため、須恵器食膳具をはじめ別の時期の遺物が含まれており、ある程度の誤差を有するが、傾向を把握することは可能と思われる。表５に基づけば、区画Ａは土師器食膳具の比率が高く、全体の約75％を占める。置塩城跡は16世紀代の播磨守護赤松氏の居城で85％程に達する（夢前町教委2006）。また、データとしては示されていないが、上郡町が調査した赤松氏居館跡においても土師器の比率が高いことが報告されている（島田2019）。かわらけはハレの場で大量に消費される道具であり、一乗谷における検討でも住人の階層、使用者の社会性と関連づけられている（小野1997）。区画Ｂは、区画Ａとは全く異なった様相を示し、加茂遺跡の組成と類似する。加茂遺跡は『播磨鑑』に記載された「加茂構居」に比定され、14世紀～16世紀にかけての土豪の居館と推測されている（姫路市教委1975）。加茂遺跡は貿易陶磁器の比率が高い点で区画Ｂと異なるが、この点については加茂遺跡のみ報告書記載遺物を調査対象としたことも要因となっている可能性がある。全体的な傾向としては、区画Ａは上位の階層との類似、区画Ｂは土豪クラスの階層との類似が指摘できる。区画Ａ出土土師器皿はいわゆる京都系土師器皿を含み、都との「近さ」をうかがわせる。合わせて頻繁な祈祷、多角形井戸の存在など、土器組成以外からも区画Ｂよりも上位の階層との関係性を想定できる。Ⅵ期における区画Ａ→区画Ｂへの動きには質的差異がある点を強調したい。

	土師器食膳具	須恵器食膳具	その他食膳具	調理具	貯蔵具	不明
置塩城跡	11664	0	960	254	697	411
区 画 Ａ	1993	194	23	299	119	268
区 画 Ｂ	907	326	122	2017	1278	515
加茂遺跡	105	0	231	351	107	0

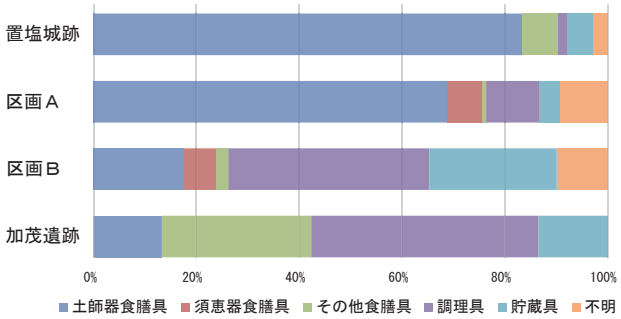


表5　出土土器組成

Ⅶ期

16世紀代にあたる。当該時期の遺構は十四ノ坪、十五ノ坪、二十二ノ坪に集中し、区画Ｂの南区画溝と「土居ノ内溝」及び区画Ｃに伴う遺構を検出した。区画Ｃについては地籍図、空中写真、江戸時代の記録等から二十三ノ坪に「本丸」の地割が存在する。未調査部分を多く含むため、断定はできないが当該時期の遺構は、Ⅵ期から継続して上記４つの坪にほぼ収まり、集落立地としては前代からの変化が進行し、より近世段階の町坪村の範囲と重なるようになった点が指摘できる。また、水路のうち、「寺前水路」は区画Ｂの南区画溝、「土居ノ内溝」との関連から当該期にもその存在がうかがえる。「棚田筋」、「北町溝」についてはいずれも江戸時代以降の埋土が堆積し、遺物から直接その存在をおさえることはできないが、存在していたものと推測する。このように当該時期は耕作地と居住域の在り方が近世村落とほぼ同一になった段階といえる。

調査で明らかとなった区画Ｃの規模は、東西約二町、南北一町半を測る。Ⅵ期の区画Ａ、区画Ｂをはるかに超える規模で、広瀬のいうＣ型居館にあたる（広瀬2006）。この他、十四ノ坪の東側にあたる十三ノ坪（図126）にはＬ字形に屈曲する地割の存在が指摘されている（工藤・山下2005）。この地割や北側にある「茶園堀」等が区画Ｃに伴うものかは未調査のため不明であるが、その範囲は近世町坪村の中心部と重なる。その立地は、『夢前川流域史』に「町坪村の東は底なし沼」と記された現在の水尾川となっている凹地を東のラインとし、その西の微高地に「本丸」をはじめとして縄張りをしている。ただ、当該地は凹地に対して微高地ではあるものの周辺の平野部との比高差はほとんど存在しない。また、土塁の存在を積極的に裏付ける根拠もなく防御的な機能は不明である。ここでは、むしろ近世室津道との関係を重視したい。調査地においては、天正４年時点で英賀から町坪、そして姫路へ至る道程があったことが史料から確認できる。文献史学の成果からは、地域における土地集落網が発達するのは16世紀であり、地域的な経済圏を中心とした体制に移行する過程であるとされている（小島2004）。こうした前提にたてば、区画ＣはⅥ期に存在を推測した英賀から姫路へ至るルートを掌握し、地域経済への影響力を高めることを目的として選地された可能性も考えられる。その在り様は、図203に示す小寺氏の居城である御着城と極めて似通っている。

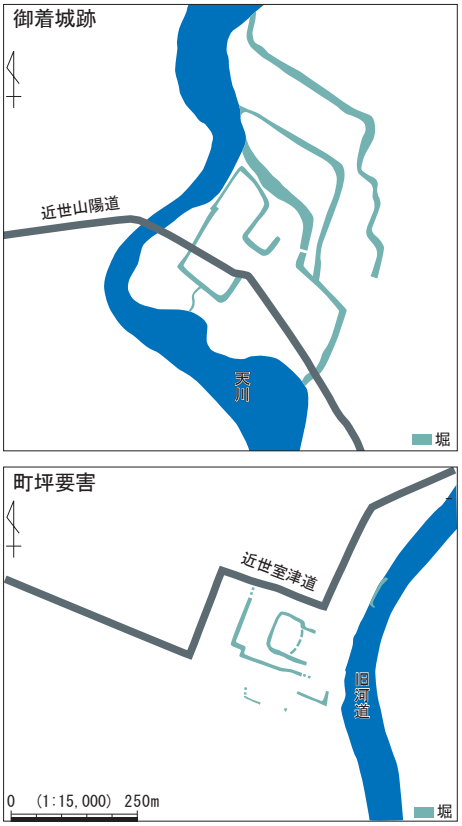


図203　御着城跡と町坪要害

区画Ｃの構築にあたって、区画Ｂの南側を区画していた水路と「土居ノ内溝」が埋められた。区画Ｃの構築にあたっては、既存水路の変更という行為が伴い、区画Ｃの廃絶後に再び「土居ノ内溝」が掘り直されていることから、単純にこれまでの開発の延長とは考えられない。当然のことながら水路の付け替えにあたっては、一集落のみの問題ではなく、灌漑域全体での調整が必要となる。それは区画Ａの主が勧農に励んだ姿、区画Ｂの居住者が百姓とともに暮した在り様とも全く異なり、区画Ｃの構築にあたって従来の慣行を超越したものの存在がうかがえる。区画Ｃ＝町坪要害の構築時期の一端は、豊地城や三木城のような拠点城郭の築城時期とも合致している（山上2006）。その規模も旧来の居館の規模を超えることから、単なる土豪の館とは考えられない。また、５次29区ＳＤ01－３から出土した大量の瓦は「要害」に伴う郭の一つに瓦葺建物が存在した可能性を示す。「本丸」からやや離れた位置にあり、この瓦葺建物は寺院である可能性が高い。現在、町坪集落に寺は存在しないが、かつて寺院が存在していたのであろう。

その後、江戸時代になると図205に示すように、調査区域からは耕作に伴う水路と野井戸等が検出される。耕作地と集落域は完全に分離し、区画Ｃのあった場所を中心として近世町坪集落が営まれる。

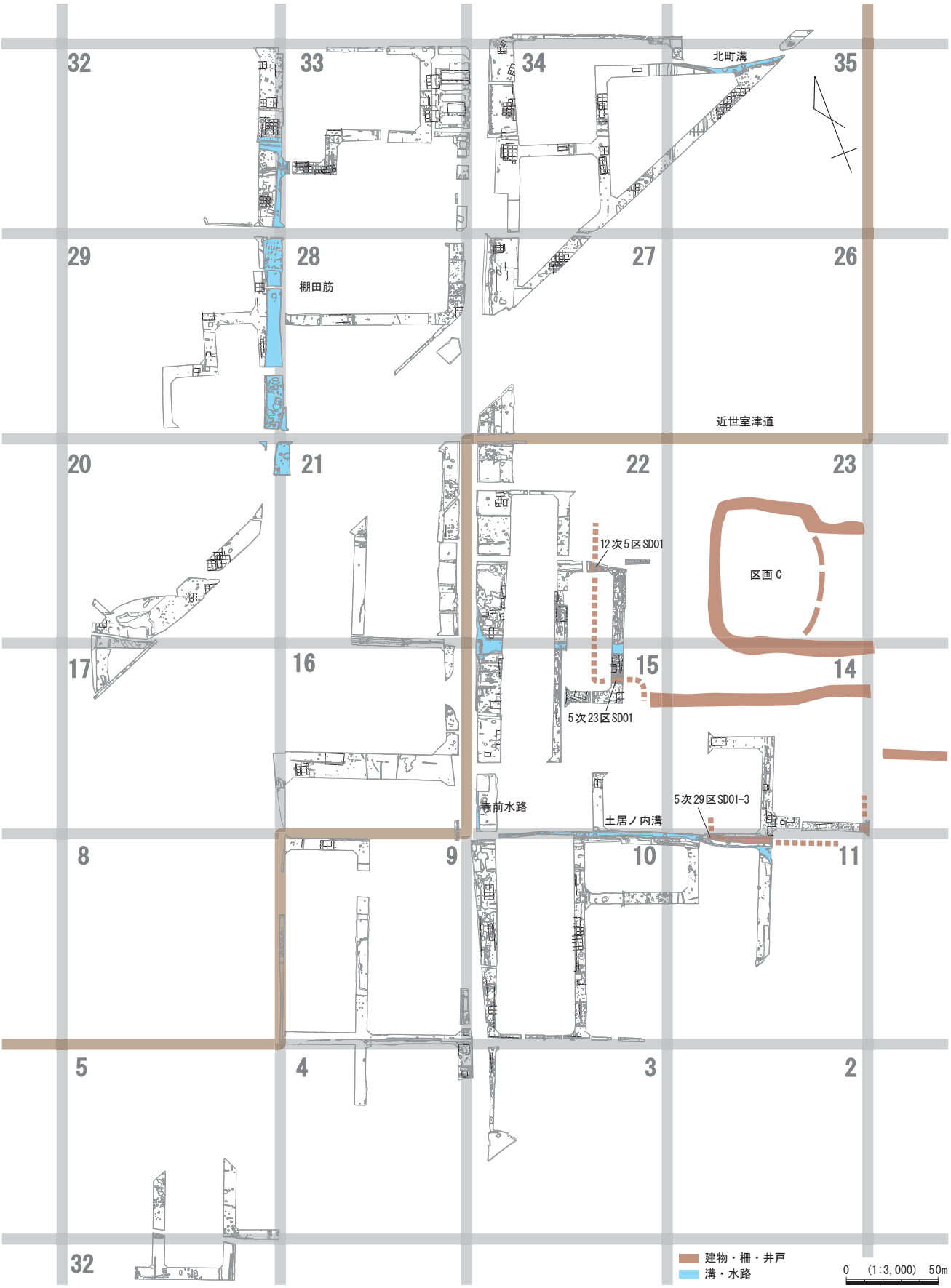

32
33
34
35
北町溝
29
28
棚田筋
27
26
近世室津道
20
21
22
23
12次5区SD01
区画C
17
16
15
14
5次23区SD01
寺前水路
土居ノ内溝
5次29区SD01-3
8
9
10
11
5
4
3
2
32
建物・柵・井戸
溝・水路
0　(1:3,000)　50m

図204　Ⅶ期遺構

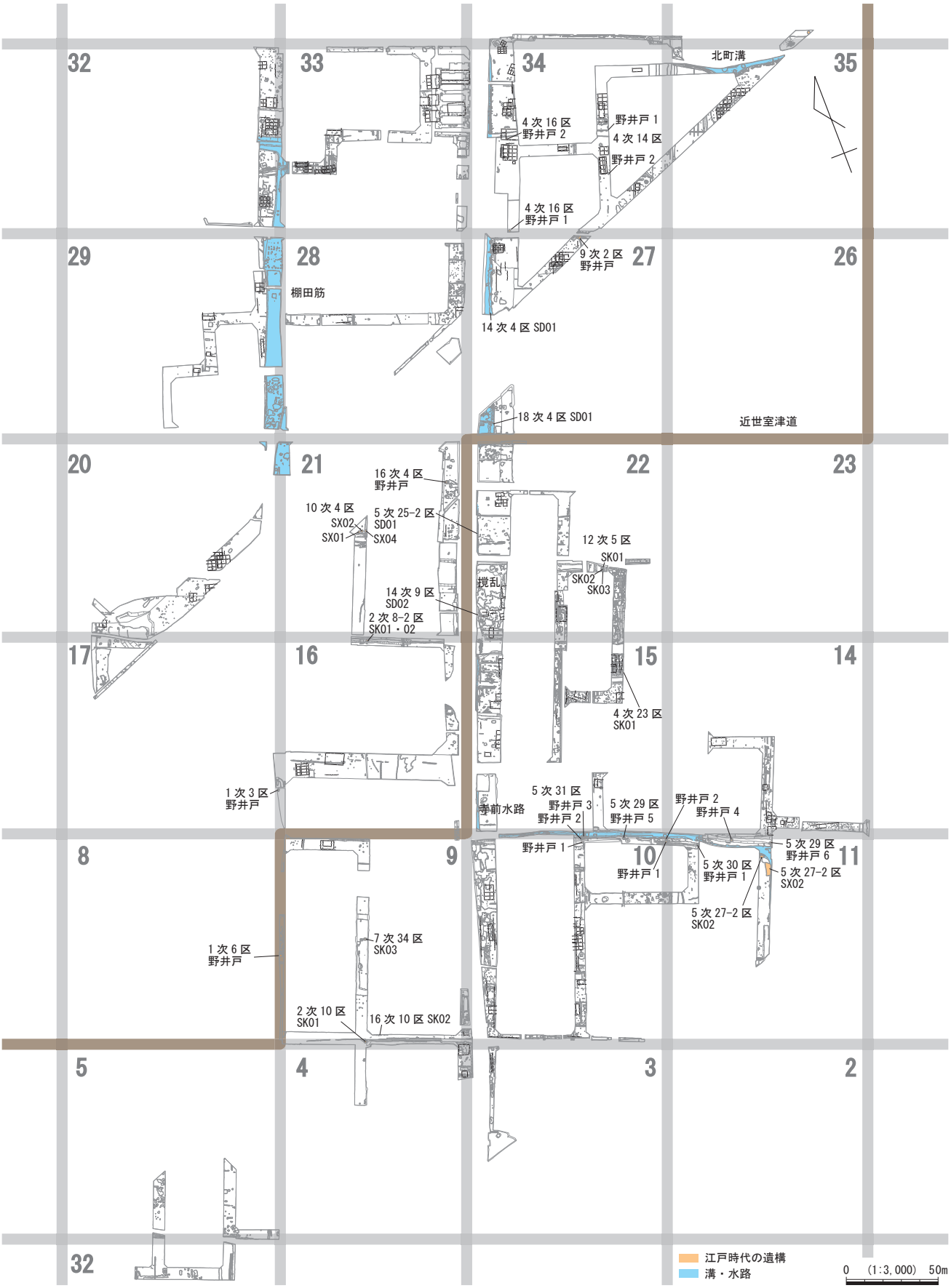


図205　江戸時代遺構配置図

Ⅳ－３　伊和西の内実　中世から現代へ

本章では出土遺物と条坊内における検出遺構の位置づけを行ってきた。その結果を簡潔にまとめれば、Ⅳ期（12世紀後半～13世紀前半）に条坊内に点在する屋敷地の面的な開発が進行し、Ⅴ期（13世紀後半から14世紀）には水路の開削とともにその内部構造に変化が起こった。Ⅵ期（15世紀）には前段階に開削された水路を核とした開発が進み、条坊内全体で見ても集村化が進むことが判明した。そこには「都との距離が近く」、勧農にはげむ区画Ａがあり、その廃絶後に土豪と百姓が作り上げた区画Ｂを中心とする集落が出現し、遺構分布から当該時期に英賀から姫路へ至るルートの萌芽を見た。区画ＢはⅦ期古段階（16世紀前半）まで維持されたが、その後、Ⅶ期新段階（16世紀後半）までに既存灌漑網の変更を伴う区画Ｃが出現した。区画Ｃは現在の町坪村の中心部と重なっている。

最後に発掘調査によって得られた成果と中世の同時代史料、近世の村の記録、現在も残る祭礼・灌漑網を総合し、豆田遺跡・大浄口遺跡の地域における歴史的な動態を検討したい。

文献史料からは、応永５年（1398）に伏見宮家に返納された播磨国衙別納10か所は伏見宮家にとって重要な領地であり、その支配には代官を置いて行ったとされる（市沢2011）。区画Ａを検出した場所は地元では通称「クラヤシキ」と呼ばれている。その存続時期は、出土木簡から伏見宮家に伊和西を含む領地が返還された時期と一致する。あるいはこの返還が区画Ａの成立に関連しているのかもしれない。SE10から出土した祈祷札は全国的に見ても例のないまとまった量の出土であり、「クラヤシキ」において領主層が熱心に勧農を行った結果と見る。中世の百姓にとって、蔵付は重要な任務であり、領主層にとっては勧農の成果の確認でもあった。荘園では、いわゆる政所がそうした場所であったが、国衙別納である伊和西において、蔵付を行った場所が「クラヤシキ」と呼ばれ、その名称が通称として残っていた可能性も十分に考えられる。調査成果からは、区画Ａ内の土器組成における土師器食膳具の比率の高さ、区画遺構と柵、建物柱穴の規模、二重構造の井戸と花押、応永年間の祈祷札の存在等を考慮すると、上記の想定はあながち的外れではなさそうである。姫路市史には同じく伏見宮家の領地であった、飾磨津別符の代官の押領や逐電の記事が収録されている（姫路市2005）。伊和西も同様の支配体制であったとすれば、区画Ａは一土豪の居館と見るよりも、伏見宮家の代官もしくはその配下が住まう場所であった可能性を指摘したい。その規模も播磨地域では大型の部類といえる。伊和西全域で見れば、やや南に寄りすぎている点が気になるが、考古学的にも区画Ａは伊和西の拠点に相応しいといえよう。

その後、伊和西内の位田分が久我家領となっている。文明９年（1477）には守護代赤松政秀の新造が代官職に補任されている（姫路市2005）。当該時期には区画Ａは既に廃絶し、区画Ｂのみ存在する。区画Ａの機能が直接、区画Ｂに移ったかどうかは不明であるが類似した規模の居館である。区画Ｂと加茂遺跡は出土遺物の組成も類似しており、その住人は共に土豪クラスと考えられる。また、区画外の外側には建物跡、柱穴が広がり、居館と集落が一体となった様相を示す。中井均の分類では居館主導型の集落といえる。居館主導型は用水支配が強い領主権とされ、居館や領主に関する伝承が残るとされる（中井2004）。実際に区画Ｂは水路を取り込んでおり、用水と一体ではない区画Ａとは様相を異にしている。江戸時代の地誌に現れる「町坪城主町坪弾四郎」は、英賀合戦で活躍したとされる。他にも町坪主が周辺に居住していた無法者である大鷹長者らを処罰したことも記される。これらの記事が史実かどうかは不明であるが、描かれた人物を町坪に居住していた土豪の姿とみるならば、村落と一体化したこの区画Ｂの主こそふさわしいように思われる。第Ⅱ章で述べたように当該地は天正年間の英賀合戦時には既に小寺氏の拠点であり、区画Ｃの出現時期からも町坪弾四郎が活躍する余地はない。むしろ、もう一つの英賀合戦として史料に残る文明18年頃は区画Ｂの存続時期と重なっている。想像の域を出ないが、山下晃誉の指摘するように古い記憶との混同があるのかもしれない（山下2005）。

その後、大永４年（1524）には小寺村職が伊和西位田分の代官職に補任された（姫路市2005）。Ⅶ期にあたるこの時期には区画Ｂが廃絶し、区画Ｃ＝町坪要害が出現する。天正４年（1576）に小寺与三五郎が城主であることから、大永４年から天正４年にかけて小寺氏が伊和西位田分を足掛かりに関わっていた可能性が高い。

文献資料と考古資料の提示する年代観に基づけば、町坪要害の築造主は小寺氏である蓋然性が高い。「本丸」の様相は不明であるため、それ以前に前身居館が存在した可能性は否定できないが、少なくとも調査で判明した遺構については、小寺氏の関与が考えられる。小寺氏の本拠である御着城と町坪要害は、図203に示したようにその立地に共通性があることが指摘できる。御着城は天川を西に配し、近世の西国街道を城内に取り込む。町坪要害は現在の水尾川となっている「底なし沼」を東に配し、近世の室津道が外周に沿って通過する。この街道は検出遺構の分布状況から15世紀段階には存在した可能性が指摘できる。英賀から姫路へのルートをおさえる位置にある町坪要害は、黒田官兵衛の姫路要害と並ぶ小寺氏にとっての重要な地域支配の拠点であったことをうかがわせる。天正13年（1585）に久我家が作成した目録には、羽柴秀吉の「御入国以前より不知行」とあり、町坪要害の築城は小寺氏による伊和西の実質的な支配の表れともとれる。正保三年（1646）の『播磨国郷帳』には町坪村一〇八〇石九斗六升八合とあり、元禄15年（1702）の『播磨国郷帳』には町坪村四三二石七斗七升壱合と記される。後者には「古ハ町坪村」の注釈があり、岡田村三五八石九斗三升と井ノ口村二八二石三斗五升七合の記載がある。その合計は正保三年の石高と合致し、江戸時代初頭には岡田村と井ノ口村を含む範囲が町坪村であった（姫路市1996）。このことから、中世末には「町坪村」の範囲は広く、伊和西の大半を占めていた可能性が高い。同時に町坪要害の影響（支配）範囲も伊和西の大半に及んでいたと推測する。久我家の位田分が具体的にどの場所にあったのかは分からないが、小寺氏は位田分の代官職を足掛かりとして、伊和西を実質的に支配したものとみられる。

江戸時代に書かれた多くの地誌によって、当地は長らく英賀城主とその配下という関係で語られてきた。しかし、発掘調査成果を基にした以上の検討からは、英賀との関わりではなく、むしろ国衙領としての播磨国府・国司等との関わり、国衙別納として伏見宮家・久我家等との関わり、その請負代官である赤松氏や小寺氏との関係をより濃厚に読み取ることができる。英賀との関係はむしろ、交通網を介したつながりで、町坪構居の溝から出土した瓦が英賀瓦工人の手によるものと考えられるなど、日常の生活圏や職人達の活動範囲が重なっていたとみるのが妥当ではないだろうか。

豆田遺跡・大浄口遺跡の発掘調査によって飾磨郡右四（五）条六坊における中世の集落動態が判明した。未調査部分も多く、想像の域を出ない部分もあるが、広範囲を調査したことで12世紀後半から江戸時代に至る集落動態が明らかとなった。Ⅳ期からⅤ期は、条坊内に屋敷地が点在する様相を示し、Ⅴ期における水路の開削が当地の開発の大きな画期となった。Ⅵ期には現在の町坪集落近くに居住域が集約され、前代までの在り方と大きく変化する。Ⅶ期の集落の実態は明らかでないが、近世町坪村と重なる位置に区画Ｃが出現する。中世後期の区画Ａ→区画Ｂ→区画Ｃと変遷する地域支配における拠点は、文献資料ともよく対応する成果を得た。Ⅵ期前半の区画Ａにおける祈祷札の出土は勧農・勧進に努める領主像を如実に表し、その廃絶後、土豪層が活躍する区画Ｂの段階を経て、従来の慣行を超越した小寺氏による町坪要害の建設に至る経緯は、そのまま国衙別納に守護権力が介入し、次第に横領していく様相の実態を反映しているのではなかろうか。区画Ａと区画Ｃは近世の町坪村程度の範囲に限定される土豪の拠点ではなく、伊和西全域といったより広い範囲の拠点として理解できよう。このことはⅥ期以降に想定される英賀から姫路への街道の存在と無関係でないと推測される。町坪要害の城主、小寺与三五郎はその後、文献上に姿を見せない。地誌や村の古記録が記すように小寺姓を下賜された黒田某である可能性はあるが、それ以上のことは不明である。

地域の氏神である荒川神社の祭礼は、当地を潤す灌漑網を紐帯とした有機的関係に基づく氏子により行われている。そのまとまりは、『ふる里あらかわ』にも記されているように中世に存在した国衙別納伊和西郷を起源とする。町坪村はその祭りの宮本であるが、現在の村は神社から離れている。江戸時代初頭には村の範囲が岡田村と井ノ口村を含む範囲であったことが宮本である理由と考えられるが、その歴史的な背景をたどると町坪要害の存在、さらに古くは「クラヤシキ」の存在と結びつくのではないかと想像する。今日もなお、秋の例大祭には宮本町坪村の「岩西社荒川大明神」と記された大幟がはためき、中世以来の「伊和西郷」の祭礼であることを静かに伝えている。

引用・参考文献

明石市教育委員会　2013 『明石市報恩寺跡発掘調査報告書』明石市文化財調査報告第３冊
青木哲哉　2012 「池ノ下遺跡の地形環境」『池ノ下遺跡』兵庫県文化財調査報告第435冊
　　2014 「竹の前遺跡と畑田遺跡の地形環境」『竹の前遺跡・畑田遺跡発掘調査報告書』姫路市埋蔵文化財ｾﾝﾀｰ調査報告第24集
秋本吉郎校注　1958 『風土記』日本古典文学大系２　岩波書店
天川友親編　八木哲浩校訂1988 『播陽万宝知恵袋』上巻　臨川書店
荒川郷土史編集委員会　1980 『ふる里　あらかわ』 荒川連合自治会
荒川校区地域夢プラン実行委員会　2018 『ふる里　荒川もの語り』
池田征弘　2011 「中世」『吉田住吉山遺跡群』兵庫県文化財調査報告第409冊
石尾和仁　1993 「中世低地集落の形成と展開」『ヒストリア』139
伊藤啓介　2020 「13・14世紀の流通構造と商業」『日本史研究』第690号　日本史研究会
伊藤裕偉　2006 「ブロック形屋敷地群の成立と展開」『小牧・長久手の戦いの構造』戦場論上　岩田書院
市沢　哲　2011 『日本中世公家政治史の研究』校倉書房
井原今朝男　2009 『中世寺院と民衆』臨川書店
上田博史　2004 「鵤荘と農事暦」『鵤荘　現況調査報告総集編』
岡山県古代吉備文化財センター　1989 『百間川米田遺跡（旧当麻遺跡）３』岡山県埋蔵文化財発掘調査報告74
小野正敏　1997 『戦国城下町の考古学』講談社
加西市教育委員会　2001 『横尾遺跡（第２次～第４次)』加西市埋蔵文化財調査報告43
加西市　2010 『加西市史』第７巻　史料編１　考古　加西市史編さん委員会
片山博通　2009 「平安時代における播磨の須恵器生産－播磨諸窯の総合的編年試案－」『花園大学考古学研究論集』
金沢市　2004 『堅田Ｂ遺跡Ⅱ』金沢市文化財紀要213
工藤茂博・山下晃誉　2005 「町坪構居」『城郭研究室年報』Ｖol.14
小島道裕　2004 「15世紀の社会的画期と集落」『琵琶湖博物館研究調査報告』21号
　　2005 「地域的祭祀の起源と機能」『戦国・織豊期の都市と地域』青史出版株式会社
小林基伸　1995 「水利と荘園」『描かれた荘園の世界』新人物往来社
　　2004 「揖保川下流域の水利」『播磨国鵤荘　現況調査報告総集編』
佐久間貴士　1994 「発掘された中世の村と町」『岩波講座日本通史』第９巻
佐藤進一　1988 『花押を読む』平凡社
佐野静代　1999 「平野部における中世居館と灌漑水利」『人文地理』第51巻４号
重根弘和　2003 「中世備前焼に関する考察」『山口大学考古学論集－近藤喬一先生退官記念論文集－』
嶋谷和彦　1992 「“地鎮め”の諸相」『関西近世考古学研究Ⅲ』関西近世考古学研究会
島田　拓　2019 「赤松居館跡の発掘調査成果について（略報)」『ひょうご歴史研究室紀要』第４号
新宮町史編集専門委員会　2005 『播磨新宮町史』史料編Ⅰ
鋤柄俊夫　1997 「播磨」『中世食文化の基礎的研究』国立歴史民俗博物館研究報告71
太子町史編集専門委員会　1989 『太子町史』第三巻
太子町教育委員会　2004 『播磨国鵤荘　現況調査報告総集編』
第19回播磨考古学研究集会実行委員会　2019 『須恵器生産からみた播磨』記録集
多可町教育委員会　2007 『安坂・城の堀遺跡Ⅳ　茂利・大将軍遺跡』多可町文化財報告３
多田初治　1970 「律令政治と姫路」『姫路市史』第２巻
田中早春　1994 『姫路市小字地名・小字図集』
田中幸夫　1990 「播磨で活躍した室町・桃山時代の瓦工集団」『今里幾次先生古稀記念播磨考古学論叢』今里幾次先生古稀記念論文刊行会
　　1994 「姫路城瓦と姫路系瓦工人について」『織豊城郭』創刊号　織豊期城郭研究会
田中幸夫・土橋健二郎　1992 『瓦板』第６号・第10号　播磨中近世瓦研究会（『高町のあゆみ』2007高町自治会に所収）
谷川博史・西村健司　1997 「大阪・楠葉野田西遺跡」『木簡研究』第19号
田村三千夫　2004 「鵤荘周辺の雨乞いについて」『鵤荘　現況調査報告総集編』
谷岡武雄　1956 「市川・夢前川流域における条里制地割の分布と播磨国飾磨郡条坊の復原」『立命館文学』第132号
中井淳史　2007 「中世播磨の土師器様相」『中世窯業の諸相～生産技術の展開と編年～補遺編』全国シンポジウム「中世窯業の諸相～生産技術の展開と編年～」実行委員会
中井　均　2004 「居館と村落」『琵琶湖博物館研究調査報告』21号
中川　渉　1996 「中世の土器」『玉津田中遺跡　第６分冊（総括編)』兵庫県文化財調査報告第135－６冊
中野豈任　1988 『祝儀・吉書・呪符-中世村落の祈りと呪術-』吉川弘文館

新田和央　2015「京都の東播系須恵器」『中近世土器の基礎研究』26　日本中世土器研究会
根鈴智津子　2000「鳥取・大御堂廃寺（久米寺）」『木簡研究』第22号
長谷川　眞　2007「播磨の土製煮炊具」『中世窯業の諸相～生産技術の展開と編年～補遺編』全国シンポジウム「中世窯業の諸相～生産技術の展開と編年～」実行委員会
服部英雄　1989「現地調査と荘園の復元」『講座日本荘園史１　荘園入門』吉川弘文館
広島県草戸千軒町遺跡調査研究所　1996『草戸千軒町遺跡発掘調査報告Ⅴ』
広瀬和雄　1988「中世村落の形成と展開」『物質文化』50
　　2006「領主居館の成立と展開」『鎌倉時代の考古学』高志書院
平井俊行　1996「西村家の『由緒覚書』の考察と全文紹介－桟瓦の起源について－」『京都府埋蔵文化財論集』第３集　財団法人京都埋蔵文化財調査研究センター
平野庸脩　1958『地志播磨鑑』播磨史籍刊行会
姫路市史編専門集委員会　1986『姫路市史』第10巻　史料編近世１
　　1995『姫路市史』第15巻中　別編　文化財編１
　　1996『姫路市史』第11巻　上　史料編近世２
　　2005『姫路市史』第８巻　史料編古代中世１
　　2010『姫路市史』第７巻下　資料編考古
　　2018『姫路市史』第２巻　本編　古代中世
姫路市教育委員会　1975『加茂遺跡』姫路市文化財調査報告Ⅴ
　　2014『石ツミ遺跡第１次発掘調査報告書』姫路市埋蔵文化財センター調査報告第14集
　　2014『三宅遺跡発掘調査報告書』姫路市埋蔵文化財センター調査報告第18集
　　2015『竹の前遺跡・畑田遺跡発掘調査報告書』姫路市埋蔵文化財センター調査報告第24集
　　2017『豆田遺跡-荒川小学校ﾌﾟｰﾙ移転工事に伴う発掘調査報告書』姫路市埋蔵文化財センター調査報告第42集
　　2017『豆田遺跡発掘調査報告書』姫路市埋蔵文化財センター調査報告第51集
　　2017『豆田遺跡発掘調査報告書』姫路市埋蔵文化財センター調査報告第55集
　　2017『村東遺跡』姫路市埋蔵文化財調査報告第56集
　　2018『石ツミ遺跡第２次発掘調査報告書』姫路市埋蔵文化財センター調査報告第64集
　　2019『豆田遺跡発掘調査報告書』姫路市埋蔵文化財センター調査報告第80集
　　2020『村東遺跡』姫路市埋蔵文化財調査報告第90集
姫路市埋蔵文化財センター　2018『白鷺飛翔-姫路城築城前夜-』
　　2019『姫路市埋蔵文化財調査年報2019』
兵庫県教育委員会　1992『初田館跡』兵庫県文化財調査報告書第116冊
　　1992『堂田・八反長遺跡』兵庫県文化財調査報告第108冊
　　1995『宮脇遺跡』兵庫県文化財調査報告書第138冊
　　2011『神戸市神出窯跡群Ⅲ－神出鴨谷１号窯～３号窯・神出皇谷１号窯－』兵庫県文化財調査報告第407冊
　　2012『池ノ下遺跡』兵庫県文化財調査報告第435冊
兵庫県史編集専門委員会　1994『兵庫県史』史料編　中世８
平野庸脩　1958『地志　播磨鑑』播磨史跡刊行会
藤木久志編　2007『日本中世気象災害史年表稿』高志書院
藤沢典彦　2000「大般若経転読儀礼の展開－出土大般若経転読札の歴史的位置付けをめぐって－」『志学臺考古』創刊号
　　2002「近世仁王経碑の歴史的背景」『帝京大学山梨文化研究所研究報告』第10集
文化財保護委員会　1965『国宝重要文化財姫路城保存修理工事報告書Ⅲ』
光本　順　2005「古墳時代後期から中世における遺構群の変遷」『津島岡大遺跡15』岡山大学構内遺跡発掘調査報告第20冊
宮原文隆　1992「中世の土師質堝について」『門前・上山遺跡』中町文化財報告２
山上雅弘　2006「戦国期兵庫県下の平地居館」『大手前大学史学研究所紀要』第６号
山下大輝　2019「姫路系瓦工人の製作技法的指標の特定にむけて－置塩城跡出土軒瓦の検討－」『歴史と神戸』333号
山下晃誉　2005「姫路市域の中世城館概説」『城郭研究室年報』Vol.14
山田清朝　1997「平安～鎌倉時代の土器」『美乃利遺跡』兵庫県文化財調査報告第165冊
　　2010「まとめ」『大野遺跡』兵庫県文化財調査報告第380冊
山仲　進　1986「東播系中世須恵器の分類と編年試案」『神出1986』妙見山麓遺跡調査会
山本雅和　2002「SD01出土の土師器について」『日輪寺遺跡発掘調査報告書』神戸市教育委員会
吉田俊三　1974『夢前川流域史』

参考報告書

宝林寺北遺跡：兵庫県教育委員会　1987『宝林寺北遺跡』兵庫県文化財調査報告第49冊
兵庫県教育委員会　2002『宝林寺北遺跡Ⅱ』兵庫県文化財調査報告第223冊
福田片岡遺跡：兵庫県教育委員会　1991『福田片岡遺跡』兵庫県文化財調査報告第94冊
福田天神遺跡：龍野市教育委員会　1982『福田天神遺跡』龍野市文化財調査報告書Ⅳ
市之郷遺跡：兵庫県教育委員会　2011『市之郷遺跡Ⅲ』兵庫県文化財調査報告第406冊
長尾谷遺跡：龍野市教育委員会　1999『長尾・小畑遺跡群』龍野市文化財調査報告21
宮脇遺跡：兵庫県教育委員会　1995『宮脇遺跡』兵庫県文化財調査報告第138冊
生栖遺跡：一宮町教育委員会　1989『生栖遺跡Ⅱ』一宮町文化財調査報告５
小畑荒神谷遺跡：龍野市教育委員会　1999『長尾・小畑遺跡群』龍野市文化財調査報告21
東有年・沖田遺跡：赤穂市教育委員会　2003『東有年・沖田遺跡』赤穂市文化財調査報告書56
御着城跡：姫路市史編纂室　2013『姫路市史』第７巻下　姫路市
山野里宿遺跡：兵庫県教育委員会　2011『山野里宿遺跡』兵庫県文化財調査報告書第405冊
坂本城跡：姫路市史編纂室　2013『姫路市史』第７巻下　姫路市
置塩城跡：夢前町教育委員会　2006『播磨置塩城跡発掘調査報告書』
姫路城跡：兵庫県教育委員会　1987『兵庫県埋蔵文化財調査年報』昭和59年度
森　恒裕　2006「姫路城跡の茶道具について」『関西近世考古学研究』14　関西近世考古学研究会
溝之口遺跡：兵庫県教育委員会　2006『溝之口遺跡』兵庫県文化財調査報告第309冊
曽我井・野入遺跡：多可町教育委員会　2006『曽我井・野入遺跡Ⅱ』多可町文化財報告１
出合遺跡：神戸市教育委員会　2011『出合遺跡』
垂水・日向遺跡：神戸市教育委員会　1992『神戸市垂水・日向遺跡第１・３・４次調査』
家原堂ノ元遺跡：加東郡教育委員会　1984『家原・堂ノ元遺跡』加東郡埋蔵文化財報告５
小谷遺跡：加西市教育委員会　1994『小谷遺跡発掘調査報告書』加西市埋蔵文化財調査報告27
上脇遺跡：兵庫県教育委員会　2002『上脇遺跡Ⅰ』兵庫県文化財調査報告第233冊
兵庫県教育委員会　2002『上脇遺跡Ⅱ』兵庫県文化財調査報告第233冊
栃木遺跡：兵庫県教育委員会　2009『栃木遺跡』兵庫県文化財調査報告第358冊
玉津田中遺跡：兵庫県教育委員会　1995『玉津田中遺跡　４分冊』兵庫県文化財調査報告第135－４冊
殿原廃寺：加西市教育委員会　1993『殿原廃寺（第４次）』加西市埋蔵文化財調査報告12
大野遺跡：兵庫県教育委員会　2010『大野遺跡』兵庫県文化財調査報告第380冊
坂本・谷遺跡：中町教育委員会　1992『村東山古墳　坂本・谷遺跡』中町文化財報告１
山国・源ヶ坂遺跡：加東郡教育委員会　1990『山国・源ヶ坂遺跡』加東郡埋蔵文化財報告10
吉田住吉山遺跡：兵庫県教育委員会　2011『吉田住吉山遺跡群』兵庫県文化財調査報告第409冊
芝崎遺跡：神戸市教育委員会　2010『平成19年度　神戸市埋蔵文化財年報』
戸松遺跡：明石市教育委員会：2004『明石市文化財年報　平成16年度』
思い出遺跡：中町教育委員会　2003『思い出遺跡群Ⅴ』中町文化財報告28
安坂・門田遺跡：多可町教育委員会　2011『安坂・門田遺跡』多可町文化財報告13
神出遺跡：妙見山麓遺跡調査会　1989『神出1986』
野村構居跡：兵庫県教育委員会　1991『野村構居跡』兵庫県文化財調査報告第111冊
西脇市教育委員会　1997『野村構居跡Ⅱ』西脇市文化財調査報告書６
中道子山城：加古川市教育委員会　1993『中道子山城跡発掘調査報告書』

付　　表

遺 物 観 察 表

遺構・遺物一覧表

番号	次数	区	遺構名	種別	器種	口径	器高	底径	最大径	残存部	焼成	胎土	色調	特記事項
1	4次	14区	SD06	弥生土器	壺	−	(9.45)	−	−	肩部1/8	普通	密、φ3mmの砂粒まれに含む	2.5Y8/2灰白	内面摩滅、外面ハケ目
2	4次	14区	SD06	弥生土器	壺	−	(3.8)	(5.6)	(11.8)	底部2/3	普通	φ～4mmの白色、赤褐色、黒色粒やや多く含む	2.5Y8/2灰白	摩滅
3	4次	15区	SD06	弥生土器	壺	(21.2)	(7.55)	−	(22.5)	口縁1/5	普通	やや粗い、φ3mm前後の砂粒を多く含む	10YR8/4浅黄橙	口縁部貼付突帯、刻み目、内外面摩滅
4	4次	15区	SD06	弥生土器	壺	(22.0)	(3.05)	−	(22.7)	口縁1/6	普通	やや粗い、φ2mm前後の砂粒を多く含む	2.5Y8/3淡黄～10R8/3浅黄橙	口縁部貼付突帯、刻み目、内外面摩滅
5	4次	16区	SD03	弥生土器	甕	−	(1.75)	(5.0)	(6.4)	底部1/4	普通	φ～2mmの白色、黒色、褐色混じる	10YR6/2灰黄褐～7/2にぶい黄褐	内外面板ナデ、外面黒斑
6	4次	16区	SD03	石器	磨製石斧	幅(2.8)	長(10.0)	厚(3.6)	−	1/8	−	−	7.5Y6/1灰	砂岩、太形蛤刃石斧、重量70ｇ
7	4次	14区	SD03	弥生土器	杯蓋	(13.6)	(4.0)	−	−	1/4	普通	φ～4mm大の白色、黒色粒少量含む	N6/灰	外面ヘラケズリ、内外面回転ナデ
8	4次	14区	SD03	弥生土器	杯蓋	−	(2.65)	−	(13.3)	1/4	普通	密、φ～2mmの砂粒を含む	N8/灰白	外面ヘラケズリ、内外面回転ナデ
9	4次	14区	SD03	弥生土器	杯蓋	3.4	(1.85)	−	3.8	摘部1/1	普通	密、φ～1mmの砂粒混入	N8/灰白	内外面回転ナデ
10	4次	14区	SD03	弥生土器	高杯	(17.0)	(4.15)	−	(23.5)	口縁1/4	普通	密、φ1mm前後の砂粒混入	2.5Y8/2灰白	水平口縁、摩滅、Ⅳ－3期
11	4次	14区	SD03	弥生土器	壺	(27.6)	(3.05)	−	(29.3)	口縁1/6	普通	やや粗い、φ4mmの砂粒を含み、φ1mmの砂粒多い	2.5Y7/2灰黄	口縁部凹線文、円形浮文貼付
12	4次	14区	SD03	弥生土器	甕	(17.0)	(8.6)	−	(18.8)	口縁1/3	普通	φ～4mm大の白色、黒色、赤褐色粒少量含む	2.5Y8/2灰白	外面平行タタキ、全体的に摩滅
13	4次	14区	SD03	弥生土器	甕	−	(5.35)	3.2	(10.8)	底部1/1	普通	粗い、φ～2mmの白色、灰色粒多量に含む	5Y5/1灰～7.5YR7/3にぶい橙	外面平行タタキ、全体的に摩滅
14	4次	14区	SD03	弥生土器	壺	−	(4.5)	(5.6)	(12.6)	底部1/2	普通	密、φ1.5mm程の白色粒、雲母含む	内面：N3/暗灰 外面：7.5YR5/1褐灰	内外面板ナデか、摩滅
15	4次	12区	SD02	石器	刃器	幅3.55	長4.5	厚0.7	−	1/5	−	−	−	打製石庖丁か、サヌカイト、重量11ｇ
16	3次	11－2区	下層SK01	弥生土器	甕	−	(12.05)	−	−	体部1/8	普通	φ1～2mm大の乳白色、灰白色粒多量に含む	10YR4/1褐灰	外面ヘラ描沈線3条、内外面摩滅
17	3次	11－2区	下層SK01	弥生土器	甕	25.15	25.5	(8.0)	25.7	1/3	甘	φ0.5～2mmの白色、灰色、褐色粒多量に含む	10YR7/2にぶい黄橙	外面ヘラ描沈線、口縁部刻目、内外面摩滅
18	18次	2区	SK01・02上層	弥生土器	甕	−	(0.9)	−	−	口縁1/20	甘	φ0.5～3mmの白色、灰色、褐色粒多量に含む	2.5Y8/1灰白、N6/灰	全体的に摩滅
19	18次	2区	SK01・02上層	弥生土器	甕	−	(4.7)	5.2	(10.1)	底部1/1	普通	やや粗い、φ1mmの赤褐色、白色粒含む	10YR8/2灰白	外面平行タタキ、全体的に摩滅
20	18次	2区	SK02	弥生土器	甕	−	(9.9)	5.05	(15.6)	底部1/1	普通	やや粗い、φ1～2mmの赤色、褐色、灰色粒を多く含む	2.5Y8/1灰白	外面剥落、わずかにタタキ、内面ハケか
21	18次	2区	SK02	弥生土器	甕	−	(7.1)	3.75	(15.4)	底部1/1	普通	やや粗い、φ1～1.5mmの白色、透明色粒多い	5YR7/6橙	外面平行タタキ、内面摩滅、底部穿孔φ8mm
22	3次	11－3区	SK05	弥生土器	広口長頸壺	(13.25)	24.25	4.8	(19.15)	1/2	甘	φ0.5～2mmの白色、灰色、褐色粒中量含む	2.5Y8/1灰白	外面下半平行タタキ、上半ハケ、内面ハケ
23	3次	11－4区	SK01	弥生土器	壺	−	(18.6)	(10.3)	(20.9)	底部3/4	普通	φ～5mmの白色、赤褐色、透明色粒やや多く含む	10YR8/2灰白	内外面摩滅、外面一部黒斑
24	4次	18区	SX05	弥生土器	長頸壺	(12.4)	(14.6)	−	(13.4)	口縁1/1	普通	φ～8.5mmの白色、黒色、赤褐色、透明色粒やや多く含む	10YR8/3浅黄橙～5YR6/6橙	外面ハケ、内面ハケ
25	4次	18区	SX05	土師器	甕	(12.95)	(4.05)	−	(13.8)	口縁2/5	普通	φ0.5～2mmの白色、灰色粒中量含む	5YR6/6橙	外面横ナデ、内面ハケ
26	4次	18区	SX05	土師器	甕	(17.0)	(3.1)	−	(17.3)	口縁1/6	普通	φ～2mm大の灰色、黄橙色、灰白色、透明色粒やや多く含む	5YR7/3にぶい橙～2.5Y8/2灰白	内外面摩滅、口縁部外面被熱
27	4次	18区	SX05	弥生土器	高杯	32.9	24.15	19.4	33.5	2/3	甘	φ0.5～6mmの白色、灰色、赤褐色粒中量含む	7.5YR8/2灰白	内外面ハケ、脚部穿孔上4か所、下2個1で3か所
28	4次	18区	SX05	弥生土器	高杯	−	(5.4)	−	(5.4)	脚部1/2	普通	φ～4mm大の白色、黒色、灰色粒やや多く含む	10YR7/2にぶい黄橙	内外面ナデ
29	4次	18区	SX05	弥生土器	広口長頸壺	(12.6)	(12.3)	−	(13.4)	口縁3/4	不良	φ～4mm大の白色、黒色、透明色、赤褐色粒やや多く含む	10YR8/3浅黄橙～5YR7/6橙	内外面摩滅、頸部から口縁部に沈線3条
30	4次	18区	SX05	弥生土器	短頸壺	(10.0)	(6.5)	−	(10.2)	口縁1/4	普通	やや粗い、φ3mm前後の白色粒、φ2mm前後の褐色粒を多く含む	10YR6/2灰黄褐	内外面ナデ、粘土接合痕
31	4次	18区	SX05	弥生土器	壺	16.0	(2.0)	−	(16.7)	口縁1/2	普通	φ0.5～2mm大の乳白色、灰白色粒中	7.5YR7/6橙	内外面摩滅
32	4次	18区	SX05	弥生土器	鉢	17.3	9.8	5.8	17.7	口縁2/3	普通	φ～16mm大の灰色、白色、透明色、赤褐色、黒色粒やや多く含む	7.5YR6/2灰褐、2.5YR8/2灰白	外反口縁鉢、端部肥厚
33	4次	18区	SX05	弥生土器	鉢	(15.7)	8.5	4.7	(16.15)	2/3	甘	φ0.5～5mmの白色、灰色、褐色粒多量含む	7.5YR6/4にぶい橙	外反口縁鉢、底部線刻
34	4次	18区	SX05	弥生土器	壺	−	(4.1)	−	(10.55)	底部1/1	普通	やや粗い、φ3mm以上の砂粒を多く含む	5YR6/6橙	底部、内外面摩滅、内面オサエ
35	4次	18区	SX05	弥生土器	有稜高杯	(27.6)	(3.55)	−	(26.9)	口縁1/7	普通	やや粗い、φ～2mmの白色粒を多く含む	7.5YR8/4浅黄橙	内外面摩滅
36	4次	18区	SX05	弥生土器	有稜高杯	16.35	11.55	(11.6)	16.45	口縁3/4	甘	φ0.5～3mmの白色、灰色粒多量に含む	5YR7/6橙、5YR7/4にぶい橙	外面ハケ、脚部穿孔9か所
37	3次	11－3区	下層SD01	弥生土器	直口壺	(15.0)	(7.4)	−	(16.1)	口縁1/4	普通	φ～2mmの赤色、黒色、透明色、灰色粒少量含む	2.5Y8/1灰白	口縁部凹線、外面粗いハケ
38	3次	11－3区	下層SD01	弥生土器	広口長頸壺	(12.8)	(10.0)	−	(13.6)	口縁2/3	甘	φ0.5～3mmの灰色、白色、赤褐色粒中量含む	2.5Y7/2灰黄	外面粗いハケ(6条)、内面オサエ
39	3次	11－3区	下層SD01	弥生土器	広口長頸壺	(12.8)	(8.7)	−	(13.3)	口縁1/4	普通	φ～5mmの白色、黒色、赤褐色粒少量含む	10YR8/2灰白、5YR7/3にぶい橙まじり	内面ハケ、外面ハケ(11条)
40	3次	11－3区	下層SD01	弥生土器	広口長頸壺	11.0	(13.9)	−	(13.8)	口縁1/2	普通	φ～6mmの黒色、白色、赤色、透明色粒少量含む	7.5YR8/3灰白	内面ハケ、外面ハケ(板ナデ)
41	3次	11－3区	下層SD01	弥生土器	直口鉢	(11.0)	(4.7)	−	(11.6)	口縁1/8	普通	φ～2mmの白色、灰色粒少量含む	2.5Y7/2灰黄	口縁部凹線2条、内面ハケ
42	3次	11－3区	下層SD01	弥生土器	壺	−	(5.85)	−	(13.1)	胴部1/6	甘	φ0.5～2mmの白色、灰色、褐色粒中量含む	5Y5/1灰～2.5Y8/2灰白	内面オサエ、ナデ、外面摩滅、黒斑
43	3次	11－3区	下層SD01	弥生土器	高坏	(18.0)	(5.55)	−	(18.3)	口縁1/4	普通	φ0.5～1mm乳白色、赤橙色、灰色粒中量含む	10YR8/3浅黄橙	外面ミガキ、内面ハケ(7条)
44	3次	11－3区	下層SD01	弥生土器	甕	−	(3.8)	−	−	口縁1/10	甘	φ0.5～1mmの白色、灰色粒少量含む	2.5Y7/2灰黄	口縁部凹線3条、内外面ハケ
45	3次	11－3区	下層SD01	弥生土器	甕	(13.8)	(3.1)	−	(14.6)	口縁1/6	普通	φ～3mmの白色、赤色、黒色粒少量含む	10YR8/3浅黄橙	外面ヌス
46	3次	11－3区	下層SD01	弥生土器	甕	(15.4)	(4.65)	−	(17.9)	口縁1/4	普通	φ～7mmの白色、灰色、赤色、透明色粒やや多く含む	5Y7/1灰白～2.5YR6/6橙	外面ハケ、内面ケズリ
47	3次	11－3区	下層SD01	弥生土器	壺	−	(4.2)	6.2	(13.8)	底部1/1	普通	φ～6mmの白色、赤褐色、黒色、透明色粒やや多く含む	10YR8/2灰白	外面ハケ後ミガキ、内面ハケ後ナデ、ヌス
48	3次	11－3区	下層SD01	弥生土器	有稜高杯	(28.8)	(5.0)	−	(29.2)	口縁1/6	普通	密、φ3mm程の白色粒を含む	7.5YR8/4浅黄橙	外面口縁部鋸歯文、内面ミガキ
49	3次	11－3区	下層SD01	弥生土器	高杯	(24.65)	(14.25)	−	(25.55)	3/5	甘	φ0.5～2mmの白色、褐色、透白色、灰色粒中量含む	2.5Y8/2灰白～7.5YR7/3にぶい橙	内面放射状ミガキ、外面脚部までミガキ
50	3次	11－3区	下層SD01	弥生土器	高杯	−	(10.7)	−	(5.85)	脚部1/1	甘	φ0.5～1mmの白色、灰色、赤褐色粒少量含む	7.5YR6/4にぶい橙	内外面摩滅
51	3次	11－3区	下層SD01	弥生土器	高杯	−	(5.95)	−	(7.65)	脚部2/3	甘	φ0.5～2mmの灰色、透白色、褐色粒中量含む	2.5Y7/2灰黄	外面ミガキ、内面ケズリ
52	3次	11－3区	下層SD01	弥生土器	器台	(20.8)	(7.1)	−	(27.4)	口縁1/4	普通	φ～4mmの乳白色、透明色、白色、黒色、赤褐色粒やや多く含む	2.5Y8/2灰白	外面斜格子文か、凹線2条、内外面摩滅
53	3次	11－3区	下層SD01	弥生土器	器台	−	(16.55)	−	(14.9)	脚部1/1	普通	やや粗い、φ3mm程の砂粒を多く含む	2.5Y6/3にぶい黄	外面ハケ、凹線2段5条、穿孔3段、四方に配置
54	3次	11－3区	下層SD01	弥生土器	甕	−	(18.35)	(10.8)	(36.25)	底部1/4	甘	φ0.5～3mm白色、灰色、透白色、褐色粒中量含む	10YR7/4にぶい黄橙	外面ハケ後ミガキ、内面ケズリ
55	3次	11－3区	下層SD01	弥生土器	広口長頸壺	−	(6.9)	−	−	口縁1/9	普通	やや粗い、φ～2mmの砂粒	2.5Y7/2灰黄～2.5Y8/2灰白	外面沈線4条
56	3次	11－3区	下層SD01	弥生土器	広口長頸壺	(16.8)	(4.75)	−	(17.3)	口縁1/5	普通	φ～3.5mm大の白色、灰色、透明色、黒色粒やや多く含む	5YR7/3にぶい橙～N4/灰	内面一部黒斑
57	3次	11－3区	下層SD01	弥生土器	広口長頸壺	−	(4.55)	−	−	口縁1/10	普通	φ～3mmの白色、透明色、黒色、赤褐色少量含む	2.5Y8/1～8/2灰白	外面ハケ、内面オサエ
58	3次	11－3区	下層SD01	弥生土器	壺	−	(4.35)	−	−	口縁1/24	普通	φ～5mmの白色、赤褐色、乳白色粒やや多く含む	10YR6/1～5/1褐灰	口縁部貼付突帯、端部刻目、沈線1条
59	3次	11－3区	下層SD01	弥生土器	壺	−	(3.2)	−	−	口縁1/14	甘	φ0.5～4mmの透白色、褐色粒多量に含む	10YR7/3にぶい黄橙、2.5Y7/3浅黄	口縁部貼付突帯、端部刻目、沈線1条
60	3次	11－3区	下層SD01	弥生土器	壺	−	(2.75)	−	−	口縁1/10	甘	φ0.5～4mmの白色、灰色、赤褐色粒多量に含む	N3/暗灰	口縁端部刻目、沈線1条
61	3次	11－3区	下層SD01	弥生土器	壺	−	(2.9)	−	−	口縁1/12	普通	φ～3mmの白色、赤色粒少量含む	2.5Y8/2灰白	口縁下端板状の痕跡、外面ヌス
62	3次	11－3区	下層SD01	弥生土器	壺	−	(10.7)	−	(15.2)	頸部1/1	普通	φ～5mmの赤色、灰色、白色、黒色粒やや多く含む	10YR8/2灰白	沈線6条、外面ハケ、内面摩滅
63	3次	11－3区	下層SD01	弥生土器	壺	−	(11.45)	−	(16.0)	頸部1/4	甘	φ0.5～2mmの白色、灰色、褐色粒中量含む	10YR6/2灰黄褐	貼付三角突帯7条、棒状浮文3本一単位
64	3次	11－3区	下層SD01	弥生土器	壺	−	(8.6)	−	(14.7)	頸部1/3	甘	φ0.5～4mmの白色、灰色、褐色、透白色粒多量に含む	10YR8/3浅黄橙	貼付三角突帯2条、刻目、内外面摩滅
65	3次	11－3区	下層SD01	弥生土器	壺	−	(8.8)	(6.4)	(12.0)	底部1/2	普通	φ～4mm大の白色、灰色、透明色粒やや多く含む	内面：N4/灰 外面：10YR7/2にぶい黄橙	沈線5条、外面ミガキ、内面板ナデ
66	3次	11－3区	下層SD01	弥生土器	壺	−	(5.75)	−	(36.6)	肩部1/5	普通	φ0.5～2mmの白色、褐色、橙色、灰色粒中量含む	2.5Y8/2灰白、10YR7/2にぶい黄橙	貼付三角突帯2条、外面ミガキ、内面オサエ後ナデ
67	3次	11－3区	下層SD01	弥生土器	壺	−	(7.9)	−	−	胴部1/10	甘	φ0.5～4mmの白色、灰色、褐色、赤褐色粒多量に含む	内面：N4/灰、5Y6/1灰 外面：2.5Y8/2灰白、10YR8/3浅黄橙	貼付三角突帯3条、
68	3次	11－3区	下層SD01	弥生土器	甕	−	(7.0)	−	−	口縁1/24	普通	φ～3mmの白色、赤褐色、黒透明色粒少量含む	10YR8/2灰白	外反口縁、外面ミガキ
69	3次	11－3区	下層SD01	弥生土器	甕	−	(6.8)	−	−	口縁1/12	普通	φ～4mmの白色、灰色、透明色、赤褐色粒やや多く含む	2.5Y7/2灰黄	外反口縁、外面ハケ(7条)、外面ヌス
70	3次	11－3区	下層SD01	弥生土器	甕	−	(8.2)	−	−	口縁1/10	甘	φ0.5～3mmの白色、暗灰色、赤褐色	2.5Y8/4にぶい橙	外反口縁、外面ハケ(11条)、内面オサエ後ナデ
71	3次	11－3区	下層SD01	弥生土器	甕	−	(5.55)	−	−	頸部1/12	普通	φ0.5～2mmの白色、灰色粒中量含む	10YR5/2灰黄褐、2.5Y4/1黄灰	外反口縁、沈線11条
72	3次	11－3区	下層SD01	弥生土器	甕	−	(3.45)	−	−	口縁1/12	甘	φ0.5～2mmの白色、灰色、褐色粒中量含む	10YR7/2にぶい黄橙	外反口縁、口縁端部刻目、沈線2条、外面ハケ
73	3次	11－3区	下層SD01	弥生土器	甕	−	(4.5)	−	−	口縁1/14	甘	φ0.5～3mmの白色、灰色、褐色粒中量含む	10YR7/3～7/2にぶい黄橙	外反口縁、口縁端部刻目、沈線4条
74	3次	11－3区	下層SD01	弥生土器	甕	−	(4.6)	−	−	口縁1/10	普通	細かい、φ1mm程の白色粒を含む	10YR8/2灰白	外反口縁、口縁端部刻目、沈線4条
75	3次	11－3区	下層SD01	弥生土器	甕	−	(4.9)	−	−	口縁1/9	普通	やや粗い、φ～3mmの砂粒を多く含む	7.5YR8/2灰白	外反口縁、口縁端部刻目、沈線3条、外面ヌス
76	3次	11－3区	下層SD01	弥生土器	甕	−	(5.7)	−	−	口縁1/20	普通	φ0.5～2mmの白色、灰色、褐色粒中量含む	10YR7/2、10YR7/3にぶい黄橙	外反口縁、口縁端部刻目、沈線4条
77	3次	11－3区	下層SD01	弥生土器	甕	−	(4.9)	−	−	口縁1/20	甘	φ0.5～2mmの白色、灰色、黄橙色粒少量含む	10YR6/1褐灰	外反口縁、口縁端部刻目、沈線2条
78	3次	11－3区	下層SD01	弥生土器	甕	−	(4.0)	−	−	口縁1/16	普通	φ0.5～3mmの白色、橙色粒中量含む	10YR5/1褐灰、10YR5/2灰黄褐	逆L字口縁、口縁端部刻目、沈線7条、外面ハケ(8条)
79	3次	11－3区	下層SD01	弥生土器	甕	−	(5.1)	−	−	口縁1/11	普通	φ～3mmの白色、灰色、透明色、赤褐色粒やや多く含む	10YR7/3にぶい黄橙	逆L字口縁、口縁端部刻目、沈線7条
80	3次	11－3区	下層SD01	弥生土器	壺	−	(5.1)	7.4	(12.2)	底部1/1	普通	φ～3mm大の白色、透明色、黒色、赤褐色粒やや多く含む	内面：5YB/1灰白 外面：7.5YR6/3にぶい橙	底部穿孔
81	3次	11－3区	下層SD01	弥生土器	壺	−	(7.15)	(11.7)	(20.8)	底部1/2	普通	φ～5mmの白色、赤色、透明色、灰色粒やや多く含む	7.5Y5/1灰	内面ミガキ、外面・底部黒斑
82	3次	11－3区	下層SD01	弥生土器	壺	−	(5.4)	(12.6)	(18.4)	底部1/1	普通	φ7mmの赤褐色、乳白色、灰色粒やや多く含む	10YR7/2にぶい黄橙	外面ハケ後ミガキ、底部ミガキ
83	3次	11－3区	下層SD01	弥生土器	壺	−	(4.5)	(11.6)	(18.1)	底部1/4	普通	φ1～3mmの赤橙色、乳白色、灰色粒中量含む	7.5YR8/4浅黄橙	外面ミガキ、内面オサエ
84	3次	11－3区	下層SD01	弥生土器	壺	−	(7.95)	(9.2)	(19.5)	底部1/2	甘	φ0.5～2mmの白色、褐色、灰色粒中量含む	2.5Y6/1黄灰	外面板ナデ後ミガキ
85	3次	11－3区	下層SD01	石器	剥片	幅4.1	長5.2	厚1.4	−	1/6	−	−	−	刃器を剥離したもの、重量31ｇ
86	4次	22区	SD01	弥生土器	広口壺	(8.9)	18.0	4.05	(18.05)	2/3	普通	やや粗い、φ3mm程の砂粒を多く含む	2.5Y7/2灰黄	外面ハケ後ミガキ、内面ハケ後疎らにミガキか
87	4次	22区	SD01	弥生土器	長頸壺	(8.7)	(9.7)	−	(11.0)	口縁1/5	普通	密、φ～1mmの白色、灰色粒少量含む	内面：2.5Y4/1黄灰 外面：N4/灰	外面ハケ(11条)

遺物観察表

番号	次数	区	遺構名	種別	器種	口径	器高	底径	最大径	残存部	焼成	胎土	色調	特記事項
88	4次	22区	SD01	弥生土器	壺	−	(6.0)	−	(14.95)	1/6	甘	φ0.5~3mmの白色、灰色、黄橙色粒多量に含む	2.5Y7/2灰黄	外面ハケ、櫛描文(直線+山形)
89	4次	22区	SD01	弥生土器	壺	−	(5.35)	−	−	頸部1/10	普通	やや粗い、φ~3mmの砂粒を多く含む	10YR6/3にぶい黄橙	頸部に貼付三角突帯2条
90	4次	22区	SD01	弥生土器	壺	−	(6.4)	−	−	肩部1/14	普通	やや粗い、φ~2mmの白色粒を多く含む	10YR5/1褐灰	肩部に貼付三角突帯4条
91	4次	22区	SD01	弥生土器	壺	−	(4.0)	−	−	口縁1/10	普通	やや粗い、φ~2mmの砂粒を多く含む	10YR6/2灰黄褐	内外面ナデ
92	4次	22区	SD01	弥生土器	台付壺	−	(15.8)	(10.45)	(21.8)	底部1/4	普通	やや粗い、φ~1.5mmの白色粒を多く含む	10YR6/1褐灰~N3/暗灰	内外面ミガキ、脚部貼付
93	4次	22区	SD01	弥生土器	甕	(18.6)	(3.4)	−	(18.8)	口縁1/5	普通	密、φ~2mmの白色粒少量含む	2.5Y7/2灰黄	内面ミガキ、肩部までケズリ、外面ナデ
94	4次	22区	SD01	弥生土器	壺	−	(6.0)	−	(18.0)	胴部1/8	普通	やや粗い、角閃石含む、φ~2mmの砂粒を多く含む	2.5Y5/2暗灰黄~10YR5/8黄褐	内外面摩滅、雲母含む、搬入品
95	4次	22区	SD01	弥生土器	甕	−	(4.0)	4.6	(10.6)	底部1/1	普通	φ~3.5mm大の白色、灰色、透明色粒少量含む	2.5Y6/1黄灰~10YR7/2にぶい黄橙	外面タタキ後ハケ、スス付着、内面ケズリ
96	4次	22区	SD01	弥生土器	壺	−	(4.1)	(6.6)	(10.2)	底部1/2	普通	φ1~2mm大の灰色、赤橙色、乳白色粒中	2.5Y7/2灰黄	外面板ナデ、内面オサエ
97	4次	22区	SD01	弥生土器	甕	−	(2.8)	2.8	(8.6)	底部1/1	普通	やや粗い、φ1mm前後の砂粒を多く含む	内面：N3/暗灰 外面：10YR8/2灰白	外面平行タタキ、内外面摩滅
98	4次	22区	SD01	石器	磨製石斧	幅(5.0)	長(6.55)	厚(2.8)	−	1/4	−	−	N5/灰	砂岩、太形蛤刃石斧、重量124 g
99	4次	22区	SD01	石器	石鏃	幅2.05	長2.4	厚0.35	−	1/1	−	−	N8/灰白	平基式、重量1.53 g
100	22次	2区	SD02	弥生土器	壺	−	(8.4)	(9.7)	(19.3)	底部1/3	普通	φ0.5~2mm大の白色、灰色、褐色、透明色、黄色粒多量に含む	10YR7/2にぶい黄橙、10YR5/6黄褐	外面ミガキ、内面ナデ
101	22次	2区	SD02	弥生土器	甕	−	(6.05)	−	−	口縁1/10	普通	φ0.5~3mmの白色、灰色、褐色粒中量含む	2.5Y6/2灰黄	外反口縁、口縁端部刻目、沈線4条
102	22次	2区	SD02	弥生土器	甕	−	(4.2)	−	−	口縁1/20	普通	φ0.5~3mmの白色、灰色粒中量含む	2.5Y7/2灰黄、2.5Y4/1黄灰	逆L字口縁、口縁端部刻目、沈線10条、外面スス付着
103	22次	2区	SD02	弥生土器	甕	−	(11.7)	−	−	口縁1/14	普通	やや粗い、φ2mm以下の白色、灰色、淡橙色粒を多く含む	10YR7/3にぶい黄橙、10YR4/2灰黄褐	外面ハケ、内面板ナデ、外面スス付着
104	22次	2区	SD02	弥生土器	壺か	−	(3.1)	(11.2)	(11.8)	底部1/5	普通	φ~2mm大の淡黄色、褐色粒少量含む	2.5Y6/2灰黄	内外面オサエ、ナデ
105	5次	25−3区	SD01	弥生土器	広口壺	−	(4.7)	−	−	底部1/12	甘	φ0.5~4mmの白色、灰色、褐色粒多量に含む	10YR7/3にぶい黄橙	肩部貼付三角突帯、刻目
106	5次	25−3区	SD01	弥生土器	甕	−	(3.1)	−	−	口縁1/28	普通	φ0.5~2mm大の灰白色、乳白色、赤橙色粒中	10YR7/3にぶい黄橙、5YR7/4にぶい橙	内外面ハケ
107	5次	25−3区	SD01	弥生土器	鉢	−	(7.0)	−	−	口縁1/14	普通	φ0.5~2mm大の灰白色、乳白色、赤橙色粒少	10YR7/3にぶい黄橙	外反口縁、内外面オサエ
108	5次	25−3区	SD01	弥生土器	甕	(13.15)	(5.8)	−	(13.8)	口縁1/4	甘	φ0.5~3mmの白色、灰色、透明色、透白色粒中量含む	2.5Y7/3浅黄	外面ハケ、内面摩滅
109	5次	25−3区	SD01	弥生土器	長頸壺	−	(5.85)	−	(10.8)	口縁2/5	普通	φ0.5~1mm大の白色、褐色粒少量含む	2.5Y8/2灰白	内外面ハケ(8条)
110	5次	25−3区	SD01	弥生土器	長頸壺	−	(6.6)	−	−	口縁1/8	普通	φ0.5~1mm大の灰白色、乳白色、赤橙色粒少	2.5Y8/3淡黄	内外面摩滅
111	5次	25−3区	SD01	弥生土器	壺	−	(5.0)	−	−	口縁1/18	普通	φ1~2mm大の灰白色、乳白色、赤橙色粒中	2.5Y8/2灰白	外面タタキ(6条)後ハケ、内面摩滅
112	5次	25−3区	SD01	弥生土器	甕	(12.6)	(2.85)	−	(13.2)	口縁1/6	甘	φ0.5~1mmの白色、灰色、褐色粒中量含む	5YR7/4にぶい橙	口縁部凹線2条、外面ハケ(6条/cm)
113	5次	25−3区	SD01	弥生土器	甕	−	(2.65)	(4.55)	(6.9)	底部2/3	甘	φ0.5~3mmの白色、褐色、透白色、赤褐色粒中量含む	2.5Y8/4淡黄	外面ハケ(8条/cm)
114	5次	25−3区	SD01	弥生土器	直口鉢	−	(2.8)	(4.2)	(8.2)	底部1/4	甘	φ0.5~2mmの白色、灰色、赤褐色粒中量含む	10YR7/4にぶい黄橙	内外面摩滅
115	5次	25−3区	SD01	弥生土器	壺	−	(3.95)	6.7	(11.0)	底部1/1	普通	φ1~2mm大の灰白色、乳白色、赤橙色粒多	2.5Y6/1黄灰	底部葉脈痕
116	5次	25−3区	SD01	弥生土器	甕	−	(4.4)	(4.0)	(10.55)	底部4/5	甘	φ0.5~2mmの白色、灰色、褐色粒中量含む	内面：2.5Y7/4浅黄 外面：10YR4/1褐灰	外面平行タタキ、内外面摩滅
117	5次	25−3区	SD01	弥生土器	甕	−	(5.5)	−	(13.4)	底部2/3	甘	φ0.5~2mmの白色、灰色、褐色、赤褐色粒中量含む	10YR8/1灰白	内面ハケ(5条/cm)、外面摩滅
118	5次	25−3区	SD01	弥生土器	有稜高杯	−	(3.8)	−	−	口縁1/4	普通	φ0.5~2mm大の灰白色、乳白色、赤橙色粒少	7.5YR8/3浅黄橙	外面ハケ後ミガキ、内面ミガキ
119	5次	25−3区	SD01	弥生土器	高杯	−	(8.65)	−	(10.5)	脚部1/1	甘	φ0.5~3mmの灰色、白色、褐色粒中量含む	2.5Y8/2灰白	脚部穿孔2ヶ所、外面ミガキ
120	5次	25−3区	SD01	弥生土器	高杯	−	(9.55)	(8.2)	(8.95)	脚部1/1	甘	φ0.5~3mmの白色、灰色、褐色粒中量含む	2.5Y8/1灰白	外面ミガキ、内面ハケ、脚部穿孔2個一単位3ヶ所
121	5次	25−3区	SD01	弥生土器	高杯	−	(6.05)	−	(4.9)	脚部2/3	甘	φ0.5~1mm大の白色、灰色粒中量含む	2.5Y8/2灰白	外面ハケ(10条/cm)
122	5次	25−3区	SD01	弥生土器	高杯	−	(4.9)	−	(5.3)	脚部1/2	普通	φ1~2mm大の乳白色、灰白色、赤褐色粒中	7.5YR8/4浅黄橙	外面ミガキ
123	5次	25−3区	SD01	石器	角錐状石器	幅1.5	長6.8	厚1.0	−	1/1	−	−	−	サヌカイト、両側縁加工、重量12 g
124	16次	3区	SD01	須恵器	杯蓋	(14.9)	(3.9)	−	(15.2)	口縁1/5	普通	φ~1mm大の白色、灰色粒少量含む	N7/灰白	内外面回転ナデ
125	16次	3区	SD01	須恵器	杯蓋	(15.1)	(3.45)	−	(15.3)	口縁1/7	普通	φ0.5~2mmの白色、灰色粒少量含む	N7/灰白	内外面回転ナデ
126	16次	3区	SD01	須恵器	杯蓋	−	(1.9)	−	(10.7)	1/5	普通	φ~1.5mm大の白色、灰色粒を中量含む	N8/灰白	外面ケズリ、内面回転ナデ
127	16次	3区	SD01	須恵器	杯身	−	(2.2)	−	−	口縁1/12	普通	φ0.5~1mmの白色、灰色粒極少量含む	N8/灰白	内外面回転ナデ
128	16次	3区	SD01	須恵器	杯身	−	(4.0)	−	−	口縁1/20	良好	精良、φ0.5~1mm大の白色、灰色粒少量含む	N7/灰白	内外面回転ナデ
129	16次	3区	SD01	弥生土器	甕	(20.15)	(12.25)	−	(23.0)	口縁1/6	甘	φ0.5~3mmの白色、灰色、褐色粒多量に含む	2.5Y8/2灰白	外面平行タタキ、内面摩滅
130	16次	3区	SD01	弥生土器	甕	−	(5.7)	(5.5)	(13.2)	底部1/1	甘	φ0.5~3mmの白色、灰色、褐色、透明色粒多量に含む	2.5Y7/1灰白、2.5Y8/2灰白	外面タタキ後ミガキ、内面摩滅　129と同一個体か
131	16次	3区	SD01	弥生土器	長頸壺	11.3	19.8	5.3	13.75	1/1	普通	やや粗い、φ1mm以下の白色粒多い	5Y8/2灰白	外面平行タタキ、肩部線刻、頸部ハケ
132	16次	3区	SD01	石器	石鏃	幅2.4	長(4.9)	厚0.9	−	3/4	−	−	5PB5/1青灰	凸基式、サヌカイト、重量8.05 g
133	5次	24−4区	下層SD01	弥生土器	壺	(32.5)	(2.7)	−	(32.9)	口縁1/6	普通	φ~6mm大の乳白色、白色、赤色、黒色粒やや多く含む	内面：10YR8/2灰白 外面：10YR6/3にぶい黄橙	口縁部貼付突帯、端部刻目
134	5次	24−4区	下層SD01	弥生土器	甕	−	(7.2)	−	−	口縁1/20	普通	やや粗い、φ~3mmの砂粒混入	2.5Y8/2灰白	外反口縁、口縁部刻目、沈線4条
135	5次	24−4区	下層SD01	弥生土器	甕	−	(4.6)	(4.2)	(9.3)	底部1/2	普通	φ~2mm大の灰色、白色、黒色、透明色、赤褐色粒少量含む	10YR8/2浅黄橙	外面ミガキ、内面ナデ
136	5次	24−4区	下層SD02	弥生土器	壺	−	(3.9)	−	−	頸部1/10	普通	やや粗い、φ~3mmの砂粒を多く含む	N2黒~2.5Y8/2灰白	貼付三角突帯2条
137	5次	24−4区	下層SD02	弥生土器	壺	−	(5.1)	−	−	頸部1/8	甘	φ0.5~2mmの白色、灰色、褐色、黄色粒多量に含む	2.5Y8/2灰白	突帯3条
138	5次	24−4区	下層SD02	石器	石鏃	幅(1.95)	長(2.2)	厚(0.4)	−	9/10	−	−	N4/灰	凹基式、サヌカイト、重量1.38 g
139	8次	40区	SK01	弥生土器	壺	−	(6.1)	−	−	肩部1/10	甘	φ~4mm大の白色、透明色、赤褐色粒やや多く含む	10YR7/2にぶい黄褐~7/1灰白	肩部貼付三角突帯、内外面器面剥落
140	8次	40区	SK01	弥生土器	広口長頸壺	−	(6.95)	−	−	頸部1/8	甘	φ0.5~4mmの白色、灰色、褐色粒多量に含む	2.5Y7/4浅黄、2.5Y7/2灰黄	頸部、沈線5条、内外面摩滅
141	8次	40区	SK01	弥生土器	甕	(23.8)	(10.4)	−	(24.1)	口縁1/5	甘	φ0.5~4mmの白色、灰色粒多量に含む	内面：2.5Y4/1黄灰、N3/暗灰 外面：2.5YR8/2灰白、10YR8/3浅黄橙	外反口縁、沈線3条、内外面摩滅
142	4次	24−2区	SK04	弥生土器	広口長頸壺	−	(7.2)	−	−	口縁1/8	甘	φ0.5~2mmの白色、灰色、褐色粒中量含む	2.5Y7/3浅黄、2.5Y5/1黄灰	頸部沈線2条
143	4次	24−2区	SK04	弥生土器	壺	−	(10.35)	−	−	肩部1/8	甘	φ0.5~3mmの白色、灰色、褐色粒多量に含む	2.5Y4/1黄灰、2.5Y7/2灰黄	外面ミガキ、貼付指頭圧痕文突帯2条
144	4次	24−2区	SK04	弥生土器	壺	−	(7.55)	−	−	肩部1/10	甘	φ0.5~3mmの白色、灰色、褐色粒多量に含む	2.5Y8/2灰白、2.5Y5/1黄灰	外面ミガキ、貼付指頭圧痕文突帯2条
145	4次	24−2区	SK04	弥生土器	甕	(23.5)	(22.8)	−	(23.9)	口縁1/3	普通	φ~7mm大の赤褐色、灰色、白色、透明色粒多く含む	5YR6/4にぶい橙~7.5YR5/2灰褐	外反口縁、無文、口縁端部刻目、スス付着、底部接点なし
146	4次	24−1区	SD01	弥生土器	壺	−	(2.1)	(6.75)	(11.8)	底部1/2	甘	φ0.5~2mmの白色、灰色粒多量に含む	2.5Y6/1黄灰~2.5Y8/2灰白	内外面摩滅
147	4次	24−1区	SD01	弥生土器	甕	−	(2.75)	(4.2)	(6.8)	底部1/4	普通	φ0.5~3mmの白色、灰色粒中量含む	2.5Y7/2灰黄	内外面摩滅
148	4次	24−1区	SD03	弥生土器	壺	−	(2.4)	(5.75)	(11.4)	底部1/3	甘	φ0.5~3mm大の白色、灰色粒中量含む	5Y7/1灰白、7.5YR7/6橙	内外面摩滅
149	4次	24−1区	SD03	石器	石鏃	幅(1.85)	長(2.95)	厚(0.4)	−	9/10	−	−	N7/灰白	平基式、サヌカイト、重量1.64 g
150	4次	24−1区	SK07	土師器	甕	(11.0)	21.85	(3.45)	18.25	1/1	普通	φ~5mm大の赤褐色、白色、黒色粒やや多く含む	2.5Y8/3淡黄	外面タタキ後ハケ、内面摩滅
151	5次	25−2区	SD03	弥生土器	甕	−	(3.05)	(2.1)	(8.5)	底部2/3	普通	φ0.5~3mmの白色、灰色、透白色、褐色粒多量に含む	内面：2.5Y6/2灰黄 外面：10YR7/4にぶい黄橙	外面平行タタキ、内面器表剥落、摩滅
152	5次	25−2区	SD03	弥生土器	甕	−	(3.25)	(4.3)	(8.6)	底部1/4	甘	φ0.5~4mmの白色、褐色、灰色粒多量に含む	10YR6/2灰黄褐	外面タタキ後ハケ、内面器表剥落
153	5次	25−2区	SD03	弥生土器	甕	−	(4.15)	(3.6)	(9.1)	底部1/2	普通	φ~5mm大の白色、黒色、乳白色、赤褐色粒やや多く含む	2.5Y8/2灰白	外面ハケ、黒斑、内面摩滅
154	5次	25−2区	SD03	石器	石錘	幅9.15	長9.85	厚1.7	−	1/1	−	−	乳白色	花崗岩、両端に凹み、重量250 g
155	5次	25−2区	SD03	弥生土器	壺	−	(5.55)	(16.7)	(22.2)	底部1/6	甘	φ0.5~3mmの白色、灰色、褐色、赤褐色粒多量に含む	10YR7/3にぶい黄橙	内外面摩滅
156	5次	25−2区	SD03	弥生土器	甕	−	(9.9)	(10.2)	(19.9)	底部1/4	普通	φ0.5~3mm大の白色、灰色、褐色、透白色粒多量に含む	内面：2.5Y8/2灰白 外面：10YR8/3浅黄橙~7/3にぶい黄橙	内外面摩滅
157	1次	2区	SK08	弥生土器	高杯	−	(5.0)	−	(6.1)	脚部1/2	普通	φ~5mmの赤褐色粒を多く含む	10YR8/2灰白	内外面摩滅
158	1次	2区	SK08	弥生土器	高杯	−	(5.4)	−	(5.7)	脚径1/3	普通	φ~3mmの白色、赤褐色粒やや多く含む	10YR8/4浅黄橙	内外面摩滅
159	1次	2区	SK08	弥生土器	甕	−	(5.0)	−	−	口縁1/10	甘	φ0.1~1mmの灰色、乳白色粒中量含む	10YR7/4にぶい黄橙~5YR6/6橙	外面タタキ、口縁歪み
160	1次	2区	SK08	弥生土器	甕	−	(4.5)	−	−	口縁1/10	普通	φ4mmの白色、赤褐色、黒色、透明色粒少量含む	7.5YR7/4にぶい橙	外面平行タタキ
161	1次	2区	SK08	弥生土器	甕	(20.5)	(5.0)	−	(20.8)	口縁1/6	普通	やや粗い、φ~3mmの灰色、白色粒を多く含む	10YR8/3浅黄橙	口縁部摘みあげ、内外面摩滅
162	1次	2区	SK08	弥生土器	甕	−	(3.15)	3.35	(7.35)	底部1/1	甘	φ0.5~2mmの白色、褐色、透白色、灰色粒中量含む	10YR7/2にぶい黄橙	外面タタキ、内面しぼり痕、内外面摩滅
163	1次	2区	SK08	弥生土器	甕	−	(3.1)	5.0	(7.4)	底部1/1	普通	φ4mmの白色、赤褐色、黒色粒やや多く含む	7.5YR7/4にぶい橙	外面タタキ、内外面摩滅
164	1次	2区	SK08	弥生土器	甕	−	(2.15)	3.0	(7.05)	底部1/1	普通	φ4mmの乳白色、赤褐色粒少量含む	10YR7/3にぶい黄橙	内外面摩滅、外面黒斑
165	1次	2区	SK08	弥生土器	甕	−	(3.5)	3.8	(8.8)	底部1/1	甘	φ0.5~3mmの白色、褐色、灰色粒中量含む	2.5Y5/1黄灰	外面タタキ
166	8次	40区	SD01	弥生土器	壺	−	(6.5)	11.8	(18.7)	底部のみ	普通	φ1~2mm大の乳白色、赤橙色、灰白色粒多	10YR5/6黄褐、6/2灰黄褐、8/6黄橙	外面ミガキ、内面摩滅、底部中央凹み
167	8次	40区	SD01	土師器	壺	−	(5.7)	2.7	(10.8)	底部1/1	普通	φ~7mm大の白色、黒色、赤色、透明色粒少量含む	2.5Y8/2灰白	外面摩滅、内面ハケ、底部葉脈痕
168	8次	40区	SD01	土師器	甕	(18.0)	(5.9)	−	(20.0)	口縁1/4	普通	φ~7mm大の赤褐色、白色、灰色粒やや多く含む	2.5Y8/1灰白	内面指オサエ、内外面摩滅
169	8次	40区	SD02	弥生土器	高杯	−	(3.25)	(12.7)	(13.1)	底部1/4	甘	φ0.5~2mmの白色、灰色、褐色粒中量含む	2.5YR6/6橙、6/4にぶい橙、2.5Y8/2灰白	内外面ハケ、脚部穿孔2ヶ所
170	8次	40区	SD01	石器	剝片	幅2.1	長3.6	厚0.6	−	1/1	−	−	−	サヌカイト、重量3.21 g
171	8次	40区	SD01	石器	剝片	幅1.9	長2.75	厚0.8	−	1/1	−	−	−	サヌカイト、重量4.02 g
172	5次	26区	SD01	弥生土器	甕	−	(3.05)	(5.3)	(8.15)	底部1/6	甘	φ0.5~3mm大の白色、灰色、透白色、褐色粒多量に含む	7.5YR6/4にぶい橙	内外面摩滅
173	5次	26区	SD01	弥生土器	壺	−	(3.0)	(6.3)	(11.2)	底部1/4	普通	φ~5mm大の赤褐色、透明色、白色、黒色、灰色粒やや多く含む	2.5Y8/2灰白	内外面摩滅
174	5次	27−2区	SD05	弥生土器	壺	−	(6.7)	−	(10.4)	1/4	普通	密、φ~0.5mmの白色粒を稀に含む	10YR7/3にぶい橙	外面ミガキ、断面被熱

番号	次数	区	遺構名	種別	器種	口径	器高	底径	最大径	残存部	焼成	胎土	色調	特記事項
175	5次	27−2区	SP13	弥生土器	壺	−	(10.2)	−	(12.55)	頸部1/1	普通	φ～5mm大の白色、赤褐色、黒色、透明色粒やや多く含む	7.5YR6/3にぶい褐	内外面貼付突帯、頸部沈線5条、穿孔
176	4次	12区	SD21	弥生土器	壺	−	(10.9)	8.6	(21.8)	底部1/1	普通	φ1～2mmの灰白色、乳白色粒中量含む	2.5Y8/2灰白、黒色部2.5Y5/1黄灰	外面ミガキ、内面ハケ、内外面黒斑
177	4次	21区	SD01	石器	剝片	幅3.35	長1.9	厚0.45	−	1/1	−	−	N7/灰	サヌカイト、重量1.89ｇ
178	4次	23区	SD03	石器	磨製石斧	幅(6.7)	長(12.55)	厚(4.4)	−	1/2	−	−	7.5YR6/1褐灰	石斧柄部か、流紋岩、被熱、重量600ｇ
179	3次	11−1区	包含層	須恵器	杯身	(14.2)	(3.25)	−	−	1/6	普通	密、φ～2mmの白色粒含む	内面：N7/灰白 外面：5PB7/1明青灰	内外面回転ナデ
180	4次	16区	包含層	須恵器	杯蓋	−	(4.25)	(15.1)	(15.2)	1/6	普通	密、φ～4mm大の白色、橙色、灰色粒少量含む	内面：5PB7/1明青灰 外面：N7/灰白	内外面回転ナデ、外面ケズリ
181	5次	25−3区	包含層	須恵器	杯	(13.4)	(4.4)	−	(16.0)	口縁1/5	良好	φ0.5～1mmの白色、灰色、透白色粒極少量含む	N7/灰白	内外面回転ナデ
182	4次	23区	SD03	須恵器	器台	−	(6.0)	−	−	1/8	普通	密、φ1mm前後の砂粒を含む	N5/灰	器台接合部、透かし2ヶ所
183	5次	25−2区	包含層	須恵器	器台	−	(4.7)	−	−	底部1/12	普通	φ～3mm大の白色、赤色、褐色粒少量含む	N6/灰	器台底部、櫛描波状文
184	16次	8−2区	SP04	須恵器	壺	−	(4.65)	−	(10.05)	胴部径1/10	普通	φ～1mm大の黒色、褐色粒極少量含む	5PB7/1明青灰、10YR6/2灰黄褐	装飾付須恵器の小壺部分か
185	2次	8−2区	S D02	土師器	甕	−	(2.75)	−	−	口縁1/20	不良	粗、φ0.1～1mmの橙色、乳白色、透明粒含む	2.5Y8/2灰白～2.5Y8/4淡黄	内外面摩滅
186	2次	8−2区	S D02	土師器	甕	(13.6)	(3.5)	−	(13.9)	口縁1/5	普通	密、φ1mm前後の砂粒含む	7.5YR8/3浅黄橙	外面タタキ後ハケ、内面摩滅
187	2次	8−2区	S D02	土師器	高杯	−	(2.7)	−	(6.4)	接合部1/1	普通	φ0.5～2mmの白色、赤褐色、灰色粒中量含む	内面：2.5Y8/4淡黄 外面：5YR/1灰白	高杯接合部、穿孔
188	2次	8−2区	S D02	土師器	高杯	−	(3.7)	(14.1)	(14.6)	底部1/4	甘	φ0.5～2mmの白色、灰色、赤褐色粒中量含む	5Y8/2灰白	脚部、内外面摩滅
189	2次	10−3区	包含層	土師器	円筒埴輪	幅(9.8)	長(8.6)	−	−	1/30	普通	密、φ～5mmの白色、灰色粒含む	10YR8/3浅黄橙	左上がりタテハケ、内面摩滅
190	5次	29区	SD01−1	土師器	円筒埴輪	−	(12.75)	−	−	1/30	甘	φ0.5～2mmの白色、灰色、橙色、赤色粒中量含む	内面：10YR8/3浅黄橙～7/4にぶい黄橙 外面：2.5Y8/2灰白	左上がりタテハケ
191	大浄口1次	2−3区	包含層	土師器	円筒埴輪	幅(9.15)	長(9.35)	厚(6.6)	−	1/40	良好	密、φ1mm前後の白色粒を多く含む	10YR8/4浅黄橙	左上がりタテハケ
192	4次	21区	SD01	須恵器	稜椀蓋	−	(2.5)	(6.8)	(14.6)	底部1/6	普通	密、φ0.5mm程の白色粒を多く含む	N8/灰白	内外面回転ナデ
193	4次	21区	SD01	須恵器	杯B	−	(1.68)	(9.1)	(10.6)	底部1/3	甘	φ～2mm白色、灰色粒少量含む	5Y8/2灰白	内外面回転ナデ
194	4次	21区	SD01	須恵器	甕	−	(4.3)	−	−	底部1/10	普通	密、φ～5mm大の白色、赤褐色粒少量含む	5Y7/1灰白	内外面ナデ
195	16次	7区	包含層	須恵器	杯B	−	(5.8)	−	−	1/8	普通	φ～2mm大の白色、灰色粒少量含む	5Y8/1灰白	内外面回転ナデ、体部下半ケズリ
196	4次	12区	SP88	土師器	皿E	−	(2.2)	−	−	口縁1/12	普通	φ～1mmの黒色、赤褐色、透明色粒少量含む	10YR8/2灰白より白い	口縁部ヨコナデ
197	4次	12区	SP88	須恵器	椀	−	(2.45)	(5.0)	(11.0)	底部1/5	良好	φ0.5～1mmの灰色、白色粒少量含む	N6/灰	底部糸切り、平高台痕跡
198	4次	12区	SP97	土師器	埦	(33.7)	(4.4)	−	(34.4)	口縁1/5	普通	やや粗、φ0.1～1mmの橙色粒多量、乳白色粒少量含む	10YR8/2灰白～10YR8/3浅黄橙	鉢形くの字口縁、内外面ハケ(7条/単位)
199	4次	12区	SP107	土師器	皿E	−	(2.4)	−	−	口縁1/10	普通	φ～2mmの赤褐色、黒色、白色、透明色粒少量含む	10YR8/2灰白	口縁部ヨコナデ
200	4次	12区	SP107	土師器	甕	−	(3.85)	−	−	口縁1/10	甘	φ0.5～3mmの白色、灰色、褐色粒中量含む	10YR7/3にぶい黄橙、7.5YR7/6橙	甕形くの字口縁、内面ハケ
201	4次	12区	SP109	須恵器	椀	(16.35)	(3.35)	−	−	口縁1/6	普通	φ0.5～1mmの灰白色粒僅か	N8/灰白	回転ナデ
202	4次	12区	SP110	土師器	小皿A	(8.2)	(1.4)	(6.4)	−	1/4	甘	φ～0.5mmの白色粒少量含む	10YR8/3浅黄橙	口縁部ヨコナデ
203	4次	12区	SP110	土師器	羽釜	−	(4.3)	−	−	口縁1/20	甘	粗、φ0.1～0.5mmの乳白色、橙色、灰色粒多量に含む	10YR6/3にぶい黄橙	内傾、鍔長1.6㎝、鍔上2.8㎝、内面ハケ
204	4次	12区	SP110	土師器	三足鍋	−	長(9.2)	厚3.4	−	脚部1/3	普通	φ0.5～1mmの灰白色、乳白色、赤橙色粒少	7.5YR7/6橙	脚部、外面ハケ、203と同一個体か
205	4次	12区	SP122	土師器	小皿	(7.5)	1.5	(6.2)	−	1/4	普通	φ0.5～1mmの白色、褐色、灰色粒中量含む	7.5YR8/4浅黄橙	内外面摩滅
206	4次	12区	SP122	土師器	小皿A	(8.6)	1.6	(4.6)	−	1/3	甘	φ0.5～2mmの乳白色、赤橙色粒僅	10YR8/2灰白～7.5Y6/6橙	口縁部ヨコナデ
207	4次	12区	SP122	土師器	小皿	−	1.3	−	−	1/8	甘	φ0.5～2mmの乳白色、赤橙色粒僅	10YR8/2灰白	口縁部ナデ、端部やや外反
208	4次	12区	SP122	土師器	皿F	−	(2.0)	−	−	1/8	甘	φ～0.5mmの白色粒少量含む	10YR8/3浅黄橙	口縁部ヨコナデ、端部三角形状
209	4次	12区	SP122	須恵器	椀	−	(3.7)	−	−	口縁1/10	普通	やや密、φ3mmの橙色粒まれに含む	5Y8/1灰白	回転ナデ
210	4次	12区	SP122	須恵器	甕	−	(17.5)	−	−	胴部1/30	普通	φ～5mmの白色、乳白色粒少量含む	N5/灰	外面平行タタキ、内面ナデにより当具痕消す
211	4次	12区	SP129	土師器	小皿A	(9.0)	1.6	(7.6)	−	1/3	普通	φ0.5～1mmの白色、褐色、透明色、灰色粒中量含む	7.5YR7/4にぶい橙	内外面摩滅
212	4次	12区	SP175	瓦器	椀	−	(2.0)	(6.0)	(11.0)	底部1/4	甘	密、φ0.5mmの灰白色粒含む	10YR8/1灰白	内外面摩滅、炭素吸着弱
213	4次	12区	SP177	須恵器	椀	−	(3.5)	−	−	口縁1/8	普通	やや粗、φ0.1～1mmの乳白色粒多量に含む	N7/灰白	回転ナデ
214	4次	12区	SP185	瓦器	椀	(14.2)	(2.0)	−	−	口縁1/8	普通	φ0.5mmの赤褐色、乳白色粒僅	5YR7/4にぶい橙	口縁端部沈線
215	4次	12区	SP81	土師器	小皿A	(8.0)	0.9	(6.0)	−	1/4	甘	φ～0.5mmの白色、灰色、褐色粒少量含む	7.5YR7/4にぶい橙	内外面摩滅、薄手
216	4次	12区	SP81	須恵器	椀	−	(2.0)	−	−	口縁1/10	良好	やや粗、φ3mmの乳白色粒まれに含む	N8/灰白	回転ナデ
217	4次	12区	P168	土師器	三足皿	(14.0)	(4.5)	−	(14.3)	1/6	普通	φ0.5～2mmの乳白色、赤橙色粒僅	10YR8/2灰白	内面ナデ、脚部貼付
218	4次	12区	SP174	土師器	小皿	(8.5)	1.2	(5.6)	−	1/4	不良	φ0.5～2mmの乳白色、赤橙色粒僅	2.5Y8/1灰白～5YR7/6橙	器面剝落
219	4次	12区	SP174	土師器	小皿A	(9.1)	1.2	(7.4)	−	1/5	甘	φ0.5～2mmの乳白色、赤橙色粒僅	内面：10YR8/2灰白 外面：10YR7/4にぶい黄橙	口縁部ヨコナデ
220	4次	12区	SP174	土師器	杯	(14.0)	(2.6)	−	−	1/4	不良	やや密、φ0.1～0.5mmの透明色、乳白色粒まれに含む	2.5Y8/2～10YR8/2灰白	皿Fか、器面剝落
221	4次	12区	SP189	土師器	小皿A	(9.4)	1.6	(5.6)	−	1/3	普通	φ0.5mmの乳白色粒僅	10YR8/2灰白	口縁部ヨコナデ、端部三角形
222	4次	12区	SP189	土師器	皿E	(13.2)	(2.5)	(8.0)	−	1/3	甘	やや密、φ0.1～0.3mmの乳白色粒少量含む	10YR8/2灰白～10YR8/3浅黄橙	口縁部ヨコナデ
223	4次	12区	SP189	瓦器	皿	(13.2)	(3.0)	−	−	口縁1/4	普通	密、φ0.5mmの灰白色粒含む	N4/灰～N7/灰白	楠葉型、端部沈線、炭素吸着弱
224	4次	12区	SP189	須恵器	甕	−	(4.2)	−	−	口縁1/10	甘	φ0.5～3mmの白色、灰色、灰白色粒少量含む	2.5YR6/6橙	外面タタキ、被熱
225	4次	12区	SK02	瓦器	椀	−	(5.1)	−	−	口縁1/18	甘	φ～0.5mmの白色粒極少量含む	2.5Y6/1黄灰、N4/灰	和泉型、炭素吸着弱
226	4次	12区	SK02	須恵器	椀	−	(2.4)	(6.3)	(12.5)	底部1/4	普通	φ0.5～1mmの灰色、白色粒少量含む	内面：5Y7/1灰白 外面：N7/灰白	底部糸切り、平底
227	4次	12区	SP190	須恵器	椀	−	(2.6)	−	−	口縁1/12	普通	φ1～2mmの灰白色粒僅	N7/灰白	回転ナデ
228	9次	2区	SP57	土師器	小皿A	−	1.35	−	−	1/8	普通	φ～2mm大の赤褐色、透明色、黒色、白色粒少量含む	10YR8/3浅黄橙	口縁部ヨコナデ
229	9次	2区	SP64	土師器	小皿	(8.4)	1.2	(4.3)	−	1/4	普通	φ～3mm大の白色、赤褐色、黒色、透明色粒少量含む	10YR8/3浅黄橙～7/3にぶい黄橙	内外面摩滅
230	9次	2区	SP23	土師器	小皿	(9.2)	(1.5)	(7.8)	−	1/2	普通	φ～1mm程度、2～4mmの赤褐色の粒混じる	7.5YR8/3浅黄橙	内外面摩滅
231	9次	2区	SP38	土師器	皿E	−	(1.8)	−	−	1/10	普通	φ～1mm大の白色、赤褐色粒微量含む	10YR7/4にぶい黄橙	内外面回転ナデ摩滅
232	9次	2区	SP27	須恵器	椀	(15.2)	(3.4)	−	−	口縁1/4	普通	φ～1mmの粒少し混じる	N8/灰白	回転ナデ
233	9次	2区	SP53	土師器	小皿A	−	1.15	−	−	1/8	普通	φ～1mm黒色、透明色粒微量含む	2.5Y8/3淡黄	口縁部ヨコナデ
234	9次	2区	SP53	土師器	小皿A	(8.0)	(1.1)	(6.2)	−	1/4	普通	φ～1mm大の白色、赤褐色、黒色粒微量含む	7.5YR7/4にぶい橙	口縁部ヨコナデ
235	9次	2区	SP53	土師器	小皿	(8.0)	1.15	(7.0)	−	1/4	良好	φ～2mm大の白色、赤色、透明色、黒色粒微量含む	10YR7/3にぶい黄橙	内外面摩滅
236	9次	2区	SP56	土師器	小皿	−	1.05	−	−	1/8	普通	φ～1mm大の赤褐色、黒色、透明色粒微量含む	10YR7/3にぶい黄橙	内外面摩滅
237	9次	2区	SP56	須恵器	鉢	−	(4.25)	−	−	1/20	良好	φ～0.5mmの白色、灰色粒極少量含む	N5/灰	口縁部形態B1a類、片口
238	9次	2区	SP58	土師器	小皿A	(9.9)	1.7	(7.8)	−	1/6	普通	φ～3mm大の白色、透明、黒色粒少量含む	10YR7/3にぶい黄橙	口縁部ヨコナデ
239	9次	2区	SP58	土師器	皿F	(13.0)	2.0	−	−	1/6	普通	φ～1mm大の赤褐色、黒色、白色粒少量含む	10YR8/3浅黄橙～7/3にぶい黄橙	外面ヨコナデ、内面摩滅
240	9次	2区	SP61	土師器	小皿A	−	(1.85)	−	−	口縁1/12	普通	φ～1mm大の白色、黒色粒微量含む	2.5Y8/2灰白	口縁部ヨコナデ
241	9次	2区	SP69	土師器	小皿A	(7.8)	(1.1)	−	−	1/6	普通	φ～1mm大の白色、黒色、赤褐色粒微量含む	10YR8/3浅黄橙	口縁部ヨコナデ
242	9次	2区	SP35	土師器	皿F	−	(1.9)	−	−	1/8	普通	φ～1mm大の赤色、黒色粒微量含む	5YR7/6橙	内外面回転ナデ摩滅
243	4次	14区	SP01	金属	銅銭	−	長3.9	厚1.3	−	1/1	−	−	−	銭3枚銹着、銭種不明、重量15.31ｇ
244	4次	14区	SP09	須恵器	椀	(16.7)	(4.8)	(6.0)	−	1/6	普通	φ0.5～1mmの乳白色、灰白色粒少	N7/灰白	底部糸切り、平底、回転ナデ
245	4次	14区	SP16	須恵器	小皿	(8.2)	1.7	(5.4)	−	1/4	普通	φ～3mmの灰色、青色、白色粒微量含む	N6/灰	底部糸切り、回転ナデ
246	4次	14区	SP13	土師器	小皿A	(7.4)	1.1	(4.4)	−	1/5	普通	φ～1mmの赤褐色、黒色、白色粒少量含む	7.5YR8/3浅黄橙	口縁部ヨコナデ
247	4次	14区	SP13	土師器	小皿A	(8.6)	2.0	(5.2)	−	1/4	普通	φ～1mmの赤褐色、黒色粒微量含む	2.5Y8/1～7/1灰白	口縁部ヨコナデ、丸底
248	4次	14区	SP13	須恵器	椀	−	(3.4)	−	−	口縁1/10	普通	φ～6mmの灰色、白色粒少量含む	N8/灰白より茶色	回転ナデ
249	4次	14区	SP13	瓦器	椀	−	(1.3)	(5.0)	(7.2)	底部1/6	甘	密、φ1mm以下の白色粒を多く含む	2.5Y4/1黄灰	炭素吸着弱、高台三角形
250	4次	14区	SP13	瓦器	椀	−	(1.0)	(4.5)	(6.3)	底部1/4	普通	密、φ～1mmの砂粒を含む	10Y3/1オリーブ黒、N5/灰	炭素吸着弱、高台扁平
251	4次	14区	SP13	土師器	埦	−	(5.1)	−	−	口縁1/10	普通	やや粗い、φ1mm程の砂粒を多く含む	10YR5/2灰黄褐	鉢形くの字口縁、内面ハケ、外面摩滅
252	4次	14区	SP14	須恵器	椀	−	(1.9)	−	−	口縁1/10	普通	φ～3mmの黒色、白色粒微量含む	N7/灰白	回転ナデ
253	4次	14区	SP14	土師器	埦	−	(3.4)	−	−	口縁1/13	普通	密、φ～1mmの白色粒を多く含む、φ3mm程の砂粒混入	内面：10YR5/3にぶい黄褐 外面：5YR4/1褐灰	鉢形くの字口縁、内外面ハケ、口縁端部外方へ延びる
254	4次	14区	SP23	瓦器	椀	−	(2.2)	−	−	口縁1/10	普通	密、φ～1mmの砂粒混入	N4/灰	和泉型か、炭素吸着良好
255	4次	14区	SP23	須恵器	椀	−	(1.95)	(5.3)	(9.9)	底部1/2	普通	密、φ～3mmの白色粒を含む	N8/灰白	底部糸切り、平底
256	4次	14区	SP20	土師器	小皿A	(8.0)	1.05	(7.0)	−	1/5	甘	φ～0.5mmの細かい白色、茶褐色粒極少量含む	10YR8/3浅黄橙	口縁部ヨコナデ、端部三角形状
257	4次	14区	SP20	須恵器	椀	(17.2)	(4.3)	−	−	口縁1/4	普通	φ～3.5mmの黒色、白色粒僅量含む	N7/灰白、N5/灰	回転ナデ、口縁部重ね焼痕明瞭
258	4次	14区	SP20	土師器	埦	(18.3)	(2.5)	−	−	口縁1/6	普通	φ～2mmの白色、赤褐色、透明色粒少量含む	10YR6/2～5/2灰黄褐	外面板ナデ、内面ナデ
259	4次	14区	SP20	土師器	埦	−	(3.8)	−	−	口縁1/8	普通	やや粗い、φ1mm程の砂粒を多く含む	7.5YR6/3にぶい褐	鉢形くの字口縁、内面ハケ、口縁端部外方へ延びる
260	4次	14区	SP27	土師器	小皿A	(8.7)	(1.5)	−	−	口縁1/5	普通	φ～1mm大の黒色、白色、赤色、透明色粒微量含む	10YR8/3浅黄橙	口縁部ヨコナデ
261	4次	14区	SP27	須恵器	椀	−	(2.6)	−	−	口縁1/16	普通	φ～4mm大の白色、灰色、黒色粒少量含む	2.5Y8/1灰白	回転ナデ

遺物観察表

番号	次数	区	遺構名	種別	器種	口径	器高	底径	最大径	残存部	焼成	胎土	色調	特記事項
262	4次	14区	SP32	土師器	小皿A	−	1.25	−	−	口縁1/10	普通	φ～3mm大の白色、赤褐色、黒色粒少量含む	内面：10YR8/3浅黄橙 外面：2.5Y8/2灰白	口縁部ヨコナデ
263	4次	14区	SP32	瓦器	椀	−	(3.4)	−	−	口縁1/10	普通	密、φ～1mmの砂粒混入	N4/灰	和泉型、炭素吸着弱
264	4次	14区	SP32	瓦器	椀	(15.8)	(3.2)	−	−	口縁1/4	普通	密、φ～1mmの砂粒混入	N5/灰	和泉型、内面ミガキ
265	4次	14区	SP32	須恵器	壺か	−	(6.7)	(13.8)	(24.0)	底部1/4	普通	φ0.5～2mm大の乳白色、灰白色粒中	N6/灰	底部ヘラ切り、圧痕
266	4次	14区	SP42	須恵器	椀	(17.0)	(3.4)	−	−	口縁1/5	普通	φ0.5mm大の白色、黒色、灰色粒少量含む	N6/灰	回転ナデ
267	4次	14区	SP99	土師器	杯	−	(4.1)	9.0	(15.0)	底部2/3	普通	φ～5mmの赤褐色、透明色、黒色、白色粒やや多く含む	5YR7/8橙	底部ヘラ切り、器面剝落
268	4次	15区	SP11	瓦質土器	三足鍋	−	(9.1)	−	−	口縁1/8	普通	φ0.5～1mm大の乳白色、灰白色粒中	N4/灰	内面ハケ
269	4次	15区	SP16	土師器	皿F	−	(2.8)	−	−	口縁1/6	普通	φ～1mm大の白色、黒色、透明色粒少量含む	2.5Y8/2灰白～10YR7/4にぶい黄橙	口縁部ヨコナデ
270	4次	15区	SP23	須恵器	椀	−	(2.8)	−	−	口縁1/10	普通	φ～2mm大の白色、黒色、茶褐色粒少量含む	内面：5Y8/1灰白～5Y6/1灰 外面：N8/灰白～N6/灰	回転ナデ
271	4次	15区	SP12	土師器	小皿A	(8.2)	(1.35)	(7.1)	−	1/3	普通	φ0.5～1mmの赤橙色、乳白色、灰白色粒少	10YR7/2にぶい黄橙	口縁部ヨコナデ
272	4次	16区	SP08	土師器	皿E	(12.2)	(2.25)	−	−	1/6	普通	φ～1mm大の赤褐色、黒色、白色粒微量含む	2.5Y8/2灰白	口縁部ヨコナデ、端部丸み
273	4次	16区	SP08	土師器	皿E	−	(1.85)	−	−	1/10	普通	φ～2mm大の赤褐色、白色、黒色粒微量含む	内面：10YR8/2灰白 外面：7.5YR7/4にぶい橙	口縁部ヨコナデ、端部丸く納める
274	4次	16区	SP08	須恵器	椀	(16.8)	4.65	(6.2)	−	1/3	普通	φ～7mm大の白色、黒色粒少量含む	5Y8/1灰白	底部糸切り、回転ナデ
275	4次	16区	SP08	須恵器	椀	16.4	4.4	5.6	−	1/2	普通	φ～6mm大の乳白色、白色、黒色、透明色粒少量含む	N6/灰	底部糸切り、回転ナデ
276	4次	16区	SP08	瓦器	椀	15.35	5.2	5.6	−	2/3	甘	φ0.5～1mmの白色、灰色粒少量含む	5Y8/1灰白、N5/灰	和泉型、炭素吸着弱
277	4次	16区	SP08	瓦器	椀	(15.5)	4.6	(4.8)	−	2/3	甘	φ～2mm大の灰色、透明色粒微量含む	N4/灰～5Y8/1灰白	和泉型、炭素吸着弱
278	4次	16区	SP08	土師器	鍋	(35.0)	(7.6)	−	(35.2)	1/3	普通	φ～3mm大の白色、赤褐色、黒色粒やや多く含む	10YR7/3にぶい黄橙	鉢形くの字口縁、内外面ハケ(6条/単位)
279	4次	16区	SP16	須恵器	椀	−	(2.7)	−	−	口縁1/8	普通	φ～1.5mmの暗灰色、白色、灰色粒含む	N7/灰白	回転ナデナデ
280	22次	1区	SP02	土師器	小皿A	(8.6)	1.1	(6.4)	−	1/3	普通	φ～1mm大の白色、橙色粒少量含む	10YR8/3浅黄橙、5YR7/6橙	口縁部ヨコナデ、端部シャープ
281	22次	1区	SP02	須恵器	椀	−	(3.8)	(5.45)	(15.8)	底部1/4	普通	φ0.5mm以下の白色、灰色粒極少量含む	N7/灰白	底部糸切り、内外面回転ナデ
282	22次	1区	SP02	須恵器	椀	−	(4.4)	−	−	1/8	普通	φ～1mm大の灰色粒少量含む	7.5Y7/1灰白	内外面回転ナデ
283	22次	1区	SP03	須恵器	小皿	(8.8)	1.2	(6.0)	−	2/3	普通	φ～1.5mm大の白色、灰色粒中量含む	5Y7/1灰白	底部糸切り、内外面回転ナデ
284	4次	16区	SP53	土師器	鍋	(34.5)	(4.35)	−	(35.4)	口縁1/4	普通	φ～3mmの白色、赤色、黒色、透明色粒やや多く含む	10YR7/2にぶい黄橙	鉢形くの字口縁、内面ハケ、外面ナデ、スス付着
285	12次	4区	SP07	青磁	碗	−	(2.75)	−	−	口縁1/12	良好	精良	7.5Y6/1灰、7.5Y5/2灰オリーブ	劃花文
286	12次	4区	SP12	土師器	羽釜	−	(4.25)	−	−	羽部1/8	甘	φ0.5～2mmの白色、灰色、褐色粒多量に含む	N4/灰、2.5Y8/1灰白	内傾、鍔長2.4cm、内面ハケ
287	14次	4区	SP02	土師器	皿E	(13.4)	(2.6)	(11.9)	−	1/4	普通	φ～1mm大の白色、褐色、橙色粒少量含む	内面：2.5Y8/2灰白 外面：7.5YR7/3にぶい橙、10YR7/2にぶい黄橙	内外面摩滅
288	14次	4区	SP02	土師器	皿F	(12.3)	(1.9)	(9.5)	−	1/6	普通	φ～2mm大の白色、灰色、赤褐色粒中量含む	内面：7.5YR7/4にぶい橙 外面：10YR8/2灰白	口縁部ヨコナデ
289	14次	4区	SP02	瓦質土器	三足鍋	−	(13.5)	−	−	脚部2/3	普通	φ～1.5mm大の白色、灰色粒中量含む	5Y4/1灰	指オサエ
290	14次	4区	SP08	土師皿	皿F	(13.8)	(2.25)	−	−	1/4	普通	φ～1mm大の白色、灰色、橙色粒少量含む	2.5Y8/3浅黄	口縁部ヨコナデ
291	14次	4区	SP08	土師器	皿F	−	(1.85)	−	−	1/8	普通	φ～1mm大の白色、灰色粒含む	10YR8/3浅黄橙	口縁部ヨコナデ
292	14次	4区	SP08	土師器	皿F	−	(2.65)	−	−	1/8	普通	精良、φ1mm以下の白色粒含む	10YR8/2灰白	口縁部ヨコナデ
293	14次	4区	SP08	白磁	碗	−	(1.8)	−	−	口縁1/20	普通	密	10Y8/1灰白	V類
294	12次	4区	SP25	須恵器	鉢	(22.8)	(5.4)	−	(23.0)	口縁1/6	普通	φ1～3mmの乳白色、茶色粒少し混じる	N7/灰白	口縁部形態B2a類
295	9次	2区	SP80	土師器	小皿	(10.0)	1.5	(7.3)	−	1/3	普通	φ1mm程度の褐色粒混じる	10YR8/3浅黄橙	内外面摩滅
296	4次	16区	SP06	須恵器	椀	(18.1)	(3.65)	−	−	口縁1/4	普通	φ～4mmの灰色、白色、黒色粒混じる	N6/灰	回転ナデ
297	22次	1区	SP29	瓦器	椀	−	(1.55)	(5.2)	(9.0)	底部1/4	普通	φ～1mm大の灰色、褐色粒中量含む	10YR6/3にぶい黄橙、2.5Y8/3浅黄	輪高台、炭素吸着なし
298	12次	4区	SP31	土師器	羽釜	−	(3.9)	−	−	口縁1/10	普通	φ～5mm大の灰色、赤褐色、白色、透明色、黒色粒やや多く含む	5YR7/4にぶい橙～2.5Y7/1灰白	内傾、鍔長1.2cm
299	9次	2区	ST01	土師器	小皿A	8.8	1.85	6.8	−	1/1	普通	φ1～2mmの褐色、灰色粒含む	7.5YR8/3浅黄橙	皿E形態、薄手、口縁部ヨコナデ
300	9次	2区	ST01	土師器	小皿A	(9.0)	(1.45)	(8.2)	−	1/4	甘	φ0.5mm以下の白色、灰色粒少量含む	10YR7/4にぶい黄橙	口縁部ヨコナデ
301	9次	2区	ST01	土師器	皿F	14.2	2.7	12.0	−	1/1	甘	φ0.5～1mm大の白色、灰色、赤褐色粒少量含む	10YR7/2にぶい黄橙、2.5Y6/1黄灰	口縁部ヨコナデ
302	9次	2区	ST01	須恵器	椀	−	(1.4)	(7.0)	(10.4)	底部1/4	甘	φ～2mmの褐色、灰色粒混じる	5Y8/1灰白	底部糸切り、内外面回転ナデ
303	9次	2区	ST01	須恵器	甕	−	(25.75)	−	−	1/3	良好	φ0.5～3mmの白色、灰色粒少量含む	N7/灰白	外面タタキ(7条/単位)、内面板ナデ
304	4次	12区	SE01	土師器	小皿A	(7.6)	1.15	(5.5)	−	1/3	普通	φ～1mmの透明色、白色、黒色、赤色粒微量含む	10YR7/3にぶい黄橙	口縁部ヨコナデ
305	4次	12区	SE01	土師器	小皿A	(9.0)	(1.4)	(7.6)	−	1/5	普通	密、φ～1mmの砂粒を含む	10YR8/2灰白	口縁部ヨコナデ
306	4次	12区	SE01	土師器	皿F	(12.1)	2.05	(8.4)	−	口縁1/6	普通	φ～1mmの赤色、白色、灰色粒微量含む	2.5Y8/1灰白	口縁部ヨコナデ
307	4次	12区	SE01	土師器	杯	(12.8)	2.65	(9.2)	−	1/6	普通	φ0.5～3mmの白色、灰色、褐色、橙色粒少量含む	7.5YR7/6橙、7.5YR8/3浅黄橙	底部ヘラ切り、外面ナデにより凹む
308	4次	12区	SE01	瓦質土器	羽釜	−	(3.9)	−	−	口縁1/20	普通	φ～2mmの灰色、乳白色粒含む	内面：2.5Y5/1黄灰～5/2暗灰黄 外面：N4/灰	内傾、鍔長1.0cm、鍔上2.0cm
309	4次	12区	SE01	須恵器	鉢	−	(5.3)	−	−	口縁1/15	普通	密、φ～1mmの砂粒を含む	内面：5PB5/1青灰 外面：N5/灰～N6/灰	口縁部形態B2a類
310	4次	14区	SE02	土師器	小皿A	(9.2)	(1.5)	−	−	口縁1/6	普通	φ～0.5の赤橙色、乳白色粒僅	10YR8/2灰白	口縁部ヨコナデ
311	4次	14区	SE02	土師器	杯	−	(0.9)	(7.8)	(9.9)	底部1/5	普通	密、φ～1mmの白色粒を含む	2.5Y8/1灰白	底部ヘラ切り後ナデ
312	4次	14区	SE02	瓦器	椀	−	(3.0)	−	−	口縁1/14	甘	φ0.5～1mmの灰色、白色粒極少量含む	N4/灰	和泉型、内面ミガキ、炭素吸着良好
313	4次	14区	SE02	瓦器	椀	−	(2.4)	(5.0)	(11.1)	底部1/3	普通	φ0.5mm大の乳白色、灰白色粒僅	N8/灰白	外面吸着良好、内面吸着弱
314	4次	14区	SE02	須恵器	椀	−	(2.5)	−	−	口縁1/10	甘	φ0.5～1mmの白色、灰色粒少量含む	5Y8/1灰白、N7/灰白	回転ナデ、口縁部重ね焼痕明瞭
315	4次	14区	SE02	須恵器	椀	−	(2.6)	−	−	口縁1/10	普通	φ0.5～1mm大の乳白色、灰色粒中	N7/灰白～N6/灰	回転ナデ
316	4次	14区	SE02	須恵器	甕	(31.0)	(7.3)	−	(33.8)	口縁1/4	普通	φ0.5～1mm大の乳白色粒少	N4/灰	外面タタキ、内面同心円の当具痕
317	4次	13区	SD02	陶器	卸皿	−	(2.2)	(7.6)	(13.0)	底部1/3	普通	φ～3.5mmの黒色、白色、灰色粒少量含む	5Y8/1灰白	瀬戸・美濃、底部糸切り
318	4次	13区	SD02	須恵器	椀	−	(1.25)	(5.9)	(9.1)	底部1/3	普通	φ0.5～2mm粒を少量含む	内面：5PB1/7明青灰 外面：N7/灰白	底部糸切り、平高台
319	4次	13区	SD02	須恵器	鉢	−	(4.1)	−	−	口縁1/20	良好	φ0.5～1mmの灰色、白色粒極少量含む	N6/灰	口縁部形態B3a類
320	4次	13区	SD02	須恵器	鉢	−	(5.1)	−	−	口縁1/16	普通	φ～8mmの赤色、白色、黒色粒少量含む	N6/～N5/灰	備前焼か、擂目なし
321	4次	13区	SD02	備前焼	擂鉢	−	(7.6)	−	−	口縁1/12	普通	φ～8mmの白色、透明色、赤褐色粒少量含む	5YR6/6橙～2.5Y6/1黄灰	擂目9本、中世3a期
322	4次	13区	SD02	瓦質土器	三足鍋	幅 (2.85)	長(12.15)	−	−	脚部1/2	甘	φ0.5～2mmの灰色、白色粒中量含む	2.5Y8/2灰白、2.5YR7/6橙、N4/灰	ナデ、摩滅
323	4次	13区	SD03	須恵器	椀	−	(2.75)	−	−	口縁1/12	普通	密、φ～1mmの白色、灰色粒を多く含む	5P6/1紫灰	回転ナデ
324	4次	13区	SD03	須恵器	椀	−	(1.9)	(4.2)	(8.0)	底部1/2	普通	φ～5mmの灰色、白色粒少量含む	N8/灰白	底部糸切り、平高台
325	4次	12区	SD10	須恵器	椀	−	(2.2)	(7.4)	(11.3)	底部1/4	普通	φ0.5～1mmの灰色、白色、透灰色粒少量含む	N7/灰白	底部糸切り
326	4次	12区	SD10	須恵器	鉢	−	(4.1)	(10.0)	(18.2)	底部1/4	普通	φ0.5～2mmの乳白色、灰白色粒僅	N6/灰	内外面摩滅回転ナデ
327	4次	12区	SD10	陶器	壺	幅(5.7)	長(2.85)	−	−	耳部1/1	良好	φ0.5～1mmの白色、褐色粒極少量含む	7.5YR6/2灰褐、5YR7/4にぶい橙	褐釉、468と同一個体か
328	4次	12区	SD10	瓦質土器	三足鍋	−	長(15.9)	−	2.9	脚部3/4	普通	φ～3mmの白色、赤色、透明色粒やや多く含む	2.5Y8/1灰白	炭素吸着弱
329	4次	15区	SD01	土師器	皿O	(12.0)	(2.1)	(7.6)	−	1/6	普通	密、φ～1mmの白色粒混入	2.5Y8/2灰白	口縁部ヨコナデ
330	4次	15区	SD01	白磁	碗	(12.1)	(3.55)	−	−	底部1/6	普通	密	施釉部5GY8/1灰白	IX類、口縁部口禿
331	4次	15区	SD01	土師器	鉢	(20.8)	(6.1)	−	(21.8)	口縁1/8	普通	やや粗い、φ～1mmの砂粒を多く含む	10YR8/4浅黄橙	外面ハケ、内面摩滅
332	4次	15区	SD01	瓦質土器	蓋	−	(2.2)	−	−	口縁1/8	普通	やや粗い、φ1mm前後の砂粒を多く含む	内面：N4/灰 N2/暗灰	内外面ナデ
333	4次	15区	SD01	須恵器	鉢	−	(4.3)	−	−	口縁1/10	普通	密、φ～1mmの白色粒を含む	N6/灰	口縁部形態B2a類
334	4次	15区	SD01	須恵器	壺	−	(4.1)	(8.3)	(11.4)	底部1/4	普通	密、φ～1mmの白色粒を多く含む	5Y8/1灰白	底部ヘラケズリ、回転ナデ
335	4次	15区	SD01	石製品	砥石	幅(7.4)	長(9.5)	−	−	1/4	−	−	N4/灰	チャート系、3面使用、重量304ｇ
336	4次	15区	SD01	須恵器	円面硯か	(11.0)	(3.5)	−	−	1/4	普通	密、φ～1mmの砂粒混入	内面：N8/灰白 外面：5Y4/1灰	底部に自然釉
337	9次	2区	SD02	土師器	小皿A	(8.1)	(1.45)	−	−	1/4	普通	φ～1mmの褐色、灰色、乳白色粒混じる	内面：10YR8/2灰白 外面：10YR7/3にぶい黄橙	内外面摩滅
338	9次	2区	SD02	土師器	小皿A	(9.2)	1.5	(7.6)	−	1/4	普通	φ1～2mm大の乳白色、褐色粒混じる	10YR8/2灰白	口縁部ヨコナデ
339	9次	2区	SD02	土師器	小皿A	(8.1)	(1.5)	−	−	1/3	普通	φ～2mm大の白色、赤褐色、黒色粒微量含む	7.5YR6/4にぶい橙	口縁部ヨコナデ
340	9次	2区	SD02	土師器	小皿A	8.55	1.8	7.9	−	9/10	普通	φ1～2mmの茶色、褐色、乳白色粒混じる	7.5YR8/4浅黄橙	口縁部ヨコナデ、丸底
341	9次	2区	SD02	土師器	小皿A	(9.0)	(1.2)	(8.0)	−	1/4	普通	φ～1mmの乳白色、褐色粒混じる	10YR7/4にぶい黄橙	口縁部ヨコナデ、底部凹み
342	9次	2区	SD02	土師器	皿F	(11.5)	(2.6)	−	−	1/4	普通	φ～7大の白色、赤褐色、黒色粒、微量含む	7.5YR7/4にぶい橙	口縁部ヨコナデ、粘土接合痕
343	9次	2区	SD02	土師器	皿F	(11.2)	(2.1)	−	−	1/3	普通	φ～2mm大の白色、赤褐色、黒色粒少量含む	7.5YR7/4にぶい橙	口縁部ヨコナデ
344	4次	16区	SD01	備前焼	擂鉢	−	(4.9)	−	−	口縁1/20	普通	やや粗い、φ1.5mm前後の白色粒が混じる	10R6/4にぶい赤橙	近世2a期か
345	4次	12区	SD04	土師器	皿F	(11.9)	2.35	(7.6)	−	1/4	普通	φ～1mmの白色、赤色、黒色粒少量含む	10YR8/3浅黄橙	口縁部ヨコナデ、端部三角形
346	4次	12区	SD04	土師器	小皿A	(7.8)	1.3	6.0	−	1/3	普通	φ～1mmの透明色、白色、赤色、黒色粒少量含む	2.5Y8/2灰白	内外面摩滅
347	4次	12区	SD05	土師器	小皿A	(8.8)	(2.2)	−	−	1/5	普通	φ～1mmの白色、黒色、透明色、赤褐色粒少量含む	7.5YR8/4浅黄橙	口縁部ヨコナデ
348	4次	12区	SD05	土師器	皿F	−	(2.25)	−	−	口縁1/12	普通	φ～1mm黒色、赤褐色、白色粒微量含む	10YR8/3浅黄橙	口縁部ヨコナデ、端部三角形

番号	次数	区	遺構名	種別	器種	口径	器高	底径	最大径	残存部	焼成	胎土	色調	特記事項
349	4次	12区	SD05	須恵器	鉢	−	(4.5)	−	−	口縁1/10	普通	φ～2mmの黒色、白色粒微量含む	N6/灰	口縁部形態B3a類
350	4次	12区	SD05	土師器	羽釜	−	(3.85)	−	−	口縁1/10	甘	φ0.5～3mmの白色、灰色、褐色粒多量に含む	2.5Y8/2灰白、10YR6/2灰黄褐	内傾、鍔上3.2㎝、内面ハケ
351	4次	12区	SD05	瓦質土器	羽釜	−	(3.2)	−	−	口縁1/10	普通	φ～8mmの白色、黒色、透明色粒やや多く含む	N7/灰白	内傾、鍔長1.2㎝、鍔上2.2㎝、炭素吸着弱
352	4次	12区	SD08	白磁	碗	−	(2.3)	(4.65)	(8.5)	底部1/4	良好	密	7.5Y8/1灰白	Ⅸ類、釉調青白色、目痕
353	4次	12区	SD17	土師器	皿F	−	(2.0)	−	−	口縁1/10	普通	φ～1mmの赤褐色、白色、黒色粒微量含む	10YR8/3浅黄橙	口縁部ヨコナデ、端部三角形
354	4次	12区	SD17	土師器	皿F	−	(2.6)	−	−	口縁1/14	普通	φ～1mmの白色、赤褐色粒微量含む	10YR8/3灰白	口縁部ヨコナデ、端部三角形
355	4次	12区	SD17	須恵器	椀	−	(4.0)	−	−	口縁1/11	普通	密、φ～1mmの白色粒を多く含む	7.5Y8/1灰白～N5/灰	内外面回転ナデ
356	4次	12区	SD17	須恵器	椀	(15.8)	(2.05)	−	−	口縁1/5	普通	φ～1mmの黒色、白色粒微量含む	N6/灰	内外面回転ナデ
357	4次	12区	SD17	須恵器	椀	−	(2.2)	5.2	(10.1)	底部1/2	普通	φ～4mmの灰色、白色、黒色粒少量含む	N8/灰白	底部糸切り、丸底
358	4次	12区	SD17	瓦質土器	羽釜	−	(3.0)	−	−	口縁1/14	普通	φ～3mmの乳白色、白色粒やや多く含む	5Y2/1黒	内傾、鍔長1.2㎝、鍔上1.8㎝
359	4次	12区	SD17	土師器	鍋	−	(7.8)	−	−	口縁1/20	普通	φ～2mmの灰色、乳白色、褐色粒含む	10YR7/2にぶい黄橙	鉢形くの字、内外面ハケ
360	4次	12区	SD17	土師器	鍋	(30.8)	(18.45)	−	(31.6)	1/3	普通	やや粗い、φ1mm程の白色粒を多く含む	10YR5/2灰黄褐	鉢形くの字、外面タタキ、内面ハケ
361	4次	12区	SX01	土師器	小皿A	−	1.45	−	−	口縁1/6	甘	φ0.5～1mmの白色、灰色粒少量含む	7.5YR8/4浅黄橙	内外面摩滅
362	4次	12区	SX01	土師器	小皿A	(9.0)	1.5	(6.8)	−	1/3	甘	φ0.5～1mmの白色、褐色粒極少量含む	2.5Y8/3淡黄	口縁部ヨコナデ、丸底
363	4次	12区	SX01	土師器	皿O	(10.0)	2.55	(6.8)	−	1/4	甘	φ0.5～1mmの白色、透白色粒極少量含む	10YR8/3浅黄橙	口縁部ヨコナデ、外方へ延びる
364	4次	12区	SX01	土師器	皿O	11.9	3.05	8.5	−	1/1	甘	φ0.5～1mmの白色、灰色、褐色、灰白色粒中量含む	10YR8/3浅黄橙	口縁部ヨコナデ、底部板状圧痕
365	4次	12区	SX01	白磁	碗	−	(2.45)	(5.2)	(8.9)	底部1/4	良好	密	5Y8/1灰白	Ⅷ類
366	4次	12区	SX01	須恵器	鉢	−	(4.2)	−	−	口縁1/20	普通	φ～2mmの白色、灰色粒混じる	N6/灰	口縁部形態B2a類
367	4次	12区	SX01	須恵器	鉢	−	(4.7)	−	−	口縁1/12	普通	やや密、φ0.1～0.5mmの乳白色粒含む	N7/灰白～N6/灰	口縁部形態B2a類
368	4次	12区	SX02	須恵器	鉢	−	(3.4)	−	−	口縁1/20	普通	φ～2mmの灰色粒含む	N6/灰	口縁部形態B3b類
369	4次	12区	SX02	須恵器	鉢	−	(4.65)	−	−	口縁1/14	普通	φ～2mmの黒色、白色粒少量含む	N6/灰	口縁部B3a類
370	4次	12区	SX02	金属	銅銭	直径2.4	−	厚0.15	−	1/1	−	−	−	皇宋通寶、重量3.04ｇ
371	4次	12区	SX02	備前焼	擂鉢	−	(6.15)	(15.0)	(26.2)	底部1/6	普通	φ1～2mmの灰白色、乳白色粒少量含む	5YR6/1褐灰	擂目6本
372	4次	12区	SX03	土師器	小皿R	(8.8)	(1.4)	(5.4)	−	口縁1/3	普通	φ0.5～1mmの灰色、乳白色、赤橙色粒僅	2.5Y8/2灰白	底部ヘラ切り、内面圏線状
373	4次	12区	SX03	土師器	小皿R	(8.1)	1.1	(6.0)	−	1/6	甘	φ0.5～1mmの白色、灰色粒中量含む	2.5Y6/6橙	底部ヘラ切り
374	4次	12区	SX03	土師器	小皿A	(7.6)	1.5	(6.0)	−	1/4	甘	密、φ0.1～0.5mm乳白色粒少量含む	10YR8/2灰白	口縁部ヨコナデ
375	4次	12区	SX03	土師器	小皿A	(9.0)	1.35	(7.0)	−	1/4	甘	密、φ0.1mmの乳白色粒まれに含む	10YR8/3～7.5YR8/4浅黄橙	口縁部ヨコナデ
376	4次	12区	SX03	土師器	小皿A	8.6	1.7	4.0	−	3/4	普通	φ0.5mmの乳白色、赤橙色、灰白色粒僅	10YR8/3浅黄橙	口縁部ヨコナデ
377	4次	12区	SX03	土師器	小皿A	(9.05)	(1.45)	(7.6)	−	1/4	甘	φ0.1～0.5mmの乳白色粒少量含む	2.3Y8/2灰白～2.5Y8/2浅黄	口縁部ヨコナデ
378	4次	12区	SX03	土師器	皿E	(13.8)	3.1	(8.2)	−	1/3	甘	φ0.5～1mmの灰色、乳白色、赤橙色粒僅	10YR8/2灰白～7.5YR8/4浅黄橙	口縁部ヨコナデ
379	4次	12区	SX03	土師器	皿E	(15.2)	(2.55)	(8.9)	−	1/5	普通	φ0.5mmの乳白色、赤橙色粒僅	2.5Y8/2灰白	内外面ヨコナデ
380	4次	12区	SX03	須恵器	小皿	8.35	1.25	5.2	−	3/4	甘	φ1～2mmの灰色粒僅	N6/灰	底部糸切り
381	4次	12区	SX03	須恵器	小皿	(8.8)	2.0	(4.9)	−	1/3	普通	φ0.5mm以下の白色、灰色粒を少量含む	N6/灰	底部糸切り、端部肥厚
382	4次	12区	SX03	青白磁	合子蓋	幅(2.35)	長(2.55)	−	−	1/10	良好	精良、密	5Y8/1灰白	陽刻
383	4次	12区	SX03	白磁	碗	−	(2.7)	(5.2)	(9.6)	底部1/3	良好	密	5Y8/2灰白	Ⅷ類
384	4次	12区	SX03	瓦器	椀	(14.0)	(4.5)	−	−	口縁1/4	甘	φ0.5～3mmの白色、灰白色粒含む	5Y8/1灰白	和泉型、炭素吸着ほぼなし
385	4次	12区	SX03	瓦器	椀	−	(4.55)	−	−	底部1/10	甘	φ0.5～3mmの白色、灰白色粒含む	N4/灰	和泉型、炭素吸着弱
386	4次	12区	SX03	須恵器	椀	−	4.85	−	−	口縁1/10	甘	やや粗、φ0.1～2mmの乳白色、灰色粒少量含む	5Y8/1灰白	底部糸切り、平底
387	4次	12区	SX03	須恵器	椀	(16.1)	(5.45)	5.2	−	2/3	良好	φ0.5～2mmの白色、灰白色粒少量含む	N7/灰白	底部糸切り、底部平底
388	4次	12区	SX03	須恵器	椀	(17.0)	(4.2)	−	−	口縁1/5	甘	φ0.5～10.0mmの白色、灰色粒中量含む	N8/灰白	内外面回転ナデ
389	4次	12区	SX03	土師器	鍋	(35.9)	(5.2)	−	(37.0)	口縁1/6	甘	φ0.5～3mmの白色、黄橙色、灰色粒少量含む	2.5Y6/3にぶい黄	鉢形くの字、内外面ハケ(6条/㎝)
390	4次	12区	SX01	土師器	小皿A	(8.0)	1.7	(4.6)	−	口縁1/4	普通	φ～1mm大の黒色、白色、赤橙色粒少量含む	10YR8/2灰白～8/3浅黄橙	口縁部ヨコナデ
391	4次	14区	SX01	土師器	皿F	(12.2)	(2.25)	−	−	口縁1/3	普通	密、φ1mm前後の砂粒が混じる	2.5Y8/2灰白	口縁部ヨコナデ、ナデによる凹み
392	4次	14区	SX01	須恵器	椀	−	(3.5)	−	−	口縁1/10	良好	φ0.5～1mmの白色、灰色粒少量含む	N6/灰	回転ナデ
393	4次	14区	SX01	須恵器	椀	(16.6)	4.6	5.5	−	2/3	普通	φ～2mmの白色、黒色、灰色、透明色粒微量含む	N7/灰白	底部糸切り、平底
394	4次	14区	SX01	須恵器	椀	−	(3.45)	−	−	口縁1/8	普通	密、φ1mm前後の白色粒を多く含む	N6/灰	回転ナデ
395	4次	14区	SX01	瓦器	椀	(15.1)	(4.65)	−	−	口縁1/6	普通	密、φ～5mmの乳白色、赤褐色粒少量含む	N4/灰	和泉型、炭素吸着弱
396	4次	14区	SX01	白磁	碗	(15.2)	(5.0)	−	(15.8)	口縁1/4	普通	密	施釉部5Y7/2灰白	Ⅳ類
397	4次	14区	SX01	須恵器	鉢	−	(3.85)	−	−	口縁1/10	普通	密、φ～2mmの砂粒を含む	N7/灰白	口縁部形態B3a類、片口部残存
398	4次	14区	SX01	須恵器	鉢	−	(6.4)	(14.4)	(25.0)	底部1/4	普通	やや粗い、φ～4mmの白色粒を多く含む	N6/灰	回転ナデ、内面使用痕
399	4次	14区	SX01	須恵器	壺	−	(2.05)	−	−	口縁1/14	普通	φ～1mmの白色、黒色、灰色粒少量含む	N7/灰白	口縁部、内外面摩滅
400	4次	14区	SP46	須恵器	椀	−	(2.7)	5.5	(10.8)	底部1/1	普通	φ～3mm大の透明色、黒色、白色粒少量含む	5Y8/1灰白	底部糸切り、線刻、平高台、生焼け
401	4次	12区	SK05	須恵器	椀	−	(3.6)	(6.3)	(14.6)	底部1/4	普通	やや粗、φ0.1～2mmの乳白色粒多量に含む	N8/灰白	底部糸切り、平底
402	4次	14区	SK01	土師器	小皿R	(9.0)	1.2	(6.1)	−	1/2	甘	φ0.1～1.5mmの赤褐色粒を多く含む	5YR7/6橙	底部ヘラ切り、内外面摩滅
403	4次	14区	SK01	須恵器	椀	(16.0)	(4.6)	−	−	口縁1/4	普通	φ～3mmの白色、黒色、透明色粒少量含む	N7/灰白	回転ナデ
404	4次	14区	SK01	須恵器	椀	−	(4.45)	−	−	口縁1/8	普通	φ～2mmの白色、黒色粒少量含む	N7/灰白	回転ナデ
405	4次	14区	SK01	須恵器	椀	−	(2.0)	(6.6)	(10.0)	底部1/5	普通	密、φ～2mmの黒色粒を多く含む	N6/灰	底部糸切り、平高台
406	12次	4区	SK01	土師器	小皿A	9.0	1.65	7.45	−	1/1	普通	φ～2mmの乳白色粒混じる	10YR8/3浅黄橙	口縁部ヨコナデ
407	12次	4区	SK01	土師器	皿F	14.3	2.55	10.7	−	2/3	普通	φ～2mm大の白色、赤褐色、黒色粒微量含む	10YR8/2灰白	薄手、口縁部ヨコナデ
408	12次	4区	SK01	瓦質土器	三足鍋	(20.0)	(12.25)	−	(27.5)	1/3	甘	φ0.5～2mm大の白色、灰色、褐色粒中量含む	N4/灰	内傾、脚部鍔部に接合、鍔長1.4㎝、鍔上3.8㎝、内面ハケ
409	4次	12区	SP23	須恵器	椀	−	(1.5)	(5.3)	(8.3)	底部1/2	良好	φ0.5～1mmの灰色、白色粒中量含む	N7/灰白	底部糸切り、平高台、内面凹みなし
410	4次	12区	SP63	須恵器	椀	−	(2.4)	(6.6)	(11.8)	底部1/2	普通	φ～5mmの白色、乳白色粒少量含む	N8/灰白	底部糸切り、平高台
411	4次	12区	SP73	須恵器	椀	−	(1.8)	−	−	口縁1/7	普通	密、φ～1mmの白色粒混入	N5/灰	回転ナデ
412	4次	12区	SP79	須恵器	椀	−	(2.2)	−	−	口縁1/10	普通	φ～5mmの白色、乳白色粒少量含む	N7/灰白	回転ナデ
413	4次	12区	SP80	土師器	小皿A	(8.7)	1.55	(5.1)	−	1/5	甘	φ0.5～1mmの灰色、乳白色、赤橙色粒僅	10YR8/2灰白～7.5YR8/4浅黄橙	口縁ヨコナデ、端部三角形
414	4次	12区	SP80	土師器	小皿A	9.0	1.45	(7.3)	−	1/3	普通	φ～0.5mmの白色粒少量含む	7.5YR7/6橙	手づくね、内外面摩滅
415	4次	12区	SP80	土師器	小皿A	(8.2)	(1.5)	(4.7)	−	1/4	普通	φ0.5～1mmの赤褐色、灰色粒少量含む	2.5Y8/2灰白	口縁部ヨコナデ、端部三角形
416	4次	12区	SP93	須恵器	椀	−	(4.0)	−	−	口縁1/10	良好	やや粗、φ0.1～2mmの乳白色粒多量に含む	N6/灰	回転ナデ
417	4次	12区	SP96	土師器	小皿A	9.1	1.9	7.7	−	2/3	甘	φ0.5～2mmの白色、灰色、赤褐色粒中量含む	内面：10YR8/2灰白 外面：7.5YR7/6橙	口縁部ヨコナデ
418	4次	12区	SP96	土師器	杯	(13.7)	2.15	(9.2)	−	1/6	普通	φ0.5～2mmの白色、灰白色粒少量含む	内面：10YR8/2灰白 外面10YR7/4にぶい黄橙	底部ヘラ切り、ナデ
419	4次	25区	SP96	須恵器	甕	−	(7.0)	−	(30.9)	頸部1/4	不良	φ0.5～1mm大の白色、灰色、褐色粒中量含む	N8/灰白、10YR6/1褐灰、2.5Y8/4浅黄	内外面被熱により黒変
420	4次	12区	SP102	須恵器	椀	−	(2.2)	−	−	口縁1/10	甘	φ～3mmの白色、灰色粒少量含む	7.5Y8/1～N8/灰白	回転ナデ
421	4次	12区	SP108	瓦器	椀	−	(4.5)	−	−	口縁1/10	甘	φ0.5～1mmの白色粒含む	N4/灰	和泉型、炭素吸着良好
422	4次	12区	SP111	土師器	小皿R	(8.0)	1.5	(6.4)	−	1/5	甘	φ0.5～1mmの白色、灰色、透白色、褐色粒中量含む	内面：10YR8/2灰白 外面：7.5YR7/4にぶい橙	底部ヘラ切り
423	4次	12区	SP111	須恵器	小皿	(9.1)	(1.95)	(6.1)	−	口縁1/4	良好	φ0.5～1mmの白色、灰色粒中量含む	N6/灰	回転ナデ
424	4次	12区	SP111	須恵器	椀	−	(1.8)	−	−	口縁1/10	普通	φ～5mmの白色、乳白色粒少量含む	N6/灰	回転ナデ
425	4次	12区	SP132	土師器	小皿A	(8.3)	(1.5)	(7.4)	−	1/5	甘	φ0.5～1mmの灰色、褐色、透明色粒少量含む	5YR7/4にぶい橙	内外面摩滅
426	4次	12区	SP139	須恵器	椀	(15.9)	(4.3)	(5.2)	−	1/4	良好	φ0.5～8mmの白色、灰色粒中量含む	N6/灰	回転ナデ、外面スス付着
427	4次	12区	SP139	須恵器	椀	−	(3.0)	−	−	口縁1/8	良好	φ0.5～1mmの白色、灰色粒少量含む	N6/灰	回転ナデ
428	4次	12区	SP149	須恵器	椀	−	(3.7)	−	−	口縁1/16	普通	φ0.5～1mmの白色、灰色、透明色粒少量含む	N6/灰	回転ナデ、外面スス付着
429	4次	12区	SP163	土師器	小皿A	(8.1)	1.5	(6.2)	−	口縁1/5	甘	φ0.5～2mmの乳白色、赤橙色粒僅	10YR8/2灰白～7.5YR6/6橙	口縁部ヨコナデ、端部丸み
430	4次	12区	SP163	須恵器	椀	−	(2.7)	−	−	口縁1/10	普通	φ0.5～1mmの白色、灰色粒少量含む	5Y7/1灰白	回転ナデ
431	4次	13区	SP08	土師器	鍋	(32.8)	(13.9)	−	(33.2)	1/5	普通	φ～1mmの白色、黒色、透明色、赤褐色粒やや多く含む	10YR8/2灰黄褐	内外面ハケ(7条/㎝)
432	9次	2区	SP10	土師器	小皿A	−	(1.7)	−	−	口縁1/10	普通	φ～2mm大の白色、赤褐色、透明色粒微量含む	10YR8/4浅黄橙	口縁部ヨコナデ
433	9次	2区	SP11	土師器	皿E	−	(2.15)	−	−	口縁1/9	普通	φ～2mm大の赤褐色、白色、黒色粒微量含む	10YR7/4にぶい黄橙	口縁部ヨコナデ
434	9次	2区	SP16	土師器	小皿	(8.7)	(1.65)	(4.3)	−	口縁1/4	普通	φ～2.5mm大の白色、透明色、赤褐色、黒色粒少量含む	2.5Y8/2灰白	内外面摩滅
435	9次	2区	SP16	土師器	小皿A	−	(1.55)	−	−	口縁1/10	普通	φ～2mm大の赤褐色、黒色、白色粒微量含む	10YR8/3浅黄橙、7.5YR7/4にぶい橙	口縁部ヨコナデ

遺物観察表

番号	次数	区	遺構名	種別	器種	口径	器高	底径	最大径	残存部	焼成	胎土	色調	特記事項
436	9次	2区	SP30	土師器	小皿	(9.0)	1.5	(3.7)	−	1/3	甘	φ〜8mm大の白色、赤褐色、黒色粒少量含む	7.5YR7/4にぶい橙	器面剥落
437	9次	2区	SP42	土師器	小皿A	(8.5)	1.4	(5.5)	−	1/4	普通	φ1mm大の白色、黒色、透明色粒少量含む	7.5YR8/4浅黄橙〜7/4にぶい橙	口縁部ヨコナデ
438	9次	2区	SP42	土師器	小皿A	8.7	1.9	5.0	−	3/4	普通	φ〜1mmの褐色粒混じる	7.5YR8/3浅黄橙	丸底、内面灯明痕
439	9次	2区	SP42	土師器	小皿	8.9	1.7	7.7	−	4/5	普通	φ〜1mmの褐色粒、φ3mmの石混じる	10YR8/3浅黄橙	内外面摩滅
440	9次	2区	SP42	土師器	小皿	(9.0)	1.2	(7.8)	−	2/3	普通	φ〜1mmの灰褐色粒混じる	10YR8/3浅黄橙	内外面摩滅
441	9次	2区	SP42	土師器	小皿A	−	(1.4)	−	−	1/7	普通	φ〜2mm大の白色、赤褐色、黒色粒微量含む	7.5YR8/4浅黄橙、5YR7/4にぶい橙	口縁部ヨコナデ、端部シャープ
442	9次	2区	SP42	土師器	皿E	(14.7)	3.2	(10.0)	−	1/3	普通	φ〜1mm大の粒混じる	10YR8/3浅黄橙	口縁部ヨコナデ
443	9次	2区	SP42	土師器	皿E	(15.2)	2.8	(13.5)	−	1/4	普通	φ1mm程度の乳白色、褐色粒含む、φ3mm大の石の痕あり	10YR8/3浅黄橙	口縁部ヨコナデ
444	9次	2区	SP42	須恵器	椀	(14.6)	(4.1)	−	−	口縁1/4	普通	φ1〜2mmの粒混じる	2.5Y8/1灰白	回転ナデ
445	9次	2区	SP45	土師器	小皿	(7.9)	1.5	(4.5)	−	1/4	甘	φ〜2mm大の白色粒稀に含む	10YR8/6黄橙	内外面摩滅
446	9次	2区	SP50	土師器	小皿	(8.0)	0.9	(6.0)	−	1/6	普通	φ〜1mm大の白色、赤褐色、黒色粒少量含む	7.5YR7/4にぶい橙	内外面摩滅
447	9次	2区	SP71	土師器	小皿A	(9.8)	(1.7)	−	−	1/6	普通	φ〜1mm大の白色、赤褐色、黒色粒少量含む	10YR7/4にぶい黄橙〜5YR7/4にぶい橙	口縁部ヨコナデ
448	9次	2区	SP71	須恵器	鉢	−	(6.8)	−	−	口縁1/9	良好	φ0.5〜1mmの白色、灰色粒極少量含む	N6/灰	口縁部形態B2a類
449	9次	2区	SP73	土師器	皿F	(14.0)	(2.1)	−	−	口縁1/6	普通	φ〜2mm大の白色、黒色、赤褐色粒微量含む	10YR7/4にぶい黄橙	口縁部ヨコナデ
450	9次	2区	SP74	瓦質土器	羽釜	−	(5.0)	−	−	口縁1/16	普通	φ〜5mm大の灰色、白色粒やや多く含む	10Y7/1灰白、N3/暗灰	内傾、鍔長2.0cm、鍔上2.2cm
451	9次	2区	SP74	土師器	羽釜	(32.2)	(5.1)	−	(41.8)	口縁1/3	普通	φ〜3mm大の黒色、白色、赤褐色、透明色粒やや多く含む	10YR8/2灰白〜7/3にぶい黄橙	内傾、鍔長2.5cm、鍔上3.0cm、内面ハケ
452	9次	2区	SP76	土師器	小皿A	8.7	1.8	5.25	−	4/5	普通	φ1〜3mmの褐色粒含む	10YR8/3浅黄橙	口縁部ヨコナデ、丸底
453	9次	2区	SP76	土師器	小皿A	(7.2)	1.35	(4.0)	−	1/4	普通	φ1〜2mmの褐色粒混じる	10YR8/3浅黄橙	口縁部ヨコナデ、底部凹み
454	9次	2区	SP76	土師器	小皿A	(8.0)	1.4	(4.8)	−	1/4	普通	φ〜5mm大の白色、赤褐色、黒色粒少量含む	10YR8/3浅黄橙	口縁部ヨコナデ
455	9次	2区	SP77	土師器	小皿A	(10.0)	(1.5)	−	−	1/3	普通	φ〜2mm大の透明色、白色、赤褐色、黒色粒少量含む	2.5Y8/2灰白	口縁部ヨコナデ、底部凹凸
456	9次	2区	SP79	須恵器	椀	−	(1.7)	−	−	口縁1/10	普通	φ〜1mmの乳白色粒含む	5PB5/1青灰	回転ナデ
457	9次	2区	SP84	土師器	皿F	(14.0)	(2.3)	−	−	口縁1/4	普通	φ〜1mmの褐色、赤褐色、乳白色粒含む	7.5YR8/4浅黄橙	口縁部ヨコナデ
458	22次	1区	SP40	土師器	小皿A	(7.6)	(1.5)	(5.8)	−	1/5	普通	φ0.5mm以下の白色、赤褐色粒極少量含む	10YR7/3にぶい黄橙	口縁部ヨコナデ
459	22次	1区	SP48	須恵器	椀	−	(2.5)	(5.4)	(12.3)	底部1/2	普通	φ〜1mm大の白色、黒色粒少量含む	5Y6/1灰	底部糸切り、内外面回転ナデ
460	4次	12区	包含層	土師器	小皿A	(7.9)	(1.5)	(4.6)	−	3/5	普通	φ0.5〜1mmの灰色、乳白色、赤褐色粒僅	10YR8/2灰白	口縁部ヨコナデ
461	4次	12区	包含層	瓦器	椀	(15.0)	(4.75)	(6.2)	−	1/6	普通	密、φ1mm前後の白色粒を含む	N3/暗灰	産地不明
462	4次	12区	包含層	瓦器	椀	−	(0.95)	(4.7)	(5.1)	底部1/2	普通	密、φ〜2mmの灰色粒微量含む	N4/灰	楠葉型か
463	4次	12区	包含層	陶器	小壺	−	(3.45)	(3.6)	(5.7)	底部1/3	良好	密	2.5Y8/2灰白	瀬戸美濃、底部糸切り、外面鉄釉、線刻
464	4次	12区	包含層	青磁	碗	−	(2.85)	(5.0)	(7.4)	底部1/2	普通	精良	施釉部2.5GY7/1明オリーブ灰	龍泉窯、劃花文、蓋付釉剝取り
465	4次	12区	包含層	青磁	碗	−	(3.75)	−	−	口縁1/20	良好	精良	10GY7/1明緑灰	龍泉窯、鎬蓮弁文
466	4次	12区	包含層	青磁	碗	(16.0)	(5.2)	−	−	口縁1/5	良好	精良	5Y6/2灰オリーブ	龍泉窯、劃花文
467	4次	12区	包含層	白磁	碗	(16.2)	(2.8)	−	(16.8)	口縁1/6	普通	密	5Y7/1灰白	Ⅳ類
468	4次	12区	包含層	陶器	壺	(8.8)	(3.2)	−	(10.7)	口縁1/6	普通	φ0.5〜1mmの乳白色粒僅	2.5Y7/4浅赤橙	褐釉、肩部突帯
469	4次	12区	包含層	須恵器	壺	−	(9.0)	−	−	肩部1/8	良好	φ0.5〜1mmの白色粒少量含む	N6/灰、N4/灰	肩部貼付突帯、内外面回転ナデ
470	4次	12区	包含層	土製品	土錘	幅2.45	長2.95	厚1.85	−	4/5	甘	φ0.5〜1mmの白色、灰色、褐色粒中量含む	10YR8/3浅黄橙、2.5YR6/4にぶい橙	両面凹み
471	4次	14区	包含層	土師器	小皿R	8.0	1.4	6.5	−	4/5	普通	φ〜0.5mmの微砂粒を少量含む	2.5Y8/2灰白	底部ヘラ切り、口縁部回転ナデ
472	4次	14区	包含層	瓦器	皿	(10.4)	(2.55)	−	−	口縁1/5	普通	密、φ1mm大の白色、透明色粒微量含む	N6/〜N5/灰	和泉型、内面ミガキ幅3mm
473	4次	14区	包含層	須恵器	小皿	(8.4)	1.7	(5.6)	−	口縁1/3	普通	φ0.5〜2mmの乳白色粒を少量含む	5Y7/1灰白	底部糸切り、回転ナデ
474	4次	14区	包含層	白磁	碗	(15.0)	(7.6)	7.0	(15.9)	底部3/5	普通	密	施釉部7.5Y7/1灰白	Ⅳ類、底部未接合
475	4次	14区	包含層	土師器	羽釜	(23.2)	(8.9)	−	(28.7)	口縁1/3	普通	やや粗いφ1mmの砂粒を多く含む	10YR7/4にぶい黄橙	短鍔Aタイプ、外面ハケ
476	4次	12区	包含層	金属	銅銭	2.5	−	厚0.15	−	1/1	−	−	−	孔径0.7cm、重量2.28g
477	4次	16区	包含層	須恵器	横椀か	(10.7)	(2.65)	−	(11.0)	口縁1/8	普通	密、φ〜1.5mm以下の白色粒を含む	N7/灰白	強い回転ナデ
478	3次	11−1区	SK09	須恵器	椀	−	(2.55)	−	−	口縁1/12	良好	φ0.5〜3mmの白色、灰色粒少量含む	N7/灰白	底部糸切り
479	3次	11−1区	SK09	須恵器	椀	−	(2.15)	(5.1)	(10.3)	底部1/3	普通	φ〜5mmの白色、黒色、灰色粒少量含む	N7/灰白	平高台、底部糸切り、内面凹みなし
480	3次	11−1区	SK09	須恵器	椀	15.8	5.8	5.35	−	9/10	普通	φ0.5〜2mmの白色粒中量含む	N7/灰白	平高台、内外面回転ナデ
481	3次	11−2区	SP44	土師器	皿E	−	(2.8)	−	−	1/8	甘	φ〜0.5mmの白色粒極少量含む	10YR8/3浅黄橙	口縁部1段ナデ
482	3次	11−2区	SP60	土師器	小皿	(7.0)	1.1	(5.6)	−	1/6	甘	φ0.5〜1mmの灰色、褐色、白色粒中量含む	2.5Y8/2灰白	内外面摩滅
483	3次	11−2区	SP60	土師器	小皿A	(8.0)	1.15	(6.75)	−	1/6	普通	φ0.5〜1mmの白色、灰色粒中量含む	10YR8/3浅黄橙	口縁部ヨコナデ
484	3次	11−2区	SP56	土師器	小皿A	−	(1.0)	−	−	1/6	甘	φ0.5〜1mmの白色、灰色、褐色粒少量含む	10YR8/2灰白	口縁部2段ナデ、端部丸く納める
485	3次	11−2区	SP56	土師器	埦	−	(8.3)	−	−	1/10	普通	φ0.5〜2mmの乳白色、灰白色粒中量含む	10YR8/6黄橙	受口形、内面ハケ、外面摩滅
486	3次	11−2区	SP63	土師器	皿E	(12.0)	2.0	(9.6)	−	1/5	普通	φ〜1mmの白色、黒色、赤褐色粒微量含む	10YR8/3浅黄橙	口縁部2段ナデ
487	3次	11−2区	SP63	土師器	皿E	−	(2.15)	−	−	1/8	普通	φ0.5〜1mm大の灰白色粒僅	10YR8/2灰白	口縁部2段ナデ
488	3次	11−2区	SP71	土師器	皿F	−	2.15	−	−	1/10	甘	φ〜0.5mmの白色粒少量含む	10YR8/3浅黄橙	手づくね、内外面ヨコナデ
489	3次	11−2区	SP71	土師器	小皿A	(6.5)	(1.25)	−	−	1/4	普通	φ〜0.5mmの白色粒少量含む	10YR8/2灰白	内外面ヨコナデ
490	3次	11−2区	SP71	瓦質土器	三足鍋	幅(2.0)	長(4.25)	−	−	脚部1/3	甘	φ0.5〜1mmの灰色、白色粒中量含む	内面：2.5Y8/1灰白、外面：N4/灰	指オサエ、内側炭素吸着弱
491	3次	11−2区	SP84	土師器	小皿A	−	1.0	−	−	1/10	甘	φ〜0.5mmの白色粒少量含む	10YR7/1灰白〜10YR6/1褐灰	内外面ヨコナデ
492	3次	11−2区	SK03−SP03	土師器	小皿A	(7.0)	1.15	(5.6)	−	1/6	普通	φ〜1mmの赤褐色、黒色粒微量含む	5Y8/1灰白	内外面摩滅
493	3次	11−2区	SK03−SP03	土師器	小皿A	(8.2)	1.2	(4.6)	−	1/4	普通	φ0.5〜1mmの乳白色粒僅	10YR8/2灰白	口縁部ヨコナデ、端部丸く納める
494	3次	11−2区	SK03−SP03	土師器	小皿A	(9.3)	(1.5)	(6.8)	−	1/4	普通	密、φ〜1mmの砂粒混入	10YR8/2灰白	口縁部ヨコナデ、端部丸く納める
495	3次	11−2区	SP99	須恵器	鉢	−	(3.5)	−	−	口縁1/20	普通	φ0.5〜1mm大の乳白色粒僅	N5/灰	口縁部形態B2a類
496	3次	11−2区	SP19	土師器	小皿A	(4.3)	(1.0)	−	−	1/4	普通	密、φ1mm前後の白色粒を含む	10YR8/3浅黄橙	内外面ヨコナデ
497	3次	11−2区	SP19	土師器	皿H	−	(2.65)	−	−	1/8	甘	φ〜0.5mmの白色粒極少量含む	10YR8/3浅黄橙	強いナデによる段
498	3次	11−2区	SP19	瓦質土器	埦	(30.8)	(5.65)	−	(33.0)	口縁1/6	普通	やや粗、φ0.1〜1mmの乳白色粒多量に含む	内面：10YR8/1灰白、口縁付近N4/灰 外面：10YR3/2黒褐〜10YR6/2灰黄褐	受口形、内面ハケ後ナデ、外面摩滅
499	3次	11−2区	SP05	土師器	小皿A	(7.6)	(1.3)	−	−	口縁1/6	普通	φ2mmの赤褐色粒含む	内面：7.5YR8/2灰白 外面：7.5YR7/4にぶい橙	内外面ヨコナデ、口縁端部三角形
500	3次	11−2区	SP07	土師器	皿F	(13.0)	(2.8)	(9.3)	−	底部1/5	甘	φ〜0.5mmの白色、赤褐色粒少量含む	10YR7/3にぶい黄橙	口縁部1段ナデ
501	3次	11−2区	SP12	青磁	碗	−	(1.9)	(5.9)	(7.9)	底部1/2	良好	精良	施釉部7.5Y6/2灰オリーブ	龍泉窯、劃花文、削り出し高台
502	18次	2区	SP37	土師器	小皿A	(7.4)	1.15	(6.9)	−	1/5	普通	φ0.5〜2mmの白色、灰色、褐色、赤色粒柱量含む	2.5Y8/1灰白、7.5YR7/4にぶい橙	口縁部ヨコナデ
503	18次	2区	SP01	瓦器	椀	(15.2)	4.3	(4.4)	−	1/2	普通	やや粗い、φ0.5〜1mmの白色粒多く含む	N5/灰白	和泉型、炭素吸着弱
504	20次	1区	SP01	土師器	小皿A	(7.6)	0.9	(6.0)	−	1/6	普通	φ0.5mm以下の黒色、褐色粒少量含む	5Y7/2灰白	口縁部ヨコナデ
505	20次	1区	SP13	瓦質土器	羽釜	−	(5.3)	−	−	口縁1/8	普通	やや粗い、φ1mm前後の白色粒、灰色粒多く含む	内面：5YB/1灰白 外面：N3/暗灰	直立、鍔長1.4cm、鍔上1.8cm、端部拡張
506	20次	1区	SP40	土師器	小皿A	(7.9)	1.1	(3.6)	−	1/3	普通	精良、φ1mm以下の白色粒を含む	2.5Y8/2灰白	口縁部ヨコナデ
507	20次	1区	SP08	瓦質土器	羽釜	(17.4)	(3.75)	−	(21.8)	口縁1/6	普通	φ〜1mm大の灰色粒中量含む	N3/暗灰	内傾、鍔長1.0cm、鍔上2.0cm
508	20次	1区	SP08	土師器	羽釜	(25.4)	(4.1)	−	(32.6)	口縁1/6	普通	やや粗い、φ1〜2.5mmの白色粒、φ1mm前後の褐色粒多	7.5YR8/4浅黄橙	内傾、鍔長2.1cm、鍔上2.2cm、内面ハケ、スス付着
509	20次	1区	SP08	土師器	羽釜	(24.1)	(9.55)	−	(29.9)	口縁1/6	普通	やや粗い、φ1〜3mmの白色、褐色粒含む	2.5Y8/2灰白	内傾、鍔長1.4cm、鍔上2.0cm
510	3次	11−3区	SP24	土師器	小皿A	−	(1.8)	−	−	口縁1/10	普通	φ〜3mmの赤褐色、透明色、黒色粒少量含む	10YR7/2にぶい黄橙	口縁部ヨコナデ
511	3次	11−3区	SP24	土師器	皿F	−	2.3	−	−	口縁1/20	甘	φ〜3mmの赤褐色、透明色、黒色粒少量含む	10YR7/3にぶい黄橙	内外面摩滅
512	3次	11−3区	SP24	青磁	碗	−	(2.9)	−	−	口縁1/8	普通	精良	施釉部7.5Y6/2灰オリーブ	外面鎬のない連弁文
513	3次	11−3区	SP24	須恵器	鉢	−	(4.75)	−	−	口縁1/10	普通	φ0.5〜1mm大の乳白色粒僅	N7/灰白〜N6/灰	口縁部形態C類
514	3次	11−3区	SP24	鉄製品	鉄鏃	幅(4.25)	長(13.9)	−	−	9/10	−	−	−	直線鏃、45.34g
515	3次	11−3区	SP01	須恵器	甕	−	(5.15)	−	−	口縁1/8	甘	やや粗、φ0.1〜0.5mmの黒色、乳白色粒多量に含む	内面：2.5Y7/1灰白、10YR4/2灰黄褐 外面：10YR4/1褐灰〜5YR6/6橙	生焼け、外面タタキ
516	3次	11−3区	SP17	土師器	三足鍋	−	長(13.45)	厚(2.5)	−	脚部2/3	普通	φ0.5〜1mm大の灰白色、乳白色、赤橙色粒中量含む	10YR6/3にぶい黄橙	脚部、指オサエ、面取り
517	3次	11−3区	SP17	土師器	三足鍋	幅(3.25)	長(8.65)	厚2.4	−	脚部1/2	普通	φ0.5〜2mmの灰色、白色粒中量含む	内面：10YR5/1褐灰 外面：2.5Y8/1灰白	脚部、指オサエ、面取り
518	3次	11−3区	SP37	須恵器	甕	(25.9)	(5.6)	−	(26.2)	口縁1/5	甘	密、φ〜1mmの白色、灰色、褐色粒を含む	2.5Y5/1黄灰	生焼け、外面タタキ
519	3次	11−3区	SP46	土師器	皿F	−	3.1	−	−	1/8	甘	φ〜3mmの赤褐色、透明色、黒色粒少量含む	10YR5/1褐灰〜10YR7/2にぶい黄橙	口縁部ヨコナデ
520	4次	17区	SP04	土師器	埦	(19.6)	(4.9)	−	(21.2)	口縁1/3	普通	φ0.5〜1mm大の赤褐色、灰白色、乳白色粒少	7.5YR8/6浅黄橙	播但型Ⅱ類、外面スス付着
521	4次	17区	SP19	須恵器	椀	−	(2.8)	−	−	口縁1/10	普通	φ〜1mm大の白色、黒色粒少量含む	N6/灰	回転ナデ
522	4次	19区	SP01	土師器	杯	−	(1.13)	(8.2)	(10.1)	底部1/4	普通	φ〜2mm大の白色、赤褐色、灰色粒少量含む	2.5YR7/6橙、10YR8/2灰白	底部ヘラ切り、回転ナデ

番号	次数	区	遺構名	種別	器種	口径	器高	底径	最大径	残存部	焼成	胎土	色調	特記事項
523	20次	1区	SP09	土師器	小皿R	8.9	1.3	7.0	−	1/1	普通	φ0.5mm以下の黒色、褐色粒極少量含む	10YR8/2灰白	底部ヘラ切り、口縁部回転ナデ
524	20次	1区	SP43	土師器	埦	−	(1.85)	−	−	口縁1/30	普通	φ～1mm大の白色、褐色粒少量含む	2.5Y8/3浅黄	播但型、宮原Ⅱd、外面スス付着
525	4次	17区	SP30	瓦質土器	埦	(28.4)	(13.4)	−	(30.0)	1/3	普通	φ～3mm大の白色、黒色、赤褐色粒少量含む	内面：10YR7/3にぶい黄橙 外面：2.5Y3/1黒褐	受口口縁、外面ハケ、内面底部ケズリ、外面スス付着
526	4次	22区	SP05	土師器	小皿R	(9.7)	1.7	(7.8)	−	2/3	普通	φ0.5～1mm大の灰白色、乳白色粒中	5YR6/8橙	底部ヘラ切り、内外面摩滅
527	3次	11－2区	ST03	土師器	皿E	(11.8)	2.5	(10.4)	−	口縁1/4	甘	やや密、φ0.1～0.5mm程度の乳白色少量含む	7.5YR8/3浅黄橙	口縁部ヨコナデ
528	3次	11－3区	ST04	土師器	小皿A	(7.3)	(1.5)	(5.4)	−	1/3	普通	密、φ～1mmの白色粒を多く含む	10YR8/2灰白	口縁部ヨコナデ
529	3次	11－3区	ST04	土師器	小皿A	8.3	1.7	4.7	−	3/4	普通	φ～2mm大の赤褐色、黒色、白色、透明色粒少量含む	10YR8/2灰白	口縁部ヨコナデ、端部三角状
530	3次	11－3区	ST04	土師器	小皿A	8.7	1.8	5.5	−	1/1	普通	φ～3mmの赤褐色、透明色、黒色粒少量含む	7.5YR7/4にぶい橙	口縁部ヨコナデ
531	3次	11－3区	ST04	土師器	小皿A	8.8	1.6	4.2	−	8/9	普通	密、φ1mm程の白色粒を含む	内面：10YR8/2灰白 外面：10YR8/3浅黄橙	口縁部ヨコナデ
532	3次	11－3区	ST04	土師器	小皿A	8.7	1.4	7.7	−	4/5	普通	φ1mm大の赤褐色、黒色、透明色粒少量含む	7.5YR8/4浅黄橙	口縁部ヨコナデ
533	3次	11－3区	ST04	鉄製品	刀子	幅5.05	長30.0	厚1.05	−	1/1	−	−	−	2分割、286.53ｇ
534	4次	19区	ST05	土師器	小皿R	7.8	1.2	6.05	−	1/1	甘	φ0.5～1mmの白色、灰色粒少量含む	2.5Y8/2灰白	底部ヘラ切り、回転ナデ
535	4次	19区	ST05	土師器	小皿R	8.0	1.1	6.25	−	1/1	普通	φ0.5～1mmの白色、透明色、灰色粒少量含む	10YR8/2灰白	底部ヘラ切り、回転ナデ
536	4次	19区	ST05	土師器	小皿R	8.1	1.55	5.25	−	1/1	甘	φ0.5～1mmの白色、灰色、赤褐色粒少量含む	内面：10YR8/2灰白 外面：7.5YR8/4浅黄橙	底部ヘラ切り、回転ナデ
537	4次	19区	ST05	土師器	小皿R	7.75	1.1	5.75	−	1/1	甘	φ0.5～1mmの白色、灰色粒少量含む	2.5Y8/1灰白	底部ヘラ切り、回転ナデ
538	4次	19区	ST05	土師器	小皿R	7.9	1.1	6.5	−	1/1	甘	φ0.5～3mmの白色、灰色、透白色、褐色粒中量含む	7.5YR8/4浅黄橙	底部ヘラ切り、回転ナデ
539	4次	19区	ST05	土師器	杯	15.15	3.15	8.05	−	1/1	普通	φ～5.5mm大の白色、赤褐色、黒色、透明色粒少量含む	5YR7/6橙	底部ヘラ切り、回転ナデ
540	4次	19区	ST05	土師器	杯	14.8	3.55	9.2	−	1/1	普通	φ～4mm大の赤褐色、黒色、透明色、白色粒微量含む	5YR7/4にぶい橙	底部ヘラ切り、回転ナデ
541	4次	19区	ST05	土師器	杯	14.75	3.3	8.2	−	1/1	普通	φ～6mm大の白色、赤褐色、黒色、透明色粒少量含む	2.5Y8/2灰白、7.5YR8/4浅黄橙	底部ヘラ切り、回転ナデ
542	3次	11－3区	SX10	土師器	小皿R	(8.1)	1.4	(6.4)	−	1/4	普通	密、φ1mm大の白色粒を含む	内面：10YR8/2灰白 外面：10YR8/3浅黄橙	底部ヘラ切り、内外面ナデ
543	3次	11－3区	SX10	土師器	皿O	−	(1.7)	−	−	口縁1/9	普通	φ～1mmの黒色、赤褐色、透明色粒微量含む	2.5Y8/3浅黄	口縁部ヨコナデ
544	16次	9区	SD01	土師器	皿O	(10.6)	(2.1)	−	−	1/5	普通	φ0.5mm以下の黒色、橙色粒少量含む	2.5Y8/1灰白、2.5Y7/1灰白	口縁部ヨコナデ
545	16次	9区	SD01	土師器	小皿A	(8.4)	2.1	(4.0)	−	1/5	普通	φ0.5mm以下の白色、褐色、橙色粒少量含む	2.5Y7/1灰白	皿c形態、口縁部ヨコナデ
546	16次	9区	SD01	土師器	小皿A	(9.6)	(1.7)	(5.0)	−	1/5	普通	φ0.5mm以下の褐色、橙色粒少量含む	2.5Y8/1灰白	口縁部ヨコナデ
547	16次	9区	SD01	土師器	皿O	(10.8)	(2.75)	(6.8)	−	口縁1/3	普通	φ～1mm大の褐色、透明色粒極少量含む	10YR8/2灰白	口縁部指オサエ後ヨコナデ
548	16次	9区	SD01	土師器	皿H	−	(3.0)	−	−	口縁1/10	普通	φ0.5mm以下の灰色、褐色、透明色粒少量含む	内面：10YR7/2にぶい黄橙 外面：2.5Y7/1灰白	口縁部ヨコナデ、端部シャープ
549	16次	9区	SD01	土師器	皿F	−	(2.5)	−	−	口縁1/8	普通	φ0.5mm以下の褐色粒少量含む	2.5Y7/1灰白、10YR7/2にぶい黄橙	口縁部指オサエ後ヨコナデ
550	3次	11－3区	SX10	瓦器	椀	−	(3.2)	−	−	口縁1/9	普通	φ～0.5mmの白色粒極少量含む	10YR8/3浅黄橙、N3/暗灰	楠葉型、沈線なし
551	3次	11－3区	SX10	青磁	碗	−	(2.6)	6.35	(10.8)	1/1	普通	精良	5GY6/1オリーブ灰	無文、量付釉
552	3次	11－3区	SX10	白磁	碗	−	(2.9)	(5.2)	(10.2)	1/1	普通	密	施釉部2.5Y8/3淡黄	Ⅸ類
553	3次	11－3区	SX10	白磁	碗	−	(2.85)	(7.3)	(10.4)	底部1/2	普通	密	施釉部7/5Y7/1灰白	Ⅳ類
554	16次	9区	SD01	土師器	埦	−	(5.1)	−	−	口縁1/10	普通	φ～1.5mm大の白色、灰色、褐色粒少量含む	10YR7/4にぶい黄橙	播但型、宮原Ⅱc
555	3次	11－3区	SX10	土師器	埦	(27.4)	(6.0)	−	(28.3)	口縁1/4	普通	φ～4mmの透明色、黒色、赤褐色粒をやや多く含む	N3/暗灰	鉄カブト形Ⅰ類、外面タタキ、内面ハケ
556	3次	11－3区	SX10	土師器	埦	(20.0)	(11.3)	−	(23.4)	口縁1/5	甘	φ0.5～2mmの白色、褐色、灰色粒少量含む	10YR7/2にぶい黄橙	播但型、宮原Ⅱc
557	3次	11－3区	SX10	瓦質土器	羽釜	(23.0)	(8.05)	−	(26.7)	口縁1/4	普通	φ～2mmの白色、黒色粒微量含む	内面：2.5Y6/3にぶい黄～2.5Y7/2灰黄 外面：N3/暗灰	上方屈曲形、内外面ハケ、口縁部ナデ
558	3次	11－3区	SX10	瓦質土器	三足埦	(24.4)	(7.9)	−	(28.0)	1/6	普通	φ～2mmの灰色、白色粒少量含む	N3/暗灰	上方屈曲形、内外面ハケ、口縁部ナデ
559	3次	11－3区	SX10	瓦質土器	羽釜	−	(5.2)	−	−	口縁1/10	普通	精良	N4/灰	内傾、鍔上2.8㎝
560	3次	11－3区	SX10	土師器	羽釜	−	(6.45)	−	−	口縁1/20	普通	φ～0.5mmの白色、透白色、灰色粒少量含む	10YR6/2灰黄褐	多段口縁、内面ハケ、スス付着
561	3次	11－3区	SX10	瓦質土器	三足埦	−	(9.55)	−	−	脚部1/3	甘	φ0.5～3mmの白色、灰色、褐色粒中量含む	N4/灰	指オサエ、面取り
562	3次	11－3区	SX10	土師器	三足埦	幅(5.75)	長(9.8)	厚(3.2)	−	脚部1/3	普通	φ0.5～1mmの乳白色、灰白色粒多量に含む	内面：10YR8/3浅黄橙 外面：10YR8/2灰白	内外面ハケ
563	3次	11－3区	SX10	須恵器	鉢	(26.9)	(4.15)	−	(28.2)	口縁1/6	普通	やや粗、φ～2mmの白色粒を含む	N6/灰	口縁部形態B2b類
564	3次	11－3区	SX10	須恵器	鉢	−	(3.35)	−	−	口縁1/12	普通	φ0.5～1mmの白色、灰色粒少量含む	5Y7/1灰白	口縁部形態C類
565	3次	11－3区	SX10	須恵器	鉢	−	(6.1)	−	−	口縁1/10	普通	φ0.5～3mmの白色、灰色粒中量含む	内面：N7/灰白 外面：5Y7/1灰白	口縁部形態C類
566	3次	11－3区	SX10	須恵器	鉢	−	(3.1)	−	−	口縁1/12	普通	φ0.5～2mmの白色、灰色粒少量含む	内面：5Y6/1灰 外面：N6/灰	口縁部形態B3b類
567	16次	9区	SD01	須恵器	鉢	−	(4.3)	−	−	口縁1/10	普通	φ～3mm大の白色、灰色、褐色、透明色粒を中量含む	2.5Y7/3浅黄、2.5YR6/6橙	生焼け、口縁部形態B3b類
568	3次	11－3区	SX10	備前焼	擂鉢	−	(4.7)	−	−	口縁1/16	普通	φ～4mmの白色、黒色粒少量含む	N6/灰	中世3b期
569	3次	11－3区	SX10	備前焼	擂鉢	−	(6.15)	−	−	口縁1/12	普通	精良	N6/灰	擂目8本、中世3b期
570	3次	11－3区	SX10	備前焼	擂鉢	−	(7.0)	−	−	口縁1/10	普通	φ0.5～2mmの乳白色粒少し含む	2.5YR4/2灰赤	擂目8本、中世3b期
571	3次	11－3区	SX10	備前焼	擂鉢	−	(8.5)	−	−	口縁1/10	普通	φ～3mmの白色、赤色、黒色粒少量含む	N5/灰	擂目8本、中世3b期
572	3次	11－3区	SX10	備前焼	擂鉢	(26.8)	(8.75)	−	(29.6)	口縁1/6	普通	φ～5mmの白色、赤色粒少量含む	5PB5/1青灰	擂目8本、中世3b期
573	3次	11－3区	SX10	備前焼	擂鉢	−	(6.5)	−	−	口縁1/16	普通	密、φ～2mmの白色粒まれに含む	5PB5/1青灰	中世6a期
574	7次	35区	SD01	備前焼	壺	(10.8)	(4.1)	−	(11.6)	口縁1/5	良好	φ0.5～2mmの白色粒少量含む	2.5Y6/1黄灰	口縁玉縁
575	3次	11－3区	SX10	須恵器	甕	−	(4.4)	−	−	口縁1/12	普通	φ0.5～2mmの白色、灰色、黒色粒少量含む	2.5Y8/1灰白	外面タタキ
576	3次	11－3区	SX10	須恵器	甕	−	(5.0)	−	−	口縁1/13	良好	φ0.5～2mmの白色、灰色粒少量含む	N6/灰	外面タタキ
577	3次	11－3区	SX10	瓦質土器	火鉢	幅(6.1)	長(4.4)	厚(2.2)		把手1/1	普通	φ～1mm大の白色、赤褐色灰色粒少量含む	2.5Y5/2暗灰黄	胴部獣面文残欠
578	3次	11－3区	SX10	石製品	砥石	幅5.6	長6.85	厚2.3	−	1/6	−	−	−	チャート系、1面使用、重量108ｇ
579	3次	11－3区	SX10	瓦	軒丸瓦			−	−	瓦当1/4	普通	φ～5mmの白色粒少量含む	5B6/1青灰	須恵質、丸瓦部粗いハケ
580	3次	11－3区	SX10	瓦	平瓦	幅(8.9)	長(9.0)	厚2.1	−	1/20	普通	φ～2mmの黒色、白色、透明色粒やや多く含む	表N5/灰	須恵質、凸面ケズリ、凹面布目
581	3次	11－3区	SX10	瓦	丸瓦	幅(8.2)	長(10.3)	厚1.85	−	1/20	普通	密、φ～1mmの白色粒混入	N7/灰白	須恵質、凸面斜格子タタキ、凹面布目(7本/㎝)
582	3次	11－3区	SX10	瓦	平瓦	幅(6.4)	長(8.25)	厚2.0	−	1/20	−	φ～3mmの黒色、透明色、白色粒少量含む	表：N8/灰白 裏：7.5Y5/1灰	須恵質、凸面ケズリ、凹面布目
583	3次	11－1区	SD01	須恵器	椀	−	(1.7)	(6.2)	(9.8)	底部1/4	普通	φ～2mmの透明色、白色、黒色粒少量含む	N8/灰白	底部糸切り、内外面回転ナデ
584	3次	11－1区	SD02	須恵器	椀	(14.2)	(2.3)	−	−	口縁1/7	普通	やや密、φ0.1～1mmの乳白色粒少量含む	N7/灰白	内外面回転ナデ
585	3次	11－1区	SD02	須恵器	椀	−	(1.4)	5.5	(9.0)	底部1/1	普通	φ～3mmの白色、灰色粒少量含む	N7/灰白	平高台、底部糸切り、内面凹みなし
586	3次	11－2区	SD01	土師器	小皿	−	(1.7)	−	−	口縁1/10	普通	φ0.5mm大の乳白色粒僅	内面：2.5Y7/4浅黄 外面：2.5Y8/2灰白	内外面摩滅
587	3次	11－2区	SD01	土師器	埦	−	(6.45)	−	−	口縁1/8	普通	φ0.5～2mmの白色、灰色、透白色、褐色粒中量含む	7.5YR7/6橙	鉄かぶと形Ⅰ類、外面タタキ、口縁内面ナデ
588	3次	11－2区	SD17	土師器	埦	(32.3)	(15.15)	−	(33.3)	口縁3/4	甘	φ1～4mmの白色、灰色、褐色粒多量に含む	10YR7/3にぶい黄橙	甕形厚手、外面ハケ、内面板ナデ
589	4次	22区	SD03	須恵器	椀	−	(2.45)	(6.2)	(11.9)	底部1/4	普通	密、φ～1.5mm大の白色、灰色粒少量含む	N8/灰白、2.5Y8/1灰白	底部糸切り、平高台、内面凹む
590	3次	11－3区	SX01	土師器	小皿	(7.8)	1.1	(6.0)	−	1/4	甘	φ0.5～1mmの灰色、褐色、白色粒少量含む	内面：2.5Y8/2灰白 外面：2.5Y7/3浅黄	内外面摩滅
591	3次	11－3区	SX01	青磁	碗	−	(1.6)	5.5	(6.55)	底部3/4	普通	精良	施釉部2.5GY6/1オリーブ灰	見込み印版、高台内ケズリ、量付釉
592	3次	11－3区	SX01	須恵器	鉢	(29.5)	(7.65)	−	(30.6)	口縁1/6	普通	φ～3mmの灰色、黒色、白色粒少量含む	N7/灰白	口縁部形態B3a類
593	3次	11－3区	SX01	須恵器	甕	(27.8)	(6.6)	−	(29.0)	口縁1/6	普通	φ～2mmの黒色、白色、透明色粒少量含む	内面：2.5Y7/1灰白 外面：5Y8/1灰白	生焼け、外面タタキ後ハケ、内面スス付着
594	3次	11－3区	SX01	瓦質土器	羽釜	(22.2)	(6.35)	−	(29.0)	口縁1/6	普通	φ～4mm白色、灰色粒少量含む	2.5Y6/1黄灰	内傾、鍔長1.7㎝、鍔上2.6㎝
595	3次	11－3区	SX01	瓦質土器	羽釜	−	(5.15)	−	−	口縁1/10	普通	φ0.5～1mmの乳白色、灰白色粒僅	10YR8/3浅黄橙	内傾、鍔長1.2㎝、鍔上2.0㎝
596	3次	11－3区	SX01	瓦質土器	羽釜	(22.0)	(4.55)	−	(25.9)	口縁1/6	甘	φ0.5～1mmの灰色、白色粒中量含む	内面：N5/灰 外面：2.5Y7/1灰白	直立、鍔長1.2㎝、鍔上1.6㎝、鍔下炭素吸着弱
597	3次	11－3区	SX01	瓦質土器	三足埦	−	(13.1)	−	−	脚部2/3	普通	φ～2.5mmの白色、赤色、透明色粒少量含む	内面：2.5Y8/1灰白 外面：N6/～N4/灰	指オサエ、面取り
598	3次	11－3区	SX01	瓦質土器	埦	−	(11.0)	−	−	口縁1/12	普通	φ0.5～1mmの乳白色、灰白色粒僅	内面：2.5Y8/2灰白、外面：N4/灰	受口形、内面ハケ、外面炭素吸着、内面白色
599	3次	11－2区	SK04	瓦質土器	三足埦	−	(12.35)	−	−	1/8	普通	φ～2mmの白色、赤褐色粒やや多く含む	2.5Y7/1灰白	内傾、内面ハケ、鍔長1.2㎝、鍔上3.2㎝
600	3次	11－2区	SK04	須恵器	甕	−	(7.0)	−	−	口縁1/12	普通	φ～1mmの白色、赤褐色、透明色、黒色粒やや多く含む	2.5Y8/2灰白	生焼け、外面矢羽状タタキ、内面ハケ
601	3次	11－3区	SK03	土師器	埦	(16.0)	(3.8)	−	(18.3)	口縁1/6	普通	φ～4mmの白色、赤色、透明色粒少量含む	7.5YR8/4浅黄橙	播但型Ⅲ類
602	3次	11－3区	SX05	土師器	小皿B	(8.8)	1.75	(4.0)	−	1/4	普通	密、φ～1mmの透明色、黒色粒微量含む	内面：2.5Y8/2灰白 外面：10YR8/3浅黄橙	皿O形態、指オサエ、ナデー部
603	3次	11－3区	SX05	土師器	埦	(16.4)	(4.75)	−	(17.6)	口縁1/6	普通	φ～4mmの赤色、白色、黒色粒やや多く含む	5YR6/6橙	播但型Ⅲ類、外面タタキ
604	3次	11－3区	SX05	土師器	埦	(21.1)	(7.6)	−	(23.7)	口縁1/5	良好	やや粗、φ～1mmの砂粒を多く含む	N6/灰	播但型Ⅲ類、外面タタキ、焼成硬質
605	4次	17区	SK01	土師器	皿	−	(3.1)	−	−	口縁1/10	普通	φ～1mm大の白色粒微量含む	2.5Y8/2灰白	口縁部ヨコナデ
606	3次	11－2区	SP16	瓦質土器	羽釜	−	(4.65)	−	−	口縁1/20	甘	φ0.5～2mmの白色、灰色粒多量に含む	2.5Y6/1黄灰	内傾、鍔長1.8㎝、鍔上3.2㎝
607	3次	11－2区	SP35	土師器	小皿	(7.3)	0.9	(6.2)	−	1/6	普通	密、φ～1mmの赤褐色、黒色粒微量含む	内面：2.5Y8/2灰白 外面：10YR8/3浅黄橙	内外面摩滅
608	3次	11－2区	SP42	土師器	羽釜	−	(7.35)	−	−	口縁1/10	普通	φ0.5～2mmの乳白色、灰白色粒少量含む	2.5Y R6/6橙	内傾、鍔長1.6㎝、鍔上2.3㎝
609	3次	11－2区	SP45	石製品	砥石	幅5.8	長(7.7)	厚3.1	−	1/2	−	−	5Y8/1灰白	凝灰岩、4面使用、重量187ｇ

遺物観察表

番号	次数	区	遺構名	種別	器種	口径	器高	底径	最大径	残存部	焼成	胎土	色調	特記事項
610	3次	11−2区	SP49	土師器	小皿	(10.3)	1.4	(6.8)	−	1/4	不良	やや粗、φ0.1～1mmの乳白色、橙色粒多量に含む	5YR6/6橙、10YR8/2灰白	手づくね、内外面摩滅
611	3次	11−2区	SP55	土師器	小皿	(7.6)	(1.5)	(5.1)	−	1/5	普通	密、φ1mm以下の砂粒を含む	内面：10YR8/3浅黄橙 外面：2.5YR8/2灰白	手づくね、内外面摩滅
612	3次	11−2区	SP55	土師器	皿H	(13.0)	2.7	(9.6)	−	1/4	普通	φ～1mmの赤褐色、白色、黒色、茶色粒微量含む	2.5Y8/2灰白	口縁部ヨコナデ
613	3次	11−2区	SP59	土師器	皿E	(12.3)	2.5	(8.1)	−	1/2	普通	密、φ～1mmの白色粒を多く含む	7.5YR8/6浅黄橙	口縁部2段ナデ
614	3次	11−2区	SP72	瓦質土器	鍋	(20.0)	(6.15)	−	(27.7)	口縁1/4	普通	φ0.5～8mmの白色、灰色、赤褐色粒中量含む	内面：10YR4/1褐灰 外面：2.5YR6/8橙	外面格子タタキか、摩滅のため不明
615	3次	11−2区	SP74	瓦質土器	羽釜	−	(4.1)	−	−	口縁1/8	普通	φ0.5～1mmの白色、灰色粒多量に含む	N4/灰	内傾、鍔長1.2㎝、鍔上1.8㎝
616	3次	11−2区	SP93	常滑焼	甕	−	(13.8)	−	−	胴部1/20	良好	φ0.5～1mm大の白色、灰色、褐色粒中量含む	7.5YR7/4にぶい橙	外面格子タタキ
617	3次	11−2区	SP107	土師器	小皿A	8.2	1.7	6.55	−	9/10	普通	φ～1mmの赤褐色、白色、黒色粒微量含む	7.5YR8/4浅黄橙	内外面ヨコナデ、口縁端部三角形
618	3次	11−2区	SP152	土師器	鍋	−	(6.8)	−	−	頸部1/8	普通	φ0.5～1mmの乳白色、赤褐色、灰色粒中量含む	7.5YR7/6橙	播但型Ⅱ類、宮原Ⅱb、外面タタキ、内面ハケ
619	3次	11−2区	SP153	瓦質土器	三足鍋	−	(6.25)	−	−	口縁1/20	甘	φ0.5～2mmの白色、灰色粒中量含む	N4/灰	内傾、鍔長1.0㎝、鍔上2.0㎝
620	3次	11−3区	SP22	瓦質土器	羽釜	(19.05)	(5.25)	−	(24.8)	口縁1/6	甘	φ0.5～2mmの白色、灰色粒多量に含む	5Y6/1灰、N6/灰	内傾、鍔長1.6㎝、鍔上2.2㎝、接合しない脚部
621	3次	11−3区	SP57	石製品	砥石	幅(5.0)	長(6.4)	厚3.7	−	1/3	−	−	−	凝灰岩製、線刻、重量154ｇ
622	3次	11−3区	SP61	土師器	皿H	(11.0)	(3.0)	(9.3)	−	1/4	甘	密、φ～1mmの白色粒を多く含む	2.5Y8/2灰白	口縁部ヨコナデ、摩滅
623	3次	11−3区	SP100	瓦質土器	羽釜	(27.8)	(5.7)	−	(30.9)	口縁1/6	普通	やや粗、φ0.1～0.5mmの乳白色粒少量含む	N4/灰～5Y5/1灰	直立、鍔長1.6㎝、鍔上2.3㎝、鍔下スス付着
624	4次	19区	SP20	土師器	羽釜	−	(4.8)	−	−	口縁1/8	普通	φ～2mm大の赤褐色、灰色、白色、透明色粒多く含む	10YR7/4～6/3にぶい黄橙	短鍔Bタイプ、外面ハケ、スス付着
625	16次	8区	SP04	須恵器	椀	−	(2.3)	−	−	口縁1/20	普通	φ0.5mm以下の黒色粒極少量含む	5Y8/1灰白	回転ナデ
626	20次	1区	SP04	土師器	皿O	−	(2.4)	−	−	口縁1/7	普通	精良、φ1mm以下の赤色、白色粒を含む	2.5Y8/1灰白	口縁部ヨコナデ
627	20次	1区	SP19	土師器	皿O	−	(1.7)	−	−	口縁1/8	普通	精良、φ1mm以下の白色、赤色粒含む	10YR7/3にぶい黄橙～10YR8/2灰白	口縁部ナデ
628	20次	1区	SP23	土師器	皿O	−	(1.7)	−	−	1/10	普通	精良、φ0.5mm以下の赤色粒含む	2.5Y8/1灰白	端部シャープ
629	20次	1区	SP23	土師器	小皿A	−	(1.4)	−	−	1/8	普通	φ0.5mm以下の褐色、透明色粒極少量含む	5Y8/1灰白	口縁部ヨコナデ
630	20次	1区	SP23	土師器	皿O	(10.8)	(1.6)	−	−	1/6	普通	φ0.5mm以下の灰色、褐色、透明色粒少量含む	2.5Y8/2灰白	口縁部ヨコナデ
631	20次	1区	SP24	瓦質土器	鍋	−	(1.5)	−	−	口縁1/30	甘	やや粗い、φ1mm前後の白色、灰色粒多い	N8/灰白	受口形、炭素吸着極めて弱
632	20次	1区	SP25	土師器	皿O	−	(1.9)	−	−	口縁1/7	普通	精良、φ1.5mm以下の赤褐色粒多い	10YR8/2灰白	口縁部シャープ、指オサエ後ヨコナデ
633	20次	1区	SP25	土師器	皿O	−	(1.9)	−	−	口縁1/7	普通	精良、φ1.5mm以下の赤褐色粒多い	10YR8/2灰白	口縁部シャープ、指オサエ後ヨコナデ
634	20次	1区	SP29	土師器	皿H	−	(2.05)	−	−	口縁1/10	普通	φ0.5mm以下の黒色、褐色粒極少量含む	5Y5/2灰オリーブ、10YR5/3にぶい黄褐	薄手、口縁部シャープ
635	20次	1区	SP35	須恵器	鉢	−	(3.0)	−	−	口縁1/13	甘	φ0.5mm以下の白色、灰色、黒色、褐色粒少量含む	内面：10YR7/3にぶい黄橙 外面：5Y4/1灰、2.5Y8/1灰白	口縁部形態Bｌb類
636	20次	1区	SP37	土師器	杯	(11.95)	2.8	6.75	−	2/3	普通	精良、φ1mm以下の白色、灰色粒多く含む	10YR8/2灰白	皿H形態、底部ヘラ切り、底部板状圧痕
637	16次	10区	SP11	須恵器	椀	−	(3.9)	−	−	口縁1/10	普通	φ0.5mm以下の灰色、白色粒少量含む	N6/灰	回転ナデ
638	16次	10区	包含層	石器	石錐か	−	2.7	−	−	1/2	−	−	10YR4/1褐灰色	先端研磨、重量4ｇ
639	5次	25−2区	SP17	土師器	鍋	−	(4.65)	−	−	口縁1/20	普通	φ0.5～1mmの白色、灰色、透白色、褐色粒中量含む	10YR5/3にぶい黄褐	鉄かぶと形Ⅲ類、口縁丸く収める、内面ナデなし
640	7次	37区	SP13	須恵器	椀	−	(2.8)	−	−	口縁1/10	普通	φ～3mm大の白色、灰色粒少量含む	7.5Y6/1灰	回転ナデ
641	7次	37区	SP13	須恵器	椀	−	傾き	−	−	口縁1/16	普通	φ～2mm大の黒色、灰色、白色粒少量含む	N8/灰白、N2/黒	回転ナデ
642	7次	37区	SP03	瓦器	椀	−	(2.4)	−	−	口縁1/10	普通	密、φ～2mmの黒色粒稀に含む	N4/灰	和泉型、炭素吸着良好、内面ミガキ
643	5次	24−4区	SP106	土師器	皿O	−	(2.55)	−	−	口縁1/8	普通	φ～1mmの白色、赤褐色、黒色粒微量含む	10YR8/3浅黄橙	内外面摩滅
644	5次	24−4区	SK22	土師器	小皿A	(8.0)	(1.1)	−	−	口縁1/6	甘	φ～1mm大の赤色、黒色粒微量含む	2.5Y8/2灰白	口縁部ヨコナデ
645	5次	24−4区	SK22	土師器	鍋	−	(3.9)	−	−	胴部1/30	普通	密、φ～1mmの砂粒を含む	7.5YR8/3浅黄橙	播磨型体部か、外面タタキ
646	4次	23区	SP110	土師器	小皿A	−	(2.3)	−	−	口縁1/6	普通	φ1mmの乳白色、灰色、褐色の粒混じる	10YR8/3浅黄橙	口縁部ヨコナデ
647	4次	23区	SP14	土師器	鍋	(25.0)	(8.35)	−	(25.5)	口縁1/3	普通	φ～5mm大の白色、黒色、透明色、赤褐色粒少量含む	内面：10YR5/2灰黄褐 外面：2.5Y2/1黒	鉄かぶと形Ⅱb類、外面タタキ、底部屈曲
648	4次	23区	SP46	土師器	鍋	(28.6)	(9.6)	−	(2.95)	1/4	普通	φ～4mm大の乳白色、白色、透明色、黒色粒少量含む	内面：7.5YR5/3にぶい褐 外面：N3/暗灰	鉄かぶと形Ⅱb類、内面洗いナデ、外面タタキ、スス付着
649	4次	23区	SP51	土師器	鍋	(27.6)	(10.15)	−	(28.5)	1/3	普通	φ～4mmの乳白色、白色、黒色、赤褐色粒少量含む	7.5YR6/4にぶい橙	鉄かぶと形Ⅱc類、内面ナデ、外面タタキ、スス付着
650	10次	6区	SE04	土師器	皿ＦⅠ	(13.1)	(2.25)	−	−	1/4	普通	φ～1mm大の白色、黒色、赤褐色粒微量含む	10YR7/3にぶい黄橙	外面指オサエ、粘土チギレ、内面ナデ
651	10次	6区	SE04	土師器	鍋	−	(5.4)	−	−	口縁1/12	普通	φ～2mm大の白色、赤褐色、黒色粒少量含む	5YR7/6橙	鉄かぶと形Ⅰ類、内面2段ナデ、外面タタキ、スス付着
652	10次	6区	SE04	丹波焼	甕	−	(6.1)	−	−	口縁1/18	普通	φ0.5～1mm大の乳白色、黒色粒少	5Y6/2灰オリーブ	口縁部断面三角形、外面鉄釉
653	10次	6区	SE04	須恵器	鉢	−	(6.6)	(13.4)	(22.8)	底部1/2	普通	φ5mmの乳白色粒、φ～1mmの細かい粒含む	2.5Y6/2灰黄	底部糸切り、内外面回転ナデ
654	4次	23区	SE05	青磁	碗	−	(2.7)	−	−	口縁1/10	普通	精良	10Y6/2オリーブ灰	無文
655	4次	23区	SE05	備前焼	杯	(8.9)	3.15	(5.9)	(9.3)	1/3	普通	φ0.5mm以下の白色、橙色を少量含む	10YR5/2灰黄褐、10YR4/1褐灰	底部糸切り、回転ナデ
656	4次	23区	SE05	木製品	漆椀	−	(2.5)	5.3	(8.45)	底部9/10	−	−	−	黒漆椀、内面朱塗
657	4次	23区	SE05	備前焼	擂鉢	−	(5.65)	−	−	底部1/8	普通	φ～4mm大の赤色、白色粒やや多く含む	5Y4/1暗赤灰	擂目9本
658	4次	23区	SE05	備前焼	甕	−	(6.7)	−	−	口縁1/12	普通	φ～2mm大の白色、茶色、黒色粒少量含む	2.5YR4/2灰赤	回転ナデ
659	4次	23区	SE05	土師器	鍋	−	(6.1)	−	−	口縁1/10	普通	φ～1mm大の白色、赤色、黒色、透明色粒少量含む	10YR5/3にぶい黄褐	播磨型、外面タタキ、内面ハケ
660	4次	23区	SE05	土師器	鍋	(22.2)	(9.0)	−	(24.3)	2/3	普通	φ～4mm大の透明色、白色、赤褐色粒少量含む	10YR5/3にぶい黄褐	播磨型、外面タタキ、内面ハケ
661	4次	23区	SE05	土師器	羽釜	−	(8.0)	−	(27.0)	胴部1/8	良好	密、φ0.1～0.5mmの透明色粒含む	7.5YR8/2灰白～7.5YR7/4にぶい橙	鍔長2.0㎝、胎土精良
662	4次	23区	SE05	瓦質土器	羽釜	−	(6.5)	−	(27.5)	胴部1/6	普通	精良、φ～4mm大の乳白色、白色、黒色粒微量含む	10YR7/3にぶい黄橙	外面鍔長2.2㎝、鍔下スス付着、内面板ナデ
663	14次	9区	SE06	備前焼	擂鉢	−	(9.75)	−	−	口縁1/10	良好	φ0.5～2mmの白色、灰色粒極少量含む	7.5YR6/4にぶい橙	スリ目7本、中世6ａ期
664	7次	36区	SD01	土師器	小皿A	(9.5)	(1.7)	(4.1)	−	1/4	普通	密、φ～2mm大の灰色粒稀に含む	2.5Y8/2灰白	口縁部ヨコナデ
665	7次	36区	SD01	青磁	碗	−	(2.9)	−	−	口縁1/16	普通	精良	施釉部2.5GY7/1明オリーブ灰	釉調緑色、端部外反
666	7次	36区	SD01	青磁	碗	−	(2.45)	−	−	口縁1/12	良好	精良	2.5GY6/1オリーブ灰	細蓮弁文
667	7次	36区	SD01	瀬戸焼	平碗	−	(1.7)	(4.3)	(7.4)	底部1/1	普通	φ～2mm大の白色、透明色粒微量含む	7.5Y7/2灰白～3/2オリーブ黒	緑釉
668	7次	36区	SD01	磁器	碗	−	(2.9)	−	(11.7)	底部1/4	普通	密、φ1mm以下の黒色粒含む	10GY8/1明緑灰	染付碗Ｄ群
669	7次	36区	SD01	土師器	鍋	−	(5.7)	−	−	口縁1/18	普通	φ0.5～1mm大の赤橙色、乳白色粒少	7.5YR6/4にぶい橙	鉄かぶと形Ⅲ類、内面ナデ、外面タタキ、スス付着
670	7次	36区	SD01	土師器	鍋	−	(3.95)	−	−	口縁1/16	普通	φ～4mm大の赤褐色、白色、黒色、透明色粒少量含む	7.5YR6/4にぶい橙、10YR4/1褐灰	鉄かぶと形Ⅲ類、内面ナデ強、端部丸み、内面黒変
671	7次	36区	SD01	土師器	鍋	(27.4)	(4.8)	−	(28.3)	口縁1/8	普通	φ0.5～1mm大の乳白色、灰白、赤橙色粒少	7.5YR6/4にぶい橙	鉄かぶと形Ⅲ類、端部玉縁、内面ナデなし
672	7次	36区	SD01	土師器	鍋	−	(4.1)	−	−	口縁1/10	普通	φ～3mm大の赤褐色、白色、透明色粒少量含む	10YR7/4にぶい黄橙	播磨型、外面段、内外面スス付着
673	7次	36区	SD01	土師器	鍋	−	(5.9)	−	−	口縁1/10	良好	密、φ0.2～1mmの白色、褐色粒少量含む	5YR6/4にぶい橙	播磨型、内面ハケ、外面タタキ
674	7次	36区	SD01	土師器	鍋	(24.0)	(6.45)	−	(27.5)	口縁1/6	普通	φ～3mm大の白色、赤色、黒色粒少量含む	5YR7/6橙	播磨型、内面板ナデ、外面タタキ
675	7次	36区	SD01	瓦質土器	香炉	−	(3.65)	−	−	口縁1/10	普通	φ～2mm大の白色、透明色、黒色粒少量含む	N5/灰	外面スタンプ文
676	7次	36区	SD01	備前焼	壺	(9.9)	(2.7)	−	(10.6)	口縁1/5	良好	密、φ0.1mm以下の白色、透明色粒を少量含む、0.7×0.4mmの赤茶色粒含む	5YR4/2灰褐	端部折り返し
677	7次	36区	SD01	瓦質土器	甕	−	(10.1)	−	−	口縁1/14	甘	φ0.5～1mm大の乳白色、赤橙色粒、少	内面：2.5Y7/2灰黄 外面：5Y6/1灰	外面格子タタキ、内面ハケ
678	7次	36区	SD01	瓦質土器	甕	(35.4)	(7.4)	−	(37.2)	口縁1/4	普通	φ0.5～1mmの白色、褐色、透明色、灰色粒中量含む	内面：10YR5/2灰黄褐 がいめｎ：N4/灰	外面格子タタキ、ハケ、内面ハケ
679	7次	36区	SD01	土師器	土錘	幅2.2	長8.1	厚2.35	−	9/10	普通	φ～2mmの黒色、赤褐色、白色粒少量含む	10YR8/3浅黄橙	孔径6㎜
680	7次	36区	SD01	備前焼	擂鉢	−	(5.05)	−	−	口縁1/12	普通	φ～5mm大の赤褐色、白色粒少量含む	2.5YR5/3にぶい赤褐～5YR4/1褐灰	擂目5本、中世4b期
681	7次	36区	SD01	備前焼	擂鉢	−	(5.6)	−	−	口縁1/12	普通	φ～1mm大の白色粒少量含む	N7/灰白～N6/灰	擂目なし、中世5a期
682	7次	36区	SD01	備前焼	擂鉢	−	(4.15)	−	−	口縁1/10	普通	φ～0.5mmの白色粒極少量含む	N5/灰	擂目9本、中世3b期
683	7次	36区	SD01	備前焼	甕	(27.4)	(5.05)	−	(29.6)	口縁1/6	普通	やや密、φ0.1～1mm程度の乳白色粒少量含む	2.5YR5/4にぶい褐	口縁部玉縁
684	7次	36区	SD01	備前焼	甕	−	(6.1)	−	−	口縁1/12	普通	φ～8mm大の赤褐色、白色、透明色粒少量含む	5YR5/4にぶい赤褐	口縁部凹線
685	7次	36区	SD01	備前焼	甕	−	(7.8)	−	−	口縁1/20	良好	φ0.5～2mmの白色粒少量含む	2.5YR5/3にぶい赤褐、5YR5/1褐灰	口縁部凹線
686	7次	36区	SD01	備前焼	壺	−	(7.15)	11.4	(17.1)	底部3/4	普通	φ1～6mmの小石含む	7.5R5/3にぶい赤褐	指オサエ、内外面回転ナデ
687	7次	36区	SD01	備前焼	甕	−	(7.7)	−	−	胴部1/50	普通	φ0.5～3mm大の灰白色、乳白色粒少	内面：5YR4/1褐灰 外面：2.5YR5/3にぶい赤褐	胴部線刻
688	7次	36区	SD01	備前焼	壺	−	(8.1)	−	−	口縁1/12	普通	φ0.5～1mm大の乳白色、灰白色粒少	N5/灰	口縁部玉縁
689	7次	36区	SD01	備前焼	甕	−	(7.2)	(43.4)	(50.76)	底部1/5	普通	やや粗い、φ0.5～8mmの白色、黒色、赤褐色粒含む	10R6/3にぶい赤橙	底部に黒い付着物
690	14次	9区	SD3	備前焼	擂鉢	−	(5.1)	−	−	口縁1/40	普通	φ～0.5mmの白色、灰色、黄橙色粒少量含む	7.5YR5/2灰褐	スリ目6本、中世4b期
691	5次	24−4区	SD01	土師器	皿H	(14.0)	(2.7)	−	−	口縁1/3	普通	密、φ～1mm大の透明色、黒色、赤褐色粒微量含む	2.5Y4/1黄灰	内面圏線状に強いナデ
692	5次	24−4区	SD01	青磁	碗	−	(2.7)	(5.7)	(9.0)	底部1/2	普通	精良	10Y6/2オリーブ灰	見込みスタンプ文、量付け釉
693	5次	24−4区	SD01	青磁	碗	−	(1.65)	(5.0)	(9.0)	底部1/2	普通	精良	施釉部2.5Y6/2灰黄	釉調濃緑色、見込み蛇の目釉剥ぎ
694	5次	24−4区	SD01	青磁	碗	−	(3.95)	−	−	口縁1/8	普通	精良	5GY7/1明オリーブ灰	口縁外面雷文
695	5次	24−4区	SD01	青磁	碗	−	(2.8)	(6.0)	(9.8)	高台内径2/3	普通	精良	施釉部5GY6/1オリーブ灰	見込みスタンプ文、量付け釉
696	5次	24−4区	SD01	青磁	碗	−	(3.8)	(5.0)	(12.6)	底部1/2	普通	精良	施釉部7.5Y7/2灰白～5/2灰オリーブ	見込み圏線、外面線刻、蓮弁か

番号	次数	区	遺構名	種別	器種	口径	器高	底径	最大径	残存部	焼成	胎土	色調	特記事項
697	5次	24−4区	SD01	青磁	碗	−	(3.45)	(6.8)	(13.4)	底部1/4	普通	精良	施釉部2.5GY5/1オリーブ灰	無文
698	5次	24−4区	SD01	備前焼	碗	−	(2.1)	−	−	口縁1/20	普通	密	2.5Y8/3浅黄〜7.5YR4/1褐灰	薄手、ナデ
699	5次	24−4区	SD01	備前焼	杯	(9.0)	2.9	6.0	(9.2)	2/3	普通	φ〜3mm大の白色、黒色粒微量含む	2.5YR5/4にぶい赤褐	底部糸切り、内外面回転ナデ
700	5次	24−4区	SD01	瓦質土器	羽釜	−	(7.8)	−	−	胴部1/8	普通	やや粗い、φ1mm程の灰色粒を含む	2.5Y8/1灰白	内傾、鍔長1.8cm、内外面ハケ、外面鍔下ヌス付着
701	5次	24−4区	SD01	土師器	鍋	−	(4.9)	−	−	口縁1/10	普通	密、φ〜1mmの灰色、白色粒を含む	7.5YR5/3にぶい褐	擂磨型、硬質焼成、外面ヌス付着
702	5次	24−4区	SD01	土師器	鍋	(28.0)	(11.75)	−	(32.4)	口縁1/4	普通	φ0.5〜2mmの白色、灰色、透白色粒少量含む	10YR6/4にぶい黄橙	擂磨型、内面ハケ後ナデ、外面タタキ、ヌス付着
703	5次	24−4区	SD01	備前焼	擂鉢	−	(6.6)	−	−	口縁1/8	普通	φ0.5〜3mm大の乳白色粒僅	N6/灰	擂目6本以上、中世4a期
704	5次	24−4区	SD01	備前焼	擂鉢	−	(5.5)	−	−	口縁1/8	普通	密、φ〜1mmの白色粒を含む	2.5YR5/1赤灰	中世6b期
705	5次	24−4区	SD01	備前焼	擂鉢	−	(8.5)	−	−	口縁1/10	普通	φ0.5〜2mm大の乳白色、赤橙色粒僅	10R5/4赤褐	擂目7本、中世6a期
706	5次	24−4区	SD01	備前焼	擂鉢	−	(7.75)	−	−	口縁1/10	良好	密	2.5YR4/2灰赤	擂目9本、中世5b期
707	5次	24−4区	SD01	備前焼	擂鉢	(28.35)	(4.8)	−	(29.5)	口縁1/7	良好	φ0.5〜1mmの白色、灰色、黄橙色粒少量含む	2.5YR5/4にぶい赤褐	擂目7本、中世6b期
708	5次	24−4区	SD01	備前焼	擂鉢	(25.3)	8.45	(16.7)	(26.7)	1/6	普通	φ〜3mm大の白色、赤色、黒色粒少量含む	5YR4/3にぶい赤褐	擂目5本、中世5b期
709	5次	24−4区	SD01	備前焼	壺	−	(5.7)	−	−	口縁1/10	普通	φ〜5mm大の白色、赤褐色、黒色粒少量含む	7.5YR5/2灰褐	口縁部玉縁
710	5次	24−4区	SD01	備前焼	壺	−	(9.85)	(11.8)	(12.2)	底部1/6	良好	φ0.5〜5mmの白色、灰色、赤褐色、黄橙色粒中量含む	N6/灰	回転ナデ、内面底部・外面灰被り
711	5次	24−4区	SD01	備前焼	壺	−	(6.1)	−	−	肩部1/10	普通	密、φ〜3mm大の白色、黒色、赤色、透明色粒少量含む	内面：7.5YR2/1黒 外面：5B6/1青灰	肩部波状文
712	5次	24−4区	SD01	備前焼	水屋甕	−	長(7.9)	−	−	胴部1/30	普通	φ0.5〜8mmの白色、灰色、赤褐色粒中量含む	内面：5Y5/1灰 外面：7.5YR5/2灰褐	突帯貼り付け
713	5次	24−4区	SD01	瓦質土器	甕	(34.9)	9.05	−	(42.2)	口縁1/5	不良	φ0.5〜2mmの白色、褐色、赤褐色粒少量含む	内面：7.5Y6/4にぶい橙 外面：2.5Y4/1黄灰	内外面ハケ、接合しない個体で外面格子タタキ
714	5次	24−4区	SD01	備前焼	面子	幅5.25	長5.4	厚1.2	−	1/1	普通	φ〜3mm大の白色、黒色粒少量含む	2.5YR5/3にぶい橙	壺底部転用か、周囲打欠き
715	5次	24−4区	SD01	備前焼	甕	−	6.6	−	−	口縁1/20	良好	φ0.5〜3mmの白色、灰色粒中量含む	2.5YR5/2灰赤	口縁部凹線
716	5次	24−4区	SD01	備前焼	甕	−	(8.35)	−	−	口縁1/12	普通	φ0.5〜4mmの白色、灰白色、赤褐色粒中量含む	2.5YR6/4にぶい橙	口縁部玉縁
717	5次	24−4区	SD01	備前焼	甕	−	(7.0)	−	−	口縁1/20	良好	φ0.5〜5mmの白色粒多量に含む	2.5YR5/4にぶい赤褐	口縁部玉縁
718	5次	24−4区	SD01	備前焼	甕	−	(19.0)	−	−	頸部1/12	良好	φ0.5〜6mmの白色、灰色、褐色、透明色粒多量に含む	2.5YR5/3にぶい赤褐	口縁部凹線
719	5次	24−4区	SD01	備前焼	甕	−	(6.5)	−	−	底部1/10	普通	φ0.5〜2mm大の乳白色粒少	2.5YR6/3にぶい橙	外面底部ケズリ
720	5次	24−4区	SD01	備前焼	甕	−	(6.95)	−	−	底部1/15	普通	φ〜2mm大の白色、赤色、黒色粒少量含む	5YR5/1褐灰	外面底部ケズリ、内面凹み
721	5次	24−4区	SD01	石製品	石臼	(34.0)	(3.9)	−	(34.3)	1/20	−	−	10YR5/8黄褐	凝灰岩、下臼か、重量1,200ｇ
722	5次	24−4区	SD01	石製品	石臼		長(21.5)	厚(8.3)	−	1/4	−	−	5Y8/1灰白、10YR7/6明黄褐、2.5Y2/1黒	凝灰岩、上臼か、重量3,000ｇ
723	5次	24−4区	SD01	石製品	砥石	幅5.1	長(10.3)	厚5.7	−	1/3	−	−	5Y7/1灰白	砂岩、四面使用、重量415ｇ
724	4次	23区	SD02	土師器	小皿B	(6.3)	1.45	(2.3)	−	1/4	普通	密、φ〜1mmの砂粒を含む	7.5YR8/4浅黄橙	底部丸底
725	4次	23区	SD02	土師器	杯	(13.4)	(2.4)	(9.4)	−	1/4	普通	やや粗い、φ〜2mmの褐色粒を多く含む	10YR8/1灰白	底部ヘラ切り、皿Ⅰ意識か
726	4次	23区	SD02	白磁	皿	(10.5)	(2.4)	(5.5)	−	1/6	普通	密	5Y8/1灰白	畳付け釉掻き取り、C群
727	4次	23区	SD02	白磁	皿	−	(1.9)	(6.8)	(9.6)	底部1/2	普通	密	施釉部2.5GY8/1灰白	畳付け砂付着、C群
728	4次	23区	SD02	陶器	卸皿	−	(1.85)	(7.2)	(11.9)	底部1/4	普通	密、φ〜1mm大の黒色粒微量含む	5YR6/6橙	瀬戸美濃、底部糸切り、内面卸目
729	4次	23区	SD02	陶器	天目碗	−	(6.2)	−	−	口縁1/10	普通	細かい、φ〜1mmの白色粒混入	5Y2/1黒	瀬戸美濃、鉄釉、口縁端部釉剥げ
730	4次	23区	SD02	青磁	碗	−	(5.05)	−	−	口縁1/8	普通	精良	施釉2.5GY6/1オリーブ灰、2.5GY8/1灰白	無文、口縁端部外反
731	4次	23区	SD02	青磁	碗	−	(3.9)	−	−	口縁1/8	普通	精良	釉7.5Y6/2灰オリーブ	文様不明瞭、外面釉垂れ
732	4次	23区	SD02	土師器	鍋	−	(6.7)	−	−	口縁1/10	普通	やや粗い、雲母含む、1mm以下の砂粒を多く含む	内面：5YR5/3にぶい赤褐 外面：N1.5/黒	擂磨型焔焙形、端部面取り、外面タタキ、ヌス付着
733	4次	23区	SD02	土師器	鍋	−	(6.4)	−	−	口縁1/12	普通	密、φ〜1mmの砂粒を含む	5YR7/6橙	鉄かぶと形Ⅱ類、内面浅いナデ、外面タタキ、ヌス付着
734	4次	23区	SD02	土師器	鍋	−	(5.6)	−	−	口縁1/12	普通	やや粗い、φ1mm以下の砂粒を含む	内面：2.5Y8/2灰白 外面：N3/暗灰	鉄かぶと形Ⅱ類、内面浅いナデ、外面タタキ、ヌス付着
735	4次	23区	SD02	土師器	鍋	−	(4.4)	−	−	口縁1/15	普通	密、雲母含む、φ1mm以下の砂粒を含む	内面：5YR5/3にぶい赤褐 外面：N1.5/黒	鉄かぶと形Ⅱ類、内面ナデなし、外面タタキ、ヌス付着
736	4次	23区	SD02	土師器	鍋	(27.8)	(9.7)	−	(28.2)	1/3	普通	φ〜2.5mm大の黒色、白色、赤褐色、透明色粒少量含む	5YR7/6橙	鉄かぶと形Ⅱb類、内面浅いナデ、外面タタキ、ヌス付着
737	4次	23区	SD02	土師器	鍋	(27.1)	(9.6)	−	(27.6)	1/3	普通	φ0.5mm以下の白色、灰色粒少量含む	5YR7/6橙、10YR5/2灰黄褐	鉄かぶと形Ⅱb類、内面浅いナデ、外面タタキ、ヌス付着
738	4次	23区	SD02	土師器	鍋	(31.4)	(5.5)	−	(32.3)	口縁1/5	普通	やや粗い、φ1mm前後の白色粒を含む	2.5Y8/3浅黄	鉄かぶと形Ⅱ類、端部玉縁状、内面ナデなし、外面タタキ
739	4次	23区	SD02	土師器	鍋	−	(5.7)	−	−	口縁1/8	普通	やや粗い、φ〜1mmの砂粒を含む	5YR7/6橙	擂磨型、外面細かいタタキ、硬質焼成
740	4次	23区	SD02	土師器	鍋	−	(5.8)	−	−	口縁1/20	普通	やや粗い、φ〜1mmの砂粒を含む	7.5YR8/4浅黄橙	擂磨型、端部外反、内面ナデ、外面タタキ、ヌス付着
741	4次	23区	SD02	土師器	鍋	−	(5.9)	−	−	口縁1/10	普通	密、φ〜1mmの砂粒を多く含む	7.5YR8/4浅黄橙	擂磨型、端部外反、外面タタキ、内面ナデ
742	4次	23区	SD02	土師器	鍋	−	(6.2)	−	−	口縁1/12	普通	やや粗い、φ1mmの砂粒混入	7.5YR7/4にぶい橙	擂磨型、外面タタキ、ヌス付着
743	4次	23区	SD02	土師器	鍋	−	(5.2)	−	−	口縁1/10	普通	やや粗い、φ〜3mmの砂粒を含む、赤褐色が多い	7.5YR8/4浅黄橙〜N2/暗灰	擂磨型、端部外反、内面ハケ後ナデ、外面タタキ、ヌス付着
744	4次	23区	SD02	備前焼	杯	(10.6)	3.15	(5.8)	(10.8)	1/4	普通	密、φ〜1mmの白色粒を多く含む	2.5YR5/2灰赤	底部糸切り、回転ナデ
745	4次	23区	SD02	瓦質土器	釜	−	(5.35)	−	−	耳部1/1	甘	密、φ1mm程の砂粒を含む	10YR8/2灰白	耳部残欠、炭素吸着弱
746	4次	23区	SD02	瓦質土器	甕	−	(3.95)	−	−	肩部1/10	甘	やや粗い、φ〜3mmの砂粒を多く含む	10YR5/3にぶい黄褐	外面格子タタキ、焼成堅緻
747	4次	23区	SD02	土師器	犬形土製品	幅(2.5)	長(5.5)	厚(2.9)	−	4/5	−	密、φ〜1mmの砂粒含む	10YR5/1灰	瓦質焼成、垂れ耳、鼻穴穿孔、頸部朱線
748	4次	23区	SD02	備前焼	擂鉢	−	(5.1)	−	−	口縁1/10	普通	やや粗い、φ〜2mmの砂粒を多く含む	5P5/1紫灰	擂目4本以上、中世3b期
749	4次	23区	SD02	備前焼	擂鉢	−	(5.85)	−	−	口縁1/12	普通	やや粗い、φ1mm前後の砂粒混入	5YR5/3にぶい赤褐	擂目8本、中世4a期
750	4次	23区	SD02	備前焼	擂鉢	−	(5.7)	−	−	口縁1/12	普通	やや粗い、φ2mm前後の砂粒を多く含む	N5/灰〜2.5GY6/1オリーブ灰	擂目5本以上、中世4a期
751	4次	23区	SD02	備前焼	擂鉢	−	(6.45)	−	−	口縁1/10	甘	密、φ1mm以上の白色粒含む	10YR7/2にぶい黄橙	擂目なし、中世5a期
752	4次	23区	SD02	備前焼	擂鉢	−	(6.45)	−	−	口縁1/20	普通	密、φ1mm以下の白色粒を含む	5PB6/1青灰	擂目5本以上、中世5b期
753	4次	23区	SD02	備前焼	擂鉢	(24.5)	(5.95)	−	(26.7)	口縁1/6	普通	やや粗い、φ3mm程の砂粒を多く含む	2.5YR6/2灰赤	擂目8本、中世4a期
754	4次	23区	SD02	備前焼	甕	−	(6.05)	(17.0)	(22.8)	底部1/6	普通	やや粗い、φ1mm程の白色粒を含む	5Y7/1灰白	須恵質焼成、内面ハケ
755	4次	23区	SD02	備前焼	壺	−	(4.75)	4.9	(8.1)	底部1/3	普通	やや粗い、φ2mm大の白色粒をまれに含む	5Y6/1灰	底部糸切り、回転ナデ
756	4次	23区	SD02	信楽焼	甕	(17.2)	(5.35)	−	(18.5)	口縁1/6	普通	やや粗い、φ1mm前後の白色粒を多く含む	5Y6/2灰オリーブ	長石目立つ、外面自然釉
757	4次	23区	SD02	備前焼	甕	−	(9.05)	−	−	口縁1/20	普通	密、φ1mm以下の砂粒を含む	7.5YR4/1褐灰	口縁部凹線
758	4次	23区	SD02	瓦	軒丸瓦	幅(14.0)	−	厚(2.5)	−	瓦当1/2	普通	密、φ3mm大の黒色粒をまれに含む	N2/黒	三巴文、瓦当縁ケズリ後ナデ、カキヤブリ部分的に残存
759	14次	9区	SD01	備前焼	杯	−	(1.65)	−	−	口縁1/8	普通	やや粗い、φ1mm以下の黒色粒多い、稀に1mmの透明粒	10YR5/6赤	口縁部ヨコナデ
760	14次	9区	SD01	須恵器	椀	−	(3.0)	−	−	口縁1/8	普通	φ〜1mm大の白色、灰色粒少量含む	N7/灰白	口縁部ヨコナデ
761	14次	9区	SD01	白磁	碗	−	(2.55)	(5.4)	(9.6)	底部1/4	良好	密	釉5Y7/1灰白	Ⅷ類
762	14次	9区	SD01	土師器	鍋	−	(4.4)	−	−	口縁1/10	普通	φ〜1.5mm大の白色、灰色、褐色粒少量含む	10YR7/4にぶい黄橙	擂磨型、外面ヌス付着
763	14次	9区	SD01	土師器	鍋	−	(4.05)	−	−	口縁1/20	普通	φ0.5〜2mmの白色、灰色、褐色粒中量含む	5YR6/6橙	擂磨型、外面磨滅、硬質焼成
764	14次	9区	SD01	備前焼	擂鉢	−	(3.5)	(13.2)	(19.0)	底部1/5	甘	密、φ1mm以下の白色粒多い	2.5Y8/1灰白	スリ目9本、使用により摩滅
765	4次	24−2区	SD01	備前焼	小壺	−	(4.95)	−	(9.3)	胴部1/3	普通	密、φ〜4mm大の白色粒まれに含む	10R5/3赤褐	体部突帯状、内面鉄分沈着
766	4次	24−2区	SD01	備前焼	擂鉢	−	(4.9)	−	−	口縁1/16	良好	φ0.5〜1mmの白色粒極少量含む	N6/灰	擂目7本、中世3b期
767	4次	24−2区	SD01	備前焼	擂鉢	−	(5.3)	−	−	口縁1/20	良好	φ0.5〜3mmの白色、灰色粒少量含む	10R5/6赤	擂目2本以上、中世4b期
768	4次	24−2区	SD01	瓦質土器	火鉢	−	(5.35)	−	−	口縁1/20	甘	密、φ〜1mmの白色粒を含む	N4/灰	炭素吸着良好、内外面摩滅
769	4次	24−2区	SD02	備前焼	壺	−	(6.95)	−	−	口縁1/8	良好	φ0.5mmの白色、灰色粒極少量含む	5YR5/2灰褐、N5/灰	肩部沈線、口縁玉縁
770	10次	7区	SD01	備前焼	壺	(9.4)	(6.25)	−	(14.6)	口縁1/4	良好	φ0.5〜8mmの白色、灰色粒少量含む	5P5/1紫灰、N6/灰、N5/灰	内外面回転ナデ
771	10次	7区	SD01	備前焼	擂鉢	−	(5.05)	−	−	胴部1/6	普通	φ〜5mm大の白色、透明色、黒色粒少量含む	N5/灰〜10YR5/1褐灰	ヘラ描擂目6本
772	10次	7区	SD01	瓦質土器	火鉢	−	(11.3)	−	−	口縁1/20	普通	φ0.5mm以下の黒色、橙色粒を少量含む	内面：5Y2/1黒 外面：N3/暗灰	内面ハケ、外面炭素吸着良好
773	4次	23区	SD03	土師器	皿O	−	(1.7)	−	−	1/8	普通	密、φ〜1mmの砂粒を多く含む	2.5Y7/2灰黄	口縁部ヨコナデ
774	4次	23区	SD03	土師器	小皿B	−	(1.8)	−	−	1/4	普通	φ1〜2mmの褐色粒混じる	10YR8/2灰白	内面板ナデか
775	4次	23区	SD03	土師器	皿Ⅰ	−	(2.3)	−	−	口縁1/20	普通	φ1〜2mmの黒褐色、白色粒混じる	10YR8/2灰白	端部シャープ、硬質焼成、口縁部ヨコナデ
776	4次	23区	SD03	白磁	皿	−	(1.5)	−	−	口縁1/8	普通	密	内面：2.5Y8/2灰白 外面：7.5YR5/4にぶい褐	外面貫入
777	4次	23区	SD03	青磁	碗	−	(4.8)	−	−	1/8	普通	精良	2.5GY6/1オリーブ灰	無文、口縁端部外反
778	4次	23区	SD03	青磁	碗	−	(2.75)	(7.1)	(11.5)	底部1/3	普通	精良	10Y6/2オリーブ灰	内面圏線、目痕2ヶ所、畳付け釉
779	4次	23区	SD03	陶器	天目碗	(9.1)	(3.65)	−	−	口縁1/4	普通	密	施釉部7.5YR5/3にぶい褐〜2/黒	瀬戸美濃、鉄釉
780	4次	23区	SD03	陶器	天目碗	−	(2.25)	(4.2)	(7.8)	底部1/4	普通	密、φ〜1mm大の白色、黒色粒微量含む	施釉部N2/黒、2.5Y R5/4にぶい赤褐	瀬戸美濃、ケズリだし高台、露胎
781	4次	23区	SD03	備前焼	壺	−	(2.3)	(3.2)	(5.6)	底部1/2	普通	φ0.5〜1mm大の灰色、乳白色粒僅	7.5YR4/1褐灰〜4/2灰褐	底部糸切り、底部外面2条線刻、内面自然釉
782	4次	23区	SD03	陶器	香炉	(7.2)	2.3	(4.2)	(7.8)	1/3	普通	密、φ〜1mmの白色粒含む	2.5Y7/3浅黄	瀬戸美濃、緑釉、底部糸切り、四足貼付
783	4次	23区	SD03	土師器	鍋	−	(6.7)	−	−	口縁1/8	普通	密、φ〜1mmの砂粒を含む	内面：10YR7/3にぶい黄橙 外面：N2/黒	擂磨型焔焙形、外面タタキ、ヌス付着

遺物観察表

番号	次数	区	遺構名	種別	器種	口径	器高	底径	最大径	残存部	焼成	胎土	色調	特記事項
784	4次	23区	SD03	土師器	埦	−	(7.6)	−	−	口縁1/8	普通	密、φ～1mmの白色粒を含む	内面：5YR6/6橙 外面：2.5Y5/1黄灰	搔磨型、外面タタキ、硬質焼成
785	4次	23区	SD03	土師器	埦	(23.2)	(6.25)	−	(25.6)	口縁1/6	普通	やや粗い、φ～1mmの砂粒を多く含む	10YR8/4浅黄橙	搔磨型、外面タタキ、内面ナデ
786	4次	23区	SD03	土師器	埦	15.4	10.1	−	19.5	3/4	普通	φ～1mm大の白色、黒色、透明色、茶褐色粒少量含む	10YR6/2灰黄褐	搔磨型、片側突帯なし、外面タタキ、内面ハケ、ヌス付着
787	4次	23区	SD03	土師器	埦	−	(7.5)	−	−	口縁1/12	普通	密、φ～1mmの砂粒を含む	7.5YR7/4にぶい橙	搔磨型、口縁端部外反、内面ハケ後ナデ、外面タタキ
788	4次	23区	SD03	土師器	埦	(27.0)	(9.85)	−	(27.9)	1/2	普通	φ～1mmの砂粒を含む	内面：10YR6/3にぶい黄橙 外面：10YR5/2灰黄褐	鉄かぶと形Ⅰc類、口縁内面ヨコナデ、外面タタキ、ヌス付着
789	4次	23区	SD03	土師器	埦	30.15	11.9	−	30.7	2/3	普通	φ～9mm大の赤褐色、黒色、白色粒少量含む	7.5YR7/4にぶい橙	鉄かぶと形Ⅰc類、口縁内面浅いナデ、外面タタキ、ヌス付着
790	10次	6区	SD01	土師器	埦	−	(5.9)	−	−	口縁1/14	普通	φ0.5～1mm大の乳白色、赤褐色、灰色粒中	7.5YR6/6橙	搔磨型、内外面ナデ対応、外面タタキ、内面ヌス付着
791	10次	6区	SD01	土師器	埦	(23.6)	(5.5)	−	(25.0)	口縁1/6	普通	φ～5mm大の白色、赤褐色、透明色粒少量含む	10YR7/3～7/4にぶい黄橙	鉄かぶと形Ⅱ類、内面2段ナデ、外面タタキ
792	10次	6区	SD01	土師器	埦	(23.0)	(6.6)	−	(24.1)	口縁1/4	普通	φ～3mm大の赤褐色、白色、黒色、透明色粒微量含む	10YR7/3にぶい黄橙	鉄かぶと形Ⅱ類、内面ナデ弱、外面タタキ
793	10次	6区	SD01	土師器	埦	(22.8)	(6.0)	−	(27.4)	口縁1/6	普通	φ0.5～1mmの白色、灰色、透白色柱量含む	2.5Y3/1黒褐、10YR4/1褐灰	鉄かぶと形Ⅱ類、内面2段ナデ、外面タタキ、ヌス付着
794	10次	6区	SD01	土師器	羽釜	−	(11.3)	−	−	口縁1/16	普通	φ0.5～2mm大の乳白色、赤橙色、灰白色粒中	5YR7/6橙	多段口縁、外面タタキ、内面ナデ
795	10次	6区	SD01	土師器	埦	(24.1)	(4.65)	−	(25.8)	口縁1/6	普通	φ～5mm大の白色、乳白色、赤褐色、黒色、透明色粒やや多く含む	7.5YR7/6橙	播但型、藤田Ⅱ類
796	4次	23区	SD03	須恵器	鉢	−	(5.15)	−	−	口縁1/8	不良	密、φ～1mmの砂粒を多く含む	2.5Y7/2灰黄	口縁部形態C類
797	4次	23区	SD03	須恵器	鉢	(27.8)	(4.0)	−	(29.8)	口縁1/7	普通	φ0.5～2mm大の灰白色、乳白色、赤褐色粒中	内面：7.5YR5/4にぶい褐 外面：10YR6/2灰黄褐	口縁部形態C類
798	4次	23区	SD03	備前焼	擂鉢	−	(4.6)	−	−	口縁1/8	普通	やや粗い、φ～3mmの砂粒を多く含む	N4/灰～5PB4/1暗青灰	擂目5本、中世4a期
799	4次	23区	SD03	備前焼	擂鉢	−	(10.25)	−	−	口縁1/20	普通	やや粗い、φ2mm前後の砂粒を含む	2.5Y R5/2灰赤～ N5/ 灰	中世5b期
800	4次	23区	SD03	備前焼	擂鉢	(21.8)	(9.3)	(14.5)	(23.6)	底部1/6		密、φ～1mmの砂粒を含む	N6/ 灰～2.5YR4/1赤灰	擂目5本、中世5b期
801	4次	23区	SD03	備前焼	擂鉢	−	(7.2)	−	−	口縁1/8	普通	密、φ～2mmの砂粒を含む	2.5Y R5/3にぶい赤褐	擂目9本、中世5b期
802	4次	23区	SD03	備前焼	壺	−	(4.3)	−	−	口縁1/8	普通	密、φ～1mmの砂粒を含む	5YR7/3にぶい橙	口縁端部折り返し
803	4次	23区	SD03	備前焼	壺	−	(5.1)	(12.6)	(14.9)	底部1/4	普通	φ～3mm大の青灰色、乳白色粒混じる	7.5R4/2灰赤～5P4/1暗紫灰	回転ナデ
804	4次	23区	SD03	備前焼	壺	−	(10.2)	−	−	口縁1/10	普通	やや粗い、φ～3mmの砂粒を含む	2.5Y R5/4にぶい赤褐	口縁部玉縁
805	4次	23区	SD03	備前焼	壺	−	(3.85)	−	−	口縁1/10	普通	やや粗い、φ1mm程の砂粒を多く含む	7.5Y5/1灰白	口縁部玉縁
806	4次	23区	SD03	備前焼	甕	−	(6.8)	−	−	口縁1/10	普通	やや粗い、φ1mm前後の砂粒を多く含む	2.5Y6/1黄灰	口縁部玉縁
807	4次	23区	SD03	備前焼	甕	−	(9.8)	−	−	底部1/10	普通	やや粗い、φ3mm前後の白色粒を多く含む	10Y5/2オリーブ灰～5Y3/1オリーブ黒	外面自然釉、底部融着
808	4次	23区	SD03	瓦	丸瓦	幅(5.2)	長(14.3)	厚(4.8)	−	1/10	普通	やや粗い、φ3mm程の砂粒混入	2.5Y7/2灰黄	凸面縄目タタキ後ナデ、玉縁長7.6㎝、玉縁側縁面取り
809	10次	6区	SD01	備前焼	小壺	−	(5.8)	(7.2)	(10.0)	底部1/6	良好	φ0.5～1mmの灰色、白色粒櫛少量含む	内面：2.5Y7/1灰白、7.5YR6/1褐灰 外面：N6/ 灰	底部糸切り、内外面回転ナデ
810	10次	6区	SD01	土師器	土鍾	幅4.15	長4.75	厚4.05	−	9/10	甘	φ0.5～2mmの白色、赤褐色、灰色、褐色粒中量含む	7.5YR6/3にぶい褐、10YR6/2灰黄褐	孔径2㎝
811	10次	6区	SD01	土師器	土鍾	幅5.95	長(7.35)	厚(5.2)	−	9/10	甘	φ0.5～6mmの白色、灰色、透白色、褐色粒中量含む	5YR6/6橙	孔径2.1㎝
812	10次	6区	SD02	土師器	埦	−	(6.0)	−	−	口縁1/16	普通	φ～9mm大の赤色、白色、黒色、透明色粒少量含む	5YR6/6橙	鉄かぶとⅠ類、内面2段ナデ、外面タタキ、ヌス付着
813	10次	6区	SD02	土師器	埦	−	(4.95)	−	−	口縁1/10	普通	φ0.5～1mm大の乳白色、灰白色粒中	5YR7/8橙	播但型、藤田Ⅱ類、端部内側摘み出し
814	10次	6区	SD02	須恵器	甕	(28.65)	(6.8)	−	(31.2)	口縁1/6	普通	φ0.5～2mmの白色、灰色、褐色粒少量含む	2.5Y7/2灰黄、2.5Y8/2灰白	外面頸部ハケ、体部タタキ
815	4次	24−3区	SD04	瓦質土器	香炉	(10.7)	(5.25)	(10.2)	(11.63)	1/4	普通	やや密、φ0.5～2mm大の乳白色、透明色、灰白色粒やや多く含む	内面：N3/ 暗灰、外面：5Y4/1灰	外面スタンプ、三足貼付
816	4次	24−3区	SD04	土師器	埦	−	(4.52)	−	−	口縁1/10	普通	φ0.1～2mm大の橙色、白色、透明色、灰色粒中量含む	7YR7/4にぶい橙	鉄かぶと形Ⅱ類、外面タタキ
817	4次	24−3区	SD04	備前焼	擂鉢	−	(5.95)	−	−	口縁1/20	良好	φ0.5～2mmの白色、灰色、褐色粒櫛少量含む	2.5Y R5/2灰赤	擂目6本以上、中世5b期
818	4次	24−3区	SD06	青磁	碗	(16.1)	(3.6)	−	−	口縁1/6	良好	精良	10Y6/2オリーブ灰	無文、貫入
819	4次	24−3区	SD06	土師器	埦	−	(5.99)	−	−	口縁1/10	普通	やや密ではない、φ～1mm大の乳白色、透明色、赤褐色、灰色粒やや多く含む	10YR4/2灰黄褐	播磨型、口縁端部外反
820	4次	24−3区	SK14	備前焼	杯	−	(1.65)	(7.6)	−	底部1/6	良好	φ0.1mm程度の白色、黒色粒含む	7.5YR4/2灰褐	底部糸切り
821	2次	8−1区	SD01	須恵器	椀	(17.0)	(4.5)	−	−	口縁1/4	良好	φ0.5～4mmの灰色、白色粒少量含む	N6/ 灰	内外面回転ナデ
822	2次	8−1区	SD01	須恵器	椀	−	(3.4)	6.6	(13.8)	底部1/1	普通	密、φ1mm程の白色粒を含む	N8/ 灰白	西播系、底部糸切り、内外面回転ナデ
823	2次	8−2区	SD03	土師器	竈	−	(6.85)	−	−	口縁1/20	甘	φ0.5～2mmの白色、褐色、灰色粒中量含む	10YR6/2灰黄褐	外面ハケ、内外面摩滅
824	4次	23区	SD01	磁器	色絵皿	(10.1)	1.9	(5.7)	−	1/3	普通	密、φ～1mmの白色粒を含む	5Y8/1灰白	赤絵牡丹、高台釉剥ぎ
825	4次	23区	SD01	磁器	染付碗	(6.9)	(4.95)	−	−	口縁1/4	普通	密、φ～1mmの砂粒をまれに含む	N8/ 灰白	筒形碗、蝶文、内面二重圏線、見込み一重圏線
826	4次	23区	SD01	陶器	土瓶	−	(3.2)	(9.2)	(18.0)	底部1/5	普通	密、φ～1mmの白色粒をまれに含む	10YR7/4にぶい黄	関西系陶器、底部ヘラ切り後ナデ
827	4次	23区	SD01	青磁	碗	−	(4.1)	−	−	口縁1/8	普通	精良	5GY6/1オリーブ灰に近い明るい緑色	釉調明オリーブ灰色
828	4次	23区	SD01	陶器	天目碗	−	(1.7)	(5.0)	(7.5)	底部1/2	普通	φ～1mm大の黒色、透明色粒微量含む	施釉部N1.5/黒	瀬戸美濃、削出高台、大窯後半
829	4次	23区	SD01	土師器	埦	−	(6.55)	−	−	口縁1/10	普通	密、φ～2mmの砂粒混入	内面：5YR5/3にぶい赤褐 外面：N1.5/黒	播磨型、外面タタキ
830	4次	23区	SD01	瓦質土器	火鉢	−	(3.0)	−	−	口縁1/12	普通	密、φ2mm程の褐色粒を含む	N3/ 暗灰	円形浅型、六弁菊花文スタンプ
831	4次	23区	SD01	瓦質土器	香炉	−	(7.2)	(12.6)	(14.0)	底部1/4	普通	密、φ～1mmの白色粒を含む	内面：N4/ 灰 外面：5YR7/4にぶい橙	外面スタンプ文、炭素吸着、三足
832	4次	23区	SD01	備前焼	徳利	−	(7.9)	−	(15.2)	肩径1/6	普通	密、φ1mmほどの白色粒を含む	5P5/1紫灰	内外面回転ナデ
833	4次	23区	SD01	備前焼	擂鉢	−	11.2	−	−	1/8	良好	φ～2mm大の黒色、白色、透明色粒微量含む	5YR5/2灰褐	斜め擂目6本、近世1b期
834	4次	23区	SD01	陶器	擂鉢	−	(5.9)	−	−	口縁1/10	普通	やや粗い、φ～1mmの白色粒を含む	10R6/6赤橙	堺・明石系
835	4次	23区	SD01	備前焼	擂鉢	−	(9.4)	−	−	口縁1/10	普通	密、φ1mmの白色粒をまれに含む	7.5YR8/4浅黄橙	擂目5本、中世5b期
836	4次	23区	SD01	備前焼	擂鉢	−	(6.5)	(8.6)	(24.0)	底部1/3	普通	やや粗い、φ～2mmの砂粒を含む	2.5Y R4/2灰赤	斜め擂目、使用により摩滅
837	4次	23区	SD01	備前焼	甕	−	(8.85)	−	−	口縁1/20	普通	やや粗い、φ～3mmの砂粒を含む	2.5Y R3/1暗赤灰	口縁凹線2条
838	4次	23区	SD01	瓦	丸瓦	幅(11.45)	長11.8	厚(2.15)	−	1/10	甘	やや粗い、φ～1mmの砂粒を含む	内面：10YR8/1灰白 外面：10YR7/2にぶい黄橙	凹面コビキA、布目、全体的に摩滅
839	12次	5区	SD01	備前焼	擂鉢	−	(10.1)	−	−	1/8	普通	φ～6mm大の白色粒少量含む	5YR4/2灰褐～10YR4/1褐灰	ナナメスリ目8本、近世1期
840	12次	5区	SD01	石製品	石像	幅(23.7)	長(48.9)	厚(12.4)	−	1/1	−	−	10Y8/1灰白	表面一部剝落、重量16.5kg
841	5次	24−4区	SK20	土師器	埦	−	(2.7)	−	−	口縁1/20	普通	φ0.5～1mmの白色、灰色、赤褐色粒少量含む	内面：10YR6/3にぶい黄橙 外面：N2/ 黒	鉄かぶと形Ⅱ類、口縁部丸く収める
842	5次	24−4区	SK20	備前焼	擂鉢	−	(5.35)	−	−	底部1/12	良好	φ0.5～10mm強の白色、黄橙色粒、小石粒少量含む	10R5/2灰赤	擂目7本以上
843	5次	24−4区	SK21	土師器	小皿	−	(1.25)	−	−	口縁1/8	甘	φ0.5～1mmの白色、褐色粒少量含む	10YR8/2灰白	内外面摩滅
844	5次	24−4区	SK24	土師器	埦	−	(4.5)	−	−	口縁1/12	普通	φ～0.5mmの白色、灰色粒、金雲母中量含む	7.5Y R6/4橙	播磨型、口縁部丸く収める
845	5次	24−4区	SK24	石製品	火輪	幅26.45	長19.05	−	−	1/1	−	−	7.5Y8/1灰白	未成品、荒割り、側面一部平整加工、被熱、重量15.5kg
846	7次	37区	SK01	土師器	小皿A	(9.1)	(1.6)	−	−	1/4	普通	密、φ～3mm大の白色、赤褐色粒含む	7.5Y R7/4にぶい橙	口縁部ヨコナデ、端部三角形状
847	14次	9区	SK05	備前焼	壺	−	(15.2)	−	(26.5)	胴部1/4	普通	やや粗い、φ1～2mmの黒色粒多い	5YR3/1黒褐～5YR4/3にぶい赤褐	内外面回転ナデ
848	5次	25−2区	SK04	備前焼	擂鉢	−	(8.8)	−	−	口縁1/8	普通	φ0.5～1mmの白色、赤褐色粒櫛少量含む	7.5Y R5/1褐灰	擂目7本、中世5a期
849	5次	24−4区	SK05	土師器	皿O	−	(2.2)	−	−	口縁1/6	甘	φ0.5～1mmの白色、灰色、赤褐色粒少量含む	内面：10YR8/3浅黄橙 外面：2.5Y8/2灰白	皿Oか、口縁端部シャープ
850	5次	24−4区	SK07	須恵器	鉢	−	(2.85)	−	−	口縁1/20	良好	φ0.5～1mmの灰色、白色、赤褐色粒少量含む	N6/ 灰	口縁部形態B2a類
851	5次	24−4区	SK23	土師器	埦	−	(2.45)	−	−	口縁1/10	甘	φ0.5～2mmの白色、灰色、褐色粒中量含む	5YR6/6橙	播但型Ⅱ類
852	4次	24−3区	SK13	土師器	埦	−	(10.0)	−	−	口縁1/8	普通	φ0.1～3mm大の白色、橙色、灰色粒やや多く含む	5YR7/6橙	搔磨型、内面ハケ、突帯裏ナデなし、外面摩滅
853	4次	24−3区	SK13	備前焼	擂鉢	−	(4.9)	−	−	口縁1/10	普通	密、φ0.5～5.5mm大の乳白色、赤褐色粒少量含む	10R4/2灰赤	擂目2本以上、中世4b期
854	4次	23区	SK07	土師器	皿H	(11.5)	2.5	(7.1)	−	1/4	普通	密、φ～2mmの白色、赤褐色、黒色粒少量含む	10YR8/2灰白	口縁部ヨコナデ
855	4次	23区	SK07	青磁	碗	(15.0)	(2.2)	−	−	1/4	普通	精良	5GY6/1緑灰	鎬連弁文
856	4次	23区	SK07	備前焼	壺	−	(6.1)	−	−	口縁1/20	普通	φ5mm大の青灰色粒、φ1～2mmの灰色、乳白色粒混じる	2.5Y7/1灰白	口縁部玉縁
857	4次	23区	SP12	備前焼	擂鉢	−	(5.7)	−	−	口縁1/20	普通	φ～2mmの乳白色、薄オレンジの粒混じる	5PB4/1暗青灰	擂目4本以上、中世3a期
858	4次	23区	SP27	土師器	埦	−	(5.9)	−	−	口縁1/10	普通	φ～2mmのオレンジ色、灰色、褐色、乳白色粒混じる	7.5Y R7/4にぶい橙	播磨型、口縁端部外反、内面ナデ、外面タタキ、ヌス付着
859	4次	23区	SP107	土師器	小皿B	(7.6)	(2.05)	−	−	1/3	普通	φ～1mmの灰色、褐色粒混じる	10YR5/1褐灰	指オサエ、一部ナデ
860	4次	23区	SP175	備前焼	杯	(9.0)	2.8	(5.0)	(9.4)	1/4	普通	φ0.5mm大の赤橙色、乳白色粒僅	5Y6/1～4/1灰	底部糸切り、回転ナデ
861	4次	23区	SP176	土師器	埦	−	(4.05)	−	−	口縁1/20	甘	φ0.5～2mmの白色、灰色、赤褐色粒多量に含む	7.5Y R7/6橙	播磨型、口縁端部わずかに外反、鍔下ヌス付着
862	4次	23区	SP225	土師器	埦	−	(5.3)	−	−	口縁1/20	甘	φ0.5～2mmの白色、赤褐色粒中量含む	7.5Y R7/4にぶい橙	鉄かぶと形Ⅱ類、外面タタキ、ヌス付着
863	4次	23区	SP285	土師器	小皿B	(7.6)	(1.65)	−	−	口縁1/4	甘	φ0.5mmの白色、灰色粒少量含む	2.5Y8/2灰白	指オサエ、一部ナデ
864	4次	24−1区	SP05	白磁	碗	−	(3.3)	(7.2)	(12.8)	底部1/4	普通	密	2.5Y8/2灰白	釉調灰白色、見込み蛇の目
865	4次	24−2区	SP05	陶器	平碗	(14.0)	(6.3)	−	(14.2)	1/4	普通	φ2mmの粒混じる	7.5Y7/2灰白	瀬戸美濃、灰釉
866	4次	24−3区	SP21	備前焼	杯	(11.0)	2.4	(6.1)	(11.4)	1/6	普通	φ～2mm大の白色粒稀に含む	2.5Y R6/6橙	底部糸切り、内外面回転ナデ
867	5次	24−4区	SP45	土師器	埦	−	(6.1)	−	−	胴部1/10	普通	密、φ～1mmの砂粒を含む	5YR7/6橙	播磨型、外面タタキ、ヌス付着
868	5次	24−4区	SP49	土師器	埦	−	(4.1)	−	−	胴部1/20	普通	密、φ～1mmの白色粒を多く含む	5YR7/6橙	播磨型、外面タタキ、ヌス付着
869	5次	24−4区	SP51	土師器	埦	−	(4.65)	−	−	口縁1/20	普通	φ0.5～4mmの白色、褐色、赤褐色粒中量含む	10YR5/1褐灰	鉄かぶと形Ⅰ類、内面ナデ、外面タタキ、被熱痕
870	5次	24−4区	SP140	土師器	皿I	−	(2.15)	−	−	口縁1/8	普通	φ～1mm大の赤色、黒色粒微量含む	2.5Y8/2灰白	薄手、内外面摩滅

番号	次数	区	遺構名	種別	器種	口径	器高	底径	最大径	残存部	焼成	胎土	色調	特記事項
871	5次	24−4区	SP140	土師器	埦	−	(4.5)	−	−	口縁1/10	甘	φ0.5〜2mmの白色、灰色、透白色粒中量含む	5YR6/6橙	播但型Ⅲ類
872	5次	24−4区	SP188	土師器	埦	(20.4)	(3.9)	−	(19.6)	口縁1/8	普通	φ〜5mm大の白色、灰色、透明色、黒色、赤褐色粒少量含む	10YR6/3にぶい黄橙	内外面ハケ
873	5次	24−4区	SP189	土師器	小皿B	(8.0)	(1.2)	−	−	1/4	普通	φ〜1mm大の赤色、黒色粒微量含む	2.5Y8/2灰白	胎土精良
874	5次	24−4区	SP228	陶器	卸付大皿	−	(4.0)	−	−	口縁1/8	普通	密	7.5Y5/2灰オリーブ	瀬戸、灰釉
875	5次	24−4区	SP291	青磁	碗	−	(2.15)	(6.1)	(9.8)	底部1/2	普通	精良	施釉部5GY6/1オリーブ灰	見込み圏線、無文、釉調青白色
876	7次	37区	SP05	須恵器	椀	−	(1.4)	−	−	口縁1/10	普通	φ0.5〜1mm大の灰白色粒僅	N7/灰白	回転ナデ
877	7次	37区	SP14	須恵器	鉢	−	(4.25)	(12.35)	(21.2)	底部1/6	良好	φ0.5〜2mmの白色、灰色、赤褐色粒中量含む	N6/灰	底部糸切り、内外面回転ナデ
878	7次	37区	SP36	須恵器	鉢	(4.5)	−	−	−	口縁1/12	普通	φ〜4mm大の白色、黒色粒少量含む	N7/灰	口縁部形態A2類
879	7次	37区	SP38	須恵器	椀	−	(2.5)	−	−	口縁1/10	良好	φ0.5〜3mmの白色、灰色粒中量含む	5Y6/1灰、N6/灰	回転ナデ
880	10次	7区	SP02	土師器	Ⅲ0	10.9	2.1	8.4	−	1/1	普通	φ〜2mmだいの赤褐色、黒色、白色、透明色粒微量含む	7.5YR7/4にぶい橙	口縁部ヨコナデ
881	11次	10区	SP54	土師器	埦	−	(3.35)	−	−	口縁1/20	普通	φ0.5〜1mm大の灰白色、乳白色粒中	5YR7/6橙	鉄かぶと形Ⅰ類、内面ナデ、外面タタキ
882	11次	10区	SP58	土師器	埦	−	(3.6)	−	−	口縁1/20	普通	φ0.5〜2mmの白色、灰色、赤褐色、透白色粒中量含む	7.5YR7/6橙	擂磨型、摩滅
883	11次	10区	SP91	青磁	碗	−	(2.35)	−	−	口縁1/20	良好	精良	10YR6/2オリーブ灰	外面蓮弁文
884	14次	9区	SP04	須恵器	椀	−	(3.25)	−	−	口縁1/10	普通	φ0.5〜2mmの白色、灰色粒商流含む	N6/灰	口縁部回転ナデ
885	14次	9区	SP25	土師器	皿H	−	(2.1)	−	−	口縁1/15	普通	φ〜1mm大の白色、灰色、暗赤褐色粒少量含む	10YR8/3浅黄橙	口縁部ヨコナデ
886	14次	9区	SP135	土師器	杯	−	(1.25)	−	−	口縁1/20	普通	φ〜2mm大の白色、暗褐色少量含む	5YR6/6橙	内外面摩滅
887	14次	9区	SP70	備前焼	擂鉢	−	(6.15)	(12.7)	(21.6)	底部1/5	良好	φ0.5〜1mmの白色、灰色粒極少量含む	2.5YR6/6橙、N7/灰白	スリ目11本
888	14次	9区	SP109	土師器	埦	(27.9)	(8.9)	−	(28.4)	1/3	普通	φ〜2mm大の白色、灰色、橙色粒少量含む	10YR7/3にぶい黄橙、10YR4/1褐灰	鉄かぶと形Ⅱc類、底部丸底、内面ナデなし、外面タタキ
889	10次	6区	包含層	瀬戸焼	平碗	−	(3.05)	3.75	(10.7)	底部1/1	良好	密	N8/灰白、釉7.5Y6/2灰オリーブ	内面緑釉、外面無釉、底部削り出し高台
890	10次	6区	包含層	青磁	碗	(15.0)	(4.55)	−	−	口縁1/6	良好	精良	N7/灰白、釉7.5Y6/2灰オリーブ	口縁部外反、無文
891	10次	6区	包含層	瓦質土器	甕	−	(7.5)	−	−	口縁1/10	普通	φ〜3mm大の白色、赤褐色、灰色粒中量含む	内面：2.5Y7/3浅黄 外面：7.5YR6/4にぶい橙	外面格子タタキ、内外面摩滅
892	10次	6区	包含層	備前焼	甕	−	(11.45)	(32.0)	(45.4)	底部1/4	甘	φ0.5〜4mmの白、灰、褐色粒少量含む	5Y8/1灰白	外面ケズリ
893	5次	24−4区	包含層	土師器	小皿B	(7.9)	(0.95)	(4.8)	−	1/3	普通	φ〜1mm大の赤色、黒色粒微量含む	2.5Y8/2灰白	口縁部ヨコナデ、薄手
894	5次	24−4区	包含層	土師器	皿I	(17.0)	(2.7)	−	−	口縁1/4	普通	密、φ〜1mmの黒色、赤色粒微量含む	2.5Y8/2灰白	部分的にナデ
895	5次	24−4区	包含層	土師器	埦	(16.9)	図上復元	−	(20.8)	1/6	普通	φ0.5〜5mmの白色、黒色、灰色、褐色、透白色粒中量含む	5YR6/6橙	播但型Ⅲ類、外面タタキ
896	5次	24−4区	包含層	土師器	埦	(21.6)	(14.25)	−	(24.1)	1/3	普通	φ〜5mm大の白色、黒色、赤褐色、透明色粒少量含む	7.5YR7/4にぶい橙	播但型、宮原Ⅱc、外面タタキ、スス付着
897	5次	24−4区	包含層	備前焼	壺	(10.05)	(5.6)	−	(14.3)	口縁1/5	良好	密	2.5Y5/2灰赤	口縁端部外方へ延びる、外面灰被り
898	5次	31区	SP05	須恵器	椀	−	(3.95)	−	−	1/10	普通	φ〜2mm大の黒色、白色粒少量含む	N7/灰白	内外面回転ナデ
899	4次	25区	SP118	土師器	埦	−	(9.1)	−	−	1/10	普通	φ0.5〜4mmの白色、灰色、褐色、黄橙色、金雲母粒多量に含む	10YR4/3にぶい黄橙、10YR4/2灰黄褐	厚手くの字口縁、内外面ハケ、下端面取り
900	4次	25区	SP121	土師器	皿H	(12.7)	2.45	(8.3)	−	1/4	普通	φ〜2mm大の灰色、赤褐色、透明色粒少量含む	10YR8/3浅黄橙	強いナデにより段
901	5次	27−1区	SP51	土師器	小皿R	7.8	1.1	6.1	−	9/10	普通	φ〜3.5mm大の白色、赤褐色、黒色粒少量含む	10YR8/2灰白〜5YR7/4にぶい橙	底部ヘラ切り
902	5次	27−1区	SP51	須恵器	椀	(17.0)	(3.95)	−	−	1/5	普通	φ〜4mm大の白色、黒色粒少量含む	N6/灰	回転ナデ、外面一部ス ス付着
903	16次	14区	SP22	土師器	埦	(19.2)	(11.1)	−	(25.2)	3/4	普通	やや粗い、φ1mm以下の白色、赤褐色粒を多く含む	5YR6/4にぶい橙	播但型Ⅲ類、外面タタキ、スス付着
904	5次	31区	SP39	土師器	Ⅲ0	10.4	2.15	4.0	−	1/1	普通	φ〜3mm大の赤褐色、黒色、白色粒微量含む	2.5Y8/2灰白	内面一定方向ナデ、口縁部ヨコナデ
905	16次	6区	SP33	土師器	小皿B	−	(1.4)	−	−	口縁1/8	普通	φ〜1mm大の白色、橙色粒少量含む	10YR8/4浅黄橙、7.5YR7/4にぶい橙	指オサエ
906	16次	6区	SP25	土師器	皿 I	(15.4)	(2.85)	(9.3)	−	1/4	普通	φ〜1mm大の白色、褐色、灰色粒中量含む	2.5Y6/1黄灰、10YR8/2灰白	口縁端部摘み出し、ヨコナデ
907	4次	25区	SP96	須恵器	鉢	(32.2)	(13.0)	−	(33.4)	口縁1/6	普通	φ〜7mmの粒含む	内面：2.5Y7/1灰白 外面：N6/灰	口縁部形態A1Ⅰ類
908	4次	25区	SP96	須恵器	甕	(26.2)	(10.8)	−	(38.6)	口縁1/4	普通	φ0.5〜1mm大の灰白色粒僅	N6/灰	口縁部内側拡張、外方へ延び、外面タテ方向のタタキ
909	5次	29区	ST06	須恵器	小皿	9.1	2.3	4.3	−	1/1	良好	φ0.5〜2mmの白色、灰色粒少量含む	N6/灰	底部糸切り、回転ナデ
910	5次	29区	ST06	土師器	杯	14.3	3.3	7.9	−	1/1	甘	φ0.5〜2mmの白色、灰色粒中量含む	10YR6/1褐灰、10YR7/2にぶい黄橙	底部ヘラ切り、内外面ナデ
911	5次	29区	ST06	土師器	杯	14.8	3.25	8.6	−	1/1	甘	φ0.5〜2mmの白色、灰色、褐色粒中量含む	7.5Y8/6浅黄橙、10YR8/4浅黄橙	底部ヘラ切り、内外面摩滅
912	5次	27−1区	SE07	瓦	丸瓦	幅(7.85)	長(19.0)	厚2.05	−	−	普通	密、φ〜3mm大の黒色粒微量含む	N4/灰	コビキA、玉縁側縁面取り、吊紐痕、凸面ス ス付着
913	5次	27−1区	SE07	石製品	無縫塔	幅22.75	長(34.15)	厚21.8	−	1/1	−	−	−	全体的に摩滅、重量37kg
914	5次	27−2区	SE08	土師器	皿H	−	(2.0)	−	−	口縁1/10	普通	φ〜0.5mmの乳白色、灰白色、赤橙色粒僅	10YR8/3浅黄橙	薄手、内外面摩滅
915	5次	27−2区	SE08	土師器	埦	(16.8)	(7.4)	−	(18.0)	口縁1/5	普通	φ〜7.5mm大の白色、黒色、赤褐色粒少量含む	内面：10YR8/4浅黄橙 外面：10YR8/2灰白	播但型Ⅲ類、外面タタキ、スス付着
916	5次	27−2区	SE08	瓦質土器	羽釜	(21.0)	(4.6)	−	(28.2)	口縁1/6	普通	φ0.5〜1mm大の灰白色、乳白色、赤橙色粒中	5Y2/1黒	内傾、鍔長1.8㎝、外面ハケ、スス付着
917	5次	27−2区	SE08	備前焼	甕	−	(8.75)	(45.3)	(54.9)	底部1/4	良好	φ0.5〜2mmの白色、灰色粒少量含む	5Y8/1灰白	内外面漆付着
918	5次	30区	SE09	土師器	小皿R	8.35	1.2	6.9	−	9/10	普通	φ0.5〜1mm大の乳白色、赤橙色粒僅	10YR8/3浅黄橙	底部ヘラ切り、体部ヘラによる螺旋状の沈線
919	5次	30区	SE09	土師器	小皿R	(8.8)	1.2	(7.3)	−	口縁1/4	普通	φ0.5mm大の赤橙色粒僅	10YR8/2灰白	底部ヘラ切り、体部ヘラによる螺旋状の沈線
920	5次	30区	SE09	土師器	小皿R	8.3	1.4	6.35	−	9/10	甘	φ0.5〜1mm大の白色、灰色、赤灰色粒少量含む	10YR8/2灰白	底部ヘラ切り、板状圧痕、体部ヘラによる螺旋状の沈線
921	5次	30区	SE09	土師器	小皿B	(7.3)	(1.15)	−	−	口縁1/4	普通	φ0.5mm大の赤橙色粒僅	2.5Y8/1〜8/2灰白	口縁部丸く収める
922	5次	30区	SE09	土師器	皿H	−	(2.05)	−	−	口径1/7	普通	密、φ〜1mm大の赤褐色、黒色粒微量含む	10YR8/2灰白	薄手、口縁端部肥厚
923	5次	30区	SE09	土師器	皿H	(12.0)	(1.85)	−	−	口縁1/6	甘	φ〜0.5mmの白色粒少量含む	2.5Y8/1灰白	内外面摩滅
924	5次	30区	SE09	土師器	皿G か	(10.6)	1.9	−	−	口縁1/4	甘	精良	5YR7/6橙、10YR8/2灰白	底部欠損、口縁部ヨコナデ
925	5次	30区	SE09	土師器	皿H	(12.0)	(2.4)	−	−	口縁1/4	普通	φ〜2mm大の赤褐色、黒色粒少量含む	5Y8/1灰白〜7.5YR8/4浅黄橙	口縁端部シャープ
926	5次	30区	SE09	土師器	杯	−	2.15	−	−	口縁1/6	普通	φ0.5〜1mm大の赤橙色粒僅	10YR8/2灰白	底部ヘラ切りか、口縁部回転ナデ
927	5次	30区	SE09	土師器	埦	−	(5.65)	−	−	口縁1/12	甘	φ0.5〜1mmの白色、褐色、灰白色、赤褐色粒少量含む	10YR8/3浅黄橙	播但型、宮原Ⅱc、口縁端部玉縁、外面タタキ
928	5次	30区	SE09	土師器	埦	−	(5.3)	−	−	口縁1/9	普通	φ0.5〜1mm大の乳白色、灰白色粒僅	5YR7/8橙	鉄かぶと形Ⅰ類、外面タタキ、口縁内面ナデ強
929	5次	30区	SE09	土師器	埦	(29.2)	(9.1)	−	(29.7)	口縁1/4	普通	φ〜5mm大の赤褐色、黒色、白色、灰色粒少量含む	7.5YR7/4にぶい橙	鉄かぶと形Ⅰb類、内面ナデ強、底部屈曲
930	5次	30区	SE09	土師器	埦	(27.9)	(11.45)	−	(28.4)	口縁1/4	普通	φ0.5〜1mm大の白色、灰色、褐色粒中量含む	10YR6/3にぶい黄橙、10YR5/2灰黄褐	鉄かぶと形Ⅰa類、口縁外反、底部屈曲
931	5次	30区	SE09	土師器	小皿R	8.3	1.4	6.35	−	9/10	甘	φ0.5〜1mm大の白色、灰色、赤灰色粒少量含む	10YR8/2灰白	底部ヘラ切り、体部ヘラによる螺旋状の沈線
932	5次	30区	SE09	土師器	小皿R	8.3	1.4	6.35	−	9/10	甘	φ0.5〜1mm大の白色、灰色、赤灰色粒少量含む	10YR8/2灰白	底部ヘラ切り、板状圧痕、体部ヘラによる螺旋状の沈線
933	5次	30区	SE09	土師器	小皿R	8.3	1.4	6.35	−	9/10	甘	φ0.5〜1mm大の白色、灰色、赤灰色粒少量含む	10YR8/2灰白	底部ヘラ切り、板状圧痕、体部ヘラによる螺旋状の沈線
934	5次	30区	SE09	土師器	小皿R	8.3	1.4	6.35	−	9/10	甘	φ0.5〜1mm大の白色、灰色、赤灰色粒少量含む	10YR8/2灰白	底部ヘラ切り、板状圧痕、体部ヘラによる螺旋状の沈線
935	5次	30区	SE09	土師器	杯	11.95	2.65	7.7	−	11/1	普通	φ0.5mm大の赤橙色粒僅	2.5Y8/1灰白	底部ヘラ切り、板状圧痕
936	5次	31区	SE10	土師器	小皿A	(8.8)	(2.1)	−	−	1/4	普通	φ〜1mm大の白色、灰色粒少量含む	10YR8/3浅黄橙	皿G形態、口縁部ヨコナデ
937	5次	31区	SE10	木製品	漆椀	幅(3.25)	長(2.2)	−	−	口縁1/20	−	−	−	内外面赤漆
938	5次	31区	SE10	土師器	埦	−	(3.6)	−	−	口縁1/20	普通	φ0.5〜2mmの白色、褐色、灰白色粒中量含む	10YR7/3にぶい黄橙	鉄かぶと形Ⅰ類、外面タタキ、スス付着
939	5次	31区	SE10	土師器	埦	−	(4.7)	−	−	口縁1/20	普通	φ〜2mm大の赤色、透明色、白色粒少量含む	10YR3/1〜3/2黒褐	鉄かぶと形Ⅱ類、内面ナデ2段、外面タタキ、スス付着
940	5次	31区	SE10	須恵器	甕	−	(5.75)	−	−	口縁1/20	普通	φ0.5〜2mmの白色、灰色粒中量含む	5Y7/1灰白	外面格子タタキ
941	5次	31区	SE10	須恵器	甕	−	(6.0)	−	−	肩部1/20	甘	φ0.5mm大の乳白色粒少	5Y4/1灰	外面平行タタキ
942	5次	31区	SE10	須恵器	鉢	−	(5.4)	(7.3)	(14.7)	底部1/12	普通	φ〜3mm大の白色、黒色粒少量含む	7.5Y6/1灰	底部輪高台、東播北部窯か
943	5次	31区	SE10	瓦質土器	風炉	幅(18.05)	長(14.4)	−	−	底部1/12	普通	φ0.5〜3mmの灰色、白色粒極少量含む	N3/暗灰	大和産か、風炉Ⅱ、外面スタンプ文
944	5次	31区	SE10	木製品	木簡	幅5.8	長(26.8)	厚0.7	−	9/10	−	−	−	仁王般若経　応永8年正月19日
945	5次	31区	SE10	木製品	木簡	幅7.0	長30.7	厚0.6	−	1/1	−	−	−	祈祷札、仁王般若経　応永11年6月2日
946	5次	31区	SE10	木製品	木簡	幅7.5	長28.8	厚0.7	−	1/1	−	−	−	祈祷札、大般若波羅密経　応永15年10月12日
947	5次	31区	SE10	木製品	木簡	幅6.9	長32.0	厚0.7	−	1/1	−	−	−	祈祷札、仁王般若密経　応永16年正月8日
948	5次	31区	SE10	木製品	木簡	幅9.3	長51.7	厚0.95	−	1/1	−	−	−	祈祷札、大般若波羅密経　応永20年五月吉日
949	5次	31区	SE10	木製品	木簡	幅(4.8)	長25.6	厚0.5	−	1/2	−	−	−	祈祷札、大般若経か
950	5次	31区	SE10	木製品	木簡	幅7.6	長26.3	厚0.5	−	9/10	−	−	−	祈祷札、仁王経か
951	5次	31区	SE10	木製品	木簡	幅(5.3)	長26.3	厚0.4	−	2/3	−	−	−	祈祷札、大般若経か
952	5次	31区	SE10	木製品	木簡	幅(2.8)	長(26.8)	厚0.6	−	1/2	−	−	−	祈祷札
953	5次	31区	SE10	木製品	木簡	幅(2.8)	長(25.0)	厚0.4	−	1/2	−	−	−	祈祷札、仁王般若経か
954	5次	31区	SE10	木製品	木簡	幅6.8	長(12.2)	厚0.5	−	1/5	−	−	−	祈祷札、大般若経か
955	5次	31区	SE10	木製品	木簡	幅(6.5)	長(21.4)	厚0.4	−	1/2	−	−	−	祈祷札、大般若経か
956	5次	31区	SE10	木製品	木簡	幅5.7	長26.1	厚0.6	−	4/5	−	−	−	祈祷札
957	5次	31区	SE10	木製品	木簡	幅8.0	長49.0	厚0.75	−	1/1	−	−	−	祈祷札

遺物観察表

番号	次数	区	遺構名	種別	器種	口径	器高	底径	最大径	残存部	焼成	胎土	色調	特記事項
958	5次	31区	SE10	木製品	木簡	幅3.4	長23.4	厚0.3	−	1/1	−	−	−	呪符木簡
959	5次	31区	SE10	木製品	木簡	幅(3.4)	長(16.7)	厚0.5	−	1/5	−	−	−	祈禱札
960	5次	31区	SE10	木製品	木簡	幅(5.8)	長(16.6)	厚0.7	−	1/4	−	−	−	祈禱札か
961	5次	31区	SE10	木製品	毬	幅(4.35)	長(5.5)	厚3.85	−	1/1	−	−	−	円錐形、毬杖の毬か
962	5次	31区	SE10	木製品	毬	幅3.6	長5.75	厚3.85	−	1/1	−	−	−	円錐形、毬杖の毬か
963	5次	31区	SE10	木製品	箸状	幅(0.65)	長(16.0)	厚(0.4)	−	2/3	−	−	−	両端欠損
964	5次	31区	SE10	木製品	箸状	幅(0.7)	長(13.45)	厚(0.4)	−	1/2	−	−	−	上部欠損
965	5次	31区	SE10	木製品	箸状	幅0.6	長20.95	厚0.55	−	1/1	−	−	−	完存
966	5次	31区	SE10	鉄製品	鉄釘	幅(1.2)	長(4.6)	厚0.2	−	1/1	−	−	−	折釘、重量3.08ｇ
967	5次	31区	SE10	鉄製品	鉄釘	幅(0.9)	長(4.5)	厚0.15	−	1/1	−	−	−	折釘、重量2.6ｇ
968	5次	31区	SE10	金属	釘	幅1.3	長(4.4)	厚0.15	−	1/1	−	−	−	折釘、重量3.34ｇ
969	5次	31区	SE10	鉄製品	鉄釘	幅(0.95)	長4.25	厚0.15	−	1/1	−	−	−	折釘、重量2.61ｇ
970	5次	31区	SE10	鉄製品	鉄釘	幅(1.1)	長(5.1)	厚0.2	−	1/1	−	−	−	折釘、重量4.69ｇ
971	5次	31区	SE10	鉄製品	鉄釘	幅1.4	長4.9	厚0.2	−	1/1	−	−	−	折釘、重量3.94ｇ
972	5次	31区	SE10	木製品	栓	幅7.05	長3.65	厚0.4	−	1/1	−	−	−	内角148°
973	5次	31区	SE10	木製品	栓	幅7.2	長4.0	厚0.4	−	1/1	−	−	−	内角150°
974	5次	31区	SE10	木製品	栓	幅7.9	長3.8	厚0.3	−	1/1	−	−	−	内角145°
975	5次	31区	SE10	木製品	栓	幅7.15	長3.7	厚0.35	−	1/1	−	−	−	内角152°
976	5次	31区	SE10	木製品	栓	幅7.55	長3.95	厚0.4	−	1/1	−	−	−	内角155°
977	5次	31区	SE10	木製品	栓	幅7.45	長3.75	厚0.35	−	1/1	−	−	−	内角148°
978	5次	31区	SE10	鉄製品	鎹	幅11.5	長8.25	厚0.2	−	1/1	−	−	−	内角148°、重量12.17ｇ
979	5次	31区	SE10	木製品	井戸枠	143.7	31.0	厚3.2	−	1/1	−	−	−	外面に花押
980	5次	31区	SE10	木製品	井戸枠	152	29.5	厚3.4	−	1/1	−	−	−	側面に木釘穴、外面に花押
981	5次	31区	SE10	木製品	井戸枠	長159.4	幅30.0	厚4.5	−	1/1	−	−	−	円形井戸枠、側面枘穴、木釘穴、外面鎹跡
982	5次	31区	SE10	木製品	井戸枠	長159.0	幅29.3	厚4.2	−	1/1	−	−	−	方形井戸枠、板目材、下端抉り、釘穴
983	5次	31区	SE10	木製品	井戸枠	長162.6	幅29.2	厚3.8	−	1/1	−	−	−	円形井戸枠、枘・鎹跡3か所、外面釘穴、側面木釘穴、柾目材
984	4次	25区	SD05	木製品	漆椀	(13.4)	(5.2)	(7.4)	(13.6)	1/2	−	−	−	内面赤漆、外面黒漆、赤漆で紅葉
985	4次	25区	SD05	土師器	埦	−	(4.3)	−	−	口縁1/10	普通	φ0.5~2mm大の乳白色、赤褐色、灰色、透明色粒中量含む	10YR7/3にぶい黄橙	鉄かぶと形Ⅱ類、内面ナデ器、端部丸く収める、外面スス付着
986	4次	25区	SD05	土師器	埦	−	(2.2)	−	−	口縁1/8	普通	φ～3mm大の白色、赤色、黒色、透明色粒少量含む	5YR6/6橙	播個型
987	4次	25区	SD05	備前焼	擂鉢	−	(5.15)	−	−	口縁1/10	普通	φ0.5~6mm大の乳白色、橙色、黒色、赤褐色粒やや大目に含む	5YR5/2灰褐～2.5YR5/4にぶい赤褐	擂目10本、中世3a期
988	4次	25区	SD05	備前焼	甕	−	(5.07)	−	−	底部1/20	普通	φ0.5~1.1mm大の白色、赤褐色、灰色粒少量含む	5Y5/1灰、5Y8/2灰白	底部内外面ケズリ
989	5次	31区	SD01	土師器	小皿Ｂ	(8.5)	1.35	(5.0)	−	1/3	普通	φ～4mm大の赤褐色、灰色、黒色粒少量含む	5Y8/1灰白～2.5Y6/6橙	口縁部ヨコナデ、内面丁寧なナデ
990	5次	31区	SD01	土師器	小皿Ａ	8.1	1.1	−	−	1/6	甘	φ0.5mm以下の白色、褐色粒極少量含む	2.5Y8/2灰白	口縁部ヨコナデ
991	5次	31区	SD01	土師器	小皿Ｂ	(7.6)	1.7	−	−	1/3	甘	φ0.5~1mmの白色、赤褐色粒極少量含む	2.5Y8/2灰白	部分的にナデ
992	5次	31区	SD01	土師器	小皿Ａ	(10.3)	(1.6)	−	−	1/4	普通	密、φ～3mm大の白色、赤褐色、黒色粒少量含む	5Y8/1灰白	口縁部ヨコナデ
993	5次	31区	SD01	土師器	Ⅲ R	(12.6)	1.65	(7.0)	−	1/4	普通	φ0.5~2mm大の赤橙色、乳白色粒僅	2.5Y8/2灰白	底部ヘラ切りか、摩滅
994	5次	31区	SD01	土師器	小皿Ａ	(8.5)	2.0	3.1	−	2/3	普通	精良	10YR8/2灰白	Ⅲ O形態、口縁部ヨコナデ、外面底部粘土チヂレ
995	5次	31区	SD01	土師器	小皿Ａ	(8.7)	2.3	(4.3)	−	1/3	甘	φ0.5~2mmの白色、赤褐色粒極少量含む	2.5Y8/2灰白	Ⅲ O形態、口縁部ヨコナデ、外面底部粘土チヂレ
996	5次	31区	SD01	土師器	小皿Ａ	(9.4)	(2.35)	−	−	1/4	普通	密、φ～4.5mm大の白色、赤褐色粒稀に含む	2.5Y8/2灰白～10YR8/2灰白	Ⅲ O形態、口縁部ヨコナデ
997	5次	31区	SD01	土師器	小皿Ｂ	10.2	2.3	7.0	−	1/1	普通	φ～3mm大の黒色、赤褐色、白色粒少量含む	内面：10YR8/2灰白 外面：7.5YR8/3浅黄橙	内面不定方向ナデ
998	5次	31区	SD01	土師器	小皿Ａ	9.9	2.0	5.85	−	1/1	普通	φ～3mm大の黒色、赤褐色、白色粒微量含む	2.5Y8/1灰白	口縁部ヨコナデ
999	5次	31区	SD01	土師器	Ⅲ O	(11.1)	(2.55)	−	−	1/4	普通	φ0.5~1mm大の乳白色、赤橙色粒僅	2.5Y6/1～5/1黄灰	口縁部ヨコナデ、内面一定方向ナデ
1000	5次	31区	SD01	土師器	小皿Ｂ	10.2	2.3	−	−	1/1	甘	φ0.5~1mm大の白色粒極少量含む	5Y8/1灰白、10YR7/4にぶい黄橙	内面不定方向ナデ
1001	5次	31区	SD01	土師器	小皿Ｂ	(9.8)	2.1	(6.6)	−	1/4	普通	φ～2mm大の赤褐色、黒色、透明色粒微量含む	2.5Y8/2灰白	深皿
1002	5次	31区	SD01	土師器	小皿Ａ	9.4	2.4	−	−	9/10	甘	φ0.5~3mmの白色、褐色粒極少量含む	2.5Y8/2灰白	Ⅲ O形態、口縁部ヨコナデ、内面一方向ナデ
1003	5次	31区	SD01	土師器	小皿Ｂ	(9.0)	2.2	(6.0)	−	1/4	普通	φ～3mm大の白色、赤褐色、黒色粒少量含む	2.5Y8/2灰白	深皿
1004	5次	31区	SD01	土師器	小皿Ａ	(8.9)	2.1	(4.4)	−	1/4	普通	φ～3mm大の赤褐色、黒色、透明色粒少量含む	2.5Y8/2灰白	口縁部ヨコナデ
1005	5次	31区	SD01	土師器	小皿Ａ	(9.8)	(2.1)	−	−	1/4	普通	密、φ～5mm大の白色、赤褐色、黒色粒微量含む	2.5Y8/2灰白	口縁部ヨコナデ
1006	5次	31区	SD01	土師器	Ⅲ	(14.0)	(2.05)	−	−	1/4	甘	φ0.5~1mmの白色、灰白色粒様少量含む	2.5Y8/2灰白	口縁部ヨコナデ、内面一定方向ナデ、端部肥厚
1007	5次	31区	SD01	土師器	Ⅲ I	(16.0)	2.75	(7.7)	−	1/3	普通	密、φ～3mm大の赤褐色粒微量含む	10YR8/2灰白	口縁部ヨコナデ、端部摘み出し
1008	5次	31区	SD01	青磁	碗	−	(4.1)	(5.6)	(12.8)	底部1/3	良好	精良	N6/灰、釉)10Y6/2オリーブ灰	無文、高台露胎
1009	5次	31区	SD01	木製品	折敷	幅(8.05)	長(15.35)	厚(0.55)	−	2/3	−	−	−	3分割
1010	5次	31区	SD01	木製品	杓子	幅(12.0)	長(17.0)	厚2.9	−	1/4	−	−	−	心去材、表面柿渋、マツ属複維管束亜属
1011	5次	31区	SD01	木製品	木簡	幅(4.15)	長(19.4)	厚0.6	−	1/2	−	−	−	呪符木簡か
1012	11次	6−3区	SD03	土師器	小皿Ｂ	(9.8)	(2.0)	−	−	1/5	甘	φ～0.5mmの白色、灰色、赤褐色粒中量含む	2.5Y8/2灰白、7.5YR7/4にぶい橙	外面粘土チヂレ
1013	11次	6−3区	SD03	土師器	埦	−	(5.5)	−	−	口縁1/10	普通	φ～3mm大の乳白色、透明色、黒色粒少量含む	内面：5YR6/6橙 外面：7.5YR7/4にぶい橙	鉄かぶと形Ⅰ類、内面ナデ器、外面タタキ
1014	11次	6−3区	SD01	土師器	小皿Ａ	(9.9)	2.4	(4.85)	−	口縁1/5	甘	φ～0.5mmの白色、灰色粒極少量含む	2.5Y8/1灰白	丸底、端部丸く納める
1015	11次	6−3区	SD01	土師器	Ⅲ I	−	(2.0)	−	−	1/8	甘	φ0.5~1mm大の白色、灰白色粒中量含む	10YR8/2灰白	薄手、端部摘み上げ
1016	11次	6−3区	SD01	青磁	碗	−	(1.55)	−	−	口縁1/18	普通	精良	5GY7/1明オリーブ灰	端部外反、無文、釉調緑色
1017	11次	6−3区	SD01	土師器	埦	−	(4.0)	−	−	口縁1/12	普通	φ0.5~2mm大の灰色、乳白色粒少	内面：7.5YR5/4にぶい褐 外面：N2/黒	鉄かぶと形Ⅰ類、外面タタキ、スス付着
1018	11次	6−3区	SD01	備前焼	小壺	3.35	(3.8)	−	(7.2)	口縁2/3	良好	密	7.5YR5/3にぶい褐	片口、内外面回転ナデ
1019	16次	6区	SK02	白磁	碗	−	(3.65)	−	−	口縁1/10	普通	密	7.5YR8/1灰白	Ⅳ類
1020	5次	31区	SD07	土師器	Ⅲ H	−	(2.2)	−	−	口縁1/8	甘	φ0.5~1mmの白色、褐色、灰白色粒中量含む	10YR8/3浅黄橙、7.5YR7/4にぶい橙	内外面回転ナデ摩滅
1021	5次	31区	SD07	土師器	Ⅲ I	(13.0)	(2.2)	−	−	口縁1/6	甘	φ0.5~1mmの白色、透白色粒極少量含む	10YR8/2灰白、7.5YR7/4にぶい橙	口縁部ヨコナデ、端部摘み出し
1022	4次	25区	SD04	土師器	小皿Ｂ	(8.0)	1.45	(5.7)	−	1/2	普通	密、φ～1mmの白色、褐色粒を含む	10YR8/2灰白	内面ナデ
1023	4次	25区	SD04	土師器	小皿Ｂ	(9.2)	1.5	(4.8)	−	1/3	普通	φ～3mm大の赤褐色、黒色、白色粒微量含む	2.5Y8/2灰白	内面ナデ、外面指オサエ、一部ナデ
1024	4次	25区	SD04	土師器	小皿Ａ	(9.7)	1.9	(5.0)	−	1/4	普通	φ～1mmの茶褐粒含む	10YR8/3浅黄橙	口縁部ヨコナデ
1025	4次	25区	SD04	土師器	小皿	(8.7)	(1.6)	−	−	1/5	普通	φ～6mm大の白色、赤褐色、黒色、透明色粒微量含む	2.5Y8/2灰白	薄手、内外面摩滅
1026	4次	25区	SD04	土師器	小皿	7.8	1.9	3.2	−	9/10	普通	φ0.5~1mm大の赤橙色、乳白色粒僅	10YR8/3浅黄橙	内外面摩滅
1027	4次	25区	SD04	土師器	小皿Ｂ	(8.3)	1.7	5.1	−	9/10	普通	φ0.5~1mm大の乳白色、赤褐色粒少	2.5Y8/2灰白	薄手
1028	4次	25区	SD04	土師器	小皿Ａ	(9.7)	2.55	(4.8)	−	1/4	普通	密、φ1mm程の褐色、灰色、白色粒を含む	2.5Y8/2灰白	Ⅲ O形態、端部シャープ
1029	4次	25区	SD04	土師器	Ⅲ O	(11.0)	2.4	(7.4)	−	1/6	普通	密、φ～1mmの白色粒を含む	10YR8/2灰白	Ⅲ O形態
1030	4次	25区	SD04	土師器	Ⅲ O	(10.9)	(2.75)	−	−	口縁2/3	普通	密、φ～1mmの白色粒を含む	2.5Y7/2黄灰	Ⅲ O形態か、口縁歪み
1031	4次	25区	SD04	土師器	Ⅲ H	(13.8)	(2.65)	−	−	口縁1/5	普通	密、φ～1mmの灰色、白色粒を含む	7.5YR8/4浅黄橙	薄手、内外面摩滅
1032	4次	25区	SD04	土師器	Ⅲ I	(14.8)	2.9	(8.0)	−	1/5	普通	密、φ～1mmの白色、赤褐色粒を含む	7.5YR8/3浅黄橙	口縁端部摘み出し
1033	4次	25区	SD04	土師器	Ⅲ H	(14.4)	(3.15)	(7.8)	−	1/2	普通	φ～5mm大の白色、赤色、赤褐色、黒色、透明色粒少量含む	7.5YR8/4浅黄橙	丸底、端部丸く収める
1034	4次	25区	SD04	土師器	Ⅲ I	14.8	3.3	5.9	−	2/3	普通	φ0.5~1mm大の乳白色、赤橙色、灰白色粒少	7.5YR8/3～8/4浅黄橙	丸底、口縁端部摘み出し
1035	4次	25区	SD04	土師器	Ⅲ I	(17.9)	(2.7)	(10.4)	−	口縁1/3	普通	密、φ2mm前後の褐色粒、φ1mm程の灰色粒を含む	10YR8/2灰白	端部摘み出し、口縁部ナデ
1036	5次	31区	SD11	土師器	小皿Ｂ	(9.0)	1.8	−	−	1/4	甘	φ～0.5mmの白色、褐色粒含む	2.5Y8/2灰白、2.5Y7/2灰黄	深皿
1037	4次	25区	SD01	土師器	小皿	(9.7)	2.05	(5.2)	−	1/4	不良	やや粗、φ0.1~1mm程度の橙、乳白色粒多量に含む	10YR4/2灰黄褐～7.5YR8/4浅黄橙	Ⅲ G形態か、薄手、内外面摩滅
1038	4次	25区	SD01	備前焼	擂鉢	−	(5.15)	−	−	口縁1/10	良好	φ0.5~5mm程の白色、灰色、乳白色、黄橙色粒中量含む	5YR5/2灰褐、2.5YR4/3にぶい灰褐	擂目9本、中世3b期
1039	4次	25区	SD01	備前焼	擂鉢	(25.6)	(5.6)	−	(27.2)	口縁1/5	普通	φ～5mm大の赤褐色、白色、黒色、透明色粒少量含む	5Y6/1灰	擂目11本、中世4a期
1040	4次	25区	SD01	土師器	埦	(34.0)	(11.8)	−	(34.6)	1/3	普通	φ0.5~5mm大の赤褐色、白色、黒色粒含む	5YR7/6橙～4/1褐灰	鉄かぶと形Ⅰb類、底部回転ナデ、外面タタキ、スス付着
1041	16次	6区	SD02	土師器	小皿R	(8.0)	1.2	(6.2)	−	1/4	普通	φ～2mm大の白色、灰色、褐色粒少量含む	10YR8/4浅黄橙	底部ヘラ切り
1042	16次	6区	SD02	土師器	小皿Ａ	−	(1.0)	−	−	1/10	普通	φ～1mm大の褐色粒少量含む	7.5YR7/4にぶい橙、10YR7/4にぶい黄橙	口縁部ヨコナデ
1043	16次	6区	SD02	土師器	小皿Ａ	(8.6)	(1.45)	(6.0)	−	1/6	普通	φ0.5mm以下の灰色、褐色、透明色粒少量含む	7.5YR7/4にぶい橙、10YR8/3浅黄橙	口縁部ヨコナデ
1044	16次	6区	SD02	土師器	Ⅲ O	−	(1.7)	−	−	口縁1/10	普通	φ～2mm大の灰色、褐色粒少量含む	5YR6/6橙、10YR4/1褐灰	内外面摩滅、端部スス付着

番号	次数	区	遺構名	種別	器種	口径	器高	底径	最大径	残存部	焼成	胎土	色調	特記事項
1045	16次	6区	SD02	土師器	小皿R	7.9	1.9	3.8	−	9/10	普通	φ～1mm大の黒色、褐色粒少量含む	10YR8/3浅黄橙、7.5YR7/4にぶい橙	底部ヘラ切り、備前杯を模倣か
1046	16次	6区	SD02	土師器	杯	(11.4)	2.2	(6.0)	−	1/3	普通	φ0.5mm以下の白色、橙色、透明色粒少量含む	10YR7/3にぶい黄橙	底部ヘラ切り後ナデ
1047	16次	6区	SD02	青磁	碗	−	(3.5)	−	−	口縁1/8	普通	精良	2.5GY6/1オリーブ灰	無文、口縁端部外反
1048	16次	6区	SD02	瓦質土器	火鉢	−	(6.0)	−	−	口縁1/10	普通	φ0.5mm以下の白色、透明色粒中量含む	5Y5/1灰	炭素吸着弱
1049	16次	6区	SX01	土師器	小皿B	(9.7)	(1.6)	(6.9)	−	1/4	普通	φ0.5mm以下の黒色、橙色粒少量含む	5YR7/4にぶい橙	指オサエ
1050	16次	6区	SX01	土師器	小皿B	(7.8)	1.8	3.6	−	2/3	普通	φ0.5mm以下の灰色、褐色粒少量含む	2.5Y8/2灰白	指オサエ、端部シャープ
1051	16次	6区	SX01	土師器	小皿R	9.8	2.2	4.7	−	3/5	普通	φ～1mm大の白色、灰色、褐色粒少量含む	10YR7/4にぶい黄橙、2.5Y6/1黄灰	底部ヘラ切り、備前杯を模倣か
1052	16次	6区	SX01	青磁	碗	−	(2.9)	−	−	口縁1/8	普通	精良	2.5GY6/1オリーブ灰	無文、外反
1053	16次	6区	SX01	須恵器	椀	−	(2.1)	(6.0)	(8.8)	底部1/4	普通	φ～1.5mm大の白色、灰色粒少量含む	N7/灰白	底部糸切り、輪高台貼付
1054	16次	6区	SX01	土師器	鍋	−	(5.0)	−	−	口縁1/10	普通	φ～1mm大の白色、褐色、透明色粒中量含む	7.5YR6/4にぶい橙、2.5Y7/3浅黄	鉄かぶと形Ⅰ類、内面ナデ、外面タタキ
1055	16次	6区	SX01	備前焼	擂鉢	−	(5.8)	−	−	口縁1/8	普通	φ～1mm大の黒色、白色、橙色粒中量含む	2.5Y5/2暗灰黄	スリ目7本、中世4b期
1056	16次	6区	SX01	備前焼	壺	−	(17.7)	−	−	胴部1/8	普通	φ～1mm大の白色、灰色粒中量含む	5Y7/1灰白	内外面回転ナデ
1057	16次	6区	SK01	土師器	小皿B	(8.0)	(1.5)	(4.9)	−	口縁1/3	普通	φ～1mm大の白色、灰色、橙色粒少量含む	7.5YR8/4浅黄橙、10YR6/3にぶい黄橙	指オサエ
1058	16次	6区	SK01	土師器	鍋	−	(2.95)	−	−	口縁1/20	普通	φ～1mm大の白色、褐色粒中量含む	10YR6/4にぶい黄橙	擂磨型、端面、外面スス付着
1059	16次	6区	SK01	備前焼	鉢	−	(7.65)	−	−	口縁1/12	普通	φ～1mm大の白色粒少量含む	内面：7.5YR5/3にぶい褐 外面：10YR5/1褐灰	口縁部内湾、回転ナデ
1060	5次	31区	SD02	備前焼	擂鉢	−	(5.65)	−	−	口縁1/16	良好	φ0.5～2mmの白、赤色粒中量含む	N5/灰、2.5Y4/2暗灰黄	擂目1本以上、中世4a期
1061	5次	31区	SD06	土師器	小皿	(10.0)	1.6	−	−	1/4	甘	φ0.5～1mm大の白色、灰色、赤褐色粒少量含む	10YR8/4浅黄橙、2.5Y8/2灰白	内外面摩滅、丸底
1062	5次	31区	SD06	土師器	皿O	(11.0)	2.2	−	−	1/5	甘	φ0.5～2mmの白色、灰色、赤褐色粒少量含む	10YR8/2灰白、10YR7/4にぶい黄橙	内外面摩滅
1063	5次	31区	SD06	土師器	皿Ⅰ	−	(2.7)	−	−	口縁1/10	普通	φ0.5～1mm大の乳白色、灰白色、赤橙色粒僅	10YR8/2灰白	薄手、口縁端部シャープ
1064	11次	6−1区	SK03	青磁	碗	−	(3.4)	−	−	口縁1/10	普通	精良	5GY7/1明オリーブ灰	無文、端部外反、釉調青緑色
1065	11次	6−1区	SK04	備前焼	擂鉢	−	(6.5)	−	−	口縁1/12	良好	φ0.5～1mmの白色粒少量含む	2.5YR6/4にぶい赤褐、10YR4/2灰黄褐	擂目6本、中世4b期
1066	5次	31区	SP35	土師器	小皿R	7.25	1.05	6.05	−	1/1	普通	φ～5mm大の灰色、白色、赤褐色、黒色粒少量含む	10YR8/2灰白	底部ヘラ切り、口縁部ナデ
1067	5次	31区	SP35	土師器	小皿B	(7.5)	(1.7)	−	−	1/4	普通	φ～3mm大の白色、黒色、赤色粒少量含む	10YR8/3浅黄橙	内面ナデ、外面ナデなし
1068	5次	31区	SP35	土師器	皿Ⅰ	(14.0)	(1.45)	−	−	口縁1/6	普通	φ～3mm大の白色、赤色、黒色粒少量含む	7.5YR7/6橙～10YR8/4浅黄橙	口縁端部シャープ
1069	5次	31区	SP35	土師器	皿	−	1.6	−	−	1/8	普通	φ0.5～2mm大の赤橙色、乳白色粒僅	10YR8/2灰白	口縁端部沈線
1070	5次	31区	SP35	土師器	杯	−	(2.5)	−	−	口縁1/8	普通	密、φ～1mm大の黒色、透明色、白色粒微量含む	2.5Y8/3浅黄～7.5YR7/6橙	薄手
1071	5次	31区	SP36	土師器	小皿A	(8.1)	(1.8)	−	−	1/6	普通	φ0.5～1mm大の赤橙色、乳白色、灰白色粒中	10YR8/3浅黄橙	皿G形態、内外面摩滅
1072	5次	31区	SP36	土師器	小皿	(7.6)	(1.35)	−	−	1/6	普通	φ～2mm大の黒色、赤色、透明色粒少量含む	内面：2.5Y8/2灰白 外面：10YR8/3浅黄橙～7/3にぶい黄橙	口縁端部摘み上げ
1073	5次	31区	SP36	土師器	鍋	−	(4.2)	−	−	口縁1/10	普通	φ～5mm大の赤褐色、白色、黒色、透明色粒やや多く含む	7.5YR7/4にぶい橙	鉄かぶと形Ⅱ類、内面ナデ2段、外面タタキ
1074	5次	31区	SP116	土師器	鍋	−	(4.7)	−	−	口縁1/12	甘	φ0.5～1mm白色、灰色粒中量含む	7.5YR8/4浅黄橙、5YR6/6橙	鉄かぶと形Ⅱ類、内面ナデ2段、外面タタキ
1075	5次	31区	SP165	須恵器	鉢	−	(3.4)	−	−	口縁1/12	普通	φ0.5～1mm(1個5mm)大の灰白色、乳白色粒僅	N7/灰白	口縁部形態B3a類
1076	11次	6−1区	SP18	須恵器	椀	−	(1.15)	(6.0)	(9.3)	底部1/4	良好	密、φ～1.5mm大の白色、灰色粒少量含む	N6/灰	底部糸切り
1077	16次	6区	SP08	土師器	小皿A	(7.1)	(1.05)	−	−	1/3	甘	φ0.5～1mm大の白色、灰色、褐色、橙色粒中量含む	2.5Y7/3浅黄、2.5Y5/1黄灰	口縁部ヨコナデ
1078	16次	6区	SP17	青磁	碗	−	(2.85)	−	−	口縁1/10	良好	精良	釉5Y5/2灰オリーブ、7.5Y5/2灰オリーブ	蓮弁文、鎬なし
1079	16次	6区	SP27	白磁	碗	(13.8)	(1.9)	−	−	口縁1/8	普通	密	2.5GY8/1灰白	端部外反
1080	16次	6区	SP45	土師器	小皿B	(8.0)	(1.7)	(4.6)	−	1/3	普通	φ0.5mm以下の褐色、橙色粒少量含む	10YR7/4にぶい黄橙、10YR8/3浅黄橙	指オサエ
1081	16次	6区	SP45	土師器	小皿B	(7.2)	(1.15)	(3.8)	−	1/4	普通	φ～1mm大の白色、黒色粒少量含む	10YR8/3浅黄橙	指オサエ
1082	16次	6区	SP16	銅製品	銭	直径2.5	−	厚0.15	−	1/1	−	−	−	皇朝通宝、初鋳1039年、重量3ｇ
1083	16次	6区	包含層	土師器	小皿R	(9.4)	(2.2)	(4.6)	−	口縁1/5	普通	φ～1.5mm大の灰色、褐色粒少量含む	2.5Y8/1灰白、7.5YR8/4浅黄橙	1045と同一形態、外面灯明痕
1084	16次	6区	包含層	青磁	碗	−	(3.9)	−	−	口縁1/10	普通	精良	2.5GY6/1オリーブ灰	口縁部外反、無文
1085	5次	29区	SD01−1	陶器	小壺	3.5	4.2	2.8	5.05	1/1	普通	φ～1mm大の赤褐色、黒色、白色粒少量含む	5Y5/4オリーブ	底部ヘラケズリ、青釉、文字
1086	5次	29区	SD01−1	陶器	碗	−	(3.65)	3.95	(9.45)	底部2/3	良好	密	内面：2.5Y4/2暗灰黄 外面：7.5Y3/2オリーブ黒	刷毛目唐津
1087	5次	29区	SD01−1	磁器	碗	(14.9)	7.9	5.2	−	1/2	普通	密	10BG7/1明青灰	縦縞
1088	5次	29区	SD01−1	磁器	染付皿	12.7	3.25	7.25	−	3/4	良好	密	10GY8/1明緑灰	人工コバルト絵付け
1089	5次	29区	SD01−1	磁器	皿	(15.6)	2.9	(8.1)	−	1/3	普通	精良	5BG7/1明青灰	青磁釉
1090	5次	29区	SD01−1	陶器	碗	−	(1.9)	5.1	(9.8)	底部1/1	普通	密、φ～3mm大の白色粒微量含む	施釉部：5Y7/2灰白	胎土目唐津
1091	5次	29区	SD01−1	磁器	碗	−	(2.8)	3.65	(10.7)	底部1/1	普通	密	施釉部10Y8/1灰白、10Y6/1灰	初期伊万里、見込み蛇の目釉剥ぎ
1092	5次	29区	SD01−1	唐津	碗	−	(2.6)	4.4	(6.9)	底部1/1	普通	密	施釉部：7.5Y7/2灰白	砂目唐津、見込み目痕4ヶ所
1093	5次	29区	SD01−1	丹波焼	鉢	−	(6.25)	−	−	口縁1/8	良好	φ0.5～3mmの白色、灰色粒少量含む	N6/灰	内面鉄釉
1094	5次	29区	SD01−1	備前焼	擂鉢	−	(4.75)	−	−	口縁1/12	普通	φ～4m大の赤色、白色、青色、透明色粒やや多く含む	10YR5/1褐灰	近世2期
1095	5次	29区	SD01−1	備前焼	擂鉢	−	(6.55)	−	−	口縁1/20	良好	密	2.5YR4/3にぶい赤褐	擂目なし、中世5b期
1096	5次	29区	SD01−1	木製品	曲物	幅(7.5)	長12.5	厚0.8	−	1/2	−	−	−	曲物底板
1097	5次	29区	SD01−1	石器	硯	幅(4.85)	長10.45	厚(1.1)	−	2/3	−	−	N4/灰	黒色粘板岩、両面墨池、裏面未製品、重量76ｇ
1098	5次	29区	SD01−1	石器	砥石	幅8.75	長(11.35)	厚7.9	−	1/3	−	−	N6/灰	砂岩、多面体、4面使用、上下欠損、被熱、重量1220ｇ
1099	5次	27−2区	SD06	磁器	碗	6.4	3.0	2.65	6.6	2/3	良好	密	10Y8/1灰白	高台砂付着
1100	5次	27−2区	SD06	磁器	染付碗	(10.3)	(5.7)	(3.8)	−	1/2	普通	密	5B7/1明青灰	人工コバルト絵付け
1101	5次	27−2区	SD06	磁器	染付碗	−	(3.85)	(6.2)	(9.4)	底部2/3	良好	密	10Y8/1灰白	広東碗
1102	5次	27−2区	SD06	陶器	皿	(10.9)	1.9	4.6	−	1/3	普通	密	7.5Y7/1～7/2灰白	灯明皿、内面灰釉
1103	5次	27−2区	SD06	磁器	染付皿	(39.8)	(5.95)	−	−	口縁1/6	良好	密	7.5GY8/1明緑灰	大皿、蛸唐草文
1104	5次	27−2区	SD06	備前焼	壺	−	(4.8)	−	−	肩部1/10	普通	φ0.5～2mmの白色、灰白色粒含む	2.5Y7/6橙～2.5YR7/3淡赤橙	肩部櫛描波状文7条
1105	5次	27−2区	SD06	土師器	土人形	幅2.15	長5.9	厚1.85	−	1/1	甘	密	10YR7/3にぶい黄橙	型合わせ、底部穿孔
1106	5次	29区	SD01−2	陶器	碗	(9.6)	7.15	(6.2)	(10.4)	1/3	普通	密	2.5GY6/1オリーブ灰、4/1暗オリーブ灰	陶胎染付、唐草文
1107	5次	29区	SD01−2	備前焼	壺	(12.7)	(5.5)	−	(18.0)	口縁1/5	普通	やや粗い、φ1～5mm大の黒色粒を多く含む	N5/灰	肩部条線5条
1108	5次	29区	SD01−2	陶器	皿	−	(1.5)	(8.45)	(11.8)	底部1/4	良好	密	2.5Y8/1灰白、7.5YR8/3浅黄橙	青緑釉、削り出し高台
1109	5次	29区	SD01−2	備前焼	鉢	(13.7)	(4.5)	−	(14.3)	1/4	良好	φ0.5～5mmの白色、灰色、黄橙色粒少量含む	10R5/1赤灰	口縁外反、重ね焼痕
1110	5次	29区	SD01−2	土師器	土鍾	幅1.3	長5.9	−	−	全体1/1	普通	φ～2mm大の白色、黒色、赤褐色粒少量含む	2.5YR7/2明赤灰～7/4淡黄橙	孔径1.6㎝
1111	5次	29区	SD01−2	土師器	皿	−	2.1	−	−	1/8	普通	φ0.5mm大の赤橙色粒僅	2.5Y8/2灰白	口縁部ナデ、近世
1112	5次	29区	SD01−2	土師器	鍋	−	(6.45)	−	−	口縁1/8	普通	φ～4mm大の赤色、白色粒少量含む	内面：10YR4/1褐灰 外面：10YR7/3にぶい褐	擂磨型、外面スス付着、口縁内外面ナデ
1113	5次	29区	SD01−2	土師器	鍋	−	(4.25)	−	−	口縁1/10	普通	φ0.5～1mm大の赤橙色、灰色、乳白色粒少	7.5YR6/4にぶい橙	擂磨型、口縁端部拡張、スス付着
1114	5次	29区	SD01−2	備前焼	甕	−	(8.4)	−	−	口縁1/14	普通	密、φ～6mm大の白色、黒色、赤色、白色粒少量含む	N4/灰	口縁玉縁
1115	5次	29区	SD01−2	土師器	鍋	(24.0)	(6.9)	−	(24.6)	口縁1/6	普通	φ～3mm大の白色、赤色、黒色粒少量含む	5YR7/6橙	鉄かぶと形Ⅲ類、内面ナデ、外面タタキ、スス付着
1116	5次	29区	SD01−2	土師器	鍋	−	(5.7)	−	−	口縁1/16	普通	φ～3mm大の赤色、白色、黒色粒少量含む	内面：10YR5/3～4/3にぶい黄褐 外面：N3/暗灰	鉄かぶと形Ⅲ類、内面ナデ浅い、外面タタキ、スス付着
1117	5次	29区	SD01−2	備前焼	甕	−	(8.9)	−	−	口縁1/8	良好	φ0.5～1mmの白色、灰色、褐色粒中量含む	2.5Y5/1黄灰	口縁玉縁
1118	5次	29区	SD01−2	備前焼	小壺	−	(4.35)	(5.7)	(8.3)	底部1/4	良好	φ0.5mmの白色、褐色粒櫛少量含む	N7/灰白	底部糸切り、耳貼付痕残存か
1119	5次	29区	SD01−2	備前焼	擂鉢	−	(8.3)	−	−	口縁1/10	普通	φ～2mm大の白色、黒色粒稀に含む	2.5YR6/6橙	擂目6本以上、中世6a期
1120	5次	29区	SD01−2	備前焼	擂鉢	(27.0)	(5.5)	−	(28.8)	口縁1/6	普通	密、φ～5mm大の白色、茶色粒微量含む	2.5YR7/4浅黄橙	擂目9本、中世5b期
1121	5次	29区	SD01−2	備前焼	擂鉢	(5.3)	−	−	−	口縁1/10	普通	密、φ～3mm大の白色、黒色、赤褐色粒少量含む	内面：10YR5/1褐灰 外面：7.5Y3/2オリーブ	擂目なし、中世5b期
1122	5次	29区	SD01−2	備前焼	擂鉢	(32.0)	(8.0)	−	(32.8)	口縁1/6	普通	密、φ～3mm大の赤褐色、黒色、白色粒微量含む	7.5R5/1赤灰	擂目9本、中世5b期
1123	5次	29区	SD01−2	木製品	櫛	幅(7.4)	−	厚(1.0)	高(3.35)	1/3	−	−	−	横櫛
1124	5次	29区	SD01−2	木製品	板材	幅(2.55)	長(6.8)	厚(0.6)	−	1/5	−	−	−	面取り
1125	5次	29区	SD01−2	木製品	肥松	幅1.9	長9.75	厚1.05	−	1/1	−	−	−	肥松、端部炭化
1126	5次	29区	SD01−2	木製品	下駄	幅(9.1)	長(20.6)	厚(3.35)	−	9/10	−	−	−	一木造り
1127	5次	29区	SD01−2	木製品	下駄	幅8.4	長14.8	厚2.2	−	1/1	−	−	−	一木造り
1128	5次	29区	SD01−2	瓦	軒丸瓦	幅(13.5)	長(20.25)	厚1.6	−	1/3	普通	密、φ1mm大の灰色粒を含む	N7/灰白	コビキA、炭素吸着弱、丸瓦部カキヤブリ、釘孔
1129	5次	29区	SD01−1	瓦	軒丸瓦	幅(14.8)	長(13.6)	厚3.1	−	1/10	普通	密、φ～4.5mm大の白色、黒色粒少量含む	5Y7/1灰白～N3/暗灰	コビキA、丸瓦部カキヤブリ、被熱
1130	5次	29区	SD01−1	瓦	軒丸瓦	幅(5.85)	−	厚3.1	−	瓦当1/5	普通	密、φ～3mmの白色、褐色、黒色粒を含む	N2/黒	内外面被熱
1131	5次	29区	SD01−2	瓦	丸瓦	幅(6.1)	長(10.85)	厚1.6	−	1/20	普通	φ～4mmの白色、黒色粒少量含む	5Y7/1灰白	吊紐痕

遺物観察表

番号	次数	区	遺構名	種別	器種	口径	器高	底径	最大径	残存部	焼成	胎土	色調	特記事項
1132	5次	29区	SD01−2	瓦	丸瓦	幅(11.4)	長(12.15)	厚2.05	−	1/10	普通	やや粗い、φ2mm大の白色、灰色粒を含む	表面：N4/灰 裏面：5PB4/1暗青灰	側面2段面取り、コビキA
1133	5次	29区	SD01−3	陶器	壺	−	(4.6)	(8.7)	(14.2)	底部3/5	甘	φ0.5~1mm大の白色、灰色、褐色粒少量含む	2.5Y6/1黄灰、N8/(灰白)	褐釉、削り出し高台
1134	5次	29区	SD01−3	備前焼	擂鉢	−	(5.3)	−	−	口縁1/10	良好	φ0.5~2mmの白色、褐色粒、中量含む	2.5Y5/2灰赤	擂目8本、中世3b期
1135	5次	29区	SD01−3	備前焼	擂鉢	(30.2)	(9.1)	−	(30.8)	口縁1/3	普通	密、φ1mmの白色粒含む	10R5/2灰赤	ナナメ擂目13本、端部凹み、近世Ⅰb期
1136	5次	29区	SD01−3	備前焼	徳利	−	図上復元	−	(15.0)	頸部1/2	普通	細かい、1mmほどの砂粒を含む	10YR5/1褐灰	頸部線刻、頸部未接合
1137	5次	29区	SD01−3	石製品	砥石	幅(7.1)	長(10.4)	厚(3.9)	−	1/12	−	−	5Y6/1灰	砂岩、多面使用内3面確認、460g
1138	5次	29区	SD01−3	木製品	漆椀	−	(6.95)	6.65	(14.5)	2/3	−	−	−	内外面黒漆、赤漆文様
1139	5次	29区	SD01−3	木製品	漆椀	幅12.5	長(9.3)	高(6.05)	−	1/3	−	−	−	内面部分的に赤漆
1140	5次	29区	SD01−3	木製品	漆椀	−	(5.7)	−	−	1/9	−	−	−	内面赤漆、外面黒漆
1141	5次	29区	SD01−3	木製品	漆椀	−	(4.5)	−	−	1/7	−	−	−	内面赤漆、外面黒漆
1142	5次	29区	SD01−3	木製品	漆椀	−	(3.25)	−	−	1/8	−	−	−	内面赤漆、外面黒漆
1143	5次	29区	SD01−3	木製品	箸	幅(0.8)	長(18.4)	厚(0.7)	−	4/5	−	−	−	箸状木製品、上端欠損
1144	5次	29区	SD01−3	木製品	曲物	幅11.7	長12.3	厚0.7	−	1/1	−	−	−	曲物底板
1145	5次	29区	SD01−3	瓦	軒丸瓦	幅(7.55)	長(19.6)	瓦当厚2.25	瓦当径15.5	1/3	普通	φ~1.5mmの白色、黒色粒少量含む	5Y8/1灰白	三巴文、コビキA
1146	5次	29区	SD01−3	瓦	鬼瓦	幅(7.4)	長(10.3)	厚2.6	−	1/10	普通	密、φ1mm前後の黒色、白色、褐色粒を含む	2.5Y8/2灰白	炭素吸着弱
1147	5次	29区	SD01−3	瓦	軒平瓦	幅(27.3)	長(4.7)	瓦当厚4.6	−	1/3	普通	密、φ~1mmの灰色粒を含む	N3/暗灰	三葉文、顎貼り付け、范切り、唐草3回転半
1148	5次	29区	SD01−3	瓦	軒平瓦	幅(14.2)	長(9.6)	瓦当厚5.8	−	1/10	甘	φ0.5~1mmの白色、灰色粒極少量含む	N6/灰	三葉文
1149	5次	29区	SD01−3	瓦	軒平瓦	幅(12.8)	長(5.4)	瓦当厚4.8	−	1/6	良好	φ0.5mmの白色、灰色粒極少量含む	N3/暗灰	顎貼り付け、范切り、唐草3回転半
1150	5次	29区	SD01−3	瓦	軒平瓦	幅(8.7)	長(6.4)	瓦当厚5.1	−	1/10	良好	φ0.5~1mmの灰色粒極少量含む	N4/灰	顎貼り付け、范切り、唐草3回転半、瓦当上辺面取り
1151	5次	29区	SD01−1	瓦	軒平瓦	幅(13.3)	長(12.1)	瓦当厚4.6	−	1/4	普通	φ0.5~1mm大の灰白色粒僅	N4/灰	顎貼り付け、范切り、唐草3回転半
1152	5次	29区	SD01−3	瓦	軒平瓦	幅(14.2)	長(13.5)	瓦当厚5.4	−	1/6	良好	φ0.5~1mmの白色、灰色粒極少量含む	N7/灰	顎貼り付け、唐草4回転、御簀城、英賀と同范
1153	5次	29区	SD01−3	瓦	軒丸瓦	幅(11.3)	長(8.2)	厚1.7	−	1/8	普通	φ0.5~1mm大の灰白色、灰色、白色、褐色粒少量含む	7.5Y7/1灰白	丸瓦部カキヤブリ
1154	5次	29区	SD01−3	瓦	丸瓦	幅14.9	長34.1	厚2.0	−	2/3	普通	やや粗い、φ1.5mm前後の砂粒を含む	N8/灰白~N3/暗灰	コビキA、玉縁側面面取り
1155	5次	29区	SD01−3	瓦	丸瓦	幅15.3	長34.2	厚1.6	−	2/3	普通	密、φ1mm程の灰色粒を含む	N6/灰	コビキA、玉縁側縁面取り
1156	5次	29区	SD01−3	瓦	軒丸瓦	幅(11.1)	長(11.1)	厚1.8	−	1/15	普通	φ0.5mmの白色、黒色粒含む	2.5Y7/1灰白	コビキA、丸瓦部カキヤブリ
1157	5次	29区	SD01−3	瓦	丸瓦	幅(8.4)	長(23.5)	厚2.6	−	1/5	普通	密、φ~7mm大の灰色、白色粒少量含む	N4/灰	コビキA、玉縁側縁面取り、吊紐痕
1158	5次	29区	SD01−3	瓦	丸瓦	幅14.9	長(17.3)	厚2.0	−	1/8	普通	密、φ~5mm大の黒色粒少量含む	N7/灰白~N3/暗灰	コビキA、玉縁側縁面取り、吊紐痕、凸面スス付着
1159	5次	29区	SD01−3	瓦	平瓦	幅27.0	長31.7	厚1.6	−	1/1	良好	φ~0.5mmの黒色粒含む	N4/灰	凸面ヨコナデ、側縁タテナデ、凹面タテナデ
1160	5次	29区	SD01−3	瓦	平瓦	幅26.8	長31.8	厚1.5	−	1/1	普通	密、φ~1mm大の灰色粒微量含む	5Y8/1灰白、N3/暗灰	狭端部面取り、凸面ヨコナデ、側縁タテナデ、凹面タテナデ
1161	5次	29区	SD01−3	瓦	平瓦	幅27.2	長31.7	厚1.5	−	1/1	普通	φ0.5~1mm大の灰白色粒僅	7.5Y8/1灰白、N3/暗灰	凸面ヨコナデ、側縁タテナデ、凹面タテナデ
1162	5次	29区	SD01−3	瓦	平瓦	幅27.6	長31.7	厚1.9	−	1/3	普通	密、φ~1mmの灰色粒を含む	N8/灰白~N5/灰	狭端部面取り、凸面コビキ、縦ナデ
1163	5次	29区	SD02	白磁	碗	−	(4.95)	(7.9)	(15.2)	底部1/3	普通	密	5Y8/1灰白	Ⅳ類
1164	5次	29区	SD03	備前焼	壺	−	(5.9)	−	−	口縁1/20	普通	φ0.5mm大の灰白色、乳白色粒僅、φ5mm大の灰白色粒1,2個	内面：5Y6/1~4/1灰 外面：2.5Y5/2暗灰黄~N6/灰	口縁部玉縁
1165	5次	29区	SD03	備前焼	壺	−	(5.0)	−	−	口縁1/20	普通	φ~8mm大の白色、黒色粒やや多く含む	N4/灰~10YR5/1褐灰	口縁部玉縁
1166	5次	30区	SD01	須恵器	鉢	−	(1.75)	−	−	口縁1/8	普通	φ~1mm大の白色、黒色粒少量含む	N6/灰	口縁部形態Ｂ1a類
1167	5次	30区	SD11	土師器	小皿R	(9.0)	1.85	5.6	−	1/3	普通	φ0.5~1mm大の白色、褐色、灰色粒中量含む	10YR7/4にぶい黄橙、7.5YR6/6橙	底部ヘラ切り、胎土粗い、口縁部ヨコナデ
1168	10次	8区	SD01	備前焼	擂鉢	−	(6.0)	−	−	口縁1/9	普通	φ0.5~1mm大の乳白色、赤橙色粒少	N6/灰	擂目5本、中世3a期
1169	5次	27−1区	SK17	石製品	水輪	幅22.25	高16.0	厚21.55	−	1/1	−	−	−	凝灰岩、最大径上方、重量9.5kg
1170	16次	14区	SD01	土師器	埦	(28.0)	(5.3)	−	(29.0)	口縁1/8	普通	φ0.5mm以下の白色、褐色粒少量含む	内面：7.5YR4/2灰褐、5YR6/4にぶい橙 外面：2.5Y5/1黒、7.5YR4/3褐	鉄かぶと形Ⅱ類、内面2段ナデ、外面タタキ
1171	16次	14区	SD01	備前焼	甕	−	(6.1)	−	−	口縁1/20	良好	φ0.5~2mm大の白色、灰色、赤褐色粒中量含む	2.5Y6/1黄灰	底部糸切り
1172	5次	27−2区	SK01	土師器	杯	−	(2.25)	−	−	口縁1/12	普通	φ~3mm大の赤褐色、黒色、白色、透明色粒微量含む	10YR8/2灰白、6/2灰黄褐、5YR8/3淡橙	内外面回転ナデ
1173	5次	27−2区	SK01	須恵器	椀	(16.2)	(3.65)	−	−	口縁1/4	普通	密、φ5mm以下の白色粒を微量含む	N7/灰白	内外面回転ナデ
1174	5次	27−2区	SK01	瓦器	椀	14.95	(4.6)	−	−	2/3	普通	φ0.5~1mm大の乳白色、灰白色粒僅	N3/暗灰	和泉型、炭素吸着良好
1175	5次	27−2区	SK01	木製品	曲物	幅(18.65)	長(33.5)	厚(1.15)	−	1/2	−	−	−	曲物底板
1176	5次	27−1区	SK12	石製品	砥石	幅10.0	長17.3	厚4.85	−	1/2	−	−	N6/灰	緑色片岩、一面使用、1268g
1177	5次	27−1区	SP24	土師器	小皿R	(9.0)	1.35	(6.8)	−	1/5	普通	φ~1mmの白色、赤褐色、黒色粒微量含む	10YR8/3浅黄橙	底部ヘラ切り、ヘラによる沈線2条
1178	5次	27−1区	SP24	土師器	小皿B	(8.1)	1.05	(6.6)	−	1/4	普通	密、φ~1mm大の白色、黒色粒微量含む	2.5Y8/2灰白	一部ナデ
1179	5次	28区	SP20	土師器	Ⅲ O	−	(2.4)	−	−	口縁1/8	普通	密、φ~3mm大の白色、黒色、赤褐色、透明色粒少量含む	2.5Y8/1灰白、5Y6/6橙	内外面回転ナデ
1180	5次	28区	SP73	土師器	Ⅲ H	(11.0)	(1.45)	−	−	口縁1/6	普通	密、φ~1mm大の赤褐色粒微量含む	2.5Y8/2灰白	口縁部ヨコナデ
1181	5次	28区	SP89	土師器	小皿A	−	(1.7)	−	−	口縁1/8	普通	φ~1mm大の赤褐色、黒色、白色粒微量含む	10YR8/3浅黄橙	口縁部ヨコナデ
1182	16次	14区	SP03	土師器	小皿B	(7.0)	(1.3)	−	−	1/6	普通	φ0.5mm以下の黒色、橙色粒を極少量含む	10YR8/2灰白	指オサエ
1183	16次	14区	SP03	土師器	小皿B	(7.6)	1.35	(5.4)	−	1/3	甘	φ0.5~1mmの白色、灰色、赤褐色粒少量含む	5YR6/6橙、2.5Y8/1灰白	指オサエ
1184	16次	14区	SP03	土師器	小皿B	(10.0)	(1.8)	(5.5)	−	1/4	普通	φ0.5mm以下の褐色、透明色粒極少量含む	2.5Y8/2灰白	指オサエ
1185	16次	14区	SP03	土師器	Ⅲ H	(12.1)	(2.0)	(9.4)	−	1/3	甘	φ0.5~1mmの白色、灰色粒極少量含む	2.5Y8/2灰白	口縁部ヨコナデ
1186	16次	14区	SP04	土師器	小皿B	−	(2.1)	−	−	口縁1/10	普通	密、φ1mm以下の白色粒含む	10YR8/2灰白	指オサエ、1190と同形態か
1187	16次	14区	SP06	土師器	Ⅲ H	−	(1.4)	−	−	口縁1/10	甘	φ0.5~1mmの白色、灰色、褐色粒少量含む	10YR6/2灰黄褐、10YR4/1褐灰	口縁部ヨコナデ
1188	16次	14区	SP06	土師器	Ⅲ	−	(1.9)	−	−	口縁1/10	甘	φ0.5~1mmの白色、灰色、褐色粒少量含む	10YR7/3にぶい黄橙、10YR3/1黒褐	Ⅲ G か
1189	16次	14区	SP23	土師器	Ⅲ	−	(1.4)	−	−	口縁1/10	普通	φ0.5mm以下の黒色、透明色粒極少量含む	2.5Y8/2灰白	Ⅲ G か
1190	16次	14区	SP25	土師器	小皿B	(9.7)	(1.9)	(8.0)	−	1/4	普通	φ0.5mm以下の白色、黒色、透明色粒極少量含む	10YR8/2灰白、7.5YR7/4にぶい橙	指オサエ
1191	1次	2区	SD06	土師器	羽口	幅(9.0)	長(9.45)	孔径2.7	−	口縁1/3	甘	φ0.5~2mmの白色、灰色、褐色粒中量含む	内面：2.5YR3/3淡黒 外面：5YR1/1灰白	孔径2.2~2.6㎝、端部溶着、赤化
1192	1次	2区	SD06	土師器	羽口	幅(6.6)	長(4.7)	−	(8.9)	口縁4/5	普通	φ~8mmの白色、茶色、赤褐色粒やや多く含む	内面：5YR7/6橙 外面：7.5YB/1灰白~7.5Y5/1灰	孔径2㎝
1193	1次	2区	SD06	金属	鉄滓	幅8.95	長7.65	厚3.3	−	−	−	−	−	椀状滓、重量201.39ｇ
1194	1次	2区	SD06	金属	鉄滓	幅10.05	長9.25	厚2.9	−	−	−	−	−	椀状滓、重量211.8ｇ
1195	1次	2区	SD06	土師器	杯	(13.85)	2.65	(8.3)	(14.1)	1/6	甘	φ0.5~1mmの透白色、白色粒少量含む	内面：10YR8/4浅黄橙 外面：10YR8/2灰白	底部ヘラ切り
1196	1次	2区	SD06	須恵器	小皿	8.6	2.2	4.8	−	2/3	普通	φ~1mmの白色粒含む	5PB6/1青灰	底部糸切り、内外面回転ナデ
1197	1次	2区	SD06	須恵器	椀	(16.5)	5.0	(5.5)	−	1/4	普通	φ~5mmの白色、黒色粒少量含む	N7/灰白	底部糸切り、内外面回転ナデ
1198	1次	2区	SD06	須恵器	椀	−	(4.25)	(8.5)	(17.3)	底部1/4	普通	φ0.5mmの白色粒含む	N7/灰白	底部糸切り、内外面回転ナデ、高台痕跡
1199	1次	2区	SD06	須恵器	椀	16.6	4.9	6.4	−	9/10	普通	φ~3mmの白色、黒色、透明色粒少量含む	N7/灰白	底部糸切り、内外面回転ナデ
1200	1次	2区	SD06	須恵器	椀	16.5	5.0	5.5	−	2/3	普通	φ~4mmの白色、黒色粒少量含む	N6/灰	底部糸切り、内外面回転ナデ
1201	1次	2区	SD06	須恵器	椀	16.8	4.85	5.15	−	2/3	普通	粗、φ1mm前後の灰色粒多く含む	内面：N7/灰白 外面：5PB7/1明青灰	底部糸切り、内外面回転ナデ
1202	1次	2区	SD06	須恵器	椀	17.4	5.35	(5.8)	−	1/2	普通	φ0.5~3mmの白色、灰色粒少量含む	N6/灰	底部糸切り、内外面回転ナデ
1203	1次	2区	SD06	須恵器	椀	(17.4)	4.6	4.6	−	2/3	普通	φ0.5~4mmの白色、灰色粒中量含む	N6/灰	底部糸切り、内外面回転ナデ
1204	1次	2区	SD06	須恵器	椀	(17.2)	4.75	(6.2)	−	1/2	普通	φ0.5~2mmの白色、灰色粒極少量含む	N6/灰	底部糸切り、内外面回転ナデ
1205	1次	2区	SD06	須恵器	椀	(16.0)	5.0	(5.9)	−	1/2	普通	φ~4mmの白色、黒色粒微量含む	N7/灰白	底部糸切り、内外面回転ナデ
1206	1次	2区	SD06	須恵器	椀	(16.7)	(5.25)	5.1	−	2/3	普通	φ~1mmの白色粒多く含む	2.5Y7/1灰白	底部糸切り、内外面回転ナデ
1207	1次	2区	SD06	須恵器	椀	(16.8)	4.9	(5.8)	−	1/3	普通	φ~8mmの白色、黒色粒少量含む	5PB6/1青灰	底部糸切り、内外面回転ナデ
1208	1次	2区	SD06	土師器	竈	幅(4.45)	(19.0)	−	−	1/20	普通	φ0.5~2mmの灰白色、灰白色粒中量含む	2.5YR5/6明赤褐	移動式竈の一部か
1209	1次	2区	SD06	土師器	埦	−	(12.0)	−	−	口縁1/10	甘	粗、φ0.1~1mmの乳白色、灰色粒多量に含む	10YR5/2灰黄褐	甕形くの字口縁、外面ハケ、内面摩滅
1210	1次	2区	SD06	土師器	埦	−	(8.0)	−	−	口縁1/10	普通	粗、φ0.1~2mmの乳白色、灰色、透明粒多量に含む	10YR7/3にぶい黄橙~10YR5/2灰黄褐	甕形くの字口縁、外面ハケ、口縁内面ハケ
1211	1次	2区	SD06	須恵器	壺	−	(12.15)	−	(17.0)	体部1/4	普通	φ0.5~2mmの白色、灰色粒少量含む	2.5Y7/2灰黄	胴部突帯、回転ナデ
1212	1次	2区	SP90	土師器	Ⅲ H	(11.35)	(2.65)	(9.1)	−	口縁1/4	甘	φ0.5mmの白色粒極少量含む	2.5Y8/3淡黄	手づくね、屈曲部沈線状、内外面ヨコナデ
1213	1次	2区	SP98	土師器	Ⅲ H	(10.9)	2.85	(7.5)	−	1/2	甘	φ0.5~1mmの白色粒極少量含む	内面：2.5YR8/2灰白 外面：10YR6/6明黄褐	手づくね、内外面ヨコナデ
1214	1次	2区	SX04	土師器	Ⅲ H	(12.55)	2.4	(9.9)	−	1/5	甘	φ~0.5mmの白色粒少量含む	10YR8/3浅黄橙	内外面ヨコナデ
1215	1次	2区	SX04	青磁	碗	−	(1.6)	5.6	(6.5)	底部1/1	普通	精良	施釉部7.5Y6/2灰オリーブ	劃花文、削り出し高台
1216	1次	2区	SX04	須恵器	鉢	−	(4.9)	−	−	口縁1/12	普通	φ0.5~1mmの白色、灰色粒少量含む	N7/灰白	口縁部形態B3b類
1217	1次	2区	SX04	須恵器	鉢	(32.6)	(7.6)	−	−	口縁1/8	普通	やや密、φ0.1~0.5mmの乳白色、φ0.5~2mmの灰色粒多量に含む	N7/灰白	口縁部形態Ｂ3a類
1218	1次	2区	SX04	須恵器	鉢	−	(5.3)	(7.7)	(18.0)	底部1/4	普通	φ~4mmの白色、黒色粒少量含む	内面：10YR6/1灰 外面：7.5Y7/1灰白	内外面回転ナデ

番号	次数	区	遺構名	種別	器種	口径	器高	底径	最大径	残存部	焼成	胎土	色調	特記事項
1219	2次	9区	SP38	土師器	Ⅲ	−	(1.95)	−	−	口縁1/8	甘	φ0.5～1mmの白色、赤褐色極少量含む	7.5YR7/4にぶい橙	内外面摩滅
1220	4次	10−2区	SP09	土師器	小Ⅲ B	(7.6)	(1.55)	(3.5)	−	1/4	普通	φ～2mmの赤褐色、白色、灰色粒少量含む	7.5YR8/3浅黄橙	部分的にナデ
1221	10次	12区	SP22	土師器	鉢	−	(5.7)	−	−	口縁1/12	普通	φ0.5～2mm大の乳白色、灰色、赤橙色粒中	5YR7/6橙	胎土は竈に類似、端部丸く納める、片口
1222	10次	12区	SP40	土師器	竈	−	(4.15)	−	−	口縁1/10	普通	φ～2mm大の白色、透明色、黒色、赤褐色粒やや多く含む	10YR5/2灰黄褐	鉄かぶと形Ⅱ類、内面2段ナデ、外面タタキ
1223	10次	12区	ST07	青磁	碗	−	(3.8)	5.8	(12.8)	底部1/1	普通	精良	7.5Y5/2灰オリーブ	無文、削り出し高台
1224	10次	12区	SX01	須恵器	鉢	−	(3.55)	−	−	口縁1/16	普通	φ0.5～1mm大の褐色、灰色粒僅	N7/灰白	口縁部形態B3a類
1225	10次	12区	SX01	須恵器	椀	−	(2.8)	−	−	口縁1/14	普通	φ0.5～1mm大の灰色、乳白色粒僅	N7/灰白	内外面回転ナデ
1226	10次	12区	SK01	備前焼	擂鉢	−	(6.2)	−	−	口縁1/12	普通	φ～4mm大の白色、透明色、黒色粒少量含む	10R5/4赤褐	擂目7本、中世4a期
1227	1次	2区	SK06	土師器	Ⅲ H	(14.0)	(2.85)	−	−	口縁1/5	普通	φ2mmの白色、赤褐色、灰色、透明色粒やや多く含む	10Y R6/4にぶい黄橙	内面黒変
1228	1次	2区	SK06	須恵器	椀	−	(4.1)	(7.8)	(16.1)	底部1/5	普通	φ～0.8mmの白色、赤褐色、黒色粒少量含む	内面：2.5Y8/2灰白 外面：2.5Y7/4浅黄	生焼け、底部ヘラ切り、内外面器面剥落
1229	1次	2区	SK07	須恵器	椀	(16.6)	4.8	(7.2)	−	1/5	普通	φ7mmの白色、赤褐色、灰色粒少量含む	5Y7/1灰白	底部糸切り、丸底、内外面回転ナデ
1230	1次	2区	SK07	須恵器	小皿	8.2	2.0	5.1	−	1/1	普通	φ9mmの白色、黒色粒少量含む	5PB7/1明青灰	底部糸切り、内外面回転ナデ
1231	1次	5区	SX08	白磁	碗	−	(3.1)	(7.0)	(11.0)	底部1/3	良好	密	7.5Y7/1灰白	Ⅳ類
1232	1次	5区	SX08	白磁	碗	−	(2.2)	7.25	(9.35)	底部3/4	良好	密	10Y8/1灰白	Ⅳ類
1233	1次	5区	SX08	備前焼	擂鉢	−	(6.7)	−	−	体部1/10	良好	φ0.5～3mm大の白色、灰色、透明色粒中量含む	N5/灰～10YR5/1褐灰	擂目（7条）
1234	1次	5区	SX09	備前焼	擂鉢	−	(8.15)	−	−	口縁1/10	普通	φ0.5～2mmの白色、灰色粒中量含む	N6/灰～2.5Y6/1黄灰	中世3a期、擂目8条
1235	1次	5区	SD11	須恵器	鉢	−	(6.1)	−	−	口縁1/10	普通	やや密、φ0.1～0.5mmの乳白色粒多量含む	N6/灰	口縁部形態B3a類中段階
1236	1次	6区	SK18	瓦質土器	三足鍋	幅(3.75)	長(10.15)	−	−	脚部1/2	普通	φ～4mmの白色、透明色、黒色粒やや多く含む	内面：7.5Y5/1灰 外面：2.5Y7/2灰黄	指オサエ
1237	18次	6区	SK01	備前焼	擂鉢	(29.3)	(5.2)	−	(30.8)	口縁1/5	普通	やや粗い、φ3mm前後の白色、褐色、灰色粒含む、まれに透明色粒	7.5YR4/2灰褐	スリ目3本以上、中世4b期
1238	1次	2区	SP89	須恵器	鉢	−	(2.55)	−	−	口縁1/20	普通	φ0.5～2mmの白色粒中量含む	N6/灰	回転ナデ、口縁部B2b類
1239	1次	2区	SP99	土師器	小Ⅲ B	8.05	1.3	6.5	−	2/3	甘	φ0.5mm以下の白色粒極少量含む	2.5Y8/2灰白	手づくね、外面指オサエ
1240	1次	2区	SP99	土師器	小Ⅲ B	(7.2)	1.05	(5.2)	−	1/2	普通	φ0.5～1mmの白色、灰色粒極少量含む	10Y R7/4にぶい黄橙	手づくね、外面指オサエ
1241	1次	2区	SP99	土師器	Ⅲ I	(11.0)	2.3	(6.6)	−	1/4	甘	φ0.5mmの白色粒極少量含む	内面：2.5Y8/2灰白 外面：7.5YR5/4にぶい褐	手づくね、口縁端部摘みあげ
1242	1次	2区	SP135	土師器	杯	−	(2.15)	(8.8)	(13.2)	底部1/5	普通	φ4mmの白色、黒色粒少量含む	10YR8/4浅黄橙	底部ヘラ切り
1243	4次	10−2区	SP22	土師器	小皿	(9.0)	(1.55)	(5.5)	−	1/4	普通	密、φ1mm前後の白色粒を含む	10YR8/3浅黄橙	内外面摩滅
1244	4次	10−2区	SP13	土師器	竈	(27.3)	(6.0)	−	(28.2)	口縁1/6	普通	φ～6mmの赤褐色、透明色、白色粒少量含む	5YR7/8橙、5YR5/3にぶい赤褐	鉄カブト形Ⅰ類、外面タタキ、口縁部内面ナデ
1245	9次	1区	SP03	土師器	羽釜	(28.0)	(7.0)	−	(32.6)	口縁1/6	普通	φ1～3mm大の乳白色、褐色、灰白色粒多	内面：10YR8/3浅黄橙 外面：2.5Y8/2灰白～8/3浅黄	直立、端部拡張、鍔長1.6㎝、鍔上2.0㎝、外面ヌス付着
1246	10次	12区	SP57	土師器	Ⅲ O	−	2.2	−	−	口縁1/8	普通	φ0.5～2mm大の乳白色、灰白色、赤橙色粒中	2.5Y8/3淡黄	口縁端部シャープ
1247	18次	6区	SP04	土師器	竈	−	(7.7)	−	−	口縁1/8	普通	やや粗い、φ1～1.5mmの白色粒多い、φ1mm以下の灰色、黒色粒多い	7.5YR7/6橙	鉄かぶと形Ⅱ類、外面タタキ、内面ハケ、内面ナデ弱
1248	1次	5区	包含層	瀬戸焼	卸皿	−	(1.25)	7.6	(10.2)	底部1/2	普通	精良	5Y8/1灰白	底部糸切り、内面卸目
1249	2次	10区	包含層	須恵器	椀	−	(2.3)	7.0	(9.9)	底部1/2	普通	φ0.5～1mmの白色、透白色粒少量含む	N7/灰白	底部糸切り、貼付高台
1250	2次	10区	包含層	須恵器	杯	(15.3)	3.1	(10.7)	−	1/5	普通	φ0.5～1mmの白色、灰色粒少量含む	5Y8/1灰白	底部ヘラ切り、内外面回転ナデ
1251	4次	10−2区	包含層	須恵器	杯B	−	(4.35)	−	−	1/8	普通	精良、φ0.5～1mmの灰色粒極少量含む	N8/灰白、N6/灰	内外面回転ナデ、高台貼付
1252	4次	10−2区	包含層	須恵器	杯B	−	(1.5)	(9.3)	(11.4)	底部1/6	普通	φ～3mmの透明色、白色、黒色粒少量含む	N8/灰白	内外面回転ナデ、高台貼付
1253	4次	10−2区	包含層	須恵器	杯	−	(1.6)	(6.0)	(9.7)	底部1/2	普通	φ0.5～1mmの乳白色粒少量含む	内面：2.5Y8/1灰白 外面：N7/灰白	底部ヘラ切り
1254	4次	10−2区	包含層	須恵器	壺	(10.7)	(4.85)	−	(10.9)	口縁1/5	普通	密、φ1mmの白色粒を含む	N8/灰白	内外面回転ナデ
1255	4次	10−2区	包含層	須恵器	壺	−	(8.5)	−	(20.0)	胴部1/3	普通	φ0.5～1mmの白色、灰色粒少量含む	N7/灰白	沈線1条、外面板ナデ
1256	7次	34区	包含層	須恵器	提瓶	(7.8)	(5.0)	−	(10.4)	口縁1/5	普通	φ2mm程度の小石混じる、φ4mmの粒あり	N7/灰白	口縁端部内側へ摘み出し
1257	1次	2区	SE11	土師器	小Ⅲ B	(8.0)	1.15	−	−	口縁～底部1/4	甘	φ0.5～1mmの白、灰色粒極少量含む	2.5Y8/1灰白	手づくね、内外面ナデ
1258	1次	2区	SE11	土師器	小Ⅲ B	(7.8)	(1.15)	−	−	口縁3/4	甘	φ～0.5mmの白色粒極少量含む	5Y8/1灰白	手づくね、内外面ナデ
1259	1次	2区	SE11	土師器	Ⅲ	(8.5)	(1.3)	−	−	口縁1/20	普通	やや密、φ～3mmの白、赤色粒微量含む	5Y8/1灰白	手づくね、内外面ナデ
1260	1次	2区	SE11	土師器	Ⅲ	(7.8)	1.35	(5.4)	−	口縁1/3	普通	やや密、φ～2mmの白、赤、黒色粒微量含む	5Y8/1灰白	手づくね、内外面ナデ
1261	1次	2区	SE11	土師器	Ⅲ H	(11.8)	2.45	(7.1)	−	口縁～底部3/4	甘	φ0.5～1mm以下の白、灰白色粒極少量含む	2.5Y8/1灰白	手づくね、内外面摩滅
1262	1次	2区	SD12	白磁	碗	−	(3.0)	(7.9)	(11.4)	底部1/3	良好	密	7.5Y8/1灰白	Ⅳ類
1263	1次	2区	SD12	須恵器	鉢	−	(9.85)	(10.0)	(25.6)	底部1/2	普通	φ～3mmの白、黒、赤色粒やや多く含む	2.5Y7/1灰白	摩滅
1264	1次	2区	SD14	須恵器	鉢	−	(3.9)	−	−	口縁1/20	普通	精良、φ～0.5mmの白色粒極少量含む	N6/灰	内外面回転ナデ
1265	1次	3区	SX01	土師器	甕	−	(3.7)	−	−	口縁1/20	甘	φ0.5～2mmの白、灰、褐色粒多量に含む	内面：10YR7/3にぶい黄橙 外面：2.5Y6/2灰黄	内面：ヨコハケ（5条/㎝）、外面：ヨコナデ、指オサエ
1266	1次	2区	包含層	須恵器	椀	(15.3)	(5.35)	(6.0)	−	口縁1/4	普通	φ0.5～3mmの灰、白色粒中量含む	N7/灰白	底部糸切り、内外面回転ナデ
1267	1次	3区	包含層	土師器	羽釜	−	(4.95)	−	−	羽部1/20	甘	φ0.5～1mmの白、灰、褐色粒多量に含む	内面：10YR6/3にぶい黄橙 外面：7.5Y2/1黒	鍔貼付
1268	1次	3区	包含層	須恵器	杯	−	(1.5)	(10.0)	(11.6)	底部1/6	普通	やや密、φ～2mmの黒、赤、白色粒を少量含む	5Y8/1灰白	底部ヘラ切り
1269	14次	4区	SD01	土師器	Ⅲ	(9.4)	(1.55)	−	−	口縁1/6	良好	密	7.5Y6/1灰	圏線
1270	14次	4区	SD01	陶器	碗	9.3	6.7	3.1	9.5	3/4	普通	密	釉7.5Y8/2灰白、10GY7/1明緑灰	内外面灰釉
1271	14次	4区	SD01	磁器	染付碗	(11.4)	(5.3)	−	−	1/3	普通	密	2.5GY8/1灰白	草花文
1272	14次	4区	SD01	陶器	碗	(8.7)	(4.3)	3.4	(8.8)	2/3	普通	密、φ1mm以下の白色粒を含む	10Y8/1灰白	外面白釉
1273	14次	4区	SD01	磁器	染付碗	(11.9)	6.5	4.7	−	2/3	普通	密	5GY8/1灰白	コンニャク印判、高台砂付着
1274	14次	4区	SD01	備前焼	擂鉢	−	(5.4)	−	−	口縁1/20	普通	φ～1mm大の白色、灰色粒少量含む	2.5Y R6/6橙	スリ目2本以上、中世6ｂ期
1275	14次	9区	SD02	磁器	染付碗	12.65	6.8	6.7	−	4/5	良好	密	5Y8/2灰白	広東碗
1276	14次	9区	SD02	磁器	染付碗	11.35	6.0	4.6	−	2/3	普通	密	5GY8/1灰白	内面菱形文
1277	14次	9区	SD02	陶器	片口鉢	16.7	8.1	9.3	17.8	1/1	普通	φ～2mm大の白色、灰色粒中量含む	釉5YR3/3明赤褐、5Y8/2灰白	丹波焼、内面施釉、外面ヌス付着
1278	14次	9区	SD02	陶器	片口鉢	(21.5)	(10.45)	(12.4)	(22.7)	1/3	良好	φ0.5～7mmの白色、灰色、褐色粒中量含む	2.5Y6/2灰黄、釉2.5Y3/1黒褐	丹波焼、内面施釉
1279	14次	9区	SD02	陶器	土瓶	8.5	9.9	6.3	15.9	9/10	普通	密	釉7.5Y7/2灰白	注口欠損、算盤球形
1280	14次	9区	SD02	木製品	下駄	長15.0	幅5.6	厚2.7	−	1/1	−	−	−	一木
1281	18次	4区	SD01	青磁	Ⅲ	−	(2.05)	−	−	口縁1/10	普通	精良	7.5GY7/1明緑灰	外面圏線、内面片彫文様
1282	5次	25−2区	SD01	施釉陶器	碗	−	(2.05)	(2.9)	(7.3)	底部1/3	良好	密	5Y7/1灰白	京・信楽系
1283	5次	25−2区	SD01	施釉陶器	灯明皿	(10.4)	2.3	(3.6)	−	1/3	普通	密	内面：5YB/1～7/1灰白 外面：2.5Y7/2灰黄	内面目痕
1284	5次	25−2区	SD01	白磁	人形	幅(3.0)	長(3.05)	厚(3.6)	−	頭部1/1	良好	密	N8/灰白	型押成形、鈴か
1285	5次	29区	野井戸5	磁器	染付碗	−	(2.95)	−	−	口縁1/10	良好	密	内面：N8/灰白 外面：2.5GYB/1灰白	外面呉須染付
1286	5次	29区	野井戸5	磁器	染付碗	−	(3.9)	−	−	口縁1/10	良好	密	2.5GY8/1灰白	筒形碗
1287	5次	29区	野井戸4	磁器	染付碗	(11.2)	6.15	3.55	−	1/3	普通	密	施釉部：5B7/1明青灰、5B4/1暗青灰	人工コバルト絵付け、圏線
1288	5次	29区	野井戸4	磁器	染付碗	(12.9)	6.6	5.35	−	1/3	良好	密	内面：N9/白 外面：2.5G Y8/1灰白、10BG5/1青灰	掛け分け
1289	5次	29区	野井戸4	陶器	碗	(14.4)	5.05	5.6	(14.6)	1/3	普通	密	施釉部10YR5/6黄褐～4/1褐	見込み蛇の目釉剥ぎ、「まねき」の容器か
1290	5次	29区	野井戸4	白磁	碗	(14.8)	5.65	5.3	(15.1)	1/4	普通	密	施釉部N9/白	見込み蛇の目釉剥ぎ
1291	5次	31区	野井戸1	瓦	軒平瓦	幅(23.35)	長(8.05)	厚(1.9)	−	瓦当4/5	良好	密、φ～1mmの灰色粒を含む	凹N3/暗灰	青海波文、燻良好
1292	5次	31区	野井戸1	土師器	鉢	(28.4)	(7.5)	−	(33.0)	口縁1/5	普通	φ0.5～1mm大の乳白色、赤橙色、金色粒少	7.5YR5/4にぶい褐～7.5YR2/1黒	便甕か、外面雲母ハナレ砂か
1293	5次	27−2区	SK02	土師器	焙烙	−	(5.1)	−	−	口縁1/12	普通	φ～4mm大の赤褐色、黒色、透明色粒少量含む	7.5YR5/3にぶい褐	焙烙H類
1294	5次	27−2区	SK02	施釉陶器	片口	(16.35)	(7.35)	−	(20.7)	口縁1/2	普通	密	内面：2.5Y6/4にぶい黄 外面：2.5Y7/1灰白	鉄釉、片口
1295	5次	27−2区	SK02	陶器	擂鉢	(34.9)	(14.75)	(17.3)	−	1/6	普通	やや粗い、φ1mm程の黒褐色、白色粒混入	2.5Y4/1黄灰～5YR4/6赤褐	堺・明石系、擂目9本/単位
1296	14次	9区	攪乱北肩	磁器	染付蓋	(13.4)	4.0	(13.2)	−	口縁1/3	普通	密	N8/灰白	染付部なし
1297	14次	9区	攪乱北肩	陶器	瓶	(20.1)	(19.6)	(19.3)	(29.5)	1/2	普通	φ～2mm大の白色、灰色粒少量含む	釉　緑色、素地2.5Y8/1灰白	瀬戸窯、緑釉瓶掛
1298	14次	9区	攪乱北肩	陶器	擂鉢	(29.3)	(11.1)	(14.4)	−	1/3	普通	やや粗い、φ1mm以下の白色粒多い	10R5/6赤	堺・明石系、擂目

遺構・遺物一覧表

ブロック	次数	区	遺構名	法量			土師器食膳具		須恵器食膳具		その他食膳具										調理具								貯蔵具						不明		その他
											瓦器		青磁		白磁		備前		瀬戸・美濃		土師器		瓦質土器		須恵器鉢		備前擂鉢		須恵器		備前焼		その他				
				直径(長辺)	短辺	深さ	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	
			SE01	218	210	130	259	514	23	90	3	12									64	417	43	330	7	104			8	168					12	75	
			ST01	104	55	15	39	67	5	33											1	1			1	13			1	25					5	4	
			SD01	90	20	7	9	10																													弥1/3
			SD02	400	350	52																															弥1/4、石1/11
			SD03	592	212	20	33	99	4	18											2	80							2	13							弥74/386
			SD04	1370	89	10	101	300	7	22	4	13									6	26	14	104	1	16			5	44					16	21	弥9/39
			SD05	490	102	11	69	274	9	57											8	200	15	272	3	65			3	40					14	25	
			SD07	350	36	5	2	11													1	20							1	37					1	2	
			SD08	300	16	5	3	6							1	20																					
			SD10	808	114	35	78	182	44	186	6	15	1	10							18	511	30	902	6	174			10	333			1	16	28	76	弥23/198
			SD13	500	32	7	17	37	7	17											2	20	3	20											9	7	弥2/22
			SD14	690	24	4																			1	8											弥2/10
			SD15	876	48	8			1	4																			1	10							
			SD17	554	106	14	120	454	28	163	2	9									66	1155	43	269	3	61									25	119	
			SD18	668	118	72	86	230	38	216											64	466	28	391	4	66			1	50					11	30	弥13/65、江3/10
			SD20	408	26	5	2	5	2	15											3	15			1	15											
			SD21	810	240	50																															弥9/556
			SK01(SB03)	60	50	25	6	12																											2	2	
			SK02	90	70	13	30	63	11	53	4	22									13	42													4	8	
			SK03(SB02)	70		17	9	12	2	25	1	5											2	12													
			SK04	116	108	50																							1	5					2	5	
			SK05	40	22	18			1	43																											
			SK06	100		19	7	19	2	25	2	5									1	10															
			SP02	26	22	16	4	5	1	4																											
			SP05	40	34	9	3	10													1	5															
			SP07	38	34	10															2	5															
			SP12(SB03)	44	36	28	3	8	1	3											3	10															
			SP13	26		19															1	14															
			SP16	34	28	18	2	1													1	10															
			SP17	32	22	22	1	2																													
			SP18	30	24	24	4	11	2	11																											
			SP20	28	26	28	1	1													1	5															
			SP23	30	24	13			1	35															1	8											
			SP24(SB03)	30		19	1	5	2	10																											
			SP27	52	40	9	8	17													2	36															
			SP28(SB03)	26	24	16	3	6																													
			SP29	22	20	18	1	1																													
			SP37	22	20	16	3	5	3	6											1	25															
			SP40	20		19	1	1																													
			SP63	26	22	22			1	68											1	55															
			SP64	30		24															2	31															
			SP67	32	28	23	3	6	2	12																											
			SP68	32	28	24	7	10	1	1	1	4																									
			SP69(SB02)	36		20	2	7																													
			SP70	34	30	25	4	7	1	4																									1	1	
			SP73	26		18	9	18	4	30																											
			SP76	30		15	3	7	1	1											4	16													1	1	
			SP77	30		24	1	4													2	14															
			SP78(SB02)	48	42	38	2	14																													
			SP79	28	24	18	4	37	1	6																											
			SP80	48	34	22	10	55	1	8																											
			SP81(SB02)	38	30	26	1	7	1	5																											
			SP82(SB02)	50	44	30			1	4																											
			SP83	26	22	14	1	2																													
			SP84(SB02)	32	26	19	2	9																													
			SP86	32	28	20	9	17	1	9																											
			SP87(SB01 SP88を切る)	32	30	22	7	9	1	15																											
		12区	SP88(SB01)	40		15	21	62	2	23																											
			SP92	22	20	15			2	10																											
			SP93	34	36	16	2	4	2	15																									1	3	
			SP95(SB01)	36	32	17	3	3																											1	5	
			SP96	30	28	23	2	57													1	4															
			SP97(SB01)	36		21	5	20													17	291															
			SP102	22		14	5	6	2	11																											
			SP103	32	30	15	8	27													3	4															
			SP106	28	26	19	1	2																													
			SP107(SB01)	38	36	19	20	58	5	15	1	4									2	31															
北東部	4次		SP108	54	28	20			1	2	1	21																									
			SP109(SB01)	42	40	20	12	42	4	24	2	5									2	6															
			SP110(SB01)	38		17	18	64	1	5	1	1									2	177															
			SP111	28		18	5	19	2	19											5	145													1	1	
			SP113	80	72	10	13	15	1	2											5	21															
			SP120	30		18	3	5													1	5															
			SP122(SB01)	42	40	18	6	53	1	7																			1	240							
			SP123	30	28	15	3	7																													
			SP126	38	36	19	5	16	1	2																											錘9/6
			SP127(SB01)	40	38	18															1	5													2	1	
			SP128(SB01)	42		16			1	7																											
			SP129(SB01)	38	34	15	11	48	1	1																			1	35							
			SP130	26	22	13															2	15															
			SP132	32		15	2	7													2	5															
			SP135	26	22	16	2	5			1	3																									
			SP137	26	22	16	2	10																													
			SP139	26		17	12	39	7	90											5	43															
			SP142(SB02)	32		21	14	20	2	10	1	10									2	28	6	15													
			SP145	38	34	17	4	5																													
			SP147	22		11	1	2																													
			SP148	24	20	12	1	1													2	5															
			SP149	18	16	14			2	23																											
			SP150	30	26	20	1	3	1	5																											江1/4
			SP151	30	22	14																													1	3	
			SP160	36	32	15													1	18																	
			SP161	36	26	9																					1	11									
			SP163	20	18	15	6	19	1	9											1	1	1	55													
			SP164(SB02)	32		30	2	10																													
			SP166(SB02)	32	30	23	1	5																											1	1	
			SP167	34	30	15	1	1	1	2																											
			SP168(SB02)	62	58	31	4	10	2	3	1	1									2	12	1	25					2	25							三足盤1/27
			SP169	30	28	22	10	13	5	10											1	10	1	18													
			SP170	30	24	19	2	2																													
			SP174(SB02)	40	30	20	13	65																													
			SP175(SB01)	48	40	24					1	13																									
			SP176	43	38	23	9	25	1	1											3	20															
			SP177(SB01)	44	42	25	3	10	2	21											2	5	1	2													
			SP182	26	24	16	3	4																													
			SP183(SB02)	28		70	3	5	2	7																											
			SP185(SB01)	80	48	36	3	10			1	9																									
			SP186	60	48	5	7	10	2	6																									2	1	
			SP187	26	20	13	1	1																													
			SP189(SB02)	46		15	96	357	5	35	1	15	6	35							37	400	3	13	1	32			1	24					2	5	
			SP190(SB03)	32		22	5	8	1	6																											
			SX01	370	236	22	523	1627	33	156	2	5			3	36					106	776	59	501	18	200	3	18	2	10					83	188	江8/35、石1/23
			SX02	1440	800	20	172	439	66	312	3	13	4	44	2	10					36	337	7	24	15	343	1	160	21	440	1	7			31	168	弥5/35、須2/28、江6/78
			SX03	634	230	37	321	1103	152	957	21	122	1	9	6	50					78	707	12	115	6	70			12	511					33	112	江1/1、青白磁合子1/3
			包含層				947	2725	468	2083	29	194	21	345	9	91	3	10			672	7614	278	3895	73	1585	14	431	157	4203	1	75	1	70	292	1192	弥32/201、須1/9、江44/342、瓦7/253、石1/46、錘1/12
			SD01	1780	72	11	9	30	7	20											3	16	1	10					3	60							江2/11
			SD02	5920	400	30	51	163	185	892	3	10	3	148	2	14	1	4	1	75	87	920	15	531	2	44	10	503	95	2881	12	436			44	261	須2/15、江16/273、瓦14/870
			SD03	2200	68	20	5	10	12	53											6	37	2	30	2	17											弥3/35、瓦1/6、石1/22
			SD04	286	32	6	3	5	1	2																			1	19					1	5	
			SD05	606	220	10	15	80	13	55	4	14									15	255	7	143					9	302					1	15	須1/7、江1/10
			SD06	640	192	52	1	3	4	16			2	10							3	22													1	1	弥16/132
			SD07	624	794	12			3	18																											江7/37
			SD08	1000	296	52			2	5																											
			SD21	410	282	16																															弥9/77
			SK01	54	18	5																			1	15											
		13区	SK05	360	92	5	4	16	4	11																											
			SK14	82	38	12					1	1																							2	1	
			SK15	70	56	9	1	2	1	6																											
			SK16	350	84	12	15	30	6	19	2	7									1	5	1	5	1	20											
			SP05	30	24	15	2	10																					1	59							
			SP08	52	30	7	5	5	5	19											5	262															
			SP11(SB09)	20	36	38	4	11													2	33															
			SP12(SB09)	28	26	28	6	7													3	26															
			SP13(SB09)	30	28	20															1	2															
			SP14(SB09)	28	24	21	1	1																													
			SP15(SB09)	28		22	1	1																													

ブロック	次数	区	遺構名	法量			土師器食膳具		須恵器食膳具		その他食膳具										調理具								貯蔵具								不明		その他
											瓦器		青磁		白磁		備前		瀬戸・美濃		土師器		瓦質土器		須恵器鉢		備前擂鉢		須恵器		備前焼		その他					
				最大(長)径	短辺	深さ	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	
部東北		13区	SX02	230	202	111			1	10																											
			SX03	246	210	87			1	3																											
			包含層				5	15	16	140	1	5									14	87	2	61			1	30	6	118	3	49			3	46	須1/5,江4/46,瓦1/22
		14区	SE02	170		130	87	195	86	327	14	74			1	5					31	176			1	15			3	614					27	45	弥4/31,布1/105,鏃1/1
			SD02	620	28	5	2	7	5	25	1	4									6	35	1	8	1	5											江1/2
			SD03	1786	320	36																															弥148/914,須1/15
			SD04	650	200	15																							4	29							弥66/123
			SD05	280	22	22																															弥1/2
			SD06	800	540	51	2	41	1	1	1	4																						4	84	弥135/604
			SK01	174		27	14	79	10	114											17	168															
			SK03(SB14)	75	42	48	1	4	1	2																											
			SK04(SB14)	62	54	44	2	2													7	25															
			SK05	200	88	69			1	5											25	267															
			SP01(SB10)	32	28	38																															
			SP04	28	22	18																													2	1	
			SP05(SB10)	35	20	38	2	5													6	74															
			SP07(SB10)	28		38															1	28							2	80							
			SP09(SB10)	25		16			1	38																											
			SP13(SB11)	54	48	48	92	215	41	170	12	28									37	256	1	10					1	6					12	5	
			SP14(SB11)	58	48	28	27	35	8	25											11	121															
			SP16(SB10)	28		34	1	3	1	15											1	8															
			SP17(SB10)	34		16			1	9																											
			SP19(SB10)	30		22																							1	16							
			SP20(SB11)	30		60	95	177	23	110	6	9									24	253													8	60	
			SP21	28	26	16			2	10																											
			SP23(SB11)	53	26	24	24	35	4	44	1	5																									
			SP24(SB10)	24		34	1	2													2	10															
			SP26(SB10)	30	24	18	3	5													3	162															
			SP27(SB11)	28		52	10	25	6	30																											
			SP28	24	22	14	2	10																													
			SP30(SB11)	40	30	40			1	2											11	40															
			SP32(SB11)	32		25	10	30	4	29	3	29									4	14							2	274							鏃1/1
			SP33	32	30	42															1	5															
			SP34(SB11)	44	30	40	4	11	1	5											1	5	1	15													
			SP35	24		13															1	5															
			SP37	20		8															1	20													1	2	
			SP38	20	18	7	3	5	1	2																											
			SP39(SB11)	42	30	34	5	9	2	5	1	3									1	24							1	6							
			SP41(SB11)	32		18	7	18	1	9											1	2															江1/6
			SP42(SB11)	36		50	2	17	2	30																									1	1	
			SP46	24		122			1	60																											
			SP55	28		12																			1	54											
			SP59	30		28	1	3													2	11															
			SP60	36	34	27	2	1	2	15	2	6																									
			SP61(SA01)	28	24	32	1	6	1	2																											
			SP63	34	32	27	1	4	4	21											2	6															
			SP65	30		30			1	9																											
			SP71	26		25	2	3	4	10																									1	1	
			SP80(SB12)	22		28			1	4											1	21															
			SP85(SB12)	30		32	1	9																													
			SP89(SB14)	28		30																													1	3	
			SP92(SB14)	34		24	3	2													4	16															
			SP99(SB14)	32	30	32	9	122																													
			SP101(SB13)	62	26	34	1	3													18	25															
			SP108	30		17																													2	7	
			SP112(SB14)	42	30	20	1	9																													
			SP114	26		4			1	4																											
			SP116	63	18	8	1	5																													
			SP117	12		13			1	2											1	4															
			SX01	566	526	20	287	884	261	1364	38	175			4	89					108	779	5	76	20	695			19	417					17	91	弥22/181,布4/77,鏃1/2
			野井戸1	106		55																															
			野井戸2	108		32	3	5	3	18	1	5									2	5															江6/185,瓦2/993
			包含層				429	982	397	1916	44	150	2	26	9	213					418	3517	79	1095	45	772	2	71	37	571	2	29			129	769	江18/242,布5/191,鏃1/11
		15区	SD01	606	150	41	164	481	70	301	3	56			3	30					69	559	31	520	11	219			11	242	1	4			13	81	弥20/134,須2/132,石1/304
			SD02	700	220	20																													2	3	
			SD03	650	630	45	2	14	20	105											6	42							14	161					2	11	弥88/893,須4/235,江1/110
			SD04	770	128	22																															弥379/198
			SD06	645	510	55	2	13													2	34	2	15					1	15			1	45	5	5	弥47/577
			SP02(SB15)	32	30	43	2	5																													
			SP04(SB15)	40	28	46	4	7													10	94															
			SP05	24		16	2	5																											1	1	
			SP09	24		14	2	1													1	5															
			SP10(SB16)	28	20	12			1	40																											
			SP11(SB15)	32		24	1	5	1	5													1	90											1	5	
			SP12(SB16)	28		20	3	22													1	6													1	1	
			SP13(SB15)	21	20	38	4	10													1	1															
			SP16(SB15)	30	28	22	6	23																													
			SP18(SB15)	38	28	30	1	5	1	5											1	5															
			SP19(SB16)	24		18	3	1																													
			SP20(SB15)	32	28	25	3	5																													
			SP21(SB16)	24		20	2	3																													
			SP22	12		15			1	2																									2	9	
			SP23(SB15)	24	22	32	2	4	1	13																									1	1	
			SP24	12		13	1	2																													
			包含層				50	126	101	581	2	7	1	8							83	767	31	550	22	318			51	770	1	7			16	64	弥104/1069,須10/364,江5/29,布1/92
		16区	SD01	490	26	5																					3	165	1	62	1	15			1	4	江2/9
			SD02	628	20	2	1	1																											1	3	
			SD03	1260	330	55	1	1	5	45											7	35															弥21/170,石1/70
			SK01	240	100	11	24	15																													
			SP02(SB20)	24	20	14	3	1													1	5															
			SP04(SA03)	40	24	12															1	13															
			SP05(SA03)	44	36	18															2	4															
			SP06(SA03)	22		16			1	50																											
			SP08(SB18)	26		41	19	62	6	279	3	265									17	543															
			SP11(SB18)	40		12	1	2																													
			SP12(SB17)	28		20			1	3																											
			SP13(SB17)	28		26																													1	1	
			SP16(SB18)	34		16			2	19																			1	213					3	13	
			SP18(SB17)	58	34	27																													2	5	
			SP19(SB17)	42	28	16															3	12															
			SP21(SB17)	32	28	36																													1	2	
			SP23(SB18)	32		34															1	13															
			SP29(SB17)	32	26	25	1	1																													
			SP32	28	22	10	3	3																													
			SP52(SB20)	22		10	2	1													3	48															
			SP53(SB20)	20		12															1	95													1	2	
			SP55(SB18)	27		32	1	1													1	16															
			野井戸1	126	114	51	1	3			1	13																							1	4	瓦1/12
			野井戸2	105		38	1	3																											2	7	
			包含層				13	40	64	339	4	32	2	21	4	22					27	484	7	72	2	53			13	1045	1	16			45	126	須4/94,鏃1/12
	9次	2区	ST02	166	108	26	38	263	4	29													1	11					1	1967							
			SD01	652	350	52	29	209													3	42															
			SD02	340	95	10																													2	10	
			SP01	22		19.3	2	9																													
			SP04(SB07)	32		24	12	31																											1	3	
			SP07	28		16.3	4	10	1	42																											
			SP10	40	34	14.9	5	23																													
			SP11	28	24	14.5	4	22																													
			SP12(SB08)	26		20	6	12																											2	10	
			SP13(SB05)	34	32	26.5																													2	3	
			SP14	16		3.5	2	6																													
			SP16	32	20	17.6	4	37																													
			SP20	22	20	16	3	10																													
			SP22(SB08)	28		24	27	100																													
			SP23(SB07)	36	34	20	21	63																													
			SP24(SB05)	32		26	3	5															1	30					1	34							
			SP25(SB05)	38	30	22	2	5																													
			SP27(SB06)	28		22	5	14	1	20																											
			SP30	24	22	17.3	2	18																													
			SP31(SB08)	20		20	7	15																													
			SP34	16	14	11.3																							1	177							
			SP35(SB08)	26		18	14	46													1	5															
			SP36	30		16.4	3	9																													
			SP38(SB07)	26	24	16	18	49																													
			SP39(SB05)	34	28	22	1	5																													
			SP42	36		20.4	106	523	2	33			1	5							1	13							1	34							

遺構・遺物一覧表

ブロック	次数	区	遺構名	法量			土師器食膳具		須恵器食膳具		その他食膳具										調理具								貯蔵具						不明		その他
											瓦器		青磁		白磁		備前		瀬戸・美濃		土師器		瓦質土器		須恵器鉢		備前擂鉢		須恵器		備前焼		その他				
				直径(長辺)	短辺	深さ	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	
北東部	9次	2区	SP43(SB05)	32	30	5.7	3	8																													
			SP44(SB06)	28		20	7	22																													
			SP45	28	24	14.1	6	32																													
			SP46	30	28	16.6	3	7																					1	71							
			SP48(SB05)	30		17.5	2	17																													
			SP49(SB04)	26		18	1	4																													
			SP50	22		23.5	6	24																													
			SP52(SB04)	28		22	6	11																													
			SP53(SB06)	26		14.9	28	92																													
			SP56(SB06)	28		24	23	47																	1	32											
			SP57(SB04)	30		20.5	23	83																											1	5	
			SP58(SB06)	25		17	43	142	1	11																											
			SP59(SB04)	26		16.9	7	24																											1	5	
			SP61(SB06)	30		20	72	219															5	51											2	15	
			SP64(SB05)	36	32	29.3	6	42																													
			SP66(SB04)	30		18	2	10																													
			SP68(SB04)	30		20.5	1	20																													
			SP69(SB06)	31		20	16	28			1	10																									
			SP70(SB04)	28	24	24	11	21																													
			SP71	26	24	14.5	31	72													1	10			1	64											
			SP72	24	22	14.8	3	10																													
			SP73	68	46	15.8	1	10																													
			SP74	26	22	18.2															1	285	1	240													
			SP76	22		16.5	28	185																											1	3	
			SP77	22		10.7	8	41																													
			SP79	18	36	10.3	1	3	1	5											1	20															
			SP80(SA02)	30		18	3	30																													
			SP82	54	44	34																	1	21											1	8	
			SP84	18		11	5	19																													
			SP87	38	34	8	2	9																					1	11							
			SP88(SB04)	25	22	30	3	10																													
			SP91	28	20	13.1	1	5																													
			SP92	22	20	11.8	7	11	3	15																											
			SP93(SB08)	26	24	16	7	8																													
			SP94	20		27	2	9																													
			野井戸	250	178	50																													2	8	江12/529、瓦1/20
			包含層				96	327	22	202											9	199	6	212			1	36	11	251	1	24			11	94	江4/99、瓦質火鉢1/38
		4区	SP03	30		19	1	1													1	95															
	10次	11区	SK01	294	130	35			4	32											1	13			2	53			3	43					1	24	
			包含層				45	49	7	53											9	60									1	23			8	21	
	12次	4区	SK01	72	56	41	27	244													1	25	2	760													
			SP03(SA06)	28		10	1	5																													
			SP06(SB28)	24		8	1	2																													
			SP07(SB28)	32	28	8	4	8	2	30			1	7							4	15	1	24													
			SP09(SB28)	20		6	1	1													6	5															
			SP10(SB28)	22	18	1	3	5																													
			SP12(SB28)	26	20	8	2	2													2	80													2	4	
			SP13(SB28)	28	22	10	17	29													1	8															
			SP16(SB28)	26		4	5	6													3	6															
			SP25(SB29)	20	14	14	11	20	1	1															1	68											
			SP28	16		5															6	32															
			SP30(SA10)	34	30	26	7	7																											1	1	
			SP31(SA08)	26	24	22	13	15													1	26															
			SP33	30		2.9	1	3																													
			包含層				32	72	2	5											5	65	1	18					1	17	1	16					江7/63
	14次	4区	SD01	4200	560	48			5	57					2	15					3	71					3	85	3	101	4	262			2	35	江64/1358、瓦13/1200、石2/79
			SD02	152	37	14																							1	35					1	5	江1/6
			SD05	37	15	5	1	5																													江1/15
			SP02(SB28)	32	24	30	10	85													1	150	1	20													
			SP05(SB28)	32	22	22			1	10																											
			SP08(SB28)	26		28	8	50							1	5																					
			SP09(SB29)	26	23	17	6	5																													
			SP12	32	28	17	2	5															9	64													
			SP19	22		19	1	5																													
			SP21(SA09)	32	30	20	1	2																													
			包含層												1	10													2	59					2	29	江19/369、瓦2/76
	18次	12区	SD01	1918	70	5																							1	15							江3/62
			SD02	363	41	15	2	8	3	11													1	8	1	18	1	35			1	316			1	5	江1/80、瓦2/155
			SD03	1512	90	5																	1	20													
			SK02	270	108	35																															江2/38
			SK04	213	112	29			4	16																			1	21	1	75					江3/170
			SK06	360	130	33																													1	15	
			包含層				5	23	22	123			2	25	2	70	1	10			31	894	3	171	1	40	11	759	45	1324	14	781			30	347	弥2/50、須1/34、江60/1183、瓦9/841
	22次	1区	SD01	2900	200	80																							2	30							
			SP02(SB20)	25	22	16	8	25	3	88											2	24															
			SP03(SB20)	25		20	3	8	5	36																			1	95							
			SP06(SB21)	24	12	22			1	17																											
			SP14(SB23)	16		16																													1	1	
			SP27(SB24)	28	26	12	1	10							1	10							1	23											1	1	
			SP29(SA05)	24	20	28	1	10													1	6															
			SP30(SA05)	22		22			1	1																											
			SP32(SA04)	26		6			1	15																											
			SP40	30	22	16	4	25																													
			SP41(SB22)	22		14			1	4																											
			SP43	20		12																															瓦1/20
			SP48	22		20			4	44																											
			包含層				1	4	4	10											3	46	1	30	1	15	1	35	1	20					2	10	
北西部	3次	11-1区	SD01	640	70	8			8	43											7	45							5	78					8	19	
			SD02	430	50	8			8	88																											
			SK02	120	32	8			1	1																											
			SK03	200	176	33	4	8	8	22											2	20							2	17					1	2	
			SK09	100	90	8			3	236											4	25							3	61					3	7	
			SK10	76	34	9																													1	3	
			SP03(SB30)	34		24																													1	1	
			SP09(SB30)	34	30	28	1	2																													
			SP14(SB32)	34		60	2	3																													
			SP16(SB31)	22		24			1	1																											
			SP17(SB32)	26		58	1	1																													
			SP19(SB31)	26		26	1	9																													
			SP21(SB32)	32	30	56	1	1																													
			SP22	28	26	22			1	1																											
			SP24(SB32)	32	30	58	1	1	1	1																											
			SP25(SB32)	28		48																													4	3	
			SP31(SB33)	44	34	36	3	2																											1	1	
			SP33(SB33)	44	32	40															1	5															
			SP34(SB33)	40		38	3	20	2	5																									1	2	
			SP38(SB33)	32		26																													3	5	
			SP70	28	24	4			1	8																											
			SP73(SB32)	32	30	24																													1	1	
			包含層						8	58																			1	13					1	8	須4/117
		11-2区	ST03	132	80	15	15	56	3	10																									7	9	
			SD01	1710	60	15	9	24	2	9											8	219	3	14					1	30							石1/235
			SD02	450	30	7	3	5													1	6															
			SD03	555	28	5	6	22	1	1													2	8											4	7	
			SD07	1000	32	7	1	2													2	70							1	45							
			SD08	1110	36	5	4	18	1	12											6	32															
			SD09	643	30	5	1	5															2	64					1	18							
			SD10	634	30	5	11	28													2	35													2	5	
			SD11	780	80	25			1	5											2	53							1	65							
			SD14	182	42	16	1	1	1	3																											弥4/19
			SD15	630	31	8	3	6	4	17											3	12															
			SD17	568	80	10	4	12	6	30											16	1190													11	56	
			下層SK01	425	75	14	2	3																											1	2	弥218/2487、瓦1/78
			SK01	180	194	8	38	92	3	15											20	111	22	142					2	17							
			SK03-SP03(SB35)	22		23	9	56	1	6											1	11							2	25					1	7	
			SK04	110	58	21	12	50	9	15			1	6	1	18					19	77	10	251					1	157	1	21			9	18	
			SK07	152	132	40			1	3																			1	44					2	21	
			SK08	210	168	35	1	5	3	5											3	6	1	4													
			SK09	60	50	6	1	5	2	10																											
			SK10(SA14)	100	60	10																															弥6/53
			SP02	26		21	2	5																													羽2/10
			SP05(SB39)	32		24	2	7													2	11															
			SP06	30	24	19	1	2													2	20															
			SP07(SB39)	24		26	6	52																											1	2	
			SP08(SB38)	22		28																													4	1	
			SP10(SB38)	30	28	22	2	3																													

ブロック	次数	区	遺構名	法量			土師器食膳具		須恵器食膳具		その他食膳具										調理具								貯蔵具						不明		その他
											瓦器		青磁		白磁		備前		瀬戸・美濃		土師器		瓦質土器		須恵器鉢		備前擂鉢		須恵器		備前焼		その他				
				直径(長辺)	短辺	深さ	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	
北西部	3次		SP11	24		16	3	6													1	12							1	5					1	5	
			SP12(SB39)	36		18	5	10			1	1	1	50							1	17															
			SP13	36		16	1	8																													
			SP14(SB37)	32	30	25															3	15															
			SP15	26	22	20	1	1													1	7															
			SP16	28	26	16																	1	62													
			SP17	20	18	13															1	13															
			SP19(SB37,38)	32		40	2	24													2	68	5	112													
			SP21(SB38)	34		34	5	10																											2	4	
			SP22(SB38)	26		14															1	28	2	24													
			SP23(SB37,38)	38	32	31			2	5													1	9													弥1/14
			SP24(SB39)	32		10	3	7															2	27													
			SP29(SB37)	50		18	1	3															2	27													
			SP30(SB36)	28		14	1	1															1	7													
			SP31	28		19	1	5																													
			SP32(SB36)	32		20	5	10															1	9					1	19					1	2	
			SP35	22		7	3	12													8	20															弥1/2
			SP37(SB36)	18		22	1	2																					1	20							
			SP38	26		21	3	108																													
			SP39	14		4	2	20															1	5													
			SP41(SB36)	22	20	22																	1	5													
			SP42	24		17	2	3													1	60	3	53											6	22	
			SP43	24	22	11	1	2															1	20													
			SP44(SB36)	26	24	16	2	16													1	24													2	5	
			SP45	32		24	4	15	1	3																											石1/187
			SP46(SB36)	22		22	2	8													2	10															
			SP47(SB35)	32	30	18	2	5	1	1											4	7			1	23											
			SP48	22		15	2	10													1	72															
			SP49	26		13	1	19																													
			SP50(SB36)	30	26	26	1	8																													
			SP51(SB36)	38	22	24	4	12																													
			SP54	44		11	7	27																													
			SP55	48	46	11	22	136	3	5													1	12													
			SP56(SB35)	38	26	24	11	47													9	140															
			SP58(SB35)	26	22	28																	1	9													
			SP59	58	44	16	9	96													1	5	1	12													
			SP60(SB36)	40		26	12	40			1	4									1	10									1	18			1	16	
			SP61(SB35)	32		18	14	38					1	4									1	12					1	20							
			SP62(SB36)	44	38	22	10	25													2	20															
			SP63(SB35)	30		15	10	56	1	4											1	5															
			SP64	30	28	25	1	5																													
			SP65	22	18	14																							1	35					3	8	
			SP66(SB35)	32	26	26	31	113	1	1											1	9							1	22							
			SP67	22	20	14	1	1	1	6											1	33															
			SP69	16		6	3	9	1	5											3	14															
			SP71(SB35)	26	20	30	7	31			2	43											1	16													
		11-2区	SP72	24	22	18	12	29	3	16											1	40							1	50					5	9	
			SP73(SB35)	28	20	17	5	25															1	15													
			SP74	24	20	16	1	1															2	67											1	1	
			SP78(SB35)	16		14	1	6															1	4													
			SP79	30	26	27	2	3															1	40													
			SP80	28	25	20	6	15													1	62															
			SP82(SB35)	26		20	1	3																					1	5					1	1	
			SP83	28		19	1	1	1	1											1	5															
			SP84(SB35)	40	30	23	9	48	3	6											1	14			1	66											
			SP87(SB35)	28		22	6	14	1	12													3	94													江1/13
			SP90	20	16	14															1	5	2	15													
			SP91	18		16	1	4			1	2									2	5															
			SP92	28		3	1	2													5	24															
			SP93	32	26	19	1	1																													江1/180
			SP94	26		18	3	8	1	3																											
			SP97	38	34	31	1	8	1	1															1	5											
			SP99(SB37)	30	28	18	4	26													3	12	3	12	1	52									1	1	
			SP102	26	24	27	2	12	4	10													3	160													
			SP107	26		23	3	66			2	11																									
			SP112	40	35	38			1	1											1	8															江1/4
			SP117	26	22	11			1	8																											
			SP118	40	38	30			1	8																											
			SP119	24	20	8	1	1	1	2											1	7															
			SP120	20		20															1	4															
			SP126(SB34)	34	30	25	16	32																													
			SP127(SB34)	28		26	1	5																													
			SP129(SB34)	24	20	20	1	1			1	1									3	6															
			SP130(SB34)	36	32	24															1	3													2	2	
			SP131	32	25	13															1	2															
			SP132(SB34)	44	28	26	1	9													1	6															
			SP135	14		9	1	3																													
			SP136(SB34)	38	28	26																													1	1	
			SP140	20	18	14	1	3																													
			SP142(SB34)	34	30	12																							1	50							
			SP143	68	32	12	1	3																											1	5	
			SP146(SB35)	30	28	16	4	7													1	6									1	313					
			SP147	24	20	19	2	6															1	9					1	12							
			SP148	24	20	14	1	1													1	4															
			SP149	16		10			1	8																									1	3	
			SP151	26		19			1	2																											
			SP152	24		15															1	95	1	22													
			SP153	24		19																	1	42													
			SP155(SB38)	26		32	1	5	1	6																											
			SP156	22	20	20																	1	25													
			SP157(SB39)	24	20	10	4	6	1	6											2	56	2	39													
			SP161(SB37)	34	28	24	1	4																	1	26											
			包含層				21	58	7	65											13	97	21	203					2	41	1	49			3	7	須3/13、江1/41、錘1/4
			ST04	178	65	15	71	264													3	23													9	16	弥5/8
			下層SD01	2300	930	105	2	12	2	27											3	260	4	162					1	35							弥654/21667、石1/31
			SD01	940	26	4	9	10													6	11															
			SD04	360	44	6	6	9	1	4											3	15									1	31			3	21	
			SD05	382	49	5															1	5							2	25							
			SD07(SD02ののび)	880	100	10	17	28	4	15			1	3							6	37	1	26					2	31							
			SD09	500	74	5																													3	6	須1/5
			SD10	990	220	26	15	24	10	44			1	11							6	47	3	33					1	24	1	18			5	44	弥10/87、江1/7
			SD11	1030	80	26	5	12	1	2											2	37	1	14					2	94							弥5/65
			SD12	544	50	6	2	5																					1	9					1	2	
			SD13	324	80	10	13	38	2	4											6	45	1	25											2	5	
			SD15	375	120	35	2	4	7	17											13	58							2	13							
			SK01	68	40	8	1	5	1	4											4	79															
			SK02	80	54	10	1	2													3	3															
			SK03	96	40	20	7	23													4	57													1	1	
			SK04	122	34	5															4	22													1	1	
			SK05	400	210	34	16	24	5	16											5	22													1	1	弥1/1106
			SK07	80		10															3	24															
			SP01(SB44)	44	40	20	1	3													1	18							1	117					1	2	
			SP03(SA19)	32		14	1	1																											2	11	
			SP04(SB44)	36	24	18																	2	15											1	2	
		11-3区	SP06(SB44)	34	32	20	1	5																											1	1	
			SP07	60	46	18																															弥13/265
			SP08	42		15	1	1																													弥2/5
			SP09	30	28	17	1	1																													
			SP10	18		11																															
			SP13	30		20	4	7													4	21															
			SP14(SB44)	32		20	5	7															1	5											3	4	
			SP15	24		19																	2	35													
			SP17(SB44)	46		25	8	33													6	241	6	73													
			SP18	40		29	5	10													1	3	1	9					1	33							弥2/11
			SP21	34	30	22	2	4													3	17	2	85													
			SP22	26		18	18	58													7	85	9	159					1	36					6	22	弥4/43
			SP23	38	35	8	10	13													1	20													2	10	弥4/31
			SP24(SB44)	46	40	36	19	57	2	6			1	12							10	81			1	35									3	5	
			SP26	18		13	3	5													1	4													1	1	
			SP27	24		18	2	4																													
			SP28	14		7																							1	2					1	3	
			SP29	36	32	11			1	2																											
			SP30(SB44)	38		32	2	6													1	7													3	6	
			SP31	24		14	1	5																													
			SP32	40	32	13	1	1													1	5															
			SP33(SB44)	32		24																															弥2/9

遺構・遺物一覧表

ブロック	次数	区	遺構名	法量			土師器食膳具		須恵器食膳具		その他食膳具										調理具								貯蔵具						不明		その他
											瓦器		青磁		白磁		備前		瀬戸・美濃		土師器		瓦質土器		須恵器鉢		備前擂鉢		須恵器		備前焼		その他				
				直径(長辺)	短辺	深さ	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	
北西部	3次	11-3区	SP35(SB44)	44		28	1	2	3	5																											
			SP37(SB44)	32	24	22	1	1	1	41																				1	118						
			SP38	24		18																														弥1/9
			SP39(SB44)	42		16	8	13	2	10																											
			SP40(SB44)	40		22	1	1														1	5														
			SP42(SB44)	34	28	24	4	7																													
			SP44	20		14															1	3														
			SP45	44	40	176	4	17	2	26												1	4	4	145											4	17	
			SP46(SB44)	30		32	2	22	1	16												1	5	1	18											4	3	須1/45
			SP47	26		11	1	2																													
			SP49	22	20	14																														弥2/12
			SP56	28	26	28	2	1																													
			SP57	26		23	7	6																1	75												石1/54
			SP60	35	24	18	1	5																												1	6	
			SP61	32	30	20	1	11																													
			SP66	44	38	17	4	4																4	4												
			SP68	25		21	1	1				1	5									1	5														江1/3
			SP69	18		15																													1	10	
			SP71	26	12	16															1	5														
			SP74	26	24	17	3	1	1	1																											弥6/20
			SP77	56	30	14	1	1	2	5												1	2													1	1	
			SP78	28	20	15	3	5																													
			SP80	18		16	3	10																1	3												
			SP81	40	26	15	7	9														2	20														
			SP82	28	24	15	2	3																													
			SP84	22		25	4	3	1	1																				1	3						
			SP85	28	26	18	5	9	1	1																											弥1/4
			SP86	25	20	17			1	4																											
			SP88	24	20	16	5	12														4	36	2	60												
			SP89	44	26	7	2	1														3	9														
			SP90	22	20	18	1	1														1	2							1	55						
			SP92	34	24	17	14	29														1	33													6	13	
			SP93	30	24	21	5	5														2	25	1	5											1	5	
			SP100	28	18	14	1	1																2	103												
			SP101	14		14	5	19														1	40	1	2												
			SP102	20	18	11															1	1														
			SP103	28		14	8	12																1	5												弥1/12
			SP104	24	22	12	3	10																												1	1	弥1/12
			SP105(SB44)	26	20	24	2	4																													
			SP107	25		27	1	1																												2	2	
			SP108	24		28	1	1														1	1	1	5												
			SP110	28	24	10	3	2																													
			SP111	36		30	1	2																1	23											3	6	
			SX01	470	195	21	136	453	19	112				2	73							176	1889	48	1267	1	90				18	570	2	89				6	64	弥25/252
			SX01-SP03	32		30	3	2														1	5											1	20			
			SX01-SP05	30		20	1	1														2	8														
			SX04	260	220	22	25	57	8	40												26	155	6	32												
			SX05	570	450	27	41	106	8	41												18	292	1	5	1	20				7	222	1	5				8	39	江1/42
			SX10	1850	640	60	425	1156	61	414		5	43	8	189	9	265	2	8				400	4837	226	3834	31	987	33	2382		136	6016	20	1012	1	15		89	638	弥331/10151、須2/5、江39/213、布4/697、瓦9/823、石1/108
			包含層				33	81	25	105				2	7	3	16					42	528	31	602	4	139	2	67		19	560	8	295				17	91	弥5/363、江3/28、瓦1/66
		11-4区	SK01(現道部分)	63	47	9																														弥92/794
	4次	17区	SK01	244	192	20	9	25																													
			SP02(SB46)	32	29	26	1	2	1	4												2	8														
			SP04(SB46)	30		22	3	5	1	6												4	91														
			SP05(SB46)	42	30	22	8	16	1	2												5	32													1	4	
			SP06(SB46)	42	37	26	1	3														1	4														
			SP10(SB46)	34	28	22																													1	4	
			SP13(SB46)	16		14			1	7																											
			SP16	40	34	5	1	1	2	4																											
			SP17	16	12	3	1	3														6	45														
			SP19(SB46)	26	22	25	1	1	1	5																											
			SP30(SA20)	26	22	26	1	1																1	300											1	2	
			SP35(SB45)	32	28	22	6	21	1	3																											
			包含層				8	30	52	425				1	25	5	160	1	6				50	824			4	135	4	109		44	1176	19	665				21	156	須1/92、江121/1014、瓦28/1170
		18区	SX05	880	262	1	9	25	4	15																											弥561/5759
			包含層																																	弥117/495
		19区	ST05	255	95	30	20	671	6	9												2	14														
			SK01	162	66	10	1	1														5	28							1	49						
			SP01(SB48)	23	20	13	1	26	1	1																											
			SP02(SB48)	30	26	22			1	12												1	10														
			SP03(SB48)	20	18	20																													4	11	
			SP04(SB48)	36	26	24	1	2	1	9																											
			SP13	24	22	20	1	10																												3	5	
			SP17	36	32	15	1	5																													
			SP20	28	20	21															1	110														
			包含層						1	2												8	32													4	17	江4/8
		20区	SP04(SB49)	24	22	30	2	4	1	2																											
			SP05	14		3			1	5																											
			SP06	24	20	3			1	1																											
		21区	SD01	3200	1400	53	7	42	23	152												92	307			1	15				15	212						弥12/185、須2/31
		22区	SD01	614	640	100	1	3	5	28																				4	135					3	5	弥399/5120、江4/60、石2/125
			SD03	588	46	11	14	14	3	45																											
			SD04	588	44	8			3	16																										1	32	
			SK01	450	85	10															7	20														
			SK02	162		11			3	10																										1	1	
			SK03	120	76	10																													1	4	
			SP02	34		3	2	5																													
			SP03(SA22)	28		28	1	5																													弥2/5
			SP04	44	34	12			1	2																											
			SP05(SA22)	22	20	28	1	51																													
			SP07(SA22)	26		38	1	5																													
			SP13(SA22)	32		36	1	5														1	1														
			SP14	22		18			1	2																											
			SP17(SA22)	28		46	1	3														1	2														
			包含層				140	441	508	2275		24	99	3	9	3	14					313	2434	18	264	47	885	1	36		66	1421	4	53				102	286	弥21/45、須4/18、江60/318、瓦4/254、石1/49
	6次	17-1区	包含層						1	19								1	15				2	52					3	279		2	81	1	62				4	60	江8/248、瓦2/138、瓦質火鉢1/65
	7次	35区	SD01	1678	206	50			2	10																				4	112					1	5	江2/25
			SD03	300	44	5															4	16														
		11-5区	SK01	210	160	83			1	5												1	10							3	58					2	82	江1/56、瓦2/88
			SK02	180	130	13			1	6								1	12																	
			包含層				7	23	47	255												14	332	5	157					42	623					27	140	弥36/210、江19/156、瓦6/258
		33区	SD01	490	20	9	1	4														1	5														
			SD02	360	20	7			1	3																											江1/2
			SD04	365	20	2																													1	2	江1/4
			包含層				1	5	2	16																				1	25						江6/11
	10次	1区	SP05(SB50)	22		32															1	40														
			包含層						8	41												3	20													2	4	江2/4
		2区	包含層						12	163								1	16				19	246					2	72		17	531					5	101	弥1/11、江15/100、瓦2/86、瓦質火鉢1/42
		3区	SD01	420	560	117																													3	25	
			包含層				1	1	1	23														1	6			1	54		1	10	1	5				10	72	江4/46、錘1/10
			包含層						8	71												12	95			1	20	2	26		3	86	1	21				3	15	江8/65
	11次	4区	SP04	22	10	10	1	5																1	45												
			SP05	26		28			1	2																											
	12次	3区	SP01	18		13.2	1	1																													
			SK01	154	98	4.1			3	14														1	24											2	9	江4/26
			包含層						1	9												1	19														江3/13
	14次	6区	包含層						1	49												1	12													1	2	
		7区	包含層						1	4												1	21														
	16次	7区	包含層				7	15														1	15			1	35										3	45	須1/95
		8区	SP01	25	20	15	1	1																													
			SP03	26	24	5	1	5	1	10																										1	9	
			SP04	28	14	27	3	12	1	10																				1	15						
			SP05	18	16	17																													1	1	
			包含層				4	8	1	5												2	75	1	14					1	5					3	1	
		9区	SP01	26		33	1	1																													
			SD01	205	170	12	46	136														1	35	1	20	1	50										2	14	
		10-1区	SK01	395	212	18	2	5	5	12												3	17														
			SK02	158	92	94																														江4/139、瓦3/175
			SP01(SB52)	22		18	2	11																													
			SP02(SB52)	28		18	2	4																													
			SP03(SB52)	30	21	22	1	10																													
			SP04(SB52)	28	26	22	3	5																													
			SP06(SB53)	24		30																													2	4	
			SP07	28	22	36	4	4														1	30														
			SP08(SB53)	36	26	24																													1	2	
			SP09(SB51)	24	22	32	1	1														1	32													1	8	

ブロック	次数	区	遺構名	法量			土師器食膳具		須恵器食膳具		その他食膳具										調理具								貯蔵具						不明		その他
											瓦器		青磁		白磁		備前		瀬戸・美濃		土師器		瓦質土器		須恵器鉢		備前擂鉢		須恵器		備前焼		その他				
				直径(長辺)	短辺	深さ	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	
北西部	16次	10-1区	SP10(SB51)	26	22	32																															
			SP12	24	20	16																													2	2	
			SP13(SB51)	24		6	3	6	1	4											3	19															
			SP14(SB51)	24		46	1	4	2	10																			1	64							
			包含層				4	10	5	35											6	139	2	48											2	5	江3/9、瓦2/188、石1/4
		10-2区	SP11(SB54)	18	16	10			1	10																											
	18次	14-1区	SP01(SB56)	22	20	16	1	1	1	4																											
			包含層				1	5													2	55															瓦質火鉢1/42
		14-2区	包含層						1	2																									2	5	
		2区	SK01	150	50	5																															弥30/375
			SK02	107	64	28																															弥121/1003
			SP01(SB41)	36	30	18					6	75																									
			SP04(SB41)	38	36	20																															弥1/10
			SP06(SB42)	32		42			1	17															1	1					1	30			1	5	弥2/4
			SP07(SB42)	29	24	18																							1	15							
			SP08(SB41)	34		18	1	5																													
			SP09(SB41)	30		18																															弥1/4
			SP10(SB41)	34	30	18																													1	2	
			SP16(SB42)	30	26	41	2	2																													
			SP19(SB42)	34		34																															弥6/106
			SP24	44	28	15																													1	1	
			SP35(SB40)	24		16	2	4																													
			SP36(SB40)	34	30	28																															弥1/11
			SP37(SB40)	30	24	28	1	15																													
			包含層																																		弥6/25
	20次	1区	SD01	1125	100	60																													1	9	弥1/49
			SP01(SB43)	30	26	12	1	7																													
			SP03	24		16	1	1																													
			SP04	20		24	1	10																													
			SP05	30		18	1	2																													
			SP06	30	25	30																													1	1	
			SP07	20		17	3	5																													
			SP08	25	20	25															2	181	2	130													弥1/50
			SP09(SA16)	44	18	12	1	40																													
			SP10(SA18)	30	28	20															1	24															
			SP11	30	20	16	1	11															1	16													
			SP12	20		18																													1	1	
			SP13(SB43)	28	20	20	1	2															1	69													
			SP14	22	20	20			1	2											1	10															
			SP15(SB43)	40	36	20	1	1																													
			SP16	20		22	1	1																													
			SP17	25	18	15															1	10	1	8													
			SP18(SB43)	18		10	1	4																													
			SP19	45	20	13	2	12																													
			SP20	22	18	21	1	6																													
			SP21(SA16)	26	22	16																													1	5	
			SP23	25		23	9	36																													
			SP24	18		24																	1	9													
			SP25	18	15	17	5	40																											1	27	
			SP26	15	10	18																	1	5													
			SP28	20		10					1	4																									
			SP29	20	15	25	2	9																													
			SP30	20	15	18	1	1																													
			SP31(SA17)	26		30	1	4																													
			SP32	30	15	18	1	1																													
			SP35	20		20															1	9			1	20											
			SP36	25	20	20																	1	10													
			SP37	40	20	30	1	60																													
			SP38	15	10	12	1	1																													
			SP39	20	12	12															1	22															
			SP40(SB43)	52	32	46	2	19																											1	5	
			SP42	52	15	15															1	10															
			SP43(SA17)	28	24	18															1	10															
			SP44	25		22																	1	10					1	17							
			SP45	30	22	28	1	5	1	4																											
			SP46	20		18	1	4																													
			包含層				7	20													5	29	2	20											2	15	江2/33
	22次	2区	SD02	160	520	80																															弥35/1447
			SK01	90	35	35																															弥1/5
			包含層				1	8													1	12	1	18													弥3/20
中央部	2次	8-1区	SD03	640	130	40	6	18	5	27											2	60															弥1/26
			SD04	640	130	40			1	5																											弥1/43
		8-2区	SD01	5056	250	15	9	43	45	439											4	143			1	10			4	260					51	69	弥78/443、江1/15、瓦1/220
			SD02	446	160	12			1	4																											弥447/632、須4/156
			SK01	134	120	21			1	2																									1	5	江15/395、瓦2/105
			SK02	110	38	10																															江5/62、瓦1/45
			SK03	300	105	24	1	20	1	8											3	75													2	6	
			SP01	48	44	17			1	10																											
			SP02	37	30	16			1	10																											
		8-1・2区	包含層						10	95											2	46							1	23					1	6	弥4/22、須1/13、江13/156、瓦1/46
	4次	23区	SE05	215	190	110	3	12					1	10							61	1209					1	177			5	364	1	10	1	5	江3/21
			SD01	650	780	100	1	5	2	16			1	20					1	18	15	153					5	962			9	1039			1	21	江120/1458、瓦33/2882、錘1/10、瓦質香炉1/60、瓦質火鉢1/65
			SD02	600	650	70	34	255	20	81			8	102	5	63	2	64	4	71	188	2704	9	306	5	135	20	1142	11	427	119	7140	5	294	18	66	弥3/38、須1/102、江3/323、瓦4/276
			SD03	1710	220	50	89	349	20	93	1	5	12	166	4	19	1	5	2	38	317	6481	15	493	4	224	39	2573	34	1287	144	9221	4	171	49	198	須3/175、江1/2、布2/192、瓦3/783、石2/624、香炉1/30、青花1/2
			SD05	496	226	11	1	5													2	32									1	10					
			SD06	570	18	7	1	1																													
			SD07	910	67	11	3	10	2	1											8	23			2	19	1	93	2	46	2	150			1	1	
			SD08	38	85	18											1	4																			
			SD09	680	198	5	1	4																											4	12	弥9/75
			SD10	490	180	14	2	3									1	10			1	10									1	20					
			SK01	226	126	47																					7	438									江22/389
			SK02	218	210	30	2	4													5	16	1	9	2	15	1	35			1	99	1	73	2	5	
			SK03(SB71)	62	40	42	1	1													2	10							1	10	1	60					
			SK04	154	130	19															2	14															
			SK07	220	112	30	3	36					1	10							3	8	1	30	1	20	1	131	1	90	4	380					
			SK08	74	56	25															1	6															
			SK09	114	48	11															4	18															
			SK10	160	20	12															3	1													3	1	
			SP01	20	16	18																									1	30					
			SP04	24		21																													1	2	
			SP08(SB74)	26		22															1	5															
			SP12	22		22																					1	60									
			SP14(SB74)	32	28	12															3	205															
			SP16	24		16	1	5																													
			SP20	26	22	21	1	4													1	15															
			SP22	30		5															1	19															
			SP23	38	34	22	1	1													2	15															
			SP27	42	38	19															1	35													2	3	
			SP46(SB74)	20		14			1	5											6	323															
			SP50	22	20	18	1	5																													
			SP51(SB74)	26	22	18															6	283													1	1	
			SP52	14	12	4																													3	1	
			SP53	24	15	4															1	5															
			SP57	15		10	4	1																													
			SP61	18		19	2	1																													
			SP67	24	20	20															1	1															
			SP95(SB73)	16		28																													1	7	
			SP97	50	45	11	1	1																													
			SP100	23		16																									1	24					
			SP102	18	16	15																															江1/9
			SP107	28	24	15	5	29																													
			SP110(SB73)	42		30	4	12																							1	175					
			SP112	23	17	15																	1	1													
			SP114	24	20	15	2	4																													
			SP118(SB72)	36		26	1	1																													
			SP120	22	20	16																													1	2	
			SP121	24		16																															
			SP135(SA34)	24		20															2	27															
			SP144	40	32	9															1	10															
			SP147	18	10	9																															
			SP148	26	22	19	4	4													1	4															
			SP152	26		20															1	35															
			SP156(SA33)	26		30															1	5															
			SP157	25		22																													2	1	
			SP158	24		19															1	5													1	1	
			SP161(SA34)	21	18	18																													1	1	

遺構・遺物一覧表

ブロック	次数	区	遺構名	法量			土師器食膳具		須恵器食膳具		その他食膳具										調理具								貯蔵具						不明		その他
											瓦器		青磁		白磁		備前		瀬戸・美濃		土師器		瓦質土器		須恵器鉢		備前擂鉢		須恵器		備前焼		その他				
				直径(高)	短辺	深さ	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量		
中部赤土	4次	23区	SP170	22	20	14											1	22													1	9	8	5	
			SP175	20		19																											2	2	
			SP176	26		12															1	20													
			SP177	24	22	15	1	2													1	1													
			SP181	26		14	1	1																											
			SP182	20		10																											1	1	
			SP187	23		29																											2	1	
			SP196	24		13	1	1													1	5													
			SP200	22	20	13															3	3													
			SP201	26	22	16															2	5													
			SP204	24	20	19															2	2													
			SP208	16		4	1	3																											
			SP213	26	24	10	1	3																											
			SP215	27	22	13															1	9													
			SP216	28		15	1	4																											
			SP217	30	26	24															1	1													
			SP218	22	15	33																											1	3	
			SP219	20	18	21																											1	2	
			SP220	24	20	25															1	13													
			SP221(SB72)	46	40	30																											2	2	
			SP222	20		17															2	3													
			SP223	22	18	17															1	2													
			SP225	22		16															1	24													
			SP228(SA34)	24	21	48															1	1													
			SP277	24		20															1	1													
			SP285	18		13																													
			SP287	22		28	1	5													2	7													
			包含層				103	249	49	184	2	7	3	42	2	10	3	15	3	19	204	1280	4	173	2	56	29	1445	21	495	32	1484	2	24	95	246	江83/944、鍾/17
		24-1区	SD01	1500	260	40	3	11													2	26													弥101/808、江8/39、瓦1/62
			SD03	3900	60	15																													弥17/118、石1/1
			SD05	626	70	6															3	5													弥4/15、江4/83、瓦4/273
			SK02	72	40	8																													江1/15、瓦2/27
			SK04	172	98	18															3	10													江3/217、瓦23/1105
			SK07	160	130	15																											3	1	弥3/30、須1/1093
			SK08	200	88	16															1	32			1	38	2	130			1	19				江7/364、瓦1/175
			SP03	22		25															1	18													
			SP04	20	18	25																													弥1/55
			SP05	28		29									1	60																			
			SP06	30	26	30																									1	180			瓦13/1755
			SP15	18		18																											2	2	
			SP18	24	12	9	6	18																											
			包含層														1	13			2	17									1	18			江15/184、瓦10/912
		24-2区	SD01	1360	240	64	5	17	4	38											17	140					5	303	5	222	2	143	1	35	1	7	弥4/286、江5/17、瓦2/100、瓦質火鉢1/111
			SD02	1380	140	15	12	37	1	1					1	1					10	70					1	21			2	370			8	8	弥8/84
			SD03	1090	58	12																													弥2/15
			SK01	320	100	31			1	1																									弥4/26
			SK04	64	60	35																													弥30/1652
			SP05	24		27													1	50															
			SP14	22		12	1	1													1	5													
			SP20	20		20	1	1																											
			包含層				1	1													3	49	1	30											江22/141、瓦5/192
		24-3区	SD03	660	170	12	1	1	1	2																							5	6	弥12/61
			SD04	2340	124	12	7	12	6	22					1	5					22	132	1	6	1	41	2	58	2	60	8	198			17	27	弥3/14、江1/10、瓦質香炉1/60
			SD06	265	80	40	1	1			1	4	1	25							9	228	3	90			2	170	3	185					3	4	弥1/16、鍾1/10
			SK01	112	80	14																											1	1	
			SK02	186	62	6			1	15																									
			SK03	150	128	22																									1	63			
			SK04	200	148	16	1	2	1	1											1	5									1	7			
			SK05	105	87	7	3	3	2	5											3	3									1	25			
			SK07	134	118	3	1	1																											
			SK08	124	80	14	1	1	2	6											1	5													
			SK11	316	132	18	9	12	9	49					1	15					5	31							2	15	1	80			1	1	弥3/10、江1/8
			SK12	176	140	35	2	4					1	5							9	48													20	13	
			SK13	150	132	25	1	2													3	59					1	55			1	243			1	1	
			SK14	166	130	26	1	1									1	10			4	10													弥2/5
			SP01	36	34	18									1	2															1	25			
			SP07	22	14	11			1	6																									
			SP21	20		28	1	1									1	12																	
			SP23	34	28	32															1	12											1	1	
			SP36	25	22	27	2	3													1	10													
			SP43	22	18	23																											1	1	
			SP46(SA31)	20		16																											1	1	
			SP47	16		21	1	4																											
			包含層						1	3											2	25							1	18					5	17	弥6/45、江1/3
	5次	23-1区	SD02	400	140	28																													弥2/15
			SD03	700	130	25															1	3									1	130			
			SD04	480	90	28																													弥1/8
			SP01	26		20			1	1																									
			SP08	24		25																											3	5	
			SP10	48	36	16																													弥1/2
			SX01	544	255	30																									1	80			1	6	
			包含層																		13	140									3	79			江31/1446
		24-4区	下層SD01	1662	290	75	7	21	1	21			1	35							8	82	1	1	1	25	2	103			7	338	1	72	1	14	弥98/1598、江2/49
			下層SD02	910	220	76																													弥29/314、石1/2
			SD01	690	450	80	5	38	10	42			8	495	1	15	2	91	1	19	42	883	12	285	3	57	51	3278	26	908	289	27898	24	1144	12	133	弥1/55、江31/1413、瓦1/80、瓦1/75、青石1/2
			SD02	1450	140	10	17	32	11	33			1	20	1	2					25	129			1	30	1	5			3	168			26	71	弥2/6、江2/20、青白磁1/3
			SD04	416	34	7	39	35	1	2											25	38														須1/10
			SD06	115	40	7	14	9													5	5													
			SK02	132	66	35	4	10													1	1									1	26			1	3	
			SK04	70	20	12			1	1											1	8													
			SK05	60	40	41	10	41					1	2							3	77													
			SK07	134	85	11	5	7													1	10			2	29									弥1/5
			SK08	80	50	5	1	4																											
			SK09(SB70)	50	40	22	1	2													1	5													
			SK10	254	92	18	18	15	2	3																			2	17							弥3/10
			SK11(SB70)	50		40	1	1																											弥1/5
			SK13	58	24	28			1	2																							1	4	
			SK15	83	74	16																											1	3	
			SK16	62	50	16			1	1																									
			SK19	100	90	16																									3	562			
			SK20	253	156	62	3	10	3	10											8	24					1	72			4	83			2	13	弥2/18
			SK21	154	88	26	3	8	2	2											6	15													
			SK22(SB70)	78	62	19	3	6													1	47													
			SK23	64	48	10	4	3													2	24													
			SK24	286	200	53	7	9	1	1											2	49									1	50			2	62	弥4/77、石1/15500
			SP07(SB69)	26		25															2	2													
			SP19	28	20	13	3	10																											
			SP21	24	22	13			2	10											2	8													
			SP24	28	22	17	3	5																											
			SP25	22		14	4	8																											弥1/30
			SP26	28		16	4	10													2	6													
			SP30	20		11	1	1																											
			SP31	20	10	10															1	7													
			SP32(SB69)	26		26	4	10																											
			SP36	34		26	3	3																											
			SP38	28	26	17	1	2																											
			SP45	18	16	15															1	32													
			SP46	24	21	14	1	1																											
			SP47	19		12	1	2																											
			SP49	24	22	20															1	18													
			SP51	26	22	19	2	5													1	23													
			SP53	25	18	17															1	6													
			SP54	18		19															1	57													
			SP56	22	20	12	2	1																											
			SP61	20		13															1	1													
			SP62	26	22	15	2	2																											
			SP65	30	22	23	2	4																											
			SP66	32		15	1	1																											
			SP68	22		15	1	1																											
			SP71	24		18															1	10											2	3	
			SP72(SB70)	44	24	24	3	7													2	14													
			SP78	20		16	5	5																											
			SP79	20	18	12	1	1	1	5											1	5													
			SP80(SB70)	23		16	9	9													2	7													
			SP81	20	16	12	11	10																											
			SP85	32		4															2	10													

ブロック	次数	区	遺構名	法量			土師器食膳具		須恵器食膳具		その他食膳具										調理具								貯蔵具						不明		その他
											瓦器		青磁		白磁		備前		瀬戸・美濃		土師器		瓦質土器		須恵器鉢		備前擂鉢		須恵器		備前焼		その他				
				直径(長辺)	短辺	深さ	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	
中央部	5次	24-4区	SP86	22		17																															
			SP87	24	22	16																													1	5	
			SP90	44	30	21			1	6											1	2															
			SP95	30	22	16															3	13	1	2							2	99			1	3	
			SP99	22		21	1	1	1	2																											
			SP100	18		15	1	1																													
			SP101	35	26	20	1	1																													
			SP103	16	12	9	1	1													1	1															
			SP106(SB70)	20		14	1	31																													
			SP110	16		15	2	5																													
			SP114	28	20	5	1	1																													
			SP116	22		7	1	1																													
			SP118	17		15															1	4															
			SP122	14		15																															弥2/5
			SP127	16		13	1	1													1	1															
			SP128	17		9	1	1													1	1															
			SP129	22		14																													5	1	
			SP140	50	46	20	2	9													4	51													1	5	
			SP149	22	18	23															1	10															
			SP153(SB70)	22	20	20	4	3																													
			SP158	14	12	17	1	5									1	7																			
			SP162	28	24	14	7	10																													
			SP163	30		15	1	1													1	5													3	1	
			SP169	20		12	1	1																													
			SP170	18		3																															弥1/5
			SP176	24	22	15																															弥1/12
			SP180	24	18	16															1	10															
			SP181	24	18	19	4	5													1	5															
			SP182	30		18	1	1																													
			SP188	30	28	10	1	1													1	35															弥1/10
			SP189	22		5	8	15													1	4															
			SP191(SB69)	24	22	22	1	3																													
			SP193	20		2	4	5																													
			SP195	20	18	13															1	5															
			SP200	20		16	2	4																													
			SP202	26	22	18															3	5															
			SP203	24	20	21	1	2																													
			SP210	24	20	12																															弥2/10
			SP215	22		17																															弥2/5
			SP220	16	12	17															2	4															
			SP224	22	14	18															1	11															
			SP225	18		16	1	5																													
			SP226	30		10															1	17															
			SP228	58	42	31	1	3																													江1/19
			SP229	27	24	17			1	1																									1	1	
			SP236(SB70)	38	32	28	3	1																											1	0.5	
			SP237	24		21	1	1	1	3																									1	1	
			SP240	18	14	6	12	12													5	15															
			SP245	16	14	19															4	10															
			SP249	24	18	15	7	10													1	5															
			SP250	18	16	22	1	9																													
			SP251	32	20	9	3	5																													
			SP252	26	20	17	2	1													1	3															
			SP254	24		20	1	2																													
			SP255	30	16	17	3	7																													
			SP256	30	25	21	3	5																													
			SP268	20	16	24	1	1																													
			SP276	30		27																															
			SP277	20		15	1	1													1	1															
			SP284(SB70)	26	24	27																							1	30							
			SP288	22		17																													1	0.5	
			SP291	30	24	18							1	85																							
			包含層				59	150	9	27											121	1088			1	11	3	130	4	27	7	352	3	20	55	131	弥12/201、江11/98、瓦2/16
		24-5区	SK01	44	32	8																															弥1/5
			SK02	60	30	11																															弥1/25
			SK03	220	70	15																													2	5	
			SP01(SA27)	20	18	26	1	1																											1	5	
			SP03(SA27)	24		20																													1	2	
			包含層						2	4																					1	25			6	20	江3/21
		25-2区	SD01	3570	225	77			13	61			1	6							15	226					5	342	4	62	11	633			15	59	江90/1371、瓦1/1238
			SD03	2000	190	55																									1	7			2	8	弥281/1588、江1/145、石1/250
			SD04	1800	124	19																															弥3/15
			SD06	1200	132	17																															弥8/21
			SK01	58	48	17																													8	4	
			SK03	63	50	7																													1	0.5	
			SK04	160	64	10																					1	185							3	4	
			SK06	70	24	14	8	5													2	3															
			SP01	28		9																															弥109/105
			SP06(SB66)	28		16															1	6															
			SP09(SB66)	32	26	15	1	1																											1	5	
			SP12	26		11	1	5																													
			SP15	38	36	19	2	3	2	7																			1	1					2	2	
			SP16(SB65)	38		33	2	3													2	10															
			SP17(SB65)	54	40	28															1	40															
			SP25	40	32	13			1	1											1	8													2	6	
			SP35	30	26	11																													1	2	
			SP41	24		11																													1	3	
			SP44(SB64)	28		20																													1	0.5	
			SP47	28	24	5																													2	2	
			SP49(SB64)	22		17																													1	4	
			SP60	32	25	24																													4	2	
			SP61(SB64)	35	30	18	3	4																													
			SP63	25	22	14																													1	4	
			包含層						2	5					1	6													1	5					6	8.5	須1/105、江8/279
		25-3区	SD01	2200	540	65			1	5																									2	5	弥688/6068、須2/45
			SD02	2100	100	10																													1	1	弥9/66、須2/19
			SD03	1810	60	7	3	13	3	23											1	5													6	15	弥165/503、江16/70
			SD04	656	70	10																													1	4	弥28/121
			SD06	194	40	3																													1	2	弥2/28
			包含層						3	5											3	20													2	11	須1/13、江1/5
	7次	36区	SD01	1386	764	105	10	40	88	459	1	1	10	112	5	139	8	31	1	42	154	2183	11	246	4	79	42	2361	74	2411	237	19459	27	1479	35	415	須1/33、江45/874、布1/115、瓦19/1178、錘1/39、瓦質火鉢1/20、青花碗1/30
			SD02	1056	74	12											1	2																	2	4	江1/2
			包含層				2	5	2	8			1	3							16	98							6	113	4	152					江10/163
		37区	SK01	152	140	10	3	16	9	85											7	34															江1/68
			SK02	94	80	10	2	2	4	14																											
			SD06	150	34	5	1	1																					1	20							
			SP02(SB68)	44	38	16	2	4																													
			SP03(SB68)	38	34	28					1	5																									
			SP04(SB68)	48	44	16	1	1	1	8											2	9															
			SP05	20	14	7			1	5																											
			SP09	36	24	17			1	6																											
			SP13(SB67)	26	24	30			4	28																											
			SP14	28	26	14			2	10															2	102											
			SP17(SB67)	34	24	24																													1	8	
			SP19	22		19					1	8																									
			SP20	22		22																													1	3	
			SP22(SB67)	32	24	26	1	5	1	3																											
			SP34	60		19			1	2																									1	3	
			SP35	50	28	15			1	9																											江1/23
			SP36	190	22	18			2	5											2	89			1	24			1	11							
			SP37	26	24	6	1	4																													
			SP38	42	34	30			1	8																											
			包含層						1	10																											
	8次	40区	SD01	980	170	30															2	174													3	6	弥106/1830、石2/10
			SD02	1080	135	22																															弥31/284
			SD03	154	32	7	2	10	2	5																									1	5	羽1/8
			SD04	240	27	4	1	9																													
			SK01	267	70	20	2	2																													弥476/1105
			SK02	156	138	41			1	4											3	90					2	145							1	5	弥1/28、江7/592、瓦1/123
	10次	4区	SD01	568	84	7			1	12																					1	30			1	1	江3/20
			SD02	522	64	13																													2	10	江2/117
			SX01	126	122	55			1	5							1	3			3	20									2	69					江7/126、瓦1/56
			SX02	136	130	49																					2	174	1	16	3	259			2	32	江22/335、瓦3/210
			SX03	626	70	10																									1	5			1	1	瓦1/200
			SX04	150	100	170															1	29															
			包含層																																		江4/20

遺構・遺物一覧表

ブロック	次数	区	遺構名	法量			土師器食膳具		須恵器食膳具		その他食膳具										調理具								貯蔵具						不明		その他
											瓦器		青磁		白磁		備前		瀬戸・美濃		土師器		瓦質土器		須恵器鉢		備前擂鉢		須恵器		備前焼		その他				
				器径(高)	短辺	深さ	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量		
御先中		5区	包含層				4	7	11	55											9	86	1	3	1	22			1	123					1	18	
	10次	6区	SE03	170	150	215															1	5					1	95							1	30	江22/200,瓦5/690
			SE04	236	226	205	9	46	1	4											6	72			1	238			2	150	1	23	1	80	1	18	江2/50,瓦2/235
			SD01	1308	132	32	45	131	14	85											86	1241	2	87			1	11	13	702	6	290			5	109	江3/8,鍾2/264
			SD02	1476	94	25	28	34													17	308					2	151	2	192							
			SP03	22	20	25	1	1																													
			SP22	20		3	1	1																					1	60							
			包含層				36	87	11	88			1	34			1	8	1	73	46	932			4	190	10	520	19	1541	23	3501			21	91	江21/376,瓦1/250
		7区	SD01	1320	200	65	8	40	4	13											23	171	1	7			4	420	5	111	9	720			5	22	江1/8,瓦1/150,瓦質火鉢1/215
			SP01	30	24	39	5	15	1	30											8	62					2	105			1	69					江2/52,布2/328
			SP02	24		20	15	110													3	6														
			包含層				3	7	1	22											6	36					1	34	3	92	1	8			1	25	江4/168
	11次	10区	SD01	590	80	21																														弥11/25,江1/1
			SK01	96	88	57			2	3											2	3														弥1/19
			SK02	44	40	15	3	4													1	1														
			SK05	100	94	45																													5	10	
			SP01	25	23	17															1	1													1	2	
			SP03	34	26	20	1	5																													
			SP04	22		16	1	1																													
			SP08	22	18	16															1	45														
			SP16	22	20	18															1	2														
			SP17	26		11	2	2																													
			SP18	35	24	4	2	2																													
			SP21	17		15	1	1																													
			SP22	38	26	19	1	1																													
			SP23	44	40	58															1	5														
			SP24(SB75)	28	22	18																									1	44					
			SP25	26	20	12	1	1																											2	1	
			SP27	22	12	2	1	1																													
			SP29	30	26	20	2	2																													
			SP32	22		25	1	1																													
			SP33	30	22	20	1	2													1	1														
			SP37	32	30	16	2	2																													
			SP38	35	30	28	1	1													1	5														
			SP39(SB75)	32	30	32			1	3																											弥1/26
			SP45	26	22	7	3	5																													
			SP53(SA32)	14	10	12	1	5																													
			SP54	36		14															1	10														
			SP58	40	19	22															1	25														
			SP59	32	26	56																							1	104							
			SP60	20	15	11															1	5														
			SP63	20		12	1	2																													
			SP67	28	26	10	1	1																											1	2	
			SP74	16	14	13	1	1																													
			SP75(SB76)	36	30	28	3	9			1	1																									
			SP79	25	20	22															1	7														
			SP83	22	18	13															1	10														
			SP84	22	18	28	6	9													1	5														
			SP90	20	18	28	1	2																													
			SP91	20	8	26							1	2																							
			SP93	36	28	23																									1	32					
			SP94(SB76)	48		36	1	1													1	9					1	10									
			SP98	34	30	29	1	1																													
			SP101	50	38	24	1	4																													
			SP107	20		27	2	1																													
			SP111	22	15	9																									1	98					
			包含層				2	5	1	6																									14	15	
	12次	5区	SD01	580	745	80	1	5													3	36														
			SK01	100		30																													2	5	瓦2/120
			SK02	100		30			1	2											1	8					3	102									江4/109,瓦2/119
			包含層						4	23											16	235	2	58			3	302			1	15			7	23	江30/555,瓦11/895
	14次	9区	SD01	1600	160	62	2	7	6	35					1	25	1	5			13	155	1	24			2	133	3	40	7	433			1	7	江3/32,瓦6/709
			SD02	260	54	9	1	1	1	18											2	32					1	25			1	20					江50/3635,瓦19/2069,石1/70
			SD03	1150	216	47	1	3	1	15											2	82					1	53	1	35							
			SK02	158		10	1	6																							1	19			1	5	江5/70,瓦2/64
			SK05	110	98	13			1	5																					1	477					
			SP03	18	16	18																													1	2	
			SP04	20	16	16			3	29																											
			SP06	22		16															1	3														
			SP17	26		21			1	3																											
			SP20	28	24	19	4	19	1	4																											
			SP22	26	24	40	1	5	2	22																									1	5	
			SP25	22	20	37	1	10																											1	6	
			SP39	28	24	27	1	4													1	7									2	70					
			SP70	62	30	29																					1	168									
			SP72(SA29)	22	18	22															1	8														
			SP73(SA29)	22	20	24	1	5																													
			SP76	44	30	26			1	2											1	5														
			SP80	28		43															1	5														
			SP108	28		66															1	29														
			SP109	30	24	34															1	324														
			SP116(SB62)	30		52			1	1											1	9														
			SP122	26	22	20															1	6														
			SP134	16		15															1	12														
			SP135	22	20	24	1	1																													
			SP136	24	20	6																													4	40	
			SE06	180		142																					1	222									
			攪乱北調	1400	1500	118											1	1									8	1213							3	30	江27/2695,瓦2/466
		2区	包含層																		1	12	1	90												
	16次	3区	SD01	1440	500	20			1	17																									1	23	弥170/872,須5/121,石1/8
			包含層						2	2																											弥23/130,須2/16
		4区	SP01(SA26)	26		34	4	15													1	10														弥12/167
			SD01	1680	320	70															1	21													2	10	弥3/52
			包含層																																	江1/12
		5区	SD02	1174	228	26																													1	10	
			包含層				4	4	6	47															1	33			2	25					12	100	江3/36
	18次	4区	SD01	1160	235	36	1	4	5	22			1	20							4	23	1	12					1	11					2	13	
			SK01	94	48	13	2	5	1	2																											
			包含層						6	54					1	11					2	16	3	128			7	510	4	92			1	30	3	20	江17/981
御先東			SD01	2860	360	54	14	52	4	35											13	686					2	222	4	188							
			SD02	355	56	15													1	4					1	12											
			SD04	650	60	6	491	1665																													
			SD05	1173	242	91	8	25	8	61											6	128			1	40	1	82	10	291	1	151			2	10	江3/180
			SK04	256	64	7															1	14							1	8					1	1	
			SP03	36		19																													1	3	
			SP10	48	36	28																							1	50							
			SP22	25	24	34	1	4																													
	4次	25区	SP49(SB92)	24	23	36															3	30														
			SP60(SB92)	56	48	16	1	3																													
			SP85(SB93)	38	34	20															1	2														
			SP88(SA54)	36		45																							2	225							
			SP90(SB93)	42	28	42																							1	9							
			SP95(SA54)	32		28																							9	321							
			SP96(SA54)	35		46	1	5	1	9															1	395			2	1295							
			SP118(SB93)	32		44															1	174														
			SP121(SB93)	28		50	4	40																													
			SP129(SB93)	26	24	30	1	2	1	1																			1	11					1	1	
			包含層				17	101	9	61					1	3					9	125			2	35	1	63	18	465					4	20	須1/8
	5次	26区	SD01	1320	162	15																													2	1	弥11/322
			SK02	70	60	35																															瓦2/350
			SK03	60		40																															江3/6
			SK05	48	50	12																													1	1	
			SK06	92	68	27																													2	1	瓦6/1174
			SP02	22		13																															江1/1138
			SP11(SB78)	28		20	1	1																													
			SP14(SB78)	30		12																													1	5	
			包含層				1	4	1	10																											江18/126
		27-1区	SE07	160	140	99															2	14														江1/12,瓦5/1561,石2/37000
			SD03	230	50	13															2	7													2	1	
			SK02	68	64	33															1	5															
			SK04	80	74	11																													2	4	
			SK05	76	67	9			1	1																											
			SK06	92	84	24																									1	15			1	2	
			SK11	87	80	18	1	1													1	10													3	1	
			SK12	120	94	50																															江4/345,石1/1268
			SK17	310	135	18																									1	118					江7/936,石2/9615

ブロック	次数	区	遺構名	法量			土師器食膳具		須恵器食膳具		その他食膳具										調理具								貯蔵具						不明		その他
											瓦器		青磁		白磁		備前		瀬戸・美濃		土師器		瓦質土器		須恵器鉢		備前擂鉢		須恵器		備前焼		その他				
				直径(長辺)	短辺	深さ	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	
			SP08	24	20	11																													1	1	
			SP09	20		13			1	5																											
			SP13(SB79)	24		18																													1	4	
			SP17(SA36)	24	21	16	6	2																													
			SP22	20		11															1	1															
			SP24	22	20	7	8	32																													
			SP46(SB80)	36	30	16															1	8															
			SP51(SA37)	34		26	24	54	10	80																									9	15	弥3/20
			SP56(SB80)	31	26	18															1	5															
			SP60(SB82)	24	22	15	1	1																													
			SP61(SB80)	22	18	14	1	1																													
			SP62	22	20	6	1	1																													
			SP63(SB81)	22		12																															弥1/15
			SP66	18		8																													1	5	
			SP69	30	18	14	2	1																													
			SP77	28	25	20			1	5											1	5															
		27-1区	SP79(SB82)	20	18	16			1	2											1	5															
			SP80	22		11	1	5																													
			SP83	24		10																													2	1	
			SP85	22	16	10															1	2															
			SP87(SB82)	22	16	14	7	13																													
			SP99	16	14	3	2	3																													
			SP108	44	34	16			1	10																											
			SP111	18	14	8			1	8																											
			SP112	22		10	2	1																											1	2	
			SP113	23		10	2	2													2	17															
			SP116	22		3	2	5																													
			SP119	18	14	10																													2	0.5	
			SP120(SB82)	24		12	1	1																													
			SP123	22	20	10																													1	0.5	
			SP124	18		9																													1	1	
			SP128	26	22	16	1	1																													
			包含層						1	2											2	85									2	44			1	5	江18/442
			SE08	198		140	10	26	4	9											12	470			1	15	2	186	7	320	15	3818			10	32	弥3/117
			SD03	426	164	28																															弥18/89
			SD04	910	310	32																															弥8/87
			SD05	738	254	20																															弥7/114
			SD06	1080	460	20									1	40															3	185					江174/5897
			SK01	72		65	18	27	12	63	1	125									8	70													4	12	
		27-2区	SK02	230	190	92																							1	15							弥1/21、江50/3041
			SP08	22	18	42																													1	1	
			SP11	24	22	15	4	5																													
			SP13	32		19																															弥1/293
			SX01	1695	324	52																															江12/280
			SX02	262	238	21																													4	35	江43/3450
			包含層																										2	102	1	93					江126/5563
			SP01	26	24	12	1	1													2	26															
			SP05	14		4																													1	5	
			SP14	27		29	1	1													1	82															
			SP16	15		7	1	4																													
			SP17	18		12	2	5																											1	1	
			SP20	24	20	15	1	8													2	6															
			SP23	25		17	1	2																													
			SP24	15		9	2	4																													
			SP25	24		5	1	7																													
			SP34	22		16															2	3															
			SP36	24		18															1	10															
		28区	SP47(SA39)	20		18	3	2																							1	35			1	1	
			SP49(SB83)	24		16																													1	1	
			SP51(SB83)	24		20																															江1/5
			SP57(SB81)	22		12															1	5													1	1	
			SP58	17	15	10															1	74															
			SP73	22		26	1	5	1	4																											
			SP75(SB81)	22		14															1	15															
			SP77	24	22	11																									1	25					
			SP80	20	16	14															1	5															
			SP89	26	20	6	1	5																													
南東部	5次		SP92	30	20	10															1	5															
			包含層																																		
			ST06	150	51	12	2	308	1	52																											
			SD01-1	14900	350	50	3	39	2	29			3	88	2	44			1	8	16	196			1	18	20	1733	17	761	45	2707			11	103	埴1/282、江958/31458、瓦90/12777、石2/1296
			SD01-2	11350	350	80	4	34	13	146			3	79	1	14	1	15	1	15	68	1118	1	65	1	20	79	4605	36	1491	102	8059	2	145	24	376	弥6/477、江237/7051、瓦220/36590、石2/125、錘1/10
			SD01-3	3500	400	90	3	4	9	37	1	10	1	20	3	40					6	76					14	1804	12	288	42	2691	1	194	12	151	弥2/68、江27/619、瓦350/110674、石1/490
			SD02	2520	220	38	11	39	24	134					2	88	2	24	1	3	11	58			2	30	5	217	6	122	12	490	1	55	19	127	弥1/42、瓦7/741、青花2/34
			SD03	1710	150	29	16	39	11	36	1	6			1	5					17	121			3	100	1	17	1	18	11	787			12	71	
			SK01	232	174	124	1	1	3	11			2	4																	3	71			7	19	
			SK04	140		54																															江7/317
			SK05	140	122	57																	1	8							3	135					
			SK06	210	156	41			1	20																											
		29区	SK07	448	96	30																							1	29							
			SK09	42	40	6	1	2	1	2											1	5															
			SK10	62	48	11	1	1	1	1													1	1													
			SP02	22		15			1	5													1	4													
			野井戸1	104		56																															江2/14
			野井戸2	118		42			2	5											1	4													2	15	
			野井戸3	125	90	60																															江10/851
			野井戸4	110	110	100																													1	6	江97/2085
			野井戸5	160		170																															江6/104
			SX01	1660	158	38			2	13											1	28							1	15					1	7	江47/736
			包含層				1	3	10	43											8	57			1	75	4	301	7	357	11	449			4	32	弥2/10、江363/8777、瓦2/165、石1/70
			SE09	272	260	125	75	540	3	6											29	912	3	8	1	56			2	78	1	37	2	171	7	18	瓦1/120
			SD01	630	170	21	24	35													7	60			1	25			3	54					7	12	
			SD02	590	30	5	35	30	1	2											4	19													2	6	
			SD03	600	74	9	10	6																													
			SD05	880	80	6																															弥18/38
			SD06	998	70	7																															弥2/6
		30区	SD08	1808	60	25																															弥9/15
			SD10	1200	700	44																							1	25							弥4/31
			SD11	160	200	52	7	38	19	73					2	6					12	69					2	105	2	38	5	178	1	20	16	121	弥1/99、瓦9/996
			SD12	220	50	17																															弥1/7
			SK01	140	86	21															1	25															
			SK02	98	34	35																															江11/1147
			野井戸1	164	152	110																															江4/173
			包含層				8	37	69	259	1	5	2	16	3	17					21	300			1	75	1	30	9	180	3	42			105	357	弥11/54、江22/253、布1/61、瓦2/115、石1/1
			SE10	396	366	220	90	179	32	148											18	214	4	87	4	133			8	313					40	63	弥2/10、羽1/10、瓦質風炉1/484
			SD01	752	274	85	339	1757	33	187	2	6	1	62							18	104	2	16					12	334	7	309			37	71	江5/178
			SD02	930	200	28	32	97	4	26											5	65					2	80	1	72	1	50			3	5	江1/11
			SD03	566	40	5	2	10																													
			SD04	130	30	4	5	5	1	4																											
			SD06	250	75	30	53	145	4	9																									21	39	
			SD07	550	60	10	53	110													2	12													1	5	
			SD08	692	42	7	20	41																													
			SD09	550	148	69	7	15													3	65													5	38	
			SD10	556	58	8	1	4																													
			SD11	190	40	26	27	72															1	5											3	3	江1/5
			SK01	186	78	32	10	15	5	25											2	38													16	36	
			SK02	178	52	16	4	8					1	3							1	9															
			SP01(SB89)	46	40	36																													1	0.5	
			SP02(SB89)	44	34	54	3	12																													
			SP03(SB89)	32	27	30	1	1																													
		31区	SP04(SB89)	44	42	46	2	2	2	4																									3	9	
			SP05(SB89)	56	50	38	8	15	3	40											1	3															
			SP06(SB89)	46		42	2	4																											3	3	
			SP07(SB89)	56		42	1	1	1	5											1	4															
			SP08(SB89)	54	46	48																													1	0.5	
			SP09(SB89)	44		30																															
			SP10(SB88)	26		32	3	3	2	10																											
			SP13(SB88)	34	30	24	4	4																													
			SP15	35	32	9	1	1	1	23																											
			SP20	30		14	1	1																													
			SP22	26	20	10	2	1																													
			SP24	32	30	9	2	1													1	15															
			SP35	44	42	6	25	108	1	2											1	1													3	6	
			SP36	41	32	13	22	58	1	28											2	28													1	5	
			SP39(SA46)	50		22	3	68																													
			SP44(SB89)	64	32	15	1	1																													

遺構・遺物一覧表

ブロック	次数	区	遺構名	法量			土師器食膳具		須恵器食膳具		その他食膳具										調理具								貯蔵具						不明		その他
											瓦器		青磁		白磁		備前		瀬戸・美濃		土師器		瓦質土器		須恵器鉢		備前擂鉢		須恵器		備前焼		その他				
				直径(長辺)	短辺	深さ	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	
南東部	5次	31区	SP45(SB89)	32	28	16	1	2																													
			SP49	20	10	13	1	2																													
			SP61(SB87)	32	30	22			1	2																											
			SP62	40	38	15	7	5																											3	1	
			SP64	38	36	12	2	4																													
			SP66(SB88)	54	48	24																													1	0.5	
			SP81(SB86)	24		22	1	2																													
			SP94(SB86)	28		20	1	5																													
			SP96	28		15															1	8													2	3	
			SP102	32	30	17	4	11																													
			SP103	24	22	12	2	2																													
			SP104(SB85)	30		28	1	1																													
			SP107	30	24	13	3	5																													
			SP108(SB85)	30		26	3	5													1	2													2	3	
			SP109(SB85)	30	26	22	3	7																													
			SP110	42	40	12	2	1	1	2																											
			SP111	20	18	11																													1	0.5	
			SP113	28		12	2	7													1	3							1	22							
			SP116	21	18	3															1	40															
			SP129	18	16	11															1	12															
			SP138(SA45)	34	30	20																													1	1	
			SP140(SA45)	42	34	22	3	5																													
			SP158	26	22	10	2	10																													
			SP162	34	26	15																															弥6/10
			SP163	32	26	4	1	2																													
			SP164(SB89)	32	26	12	4	2																											1	1	
			SP165	64	56	14															2	7			1	35											
			SP166	58		14															1	2															
			SP169	26	14	5																													1	4	
			SP170	24		8																													2	32	
			SP175(SB89)	39	36	28	4	10																											5	10	
			SP176(SA45)	42	40	24	4	4																													
			SP177	32	29	10	1	2																													
			SP179	92	76	20	3	2																											1	5	
			野井戸1	100		25	1	20													1	750															江21/8222、瓦1/580
			野井戸2	130		53	7	29	4	9											1	122							2	78					5	54	
			野井戸3	106		46			1	1					1	6															1	17			3	6	
			包含層				20	89	9	36																			4	262					13	82	弥1/55、江24/1405
		32区	SD01	1120	125	15																															弥10/44
			SD02	300	50	10															2	14															
			SK01	100	94	13	1	3																			1	19							2	5	
			SK02	128	90	22	1	3							1	10					1	5													1	2	
			SP01	20	18	9															1	4															
			SP03	30	22	16	1	2																													
			SP04	38	36	16															1	12													2	32	
			SP10(SB77)	22		16																													1	3	
			SP18(SB77)	28	22	11																													1	1	
			SP25	30	26	15																													1	1	
			SP26(SB77)	26	22	14															1	3															
			SP27	43	22	9	1	2																													
			包含層						2	10											2	25			1	20									2	5	江8/98、瓦1/44
	6次	30-1区	包含層														1	1			2	65									1	7			7	28	江9/59、瓦3/165
	10次	8区	SD01	2060	180	12	4	11	6	19											1	20					1	148	1	15							江1/5
			包含層				2	3	3	28											2	11			1	25											
	11次	6-1区	SD01	1405	130	40	12	15	9	40											6	83							1	5					3	7	
			SD06	410	34	6	1	1																					1	22							
			SD07	577	36	14	26	37	1	9											8	25													14	22	
			SD08	1060	85	12	28	25																											2	6	
			SD10	550	130	80	17	31	7	28											5	35															
			SK01	200	64	67	8	22	2	9											8	23							1	21							
			SK02	140	98	19	25	22																													
			SK03	76	60	30	1	5					1	12																							
			SK04	60	56	10																					1	65									
			SK05	138	122	28	4	5													2	13															
			SK06	128	62	47	10	12													2	15													2	1	
			SK07	126	74	62															1	5															
			SK08	136	72	50	1	1	3	6																											
			SP01	30	25	22	2	2																													
			SP02	22	16	5	1	1																													
			SP07	25		10																													2	3	
			SP08	30		6	1	1																													
			SP10(SB90)	34	32	20	2	2																													
			SP11(SB90)	20		8	1	1																													
			SP12	26		8	1	2																													
			SP13(SB90)	34	30	12	1	1																													
			SP15	30	28	3	1	2																													
			SP16	30	26	16																													1	2	
			SP18	26	24	20	6	11	1	20																											
			SP30	44	30	17	5	5																													
			SP31	44	34	14	1	2																													
			SP35	30	26	17	2	2																													
			SP36	30	28	13	1	1																													
			SP38(SB91)	40	36	20	2	5													3	5															
			SP39(SB91)	40	30	22	1	1																													
			SP42	18		6	1	2																													
			SP43(SB91)	42	40	18	1	10																													
			SP44	22	18	5															1	10															
			SP46	26	14	11	1	2																													
			SP52(SB91)	36		26	1	3																													
			SP54	34	30	12	1	3													1	2															
			SP55	30		14	1	5																													
			SP56	28		12	1	1																													
			SP57	22		8	2	2																													
			SP58	28		10	3	1																													
			SP62	28	22	14	2	7																													
			SP70(SA48)	26	22	20															1	3															
			SP72(SA48)	24	20	16															2	5															
			SP75	38	28	22	2	14																													
			SP76	24	18	15															2	14													1	1	
			SP84(SA47)	22		12	1	1																													
			SP98	16	14	10	2	1																													
			SP103(SB90)	30	26	28															1	3													1	1	
			野井戸	136	92	31			1	25					1	5																					
			包含層				29	42	4	8											7	53					1	15	1	24							
		6-2区	SD01	955	70	27	15	79	1	3											4	57	1	55	1	20					3	55			3	3	須1/19
			SK01	204	102	65	3	3	2	13											6	24									1	72					江1/45
			SP01	28	26	15	1	5																													江1/26
			包含層																												1	33			2	10	
		6-3区	SD01	82	67	25	13	21	5	9			1	2							3	14			1	10			3	98	1	125			3	11	江2/10
			SD02	140	156	35	10	19													2	20													1	1	
			SD03	550	110	33	34	121	2	9											12	126			1	18			5	113					8	12	
			SP85	26	24	19																													1	1	
			SP87	22	12	10	1	7																													
			SP99	26	8	8	1	4													2	52															
			包含層				34	84	8	26			3	15			1	8			4	20							3	78	1	187			8	23	江2/23
		6-4区	包含層				1	1													1	3															江3/35
	14次	12区	SD01	1150	160	16	5	10	8	39											3	100							5	137	1	90			11	140	江1/10
			包含層																								1	84									
	16次	6区	SP01(SA49)	22	20	58	1	5																													
			SP02(SA49)	24		18	2	5													1	25															
			SP03	30	22	4			1	5																											
			SP04	25	12	14	1	4																													
			SP05	20	18	14															10	10													1	1	
			SP06	24	22	14	1	5																													
			SP07	22		10															1	7															
			SP08	20		11	1	7																													
			SP09	40	25	60	7	25					1	5							2	3															
			SP10	24	22	6	3	2																											1	1	
			SP11	20	14	17	4	15													1	5															
			SP12(SA50)	28	22	30	1	5																													
			SP13	26	24	30	2	5																													
			SP14	26	20	19	7	5																													
			SP15	32	16	9			1	2																											
			SP16	40	20	14																															
			SP17	26	22	12							1	10																							
			SP18(SA50)	32	30	22	2	1																									1	61					

ブロック	次数	区	遺構名	法量			土師器食膳具		須恵器食膳具		その他食膳具										調理具								貯蔵具						不明		その他
											瓦器		青磁		白磁		備前		瀬戸・美濃		土師器		瓦質土器		須恵器鉢		備前擂鉢		須恵器		備前焼		その他				
				最大(長)径	短辺	深さ	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量		
南東部	16次	6区	SP19	26		12	5	6													1	2														
			SP20	24	20	16	1	1																											1	3	
			SP21(SA50)	48	32	10	1	1																												
			SP23(SA50)	32	30	20	2	5																												
			SP25(SA51)	40		20	6	43																												
			SP26	37	34	16	2	9																			1	53								
			SP27	18		12									1	10																				
			SP28	30	28	20	1	1													1	13														
			SP29	18		10	2	4																												
			SP30	25		15	4	2																												
			SP31	32	24	11	1	1																												
			SP32	30	13	14	5	5																												
			SP33(SA50)	32		20	3	15																												
			SP34	30	15	5	2	5																												
			SP35	26	24	7	3	4																												
			SP36	26	20	7	1	4																												
			SP42	30	28	8															1	10														
			SP43	22		14	1	1																												
			SP44	18	16	3	2	14																												
			SP45	22	16	5	12	38																												
			SP46	24		16	2	2																												
			SP47	35	30	12	3	15																												
			SP48(SB94)	34	30	12																													1	1	
			SP49	62	35	18															1	5														
			SP50(SA50)	28	26	12	1	2																												
			SP51(SB94)	26		8																							1	33						
			SP53	38	30	10	1	2																												
			SP54(SA50)	36	32	16	2	5																												
			SP55	26	24	12	2	5																												
			SP56(SA50)	21		12																													1	3	
			SP57	22	15	4	1	5																												
			SP58(SA50)	26		12															1	8														
			SP80(SA50)	38	24	14	1	1																												
			SK01	250	95	19	12	34	1	5											6	60	1	5			1	35							5	20	
			SK02	70	54	75									1	28																				
			SK03	110	100	89																			1	35									2	5	
			SD01	372	80	54	5	11	4	31											1	13	1	28	1	22										
			SD02	1030	70	10	71	201					1	10																						瓦質火鉢1/225
			SX01	620	310	31	109	332	9	70			3	15							24	224					3	470							3	15	
			包含層				30	107	3	29			1	10							20	156					6	444	2	92	1	35			13	69	
		14区	SD01	790	540	94															5	118									3	275				江1/9
			SK01	66	60	45	1	3													1	2													1	5	弥29/313
			SK03	138	50	25															1	10	1	28												瓦1/150
			SP02	20	18	50	1	1																												
			SP03	32	18	29	5	64																												
			SP04	20		22	1	6																							1	30				
			SP05	14	12	21																			1	15									
			SP06	13	12	12	13	28																												
			SP07	25	13	18	1	4																												
			SP08	24		24			1	2																										
			SP09(SA41)	20	18	44	2	9																												
			SP10	20		31																													1	1	
			SP11	20	13	20																													1	2	
			SP12	22	10	24	1	2																												
			SP13(SA41)	24		35															1	5														
			SP14	12		28	1	2																												
			SP15(SA41)	37	26	16	1	1																												
			SP16	16		26	2	2																												
			SP17(SA42)	34	30	15															1	3														
			SP18	18	16	15	1	2																												
			SP19	20	12	18	2	1																												
			SP20	20		35	3	5													2	22													1	5	
			SP21	34	22	32															1	15														
			SP22(SA42)	25		30	3	5													8	200														
			SP23	24	22	33	1	5	1	5																										
			SP24(SA41)	36	26	14															2	30														
			SP25	40	34	22	41	81	1	1											2	10					1	18								
			SP26	20		32	1	1													1	5														
			SP27	24	22	17															1	25														
			SP28	22	22	23			2	17																										
			SP29	24	22	30																													1	1	
			SP30	14	10	16	1	1																												
			SP31	60	40	30	3	5													1	4													1	7	
			SP32	18		25	3	7													5	22														
			SP33	16		36																													1	2	
			包含層				3	11	1	14											7	110							1	6	2	253			8	55	
南西部	1次	1区	SK01	82	44	18																														弥7/56
			SX01	1416	100	14																														弥21/84
			SX02	940	950	9																														弥50/357
			包含層						1	10																										弥88/426.江5/21
		2区	SD06	2880	80	20	101	541	92	2153	2	11			1	15					37	1183	1	34	3	242			3	192					33	64	弥42/460.羽47/882
			SK06	110	66	13	23	124	3	67																										
			SK07	124	76	15	20	50	5	137											1	5														江1/5
			SK08	160	140	13																														弥371/1733
			SP13	25	24	16	1	1	1	5																										
			SP15	30	22	5			1	4																										
			SP16	74	40	4	2	8																											3	21	
			SP21	25	22	15																													1	5	
			SP49	40	22	6															3	27													4	16	
			SP55	16		19																													2	13	
			SP61	12		9			1	7																										
			SP79	30	27	33																	1	16												
			SP81	24	21	33															1	3	1	7											1	3	
			SP83(SB96)	26		33	1	4																												
			SP89	20		15	2	5	4	37															1	17										
			SP90(SB96)	23	18	24	14	111																												
			SP92(SB96)	30	28	14	2	5	1	1																					5	75				
			SP97(SA62)	23	21	24	4	13	1	4																										
			SP98(SB96)	20		24	28	105																												
			SP99	15		18	67	154																											4	3	
			SP100(SB96)	22	21	28															1	25														
			SP135	26		11	1426	1426													1	4														弥16/259
			SX03(SA60)	2820	88	12																														弥19/45
			SX04	372	276	30	75	178	21	34			1	95							1	2			5	476			9	30					25	74	
			SX05	126	105	55			4	56			1	18			1	11	1	36	2	19					9	624	2	39	9	550			4	25	江9/124.瓦5/213.鏃1/54
			SX07	157	117	70															1	7								3	130			2	20	江8/944.瓦2/72
			包含層						27	258	1	2									5	40			1	5	1	52	4	120						弥164/188.瓦1/62.羽1/18
		3区	包含層																								1	30	2	12					2	10	弥108/881.江2/5
		5区	SD11	109	33	9																			1	105									
			SK09	112	37	65	5	20													6	23													5	10	江15/772
			SK12	138	119	42															1	5														
			SK13	120	115	45															1	7					1	35								江1/3
			SP131	50	20	23																													1	7	
			SX08	150	150	34	1	4							2	172					4	50			2	40	1	88	2	35						
			SX09	140	93	20	6	15	2	20											1	4					1	187							1	3	
			包含層						1	10							1	28			9	68			1	16	2	98	1	35	3	190			4	20	江3/82
		6区	SK16	56	50	28	1	3																												江2/12.瓦4/232
			SK17	103	40	18																														瓦2/635
			SK18	122		10																	1	100			1	31								
		7区	包含層				2	7	6	44											2	29					2	55	1	6	1	45			2	51	江6/300
	2次	9区	SD01	635	70	11	1	5	1	7																			1	5					4	47	江9/336.鏃1/31
			SD03	630	70	3	2	3																											1	7	
			SP16	33	31	12																													1	4	
			SP31(SB97)	30	25	22	3	6																												
			SP37(SB97)	24		20	1	5																												
			SP38(SB97)	24		10	1	1																											1	9	
			SP42(SA63)	20		16	2	5																												
			SP50	88	30	6	1	5																												
			包含層						3	18											10	76							1	13					2	34	弥1/26
		10区	SD01	2932	180	12			1	5																									2	15	瓦1/21
			SK01	190	153	12															1	8													3	19	江5/25.瓦1/47
			包含層						4	108							1	42			7	105							2	65					4	75	埴1/170
		10-1区	包含層				1	10	3	32															2	56									3	1	江5/62
	4次		SD01	3081	58	17	2	7	5	31											3	10			2	35			1	130	3	64				江4/22
		10-2区	SK01	113	73	27	3	13	7	28											4	54													1	1	
			SK02	41		18																							1	15						

遺構・遺物一覧表

ブロック	次数	区	遺構名	法量			土師器食膳具		須恵器食膳具		その他食膳具										調理具								貯蔵具						不明		その他
											瓦器		青磁		白磁		備前		瀬戸・美濃		土師器		瓦質土器		須恵器鉢		備前擂鉢		須恵器		備前焼		その他				
				直径(長径)	短辺	深さ	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量		
南西部	4次	10-2区	SK05	65	17	18			2	5																			1	5					1	2	
			SK09	246	90	41																															
			SP07(SB98)	34	26	28	1	8													2	5															
			SP09(SB98)	32	26	40	3	14	2	6											1	2							1	8							
			SP11	27		10																															
			SP13	25	21	17															2	52															
			SP14	23	17	9	1	2	1	1											1	1															
			SP16	33	26	32															1	2															
			SP17	47	26	13															1	2															
			SP19	15		14																													1	1	
			SP22	24	20	32	2	9													1	2															
			SP24	18	15	25	1	1																													
			SP25	30	23	32																															江1/107
			SP30	20	15	21	1	2	1	3																											
			SP34	15	11	17	3	3																													
			SP35	15		11	1	1																													
			SP43	23	15	12															1	29															
			包含層				13	21	51	352	2	6									23	258			7	108	1	37	20	605					2	3	弥69/218、第5/71、江27/265、瓦3/143
	7次	34区	SK03	150		50	1	1																						1	10	(白)1	75			江2/75
			包含層				3	15	7	75											4	40			3	108			1	10					1	10	須1/51、江2/2
			SP01	30	26	40																								1	5					
	8次	39区	SP02	25	20	26																													1	7	
			包含層				2	6	10	73																			3	64							須1/9
	9次	1区	SD01	605	70	6	1	1													2	82							1	15					1	32	
			SD02	744	76	7																							1	9							
			SD03	244	23	12	2	10																													
			SK02	830	194	4			1	5																											江2/20
			SK03	230	114	3	2	5	2	5																			2	12	1	55					瓦5/638
			SP01	32	30	27	4	2																													
			SP02(SB100)	26		18	2	1	1	1																											
			SP03	18		30	1	1																													
			SP04	32		39	1	1																													
			SP06	22		27	1	3																													
			SP10	18		20	1	5																													
			SP11	30	24	25	1	5													1	10															
			SP13	25	22	22	1	2																													
			SP14(SB100)	22	20	30	1	2													1	2															
			SP21	26	20	17	1	2																													
			SP23(SB99)	28	24	34																													1	7	
			SP24	30	22	31	3	5													1	5															
			SP26	18		14	3	2																													
			SP28	30	26	24	2	2																					1	10							
			SP29	26		20			2	3											1	1													2	1	
			SP30	28	24	30	2	6													3	10															
			SP32	26		16			1	5																											
			SP34	32		30	2	5																													
			SP35	34	24	37	2	5																													
			SP37(SB99)	35	25	12			1	4																											
			SP38	26		12	2	2																													
			SP40	24		23	1	5																											1	3	
			SP42	34	30	30																					1	28							1	1	
			SP43(SB99)	36		26																													1	3	
			SP45	24		17	1	2																													
			SP47(SB99)	28	22	20															1	11															
			SP48	24		17															1	22															
			SP53(SB99)	36		30	7	12																													
			SP54	20	18	18															1	6													1	1	
			包含層				15	18	4	21					1	6	1	5			9	70					2	84	9	323	1	88			5	49	江23/156、瓦3/320、青花1/21
	10次	12区	ST07	150	80	19	17	40	8	25											3	35							1	122					1	26	江1/2
			SK01	225	164	35	7	22													2	4					1	120	1	37					3	21	
			SP11	28	26	22			1	2																							2	140			
			SP14(SA57)	36		26	2	4													1	8															
			SP15	24	22	30	2	9																					1	5							
			SP16	28		29															3	60															
			SP17	24	22	37	1	2																													
			SP18	30		37	4	7																													江1/10
			SP22(SA56)	32	26	28															1	51													3	3	
			SP25	24	22	36	3	11																													
			SP28	32		59	11	37																													
			SP30	24		32															1	8															
			SP32	18	16	20	1	5																													
			SP38	22	16	13															1	59															
			SP40(SA57)	34		30															1	49															
			SP43	34	32	5	31	61	1	5											2	10													6	3	
			SP51(SA57)	36		10	1	2	1	2																											
			SP52	25		28	2	8																													
			SP54	38		28	2	5																													
			SP57	26		29	2	10																													
			SP60	24	22	33	1	2	1	3											1	2															
			SP61	26	24	32															1	4															
			SP62	16		9	1	2																													
			SP63	22		26	1	4																													
			SX01	130	112	15	5	13	5	20											1	15			2	23			2	8							
			包含層				7	32	7	49											5	90					1	18							1	9	須1/11
	11次	7区	包含層				2	5	1	5											1	2					1	16							1	1	江2/5
	18次	6区	SD01	320	78	12	3	5																													
			SK01	180	122	26	3	5													1	10					1	200							1	2	
			SP03	32	26	24	1	5																													
			SP04	27	20	7	15	63													1	55													1	5	
			SP05	20		15																													2	5	
			SP06	22		14			1	1																											
			SP07	35	32	40																													1	1	
			SP08	20	10	25																							1	15							
			包含層				1	10	1	13																											
大浄口			SD01	350	40	8																															弥1/12
			SD02	295	85	13			1	1											3	5													1	1	
		1区	SD03	1950	73	24	1	0.5	2	11											1	10			1	28			1	48	2	150			3	20	江1/125
			SP09	93	57	16	1	1																													
			SP21	215	123	30	2	8	1	5																											弥1/10
			SP22	134	80	17	3	5																													
			SP23	85		21	1	2																													
			SP25	175		26	4	7																													弥1/17
			SP27	63	37	18	1	5																													
			包含層				2	5	1	1											1	25	4	59											1	15	弥1/22、江5/164
			SE11	135	126	95	39	138																													弥1/5
			SD06	1945	127	14	9	47	2	6													2	40													
			SD07	1446	43	15	0	0																					1	160	1	128					弥2/15
			SD08	1435	67	8	2	1	1	4																											
		2区	SD11	1805	170	20	2	2	0	0					1	105					2	55	1	11					1	21	1	21			3	15	江1/22
			SD12	1217	49	10																			1	228											
			SD13	648	113	19																									3	170			1	18	江2/70
			SD14	650	103	15																			1	20											
			SP31	60	55	20															1	6															
			SP69	27	23	8																													1	1	
			SX01	493	190	13															1	23															
			包含層				1	5	2	65											1	2							2	247					3	74	江6/110
			SK04	265	98	18	2	2	2	10																											
			SP37	35		3																															
			SP41	98	88	16																	1	25													
			SP42	81	71	21	1	7															1	12													
			SP44	110	90	14	2	4																											1	1	
			SP47	107	97	18	2	5																													
			SP48	143	92	20	2	5																											1	1	
			SP50	135	100	37	3	15																													
			SP54	72		11	1	1																													
			SP55	56	51	14	1	5																													
			SP59	193	120	29	1	5	1	13																											
			SP61	70	60	16	1	5																													
			SP63	67	48	8																													1	0.5	
			SP64	156	125	38	2	2	1	5							1	10																			
			SP65	105	96	10	1	1	1	1																										2	5	
			SX06	480	300	17	3	2	1	5																											
			SX07	350	138	11	1	2													1	5							1	10							
			包含層				6	13	7	52	2	15			1	4					1	49					1	30	4	78							埴1/124

写　真　図　版

調査地周辺空中写真（昭和33年・43年姫路市撮影　上が北）

調査地周辺空中写真（昭和43年姫路市撮影）

4次12区−16区全景（左が北）

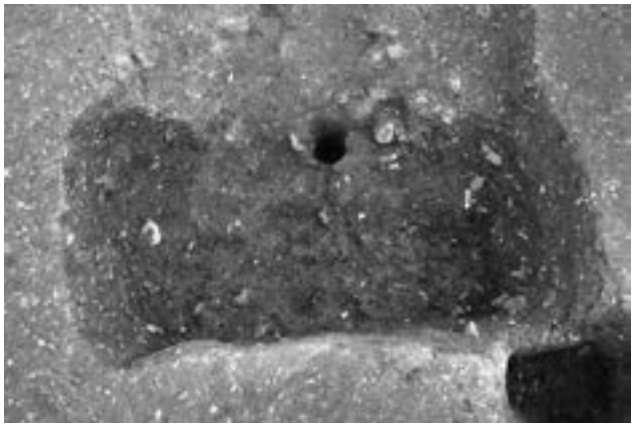
写真図版4

1　4次12区全景（東から）

2　4次12区西半（東から）

3　SB01・SB02周辺（上が北）

1　ST01出土状況（南から）



2　ST01完掘（北から）

3　SE01（西から）

4　SE01断割り（西から）

5　4次12区SD10断面（北から）

6　4次12区SD13・SD14・SD15（北から）

7　4次12区SD15断面（西から）

8　4次12区SD02断面（北東から）

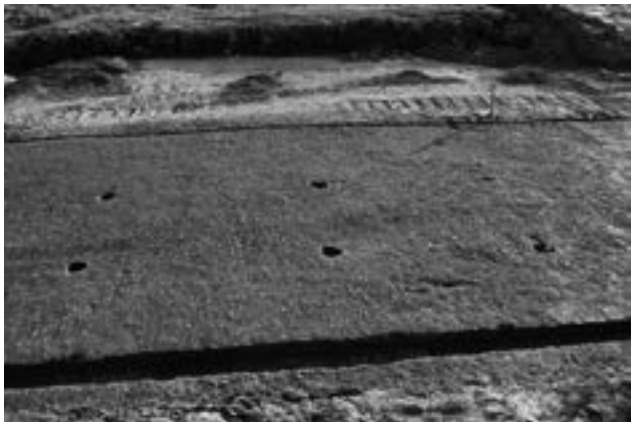
1　SE01周辺（北から）

2　4次12区SX01（東から）

3　4次12区東端全景（東から）

4　4次12区SX02集石（北から）

5　4次12区SX03（西から）



6　SB09（北から）

7　4次13区SD02・SX02A－A′断面（東から）

8　4次13区SD02B－B′断面（東から）

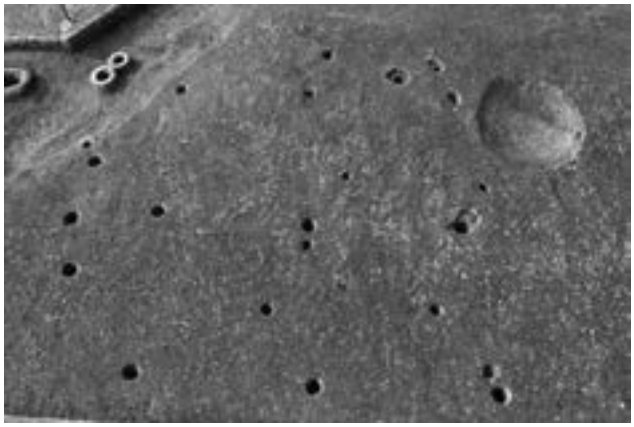
1　4次13区全景（西から）

2　4次14区全景（北から）

3　4次15区全景（西から）

4　4次16区全景（北から）

1　SB10・SB11（北から）



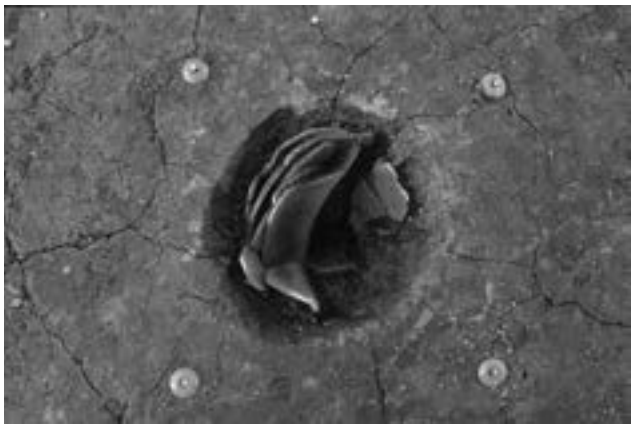
2　SB12（東から）

3　SE02断面（西から）

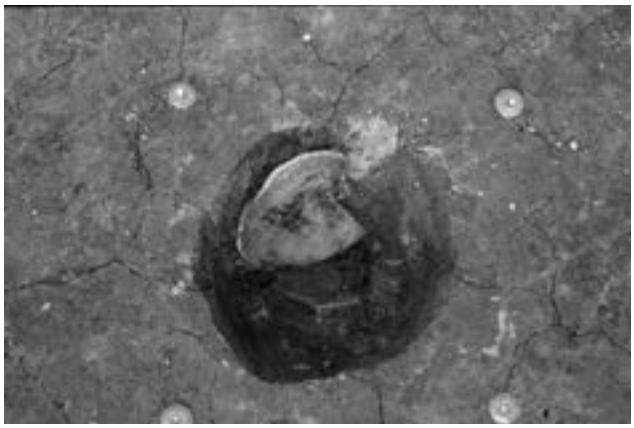
4　4次15区SD01（北から）

5　4次14区SX01（西から）

6　4次16区SB18-SP08（東から）



7　4次16区SB18-SP08（南から）



8　4次16区SB18-SP08（南から）

1　4次14−15区ＳＤ03・ＳＤ04（東から）

2　4次14−15区ＳＤ03（北から）

3　4次14−15区ＳＤ03（南から）

4　4次14区ＳＤ04（南から）

5　4次14区ＳＤ06（北東から）

6　4次15区ＳＤ06（北から）

7　4次16区ＳＤ03（南から）

8　4次16区ＳＤ03（北東から）

1　9次2区全景（東から）

2　ST02（北から）

3　SB04−SB08周辺（上が北）

1　SB04−SB08（北から）

2　9次4区全景（東から）

3　10次11区全景（南から）

1　12次4区全景（東から）

2　12次4区西全景（北から）

3　12次4区全景（南から）

4　12次4区ＳＫ01遺物出土状況（南から）

1　14次4区全景（南から）

2　14次4区全景（北から）

3　14次4区北端上面遺構（北から）

4　14次4区ＳＤ01断面（北から）

5　14次4区下層ＳＤ01（南から）

1　18次12区全景（東から）

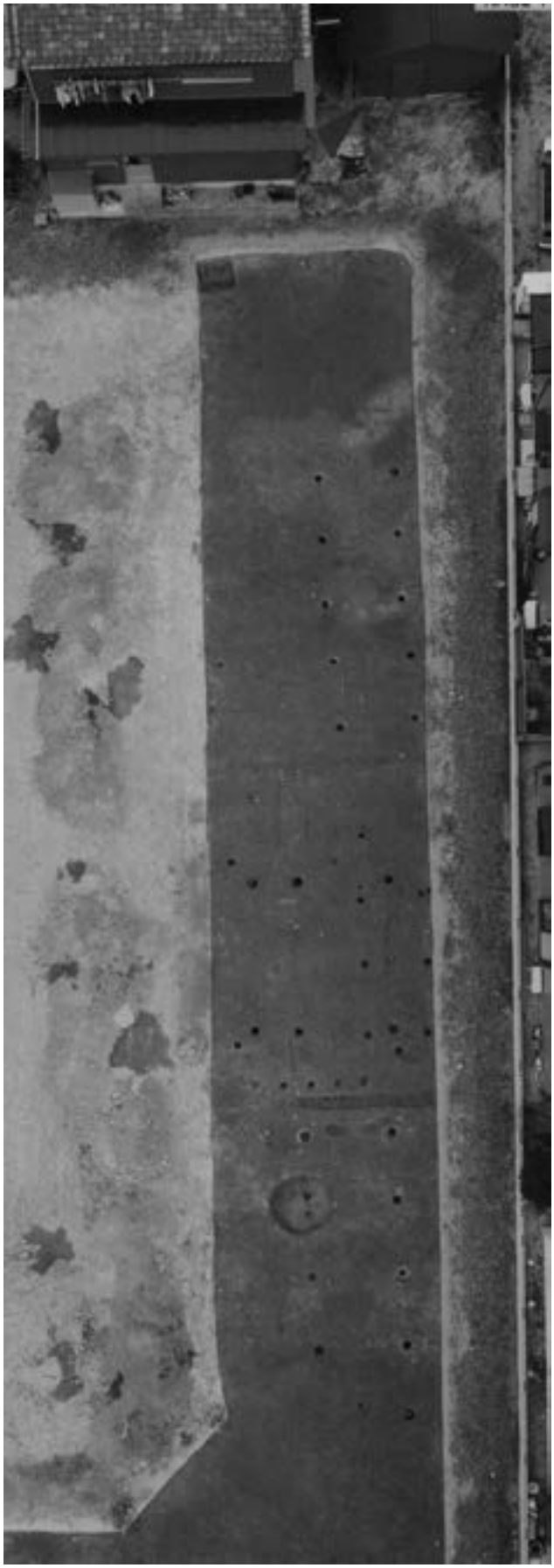
2　22次1区全景（北から）

3　22次1区全景（左が北）

4　SB21－SB24（西から）

5　SB20　22次1区部分（北西から）

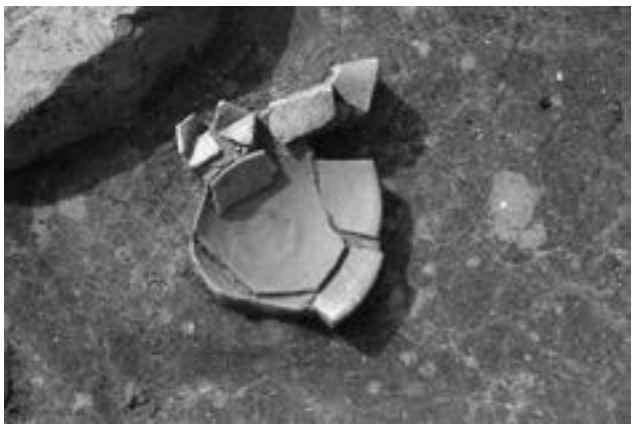
6　22次1区SD01（北から）



1　SB30−SB33周辺　（上が北）

2　SB30（北から）

3　SB33・SK09（北から）



4　SK09遺物出土状況（北から）

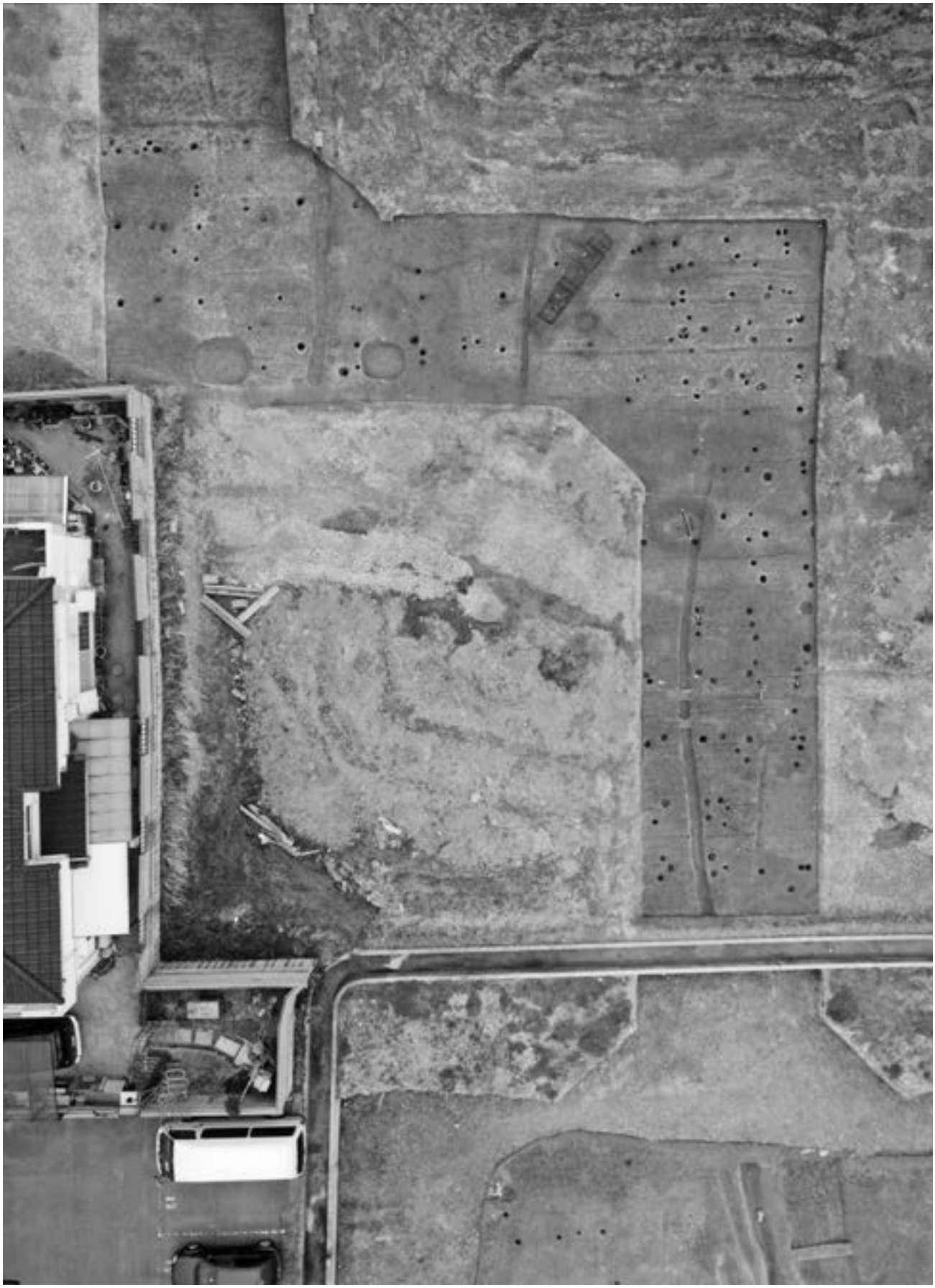
5　SA12・3次11−1区SD02（東から）

1　3次11−2区北部−11−1区南部（西から）

2　SA13検出状況（西から）

3　3次11−2区SD17（北から）

4　3次11−2区北部−南部（北から）



SB35−SB39周辺（左が北）

1　3次11−2区南部（東から）

2　3次11−2区南壁（北西から）

3　SB35（西から）

4　3次11−2区下層SK01（南東から）

5　下層SK01断面（南東から）

6　下層SK01遺物出土状況（北東から）

1　SB38（西から）

2　3次11−2区SD01（東から）

3　ST03検出状況（北から）

4　ST03断面（北から）

5　ST03完掘（東から）

1　3次11−3区全景（北から）

2　SB44（西から）

3　3次11−3区SP24鉄鏃出土状況（西から）

5　ST04（北から）

4　3次11−3区SX01遺物出土状況（西から）

6　ST04（北から）

1　3次11−3区ＳＸ10（北東から）

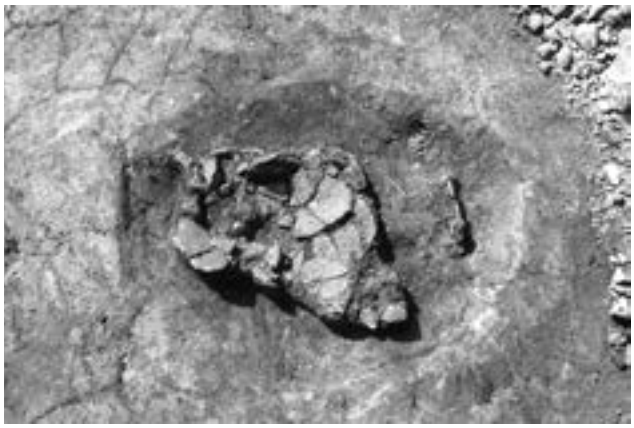
2　3次11−3区ＳＸ10西壁（東から）

3　3次11−3区ＳＸ10断面（南から）

4　3次11−3区石列（東から）

5　3次11−3区ＳＫ05遺物出土状況（東から）

6　3次11−4区全景（東から）



7　3次11−4区ＳＫ01（東から）

8　3次11−3区下層ＳＤ01断面（南東から）

1　3次11−3区下層ＳＤ01（南東から）

2　4次22区全景（西から）

3　4次22区ＳＤ01（北から）

4　7次33区全景（東から）

1　16次9区全景（南から）

2　16次9区北壁（南から）

3　16次9区ＳＤ01断面（西から）

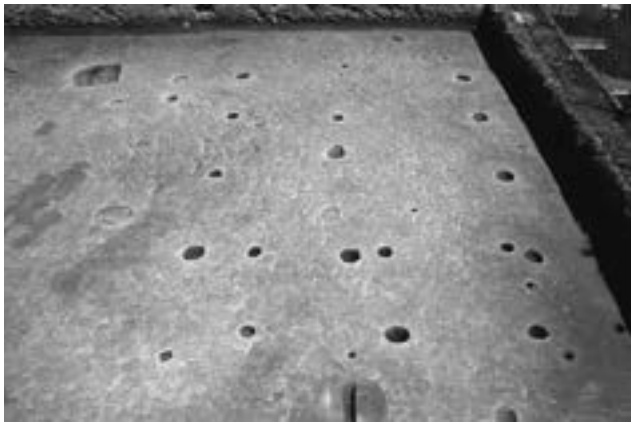
4　20次1区全景（北から）

5　20次1区ＳＤ01（西から）

6　20次1区ＳＤ01断面（東から）

1　18次2区全景（西から）

2　18次2区全景（北から）



3　SB42（西から）

4　18次2区SK01・SK02断面（北から）

5　18次2区SK01・SK02（東から）

6　18次2区SK02遺物出土状況（北から）

1　7次11−5区全景（西から）

2　12次3区全景（西から）

3　11次4区（北）全景（西から）

4　14次7区全景（西から）

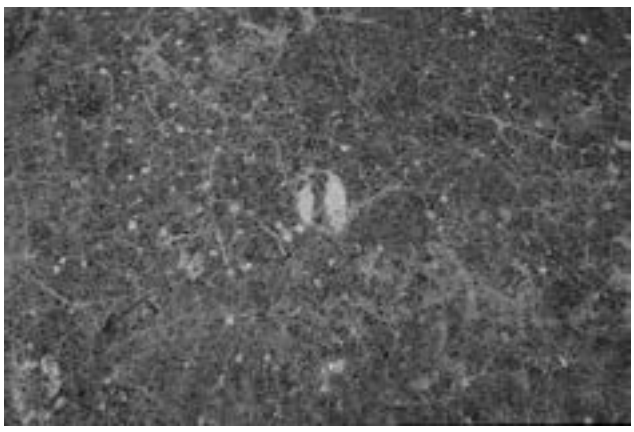
5　16次8区全景（北から）

1　10次1区全景（南から）

2　16次7区全景（南から）

3　14次5区・6区全景（北から）

4　11次4区（南）全景（北から）



5　14次6区偶蹄類足跡（北から）

1　18次3区（南）全景（北東から）

2　18次3区（北）全景（北東から）

4　22次2区全景（北東から）

3　18次3区（南）ＳＤ01（西から）

5　22次2区ＳＤ02断面（東から）

4次17区−21区全景（上が北）

1　4次17区全景（南から）

2　4次17区ＳＤ01断面（北東から）

3　4次18区全景（西から）

4　4次18区ＳＸ05（北から）

5　4次18区ＳＸ05遺物出土状況（西から）

6　4次18区ＳＸ05（南から）

7　4次18区ＳＸ05遺物出土状況（東から）

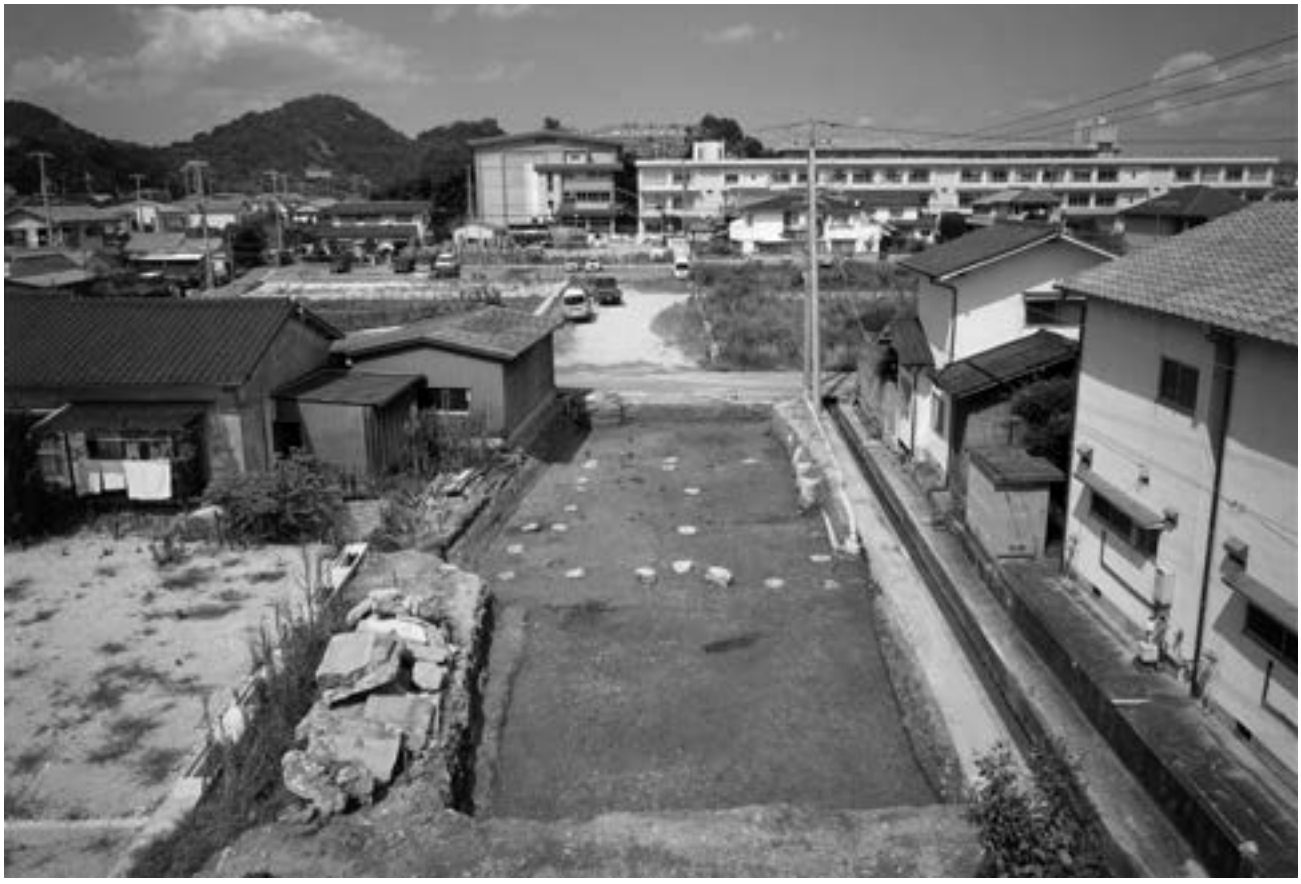
1　4次19区全景（北から）

2　ST05（東から）

3　ST05棺外遺物出土状況（東から）

4　ST05完掘（西から）

1　4次21区全景（北から）



2　6次17−1区全景（南から）

1　7次35区全景（南から）

3　10次2区全景（北から）

4　10次2区ＳＤ01西肩（北から）

2　8次38区全景（南から）

5　13次2区全景（南東から）

1　9次3区全景（西から）

2　9次3区全景（上が北）

3　16次10区全景（北東から）

4　16次10−2区全景（北東から）

5　SB51−SB53（西から）

1　10次3−1区全景（西から）

2　10次3−2区全景（北東から）

3　18次14−1区全景（東から）

4　18次14−2区全景（北から）

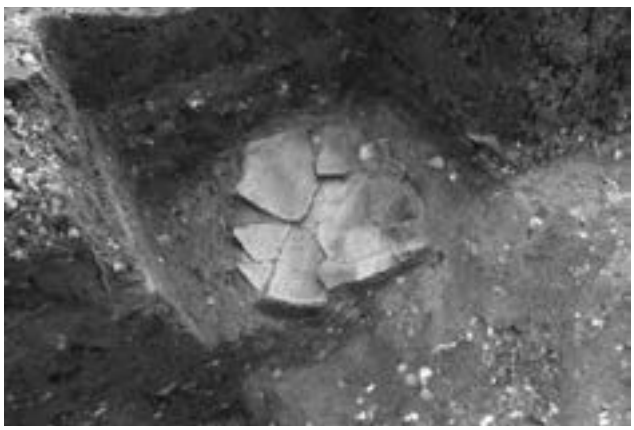
1　調査地全景（北から）

2　調査地全景（西から）

1　5次24−5区全景（東から）

2　4次24−1区・24−2区全景（北から）

3　4次24−1区ＳＤ01断面（南から）



4　4次24−1区ＳＫ07遺物出土状況（西から）

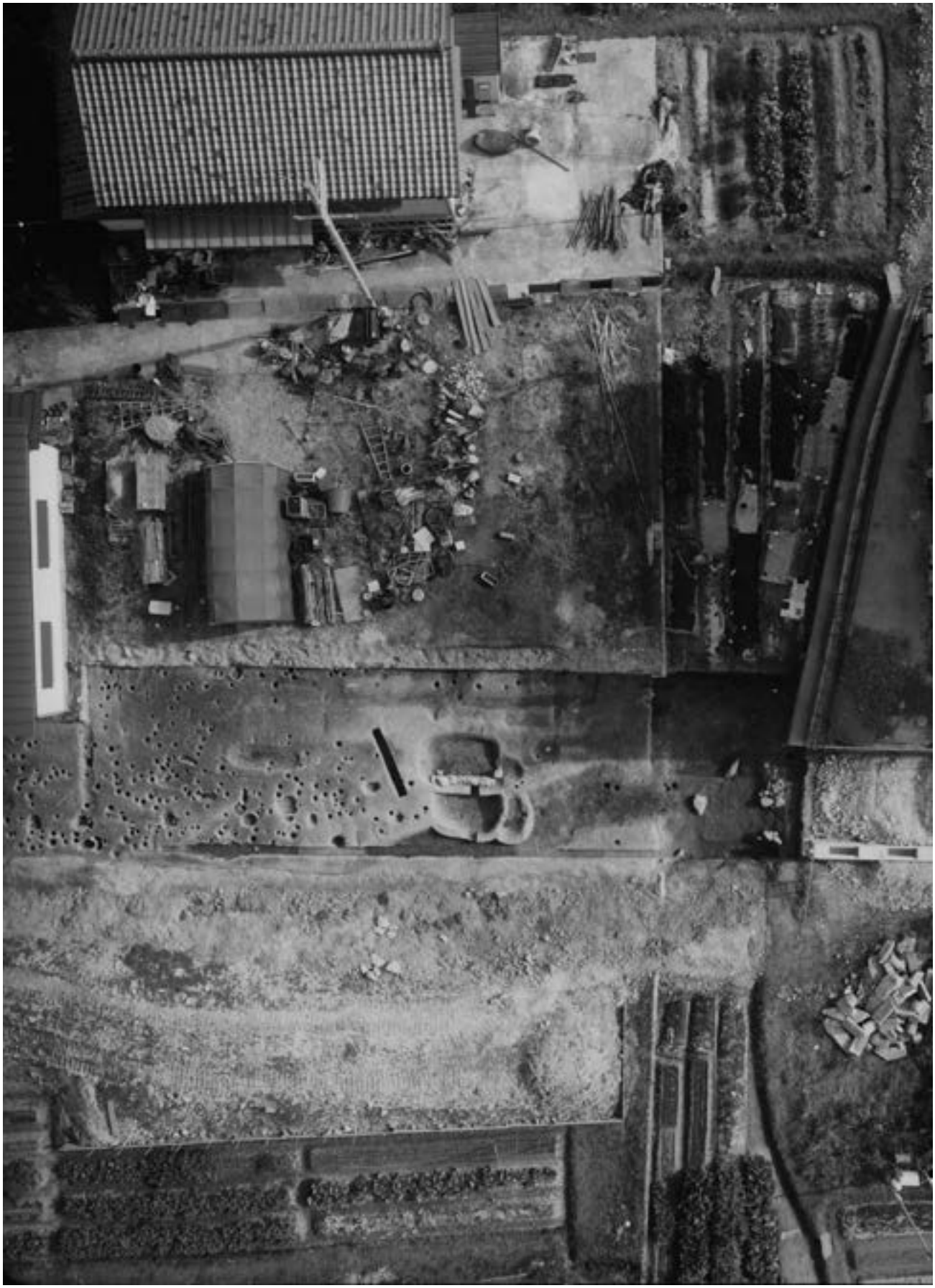
1　4次24−1区・24−2区（上が北）

2　4次24−2区ＳＤ01・ＳＤ02（西から）

3　4次24−2区ＳＤ01西壁（東から）

4　4次24−2区ＳＤ02東壁（西から）

5　4次24−2区ＳＫ04遺物出土状況（西から）

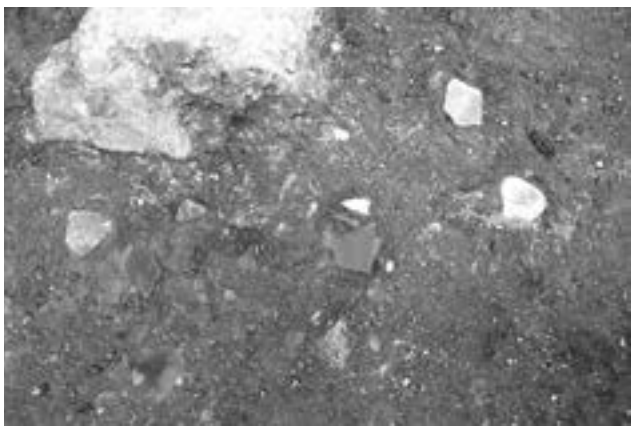


5次24−4区全景（左が北）

1　5次24−4区全景（北から）

2　5次24−4区ＳＤ01（西から）

3　5次24−4区ＳＤ01西壁（東から）



4　5次24−4区ＳＤ01遺物出土状況（南から）

5　5次24−4区ＳＫ24（東から）

1　5次24−4区下層全景（南から）

2　5次24−4区下層ＳＤ01・ＳＤ02（南東から）

3　5次24−4区ＳＤ02断面（南から）

4　4次24−3区全景（北から）

5　4次24−3区ＳＤ06（南から）

6　4次24−3区北端遺構（北から）

4次23区全景（上が北）

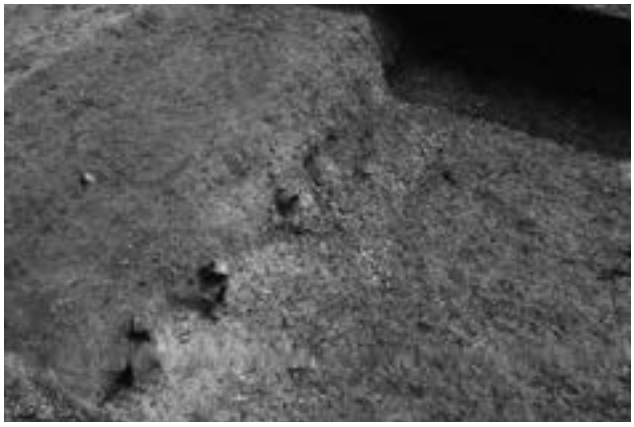
1　4次23区全景（南から）

2　4次23区ＳＤ01（西から）

1　4次23区南部（西から）

2　町坪五輪塔と4次23区ＳＤ01（南西から）

3　4次23区ＳＤ01西壁（東から）



4　4次23区ＳＤ01杭検出状況（南西から）

5　4次23区全景（北から）

6　4次23区ＳＤ02西壁（東から）

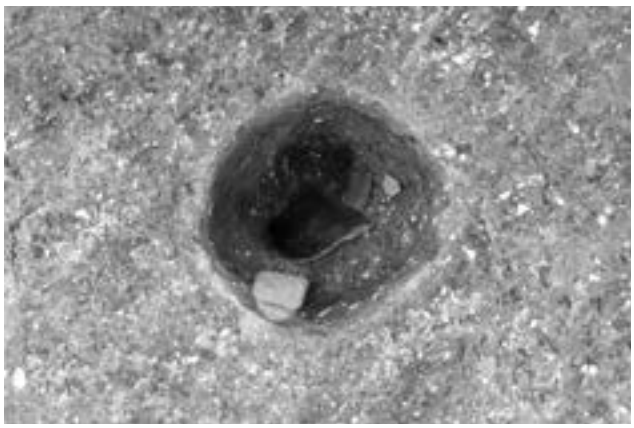
7　ＳＥ05（西から）

1　4次23区ＳＤ03（南から）

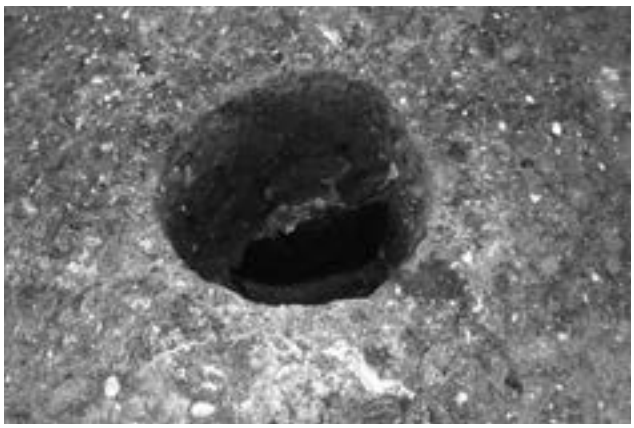
2　4次23区ＳＤ03断面（南から）

3　4次23区ＳＤ03南端石列（北から）

4　4次23区ＳＤ03遺物出土状況（南から）



5　4次23区ＳＰ46遺物出土状況（南から）



6　4次23区ＳＰ51遺物出土状況（南から）

7　4次23区ＳＤ09・ＳＤ10（西から）

8　5次23−1区全景（東から）

1　5次25−3区全景（東から）

2　5次25−3区ＳＤ01断面（南東から）

3　5次25−3区角錐状石器出土状況（西から）

4　5次25−2区全景（南から）

5　5次25−2区ＳＤ03・ＳＤ04（南西から）

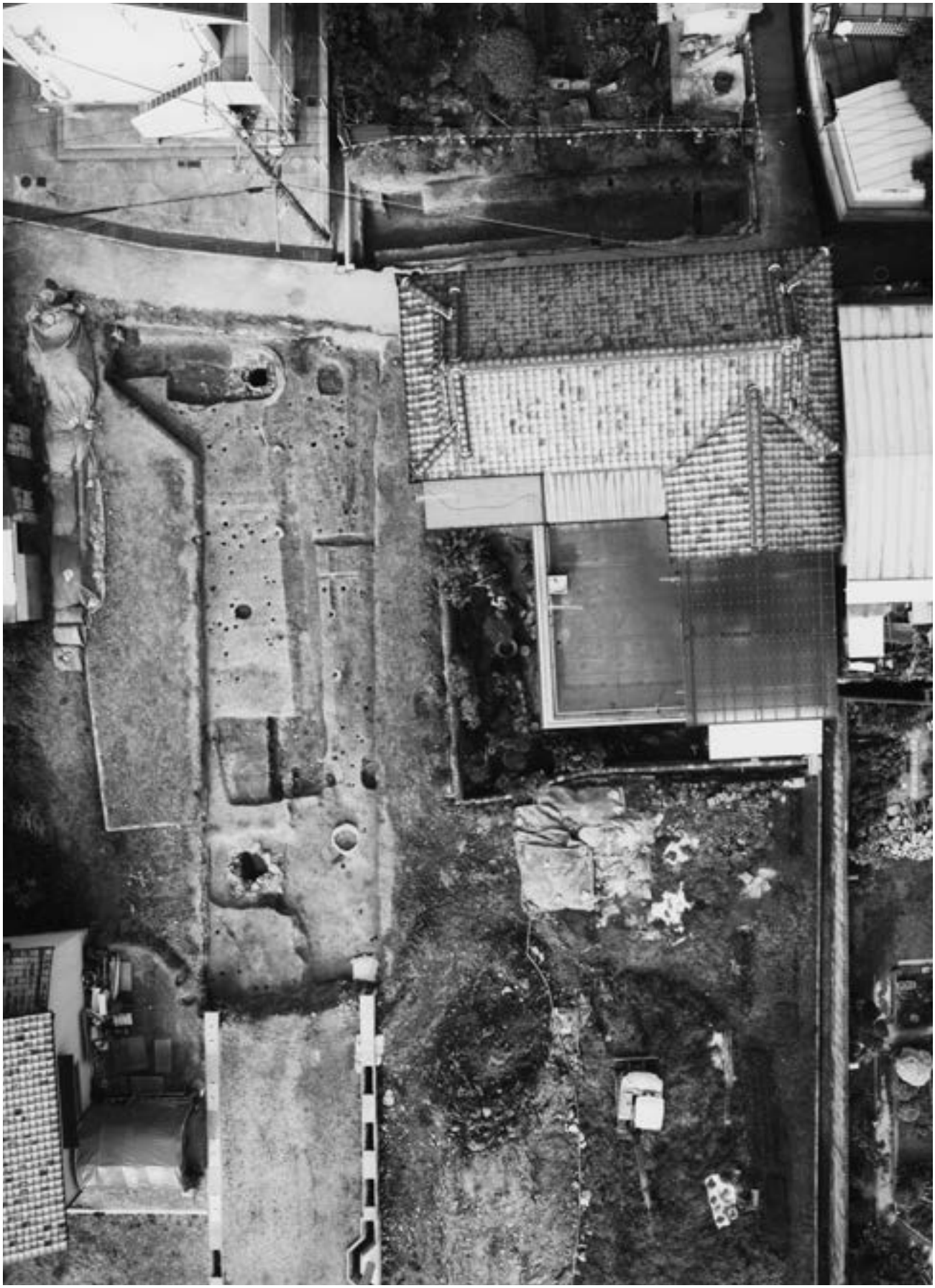
6　5次25−2区ＳＤ01石列（南西から）

1　7次36区全景（東から）

2　7次36区ＳＤ01東壁（南西から）

3　7次36区ＳＤ01石列（北から）

4　7次36区全景（南から）



10次6区・7区全景（上が北）

1　10次6区全景（南から）

2　10次6区ＳＤ01（南から）

3　ＳＥ04（西から）

4　10次7区全景（東から）

5　10次7区ＳＤ01西壁（東から）

6　10次7区ＳＤ02北壁（南から）

1　11次10区全景（右が北）

2　11次10区全景（東から）

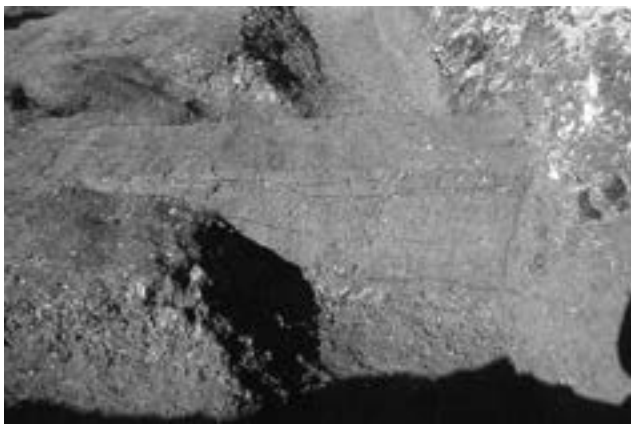
3　12次5区全景（東から）

4　12次5区ＳＤ01南壁（北西から）

5　12次5区ＳＤ01北壁（南西から）

1　14次9区全景（北から）

2　14次9区ＳＤ01（西から）



3　14次9区ＳＤ01断面（東から）

4　ＳＥ06（北から）

5　ＳＥ06断面（南から）

6　7次37区全景（北から）

1　2次8−2区全景（西から）

2　2次8−1区全景（南から）

3　2次8−1区ＳＤ03・ＳＤ04（西から）

4　2次8−2区ＳＤ01西壁（東から）

1　16次1区・2区・3区全景（南から）

2　18次4区全景（南から）

3　18次4区全景（北東から）

4　16次2区ＳＤ01（東から）

5　18次4区南壁（北から）

1　16次4区北部全景（南から）

2　16次4区南部全景（南から）

3・4　14次3区全景（南から）

5　16次11区全景（北から）

6　10次4区全景（南から）

1　13次1区北部全景（南から）

2　13次1区南部全景（北から）

3　18次1区全景（北から）

4　16次5区全景（南から）

5　10次5区全景（南から）

5次26区−31区全景（左が北）

1　4次25区北部全景（上が北）

2　4次25区北部全景（南から）

3　4次25区南部全景（北から）

4　4次25区ＳＤ01北壁（南から）

1　4次25区ＳＤ05（南東から）

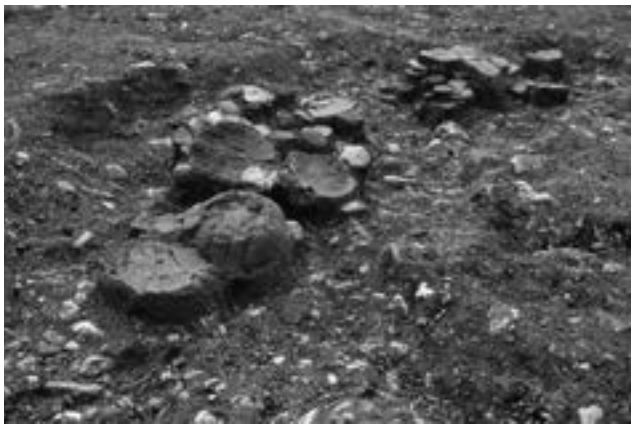
2　4次25区ＳＤ05断面（西から）

3　4次25区ＳＤ05完掘（西から）

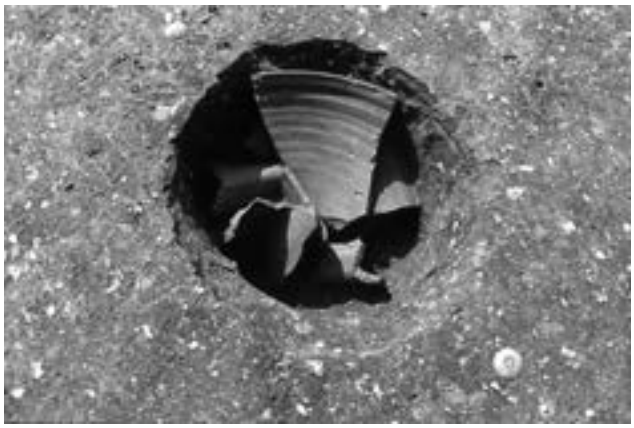
4　4次25区ＳＤ05遺物出土状況（南から）

5　ＳＢ92（東から）

6　ＳＡ53（南から）



7　4次25区ＳＤ04遺物出土状況（北から）



8　ＳＡ54−ＳＰ96遺物出土状況（東から）

1　5次26区全景（西から）

2　5次27−1区全景（北から）

3　5次26区ＳＤ01（南東から）

4　5次26区ＳＫ03（南から）

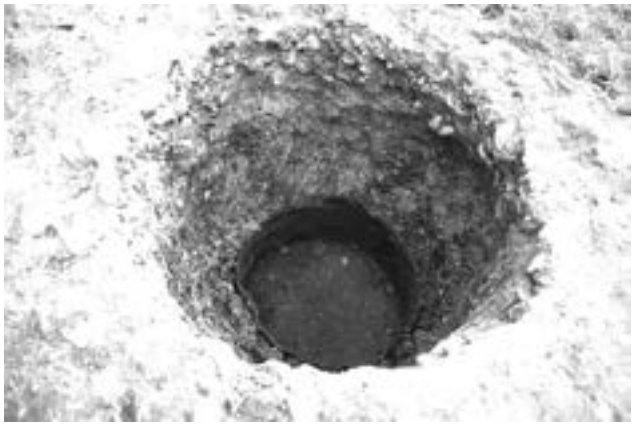
5　ＳＥ07（西から）

6　5次27−1区ＳＫ12（西から）

1　4次27−2区全景（南から）

2　SE08（東から）

3　SE08断面（東から）



4　4次27−2区SK01（西から）

5　4次27−2区SD06石列（北から）

6　4次27−2区SD03（南東から）

7　4次27−2区SD04（南東から）

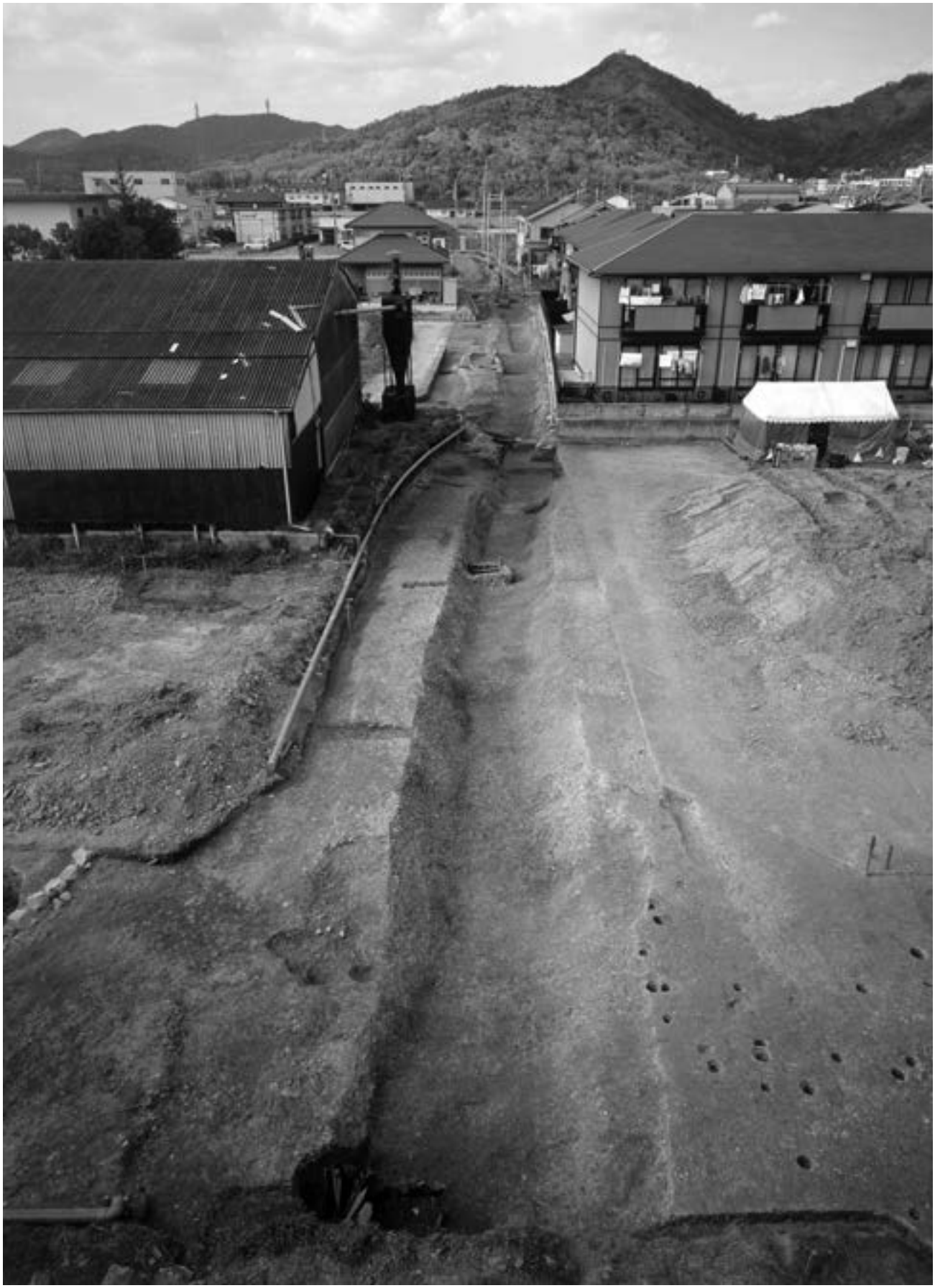
1　5次27区・28区・29区（左が北）

2　5次28区全景（西から）

3　16次14区全景（西から）

4　SB84（南から）

5　16次14区SD01（南から）



5次29区全景（東から）

1　5次29区ＳＤ01（西から）

2　5次29区ＳＤ01西端（西から）

3　5次29区ＳＤ01西端石組み（南西から）

4　5次29区ＳＤ01Ａ－Ａ′断面（東から）

5　5次29区ＳＤ01Ｃ－Ｃ′断面（東から）

6　5次29区ＳＤ01Ｄ－Ｄ′断面（東から）

7　5次29区ＳＤ01Ｅ－Ｅ′断面（西から）

1　5次29区ＳＤ01南肩石列（北東から）

2　5次29区ＳＤ01溝底（西から）

3　5次29区ＳＤ01−2溝尻（南東から）

4　5次29区ＳＤ01−2G−G′断面（南から）

5　ＳＴ06（西から）

6　5次29区ＳＤ02（西から）

7　5次29区野井戸5（西から）

8　5次29区野井戸4（東から）

1　5次29区ＳＤ01−3（南西から）

2　5次29区ＳＤ01−3北壁（南から）

3　5次29区ＳＤ01−3遺物出土状況（南から）

4　5次29区ＳＤ01−3Ｈ−Ｈ′断面（東から）

5　5次29区ＳＤ01−3Ｉ−Ｉ′断面（東から）

1　5次30区南部全景（東から）

2　5次30区北部全景（北から）

3　SE09（西から）

4　SE09断面（西から）

5　SE09掘方内遺物出土状況（西から）

6　5次30区SD01（北から）

7　5次30区野井戸1（西から）

8　5次30区SD07断面（南東から）

1　6次30−1区西部全景（東から）

2　6次30−1区東部全景（東から）

3　6次30−1区西部南壁（北から）

4　6次30−1区東部南壁（北から）

5　5次32区全景（北から）

1　5次31区全景（北から）

2　5次31区全景（南から）

3　5次31区南部全景（右が北）

1　5次29区・31区北部全景（上が北）

2　5次29区ＳＤ01・31区ＳＤ01（西から）

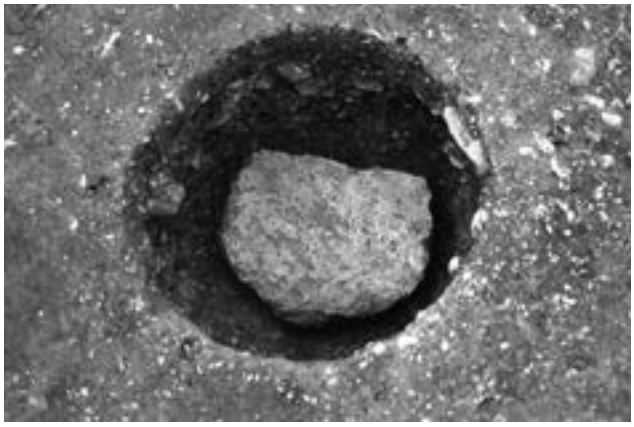
3　5次29区ＳＤ01B－B′断面（東から）

4　5次31区ＳＤ01（北東から）

5　5次31区ＳＤ01木簡出土状況（西から）

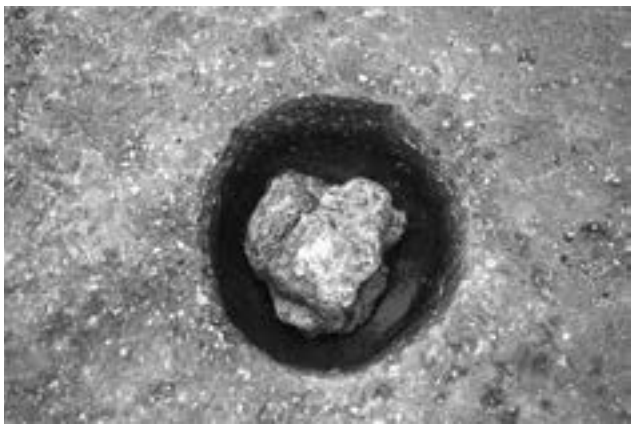
1　5次31区ＳＤ01杓子出土状況（南から）

2　ＳＢ88（北から）



3　ＳＢ89−ＳＰ05（東から）

4　ＳＢ89−ＳＰ06（東から）



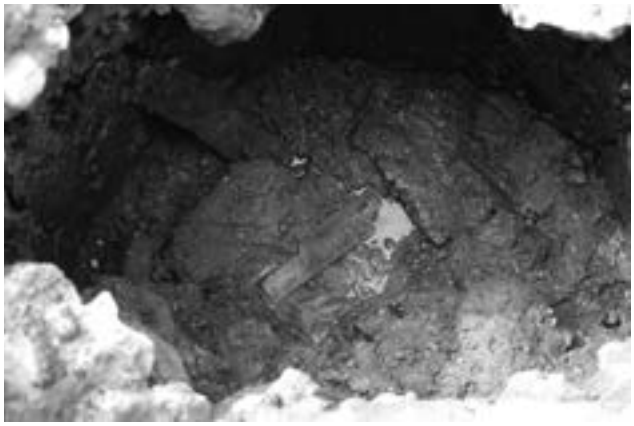
5　ＳＡ45−ＳＰ125（東から）

6　ＳＡ46−ＳＰ39（南から）

7　5次31区ＳＤ07（西から）

8　5次31区ＳＤ09・ＳＤ10（西から）

1　SE10（西から）



2　SE10木簡出土状況（西から）

3　SE10木簡出土状況（北から）

4　SE10断面（北から）

5　SE10断面（北から）

1　11次6−1区全景（北から）

2　11次6−1・3区全景（西から）

3　11次6区全景（上が北）

4　11次6−3区ＳＤ01・ＳＤ03（北西から）

5　11次6−3区ＳＤ01・ＳＤ03断面（西から）

6　11次6−1区ＳＤ10断面（西から）

1　16次6区全景（上が北）

2　16次6区全景（北から）

3　16次6区ＳＤ03断面（西から）

4　16次6区ＳＤ01断面（東から）

5　10次8区全景（東から）

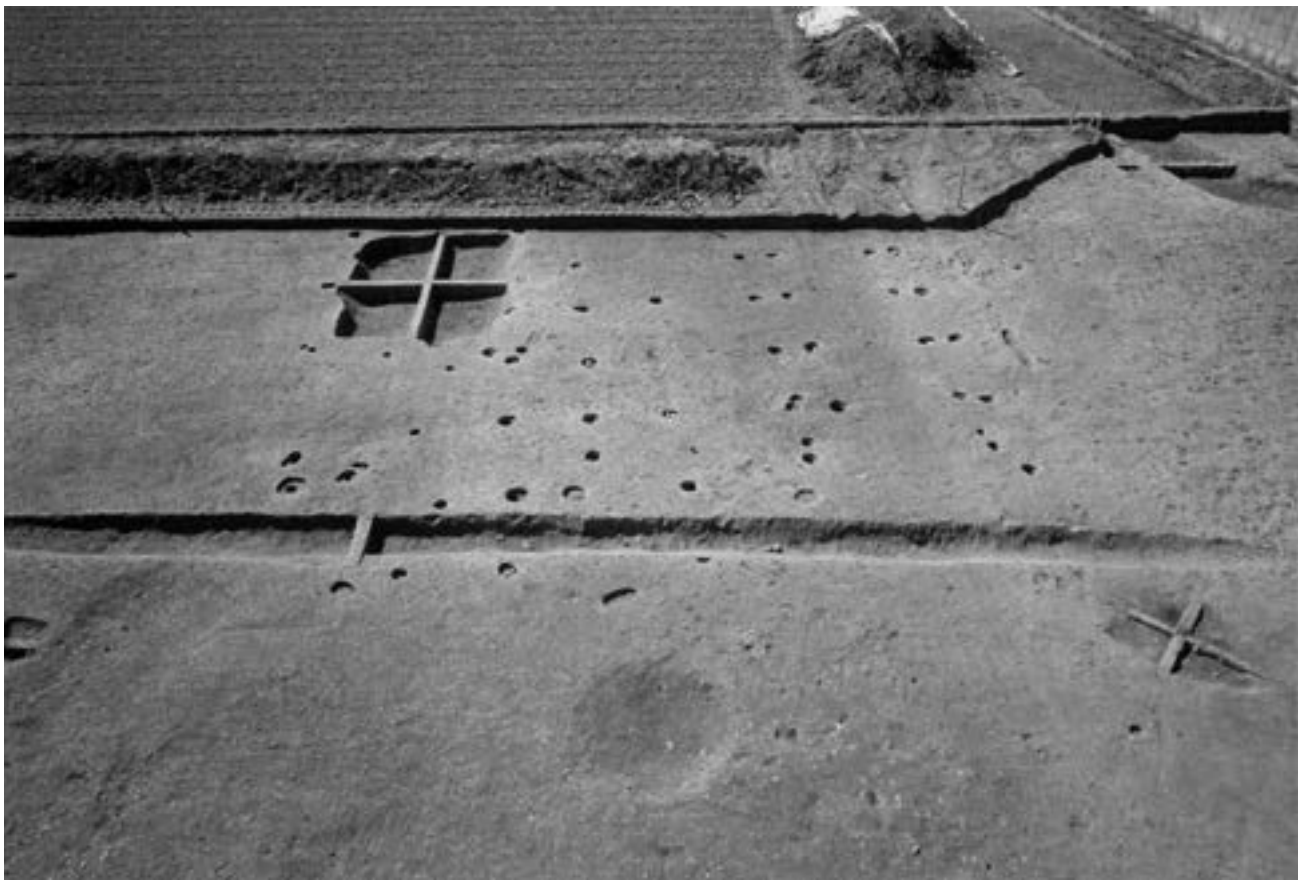
6　14次12区全景（東から）

南西部・大浄口遺跡全景（上が北）

1　1次1区・2区全景（西から）

3　1次1区ＳＸ01（北から）

4　ＳＡ58−ＳＡ60（北から）



2　ＳＢ96（北から）

1　1次2区ＳＤ06（東から）

2　1次2区ＳＤ06断面（東から）

3　1次2区ＳＸ04（東から）

4　1次2区ＳＫ08断面（東から）

5　1次3区全景（北から）

6　1次3区野井戸（西から）

7　1次4区全景（北東から）

1　1次5区全景（北東から）

2　1次5区ＳＸ08・6区全景（北東から）

3　1次7区全景（北東から）

4　1次9区全景（東から）

5　1次9区西部（上が北）

1　8次40区全景（南から）

2　8次40区ＳK01（北東から）

3　8次40区ＳK01遺物出土状況（南から）

4　8次40区ＳD01・ＳD02（南西から）

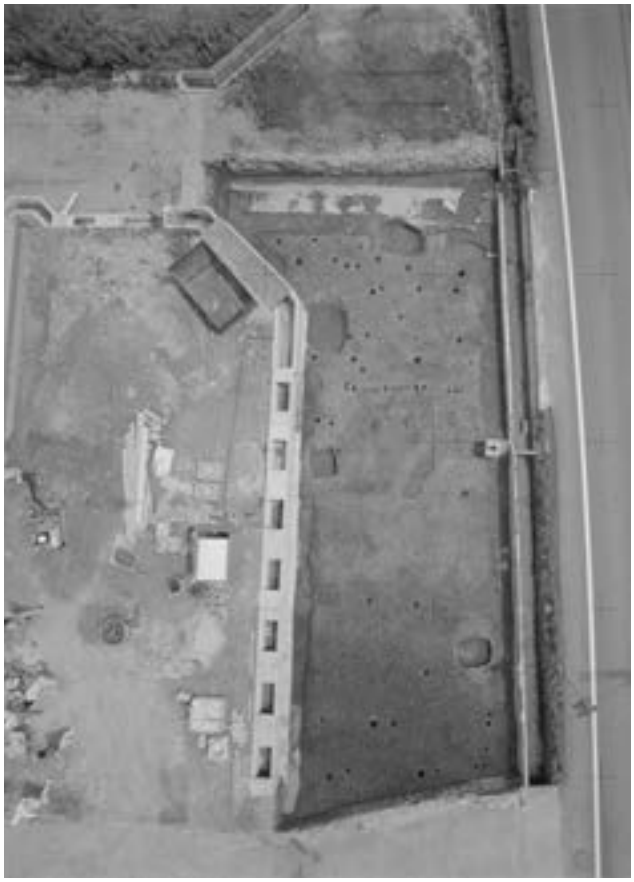
5　8次40区ＳD01・ＳD02断面（南西から）

1　7次34区全景（北から）

2　8次39区全景（北東から）

3　9次1区全景（北から）

4　9次1区全景（北から）



5　9次1区全景（上が北）

1　2次10区全景（西から）

2　2次10−1区全景（南から）

3　4次10−2区全景（西から）

4　2次10−1区ＳＫ01（北から）

5　ＳＢ98（東から）

1　10次12区全景（北東から）

2　ST07（北から）

3　ST07断面（南西から）

4　11次7区全景（北東から）

5　16次13区全景（北東から）

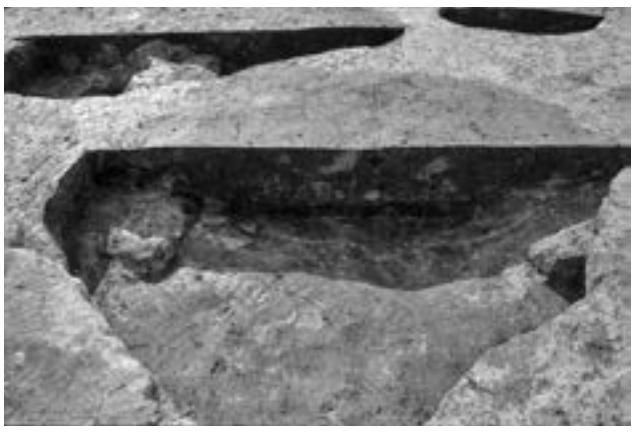
6　18次6区全景（南から）

1　1−1区全景（北から）

2　1−2区全景（西から）

3　3区全景（北から）

4　1−2区遺構検出（西から）



5　1−2区ＳP25断面（北から）

1　2区全景（西から）

2　SE11（北から）

3　SE11断面（北から）

4　2区SD12（南から）

944

945

948

946

947

SE10出土木簡（赤外線撮影）、948は出土時

957

949

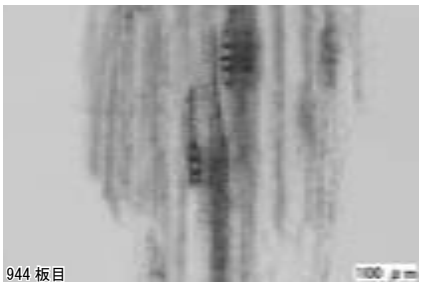
958

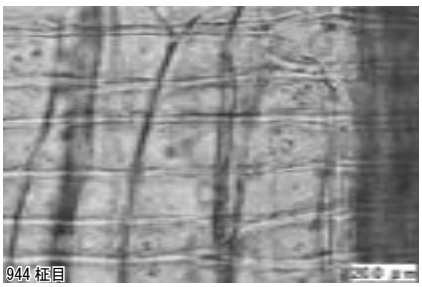
954

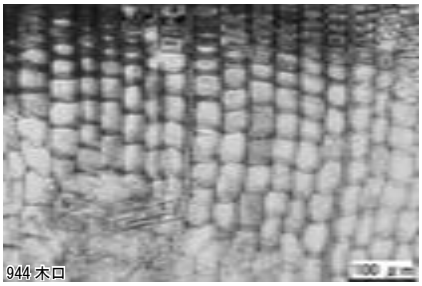
960

959

1011


944 板目


944 柾目


944 木口

SE10、31区SD01出土木簡（赤外線撮影）、顕微鏡写真

979 花押部分

980 花押部分

SE10井戸枠墨書花押（赤外線撮影）

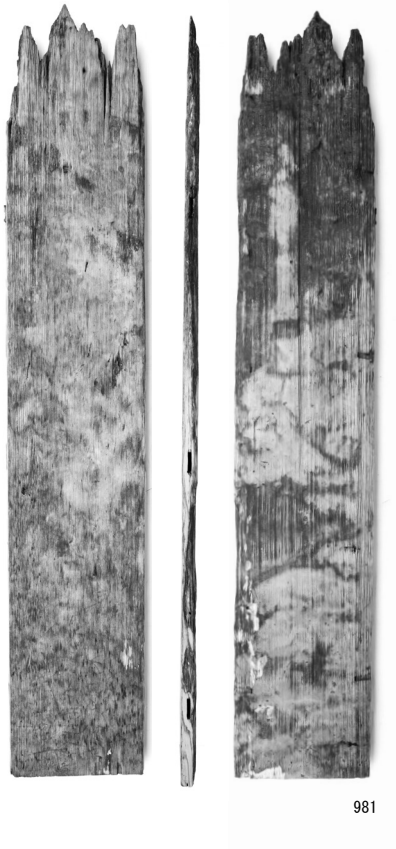
支柱 1

支柱 2

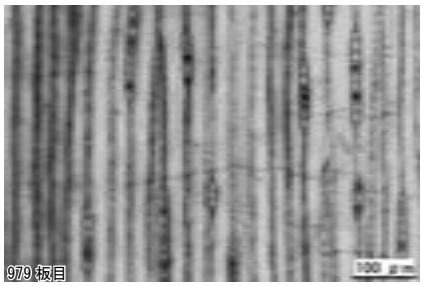
支柱 3

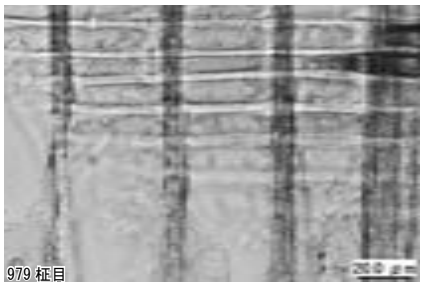
支柱 4

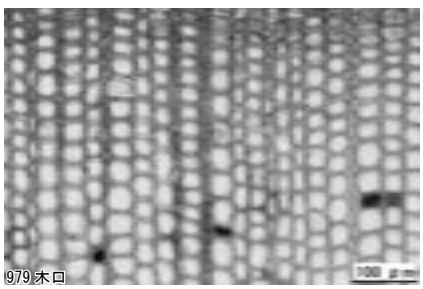
983


981

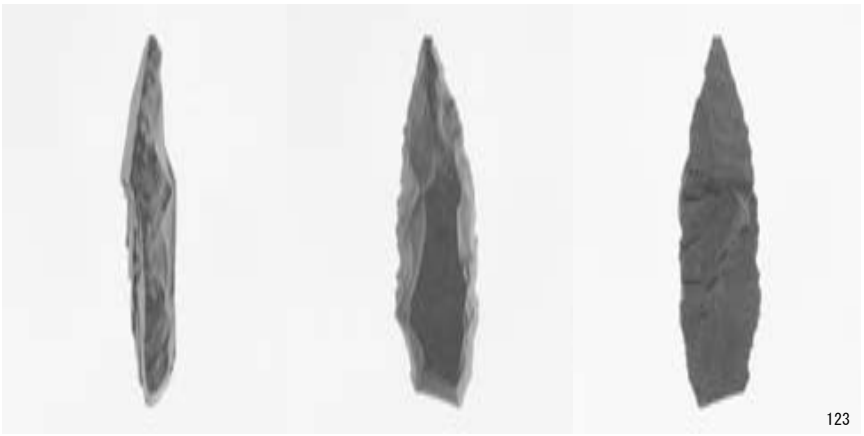
982







SE10井戸枠部材、顕微鏡写真


123

17

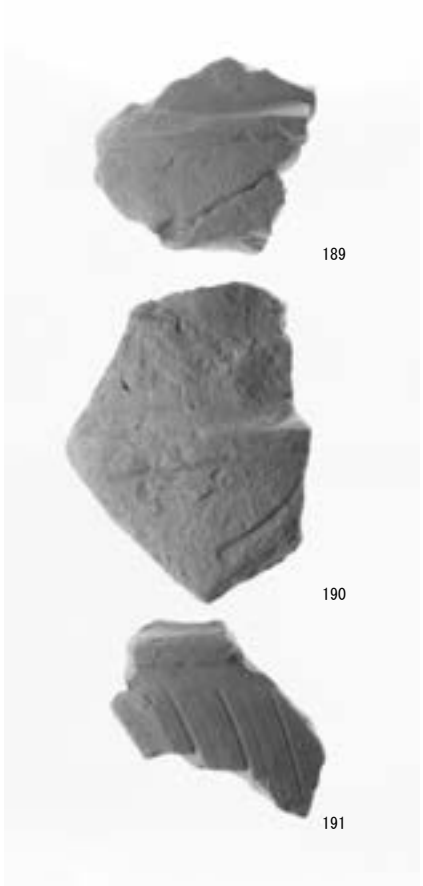
141

145

150

27

36


189

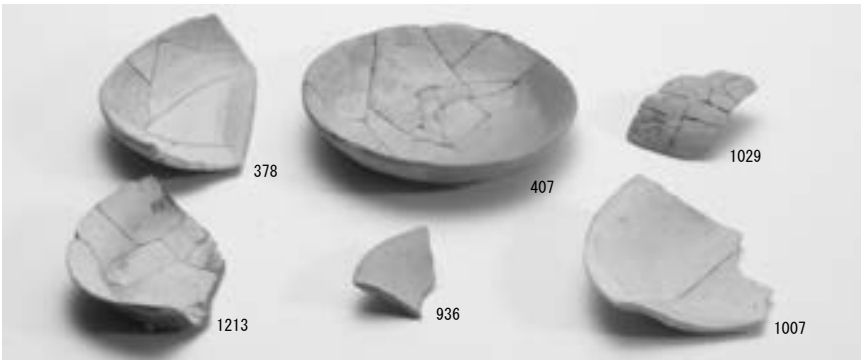
190

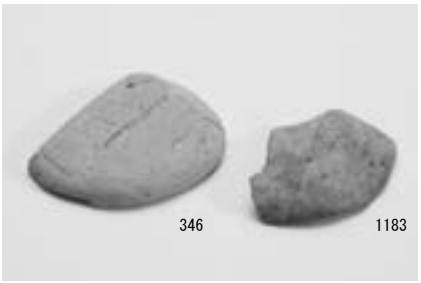
191

32

33

出土遺物


378
407
1029
1213
936
1007


346
1183

588
360
431

896
895

525
485

794

408
558
451

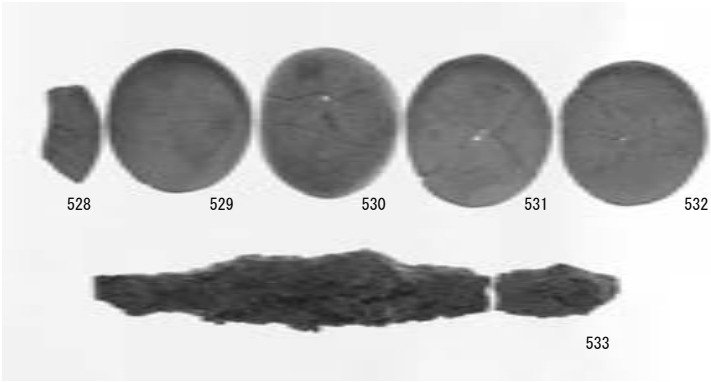
789
888
649
1040
648
736
930

786

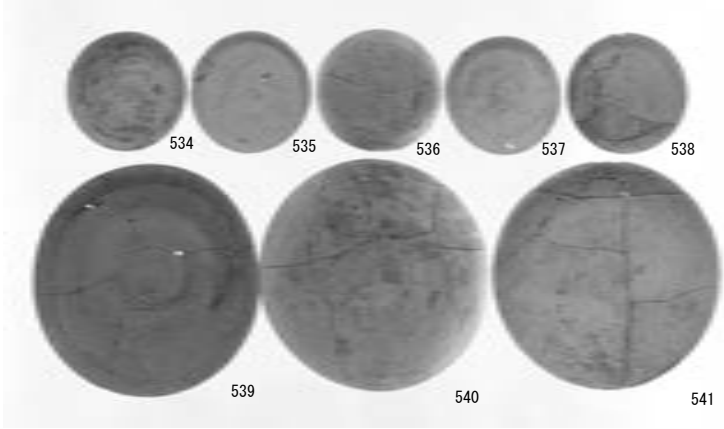
出土遺物

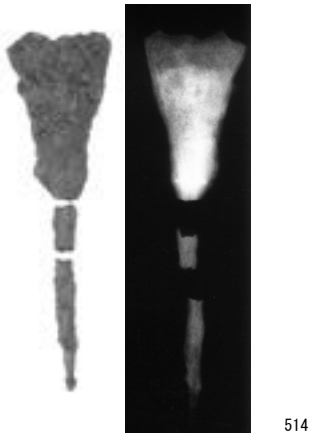
278
276
274
277
275
273
272

277
276

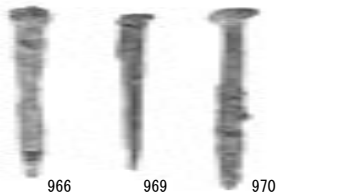

528
529
530
531
532
533

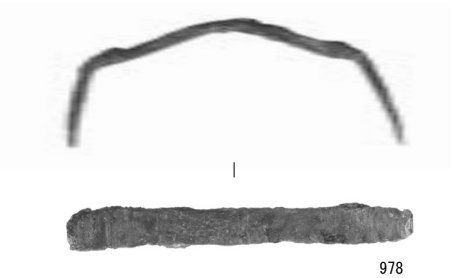
747


534
535
536
537
538
539
540
541

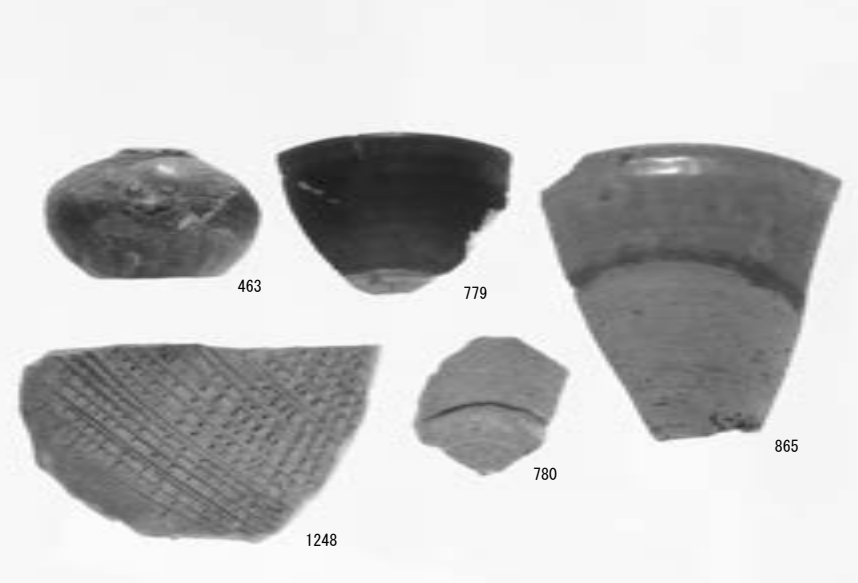

514

929
930
932
933
931
934
935


966
969
970

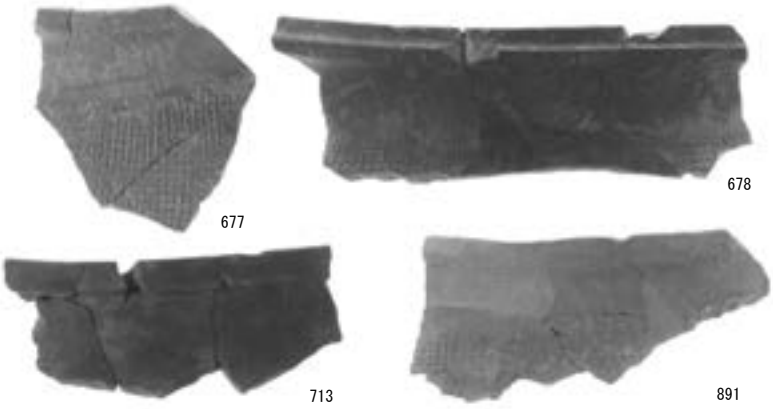

978

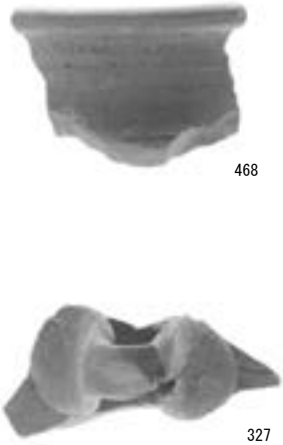
写真図版90

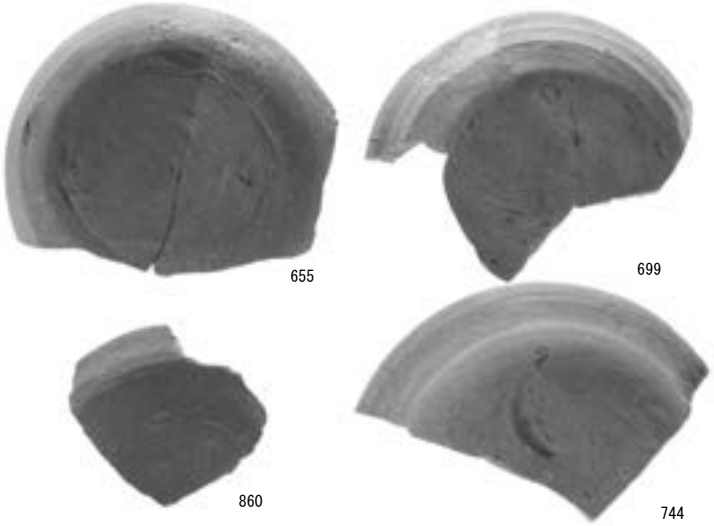

463
779
865
780
1248

217

336


677
678
713
891

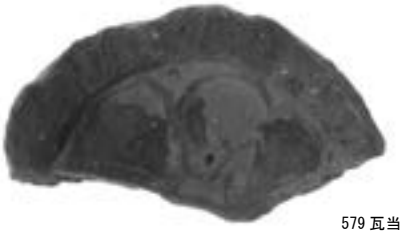

468
327


655
699
860
744

917

出土遺物

579 凸面



579 瓦当

1145 瓦当

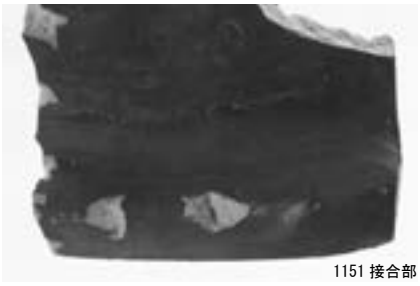
1145 凹面

1147

1151 瓦当

1148

1150

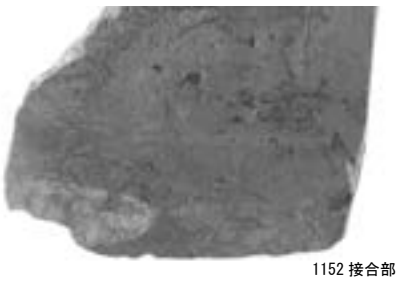


1151 接合部

1161 凹面

1161 凸面

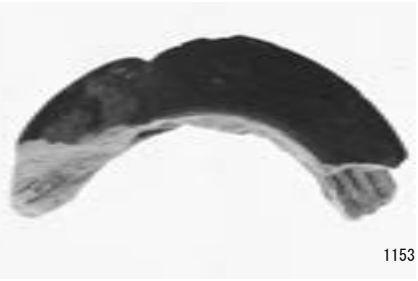
1152 瓦当



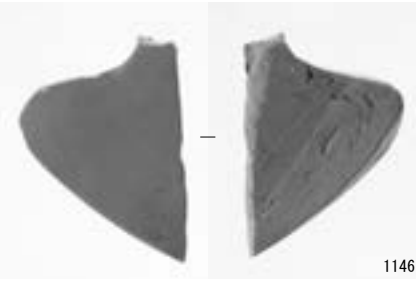
1152 接合部

1154 凸面

1154 凹面

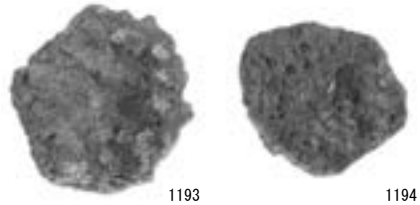


1153



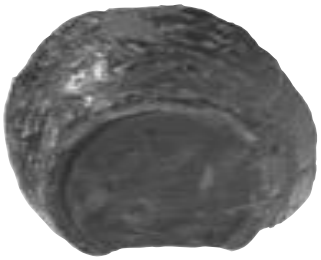
1146

1191　1192



1193　1194

845



984

1009

1010

出土遺物

報 告 書 抄 録

ふ り が な	まめだいせき・だいじょういせき
書 名	豆田遺跡・大浄口遺跡
副 書 名	姫路市英賀保駅周辺土地区画整理事業に伴う発掘調査報告書Ⅱ
巻 次	
シ リ ー ズ 名	姫路市埋蔵文化財センター調査報告
シリーズ番号	第87集
編 著 者 名	中川 猛
編 集 機 関	姫路市埋蔵文化財センター
所 在 地	〒671-0246 兵庫県姫路市四郷町坂元414番地１
発 行 年 月 日	令和２年（2020年）３月31日

所収遺跡名（ふりがな）	所在地（ふりがな）	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
豆田遺跡（まめだいせき）	姫路市（ひめじし）町坪（ちょうのつぼ）・玉手（たまて）	28201	020574	34°48′50″	134°38′25″	2001.12.25 ～ 2018.11.20	25,846㎡	区画整理道路
大浄口遺跡（だいじょういせき）	姫路市（ひめじし）玉手（たまて）	28201	020575	34°48′59″	134°39′28″	2002.11.28 ～ 2003.3.28	1,038㎡	区画整理道路

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物
豆田遺跡	集落跡	旧石器時代 弥生時代 鎌倉～戦国時代	溝・土坑墓 水路・区画溝・掘立柱建物跡 柵・井戸・屋敷墓	角錐状石器 弥生土器・石器 土師器・須恵器・瓦器 備前焼・瓦・木簡・石製品
大浄口遺跡	集落跡	鎌倉～室町時代	井戸・水路・土坑	土師器・須恵器

要 約

姫路平野に立地する12世紀から16世紀にかけての集落跡である。調査地は条里地割の良好に残存する地域で、概ね一つの条坊内を対象とし広範囲で調査を行った。また、その範囲は近世の村の範囲とほぼ重なることから、中世から近世に至る集落の動態が明らかとなった。12世紀後半から13世紀前半にかけては条坊内に屋敷地が点在する状況、13世紀後半から14世紀代に灌漑水路が開削され、15世紀代には現在までつながる灌漑水路網が完成し、区画Ａと区画Ｂという２つの居館を中心に集落が営まれた。16世紀代には現在の集落の中心に区画Ｃ（町坪要害）が築かれたことが判明した。15世紀以降、水路の開削を契機とし、いわゆる集村化が進む様相が判明した。また、集落が現在の位置に固定される要因の一つとして交通網の存在が影響している可能性がある。また、応永の年紀を持つ多数の祈祷札や井戸枠に墨書された花押、英賀瓦工人によると見られる瓦など中世集落に関する知見が多く得られた。

姫路市埋蔵文化財センター調査報告　第87集

豆田遺跡・大浄口遺跡

―姫路市英賀保駅周辺土地区画整理事業に伴う発掘調査報告書Ⅱ―

令和２（2020）年 ３月31日　発行

編　　集　姫路市埋蔵文化財センター
〒671-0246　兵庫県姫路市四郷町坂元414番地１
発　　行　姫路市教育委員会
〒670-8501　兵庫県姫路市安田四丁目１番地
印刷・製本　小野高速印刷株式会社
〒670-0933　兵庫県姫路市平野町62番地